

授業科目	アカデミック・スキルズ【講義】		開講時期	後期
担当教員	井料 洋美・占部 匡美		単位	2
授業の目的と概要	「アカデミック・スキルズ」は、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基礎的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には、レポートを通して自己表現を行うこと、周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけることなどが含まれています。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を学びの場をして活用することができる。</li> <li>・それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。</li> <li>・問題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>・同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる。</li> <li>・自分の意見をレポートを通して表現することができる。</li> <li>・自分の希望するキャリアの中で、大学生生活の意義を発見することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション	課題 (プリント)		
第2回	大学生活に必要な文章力 ―レポートの書き方―	課題 (プリント)		
第3回	文章の書き方 (1) ―自分の意見の伝え方―	課題 (プリント)		
第4回	文章の書き方 (2) ―構想メモから文章へ (1) ―	課題 (プリント)		
第5回	文章の書き方 (3) ―振り返り 1―	課題 (プリント)		
第6回	文章の書き方 (4) ―根拠の示し方―	課題 (プリント)		
第7回	授業感想文やコメントの書き方について	課題 (プリント)		
第8回	文章の書き方 (5) ―構想メモから文章へ (2) ―	課題 (プリント)		
第9回	文章の書き方 (6) ―振り返り 2―	課題 (プリント)		
第10回	文章の要約 (1)	課題 (プリント)		
第11回	文章の要約 (2)	課題 (プリント)		
第12回	レポートの書き方 (1) ―先行研究とは・テーマ決め―	レポート作成の準備・資料集め		
第13回	レポートの書き方 (2) ―自分の意見を文章にする―	レポート作成		
第14回	レポートの書き方 (3) ―完成―	課題		
第15回	まとめテスト ―総括―	試験準備		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	―			
レポート	50%			
小テスト等	40%			
成果発表	―			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	配布された資料を熟読してから講義にのぞむこと。 配布された資料や課題をファイルにまとめ、必ず振り返りをする事。 授業とは無関係な私語、飲食、携帯電話の使用など、講義の妨げとなる行為は一切禁止します。			
教科書	各担当教員が指定			
指定図書	各担当教員が指定			
参考図書	各担当教員が指定			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	アジア経済論【講義】		開講時期	後期
担当教員	裴 海善		単 位	2
授業の目的と概要	<p>経済のグローバル化と共に世界経済はお互いに影響しあっており、発展しているアジア経済は世界経済に大きな影響を与えている。</p> <p>本講座は、韓国経済と日本経済との関係、アジア経済と世界経済との相互関係の実態を把握し、その背景を理解すると共に、今後の課題を考えるのが目的である。</p> <p>韓国経済と日本経済との関係、世界経済とアジア経済との相互関係、貿易協定、アジア主要国の経済状況、などをキーワードにし、その実態と背景を学びます。</p>			
到達目標	<p>①アジアの中でも韓国経済の発展の歴史と特徴について 理解を深めることができる。</p> <p>②韓国経済と日本経済との相互関係、日本企業が韓国に進出する経済的背景や実態が把握できる。</p> <p>③アジア経済と世界経済との関係、世界経済の動きがアジア経済に及ぼす影響などが理解できる。</p> <p>④アジア経済と日本経済の今後の相互発展のための課題を的確にまとめることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第 1回	授業概要紹介、アジア主要国の経済成長と特徴を比較	教科書購入		
第 2回	韓国経済成長；戦後から1960年代まで	日韓国交正常化の背景を調べる		
第 3回	韓国の経済成長；1970年代からIMF経済危機まで	歴代政権ごとの経済政策の違いをまとめる		
第 4回	韓国の経済発展と経済生活（朝鮮戦争から1970年代初まで）	朝鮮戦争が韓国経済に与えた被害を調べる		
第 5回	韓国の経済発展と経済生活（1970年代中盤から1990年代まで）	労働者の海外派遣の背景と内容をまとめる		
第 6回	アジア経済危機の原因と影響-タイ経済と韓国経済の比較	IMF、SDR、外貨準備高を調べる		
第 7回	アジア経済と世界経済の流れ（1970年代以後から現在まで）	1970年代以後の世界経済の流れをまとめる		
第 8回	日本と韓国経済比較-貿易構造の特徴と課題	韓国の対日赤字原因と日韓貿易摩擦の原因をまとめる		
第 9回	日本と韓国経済比較-企業構造、株式市場の特徴	韓国と日本の企業グループを比較する		
第10回	アジア主要国の自由貿易協定の流れ	FTA、AEC、TPP、RCEPの特徴を調べる		
第11回	中国経済の動向	中国経済動向を調べる		
第12回	東南アジア主要国の経済動向	ベトナム・タイ・インドネシアの経済状況を調べる		
第13回	南アジアの経済動向	インド経済、状況を調べる		
第14回	アジア経済の論点と今後の動向	2020年のアジア経済の論点を調べる		
第15回	全体まとめ、小テスト・授業評価など	なし		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20％（2回×10点満点）			
小テスト等	80％			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>※筑女ネットを活用します（お知らせ等）</p> <p>①テキストは1回目の授業から使います。</p> <p>②小テストには教科書持ち込み可能(授業中のテストなので、追試と再試なし)</p> <p>③欠席が5回を超えると受験できない</p> <p>③就職活動、病気、その他のやむを得ない事情による欠席が5回を超えるときは、担当教員との相談が必要。</p>			
教科書	裴海善著『韓国経済がわかる20講』明石書店（2019年2月初版3刷）			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で適宜紹介			
オフィスアワー	事前に訪問日時を相談してください	メールアドレス		

授業科目	アジア芸術思想論【講義】		開講時期	後期
担当教員	木本 拓哉		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、アジア文化学科での学びの柱となる3つの領域「言語」「文化」「社会」のうち、「文化」領域の学習の基礎をなすものです。この講義では、日本の博物館や美術館に所蔵されている文物を題材として取り上げ、その美術品を通してアジアの「芸術思想」についてみていきます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の芸術思想史上のトピックについて、具体的な例を挙げて説明することができる。</li> <li>・中国の芸術思想史上のトピックについて、具体的な例を挙げて説明することができる。</li> <li>・現代社会においてアジアの伝統的芸術思想がどのような形であらわれているか、実地見学をとおして発見し、その現状と課題について自分なりの意見を持ち、他の人と意見交換することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	<芸術思想を学ぶ意味 (オリエンテーション)>	ミニレポートを執筆する。		
第2回	<麒麟の意匠 ① ~麒麟の思想的意味~>	ミニレポートを執筆する。		
第3回	<麒麟の意匠 ② ~麒麟のデザイン~>	ミニレポートを執筆する。		
第4回	<擬人化を考える ① ~インドの神々~>	ミニレポートを執筆する。		
第5回	<擬人化を考える ② ~鳥獣戯画~>	ミニレポートを執筆する。		
第6回	<お茶の文化史 ① ~飲茶の歴史~>	ミニレポートを執筆する。		
第7回	<お茶の文化史 ② ~茶道の世界~>	ミニレポートを執筆する。		
第8回	<屏風絵の世界 ① ~尾形光琳「燕子花図屏風」~>	ミニレポートを執筆する。		
第9回	<屏風絵の世界 ② ~狩野永徳・長谷川等伯~>	ミニレポートを執筆する。		
第10回	<活字の美学>	ミニレポートを執筆する。		
第11回	<模写と模倣とパロディ ① ~「みたて」る~>	ミニレポートを執筆する。		
第12回	<模写と模倣とパロディ ② ~芸術と笑い~>	ミニレポートを執筆する。		
第13回	<干支の図像学 ① ~鼠のイメージ~>	ミニレポートを執筆する。		
第14回	<干支の図像学 ② ~神使としての牛~>	ミニレポートを執筆する。		
第15回	<アジアの芸術思想を考える>	最終レポート「芸術思想を学ぶ意味」執筆		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	レポート(55%)、講義ごとのミニレポート(45%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①3分の2以上の出席者のみを評価の対象とする。(事情により欠席する場合はその旨を申し出ること) ②講義ごとに資料を提示する。			
教科書	なし			
指定図書	辻惟雄『日本美術の歴史』(東京大学出版会、2005年12月9日)			
参考図書	講義中に随時紹介する。			
オフィスワー	月曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	アジア芸能史【講義】		開講時期	後期
担当教員	山本 百合子		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：アジアは、音楽・舞踊・演劇など、実にさまざまな芸能があり、地域の歴史や風俗や社会のあり方と深いかかわりを持っています。私たちは、そのような芸能を通じて、民族の間の文化の相違点や共通点などを、はっきりとしたイメージとして感じ取ることができます。この授業では、音や映像の資料をたくさん用いながら、アジアの芸能の歴史的な流れと、地域の間関係を、広く概観します。そして、それらが、変化し混ざり合いながら、現在の私たちの生活をどのように彩っているかを、観察したいと思います。</p> <p>概要：音楽と映像の資料を用いて、アジアの芸能の歴史を概観します。また、それぞれの文化の最も特徴的な要素を実例を用いて分かりやすく解説します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アジアの文化の歴史を、大きな流れとして感じ取る。</li> <li>2. アジアの文化の多様性を、音楽や舞踊を通じて感じ取ることができる。</li> <li>3. アジアの他の文化と比べて、日本の文化の特徴を認識する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 入門	アジアの芸能史概説1	配布資料を読み復習する。		
第2回 入門	アジアの芸能史概説2	配布資料を読み復習する。		
第3回	インドの伝統音楽・舞踊(1)	配布資料を読み復習する。		
第4回	インドの伝統音楽・舞踊(2)	配布資料を読み復習する。		
第5回	東南アジアの伝統音楽・舞踊・演劇(1)	配布資料を読み復習する。		
第6回	東南アジアの伝統音楽・舞踊・演劇(2)	配布資料を読み復習する。		
第7回	インドネシアのガムラン音楽と舞踊(1)	配布資料を読み復習する。		
第8回	インドネシアのガムラン音楽と舞踊(2)	配布資料を読み復習する。		
第9回	中国の伝統音楽と舞踊(1)	配布資料を読み復習する。		
第10回	中国の伝統音楽と舞踊(2)	配布資料を読み復習する。		
第11回	韓国音楽の伝統音楽と舞踊(1)	配布資料を読み復習する。		
第12回	韓国の伝統音楽と舞踊(2)	配布資料を読み復習する。		
第13回	日本の伝統音楽舞踊(1)	配布資料を読み復習する。		
第14回	日本の伝統音楽舞踊(2)	配布資料を読み復習する。		
第15回	総括 : アジアの音楽・舞踊・演劇から、アジア文化の捉え方を考える	学期中の講義全体を振り返り、期末課題に取り組む。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>集中して静かに音楽を聴いたり、映像を見たりできない学生の履修を認めない。</p> <p>学外で、芸能鑑賞を行うこともある。</p>			
教科書	随時プリントを用意			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくはメール等で随時連絡してください	メールアドレス		

授業科目	アジアジェンダー論【講義】		開講時期	後期
担当教員	成末 繁郎		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、経済成長めざましいアジア社会をめぐる、女性・家族・ジェンダーを切り口にその特徴を理解することを目的とします。あつかう地域は、タイ、ミャンマー、ネパール、インドネシア、インド及び補足としてニューギニアや南米のインディオなど世界各地の、伝統的な及び現行の結婚制度と家族やジェンダー及び女性の社会的地位との関係の特徴と課題について検討します。また一方で、日本及び欧米の女性・家族やジェンダーについて、そのあり方の特徴と変化、女性の社会参加における課題を理解し、比較の視点から検討を加えます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アジア、特にタイ、インドネシア、インドの家族・ジェンダーの地域的な特徴と他の地域と共通する普遍的な特徴について理解し説明できる。</li> <li>2. 各社会における女性の社会的地位のあり方と課題について、多様性にかかれた観点から理解し説明できる。</li> <li>3. 1, 2について、日本および欧米におけるあり方と課題について比較の視点から理解し、説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	導入 ジェンダーを考える上で必要な概念の解説① フェミニズムの歴史と背景を解説する。	配布プリントリーディング		
第2回	ジェンダーを考える上で必要な概念の解説② 女性学の成立の背景及びその目的を解説する。	配布プリントリーディング		
第3回	ジェンダーを考える上で必要な概念の解説③ ジェンダーという概念の捉え方を歴史的な経緯を踏まえて解説する。	配布プリントリーディング		
第4回	グローバル化の中のジェンダー ① ジェンダーに関する最新の映像資料を鑑賞することで、ジェンダーの現実を体感することを	配布プリントリーディング		
第5回	ジェンダー概念と人類学① 人類学者の70年代の世界の男女の関係性の報告がジェンダー研究に及ぼした影響を検討する	配布プリントリーディング		
第6回	ジェンダー概念と人類学② 多様なジェンダー関係の具体的な事例を検討する。特にタイ・ニューギニア・南米アマゾン	配布プリントリーディング		
第7回	ジェンダー概念と人類学③ 多様なジェンダー関係の具体的な事例を検討する。インドネシアやインド等。	配布プリントリーディング		
第8回	グローバル化の中のジェンダー ② ジェンダーに関する最新の映像資料を鑑賞することで、ジェンダーの現実を体感することを	配布プリントリーディング		
第9回	ジェンダーと結婚 パート1 一夫多妻婚・一妻多夫婚(ネパール・インド)・一夫一妻婚 日本も含めたアジア各地の伝統的な規定婚や優先婚の制度と女性の地位との関係を考える。	配布プリントリーディング		
第10回	ジェンダーと結婚 パート2 ハイパーガミーとハイボガミー 上昇婚(日本やタイ)と下降婚(ミャンマー)での女性の取り扱われ方の違いを考える。	配布プリントリーディング		
第11回	ジェンダーと結婚 パート3 多様な結婚制度を踏まえて結婚と女性の地位との関係を総括する。	配布プリントリーディング		
第12回	グローバル化の中のジェンダー③ ジェンダーに関する最新の映像資料を鑑賞することで、ジェンダーの現実を体感することを目	配布プリントリーディング		
第13回	レヴィ・ストロースの婚姻交換の理論から結婚の意味を考える。 レヴィ・ストロースの構造主義と婚姻交換の理論を概説する。	配布プリントリーディング		
第14回	構造主義とフェミニズム 構造主義理論と友好関係にあったフェミニズムの論理構造を批判的に検討する。	配布プリントリーディング		
第15回	構造主義とクイア論一より開かれた解放理論を求めて 構造主義的フェミニズムに対するジュディス・バトラーの批判を検討する。	配布プリントリーディング		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	95%			
レポート	5%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	静粛に視聴してほしい。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	アジアの家族・ジェンダーに関心を持ち、TV新聞報道、ドキュメンタリー番組、雑誌記事、映画などに留意しておくこと。			
教科書	適宜レジュメや資料を配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	江原由美子(編) 1998 『性・暴力・ネーション フェミニズムの主張4』 劉草書房 ジュディス・バトラー1990 『ジェンダー・トラブル フェミニズムとアイデンティティの攪乱』(竹村和子 訳) 青土社			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	アジア女性労働論【講義】		開講時期	前期
担当教員	婁 海善		単位	2
授業の目的と概要	本講義では、日本と韓国の少子化と女性雇用問題に関して、その実態を把握するとともに、女性が働きやすい制度の整備、女性の地位向上や雇用増加のための政府政策、今後の課題への理解を深めることを目的とする。 少子高齢化、政府の少子化対策、保育政策、女性雇用、仕事と家庭の両立と政府政策をキーワードにし、その実態と政策の背景、今後の課題を日本と韓国で比較しながら説明する			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日韓の少子高齢化の実態と原因の共通点と違いが比較できる。</li> <li>2. 日韓の少子化対策と保育政策の実態が把握できる。</li> <li>3. 日韓の女性雇用者の雇用実態、女性雇用政策、男女共同参画の実態が比較できる。</li> <li>4. 女性労働問題は社会・制度・経済的事情により多く影響を受けていることが理解できる。</li> <li>5. 韓国社会と日本社会の共通点と違いがもっと理解できるようになる。</li> <li>6. 今後、女性として、キャリアウーマンとしての生き方を考えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業概要紹介、全体の概要を紹介、韓国社会・人口政策・女性政策の歩みpp.160-165	教科書を購入する。韓国社会の主な変化をまとめておく。		
第2回	日韓の人口政策の変遷 ※教科書チェックをします(教科書に氏名を書いてください)	日本の人口政策を調べる		
第3回	日韓の少子高齢化実態	少子高齢化による諸問題を調べる		
第4回	日韓の少子化の原因と政府の対策	日本の少子化の原因と政府対策を調べる		
第5回	韓国の平等法と日本の均等法におけるハラスメント対策	日韓のハラスメント対策の共通点と違いを比較する		
第6回	韓国・中国・台湾の女性労働比較、内容:就活・人気職種・男女格差・結婚と仕事、等	レポート①内容のまとめと感想、提出先;レポートボックス		
第7回	韓国の男女格差(映像)	映像内容を確認する		
第8回	映像の内容のレポート	提出先:筑女ネット		
第9回	日韓の女性雇用政策(均等法と男女共同参画社会基本法を中心に)	日本の均等法と男女共同参画社会基本法を調べる		
第10回	日韓の仕事と家庭の両立支援政策・保育政策	日本の両立支援政策・保育政策を調べる		
第11回	日韓の雇用分野における男女格差	OECD諸国の男女賃金格差を調べる		
第12回	女性雇用促進の取組み	日韓の共通点と違いをまとめる		
第13回	日韓の女性の政治分野でのエンパワーメント	テストの回答を確認する		
第14回	韓国の政治・女性の働き方ー1	映像の内容をまとめる&質問内容を調べる		
第15回	韓国の政治・女性の働き方ー2 まとめ・テスト・授業評価・出欠及びレポート提出を確認する	レポート提出 提出先;筑女ネット		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10%			
小テスト等	90%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	※筑女ネットを活用する(補助資料、お知らせなど) ①教科書は1回目の授業から使いますので、準備をお願いします。 ②小テストには教科書持ち込み可能(授業中のテストなので、追試と再試なし) ③欠席が5回を超えると受験できない(就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要)。 ④授業内容に関係のない私語、授業中のスマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減			
教科書	婁 海善著『韓国の少子化と女性雇用』明石書店、2015年			
指定図書	なし			
参考図書	授業中、適宜紹介する			
オフィスワー	事前に訪問日時を相談してください(今年はメールでの相談です)	メールアドレス		

授業科目	アジア実用英語【講義】		開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合		単位	2
授業の目的と概要	<p>アジア諸地域のめざましい経済発展とグローバル化の加速は、ダイレクトな地域間のコミュニケーションを飛躍的に増大させている。その際使用される言語は、グローバル言語としての英語であることが多い。この英語は、地域言語の影響を受け、発音や表現に固有性を持つ。この授業は、アジア地域で話される英語の特徴を知り、かつアジアの一員である私たち日本人の英語を再考することで、よりよき相互コミュニケーションを実現することを目的とする。</p> <p>授業をより実践的にするため、毎回実用会話の他、中盤から学生が日本（福岡）・アジアに関するプレゼンテーションを行い、それについてディスカッションを試みる。長年学んでも実用に耐えない学校英語から脱皮し、よりスムーズなコミュニケーション能力の獲得の突破口を開くのがねらいである。</p>			
到達目標	<p>①アジア地域で話される多様な英語について、その特徴を述べることができる。</p> <p>②日本の学校英語を相対化し、実用的な英語への転換をはかる。</p> <p>③コミュニケーション・ツールとしての英語を用いて、日本（福岡）やアジアをテーマにプレゼンとディスカッションができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入：講義のねらいと方法（自己紹介）		授業時指示		
第2回 導入：講義のねらいと方法（プレゼンテーションとディスカッション）		授業時指示、プレゼン準備		
第3回 アジアの英語① 日本:救急隊員からメードまで英語が必要!?		以降プレゼン準備、ディスカッション課題設定		
第4回 アジアの英語② 南アジア（インド、バングラデシュ・スリランカ） テーマ別プレゼン①+ディスカッション		プレゼン準備他		
第5回 アジアの英語③ 東南アジア（マレーシア・シンガポール） テーマ別プレゼン②+ディスカッション		会話文作成		
第6回 アジアの英語④東南アジア（タイ・フィリピン） テーマ別プレゼン③+ディスカッション		プレゼン準備		
第7回 アジアの英語⑤東アジア（中国・韓国） テーマ別プレゼン④+ディスカッション		会話文作成		
第8回 テーマ別 プレゼン⑤とディスカッション		プレゼン準備		
第9回 テーマ別プレゼン⑥ とディスカッション		会話文作成		
第10回 テーマ別プレゼン⑦とディスカッション		プレゼン準備		
第11回 テーマ別プレゼン⑧とディスカッション		会話文作成		
第12回 テーマ別プレゼン⑨とディスカッション		プレゼン準備		
第13回 テーマ別プレゼン⑩とディスカッション		会話文作成		
第14回 テーマ別プレゼン⑪とディスカッション		課題文作成		
第15回 総合ディスカッション・まとめ		レポート作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	20% 期末レポート 10% 会話文・課題文作成			
小テスト等	-			
成果発表	30% プレゼン制作・発表・質疑応答			
受講態度他	40% 出席+リアクションペーパー提出			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業は基本的に英語で行う。</p> <p>英語の4技能（話す、聞く、書く、読む）を向上させるため、常にさまざまなメディアにアクセスし自主的に学習すること。</p>			
教科書	適宜プリントを配布			
指定図書	<p>ジャン・ポール・ネリエール『世界のグロービッシュ』 河原俊明『アジア・オセアニアの英語』</p> <p>本名信行『アジア英語辞典』『英語はアジアを結ぶ』</p>			
参考図書	祖慶壽子『アジアの視点で英語を考える』			
オフィスワー	木曜日	メールアドレス		

授業科目	アジア生活文化論【講義】		開講時期	前期
担当教員	山木 裕子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>目的：この授業では、アジアに住む人々の生活と、その中から育まれてきた文化について学びます。</p> <p>概要：アジアの人々の生活にねざした文化、特に現代にも受け継がれている伝統的な絵画について、具体的な事例にもとづいて概説します。また、それを形成した要素として、自然環境、生活環境、文化環境、また、社会や歴史との関係なども考えます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アジアとは何か、文化とは何かを学ぶ。</li> <li>2. アジアの環境とそこに住む人々の生活との関係について知る。</li> <li>3. 生活の中から生まれた文化的活動の基本的な仕組みを知る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 概論①アジアとは			授業の復習	
第2回 概論②アジアの生活と文化			授業の復習	
第3回 概論③アジアの伝統絵画			授業の復習	
第4回 モンゴル①			授業の復習	
第5回 モンゴル②			授業の復習	
第6回 ネパール①			授業の復習	
第7回 ネパール②			授業の復習	
第8回 インド①			授業の復習	
第9回 インド②			授業の復習	
第10回 ブータン①			授業の復習	
第11回 ブータン②			授業の復習	
第12回 ベトナム①			授業の復習	
第13回 ベトナム②			授業の復習	
第14回 福岡アジア美術館見学→授業時間外に実施する			レポート作成（印象に残った展示作品一点を選んで論じる。）	
第15回 総括			レポート作成（講義中最も印象に残った事例について論じる。）	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的な受講を求めます。各回講義の終わりに、出席確認をかねてコメントシートを提出してもらいます。</li> <li>2. 学期中に1回、福岡アジア美術館を見学します。授業時間外に行います。時期は移動する可能性があります。</li> </ol>			
教科書	随時レジュメを用意			
指定図書	特になし。			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		



授業科目	アジア政治論【講義】		開講時期	後期
担当教員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	<p>現代のアジア諸国の政治に対する知識を身につけ、その特徴と課題について理解を深めていくことがこの講義の目的です。理解を容易にするために、1. 軍政を含む権威主義体制と民主化、2. 経済発展、という2つの軸を設定し、各国の政治に対して認識を深めていきます。いくつかの国の事例を比較することで、アジア諸国の共通課題と相違点について、幅広い視野から包括的な理解を目指します。</p> <p>現代のアジア諸国の政治には、権威主義から民主主義へ、国民国家建設からグローバル化の時代へ、という大きな流れがありますが、その様相は各国によって異なりますので、地域ごとに具体的に学びます。</p>			
到達目標	<p>1. アジア各国の政治的ダイナミズムを論理的に説明できる。  2. アジア各国の抱える今日の課題を幅広い視野から説明できる。  3. アジア政治に関する文献を、自ら集め分析することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  「現代韓国事情」や、「現代東南アジア事情」などの履修を通じて学ぶ各地域の現状や、また「政治学概論Ⅰ」、「政治学概論Ⅱ」の履修で身に着ける政治に関する基礎知識を踏まえて、この講義を履修すると、より理解が深まります。アジア各国の政治に収まらない国家間の関係については、「国際政治学」を履修することで理解を深めることができます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション	アジア諸国の政治を理解すること	教科書第1章、レジュメ、資料に基づきインドネシアの基礎について予習		
第2回	インドネシアの政治(1) 国家建設の試行錯誤	教科書第1章、レジュメ、資料に基づき今日の課題について予習復習		
第3回	インドネシアの政治(2) 改革の時代	教科書第2章、レジュメ、資料に基づきマレーシアの基礎について予習		
第4回	マレーシアの政治(1) 「民族の政治」	教科書第2章、レジュメ、資料に基づき今日の課題について予習復習		
第5回	マレーシアの政治(2) 「マレーシア」に向けて	教科書第9章、レジュメ、資料に基づきタイの基礎について予習		
第6回	タイの政治(1) クーデタの政治	教科書第9章、レジュメ、資料に基づき都市中間層について予習復習		
第7回	タイの政治(2) 民主化とタクシン	教科書第9章、レジュメ、資料に基づき今日の課題について予習復習		
第8回	タイの政治(3) 政治対立と軍の「復権」	第9回用レジュメ、資料に基づき中国の基礎について予習		
第9回	中国の政治(1) 共産党の一元支配	第9回第10回用レジュメ、資料に基づき毛沢東と鄧小平について予習復習		
第10回	中国の政治(2) 改革開放路線	第10回第11回用レジュメ、資料に基づき改革開放について予習復習		
第11回	中国の政治(3) 経済大国へ	レジュメ、資料に基づき格差問題について予習復習、期末レポート準備		
第12回	中国の政治(4) 近年の動向	レジュメ、資料に基づき今日の香港について予習復習、期末レポート準備		
第13回	香港 一国二制度のゆくえ	レジュメ、資料に基づき南北関係について予習復習、期末レポート準備		
第14回	国際関係からみる北朝鮮	レジュメ、資料に基づき南北関係について予習復習、期末レポート準備		
第15回	アジア諸国の現在	レジュメ、資料に基づき今日の課題について予習復習、期末レポート準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	90% 期末レポート15% 毎回提出の「講義の概要」(感想等に代替の場合あり)(各回5段階評価)75% 「講義の概要」に記された質問・コメントについては翌週回答します。			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	状況に応じてシラバス内容を変更することがあります。なるべく早く確定させますが、変更する場合は速やかにみなさんにお知らせします。			
教科書	清水一史、田村慶子、横山豪志(編)『東南アジア現代政治入門 改訂版』ミネルヴァ書房2018年			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	火14:50～16:20、金12:30～13:00	メールアドレス		

授業科目	アジアと仏教【講義】		開講時期	後期
担当教員	小林 久泰		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、インドを出発点とし、仏教を通じてアジア全体に広がった輪廻思想の成り立ちやそのアジア的な展開を理解することを目的とする。そしてその理解を通じて、現代日本を含めたアジアの諸地域における死生観についての知識を深めることを目的とする。</p> <p>人は死後どこに行くのか。あの世はどこに存在するのか。この授業では、インド、中国、日本における経典、文学作品、哲学論書に見られる「他界」の概念をそれぞれ検討し、アジア人が抱く死生観について知識を深める。特に「地獄」および「極楽」という概念に着目し、われわれの暮らす日本を含め、アジアでどのような「あの世」が考えられてきたのか、それがどのような思想文化を背景にしているのかということを考えていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インドにおける輪廻思想の成立過程を説明することができる。</li> <li>2. インド、中国、日本における「他界」の概念の特徴をそれぞれ説明することができる。</li> <li>3. 現代日本人が持つ死生観の文化的重層性について、具体的に説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	イントロダクション：世界の他界観	復習・課題①レポート「インドにおける輪廻思想」作成		
第 2回	『ヴェーダ』の他界観：最初の死者ヤマ	復習・課題①レポート「インドにおける輪廻思想」作成		
第 3回	『ウパニシャッド』の他界観：五火二道説	復習・課題①レポート「インドにおける輪廻思想」作成		
第 4回	『ブラーフマナ』の他界観：地獄の誕生	復習・課題①レポート「インドにおける輪廻思想」作成		
第 5回	仏教の他界観：釈尊の立場	復習・課題①レポート「インドにおける輪廻思想」作成		
第 6回	上座部仏教の他界観：六道輪廻の世界	復習・課題②レポート「仏教における他界観」作成		
第 7回	大乘仏教の他界観（1）：業報思想とその超越	復習・課題②レポート「仏教における他界観」作成		
第 8回	大乘仏教の他界観（2）：菩薩の思想と仏陀観の変遷	復習・課題②レポート「仏教における他界観」作成		
第 9回	浄土教の他界観：極楽浄土	復習・課題②レポート「仏教における他界観」作成		
第10回	道教の他界観：泰山信仰と十王思想	復習・課題②レポート「仏教における他界観」作成		
第11回	儒教の他界観：祖先崇拜	復習・期末レポート「インド・中国・日本の死生観」作成		
第12回	古代日本の他界観：黄泉の国	復習・期末レポート「インド・中国・日本の死生観」作成		
第13回	『往生要集』の他界観：厭離穢土、欣求浄土	復習・期末レポート「インド・中国・日本の死生観」作成		
第14回	近世の他界観：怖くない地獄とえんま様	復習・期末レポート「インド・中国・日本の死生観」作成		
第15回	まとめ：日本人の死生観	ノートまとめ・期末レポート「インド・中国・日本の死生観」作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% 課題レポート2回（20%×2回）・学期末レポート（30%）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 毎回の「感想」の記述内容を評価します。質問等、講義への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	期日内に課題を提出しない場合は減点します。毎回授業終了時に「感想」を書いて提出すること。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜 3 講時	メールアドレス		

授業科目	アジアの建築【講義】		開講時期	前期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：建築には、とりわけその構造的特性に、地域ごとの自然とこれに働きかけてきた人間の営み、そしてその営みの積み重なりである歴史の総体を見出すことができます。日本を含む東アジアとともに、遠隔の地西アジアの風土に根ざした伝統建築物を概観し、それぞれの特性を異文化の所産として認識するだけでなく、そこに地域、時代を超えた相似性をあらためて見直します。そしてアジア建築の歴史的多様性を理解します。</p> <p>概要：建築の工学的要素や、建築史、建築美、建築にまつわる思想等を、民家・寺院・神社ほかの記念建造物や遺跡・遺物として残る文化遺産を通して学びます。日本の伝統的木造建築物や西アジアの泥・石・煉瓦建造物を通じて、アジアの建築の多様性を再確認します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本伝統家屋建築で使われる「尺」、「畳」、「間」、「坪」の意味を正しく解釈し、たとえば不動産情報誌・チラシ記事事項理解に応用することができる。</li> <li>・日本建築文化に聖徳太子を位置付けて説明することができる。</li> <li>・煉瓦（れんが）建築の歴史と特性を説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	「アジアの建築」より、「アジア」、「建築」の意味再考	第2回までに課題①提出（2時間）		
第2回	アジアの建築概観：建材や形式にみる地域性と伝統	第3回までに課題②提出（2時間）		
第3回	日本の「すまい」再発見（1）：畳と「尺モジュール」	第4回までに課題③を提出（2時間）		
第4回	日本の「すまい」再発見（2）：屋根 ― 形と建材の多様性 ―	第5回までに課題④を提出（2時間）		
第5回	法隆寺：世界最古の木造建築物と建築史家伊東忠太	第6回までに課題⑤を提出（2時間）		
第6回	聖徳太子と「太子講」	第7回までに課題⑥を提出（2時間）		
第7回	日本建築史より：「寝殿造」、「書院造」	第8回までに課題⑦を提出（2時間）		
第8回	建築と環境（1）：湿潤地域の日本建築文化	第9回までに課題⑧を提出（2時間）		
第9回	建築と環境（2）：乾燥地域の西アジア建築文化	第10回までに課題⑨を提出（2時間）		
第10回	煉瓦（れんが）とアジア建築（1）：煉瓦（れんが）発現とその展開	第11回までに課題⑩を提出（2時間）		
第11回	煉瓦（れんが）とアジア建築（2）：「バベルの塔」は実在したか？	第12回までに課題⑪を提出（2時間）		
第12回	西アジア建築の装飾美：スタッコとタイル	第13回までに課題⑫を提出（2時間）		
第13回	建築にまつわる思想（1）：東アジアの「風水」	第14回までに課題⑬を提出（2時間）		
第14回	建築にまつわる思想（2）：西アジアの「神話」	第14回までに課題⑭を提出（2時間）		
第15回	到達目標に対比した授業総括	指定の期日・時間までに「定期試験課題」提出（2時間）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	・毎回の課題レポート（50%） ・学期末レポートを第15週目（8/3-8/7）に実施（50%）			
小テスト等	―			
成果発表	―			
受講態度他	―			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回の「遠隔授業」は、各回授業テーマの学修・自修で構成されます。提示された課題を考えるなかから、自ら課題をさらに見出し自修を深めていってください。提出物に関しては、「遠隔授業」によるやむを得ない事情には配慮しますので、しっかり対応して指定期日内の提出に努めて下さい。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	関連する事典・概説書等、授業進行にあわせ適宜紹介。信頼し得るネット情報は有効です。			
オフィスアワー	「遠隔授業」形態ですので、随時、下記メールアドレスまで質問・要望・意見等々は気軽にご連絡下さい。	メールアドレス		

授業科目	アジア文化基礎ゼミナール【演習】		開講時期	後期
担当教員	竹熊(真)・占部(匡)		単位	2
授業の目的と概要	<p>「アジア文化基礎ゼミナール」は、前期の「基礎ゼミナール」に引き続き、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいくうえで必要な基本的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には、「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと」、「周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること」、「大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること」などが含まれています。</p> <p>具体的な講義概要としては、図書館ツアーは博物館見学などを通して大学内外の学習の場を体験する他、「日本語表現（文章力と読解力）」の技能を身につけることにより、上位学年に続く学びの基礎を身につけます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学内外の学びの場を体験的に理解する</li> <li>2. 大学生活を送るために必要な文章力や読解力等のアカデミックスキルを身につけることができる</li> <li>3. 同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる</li> <li>4. レポート作成を通じて自分の意見・考えを表現することができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-4 アジアへの理解に基づいて、多角的な視点から自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 &lt;関連科目&gt;1年次前期開講の「基礎ゼミナール」及び2年次前期開講の「体験－ミュージアムで学ぶアジア」</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回(9/24)	AB合同イントロダクション ゼミナールの内容紹介(礼拝堂)		配布書類等の確認	
第2回 (10/1)	A文章力講座① (1201) / B図書館オリエンテーション (8211コン演)		A授業の復習 / Bミニレポートの提出①	
第3回 (10/8)	A文章力講座② (1201) / B図書館ツアー (1202集合:2グループに分けて活動)		A授業の復習 / Bミニレポートの提出②	
第4回(10/15)	A図書館オリエンテーション (8211コン演) / B文章力講座① (1202)		Aミニレポートの提出① / B授業の復習	
第5回 (10/22)	A図書館ツアー(1201集合) / B文章力講座② (1202)		Aミニレポートの提出② / B授業の復習	
第6回 (10/29)	アジア文化を学ぶ(全体授業) 礼拝堂		ミニレポートの提出③③	
第7回(11/5)	A文章力講座③ (1201) / B1博物館見学、B2ガムラン体験(飛翔会館1階集合)		A授業の復習 / Bミニレポートの提出④	
第8回 (11/12)	A文章力講座④ (1201) / B1ガムラン体験、B2博物館見学(飛翔会館1階集合)		A授業の復習 / Bミニレポートの提出⑤	
第9回(11/19)	A1博物館見学、A2ガムラン体験(飛翔会館1階集合) / B文章力講座③ (1202)		Aミニレポートの提出④ / B授業の復習	
第10回(11/26)	A1ガムラン体験、A2博物館見学(飛翔会館1階集合) / B文章力講座④ (1202)		Aミニレポートの提出⑤ / B授業の復習	
第11回 (12/3)	AB合同 文章力講座⑤(確認テスト) + 次週のオリエンテーション 礼拝堂		文章力講座の総復習と次週の準備	
第12回(12/10)	筑女の森散策(全体授業) 礼拝堂		ミニレポートの提出⑥⑥	
第13回 (12/17)	留学紹介(中国&韓国)(全体授業) 礼拝堂		ミニレポートの提出⑦⑦	
第14回(12/24)	Aブックトーク(発表) 1201 / Bブックトーク(発表) 1202		ブックレポートの提出&プレゼンテーションの準備	
第15回(1/14)	まとめ:さらなる学びへ(合同) 礼拝堂		最終レポートの作成と提出	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60% ミニレポート(7×5%)、ブックレポート(10%)、最終レポート(15%)			
小テスト等	40% 日本語表現法への取り組み(4×5%)、確認テスト(20%)			
成果発表	0%			
受講態度他	0% 授業への参加態度も加味する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	最終レポートは、アジア文化学科での1年間の学び(本授業を含む)とそれを踏まえての今後の目標について1500字程度でまとめ、1月14日の最終講義日までに提出すること			
教科書	なし。但し、各担当教員の指示に従う。			
指定図書	なし。但し、各担当教員の指示に従う。			
参考図書	なし。但し、各担当教員の指示に従う。			
オフィスアワー	竹熊 月曜4限、水曜4限		メールアドレス	

授業科目	アジア文化人類学【講義】		開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合		単位	2
授業の目的と概要	<p>異文化を理解する学びである「文化人類学」。その最大の特徴は、フィールドワークを通してじかに「当事者（内部者）」たちの思考・生活様式、社会構造について知識を得る方法にあります。この授業では、「文化」とは何か、また「アジア」を対象としたときに見えてくる文化の特徴は何か、またグローバリゼーションがもたらす変化を、当事者の視点を通して理解することをねらいとします。</p> <p>前半では、「文化人類学」の学びの特徴をいくつかのトピックを事例に学びます。中盤では、食をめぐる文化的コンフリクトを「捕鯨」を中心に検討します。終盤では、文化のあらゆる領域を通底するジェンダーを切り口に、アジア地域の文化を観察したときに立ち現われる固有性・普遍性、課題について理解を深めます。最後にグローバル化社会における他者理解と多文化共生の課題を理解し、対応を検討します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「文化」の概念について理解し説明できる。</li> <li>2. 「文化人類学」という学びの構造が理解できる。</li> <li>3. 食をめぐる文化的コンフリクトを「鯨漁」を中心に理解し説明できる。</li> <li>4. ジェンダーを通して見たアジア地域の文化的特性を理解し、課題を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入	「文化」とは何か、ディシプリンとしての「文化人類学」①	指定図書①、1～3章		
第2回	文化人類学②生活・社会と文化	指定図書②6～9章、10～13章		
第3回	文化人類学③グローバル化の中の文化	指定図書③1、6章		
第4回	コンタクト・ゾーンとコンフリクト：「鯨漁をめぐる」①捕鯨文化と捕鯨禁止運動	参考図書③		
第5回	コンタクト・ゾーンとコンフリクト：「捕鯨をめぐる」②「The Cove」にみる西欧近代視点	配布プリント		
第6回	コンタクト・ゾーンとコンフリクト：「鯨漁をめぐる」③当事者文化の客体化	配布プリント		
第7回	コンタクト・ゾーンとコンフリクト：「捕鯨をめぐる」④脱領域化する捕鯨禁止運動	配布プリント・ディスカッション準備		
第8回	ディスカッション	中間レポート		
第9回	コンタクト・ゾーンとコンフリクト・ジェンダー：脱領域化する「慰安婦問題」①日韓歴史認識	参考図書④		
第10回	コンタクト・ゾーンとコンフリクト・ジェンダー：脱領域化する「慰安婦問題」②朴裕河他の視点	配布プリント		
第11回	コンタクト・ゾーンとコンフリクト・ジェンダー：脱領域化する「慰安婦問題」③アメリカの慰安婦像設置運動	配布プリント・ディスカッション準備		
第12回	ディスカッション	中間レポート		
第13回	文化人類学とグローバリゼーション①日本人の他者理解	指定図書③14、15章		
第14回	文化人類学とグローバリゼーション②多文化共生社会構築のために	配布プリント・「ディスカッション準備		
第15回	最終ディスカッション	期末レポート制作		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% (中間10% 期末30%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	出席+リアクション・ペーパー提出 60%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義、演習をできるだけインタラクティブにするために、テーマ把握について事前に準備し主体的積極的に参加することを期待します。			
教科書	毎回レジュメ・資料プリントを配布			
指定図書	①『よくわかる文化人類学』綾部恒雄他(ミネルヴァ書店) ②『ジェンダーで学ぶ文化人類学』田中雅一(世界思想社) ③『グローバリゼーションの文化人類学』本多俊和他(放送大学教育振興会)			
参考図書	①『文化人類学事典』(弘文社) ②『(増補改訂版)南アジアを知る事典』(平凡社) ③『人と動物の人類学』奥野克己他(春風社) ④『海を渡る「慰安婦問題」』(岩波書店)			
オフィスアワー	火5木4 (いずれもメールで)	メールアドレス		

授業科目	アジア民族音楽学【講義】		開講時期	後期
担当教員	山本 百合子		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：アジアには、多様な民族が住み、その生活の中には、音楽・舞踊・演劇など、実にさまざまな芸能が形成されています。中でも音楽は、人々の話す言語と深い関係を持ち、また、自然環境、生活様式、思想、宇宙観、社会構造なども深いかわりを持っています。私たちは、そのような芸能を通じて、民族の間の文化の相違点や共通点などを、はっきりとしたイメージとして感じ取ることができます。この授業では、音や映像の資料をたくさん用いながら、アジアの民族の音楽についての問題や、地域間の関係を、広く概観します。</p> <p>概要：音楽と映像の資料を用いて、アジアの様々な音楽文化の最も特徴的な要素を実例を用いて分かりやすく解説します。その中で、人間にとって音楽とは何か、ということをお勉強していきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アジアの民族の多様性を、大きな見渡すことができる。</li> <li>2. アジアの文化の多様性を、音楽や舞踊を通じて感じ取ることができる。</li> <li>3. アジアの他の文化と比べて、日本の文化の特徴を認識する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 入門	アジア民族音楽学概説 1		配布資料を読み復習する。	
第2回 入門	アジア民族音楽学概説 2		配布資料を読み復習する。	
第3回 音とは何か	①音高・音量・音色		配布資料を読み復習する。	
第4回 音とは何か	②音階・リズム		配布資料を読み復習する。	
第5回 音楽とは何か	①楽器編		配布資料を読み復習する。	
第6回 音楽とは何か	②声楽編		配布資料を読み復習する。	
第7回 人と音楽	①生活と音楽(1)		配布資料を読み復習する。	
第8回 人と音楽	②生活と音楽(2)		地域社会における伝統行事の実例に触れる機会があれば実施。	
第9回 人と音楽	③宗教と音楽(1)		配布資料を読み復習する。	
第10回 人と音楽	④宗教と音楽(2)		地域の寺社における伝統行事の実例に触れる機会があれば実施。	
第11回 人と音楽	⑤儀礼と音楽		配布資料を読み復習する。	
第12回 音楽と他芸術	①舞踊		配布資料を読み復習する。	
第13回 音楽と他芸術	②造形(仮面・衣装・化粧)		配布資料を読み復習する。	
第14回 音楽と他芸術	③文学・演劇		配布資料を読み復習する。	
第15回 音楽と他芸術	④建物		配布資料を読み復習する。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>集中して静かに音楽を聴いたり、映像を見たりできない学生の履修を認めない。</p> <p>学外で、実施体験学習や舞台上演鑑賞を行うこともある。</p>			
教科書	随時プリントを用意			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授業科目	アメリカ文学史【講義】		開講時期	前期
担当教員	大城 房美		単位	2
授業の目的と概要	<p>様々な民族や歴史に基づく文化の一部として生まれた「アメリカ」文学を、それを形成していった思想、政治、社会背景をふまえて幅広く考察することを目的とする。アメリカの植民地時代から現代までの文学の流れを概観し、複数の文化が共存する社会としての「アメリカ」の問題や時代背景が「書く」という行為にいかにかに反映されているのかを考えてゆく。</p> <p>学生の発表を中心として進める。各講義で4～5名の作家を扱う。</p> <p>発表者は次の要領でハンドアウトを作成する</p> <p>1. 作家の生涯 2. 代表作(例文紹介をつける) 3. 重要性 4. 感想 5. 参考資料</p> <p>*ハンドアウトには、作家名・作品名は英文の原名・原題を調べて書き入れること</p>			
到達目標	「アメリカ」の代表的な作家や作品に関する知識を深め、その歴史的な流れを概観できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Introduction: Map of America -- "What is American?"			講義の際に指示します。	
第2回 アメリカニズムの創成 植民地文学			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第3回 アメリカ独立革命期の文学			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第4回 超越主義とアメリカン・ルネサンス			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第5回 19世紀アメリカ詩			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第6回 南北戦争とリアリズム			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第7回 女性作家の自己探求と自然主義			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第8回 ハーレム・ルネサンス/ジャズ・エイジ/ロストジェネレーション			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第9回 南部文学/危機の文学			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第10回 ポストモダニズム/演劇			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第11回 ユダヤ系文学			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第12回 告白詩とフェミニズム文学			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第13回 アメリカニズムの拡張と多文化主義 1 黒人文学/アジア系アメリカ文学			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第14回 アメリカニズムの拡張と多文化主義 2 グラフィックノベルとコミックス			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第15回 まとめ			講義の際に指示します。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	60% 講義にて指示 課題を含む			
成果発表	受講態度に含む			
受講態度他	40% 受講態度、授業参加(発表など)を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*講義中私語・居眠りをする学生は減点、もしくは欠席扱い(退出)。</p> <p>*各発表は、テキストをよく読んで、自分の言葉でまとめること。</p> <p>*発表のレジメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、出席点は与えない。</p> <p>*作家や作品についての発表を担当する際、参考資料は複数あげること(例えば、Wikipediaのみに頼った発表や報告は不可)。</p>			
教科書	『21世紀から見るアメリカ文学史 ―アメリカニズムの変容―』(英宝社)(購入して下さい) その他の資料は講義時に指示します(コピー配付、指定図書、参考図書の資料閲覧、など)			
指定図書	The Norton Anthology of American Literature, 7th ed. (Norton 2007)、A Companion to American Literature and Culture (Blackwell 2010)、『アメリカ文学入門』(三修社)			
参考図書	A New Literary History of America, She Draws Comics, The Complete Idiot's Guide to American Literature (Alpha)、『アメリカ文学史 コロニアルからポストコロニアルまで』、『楽しく読めるアメリカ文学』、『はじめて学ぶアメリカ文学史』			
オフィスアワー	火曜日午後(予約を入れること)	メールアドレス		

授業科目	医学概論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	百瀬 義人		単位	2
授業の目的と概要	福祉専門職に必要な医学の基礎的知識を身につけ、医療における基本的考え方を理解すると同時に、社会福祉実践に求められる豊かな価値観が体得できることを目的とする。この目的を達成するために、福祉分野において必要とされる医学的知識と医療における考え方を中心に、福祉専門職としての実践に必要なレベルを常に意識する。入学初年次より福祉の対象となる様々な障害の医学的側面を学ぶことにより福祉専門職志向をしっかりと高めていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一般臨床医学の概要について説明することができる。</li> <li>2. ヒトの成長・発達・老化について概略を説明することができる。</li> <li>3. 人体各臓器の構造と機能について説明することができる。</li> <li>4. 現代における重要な疾病について説明することができる。</li> <li>5. 援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション／学習成果 課題：評価方法および評価基準	予習：シラバスを読む。 復習：授業内容を再確認する。		
第2回	人間の成長・発達と老化(1) 虐待の傷／再生への道 課題：児童虐待防止法、母子保健法、児童福祉法	予習：pp. 8-13。 復習：配布資料を通読。		
第3回	人間の成長・発達と老化(2) ストーカー／殺意の深層 課題：心的外傷後ストレス障害、ストーカー規制法改正	予習：pp. 8-13。 復習：配布資料を通読。		
第4回	人間の成長・発達と老化(3) 食の崩壊と低栄養 課題：低アルブミン血症、サルコペニア、フレイル	予習：pp. 14-18, 117-121。 復習：配布資料を通読。		
第5回	身体構造と心身の機能(1) 水分と脱水症 課題：高齢者の脱水症	予習：pp. 28-29。 復習：配布資料を通読。		
第6回	身体構造と心身の機能(2) 腎臓と疾患 課題：腎臓の働きと慢性腎臓病	予習：pp. 34-35, 87-94。 復習：配布資料を通読。		
第7回	身体構造と心身の機能(3) 腸と疾患 課題：腸の働きと大腸がん	予習：pp. 39-40。 復習：配布資料を通読。		
第8回	身体構造と心身の機能(4) 骨と疾患 課題：骨の仕組みと骨粗しょう症	予習：pp. 46-47, 95-98。 復習：配布資料を通読。		
第9回	疾病の概要(1) 深刻化する依存症 課題：ゲーム依存症、治療と支援	予習：pp. 54-56。 復習：配布資料を通読。		
第10回	疾病の概要(2) 感染症との戦い 課題：感染症防止策、検疫法	予習：pp. 103-106, 222-224。 復習：配布資料を通読。		
第11回	疾病の概要(3) 神経疾患と難病 課題：神経難病、安楽死	予習：pp. 107-112。 復習：配布資料を通読。		
第12回	疾病の概要(4) 終末期医療と緩和ケア 課題：ホスピス、終末期、在宅緩和ケア	予習：pp. 122-126。 復習：配布資料を通読。		
第13回	疾病の概要(5) 医療と介護の連携 課題：地域医療、チーム医療	予習：pp. 122-126, 187-189。 復習：配布資料を通読。		
第14回	疾病の概要(6) 脳死と臓器移植 課題：法的脳死判定基準、改正臓器移植法	予習：pp. 127-128。 復習：配布資料を通読。		
第15回	まとめワーク 課題：①5つの課題をまとめる。②練習問題を解く	予習：すべての配布資料を通読。 復習：練習問題の再確認。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% (5つの課題についての的確にまとめられているかを評価する。50点満点とする。)			
小テスト等	30% (受講時に提出する全ての練習問題の回答を評価して30-0点を配点する。)			
成果発表	なし			
受講態度他	20% (受講回数を評価して20-0点を配点する。)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。 復習箇所を明記している回は、授業後に復習をしてください。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病 第3版』(中央法規)			
指定図書	なし			
参考図書	随時、図書や資料を紹介			
オフィスワーク	受講日。	メールアドレス		



授業科目	医学概論Ⅱ【講義】	開講時期	後期
担当教員	百瀬 義人	単位	2
授業の目的と概要	医学概論Ⅰとあいまって、福祉専門職に必要なとなる医学の基礎的知識、医療における基本的考え方を理解し、認知症や障害が日常生活に及ぼす影響とそれに対する支援のあり方について考察しながら、論理的思考力、創造的思考力、問題解決力のほか、社会の多様な問題を考えアプローチできる力を養うことを目的とする。この目的を達成するために、福祉分野において必要とされる医学的知識と医療における考え方を中心に、福祉専門職としての実践に必要なレベルを常に意識する。入学初年次より福祉の対象となる様々な障害の医学的側面を学ぶことにより福祉専門職志向をしっかりと高めていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一般臨床医学の概要について説明することができる。</li> <li>2. 先天性疾患、加齢に伴う疾患の概要について説明することができる。</li> <li>3. 障害の原因となる諸疾患の医学的側面について説明することができる。</li> <li>4. リハビリテーションと生活機能分類について説明することができる。</li> <li>5. 認知症や障害が日常生活に及ぼす影響と、本人や家族に対する支援やケアのあり方について説明することができる。</li> <li>6. 健康に関する国の施策について説明することができる。</li> <li>7. 援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 障害の概要 (1) 再生医療の衝撃 課題：医療と倫理的課題、患者の人権の尊重		予習：pp. 130-151。 復習：配布資料を通読。	
第2回 障害の概要 (2) 再生医療の挑戦 課題：間葉系幹細胞、脊髄損傷		予習：pp. 130-151。 復習：配布資料を通読。	
第3回 障害の概要 (3) 発達障害 課題：発達障害と向き合う精神科医		予習：pp. 152-155。 復習：配布資料を通読。	
第4回 障害の概要 (4) 認知症 課題：認知症検査、長谷川式認知症簡易評価スケール		予習：pp. 156-161。 復習：配布資料を通読。	
第5回 障害の概要 (5) 認知症予防への道 課題：軽度認知障害、認知症のリスク		予習：p. 156-161。 復習：配布資料を通読。	
第6回 リハビリテーションの概要 課題：がん周術期のリハビリテーション		予習：pp. 173-192。 復習：配布資料を通読。	
第7回 国際生活機能分類(ICF)の基本的な考え方と概要 課題：国際生活機能分類(ICF)、障害者の理解と支援		予習：pp. 193-203。 復習：配布資料を通読。	
第8回 健康のとらえ方 (1) 子ども若者訪問支援 課題：子どもたちの未来を支える育成支援		予習：pp. 205-207。 復習：配布資料を通読。	
第9回 健康のとらえ方 (2) 健康寿命と介護予防 課題：低所得の要介護者をどう支えるか		予習：pp. 208。 復習：配布資料を通読。	
第10回 健康のとらえ方 (3) 集団の健康 課題：医療ビッグデータの活用で患者を救えるか		予習：p. 209, pp. 215-217。 復習：配布資料を通読。	
第11回 日本の人口統計 人口構造 課題：人口ピラミッド、労働力の激減		予習：pp. 210-212。 復習：配布資料を通読。	
第12回 国民健康づくり対策 (1) 健康日本21 課題：メタボリックシンドローム		予習：pp. 54-57, pp. 218-221。 復習：配布資料を通読。	
第13回 国民健康づくり対策 (2) うつ病の理解 課題：防衛本能がもたらす宿命、扁桃体		予習：pp. 170-171。 復習：配布資料を通読。	
第14回 労働衛生 子どもの貧困を救え 課題：相対的貧困率、リワーク支援、ワークライフバランス		予習：pp. 225-229。 復習：配布資料を通読。	
第15回 まとめワーク 課題：①5つの課題をまとめる。 ②練習問題を解く。		予習：すべての配布資料を通読。 復習：練習問題の再確認。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50% (5つの課題についての的確にまとめられているかを評価する。50点満点とする。)		
小テスト等	30% (受講時に提出する全ての練習問題の回答を評価する。30-0点を配点する。)		
成果発表	なし		
受講態度他	20% (受講回数評価して、20-0点を配点する)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習個所を明記している回は、授業前に予習をしてください。 復習個所を明記している回は、授業後に復習をしてください。		
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病 第3版』 (中央法規)		
指定図書	なし		
参考図書	随時、図書や資料を紹介		
オフィスワーク	受講日。	メールアドレス	

授業科目	イギリス文学史【講義】		開講時期	前期
担当教員	宮原 牧子		単位	2
授業の目的と概要	イギリスの「文学」の歴史を学びます。 「文学」という堅苦しい言葉に拒否反応を示す人もいでしょう。 ですが、そんな必要はありません。 詩や劇や小説が「学問」であると考えてるのは学者や研究者たちだけで十分です。 小難しいことはみな学者や研究者に任せて、詩や劇や小説本来の楽しさを満喫しましょう。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリスの詩、劇、小説の歴史についての知識を深めることができる</li> <li>・文学を通して英語が生まれた国の伝統や文化を理解することができる</li> <li>・上記の2点をふまえ、文学作品を読み、何を感じ、何を考えるか、自分の言葉で論じることができる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目：「英語圏児童文学研究」、「英語文学研究」			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション	第2回の予習 (テキストp. 9～p. 12を読む/課題の入力)		
第2回	イギリスの黎明期	第3回の予習 (テキストp. 18～p. 20を読む/課題の入力/レポート)		
第3回	イギリス文学の誕生	第4回の予習 (テキストp. 36～p. 39を読む/課題の入力/レポート)		
第4回	ルネッサンス文学の開花 (1) Thomas MoreからEdmund Spenserまで	第5回の予習 (配布されたプリントを読む/課題の入力/レポート)		
第5回	ルネッサンス文学の開花 (2) William Shakespeare	第6回の予習 (テキストp. 61を読む/課題の入力/レポート)		
第6回	政治と宗教の激動期 (1)	第7回の予習 (テキストp. 83～p. 84を読む/課題の入力/レポート)		
第7回	政治と宗教の激動期 (2) /知性と秩序の文学	第8回の予習 (テキストp. 98～p. 99を読む/課題の入力/レポート)		
第8回	近代市民社会の文学 (1) Daniel DefoeとJonathan Swift	第9回の予習 (配布されたプリントを読む/課題の入力/レポート)		
第9回	近代市民社会の文学 (2) Samuel RichardsonとHenry Fielding/激動と情熱の時代 (1)	第10回の予習 (テキストp. 118～p. 119を読む/課題の入力/レポート)		
第10回	激動と情熱の時代 (2) ロマン派の詩	第11回の予習 (配布されたプリントを読む/課題の入力/レポート)		
第11回	激動と情熱の時代 (3) ロマン派の小説	第12回の予習 (テキストp. 144～p. 145を読む/課題の入力/レポート)		
第12回	新しい女性の文学活動	第13回の予習 (テキストp. 174～p. 175を読む/課題の入力/レポート)		
第13回	繁栄と退廃の時代 (1) ハーディ、ディケンズ、ワイルド他	第14回の予習 (課題の入力/レポート)		
第14回	繁栄と退廃の時代 (2)	第15回の予習 (テキストp. 200～p. 201を読む/課題の入力/レポート)		
第15回	繁栄と退廃の時代 (3) / 現代文学の道程	全講義の復習		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	60% 学期内に4種類のレポートを課します。別途「課題」プリントを添付して提出してください。(提出の仕方については、後日お知らせします。)			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	40% 講義への参加度・毎回のコメントなどで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本授業はオンデマンド方式で行います。 初回の講義でレポートや課題について詳しく説明します。 レポートは計画的に作成し、不備なく講義最終日に提出してください。 テキストに沿って様々な文学作品を紹介します。テキスト以外の作品については、データを筑女ネットにアップします。 必ず予習 (テキストを読む) をして講義にのぞんでください。			
教科書	斉藤勇監修 『イギリスの文学』 英宝社			
指定図書	—			
参考図書	講義中、必要に応じて紹介します。			
オフィスアワー	学内立入禁止が解除された場合は水曜日3限目。それまではメールで対応します。	メールアドレス		

授業科目	イスラム地域文化論【講義】		開講時期	後期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：イスラム地域は、グローバル化や欧米との歴史的深い関わり上、日本を含む東アジアをも時として揺るがしている現状です。これらを理解するために、イスラムに関わる基礎事項を学ぶとともに、当該地域の悠久、複雑、多様な歴史を振り返ります。そして、イスラム文化の地域的特性、時代的変遷をふまえて、今日における諸事象理解に資することを目的とします。</p> <p>概要：先ずは、ムハンマドへの啓示を著わす「クルアーン」や言行録「ハディース」に一神教「イスラム」の特徴、ならびにその教徒義務「五行」や信仰箇条「六信」を理解します。次に、「イスラム」が西アジアから四周へ拡散し各地域の文化とどのように接触、融合していったか、また「12世紀ルネサンス論」についても考えます。さらに、「イスラム」の宗派間対立の具体例から、今日的課題の複雑さやその国際性を学びます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いわゆる「イスラム諸国」を、正しく地図上に列挙することができる。</li> <li>・イスラムの「五行」、「六信」を説明することができる。</li> <li>・クルアーン（コーラン）とムハンマド、予言者との関連性を説明することができる。</li> <li>・シーア、スンナ等の宗派と部族、国家とを関連させることができる。</li> <li>・サウジアラビア、イラン、シリア、アラブ首長国連邦、トルコ、インドネシア等の成り立ちを近現代史上において説明することができる。</li> <li>・「パレスチナ問題」、「東方問題」を民族および国際関係の視点から説明することができる。</li> <li>・ソ連崩壊（1991年）以降のイスラム地域の変容具合を、事例に即して説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		第2回までに課題①提出（2時間）		
第2回 「イスラム」の誕生：いつ、どこで、どのように		第3回までに課題②提出（2時間）		
第3回 「イスラム地域」の地域設定		第4回までに課題③提出（2時間）		
第4回 「イスラム」の教義「五行」、「六信」と「アブラハムの宗教」		第5回までに課題④提出（2時間）		
第5回 「イスラム」の女性観		第6回までに課題⑤提出（2時間）		
第6回 イスラム信仰国の事例：サウジアラビア、イラン		第7回までに課題⑥提出（2時間）		
第7回 イスラム信仰国の事例：シリア、アラブ首長国連邦		第8回までに課題⑦提出（2時間）		
第8回 イスラム信仰国の事例：トルコ、インドネシア		第9回までに課題⑧提出（2時間）		
第9回 「12世紀ルネサンス論」：「イスラム」による古代文明の継承と復興		第10回までに課題⑨提出（2時間）		
第10回 世界遺産にみる「イスラム」の異文化接触：タージ・マハル		第11回までに課題⑩提出（2時間）		
第11回 「パレスチナ問題」・「東方問題」と「イスラム」		第12回までに課題⑪提出（2時間）		
第12回 近代日本の「イスラム地域」接触とその理解		第13回までに課題⑫提出（2時間）		
第13回 ソ連崩壊（1991年）以降のイスラム地域		第14回までに課題⑬提出（2時間）		
第14回 現代日本と「イスラム地域」		第15回までに課題⑭提出（2時間）		
第15回 到達目標に対比した授業総括		指定の期日・時間までに「定期試験課題」提出（2時間）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	・毎回の課題レポート（50%） ・学期末レポートを第15週目に実施（50%）			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	-			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回の「遠隔授業（課題提示型）」は、各回授業テーマの学修・自修で構成されます。提示された課題を考えるなかから、自ら課題をさらに見出し自修を深めてください。提出物に関しては、「遠隔授業」によるやむを得ない事情には配慮しますので、しっかり対応して指定期日内の提出に努めて下さい。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	関連図書を、授業進行にあわせ適宜紹介。信頼し得るネット情報は有効です。			
オフィスアワー	「遠隔授業」形態ですので、随時、下記メールアドレスまで質問・要望・意見等々は気軽にご連絡下さい。	メールアドレス		

授業科目	異文化コミュニケーション【講義】		開講時期	前期
担当教員	鷹野 恵		単位	2
授業の目的と概要	教科書および講義の内容を通して、異文化コミュニケーションの基礎的な知識を得る。 また、資料分析活動を通して、自分自身および他者のことをより深く理解し、客観的に洞察する見方を得る。 特に、異文化コミュニケーションの現場である日本語教育の観点からそれらを行う。			
到達目標	① 異文化コミュニケーション分野の基礎的知識を得る ② 文化やコミュニケーションスタイルの多様性を理解する ③ 自他の文化やコミュニケーションスタイルの特徴に気づき、より広い視野と客観的な態度を獲得する			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日(2)-①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき120分程度必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	異文化コミュニケーションとは：授業の説明、関連読み物・映像資料から考える	準備：教科書を購入し、持参する（下記の教材に関わる情報参照のこと）		
第2回	異文化摩擦：映像作品、出版物、留学生の作文などから考える	予習：教科書の序章（p.3-p.17）を読み、キーワードと感想を書く		
第3回	第1章「自分とは何だろう」：教科書内容の講義、ディスカッション、発表箇所の分担	予習：教科書の第1章（p.18-p.29）を読み、キーワードと感想を書く		
第4回	第2章「異文化との接触」：教科書内容の発表、講義、ディスカッション	予習：教科書の第2章（p.30-p.44）を読み、キーワードと感想を書く		
第5回	第3章「イメージとステレオタイプ」：教科書内容の発表、講義、ディスカッション	予習：教科書の第3章（p.45-p.57）を読み、キーワードと感想を書く		
第6回	第4章「人と出会うということ」：教科書内容の発表、講義、ディスカッション	予習：教科書の第4章（p.58-p.69）を読み、キーワードと感想を書く		
第7回	第5章「人とコミュニケーションするということ」：教科書内容の発表、講義、ディスカッション	予習：教科書の第5章（p.70-p.92）を読み、キーワードと感想を書く		
第8回	第6章「外国語でコミュニケーションするということ」：教科書内容の発表、講義、ディスカッション	予習：教科書の第6章（p.93-p.109）を読み、キーワードと感想を書く		
第9回	第7章「非言語コミュニケーションを考える」：教科書内容の発表、講義、ディスカッション	予習：教科書の第7章（p.110-p.123）を読み、キーワードと感想を書く		
第10回	第8章「誤解はどこから生まれるのか」：教科書内容の発表、講義、ディスカッション	予習：教科書の第8章（p.124-p.143）を読み、キーワードと感想を書く		
第11回	第9章「価値観の相違を考える」：教科書内容の発表、講義、ディスカッション	予習：教科書の第9章（p.144-p.163）を読み、キーワードと感想を書く		
第12回	第10章「多文化共生に向けて」：教科書内容の発表、講義、ディスカッション、レポート課題となる時事問題記事を配布	予習：教科書の第10章（p.164-p.178）を読み、キーワードと感想を書く		
第13回	レポートの準備「時事問題記事から考える」：講義、ディスカッション	準備：時事問題記事を読み、期末レポートの計画書を作成し、持参する		
第14回	第11章「地域社会とコミュニケーション」：講義、ディスカッション	準備：期末レポートの下書きを持参する		
第15回	まとめ	準備：期末レポートを清書し、持参する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート20%、小レポート20%（10%×2回）			
小テスト等	毎回の授業のワークシート60%			
成果発表	なし			
受講態度他	出欠はワークシートの提出をもって確認			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業活動に集中して参加する</li> <li>・クラスメートとのコミュニケーション自体が学習の重要な一部であることを理解し、ディスカッションやグループ活動に積極的に取り組む</li> <li>・クラスメートのコミュニケーションスタイルの多様性に配慮する</li> </ul>			
教科書	徳井厚子『改訂版 多文化共生のコミュニケーション』 改訂版の出版が2020年3月下旬予定なので、購入可能になる時期が遅れる場合がある。			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	Teams（チャット）またはE-mailにて連絡をし、日時を個別相談で決定する。	メールアドレス		

授業科目	異文化コミュニケーション特論【講義】		開講時期	後期
担当教員	占部 匡美		単位	2
授業の目的と概要	<p>本科目の目的は、異文化コミュニケーションの研究理論と実践について、要点を概観し、基礎的な知識と技術を習得することである。</p> <p>現在、異文化コミュニケーションの視点は、言語・文化のみならず、教育・心理・福祉・ビジネスなど多くの分野においても不可欠なものであり、その重要性はますます高まっている。なぜなら、「文化」とは言語や国だけではなく、ジェンダーや人種、地域、年齢、社会的立場など様々な要素から捉えられるものであり、そのような多様な文化的背景を持つ人同士の関わりが急速に増加し、複雑化しているからである。</p> <p>授業では、まず、各履修者が自分の専門分野と異文化コミュニケーションの関わりを理解する。そして、教科書に沿って異文化コミュニケーションの理論と実践について学びながら研究を進める。さらに、学内外の国際交流行事等に参加し、体験を通して</p>			
到達目標	<p>異文化コミュニケーションの研究理論について基礎的な知識を習得する</p> <p>異文化コミュニケーションの実践について、基礎的な技術を習得する</p> <p>自分の専門分野および大学院における研究テーマと異文化コミュニケーションの関わりを理解する</p> <p>異文化コミュニケーションの基礎的な研究技術を獲得する</p> <p>自己や社会について、より広い視野と深い洞察力を獲得する</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</p> <p>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</p> <p>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</p> <p>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション・異文化を理解する		教科書を購入し、持参。あれば、大学院における研究計画書を持参。	
第2回	文化とは① 冰山モデル		第2章を読み200字にまとめる。	
第3回	文化とは② トータルカルチャーとサブカルチャー		第3章を読み200字にまとめる。	
第4回	異文化適応 カルチャーショック		第4章を読み200字にまとめる。	
第5回	シミュレーション 異文化トレーニング		第5章を読み200字にまとめる。	
第6回	違いに気づく 行動・視点・環境		第6章を読み200字にまとめる。	
第7回	異文化の認識 固定観念		第7章を読み200字にまとめる。	
第8回	差別を考える 差別の種類		映画「es」を図書館で視聴し、ストーリーと感想を400字にまとめる。	
第9回	世界の価値観 モノクロニックとポリクロニック		第9章を読み200字にまとめる。	
第10回	異文化トレーニング ケーススタディ		第10章を読み200字にまとめる。	
第11回	異文化受容 異文化受容のプロセス		第11章を読み200字にまとめる。	
第12回	自分を知る 自己開示		第12章を読み200字にまとめる。	
第13回	非言語コミュニケーション 非言語コミュニケーションの種類		第13章を読み200字にまとめる。	
第14回	アサーティブ・コミュニケーション 自分のスタイルを知る		第14章を読み200字にまとめる。	
第15回	異文化コミュニケーション研究発表会		第15章を読む。指定されたテーマについての施策案を準備する。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	学内外国際交流行事等への参加とレポート20%			
小テスト等	第2-14回：各章の要約と感想文60%			
成果発表	第15回：発表20%			
受講態度他	不適切な行為（下記参照）は減点の対象となる			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修者間の文化やコミュニケーションの多様性に配慮し協力する 授業活動に積極的に参加する（議論、実践活動など） 予習を行う（教科書を読み、要約を筑女ネットに提出する。体験談の執筆、文献研究など） 欠席・遅刻をしない。やむを得ない場合は、授業担当者にメールで報告する。			
教科書	原沢伊都夫『異文化理解入門』研究社（2013年）			
指定図書	八代京子他『異文化トレーニング ボーダレス社会を生きる』三修社（1998年）			
参考図書	小坂貴志『改訂版 異文化コミュニケーションのA to Z——理論と実践の両面からわかる』研究社（2017年）			
オフィスアワー	授業終了後	メールアドレス		

授業科目	移民文化論【講義】		開講時期	後期
担当教員	喜多村 百合		単位	2
授業の目的と概要	<p>移民の世紀と呼ばれる21世紀。人の移動は人類発生と同時にあった現象ですが、グローバル化の加速により急拡大しています。その結果、今日の社会に大きな変化と問題を生じさせています。この講義は、日本と海外における移民現象をいくつか取り上げ、ホスト社会と移民集団間に生じる関係性「エスニシティ」をめぐり生起する問題を理解し、課題を把握することを目的とします。</p> <p>まず在日コリアンと日系アメリカ人を挙げ、法的規制と文化的アイデンティティの形成について、当事者の位置から考察します。さらに移民大国インドの移民について、イギリスとアメリカの事例を通して同様の検討をおこないます。終盤で、移民大国化する「移民政策」なき日本の実態と課題を、H31年4月施行の改正入管法の問題も含めて検討します。</p>			
到達目標	<p>①在日コリアン3世の文化的アイデンティティについて説明できる。  ②日系アメリカ人の移民の軌跡の概要、および戦時中の強制収容補償問題とアイデンティティ形成について説明できる。  ③インド系移民の文化的アイデンティティの多様性について説明できる。  ④日本社会の新たな移民問題について実態・課題を把握し、実践を含めて態度形成ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	導入：移民の定義と歴史。本講義のねらい	プリント復習		
第2回	現代社会における移民現象と統計的把握	プリント復習		
第3回	移民研究動向。文化変容論、エスニック・バウンダリー論とエスニシティ	プリント復習		
第4回	日本の移民(1) 在日コリアンの移民史と現在	指定図書②前半		
第5回	日本の移民(2) 在日コリアン3世のライフヒストリーとエスニシティ①	指定図書②後半		
第6回	日本の移民(3) 在日コリアン3世のライフヒストリーとエスニシティ② ディスカッション	中間レポート作成		
第7回	日系移民(1) 日系アメリカ人の移民史と現在	指定図書①		
第8回	日系移民(2) 日系アメリカ人のエスニシティ	指定図書①		
第9回	インド系移民(1) 「移民大国インド」概説	参考図書③		
第10回	インド系移民(2) イギリスのインド系移民の歴史	参考図書③		
第11回	インド系移民(3) インド系イギリス人のライフヒストリーとエスニシティ	配布プリント復習		
第12回	インド系移民(4) 米国のインド系移民の歴史	配布プリント復習		
第13回	インド系移民(5) インド系アメリカ人のライフヒストリーとエスニシティ	配布プリント復習		
第14回	移民大国化する日本の実態と新たな課題	プリント復習		
第15回	総合ディスカッション。まとめ。	期末レポート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート 50%、中間レポート 20%			
小テスト等	-			
成果発表	なし			
受講態度他	30% (リアクション・ペーパー)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ふだんから、移民をめぐるニュースや情報に関心を持つよう努めること。			
教科書	授業時にレジュメ・資料プリントを配布			
指定図書	①竹沢泰子『日系アメリカ人のエスニシティ』、②福岡安則『在日韓国・朝鮮人・若い世代のアイデンティティ』 ③ミラ・ナイール『その名にちなんで』(DVD)			
参考図書	①綾部恒雄他『文化人類学2：民族とエスニシティ』 ②古賀正則『移民から市民へ』 ③小宮英二『在日一世の記憶』			
オフィスワー	月3、水2	メールアドレス		

授業科目	医療社会学【講義】		開講時期	前期
担当教員	園田 浩之		単位	2
授業の目的と概要	この授業では、医療社会学の視点・考え方と、そこで扱われているいくつかの具体的な問題について紹介してゆく。授業の目的は、医療をめぐるあたりまえと、医療があたりまえなもの（こと）として存在する現代社会のありようを、社会学の視点から（ときに私たち自身の常識そのものを問い返しながら）考えてみることである。そうするなかで、①そもそも医療をめぐる社会学的に考えるとはどういうことか、②そうしたまなざしによって見出される現代社会の問題とはどのようなものか、受講者の皆さんと一緒に考えてゆく。			
到達目標	①これまで社会学という学問が「医療」や「病気」をめぐる考察してきたことから学びつつ、自らの生きる現実を多面的に・柔軟に（ときに批判的に）とらえるために必要なリテラシーやクリティカル・シンキングの姿勢や視点を身につける。②自らの生きる現代社会を複眼的に理解し、それをできる限りクリアに・ていねいに言語化することができる。それらの学びを通じて、ものの見方と思考、そして言葉による表現の柔軟性を高める。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	医療社会学への招待 医療（と病と健康）をめぐる常識を問直すために	配布資料とノートをもとに初回の内容（と受講上のルールなど）をふりかえる		
第2回	「医療」を社会学するとは？	配布資料を30～1時間かけて読み返す		
第3回	社会学で考える「身体」と「病い」① 「身」近なことから考えてみる：身体という問題	配布資料を30～1時間かけて読み返す		
第4回	社会学で考える「身体」と「病い」② 健康と美醜のあいだ	配布資料を30～1時間かけて読み返す		
第5回	社会学で考える病気と健康/正常と異常をめぐる①	配布資料を30～1時間かけて読み返す		
第6回	社会学で考える病気と健康/正常と異常をめぐる②	配布資料を30～1時間かけて読み返す		
第7回	健康に怯える現代人？ 疑いにくいものを疑ってみる	配布資料を30～1時間かけて読み返す		
第8回	健康に怯える現代人？ 不安とリスクの社会学①	配布資料を30～1時間かけて読み返す		
第9回	健康に怯える現代人？ 不安とリスクの社会学②	配布資料を30～1時間かけて読み返す		
第10回	中間考察 現代社会における病と健康をめぐる	配布資料を30～1時間かけて読み返す		
第11回	医療化と現代社会① 誰が「病気」を決めるのか？	配布資料を30～1時間かけて読み返す		
第12回	医療化と現代社会② 診断名の社会学	配布資料を30～1時間かけて読み返す		
第13回	医療化と現代社会③ 脱施設化 病院と「その外」をめぐる	配布資料を30～1時間かけて読み返す		
第14回	「病い」のある場所	配布資料を30～1時間かけて読み返す		
第15回	あたりまえを問直す意味 社会学の使いみち	配布資料を30～1時間かけて読み返す		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	期末に課すレポートで、成績全体の70%（70点分）を評価します。			
小テスト等	学期中、講義の中で示す課題（講義内容をふまえた質問へのリアクションや、ミニレポートの提出）で、成績全体の30%（30点分）を評価します。			
成果発表	なし。			
受講態度他	なし。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修を希望する皆さんは、あらかじめシラバスに目を通しておいて下さい。講義の進め方はオンラインによるものに変更されますが、講義内容は、シラバスに記載したものから変更はありません。			
教科書	教科書は使用しません。受講に必要な資料（パワーポイントの配布資料やレジュメなど）は、筑女ネットを通して、講義のつどアップしていきます。			
指定図書	なし			
参考図書	講義の進行に応じて、さらに知りたくなった人・より深く考えたくなった人たちに、思考の糧・補助線になりそうなもの（場合によっては、「本」以外のものも）を紹介していけたらと思っています。			
オフィスアワー	質問や連絡等は、筑女ネット（下記アドレス）から、随時お受けします。	メールアドレス		

授業科目	医療福祉論【講義】		開講時期	前期
担当教員	池田(和)・田中(由)・梶平(幸)・山本(友)		単位	2
授業の目的と概要	<p>「全世代型社会保障」への改革の一環として展開されている医療制度改革の中にあつて、医療社会福祉および医療ソーシャルワークはますますその重要性を増している。</p> <p>本講義は、医療社会福祉および医療ソーシャルワークの概念的理解をふまえ、現在及び将来の日本における医療社会福祉、医療ソーシャルワークのあり方を検討する力量を身につけることを目的とする。</p> <p>そのため、人間にとってかけがえのない生命と健康の維持・再生産に関わる諸問題の解決にとって医療が果たすべき役割と課題について理解し、医療社会福祉および医療ソーシャルワークの意義と必要性を検討する(問題解決力の獲得)。また、医療制度について詳細に学ぶとともに、医療ソーシャルワーカーにとって必要な知識と技能を身につけるために実践的な授業展開を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療社会福祉、医療ソーシャルワークについて、その概念を規定することができる。</li> <li>2. 医療保障制度および介護保険制度について、その仕組みと利用方法を他者に説明できる。</li> <li>3. 医療供給(提供)体制について、医療法および診療報酬制度をふまえて説明できる。</li> <li>4. 医療ソーシャルワーカーの業務内容および医療ソーシャルワーカーに求められる倫理観や人間観を身につけることができる。</li> <li>5. 医療ソーシャルワーカーに求められる知識・技能の基本を身につけることができる。</li> <li>6. 医療ソーシャルワークにおける記録の方法について学ぶことを通して論理的思考力を身につけることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt; 1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>&lt;関連する科目&gt; 社会保障論Ⅰ・Ⅱ(特に医療保険制度)、高齢者福祉論(特に介護保険制度)、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習指導</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	医療社会福祉の枠組み — 医療社会福祉の概念、法制度と費用(池田)	医療社会福祉の概念、法制度と費用についてノート整理		
第2回	事例を通してみる医療ソーシャルワークの実際① — 医療ソーシャルワーカー業務指針(田中)	医療ソーシャルワーカー業務指針についてノート整理		
第3回	事例を通してみる医療ソーシャルワークの実際② — 医療ソーシャルワーカー倫理綱領(山本)	医療ソーシャルワーカー倫理綱領についてノート整理		
第4回	医療機関・病棟の種類① — 医療法による区分(地域医療支援病院、特定機能病院)(梶平)	医療法にもとづく病院、病棟の種類についてノート整理		
第5回	医療機関・病棟の種類② — 診療報酬制度による区分(入院基本料、特定入院料)(梶平)	診療報酬制度による病棟の種類についてノート整理		
第6回	病棟の種類による医療ソーシャルワークの展開① — 回復期における退院支援と多職種連携(山本)	回復期における退院支援と多職種連携についてノート整理		
第7回	病棟の種類による医療ソーシャルワークの展開② — 慢性期におけるソーシャルワーク実践(田中)	慢性期におけるソーシャルワーク実践についてノート整理		
第8回	病棟の種類による医療ソーシャルワークの展開③ — 終末期におけるソーシャルワーク実践(梶平)	終末期におけるソーシャルワーク実践についてノート整理		
第9回	医療政策の動向とその問題点(池田)	医療政策の動向とその問題点について考えを整理		
第10回	医療ソーシャルワーク実践における面接技法①(グループワーク、ロールプレイを含む) — ジェノグラム、エコマップを用いて(山本)	ソーシャルワーカーが課題をとらえる視点と方法について考えを整理		
第11回	医療ソーシャルワーク実践における面接技法②(グループワーク、ロールプレイを含む) — KJ法を用いて(田中)	ソーシャルワーカーとしての課題整理と分析の方法について考えを整理		
第12回	多職種連携の実際(グループワーク、ロールプレイを含む) — カンファレンスのすすめ方(梶平)	多職種連携におけるカンファレンスのすすめ方について復習		
第13回	医療ソーシャルワークにおける記録① — SOAPなどの記録方法(山本)	SOAPなどの記録方法についてノート整理		
第14回	医療ソーシャルワークにおける記録② — 記録方法の実践とディスカッション(田中)	記録についてのふり返り		
第15回	医療保障のあり方と医療ソーシャルワークの課題(池田)	医療保障のあり方と医療ソーシャルワークの課題について考えを整理		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% 「医療ソーシャルワーカーが果たすべき社会的役割について」(1,000~1,200字) 詳細は第9回授業での指示を参照			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50% ロールプレイなど実践的内容を含む第10回~第14回授業で提出してもらいミニレポート(各回それぞれ10%分) 詳細は第9回授業での指示を参照			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各回のパワーポイント資料は繰り返し視聴できるので、活用してください。			
教科書	筑女ネットにアップします。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスワーク	筑女ネットを通して質問してください(または、メールしていただいてもいいです)。	メールアドレス		



授業科目	インターンシップ I 【演習】	開講時期	前期
担当教員	坂本 隆行	単位	2
授業の目的と概要	<p>授業の目的は、産業・企業・競合他社分析能力の知識を身につけ、ビジネス現場でのインターン実践にむけて必要なビジネスコミュニケーションの応用力を身につけることである。社会で業務にあたるには「自己管理能力」、「チームワーク力」、「コミュニケーション・スキル」、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」「ファシリテーション力」が必要とされる。2年次「ビジネスコミュニケーション」で学び実践してきたこれらの能力を発展・応用することを目指す。</p> <p>本年度は、本学ではコロナウイルスの影響で前期期間中が遠隔授業となっており、かつ8月までの学外活動が中止となっていることから（今後のインターンシップ活動が行われるか否かについても現在不明となっている）、インターンシップ活動を想定した授業を筑女ネットを援用しておこない、インターンシップにいつでも参加できる能力を養う。</p>		
到達目標	<p>①産業・企業・競合他社分析能力を身につける。          ②ビジネススキルとして「自己管理能力」、「チームワーク力」、「コミュニケーション・スキル」、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」「ファシリテーション力」を熟練し、修得する。          ③アイデアを柔軟に発想し創出できる「イノベーション力」を養う          ④常に「論理的思考能力」をもち、客観的な根拠をもとに系統立てて発言・議論することができる          ⑤多様な価値観を尊重し、他者と協働して「チームワーク力」「課題探求力」、問題解決課題の成果を出すことができる「問題解決力」。          ⑥自己のキャリアを具体的に構想できる「キャリアを構想する力」を修得する。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」          現 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回目 ガイダンス		復習：インターンシップ制度について、事前に調べてください。	
第2回目 インターンシップとは何か インターンシップの概要説明		予習：インターンシップについて、事前に調べておいてください	
第3回目 インターンシップでの勤務について		復習：教科書6-16を読んでください。	
第4回目 自分のことを客観視しよう		復習：自分の性格について、自己分析をしてください。	
第5回目 自己PRトレーニング		予習：これまでの大学生生活を振り返りPRできるようにしてください。	
第6回目 インターンシップ準備 業界研究		復習：興味ある企業を考えていてください。	
第7回目 業界内の企業研究		復習：資料に従って業界研究をおこなってください。	
第8回目 企業研究の方法 身近にある企業から探す		復習：資料に従って業界研究をおこなってください。	
第9回目 インターンシップ先の探し方		復習：資料に従って業界研究をおこなってください。	
第10回目 企業研究の方法 B to C・B to Bの視点		復習：資料に従って業界研究をおこなってください。	
第11回目 企業研究の方法 ホームページからわかる企業の印象		復習：資料に従って業界研究をおこなってください。	
第12回目 企業研究の方法 気になった企業への就活・インターンシップのアプローチ		復習：資料に従って業界研究をおこなってください。	
第13回目 企業研究の方法 企業ホームページから企業の雰囲気を読む		復習：資料に従って業界研究をおこなってください。	
第14回目 自己分析とこれからの就活方法		復習：資料に従って業界研究をおこなってください。	
第15回目 これまでの学習の振り返り課題 学期末レポート課題の説		復習：これまでの講義内容を見直してください。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 最終試験の代わりとして学期末レポートを第15週目に実施し、その内容を評価します。		
小テスト等	60% アンケート形式で課題提出を実施し、その内容を評価します。		
成果発表	なし		
受講態度他	10% 出席状況等を評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>遠隔授業の進め方については、変更する可能性があります。変更の場合筑女ネットで知らせます。          筑女ネットで通知、出席管理、資料提出、フィードバック指導を行うため、指示した日時にアクセスしてください。          ※ 受講確認の「回答する」ボタンでの出欠確認及び、アンケートでの課題提出によって出欠確認します。          筑女ネットに記載された指示に従い、確実に15回の授業を受講してください。</p>		
教科書	富士通エフ・オー・エム株式会社『ビジネスコミュニケーションスキルを磨く10のステップ<改訂版>』FOM出版(2014) *「ビジネスコミュニケーション」科目の教科書(前年度使用した教科書)ですので、再度購入は不要です。		
指定図書	なし		
参考図書	随時筑女ネットで紹介します。		
オフィスアワー	毎週月曜日 10:00-12:00	メールアドレス	

授業科目	インターンシップⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	坂本 隆行		単位	2
授業の目的と概要	授業の目的は、「ビジネスコミュニケーション」、「インターンシップⅠ」で身につけたビジネス全般の知識、企業分析力をもとに、インターンに参加し、それらの知識を活かし実践することにある。インターン後には、報告発表で実践の振り返りを行い、インターン成果の確認を行う。			
到達目標	①的確な産業・企業・競合他社分析能力を実践により修得する ②ビジネススキルとして「自己管理能力」、「チームワーク力」、「コミュニケーション・スキル」、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」、「ファシリテーション力」を熟練し、実践により修得する。 ③常に「論理的思考能力」をもち、客観的な根拠をもとに系統立てて発言・議論することができる。 ④多様な価値観を尊重し、他者と協働して「チームワーク力」「課題探求力」、ビジネスの場で問題解決課題をみつけ解決策を提案することができる「問題解決力」。 ⑤ビジネス基礎力を実践により修得する。 ⑥自己のキャリアを具体的に構想できる「キャリアを構想する力」を修得する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回目	お礼状作成 (事前に筑女ネットでデータ提出、原紙)	予習：御礼状作成・送付		
第2回目	「評価票」フィードバック (個別面談)	予習：発表資料仕上げ		
第3回目	インターンシップ体験振り返り 自身の強み・課題を知る	予習：事前課題提出		
第4回目	「評価シート」フィードバック (個別指導)	予習：リクルート社「評価シート」作成 @提出		
第5回目	成果発表会 講義のまとめ	予習：インターンシップ体験・フィードバック指導の振り返り課題提出		
第6回目	8月下旬から9月下旬に10営業日 (80時間) 以上の就業体験 ①1日目 (8時間分)	研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。		
第7回目	8月下旬から9月下旬に10営業日 (80時間) 以上の就業体験 ②2日目 (8時間分)	研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。		
第8回目	8月下旬から9月下旬に10営業日 (80時間) 以上の就業体験 ③3日目 (8時間分)	研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。		
第9回目	8月下旬から9月下旬に10営業日 (80時間) 以上の就業体験 ④4日目 (8時間分)	研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。		
第10回目	8月下旬から9月下旬に10営業日 (80時間) 以上の就業体験 ⑤5日目 (8時間分)	研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。		
第11回目	8月下旬から9月下旬に10営業日 (80時間) 以上の就業体験 ⑥6日目 (8時間分)	研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。		
第12回目	8月下旬から9月下旬に10営業日 (80時間) 以上の就業体験 ⑦7日目 (8時間分)	研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。		
第13回目	8月下旬から9月下旬に10営業日 (80時間) 以上の就業体験 ⑧8日目 (8時間分)	研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。		
第14回目	8月下旬から9月下旬に10営業日 (80時間) 以上の就業体験 ⑨9日目 (8時間分)	研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。		
第15回目	8月下旬から9月下旬に10営業日 (80時間) 以上の就業体験 ⑩10日目 (8時間分)	研修・派遣先の指導に従うこと。「研修日誌」を毎日つけること。		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% 「振り返り課題」 (インターンシップ体験を通して、就業への意欲を醸成しているか)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% ①授業の積極的参加、②評価シート 講義終了時に提出 *次回の講義の始めに回答します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	(研修中) : ・遅刻・早退厳禁。交通機関の遅延の場合は、遅延証明に名前を書いて、研修先の指導担当者に提出すること。 ・やむを得ず欠勤する場合は、事前に電話で理由とともに研修先に連絡し、事前にメールで理由とともに連絡すること。 ・病欠で病院の証明がある場合は、研修先に提出すること。病院の証明書コピーを第一回講義時に提出すること。 ・筑女ネットで通知、出席管理、資料提出、フィードバック指導を行うため、常時アクセスすること			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	随時お知らせします			
オフィスワーク	水曜日の昼休み (メール等で、予約することが望ましい)	メールアドレス		

授業科目	インターンシップ支援講座【実習】		開講時期	前期
担当教員	崔 耿美		単位	1
授業の目的と概要	<p>本学の学生の大半は就職する。しかし、就職したからといってそれがゴールではない。女性であるからには、結婚・妊娠・出産などのライフイベントと仕事を絡めてキャリアを形成していくことを考える必要がある。本授業では、そのために必要な知識・技能を体得することを目的とする。そのために、インターンシップ経験を通じて知識と体験を合わせて自分の職業人生を考える。本授業の構成は、前期の授業+九州インターンシップ協議会主催の事前研修+インターンシップ経験+キャリアインターンシップ（後期科目）の受講で2単位である。授業の目的を効果的に構成するために、TBL(Team-Based Learning)を導入する。TBLを成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み→授業において真摯にチームで討議を行い→クラス全体で討議を行うとともに→教員からのメッセージを受け取り、気づきを内省するというプロセスが不可欠である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャリアを形成していくために必要な、知識・技能・態度について説明することができる。</li> <li>2. インターンシップの課題表示より、インターンシップで体得したいことを具体的に表現できる</li> <li>3. 職業選択に関する自らの思いを、第三者に伝えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」  (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は韓国の製造業・日本の経済団体での実務経験のある教員が担当しています。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業の概要説明（授業の全対象を理解するための模擬授業）0時間目 女だからチャンスはある	復習：シラバスの内容の吟味と履修の意思決定		
第2回	1時間目 就・妊・婚 - 三大「活」はつながっている	受講ノートの指示に沿った教科書「1時間目」事前学修・事後学修		
第3回	2時間目 今就活に何が起きているか？	受講ノートの指示に沿った教科書「2時間目」事前学修・事後学修		
第4回	インターンシップについてのガイダンス（進路支援課）	進路支援課の学内での役割を事前に調べて参加すること		
第5回	チームビルディング演習	継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること		
第6回	3時間目 女子学生の就活・常識のウン	受講ノートの指示に沿った教科書「3時間目」事前学修・事後学修		
第7回	4時間目 女子学生のための“納得就活”のコツ	受講ノートの指示に沿った教科書「4時間目」事前学修・事後学修		
第8回	5時間目 女子が働きやすいのはどんな職場？	受講ノートの指示に沿った教科書「5時間目」事前学修・事後学修		
第9回	6時間目 社会で役立つ雇用の常識・法律知識	受講ノートの指示に沿った教科書「6時間目」事前学修・事後学修		
第10回	7時間目 後悔しないための「結婚」とお仕事の基礎知識	受講ノートの指示に沿った教科書「7時間目」事前学修・事後学修		
第11回	8時間目 後悔しないための「妊娠」とお仕事の基礎知識	受講ノートの指示に沿った教科書「8時間目」事前学修・事後学修		
第12回	9時間目 女子が本当に幸せになるための働き方	受講ノートの指示に沿った教科書「9時間目」事前学修・事後学修		
第13回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）と質疑応答	受講ノートの提出/持論の整理とプレゼンテーションの準備/受講ノートの完成		
第14回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）と質疑応答	持論の整理とプレゼンテーションの準備		
第15回	インターンシップの課題の提示、授業のまとめ 授業ノートの返却	授業で提示したインターンシップの課題の達成方法を考案		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 受講ノート（最終ページで授業全体の振り返りを記述したもの）の提出 *フィードバックは授業ノートの返却の際に書面添付			
小テスト等	なし			
成果発表	20% オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	50% TBLへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の目的と概要で述べたように、本授業ではTBL(Team-Based Learning)を導入する。TBLを成立させる大前提は、個々の学生による自らとチームの仲間の学修への責任を持った授業外学修である。これを怠る学生は授業の場に入ることを拒否する。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。</li> <li>・九州インターンシップ推進協議会主催の事前研修会・インターンシップ参加には1万2千円程度の参加費が必要である</li> </ul>			
教科書	プリントを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	インドネシア語 I 【演習】	開講時期	前期
担当教員	石橋 ヘルミンガティ	単位	1
授業の目的と概要	この授業では、はじめてインドネシア語を学習する学生を対象にします。基礎的な文法と基本的な語彙を学び、あいさつやアルファベットの発音をはじめ、身の回りにある物や、代名詞、肯定文、否定文、疑問文の構造を理解し、会話練習を取り入れて、耳から学習もできるように工夫します。そのため基本文法や語彙をしっかり身につけて、初対面な人と簡単な日常会話を交わすことができることを目的とする。授業の最後に、自己紹介を発表できることを目標とする。		
到達目標	1. 初対面の人とあいさつをはじめ、簡単な自己紹介ができる 2. 身の回りの物を述べることができる 3. 短文を読み書きをはじめ、訳すことができる。 4. 数字を使って、年齢、値段、時刻を発表することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
1回目	インドネシアの基本事情を知ろう。 Power Point Teksを使用 インドネシアの面積、人口、言語などを知ること	資料を配布し、インドネシアについて、Pp t.の内容を理解し、まとめを書く。	
2回目	第1課 インドネシア語の発音、文字、アルファベット	第1課の練習問題 リスニング P.12-13	
3回目	第2課 指示代名詞 文法説明	第2課の単語 (FC) 第2課の練習問題 P.24 (宿題)	
4回目	課題 文型、例文、会話、CD P.28を読んで、聞く	第2課の練習問題提出	
5回目	第3課 人称代名詞と所有代名詞 文法説明 人称代名詞リスト、第3課単語リスト	第2課単語テスト、第3課練習問題 P40 (宿題)	
6回目	課題 文型、例文、会話、CD P.43を読んで、聞く	第3課 練習問題提出 第2課 復習	
7回目	第4課 数字を覚えよう	第3課単語テスト 自分の電話番号や年齢を聞いたり、言っ	
8回目	いろいろな助数詞 文型、例文、会話、CD P.58を読んで、聞く	第4課練習問題 (宿題) P.56 第2-3課の小テスト	
9回目	愛5課 日付 曜日の名、月の名、日付	月の名、曜日の名 第4課単語テスト、第4課練習問題提出	
10回目	時刻の表現 時刻が言える	時刻を読む 第4課の復習	
11回目	時刻の長さ、分数 文型、例文、会話、CD.74を読んで、聞く	自分の誕生日や友達誕生日をきくなど 第5課練習問題 (宿題)	
12回目	第6課 形容詞 形容詞と名詞の語順	形容詞のリスト 第5課の練習問題提出、第4-5課小テスト	
13回目	同等、比較表現	第6課の形容詞テスト	
14回目	最上級の表現、過度の表現	第6課 練習問題 (宿題) P.84 自己紹介文作成	
第15回	振り返りワーク 自己紹介発表	振り返るワーク P.90 第6課 練習問題提出	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	課題 (練習問題) 40% 第15回目の振り返りシート 10%		
小テスト等	なし		
成果発表	第15回目の発表 (自己紹介) 40%		
受講態度他	授業感想 10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 「授業回数の3分の1を超えて欠席した場合、単位が得られない」 2. 前回学習した単語など、復習すること		
教科書	インドネシア語レッスン 初級1 ホラス由美子 スリーエーネットワーク		
指定図書	やさしい初歩インドネシア語 舟田京子		
参考図書	バタオネインドネシア語講座初級 ドミニクス・バタオネ/近藤由美 めこん		
オフィスアワー	水曜日 13:00~16:30	メールアドレス	

授業科目	インドネシア語Ⅱ【演習】	開講時期	後期
担当教員	石橋 ヘルミンガティ	単位	1
授業の目的と概要	<p>この授業では、インドネシア語Iで取得した学生受講できます。  インドネシア語 I を取得していない学生も受講できますが、インドネシア語Iの文法や単語を独学ことを条件とする。</p> <p>インドネシア語 I で学習した文法や単語を活かして、より実用的な文章を学んでいきます。</p> <p>この授業がマスターすると、ネイティブの人の会話を理解できコミュニケーションを取るができることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>①日常的な会話を始め、相互に会話を成り立つことができる  ②文法に動詞や時制を加わり、それに対して理解しつづ述べるができる  ③辞書を使用しながら、短文や長文を読み書きができ、意味を調べた上で、発表できる  ④ネイティブの人の言葉を理解し、積極的に参加し、自分の意見を述べるができる</p> <p>インドネシア語技能検定試験D及びE級が習得できる</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。  &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	インドネシア語1で学習したことを復習する プリントを配布、今まで学習したことを発表する	自己紹介をする 復習のテストする	
第2回	第7課 いろいろな語根動詞 辞書に記載している動詞。日常的な動作	はじめて動詞を導入する。日常によくある動詞を知る (教科書P.94)	
第3回	動詞の時制、場所を表す前置詞	英語の文のように動詞の変化がなく、時制が大事	
第4回	リスニング、会話練習 CDを聞く	予習 (教科書P103-106)	
第5回	第8課 Ber-動詞 (自動詞) ほとんど自動詞	自動詞という動詞の種を覚えておく (教科書P113-115)	
第6回	Ber-動詞の応用 接頭辞Ber-をつけると、意味が変わる	Ber-の変化と意味を理解する	
第7回	リスニング、会話練習 CDを聞く	習った動詞を使用し、日常会話を練習する	
第8回	第9課 Me-動詞 (他動詞) の変化 意味の変化がありません	Me-動詞の意味と変化を理解する	
第9回	Me-動詞の応用 接頭辞Me-の応用	Me-動詞とBer-動詞の違いを区別する	
第10回	リスニング、会話練習 CDを聞く	練習問題を解く (教科書P. 138-139)	
第11回	第10課 いろいろな助動詞 助動詞を使い、文章を作る	動詞と助動詞を使用し、文を作る	
第12回	助動詞の応用 助動詞その2	動詞と助動詞を使用し、文を作る	
第13回	リスニング、会話練習	練習問題を解く (教科書P. 151-152)	
第14回	インドネシア語技能検定試験対策	過去問題を解く	
第15回	振り返りワーク	今まで習ったことを発表する。 日記を作成する。	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50%		
小テスト等	20%		
成果発表	10%		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. インドネシア語 I 取得したこと  2. 「授業回数3分の1を超えて欠席した場合、単位が得られない」  3. 課題、宿題をこなしてこること</p>		
教科書	インドネシア語レッスン 初級1	ホラス由美子	スリーエーネットワーク
指定図書	はじめようインドネシア語 しっかり文法 身につく表現	ホラス由美子	三修社
参考図書	パタオネインドネシア語講座初級	ドミニクス・パタオネ/近藤由美	めこん
オフィスアワー	水曜日 12:00-16:30	メールアドレス	

授業科目	ウエルネス・スポーツ I 【実技】		開講時期	前期
担当教員	栗木 明裕・泉原 嘉郎・大橋 充典		単位	1
授業の目的と概要	<p>本授業は各人が選択したスポーツの実習を通して、それぞれのスポーツの技術・ルール・マナーなどを学習しながら発育終期を迎えた学生の健康・体力向上を図る。また、体力のみならずスポーツを通して、社会の中で生きていく上でのライフスキルを養う。</p> <p>実習するスポーツは、バレーボール、バドミントン、卓球、テニスであり、その他にレクリエーション等も適宜加えられる。また、多種多様なトレーニング方法を準備運動等へ盛り込み、体力の向上に役立てる。</p>			
到達目標	<p>1チームワークを含めたスポーツの楽しさを体得する。  2スポーツを媒体にして仲間とのコミュニケーション能力をはじめとするライフスキルを養う。  3自らの体力レベルを把握し、自己評価することができる。  4スポーツなどの身体活動を積極的に生活の一部に取り入れることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」  (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>担当教員の中には理学療法士としての実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	オリエンテーション	現在の生活習慣を検証する。		
第 2回	大学生に必要なライフスキル・カラダを知る	自分に必要なライフスキルを理解する。適切な強度で運動を実践する		
第 3回	演習 (1) 自宅でできる軽運動	普段の生活に取り入れて実践する		
第 4回	演習 (2) ボディメイクエクササイズ	普段の生活に取り入れて実践する		
第 5回	演習 (3) ボディメイクエクササイズ	普段の生活に取り入れて実践する		
第 6回	演習 (4) ボディメイクエクササイズ (体幹を意識したエクササイズ)	普段の生活に取り入れて実践する		
第 7回	演習 (5) コーディネーショントレーニング (1)	普段の生活に取り入れて実践する		
第 8回	演習 (6) ピラティス (1)	普段の生活に取り入れて実践する		
第 9回	演習 (7) 運動プログラムの作成・実践 (1)	普段の生活に取り入れて実践する		
第10回	演習 (8) 運動プログラムの作成・実践 (2)	普段の生活に取り入れて実践する		
第11回	種演習 (9) ピラティス (2)	普段の生活に取り入れて実践する		
第12回	演習 (10) コーディネーショントレーニング (2)	普段の生活に取り入れて実践する		
第13回	演習 (11) 観るスポーツ (1)	普段の生活に取り入れて実践する		
第14回	演習 (12) 観るスポーツ (2)	普段の生活に取り入れて実践する		
第15回	まとめ	スポーツの役割、ウエルネススポーツの目的を再確認する		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	90%：授業毎の課題を提出することで評価する			
成果発表	なし			
受講態度他	10%：授業への参加状況を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>前期は感染症予防の観点から遠隔授業で対応する。  大学施設を利用して演習することができないため、受講生自身で教員の指示に従って自宅での演習に取り組むこと。  私生活に運動を取り入れ、健康的な生活を送ること。  資料は授業時間割に合わせて配信する。毎回の課題の提出期限は翌々日の23：59までとする。  質問は筑女ネットフォーラム、Office Teamsなどを利用して行う。</p>			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワー	栗木：水曜日10：50～12：20、非常勤教員は授業前後に対応する	メールアドレス		

授業科目	ウエルネス・スポーツⅡ【実技】		開講時期	後期
担当教員	宮平(喬)・栗木(明)・泉原(嘉)・山下(龍)・大橋(充)・城戸(親)		単位	1
授業の目的と概要	<p>本授業は各人が選択したスポーツの実習を通して、それぞれのスポーツの技術・ルール・マナーなどを学習しながら発育終期を迎えた学生の健康・体力向上を図る。また、体力のみならずスポーツを通して、社会の中で生きていく上でのライフスキルを養う。</p> <p>実習するスポーツは、ウエルネス・スポーツⅠと同じ。Ⅱでは前期にⅠを履修し、①Ⅰと異なった種目を選択するグループ、②Ⅰと同じ種目を継続選択するグループの2つに分かれる。①はⅠと同じ要領で学習を進めるが、②の場合はⅠよりもレベルの高い技術やルールを加え、更に集団技能やゲームの学習に力点を置きながら学習を深める。</p>			
到達目標	<p>1チームワークを含めたスポーツの楽しさを体得する。  2スポーツを媒体にして仲間とのコミュニケーション能力をはじめとするライフスキルを養う。  3自らの体力レベルを把握し、自己評価することができる。  4スポーツなどの身体活動を積極的に生活の一部に取り入れることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」  (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>担当教員の中には理学療法士としての実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション		健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する	
第2回	演習(1) 女性のためのコンディショニング		普段の生活に取り入れて実践する	
第3回	演習(2) コーディネーショントレーニング1		普段の生活に取り入れて実践する	
第4回	演習(3) 筑女体育の歴史を知る		普段の生活に取り入れて実践する	
第5回	演習(4) ながらエクササイズ		普段の生活に取り入れて実践する	
第6回	演習(5) 自宅エクササイズ～縄跳びの楽しみ方		普段の生活に取り入れて実践する	
第7回	演習(6) サーキットトレーニング		普段の生活に取り入れて実践する	
第8回	演習(7) コーディネーショントレーニング2		普段の生活に取り入れて実践する	
第9回	演習(8) スポーツ社会学(生涯スポーツについて考える)		普段の生活に取り入れて実践する	
第10回	演習(9) スポーツ社会学(エクストリームスポーツについて考える)		普段の生活に取り入れて実践する	
第11回	演習(10) ピラティス		普段の生活に取り入れて実践する	
第12回	演習(11) 運動の意識と感覚を養う		普段の生活に取り入れて実践する	
第13回	演習(12) 食事(間食など)について考える		普段の生活に取り入れて実践する	
第14回	演習(13) 生活(睡眠など)と運動について考える		普段の生活に取り入れて実践する	
第15回	まとめ		スポーツの役割、ウエルネススポーツの目的の再確認する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	100%：授業毎の課題を提出することで評価する			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>後期も前期同様に感染症予防の観点から遠隔授業(オンデマンド型)で対応する。  大学施設を利用して演習することができないため、受講生自身で教員の指示に従って自宅での演習に取り組むこと。  私生活に運動を取り入れ、健康的な生活を送ること。  資料は授業時間割に合わせて配信する。毎回の課題の提出期限は翌々日の23:59までとする。  質問はMicrosoft Teamsを利用して行う。</p>			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワーク	栗木：水曜日10:50~12:20、非常勤教員への連絡は栗木が取り次ぐので必要な場合は連絡のこと。	メールアドレス		

授業科目	ウエルネス・スポーツ論【講義】		開講時期	前期
担当教員	栗木 明裕		単位	2
授業の目的と概要	<p>「ウエルネス」とは、「健康」を積極的かつ総合的に捉えた健康観を指す。換言すると「どのようになれば毎日をそして将来をより楽しめるか?」という考え方である。本授業はスポーツをキーワードに身体構造や身体活動について学習するとどまらず、身の回りにあふれている健康や美容に関する情報を見極めるための知識と自分自身の健康観を養うことを目的としている。</p>			
到達目標	<p>1ウエルネスに対する知見を日常生活に生かせるようになる。  2身体活動・体力要素の特徴についての理解から、日常生活における運動の重要性を考えることができる。  3スポーツを運動の手段としてだけでなく、精神的、社会的なウエルネスに対して活用することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は理学療法士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業総論		WHO憲章の「健康」について調べる(予習)		
第2回 ウエルネスの概念		大学生としての快適なライフスタイルを考える(予習)		
第3回 健康と社会(1) 健康観の変遷		自分自身の健康観について考えをまとめる(予習)		
第4回 健康と社会(2) ライフスタイルの変遷		「生活習慣病」について調べる(予習)		
第5回 健康と生活(1) 身体のしくみ		内臓とその働きについて調べる(予習)		
第6回 健康と生活(2) 食と健康(ダイエット)		一日の摂取カロリーを計算する(予習)		
第7回 健康と生活(3) フードファディズム		身近なフードファディズムの例を調べる(予習)		
第8回 健康と生活(4) ストレスと健康		身のまわりのストレスについて調べる(予習)		
第9回 健康と生活(5) 睡眠と健康		一週間の睡眠時間を調べる(課題)		
第10回 スポーツと社会(1) スポーツ・運動の効果		身体活動の身体に対する効果について調べる(予習)		
第11回 スポーツと社会(2) スポーツ参加		スポーツイベントの魅力について考えをまとめる(予習)		
第12回 スポーツと社会(3) 観るスポーツ		メディアに取り上げられているスポーツとその効果について調べる(予習)		
第13回 女性と健康(1) 女性の身体特性		身体的性差について調べる(予習)		
第14回 女性と健康(2) 女性と体脂肪の関係		体脂肪の機能について調べる(予習)		
第15回 授業総括		自分自身の健康観について考えをまとめる(予習)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	55% レポート40%(授業中に1回), 調査課題15%(授業中に1回)			
小テスト等	45% 授業中に毎回課題を課す(15回)			
成果発表	なし			
受講態度他	提出課題の内容が基準に達していない場合(不備が多い場合等)は減点する場合がある			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>感染症対策のため遠隔授業にて対応する。  資料は授業時間割に合わせて配信する。毎回の課題の提出期限は翌々日の23:59までとする。  質問は筑女ネットフォーラム、Office Teamsなどを利用して行う。  単位取得としての授業参加も大切だが、ここで示した内容は自らの健康に関わってくるものであると捉えながら、授業にのぞんでもらいたい。</p>			
教科書	適宜資料を配布する			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	水曜日10:50~12:20(事前連絡要)	メールアドレス		



授業科目	ウエルネス・スポーツ論【講義】		開講時期	前期
担当教員	宮平 喬		単位	2
授業の目的と概要	現代は、何事にも便利さが追求され、人間の資本である健康に目を向けられない状態にある。この講義では、自らの健康のあり方、考え方を学習することを通じて、健康観の育成することを目的とする。加えて、人間が生活の中で培ってきたスポーツ文化の発生と定着を知ることにより、身体文化と健康との関連性を理解する。また、スポーツは元来、信仰を含めた生活と強い結びつきがあり、健康と無関係ではないことを認識する。			
到達目標	1ウエルネスに対する知見を日常生活に生かすことができる。 2身体活動・体力要素の特徴についての理解から、日常生活における運動の重要性が理解できる。 3スポーツを運動の手段としてだけでなく、精神的、社会的なウエルネスに対して活用することができる。 4スポーツの歴史や文化を理解し健康との関連を考えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 授業総論		高等学校の保健体育の教科書を見直す(復習)		
第2回 ウエルネスの概念		WHOの示す健康の概念について確認する(予習)		
第3回 健康と社会(1) 健康観の変遷(ヨーロッパを中心に)		医学の父、ヒポクラテスについて調べる(予習)		
第4回 健康と社会(2) 健康観の変遷(日本) 主に江戸時代から明治時代まで		日本における医学の発展の概要を調べる(予習)		
第5回 健康と社会(3) 健康観の変遷(日本) 主に昭和から平成にかけて		医学の発展に寄与した人物についてまとめておく(復習)		
第6回 健康と生活(1) 生活習慣と健康		日本人に多い死因について調べる(予習)		
第7回 健康と生活(2) ストレスと健康		セリエのストレス学説について調べる(予習)		
第8回 健康と生活(3) 体型と健康		自らのライフスタイルについて検証する(予習)		
第9回 スポーツと社会(1) よりよい身体活動を送るために。		幼少期、児童期の運動の発達について調べる(予習)		
第10回 スポーツと社会(2) 古代・中世のスポーツ文化		ヨーロッパにおける古代・中世の時代背景を調べる(予習)		
第11回 スポーツと社会(3) 近代・現代のスポーツ文化		ヨーロッパにおける近代・現代の時代背景を調べる(予習)		
第12回 スポーツと社会(4) スポーツと人権		アメリカの黒人解放運動とウーマンリブ運動を調べる(予習)		
第13回 女性と健康(1) 加齢に伴う身体の変化		更年期障害について調べる(予習)		
第14回 女性と健康(2) 子育てを踏まえた乳幼児の心身発達の理解		乳幼児の情緒、知的発達を調べる(予習)		
第15回 授業総括、授業評価		健康・スポーツに関する知見の整理(復習)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	100% 授業中に小テストを行う。全講義中5回実施する(20%×5)。 小テストは予告なしに実施する。			
成果発表	なし			
受講態度他	受講状況が悪い学生は減点の対象となり、1回につき、5%減点する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	単位取得としての授業参加も大切だが、ここで示した内容は、将来、自らの健康に関わってくるものだと捉えながら授業にのぞんでもらいたい。 本講義では健康について考えてもらうために、様々な角度から授業を展開するつもりである。学生が「前のめり」する授業を目指していきたい。			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	月曜日 12:20-13:10	メールアドレス		

授業科目	映画・映像論【講義】		開講時期	後期
担当教員	一木 順		単 位	2
授業の目的と概要	この「映画・映像論」は映像を理解するために必要な知識である「映像文法」を学ぶことを目的として授業を行う。映画は「視覚芸術」とあるといわれている。その言表は「映画は視覚を通して理解されるものである」という映画の基本的な約束を示している。すなわち、映画が語る物語はセリフ（音声情報）によってではなく、画面構成（視覚情報）によって伝えられるのである。映画とは何よりも観衆の視覚を支配するメディアであり、映画から私たちが得る感情—感動も笑いも悲しみも恐怖も—は、映画製作者たちの詐術によって与えられたものということができる。この講義では、こうした映画製作者の「詐術」を映画の意味生成に関わっている要素群、構図、ミザンセヌ、カメラワーク、編集などに焦点を当てながら考えていく。それを通して、それぞれが映画を見、そのメッセージを分析するための方法を確立してもらいたい。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「映画に関わる原初的な欲望」について説明できる</li> <li>2. 映像文法の基本となる「画面の構図」、「ミザンセヌ」、「カメラワーク」、「編集」について説明できる</li> <li>3. 基礎的な「映像文法」を利用して映像分析を行うことができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>現 (3) -②-3 現代社会で活躍するために求められる特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 授業の進め方についての説明		なし		
第2回 映画の誕生—映画とは何か①		筑女ネット上の「授業前課題①」を行うこと		
第3回 映画の誕生—映画とは何か②		20世紀初頭のアメリカ社会についての課題を行うこと		
第4回 ショットの誕生		課題映画『大列車強盗』を視聴し、指示された設問に答えること		
第5回 ショットの誕生		課題映画『国民の創生』を視聴し、指示された設問に答えること		
第6回 映画におけるシンメトリ		課題映画『海街ダイアリー』を視聴し、指示された設問に答えること		
第7回 開いた構図、閉じた構図		課題映画『昭和残侠伝』を視聴し、指定された設問に答えること		
第8回 映画における動線		課題映画『トロッコ』を視聴し、指定された課題を行うこと		
第9回 カメラワーク①：フォーカスの効果		課題映画『リング』を視聴し、指定された設問に答えること		
第10回 カメラワーク②：アングルとサイズ		課題映画『シンゴジラ』を視聴し、指定された設問に答えること		
第11回 音の効果		課題映画『13日の金曜日』を視聴し、指定された設問に答えること		
第12回 編集①		課題映画『国民の創生』を視聴し、指定された設問に答えること		
第13回 編集②		課題映画『戦艦ポチョムキン』を視聴し、指定された設問に答えること		
第14回 編集③		課題映画『ボヘミアンラブソディ』を視聴し、指定された設問に答えること		
第15回 まとめ		なし		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	80％ 授業内または筑女ネット上で課題レポートを指示する。原則的に翌週の講義提出すること（30％） 2,400字～2,800字のレポートを課す。任意の映画についてそれぞれが分析を行い、その分析に基づいて映画の主題について考えること。（50％）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 受講態度などを勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業内で指定された授業前課題を行ってから授業に参加すること。また授業内でのディスカッションに積極的に参加すること			
教科書	なし			
指定図書	村山匡一郎『映画史を学ぶクリティカルワーズ』 マイケル・ライアン『映画分析入門』、			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	映画学概論【講義】		開講時期	前期
担当教員	間瀬 玲子		単位	2
授業の目的と概要	映画はフランスで始まった視覚芸術である。リュミエール兄弟による映画の発明から、ルノワールらの巨匠たちによる往年の傑作、映画の革命ヌーヴェル・ヴァーグ、近年のフランス映画までの125年の歩みを学ぶことを目的とする。また日本映画がフランスでどのような評価をされているかを考察することを目的とする。そして学習成果をレポートにまとめることにより、情報収集力、論理的思考力を高めることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1895年から現在までのフランス映画の主要な出来事を説明することができる。</li> <li>フランスのヌーヴェル・ヴァーグが世界映画に果たした役割を説明することができる。</li> <li>フランスにおける日本映画の評価を説明することができる。</li> <li>映画を通して社会の多様な問題を考察する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目 : 比較文学			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	フランス映画の魅力とはなにか	予習 シラバスを読む		
第2回	映画の始まり (リュミエール兄弟)	予習 資料 (第2回)		
第3回	映画産業の成立 (パテとゴモモン)	予習 資料 (第3回)		
第4回	映画芸術の深化 (ガンス)	予習 資料 (第4回)		
第5回	フランス映画の黄金時代 (クレール)	予習 資料 (第5回)		
第6回	天才と巨人 (ヴィゴとルノワール)	予習 資料 (第6回)		
第7回	占領と解放 (カルネ)	予習 資料 (第7回)		
第8回	フランス映画の安定期 (ベッケル)	予習 資料 (第8回)		
第9回	個性的な作家たち (プレッソン、タチ)	予習 資料 (第9回)		
第10回	映画の革命 ヌーヴェル・ヴァーグ (ゴダール)	予習 資料 (第10回)		
第11回	ゴダール、リヴェット、レネ、ヴァルダ	予習 資料 (第11回)		
第12回	ドゥミ、小説と映画、多様性の時代	予習 資料 (第12回)		
第13回	ユスターシュなどの映画人	予習 資料 (第13回)		
第14回	BDの影響、フランスにおける日本映画の評価 (1) 小津安二郎、溝口健二、黒澤明	予習 資料 (第14回)		
第15回	フランスにおける日本映画の評価 (2) カンヌ映画祭	予習 資料 (第15回)		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	50% 期末レポート (授業の内容に即した複数の設問)			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	50% ミニ問題、筑女ネットでの質問等による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネットに授業資料をアップします。必ず見てください。			
教科書	なし。筑女ネットにアップします			
指定図書	山口路子『カトリーヌ・ドヌーヴの言葉』(だいわ文庫) 大和書房、フィリップ・ケンブ『世界シネマ大事典』三省堂			
参考図書	林瑞絵『フランス映画 どこへ行く』花伝社、佐藤久里子『映画で歩くパリ』スペースシャワーネットワーク			
オフィスアワー	月曜日4講時 (遠隔授業中はオフィスアワーはありません) メールで質問してください。	メールアドレス		

授業科目	英語Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	アガチ・西島・川村・船津・林(慎)・太田・Wood・麻生・石垣・大場・林(恵)・Stewart・行時		単 位	1
授業の目的と概要	この授業は、高校までに既習の英語の知識を確認するとともに、それらの知識を英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身につけることを目的としています。テキストを活用しながら基本的な文法事項を確認し、正確性を向上させるとともに、「聞く」「読む」「話す」「書く」、そして意見や気持ちを伝え合う活動などを通して、英語をコミュニケーション言語として活用する力を高めます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な文法事項や文法用語などを理解し、説明することができる。</li> <li>2. 自然な速さの英文を聞き取ったり、英文の内容を正しく理解したりすることができる。</li> <li>3. 積極的に英語を使って他者とコミュニケーションを取ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 <関連する授業科目>英語Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要の説明、診断テスト		Unit 1の予習	
第2回	Unit 1 Who is Pepper?		Unit 1の復習及びUnit 2の予習	
第3回	Unit 2 What's It Like to Be a Self-Sufficient Family?		Unit 2の復習、指示された課題	
第4回	Unit 1と2に関するアクティビティ等		指示された課題、Unit 3の予習	
第5回	Unit 3 Why Did Starbucks Become a Hit in Japan?		Unit 3の復習、Unit 4の予習	
第6回	Unit 4 How Do Americans Celebrate Halloween?		Unit 4の復習、指示された課題	
第7回	Unit 3と4に関するアクティビティ等		指示された課題、Unit 5の予習	
第8回	Unit 5 Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae?		Unit 5の復習、Unit 6の予習	
第9回	Unit 6 Are You Going Cashless?		Unit 6の復習、指示された課題	
第10回	Unit 5と6に関するアクティビティ等		指示された課題、Unit 7の予習	
第11回	Unit 7 Why Are Marathons 42.195 Kilometers Long?		Unit 7の復習、指示された課題	
第12回	Unit 7に関するアクティビティ等		指示された課題	
第13回	Unit 1～4の復習及び関連したアクティビティ等		指示された課題	
第14回	Unit 5～7の復習及び関連したアクティビティ等		指示された課題	
第15回	前期のまとめ		前期の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80% 毎回指定された方法での学習やアクティビティ等への取り組み、理解度をチェックする小テストなどを評価します。			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 出席(筑女ネットへのアクセスや提出物等で判断します)、授業への積極的な参加姿勢などを評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○授業に関する情報は、主として筑女ネットの「時間割」のセクションを通して行いますので、こまめにチェックしてください。 ○テキストやワークシートに取り組む課題や、オンラインで対面で行う課題など、担当教員によってさまざまな活動を行います。よく気をつけて指示に従ってください。 ○各ユニットを学習する日程やアクティビティ等の内容は、授業担当者によって変わることがあります。			
教科書	Robert Hickling・Msato Usukura 『Reading Link』 金星堂			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	担当教員が初回の授業で指示	メールアドレス		

授業科目	英語Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	麻生・大場・西島・石垣・川村・船津・Stewart・林(慎)・林(恵)・高森・太田・行時・山田		単位	1
授業の目的と概要	この授業は、「英語Ⅰ」に続いて、さらに文法事項など既習の英語の知識を確認するとともに、それらの知識を英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身につけることを目的としています。テキストを活用しながら基本的な文法事項を確認し、正確性を向上させるとともに、「聞く」「読む」「話す」「書く」、そして意見や気持ちを伝え合う活動などを通して、英語をコミュニケーション言語として活用する力を高めます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な文法事項や文法用語などを理解し、説明することができる。</li> <li>2. 自然な速さの英文を聞き取ったり、英文の内容を正しく理解したりすることができる。</li> <li>3. 積極的に英語を使って自己表現をしたり、他者とコミュニケーションを取ったりすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 <関連する授業科目>英語Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業の概要の説明、自己診断テスト	Unit 8の予習		
第2回	Unit 8 Would You Like to Be a Pioneer Like Coco Chanel?	Unit 8の復習、Unit 9の予習		
第3回	Unit 9 What Will Space Travel Be Like in the Future?	Unit 9の復習、指示された課題		
第4回	Unit 8と9に関するアクティビティ等	指示された課題、Unit 10の予習		
第5回	Unit 10 What Makes the Amazon One of the Most Amazing Places?	Unit 10の復習、Unit 11の予習		
第6回	Unit 11 Who Can Be a Youtuber?	Unit 11の復習、指示された課題		
第7回	Unit 10と11に関するアクティビティ等	指示された課題、Unit 12の予習		
第8回	Unit 12 What Have Plastics Done to Our Oceans?	Unit 12の復習、Unit 13の予習		
第9回	Unit 13 What Would We Do If We Didn't Have Dogs?	Unit 13の復習、指示された課題		
第10回	Unit 12と13に関するアクティビティ等	指示された課題、Unit 14の予習		
第11回	Unit 14 How Was Conveyor Belt Sushi Born?	Unit 14の復習、Unit 15の予習		
第12回	Unit 15 How about Jeans that Have a History?	Unit 15の復習、指示された課題		
第13回	Unit 14と15に関するアクティビティ等	指示された課題		
第14回	Unit 8～15に関するアクティビティ等	指示された課題		
第15回	後期のまとめ	後期の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	なし			
小テスト等	80% 毎回指定された方法での学習やアクティビティ等への取り組み、理解度をチェックする小テスト等で評価します。			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 筑女ネットへのアクセス状況や授業への積極的な参加姿勢などを評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に関する情報は、主として筑女ネットの授業ページ上で行いますので、こまめにチェックしてください。テキストやワークシートに取り組む課題やオンライン上で行う課題など、担当教員ごとに様々な活動を行います。各ユニットを学習する日程やアクティビティ等の内容は、授業担当者によって変わることがあります。			
教科書	Robert Hickling・Misato Usukura 『Reading Link』 金星堂			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	担当教員が初回の授業で指示	メールアドレス		

授業科目	英語Ⅲ【演習】	開講時期	前期
担当教員	林 恵子・大場 明日香	単位	1
授業の目的と概要	この授業は、英語によるコミュニケーションのための4技能をさらに向上させることを目的とします。「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」によって培われた能力（文法・構文・語彙などを包括する総合的・基礎的な英語能力）を土台として、少人数の演習形式により、文法事項を含む読解問題に取り組み、英文法の理解力や英文読解能力、英語を使った情報の受信（リスニング・リーディング）及び発信（スピーキング・ライティング）に関する実践的な能力の向上を目指します。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践的な文法知識を使いながら、英文の構造を説明できる。</li> <li>2. 実践的な文法知識を活用し、英文を聞き取って理解したり、正しく読解したりすることができる。</li> <li>3. 実践的な文法知識を活用し、伝える目的をもって英語で話したり、書いたりすることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	Introduction (授業の進め方の説明)	Unit 1 予習 (詳細は初回授業時)	
第2回	Unit 1 Jobs & Careers	Unit 1 復習・Unit 2 予習	
第3回	Unit 2 Entertainment	Unit 1-2 復習	
第4回	Use your English NOW ① (アクティビティ)	Unit 3 予習	
第5回	Unit 3 Work Schedule	Unit 3 復習・Unit 4 予習	
第6回	Unit 4 Health & Fitness	Unit 3-4 復習	
第7回	Use your English NOW ② (アクティビティ)	Unit 7 予習	
第8回	Unit 7 Recruitment	Unit 7 復習・Unit 8 予習	
第9回	Unit 8 Customer Needs	Unit 7-8 復習	
第10回	Use your English NOW ③ (アクティビティ)	Unit 9 予習	
第11回	Unit 9 Business Trip	Unit 9 復習・Unit 10 予習	
第12回	Unit 10 Advertising	Unit 10 復習・Unit 11 予習	
第13回	Unit 11 Factory Tour	Unit 9-11 復習	
第14回	Use your English NOW ④ (アクティビティ)	前期の復習	
第15回	Revision & Feedback (総括)	前期のまとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	なし		
小テスト等	40% ユニット毎のまとめ課題・小テスト 等		
成果発表	40% アクティビティ 等		
受講態度他	20% オンライン資料へのアクセス・学習		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	全回オンライン資料(筑女ネットを基本使用)を用いた遠隔授業で行ないます(詳細は初回に担当者から説明) 各Unitで出された授業課題を必ず提出してください		
教科書	Rober Hickling & Msato Usukura 『English Switch』 金星堂		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	初回授業時に通知	メールアドレス	

授業科目	英語Ⅳ【演習】		開講時期	後期
担当教員	大場 明日香・林 恵子		単位	1
授業の目的と概要	この授業は、英語の力を「つける」のではなく「活用する」ことを目的としています。「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」で学んだ知識（文法・構文・語彙など）を踏まえ、自分の知りたい情報を英語で探し、受け止め、さらに伝達する方法を考えます。様々なテーマのリスニングやリーディングを出発点に話の筋をしっかりと追うintensive listening/reading（精聴・精読）の方法を学び、一段深い理解を目指します。受身の作業と思われがちなリスニングやリーディングも、見方を少し変えれば後に残る情報量の違いに気づくでしょう。また、単語や表現の言い換えのバリエーションを広げ、テキスト以外の生の英語に挑める底力を鍛えます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報の流れを意識しながら正確に英文を読み取ることができる。</li> <li>2. 聞き／読み取った内容について自分なりの考えをもち、表現することができる。</li> <li>3. 相手に配慮し、わかりやすい英語で情報を伝えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入（授業の進め方・課題等の詳細説明）		U2 予習		
第2回 U2: Totoro Travels to Nepal		U2復習・U3予習		
第3回 U3: Sightseeing in London		U3復習		
第4回 Review & Activity (1)		U4予習		
第5回 U4: Sushi		U4復習・U5予習		
第6回 U5: Fashion Trends		U5復習		
第7回 Review & Activity (2)		U6予習		
第8回 U6: Shodo		U6復習・U9予習		
第9回 U9: Studying Abroad		U9復習		
第10回 Review & Activity (3)		U10予習		
第11回 U10: The Northern Lights		U10復習・U11 予習		
第12回 U11: The Sound of the Saxophone		U11復習		
第13回 Review & Activity (4)		後期の復習 (1)		
第14回 Revision & Feedback (1)		後期の復習 (2)		
第15回 Revision & Feedback (2)		全体のまとめ		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80% 毎回指定された方法での学習、アクティビティの取り組み、理解度を確認する小テスト 等			
成果発表	なし			
受講態度他	20% オンライン資料へのアクセス、提出物 等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各ユニットを学習する日程やアクティビティの内容は担当者によって変わることがあります。学習の進め方や成績評価方法等の詳細と併せて、各授業担当者の指示に従って下さい。			
教科書	Hiroyuki Iyoda, Mari Akatsuka, Chun Doi, Mayumi Kajiura, Marikit G. Manalang, Junko Muro著 『Amazing Visions of the Future - Aspects of Human Activity -』 (南雲堂) ISBN: 978-4-523-17888-0			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	初回授業時に通知	メールアドレス		

授業科目	英語音声学 I【講義】		開講時期	前期
担当教員	高井 岩生		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講では、音声学的な立場から英語の発音を説明する。特に、英語の母音と子音（分節音）の調音の仕組みとその聞き分けを取り上げる。</p> <p>英語の発音は、学習者の母語がどの言語であるのかということで、苦手にする分節音が異なる。そのため、日本人が英語を学ぶ場合には、日本語と英語との発音上の相違点を理解しておく必要がある。そこで、本講義では、一見遠回りに見えるが、日本語の発音の仕組みの解説を行い、その後英語の発音の仕組みを紹介するという手順を取る。具体的には、英語の分節音と、それに対応すると考えられる日本語の分節音との比較し、その後、「音素」という概念を導入し、英語話者と日本語話者との音声処理の仕方が異なるということを説明する。毎回の授業時には、出席の確認を兼ねて練習問題を解いて、その提出を義務とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 調音の仕組みを理解できる。</li> <li>2. 英語の子音・母音を、調音の違いから区別できる。</li> <li>3. 英語の子音・母音を音素と結び付けて理解できる。</li> <li>4. 英語の音素と日本語の音素の違いを理解し、それぞれの話者の音声処理の違いを理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 音声学とはどのような学問か?			なし	
第2回 音声産出の仕組み			2.1節, 2.2節, 2.3節, 2.4節	
第3回 IPAの導入			2.1節, 2.2節, 2.3節, 2.4節	
第4回 日本語の子音			2.7節	
第5回 日本語の母音			2.6節	
第6回 英語の子音			2.7節	
第7回 英語の母音			2.6節	
第8回 小テスト (日英の子音と母音)			2.1節から2.7節まで	
第9回 音素の導入			3.1節, 3.3節	
第10回 音素と異音			3.2節, 3.3節	
第11回目 日本語の音素体系			3.4.2節	
第12回 英語の音素体系			3.4.2節	
第13回 日英の母音の音素体系			3.4.1節	
第14回 小テスト (日英の音素体系)			3.1節から3.4節まで	
第15回 まとめ			全体の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	なし			
小テスト等	第13回～第15回目授業のそれぞれの回において、小テストを実施。小テスト1回20%×3回=60%			
成果発表	なし			
受講態度他	課題の提出回数及びその内容に基づき評価する 40%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出欠については、履修規程にある通り(全15回の授業の3分の2の出席を必要とする)です。事情があって休む場合は事前に連絡して下さい。			
教科書	窪園春夫著「音声学・音韻論」(日英語対照による英語学演習シリーズ1) その他授業中に配布する資料			
指定図書	-			
参考図書	『英語音声学活用辞典』(2004)、『英語音声学辞典』(2005)(共に日本英語音声学会編)			
オフィスアワー	木曜日昼休み、または授業の前後		メールアドレス	



授業科目	英語音声学Ⅱ【講義】	開講時期	後期
担当教員	高井 岩生	単位	2
授業の目的と概要	<p>本講では、英語のアクセント・リズム・イントネーション（超分節音）に関する知識や規則を学ぶ。具体的には、アクセント、リズム、イントネーションなどを決定する要因と規則についての解説をし、その後、それらの知識の運用に慣れるための練習を行う。</p> <p>英語の発音を実際に聞かなくとも、知識と規則から、理論的に超分節音のパターンを予測できるようになることを目指す。従って、このクラスでは、英語の自然な発音を身に付けるための発音練習などは行わない。あくまでも、英語の発音を自然現象として捉え、それを説明する理論を学ぶ場と考えてもらいたい。</p> <p>英語の発音を理論的に考えるということに慣れてもらうために、日本語の現象から解説を始め、次に英語の分析に入るという手順で行う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の可能な音節を理解できる。</li> <li>2. 英語のアクセントパターンを決定する要因と規則が理解できる。</li> <li>3. 英語のリズムパターンを決定する要因と規則が理解できる。</li> <li>4. 英語のイントネーションパターンを決定する要因と規則が理解できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 音節とモーラⅠ		4.2節, 4.3節, 4.4節	
第2回 音節とモーラⅡ		4.5節, 4.6節	
第3回 英語の音節構造Ⅰ		4.7節	
第4回 英語の音節構造Ⅱ		4.7節	
第5回 小テスト（音節とモーラ）		4.2節から4.7節まで	
第6回 日英の語アクセント		5.2節, 5.3節, 5.4節	
第7回 アクセント付与規則Ⅰ		5.5.1節, 5.5.2節, 5.5.3節	
第8回 アクセント付与規則Ⅱ		5.5.4節, 5.5.5節, 5.5.6節, 5.5.7節	
第9回 派生語、複合語のアクセント		5.6節, 5.7節	
第10回 小テスト（語アクセント）		5.2節から5.7節まで	
第11回 文アクセント		6.2節	
第12回 リズム		6.3節	
第13回 イントネーション		6.4節	
第14回 小テスト（文レベルの発音）		6.2節から6.4節まで	
第15回 まとめ		全体の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	期末試験の評価による（70％）		
レポート	なし		
小テスト等	適時実施（20％）		
成果発表	なし		
受講態度他	授業への参加態度、取り組み、出欠など（10％）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出欠については、履修規程にある通り（全15回の授業の3分の2の出席を必要とする）です。事情があって休む場合は事前に連絡して下さい。		
教科書	窪園春夫「音声学・音韻論」（日英対照による英語学演習シリーズ1） その他、授業時に配布する資料		
指定図書	-		
参考図書	『英語音声学活用辞典』（2004）、『英語音声学辞典』（2005）（共に日本英語音声学会編）		
オフィスアワー	木曜日昼休み、または授業の前後	メールアドレス	

授業科目	英語科教育法Ⅰ【教職】【演習】		開講時期	前期
担当教員	アダチ 徹子		単 位	4
授業の目的と概要	<p>中学校・高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領について知り、中・高校における英語の学習到達目標を理解します。また、第二言語習得と英語の教授法に関する基本的な知識を身につけ、小、中、高校の教科書研究を行い、小・中・高を通じた授業の流れや連携のあり方について理解します。後期の「英語科教育法ⅠⅠ」や「英語科教育演習Ⅰ・Ⅱ」で行う模擬授業及び4年次の教育実習に向けて、学習指導案の作成や教具、教材作成のための基礎的な知識と実践力を身につけます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語教育のこれまでの流れやこれからの方向性を説明することができる。</li> <li>2. 第二言語習得理論について理解し、得られた知見を有効に活用する授業を構想することができる。</li> <li>3. 小・中・高校の外国語（英語）の学習指導要領について知り、英語教育の10年間の流れと、小・中・高の連携について述べるができる。</li> <li>4. 英語の5つの領域（「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「読むこと」「書くこと」及びそれらを統合した指導について、具体的な指導法を挙げるができる。</li> <li>5. 教材・教具やICTの種類とその有効な利用法を挙げるができる。</li> <li>6. ALTとのチームティーチングを含め、効果的な指導法を挙げるができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。          &lt;関連する授業科目&gt;英語科教育法Ⅱ、英語教育演習Ⅰ・Ⅱ</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1～2回	オリエンテーション、これまでの英語教育の流れ	復習、第1章の予習		
第3～4回	「これまでの英語教育の流れ」「第1章 英語を学ぶこと、教えること」	復習、第2章の予習		
第5～6回	「第2章 英語の指導目標と内容」	復習、第22章と第3章の予習		
第7～8回	「第22章 小学校の英語教育」「3章 学習者の要因」	復習、第4章と第5章の予習		
第9～10回	「第4章 良い教師の条件」「第5章 言語習得の理論上の諸問題」	復習、第6章の予習		
第11～12回	「第5章 言語習得の理論上の諸問題」「第6章 指導法の変遷(1)」	復習、第7章の予習		
第13～14回	「第7章 指導法の変遷(2)」	復習、第8章と第9章の予習		
第15～16回	第8章 発音の指導、「第9章 文字と綴り字の指導」、	復習、第10章と第11章の予習		
第17～18回	「第10章 語彙の指導」、「第11章 文法の指導」	復習、第12章と第13章の予習		
第19～20回	「第12章 リスニングの指導」「第13章 スピーキングの指導」	復習、第14章と第15章の予習		
第21～22回	「第14章 リーディングの指導」、「第15章 ライティングの指導」	復習、第16章の予習		
第23～24回	「第16章 言語技能を統合した指導」	復習、資料の予習		
第25～26回	「第16章 言語技能を統合した指導」、異文化理解と国際理解教育	復習、第21章の予習		
第27～28回	「第21章 テストと評価」	復習		
第29～30回	授業のまとめ、今後の学習の見通しと確認	学習のふり返しをする		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% ワークシート、課題、振り返り課題、オンラインディスカッション等への取り組みと提出状況			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%：授業への積極的な参加と感想の投稿			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>○自分を高めることが、将来出会う生徒の未来をひらきます。積極的に学習してください。</p> <p>○教師としての自覚をもつよう心掛けてください。課題が多いですが、計画的に学習してください。</p> <p>○出席は、筑女ネットまたはTeamsのオンライン会議システムへのアクセスで判断します。</p>			
教科書	土屋澄男他(編著)『最新英語科教育法入門』研究社 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』『高等学校学習指導要領解説 外国語編』			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介します			
オフィスアワー	火曜日4時間目または予約により随時	メールアドレス		

授業科目	英語科教育法Ⅱ【教職】【演習】		開講時期	後期
担当教員	アダチ 徹子		単位	4
授業の目的と概要	「英語科教育法Ⅱ」では、「英語科教育法Ⅰ」で学んだ小・中学・高校の学習指導要領と、第二言語習得および英語教授法の理論をもとに、具体的な授業計画や教案の作成方法を学び、模擬授業を実施します。教科書研究を行い、教科書の内容を理解するとともに、教案の作成、教具の用い方、授業の進め方、授業中の生徒への対応方法、ALTとのチームティーチングの授業方法などを疑似体験することにより、4年生で行う教育実習に備えます。教科書分析や模擬授業の過程で、小・中・高の学習の流れと連携や、異文化理解の重要性などについても理解を深めます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中・高等学校の学習指導要領の理解に基づき、中高の教材テキストを分析することができる。</li> <li>2. 模擬授業に必要な教案・教具(ICTを含む)・補助教材を活用したり、作成したりすることができる。</li> <li>3. 第二言語習得理論、学習者論、国際理解教育、評価論などの学んだことを生かして模擬授業を行うことができる。</li> <li>4. 単独授業やALTなどとのチームティーチングなどの模擬授業を行い、形態に応じた教師としてのふるまいができる。</li> <li>5. 指導案の作成や改善をすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。          &lt;関連する授業科目&gt;英語科教育法Ⅰ、英語教育演習Ⅰ・Ⅱ</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1～2回	オリエンテーション、前期の学習内容の確認、新学習指導要領に対応した授業とは	復習、第18章の予習		
第3～4回	「第18章 授業案の作成と授業の進め方」	復習、第19章と第20章の予習		
第5～6回	「第19章 ICTを活用した授業」「第20章 教授・学習形態の多様性」	復習、第17章の予習		
第7～8回	「第17章 教材研究と授業の準備」	教材研究と模擬授業の準備		
第9～10回	近隣の中学校の英語の授業参観	授業参観のふり取り及びレポート作成		
第11～12回	模擬授業	模擬授業の準備や振り返り		
第13～14回	模擬授業	模擬授業の準備や振り返り		
第15～16回	模擬授業	模擬授業の準備や振り返り		
第17～18回	模擬授業	模擬授業の準備や振り返り		
第19～20回	模擬授業	模擬授業の準備や振り返り		
第21～22回	模擬授業	模擬授業の準備や振り返り		
第23～24回	模擬授業	模擬授業の準備や振り返り		
第25～26回	模擬授業	模擬授業の準備や振り返り		
第27～28回	模擬授業	模擬授業の準備や振り返り		
第29～30回	模擬授業のふり取り／観点別評価について	最終指導案作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%：模擬授業や参観授業のふり取り及び最終指導案			
小テスト等	なし			
成果発表	60%：模擬授業その他の課題			
受講態度他	10%：積極的な受講態度及び他の受講生の模擬授業への協力			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>○出席は原則として以下のように判断します。①オンデマンド型の授業の場合：授業時間内の筑女ネットへのアクセス ②リアルタイム型あるいは大学での対面授業の場合：授業開始時間(指定のある場合はその時間)の出席</p> <p>○教師としての自覚をもつよう心掛けてください。無断欠席や遅刻、居眠りなどは厳禁です。評点から減点します。</p> <p>○模擬授業の日程や内容は授業中にお知らせします。</p>			
教科書	土屋澄男(編著)『最新英語科教育法入門』研究社 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』『高等学校学習指導要領解説 外国語編』			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介します			
オフィスアワー	火曜日4時間目または予約により随時	メールアドレス		

授業科目	英語学概説【講義】	開講時期	前期
担当教員	松崎 徹	単 位	2
授業の目的と概要	<p>授業の目的：ことばを話す際のようなことが頭の中で起っているのかという視点から、英語と日本語のデータを比較しつつ、英語と日本語の共通する部分と文法や音声など違う部分を学びます。次に、英語を含む言語一般の歴史を概観し、言語が今の姿・形となったその経緯について学びます。また、学問としての英語学の各研究分野についても、簡単な解説を行い、理解に努めます。</p> <p>授業の概要：ことばとコミュニケーションということから説き起こし、ことばを作り出す頭の中の仕組みがどうなっているかという視点から、英語の成り立ちを日本語と比較しつつ、データをもとに解説します。また、英語の歴史的背景を踏まえ、イギリス英語とアメリカ英語、その他の英語の違いなどについて学びます。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体的に英語とはどのような言語か理解できる。</li> <li>2. 言語に関するさまざまな研究分野についての基本的な内容が理解できる。</li> <li>3. 英語の文法と音声について、日本語と比較しながらよりよく理解できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	ことばをめぐる状況	教科書 第1章 (p.1-9) を予習	
第 2回	ことばが伝えるもの	教科書 第2章 (p.10-18) を予習	
第 3回	ことばについての幻想	教科書 第3章 (p.19-26) を予習	
第 4回	ことばの勝者とことばの幸福	教科書 第4章 (p.27-34) を予習	
第 5回	ことばの多様性と方言	教科書 第5章 (p.35-42) を予習	
第 6回	ことばとアイデンティティ	教科書 第6章 (p.43-50) を予習	
第 7回	ことばの標準と規範	教科書 第7章 (p.51-58) を予習	
第 8回	変わりゆくことば	教科書 第8章 (p.59-66) を予習	
第 9回	ことばをさかのぼる	教科書 第9章 (p.67-74) を予習	
第10回	ことばと社会	教科書 第10章 (p.75-82) を予習	
第11回	ことばの獲得と喪失	教科書 第11章 (p.83-90) を予習	
第12回	ことばと文化	教科書 第12章 (p.91-98) を予習	
第13回	ことばを聞き、書く	教科書 第13章 (p.99-106) を予習	
第14回	ことばで伝える	教科書 第14章 (p.107-114) を予習	
第15回	ことばを科学する	教科書 第15章 (p.115-121) を予習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50% 学期末レポートを第15週目(8/3-8/7)に実施		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	50% 筑女ネット上での学修課題等をきちんとこなしているかどうかで評価します		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目は教職課程履修生の必修科目であり、それ以外にも将来教職関連への進路を考えている学生が受講することを強く勧めます(コミュニケーションに重点を置いた科目ではありませんので履修には十分注意してください)。		
教科書	加藤重広『学びのエクササイズ ことばの科学』ひつじ書房		
指定図書	なし		
参考図書	新英語学辞典(大塚・中島監、研究社)		
オフィスワー	筑女ネット上で適宜質問を受け付けます	メールアドレス	

授業科目	英語学史【講義】	開講時期	後期
担当教員	田口 純	単 位	2
授業の目的と概要	英語そのものの言語学的性質の発達を研究対象とするものとして「英語史」（本学の科目では「英語発達史」）がある。これに対して、「英語学史」とは英語を研究する学問（英語学）の歴史である。この授業では、英語学史とは何か、英語学史を研究するとはどういうことか、からはじまり、英語研究の諸相を歴史的に辿りながら、英語国民の文献学的・言語学的思想がどのように研究されてきたのかを再認識できるようになることを目的とする。英語学の領域が多岐にわたるように、英語学史の領域も多岐にわたるが、この授業ではとくに英文法の発達を中心に据えて、我々が学習している英文法がどのような変遷を経て、現在の姿になったのかを理解できるようになることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語学史について理解を深めることができるようになる。</li> <li>・英語学史と英語史との違いについて理解を深めることができるようになる。</li> <li>・英語学史の変遷について理解を深めることができるようになる。</li> <li>・英文法の成立について理解を深めることができるようになる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方など）	次回の予習 プリント pp. 1-17 をよく読んでくるこ	
第2回	英語学史とは：概観	次回の予習 プリント pp. 18-35 をよく読んでくるこ	
第3回	英語学史研究とは：国語学史との比較	次回の予習 プリント pp. 36-51 をよく読んでくるこ	
第4回	英語学史への道程：序論	次回の予習 プリント pp. 52-62 をよく読んでくるこ	
第5回	英語学史への道程：英語学史の領域	次回の予習 プリント pp. 63-73 をよく読んでくるこ	
第6回	英語学史年表：序論	次回の予習 プリント pp. 73-90 をよく読んでくるこ	
第7回	英語学史年表：歴史的展望	次回の予習 プリント pp. 91-123 をよく読んでくる	
第8回	英語学史の時代区分：概観	次回の予習 プリント pp. 1-24 をよく読んでくるこ	
第9回	中世期—8～15世紀	次回の予習 プリント pp. 25-48 をよく読んでくるこ	
第10回	文芸復興期—16～17世紀前半	次回の予習 プリント pp. 49-60 をよく読んでくるこ	
第11回	新古典主義初期—17世紀後半	次回の予習 プリント pp. 61-78 をよく読んでくるこ	
第12回	啓蒙思想期—18世紀前半	次回の予習 プリント pp. 79-103 をよく読んでくる	
第13回	啓蒙思想期—18世紀後半	次回の予習 プリント pp. 91-123 をよく読んでくる	
第14回	21世紀の英語学史：歴史社会言語学の観点から	総復習 (1) プリント pp. 1-123 をよく復習しておくこと。	
第15回	授業のまとめ、授業評価アンケート、試験について	総復習 (2) プリント pp. 1-123 をよく復習しておくこと。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	70% 定期試験		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30% 積極的な授業参加を評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は必要以外の私語をすることのないよう、気をつけましょう。 プリントや教科書をよく読み、自分で工夫してノートを取るようになりましょう。 図書館やインターネットを利用して、検索ができるようになりましょう。		
教科書	プリントを配布します。		
指定図書	林哲郎著『英語学史研究への道』開文社出版 林哲郎・安藤貞雄著『英語学の歴史—英語学入門講座・第3巻』英潮社新社		
参考図書	ヘルムート・グノイス著大泉昭夫訳『英語学史を学ぶ人のために』世界思想社 渡部昇一著『英文法を知ってますか』文藝春秋		
オフィスアワー	集中講義中の授業の前後、またはメールで相談	メールアドレス	

授業科目	英語教育演習Ⅰ【演習】		開講時期	後期
担当教員	アダチ 徹子		単位	2
授業の目的と概要	この授業では、4年次の教育実習および教員採用試験に向けて、中学校・高等学校の外国語科に関する知識を高め、基本的な授業実践力を身につけることを目指します。特に、教科書分析と模擬授業を通して、中学校高等学校で指導する内容、言語材料、言語活動等について理解を深め、新学習指導要領で求められる授業を行うことができる力の基礎を養います。			
到達目標	①中学校・高等学校外国語科の学習指導要領の概要を知り、説明することができる。 ②教科書における言語材料の扱いを知り、適切な言語活動を設定した授業が構想できる。 ③授業の基本的な流れに関する理解に基づき、英語で授業ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英(3)-①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 英(3)-②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 ＜関連する授業科目＞英語科教育法Ⅰ・Ⅱ、英語科教育演習Ⅱ			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		授業予定や実習などの予定について確認する		
第2回 学習指導要領		学習指導要領の内容を確認する		
第3回 授業の計画と指導案作成		短期・長期の指導計画について確認する		
第4回 指導案の作成(教材分析をして「教材観」を考える)		教材分析をして、「教材観」を作成する		
第5回 模擬授業の準備(指導案の検討)		教材研究を行い、模擬授業の準備をする		
第6回 模擬授業Step 1: 文法導入の観察		モデル授業を参考に、文法事項の導入を考える		
第7回 模擬授業 Step 1: 準備		模擬授業の準備を行う		
第8回 模擬授業 Step 1: 担当者による模擬授業		模擬授業を繰り返す		
第9回 模擬授業 Step 1: 担当者による模擬授業		模擬授業を繰り返す		
第10回 模擬授業 Step 2: 担当者による模擬授業		模擬授業を繰り返す		
第11回 模擬授業 Step 2: 担当者による模擬授業		模擬授業を繰り返す		
第12回 模擬授業 Step 3: 担当者による模擬授業		模擬授業を繰り返す		
第13回 模擬授業 Step 3: 担当者による模擬授業		模擬授業を繰り返す		
第14回 模擬授業 Step 3: 担当者による模擬授業		模擬授業を繰り返す		
第15回 模擬授業 Step 4: 担当者による模擬授業		模擬授業を繰り返す		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	35% 指示された課題や学習、模擬授業の振り返り、最終レポート等			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 模擬授業等の実践			
受講態度他	15% 積極的な授業参加及び模擬授業時の生徒としての貢献			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○出席は原則として以下のように判断します。①オンデマンド型の授業の場合: 授業時間内の筑女ネットへのアクセス ②リアルタイム型あるいは大学での対面授業の場合: 授業開始時間(指定のある場合はその時間)での出席 ○教師としての自覚をもつよう心掛けてください。無断欠席や遅刻、居眠りなどは厳禁です。評点から減点します。 ○模擬授業の手順や方法は、授業中に指示します。			
教科書	なし 資料を配布します			
指定図書	教育実習を行う校種の学習指導要領。できれば小中高とそろえておくとよいでしょう。			
参考図書	授業中に適宜紹介します			
オフィスアワー	火曜4時間目 または予約により随時	メールアドレス		

授業科目	英語教育演習Ⅱ【演習】		開講時期	前期
担当教員	アダチ 徹子		単位	2
授業の目的と概要	この授業では、3年次の「英語教育演習Ⅰ」に引き続き、教育実習及び教員採用試験受験に備えて、英語の教員に必要な資質や指導技術を向上させることを目指します。特に次の3つに重点を置きます。①50分の授業を構想し、実施することができる。②生徒に身につけさせたい力を育てるための適切な言語活動を構想または選択することができる。③授業に必要な教室英語を身につけ、授業の大部分を英語で行うことができる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習を見据え、50分の模擬授業をある程度自信を持って行える。</li> <li>2. 中学・高校の英語の学習指導要領を理解して、模擬授業に活かせる。</li> <li>3. 模擬授業の大部分を英語で行うことができ、生徒にも英語を使うアクティビティ等を行わせることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英(3)-①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 英(3)-②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 <関連する授業科目>英語科教育法Ⅰ・Ⅱ、英語教育演習Ⅰ			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション／これからの英語教育(高校教育からの示唆)	動画を視聴し、課題に取り組む		
第2回	これからの英語教育(小学校教育からの示唆)	動画を視聴し、課題に取り組む		
第3回	学習指導要領の確認	課題に取り組む		
第4回	指導案の研究	動画を視聴し、指導案を復元する		
第5回	指導案の研究及び計画	復元した指導案を再検討する		
第6回	教材の作成	ICT教材を作成する		
第7回	教材の作成(2)	作成したICT教材の活用について考える		
第8回	ICT活用の授業／模擬授業の準備	資料を閲覧し、ICT教材の活用について知る／模擬授業を計画する		
第9回	模擬授業の準備(教材研究)	模擬授業の準備をする		
第10回	模擬授業の準備(教室英語の検討)	模擬授業の準備をする		
第11回	模擬授業の準備(指導案の作成)	模擬授業の準備をする		
第12回	模擬授業(1) 2人が実施	模擬授業のふり返りとレポート作成		
第13回	模擬授業(2) 2人が実施	模擬授業のふり返りとレポート作成		
第14回	模擬授業(3) 2人が実施	模擬授業のふり返りとレポート作成		
第15回	模擬授業(4) 2人が実施	模擬授業のふり返りとレポート作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 模擬授業の指導案作成及び最終指導案			
小テスト等	なし			
成果発表	60% 模擬授業や課題への取り組み具合と成果			
受講態度他	10% 筑女ネットへのアクセス、授業への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○教師としての自覚をもつよう心掛け、自己研鑽に励んでください。 ○模擬授業はできるだけ実習校での単元に合わせます。実習校からの指示などがあったら連絡してください。			
教科書	プリント等を配布します。			
指定図書	教育実習を行う校種の学習指導要領。できれば小中高とそろえておくといでしょう。			
参考図書	実習で使用する教科書があるとよいでしょう。事前に実習校に聞いておいてください。			
オフィスワー	火曜4時間目 または予約により随時	メールアドレス		

授業科目	英語圏女性作家研究【講義】	開講時期	後期
担当教員	大城 房美	単位	2
授業の目的と概要	<p>「女性」の自己表現の歴史における「主体性」というテーマの重要性を理解する。19世紀から現代まで、女性の「主体性」の問題を扱ってきたアメリカ女性作家たちと作品、それぞれの問題意識とアプローチの方法を概観する。</p> <p>発表の準備          &lt;レジュメの準備&gt;          2種類の発表を行う。          ・各講義のテーマとなる発表          ・Small presentations (10分程度) 英語圏女性作家・作品紹介</p>		
到達目標	<p>1. 「女性」と「主体性」のつながりを理解する。          2. 代表的な英語圏女性作家や作品に関する知識を深める。          3. 「女性」と「主体性」表現というテーマで、自分自身の視点から問題提起ができるようになる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」          英(3)-②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	はじめに：女性と主体性について	講義の際に指示します。	
第2回	アメリカ19世紀の女性と教育について 発表・ディスカッション	予習・復習(『行動』第1章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第3回	Margaret Fuller, Woman in the Nineteenth Century 女性の領域への挑戦 発表・ディスカッション	予習・復習(『行動』第1章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第4回	Louisa May Alcott, Little Women 近代家族における少女の役割 発表・ディスカッション	予習・復習(『少女小説』第1章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第5回	Frances Hodgson Burnett, A Little Princess 花と物語と少女 発表・ディスカッション	予習・復習(『少女小説』第3章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第6回	Kate Chopin, The Awakening 女性の自立とは何か 発表・ディスカッション	予習・復習(『行動』第3章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第7回	Lucy Maud Montgomery, Anne of Green Gables 読むことと生きること 発表・ディスカッション	予習・復習(『少女小説』第4章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第8回	Jean Webster, Daddy-Long-Legs リアリズムと少女 発表・ディスカッション	予習・復習(『少女小説』第5章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第9回	Betty Friedan, The Feminine Mystique 第二波フェミニズム 発表・ディスカッション	予習・復習(『行動』第4章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第10回	Kate Millett, Sexual Politics 男流文学を批判する 発表・ディスカッション	予習・復習(『行動』第5章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第11回	Wakako YamauchiとHisae Yamamoto 日系アメリカ人二世の文学 発表・ディスカッション	予習・復習(『行動』第6章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第12回	Alice Walker, The Color Purple 黒人女性作家 発表・ディスカッション	予習・復習(『行動』第7章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第13回	Alison Bechdel, Fun Home LGBTとアイデンティティの問題 発表・ディスカッション	予習・復習(She Drawsなど資料は講義で配布)。担当者はハンドアウト作成。	
第14回	film showing (女性と主体性に関する映画を鑑賞します)	講義の際に指示します。	
第15回	まとめ	講義の際に指示します。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% レポート 講義の1/3を超える欠席をした場合は受験資格無し		
小テスト等	なし		
成果発表	受講態度に含む		
受講態度他	40% 講義での活動(受講状況・発表・宿題・課題など)を含む		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱い(退出)。          *各発表は、テキストをよく読んで、自分の言葉でまとめる。          *発表のレジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価しない。          *作家や作品についての発表を担当する際、参考資料は複数あげること(例えば、Wiki pediaのみに頼った発表や報告は不可)。</p>		
教科書	『行動するフェミニズム アメリカの女性作家と作品』 『少女小説から世界が見える』『She Draws Comics』『終わらないフェミニズム』などからコピーを配布、あるいは講義時に指		
指定図書	The Norton Anthology of Literature by Women: THE TRADITIONS IN ENGLISH, Third Edition (Norton, 2007)、『終わらないフェミニズム』『アメリカ文学に見る女性改革者たち』		
参考図書	The Cambridge Guide to Women's Writing in English, 『反知性の帝国』、『日系アメリカ人の歴史社会学』、『ハーストン、ウォーカー、モリスン』、『フェミニズム小説論』, Graphic Women, FUN HOME, 『アメリカ女子高等教育史』		
オフィスアワー	火曜日午後(予約を入れてください)	メールアドレス	



授業科目	英語圏児童文学研究【講義】		開講時期	後期
担当教員	宮原 牧子		単位	2
授業の目的と概要	<p>本年度は主に英国の児童文学について学びます。          文学は歴史的背景無しに生まれるものではありません。          19世紀以降、「純粋に子どものために書かれた」物語がどのように誕生したのか、またそれらがどのように発展していったのか、毎回、作品の一部を英語で読み、学んでいきます。          英語で書かれた文章を正確に読むことはもちろん、ひとつひとつの作品に込められたメッセージを読み取り、英国の児童文学の歴史を体系的に理解しましょう。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語で書かれた文章を正確に読むことができる</li> <li>・英国の児童文学についての知識を深めることができる</li> <li>・個々の文学作品と英国の歴史や文化との関連を理解できる</li> <li>・文学作品に触れ、何を感じ、何を考えるか、グループで話し合い、その内容を発信することができる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目：「イギリス文学史」、「英語文学研究」</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション —児童文学の誕生—	次回の予習（『不思議の国のアリス』のプリントを読んでくること）		
第2回	児童文学の新しい流れ1 —L. キャロル 『不思議の国のアリス』—	『水の子』のプリントを読んでくること		
第3回	児童文学の新しい流れ2 —C. キングズリー 『水の子』—	『北風のうしろの国』のプリントを読んでくること		
第4回	児童文学の新しい流れ3 —G. マクドナルド 『北風のうしろの国』	『宝島』のプリントを読んでくること		
第5回	R. L. スティーブンソン 『宝島』とR. キプリング 『ジャングル・ブック』	『ピーター・ラビット』のプリントを読んでくること		
第6回	B. ボター 『ピーター・ラビット』	『ピーター・パン』のプリントを読んでくること		
第7回	J. バリー 『ケンジントン公園のピーター・パン』	『クマのプーさん』のプリントを読んでくること		
第8回	A. A. ミルン 『クマのプーさん』	『チョコレート工場の秘密』のプリントを読んでくること		
第9回	R. ダール 『チョコレート工場の秘密』	『魔法使いハウル』のプリントを読んでくること		
第10回	D. W. ジョーンズ 『魔法使いハウルと火の悪魔』	『ハリー・ポッター』のプリントを読んでくること		
第11回	J. K. ローリング 『ハリー・ポッターと賢者の石』	プレゼンに必要な資料を準備すること		
第12回	チーム別プレゼン準備	プレゼンの準備		
第13回	プレゼン（グループA）	プレゼン準備		
第14回	プレゼン（グループB）	プレゼン準備		
第15回	プレゼン（グループC）	プレゼンの報告書を作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 毎回講義で読んだ作品について、筑女ネットのコース内のアンケートに感想等を入力します。また、プレゼン終了後、プレゼンの内容をまとめた報告書を提出します。詳細については初回の授業でご説明します。			
小テスト等	なし			
成果発表	40% プレゼン			
受講態度他	10% 毎回のコメントやフォーラムへの参加度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	授業中ご紹介します。			
オフィスアワー	水曜 4 限目（この時間帯以外を希望する場合はメールでご相談ください）	メールアドレス		

授業科目	英語コミュニケーション入門【講義】		開講時期	前期
担当教員	C. Provenzano		単位	2
授業の目的と概要	This course aims to help students activate their English skills, with a particular focus on speaking and listening. Students will take part in communicative activities to help them build skills and confidence to use English for communication about familiar topics. These skills will support them as they work to build on the knowledge they bring into this foundation class.			
到達目標	The aim of this course is to activate students' oral and aural communication skills, to build communicative competence and confidence, and to help them get used to an interactive approach to English language learning.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Introduction to course; Activity - independent learning	Buy textbook, read introduction, examine vocabulary notebook		
第2回	Unit 0	Vocabulary notebook and listening homework		
第3回	Unit 1	Vocabulary notebook and listening homework		
第4回	Unit 2	Vocabulary notebook and listening homework		
第5回	Unit 3	Vocabulary notebook and listening homework; Prepare for Quiz 1		
第6回	Quiz 1 (Units 0-3); Unit 4	Vocabulary notebook and listening homework		
第7回	Review and consolidation activities (Units 0-4)	Review language from units 0-4		
第8回	Unit 5	Vocabulary notebook and listening homework		
第9回	Unit 6	Vocabulary notebook and listening homework		
第10回	Unit 7	Vocabulary notebook and listening homework; Prepare for Quiz 2		
第11回	Quiz 2 (Units 4-7); Unit 8	Vocabulary notebook and listening homework		
第12回	Unit 9	Vocabulary notebook and listening homework		
第13回	Review and consolidation activities (Units 5-9)	Review language from units 5-9		
第14回	Test preparation and review activities	Review language and skills from this term		
第15回	Final in-class test	Review language and skills from this term		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% For all reports and other homework assignments			
小テスト等	20%			
成果発表	なし			
受講態度他	30% Class participation			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	This is a discussion-based class; therefore, pre-class preparation, attendance and participation are very important.			
教科書	Communication Spotlight (High Beginner) SPLIT VERSION B; by Alastair Graham-Marr; Publisher: ABAX; ISBN 978-1-896942-24-7			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	To be announced	メールアドレス		

授業科目	英語で読む現代アジア【講義】	開講時期	後期
担当教員	妻 海善	単位	2
授業の目的と概要	<p>アジア諸国の政治・経済・社会・文化に関する最新のニュースを英語で触れることによって、英語の読解力を養いながら、アジア諸国への理解力を高めるのが目的である。</p> <p>①日本とアジア諸地域の最新のニュースを読み、内容を解釈するとともに、英語の用語を説明する。  ②用語の確認→..内容の解釈 → 内容をまとめる→ テストの順に進む。  ③日本やアジアにおける毎年の最新論点を扱うので、シラバスの内容は参考にしてください。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最近の日本やアジア諸国の政治・経済・社会の事情を英語文献で楽しむことができる。</li> <li>2. アジア諸国への理解を深め、視野を広げることができる。</li> <li>3. 時事英語を日本語で確認することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	授業概要、ノートのまとめ方説明、教材の説明 Korean boy band BTS	Quiz問題を解いて提出	
第2回	Japan lowers age of adulthood to 18	Quiz問題を解いて提出	
第3回	Bangkok street-food	Quiz問題を解いて提出	
第4回	Hongkong' s poor live	Quiz問題を解いて提出	
第5回	Historical background of the Japan-Korea trade war	日韓貿易摩擦の背景を調べる	
第6回	History and background of Japanese consumption tax	日本の消費税の歴史を調べる	
第7回	king of the Korean Joseon Dynasty (King Jeongjo)	朝鮮王朝の歴史をまとめる	
第8回	Malaysians government debt	Quiz問題を解いて提出	
第9回	① Singapore-Kuala Lumpur ②Singapore & song	Quiz問題を解いて提出	
第10回	New Pakistan prime minister	Quiz問題を解いて提出	
第11回	Mdern Chinese history (since the Republic of China)	中国の近代史を英語でまとめる	
第12回	Puyi as the Xuantong Emperor in China	課題：辛亥革命以後の中国の歴史を英語でまとめる	
第13回	Why the demonstration continues in Hong Kong?	香港デモの背景を調べる	
第14回	(時間割外授業予定、日時の詳細は学期初めに知らせます) アジア諸国の英語教育ー留学生との交流	ディスカッション準備をする	
第15回	Sing an english song ・ まとめ、授業評価、出席&レポート確認	まとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	10%		
小テスト等	毎週のテスト90%		
成果発表	0%		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>※毎回授業で使う教材、お知らせ等は「筑女ネット」を活用します。</p> <p>※シラバスには去年の授業内容が書かれております。最新のニュースを扱うため、9月初に後期授業の更新版を筑女ネットにアップします。</p> <p>① 毎回テストがあります(欠席者は、課題をその週の水曜日午前中まで提出してください。締切日後は5割減にします、再試と追試なし!)</p>		
教科書	プリントは毎回の授業時に配布する		
指定図書	特になし		
参考図書	特になし。		
オフィスワー	事前に訪問日時を相談してください	メールアドレス	

授業科目	英語発達史【講義】	開講時期	前期
担当教員	松崎 徹	単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、英語の歴史を学ぶことによって、現代英語に見られる興味深い言語現象に対して納得がいく説明ができるようになることを目的とします。具体的には、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生（5世紀）から中世（15世紀）に至るまでの歴史を概観していきます。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる（1）語尾変化の少なさ（2）語彙の豊富さ、の2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを具体例を通して学んでいきます。その過程で、英語の発達の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることも同時に学んでいきます。本講座を受講することで、現代英語に見られる興味深い現象や謎の多くに納得のいく答えが見いだせるようになり、英語の歴史を学ぶ真の目的とは現代英語をより深く理解ができるようになることだと実感できるでしょう。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の起源について具体的に説明ができる。</li> <li>2. 英語がどのようにして滅亡の危機に陥り、それをどうやって切り抜けることができたかを説明できる。</li> <li>3. 他のヨーロッパの言語の語尾変化と比較して英語の語尾変化がなぜ簡略化しているかを説明できる。</li> <li>4. 他のヨーロッパの言語の語彙と比較して英語の語彙がなぜ格段に豊富なのかを説明できる。</li> <li>5. 将来の英語の姿・形を予測できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	講義内容の説明および導入問題の解答と解説	導入問題の復習	
第 2回	はしがき & はじめに	予習 pp. i-iv; pp. 1-2	
第 3回	英語史の概観（1）	第2回授業内容の復習； 予習 pp. 3-4	
第 4回	英語史の概観（2）	第3回授業内容の復習； 予習 pp. 5-9	
第 5回	印欧祖語（1）	第4回授業内容の復習； 予習 p. 12	
第 6回	印欧祖語（2）	第5回授業内容の復習； 予習 pp. 12-13	
第 7回	印欧祖語（3）	第6回授業内容の復習； 予習 pp. 13-14	
第 8回	古英語の文献・特殊文字（1）	第7回授業内容の復習； 予習 pp. 20-21	
第 9回	古英語の文献・特殊文字（2）	第8回授業内容の復習； 予習 pp. 22-25	
第10回	海賊と英語（1）	第9回授業内容の復習； 予習 pp. 51-52	
第11回	海賊と英語（2）	第10回授業内容の復習； 予習 pp. 53-56	
第12回	海賊と英語（3）	第11回授業内容の復習； 予習 pp. 53-56	
第13回	ノルマン人の征服と英語（1）	第12回授業内容の復習； 予習 p. 69	
第14回	ノルマン人の征服と英語（2）	第13回授業内容の復習； 予習 pp. 70-71	
第15回	ノルマン人の征服と英語（3）	第14回授業内容の復習； 予習 pp. 71-74	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50% 学期末レポート（レポートのテーマは第14週目（7/28）に発表します）		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	50% 学修の取り組み（授業への参加、取り組みの姿勢、等を評価します）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネット上に適宜アップされる指示に従い、各自が学修課題に取り組み、必要に応じて学修成果の提出を筑女ネットを通じて提出すること。		
教科書	児馬修 『ファンダメンタル英語史』 ひつじ書房		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	随時筑女ネット上で適宜質問などを受け付けます。	メールアドレス	

授業科目	英語文学A I【講義】		開講時期	前期
担当教員	大城 房美		単位	2
授業の目的と概要	<p>作品を批評分析するための基礎的能力を養うことを目的とする。</p> <p>本講義は、世界中で広く読まれているThe Wonderful Wizard of Oz(1900) (『オズの不思議な魔法使い』)を読み、英語表現の特徴をつかむと共に、文学用語、作家、作品、などの基礎知識を確認しながら、テーマを読み取り、考察する力を養う。発表の準備&lt;レジュメの準備&gt;と発表を行う。)各講義のテーマとなる発表の準備について：各章の発表担当者がハンドアウトを準備。以下の1,2,3,4,5をまとめハンドアウトを作成し、講義が始まる前に筑女ネットのハンドアウト投稿欄に投稿すること。1. あらすじ(キーワードは英語も併記) 2. 登場人物(英語を併記)の特徴や性格・役割 3. ポイント(4つ以上を英語(+日本語)で抜き出し[ページと行]、それぞれなぜ重要か、どのように面白いかなど説明) 4. 全体のキーワード2つとその理由 5. みんなに考えて欲しいこととその理由(ディスカッショントピック)</p>			
到達目標	<p>1. 作品を分析・批評するための基礎力を習得する。</p> <p>2. 文学用語、作家、作品など文学に関する基礎知識を習得する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英(3)-②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Introduction	講義の進行について	講義の際に指示します。		
第2回 What Is Literature		講義の際に指示します。		
第3回 INTRODUCTION by Frank Baum		.講義で扱うテキストについて予習・復習。		
第4回 作品鑑賞・分析 発表 1. The Cyclone pp.1-6		講義で扱うテキストについて予習・復習。発表者はハンドアウト準備。		
第5回 作品鑑賞・分析 発表 2. The Council with the Munchkins pp.7-16		講義で扱うテキストについて予習・復習。発表者はハンドアウト準備。		
第6回 作品鑑賞・分析 発表 3. How Dorothy Saved the Scarecrow pp.17-25		講義で扱うテキストについて予習・復習。発表者はハンドアウト準備。		
第7回 作品鑑賞・分析 発表 4. The Road Through the Forest pp.26-32		講義で扱うテキストについて予習・復習。発表者はハンドアウト準備。		
第8回 作品鑑賞・分析 発表 5. The Rescue of the Tin Woodman pp.33-41		講義で扱うテキストについて予習・復習。発表者はハンドアウト準備。		
第9回 作品鑑賞・分析 発表 6. The Cowardly Lion pp.42-49		講義で扱うテキストについて予習・復習。発表者はハンドアウト準備。		
第10回 作品鑑賞・分析 発表 7. The Journey to the Great Oz pp.50-57		講義で扱うテキストについて予習・復習。発表者はハンドアウト準備。		
第11回 作品鑑賞・分析 発表 8. The Deadly Poppy Field pp.58-65		講義で扱うテキストについて予習・復習。発表者はハンドアウト準備。		
第12回 作品鑑賞・分析 発表 9. The Queen of the Field Mice pp.66-72		講義で扱うテキストについて予習・復習。発表者はハンドアウト準備。		
第13回 作品鑑賞・分析 発表 10. The Guardian of the Gates pp.73-81		講義で扱うテキストについて予習・復習。発表者はハンドアウト準備。		
第14回 作品鑑賞・分析 発表 11. The Wonderful Emerald City of Oz pp.82-97		講義で扱うテキストについて予習・復習。発表者はハンドアウト準備。		
第15回 まとめ		全体の講義内容についての復習。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	(小テスト等を含む)			
小テスト等	60% 各講義で課題を指示			
成果発表	受講態度他を含む			
受講態度他	40% 講義での活動(受講状況・発表など)を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱い(退出)。</p> <p>*各発表は、テキストをよく読んで、自分の言葉でまとめること。</p> <p>*発表のレジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価は与えない。</p> <p>*作家や作品についての紹介は、指定図書を利用すること。</p>			
教科書	The Wizard of Oz (Penguin) 『オズの魔法使い』(角川文庫)			
指定図書	20世紀英語文学辞典(上田和夫・渡辺利雄編、研究社) オックスフォード世界英語文学大事典(ストリンガー編、DHC) 英語文学事典(木下卓ほか著、ミネルヴァ書房)			
参考図書	最新文学批評用語辞典(川口喬一ほか編、研究社) A Pocket Style Manual (Bedford/St. Martin's) オズシリーズ(図書館所有、早川文庫版) 『ファンタジー文学入門』 『いま、ファンタジーにできること』(河出書房新社)			
オフィスアワー	水曜日午後(予約の連絡を入れて下さい)	メールアドレス		

授業科目	英語文学AⅡ【講義】	開講時期	後期
担当教員	大城 房美	単位	2
授業の目的と概要	<p>作品を批評分析するための基礎的能力を養うことを目的とする。アニメ化でも親しまれたファンタジーの名作を英語原作で読み、英語表現の特徴をつかみ、テーマを読み取り考察する基礎力を養う。また各講義で、各自が作品・作家紹介を行い、英語文学作品や作家についての基礎的な知識を養う。発表の準備&lt;レジュメの準備&gt;2種類の発表を行う。(1)各講義のテーマとなる発表 (2)small presentations (10分) 英語圏作家・作品紹介 (1)は、担当グループがハンドアウトを準備。(担当グループは1,2,3,4,5をまとめてハンドアウトを作成し、講義が始まる前に配付すること 1. あらすじ(キーワードは英語も併記) 2. 登場人物(英語を併記)の特徴や性格・役割 3. ポイント(4つ以上を英語(+日本語)で抜き出し[頁と行]、それぞれなぜ重要か、どのように面白いかなど説明) 4. みんなに考えて欲しいこととその理由を2つずつ(ディスカッショントピック) 5. コメント</p>		
到達目標	<p>1. 作品を分析・批評するための基礎的な力を習得する。 2. 文学用語、作家、作品など文学に関する基礎知識を習得する。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 Introduction	講義の進行について	講義の際に指示します。	
第2回	ファンタジーというジャンルについて	発表者はハンドアウト準備。(Diana Wynne Jonesと作品について)	
第3回	small presentation, 作品鑑賞・分析・発表 Chapter One (1-22)	講義で扱う作品について予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第4回	small presentation, 作品鑑賞・分析・発表 Chapter Two (23-46)	講義で扱う作品について予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第5回	small presentation, 作品鑑賞・分析・発表 Chapter Three (47-63)	講義で扱う作品について予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第6回	small presentation, 作品鑑賞・分析・発表 Chapter Four (64-80)	1章から3章までの復習。発表者はハンドアウト準備。	
第7回	small presentation, 作品鑑賞・分析・発表 Chapter Five (81-100)	講義で扱う作品について予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第8回	small presentation, 作品鑑賞・分析・発表 Chapter Six (101-124)	講義で扱う作品について予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第9回	small presentation, 作品鑑賞・分析・発表 Chapter Seven (125-146)	講義で扱う作品について予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第10回	small presentation, 作品鑑賞・分析・発表 Chapter Eight (147-167)	講義で扱う作品について予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第11回	small presentation, 作品鑑賞・分析・発表 Chapter Nine (168-185)	4章から7章までの復習。発表者はハンドアウト準備。	
第12回	small presentation, 作品鑑賞・分析・発表 Chapter Ten (186-201)	講義で扱う作品について予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第13回	small presentation, 作品鑑賞・分析・発表 Chapter Eleven (202-223)	講義で扱う作品について予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第14回	film showing (Howl's Moving Castle) ディスカッション	講義で扱う作品について予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第15回	まとめ	全体の講義内容についての復習。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	講義の1/3を超える欠席をした場合。		
レポート	課題(講義で指示をします)		
小テスト等	60% 課題(講義で指示をします)		
成果発表	受講態度に含む		
受講態度他	40% 講義での活動(受講状況・発表など)を含む。講義の1/3を超える欠席をした場合は受講態度の評価点はありません。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱いにします(退出)。 *各発表は、テキストをよく読んで、自分の言葉でまとめてください。 *発表のレジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価は与えません。 *作家や作品についての紹介は、指定図書を利用してください。 *講義の進み具合によって講義計画を適宜調整します。また、時間割外の講義や補講などが入る可能性があります。</p>		
教科書	Howl's Moving Castle (Greenwillow Books, 2008) 『魔法使いハウルと火の悪魔』(徳間文庫)		
指定図書	『コロンビア大学現代文学・文化批評用語辞典』(松柏社)、Women in science fiction and fantasy v1, v2、『現代批評理論のすべて』		
参考図書	Articles on Films Directed by Hayao Miyazaki (Hephaestus), Diana Wynne Jones(Equ P, )『ファンタジー文学入門』、The Bedford Glossary of Critical and Literary Terms、『今、ファンタジーにできること』		
オフィスアワー	水曜日午後(予約の連絡を入れて下さい)	メールアドレス	

授業科目	英語文学B I【講義】		開講時期	前期
担当教員	宮原 牧子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>イギリスの伝承バラッドを読みます。「バラッドとは、中世以来ヨーロッパ各地で、吟遊詩人や一般庶民によって創られ、口承伝承としてうたい継がれてきた物語歌を指します。」(テキスト、「まえがき」より) ワーズワース、キーツ、デニスンといったイギリスのあらゆる詩人たちの作品の土台とも言える「伝承バラッド」の世界を、簡単な現代英語で楽しみましょう。「国際化」や「グローバル化」といった言葉が氾濫する現代、必要なのは英語のテクニックだけではありません。他国の文化や歴史を知ることとはとても大切なことです。イギリスの詩を通して英語が生まれた国の伝統に触れ、国際化の一步を踏み出しましょう。</p> <p>①詩を正確に読み、日本語に訳します。 ②時代背景や詩人の伝記について学び、詩の内容について考えます。 ③詩を鑑賞し、自分の言葉で発信します。 ④意見の交換をします。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の構造を正確に理解し、英語で書かれた詩を精読することができる</li> <li>・詩を通して、その作品が書かれた国の文化や時代背景などを理解することができる</li> <li>・獲得した知識を基に、詩の内容について、自分の言葉で論じることができる</li> <li>・教養としての詩についての知識を深めることができる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目：「英語文学BII」、「英語文学研究」</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション —詩を読むということの意味— 英語を正確に読むことに必要な技能とは何かについて考えます	第2回の予習 (テキストpp. 10-11)		
第2回	「バーバラ・アレン」 —詩の精読— 辞書の使い方と深読みのすすめ	第3回の予習 (テキストpp. 21-22)		
第3回	「エドワード」 —詩の形式について— 散文とは異なる、韻文の特性について考えます	第4回の予習 (テキストpp. 18-19)		
第4回	「サー・パトリック・スペンス」 —詩の背景を知る— 詩が生まれた時代背景について考えます	第5回の予習 (テキストp. 42)		
第5回	「二羽のカラス」 —パロディの文学的意味— 「二羽のカラス」から派生した「三羽のカラス」を読み、パロディとは何かについて考えます	第6回の予習 (テキストpp. 15-16)		
第6回	「二人の兄弟」 —伝承バラッドの普遍性— 「二人の兄弟」と同じテーマの作品の鑑賞をしてみましょう	第7回の予習 (作品は筑女ネットで指示) / 中間レポートの作成		
第7回	伝承バラッドからバラッド詩へ (1) —詩人が書いたバラッド— 「二人の兄弟」を元に書かれたヴィクトリア朝時代のバラッド詩を読みます	中間レポートの作成と提出		
第8回	中間レポート講評・返却・指導 (1) 人のレポートを読んでみましょう	人のレポートを講評する		
第9回	中間レポート講評・返却・指導 (2) 中間レポートの改善策を探る	改善策をまとめる		
第10回	「うたびとトマス」 伝承バラッドからバラッド詩へ (2) —文化の伝承— 「うたびとトマス」を元に書かれたロマン派詩人J. キーツのバラッド詩を読みます	第11回の予習 (作品は筑女ネットで指示)		
第11回	伝承バラッドからバラッド詩へ (3) —伝統の変奏— 「うたびとトマス」を元に書かれたヴィクトリア朝詩人R. キプリングのバラッド詩を読みます	第12回の予習 (作品は筑女ネットで指示)		
第12回	そのほかの伝承バラッド	12回目までに読んだ作品の復習		
第13回	期末レポートの作成準備 作品とテーマの選定します	期末レポートの作成準備・資料の収集		
第14回	期末レポートの構成 レポートの構成について、議論します	期末レポートの作成準備・結論と書き出し		
第15回	まとめ —期末レポート提出に向けて— レポートの構成・内容について個別に検討します	期末レポートの作成・提出		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	30% 中間レポート (第7回目の授業後、メールで提出) 40% 期末レポート (第15回目の授業後、メールで提出)			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30% 講義への参加度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。			
教科書	中島久代他著『イギリス伝承バラッド』英光社			
指定図書	なし			
参考図書	講義中、必要に応じてご紹介します。			
オフィスアワー	学内立入禁止が解除された場合は水曜日3限目。 それまではメールで対応します。	メールアドレス		

授業科目	英語文学BⅡ【講義】		開講時期	後期
担当教員	宮原 牧子		単 位	2
授業の目的と概要	前期で学んだ英詩の基礎を土台に、ロマン派からヴィクトリア朝時代にかけて書かれたイギリスの詩を読み、鑑賞します。詩を正確に読み、自分の言葉で詩を論じましょう。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の構造を正確に理解し、英語で書かれた詩を精読することができる</li> <li>・詩を通して、その作品が書かれた国の文化や時代背景などを理解することができる</li> <li>・獲得した知識を基に、詩の内容について、自分の言葉で論じることができる</li> <li>・教養としての詩についての知識を深めることができる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目：「英語文学研究」			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 イントロダクション 詩をよむということ	イギリス、ロマン派とヴィクトリア朝の詩について	第2回の予習 (テキストp. 8)		
第2回 「詩を精読し 詩人の意図を探る (1)」 William Blake		第3回の予習 (テキストp. 1 & p. 5)		
第3回 「詩を精読し 詩人の意図を探る (2)」 William Wordsworth		第4回の予習 (テキストp. 43)		
第4回 「詩を精読し 詩人の意図を探る (3)」 William Wordsworth		第5回の予習 (テキストp. 28)		
第5回 「詩を精読し 想像力を鍛える (1)」 S. T. Coleridge		第6回の予習 (課題プリント)		
第6回 「詩を精読し 想像力を鍛える (2)」 S. T. Coleridge		第7回の予習 (p. 69)		
第7回 「詩を精読し 想像力を鍛える (3)」 William Blake		中間レポートの作成・提出		
第8回 中間レポート講評・返却・指導		第9回の予習 (テキストp. 21)		
第9回 「詩を精読し 時代背景を考える (1)」 Lord Tennyson		第10回の予習 (課題プリント)		
第10回 「詩を精読し 時代背景を考える (2)」 晩年のLord Tennyson		第11回の予習 (テキストp. 73)		
第11回 「詩を精読し 時代背景を考える (3)」 Edward LearとLewis Carroll		第12回の予習 (課題プリント)		
第12回 「詩を精読し 時代背景を考える (4)」 Lewis Carroll		第13回の予習 (筑女ネットの課題を完成させる)		
第13回 ロマン派、およびヴィクトリア朝時代の詩人・詩作品についてのまとめ		第14回の予習 (筑女ネットの課題を完成させる)		
第14回 期末レポートの作成準備		第15回の予習 (レポートを書く)		
第15回 期末レポートの内容確認		期末レポートの校正・提出		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 中間レポート (第8回の授業で返却・個別指導) 40% 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 毎回のコメント、フォーラムへの参加度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。			
教科書	『英詩へのいざない』 (音羽書房鶴見書店)			
指定図書	なし			
参考図書	講義中、必要に応じてご紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 4限 (この時間帯以外を希望する場合はメールでご相談ください)	メールアドレス		



授業科目	英語文学研究【講義】		開講時期	後期
担当教員	宮原 牧子		単位	2
授業の目的と概要	<p>イギリスの詩を読み、作品を分析・批評します。</p> <p>作品を批評する自分の言葉には責任を持たなければなりません。先行研究について調べ、研究者の言葉を引用したり、参考にしたりする際の方法を学びましょう。</p> <p>さらに、自分の視点で作品を分析します。自分だけの視点でオリジナリティのあるテーマを決め、詩を論じましょう。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英詩を正確に読むことができる</li> <li>2. 詩を通して、その作品が書かれた時代の歴史や文化を理解することができる</li> <li>3. 文学用語、詩人、作品に関する知識を深めることができる</li> <li>4. 作品を「分析・批評」する視点を持ち、自分の言葉で論じることができる</li> <li>5. 作品について自分なりの「テーマ」決め、先行研究を踏まえた上で詩を論じることができる</li> <li>6. グループのメンバーと意見の交換をし、共同での発表に向け、協力して準備することができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目：「英語文学研究」（3分野で開講中）</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 イントロダクション 「英国民の好きな詩100選」の全体像について		第2回の予習 指定された作品を読んでくること		
第2回 詩を精読しよう (1) TOP 10の作品から1作品選び、作品の精読と鑑賞		第3回の予習 指定された作品を読んでくること (作品は授業内に決定)		
第3回 詩を精読しよう (2) TOP 10の作品から 作品の精読と鑑賞		第4回の予習 指定された作品を読んでくること		
第4回 詩を精読しよう (3) 11位～20位の作品から 作品の精読と鑑賞		第5回の予習 指定された作品を読んでくること		
第5回 詩を精読しよう (4) 21位～30位の作品から 作品の精読とディスカッション		第6回の予習 指定された作品を読んでくること		
第6回 詩を精読しよう (5) 31位～40位の作品から 作品の精読とディスカッション		第7回の予習 指定された作品を読んでくること		
第7回 詩を精読しよう (6) 41位～50位の作品から 作品の精読とディスカッション		第8回の予習 指定された作品を読んでくること		
第8回 詩を精読しよう (7) 51位～60位の作品から 作品の精読とディスカッション		第9回の予習 指定された作品を読んでくること		
第9回 詩を精読しよう (8) 61位～70位の作品から 作品の精読とディスカッション		プレゼンの作品選定、および資料集め		
第10回 詩を精読しよう (9) 71位～80位の作品から 作品の精読とディスカッション		プレゼンの準備、および資料集め		
第11回 詩を精読しよう (10) 81位～100位の作品から 作品の精読とディスカッション		発表作品の精読		
第12回 発表作品の精読、および詩人・時代背景・テーマの研究		発表準備		
第13回 チーム別プレゼンテーション準備		担当者はレジュメの作成。担当者以外は、詩の精読		
第14回 プレゼンテーションとディスカッション (前半)		担当者はレジュメの作成。担当者以外は、詩の精読		
第15回 プレゼンテーションとディスカッション (後半)		報告書の作成		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10% 発表内容を報告書にして提出。詳細は講義中に説明します。			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 14, 15回目のプレゼンテーションを評価します。			
受講態度他	40% 毎回のコメント、フォーラムへの参加度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。 やむを得ず発表の担当の回に欠席する場合は、当日の朝8時までにメールで連絡すること。			
教科書	Griff Rhys Jones編著 『The Nation's Favourite Poems』 (BBC Books)			
指定図書	なし			
参考図書	講義中、必要に応じてご紹介いたします。			
オフィスアワー	水曜 4限目 (この時間帯以外を希望する場合はメールでご相談ください)	メールアドレス		

授業科目	英語文学研究【講義】		開講時期	前期
担当教員	大城 房美		単位	2
授業の目的と概要	アメリカ文学の新ジャンルとして注目を集めるGraphic Novelからは、現在多くの自伝的作品が生み出されている。MAUSはその代表的作品である。1992年にピューリッツァ賞を受賞したMAUSは、アウシュビッツ強制収容所のサバイバーである父親の記憶をアメリカ人である息子が記録する物語であるだけでなく、いわゆる正当な伝達手段としての「文字」に加え、声にならない部分を「視覚的イメージ」を通して、戦争に関わった人々の失われた声を伝える作品でもある。本作品を通読することによって、戦争と暴力、現代の自己、そして自己表現のあり方について考える。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文学用語、作家、作品など文学に関する知識を深める。</li> <li>2. 作品を「分析・批評」する視点を持つ。</li> <li>3. 作品から自分なりの「テーマ」を立て、問題提起を行うことができるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Introduction	講義の進め方についての説明など (How to read comics, etc.)	特になし。		
第2回、作品分析・鑑賞、発表	ディスカッション What Is Holocaust? ユダヤ民族について one /the sheik (13-25)	発表担当者はハンドアウト作成。		
第3回、作品分析・鑑賞、発表	ディスカッション two/ the honeymoon (28-42)	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第4回、作品分析・鑑賞、発表	ディスカッション three/prisoner of war (45-71)	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第5回、作品分析・鑑賞、発表	ディスカッション 3章までのまとめとレビュー	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第6回、作品分析・鑑賞、発表	ディスカッション four/ the noose tightens (75-95)	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第7回、作品分析・鑑賞、発表	ディスカッション five/ mouse holes (98-129)	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第8回、作品分析・鑑賞、発表	ディスカッション six/ mouse trap (132-159)	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第9回、作品分析・鑑賞、発表	ディスカッション 前半のまとめとレビュー	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第10回、作品分析・鑑賞、発表	ディスカッション one/ Mauschwitz (171-197)	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第11回、作品分析・鑑賞、発表	ディスカッション two/ Auschwitz (201-234)	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第12回、作品分析・鑑賞、発表	ディスカッション three/ . . . and here my troubles began. . . ( 237-260)	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第13回、作品分析・鑑賞、発表	ディスカッション four/ saved (262-277)	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第14回、作品分析・鑑賞、発表	ディスカッション five/ the second honeymoon (280-296)	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第15回、作品分析・鑑賞、発表	全体のまとめ	特になし。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	60% 講義にて指示 課題を含む			
成果発表	受講態度に含む			
受講態度他	40% 講義での活動(受講状況・発表など)を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	* 4回欠席で受講態度に関する点数はなくなります。 * 講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱い(退出)。 * 各講義で英文を読みます。予習や発表担当を怠る学生は、受講資格はありません。 * 発表のレジメ・宿題などにネットなどからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価は与えない。 * 補講(時間割外講義)の連絡に注意すること。			
教科書	Art Spiegelman, MAUS (購入すること)			
指定図書	『マウス：アウシュヴィッツを生きのびた父親の物語』(晶文社) Reading Lessons in Seeing, Are You My Mother?			
参考図書	Women's Review of Books (8号館)、She Draws Comics, Fun Home、Considering Maus (Univ of Alabama2003) Teaching the Graphic Novel (MLA 2009)、Comics, Manga and Graphic Novels: a History of Graphic Narratives (2011)			
オフィスアワー	金曜日午後 (予約を入れてください)	メールアドレス		

授業科目	英語文学研究【講義】	開講時期	後期
担当教員	高森 暁子	単位	2
授業の目的と概要	シェイクスピアの悲劇『マクベス』(Macbeth)を読みます。台詞の意味やプロットを理解するだけでなく、テキストの台詞が、舞台上で演じられた際にどのようなポテンシャルを發揮するかを意識しながら読んでいきます。英語の原文と日本語訳を使用して、重要な場面の原文を精読します。舞台上演の映像や映画化作品も用いて、台詞の様々な解釈の可能性を考察します。また、作品中で描かれているテーマを、同時代のコンテキストに位置づけて理解し、かつそのテーマが異なる社会や時代において、どのような意義を持ちうるかを考えます。毎回、次回の授業範囲に関するQuestion sheetを予習用に配布します。Question Sheetに解答し、その際に出てきた問題意識と疑問点をもって授業に臨んでください。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シェイクスピアの劇作品を通して、初期近代の英語に触れ、現代の英語との差異や共通点を認識することができる。</li> <li>2. 演劇というジャンルの特性を踏まえ、キャラクター、プロット、テーマについて正しく説明することができる。</li> <li>3. 台詞の中で効果的に用いられている言葉やレトリックを意識し、その演劇の効果について説明することができる。</li> <li>4. 初期近代イングランドおよびスコットランドの歴史や文化、社会状況の中に演劇作品を位置づけて解釈することができる。</li> <li>5. 作品中で描かれているテーマの、歴史性と今日性について議論することができる。</li> <li>6. 舞台上演や映画等の翻案作品を通して、演劇テキストの多様な解釈の可能性を考察することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目： 「英語文学AI」「英語文学AII」「英語文学BI」「英語文学BII」など</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 イントロダクション 授業の進め方、シェイクスピアの人物とその時代について概説		Question Sheetを用いた予習	
第2回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 1幕1場～1幕2場		Question Sheetを用いた予習 1幕1場～1幕2場の復習	
第3回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 1幕3場～1幕5場		Question Sheetを用いた予習 1幕3場～1幕5場の復習	
第4回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 1幕6場～1幕7場		Question Sheetを用いた予習 1幕6場～1幕7場の復習	
第5回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 2幕1場～2幕2場		Question Sheetを用いた予習 2幕1場～2幕2場の復習	
第6回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 2幕3場～2幕4場		Question Sheetを用いた予習 2幕3場～2幕4場の復習	
第7回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 3幕1場～3幕2場		Question Sheetを用いた予習 3幕1場～3幕2場の復習	
第8回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 3幕3場～3幕4場		Question Sheetを用いた予習 3幕3場～3幕4場の復習	
第9回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 3幕5場～3幕6場		Question Sheetを用いた予習 3幕5場～3幕6場の復習	
第10回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 4幕1場～4幕2場		Question Sheetを用いた予習 4幕1場～4幕2場の復習	
第11回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 4幕3場～5幕1場		Question Sheetを用いた予習 4幕3場～5幕1場の復習	
第12回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 5幕2場～5幕4場		Question Sheetを用いた予習 5幕2場～5幕4場の復習	
第13回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 5幕5場～5幕7場		5幕5場～5幕7場の復習	
第14回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 5幕8場～5幕9場		5幕8場～5幕9場の復習	
第15回 作品全体についての総括		全体の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 毎回の課題提出		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 筑女ネットへのアクセス状況や授業への積極的な参加を		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	課題のQuestion Sheet は指定の期限までに提出されたものを評価の対象とします。授業に関する連絡や、授業中に配布した資料は、筑女ネットの授業ページに掲載します。		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. William Shakespeare, Macbeth (Cambridge School Shakespeare)</li> <li>2. ウィリアム・シェイクスピア『マクベス』 ちくま書房 (松岡和子訳)</li> </ol>		
指定図書	なし		
参考図書	講義中、必要に応じてご紹介いたします。		
オフィスワー	水曜5時間目	メールアドレス	

授業科目	英語文法論 I【講義】	開講時期	前期
担当教員	緒方 隆文	単位	2
授業の目的と概要	<p>目標1：英語コミュニケーション能力向上のため、基礎となる英文法を習得し正しい英語を使えるようになる。目標2：専門知識への導入となるよう、言語に対する関心を高め、ことばとしての英語及び日本語の構造や特徴を比較できるようになる。目標3：より自然に表現が使えるよう、英語の母国語話者が持つ感覚をイメージスキーマを通して感じられるようになる。目標4：獲得した文法知識をもとに、英語表現を論理的に筋道立てて考えることができる。</p> <p>授業は二部構成で進められる。前半は英文法の演習を行い、教週ごとに小テストを受ける。この英文法演習は、英語文法論Ⅱと併せて、主要な文法項目をすべて学習する。後半は下記テキストを用いて、英語語法及び英語に関するトピックを見ていく。このテキストは項目数が635項目あるため、講義では厳選された項目で、特に学習者の文法理解の助けとなるものを見ていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習する文法問題を正しく解ける(受動態、現在分詞・過去分詞、関係節、比較、最上級、語法、付加疑問、Someとany)。</li> <li>2. 文法問題の解答がなぜそのようになるのかを、英語の構造や特徴を理解して、適切に説明することができる。</li> <li>3. Practical English Usageで学習した内容及び社会的背景を理解し、説明することができる(数の英語、食事、日付、他)。</li> <li>4. Practical English Usageで学習した内容及び社会的背景に対する問いに、答えることができる。</li> <li>5. 論理的思考力をもって、文法事項を説明することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 英文法演習 (Unit 42 Passive 1) ; Practical English Usage ①		Unit 42の復習及び次回予習、第1回テキストの復習及び次回予習	
第2回 英文法演習 (Unit 43 Passive 2) ; Practical English Usage ②		Unit 43の復習及び次回予習、第2回テキストの復習及び次回予習	
第3回 英文法演習 (Unit 44 Passive 3) ; Practical English Usage ③		Unit 44の復習及び次回予習、第3回テキストの復習及び次回予習	
第4回 英文法演習 (Unit 97 -ing and -ed) ; Practical English Usage ④		Unit 97の復習及び次回予習、第4回テキストの復習及び次回予習	
第5回 英文法演習 (Unit 92 Relative clauses 1) ; Practical English Usage ⑤		Unit 92の復習及び次回予習、第5回テキストの復習及び次回予習	
第6回 英文法演習 (Unit 93 Relative clauses 2) ; Practical English Usage ⑥		Unit 93の復習及び次回予習、第6回テキストの復習及び次回予習	
第7回 英文法演習 (Unit 94 Relative clauses 3) ; Practical English Usage ⑦		Unit 94の復習及び次回予習、第7回テキストの復習及び次回予習	
第8回 英文法演習 (Unit 105 Comparison 1) ; Practical English Usage ⑧		Unit 105の復習及び次回予習、第8回テキストの復習及び次回予習	
第9回 英文法演習 (Unit 106 Comparison 2) ; Practical English Usage ⑨		Unit 106の復習及び次回予習、第9回テキストの復習及び次回予習	
第10回 英文法演習 (Unit 107 Comparison 3) ; Practical English Usage ⑩		Unit 107の復習及び次回予習、第10回テキストの復習及び次回予習	
第11回 英文法演習 (Unit 108 Superlatives) ; Practical English Usage ⑪		Unit 108の復習及び次回予習、第11回テキストの復習及び次回予習	
第12回 英文法演習 (Unit 47 Reported Speech 1) ; Practical English Usage ⑫		Unit 47の復習及び次回予習、第12回テキストの復習及び次回予習	
第13回 英文法演習 (Unit 48 Reported Speech 2) ; Practical English Usage ⑬		Unit 48の復習及び次回予習、第13回テキストの復習及び次回予習	
第14回 英文法演習 (Unit 52 Tag Question) ; Practical English Usage ⑭		Unit 52の復習及び次回予習、第14回テキストの復習及び次回予習	
第15回 英文法演習 (Unit 85 Some and any) ; Practical English Usage ⑮		Unit 85の復習、第15回テキストの復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 学期末に、学期末レポートを課す。内容、分量に応じて採点される。		
小テスト等	60% 毎回、2つ課題が課せられる。提出状況を踏まえ、採点される。		
成果発表	なし		
受講態度他	10% 課題の回答内容を元に、動画学習を含めた受講態度を判断する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>英文法プリントは、分かる範囲ですべて必ず予習しておくこと。また授業後は、しっかり復習すること。</p> <p>Practical English Usageは、ノートまたはテキストに書き込む形でしっかり復習をし、期末試験にそなえること。</p> <p>細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。</p> <p>築女ネットを活用し、課題説明・課題提出などを行う。</p>		
教科書	プリント類は、オンラインで提示する		
指定図書	特になし		
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。		
オフィスアワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(メール等で、予約することが望ましい)	メールアドレス	

授業科目	英語文法論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	緒方 隆文		単位	2
授業の目的と概要	<p>目標1：英語コミュニケーション能力向上のため、基礎となる英文法を習得し正しい英語を使えるようになる。目標2：専門知識への導入となるよう、言語に対する関心を高め、ことばとしての英語及び日本語の構造や特徴を比較できるようになる。目標3：より自然に表現が使えるよう、英語の母国話者が持つ感覚をイメージスキーマを通して感じられるようになる。目標4：獲得した文法知識をもとに、英語表現を論理的に筋道立てて考えることができる。</p> <p>授業は二部構成で進められる。前半は英文法の演習を行い、教週ごとに小テストを受ける。この英文法演習は、英語文法論Ⅰと併せて、主要な文法項目をすべて学習する。後半は下記テキストを用いて、英語語法及び英語に関するトピックを見ていく。このテキストは項目数が635項目あるため、講義では厳選された項目で、特に学習者の文法理解の助けとなるものを見ていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習する文法問題を正しく解ける(未来形、ing形と不定詞、形容詞と分詞、仮定法、代名詞と限定詞、完了形、接続詞と前置詞、冠詞、可算・不可算、wish構文)。</li> <li>2. 文法問題の解答がなぜそのようなのかを、英語の構造や特徴を理解して、適切に説明することができる。</li> <li>3. Practical English Usageで学習した内容及び社会的背景を理解し、説明することができる(丁寧表現、理由表現、類似表現の語法、他)。</li> <li>4. Practical English Usageで学習した内容及び社会的背景に対する問いに、答えることができる。</li> <li>5. 論理的思考力をもって、文法事項を説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回 英文法演習 (Unit 25 Future) ; Practical English Usage ①		Unit 25の復習及び次回予習、第1回テキストの復習及び次回予習		
第2回 英文法演習 (Unit 58 -ing & infinitive 1) ; Practical English Usage ②		Unit 58の復習及び次回予習、第2回テキストの復習及び次回予習		
第3回 英文法演習 (Unit 68 -ing & infinitive 2) ; Practical English Usage ③		Unit 68の復習及び次回予習、第3回テキストの復習及び次回予習		
第4回 英文法演習 (Unit 98 Adjectives ending in -ing&-ed) ; Practical English Usage ④		Unit 98の復習及び次回予習、第4回テキストの復習及び次回予習		
第5回 英文法演習 (Unit 38 If and wish 1) ; Practical English Usage ⑤		Unit 38の復習及び次回予習、第5回テキストの復習及び次回予習		
第6回 英文法演習 (Unit 39 If and wish 2) ; Practical English Usage ⑥		Unit 39の復習及び次回予習、第6回テキストの復習及び次回予習		
第7回 英文法演習 (Unit 40 If and wish 3) ; Practical English Usage ⑦		Unit 40の復習及び次回予習、第7回テキストの復習及び次回予習		
第8回 英文法演習 (Unit 87 Pronouns & Determiners) ; Practical English Usage ⑧		Unit 87の復習及び次回予習、第8回テキストの復習及び次回予習		
第9回 英文法演習 (Unit 7 Present Perfect & Past 1) ; Practical English Usage ⑨		Unit 7の復習及び次回予習、第9回テキストの復習及び次回予習		
第10回 英文法演習 (Unit 10 Present Perfect & Past 2) ; Practical English Usage ⑩		Unit 10の復習及び次回予習、第10回テキストの復習及び次回予習		
第11回 英文法演習 (Unit 15 Present Perfect & Past 3) ; Practical English Usage ⑪		Unit 15の復習及び次回予習、第11回テキストの復習及び次回予習		
第12回 英文法演習 (Unit 118 Conjunctions & Prepositions) ; Practical English Usage ⑫		Unit 118の復習及び次回予習、第12回テキストの復習及び次回予習		
第13回 英文法演習 (Unit 73 The 1) ; Practical English Usage ⑬		Unit 73の復習及び次回予習、第13回テキストの復習及び次回予習		
第14回 英文法演習 (Unit 70 Countable and Uncountable 2) ; Practical English Usage ⑭		Unit 70の復習及び次回予習、第14回テキストの復習及び次回予習		
第15回 英文法演習 (Unit 41 Wish) ; Practical English Usage ⑮		Unit 41の復習、第15回テキストの復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 学期末に、学期末レポートを課す。内容、分量に応じて採点される。			
小テスト等	60% 毎回、2つ課題が課せられる。提出状況を踏まえ、採点される。			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 課題の回答内容を元に、動画学習を含めた受講態度を判断する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>英文法プリントは、分かる範囲ですべて必ず予習しておくこと。また授業後は、しっかり復習すること。</p> <p>Practical English Usageは、ノートまたはテキストに書き込む形でしっかり復習をし、期末試験にそなえること。</p> <p>細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。</p> <p>築女ネットを活用し、課題説明・課題提出などを行う。</p>			
教科書	プリント類は、オンラインで提示する			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(メール等で、予約することが望ましい)	メールアドレス		

授業科目	英語翻訳論【講義】		開講時期	後期
担当教員	宮原 牧子		単位	2
授業の目的と概要	英文を正確に理解し、そこから読みとれる著者の意図や真の意味を、本当に伝わる日本語で表現する方法の習得を目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 辞書を正確に引き、単語一つ一つの意味を正確に捉えることができる。</li> <li>2. 英語の構造を理解し、英文を正確に訳すことができる。</li> <li>3. 英文を、時代背景や社会背景を踏まえ、文脈に沿った日本語に翻訳することができる。</li> <li>4. 文章の奥に込められている著者の意図を読み取ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目：「英語文学研究」</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション	テキスト44～48ページを読んでくること		
第2回	エッセイの翻訳 (1) ～背景を考える～	課題プリント (エッセイ1)		
第3回	エッセイの翻訳 (2) ～辞書を正確にひく～	課題プリント (エッセイ2)		
第4回	エッセイの翻訳 (3) ～日本語の表現力をみがく～	テキスト48～66ページを読んでくること @課題プリント (小説1)		
第5回	小説の翻訳 (1) ～文と文のつながりを考える～	テキスト72～77ページを読んでくること @課題プリント (小説2)		
第6回	小説の翻訳 (2) ～登場人物を心に描く～	課題プリント (小説3)		
第7回	小説の翻訳 (3) ～登場人物の心情や素性を訳に反映させる～	課題プリント (小説4)		
第8回	小説の翻訳 (4) ～解りやすい翻訳をめざす～	テキスト174～191ページを読んでくること 課題 (小説4の校正)		
第9回	シナリオの翻訳 (1) ～映像と言葉の関係を考える～	テキスト192～220ページを読んでくること 課題プリント (シナリオ1)		
第10回	シナリオの翻訳 (2) ～字幕翻訳と吹替翻訳～	課題プリント (シナリオ2)		
第11回	シナリオの翻訳 (3) ～字幕翻訳と吹替翻訳 実践編～	課題プリント (シナリオ3)		
第12回	シナリオの翻訳 (4) ～字幕翻訳と吹替翻訳 解説編～	課題プリント (シナリオ4 & 詩1)		
第13回	詩の翻訳 (1) ～限られた言葉の行間を読む～	課題プリント (詩2)		
第14回	詩の翻訳 (2) ～歌詞の翻訳～	課題プリント (詩3)		
第15回	詩の翻訳 (3) ～詩作品の翻訳～	試験勉強		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% 課題の提出とその内容で評価します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 毎回のコメント、フォーラムへの参加度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	辞書は毎回必ず持ってきてください。			
教科書	行方昭夫著 『英文の読み方』 岩波新書 プリント			
指定図書	—			
参考図書	授業中、必要に応じてご紹介します。			
オフィスアワー	水曜 4 限目 (この時間帯以外を希望する場合はメールでご相談ください)	メールアドレス		

授業科目	英米文化特論【講義】		開講時期	後期
担当教員	一木 順		単 位	2
授業の目的と概要	この「英米文化特論」は「地獄の黙示録」や「スターウォーズ」といったハリウッド映画をテキストとして授業を行う。これらの映画群はいうまでもなく商業目的、娯楽目的で作られたものであるが、それらを時代や社会といった文脈の中に置き、「映像文法」の基礎知識を利用して分析することで、これらの映画群がアメリカ人の深層心理に潜むものをえぐりだし、「歴史」と「記憶」とのあいだにある緊張関係を明らかにするものであることを理解してもらいたいと思う。「ベトナム戦争」を題材としたハリウッド映画群を分析することで、戦争の記憶を「国民の統合装置」として利用してきたアメリカが「アメリカにとって最長の戦争であり、唯一の敗戦」をどのように受容したのかを学ぶ。			
到達目標	ベトナム戦争を題材とするハリウッド映画群を見ることで、 1. 1970年代から80年代のアメリカ映画史に対するベトナム戦争の影響について説明できる 2. 映像分析を行いながら、「表象」という概念について説明することができる 3. 「歴史」と「記憶」の相違について説明することができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。 (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。 (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。 (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：オリエンテーション	授業方法および評価についての説明		講義の際に指示します	
第2回：ベトナム戦争の概略と戦争の記憶			スターケン、pp. 85-145	
第3回：『グリーンベレー』	古典的戦争映画とその破たん①		『グリーンベレー』観賞レポート	
第4回：『グリーンベレー』	古典的戦争映画とその破たん②		『駅馬車』観賞レポート	
第5回：『ゾンビ』	戦争、社会不安、ホラー映画①		『ゾンビ』観賞レポート	
第6回：『ゾンビ』	戦争、社会不安、ホラー映画②		『タクシードライバー』観賞レポート	
第7回：『地獄の黙示録』	狂気の戦争、凶気の映画①		『地獄の黙示録』観賞レポート	
第8回：『地獄の黙示録』	狂気の戦争、凶気の映画②		講義の際に指示します	
第9回：『スターウォーズ』	事実の否認と新しい戦争映画①		『スターウォーズ』観賞レポート	
第10回：『スターウォーズ』	事実の否認と新しい戦争映画②		スターケン、pp. 207-240	
第11回：『ランボー』	伝統的戦争映画の復活と自己憐憫①		『ランボー』観賞レポート	
第12回：『ランボー』	伝統的戦争映画の復活と自己憐憫②		『ディア・アメリカ』観賞レポート	
第13回：『プラトゥーン』	内戦としてのベトナム戦争①		『プラトゥーン』観賞レポート	
第14回：『プラトゥーン』	内戦としてのベトナム戦争②		『天と地』観賞レポート	
第15回：まとめ	国民にとって記憶とは		講義の際に指示します	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80% 授業時に指定された映画の鑑賞レポート、授業時に指示された項目についてのリサーチペーパーが50%、学期末のレポートが30%です。			
小テスト等	-			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 受講態度、授業内でのプレゼンテーションを勘案します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は授業中に観賞する映画についての学生のレポート、授業外で観賞した映画のレポートおよびリサーチペーパーの発表と講義を組み合わせるため、授業外での準備、リサーチは必須です。			
教科書	授業中にプリントを配布します。			
指定図書	マリタ・スターケン『アメリカという記憶』（未来社）、Tom Engelhardt, The End of Victory Culture (U. of Massachusetts Press)			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	月曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	エコツーリズム論【講義】		開講時期	後期
担当教員	上村 真仁		単位	2
授業の目的と概要	この講義は、筑女ネットによる講義動画の配信とライブでのチャット等を活用した遠隔講義を基本とします。ただし、一部対面、フィールドワークがあります。 この講義では、世界の成長産業として注目される観光業の中で、特に、自然地域における自然観光資源の保全と持続可能な利用による地域の活性化のために重要と考えられるエコツーリズムに着目し、取り組みの背景や理念、その現代社会における意味や環境保全上の役割を学びます。また、各地の事例を通して、その現状と課題を学びます。講義では、世界自然遺産やユネスコエコパークなどの類似の地域認証についても考察を行います。講義の後半では、太宰府近隣の自然地域での自然観察体験を行い、自然環境の保全に貢献する観光地域づくりのあり方について検討を行います。			
到達目標	1. 地域の自然資源を持続可能に利用するためのエコツーリズムの基本的な要件について理解を深める。 2. エコツーリズムの基準について考え、地域の取り組みを評価し、改善策を提案できるようになる。 3. 具体の地域を対象にエコツーリズムの理念に沿った持続可能な観光について提案を行えるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は民間シンクタンクにおいて官公庁の環境政策や地域振興施策の立案に関わり、また環境NGOや地域NPOでの持続可能な地域づくりの実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。 「現代社会と地域」「地域環境論」「地域デザイン」「NPO論」とあわせて受講するとより理解が深まります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	遠隔講義：イントロダクション エコツーリズム論の進め方	シラバスに目を通して筑女ネット上で授業への質問等を記入して下さい。		
第2回	遠隔講義：エコツーリズムとは	エコツーリズムの必要性と役割に対する考えを筑女ネットに記入して下さい。		
第3回	遠隔講義：観光産業の動向	観光産業に対するあなたのイメージを筑女ネットに記入して下さい。		
第4回	遠隔講義：国立公園制度について	行ってみたい国立公園を1つ選んで、その指定理由を調べて下さい。		
第5回	遠隔講義：日本のエコツーリズム	エコツーリズム大賞受賞地域を1つ選びその内容を調べて下さい。		
第6回	遠隔講義：エコツアー・環境教育	自然観察、環境教育を専門に取り組んでいる組織を1つ選び調べて下さい。		
第7回	フィールドワーク（まほろばの森ビオトープでの自然観察）	太宰府の水辺にいる生き物を事前に調べてきて下さい。		
第8回	フィールドワーク（太宰府市民の森の見所調査）	太宰府市民の森の地図などを調べて見てみたい場所を選んできて下さい。		
第9回	（対面授業）グループワーク（太宰府市民の森の保全と活用方策）	フィールドでの体験、調査内容をまとめて来て下さい。		
第10回	遠隔講義：エコツーリズム事例	自然資源の持続的な利用と環境保全の関係について考えを記入して下さい。		
第11回	遠隔講義：世界自然遺産、ユネスコエコパーク	世界自然遺産とユネスコエコパークを調べ、その違いを記入して下さい。		
第12回	遠隔講義：コロナ禍での取り組み	自然資源の持続的な利用と環境保全の関係について考えを記入して下さい。		
第13回	（対面授業）事例発表会	おすすめのエコツーリズム実践地域を紹介して下さい。		
第14回	遠隔ライブ：ワークショップ	一般の人々の自然に対する理解を深めるための方法を考えて下さい		
第15回	遠隔講義：まとめ 自然と人との共生のために出来ること	授業の振り返りと今後の生活の中で実践したいと考えることを書いて下さい。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	20% 授業課題・小テスト 10% 事後課題			
成果発表	30% エコツーリズム事例発表（各自1回は自分が行ってみたい地域のエコツーリズム事例を発表する） 20% フィールド調査報告、10% グループ発表			
受講態度他	10% ワークショップへの参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この講義は、筑女ネットを使った遠隔授業を基本としますが、事例調査の発表会は対面で実施するとともに、フィールドでの自然観察会、対面でのグループワークから構成されています。対面授業、フィールドワークの日程（10月31日（土））の日程を空けておいて、必ず出席するようにして下さい。また、発表の準備をあらかじめ行い、プレゼンを実施して下さい。			
教科書	なし。			
指定図書	地域資源を守っていかすエコツーリズム 敷田麻美、森重昌之 講談社 エコツーリズムを学ぶ人のために 真板昭夫、石森秀三、梅津ゆりえ 世界思想社			
参考図書	エコツーリズム 環境省編 日本交通公社			
オフィスアワー	月曜日3限、4限、水曜日4限	メールアドレス		



授業科目	江戸の小説を読む【講義】		開講時期	後期
担当教員	安永 美恵		単位	2
授業の目的と概要	この授業では、高校までに触れることの少ない近世文学への入口として、近世文学に親しむための基礎知識を得て、興味や関心を持てるようになることを目的としています。数種類の近世小説作品本文に触れることで、作者のことばへのこだわりや、絵画との関わりの深さ、描かれる場など、中古・中世や現代とも異なる、江戸時代の文化的な特徴を理解できます。このような、文学表現の背景にある、歴史的・文化的な様相の多様性に触れることで、人と文化に対する幅広い視野や、柔軟な考え方を得てもらいたいと考えています。			
到達目標	1 授業で取り上げた作品について、取り上げた箇所の文意を理解し、説明することができる。 2 授業で取り上げた作品の、文学史上の位置づけを説明できる。 3 取り上げた作品について、ことば、表現、作品世界の観点から、江戸時代小説の特長を具体例をあげて説明できる。 4 興味を持った江戸時代小説を読み、授業で学んだことを踏まえて、作品に対する自分の読み方をレポートにまとめることができる。 5 レポート作成に際し、適切な先行研究を参照し、自己の考察を深めることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 必修科目「中・近世文学概論」の範囲の内、近世小説の具体的な作品に触れることができます。近世小説については、2年次の「中・近世文学講読II」でより専門的な知識を得ることができます。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	江戸時代の文学について： 三つのポイント、文学史の区切り	配布した資料の復習		
第2回	仮名草子の世界① 啓蒙期の文学	仮名草子の世界①の配布資料を復習する		
第3回	仮名草子の世界② 滑稽と教訓	仮名草子の世界②の配布資料を復習する		
第4回	浮世草子の世界① 遊郭	仮名草子に関する課題に取り組む		
第5回	浮世草子の世界② 女性	浮世草子作品を読む		
第6回	初期読本の世界① 英草紙	初期読本の世界①で紹介した作品を読む		
第7回	初期読本の世界② 雨月物語	西鶴作品についてのレポート課題に取り組む		
第8回	後期読本の世界① 南総里見八犬伝 擬態語	後期読本の世界①の作品の復習		
第9回	後期読本の世界② 南総里見八犬伝 伏姫	後期読本の世界②の作品の復習		
第10回	黄表紙の世界① 趣向	黄表紙の世界①の配布資料の復習		
第11回	黄表紙の世界② 戯作と寛政の改革	黄表紙の世界②の配布資料の復習		
第12回	洒落本の世界 傾城買四十八手	配布資料の『傾城買四十八手』を読む		
第13回	滑稽本の世界 東海道中膝栗毛	配布資料の『東海道中膝栗毛』を読む		
第14回	人情本の世界 春色梅児誉美	配布資料の『春色梅児誉美』を読む		
第15回	まとめ・レポートについて	レポート作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	30% (小レポート含む)。			
小テスト等	60% (小テスト、小課題含む)。			
成果発表	なし。			
受講態度他	10%。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・オンデマンド方式による、遠隔授業を行います。授業内容は、筑女ネットを使用して提供します。 ・筑女ネットでの説明、指示に従って、課題に取り組んでください。 ・尚、講義で取り上げる作品は、一部を変更する場合があります。			
教科書	配布プリント。			
指定図書	なし			
参考図書	授業時に指示する。			
オフィスアワー	火曜 5限 金曜 4限	メールアドレス		

授業科目	オタク文化論【講義】		開講時期	後期
担当教員	小山 昌宏		単位	2
授業の目的と概要	<p>1. サブカルチャーに発祥をもち、ポップカルチャーとともに隆盛したオタク文化について理解する オタクの心理的傾向、消費傾向、集団特性にみる若者のライフスタイルについて理解する</p> <p>2. 第1～5回は、おたくの定義、オタク文化に対する各論者の考え方を理解し、第6～8回は、戦後大衆文化の隆盛にあつてサブカルチャーの影響を受け独自に発展したオタク文化における若者のライフスタイルについて検討し、第9～15回は、第1～8回の理路、歴史、文化現象、時代背景、領域（ジャンル）について知識を得ることで、その内容を深く把握する</p> <p>3. 具体的には、講義後の配布資料、デジタル資料（筑女ネット）による復習、リアクションペーパーのまとめによる復習（振り返り）を踏まえ、立体的に講義内容を理解する</p>			
到達目標	<p>1. おたくの定義、オタク文化の形成、その発展から戦後日本文化への影響について説明ができる</p> <p>2. SF、同人誌、コスプレ、コミケ、アキバ系などから、オタク文化の特徴を理解し、そのカテゴリーと内容について説明することができる</p> <p>3. サブカルチャーとサブカル、ポピュラーカルチャーとポップカルチャー、サブカルチャーとポップカルチャーの連続性と相違性において、オタク文化の位置づけを理解し、説明することができる</p> <p>4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、独自の「オタク像」「オタク文化観」を形成することができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>現 (3) -②-3 現代社会で活躍するために求められる特定分野の知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連科目：サブカルチャー論</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オタクとは何か？ -サブカルチャーとしての御宅、おたく、オタク、ヲタク	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習		
第2回	政治の終焉とおたくの発祥 -ポップカルチャーとしてのオタク文化	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習		
第3回	岡田斗司夫と大塚英志のオタク論 -オタク第一世代の教養主義と歴史性	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習		
第4回	宮台真司と大澤真幸のオタク論 -オタク文化が社会学に与えた影響とは？	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習		
第5回	斎藤環と東浩紀のオタク論 -オタクのカテゴリー化と「ひきこもり」について	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習		
第6回	オタク文化と若者論 -オタク青年のライフスタイルとライフサイクル	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習		
第7回	オタクのセクシャリティと消費文化 -ギャル文化に発するオタク・リア充とヲタク・非リア充の日常	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習		
第8回	オタクの「場」と「街」の形成 -アキバのメイド文化と中野ブロードウェイ・池袋乙女ロード	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習		
第9回	SF文化とオタク -オタク文化の源流とSFマインド	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習		
第10回	同人誌文化とオタク -コミックマーケットと同人誌文化	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習		
第11回	コスプレ文化とオタク -コスプレイヤーとロリータの共通性と相違性	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習		
第12回	オタク文化とキャラクター論 -なぜ私たちはキャラクターを愛するのか	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習		
第13回	オタク文化とメディア論 -メディアはオタクをどのように報道してきたのか	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習		
第14回	オタク女子・腐女子・夢女子論 -「耽美」「やおい」「BL」を読む、読まないそのラインについて	配布プリントによる復習、デジタル資料（筑女ネット）による予習		
第15回	まとめ 討論・報告会	レポート作成準備をおこなう		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70%（期末レポート） 15%（出席シート：リアクションペーパーの内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	15%（15回 討論・報告会プレゼンの評価）			
受講態度他	第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 教科書はありません。レジュメ（配布資料）は各回配布いたします</p> <p>2. この授業では、毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに質問にお応えします（復習）</p> <p>3. 期末レポートは筑女ネットの専用BOXに提出します。</p> <p>4. 期末レポートの内容、提出日については第10回目の授業で、評価基準とともに提示します。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	吉本たいまつ『おたくの起源』（NTT出版） 大塚英志『「おたく」の精神史 一九八〇年代論』（朝日文庫）			
オフィスアワー	水曜日の昼休み またはメールで相談	メールアドレス		

授業科目	オフィスコミュニケーション【演習】		開講時期	前期
担当教員	藤村 やよい		単位	2
授業の目的と概要	<p>仕事を円滑に進めるためには、コミュニケーション能力を高め、職場やお客様との良好な人間関係を構築することが大切です。その良好な人間関係の第一歩が言葉遣い（言語コミュニケーション）です。一方、身だしなみ、表情、態度、動作などの非言語コミュニケーションからも、相手は何かを感じとっています。信頼される職業人として、第一印象を大切に、相手に好感を与えて人間関係を円滑にするために、オフィスでのコミュニケーション能力を高めることを目的とします。「社員の言動で会社のイメージが決まる」といわれていますので、第一印象の大切さとして身だしなみ、表情、態度、動作、言葉遣いの実技を行います。さらにビジネスの現場を想定した電話応対、来客応対のロールプレイングなども行い、実践的な実務内容を習得します。そうすることが「なぜ」必要なのかという考え方を考察しながら、知っているだけでなく「できる」「気づく」ところまで学習します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第一印象をよくし、相手に好感を与えることができるようになる。</li> <li>2. 社内や社外の方との良好な人間関係構築のためのコミュニケーション能力を高める。</li> <li>3. 知っているだけでなく、「できる」「気づく」ところまで学習することができるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」  日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：オフィスコミュニケーションとは（講義）	シラバスや教科書の目次等を見て授業概要を把握してください		
第2回	信頼される職業人：職業意識（学生と社会人の違い）、職場の心構えなど（講義）	予習（p13-19、22-39）		
第3回	第一印象の大切さ（1）：挨拶とお辞儀、身だしなみ（講義・実技）	予習（p41-45）、授業で習った内容を日常生活で実践してください		
第4回	第一印象の大切さ（2）：表情、態度、動作など（講義・実技）	予習（p45-47）、授業で習った内容を日常生活で実践してください		
第5回	コミュニケーション（1）：言葉遣いと人間関係、話し方と聞き方（講義・実技）	予習（p20-21、47）、授業で習った内容を日常生活で実践してください		
第6回	コミュニケーション（2）：敬語（講義）	予習（p48-61）		
第7回	コミュニケーション（3）：受命と報告・連絡・相談、職場用語、接客用語（講義・実技）	予習（p30-31、61-65）、授業で習った内容を日常生活で実践してください		
第8回	模擬会社の設立（起業方式）、プレゼンテーション（講義・実技）	予習（p156-158）、授業で習った内容を日常生活で実践してください		
第9回	電話応対（1）：心構え、受け方・かけ方、伝言メモ（講義・実技）	予習（p66-78、30）、授業で習った内容を日常生活で実践してください		
第10回	電話応対（2）：ケーススタディ（講義・実技）	予習（p78-81）、授業で習った内容を日常生活で実践してください		
第11回	来客応対（1）：心構え、基本要素、訪問（講義・実技）	予習（p82-83、90-96）、授業で習った内容を日常生活で実践してください		
第12回	来客応対（2）：受付（取次）→案内→接待→見送り→後片付け（講義・実技）	予習（p84-90）、授業で習った内容を日常生活で実践してください		
第13回	来客応対（3）：ケーススタディ、クレーム対応（講義・実技）	予習（p101-103）授業で習った内容を日常生活で実践してください		
第14回	ホスピタリティとサービス：顧客満足とおもてなしの心（講義）	予習（p97-101）		
第15回	慶弔と贈答の知識：冠婚葬祭、上書き、プロトコルなど（講義）	予習（p160-173）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題レポート50% 学期末レポート30%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>受講希望者は、次のことを厳守してください。①初日のオリエンテーション日には必ず出席してください。②受講者は毎回クルートスーツを着用してください。*受講者数を30名に制限することがあるかもしれません。</p>			
教科書	藤村やよい編著『ビジネス実務—信頼を得ることの大切さ—』 樹村房			
指定図書	なし			
参考図書	講義の中で適宜紹介します			
オフィスワーク	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	音楽演習【演習】		開講時期	前期
担当教員	北原・吉賀・大和・名子・藤野・藤田・篠原・大島・八尋		単位	1
授業の目的と概要	小学校教諭や保育者になるために必要な音楽に関する基礎知識及び基礎技能を習得することを目的とする。具体的には、音楽理論と実技の基礎技能（ピアノ演奏の基礎、歌唱の基礎としての発声法）を習得することを目指す。授業形態は、声楽・器楽に関わる実技を含めた演習を組み合わせて行う。 （オムニバス方式／全15回）			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に関する基礎知識として音楽理論を理解し、読譜力を習得する。</li> <li>・音楽に関する基礎としてのピアノ演奏技能を身につける。</li> <li>・音楽に関する基礎としての発声法と歌唱力を身につける。</li> <li>・リズム遊びなど、子どもが音楽に興味・関心がもてるような活動についての指導力を培う。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、ピアノ演奏の基礎的な知識と技能①	規定曲表に沿って練習をする		
第2回	ピアノ演奏の基礎的な知識と技能②	発声法の復習		
第3回	ピアノ演奏の基礎的な知識と技能③	規定曲表に沿って練習をする		
第4回	ピアノ演奏の基礎的な知識と技能④	規定曲表に沿って練習をする		
第5回	ピアノ演奏の基礎的な知識と技能⑤	歌唱の復習		
第6回	ピアノ演奏の基礎的な知識と技能⑥	規定曲表に沿って練習をする		
第7回	ピアノ演奏の基礎的な知識と技能⑦	規定曲表に沿って練習をする		
第8回	ピアノ演奏の基礎的な知識と技能⑧	歌唱の復習		
第9回	ピアノ演奏の基礎的な知識と技能⑨	規定曲表に沿って練習をする		
第10回	ピアノ演奏の基礎的な知識と技能⑩	規定曲表に沿って練習をする		
第11回	ピアノ演奏の基礎的な知識と技能⑪	歌唱の復習		
第12回	ピアノ演奏の基礎的な知識と技能⑫	規定曲表に沿って練習をする		
第13回	実用的な伴奏のための応用練習①	規定曲表に沿って練習をする		
第14回	ピアノ演奏の基礎的な知識と技能⑬	グループで自主練習		
第15回	まとめ	試験曲を練習すること		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30% 確認テストによって評価			
成果発表	60% 既定曲の進度によって評価			
受講態度他	10% 授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各自、自主練習を充分した上で、授業に参加すること。			
教科書	初等教育コース：『バイエル教則本』（音楽之友社） 『続こどものうた200』（チャイルド社） プリント配布 幼児保育コース：『バイエル教則本』（音楽之友社） 『こどものうた200』『続こどものうた200』（チャイルド社） プリン			
指定図書	授業中に適宜指示			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	北原：水屋休み、火曜日1限 今益：月・火屋休み、月曜日4限、水曜日4限	メールアドレス		

授業科目	音楽概論【講義】初等		開講時期	前期
担当教員	今釜 亮・北原 涼子		単 位	2
授業の目的と概要	小学校学習指導要領「音楽」のねらいと内容をふまえて、実践で必要となる音楽理論（読譜の基礎等）や歌唱における発声法や歌唱、我が国や世界の音楽についての鑑賞などについて、基本的な知識及び技能を習得し、音楽的感受を育み、音楽に親しむことを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教諭として必要になる音楽の理論やピアノ演奏などのための読譜力などの基礎力を身につける。</li> <li>・歌唱における発声法等の基本的な知識・技能を身につける。</li> <li>・音楽の理解を深めるために、我が国の音楽や世界の音楽の素晴らしさを感じとる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	小学校音楽科指導の基本的な考え方及び音楽学習の学びについて	小学校学習指導要領の概要を復習する		
第2回	音楽の基礎理解①ト音記号・階名、歌唱の基礎1（呼吸法・発声法・姿勢）	ト音記号・階名の音高を読む復習、発声法の復習		
第3回	音楽の基礎理解②ヘ音記号・階名、歌唱共通教材の歌唱1	ヘ音記号・階名の音高を読む復習、歌唱の復習		
第4回	音楽の基礎理解③音の長さ（音符の種類）、歌唱共通教材の歌唱2	音の長さ、リズム打ちの復習、歌唱の復習		
第5回	音楽の基礎理解④記号、歌唱共通教材の歌唱3	記号についての復習、歌唱の復習		
第6回	音楽の基礎理解⑤音程、歌唱共通教材の歌唱4	音程についての復習、歌唱の復習、鑑賞の予習		
第7回	音楽の基礎理解⑥長音階短音階（演奏）、身近な楽器の奏法1	長音階・短音階の復習、音階の演奏、		
第8回	音楽の基礎理解⑦和音・コードネーム1、身近な楽器の奏法2	和音・コードの復習、和音・コードの演奏、		
第9回	音楽の基礎理解⑧和音・コードネーム2、身近な楽器の奏法3（打楽器）	和音・コードの復習、和音・コードの演奏、鑑賞の予習		
第10回	歌唱の基礎2（斉唱、合唱、独唱、重唱）、鑑賞1	歌唱、鑑賞の予習、グループ発表の練習		
第11回	歌唱の基礎3（斉唱、合唱、独唱、重唱）、鑑賞2	歌唱、鑑賞の予習、グループ発表の練習		
第12回	鑑賞3（日本の音楽・世界の音楽）	鑑賞のまとめ、グループ発表の練習		
第13回	音楽の基礎理解のまとめ	グループ発表の練習		
第14回	歌唱・器楽・鑑賞 等のまとめ	復習とまとめ		
第15回	まとめ	復習とまとめ		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20％ 毎回の課題の成果			
小テスト等	60％ 確認小テストによって評価する			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各自予習・復習を求める。毎回の課題などを中心に授業へ積極的に参加することを期待する。			
教科書	『改訂音楽通論』教育芸術社 小学校教員養成課程用「最新 初等科音楽教育法」2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 音楽之友社			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	北原：水曜日昼休み、火曜日2限 今釜：月・火昼休み、月曜日4限、水曜日4限	メールアドレス		

授業科目	音楽概論【講義】幼保		開講時期	前期
担当教員	今釜 亮・北原 涼子		単位	2
授業の目的と概要	小学校学習指導要領「音楽」、幼稚園教育要領「表現」領域、保育所保育指針「保育表現技術」のねらいと内容をふまえて、実践で必要となる音楽理論（読譜の基礎等）や歌唱における発声法の指導、我が国や世界の音楽についての鑑賞など、基本的な考え方を習得し、音楽に親しみを持つことを目的としている。 幼稚園や保育所における音楽活動および小学校音楽科の授業に際しての視野を拡大し、基礎的知識を習得する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教諭や保育者として必要になる音楽の理論やピアノ演奏などのために、読譜力などの基礎力を身につける。</li> <li>・歌唱における発声法について、基本的な知識・技能を身につける。</li> <li>・音楽をより楽しみ理解を深めるために、我が国の音楽や世界の音楽の素晴らしさを感じとる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	小学校・幼稚園・保育所等における音楽活動の基本的な考え方について	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針の概要を復習する		
第2回	音楽の基礎理解① ト音記号	ト音記号の音高を読む復習をする、自習課題		
第3回	音楽の基礎理解② ヘ音記号	ヘ音記号の音高を読む復習をする、自習課題		
第4回	音楽の基礎理解③ 音の長さ、音符の種類	実際の楽譜、リズム譜を見て実践すること		
第5回	音楽の基礎理解④ 音程	音程についての復習をする		
第6回	音楽の基礎理解⑤ 長音階	様々な長音階を読んだり書いたりする		
第7回	音楽の基礎理解⑥ 短音階	音階を鍵盤で弾いて確認する		
第8回	音楽の基礎理解⑦ 記号、和音、コードネーム	コードを実際に弾いて確認する、自習課題		
第9回	音楽の基礎理解⑧ コードネーム、コード伴奏	両手で簡単なコード伴奏を付けてみる		
第10回	歌唱の基礎① 呼吸法、発声法、姿勢	歌唱教材や子どものうたを自分で歌ってみる		
第11回	歌唱の基礎② 演奏形態（斉唱、合唱、独唱、重唱）や合唱の実際	実際に輪唱や合唱曲に触れてみる		
第12回	身近な楽器の奏法 ピアノ、カステネット、鈴など	実際に楽器を演奏すること		
第13回	ピアノの演奏法や鑑賞（グループワーク）	課題プリントを練習したり発表練習をすること		
第14回	共通歌唱教材や子どものうた	歌ってみる		
第15回	まとめ	理解が不十分なことを復習しまとめる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	75％ 毎回の課題、5％×15回			
小テスト等	25％ 最終回			
成果発表	なし			
受講態度他	毎回の課題に含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	配布する自習課題を使って各自予習・復習を求める。また、グループワークや発表などを中心に授業へ積極的に参加することを期待する。			
教科書	初等『改訂音楽通論』教育芸術社 「最新 初等科音楽教育法」音楽之友社			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	北原：水曜日昼休み、火曜日2限 今釜：月・火昼休み、月曜日4限、水曜日4限	メールアドレス		

授業科目	音楽基礎【実技】		開講時期	後期
担当教員	北原 涼子・大和 聡子・井上 智子・大島 陽子・名子 めぐみ		単位	1
授業の目的と概要	<p>小学校教諭や保育者として必要な音楽活動や授業に必要なピアノ演奏について、初級者を対象に、基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>具体的には、音楽活動の基礎力となる音楽理論の学習を行いながら、ピアノ演奏の基礎技能を培う学習を行う。初心者を対象にした導入のための授業であり、ピアノに抵抗感をなくすように合同での活動も取り入れる。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽活動や授業に必要な譜面の読み方など基礎的な音楽理論を理解できる。</li> <li>・鍵盤楽器への抵抗感をなくし、楽しく音楽に取り組むことができる。</li> <li>・テクニックマスターやバイエルの基本的な楽曲を演奏できるようになるとともに、C・F・Gなどの基本的なコードを用いて簡単な曲の弾き歌いができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	音楽を楽しむためのピアノ	読譜、指使い等の練習		
第2回	読譜の指導① 一音階、ト音記号とヘ音記号の違い	随時、予習・復習すること		
第3回	読譜の指導② 一和音(コード)の意味について	随時、予習・復習すること		
第4回	ピアノ演奏技術の習得 ①	随時、予習・復習すること		
第5回	ピアノ演奏技術の習得 ②	随時、予習・復習すること		
第6回	ピアノ演奏技術の習得 ③	随時、予習・復習すること		
第7回	ピアノ演奏技術の習得 ④	随時、予習・復習すること		
第8回	コードネームを用いた演奏技術の習得 ①	随時、予習・復習すること		
第9回	コードネームを用いた演奏技術の習得 ②	随時、予習・復習すること		
第10回	ピアノ演奏技術の習得 ⑤	随時、予習・復習すること		
第11回	ピアノ演奏技術の習得 ⑥	随時、予習・復習すること		
第12回	弾き歌いのための演奏技術の習得 ①	随時、予習・復習すること		
第13回	弾き歌いのための演奏技術の習得 ②	随時、予習・復習すること		
第14回	ピアノ演奏技術の習得 ⑦	随時、予習・復習すること		
第15回	ピアノ演奏技術の習得 ⑧	次年度へ向け復習・予習すること		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	80%			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	20% 課題への取り組み			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>初学者を対象とする授業なので、中級者以上は受講制限を設けることがある。</p> <p>自主練習を充分した上で授業に出席すること。</p>			
教科書	『おとなのためのテクニックマスター』ドレミ楽譜出版、『バイエル教則本』音楽之友社、プリント配布			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	北原：水曜日昼休み、月曜日2限 今益：月・火昼休み、火曜日3限	メールアドレス		

授業科目	海域文化交流論【講義】		開講時期	前期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>授業の目的：海は、その「海流（潮流）」や強い「恒風」を帆船で有効利用することによって、古来より、人々の往来、大量の物資輸送、情報伝達等を可能としてきました。この講義は海洋の自然、海洋交通の技術の発展ならびに海洋を通じての諸地域間の相互文化交流を理解することが目的です。</p> <p>授業の概要：まず、北部九州の遺跡出土品や「海のシルクロード」関連品によって諸地域間の文化交流を概観します。そして、10世紀以降の日中間海域交流や「イスラーム航海者」東方進出、「大航海時代」以降の欧亜間交流の様相、そして近現代における我が国の海域文化交流の様相を通時的にとどります。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本、特に北部九州の古代・中世史に「海域文化交流」の具体的事象を説明することができる。</li> <li>・「海のシルクロード」の歴史的意味を具体例に基づいて説明することができる。</li> <li>・10世紀以降の中国やイスラームの「海域文化交流」について具体的に説明できる。</li> <li>・「大航海時代」以降のヨーロッパ勢力と「海のシルクロード」との関係について、具体的事例を挙げて説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	はじめに～「海域文化交流論」関連海洋・海域の自然～	第2回までに課題①提出（2時間）		
第2回	「海域」をめぐる現代の交流：その1「オイルロード」	第3回までに課題②提出（2時間）		
第3回	北部九州弥生人たちの高級装身具「南海産貝製腕輪」（紀元前後）	第4回までに課題③提出（2時間）		
第4回	「海のシルクロード」①海の正倉院 古代「沖ノ島」（4～9世紀）	第5回までに課題④提出（2時間）		
第5回	「海のシルクロード」②遣隋使・遣唐使（600～894年）	第6回までに課題⑤提出（2時間）		
第6回	日宋貿易と博多や平氏（10世紀後半～13世紀）	第7回までに課題⑥提出（2時間）		
第7回	船乗りシンドバッドの世界～イスラーム商人とインド洋（12世紀前後）	第8回までに課題⑦提出（2時間）		
第8回	「陶磁の道」：日本陶磁器、中国陶磁器の海外進出（12世紀）	第9回までに課題⑧提出（2時間）		
第9回	「大航海時代」（15～17世）	第10回までに課題⑨提出（2時間）		
第10回	南蛮貿易（16世紀半ば～17世紀初期）	第11回までに課題⑩提出（2時間）		
第11回	「プラントハンター」の活躍（18世紀）	第12回までに課題⑪提出（2時間）		
第12回	文久遣欧使節（江戸幕府使節団：1862～1863年）	第13回までに課題⑫提出（2時間）		
第13回	明治期遣波使節（1880年）～近代日本の中東交流開始～	第14回までに課題⑬提出（2時間）		
第14回	「海域」をめぐる現代の交流：その2「豪華客船クルーズ」	第15回までに課題⑭提出（2時間）		
第15回	到達目標に対比した授業総括	指定の期日・時間までに「定期試験課題」提出（2時間）		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	・毎回の課題レポート（50％） ・学期末レポートを第15週目（8/3-8/7）に実施（50％）			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	—			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回の「遠隔授業」は、各回授業テーマの学修・自修で構成されます。提示された課題を考えるなかから、自ら課題をさらに見出し自修を深めていってください。提出物に関しては、「遠隔授業」によるやむを得ない事情には配慮しますので、しっかり対応して指定期日内の提出に努めて下さい。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	関連する事典・概説書等、授業進行にあわせ適宜紹介。世界地図や世界史年表の信頼し得るネット情報は有効です。			
オフィスアワー	「遠隔授業」形態ですので、随時、下記メールアドレスまで質問・要望・意見等々は気軽にご連絡下さい。	メールアドレス		



授業科目	介護概論【講義】	開講時期	後期
担当教員	納戸 美佐子	単 位	2
授業の目的と概要	介護の概念や対象および理念について学び、介護倫理に基づいた実践について学ぶことを目的とする。 <概要> 1. 介護の概念や対象及び理念について解説する。 2. 介護過程における介護技法や介護予防の基本的な考え方について解説する。 3. 終末期ケア、認知症ケアについて解説する。		
到達目標	1. 介護の概念や対象及び理念について理解し、説明できる。 2. 介護過程における介護技法や介護予防の基本的な考え方について理解し、説明できる。 3. 終末期ケア、認知症ケアについて理解し、説明できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	介護を取り巻く状況(1)	介護保険制度についてまとめる	
第2回	介護を取り巻く状況(2)	介護職員に求められる保健・医療の知識についてまとめる	
第3回	高齢者の特性と疾病、老化	高齢者の疾病についてまとめる	
第4回	介護の目的(1) ー介護の歴史と介護の場、要介護高齢者についての理解ー	介護の歴史についてまとめる	
第5回	介護の目的(2) ー介護の原則と職業倫理、尊厳と自立を支える介護ー	日本介護福祉士の倫理基準(行動規範)をまとめる	
第6回	地域で生活している高齢者への理解 ー生活を理解する視点と社会資源の活用ー	地域における社会資源についてまとめる	
第7回	施設に入所している高齢者への理解・チームアプローチ	チームアプローチについてまとめる	
第8回	リスクマネジメント	リスクマネジメントについてまとめる	
第9回	要介護高齢者とその家族への理解と支援	要介護高齢者を抱える家族の実態についてまとめる	
第10回	介護過程 ー介護過程の概要、介護過程の展開ー	介護過程の概要についてまとめる	
第11回	介護各論(1) ー介護過程、自立に向けた支援、家事における自立支援ー	自立支援についてまとめる	
第12回	介護各論(2) ー食事・身支度・移動・睡眠・入浴・排泄の介護などー	具体的場面での介護技法についてまとめる	
第13回	介護各論(3) ー認知症高齢者への支援、終末期の支援ー	認知症ケア、終末期ケアにおける取り組みについて調べる	
第14回	介護各論(4) ー高齢者の住環境問題ー	高齢者の住環境についてまとめる	
第15回	講義のまとめと重点項目	これまでの講義についての復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	30%		
小テスト等	70%(毎回の講義において提示する振り返りワークまたは課題)		
成果発表	0%		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・毎回、レジュメ等を筑女ネットに掲載するので、必要に応じて印刷する。 ・振り返りワーク等の提出締め切りを守る。		
教科書	『社会福祉学習双書2020 介護概論』全国社会福祉協議会		
指定図書	なし		
参考図書	『新・社会福祉士養成講座 高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規		
オフィスワー	月曜日3限	メールアドレス	

授業科目	介護技術演習【演習】		開講時期	前期
担当教員	因 利恵・黒木 翔一郎		単 位	2
授業の目的と概要	<p>現場実習で、高齢者施設などに実習に行ったり、卒業後仕事を始める際に、必要な基礎的介護技術を理解すると共に、日本の高齢社会の現状と介護の必要性を理解することを目的とする。また、相談援助を求める方は介護が必要な方も多いため、同時に、現在の高齢者を取り巻く状況やコミュニケーション方法、認知症介護も学んで行く。</p> <p>講義は介護技術の演習を中心にを行い、講義の終盤には、福祉用具を活用して、負担の少ない介護技術方法についても学んで行く。</p>			
到達目標	<p>①移動・移譲、食事、入浴、清潔、排せつ、着脱、整容、睡眠等の介護について、利用者の心身の状態に応じた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。</p> <p>②利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得できる。</p> <p>③代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障がい、認知症の進行による変化等理解することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション・介護技術を学ぶ意義と介護の現状		介護技術を学ぶ意義について考える	
第2回	コミュニケーション技術		言語的・非言語的コミュニケーションについて調べる	
第3回	ベッドメイキング・寝たままでのベッドメイキング		寝具を整える意義について調べる	
第4回	ボディーメカニクスについて・体位変換		ボディーメカニクスとは何か調べる	
第5回	食事の介助① 椅座位での食事介助		食事の意義について調べる	
第6回	食事の介助② 臥位での食事		食事の形態にはどのようなものがあるか調べる	
第7回	歩行（杖）の介助・視覚障害者の介助		杖の種類について調べる	
第8回	介助車いすの介助・ベッドから車いすへの移動介助（トランスファー）		車いすの種類について調べる	
第9回	整容の介助① 整容に関する基礎知識		整容とは何か調べる	
第10回	整容の介助② 衣服の着脱		衣服の着脱に意義について調べる	
第11回	入浴・清拭の介助		入浴介助方法・清拭介助の方法について調べる	
第12回	排泄の介助（ポータブルトイレへの介助）・睡眠について		テキスト248～262ページの予習	
第13回	認知症の介護		認知症がどのような病気なのか調べる	
第14回	福祉用具を利用した介護技術		身の回りの福祉用具について調べる	
第15回	まとめ		これまでの講義の中で理解できたこととできなかったことをまとめる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	レポートによる評価（60％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40％（遠隔授業による課題の提出）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>介護技術に相応しい服装で出席してください。（ノースリーブ、ジーパンは不可。肩にかかる髪は結ぶ。靴は運動靴若しくはスニーカーに履き替える。ヒールがある靴やサンダルは不可）</p> <p>介護技術演習をする際、準備・後片付けは協力して行ってください。</p> <p>テキストは必ず準備（購入）してください。</p>			
教科書	二訂 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 第4巻 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（一般財団法人 長寿社会開発センター）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	毎週月曜日 12:30～16:30		メールアドレス	

授業科目	カウンセリング概論【講義】	開講時期	前期
担当教員	石井 洋平	単 位	2
授業の目的と概要	カウンセリングの具体的なイメージをつかむとともに、理論の学習を通じて多様な人間観に触れ、自己理解・他者理解ができるようになることを目的とします。		
到達目標	1・カウンセリングとは何かについて説明することができる。 2・カウンセリングの基礎となる理論や、様々な技法について説明することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：カウンセリングとは何か	教科書「まえがき」を読書	
第2回	カウンセラーの基本的態度。カウンセリングのプロセス	教科書「第一章」を読書	
第3回	こころの健康	参考書・参考資料を読書	
第4回	インテーク面接とその目的	教科書「第二章」を読書	
第5回	面接の初期段階	教科書「第三章」「第四章」を読書	
第6回	面接中期に起こる様々な問題	教科書「第四章」「第五章」を読書	
第7回	カウンセリングの終結：終結とは何か？	教科書「第六章」を読書	
第8回	様々なこころの病	参考書・参考資料を読書	
第9回	クライアント中心療法	参考書・参考資料を読書	
第10回	行動療法・認知行動療法	参考書・参考資料を読書	
第11回	精神分析療法	参考書・参考資料を読書	
第12回	こどもの心と症状	参考書・参考資料を読書	
第13回	思春期・青年期の心と症状	参考書・参考資料を読書	
第14回	スクールカウンセリング	参考書・参考資料を読書	
第15回	総括	参考書・参考資料を読書	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	80% 学期末課題です。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 講義への参加態度や出席状況も考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義をよく聴き、積極的に討論に参加してください。		
教科書	平木典子著『カウンセリングとは何か』朝日新聞出版（1997）		
指定図書	なし		
参考図書	平木典子著『カウンセリングの話』ほか(必要に応じ授業中に適宜紹介)		
オフィスアワー	講義の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	家族関係特論【講義】		開講時期	前期
担当教員	小川 直樹		単 位	2
授業の目的と概要	<p>社会の変貌とともに、家族関係のあり方や機能もゆれ動いている。核家族が一般化するとともに、家事や育児についての男女の柔軟な役割分担、老親の介護・扶養や相続をめぐる問題などが続出している。こうした日々の生活周辺で認められる具体的な諸問題に関して家族法の基本理念に立ち戻って考察することができるような判断力を身につけることができます。夫婦別姓の論議も本格化して、法改正案の国会提出が日程にのぼっているがまだならず、その現在の世論の動向をふまえて検討します。</p>			
到達目標	<p>家族関係の原点にある出生と死亡に関する論議ならびに家庭の教育的機能の低下、弱体化、あるいは脆弱化などから派生する社会的諸問題を提出しながら、これからの家族関係の対応と課題を探ります。いま、私たちの「家族」はどのようにになっているのか。「個人」の問題が「社会」とつながり、「国家」の諸課題へとつながっている構造を身近な問いから示して、具体的に考察することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。  (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。  (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。  (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	家族関係の基礎概念 「いえ」の語源論、家族の意義		予習(教科書)	
第2回	家族の種類と現代家族 歴史的研究の周辺		テキスト第1章を読む	
第3回	日本国憲法における家族 家族の位置		テキスト第1章を読む	
第4回	民法・家族法制度論 民法施行100年のときと暮らし		テキスト第1章を読む	
第5回	家族機能論 家族社会学研究の展開		テキスト第2章を読む	
第6回	婚姻制度 婚約・結納、内縁関係		テキスト第3章を読む	
第7回	夫婦関係 一般的・財産的効果論		テキスト第4章を読む	
第8回	出生と死亡 生殖医療科学と法制度		テキスト第5章を読む	
第9回	親子関係 養子・親権の内容		テキスト第6章、第7章を読む	
第10回	親族 法的効果・親族間の扶養論		テキスト第9章を読む	
第11回	相続と遺言(1) 相続の意義・効果・承認と放棄		テキスト第10章を読む	
第12回	相続と遺言(2) 遺言・遺留分制度		テキスト第11章を読む	
第13回	家庭紛争と家庭裁判所(1) 役割論・調停前置主義		テキスト第8章を読む	
第14回	家庭紛争と家庭裁判所(2) 調停の進め方		テキスト第8章を読む	
第15回	家族関係をめぐる動向と今後の論点 超高齢社会・少子化社会の構造と対応		テキスト第12章を読む	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	75% 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	10% 社会の動きに注目して発言してください。			
受講態度他	15% 授業に積極的に参加する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1) 毎回テキストの重要箇所を指示します。予習をして授業に臨んでください。</p> <p>2) 新聞を読んでおくことで、授業内容を広い視野で見つめることができます。新聞は社会そのもの、現実の国際社会・全宇宙の情報を伝えます。Newspaper in Education「教育に新聞を」。積極的に接して、考えてみて下さい。</p>			
教科書	井上 馨 編『これからの家族関係—現代家族の諸問題—』建帛社			
指定図書	湯沢雅彦・宮本みち子著『データで読む家族問題』日本放送出版協会、利谷信義著『家族の法』有斐閣、菅野耕毅著『新版・図説家族法』法学書院			
参考図書	利谷信義著『家族と国家—家族を動かす法・政策・思想』筑摩書房 各章・節をめぐり、その都度に授業の中で紹介します。			
オフィスワー	火曜日の3限前後、非常勤室に在室しています。講義の際に指示します。	メールアドレス		

授業科目	家族社会学【講義】	開講時期	前期
担当教員	橋本 嘉代	単位	2
授業の目的と概要	<p>個人や家族のあり方、変化や多様性について、社会学の視点で読み解くことで、論理的思考力を身につけることを目指します。</p> <p>Q 家族とはいつの時代も変わらないもの？  Q 社会の中で「家族」の意味や語られ方、家族に期待される役割は変化してきたのか？  Q 若い女性の間では、キャリア志向と専業主婦志向、どちらが支持されているのか？  Q 日本ではなぜ少子化が進んでいるのか？ ・・・・etc</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジェンダーとセクシュアリティ、家父長制の意味を説明できる。</li> <li>2. 家族形成の原理と家族の範囲について説明できる。</li> <li>3. 近代家族の成立過程と特徴について説明できる。</li> <li>4. 現代家族の特徴と家族問題について説明できる。</li> <li>5. 家族と社会福祉援助、生殖テクノロジーの問題について説明できる。</li> <li>6. 人間を不幸にしない家族のあり方を自らのこれからの人生と重ね合わせて構想できる。</li> </ol>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>心(3)-②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>福(3)-②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>初(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>初(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>初(3)-①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>初(3)-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>幼(3)-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
	講義の説明および講義——生物学的性別分化、ジェンダーとセクシュアリティ。	配信する解説音声付きスライドを繰り返し再生し、復習。	
	第2回 性差別と家族、ジェンダーと家父長制、近代化と家父長制、家父長制の現代的展開。	配信する解説音声付きスライドを繰り返し再生し、復習。	
	第3回 家族を読み解くために	授業用資料の復習、課題提出	
	第4回 「近代家族」の成立	範囲の予習・復習（授業用資料で示します。以下同）	
	第5回 家族・貧困・福祉	課題：自分の自治体の家族支援制度を調べ、他の自治体との違いを確認	
	第6回 結婚①	範囲の予習・復習、課題提出	
	第7回 結婚②、就業と家族①	範囲の予習・復習、課題提出	
	第8回 就業と家族② + 研究計画書・レポートの書き方	範囲の予習・復習、個人研究のテーマ探し	
	第9回 妊娠・出産・子育て①	範囲の予習・復習、個人研究のテーマ探し	
	第10回 妊娠・出産・子育て②	範囲の予習・復習。研究計画書執筆	
	第11回 親-成人子関係のゆくえ①	範囲の予習・復習。研究計画書執筆	
	第12回 個人・家族・親密性のゆくえ	範囲の予習・復習、レポート執筆準備	
	第13回 個人・家族・親密性のゆくえ	範囲の予習・復習、レポート執筆	
	第14回 家族をめぐる政治経済的な思惑	範囲の予習・復習、レポート執筆	
	第15回 <公><私>の揺らぎと家族の変容	範囲の予習・復習、レポート執筆	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	0%（なし）		
レポート	40%（研究計画、レポート）		
小テスト等	30%（基本用語の確認テスト）		
成果発表	0%		
受講態度他	30%（リアクションペーパー、小課題）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・レポートは、家族社会学に関する個人研究です。構成を「研究計画」として事前に提出 → 授業や筑女ネットでフィードバック → 適宜、修正 → レポート執筆・提出 という流れになります。詳細は、授業中に説明し、筑女ネットにもUPします。</p> <p>・筑女ネット上で記入する小課題を随時、実施します（受講態度として評価の対象になります）。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	岩間暎子ほか『問いからはじめる家族社会学』有斐閣、橋本嘉代『なぜいま家族のストーリーが求められるのか』書肆侃侃房石井クンツ昌子『育メン現象の社会学』ミネルヴァ書房		
オフィスアワー	授業の時間帯および月曜13:00-15:00	メールアドレス	

授業科目	家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会)【講義】		開講時期	後期
担当教員	洪田 登美子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>個人が何かの問題を抱えているとき、その人個人の問題としてとらえたり、親子関係の問題として語られることが多い。しかし実際は、家族内の人間関係はみな相互に関係しており、またその家族を取り巻く人間関係や地域社会、文化とも相互に影響しあっている。したがって、心理的援助を考えると、社会の中の家族、家族の中の個人を理解する必要がある。</p> <p>この授業の目的は、家族についてのシステム的な理解や多世代の観点からの理解できるようになることである。さらに家族臨床や家族支援について理解し、家族臨床に必要なアセスメントスキルを身につけることである。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族をシステムとしてとらえ、家族のライフサイクルについて説明することができる。</li> <li>2. 家族は、ラージャー・システムである社会の諸集団と相互に関係し、常に影響を受けていることを具体的な例を挙げて述べるることができる。</li> <li>3. 家族の臨床的な問題を心理構造や多世代伝達過程の視点から解釈し、説明することができる。</li> <li>4. 家族臨床におけるアセスメントと心理援助アプローチについて説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第 1回	家族心理学とは : 家族システム論	教科書第1章の予習と復習		
第 2回	家族を取り巻く社会文化的文脈の変動と家族の変化	教科書第1章の予習と復習		
第 3回	心理的構造から家族を理解する : 境界、連合、パワー	教科書第2章の予習と復習		
第 4回	多世代伝達過程から家族を理解する : 自己分化、三角関係化、忠誠心	教科書第2章の予習と復習		
第 5回	家族のアセスメント① : ジェノグラム、エコマップ	作成したジェノグラムについてのレポートを作成する		
第 6回	家族のライフサイクルと発達課題① : 家族のライフサイクルの前半	教科書第3-5章の予習と復習		
第 7回	家族のライフサイクルと発達課題② : 家族のライフサイクルの後半	教科書第6-8章の予習と復習		
第 8回	家族臨床① : 子ども虐待と子育て支援	教科書第11, 14章予習と復習、選んだテーマと心理士の役割について調べる		
第 9回	家族臨床② : 家族のストレス	教科書第12章予習と復習、選んだテーマと心理士の役割について調べる		
第10回	家族臨床③ : 家族内の暴力	教科書第13, 15章予習と復習、選んだテーマと心理士の役割について調べる		
第11回	家族のアセスメント② : 家族イメージ法(FIT)	作成したFITについてのレポートを作成する		
第12回	家族のアセスメント③ : 動的家族画	作成した動的家族画についてのレポートを作成する		
第13回	家族療法① : コミュニケーションへのアプローチ	課題資料を読む		
第14回	家族療法② : 解決志向アプローチ	課題資料を読む		
第15回	家族療法③ : 心理教育的アプローチ	課題資料を読む		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	45% (アセスメントのレポート 15×3)			
小テスト等	なし			
成果発表	25% 家族臨床についてテーマを選び、心理的援助と心理士の役割について発表する(第8-10回の授業)			
受講態度他	30% 授業に対する積極的参加態度を評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ディスカッションを通して、現代の家族を多角的に理解していきたい。 教科書及び資料は、事前に読んでおくこと。			
教科書	中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・武藤清子 『家族心理学 家族システムの発達と臨床的援助』 有斐閣ブックス			
指定図書	なし			
参考図書	日本家族心理学会編 『家族のストレス』 金子書房 岡田隆介著 『こころの援助レシピ 家族の法則2』 金剛出版			
オフィスアワー	水曜日5限、またはメールで相談	メールアドレス		

授業科目	家庭支援論【講義】	開講時期	後期
担当教員	加藤 朋江	単位	2
授業の目的と概要	保育士に求められる役割の一つに、子育て家庭に対する支援がある。本授業では、現代における家族の多様性を学び、家族が子どもに与える影響について理解すると共に、保育所や福祉施設の保育士が家庭に対して行うべき支援、支援の視点、方法について理解することを目的としている。 授業は遠隔（オンデマンド）で実施する。毎回、教科書に沿って1章ずつ内容をPowerPoint（動画）で紹介する。授業の終わりに小テストとひとこと感想の記入を課し、これによって出席を確認する。また、期末(最終)レポートを実施する。		
到達目標	①現代日本における「家庭」「家族」の多様性と、その課題に着目することができる。 ②家庭支援に関する社会資源の種類を理解し、それぞれの支援内容について説明することができる。 ③保育所で行う日常的な家庭との関わりや支援について、事例から読み取り、支援の効果と課題を分析することができる。 ④要保護児童とその家庭との関わりや支援について、事例から読み取り、支援の効果と課題を分析することができる。 ⑤子育て世帯が抱える課題について、「ジェンダー」の視点から考察し、他者に分かりやすく表現することができる。 ⑥家庭支援を行うにあたっての保育者としての職業倫理について述べるることができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼（3）-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーションー授業のルールと教科書の視点についてー	「子ども」「家庭」「家族」「ジェンダー」についてまとめておく。	
第2回	現代における家庭の状況ー家庭生活のリアリティを把握する視点ー	子どもや家庭に関する社会問題や話題等を3つ調べておく。	
第3回	「家族」はどう変わってきたのか	テキスト第2章を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。	
第4回	家族の機能とは何か	テキスト第3章を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。	
第5回	ジェンダーの視点で家族をとらえる	テキスト第4章を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。	
第6回	世界の子育て支援から学ぶこと	テキスト第14章を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。	
第7回	男女共同参画社会と家庭における平等の具現化	テキスト第6章を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。	
第8回	子ども家庭支援のために役立つ法律・制度	テキスト第7章を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。	
第9回	子育て支援サービスの機能とその落とし穴	テキスト第8章を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。	
第10回	保育所による子ども家庭支援の実際と支援の方法	テキスト第9章を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。	
第11回	子ども虐待・DVの現実と子ども家庭支援	テキスト第10章を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。	
第12回	子どもの貧困と家庭支援	テキスト第11章を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。	
第13回	「障がいのある子」をもつ家族と子ども家庭支援（1）	テキスト第12章を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。	
第14回	「障がいのある子」をもつ家族と子ども家庭支援（2）	テキスト第12章を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。	
第15回	まとめー子ども家庭支援と保育者の専門性ー	テキスト、ノート、レジュメ等を振り返り、まとめておく	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	-		
レポート	期末レポート 25%		
小テスト等	60%		
成果発表	-		
受講態度他	各回のひとこと感想 15%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	子育て支援等の社会問題に関するニュース、新聞記事等を積極的に読んだ上で講義に参加すること。 筑女ネットに掲載する動画は履修者のみ閲覧可能とする。 授業に関する情報や、課題についての連絡は、筑女ネットを活用する。		
教科書	浅井春夫・所貞之編著『子ども家庭支援論—家族の多様性とジェンダーの理解—』建帛社		
指定図書	-		
参考図書	随時紹介する		
オフィスアワー	-	メールアドレス	

授業科目	環境学【講義】		開講時期	後期
担当教員	速水 良晃		単 位	2
授業の目的と概要	地球上に生物が誕生してから約40億年、人類が誕生してからも数万年になる。しかし、僅かこの100～150年で人類の生産活動が著しく発達し、地球全土にわたる物質循環のバランスを崩し、大きな環境破壊が起こっている。この科目では、有史以来の人間の環境への関わりと主な問題点を学び、環境問題解決のための第一歩として、現在の複雑化した社会システムの中での自分の生活と地球環境問題のつながりを把握し、その対策を検討できるようにすることを目的とする。教科書として選んだ本は、現代の環境問題の重要テーマを分かりやすく解説しており、地球環境問題解決への有効な取り組みを学ぶことができる。			
到達目標	① 人間の文明と環境問題の関係を、具体的に説明することができる。 ② これまでに発生した主な環境問題について、具体的に説明することができる。 ③ 自分の生活と環境問題の関係を、具体的に説明することができる。 ④ 自分の身の回りの環境問題について問題点を設定し、幾つかの改善策を提案できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧の「基本事項」の「単位」を参照してください。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業の進め方、質問づくりの目的と方法	復習、2章前半についての質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第2回	2章 地球環境の成立 (1)	復習、2章後半についての質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第3回	2章 地球環境の成立 (2)	復習、3章についての質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第4回	3章 気候変動と温暖化	復習、4章前半についての質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第5回	4章 大気圏の環境科学 (1)	復習、4章後半についての質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第6回	4章 大気圏の環境科学 (2)	復習、6章前半についての質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第7回	6章 水圏の環境科学 (1)	復習、6章後半についての質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第8回	6章 水圏の環境科学 (2)	復習、7章についての質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第9回	7章 土壌圏の環境科学	復習、11章前半についての質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第10回	11章 廃棄物と環境 (1)	復習、11章後半についての質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第11回	11章 廃棄物と環境 (2)	復習、12章前半についての質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第12回	12章 エネルギー・資源と環境 (1)	復習、原子力発電 (1) についての質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第13回	(教科書外) 原子力発電 (1)	復習、原子力発電 (2) についての質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第14回	(教科書外) 原子力発電 (2)	復習、12章後半についての質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第15回	12章 エネルギー・資源と環境 (2)、まとめ、授業評価	全体の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	45% 毎回の「3つの質問」についての予習内容(選択理由、予習レポート内容、受講上の留意点に合致していること)、40% 最終レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 毎回の「独自の質問」の数			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業(月曜)日に提示される資料を読んで理解を深め、新たな疑問については「質問窓口と回答」というフォーラムに投稿する。資料の最後に書かれている翌週の内容に関する「質問の焦点」を基に、月曜日の内に「独自の質問」を投稿する。火曜日に発表された全員の質問の中から、重要と考えられる質問3つを選び、選択理由を火曜日の内に投稿する。水曜日に多数決で決定・発表された「3つの質問」について、金曜夜までに予習レポートを提出する。			
教科書	安原昭夫 著、「地球の環境と化学物質 新版」、三共出版			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業終了後、またはメールで相談	メールアドレス		



授業科目	環境教育【講義】		開講時期	前期
担当教員	高木 義栄		単位	2
授業の目的と概要	本講義では、環境教育とはどのようなものか、なぜ必要なのかを理解することを目的とします。ESD（持続的発展のための教育）を念頭に、環境教育の在り方を学びます。幼児期における環境教育の意義や重要性を学びます。アクティブラーニングによる実践を体験し、その有効性や実践方法を学びます。海外での環境教育の事例を学びます。現代社会における様々な環境問題について学び、それらを解決するためには何をすればいいか考えます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育の意義について説明できる。</li> <li>・幼児期における環境教育の重要性を説明できる。</li> <li>・身の回りの自然（生物の種類、生息場所など）について具体的に述べるができる。</li> <li>・自分なりのアクティブラーニングの方法を創造できる。</li> <li>・各環境問題の原因と影響について説明でき、その解決に向けて個人的にやれることを述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	環境教育とは何か？	スライド資料の復習と振り返り課題の作成		
第2回	環境教育とアクティブラーニング	スライド資料の復習と振り返り課題の作成		
第3回	幼児期の環境教育	スライド資料の復習と振り返り課題の作成		
第4回	アクティブラーニング実践① 身近な虫を知る	授業内で指示された課題の作成		
第5回	アクティブラーニング実践② 世界の課題を見つけよう -多文化共生-	授業内で指示された課題の作成		
第6回	アクティブラーニング実践③ 家庭内エコチェック	授業内で指示された課題の作成		
第7回	アクティブラーニング実践④ 世界の課題を見つけよう -食べ物-	授業内で指示された課題の作成		
第8回	海外の環境教育	スライド資料の復習と振り返り課題の作成		
第9回	アクティブラーニング実践⑤ 地域の歴史を調べよう	授業内で指示された課題の作成		
第10回	様々な環境問題	ネットで環境問題について情報収集する、授業資料の復習		
第11回	アクティブラーニング実践⑥ 身近な草花を知る	授業内で指示された課題の作成		
第12回	身近な危険生物	ネットで身の回りの危険生物について情報収集する、授業資料の復習		
第13回	アクティブラーニング実践⑦ 身近な樹木を知る	授業内で指示された課題の作成		
第14回	アクティブラーニング実践⑧ 川の生き物調べ	授業内で指示された課題の作成		
第15回	まとめ	これまでの課題の見直し、期末課題の作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 各授業（振り返り）課題（5%×12回）、期末課題1回（30%）。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 各授業回でのアクセス及び課題の提出状況・提出課題の分量			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筑女ネット・コースに授業の進め方、資料の閲覧期間、課題の提出期間等を掲示するので熟読してください。</li> <li>・資料の閲覧期間、課題の提出期間等を都合により変更する場合はお知らせを出します。</li> </ul>			
教科書	使用しない（授業スライド、資料をアップします）			
指定図書	水山光春 編著 『よくわかる環境教育』 ミネルヴァ書房			
参考図書	田尻由美子・無藤隆 編 『保育内容 子どもと環境 -基本と実践事例-』 同文書院 （第2版） 日本環境教育学会 編 『アクティブラーニングと環境教育』 小学館			
オフィスワーカー	筑女ネット・コースにて質問コーナーを設置	メールアドレス		

授業科目	環境共生社会【講義】		開講時期	後期
担当教員	佐々木 浩		単 位	2
授業の目的と概要	生物はそれぞれを取り巻く環境に影響を与え、影響を受けて進化して来ましたが、人間が他の生物と大きく異なる生活を始めるようになるのは、氷河期以降の話です。世界中に進出し、大型哺乳類を絶滅させながら人口を増やして行きました。特に、18世紀から19世紀にかけての産業革命以降、生産活動と人口の拡大によって各地で大きな環境問題を引き起こして来ましたが、この講義では、人間の歴史を考え、現代社会の環境問題について理解を深め、持続可能な社会を作るために、家庭、地域、会社、社会の場でどのように変えて行くべきかを考えることができるようになることを目的としています。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間とその環境との関係を歴史的に考えることができるようになる。</li> <li>・主な環境問題について、その現状を理解し、解決策を考えることができるようになる。</li> <li>・個人、NPO、企業、行政がどのように環境問題と関わっているかを説明できるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 (オンデマンド遠隔講義) カッション	講義概要説明 世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ ディスカッション	教科書を読んで何を勉強していくのかを把握する。		
第2回 (対面講義)	第1章 持続可能な社会に向けて	教科書 (1-01から03)の復習をする。		
第3回 (対面講義)	SDG s グレタさんのスピーチ ディスカッション	教科書 (1-04から05)の復習をする。		
第4回 (オンデマンド遠隔講義)	都市集中と地方過疎	講義ファイルの復習をする。		
第5回 (対面講義)	第二章 地球を知る 基礎知識	教科書 (2-1)の復習をする。		
第6回 (対面講義)	第二章 地球を知る 基礎知識 現状	教科書 (2-2)の復習をする。		
第7回 (対面講義)	地球温暖化	教科書 (3-1)の復習をする。		
第8回 (対面講義)	エネルギー	教科書 (3-2)の復習をする。		
第9回 (対面講義)	生物多様性	教科書 (3-3)の復習をする。		
第10回 (対面講義)	学内環境問題チェック	学内を調査し、レポート提出		
第11回 (対面講義)	地球環境問題	教科書 (3-4)の復習をする。		
第12回 (対面講義)	循環型社会	教科書 (3-5)の復習をする。		
第13回 (対面講義)	第3章 地域環境問題	教科書 (3-6)の復習をする。		
第14回 (対面講義)	原子力発電	教科書 (3-8)の復習をする。		
第15回 (対面講義)	各主体の役割 (NPO・NGO・CSR)	教科書 (5)の復習をする。		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% レポート4回			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1回目の講義は、オンデマンドで行います。2回目以降は対面講義となります。 個人的事情による欠席はすべて欠席扱いとなります。			
教科書	東京商工会議所. 2019. 『ECO検定 改訂7版』 日本能率協会マネジメントセンター. 2600円+税			
指定図書	東京商工会議所. 2020 . 「e c o検定(環境社会検定試験)R」公式問題集2020年版			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日 2講時	メールアドレス		

授業科目	環境政策と法律【講義】		開講時期	前期
担当教員	未定		単位	2
授業の目的と概要	<p>授業の目的は、日本の環境政策や施行されている環境法を体系的に理解することである。また、日本の環境政策・法令の背景にある公害・環境問題を的確に理解し、その解決における「政府・法令の役割」と「政府・法令の限界」を理解することである。「市場の失敗」、すなわち発生メカニズムを理解したうえで、「政府の失敗」、すなわち政府による市場の失敗の修復が可能かどうか、環境紛争の本質を紐解く。ケースメソッドの判例から環境法務現場の疑似体験を目指す。</p> <p>環境紛争の学びのために、水俣への課外演習（被害者支援NGO訪問、胎児性患者施設訪問）を予定している。</p>			
到達目標	<p>①日本の環境政策や施行されている環境法を体系的に説明することができる。</p> <p>②日本の環境政策・法令の背景にある公害問題の概要をまなび、課題について説明することができる。</p> <p>③環境問題の解決に必要なことはなにか、限界を認識したうえで、対策を考察することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	ガイダンス、環境法アプローチ		予習：環境法の意義を考えてくる	
第2回	環境民事訴訟－環境法と政策の歴史 【PBL】 【グループワーク】 【ディベート】		予習：教科書（pp14-31）を読んで理解してくる	
第3回	環境行政訴訟 【PBL】 【グループワーク】 【ディベート】		予習：教科書（pp32-51）を読んで理解してくる	
第4回	公害環境訴訟①－四大公害訴訟・水俣病（企業の責任） 【PBL】 【グループワーク】 【ディベート】		予習：教科書（pp52-70）を読んで理解してくる	
第5回	公害環境訴訟②－四大公害訴訟・水俣病（国・自治体の責任） 【PBL】 【グループワーク】 【ディベート】		予習：教科書（pp71-89）を読んで理解してくる	
第6回	損害賠償請求①－大気汚染 【PBL】 【グループワーク】 【ディベート】		予習：教科書（pp90-124）を読んで理解してくる	
第7回	廃棄物処理法－産業処理施設の差止め 【PBL】 【グループワーク】 【ディベート】		予習：教科書（pp125-138）を読んで理解してくる	
第8回	土壌汚染対策法－汚染対策と損害賠償責任 【PBL】 【グループワーク】 【ディベート】		予習：教科書（pp139-159）を読んで理解してくる	
第9回	化学物質とリスク型被害と因果関係 【PBL】 【グループワーク】 【ディベート】		予習：教科書（pp160-179）を読んで理解してくる	
第10回	都市環境問題－行政法と民事法 【PBL】 【グループワーク】 【ディベート】		予習：教科書（pp180-198）を読んで理解してくる	
第11回	環境アセスメント－環境影響評価法の特徴と問題点 【PBL】 【グループワーク】 【ディベート】		予習：教科書（pp199-219）を読んで理解してくる	
第12回	自然保護法－自然保護訴訟と原告資格・住民訴訟 【PBL】 【グループワーク】 【ディベート】		予習：教科書（pp220-256）を読んで理解してくる	
第13回	地球温暖化－温暖化防止の法的戦略 【PBL】 【グループワーク】 【ディベート】		予習：教科書（pp257-274）を読んで理解してくる	
第14回	企業と環境保全－社会的責任と法的責任 【PBL】 【グループワーク】 【ディベート】		予習：教科書（pp275-293）を読んで理解してくる	
第15回	原子力と環境問題 【PBL】 【グループワーク】 【ディベート】		予習：教科書（pp294-319）、資料（ジュゴン訴訟）を読んで理解してくる	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	30% 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% ①グループワーク貢献度15%、②講義コメント・質問15% *次回の講義開始時に回答します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*遅刻・早退・私語厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす）</p> <p>*やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで理由とともに連絡すること</p> <p>*交通機関の遅延の場合は、遅延証明に学籍番号、名前を書いて提出すること</p> <p>*病欠で病院の証明がある場合は、学生サポート班発行の欠席届けを提出した場合は考慮する</p> <p>*筑女ネット（通知、出席記録、課題提出ほか）を利用するため、常時アクセスすること</p>			
教科書	日本弁護士連合会編『ケースメソッド環境法 第3版』日本評論社			
指定図書	なし			
参考図書	倉阪秀史『環境政策論 第3版』信山社（2015）、阿部泰隆・淡路剛久編『環境法 第4版』有斐閣（2011）、溝呂木昇編『公害総論 改訂第2版』産業環境管理協会、丸善出版（2015）			
オフィスアワー	金曜3限 *事前にメールにてアポイントをとってください	メールアドレス		

授業科目	環境と企業社会【講義】		開講時期	前期
担当教員	岩崎 慎平		単 位	2
授業の目的と概要	<p>企業はしばしば大量生産・大量消費・大量廃棄（または大量リサイクル）というビジネスシステムを構築して利潤の最大化を追求しています。このシステムは、私たち生活者の意識や行動がそれを受容してきたからこそ成立したといえるでしょう。この授業では、企業社会の中で、生活者として環境と調和した生活を送るための術を、また、独立した個人として持続可能な社会の実現に寄与するための術を身につけます。前半では、企業社会と生活者との結びつきで抱える環境問題をエネルギー、食糧、水、商品、集合行為の観点から学習します。後半では、環境に配慮した行動のメカニズムを学び、自分自身の普段の行動を振り返ります。最後に、人を動かす環境デザインの手法や事例を紹介して、身の回りで起きている環境課題を解決するためのアイデアを発表し合うことにより、持続可能な社会に向けたデザインを学びます。</p>			
到達目標	<p>授業を通して、以下の3つの資質・能力を身につける。</p> <p>(1) 企業社会が環境に与える影響の現状および分析手法、そして課題解決のための諸手法および理論を具体的に説明することができる。</p> <p>(2) 環境課題を解決するためのアイデアを身につけることができる。</p> <p>(3) 持続可能な社会の実現に寄与するための術を列挙することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第1回 ガイダンス			これまでの自分の環境配慮行動について考える。	
第2回 企業社会とエネルギー			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第3回 食糧と地球環境			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第4回 水の消費と貿易			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第5回 廃棄物と3Rの実践			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第6回 消費と環境情報			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第7回 環境配慮行動			授業内容をもとに自分の環境配慮行動を振り返って説明する。	
第8回 経済人モデル			授業内容をもとに自分の環境配慮行動を振り返って説明する。	
第9回 限定合理性とヒューリスティクス			授業内容をもとに自分の環境配慮行動を振り返って説明する。	
第10回 環境配慮行動変容のデザイン1			授業内容をもとに自分の環境配慮行動を振り返って説明する。	
第11回 環境配慮行動変容のデザイン2			授業内容をもとに自分の環境配慮行動を振り返って説明する。	
第12回 ナッジ：感性に訴える行動変容			授業内容をもとに自分の環境配慮行動を振り返って説明する。	
第13回 仕掛学			授業内容をもとに自分の環境配慮行動を振り返って説明する。	
第14回 コモンズの実践			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第15回 自然を活かした環境経営			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	100% 授業の終わりに理解度を確認する小レポートおよび数回のレポート課題を実施します。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>欠席回数が5回を超えた場合は、受験できません。授業の冒頭や終わりに、理解度を確認するレポートや小テストなどを実施します。①授業内容に関係のない私語、②相手以外に聞こえる音量での私語、③授業中のスマートフォン・携帯電話の使用、④授業中の食事、は禁止します。違反を見つけた場合は、受講態度から減点します。</p>			
教科書	なし。オンライン資料に基づいて授業を進めます。			
指定図書	なし。			
参考図書	参考文献は授業中に紹介するが、例えば広瀬幸雄(1995)『環境と消費の社会心理学：共益と私益のジレンマ』名古屋大学出版会、中田哲也(2007)『フード・マイレージ：あなたの食が地球を変える』日本評論社など			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	環境と経営【講義】		開講時期	後期
担当教員	岩崎 慎平		単 位	2
授業の目的と概要	<p>経済のグリーン化を実現するためには、事業者が単なる利潤追求だけではなく、環境に配慮した経営をどれほど行っているのかが問われています。</p> <p>この授業では、事業活動に伴う環境問題の歴史の変遷を概観するとともに、持続可能な消費と生産を促進するための環境経営のあり方について具体例とともに説明します。</p> <p>前半では、事業活動によって引き起こされた環境問題を時系列で学習するとともに、人間活動が持続可能性とはすでに遠のいていくことを理解します。</p> <p>後半では、事業者による環境経営の実践例とマネジメントを学び、そして環境経営の先進事例を自身で調べてもらいます。また、テーマ別（エネルギー、廃棄物）に着目して、環境に配慮した事業活動を学びます。最後に、人を動かす環境デザインの手法や</p>			
到達目標	<p>① 企業・大学の「環境報告書」から環境経営を評価することができる</p> <p>② 経営で求められる持続可能な発展に向けた歴史的経緯、現状と取組を理解できる</p> <p>③ 環境ソリューションのデザインを提案できる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>(4) -①-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第2回 公害			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第3回 地球環境問題			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第4回 環境収容力			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第5回 サステナビリティ			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第6回 企業の社会的責任			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第7回 環境マネジメントシステム			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第8回 環境コミュニケーション			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第9回 環境コミュニケーション（課題演習）			事例収集・分析、プレゼン準備	
第10回 環境コミュニケーション（課題発表）			プレゼン発表	
第11回 エネルギーマネジメント			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第12回 廃棄物マネジメント			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第13回 環境配慮行動促進に向けたエコデザイン			授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第14回 エコデザイン（課題演習）			事例収集・分析、プレゼン準備	
第15回 エコデザイン（課題発表）			プレゼン発表	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% 授業の終わりに理解度を確認するレポートを実施します。			
小テスト等	0%			
成果発表	60% 第10回と第15回の授業において発表会を開催します。			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>欠席回数が5回を超えた場合は、受験できません。授業の終わりに、理解度を確認する小レポートを実施します。</p> <p>授業は遠隔授業（リアルタイムとオンデマンドの併用）で行います。</p> <p>リアルタイムの授業（第1回・第9回・第10回・第14回・第15回）</p> <p>オンデマンドの授業（第2回～第8回、第11回～第13回）</p> <p>授業内容の詳細はコース「環境と経営」に掲載します。</p>			
教科書	なし。配布する資料に基づいて授業を進めます。			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスワーク	遠隔授業のためメールにて対応	メールアドレス		

授業科目	環境と文明【講義】		開講時期	後期
担当教員	速水 良晃		単位	2
授業の目的と概要	約200万年前にアフリカに出現したヒト属の中で現生人類の祖先は、100万年前頃から世界各地へ広がっていき、狩猟採集生活の中で野生植物の利用技術などを高めていくことにより農業を発達させ、食糧確保と同時に集団としての定住社会が発達していった。食物連鎖の頂点に立つ人類は、食糧問題を農業生産によって回避し、更なる人口増加を生み出し、それらの結果として人口の集中した地域に高度な文明が発生した。約1万年前の「農業の発明」や約200年前からの「工業化の加速」が、自然生態系の改変や破壊を引き起こしていることを学び、今後の人類の進むべき道を探る。			
到達目標	① 人類史の変遷における文明の興亡と地球環境の関係を、具体的に説明することができる。 ② これまでの主な文明の興亡の背景としての自然環境や発生した環境問題を説明することができる。 ③ 現代文明と環境問題の関係を、科学的に説明することができる。 ④ 現代文明における環境問題の根源を科学的に分析し、何らかの改善策を検討できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧の「基本事項」の「単位」を参照してください。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業の進め方、質問づくりの目的と方法	復習、(歴史は・・・) pp. 7-20への質問、重要質問3つの選択、予習レポート		
第2回	「歴史は実験できるのか」プロローグ	復習、(緑の世界史) pp. 7-18への質問、重要3つの選択、予習レポート		
第3回	「緑の世界史」イースター島の教訓	復習、pp. 23-36への質問、重要3つの選択、予習レポート		
第4回	「歴史は実験できるのか」第1章ポリネシアの島々を文化実験する(1)	復習、pp. 36-47への質問、重要3つの選択、予習レポート		
第5回	第1章ポリネシアの島々を文化実験する(2)	復習、pp. 48-58への質問、重要3つの選択、予習レポート		
第6回	第1章ポリネシアの島々を文化実験する(3)	復習、pp. 61-72への質問、重要3つの選択、予習レポート		
第7回	第2章アメリカ西部はなぜ移民が増えたのか(1)	復習、pp. 72-85への質問、重要3つの選択、予習レポート		
第8回	第2章アメリカ西部はなぜ移民が増えたのか(2)	復習、pp. 86-96への質問、重要3つの選択、予習レポート		
第9回	第2章アメリカ西部はなぜ移民が増えたのか(3)	復習、pp. 99-111への質問、重要3つの選択、予習レポート		
第10回	第3章銀行制度はいかにして成立したか(1)	復習、pp. 111-126への質問、重要3つの選択、予習レポート		
第11回	第3章銀行制度はいかにして成立したか(2)	復習、pp. 129-144への質問、重要3つの選択、予習レポート		
第12回	第4章ひとつの島はなぜ豊かな国と貧しい国にわかれたか	復習、pp. 147-160への質問、重要3つの選択、予習レポート		
第13回	第5章奴隷貿易はアフリカにどのような影響を与えたか(1)	復習、pp. 160-171への質問、重要3つの選択、予習レポート		
第14回	第5章奴隷貿易はアフリカにどのような影響を与えたか(2)	復習、pp. 171-183への質問、重要3つの選択、予習レポート		
第15回	第5章奴隷貿易はアフリカにどのような影響を与えたか(3)、まとめ、授業評価	全体の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	45% 毎回の「3つの質問」についての予習内容(選択理由、予習レポート内容、受講上の留意点に合致していること)、40% 最終レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 毎回の「独自の質問」の数			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業(月曜)日に提示される資料を読んで理解を深め、新たな疑問については「質問窓口と回答」というフォーラムに投稿する。資料の最後に書かれている翌週の内容に関する「質問の焦点」を基に、月曜日の内に「独自の質問」を投稿する。火曜日に発表された全員の質問の中から、重要と考えられる質問3つを選び、選択理由を火曜日の内に投稿する。水曜日に多数決で決定・発表された「3つの質問」について、金曜夜までに予習レポートを提出する。			
教科書	J. ダイアモンド、J. A. ロビンソン 編著、小坂恵理 訳、「歴史は実験できるのか」、慶応義塾大学出版会、クライブ ポンティング 著、石 弘之(京都大学環境史研究会) 訳、「緑の世界史(上・下)」、朝日選書(絶版、ファイル配			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業終了後、またはメールで相談	メールアドレス		

授業科目	環境マネジメント【講義】		開講時期	後期
担当教員	篠崎 真美		単位	2
授業の目的と概要	<p>授業の目的は、環境経営の基本的フレームワークである“環境マネジメントシステム（エコアクション21・国際標準環境規格ISO14001）”により、企業がどのようなライフサイクル（エコ商品の開発、生産管理、取引先管理、製造など）を通じ環境問題を管理しているかを理解し、身近な環境プロジェクトを立案する実践力を養うことである。</p> <p>授業では環境マネジメントに必要な基礎的知識を習得し、後半では本学の学内エコツアーにてエネルギー調査を行い、省エネエコ活動プロジェクトの企画、実施、成果物を作成する。</p>			
到達目標	<p>①環境マネジメントシステムISO14001の実施計画から環境影響評価と環境側面抽出ができる。</p> <p>②環境プロジェクトの立案（課題抽出・解決方法の提案）ができる。</p> <p>③必要なデータの入手、データ分析、調査（インタビュー、実地調査）、報告書をまとめることができる。</p> <p>④省エネエコ活動プロジェクトの成果物を完成することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。【課題探究力】</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は企業内環境対策実務経験のある教員が担当しており、実務経験と環境学研究により『授業の目的と概要』記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス・地球環境問題情勢（SDGs、気候変動、エネルギー問題）	復習：日本のエネルギー課題について調べてくる		
第2回	環境マネジメントシステムの概要	復習：環境マネジメントシステムの概要をまとめる		
第3回	（講義）環境報告書（サステナブル報告書）のケース学習	復習：各人が興味ある企業の「環境報告書」を調べ、発表資料PPを作成		
第4回	環境報告書調査発表・学習 *履修者数によって数回の授業をあてがう	復習：発表資料PP作成・発表練習		
第5回	環境報告書調査発表・学習 *履修者数によって数回の授業をあてがう	復習：発表資料PP作成・発表練習		
第6回	訪問企業選定・「環境報告書」分析・インタビュー項目（環境パフォーマンス）作成	復習：フィールドワーク準備		
第7回	フィールドワーク：企業訪問・インタビュー *履修者で日程調整を行う	復習：インタビュー報告書作成（A4枚程度、規定フォーマット）		
第8回	環境プロジェクト演習①：省エネルギーエコ活動プロジェクト（節減活動プロジェクト企画）学内エコツアー（予定）	復習：調査方法を考えてくる		
第9回	環境プロジェクト演習②【PBL】 筑紫女学園大学内のエネルギー調査：省エネパトロール【課題探求型】	グループワークの課外作業：必要なデータはなにか整理する		
第10回	環境プロジェクト演習③【PBL】【グループワーク】 データ分析・成果物作成【可視化による意識改革】	グループワークの課外作業：データ分析		
第11回	環境プロジェクト演習④【PBL】【グループワーク】 成果物製作	グループワークの課外作業：成果物製作		
第12回	環境プロジェクト演習⑤【PBL】【グループワーク】 成果物製作・貼付作業	グループワークの課外作業：成果物製作・貼付作業		
第13回	環境プロジェクト演習⑥【PBL】【グループワーク】 学内エコ活動実践（成果物による意識改革・啓発活動）	グループワークの課外作業：成果発表PP作成		
第14回	環境プロジェクト演習⑦【PBL】【グループワーク】 学内エコ活動実践の成果発表PP作成	グループワークの課外作業：成果発表PP作成		
第15回	環境プロジェクト演習⑧【PBL】【グループワーク】（まとめ）	グループワークの課外作業：ディスカッション		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%（①インタビュー項目作成20%、②フィールドワーク報告レポート20%）			
小テスト等	なし			
成果発表	30%（①環境報告書概要発表15%、②成果物15%）			
受講態度他	30%（授業の積極的参加：討議や演習への貢献度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす）</p> <p>やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで理由とともに連絡すること</p> <p>交通機関の遅延の場合は、遅延証明に学籍番号、名前を書いて提出すること</p> <p>病欠で病院の証明がある場合は、学生サポート班発行の欠席届を提出した場合は考慮する</p> <p>筑女ネットを利用（通知、資料（テキスト・参考資料）置き場、課題提出、出欠票など）のため、常時アクセスすること</p>			
教科書	プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	木曜日2講目 *必ず事前にメールにて訪問日時を相談して下さい	メールアドレス		

授業科目	関係行政論【講義】		開講時期	前期
担当教員	日高(崇)・山崎(安)・高木(佳)・八谷(俊)・瀬里(徳)		単位	2
授業の目的と概要	公認心理師として臨床活動を行う際に必要とされる法律や施策、その基盤となる考えについて理解を深めることを目的とする。心の支援に関する専門家の養成と質を保持するために公認心理師法が制定され、さらに心の健康に関する課題が複雑化する社会において、重要な法律の制定や条文の内容にも反映されるようになってきた。公認心理師が心の支援を行うときには、多職種の専門家等との連携も必要であり、多様な人々の活動の基盤となる仕組みやそれらの取り組みの歴史的経緯などを法律や制度の紹介を通じて明らかにする。			
到達目標	①心の支援に関する全体像を法律や制度の観点から把握することが出来る ②保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業の5分野における法律や制度を理解し、具体的な役割を説明することが出来る ③法律や制度を活用し、多職種の専門家らと協働することについて具体的に述べる事が出来る			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	公認心理師に必要な法律や制度の基本／日高	テキスト1章の復習		
第2回	公認心理師の法的立場と多職種連携／日高	テキスト2章の復習		
第3回	保健医療分野に関する法律・制度① 医療全般／日高	テキスト4章の復習		
第4回	保健医療分野に関する法律・制度② 精神科医療／日高	テキスト5章の復習		
第5回	保健医療分野に関する法律・制度③ 地域保健・医療／日高	テキスト6章の復習		
第6回	産業・労働分野における法律・制度／日高	テキスト14章の復習		
第7回	福祉分野における法律・制度① 児童福祉／瀬里	テキスト7章の復習		
第8回	福祉分野における法律・制度② 障害者・障害児福祉／山崎	テキスト8章の復習		
第9回	福祉分野における法律・制度③ 高齢者福祉／山崎	テキスト9章の復習		
第10回	教育分野における法律・制度①／八谷	テキスト10章の復習		
第11回	教育分野における法律・制度②／八谷	テキスト10章の復習		
第12回	教育分野における法律・制度③／八谷	テキスト10章の復習		
第13回	司法・犯罪分野における法律・制度① 刑事／高木	テキスト11章の復習		
第14回	司法・犯罪分野における法律・制度② 家事／高木	テキスト12章の復習		
第15回	司法・犯罪分野における法律・制度③少年非行／高木	テキスト13章の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 5分野それぞれについて的小レポート作成または小テストを実施			
小テスト等	50% 5分野それぞれについて的小レポート作成または小テストを実施			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	オムニバス形式での授業であり、授業の順番や授業時間帯が変更になる可能性があるため、掲示や授業中の指示をよく聞いて確認すること。			
教科書	元永拓郎 編 「関係行政論」 遠見書房			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業時に周知	メールアドレス		



授業科目	観光学【講義】		開講時期	前期
担当教員	大江 英夫		単位	2
授業の目的と概要	2003年日本国政府の観光立国宣言以来、九州でも各地方自治体でも観光を重要な主幹産業としてとらえて、その関連産業の発展を促進させる動きが活発化している。そのような環境下、観光についての理解を深めることは現代社会学部に学ぶ学生として大事な要件と考えられる。 この講義では観光の歴史や、観光が国や地域に与える影響や効果を学ぶ。 さらには訪日外国人の増加による影響やその対策、外国訪問による体験で異文化を理解していくことで、観光が「平和産業」とも言われる所以を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観光が人々にもたらす効果について説明できる。</li> <li>2. 「観光」の誕生及び「ツーリズム」について説明することが出来る。</li> <li>3. これからの観光のあるべき姿について語る事ができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	講義についてのオリエンテーションを行う。受講学生の観光についてのアンケートで、旅行経験、観光についての基礎知識、出身地についての理解度などを図る。	これまでの旅行体験、深く記憶に残る旅行などを振り返る。		
第2回	現在何故観光が注目されているか、その背景と観光が社会にもたらす効果について考察する。	何故人は観光に出かけるのか、自分または身近な人々を事例に考える。		
第3回	観光学のキーワードを学ぶことにより、観光をより深く理解するようになる。	「観光」という言葉から連想することを考えておく。		
第4回	観光を構成する要素と観光事業の仕組み。	大宰府市も観光地とされるが、人が訪れる理由や関係する事業など考察する		
第5回	観光客が訪れる観光対象は何か、それをどのように観光資源としたかなどを学ぶ。	大宰府、福岡、九州の観光資源について考える。		
第6回	観光産業の種類と観光ビジネスの特徴。	観光産業に含まれる業種を考えておく。		
第7回	観光ビジネス ①旅行業について学ぶ。	どのように旅行業が始まったか、また現在も存在する理由などを考えておく		
第8回	観光ビジネス ②宿泊業について学ぶ。	ホテルと旅館のどちらが好きかそれは何故か、2つの違いは何かを考える。		
第9回	観光ビジネス ③交通運輸業について学ぶ。	移動の手段が利用を目的となってきたのは何故か等を考えておく。		
第10回	観光ビジネス ④テーマパーク、スキー場、展示施設などについて学ぶ。	九州国立博物館がどのような工夫をしてその魅力を増しているか等考察する		
第11回	観光の効果的な発信の重要性と効果などを学ぶ。	大宰府市坂本八幡宮に多くの参拝客が訪れる理由などを考えておく。		
第12回	観光政策と観光行政について学ぶ。	大宰府が観光促進のため何をしているかを観察しておく。		
第13回	観光マーケティングについて学ぶ。	国が促進するDMCとは何か調べておくこと。		
第14回	旅の歴史とこれからの旅行について学ぶ。	団体旅行から個人旅行、観光旅行からサステイナブルツーリズムは何故か。		
第15回	国際社会と観光を学びインバウンドによる異文化理解の意義を学ぶ。	最近話題になるハラル料理とは何か考えておく。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 毎回の講義に関しての理解度レポートと、観光に関する新聞記事に関してのコメントを求めます。			
小テスト等	%なし			
成果発表	30% 最終回到講義全体についての学んだこと、役立ったこと、不足だと思ったことなどについてコメントを求めます。			
受講態度他	10% 提出期限や学びに対する姿勢などを評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	初回の講義において、観光に関するアンケートを行います。初回出席できない学生にはネットでの回答を求めますので必ず事前に連絡下さい。座席は原則指定として指定席としますので予め理解しておいてください。 学生の理解度や関心度に応じて、シラバスの順番が変わることもあります。 3月25日26日に開催のJTBによるツアーガイド体験講座を受講することが望まれる。観光に関する広い視野を持つ一助となります。			
教科書	毎回資料を配布します。			
指定図書	「観光学基礎」JTB総合研究所			
参考図書	「観光学ガイドブック」ナカニシヤ出版 大橋昭一他共著 観光学キーワード」有斐閣双書、山下晋司著			
オフィスアワー	講義後の時間	メールアドレス		

授業科目	観光政策・行政論【講義】		開講時期	後期
担当教員	大江 英夫		単位	2
授業の目的と概要	<p>この講義では、主として日本の国と自治体における観光政策・行政について学ぶこととする。日本は観光政策・行政においては欧米に比べて先進国とは言えないが、近年観光業を主要産業として位置づけ、2003年の観光立国宣言、2007年の「観光立国推進基本法」制定、2008年の観光庁発足等により、遅れを取り戻そうとした。オリンピックが予定されていた2020年は大きな伸びが期待されていたが、コロナ問題で観光業界は逆境にある。</p> <p>九州でも7県と九経連が九州戦略会議で観光戦略を策定し2005年に「九州観光推進機構」を設立し、九州一体として観光開発を行っている。特に大学の所在地である大宰府市で新元号「令和」ゆかりの里であることからの訪問客の伸びが期待されていた。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国、九州、福岡県の観光政策・計画の概要・特徴についての概要を理解し、説明することが出来る。</li> <li>2. 観光施策と連携した民間の取り組み事例の概要について理解し、説明することが出来る。</li> <li>3. 太宰府市の観光施策について学ぶ。 特に新元号「令和」と坂本八幡、並びに新しく跡地が整備された「客館跡」の意義を理解し、大宰府の魅力を語る事が出来るようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業全体の解説と世界の観光の発展の歴史 アンケートを取り、学生の志向を把握することとする。	自分の観光についての経験をまとめておくこと。		
第2回	*我が国における観光行政・政策の芽生え *訪日客誘致のための「喜賓会」などの設立について学ぶ	江戸時代旅はどのようなものであったか考察しておくこと。		
第3回	*鉄道省国際観光局の設置と日本の観光政策・行政の展開 *戦争の長期化による観光政策の変遷	国際観光局に関しての資料を読んでおくこと		
第4回	*第二次世界大戦後における地域経済の変化 *都市・地域政策としての観光の重視について学ぶ。何故観光が重視されてきたかを考察する	都市・地域政策に関しての資料を読んでおくこと		
第5回	*総合行政としての観光行政の重要性を学ぶ 併せて観光は幅広い分野に跨る政策が必要となることを理解する	観光行政が総合行政であるとの意味を考えておくこと。		
第6回	*第二次世界大戦後における国の観光行政の復活 *その後の観光行政の歩み	第二次大戦前と後との違いについて考察をしておくこと		
第7回	近年における日本の観光計画・観光政策の策定とその展開その1 ①海外旅行倍償計画 ②「国際コンベンション・シティ」の策定	事前配布資料を読んでおくこと		
第8回	観光計画・観光政策の策定その2 ①90年代観光振興行動計画の推進②観光交流拡大計画	国の観光政策に関する事前配布資料を読んでおくこと		
第9回	観光計画・観光政策の策定その3 ①「コンベンション法」の策定と国際コンベンションの振興②訪日外客数の増加と「ウェルカムプラン21」の提言	訪日外国人数の増加に伴う利点と課題について考えて発言出来るよう準備		
第10回	ビジットジャパンキャンペーンの展開 ①観光立国に向けた主な動き②観光立国行動計画の主要な事業③自治体の取り組み事例	VJCとは何か調べておくこと。		
第11回	九州観光推進機構の設立の背景と組織運営 *計画と成果 2005年～2016年までの歩み *九州の魅力と弱点を討議する	機構についてのホームページを読んでおくこと		
第12回	福岡県の観光計画・観光政策 *観光連盟と県内の組織との関係	福岡県の観光ホームページを読んでおくこと		
第13回	太宰府市の観光計画・観光政策 *基本計画策定のプロセスをしり行政の観光振興政策を学ぶ。	太宰府についての観光ホームページを読んでおくこと。		
第14回	太宰府市の観光施策について課題を知り改善に向けて考察する。	太宰府市への提言を準備する。		
第15回	講義の総括と提言の発表	最終発表案を準備する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	20% 試験は実施しませんが、最終回のレポートの提出を求めます。主として、この講義で新しく学んだことや最も印象的な課題などを記載することを求めます。			
レポート	60% 毎回の課題に対する理解度レポートで評価する。15回 x 4点で評価します。			
小テスト等	実施しません。			
成果発表	10% 太宰府市の観光政策に対するコメント及び改善策を求めます。			
受講態度他	10% 質問などで積極的な取り組み姿勢を見せてくれる学生は評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義はオンデマンド型とします。毎回の課題の提出は金曜日24時までとします。			
教科書	特定教科書は設定せず、配布する資料を利用する。毎回資料を配布します。			
指定図書	中尾清著「自治体の観光政策と地域活性化」 イマジン出版			
参考図書	寺前秀一著「観光政策論」 原書房 出版			
オフィスアワー	講義後の時間	メールアドレス		

授業科目	観光文化論【講義】		開講時期	後期
担当教員	岩井 朝子		単位	2
授業の目的と概要	本授業は、観光文化の歴史、観光を作り出す仕掛け、様々な観光文化の形態について知識を深め、考察することを目的とする。観光立国を目指す日本にとって、将来、新しい観光文化を提案し、創造することのできる人材は不可欠です。授業では、観光客の需要や旅行形態の変化、観光文化の形成について考察し、これからの観光文化の担い手に必要な基本的な知識の習得を目指します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 観光が人にもたらす効果について説明できる</li> <li>2 観光事業の仕組みについて説明できる</li> <li>3 観光ビジネスの特性について説明できる</li> <li>4 観光文化の情報に常にアンテナを張り、最新情報を収集できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	現代社会と観光の関わり オリエンテーション	今までの旅行体験について振り返る		
第2回	第1章 観光を学ぶ意義と観光の様々な効果	観光が人にもたらす効果について考える		
第3回	第2章 観光に関わる言葉	観光という言葉の語源について調べる		
第4回	第3章 観光のしくみ	観光地として成立する条件について考える		
第5回	第4章 観光資源と観光対象	九州の観光資源について考える		
第6回	第5章 観光産業の構成と特徴 ワークーション	ワークーション with コロナ after コロナの観光のニューノーマル		
第7回	第6章 様々な観光ビジネス 旅行業	旅行業の将来について考察する		
第8回	第7章 様々な観光ビジネス 宿泊産業	ホテルと旅館の違いについて調べる		
第9回	第9章 様々な観光ビジネス テーマパーク	テーマパークと遊園地の違いについて調べる		
第10回	ディズニーランドの巡礼観光	ディズニーランドのマーケティング戦略について調べる		
第11回	第10章 観光と情報	効果的な観光情報の発信・提供方法について考える		
第12回	第11章 観光政策と観光行政	日本の最新の観光政策について調べる		
第13回	第12章 観光のマーケティング	観光商品にマーケティングを応用する際の注意点を考える		
第14回	第13章 旅の歴史とこれからの旅行	観光の歴史について調べる		
第15回	新しい観光 サスティナブルツーリズム	エコツーリズムとグリーンツーリズムの違いについて調べる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 建設的で積極的な授業内での発表など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には前回の復習を行ってから参加すること。また上記以外の課題を授業内で指定することもあり得る。			
教科書	観光学基礎 観光に関する14章 JTB総合研究所			
指定図書	なし			
参考図書	『観光概論』JTB総合研究所			
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	韓国語Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	羅(義)・朴(順)・鄭(美)・慎(順)・姜(昌)・辛(貞)・黄(聖)・金(智)		単位	1
授業の目的と概要	本講義では、初心者を対象にし、韓国語の読み方と単語、基本文型などの基本知識を習得し、日常生活に必要な会話と聴き取りを中心とするコミュニケーション能力の基礎作りを目指します。さらに、視聴覚教材や資料を取り入れて、韓国の文化や諸事情を紹介することにより、韓国をより一層理解できるようになることを目的とします。 授業概要：基本的にはテキストに沿って行いが、必要に応じては参考資料を配ることもあります。前期には、時間をかけて正確な発音が自然に身に付くように、二人一組で基本会話を中心に繰り返し練習し、文字と発音(発音法則)に慣れていくことに重点を置きます。			
到達目標	①韓国語の文章構造が理解でき、韓国語を読むことができる。 ②基本語彙と文型、文法を学習し、短文を作ることができる。 ③基本的な挨拶や簡単な会話、自己紹介ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス・韓国語の概略 1. 母音字母 (1) 基本母音 P10-12	「予習(教科書P13-14)」		
第2回	1-(2) 複合母音 P13-14	「予習(教科書 P17-18、P25)」		
第3回	2. 子音字母 (1) 基本子音 P18、P21、P23 / 有声音化	「予習(教科書 P19-20、P22、P24)」		
第4回	2-(2) 複合子音 P19 / 4. 激音・濃音・平音 P19、P20、P26	「予習(教科書P27-32)」		
第5回	3. 激音・濃音・平音復習/パッチム P27-32/P33-37	「予習(教科書 P38-39、/連音化 P40-41)」		
第6回	5. 日本語のハングル表記 P38-39 / 連音化 P40-41	「予習(H)の弱音化・無音化 P42-43 / 口蓋音化 P50)」		
第7回	発音の復習(挨拶言葉) / 濃音化・激音化・鼻音化復習	「予習(教科書 P58-67)」		
第8回	第5課 自己紹介(名詞+です・疑問文) P58-64	「課題(教科書 P65-66)」 「予習(教科書 P68-74)」		
第9回	第6課 彼氏ではありません。(～が/否定文/～も) P68-74	「課題(教科書 P75-76)」 「予習(教科書 P78-82)」		
第10回	第7課 サッカーが好きです。(～です・ます/助詞～で、～から、～を) P78-82	「復習(教科書 P78-82)」 「予習(教科書 P83-88)」		
第11回	第7課 サッカーが好きです。(助詞～に、～へ、～に/用言+～です・ます) P83-88	「課題(教科書 P89-90)」 「予習(教科書 P92-95)」		
第12回	第8課 このケーキ本当に美味しいです!(指示代名詞、漢数字) P92-97	「復習(教科書 P92-97)」 「予習(教科書 P98-102)」		
第13回	第8課 このケーキ本当に美味しいです!(過去・現在・未来を表す語/用言+～です・ます) P98-102	「課題(教科書 P103-104)」 「予習(教科書 P106-111)」		
第14回	第9課 一緒に行きましょう。(用言+～ますの縮約形/固有数字) P106-111	「復習(教科書 P106-111)」 「予習(教科書P112-117)」		
第15回	第9課 一緒に行きましょう。(時刻) P112-117	全講義の復習・テスト準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% (課題提出)			
小テスト等	なし			
成果発表	20% (音声ファイル提出)			
受講態度他	30% (授業への参加度、積極性などを考慮する)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①予習は必ずCDを聴きながら、文章と発音に慣れることが重要です。 ②復習はCDを聴きながら、授業中習った内容を完璧に暗記することにより、次のステップアップが出来ます。 ③韓国への交換留学を考えている学生は、ぜひ韓国語能力試験を受けることにしましょう。級別に単位も認められるだけでなく、留学生の選抜試験の条件にもなっています。韓国語能力試験は、年に3回(4月、7月、10月)に行われます。 ④課題提出日をしっかりと守ること。			
教科書	崔柄珠著 『おはよう 韓国語1』 (朝日出版) 2014年1月			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日10:40~11:00	メールアドレス		

授業科目	韓国語Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	慎(順)・朴(順)・鄭(美)・羅(義)・姜(昌)・黄(聖)・辛(貞)・金(智)		単位	1
授業の目的と概要	<p>前期に続き、後期では「韓国語Ⅰ」で学習した表現を活かし、より実践的な場面を設定すると共に、韓国人とのコミュニケーションが取れる会話中心の楽しい授業を目指すことを目的とします。主に、日常会話の内容を通して韓国社会の文化・習慣などに触れ、多様化する現在の韓国社会の様子や文化の違いを会話と共に楽しむことを目指します。「韓国語Ⅱ」を通して、グローバル化する現代社会の中で、自ら国際人としての円満な対人関係能力を身に付けるため積極的な自己挑戦を目指します。</p> <p>概要：韓国語は日本語の語順や文法と大変似ていることから覚えやすいです。最近では韓国のドラマや音楽などで韓国語に触れる機会が多いです。しかも日本から近い国である韓国を知ることによって、より豊かな情報を獲得すると共に、将来、社会に貢献できる幅広い活躍のチャンスを見つけることができます。尚、韓国語能力試験の情報や、韓国の諸事情を総合的に取り入れながら講義を行います。</p>			
到達目標	<p>①動詞・形容詞を活用してより豊かな表現を学習して身に付けること。  ②丁寧形や会話体を学習し、趣味・食べ物・注文・日常生活・買い物・乗物の乗換えなどを表現することができる。  ③連音化・激音化・濃音化・鼻音化など終声の発音をよく理解し、正しく自分の意思を他人に伝えることができる。  ④単語の終声表記・用言変化・時制変化・尊敬表現をよく理解し、短文を正しく書き、聞き取りや会話ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション：オンデマンド型で授業実施(筑女ネット科目コースで確認すること)	「スピーチコンテストの準備」		
第2回	第5課 <趣味がなんですか?>：P70-75 本文、趣味について、「を」助詞、会話練習：P76-79	「復習(教科書 P77、P79)」「スピーチコンテストの準備」		
第3回	第6課 <スンドゥップとテンジャンチゲ下さい>：80-85 本文、料理について、「～したい」表現、会話練習	「復習(教科書 P82-83)」「予習(教科書 P87、P89)」		
第4回	第6課 課題1, 2, 3 読み・書き・聞きについて：P86-89	「復習(教科書 P87、P89)」・「韓国童謡を歌う、歌詞を覚える」		
第5回	第7課 <家で休みました>：P90-95 本文、日常について、過去形表現、会話練習	「復習(教科書 P92、P93)」「予習(教科書 P97、P99)」		
第6回	第7課 課題1, 2, 3 読み・書き・聞きについて：P96-99 ※10月4日(日)を振替日にする。－韓国語スピーチコンテスト開催日－	「復習(教科書 P99)」		
第7回	第5, 6, 7課の単語や会話を全般的に復習	「復習(教科書 P99)」		
第8回	第8課<デパート正面入口の前で3時に会いましょう>：P100-105 本文、日課について、「～で～ましょうか」表現、会話練習	「復習(教科書 P102-P103)」		
第9回	第8課 課題1, 2, 3 読み・書き・聞きについて：P106-109	「復習(教科書 P109)」・「韓国童謡を歌う、歌詞を覚える」		
第10回	第9課 <2号線から3号線に乗換なければいけません>：P110-115 本文、乗換について、「～れば、～なければならない」表現、会話練習	「復習(教科書 P112-113)」「予習(教科書 P117、P119)」		
第11回	第9課 課題1, 2, 3：読み・書き・聞きについて P116-119	「復習(教科書 p119)」・「韓国童謡を歌う、歌詞を覚える」		
第12回	第10課 <少し大きいのを下さい>：P120-125 本文、買物、「～てみる」表現、会話練習	「復習(教科書 P122-P123)」「予習(教科書 P127、P129)」		
第13回	第10課 課題1, 2, 3：読み・書き・聞きについて：P126-129	「復習(教科書 P129)」・「K-POPを楽しむ」		
第14回	第8, 9, 10課の単語や会話を全般的に復習	「復習(教科書 P102、P107、P112、P117、P127)」		
第15回	第5～第10課の単語・読解・会話の内容を復習	全講義の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%(音声ファイルや作文など)			
小テスト等	20% (読むテスト・会話テストなど)			
成果発表	20%(音声ファイルで提出する)			
受講態度他	10% (授業への参加度、課題の発表・暗記、積極性などを考慮する)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①出席必須。  ②小テストなど全部受けること。  ③授業が効果的にできるように、LMS(e-Learningシステム)である「筑女ネット」を利用する。  ④欠席が5回を超えると評価しない。  ⑤授業中、スマートフォンの使用は減点対象とする。</p>			
教科書	毎回、作成したPDF資料またはワード資料を提示			
指定図書	なし			
参考図書	電子辞書、ポータブル『日韓辞典』・『韓日辞典』三修社			
オフィスアワー	火曜日 10:40～11:00	メールアドレス		

授業科目	韓国語Ⅲ【演習】		開講時期	前期
担当教員	羅 義圭・未定		単位	1
授業の目的と概要	<p>基礎的な意思疎通に基づいて、短い期間で韓国で起こりそうな日常生活に必要な機能と課題などに焦点を当てて学習を行います。さらに、「韓国語ⅠとⅡ」で学んだ語彙と文法を基礎にしてもう少し多様な語彙と表現などを活用できるようにします。</p> <p>概要：最近では韓国のドラマや音楽などで韓国語に触れる機会もあり、独学で韓国語を勉強している人も増えています。しかも日本から近い国である韓国を知ること、より豊かな情報を獲得すると共に、将来、社会に貢献できる幅広い活躍のチャンスを見つけることができます。尚、韓国語能力試験の情報や、韓国の諸事情を総合的に取り入れながら講義を行ないます。</p>			
到達目標	<p>①もう少し複雑な文型の学習により豊かな表現を勉強して身に付けること。</p> <p>②丁寧形や会話体を学習し、食べ物の注文・提案・約束・返品・要求などを表現することができる。</p> <p>③連音化・激音化・濃音化・鼻音化など終声の発音をよく理解し、正しく自分の意思を他人に伝えることができる。</p> <p>④単語の終声表記・用言変化・時制変化・尊敬表現をよく理解し、長文を正しく書き、聞き取りや会話ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション； 韓国語の文章構造及び文型について説明	「予習(教科書 P16-19)」 「スピーチコンテストの準備」		
第2回	第1課 <韓国に来て6ヶ月が経ちました>：P16-19 本文、あいさつ/紹介について、「～て」、会話練習	「予習(教科書 P22-25)」 「スピーチコンテストの準備」		
第3回	第1課 課題1, 2, 3：読み・書き・聞きについて：P22-25	「復習(教科書 P18-19)」 「スピーチコンテストの準備」		
第4回	第2課 <お召し上がりですか>：P26-29 本文、注文/提案について、尊敬語および命令文、会話練習	「予習(教科書 P30-35)」		
第5回	第2課 読み・書き・聞きについて：P30-35	「復習(教科書 P28-29)」		
第6回	第3課 <交通カードはどこでチャージするんですか>：P36-39 本文、交通/約束、「～します」、会話練習	「予習(教科書 P40-44)」 /夏休みの計画について発表準備		
第7回	夏休みの計画について発表①	「予習(教科書 P46-49)」		
第8回	第4課 <このカバンを返品できますか>：P46-49 本文、注文/返品、「～れる/られる」、会話練習	「予習(教科書 P50-54)」		
第9回	第4課 読み・書き・聞きについて：P50-55	「復習(教科書 P48-49)」 「予習(教科書 P56-59)」		
第10回	第5課 <禁煙席と喫煙席、どちらになさいますか>：P56-59 本文、食堂/予約、「～れない/られない」・「～でしょうか」、会話練習	「予習(教科書 P60-64)」		
第11回	第5課 読み・書き・聞きについて：P60-65	「復習(教科書 P58-59)」 「予習(教科書 P66-69)」		
第12回	第6課 <風邪を引いたみたいですね>：P66-69 本文、病気・助言、「～ようだ/そうだ」・「～しましょう」、会話表現	「予習(教科書 P70-74)」 /韓国で予約した経験について発表準備		
第13回	韓国で予約した経験について発表②	指摘された文法の間違いや発音について復習		
第14回	第6課 読み・書き・聞きについて：P70-75	「復習(教科書 P68-69)」		
第15回	第1課～第6課まで復習/定期試験について説明	全講義の復習・テスト準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% (音声ファイル提出及び書き取り練習問題)			
小テスト等	なし			
成果発表	20% (音声ファイル提出)			
受講態度他	30% (授業への参加度、課題の発表・暗記、積極性などを考慮する)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①出席必須。</p> <p>②課題提出日をしっかりと守ること。</p> <p>③教科書を持参し、授業を受けること。</p> <p>④欠席が5回を超えると評価しない。</p>			
教科書	康承惠著 『楽しく学ぶ 韓国語2』 (多楽園) 2010年4月			
指定図書	なし			
参考図書	電子辞書、ポータブル『日韓辞典』・『韓日辞典』三修社			
オフィスアワー	火曜日・木曜日 昼休み後	メールアドレス		

授業科目	韓国語Ⅳ【演習】		開講時期	後期
担当教員	金 智淑・羅 義圭		単 位	1
授業の目的と概要	<p>前期に続き、基礎的な意思疎通に基づいて、短い期間で韓国で起こりそうな日常生活に必要な機能と課題などに焦点を当てて学習を行います。さらに、「韓国語Ⅲ」で学んだ語彙と文法を基礎にしてもう少し多様な語彙と表現などを活用できるようにします。</p> <p>概要：最近では韓国のドラマや音楽などで韓国語に触れる機会もあり、独学で韓国語を勉強している人も増えています。しかも日本から近い国である韓国を知ること、より豊かな情報を獲得すると共に、将来、社会に貢献できる幅広い活躍のチャンスを見つけることができます。尚、韓国語能力試験の情報や、韓国の諸事情を総合的に取り入れながら講義を行ないます。</p>			
到達目標	<p>①もう少し複雑な文型の学習により豊かな表現を勉強して身に付けること。  ②丁寧形や会話体を学習し、買い物・推測・観光名所紹介・飛行機の搭乗などを表現することができる。  ③連音化・激音化・濃音化・鼻音化など終声の発音をよく理解し、正しく自分の意思を他人に伝えることができる。  ④単語の終声表記・用言変化・時制変化・尊敬表現をよく理解し、長文を正しく書き、聞き取りや会話ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション： オンデマンド型で授業実施(筑女ネット科目コースで確認すること)	「予習(教科書 P76-79)」		
第2回	第7課 <十萬ウォンから二十萬ウォンぐらいならいいです> : P76-79 本文、買い物/要求、「～から～ぐらいならいいです」、会話練習	「予習(教科書 P80-84)」		
第3回	第7課 課題1, 2, 3 読み・書き・聞きについて : P80-85	「復習(教科書 P78-79)」 「予習(教科書 P86-89)」		
第4回	第8課 <デパートのセールが始まるんですが、買い物に行きましようか> : P86-89 本文、約束/提案、「～しましようか」、会話練習	「予習(教科書 P90-94)」		
第5回	第8課 課題1, 2, 3 読み・書き・聞きについて : P90-95	「復習(教科書 P88-89)」 「予習(教科書 P96-99)」		
第6回	第9課 <あそこの横断歩道で停めてください> : P96-89 本文、交通/推測、「～から～でしょう」、会話練習	「復習(教科書 P98-99)」 「予習(教科書 P100-104)」		
第7回	第9課 課題1, 2, 3 読み・書き・聞きについて : P100-105	友達との約束について発表準備		
第8回	友達との約束について発表①	「予習(教科書 P106-109)」		
第9回	第10課 <3泊4日の旅行に行きたいんですが> : P106-109 本文、旅行/提案、「～しようとおもっていますが」、会話練習	「復習(教科書 P108-109)」 「予習(教科書 P110-114)」		
第10回	第10課 課題1, 2, 3 読み・書き・聞きについて : P110-115	「復習(教科書 P108-109)」 「予習(教科書 P116-119)」		
第11回	第11課 <ここが清溪川というところですか> : P116-119 本文、観光名所/紹介、「～くなりました」「～になりました」、会話練習	「復習(教科書 P118-119)」 「予習(教科書 P120-124)」		
第12回	第12課 <席は窓側をお願いします> : P126-129 本文、飛行機の搭乗/要求、「～をお願いします」「～しか～ない」、会話	「復習(教科書 P128-129)」 「予習(教科書 P130-134)」		
第13回	第12課 課題1, 2, 3 読み・書き・聞きについて : P130-135	韓国での経験について発表準備		
第14回	韓国での経験について発表②	間違った文法や発音について復習		
第15回	第7課～第12課の単語・読解・会話の内容を復習	全講義の復習・テスト準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% (練習問題、音声ファイルなど)			
小テスト等	20% (読むテストなど)			
成果発表	20% 口頭発表			
受講態度他	10% (授業への参加度、課題の発表・暗記、積極性などを考慮する)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①出席必須。  ②小テストなど全部受けること。  ③教科書を持参し、授業を受けること。  ④欠席が5回を超えると評価しない。  ⑤授業中、スマートフォンの使用は減点対象とする。</p>			
教科書	康承惠著 『楽しく学ぶ 韓国語2』 (多楽園) 2010年4月			
指定図書	なし			
参考図書	電子辞書、ポータブル『日韓辞典』・『韓日辞典』三修社			
オフィスアワー	火曜日・木曜日 昼休み後	メールアドレス		

授業科目	韓国語基礎【演習】	開講時期	後期
担当教員	羅 義圭	単位	1
授業の目的と概要	<p>「韓国語基礎」は、前期の「韓国語Ⅰ」を履修した学生の中で自分の基礎がまだ不十分で、改めて基礎を作り直したい学生のために、韓国語に必要な基本的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 韓国語で書かれている文字の読む力を身につけること</li> <li>・ 韓国への留学や旅行をするために、周囲との円滑な意見交換の基礎を身につけること</li> <li>・ 自分の考えを韓国語で書く力を身につけること</li> </ul> <p>などが含まれます。</p>		
到達目標	<p>①韓国語の構造が理解でき、韓国語を読むことができる。  ②基本語彙と文型、文法を学習し、短文を作ることができる。  ③基本的な挨拶や簡単な会話、自己紹介ができる。  ④自分について、発表を通して表現することができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。  &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション：オンデマンド型で授業実施(筑女ネット科目コースで確認すること)	「予習(自己紹介)：発表準備	
第2回	第1課 「友たちを紹介しましょう」：P34-35	「復習(会話発表準備)」	
第3回	第2課 「皆さんの友達に自分の家族を紹介しましょう」：p47	「予習(自分の家族について書いてみましょう)」：発表準備	
第4回	第2課 「会話練習1/2」：P44-45	「復習(会話発表準備/漢数字練習)」	
第5回	第3課 「自分の住んでいる町を説明しましょう」：p58	「予習(福岡でのお勧めの観光地を調べてみましょう)」：発表準備	
第6回	第3課 「会話練習1/2」：P54-55	「復習(会話発表準備)」 「スピーチコンテストの準備」	
第7回	第4課 「皆さんの1週間の日程を書いてみましょう」：p68	「予習(5月の計画表を作ってみましょう)」 「スピーチコンテストの準備」	
第8回	第4課 「会話練習1/2」：P64-65	「復習(会話発表準備/固有数字練習)」 「スピーチコンテストの準備」	
第9回	中間発表を行なう	「復習(韓国語の発音ルールのまとめ①)」：P40-49	
第10回	「自己紹介の文章を読んでみましょう①」：配布プリントp1	「復習(配布プリントp1)」：発表準備	
第11回	「自己紹介の文章を読んでみましょう②」：配布プリントp2	「復習(配布プリントp2)」：発表準備	
第12回	「お誕生日の歌を学びましょう」：「冬の子」p3	「復習(単語練習プリントp3)」	
第13回	「韓国の四季について文章を読んでみましょう」：配布プリントp4	「復習(配布プリントp4)」：発表準備	
第14回	「韓国の食事文化について文章を読んでみましょう」：配布プリントp5	「復習(配布プリントp5)」：発表準備	
第15回	「一つのテーマを決めて発表しましょう」	まとめ課題(自分の夢について書いてみよう)	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	15% (自己紹介・自分の家族・自分の住んでいる町・自分の夢)		
小テスト等	15% (読みテスト・会話テストなど)		
成果発表	40% 口頭発表		
受講態度他	30% (授業への参加度、課題の発表・暗記、積極性を考慮する)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①「韓国語Ⅰ」を履修した人、または準じるレベル(相談)を対象とする。  ②授業が効果的にできるように、LMS(e-Learningシステム)である「筑女ネット」を利用する。  ③欠席が5回を超えると評価しない。  ④授業では2人組で行う作業や作文のテーマ調べ、発表するようなことも多くなる。  ⑤授業中、スマートフォンの使用は減点対象とする。</p>		
教科書	毎回、作成したパワーポイントまたはワード資料提示		
指定図書	なし		
参考図書	崔柄珠著 『おはよう韓国語Ⅰ』 (朝日出版社) 2014年1月		
オフィスアワー	月曜日・木曜日 お昼休み後	メールアドレス	



授業科目	韓国語作文【演習】		開講時期	前期
担当教員	羅 義圭		単位	2
授業の目的と概要	<p>作文とは、韓国語の文章構造を理解するために、とても大事な作業です。言語の機能である「話す・聴く」ことは文章構造の基礎がなければ、とても難しく感じるはずですが、幸い、韓国語は日本語と語順が同じであることもあり、そこから最初は日本語でしっかり文章を練り上げ、韓国語で組み立てる作業に慣れていくと共に、日本語と韓国語の表現のズレを直訳を通して気づき、さらに「話す」能力を向上させます。</p>			
到達目標	<p>①作文力・読解力を高めることができる。  ②韓国語の文章構造の理解度を向上させることができる。  ③韓国の友だちとのSNSのやり取りや興味のある韓国の情報にアプローチすることができる。  ④韓国語能力試験(TOPIK)の基礎準備ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(3)-②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。  &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス、韓国語の基本文章づくり① 韓国についての第一印象	韓国についての第一印象文章を作る：発表準備		
第2回	韓国語の基本文章づくり② 韓国についての第一印象	発表文・音声及びまとめ		
第3回	留學生生活について	発表文・音声及びまとめ		
第4回	一日の日課を韓国語で書いて紹介	自分の行きつけの店について：発表準備		
第5回	自分の行きつけの店について	発表文・音声及びまとめ		
第6回	アジア文化学科で学んだことについて	発表文・音声及びまとめ		
第7回	「出会いを通して自分が変わった点」を発表する	発表文・音声及びまとめ		
第8回	大学で自己啓発のために取り組んでいること	発表文・音声及びまとめ		
第9回	異文化体験について	発表準備/発表文・音声及びまとめ		
第10回	自分が紹介したい本と読書の重要性について	発表文・音声及びまとめ		
第11回	語学を学ぶ目的と重要性について	発表文・音声及びまとめ		
第12回	多文化について	発表文・音声及びまとめ		
第13回	歴史を学ぶ意義について	発表準備/発表文・音声及びまとめ		
第14回	スマートフォン機器の便利性と問題点について	発表文・音声及びまとめ		
第15回	外国人受け入れの理由と問題点について	原稿用紙の書き方を練習する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 課題提出(音声ファイル提出/作文・まとめ) レポートについては次回の授業時、回収してコメントをつけて返却する。			
小テスト等	なし			
成果発表	20% (音声ファイルを提出すること)			
受講態度他	30% 授業参加の態度を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①韓国語Ⅱを履修した人、または準じるレベル(相談)を対象とする。 ②欠席が5回を超えると評価しない(就職活動、病気、その他の理由による欠席は5回の中でカウントする)。 ③授業が効果的にできるように、「Microsoft teams」を利用する。 ④発音練習のためにも、自分の書いた文章を声を出して録音して提出すること。 ⑤課題提出日をしっかりと守ること。			
教科書	「teams」での資料提示			
指定図書	なし			
参考図書	HANA韓国語教育研究会『韓国語で書き込む「わたしの本」』HANA			
オフィスワー	火曜日・木曜日 昼休み後	メールアドレス		

授業科目	韓国語能力試験対策A【演習】		開講時期	前期
担当教員	羅 義圭		単位	1
授業の目的と概要	<p>韓国での語学留学や韓国企業への就職のために、韓国語能力試験(TOPIK)の資格はとて求られています。本講義では、そのニーズに合わせ、「TOPIK I」の問題練習を丁寧に取り組むことによって、自分の苦手なところを発見し、そこから韓国語能力の向上に努めます。授業では受験対策用として作成されたリスニング・読解問題を中心のテキストを用い、「TOPIK I」の類型を把握し、実際の「TOPIK I」に準拠した問題を解くことにより、「TOPIK I」の実践感覚を身に付けることができます。さらに、語彙力強化のために、毎回単語のテストを実施します。</p>			
到達目標	<p>①基礎単語(800語程度)と基本文法が理解でき、簡単な文章を作ることができる。  ②基本会話を聞き取って理解することができる。  ③簡単な文章を読んで理解することができる。  ④TOPIK I (2級)合格を目標とする。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。  &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス TOPIK I の出題類型と内容、問題類型別分析と対策(TOPIK I の概要)	「復習(文末表現P1-2)」 「予習(読解P1-2)」		
第2回	TOPIK I によく出題される動詞と形容詞の丁寧形・過去形の活用	「復習(文末表現P3-4)」 「予習(読解P3-4)」		
第3回	(リスニング)類型1 質問に対する答えを選ぶ/(読解)類型1 質問の内容を把握する	「復習(文末表現P5-6)」 「予習(読解P5-6)」		
第4回	(リスニング)類型2 相応しい挨拶言葉を選ぶ	「復習(文末表現P7-8)」 「予習(読解P7-8)」		
第5回	(読解)類型2 文脈に相応しい適切なものを選ぶ	「復習(文末表現P9-10)」 「予習(読解P9-10)」		
第6回	(リスニング)類型3 会話の場所を選ぶ	「復習(文末表現P11-12)」 「予習(読解P11-12)」		
第7回	(読解)類型3 簡単な実用文の内容を把握する	「復習(文末表現P13-14)」 「予習(読解P13-14)」		
第8回	TOPIK I の中間模擬試験実施	「復習(文末表現P15-16)」 「予習(読解P15-16)」		
第9回	(リスニング) 類型4 会話のテーマを選ぶ	「復習(文末表現P17-18)」 「予習(読解P17-18)」		
第10回	(読解) 類型4 文章のポイントを把握する	「復習(文末表現P19-20)」 「予習(読解P19-20)」		
第11回	(リスニング) 類型5 会話の内容に合う絵を選ぶ	「復習(接続表現P1-2)」 「予習(読解P21-22)」		
第12回	(読解) 類型5 文脈に相応しいものを選ぶ	「復習(接続表現P3-4)」 「予習(読解P23-24)」		
第13回	(リスニング) 類型6 聞いた内容と一致するものを選ぶ	「復習(接続表現P5-6)」 「予習(読解P25-26)」		
第14回	(読解) 類型6 文章の内容と一致するものを選ぶ	「復習(接続表現P7-8)」 「予習(読解P27-28)」		
第15回	韓国語能力試験(TOPIK I)の模擬試験の解説	間違った問題の分析及び文法項目の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% (書き取り練習問題)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 授業への積極的な参加(復習・予習の状況等)を考慮する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①韓国語 I・II を履修しているか、それに相当する韓国語の能力を持っていることが履修条件です。  ②TOPIK I の受験経験者、担当先生の許可が下りた学生、交換留学の経験者も履修できます(授業の前に相談すること)。  ③TOPIKは毎年、3回(4月、7月、10月)実施しております。この授業を受ける学生は、必ず4月・7月に受験できるように、心掛けてください。  ④韓国への交換学生を希望している学生は、TOPIKを受験しなければなりません(留学審査の条件の一つです)。</p>			
教科書	「teans」での資料提示。			
指定図書	なし			
参考図書	全ウン・金賢珍著 『新 合格できる韓国語能力試験 TOPIK I』 アスク 2015年3月			
オフィスアワー	火曜日・木曜日 昼休み後	メールアドレス		

授業科目	韓国語能力試験対策B【演習】		開講時期	後期
担当教員	羅 義圭		単位	1
授業の目的と概要	<p>韓国での語学留学や韓国企業への就職のために、韓国語能力試験(TOPIK)の資格はとて求られています。本講義では、そのニーズに合わせ、「韓国語能力試験3級・4級」の問題練習を丁寧に取り組むことにより、自分の苦手なところを発見し、そこから韓国語能力の向上に努めます。授業では受験対策用として作成されたリスニング・読解問題を中心のテキストを用い、「3級・4級」の類型を把握し、実際の試験問題に準拠した問題を解くことにより、「3級・4級」の実践感覚を身に付けることができます。</p> <p>さらに、語彙力強化のために、毎回単語のテストを実施します。</p>			
到達目標	<p>①約1,500～2,000語の語彙を用いた、身近な問題に関する文章の内容を理解し、使用できる。  ②少々長い文章を聴き取って、shadowingができる。  ③聞き取った文章を書き取ることができる。  ④TOPIK II (4級)合格を目標とする。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：オンデマンド型で授業実施(筑女ネット科目コースで確認すること)	「課題(書き取り問題)」		
第2回	模擬試験の解説及び傾向分析	「予習(中級語彙p2/文型P3-4)」		
第3回	(聞き取り)類型7 女性・男性のメイン・アイディアのポイントを選ぶ	「予習(中級語彙p3/文型P5-6)」		
第4回	(読解)類型7 文章のあらすじを把握する	「予習(中級語彙p4/文型P7-8)」		
第5回	(聞き取り)類型8 文章の内容を把握すると共に、内容と一致するものを選ぶ	「予習(中級語彙p5/文型P9-10)」		
第6回	(読解)類型8・9 文章のあらすじを把握すると共に内容と一致するものを選ぶ	「予習(中級語彙p6/文型P11-12)」		
第7回	(聞き取り)類型9 文章のテーマを選ぶと共に、内容と一致するものを選ぶ	「予習(中級語彙p7/文型P13-14)」		
第8回	中級語彙と文型	「予習(中級語彙p8/文型P15-16)」		
第9回	(聞き取り)類型10 文章の内容に対する質問に内容と一致するものを選ぶ	「予習(中級語彙p9/文型P17-18)」		
第10回	(読解)類型12・13 ( )の中を埋める/文章の作成の目的と内容と一致するものを選ぶ	「予習(中級語彙p10/文型P19-20)」		
第11回	(読解)類型13・14 文章の作成の目的/( )に適切な文章を入れる/内容と一致するものを選ぶ	「予習(中級語彙p11/文型P21-22)」		
第12回	(読解)類型15・16 ( )に適切なものを入れる(活用)/( )に相応しいものを入れて文を完成する	「予習(中級語彙p12/文型P23-24)」		
第13回	中級語彙と文型	「予習(中級語彙p13/文型P25-26)」		
第14回	模擬試験①-リスニング	「予習(読解問題)」		
第15回	模擬試験実施②-読解	間違った問題の分析及び文法項目の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10%			
小テスト等	なし			
成果発表	70%(模擬試験実施)			
受講態度他	20% 授業への積極的な参加(復習・予習の状況等)を考慮する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①韓国語 I・II・IIIを履修しているか、それに相当する韓国語の能力を持っていることが履修条件です。  ②TOPIK Iの受験経験者、担当先生の許可が下りた学生、交換留学の経験者も履修できます(授業の前に相談すること)。  ③TOPIKは毎年、3回(4月、7月、10月)実施しております。この授業を受ける学生は、必ず4月・7月に受験できるように、心掛けてください。  ④韓国への交換学生を希望している学生は、TOPIKを受験しなければなりません。</p>			
教科書	毎回、PDFまたはワード作成の資料提示。			
指定図書	なし			
参考図書	全ウン・金賢珍著 『新 合格できる韓国語能力試験 TOPIK I』 アスク 2015年3月			
オフィスアワー	火曜日・木曜日 昼休み後	メールアドレス		

授業科目	韓国の社会と文化【演習】		開講時期	後期
担当教員	羅 義圭		単 位	2
授業の目的と概要	最近、韓国語を学ぼうとする若者の数が急速に増加しています。これは、アジアを始めとして世界に広がっている韓流の影響により、韓国の国際的地位が高まったこととも密接な関係があります。そこで、本講義では「韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業を通して培ってきた語彙と文型を生かし、韓国の社会と文化を「映像」を通して理解することに焦点を当てます。①字幕のない「映像」を書き取ることが可能である。②韓国語で書かれている長文を理解する。③長文を読んでその背景を理解する。④言葉と「社会・文化」との関係性を通して異文化コミュニケーションの能力を身につける。			
到達目標	①韓国語学習をはじめ、韓国の社会・文化を通して韓国を学び、韓国語に慣れるようにする。 ②映像翻訳を身につけ、韓国語を向上させる。 ③長文をしっかりと理解することができ、そこから自分の考えを書くことができるようにする。 ④書く力・聞く力・話す力を向上する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション： オンデマンド型で授業実施(筑女ネット科目コースで確認すること)。	予習： 映画「国際市場」を見て台詞を書き取る。		
第2回	「国際市場」について	予習： 映画「タクシードライバ」を見て台詞を書き取る。		
第3回	「タクシードライバ」について	予習： 映画「カンナさん、大成功です」を見て台詞を書き取る。		
第4回	「カンナさん、大成功です」について	予習： 映画「シークレット・サンシャイン」を見て台詞を書き取る。		
第5回	「シークレット・サンシャイン」について	予習： 映画「弁護士」を見て台詞を書き取る。		
第6回	「弁護士」について	予習： 映画「ビューティー・インサイド」を見て台詞を書き取る。		
第7回	「ビューティー・インサイド」について	予習： 映画「82年生キム・チヨン」を見て台詞を書き取る。		
第8回	「82年生キム・チヨン」について	予習： 映画「冬の小鳥」を見て台詞を書き取る。		
第9回	「冬の小鳥」について	予習： 映画「族譜」を見て台詞を書き取る。		
第10回	「族譜」について	予習： 映画「バンドラ」を見て台詞を書き取る。		
第11回	「バンドラ」について	予習： 映画「海にかかる霧」を見て台詞を書き取る。		
第12回	「海にかかる霧」について	予習： 映画「明日へ」を見て台詞を書き取る。		
第13回	映画鑑賞－「カンナさん、大成功です」	レポート作成		
第14回	「明日へ」について	語彙や文型の復習に取り組む。		
第15回	映画鑑賞－「弁護士」	学期末レポート作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% (映画鑑賞についてのレポート)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% (授業への参加度、課題の取り組み、積極性などを考慮する)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①出席必須。 ②韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの授業を履修した人、または韓国能力試験2級以上を所持していること。 ③映像翻訳に興味を持っていること。 ④欠席が5回を超えると評価しない。 ⑤授業中、スマートフォンの使用は減点対象とする。			
教科書	毎回、PDFまたはワード作成の資料を提示。			
指定図書	なし			
参考図書	金 玄謹 著/ 金 玄謹 著/中村 澄子 日本語訳 『タングニの韓国人生劇場』白水社、2016.10.14			
オフィスアワー	火曜日・木曜日 昼休み後	メールアドレス		

授業科目	漢字と故事成語【講義】		開講時期	後期
担当教員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>文学作品を読み解く語彙力であり、また、社会人として必要とされる日本語力・コミュニケーションスキルの一つでもある漢字と二字・四字熟語について、実践的な能力を身につけていきます。具体的には、新常用漢字に対応し、企業や教員の採用試験に対応できるレベルとして、漢検「準2・2級」程度を設定します。熟語の理解を助けるために、常用漢字の表外読み（「準1級」程度）の学習を取り入れることがあります。</p> <p>授業では、漢字の成り立ち・字体の変遷・熟語の構成・もともなった中国古典・文学作品や新聞における使用例を系統的に学び、古代の人々の叡智や論理的思考に触れつつ、現代に役立つ知識を定着させていきます。また、確かな語彙力を増やしていくことで、多様な情報の中から必要なものを選択する情報リテラシーの能力や日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）の向上も目指します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本の言語や文学の特徴を理解する上での漢字の重要性を理解し、知識を深め説明することができる。</li> <li>2 授業で学んだ二字熟語について、「熟語の構成」を説明するとともに、「誤字訂正」に役立てることができる。</li> <li>3 授業で学んだ漢字について、成り立ちを学んで幅広い視野から意味を理解し、「部首」を示すことができる。</li> <li>4 授業で学んだ「四字熟語」について、構成や関連の中国古典を学び、使用例を理解し、覚えることができる。</li> <li>5 学んだ漢字や四字熟語の知識を活用して、自身の考えを表現することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日(3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この授業では、漢字に関する知識を学んで運用能力を向上させ、1年後期「中国文学概論」や2年「中国文学講読ⅠⅡ」で学ぶ作品を理解するための漢字や語彙の基礎力を養成します。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	①授業全体のガイダンス、②漢字について（各種試験の紹介、教科書の説明を含む）	授業で提示したファイルの復習、課題1に答える		
第2回	①漢字の成り立ち（六書と許慎の『説文解字』）および字体の変遷	漢字の成り立ちの復習、課題2に答える		
第3回	①熟語の構成と漢文法・故事成語について、②現代の漢字事情	「熟語の構成」の復習、課題3に答える		
第4回	①オリジナル教材（漢字・四字熟語の冊子）の説明と使い方、②熟語の構成（導入から応用へ）	教科書「熟語の構成」問題に取り組む、課題4に答える		
第5回	①熟語の構成、②誤字訂正の理解への応用	教科書「熟語の構成」問題に取り組む、課題5に答える		
第6回	①熟語の構成、	教科書「誤字訂正」の問題に取り組む、課題6に答える		
第7回	①熟語の構成、②誤字訂正、類義語・対義語の理解への応用	教科書「誤字訂正」、課題7に答える		
第8回	①熟語の構成、②部首と漢字の成り立ち（導入）	課題8に答える		
第9回	①部首と漢字の成り立ち（教科書と配布教材を活用した学び）	教科書「部首」1問題に取り組む、課題9に答える		
第10回	①部首と漢字の成り立ち（教科書と配布教材を活用した学びを深める）	教科書「部首」1の問題に取り組む、課題10に答える		
第11回	①部首と漢字の成り立ち（まとめ）	教科書「部首」2の問題に取り組む、課題11に答える		
第12回	①熟語の構成と四字熟語の解説（導入）、②文学作品やマスコミ表現での用例	四字熟語学習シート①の予習、課題12に答える		
第13回	①四字熟語の解説と用例（系統的な学びを理解する）	四字熟語学習シート①復習、課題13に答える		
第14回	①四字熟語の解説と用例（系統的な学びを深める）	四字熟語学習シート①の復習、課題14に答える		
第15回	①四字熟語の解説と用例（まとめ）、②レポートについて	課題15に答える、レポートの準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10%			
小テスト等	75%（毎回の課題への取り組み）			
成果発表	なし			
受講態度他	15%（授業への参加態度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初回到授業の目的、内容、取り組むレベルなどを説明するので、確認の上、受講を決定して下さい。</li> <li>2. 予習・復習・課題に、積極的に取り組みましょう。</li> <li>3. 授業外学修として、希望者が取り組める自主学習方法も紹介します。</li> </ol>			
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本漢字能力検定協会編集『漢検 2級 ハンディ漢字学習』改訂版</li> <li>2. 配布プリント・冊子（プリントは筑女ネット上にアップし、冊子は郵送します。筑女ネットに詳細な説明があります。）</li> </ol>			
指定図書	なし			
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 森野繁夫・佐藤利行著『漢文 まとめと要点』白帝社</li> <li>2. 阿辻哲次著『図説漢字の歴史』大修館書店、その他、授業中、適宜伝えていく予定</li> </ol>			
オフィスアワー	火曜昼休み	メールアドレス		

授業科目	漢文読解【講義】		開講時期	前期
担当教員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的と概要	この授業では、まず、日本における漢文（漢詩を含む）の受容状況を概観します。次に、教科書所収の、思想・歴史（史伝文学）・小説・散文・漢詩といった、さまざまなジャンルの中国の古典作品を読み解きながら、論理的な考え方や論述方法、表現の特徴や構造、語法、作者伝や作品が誕生した時代背景などを把握していきます。授業を通じて、漢字能力を向上させつつ読解力を身に付け、自身の視野を広げ、多様な価値観を理解していきます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本における漢文文化の受容状況を理解し、現代に学ぶ意義について考え、自身の考えを述べるができる。</li> <li>2. 各ジャンルの作品について、表現の特徴・構造・語法・論理的な考え方や論述方法を把握し、読解力を向上させることができる。</li> <li>3. 各ジャンルの作品の内容や作者について理解を深め、幅広い視野を獲得し、多様な価値観を理解・尊重することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつなげるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>日(3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この授業では、1年後期「中国文学概論」、「漢字と故事成語」、2年「中国文学講読ⅡⅡ」等で培った知識や読解力を更に発展的に向上させることができます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業全体のガイダンス、日本と漢文文化①②	「漢文参考略年表」の復習		
第2回	日本と漢文文化③、漢文の語法、各種試験の紹介	語法の復習、各種試験を確認の開始		
第3回	諸子百家について、『孟子』p4-5	教科書の『孟子』関連箇所の予習		
第4回	『孟子』p4-5、関連する四字熟語（『蒙求』標題）	教科書の『韓非子』関連箇所の予習		
第5回	『韓非子』p28-29	教科書の『呂氏春秋』関連箇所の予習		
第6回	『呂氏春秋』p32-33、呂不韋と秦の始皇帝	教科書の「後漢書」関連箇所の予習		
第7回	歴史書（史伝文学）について、『後漢書』p16-17	教科書の『史記』関連箇所の予習		
第8回	『史記』p14-15、項羽と虞美人	歴史書（史伝文学）の配布プリントの復習		
第9回	中国の小説について	教科書の『世説新語』関連箇所の予習		
第10回	『世説新語』p50-51	教科書の『搜神記』関連箇所の予習		
第11回	『搜神記』p52-53	中国の小説の配布プリントの復習		
第12回	唐宋八大家、蘇軾について	教科書「蘇軾」関連箇所の予習		
第13回	蘇軾の散文p42-43	教科書の「漢詩」杜甫関連箇所の予習		
第14回	漢詩について、杜甫p54-55	漢詩の復習、教科書「基本用語」の予習		
第15回	『漢文まとめと要点』 「三 基本用語」、まとめ	総復習、レポートに取り組む		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	25%			
小テスト等	60%（毎回の課題への取り組み）			
成果発表	なし			
受講態度他	15%（授業への参加態度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的な参加態度で臨みましょう。</li> <li>2. 授業の内容は、教職生（3年生）対象の「基礎学力テスト」の「国語」の漢文分野と関連します。詳細については、適宜、説明します。</li> </ol> <p>なお、このことは、現段階でお伝えできることを予め記したものです。変更が生じる場合は、適宜、連絡をします。</p>			
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 松井光彦著『実戦演習標準 漢文』（桐原書店）</li> <li>2. 森野繁夫・佐藤利行著『漢文 まとめと要点』（白帝社）、</li> <li>3. 配布プリント</li> </ol>			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介。			
オフィスアワー	金曜 5限	メールアドレス		

授業科目	学級経営論【講義】		開講時期	後期
担当教員	石原 努		単位	2
授業の目的と概要	学級経営に関する課題（今日的課題や教師に関する課題）について多面的な視点から考え検証したり、学級の組織づくりに必要な教育技術に関する理論を学んだりすることを通して、学級担任の役割の重要性を理解することを目的とする。また、具体的な学級経営の方針を立て、よりよい学級集団づくりに向けた取り組みを考える等して、学級経営案を作成することを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級経営の課題に関する情報を収集することができる。また、その課題に対応した具体的方策を立案することができる。</li> <li>よりよい学級経営を行うために必要な教師の指導技術や要因について説明することができる。</li> <li>子どもの実態を踏まえた学級経営のゴールの姿を描き、その実現に向けた具体的な方策を考えることができる。</li> <li>よりよい学級経営を行っていくための方針を示した学級経営案を構想することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	講義のオリエンテーション、及び、学級経営の概要説明	現時点での自分が描く学級経営のゴールの姿をまとめる。		
第2回	学級担任の仕事内容の全体像を理解する。 グループワークを行い、学級担任の仕事内容をカテゴリー化する。	学級担任の仕事概要を整理する。		
第3回	教員の資質・能力、及び、教育理念 ディスカッション等を通して、自分の教育観について整理する。	自分なりの教育理念についてまとめる。		
第4回	集団形成①「学級風土づくりと教師の関わり」 グループワーク等を通して、学級における支持的風土づくりについて整理する。	自分の過去や教育実習等の経験談を通して考えをまとめる。		
第5回	集団形成②「学級目標、及び、その他の目標設定」 グループワーク等を通して、具体的な目標設定について整理する。	自分なりの教育理念をもとに学級経営の方針についてまとめる。		
第6回	集団形成③「学級のルールづくり」 グループワーク等を通して、具体的な学級のルールについて整理する。	学級のルールと集団規律についてまとめる。		
第7回	集団形成④「基本的な学級組織づくり」 グループワーク等を通して、基本的な学級組織について整理する。	係活動や朝の会・帰りの会等についてまとめる。		
第8回	集団形成④「教室環境づくり」 グループワーク等を通して、教室環境づくりや掲示物の在り方について整理する。	学級の教室環境の具体案を考えまとめる。		
第9回	信頼関係形成①「教師と子どもの人間関係構築」 グループワーク等を通して、子どもとのかかわり方について整理する。	教師と子どもの人間関係構築に関する取組をまとめる。		
第10回	信頼関係形成②「子どもと子どもの人間関係構築」 グループエンカウンター的手法について学んだり体験したりして、その手法について整理する。	子どもと子どものよりよい人間関係づくりについて具体的方策をまとめる。		
第11回	教師の基本的姿勢①「子どもと向き合う基本的な構え」 子どもをほめる視点等についてグループワークを行い、カテゴリー化する。	子どものよさを見取る視点とその伝達方法についてまとめる。		
第12回	教師の基本的姿勢②「保護者等との連携」	懇談会の在り方や保護者等との連携方法についてまとめる。		
第13回	学級経営のPDCAサイクル	計画・実行・省察の流れで、学級経営の全体像をまとめる。		
第14回	始業式時の教師の動き	始業式の教師の動きについてまとめる。		
第15回	講義の振り返りと学級経営案の説明	本講義を振り返り、自分の学級経営案を作成する。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 学級経営案の作成 1学期始業式の担任の動き、講義後の小課題			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 積極的に参加すること。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物（レポート）の期限は厳守すること。</li> <li>毎時間の学習後に出された課題を簡潔にまとめ、最終的な学級経営案にその考えを反映させること。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	小学校学習指導要領解説「特別活動編」「総則編」 文部科学省			
オフィスワー	月曜日2限	メールアドレス		

授業科目	学校教育相談【教職】【講義】		開講時期	後期
担当教員	松尾 公孝		単位	2
授業の目的と概要	<p>生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。</p> <p>教育相談は、一人一人の生徒の教育上の問題について、本人またはその親などに、その望ましい在り方を助言することである。その方法としては、1対1の相談活動に限定することなく、すべての教師が生徒に接するあらゆる機会をとらえ、あらゆる教育実践の中に生かし、教育相談的な配慮をすることが大切である。この授業では、教育相談を実践していく上で基本的に必要な以下の項目について具体的に取り上げ、考察する。学校で生じる様々な現象についてその背景を考慮する。生徒や保護者等から話を聴くことができる。関係職員と連携して問題の解決に向けて見通しを持てる。継続的な努力を重ねられる。</p>			
到達目標	<p>1) 学校における教育相談の意義と理論を理解している。</p> <p>2) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解している。</p> <p>3) 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解している。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	事前に、本授業のシラバスを読む。		
第2回	学校教育相談の意義と課題	復習として、授業で配布した資料を読む		
第3回	教育相談の基礎理論	復習として、授業で配布した資料を読む		
第4回	教育相談の方法1 生徒の不応答や問題行動の意味の把握	復習として、授業で配布した資料を読む		
第5回	教育相談の方法2 カウンセリングマインドとは	復習として、授業で配布した資料を読む		
第6回	教育相談の方法3 カウンセリングの姿勢と技法	復習として、授業で配布した資料を読む		
第7回	教育相談の展開1 校務分掌と教育相談体制	復習として、授業で配布した資料を読む		
第8回	教育相談の展開2 地域の専門機関との連携	復習として、授業で配布した資料を読む		
第9回	青年期の心身の発達の特徴	復習として、授業で配布した資料を読む		
第10回	不登校の背景と基本的対処法	復習として、授業で配布した資料を読む		
第11回	いじめの背景と基本的対処法	復習として、授業で配布した資料を読む		
第12回	少年非行の背景と基本的対処法	復習として、授業で配布した資料を読む		
第13回	発達障害の背景と基本的対処法	復習として、授業で配布した資料を読む		
第14回	アサーション・トレーニング	復習として、授業で配布した資料を読む		
第15回	課題レポート	授業全体を振り返り、整理する。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 試験に準じる課題レポート(第15回に実施予定) 10% 授業での簡単なレポート(毎回ではなく適宜) 20% 課題図書を読んだレポート			
小テスト等	30% 授業の振り返り			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・学級を経営する教師として、生徒をどのようにとらえ、どのように接すれば、生徒の成長に寄与できるのか、実践することを想定して積極的に授業に参加してほしい。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	岡田尊司 『愛着障害』 光文社新書 2014 神田橋條治 『発達障害は治りますか?』 花嵐社 2010 桑原知子著『教室で生かすカウンセリング・マインド』 日本評論社 2004			
オフィスアワー	メールにて相談してください。	メールアドレス		



授業科目	学校経営と学校図書館【司書教諭】【講義】		開講時期	後期
担当教員	藏内 保明		単位	2
授業の目的と概要	<p>新しい学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が改訂の要点になっています。そのような学びを実現するための、学校教育における学校図書館の意義と役割について学んでいきます。</p> <p>○学校図書館法ほか関連法規、図書館活動を概観し、学校図書館の経営について理解する。  ○教員・管理職の視点から、よりよい学校図書館の在り方について理解する。  ○学校図書館の経営に携わる司書教諭および学校司書の役割について、学校現場の具体的な事例を基に理解する。</p>			
到達目標	<p>○国や地方公共団体の学校図書館に関する新しい動きを説明することができる。  ○学校図書館経営の背景となる新しい学力観を理解し、めざす学校図書館の姿を説明することができる。  ○学校図書館の事例をレポートし、図書館運営の評価と改善点を提示することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>学校図書館司書教諭資格取得のための科目です。  教員免許取得予定者および取得者のみ受講できます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		自分と学校図書館とのこれまでの関わりを想起しておくこと		
第2回 学校図書館の理念と教育的意義		教科書の(p13~26)を熟読のうえ、基本的な役割を把握すること		
第3回 学校図書館の歴史 日本を中心に		教科書(p27~39)を熟読のうえ、学校図書館の歴史を把握すること		
第4回 学校図書館の現状と課題		教科書(p40~49)を熟読のうえ、現状と課題を把握すること		
第5回 教育法制・行政と学校図書館		教科書(p50~64)を熟読のうえ、法制・行政上の位置付けを把握すること		
第6回 教育課程・方法と学校図書館		教科書(p65~86)を熟読のうえ、学習指導要領との関わりを把握すること		
第7回 校内体制の構築と教職員との協働		教科書(p87~99)を熟読のうえ、司書教諭の役割を把握しておくこと		
第8回 学校図書館の経営		教科書(p100~110)を熟読のうえ、マネジメントサイクルを把握すること		
第9回 学校図書館の評価と改善		教科書(p111~121)を熟読のうえ、改善点について考えておくこと		
第10回 学校図書館の施設・設備		教科書(p122~133)を熟読のうえ、望ましい環境について考えておくこと		
第11回 学校図書館のメディア・情報資源		教科書(p134~152)を熟読のうえ、メディアの種類を掴んでおくこと		
第12回 学校図書館の活動 概論		教科書(p153~165)を熟読のうえ、具体的な内容と方法を掴んでおくこと		
第13回 学校図書館の活動 小・中学校の事例		教科書(p166~182)を熟読のうえ、活動実態を把握しておくこと		
第14回 学校図書館の活動 高等学校・特別支援学校の事例		教科書(p183~204)を熟読のうえ、活動実態を把握しておくこと		
第15回 図書館協力とネットワーク		教科書(p205~219)を熟読のうえ、内容を把握しておくこと		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 課題に対し要点を簡潔に述べ、自分の考えを主張している。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 真面目に誠実な態度で受講し、課題レポートを期限までに提出している。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業はオンデマンドによる遠隔講義と、毎回の課題レポートで進めます。教育実習などで実際に学校図書館に接する機会があれば、状況をしっかり把握しておきましょう。			
教科書	野口武悟 前田 稔 『改訂新版 学校経営と学校図書館』 (放送大学教育振興会)			
指定図書	なし			
参考図書	探求 学校図書館学 第1巻 『学校経営と学校図書館』 (全国学校図書館協議会)			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	学校心理学【講義】	開講時期	後期
担当教員	石原 努	単位	2
授業の目的と概要	心理教育的援助サービスに関する基礎的な知識を身につけ、その知識を活用して、学校現場における心理学的な援助の技法を習得することを目的とする。 講義前半では、主に、心理教育的援助サービスの基礎的な知識や技法について学修する。講義後半では、主に、学校現場で起こりうる具体的な子どもに関連する諸問題について考えながら、グループワークを通してその解決策やその技法について学修する。		
到達目標	・心理教育的援助サービス（アセスメント・カウンセリング・コンサルテーション・コーディネート）に関する基礎的な理論体系を説明することができる。 ・学校現場で起こりうる諸問題（いじめ、不登校、学級の荒れ、集団形成、発達障害等）について学校心理学の視点から考察し、それらの諸問題に対する援助策を創造していくことができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
1	講義の概要説明とオリエンテーション	学校心理学の概要について簡潔にまとめる。	
2	学校心理学の意義と特色	学校心理学の意義・特色について簡潔にまとめる。	
3	学校心理学における心理教育的援助サービス	心理教育的援助サービスを行う対象とその内容についてまとめる。	
4	学校心理学における援助方法①：アセスメント	アセスメントの種類や方法を分類・整理しまとめる。	
5	学校心理学における援助方法②：カウンセリング	カウンセリングの技法等について整理しまとめる。	
6	学校心理学における援助方法③：コンサルテーション・コーディネート	コンサルテーション、コーディネート、チーム援助についてまとめる。	
7	主に学習に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	学習に関する援助の手法について分類整理しまとめる。	
8	主に学級集団に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	集団形成に関する援助の手法についてまとめる。	
9	主に社会性・道徳性に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	社会性・道徳性の発達についてまとめる。	
10	主にキャリア教育に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	キャリア教育に関する援助の手法についてまとめる。	
11	主に健康面に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	健康面に関する援助の手法についてまとめる。	
12	特別支援教育に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	発達障害がある子への支援方法についてまとめる。	
13	学校全体、教師、保護者等を対象とした心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	学校全体、教師や保護者に関する援助の手法についてまとめる。	
14	教師と子どもの信頼関係構築に向けた心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	教師の子どもと向き合う基本姿勢についてまとめる。	
15	学校心理学のまとめと今後の展望	学校心理学の役割や心理学的な援助の手法について全体的まとめを行う。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	90% 講義全体の前半部分のまとめレポート 講義後半の毎回のレポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% 課題の討議へ対する取組や、その参加態度等		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・提出物（レポート）の期限は厳守すること。 ・毎時間の学習した内容を簡潔にまとめること。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	水野治久編著『よくわかる学校心理学』ミネルヴァ書房 学校心理士資格認定委員会『学校心理学ガイドブック』風間書房		
オフィスワー	月曜日2限、水曜日2限	メールアドレス	

授業科目	学校図書館メディアの構成【司書教諭】【講義】		開講時期	前期
担当教員	稲田 八徳		単位	2
授業の目的と概要	<p>学校図書館における「読書センター機能」、「学習・情報センター機能」を果たすためのベースとなる学校図書館メディア（印刷資料、パッケージ系メディア、ネットワーク系メディア）について、種別と特性について論じ、図書館資料全般に対する基本的知識を習得する。</p> <p>特に学校教育における校種、各教科等の学習活動を支えるためのメディアの選択、収集、組織化、保存といったコレクション形成について重点的に講述する。</p> <p>学校図書館メディアの組織化については、我が国で用いられている記述目録法、主題目録法などを紹介し、実践的な対応を検討する。</p>			
到達目標	<p>学校図書館メディア（図書、逐次刊行物、視覚資料、電子資料、ネットワーク情報資源など）の概念と意義、役割を理解できること。</p> <p>学校図書館におけるコレクション形成について、基本原理、手順を把握できること。</p> <p>学校図書館メディアの組織化（目録作成、分類付与）を目録規則や分類法を参照しながら、適切に行えること。</p> <p>個別の学校図書館におけるメディアの収集状況をレポートしたうえで、コレクション形成の評価と改善方法を提示できること。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>学校図書館司書教諭資格取得のための科目です。</p> <p>教員免許取得予定者および取得者のみ受講できます。</p> <p>学校図書館司書教諭に関わる4科目と関連します。</p> <hr/> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	学校図書館メディアとは 本学の学校図書館の参観	復習 本学の学校図書館メディアの参観レポート		
第2回	情報化社旗における学校図書館メディアの意義と役割	予習 配布資料を読む 復習 メディアの役割についてまとめる		
第3回	学校図書館メディアの種類	予習 配布資料を読む 復習 種類についてまとめる		
第4回	学校図書館メディアの学習への活用	予習 配布資料を読む 復習 活用方法についてまとめる		
第5回	学校図書館メディアの構築、選択と収集	予習 配布資料を読む 復習 構築の方法をまとめる		
第6回	学校図書館メディア選択の情報源	予習 配布資料を読む 復習 図書以外の選定ツールをまとめる		
第7回	情報ファイル資料の構築	予習 配布資料を読む 復習 NIEについてまとめる		
第8回	新聞活用の方法について発表	予習 活用方法を考える 復習 発表についての感想		
第9回	学校図書館メディアの維持と発展	予習 配布資料を読む 復習 問題点の克服についてまとめる		
第10回	学校図書館メディアの組織化と展開	予習 配布資料を読む 復習 組織化についてまとめる		
第11回	学校図書館メディアの配架	予習 配布資料を読む 復習 配架の方法について発表準備		
第12回	学校図書館メディア配架の発表	予習 配布資料を読む 復習 発表の感想まとめ		
第13回	学校図書館メディアの目録法	予習 配布資料を読む 復習 目録法についてまとめる		
第14回	学校図書館メディアの主題索引法	予習 配布資料を読む 復習 主題索引法についてまとめる		
第15回	特別な支援を要する児童生徒学校図書館メディアと	予習 配布資料を読む 復習 支援の方法を考える		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ミニレポート、課題30％ 最終レポート50％			
小テスト等	なし			
成果発表	グループ活動の成果発表10％			
受講態度他	10％ 質問・意見発表などを総合的に評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業は講義形式で行うが、グループ活動、発表も取り入れる。積極的な活動を求める。</p> <p>欠席および遅刻、早退については事由を明示のうえ、必要な届を提出すること。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『小学校学習指導要領 解説 総則編』『中学校学習指導要領 解説 総則編』			
オフィスアワー	火曜日、木曜日午後	メールアドレス		

授業科目	学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援)【講義】		開講時期	後期
担当教員	増田 健太郎		単 位	2
授業の目的と概要	教育領域で働く公認心理師に必要な法律・制度・施策を理解した上で、教育・学校臨床に必要な知識とスキルを体験的に理解する。また、心理職として、働く上での社会人基礎力を身につける。			
到達目標	①公認心理師に必要な法的知識が理解できる。 ②教育臨床の問題を理解できる。 ③教育臨床の基本的な理論である学校心理学・教育心理学が理解できる。 ④不登校・いじめ・発達障害・虐待・教師のストレスなど学校現場の現状が理解できる。 ⑤教育現場で使えるアセスメントが理解できる。 ⑥児童生徒対象の心理教育や教師・保護者対象の研修会を企画し実施することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。 (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。 (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。 (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション 受講契約・社会人基礎力について	社会人としてのスキルとは何かについて考えておくこと		
第2回	公認心理師の法的理解・職責・倫理について学ぶ	公認心理師法を読んでおくこと		
第3回	教育法・教育制度・学校組織について学ぶ	教育基本法・子どもの権利条約を読んでおくこと		
第4回	教育領域で働く公認心理師・心理職について学ぶ	心理職の仕事について調べておくこと		
第5回	日本と海外の教育問題と教師の役割、心理職の違いについて学ぶ	海外で働くとしたらどこの国がよいか考えておくこと		
第6回	教育臨床問題について深く考えるⅠ 不登校の問題	第6回-10回 学生のプレゼンテーションをもとにディスカッション		
第7回	教育臨床問題について深く考えるⅡ いじめ・自殺の問題	推奨 臨床心理学 いじめ・自殺 被害・加害・社会の視点 金剛出版		
第8回	教育臨床問題について深く考えるⅢ 学級崩壊の問題	自分の小中高生時代を振り返っておくこと		
第9回	教育臨床問題について深く考えるⅣ 虐待の問題	児童虐待死の事件 児童相談所の働きを調べておくこと		
第10回	教育臨床問題について深く考えるⅤ 教師のストレスと保護者の問題	教師のストレスは何があるが考えておくこと		
第11回	スクールカウンセラーのカウンセリングとコンサルテーション	第11回から15回は身につけた知識を実践化する		
第12回	心理教育 小学校対象 ストレスマネジメント教育	プログラムの準備をしておくこと		
第13回	心理教育 中学生対象 ソーシャルスキルトレーニング	プログラムの準備をしておくこと		
第14回	心理教育 教師対象 児童生徒の理解	プログラムの準備をしておくこと		
第15回	教育臨床問題の総括と今後の展望	教科書・配付資料を理解しておくこと		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	基本的知識と小論文のテストを実施する。			
レポート	5回終了後計3回、レポート提出する。			
小テスト等	各回ごとに基本的知識のテストを行う。			
成果発表	各個人・グループでのプレゼンテーションを行う。			
受講態度他	遅刻・私語・居眠りは厳禁。 聴く態度・積極的態度を重視する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①遅刻の場合は、必ず連絡をすること受講日の前日は睡眠をしっかりとり、前日・当日朝の食事は栄養バランスを考え十分にとっておくこと。 ②スマホの携帯・ノートパソコン・電子辞書を持っている学生は持参すること。 ③教科書は毎回持参すること。 ④3色ボールペン シャープペンシル 鉛筆3本 消しゴム 15cm定規 蛍光ペン 黄色・赤は持参すること。			
教科書	公認心理師分野別テキスト第3巻 教育領域 創元社			
指定図書	教師・SCのための心理教育素材集 遠見書房			
参考図書	不登校の子どもに何がよいか 慶應義塾大学出版会			
オフィスアワー	毎回昼休み・授業終了後30分間	メールアドレス		

授業科目	外国語活動指導法【演習】		開講時期	前期
担当教員	林 裕子		単位	2
授業の目的と概要	小学校外国語活動・外国語科の指導目標・理念、指導法、教材研究、評価方法などを扱いながら、授業実践に関わる諸問題や、実践を支える諸理論についての理解・考察を深めていく。言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては、授業実践DVDの鑑賞や模擬授業実践を取り入れることにより、英語指導技術を身につけさせる。			
到達目標	以下の2つを到達目標として設定する。 1. 小学校外国語活動及び外国語科の目標・内容、及び言語習得や外国語指導法に関する諸理論についての理解・考察を深め、建設的な議論を行うことができる。 2. 指導実践の諸問題についての基礎知識を修得し、単元の授業構成・授業実践を行うことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション, 小学校学習指導要領	教室英語小テストに向けた予習, 授業内容の復習・予習		
第2回	小・中・高等学校の接続と小学校の役割	教室英語小テストに向けた予習, 授業内容の復習・予習		
第3回	指導体制の充実 (担任中心の授業と効果的なチーム・ティーチング)	教室英語小テストに向けた予習, 授業内容の復習・予習		
第4回	小学校教員に求められる英語力	教室英語小テストに向けた予習, 授業内容の復習・予習		
第5回	音声によるインプットのあり方	教室英語小テストに向けた予習, 授業内容の復習・予習		
第6回	音声によるアウトプットのあり方	教室英語小テストに向けた予習, 授業内容の復習・予習		
第7回	言語使用を通じた言語習得	教室英語小テストに向けた予習, 授業内容の復習・予習		
第8回	文字言語との出会わせ方, 読む活動・書く活動への導き方	教室英語小テストに向けた予習, 授業内容の復習・予習		
第9回	国語教育や他教科との連携等による指導	教室英語小テストに向けた予習, 授業内容の復習・予習		
第10回	児童や学校の多様性への対応とICTの活用	教室英語小テストに向けた予習		
第11回	題材の選定と指導計画の作成	教室英語小テストに向けた予習, 授業内容の復習・予習		
第12回	学習状況の評価	教室英語小テストに向けた予習		
第13回	授業観察: 小・中・高等学校の授業映像の視聴	教室英語小テストに向けた予習		
第14回	指導法等の実演による授業体験・教材分析	教室英語小テストに向けた予習, 授業内容の復習・予習		
第15回	1単位時間の授業あるいは特定の言語活動の計画	最終課題に向けた予習, 授業内容の復習・予習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60% 授業中に課す学習課題			
小テスト等	20% 教室英語テスト			
成果発表	20% 単元・授業構想の発表			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である。特に、授業中に課す学習課題や発表については主体的に取り組むこと。			
教科書	中村典生 (監修)・鈴木渉・巽徹・林裕子・矢野淳 (2019) 『コアカリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト』東京書籍			
指定図書	小学校学習指導要領, 小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編			
参考図書	We Can! 1 & 2, Let's Try! 1 & 2 (東京書籍)			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	学習・言語心理学【講義】	開講時期	前期
担当教員	榊 祐子	単位	2
授業の目的と概要	「学習」の領域では、生得的な基盤や過去の体験、さらに現在の環境といった様々な要因のもとで、人間の学習行動がどのように獲得されるのかという問題について理解を深める。我々が外界からの情報や刺激を取り入れたり、様々な学習を通して体験したことを、どのように知識や経験として蓄積しているのか学ぶことを目的とする。「言語」の領域では、人間が生まれてからどのように外界を理解し、他者とのコミュニケーションを図ることができるようになるのか、そのプロセスについて理解を深める。		
到達目標	①日常生活における学習行動を条件づけのプロセスを使い説明することができる ②経験を通じて、行動が変化する過程について説明することができる ③言語の習得過程や言語に関連する障害について説明することができる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	ガイダンス：授業の概要と受講にあたっての留意点の説明	学習・言語心理学のイントロダクションの復習	
第2回	学習心理学とは：学習とは、研究の方法	学習の定義についての復習	
第3回	古典的条件づけ：古典的条件づけの獲得、消去	古典的条件づけの生起のプロセスについての復習	
第4回	オペラント条件づけ①：オペラント条件づけの定義と分類	オペラント条件づけの生起のプロセスについての復習	
第5回	オペラント（道具的）条件づけと社会的学習	オペラント条件づけ、社会的学習についての復習	
第6回	思考による問題解決	思考についての復習	
第7回	推理における思考と学習のまとめ	問題解決と推理の具体的例を考える、学習心理学の整理	
第8回	まとめ① 学習	学習心理学についての復習	
第9回	言語の獲得について：人間と言語の関係	人間と言語の関係についての復習	
第10回	言語獲得の過程① 喃語から意味獲得	言語獲得の初期のプロセスの復習	
第11回	言語獲得の過程② 文法獲得	言語獲得に関係する特性の復習	
第12回	言語理解：言語理解のプロセス、第2言語習得	言語理解のプロセスについての復習	
第13回	言語と思考	概念と言語についての復習	
第14回	言語と障がい	言語に関連した障がいについての復習	
第15回	まとめ② 言語	言語心理学についての復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% 学習と言語についてテーマを設定しショートレポートにまとめる 30% まとめ①②のまとめレポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30% 授業に関するコメントや講義内容に関するショートレポート		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退出は慎むこと。 簡単な実験を実施することがありますので、遅刻をしないよう留意してください。		
教科書	指定なし		
指定図書	指定なし		
参考図書	松尾太加志 『認知と思考の心理学』 サイエンス社 山内光哉・春木豊 『グラフィック学習心理学』 サイエンス社		
オフィスアワー	火曜日 2限	メールアドレス	

授業科目	学習指導と学校図書館【司書教諭】【講義】		開講時期	後期
担当教員	稲田 八徳		単位	2
授業の目的と概要	<p>学習指導要領には「読書活動の充実」が改訂の要点としてあげられています。「読書センター」と「学習情報センター」という二つの役割をもつ学校図書館の機能について、理論と実践の面から学んでいきます。実践面では学校現場での観察も実施します。</p> <p>○生涯にわたって必要な情報活用能力を学校現場でどのように育成していけばいいのかを理解する。 ○情報活用能力の重要性を司書教諭として発信していくリーダーシップを取らなければならないことを認識し、その力を身に付ける。</p>			
到達目標	<p>○学習指導における学校図書館にはどのような役割があるか具体的に説明できる。 ○それに伴う司書教諭の役割と支援のあり方を理解し、具体的な活動や指導を想定することができる。 ○情報を判断し活用する能力・態度を育てるための学校図書館の機能を理解し、課題解決活動を中心に指導法を工夫することができる。 ○学校図書館を教育課程全体に位置づけ、教科指導と学校図書館の関連や情報の活用指導について考えることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>学校図書館司書教諭資格取得のための科目です。 教員免許取得予定者および取得者のみ受講できます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 持続可能な社会のための学びと学校図書館の役割	復習： 持続可能な社会についてまとめる		
第2回	学校教育カリキュラムと学校図書館カリキュラムの作成について	予習： 配付資料を読む 復習： 図書館カリキュラムの作成		
第3回	主体的学習における情報活用能力の育成	予習： 配付資料を読む 復習： 情報活用能力の育成について		
第4回	情報活用能力の育成の計画作成について、ICTを活用して検索する	予習： 配付資料を読む 復習： 情報活用能力の育成について		
第5回	情報活用能力の育成の方法についてグループ討議	予習： 配付資料を読む 復習： 情報活用能力育成の方略		
第6回	学校図書館における情報サービスの種類とその活用について	予習： 配付資料を読む 復習： 情報サービスの実例を調べる		
第7回	教職員に対する支援のあり方と働きかけの方法	予習： 配付資料を読む 復習： グループで発表準備		
第8回	小・中・高における支援のあり方についてグループ発表	予習： 発表準備 復習： 発表の振り返り（評価カード）		
第9回	学校現場における司書教諭の役割観察	予習： 実習校の司書教諭の役割をまとめておく		
第10回	ブックトークについてのグループ討議	予習： ブックトークについて 復習： ブックトークの準備		
第11回	ブックトーク発表（絵本）	予習： グループで発表準備 復習： ブックトーク振り返り（評価カ）		
第12回	ブックトーク発表第2回（小学校中・高学年）	予習： グループで発表準備 復習： ブックトーク振り返り（評価カ）		
第13回	ブックトーク発表第3回（中・高校生）	予習： グループで発表準備 復習： ブックトーク振り返り（評価カ）		
第14回	総合的な学習，特別活動・道徳における支援について	予習： 配付資料を読む 復習： 教科外の支援についてまとめる		
第15回	特別な支援を要する児童生徒，帰国児童生徒，外国籍児童生徒への支援，多様な教育方法への支援について	予習： グループで発表準備 復習： 司書教諭の仕事についてまとめ		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ ブックトークや発表をグループで協働的に計画し，実践している。			
受講態度他	20％ 真面目に誠実な態度で受講し，意見発表に積極的に参加している。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>教育実習等に際して実際の図書館活動や、図書館を活用した学習指導へ参加してください。</p> <p>メディアを活用した学習指導の試みを経験したり、指導案等を作成する体験をすることが望ましい。</p>			
教科書	資料を配付します。予習しておいてください。			
指定図書	秋田喜代美 『読書の発達心理学』 国土社			
参考図書	学校図書館・司書教諭講習資料（全国学校図書館協議会編）			
オフィスアワー	水曜日。木曜日午後	メールアドレス		

授業科目	感情・人格心理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	森田 理香		単位	2
授業の目的と概要	本講義では、日常生活において話題として取り上げられることが多い「感情」や「人格」についての心理学的知見や、研究成果に関する理解を深め、感情心理学、人格心理学に関する基本的な理論と応用的な知識について習得することを目的とする。具体的には、感情の理論、感情が行動に及ぼす影響について理解する。さらに、人格の概念、人格の形成過程、人格の理論、人格の障害について理解する。また、感情や人格を測定する方法についても学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 主要な感情理論、人格理論について説明できる</li> <li>2 感情が行動に及ぼす影響について説明できる</li> <li>3 人格の形成過程について説明できる</li> <li>4 感情・人格の病気や障害について述べる事が出来る</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション、			スライド視聴、課題の提出	
第2回 心の深層へのアプローチ			スライド視聴、課題の提出	
第3回 感情の理論			スライド視聴、課題の提出	
第4回 愛着理論			スライド視聴、課題の提出	
第5回 情動コミュニケーション			スライド視聴、課題の提出	
第6回 人の人格形成にかかわる要因			スライド視聴、課題の提出	
第7回 人格の類型論・特性論			スライド視聴、課題の提出	
第8回 人格における男女差			スライド視聴、課題の提出	
第9回 ストレスと感情の疾患			スライド視聴、課題の提出	
第10回 ストレスとパーソナリティ変容			スライド視聴、課題の提出	
第11回 ストレス障害			スライド視聴、課題の提出	
第12回 パーソナリティの正常と異常			スライド視聴、課題の提出	
第13回 アイデンティティの確立と病理			スライド視聴、課題の提出	
第14回 感情・人格の測定方法			スライド視聴、課題の提出	
第15回 全体のまとめ			スライド視聴、課題の提出	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	レポート 2回			
小テスト等	毎回の課題 3問×1点			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遠隔での開講になります。オンデマンドの予定です。			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に紹介します。			
オフィスアワー	月曜 昼休み	メールアドレス		



授業科目	キャリアインターンシップ【実習】		開講時期	後期
担当教員	大橋 健治		単位	1
授業の目的と概要	<p>本授業の目的は、インターンシップ支援講座の修了者（単位取得者）が自らのインターンシップ経験を振り返り、第三者に対して語るに足る価値を導き出す機会を与える場を提供することにある。そのために、同様の経験をした学生同士が、自らの経験を語り合い学びあって自らの経験を昇華させるような、いわゆる経験学習を実践できるようにすることである。当初、TBL (Team-Based Learning) とプレゼンテーションというアクティブ・ラーニングの手法を導入することを計画していたが、コロナ禍によってそれが叶わなくなったためオンデマンド方式による遠隔授業でじっしする。しかし、極力学生同士の自由な討議を促進したいので筑女ネットのフォーラム機能を用いることとする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らのインターンシップ経験を体系的にまとめることができる。</li> <li>2. 自らのインターンシップ経験を第三者に語るすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連する科目：キャリアデザイン基礎、ライフマネジメントⅠ、ライフマネジメントⅡ、インターンシップ支援講座など</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	インターンシップの振り返り		インターンシップ支援講座の振り返りとインターンシップ体験の振り返り	
第2回	インターンシップ体験の報告会		インターンシップ体験報告書の作成・提出	
第3回	インターンシップ体験の情報交換		体験したことと気づいたことの報告準備	
第4回	フォーラム上の意見交換		フォーラムへの投稿準備	
第5回	インターンシップ体験報告書（A4二枚の様式）の提出		自らのインターンシップ体験と他の学生との意見交換による気づきのまとめ	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20％ 第4回のフォーラムでの意見交換での活発な意見表明			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ インターンシップ体験報告書（A4二枚の様式）の出来栄			
受講態度他	50％ 積極的な授業への参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように本授業はオンデマンド方式による遠隔授業で行う。TBL (Team-Based Learning) とプレゼンテーションが行えないのは残念であるが、筑女ネットのフォーラム機能を使って学生同士の情報交換を促進する。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	キャリアデザイン基礎【講義】		開講時期	前期
担当教員	大橋(健)・藤原(隆)・天野(緑)		単位	2
授業の目的と概要	<p>キャリア (Career) の語源は“轍(わだち)”である。われわれが歩んできた人生には“経歴”という轍が残る。この世に生を受けた以上、われわれはより有意義な轍を残したい。本授業では、自らのキャリアをより有意義なものにするために、大切にしなければならぬ考え方や行動原則を学ぶことを目的とする。この授業では従来、TBL (Team-Based Learning) といわれるアクティブ・ラーニングの手法によって運営してきた。しかし、今年は集合して行う形式の授業を避け、教員も含め学生同士が離れて行う授業にする必要が生まれたため、オンデマンド方式の遠隔授業を実施する。オンデマンド方式とは、学生が授業の課題を、求められた期限までに、学生が都合の良い時間に提出して、しかも教員と学生同士が議論できる方式を言う。それを筑女ネットを使って実施する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らのキャリアを、教科書にそって第三者と議論をしながら考えることができる。</li> <li>2. 自らのキャリアビジョンを、第三者に語るすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には一般企業での実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連する科目：ライフマネジメントⅠ、ライフマネジメントⅡ、インターンシップ支援講座、キャリアインターンシップなど</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業の概要説明		シラバスの内容の吟味と履修動機の確認		
第2回 現代社会とキャリアデザイン (教科書第1章)		教員の指示に沿った教科書第1章の熟読と事後学修		
第3回 キャリアデザインと人生設計 (1) 現代人のライフサイクルと職業 (教科書第2章)		教員の指示に沿った教科書第2章の熟読と事後学修		
第4回 キャリアデザインと人生設計 (2) 現代人の生涯収支と職業 (教科書第3章)		教員の指示に沿った教科書第3章の熟読と事後学修		
第5回 キャリアデザインのための自己理解 (1) 働く意味と自分の職業観 (教科書第4章)		教員の指示に沿った教科書第4章の熟読と事後学修		
第6回 キャリアデザインのための自己理解 (1) 働く意味と自分の職業観 (教科書第5章)		教員の指示に沿った教科書第1章の熟読と事後学修		
第7回 キャリアデザインのための自己理解 (2) 相互インタビューによる自己分析 (教科書第6章)		教員の指示に沿った教科書第1章の熟読と事後学修		
第8回 キャリアデザインと仕事理解 (1) 学生生活で得るキャリア意識の明確化 (教科書第7章)		教員の指示に沿った教科書第1章の熟読と事後学修		
第9回 キャリアデザインと仕事理解 (2) 経済・雇用環境に応じた働き方の理解 (教科書第8章)		教員の指示に沿った教科書第1章の熟読と事後学修		
第10回 キャリアデザインと職場理解 (1) インターンシップを活用したキャリア考察 (教科書第9章)		教員の指示に沿った教科書第1章の熟読と事後学修		
第11回 キャリアデザインと職場理解 (2) キャリア形成と求められる基礎能力 (教科書第10章)		教員の指示に沿った教科書第1章の熟読と事後学修		
第12回 キャリアデザインと職場理解 (3) 多彩な職種や業種と自分の適職 (教科書第11章)		教員の指示に沿った教科書第1章の熟読と事後学修		
第13回 キャリアのケーススタディ (1) 具体的な事例で考える将来設計 (教科書第12章)		教員の指示に沿った教科書第1章の熟読と事後学修		
第14回 キャリアのケーススタディ (2) さまざまなキャリア形成のあり方 (教科書第13章)		教員の指示に沿った教科書第1章の熟読と事後学修		
第15回 キャリアデザインに向けて (1) (2) 修了レポートの作成に関する質疑応答 (教科書14、15章)		授業を振り返り履修した成果のまとめを作って参加する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 授業を振り返ってと題したレポートを提出			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように本授業はオンデマンド方式での遠隔授業で運営する。しかし、オンデマンド方式であっても筑女ネットを利用して極力議論ができる環境を作っていくことを目指したい。</p>			
教科書	『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座 第3版』(大宮登監修、2014年、日経BP社、1,800円+税) ※初回の授業時に本授業専用の受講ノートを配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日の14:00~17:00(大橋)、火曜日の昼休み(藤原)、授業の前後(天野)	メールアドレス		

授業科目	九州の自然【講義】		開講時期	前期
担当教員	佐々木 浩		単位	2
授業の目的と概要	本講義では、現在ある九州の自然はどのように生まれ、どのようなものを学んでいきます。地球の誕生、大陸の移動、日本列島の歴史などから、現在の九州の地形が形成される過程について時間の流れに沿って学びます。さらに、大陸の移動による現在の生物相の基礎の成立や、日本列島の生物相への氷河の影響などから、どのように現在の九州の生物相が形成されていったかを学びます。人間が日本列島に辿りつく過程や、縄文時代、弥生時代などの生活等も理解を深め、現在の生活との繋がりを考えて行きます。九州各県の自然と文化についても学びます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の進化と地球の変化を結びつけて説明できるようになる。</li> <li>・九州の自然について説明できるようになる。</li> <li>・日本の自然環境と人間の生活の結びつきについて説明できるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 講義概説			小課題への取り組み	
第2回 大陸の移動			小課題への取り組み	
第3回 日本列島の誕生			小課題への取り組み	
第4回 気候と海峡の変化			小課題への取り組み	
第5回 動物の進化と移動			小課題への取り組み	
第6回 縄文時代の自然と人の生活			小課題への取り組み	
第7回 弥生時代の自然と人の生活			小課題への取り組み	
第8回 九州の地形			小課題への取り組み	
第9回 九州の哺乳類			小課題への取り組み	
第10回 九州の鳥			小課題への取り組み	
第11回 九州の植物と気候			小課題への取り組み	
第12回 九州の川と海			小課題への取り組み	
第13回 九州の島			小課題への取り組み	
第14回 九州の県			小課題への取り組み	
第15回 まとめ			小課題への取り組み	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% (講義の小課題 80% 最終レポート 10%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義への出席は、講義サイトへのアクセスと課題の提出で行います。出欠は、課題の提出を確認した後に確定させます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日3講時	メールアドレス		

授業科目	九州の歴史と文化【講義】		開講時期	後期
担当教員	横山 尊		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、近現代の福岡県の歴史を中心に、九州の歴史と文化のあり方を論じていきます。テレビ番組やCMを注意深く見ていると、多くの歴史的トピックが動員されていることに気づくはずですが。殊に将来的に福岡県で、行政、マスコミ、広報、観光、教育関係などの業種で働く場合、その知識は意外な場面で役に立つでしょう。しかし、皆さんは自分たちの住む地域のことをどれだけ知っているでしょうか。福岡県どころか、太宰府、さらには自校の知識も怪しげなのではないでしょうか。こうした歴史上の知識は、実は現代の地域社会の成り立ちを知るうえで欠かせません。</p> <p>本講義は、特に現代の福岡県の成り立ちを知る上で欠かせないエピソードや観光資源・エンターテインメントとしても有名な内容を、太宰府や筑紫女学園の歴史も交えて解説していきます。これらは、皆さんが福岡地域で働いたり、他地域を観察する上でも有効な素養になるでしょう。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福岡県の地域史を日本の近現代史、東アジア史の中に位置づけて把握できること。</li> <li>2. 福岡県の地域史を学びながら、政治、産業、教育、宗教などへの理解を深めること。</li> <li>3. 現代の地域の成り立ちを歴史的アプローチから把握する視点を身に着けること。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	ガイダンスー福岡県の歴史の俯瞰と、県民性をめぐる語り	講義レジュメと参考文献による復習		
第2回	太宰府はどのように観光名所になったか？	講義レジュメと参考文献による復習		
第3回	福岡と博多の違いはどこから来るのか？	講義レジュメと参考文献による復習		
第4回	福岡城の今と昔	講義レジュメと参考文献による復習		
第5回	頭山満と玄洋社ー近代福岡と国家主義	講義レジュメと参考文献による復習		
第6回	福岡県の産業革命ー炭鉱、鉄道、八幡製鉄所	講義レジュメと参考文献による復習		
第7回	福岡県における大学と地域の歴史ー九州帝国大学を中心に	講義レジュメと参考文献による復習		
第8回	自校の歴史から地域社会を見通すー筑紫女学園の歴史	講義レジュメと参考文献による復習		
第9回	福岡県における戦時の諸相	講義レジュメと参考文献による復習		
第10回	博多港引揚と二日市保養所	講義レジュメと参考文献による復習		
第11回	エネルギー革命ー三池争議と炭塵爆発事故	講義レジュメと参考文献による復習		
第12回	「明治日本の産業革命遺産」(2015)が世界遺産になった過程	講義レジュメと参考文献による復習		
第13回	「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」(2017)の課題	講義レジュメと参考文献による復習		
第14回	文学と映画の舞台としての福岡①	講義レジュメと参考文献による復習		
第15回	文学と映画の舞台としての福岡②／まとめ	講義レジュメと参考文献による復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%(論述試験、持ち込み可)			
レポート	%			
小テスト等	20%(宿題、確認テストなど)			
成果発表	%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・高校時代に日本史を履修した人も、そうでない人も、日本史の教科書や概説書などを読み、最低限の知識は得ておいたほうがよいでしょう。			
教科書	なし。講義レジュメを毎回配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	川添昭二ほか『福岡県の歴史』山川出版社、1999年 福岡市博物館監修『福岡博覧』(福岡検定公式ブック)海鳥社、2013年			
オフィスワー	講義時間後の休憩時間	メールアドレス		

授業科目	教育・学校心理学（学校心理学）【講義】		開講時期	後期
担当教員	今里 順一		単位	2
授業の目的と概要	心理教育的援助サービスに関する基礎的な知識を身につけ、その知識を活用して、学校現場における心理学的な援助の技法を習得することを目的とする。 講義前半では、主に、心理教育的援助サービスの基礎的な知識や技法について学修する。講義後半では、主に、学校現場で起こりうる具体的な子どもに関連する諸問題について考えながら、グループワークを通してその解決策やその技法について学修する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理教育的援助サービス（アセスメント・カウンセリング・コンサルテーション・コーディネーション）に関する基礎的な理論体系を説明することができる。</li> <li>学校現場で起こりうる諸問題（いじめ、不登校、学級の荒れ、集団形成、発達障害等）について学校心理学の視点から考察し、それらの諸問題に対する援助策を創造していくことができる。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>幼 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	講義の概要説明とオリエンテーション	学校心理学の概要について簡潔にまとめる。		
第 2回	学校心理学の意義と特色	学校心理学の意義・特色について簡潔にまとめる。		
第 3回	学校心理学における心理教育的援助サービス	心理教育的援助サービスを行う対象とその内容についてまとめる。		
第 4回	学校心理学における援助方法①：アセスメント	アセスメントの種類や方法を分類・整理しまとめる。		
第 5回	学校心理学における援助方法②：カウンセリング	カウンセリングの技法等について整理しまとめる。		
第 6回	学校心理学における援助方法③：カウンセリング、コンサルテーション	カウンセリングとチーム援助の在り方について簡潔にまとめる。		
第 7回	学校心理学における援助方法④：コンサルテーション、コーディネーション	コンサルテーション、コーディネーションについて簡潔にまとめる。		
第 8回	主に学習に関係する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	学習に関する援助の手法について分類整理しまとめる。		
第 9回	主に学級集団に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	集団形成に関する援助の手法についてまとめる。		
第10回	主に社会性・道徳性に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	社会性・道徳性の発達についてまとめる。		
第11回	主にキャリア教育に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	キャリア教育に関する援助の手法についてまとめる。		
第12回	主に健康面に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	健康面に関する援助の手法についてまとめる。		
第13回	特別支援教育に関する心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	発達障害がある子への支援方法についてまとめる。		
第14回	学校全体、教師、保護者等を対象とした心理学的援助 グループワークを通して、解決策等について考える。	学校全体、教師や保護者に関する援助の手法についてまとめる。		
第15回	学校心理学のまとめと今後の展望	学校心理学の役割や心理学的な援助の手法について全体的まとめを行う。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ミニレポート40％、最終レポート50％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義ではプリントを配付しますので、ファイルを用意してください。 欠席に関しては、必ずメールにて連絡してください。大幅な遅刻や早退は欠席として扱うことがあります。 実際にあった難しい事例なども取り扱うので、真剣に参加してくれることを望みます。			
教科書	特に指定なし			
指定図書	特に指定なし			
参考図書	水野治久編著『よくわかる学校心理学』ミネルヴァ書房 学校心理士資格認定委員会『学校心理学ガイドブック』風間書房			
オフィスアワー	月曜 4, 5 限	メールアドレス		

授業科目	教育・学校心理学（教育心理学）集中講義【講義】		開講時期	前期
担当教員	安藤 満代		単 位	2
授業の目的と概要	人間形成の原理と社会に生きていく上で、教育心理学の考え方やそれに関する様々な方法を学修する。教育心理学的な専門知識の視点から子どもの成長として、発達、教授や学習の過程、学習への動機、人格の形成を学修する。さらに教育現場における問題や課題と、それに応じた支援方法について学修する。			
到達目標	教員養成、人間、社会的援助として発達の段階、様々な学習と記憶のプロセスと理論、考え方、人格の形成や人間の行動について理解する。教職課程の科目として、社会的自立の知識として日常生活の中、上記のものを取り入れて、教育心理学の適切な理解や判断力を身につけることができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第 1回	教育心理学、歴史、教育心理学者について	教育心理学者の知識と教育心理学の定義を復習する		
第 2回	乳幼児期の発達	ピアジェの認知発達理論を復習する		
第 3回	児童期と青年期の発達	発達課題について復習する		
第 4回	学習のメカニズム	教育現場における学習理論の応用を考えてみる		
第 5回	記憶と問題解決	日常生活での記憶の役割を考えておく		
第 6回	動機づけと学習意欲	学習性無力感の教育現場での問題を考える		
第 7回	前半のまとめ	教育心理学に関わる内容を復習する		
第 8回	教授方法と学習評価	自己の体験から効果的な教授方法を考えてみる		
第 9回	教育制度、法律、倫理	教育現場での倫理的問題を考えてみる		
第10回	教育の諸問題	現代社会における教育の問題について1つ考える		
第11回	特別支援教育	特別支援教育の身近な例を考える		
第12回	不登校、いじめ	不登校やいじめの背景について考えてみる		
第13回	問題行動・学級崩壊・児童虐待への対応	児童・生徒の心理について考えてみる		
第14回	チームとしての学校とスクールカウンセラー	スクールカウンセラーの役割を考えておく		
第15回	全体のまとめ	講義全体を復習する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	定期試験期間には行いません。			
レポート	なし			
小テスト等	定期試験にかわる試験を前半と後半で講義中に行います。90%			
成果発表	なし			
受講態度他	10%（出席状況や受講態度を加味します）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の際に指示します			
教科書	川畑直人・大島剛・郷式徹（監修） 公認心理士の基本を学ぶテキスト 教育・学校心理学，ミネルヴァ書房 2019			
指定図書	勝地 三郎 監修『新教育心理』ナカニシヤ出版			
参考図書	岩田純一・佐々木正人・石田勢津子・落石幸子『児童の心理学』 岡村浩志・藤田主一『新しい教育心理学』Yuhi kaku			
オフィスアワー	授業の前後、昼休み（12:30～13:00）	メールアドレス		

授業科目	教育・学校心理学（教育心理学）【講義】		開講時期	前期
担当教員	S. Kumar		単 位	2
授業の目的と概要	人間形成の原理と社会に生きていく上で、教育心理学の考え方やそれに関する様々な方法を学修する。教育心理学的な専門知識の視点から子どもの成長として、発達、教授や学習の過程、学習への動機、人格の形成を学修する。さらに教育現場における問題や課題と、それに応じた支援方法について学修する。			
到達目標	教員養成、人間、社会的援助として発達の段階、様々な学習と記憶のプロセスと理論、考え方、人格の形成や人間の行動についての理解する。教職課程の科目として、社会的自立の知識として日常生活の中、上記のものを取り入れて、教育心理学の適切な理解や判断力を身につけることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	教育心理学、歴史、教育心理学者について	教育心理学者の知識と教育心理学の定義を復習する		
第 2回	乳幼児期の発達	ピアジェの認知発達理論を復習する		
第 3回	児童期と青年期の発達	発達についての全体に復習をする		
第 4回	学習のメカニズム	教育現場における学習理論の応用を考える		
第 5回	倫理感、記憶と忘却	日常生活での記憶の役割を考えておく		
第 6回	動機づけと学習意欲	学習性無力感の教育現場での問題を考える		
第 7回	パーソナリティと性格検査	交流分析について調べてみる		
第 8回	教授法と教育評価および知能	知能検査について調べてみる		
第 9回	まとめ	教育心理学に関する理論や知識を復習する		
第10回	教育制度、法律、倫理	教育現場の倫理的問題を考えてみる		
第11回	学校における問題の理解と教育モデル	学校現場での問題について調べ、Bruner Concept Attainment Modelの理解		
第12回	教育分野における心理学的援助	三段階の心理教育的援助サービスについて調べておく		
第13回	児童や生徒に対する心理学的援助と指導に関する自己評価	スクールカウンセリング、危機管理について調べる		
第14回	援助者・関係者への心理学的援助	コンサルテーションとコーディネーションについて調べる		
第15回	全体のまとめ	講義全体を復習する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90％レポート課題の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ Teamsでの参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の際に指示します			
教科書	①吉田武男監修 教育心理学 ミナルヴァ書房、2018； ② 窪田由紀・平石賢二編 学校心理臨床実践 ナカニシヤ出版			
指定図書	なし			
参考図書	鼻地 三郎 監修『新教育心理』ナカニシヤ出版 岩田純一・佐々木正人・石田勢津子・落石幸子『児童の心理学』			
オフィスワー	木曜日の昼休み（12:30～13:00）と授業の前後（Te	メールアドレス		
	ams, mailによって連絡して要約する）			

授業科目	教育・保育基礎研究【講義】		開講時期	後期
担当教員	平山(静)・今里(順)・山本(尚)・北村(真)・原田(博)・中野(桂)		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと」に主眼を置き、特に小学校・幼稚園・保育所での見学実習で学ぶことを目的とする。</p> <p>事前指導において教育保育現場の実際や実習時の基本的な心構えを学ぶ。</p> <p>見学実習において子どもの発達や教育・保育の実践方法を間近で観察し、これからの大学での学びと結び付け、自分の将来の基礎を固めていく。</p> <p>事後指導においては観察結果をまとめ、今後の課題として活かしていく。</p>			
到達目標	<p>①自分の希望するキャリアの中で、大学生生活の意義を発見することができる</p> <p>②それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる</p> <p>③同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる</p> <p>④子どもや児童と積極的にコミュニケーションを取り、発達段階を知り、適切な対応を学ぶ</p> <p>⑤小学校・幼稚園・保育所の意義を理解し、教諭・保育士の職務内容を知る</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には看護・助産師や中学校理科教員としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション：専門職におけるマナーなど	見学実習に向けて名札を作成		
第2回	専門職の理解：幼稚園見学実習について/先輩たちの話(学び方)	感想レポートを提出		
第3回	幼稚園について/発達段階について	発達段階に合わせた子どもの接し方を準備する		
第4回	幼稚園の現場理解 見学実習オリエンテーション、事前学習	見学実習の準備		
第5回	附属幼稚園見学実習① 子どもたちとの関わり	子どもたちについて気づいたことをまとめる		
第6回	附属幼稚園見学実習② 教諭の配慮を知る	幼稚園教諭の言葉かけや配慮についてまとめる		
第7回	附属幼稚園見学実習③ 環境構成	環境構成についてまとめる		
第8回	附属幼稚園見学実習 グループディスカッションによる事後指導	ミニレポートを提出		
第9回	小学校・保育所の現場理解① 現場の話を聞く	感想用紙提出		
第10回	小学校・保育所の現場理解② 目的と1日の流れ	学校教育要領と保育所保育指針を読む		
第11回	小学校・保育所の現場理解③ 安全管理	現場での安全管理についてまとめる		
第12回	教師や保育士への理解 見学実習での観察方法	観察方法をまとめる		
第13回	実習校・園の事前学習、計画書	計画書の提出		
第14回	実習先でのマナー/実習生調書	実習生調書の提出		
第15回	見学実習オリエンテーション	見学実習の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60% 感想用紙の提出や内容を点数化します			
小テスト等	0%			
成果発表	20% 事後指導におけるグループディスカッションの取り組み			
受講態度他	20% 普段の受講態度を点数化します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>理由のない欠席や遅刻は減点の対象となります。欠席や遅刻は事前に連絡すること。</li> <li>提出物のメ切りは厳守すること。</li> <li>挨拶やマナーを普段の授業以上に心掛けること。</li> <li>見学実習に向けて体調管理を行うこと。</li> </ul>			
教科書	「幼稚園教育要領」文部科学省 「小学校学習指導要領 総則編」文部科学省(初等のみ)			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワーク	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		



授業科目	教育課程・方法論【演習】		開講時期	前期
担当教員	平山 静男		単位	2
授業の目的と概要	<p>学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を説明することができるようになることを目的とする。あわせて、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を説明することができるようになることを目的とする。</p> <p>授業は、小学校学習指導要領の改訂の経緯及び基本方針、改訂の要点、教育課程の基準、教育課程の編成及び実施から成る。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1, 学習指導要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を説明することができる。</li> <li>2, 学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を説明することができる。</li> <li>3, 教育課程が社会において果たしている役割や機能を説明することができる。</li> <li>4, 教育課程編成の基本原理を説明することができる。</li> <li>5, 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。</li> <li>6, 単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また児童や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を説明することができる。</li> <li>7, 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は中学校理科教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連する科目は教育課程論、教育経営論、教育方法論です。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション。教育課程の実際。		復習：実際の教育課程の振り返り	
第2回	これまでの学習指導要領等改訂経緯と子どもたちの現状		復習：これまでの学習指導要領等改訂経緯と子どもたちの現状の振り返り	
第3回	2030年の社会と子どもたちの未来		復習：2030年の社会と子どもたちの未来の振り返り	
第4回	「生きる力」の理念の具体化と教育課程の課題		復習：「生きる力」の理念の具体化と教育課程の課題の振り返り	
第5回	学習指導要領の枠組みの改善と「社会に開かれた教育課程」		復習：社会に開かれた教育課程の振り返り	
第6回	何ができるようになるか		復習：何ができるようになるかの振り返り	
第7回	何を学ぶか		復習：何を学ぶかの振り返り	
第8回	どのように学ぶか		復習：どのように学ぶかの振り返り	
第9回	子ども一人一人の発達をどのように支援するか		復習：子ども一人一人の発達をどのように支援するか振り返り	
第10回	何が身に付いたかー学習評価の充実ー		復習：学習評価の充実の振り返り	
第11回	実施するために何が必要か		復習：実施するために何が必要かの振り返り	
第12回	児童の発達支援ー児童の発達を支える指導の充実ー		復習：児童の発達を支える指導の振り返り	
第13回	各学校段階の教育課程の基本的な枠組み		復習：各学校段階の教育課程の基本的な枠組みの振り返り	
第14回	学校段階間の接続		復習：学校段階間の接続の振り返り	
第15回	ディスカッション「私の考えるカリキュラム・マネジメント」		復習：授業全般についての振り返り	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	80%。課題5回分。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	20%。授業に臨む意欲的な態度など積極的な受講態度について、質問や意見発表などにより評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社			
指定図書	なし。			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワー	月曜日3限目。	メールアドレス		

授業科目	教育課程・方法論【教職】【講義】	開講時期	前期
担当教員	出雲 俊江	単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：学校における教育課程の意義、歴史、編成、法規に関する基礎的な内容を理解する。          授業・学習の捉え方、学校と学習指導要領など、学校教育にかかわる基礎的な考え方についての知識を得る。          現代の教育方法や教材、問題について、自ら考え、論理的に説明できるようになる。</p> <p>概要：さまざまなカリキュラムの原理とその実際について知識を得る。          毎回、教育に関わる新聞記事を取り上げ、紹介と考察のプレゼンを行う。          学校教育に関わる課題について研究し、パワーポイントにより発表する（グループ）。          情報機器の活用についての知識を得、活用の具体的方法を考える。          読書課題を設ける（2回）。</p>		
到達目標	<p>教育課程の意義、歴史の変遷について、理解する。          教育課程編成、教育方法に関して、主要な概念を理解する。          教育の方法や教材（情報機器を含む）の活用について知識を得、具体的な提案が出来る。          現在の教育問題について、自分で調査し、考えを述べる事が出来る。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション	本講義の内容と構成－ 教育時事プレゼンについて 読書課題（第1回）について	発表者は、新聞からプレゼン資料を作る。	
第2回 教育課程とは何か	教育課程の概念とカリキュラムの類型－ 受けてきた授業を振り返る（教育課程や学習指導要領の観点から）	レポート1「出身校のカリキュラム表」	
第3回 教育課程の編成原理	学問中心と児童中心－	J. デューイ『学校と社会』指定箇所を読む	
第4回 さまざまな教育実践	モンテッソーリ教育・フレネ教育・イェナプラン教育・大正新教育－	黒柳徹子『窓際のトットちゃん』読む	
第5回 教育課程の歴史①	明治の教育と修身／教科書主義の源流－	レポート2「明治～戦前期の学校制度」	
第6回 教育課程の歴史②	学習指導要領の変遷1 1922年版～カリキュラムの現代化－	レポート3「1922年版学習指導要領担当教科について」	
第7回 教育課程の歴史③	学習指導要領の変遷2 新しい学力観～新学習指導要領－	レポート4「新学習指導要領の特徴 歴史的観点から」	
第8回 教科書の現在	教科書検定について－ 教科書にかかわる様々な問題	レポート5「教科書についての気付き」	
第9回 学力とは何か	授業観・学習観の転換／知の構造化、知の共有化－	読書課題（第2回）について 準備する	
第10回 教育評価	教育評価の類型と方法－	学校教育にかかわる課題（グループ研究発表）のテーマを決める	
第11回 学習指導の形態と教育の技術	一斉授業、小集団学習、個別学習、T.T 動機づけ、適性処遇交互作用－	学校教育にかかわる課題（グループ研究発表）の準備	
第12回 現代のさまざまな教育実践	問題解決型学習と系統学習の実践例／学びの共同体・生活綴方－	学校教育にかかわる課題（グループ研究発表）の準備	
第13回 学校教育にかかわる課題（グループ研究）発表会 1	発表会は内容についてのディスカッションを含む	パワーポイントによる発表資料作成	
第14回 学校教育にかかわる課題（グループ研究）発表会 2	発表会は内容についてのディスカッションを含む	パワーポイントによる発表資料作成	
第15回 学校教育にかかわる課題（グループ研究）発表会 3	発表会は内容についてのディスカッションを含む	発表資料と感想をまとめる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	読書課題1回10％ ・ 最終レポート 40％		
小テスト等	毎回の小課題30％		
成果発表	学校教育に関するプレゼン20％（準備・内容・表現）		
受講態度他	特になし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	興味を持った課題を調べ、教育における自分の研究テーマを見つけることを目指したい。 新聞記事を用いた教育時事についてのプレゼンを毎回（各人1回）行う。		
教科書	柴田義松 『教育の方法と技術（教育学のポイントシリーズ）』（学文社 2005） 文部科学省『中学校学習指導要領解説（総則編）』『高等学校学習指導要領解説（総則編）』		
指定図書	使用しない		
参考図書	J. デューイ／市村尚久『学校と社会・子どもとカリキュラム』（講談社学術文庫 1998） 黒柳徹子『窓際のトットちゃん』（講談社 1981）		
オフィスアワー	水曜日4限	メールアドレス	

授業科目	教育課程・方法論【教職】【講義】	開講時期	後期
担当教員	出雲 俊江	単位	2
授業の目的と概要	<p>【目的】教育課程の意義、歴史、編成、法規に関する基礎的な知識を得る。学習指導要領を基準とし、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。教育の方法・技術について、及び情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識を付け、合わせてこれからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育について、自ら考える姿勢を養う。</p> <p>【概要】学校における教育課程の意義、歴史、編成、法規に関して、基礎的な内容を解説する。授業・学習の捉え方について、歴史上、または現代の具体的な事例の紹介を通して、求められる授業のあり方（教育の方法や情報機器を含む教材の活用）について学ぶ。教育に関する読書課題を設ける。学校教育に関する新聞記事紹介のプレゼンを行う。</p>		
到達目標	<p>1) 教育課程編成の基本原則とその歴史及び学校教育において教育課程が有する役割や機能についての知識を得る。  2) 教科・領域・学年をまたいだ長期的視野からカリキュラムを把握し、学校の教育実践に即した教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解できる。  4) 教育の目的に適した指導技術についての知識を得る。  5) 情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付けている。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーションー本講義の内容と構成ー 授業の概要について 教育時事プレゼンの発表日割り当て 読書課題の提示 グループ研究の予告	発表者は、新聞からプレゼン資料を作る。	
第2回	教育課程とは何かー教育課程の概念と教育課程編成の意義ー	レポート1 受けてきた授業を振り返る（教育課程の観点から）	
第3回	教育課程編成の方法1 教育課程編成の基本原則ー学問中心と児童中心ー	レポート2 黒柳徹子『窓際のトットちゃん』小論（教育課程の観点から）	
第4回	教育課程編成の方法2 ささまざまな教育課程（系統的教育課程と教科領域横断型の教育課程）の実践	読書課題（第1回） 課題図書「読書レビュー」作成	
第5回	教育課程編成の方法3 ささまざまな教育課程（生徒・児童、学校や地域の実態を踏まえて）	レポート3 現代のさまざまな教育実践	
第6回	教育課程の歴史1ー明治の教育と修身 大正期の新教育	レポート4 「明治～戦前期の学校制度」	
第7回	教育課程の歴史2ー戦後 学習指導要領の変遷ー	レポート5 「学習指導要領の変遷」	
第8回	学校教育におけるカリキュラムマネジメント 意義と重要性およびその評価	J. デューイ『学校と社会』指定箇所を読む	
第9回	さまざまな教育方法の歴史とその実践？ 主体としての学習者（生活綴方～ケアリング）	読書課題（第2回）について 準備する	
第10回	さまざまな教育方法の歴史とその実践？ 対話と協働（海外の実践 支援者としての教師）	学校教育にかかわる課題（グループ研究発表）のテーマを決める	
第11回	学力観と学習評価の変遷ー授業観・学習観の転換／教育評価の類型と方法ー	学校教育にかかわる課題（グループ研究発表）の準備	
第12回	教育の技術（教育理論・技術に適した指導技術）	学校教育にかかわる課題（グループ研究発表）の準備	
第13回	情報機器を活用した教材の作成（情報活用能力を育成する授業） 学校教育にかかわる課題（グループ研究）発表会 1	パワーポイントによる発表資料作成	
第14回	情報活用能力を育成する指導法の効果的な設定（情報モラルを含む） 学校教育にかかわる課題（グループ研究）発表会 2	パワーポイントによる発表資料作成	
第15回	情報活用能力を育成するための指導法を位置づけた学習指導案 学校教育にかかわる課題（グループ研究）発表会 3	発表資料と感想をまとめ、最終レポートとして作成する	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	行いません。		
レポート	読書課題（1回）15% ・ 小レポート（15回）30%		
小テスト等	行わない。		
成果発表	学校教育に関する新聞記事プレゼン 10%（準備・内容・表現） 最終レポート 学校教育に関わる課題 40%		
受講態度他	討議への参加、主体的な参加を評価する。5%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>テーマ毎に、小ディスカッションを行う。積極的な参加が望ましい。  興味を持った課題を調べ、教育における自分の研究テーマを見つけることを目指したい。  新聞記事を用いた教育時事についてのプレゼンを毎回（各人1回）行う。  学校教育に関わる課題研究 グループによるプレゼンをパワーポイントで行う。</p>		
教科書	柴田義松 『教育の方法と技術（教育学のポイントシリーズ）』（学文社 2005） 文部科学省『中学校学習指導要領解説（総則編）』『高等学校学習指導要領解説（総則編）』		
指定図書	使用しない		
参考図書	J. デューイ／市村尚久『学校と社会・子どもとカリキュラム』（講談社学術文庫 1998） 黒柳徹子『窓際のトットちゃん』（講談社 1981）		
オフィスアワー	前期水曜日4限 後期水曜日3限	メールアドレス	

授業科目	教育課程論【講義】	開講時期	後期
担当教員	岡山 万里	単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の意義や役割、編成について理解する。</li> <li>・教育課程と指導計画との関連、指導計画の在り方について理解する。</li> <li>・指導計画の作成について理解する。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の意義や役割、編成について理解する。</li> <li>・教育課程と関連付けながら、指導計画を作成できるようにする。</li> <li>・作成した指導計画に基づき、模擬保育（プレゼンテーション）を行い、保育の評価や指導計画の修正を試みる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初（3）-②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。  幼（3）-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	幼児教育・保育の基本と教育課程及び全体的な計画	復習：授業内で配布する資料を読む。	
第2回	教育課程の意義と役割、基礎理論	復習：授業内で配布する資料を読む。	
第3回	幼稚園における保育の計画	復習：『幼稚園教育要領』第1章総則第3を読む。	
第4回	保育所における保育の計画	復習：『保育所保育指針』第1章総則3を読む。	
第5回	幼保連携型認定こども園における保育の計画	復習：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の第1章総則第2を読む	
第6回	教育課程・全体的な計画の編成と指導計画	復習：授業内で配布する資料を読む。	
第7回	子どもの発達過程と指導計画	予習：子どもの発達過程を理解しておく。	
第8回	グループワークによる指導計画の作成①	指導計画作成及びプレゼンテーションに向けた準備を行う。	
第9回	グループワークによる指導計画の作成②	指導計画作成及びプレゼンテーションに向けた準備を行う。	
第10回	グループワークにより作成した指導計画のプレゼンテーション①	復習：プレゼンテーションに対する気付きを記録する。	
第11回	グループワークにより作成した指導計画のプレゼンテーション②	復習：プレゼンテーションに対する気付きを記録する。	
第12回	グループワークにより作成した指導計画のプレゼンテーション③	復習：プレゼンテーションに対する気付きを記録する。	
第13回	保育の評価（プレゼンテーションの振り返りと修正）①	復習：保育の評価と修正を通した学びを振り返る。	
第14回	保育の評価（プレゼンテーションの振り返りと修正）②	復習：保育の評価と修正を通した学びを振り返る。	
第15回	小学校への接続、授業のまとめ	復習：授業内で配布する資料を読む。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	50%（基礎的な内容）		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	30%（指導計画作成、プレゼンテーションなど）		
受講態度他	20%（授業への積極的な参加、課題の遂行など）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的な参加を期待します。</li> <li>・グループワークでは、全員が役割を担い、協力して課題に取り組んで下さい。</li> <li>・課題等の必要に応じ、筑女ネットを活用します。</li> </ul>		
教科書	『幼稚園教育要領』（平成29年告示）、『保育所保育指針』（平成29年告示）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年告示）		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	月曜日 2限	メールアドレス	

授業科目	教育課程論Ⅱ【講義】		開講時期	前期
担当教員	今里 順一		単 位	2
授業の目的と概要	<p>教育課程論Ⅰにおいて学修したことを踏まえ、幼稚園や保育所等の教育・保育実践における記録や指導計画の立案、その展開（実践）について、教材準備や方法も含めて具体的に考える力を養うことを目的とする。さらに、実践の記録をもとにした自己評価を行うことにより質の高い実践的な視点を養い、幼稚園教諭や保育士等の教育者・保育者としての資質を高めることを目的とする。</p> <p>初等の学生は幼稚園で、幼保の学生は保育所実習を授業期間中に経験することから、保育現場の年計画、期案、月案、週案、にもとづいた日々の保育であることに気づき、自らの設定保育を分析する。</p>			
到達目標	<p>幼児教育課程・保育課程（以下、教育・保育課程）の編成について、幼稚園教育要領の中身を意識した考えができる。  教育・保育課程編成について、地域や子どもおよび保護者等のニーズを具体的に意識しとり入れることができる。  指導計画について、クラスの子どもおよび保護者等を意識して、年計画、期案または月案、週案、日案を作成することができる。</p> <p>指導計画に基づいて教材の準備、手順を具体的にイメージし表現できる。  幼稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録の記述のポイントを習得する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  幼（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業概要および教育課程・保育課程の今日的意義と課題、オリエンテーション	予習：教育課程論Ⅰの資料等を読み返しておく		
第2回	幼児期の特性と幼稚園教育の役割（幼児期の特性）	幼児期に特性についてまとめる。		
第3回	幼児期の特性と幼稚園教育の役割（幼稚園の生活）	幼稚園の生活についてまとめる。		
第4回	幼児期の特性と幼稚園教育の役割（幼稚園の役割）	幼稚園の役割についてまとめる。		
第5回	幼稚園教育において育みたい資質・能力および「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をまとめる。		
第6回	教育課程の役割と編成等	教育課程の役割についてまとめる。		
第7回	幼稚園の具体的な教育方針等について（早期教育を中心とした幼稚園）	早期教育に取り組んでいる幼稚園についてまとめる。		
第8回	幼稚園の具体的な教育方針等について（自由な活動を中心とした幼稚園）	自由な活動を中心とした幼稚園についてまとめる。		
第9回	幼稚園の具体的な教育方針等について（独自のカリキュラムを中心とした幼稚園）	いろいろなカリキュラムを中心とした幼稚園についてまとめる。		
第10回	幼稚園の具体的な教育方針等について（宗教的な活動もある幼稚園）	宗教的な活動もある幼稚園についてまとめる。		
第11回	指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価（主に指導計画について）	指導計画についてまとめる。		
第12回	指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価（主に評価について）	評価についてまとめる。		
第13回	特別な配慮を必要とする幼児への指導	特別な配慮を必要とする幼児への指導についてまとめる。		
第14回	幼稚園幼児指導要録（と保育所児童保育要録）について	幼稚園幼児指導要録についてまとめる。		
第15回	小学校との接続、引継ぎ等について	小学校との接続、引継ぎ等についてまとめる。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ミニレポート30％、最終レポート60％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>講義ではプリントを配付しますので、ファイルを用意してください。  欠席に関しては、必ずメールにて連絡してください。大幅な遅刻や早退は欠席として扱うことがあります。</p>			
教科書	特に指定しない			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 <原本>』 チャイルド本社 2017年			
オフィスワー	月曜4、5限	メールアドレス		

授業科目	教育経営論【講義】		開講時期	後期
担当教員	古賀野 卓		単 位	2
授業の目的と概要	学校や教育行政機関の目的やその活動について、学校経営や学級経営の基本的な仕組みとともに、その活動のサイクルについてPDCAの基礎を理解することを目的とする。また、学校と地域の連携の意義や地域との協働の仕方について、開かれた学校づくりの視点から先行事例を踏まえて理解したり、学校事故および災害について、学校保健安全法に基づいて、危機管理や事故対応、さらに安全指導を含む学校の危機管理体制の在り方やその具体的な取組を理解することを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校経営や学級経営の目的やその仕組みについて、その効果的な運用の在り方を含めて重要性を理解している。</li> <li>2. 地域と連携・協働することでもたらされる学校の教育活動の意義及び方法を理解している。</li> <li>3. 学校管理下でおこる事件、事故、災害等について、学校安全の必要性とともに、危機管理や事故対応の具体的な取組を理解している。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション：授業の内容、評価などに関する全体的説明	これから学ぶ内容をまとめる		
第2回	学校経営の基礎理論（1）：学校における組織管理の基本的考え方について	学校管理の基本を自分なりにまとめる		
第3回	学校経営の基礎理論（2）：教育活動の年間の流れとPDCAサイクル	授業で学んだ事例をPDCAサイクルで整理		
第4回	学級経営の基礎理論（1）：学級経営の仕組みと効果的な方法について	学級経営の重要性についてまとめる		
第5回	学級経営の基礎理論（2）：「チーム学校」について	学級経営の今日的課題について調べる		
第6回	学校と家庭・地域社会との連携（1）：開かれた学校とは	学校と地域連携の具体的事例をまとめる		
第7回	学校と家庭・地域社会との連携（2）：学校のスリム化と連携強化	部活動をめぐる地域連携についてまとめる		
第8回	学校と家庭・地域社会との連携（3）：学校外活動の評価	学校外のボランティア活動を評価する上での課題		
第9回	学校と家庭・地域社会との連携（4）：PTA活動の活性化	PTA活動の今日的課題をまとめる		
第10回	学校安全への対応（1）：学校における安全教育の意義	安全教育の今日的意義をまとめる		
第11回	学校安全への対応（2）：学校を取り巻く安全上の課題	学校事故を防止するための基本をまとめる		
第12回	学校安全への対応（3）：学校安全・危機管理の実際及び方策と課題	学校事故の先行事例と共通の課題をまとめる		
第13回	学校安全への対応（4）：災害発生時の対応とクライシスマネジメント	災害発生時の学校としての対応についてまとめる		
第14回	学校安全への対応（5）：学校における安全指導計画と安全教育	学校における安全教育の基本をまとめる		
第15回	まとめ	これまでの授業内容のまとめを行う		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	70％、学期末のレポートのほか、授業ごとに「ワークシート」を提出する。次回授業で返却する			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義科目ではあるが、意見を聞いたり、討議を求めたりするので、授業へ積極的な参加を行うこと			
教科書	古賀野卓著『新しい教育経営学—物語を通じたアプローチ—』（中川書店）			
指定図書	なし。			
参考図書	随時、紹介する。			
オフィスワー	水曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	教育経営論【教職】【講義】		開講時期	前期
担当教員	古賀野 卓		単位	2
授業の目的と概要	学校や教育行政機関の目的やその活動について、学校経営や学級経営の基本的な仕組みとともに、その活動のサイクルについてP D C Aの基礎を理解することを目的とする。また、学校と地域の連携の意義や地域との協働の仕方について、開かれた学校づくりの視点から行事例を踏まえて理解したり、学校事故および災害について、学校保健安全法に基づいて、危機管理や事故対応、さらに安全指導を含む学校の危機管理体制の在り方やその具体的な取組を理解することを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校経営や学級経営の目的やその仕組みについて、その効果的な運用の在り方を含めて重要性を理解している。</li> <li>2. 地域と連携・協働することでもたらされる学校の教育活動の意義及び方法を理解している。</li> <li>3. 学校管理下でおこる事件、事故、災害等について、学校安全の必要性とともに、危機管理や事故対応の具体的な取組を理解している。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション : 授業の内容、評価などに関する全体的説明	この授業でこれから学ぶ内容をまとめる		
第2回	学校経営の基礎理論(1) : 学校における組織管理の基本的な考え方について	学校管理の基本を自分なりにまとめる		
第3回	学校経営の基礎理論(2) : 教育活動の年間の流れとP D C Aサイクル	先行事例をP D C Aサイクルで整理する		
第4回	学級経営の基礎理論(1) : 学級経営の仕組みと効果的な方法について	学級経営の重要性についてまとめる		
第5回	学級経営の基礎理論(2) : 学級経営の今日的課題について	学級経営の今日的課題について調べる		
第6回	学校と家庭・地域社会との連携(1) : 開かれた学校とは何か	学校と地域連携の課題をまとめる		
第7回	学校と家庭・地域社会との連携(2) : 学校のスリム化と連携強化	部活動をベースに地域連携についてまとめる		
第8回	学校と家庭・地域社会との連携(3) : 学校外活動の評価	学校外のボランティア活動の評価について課題をまとめる		
第9回	学校と家庭・地域社会との連携(4) : P T A活動の活性化	P T A活動の今日的課題についてまとめる		
第10回	学校安全への対応(1) : 学校における安全教育の意義	学校安全教育の今日的意義についてまとめる		
第11回	学校安全への対応(2) : 学校事故・災害の発生とその防止の考え方	学校事故防止の基本対策についてまとめる		
第12回	学校安全への対応(3) : 学校安全・危機管理の実際及び方策と課題	学校事故の先行事例と共通する課題をまとめる		
第13回	学校安全への対応(4) : 災害発生時の対応とクライシスマネージメント	災害発生時の学校としての対応をまとめる		
第14回	学校安全への対応(5) : 学校における安全指導計画と安全教育	学校安全教育の基本内容をまとめる		
第15回	まとめ	これまでの授業内容のまとめを行う		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	25%(学期末に提示するレポート課題のこと)			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	75%(毎回提出してもらっている15回分の課題から、出席状況と受講態度を評価します)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義科目ではあるが、意見を聞いたり、討議を求めたりするので、授業に積極的に参加すること。			
教科書	古賀野卓著『新しい教育経営学—物語を通じたアプローチ—』中川書店			
指定図書	なし。			
参考図書	随時紹介する。			
オフィスワー	水曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	教育原理【講義】		開講時期	前期
担当教員	古賀野 卓		単 位	2
授業の目的と概要	教育の基本的概念や教育の理念・歴史・思想について学ぶとともに、これまで教育および学校の営みが子ども・家庭・地域、どのように捉えられ、それらとの関係がどのような変遷をたどってきたのかを理解する。 また、子ども・家庭・学校などにおける現代的課題にも目を向け、歴史的視野をふまえ相互の関係性について理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の目的および意義や課題など、教育の実践および研究において不可欠な教育の基本的概念を理解している。</li> <li>2. 子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせている要素およびそれらの相互の関係を理解している。</li> <li>3. 子ども・家庭・学校におけるそれぞれの現代的課題を理解するとともに、相互の関係性のなかで理解している。</li> <li>4. 教育におけるさまざまな思想および歴史的展開をふまえて、学校教育制度の機能と役割について説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション：授業の内容、評価などに関する全体的説明	この授業でこれから学ぶ内容をまとめる		
第2回	教育の基本的概念（1）：教育学の諸概念、教育の本質および目標	教育基本法における「教育の目的」を調べて		
第3回	教育の基本的概念（2）：「教えること」と「学ぶこと」	これまでの学びや経験から、教育者に何が		
第4回	教育の基本的概念（3）：学校の公共性とは何か	教育基本法に基づいて「公共性」について		
第5回	教育に関する歴史（1）：近代化と子ども観の変遷	近代化に伴う子ども観の変遷のまとめ		
第6回	教育に関する歴史（2）：近代教育制度の成立と展開	日本の教育制度の歴史、特徴をまとめる		
第7回	教育に関する歴史（3）：戦後の教育改革と学校教育	戦後の教育改革の歴史と課題をまとめる		
第8回	教育に関する歴史（4）：学校と家庭・地域の関係性の歴史的展開	学校および家庭・地域の相互の関係性をまとめる		
第9回	教育に関する思想（1）：近代化以前の子ども観	近代以前の子ども観の特徴をまとめる		
第10回	教育に関する思想（2）：ルソーおよびベスタロッチの教育思想	ルソーおよびベスタロッチの教育思想をまとめる		
第11回	教育に関する思想（3）：フレーベルの教育思想	フレーベルの教育思想について、自分なりに		
第12回	教育に関する思想（4）：デューイの教育思想	デューイの教育思想について、自分なりに		
第13回	家庭および子どもに関わる教育課題：子どもを取り巻く相互的環境	子どもに関わる現代的課題をまとめる		
第14回	学校および子どもに関わる教育課題：現代の教育課題と学校の果たすべき役割	現代の教育課題について自分なりに意見を		
第15回	まとめ	これまでの授業内容をまとめる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	25％（学期末に提示するレポート課題のこと）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	75％（毎回提出してもらっている15回分の課題から、出席状況と受講態度を評価します）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	進んで質問をするなどして、積極的に授業に参加するように。			
教科書	古賀野卓著『未来への教育原理—子どもが育つ場をともに創る—』中川書店			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	水曜日昼休み	メールアドレス		



授業科目	教育史【講義】	開講時期	後期
担当教員	松本 和寿	単位	2
授業の目的と概要	教育の歴史に関する基礎的知識並びに教育に関する様々な思想を理解し、それらと多様な教育の理念とのかかわりや実際の教育及び学校とのかかわりについて歴史的視点から検証する。特に中等段階で問題となる不登校などを考える素材として、近代学校制度の変遷の理解を深める。		
到達目標	1) 教育の歴史に関する基礎的な知識や教育に関する様々な思想を理解できる。 2) 子ども観について、歴史的視点から具体例に説明できる。 3) 近代国家成立時における学校教育の役割やその後の展開について、説明できる。 4) 近代の制度である公教育がもつ本質的な性格と今日的な課題について、評価できる。 5) 受講者同士で意見交換を行い、一定の結論を導き出せる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は1年次の「教育原理」に関連します。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	イントロダクション：教育についての歴史的視点とは（「教育の歴史を学ぶ意味」についての意見交換）【討論】	「教育の歴史を学ぶ意味」を考えておく。	
第2回	西洋の教育思想1（家庭や子どもに関わる教育の思想）	「教育原理」の学修での関連する内容を整理しておく。	
第3回	西洋の教育思想2（学校や学習・教育方法に関わる教育の思想）	「教育原理」の学修での関連する内容を整理しておく。	
第4回	古代・中世の教育（律令以降の教育）	古代日本の歴史を整理しておく。（律令制を中心に）	
第5回	近世の教育（武士の教育・庶民の教育・私塾）	近世日本の歴史を整理しておく。（幕藩体制中心に）	
第6回	近代の教育（国民教育制度の創設）	近代日本の歴史を整理しておく。（地租改正、徴兵令など）	
第7回	近代の教育（天皇制教育体制の構築）	近代日本の歴史を整理しておく。（帝国憲法、国会開設など）	
第8回	近代の教育（新教育運動の展開）	大正期の日本の歴史を整理しておく。（大戦景気、大正デモクラシーなど）	
第9回	戦時下の教育（国家総力戦体制の確立）	昭和期（大戦前）の日本の歴史を整理しておく。（満州事変、日中戦争など）	
第10回	戦時下の教育（国民学校）	昭和期（大戦下）の日本の歴史を整理しておく。（日米開戦、戦況悪化など）	
第11回	戦後教育改革期の教育（占領下の教育政策）	昭和期（占領下）の日本の歴史を整理しておく。（占領政策、国民生活など）	
第12回	戦後教育改革期の教育（戦後新教育）	昭和期（占領下）の日本の歴史を整理しておく。（新憲法、教基法など）	
第13回	独立後の教育（「55年体制」と教育政策の転換）	昭和期（高度経済成長期）の日本の歴史を整理しておく。（政治を中心に）	
第14回	高度経済成長期の教育（学歴社会、「受験戦争」）	昭和期（高度経済成長期）の日本の歴史を整理しておく。（経済を中心に）	
第15回	まとめ（「教育の歴史を学ぶ意味」についての意見交換）【討論】	これまでの授業を振り返り「教育の歴史を学ぶ意味」を改めて考えておく。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	80% 授業で得た知見をもとに具体的な事例を説明し、自説を展開できる。		
レポート	なし。		
小テスト等	なし。		
成果発表	なし。		
受講態度他	20% 真摯な態度で授業に臨むこと。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。		
教科書	『山川 詳説日本史図録』山川出版社		
指定図書	指定しない。		
参考図書	授業の際に指示する。		
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み	メールアドレス	

授業科目	教育史【教職】【講義】		開講時期	後期
担当教員	松本 和寿		単 位	2
授業の目的と概要	現代日本の教育をめぐる諸問題を考察するために、教育の理念及び思想、また社会的、制度的あるいは経営的事項について、歴史的視点から検証する。			
到達目標	①子ども観について、歴史的視点から具体例に説明できる。 ②近代国家成立時における学校教育の役割について、説明できる。 ③近代の制度である公教育がもつ本質的な性格と今日的な課題について、評価できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に該当し、以下の内容について学びます。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は、2年次の「教育原理」に関連します。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション 教育の歴史的考察の意義とその方法（教育の思想をふり返る）、教育の歴史を学ぶ意味について考える【討論】	教育の歴史について学ぶ意味を考えまとめておく。		
第2回	古代・中世の教育（学校の誕生と社会のしくみ、人々の生活のかかわり）	古代、中世の日本の歴史についてまとめておく。（律令制、守護大名など）		
第3回	近世の教育（武士の教育、庶民の教育）	近世の日本の歴史についてまとめておく。（幕藩体制、身分制など）		
第4回	近世の教育（私塾の特徴と主宰者の思想）	近世の日本の歴史についてまとめておく。（蘭学、国学など）		
第5回	近代の教育（「学制」とその理念、人々の生活への影響）	近代の日本の歴史についてまとめておく。（地租改正、徴兵令など）		
第6回	近代の教育（教育勅語と国家主義的教育の展開）	近代の日本の歴史についてまとめておく。（帝国憲法、国会開設など）		
第7回	近代の教育（大正デモクラシーと新教育運動）	近代の日本の歴史についてまとめておく。（大戦景気、人々の生活状況など）		
第8回	戦時下の教育（国際情勢の変化と国家総力戦体制）	昭和戦前期の日本の歴史についてまとめておく。（満州事変、日中戦争など）		
第9回	戦時下の教育（国民学校令の目的と内容、授業の特質）	昭和戦間期の日本の歴史についてまとめておく。（日米開戦、戦況変化など）		
第10回	戦後教育改革期の教育（占領下の教育政策と経験主義教育）	占領下の日本の歴史についてまとめておく。（GHQの政策を中心に）		
第11回	戦後教育改革期の教育（「六・三制の実施と教育の課題）	占領下の日本の歴史についてまとめておく。（人々の生活状況を中心に）		
第12回	独立後の教育（教育政策の転換と系統主義教育）	戦後の日本の歴史についてまとめておく。（55年体制、逆コースなど）		
第13回	高度経済成長期の教育（理数教育の充実と期待される人間像）	高度経済成長期の日本の歴史についてまとめておく。（国民生活の変化など）		
第14回	現代の教育（学校教育の今日的課題）	1980年代以降の日本の歴史についてまとめておく。（産業構造の変化など）		
第15回	まとめ（学校教育の展開と社会や家庭とのかかわり）、これからの学校教育の在り方について考える【討論】	これからの学校教育の在り方について考えをまとめておく。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	80% 授業で得た知見をもとに具体的な事例を説明することができる。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	20% 真摯な態度で授業に臨むこと。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。			
教科書	『山川 詳説日本史図録』山川出版社			
指定図書	指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	教育心理【講義】		開講時期	前期
担当教員	S. Kumar		単位	2
授業の目的と概要	人間形成の原理と社会に生きていく上で、教育心理の考え方やそれに関する様々な方法を学びます。教育心理の専門知識の視点から子どもの成長として、発達、教授や学習の過程、学習への動機などについて学ぶ。 人間形成と社会的援助のために発達段階を得て、成長していくことの理解。それに関して、乳児期、幼児期、児童期の理解。それぞれの発達段階で知能の発達、情緒の発達、社会性の発達などを理解しながら学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴が理解できる。</li> <li>2) 幼児、児童及び生徒の学習に関する基本的知識を身に付けている。</li> <li>3) 幼児、児童及び生徒の学習に関する発達を踏まえた学習支援について基本的な考え方を理解している。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初(3)-②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼(3)-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	様々な研究による0歳児の発達の理解	0歳児の発達の理解課題の事前・事後学修		
第2回	乳幼児期の運動と知能の発達	教育心理学者による発達課題の復習		
第3回	内発的動機づけと外発的動機づけ	動機による学習の事前・事後学修		
第4回	ピアジェの発達段階論の理解	ピアジェとフロイトの発達理論の事後学修		
第5回	学習のタイプ	学習についてのICT活用した事後学修		
第6回	仲間関係と社会性の形成のアクティブ・ラーニング学習	対人関係について		
第7回	学習の成立 (S-R説)	日常生活の中学習の復習		
第8回	学習過程の知識論	バヴロフ論についての諸課題事後学修		
第9回	古典的条件、B F Skinner のオペラント条件	古典的条件づけの例		
第10回	記憶とは何か	記憶についてのプリントの事前学修		
第11回	記憶のモデル	模倣と観察学習の事前・事後復習		
第12回	認知論について	認知過程について		
第13回	サイン・ゲシュタルト論	Kohlerの認知論についての事前学修		
第14回	発達や学習関係の心理テストの理解	発達、学修、人格心理テストの理解と応用課題のICT活用		
第15回	授業全体の理解と総まとめ	教育心理授業全体の理解と復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90%レポート課題の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% Teamsでの参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の際に指示します			
教科書	指定しない (資料配布)			
指定図書	鼻地 三郎 監修『新教育心理』 ナカニシヤ出版			
参考図書	岩田純一・佐々木正人・石田勢津子・落石幸子『児童の心理学』			
オフィスアワー	火・木昼休み (12:30~13:00) Teams, mail による連絡要約	メールアドレス		

授業科目	教育心理【教職】【講義】	開講時期	後期
担当教員	石原 努	単位	2
授業の目的と概要	教育の対象である幼児・児童・生徒（障がいのある幼児・児童・生徒を含む）の心身の成長と発達を理解、および幼児・児童・生徒（障がいのある幼児・児童・生徒を含む）の望ましい成長と発達のための学習や、生活の指導のあり方に関する理論ならびに方法論について学ぶことによって、教育実践力の基礎となる知識を習得することを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育心理学の領域「発達」「学習」「人格と適応」「教育評価」における基本的知識（理論、概念、方法）を理解し、正確に述べることができる。</li> <li>・学習した事柄が教育活動としてどのように活用されるのか考え、自らの見解を述べるができる。</li> <li>・障がい児に対する学習支援のあり方を理解し、説明することができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	教育心理学を学ぶ意義	配付資料の中の重要語句をまとめる。	
第2回	発達理論Ⅰ：発達の定義、発達の規定要因	発達要因に関連する心理学者の考えをまとめる。	
第3回	発達理論Ⅱ：主な発達理論（フロイト、ピアジェ、エリクソン）	各心理学者の考えをまとめる。	
第4回	心身の発達の過程Ⅰ：乳幼児期	乳幼児期の発達の様相をまとめる。	
第5回	心身の発達の過程Ⅱ：児童期	児童期の発達の様相をまとめる。	
第6回	心身の発達の過程Ⅲ：青年期	青年期の発達の様相をまとめる。	
第7回	学習理論Ⅰ：連合説と認知説	連合説・認知説等についてまとめる。	
第8回	学習理論Ⅱ：記憶・動機付け	記憶の種類や動機づけについてまとめる。	
第9回	学習理論Ⅲ：学習指導法	様々な学習指導法についてまとめる。	
第10回	評価（学習評価の方法等）	学習評価の方法やその考えについてまとめる。	
第11回	人格とその測定	人格検査等の手法や内容についてまとめる。	
第12回	学力とその測定	知能検査等の手法やその考えについてまとめる。	
第13回	学級集団の形成過程と教師のリーダーシップ	学級集団の形成過程や教師の役割をまとめる。	
第14回	発達障害とその支援Ⅰ：ASD	発達障害のある子への支援方法についてまとめる。	
第15回	発達障害とその支援Ⅱ：ADHD LD	発達障害のある子への支援方法についてまとめる。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	90％ 講義内容のまとめりごとにレポート課題を提出 講義後のミニ課題の提出（課題は講義の中で提示）		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10％ 参加態度		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>教職履修生には、将来的に教職に就くことを前提に、それにふさわしい履修態度を求める。</p> <p>学校の現状を理解するためにも学生サポーターなどの学校ボランティア活動に積極的ににかかわることを奨励する。</p> <p>適宜、グループで検討する場面を位置付けるので、積極的に参加すること。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	「よくわかる 教育心理学」「よくわかる 発達障害」 ミネルヴァ書房		
オフィスアワー	月曜日2限	メールアドレス	

授業科目	教育心理学特論【講義】		開講時期	後期
担当教員	S. Kumar		単 位	2
授業の目的と概要	人間形成の原理と社会に生きていく上で、教育心理学の考え方やそれに関する様々な方法を学びます。教育心理学的な専門知識の視点から子どもの成長として、発達、教授や学習の過程、学習への動機、人格の形成を学びます。発達段階を得て、成長していくことの理解。それに関して、乳児期、幼児期、児童期、青年期の理解。			
到達目標	教員養成、人間、社会的援助として発達の段階、様々な学習と記憶のプロセスと理論、考え方、人格の形成や人間の行動についての理解する。教職課程の科目として、社会的自立の知識として日常生活の中、上記のものを取り入れて、教育心理学の適切な理解や判断力を身につけることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。 (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。 (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。 (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1 回	教育心理学の研究の理解	子どもの発達を理解するプリントの事後学修		
第 2 回	教育心理学者の研究の紹介I	Wudtの研究の理解		
第 3 回	教育心理学者の研究の紹介II	Vygotsky, Premack, Freud, Slavin の研究の事前・事後指導		
第 4 回	乳幼児期の知能、運動、言語の発達の研究	子どもの周囲の知能要素の理解の復習		
第 5 回	発達障害—I	ASD、ダウン症の事前学修		
第 6 回	発達障害—II	ADHD、知的障がい事前・事後学修		
第 7 回	子どもの成績評価	Raven's Progressive Matricesの成績テストの理解		
第 8 回	子どものストレスと精神状態のICTを活用した学習	ストレスとストレッサー		
第 9 回	アクティブ・ラーニングを用いたストレスについてのグループ学習	ストレス解消法と考え方についての予習		
第10回	教育測定と評価の学習	学習課題を見つけるための基本要素の事前・事後学修		
第11回	Bruner Concept Attainment model	学習・教授法の事前・事後学修		
第12回	行動学習に関する研究	認知行動療法のプリントの事前・事後学修		
第13回	質問紙課題による研究事例	対人関係のためこころの援助の予習		
第14回	研究データの収集事例	教育測定と評価のプリントの事後学修		
第15回	授業全体を通して教育心理学特論のまとめ	授業全体の事後学修と各自で付属幼稚園で園児の行動を観察する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 論文レポート提出			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% (私語5%、遅刻3%、授業中携帯電話の使用と眠りなど2%)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし			
教科書	資料配布など			
指定図書	指定しない			
参考図書	鼻地 三郎 監修『新教育心理』ナカニシヤ出版			
オフィスアワー	木曜日の昼休み (12:30~13:00)	メールアドレス		

授業科目	教育実習Ⅰ【教職】【実習】		開講時期	通年
担当教員	栗山 俊之・出雲 俊江・竹熊 真波		単位	4
授業の目的と概要	<p>本講義は、中学校教員免許取得希望者が、教育実習を通じて教育現場や教師の仕事の実際を理解することを目的とする。同時に、これまでに学んできた「教職に関する科目」ならびに「教科に関する科目」における理論的な知識を応用する力を身につけるという目的も有する。その上で、自己の教師としての適性を再考するものである。</p> <p>教育実習は、基本的には、5月から6月にかけて少なくとも15日間、中学あるいは高校で行われる。実習校の状況によっては9月から11月の受け入れもあり得る。なお、以下の授業計画は、あくまでも一例であり、実際は実習校の指示に従う。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育現場や教師の仕事の実際を体験的に理解する</li> <li>・これまで学んできた理論的な知識を現場にいかす</li> <li>・教師としての実践的力を経験的・実践的に形成する</li> <li>・教師としての職業倫理を経験的に培う</li> <li>・教師として、社会人としての自己管理能力（時間管理、健康管理等）を身につける</li> <li>・教師としての適性を自ら判断する</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育実習」に該当します。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
1日目 実習初日：講話・自己紹介等（主な活動・注意事項：学校での流れを把握する。元気の挨拶を心がける）		実習前に指導案を作成し、50分フルの模擬授業を実践しておく。		
2日目 観察実習（先生方の授業や生徒の様子、学校や学級の雰囲気などを自分なりの着眼点を持って観察する）		教材研究や実習校との事前打合せを十分に行った上で実習に臨む。		
3日目 観察実習・参加実習1（朝の会での点呼などから開始し、給食指導、掃除指導などの生徒指導も行っていく）		HRの生徒の名前を把握しておく。		
4日目 観察実習・参加実習2（体育祭や文化祭、自然教室などの学校行事と重なる場合が多い）		休み時間や放課後の部活などあらゆる機会を捉え、生徒との交流を図る。		
5日目 観察実習・参加実習3（実習校での1週間を振り返る）		次週からの授業の準備、教材研究を十分にを行う。		
6日目 実証実習1（授業の開始。授業のねらいを明確にし、授業を組み立てる）		教材研究や授業準備、略案の作成などを行う。		
7日目 実証実習2（指導教員の助言をしっかりと受け止め、授業改善を図る）		反省を生かし、教材研究や授業準備、略案の作成などを行う。		
8日目 実証実習3（アクティブ・ラーニングやICTの活用を授業に組み込む）		反省を生かし、教材研究や授業準備、略案の作成などを行う。		
9日目 実証実習4（授業を円滑に行うためにも生徒理解・生徒指導を通じての学級の秩序維持を心がけること）		反省を生かし、教材研究や授業準備、略案の作成などを行う。		
10日目 実証実習5（実習校での2週間を振り返り、査定授業に備える）		栄養と睡眠を十分にとっておく。		
11日目 実証実習・査定（研究）授業の準備1（指導教諭の助言を受け、査定授業用の指導案を練り上げる）		指導案の作成。誤字脱字や提出期限等最後まで細心の注意を払うこと。		
12日目 実証実習・査定（研究）授業の準備2（授業準備と授業、査定授業用の指導案の完成）		指導案の修正と授業準備を行う。		
13日目 実証実習・査定（研究）授業の準備3（指導案の印刷等、査定授業の準備）		指導案の完成と授業準備、査定授業に向けたシミュレーションを行う。		
14日目 査定（研究）授業と反省会		先生方の指導・助言を真摯に受け止め、次に活かせるようにする		
15日目 実習の総括（教育実習全体を振り返る）		実習日誌を完成させる。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30％ 教育実習日誌（確認後返却）・教育実習報告書（添削後、報告集を作成する）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	70％（実習校からの評価）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習日誌は、実習校から特に指示がない限り、ボールペンで記入すること。誤字・脱字がないよう留意し、丁寧に書くこと。</li> <li>・無断欠勤や遅刻は決して許されない（提出物も期限内に出すこと）。</li> <li>・社会人としてのマナー（服装、言葉遣いなど）や時間管理・健康管理に留意すること。</li> <li>・生徒との個人的な交流（携帯番号を教えるなど）、及び実習内容についてのインターネット（SNSなど）への投稿禁止。</li> <li>・守秘義務を理解し、個人情報等を漏えいしないよう細心の注意を払うこと。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房、文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房			
オフィスワーク	火曜4限、水曜3、4限（竹熊） 山 水4、木2（出雲）	火3、金3限（栗山）	メールアドレス	

授業科目	教育実習Ⅱ【教職】【実習】		開講時期	通年
担当教員	栗山 俊之・出雲 俊江・竹熊 真波		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本授業は、高等学校教員免許のみを希望する者（高校福祉）が、教育実習を通じて教育現場や教師の仕事の実際を理解することを目的とする。同時に、これまでに学んできた「教職に関する科目」ならびに「教科に関する科目」における理論的な知識を応用する力を身につけるという目的も有する。その上で、自己の教師としての適性を再考するものである。</p> <p>教育実習は、基本的には5月から6月にかけての10日間、内諾済みの高校（あるいは中学）において行われる。実習校の状況によっては9月から11月の受け入れもある。なお、以下の授業計画は、あくまでも一例であり、実際は実習校の計画・指示に従う。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育現場や教師の仕事の実際を体験的に理解する</li> <li>・これまで学んできた理論的な知識を現場にいかす</li> <li>・教師としての実践的力を経験的・実践的に形成する</li> <li>・教師としての職業倫理を経験的に培う</li> <li>・教師として、社会時とんととしての自己管理能力（時間管理・健康管理等）を身につける</li> <li>・教師としての適性を自ら判断する</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育実習」に該当します。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
1日目 実習初日：講話・自己紹介等（主な活動及び注意事項：学校での流れを把握する。元気な挨拶を心がける）		実習校での実践を想定し、指導案作成と50分フルの模擬授業を行う。		
2日目 観察実習（先生方の授業や生徒の様子、学校や学級の雰囲気などについて自分なりの着眼点を持って観察する）		事前の教材研究・実習校との打合せを十分に行ったうえで実習に臨む		
3日目 観察実習・参加実習（朝の会での点呼などから開始する。掃除時間の生徒指導なども行っていく）		HRの生徒の名前を把握しておく		
4日目 参加実習・実証実習1（授業の開始。授業目標を明確にした上で授業を組み立てる）		教材研究や略案の作成など授業準備を行う		
5日目 参加実習・実証実習2（指導教員の助言をしっかりと受け止め、授業改善を図る）		査定授業に向けての教材研究等をおこなう		
6日目 実証実習1（査定授業に向けての準備の開始）		アクティブ・ラーニングやICTを活用した授業になるよう準備する		
7日目 実証実習2（査定授業用指導案の作成と授業準備）		誤字脱字や提出期限など細心の注意を払って準備を行う		
8日目 実証実習3（査定授業用指導案の完成と印刷等の準備）		査定授業に向けたシミュレーションを行う		
9日目 査定（研究）授業の実施と反省会		先生方の指導・助言を真摯に受け止め次に活かせるようにする		
10日目 実習の総括		実習日誌を完成させる		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30％ 教育実習日誌（確認後返却）・教育実習報告書（添削指導後報告集を作成）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	70％（実習校からの評価）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習日誌は、実習校から特に指示がない限り、ボールペンで記入すること。誤字・脱字がないよう留意し、丁寧に書くこと。</li> <li>・無断欠勤や遅刻は決して許されない（提出物も期限内に出すこと）。</li> <li>・社会人としてのマナー（服装、言葉遣いなど）や時間管理・健康管理に留意すること。</li> <li>・生徒との個人的な交流（携帯番号を教えるなど）及び実習内容についてのインターネット（SNSを含む）への投稿禁止。</li> <li>・守秘義務を理解し、個人情報を漏えいしないよう細心の注意を払うこと。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房			
オフィスアワー	火曜3限、水曜3、4限（竹熊） 火4、金3限（栗山） 水4、木2（出雲）	メールアドレス		

授業科目	教育時事の理解【講義】		開講時期	前期
担当教員	松本 和寿		単位	2
授業の目的と概要	<p>現在の教育課題（生徒指導、学力向上、英語科教育・道徳教育の推進等）に関する文部科学省及び都道府県（市町）教育委員会の施策の概要とその成果や問題点に関する基礎的知識を得るとともに、課題解決のための実践的方策について考察する。</p> <p>授業の際は、教師が示す資料や学生自身が収集した資料を基に少人数での説明・意見交換を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 現在の教育課題の概要を把握し、その解決に向けた方策について初等教育に携わる立場で考察する。</li> <li>2 文部科学省や都道府県（市町）教育委員会の施策の概要を理解する。</li> <li>3 特定の教育課題に関する自分の考えを相互に理解し合うコミュニケーション能力を身につける。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初（3）-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>幼（3）-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は2年次の「教育原理」などの教育の理論に関わる科目や、1年次以降の「初等教科教育法」等の実践的な科目のそれぞれに関連します。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 教育に関する問題について考える意味	マスコミ等で報道される教育に関する問題について情報を集めておく。		
第2回	不登校、いじめについての講義（不登校、いじめの状況や対応）	国立教育政策研究所HPにアクセスし不登校、いじめの概要を把握しておく。		
第3回	不登校、いじめについての調査活動（学校園や教委・学校法人の取組）	不登校、いじめに関する諸資料の目録を作成しておく。		
第4回	不登校、いじめについての意見交換【討論】	調査活動で得た情報や考えを整理し討論の準備をする。		
第5回	道徳教育についての講義（教科化の理由と課題）	文科省HPにアクセスし特別の教科道徳の概要を把握しておく		
第6回	道徳教育についての調査活動（学校園や教委・学校法人の取組）	道徳教育に関する諸資料の目録を作成しておく。		
第7回	道徳教育についての意見交換【討論】	調査活動で得た情報や考えを整理し討論の準備をする。		
第8回	小学校英語・就学前英語教育についての講義（指導内容や授業方法）	文科省HPにアクセスし小学校英語の概要を把握しておく。		
第9回	小学校英語・就学前英語教育についての調査活動（学校園や教委・学校法人の取組）	小学校英語・就学前英語教育に関する諸資料の目録を作成しておく。		
第10回	小学校英語・就学前英語教育についての意見交換【討論】	調査活動で得た情報や考えを整理し討論の準備をする。		
第11回	教師の働き方改革についての講義（教師の仕事内容や保護者対応の仕方）	厚生労働省のHPにアクセスし働き方改革の国の動向を把握しておく。		
第12回	教師の働き方改革についての調査活動（学校園や教委・学校法人の取組）	教師の働き方改革に関する諸資料の目録を作成しておく。		
第13回	教師の働き方改革についての意見交換【討論】	調査活動で得た情報や考えを整理し討論の準備をする。		
第14回	学生自身が見出した課題についての調査活動（任意の課題）	第13回までに対象としていない課題について情報を収集しておく。		
第15回	学生自身が見出した課題についての発表【討論】	自身が選んだ課題の発表準備をする。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	60%			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	30%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の多くの回で、調査活動や学生相互の発表・意見交換を行う。その際、調査結果のまとめ（様式は別途指示）の提出を求める。			
教科書	教科書は使用せず、授業ごとに必要な資料を配布する。			
指定図書	講義の際に別途指示する。			
参考図書	講義の際に別途指示する。			
オフィスアワー	月曜日、金曜日の昼休み	メールアドレス		



授業科目	教育相談【講義】	開講時期	後期
担当教員	板井 修一	単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、初等教職課程授業科目の一つで、教職に関する科目のうち生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目の「教育相談(カウンセリングに関する基礎的知識を含む)」の理論及び方法について学ぶものである。</p> <p>教育現場で子どもたちが現す問題行動への対応は、教師にとっては避けて通ることのできない重要な問題である。的確な「見立て」と適切な対応がとれるかによって、教師の力量が問われることになる。教師には、幼児や児童のこころを理解するための理論や方法を、しっかりと身につけたうえで、子どもたちと真摯に向き合い、関わり合う姿勢が求められている。</p> <p>この「教育相談」の授業をとおして、問題を抱え課題に直面する子どもたちへの指導・援助にとどまらず、問題発生予防ならびに、子どもたちの人間的成長を促す積極的・開発的な援助や支援のあり方についての理解を深めていく。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育現場における教育相談の意義について説明することができるようになる。</li> <li>・教育相談に役立つカウンセリングの基本的態度や技法を身につける。</li> <li>・教育相談の対象となる登園拒否や不登校、発達障害等の問題について、説明できるようになる。</li> <li>・幼児理解の理論及び方法の意義について説明できるようになる。</li> </ul>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  関連する科目：幼児理解、臨床心理学概論、カウンセリング概論  この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 教育相談とは 子どもの現状、教育相談の意義、事例の提示とそれに基づくディスカッション		教育現場が抱える子どもの問題について、新聞や雑誌を調べリストを作る	
第2回 発達課題と教育相談 子どもの発達課題と子どもの問題、教育相談の果たす役割		子供の発達課題とつまづきについて調べる	
第3回 教育相談の三要素 学業相談、進路相談、適応相談		教師との自分自身の相談体験について思い出しまとめる	
第4回 スクールカウンセラー(SC)制度 制度と今後の課題、制度化のプロセス、心の相談員		自分の卒業した中学校でSCがどのような活動をしていたかまとめる	
第5回 精神分析(1) 無意識の心理学、心的決定論、		自分の見た夢や失錯行為について思い出し記録する	
第6回 精神分析(2) 自我の働き、防衛機制		自分がよくとる防衛機制について、エピソードの形でまとめる	
第7回 行動理論 子ども問題に対する理解の仕方(未学習、誤学習、過学習性の問題)、賞と罰、スモールス		日常生活に見られる行為や出来事について、学習理論で説明してみる	
第8回 カウンセリング(1) ロジャーズの非指示的カウンセリング、クライアント中心療法		自分が受けたカウンセリングの体験エピソードをまとめる	
第9回 カウンセリング(2) 受容・共感・自己一致 小グループでのカウンセリングのロールプレイ(実習)		自分が他者に対して行ったカウンセリング的行為についてまとめる	
第10回 現場で出会う心理的諸問題(1) 不登校を中心に		適応指導教室やフリースペース等についての情報を収集しリストを作る	
第11回 現場で出会う心理的諸問題(2) ⑭精神遅滞、⑮発達障がい(ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群等)を中心に		発達障がいをテーマにしたビデオを観て、障がいについての考えをまとめる	
第12回 現場で出会う心理的諸問題(3) いじめ問題を中心に 重大事態についての対処についてディスカッション		重大事態のいじめ事件について、事件の背景、実態等について調べる	
第13回 教師の心のケア 教師の心の健康、ストレスケアマネジメント		教師の心の健康に関する問題について、新聞や雑誌から調べる	
第14回 園や学校での危機への対応 危機の対応と心のケア、PTSDの予防		PTSDと心のケアについて、新聞や雑誌から調べる	
第15回 保護者支援、地域支援 地域のネットワーク、他職種との協働		子どもの問題に対する地域コミュニティの取り組みについて調べる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	100% 期末レポート 講義内容と関連する指定したテーマについて、2000文字程度のレポートを課す		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回の授業で学んだことの振り返りと考えたことを記録する「リフレクション・シート」を、授業の終わりに記入し提出をする。次の講義の初めにチェックした「リフレクション・シート」を返却する。「リフレクション・シート」の提出、返却により、講義への出席と欠席、遅刻の実態を把握する。</p> <p>授業外学修として出された課題は、各自ファイルを作成し整理する。提出を求め、点検をすることがある。</p>		
教科書	なし 授業内容と関連した配付資料を毎回配布する		
指定図書	なし		
参考図書	長友久雄(編著) 『学校カウンセリング入門』 ミネルバ書房 向後礼子・山本智子 『教育相談ワークブック 子どもの育ちを支える』 ミネルバ書房		
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス	

授業科目	教育文化特論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	古賀野 卓		単 位	2
授業の目的と概要	<p>子どもの世界に起きている様々な問題および改善策をシステム論の視点から複眼的に分析する能力を身につけることを目的としている。</p> <p>ここでのシステムとは、制度というより、研究者の認識枠組みのようなものである。システム論の利点は、次の3つにまとめられる。</p> <p>○学級における子ども集団、学校組織、教育行政という制度等という異なったスケールで複眼的に子どもを捉えることが可能となる。</p> <p>○子どもの自己認識や社会認識に影響を与えている学校以外の文化をシステムと見なし、そこから子ども理解を深めることができる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. システム論の考え方やその利点について理解し、説明することができる。</li> <li>2. システム論を用いて、いじめ・不登校などの教育問題を分析することができる。</li> <li>3. 私たちの社会生活を包み込んでいる国家・社会のしくみというマクロな構造へと考察を広げることができる。</li> <li>4. 子どもを中心とした社会づくりのために、システム論の知見を応用することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	システムとは何か：つながりのなかで生きている私		第1回授業の復習	
第2回	システムで考えると何が見えてくるか		授業で提示する課題①	
第3回	システム論の視点について ―ミクロとメゾとマクロという視点―		第3回授業の復習	
第4回	学校をシステムとしてみる ―学級集団から学校教育制度まで―		第4回授業の復習	
第5回	子どもに影響を及ぼす様々なシステム		授業で提示する課題②	
第6回	システム論からみた現代のいじめの構造		第6回授業の復習	
第7回	学級崩壊にみる学校制度の自明性の衰退		第7回授業の復習	
第8回	学校をつくるということ ―システムづくりとルールづくり―		授業で提示する課題③	
第9回	組織が変わるということ ―共通するプロセスを見つけ出す―		第9回授業の復習	
第10回	教師に求められる力 ―生きたシステムをつくるリーダーとして―		第10回授業の復習	
第11回	集団のなかで子どもを育てるということの意味		授業で提示する課題④	
第12回	子どもを中心にシステムを見つめ直すということ		第12回授業の復習	
第13回	子どもにとって最も重要なシステムを探る		第13回授業の復習	
第14回	子どもを生かすためのシステムづくり ―大人社会の責任―		第14回授業の復習	
第15回	まとめ		授業で提示する課題⑤	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	25%(学期末に提示するレポート課題のこと)			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	75%(毎回提出してもらっている15回分の課題から、出席状況と受講態度を評価します)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし。			
教科書	使用しない。			
指定図書	ない。			
参考図書	古賀野卓『新しい教育経営学―物語を通じたアプローチ』(中川書店)			
オフィスアワー	水曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	教育文化特論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	池田 竜介		単 位	2
授業の目的と概要	例えば、日本人は「ごめん」という表現を感謝を伝える手段として用いることがあります。一方で、「ごめん」は「sorry」と翻訳することが可能ですが、「sorry」では感謝を伝えるニュアンスが薄くなります。要するに、「ごめん」と「sorry」は厳密には同義ではなく、「ごめん」のニュアンスは日本文化の内側において感受できるものであるように思われます。このように、私たちの諸行為の意味は文化を参照することで適切に理解可能となります。本講義では、このような文化と諸行為の関係性についてテキストを基にして議論していきたいと考えています。			
到達目標	①テキストの主旨を読み取り、内容を整理することができる。 ②テキストを批判的に検討することができる。 ③議論に積極的に参加することができる。 ④文化と諸行為との関係性について考えを深める。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。 (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。 (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。 (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション／テキスト選定		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第2回	文献講読と議論		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第3回	文献講読と議論		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第4回	文献講読と議論		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第5回	文献講読と議論		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第6回	文献講読と議論		これまでの議論を整理する。	
第7回	これまでの議論の整理		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第8回	文献講読と議論		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第9回	文献講読と議論		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第10回	文献講読と議論		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第11回	文献講読と議論		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第12回	文献講読と議論		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第13回	文献講読と議論		これまでの議論を整理する。	
第14回	これまでの議論の整理		文化と諸行為の関係性についてまとめる。	
第15回	総括		人びとの生活の捉え方について考察する。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	80% テキストの内容を的確に整理し、批判的検討することができるかを評価します。			
受講態度他	20% 積極的発言、態度を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	文化に関するご自身の問題関心を持って受講することを期待しています。			
教科書	初回講義時に決めたいと思いますが、特に希望がなければ下記二点を考えています。 (初回講義時には準備していなくても問題ありません。)			
指定図書	・ハロルド・ガーフィンケル他；山田富秋他(訳)(2004)『エスノメソドロジー：社会学的思考の解体(新装)』せりか書房 ・ジェームス V. ワーチ；田島信元他(訳)(2004)『心の声：媒介された行為への社会文化的アプローチ』福村出版			
参考図書	適時、紹介を行う。			
オフィスアワー	授業の前またはメールにて相談可	メールアドレス		

授業科目	教育方法論【演習】	開講時期	前期
担当教員	松尾 智則	単位	2
授業の目的と概要	<p>幼児教育における教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能について科学的視点を持って理解し、習得することを目的とする。</p> <p>科学的教育方法の基礎的理論と教師に必要なプレゼンテーションスキルの基礎を学んだ後に具体的に情報機器等を利用した資料の収集・指導計画の作成と模擬授業・保育を体験・考察して教師の役割についての理解を深める。</p>		
到達目標	<p>1. 教育環境に関して基礎的に説明できる。</p> <p>2. 学習者の管理に関して基礎的に説明できる。</p> <p>3. 教師に必要なプレゼンテーションスキルの基本を説明できる。</p> <p>4. 指導案の作成と模擬保育を体験・参観し、それを元に指導計画の作成ができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>幼 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>幼 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	はじめに	配布資料に基づき内容をまとめて最終レポートに備える。	
第2回	教師の課題	配布資料に基づき内容をまとめて最終レポートに備える。	
第3回	目標の分析	配布資料に基づき内容をまとめて最終レポートに備える。	
第4回	教育内容と具体化	配布資料に基づき内容をまとめて最終レポートに備える。	
第5回	教育環境の管理1 教育の制度的環境と具体的環境の基本	配布資料に基づき内容をまとめて最終レポートに備える。	
第6回	教育環境の管理2 学校・学級経営と指導法	配布資料に基づき内容をまとめて最終レポートに備える。	
第7回	学習者の管理1 学習者の特性と個人差	配布資料に基づき内容をまとめて最終レポートに備える。	
第8回	学習者の管理2 学習集団の編成と指導法	配布資料に基づき内容をまとめて最終レポートに備える。	
第9回	学習者の管理3 意欲の形成の基礎	配布資料に基づき内容をまとめて最終レポートに備える。	
第10回	教師の課題実践編1 プレゼンテーションスキル	配布資料に基づき内容をまとめて最終レポートに備える。	
第11回	教師の課題実践編2 指導計画の作成と情報機器の活用の理論	配布資料に基づき内容をまとめて最終レポートに備える。	
第12回	教師の課題実践編3 指導案の作成と情報機器の活用の実践	配布資料に基づき内容をまとめて最終レポートに備える。	
第13回	教師の課題実践編4 指導案の作成	配布資料に基づき内容をまとめて最終レポートに備え、指導案を作成する。	
第14回	教師の課題実践編5 保育の評価	配布資料に基づき内容をまとめて最終レポートに備える。	
第15回	教育方法論の授業の振り返り	14回のノートをよく整理して最終レポートを作成する。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	20%(指導案) 30%(毎回提出するミニレポートの記載内容)		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>積極的な参加を求める。</p> <p>※成績評価方法や実施回・実施内容は対面授業が再開する場合などで変更することがある。</p>		
教科書	プリントを配布		
指定図書	なし		
参考図書	幼稚園教育要領 文部科学省 保育所保育指針 厚生労働省		
オフィスワー	相談のある者は授業の前後に適宜対応する。 またはメールで連絡すること。	メールアドレス	

授業科目	教職実践演習（中・高）【教職】【実習】		開講時期	後期
担当教員	出雲 俊江・栗山 俊之・竹熊 真波・アダチ 徹子		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業は、教職課程での教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況を踏まえ、教育実習を含む教職課程での学びの到達点を確認し、卒業後に教団に教師として立つにあたっての課題を明確化すると同時に、その課題を克服するための実践的指導を行うことを目的とする。具体的には、履修カルテや教育実習日誌等を基に、教育実習を含むこれまでの学修の到達度や課題を自己分析する。次いで、それぞれのテーマについて模擬授業やグループ討議等を通じて学びの検証を行う。さらに、現職教員を招聘しての講義、近隣の学校への授業参観等によって教師の仕事を再確認する。これらの活動を通して、約3年半の教職課程の履修において獲得してきたもの並びにこれから教師として実践の場に出るにあたっての課題を確認する。</p> <p>なお、実施に当たっては、担当教員以外の教員、太宰府市・筑紫野市の教育委員会や中学・高校、併設中学・高校等の連携と協力を仰ぐ。</p>			
到達目標	<p>①教師としての使命感や責任感、教育的愛情を獲得している。  ②教師として最低限必要な社会性や対人関係能力を獲得している。  ③教師として最小限必要な生徒理解の知識や能力を獲得している。  ④学級経営に最小限必要な知識やコミュニケーション能力を獲得している。  ⑤各教科に関する専門的知識および指導能力の基礎を獲得している。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教職実践演習」に該当し、教員として必要な知識技能を習得したことを確認するものである。従って、4年前期に「中等教育実習指導」を修得済みで、「教育実習Ⅰ」または「教育実習Ⅱ」として教育実習を実施したものが、教職課程の総括として受講することとなる。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回（9月23日）	オリエンテーション：教職実践演習の進め方について（クラス別：国語出雲、英語アダチ、社会・福祉栗山）	学校ボランティア活動記録の提出（以後随時）		
第2回（9月30日）	教科別課題研究①教材分析を中心に	授業を踏まえての各自の現状評価と課題の確認		
第3回（10月7日）	教科別課題研究②発展的内容を中心に	授業を踏まえての各自の現状評価と課題の確認		
第4回（10月14日）	教科別課題研究③指導案の作成を中心に	授業を踏まえての各自の現状評価と課題の確認		
第5回（10月21日）	教科別課題研究④板書計画を中心に	授業を踏まえての各自の現状評価と課題の確認		
第6回（10月28日）	教科別課題研究⑤評価基準を中心に	授業を踏まえての各自の現状評価と課題の確認		
第7回（11月4日）	模擬授業①導入	指導案や板書計画の作成など模擬授業の準備と反省		
第8回（11月11日）	模擬授業②展開	指導案や板書計画の作成など模擬授業の準備と反省		
第9回（11月18日）	模擬授業③まとめ	指導案や板書計画の作成など模擬授業の準備と反省		
第10回（11月25日）	履修カルテに基づく、学びの振り返りと自身の使命感・責任感の検証（合同授業：担当竹熊）	履修カルテ等を用いての「学びの軌跡の自己分析」シートの作成		
第11回（12月2日）	実習をもとに、社会性や対人間関係能力についての自己分析	実習日誌等を用いての「学びの軌跡の自己分析」シートの完成		
第12回（12月9日）	現職教師による「教師のやりがい」についての講義	感想レポートの作成		
第13回（12月16日）	実習をもとに、生徒理解や生徒指導についてのグループ討議・ロールプレイ	討議結果の内省		
第14回（12月23日）	実習をもとに、グループで学級分析と学級経営案作り	「学級新聞」の作成とLHRの指導案作成		
第15回（1月13日）	各自の現状評価と課題の再確認	総括レポートの完成（A4・2枚：2,000字以上）と提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	40％：学びの軌跡の自己分析（10％）、講義感想レポート（5％）、学級便り（5％）、総括レポート（20％）（提出されたレポートは確認後返却する）			
小テスト等	0％			
成果発表	40％：クラス別授業での発表等			
受講態度他	20％：授業への取り組み（15％）や授業外活動（学校参観や学校ボランティア）への取り組み状況（5％）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・招へいする先生や訪問する学校の都合により予定が変更になる場合がありますので、留意してください（変更は筑女ネットで知らせます）。</p> <p>・総括レポートは、3年半にわたる教職課程を振り返り、自己の教員としての資質や課題を分析し、卒業後の目標を記入するものです（学校でのボランティア活動や学校訪問、模擬授業等本授業を受講しての感想も含むこと）。</p> <p>・今年度はコロナの関係で例年とは異なる内容になっています。また、変更の可能性もあることを念頭に置いて下さい。</p>			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説（国語編、英語編、社会編）、高等学校学習指導要領解説（国語編、英語編、地理・歴史編、公民編、福祉編）、西岡加名恵他著「教職実践演習ワークブック」ミネルヴァ書房			
オフィスワー	月4、水4（竹熊）水4、金3（栗山）火4、水3（出雲）	メールアドレス		

授業科目	教職実践演習（幼・小）【演習】		開講時期	後期
担当教員	松本 和寿・稲田 八穂・石原 努		単位	2
授業の目的と概要	教職に関する情報収集の方法を学んだり、現場教員の講義を受けたりして教職に就きたいという意欲を一層高める。学生同士によるグループ活動、幼稚園・小学校での授業参観、模擬授業を行うことによって、教師としての使命感や責任感、および教師として必要な教科指導力やコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。また、それらをふまえた模擬授業（指導）などを行う。本授業は、卒業後、教壇に立つために、これまでの学びを総括する授業である。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教師としての使命感や責任感、子ども理解の能力を身に付けることができる。</li> <li>2 教師としての自発的で応用力をもった学習能力、問題解決能力を身に付けることができる。</li> <li>3 学級経営に必要な知識やコミュニケーション能力を身に付け、汎用することができる。</li> <li>4 教科外指導の専門的知識および指導力を身に付けることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		予習： 教育実習の振り返りをする 復習： 本授業の意義をまとめる		
第2回 教育実習の成果と課題についてグループ討議をする		予習： 成果と課題をまとめておく 復習： 新たな課題をまとめる		
第3回 小学校教諭による講義（小学校教諭のやりがいについて）		予習： 質問事項等を整理しておく 復習： 講義の感想を書く		
第4回 幼稚園教諭による講義（幼稚園教諭のやりがいについて）		予習： 質問事項等を整理しておく 復習： 講義の感想を書く		
第5回 小学校の研究大会に一日参加し、授業・協議会を参観する。（フィールドワーク）		予習： 参観の視点を明らかにする 復習： 参観記録をまとめる		
第6回 授業参観（小学校） ※第5回と連続して実施		※第5回と連続して実施		
第7回 小学校教諭として目指す姿についてグループ討議をする		予習： 目指す教師像を明らかにする 復習： 討議で得た考えをまとめる		
第8回 幼稚園に出かけ授業参観をする（フィールドワーク）。		予習： 参観の視点を明らかにする 復習： 参観記録をまとめる		
第9回 ゲストティーチャーによる講座「デジタル教科書の活用」		予習： デジタル教科書について調べる 復習： 講座の感想をまとめる		
第10回 幼稚園教諭として目指す姿についてグループ討議をする		予習： 目指す幼稚園教諭像を明らかにする		
第11回 朝の会・帰りの会での模擬指導をグループで行う		予習： 指導内容をグループで考える 復習： 新たな課題をまとめる		
第12回 教科指導の導入場面をグループで模擬授業する。		予習： グループで授業準備 復習： 導入のあり方をまとめる		
第13回 問題行動への対応を、グループによるロールプレイで考える		予習： グループで発表準備をする 復習： 問題行動の対応をまとめる		
第14回 保護者対応を、グループによるロールプレイで考える		予習： グループで発表準備をする 復習： 対応のあり方をまとめる		
第15回 まとめ		予習： これまでの学修内容を総括する 復習： 将来について展望を持つ		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	60％（小学校、幼稚園参観記録）			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	30％（グループ発表、ロールプレイの様子）			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師になる、教師を目指すという自覚をもち積極的に学修すること。			
教科書	特に指定しない。			
指定図書	『小学校学習指導要領』文部科学省			
参考図書	授業の際に別途指示する。			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス		

授業科目	教職入門【講義】	開講時期	後期
担当教員	薄 千里	単 位	2
授業の目的と概要	<p>教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）に関する知識の修得を通して、教職についての理解を深めること、及び教員の職務の事例や子どもと教育の現状について検討することを通して、自らの教員としての適性や能力、進路について考察する。</p> <p>本講義を通して、教職についての基礎的・基本的な知識を修得していく。ディスカッション等を通して、教員の職務の事例や子どもと教育の現状の検討、目指す教員像に向けて目標設定などを行い、教職についての理解を深め、自らの教員としての適性や能力、進路について考察していく。</p>		
到達目標	<p>1 教職の意義、及び教員の役割について理解し、説明することができる。</p> <p>2 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等）について理解し、説明することができる。</p> <p>3 教員の職務の事例、子どもと教育の現状についてグループ討議等を通して検討し、自らの教員としての適性や能力について考察し記述することができる。</p> <p>4 目指す教員像を具体的に描き、実現のために行動目標を設定し達成していくことができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。  幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	学校教育について（教育基本法、学校教育法、学校教育施行規則、小学校学習指導要領、幼稚園教育要領 等）	法規を基に教育の目的等について確認し、ノートにまとめる。	
第2回	教員観の変遷と求められる教員像について、「心に残っている先生」についてディスカッション	求められる教員像、自らの教員観を確認する。	
第3回	教育の動向と教育施策について	教育の動向と教育施策について確認する。	
第4回	教職の意義と教員の役割について、事例を基にディスカッション	教職の意義、教員の役割についてノートにまとめる。	
第5回	子どもと教育の現状、チームとして組織的に対応する重要性	子どもと教育の現状について振り返り、自らの考えをもつ。	
第6回	教員の職務内容 1 研修、服務及び身分保障等	教員の職務内容（研修等）についてノートにまとめる。	
第7回	教員の職務内容 2 教育課程の編成と指導計画の作成	教育課程と指導計画についてノートにまとめる。	
第8回	教員の職務内容 3 学習指導・保育（学級経営と指導力、授業・保育の成立）	学級経営、指導力について確認する。	
第9回	教員の職務内容 4 学習指導・保育（魅力ある授業・保育）について、事例を基にディスカッション	自分が受けてきた学習指導・保育について想起し考察する。	
第10回	教員の職務内容 5 生徒指導・生活指導（意義と課題）	生徒指導の意義と課題について確認しノートにまとめる。	
第11回	教員の職務内容 6 生徒指導・生活指導の実際、事例を基にディスカッション	自分が受けてきた生徒指導・生活指導について想起し考察する。	
第12回	学校事故と危機管理	学校事故と危機管理について確認し、ノートにまとめる。	
第13回	学校・家庭・地域社会の連携と信頼性の確立	学校・家庭・地域社会の連携について確認する。	
第14回	学校教育目標の具現化と学校組織、学校評価	学校教育目標の具現化、学校組織、学校評価について確認する。	
第15回	目指す教員像と目標設定（ディスカッション）	行動目標の達成に向けて努力を継続する。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	50％		
レポート	30％		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20％（グループ・全体討議の参加状況を含む。）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	将来教職に就くことを前提に、それにふさわしい態度で受講すること。 配布資料をファイルしていくこと。		
教科書	（初等教育コース）文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 （幼児保育コース）文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』		
指定図書	なし		
参考図書	（初等教育コース）文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 』（平成29年7月） （幼児保育コース）文部科学省『幼稚園教育要領』（平成29年告示）		
オフィスアワー	木曜日 1 講時	メールアドレス	

授業科目	教職入門【教職】【講義】		開講時期	前期
担当教員	竹熊 真波		単 位	2
授業の目的と概要	<p>現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。</p> <p>授業は、これから教職を目指すために必要な教員の職務内容や求められる役割を把握し、イメージ化された教師像と実情との相違などについて理解した上で教職の意義や責任、自己の適性等を考察する。</p> <p>本年度の授業は、可能な限りリアルタイム型で行う予定にしているため、事前に配布しておいた講義ノートの該当箇所を事前によく読んだ上で授業時にはウェブ授業が受けられるように準備をして待機しておくこと。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解できる</li> <li>2) 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解できる</li> <li>3) 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解できる</li> <li>4) 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解できる</li> <li>5) 職業としての教職のやりがいとその責任について理解し、自らの教師としての適性や能力について考察できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）」に該当します。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>&lt;関連科目&gt;本授業は、中等教育原理、教育心理など教職に関する専門科目の基礎となる科目です。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	イントロダクション：web環境の動作確認	講義ノートの穴埋め（以後毎回）		
第2回	教職の意義1：教師像の変遷	課題①理想の教師像についてのレポートの作成		
第3回	教職の意義2：教師に求められる資質能力	中教審査申などの再確認		
第4回	教員への道1：教員免許状	自身が希望する教科の教員になるために必要な単位等を確認する		
第5回	教員への道2：採用と雇用条件	課題②教員採用試験の志願書の作成		
第6回	教職の職業的特徴を考える（発表＋討論）	課題③：他の気になる職業調べ		
第7回	教員の職務内容1：学習指導1カリキュラム	課題④学習指導要領の教科の目標の検索		
第8回	教員の職務内容1：学習指導2教育方法と評価	多様な教育方法・評価方法の論点整理		
第9回	教員の職務内容2：生徒指導	課題⑤児童生徒の問題行動件数についての最新データを集める		
第10回	教員の職務内容3：学級経営1学級担任	課題⑥体罰についてのレポート作成		
第11回	教員の職務内容4：学級経営2ダイバーシティ	課題⑦ダイバーシティについてのレポート作成		
第12回	学校の組織と教師	教師の仕事内容の整理		
第13回	教員の研修制度と免許更新講習について	課題⑧免許更新講習について文科省のHPを確認する		
第14回	服務上及び身分上の義務と身分保障	服務規定等を整理する		
第15回	教師の課題とチーム学校への対応	夏休み課題に取り組む		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80% 課題への取り組み(8×10%)			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 受講態度の適切性、積極性等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>教職履修生には、将来的に教職に就くことを前提に、それにふさわしい履修態度を求めます。コロナ禍で現状では厳しいですが、学校の現状を理解するためにも学生サポーターなどの学校ボランティア活動に積極的ににかかわることを奨励します。</p> <p>なお、授業資料の中には本来、著作権法により web 上での無断利用ができないにもかかわらず、オンライン授業に限り特別に利用が認められているものがあります。受講生のみならずも授業外での利用や無断転載は禁止されていますので、取り扱いには注意してください。</p>			
教科書	自作の講義ノートを使用する			
指定図書	なし			
参考図書	<p>中学校学習指導要領（平成29年6月公示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（文部科学省）</p> <p>教職概論（佐藤晴雄著、学陽書房） 新しい教職論（森山茂樹著、酒井書店）</p>			
オフィスアワー	月曜 2、4限	メールアドレス		



授業科目	居住福祉論【講義】		開講時期	前期
担当教員	安恒 万記		単 位	2
授業の目的と概要	<p>住まいは厳しい自然や社会的環境から生命の安全を守る基盤であり、人々の健康や子どもの発達、家族の生活や高齢者の福祉を支えるものです。本講義では、子ども、高齢者、障がい者といった住居の状態から最も影響を受けやすい人たちの住環境に潜む問題を探り、よりよい住まいとまちのあり方を考察します。「福祉住環境コーディネーター」資格に挑戦するための足がかりとなるよう、建築や都市に関する基礎知識の習得を目指します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築や都市について専門用語を用いて説明することができる。</li> <li>2. 様々な状態にある人と住まいやまちの現状を分析することができる。</li> <li>3. 住まいやまちの課題を福祉的視点で説明することができる。</li> <li>4. 居住福祉の課題の解決に向けて自ら考え、創造することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は都市・地方計画設計関係企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	居住福祉とは…生命の安全と健康を守る住まい	情報の整理		
第 2回	住まいやまちに関する基礎知識	情報の整理		
第 3回	子どもと住環境①…子どもの発達と住まい	社会の問題の抽出		
第 4回	子どもと住環境②…子どもの遊びと住環境	社会の問題の抽出		
第 5回	高齢者と住環境①…住み続ける家	社会の問題の抽出		
第 6回	高齢者と住環境②…地域で暮らす	社会の問題の抽出		
第 7回	高齢者と住環境③…老人福祉法と高齢者施設	社会の問題の抽出		
第 8回	障がい者と住環境①…ノーマライゼーションって何？	社会の問題の抽出		
第 9回	障がい者と住環境②…バリアフリーとユニバーサルデザイン	課題② (社会の問題の抽出)		
第10回	住宅政策と居住福祉①…最低居住水準って何？	まちの観察と体験		
第11回	住宅政策と居住福祉②…介護保険と住宅改造	まちの観察と体験		
第12回	住宅政策と居住福祉③…住宅改造事例の発表とディスカッション (グループワーク)	住宅改造事例の収集と発表準備		
第13回	まちづくりと居住福祉①…ユニバーサルデザインの発表とディスカッション (グループワーク)	ユニバーサルデザイン事例の収集と発表準備		
第14回	まちづくりと居住福祉②…歩車分離と歩車共存	まちの観察と体験		
第15回	まとめ	まとめ		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	85%			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	15% 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行うので、前回の講義内容を復習しておくこと。</p> <p>図面プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。</p>			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	木曜日 9:10~12:20	メールアドレス		

授業科目	器楽Ⅰ【実技】		開講時期	後期
担当教員	今釜・北原・吉賀・藤・大島・井上・八尋・藤田・篠原		単位	1
授業の目的と概要	<p>小学校教諭や保育者になるために必要とされる、ピアノ伴奏に関して、基礎的な知識と技能および応用力をつけることを目的とする。ピアノを楽しく弾くこと、右手（メロディー）に対して、左手（伴奏）を付ける「伴奏付け」の能力、ピアノの弾き歌い、キイを子どもが歌いやすいように調子をあわせる「移調奏」など、保育の場面や小学校音楽の授業で役に立つ演奏能力を育てる授業を行う。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノを楽しく弾くことができる。</li> <li>・左手の伴奏など、伴奏付けについてピアノ演奏の基礎的知識と技術を身につける。</li> <li>・弾き歌い、コード伴奏、移調奏など、基礎をふまえて、実践で役に立つ演奏能力を培う。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	コードネーム、和音・カデンツの基礎知識	規定曲表に沿って練習をする		
第2回	コードネーム、和音・カデンツの基礎練習	規定曲表に沿って練習をする		
第3回	左手和音と右手メロディ（片手伴奏）の練習	規定曲表に沿って練習をする		
第4回	左手ベースと右手和音（両手伴奏）の練習	規定曲表に沿って練習をする		
第5回	各調のカデンツ	規定曲表に沿って練習をする		
第6回	伴奏付けの基礎知識① ハ長調の曲でのコード付け	規定曲表に沿って練習をする		
第7回	伴奏付けの基礎知識② #2つ、b2つ程度の曲のコード付け	規定曲表に沿って練習をする		
第8回	実用的な伴奏のための基礎練習① 伴奏系の基本を学ぶ	規定曲表に沿って練習をする		
第9回	実用的な伴奏のための基礎練習② 様々な伴奏系を学ぶ	規定曲表に沿って練習をする		
第10回	弾き歌いと移調奏の基礎練習① 弾き歌いの方法を学ぶ	規定曲表に沿って練習をする		
第11回	弾き歌いと移調奏の基礎練習② 移調奏	規定曲表に沿って練習をする		
第12回	前奏の付け方、伴奏リズムの付け方① 子どもに合図を出す	規定曲表に沿って練習をする		
第13回	前奏の付け方、伴奏リズムの付け方② 子どもの方を見ながら弾く	規定曲表に沿って練習をする		
第14回	発展的な伴奏の練習	規定曲表に沿って練習をする		
第15回	まとめ	試験曲の練習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>個人レッスンを基本としますので、理由のない授業への遅刻は厳禁とします。 2年前期『音楽演習』を履修しているとスムーズに理解ができます。</p>			
教科書	<p>こどものうた200（チャイルド社）※幼児取得を目指す学生 続こどものうた200（チャイルド社）※全学生</p>			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に指示する			
オフィスアワー	北原：水屋休み、火曜日1限 今釜：月・火屋休み、火曜日3限	メールアドレス		

授業科目	器楽Ⅱ【実技】		開講時期	前期
担当教員	今釜(亮)・北原(涼)・吉賀(貴)・藤(真)・大和(聡)・篠原(敏)・井上(智)		単位	1
授業の目的と概要	器楽Ⅰでの学習をふまえて上で、小学校教諭や保育者になるために必要とされる、弾き歌いに取り組み、必要な基礎的な知識と技能の確認、及びさらなる応用力をつけることを目的とする。 また、ピアノを楽しく弾くこと、右手(メロディー)に対して、左手(伴奏)を付ける「伴奏付け」の能力、ピアノの弾き歌い、キイを子どもが歌いやすいように調子をあわせる「移調奏」など、保育の場面や小学校で役に立つ演奏能力を育てることを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ピアノを楽しく弾くことができる。</li> <li>・ 左手の伴奏など、伴奏付けについてピアノ演奏の基礎的な知識と技能を身につける。</li> <li>・ 弾き語り、移調奏など、基礎をふまえて、実践で役に立つ演奏能力を養う。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	左手和音と右手メロディ(片手伴奏)の基礎練習	規定曲表に沿って練習をする		
第2回	左手和音と右手メロディ(片手伴奏)の応用練習	規定曲表に沿って練習をする		
第3回	左手ベースと右手和音(両手伴奏)の基礎練習	規定曲表に沿って練習をする		
第4回	左手ベースと右手和音(両手伴奏)の応用練習	規定曲表に沿って練習をする		
第5回	伴奏付けの基礎知識① ハ長調のコード付け	規定曲表に沿って練習をする		
第6回	伴奏付けの基礎知識② #1つ、b1つの曲のコード付け	規定曲表に沿って練習をする		
第7回	実用的な伴奏のための基礎練習① コードを押さえての伴奏	規定曲表に沿って練習をする		
第8回	実用的な伴奏のための基礎練習② 片手伴奏での弾き歌い	規定曲表に沿って練習をする		
第9回	実用的な伴奏のための基礎練習③ 両手伴奏での弾き歌い	規定曲表に沿って練習をする		
第10回	弾き歌いと移調奏の基礎練習① 様々な伴奏系での弾き歌い	規定曲表に沿って練習をする		
第11回	弾き歌いと移調奏の基礎練習② 移調奏	規定曲表に沿って練習をする		
第12回	伴奏の応用練習① 1・2年生のうたや園生活のうた	規定曲表に沿って練習をする		
第13回	伴奏の応用練習② 3・4年生のうたやうたあそび	規定曲表に沿って練習をする		
第14回	伴奏の応用練習③ 5・6年生のうたや季節のうた	規定曲表に沿って練習をする		
第15回	まとめ	まとめをする		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30% 確認テストにより評価			
成果発表	60% 既定曲の進度により評価			
受講態度他	10% 積極的な授業態度により評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人レッスンを基本としますので、理由のない授業への遅刻は厳禁とします。 1年後期「音楽基礎」、2年前期「音楽演習」、2年後期「器楽Ⅰ」を受けていると理解が深まります。			
教科書	こどものうた200(チャイルド社)※幼免取得を目指す学生 続こどものうた200(チャイルド社)※全学生			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に指示する			
オフィスアワー	北原:水屋休み、火曜日1限 今釜:月・火屋休み、火曜日3限	メールアドレス		

授業科目	企業論【講義】	開講時期	前期
担当教員	坂本 隆行	単 位	2
授業の目的と概要	<p>現代社会は企業の生み出す製品やサービスに多くを依存しており、私たちの生活も企業と密接なものとなっています。また、多くの人々は、企業で就業することで賃金を得、企業組織の一員となることで生きがいや幸福感を得ています。</p> <p>このように企業は私たちの生活に対して大きな影響力を持つことから、本講義の目標は、「企業」概念を、その成り立ちや仕組み運用方法等を幅広く包括的に理解し、そのうえで、企業に関わる人々や社会全体の「幸せ」に企業がどのように貢献できるのかについて、本講義で習得した知識をもとに、自らの考えを確立し提案することができること、とします。</p>		
到達目標	<p>①企業が、歴史的にどのような変容を遂げてきたのかを、理解できる。</p> <p>②企業の基本的な組織構造を、大企業と中小・零細企業、製造業とサービス業、営利企業と非営利企業等を比較検討しながら理解できる。</p> <p>③企業倫理やCSRによる企業の経営活動が、市場の人々の心の中でどのように「企業ブランド」としてイメージされていくのかを理解できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回	イントロダクション 講義スケジュールの説明	よく利用するお店などを観察してみてください。	
第2回	企業観の歴史的推移について	指定図書のpp.1-3を読み、事前学習をしてください。	
第3回	大企業の規模と優位性	指定図書のpp.22-28を読み、事前学習をしてください。	
第4回	中小企業の経営特性について	復習：大企業と中小企業は何が違うのか、まとめておいてください。	
第5回	株式会社の仕組みについて	指定図書のpp.62-63を読み、事前学習をしてください。	
第6回	株主総会と資本について	指定図書のpp.60~72 p.91を読み、事前学習をしてください。	
第7回	A. パーリとG. ミーンズ 株式会社支配論	指定図書のpp.130~132を読み、事前学習をしてください。	
第8回	チャンドラー 経営者企業論	指定図書のpp.132-134を読み、事前学習をしてください。	
第9回	商業社会から産業社会へ 「断絶の時代」 ピータードラッカーの大企業論	指定図書pp.135-137を読み、事前学習をしてください。	
第10回	フレデリックテイラー 科学的管理論について	指定図書のpp.200-203を読み、事前学習をしてください。	
第11回	ホーソン実験にみるヒューマンリレーションズ	指定図書のpp.203-206を読み、事前学習をしてください。	
第12回	チェスターバーナードの組織論について	指定図書のpp.207-210を読み、事前学習をしてください。	
第13回	日本的経営の特徴とはなにか	指定図書の書pp.230-243を読み、事前学習をしてください。	
第14回	近江商人の生き様と「三方よし」について	筑女ネットにアップする動画を閲覧しそのうえで資料を読んでください。	
第15回	これまでの学習の振り返り課題 学期末レポート課題の説明	これまでの講義資料を一通り復習してください。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	実施しません。		
レポート	(30%) 最終試験の代わりとして学期末レポートを第15週目に実施し、その内容を評価します。		
小テスト等	(60%) 講義をどのくらい理解しているのかを、時々アンケートでの課題提出で確認します。		
成果発表	実施しません。		
受講態度他	(10%) 出席状況を評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>遠隔授業の進め方については、変更する可能性があります。変更の場合筑女ネットで知らせます。</p> <p>筑女ネットで通知、出席管理、資料提出、フィードバック指導を行うため、指示した日時にアクセスしてください。</p> <p>※ 受講確認の「回答する」ボタンやアンケートでの課題提出で、出欠確認をします。</p> <p>筑女ネットに記載された指示に従い、確実に15回の授業を受講してください。</p>		
教科書	三戸浩・池内秀己・勝部伸夫著『企業論(第4版)』有斐閣、2018年。		
指定図書	特にありません。		
参考図書	筑女ネットの中で適宜紹介します。		
オフィスアワー	毎週月曜日 10:00-12:00	メールアドレス	

授業科目	基礎専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	現代社会学部教員		単位	2
授業の目的と概要	この授業は1年次の「基礎ゼミナール」で学んだ大学での学びに関する基礎知識、社会学科目群で学んだ社会調査や分析の基礎知識、「社会活動実践」で学んだ社会連携に関する基礎知識を様々な活動の中で実践することで定着を図り、3年次以降の履修プログラムへつなげていくための科目である。またその中で、自らのキャリアについて、より明確なビジョンとその達成に向けた行動指針を獲得することを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1年時科目で学んだ知識を実践の中で活用できる。</li> <li>卒業後のキャリアについて具体的なイメージを持つことができる。</li> <li>社会連携活動の中で、自らと現代社会とのかかわりについて考えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3)-②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。  (4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業のオリエンテーション		特になし		
第2回 研究と社会（ビジネス領域1）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第3回 研究と社会（ビジネス領域2）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第4回 研究と社会（ビジネス領域3）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第5回 研究と社会（ビジネス領域4）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第6回 先輩ゼミー働くこととは何か（1）		先輩ゼミのレポートを書くこと		
第7回 先輩ゼミー働くこととは何か（2）		先輩ゼミのレポートを書くこと		
第8回 先輩ゼミー働くことの責任とは(1)		先輩ゼミのレポートを書くこと		
第9回 先輩ゼミー働くことの責任とは(2)		先輩ゼミのレポートを書くこと		
第10回 研究と社会（メディア領域1）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第11回 研究と社会（メディア領域2）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第12回 研究と社会（メディア領域3）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第13回 研究と社会（メディア領域4）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第14回 研究と社会（メディア領域5）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第15回 研究と社会（メディア領域6）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80%（教員の研究紹介についての感想レポート 50% 先輩ゼミの感想レポート 30%）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 出席しているかどうかだけでなく、授業内のディスカッションやワークへの参加度を点数化する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講前に必ず1年時科目の振り返りを行うこと。 授業では「筑女ネット」を活用することがあるので、必ず授業ページを確認して受講すること。			
教科書	指定なし			
指定図書	教員ごとに指示する。			
参考図書	教員ごとに指示する。			
オフィスワーカー	教員によって異なる。	メールアドレス		

授業科目	基礎専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	現代社会学部教員		単位	2
授業の目的と概要	この授業は1年次の「基礎ゼミナール」で学んだ大学での学びに関する基礎知識、社会学科目群で学んだ社会調査や分析の基礎知識、「社会活動実践」で学んだ社会連携に関する基礎知識を様々な活動の中で実践することで定着を図り、3年次以降の履修プログラムへつなげていくための科目である。また企業連携型PBLを通して、大学での学びを実社会で活用する方法を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1年時科目で学んだ知識を実践の中で活用できる。</li> <li>卒業後のキャリアについて具体的なイメージを持つことができる。</li> <li>社会連携活動の中で、自らと現代社会とのかかわりについて考えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3)-②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業のオリエンテーション		特になし		
第2回 研究と社会（ポピュラー文化領域1）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第3回 研究と社会（ポピュラー文化領域2）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第4回 研究と社会（ポピュラー文化領域3）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第5回 企業連携PBL(1) 課題設定		割り当てられた企業について調べてくること		
第6回 企業連携PBL(2) 情報収集		与えられた課題について、それぞれが必要な情報を集めること		
第7回 企業連携PBL(3) 分析		課題解決に向けて、自分なりの意見をまとめること		
第8回 企業連携PBL(4) 議論の構築		グループディスカッションの準備を行うこと		
第9回 企業連携PBL(5) プレゼン準備		プレゼンに必要な資料をそろえること		
第10回 企業連携PBL(5) プレゼン		10分間のプレゼンを完成させること		
第11回 研究と社会（地域デザイン領域1）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第12回 研究と社会（地域デザイン領域2）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第13回 研究と社会（地域デザイン領域3）		教員の研究紹介についての感想レポートを書くこと		
第14回 履修プログラムについて(1)		配布資料に基づいて、履修プログラムについて考えること		
第15回 履修プログラムについて(2)		3年時以降のそれぞれの学びについて考えてくること		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％（教員の研究紹介についての感想レポート 50％）			
小テスト等	0％			
成果発表	30％（企業連携PBLの成果プレゼンテーション）			
受講態度他	20％ 出席しているかどうかだけでなく、授業内のディスカッションやワークへの参加度を点数化する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講前に必ず1年時科目の振り返りを行うこと。 授業では「筑女ネット」を活用することがあるので、必ず授業ページを確認して受講すること。			
教科書	指定なし			
指定図書	教員ごとに指示する。			
参考図書	教員ごとに指示する。			
オフィスワーカー	教員によって異なる。	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナール【演習】		開講時期	前期
担当教員	松崎(徹)・間瀬(玲)・大城(房)・宮原(牧)・高森(暁)・小林(久)		単位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナール」は、これから大学での学修を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基礎的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集することや、レポートやプレゼンテーションを通して自己表現を行うことなどが含まれます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を学びの場をして活用することができる。</li> <li>・それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。</li> <li>・問題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>・同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる。</li> <li>・自分の意見をレポートやプレゼンテーションを通して表現することができる。</li> <li>・自分の希望するキャリアの中で、大学生生活の意義を発見することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」</p> <p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	筑女ネットに慣れよう		筑女ネットが自宅で機能するか確認	
第2回	自己紹介：お互いを知ろう		自己紹介文の作成	
第3回	大学での学びとライフマネジメント		10年計画表を作る	
第4回	自分の興味・関心に基づきテーマを設定しよう		ネットを利用して情報を収集する	
第5回	文章の読み方について		新聞記事、雑誌 文庫本、新書等から課題	
第6回	レポート作成の作法（引用の仕方、参考資料の挙げ方など）		参考文献表の作成	
第7回	資料の収集と要約		読書レポート（発表資料）を作成	
第8回	読書レポート報告		意見交換	
第9回	効果的なプレゼンテーションとは？		発表資料作成	
第10回	プレゼンテーション資料の作成		発表準備	
第11回	プレゼンテーション、討論		発表準備	
第12回	プレゼンテーション、討論		発表準備	
第13回	プレゼンテーション、討論		レポート作成の準備	
第14回	レポート作成		レポート作成	
第15回	まとめ		レポート作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50％ 期末レポート			
小テスト等	—			
成果発表	30％ プレゼンテーションの評価			
受講態度他	20％ 授業への参加態度の評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	少人数制のクラスなので、積極的に授業に参加すること。また、レポートを書く際、引用の仕方が適切でなく盗用・剽窃とみなされる場合は、採点しない。			
教科書	各担当教員が指定			
指定図書	各担当教員が指定			
参考図書	各担当教員が指定			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナール【演習】		開講時期	前期
担当教員	森田(真)・小野(望)・松下(博)・高山(百)・安永(美)・須藤(圭)		単位	2
授業の目的と概要	<p>「基礎ゼミナール」は、これから大学での学修を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義と、大学で学んでゆく上で必要となる基本的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、「周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること。大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること。自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること。レポートやオーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと。自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと。」などが含まれています。</p> <p>合わせて、日本語・日本文学科では、大学生活のルールを理解し、学ぶための基本的な態度を身につけることや、基礎ゼミナールのクラスの仲間とのコミュニケーションも重視しています。具体的な内容については、各担当教員の指導によります。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学を学びの場として活用することができる。</li> <li>2. 自分の興味や関心のあるテーマを設定することができる。</li> <li>3. 図書館やインターネット等を有効に利用し、問題解決に必要な情報を集め、分類・整理ができる。</li> <li>4. 受講生同士の対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる。</li> <li>5. 自分の意見をプレゼンテーションやレポートを通して表現することができる。</li> <li>6. 自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる。</li> </ol>			
この授業が目的とするDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」</li> <li>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</li> <li>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</li> <li>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</li> <li>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：これからの学びと自己紹介		授業の目的と内容について理解する	
第2回	大学で自ら学ぶとは？（本学科の学び、講義の受け方、ノートの取り方を含む）		大学の授業の特徴と受講する上での注意点について理解する	
第3回	大学生活について、学内各施設や研究室案内		大学生活の基礎や学内の施設について理解する	
第4回	日本語・日本文学科のカリキュラム		日本語・日本文学科のカリキュラムのポリシーと構造について理解する	
第5回	資料の検索と収集（図書館ガイダンス）（未定）		図書館の利用の仕方について理解する	
第6回	問題発見とテーマ設定、資料収集（レポート・プレゼンテーション共通内容を含む）		発表の目的と内容について考え、それに合わせた資料の収集を行う	
第7回	発表の仕方・配布資料の作成（レポート・プレゼンテーション共通内容を含む）		発表方法について理解し発表資料を作成する	
第8回	（口頭）発表と質疑応答①		発表準備	
第9回	（口頭）発表と質疑応答②		発表準備	
第10回	（口頭）発表と質疑応答③		発表準備	
第11回	外部講師による特別講義（未定）		特別講義の内容に関するレポート	
第12回	（口頭）発表と質疑応答④		発表準備	
第13回	レポート（文章）の書き方		発表内容のレポート	
第14回	キャリア（自分の進路・就職）について考える（未定）		大学やキャリアに関する資料の講読、小レポート課題	
第15回	まとめ。レポートの提出。		授業全体の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% レポートおよび提出物。			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 発表資料作成（と口頭発表）。			
受講態度他	40% 積極的な授業参加を重視します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>必ず授業に出席すること。欠席・遅刻のないように。成績は口頭発表のほか、授業に対する態度、レポートの内容などを含めて評価する。</p> <p>具体的な評価は、各担当教員による。課題は、各担当教員より適時指示する。</p> <p>2020年度の出席は、各担当教員の支持に従ってください。筑女ネットを参照のこと。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし（ただし、担当教員が授業中に紹介することがある）。			
オフィスワー	2020年度は、基本的には常時メールで質問・相談を受け付けます。		メールアドレス	



授業科目	基礎ゼミナール【演習】		開講時期	前期
担当教員	喜多村(百)・小林(知)・徐(涛)・婁(海)		単位	2
授業の目的と概要	<p>「基礎ゼミナールI」は、これから大学での学習を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいくうえで必要な基本的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと」、「自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること」、「レポートやオーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと」が含まれています。</p> <p>具体的には、全体での大学の学びに関する講義、ABクラス別の図書館利用案内・九州国立博物館見学・ガムラン等の体験学習、小グループに分かれての調べ学習・発表を行います。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学を学びの場として活用することができる。</li> <li>2. それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる</li> <li>3. 問題解決に必要な情報を集めることができる</li> <li>4. 同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる</li> <li>5. 自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」</li> <li>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</li> <li>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</li> <li>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</li> <li>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	はじめに ゼミナールの内容紹介 筑女ネットの使い方		大学の設備や学びの方法を把握すること	
第2回	筑女ネットの使い方		大学の設備や学びの方法を把握すること	
第3回	レポートの書き方		レポートの書き方を把握すること	
第4回	プレゼンテーションの方法論		プレゼンテーションの方法論を把握すること	
第5回	読解力を身につける①(小林)		リアクションペーパー①課題文の要約と感想	
第6回	読解力を身につける②(徐)		リアクションペーパー②課題文の要約と感想	
第7回	読解力を身につける③(婁)		リアクションペーパー③課題文の要約と感想	
第8回	読解力を身につける④(喜多村)		リアクションペーパー④課題文の要約と感想	
第9回	自由研究(グループ1) プレゼンテーション、討論、レポート執筆(担当教員)		資料の収集と検索、レジユメの作成、プレゼンの準備	
第10回	自由研究(グループ2) プレゼンテーション、討論、レポート執筆(担当教員)		資料の収集と検索、レジユメの作成、プレゼンの準備	
第11回	自由研究(グループ3) プレゼンテーション、討論、レポート執筆(担当教員)		資料の収集と検索、レジユメの作成、プレゼンの準備	
第12回	自由研究(グループ4) プレゼンテーション、討論、レポート執筆(担当教員)		資料の収集と検索、レジユメの作成、プレゼンの準備	
第13回	自由研究(グループ4) プレゼンテーション、討論、レポート執筆(担当教員)		資料の収集と検索、レジユメの作成、プレゼンの準備	
第14回	自由研究(グループ5) プレゼンテーション、討論、レポート執筆(担当教員)		資料の収集と検索、レジユメの作成、プレゼンの準備	
第15回	研究レポート作成実践と全体のまとめ		自由研究レポート(完成版)の作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	42%(開講前課題、リアクションペーパー)			
小テスト等	なし			
成果発表	8%プレゼンテーション 20%最終レポート			
受講態度他	30% 受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	各担当教員の他のシラバス参照		メールアドレス	

授業科目	基礎ゼミナール【演習】		開講時期	前期
担当教員	初等教育・保育専攻教員		単位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナール」はこれから大学で学修を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義及び大学で学んでいく上で必要な基本的知識やアカデミックなスキルを身につけるための科目です。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学における学習に意義を見いだすことができる。</li> <li>・課題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>・文章を批判的な目線で読むことができる。</li> <li>・自分の主張をレポート作成や、プレゼンテーションを行うことを通して表現することができる。</li> <li>・グループ協議の中で他者の意見を聞き、自ら意見を述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」</p> <p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：授業概要の説明、ゼミ内の交流等	予習：テキストA, 0章		
第2回	大学での学び：高校と大学の違い、学生生活等	予習：テキストA, 1章から3章 ノートの取り方を再検証		
第3回	リーディングとノートテイキング：文章の読み方と大学の授業に対応したノートの取り方	予習：テキストA, 2のP22		
第4回	クリティカルリーディング：批判的な文章の読み方	予習：テキストA, 6-7章 テキストB, 3章		
第5回	基本的な文献検索方法：図書館、ラーニングcommonsの利用法①	レポートのテーマ選び		
第6回	基本的な文献検索方法：図書館、ラーニングcommonsの利用法②	参考文献（書籍）を探す 予習：テキストA, 4-5章 テキストB, 1章		
第7回	レポート作成：書式と構成	レポートの下書き 予習：テキストA, 4-5章 テキストB, 2章		
第8回	レポート作成：テーマ決め、参考文献、構成等	レポート作成 予習：テキストA, 4-5章 テキストB, 4章		
第9回	レポート作成：見解、結論の吟味、文章の推敲	レポート完成させる 予習：テキストA, 4-5章 テキストB, 6章		
第10回	プレゼンの方法：レジメ作成及び、その手段やポイント等	発表資料の作成・印刷		
第11回	プレゼンテーション：発表と討議①（子どもと遊び）	発表の準備、知見の整理		
第12回	プレゼンテーション：発表と討議②（子どもと社会）	発表の準備、知見の整理 第11回のプレゼンでの気づきを参考		
第13回	プレゼンテーション：発表と討議③（教育とメディア）	発表の準備、知見の整理 第11, 12回のプレゼンでの気づきを参考		
第14回	プレゼンテーション：発表と討議④（国際的に見た日本の教育）	発表の準備、知見の整理 第11-13回のプレゼンでの気づきを参		
第15回	総括：学びの再確認及び教育・保育基礎研究の説明	見学実習に向けての課題準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 1200-1600字、書式なども評価の対象		レポートは添削し返却する。	
小テスト等	なし			
成果発表	30% レジメを用いたプレゼンテーション		プレゼンの評価はフィードバックする。	
受講態度他	20% 授業への積極的な態度は加点し、授業態度が悪い学生は減点する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数クラス（ゼミナール形式）の授業形態です。</li> <li>・理由のない欠席や遅刻は減点の対象となります。</li> <li>・提出物のメ切りは厳守すること。</li> <li>・発表資料等は余裕を持って準備しておくこと。</li> </ul>			
教科書	世界思想社編集部編 「大学生学びのハンドブック」世界思想社（テキストA） 小笠原喜康 「新版 「大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書（テキストB）			
指定図書	特になし			
参考図書	田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房			
オフィスワー	担当教員のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナール【演習】		開講時期	前期
担当教員	佐々木 浩・野中 亮・橋本 嘉代・岡本 文子・吉野 嘉高		単 位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナール」はこれから大学での学修を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、大学で学ぶ上で必要な情報収集や論理的思考などのアカデミックスキルを身につけることはもちろん、周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけることや、自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと、などが含まれています。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学を学びの場として活用することができる。</li> <li>2. それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。</li> <li>3. 問題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>4. 自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる。</li> <li>5. 自分の希望するキャリアの中で、大学生生活の意義を発見することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」</li> <li>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</li> <li>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</li> <li>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</li> <li>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	遠隔授業への準備		通信環境などのアンケートに答える	
第2回	筑女ネットを使おう		課題を提出する	
第3回	テキストの読み方（教科書2・3章）		課題を提出する	
第4回	レポートの書き方（教科書4・5章）		課題を提出する	
第5回	資料の探し方（教科書6・7章）		課題を提出する	
第6回	キャリアプランニング		課題を提出する	
第7回	発表の仕方、大学の試験と評価（教科書8, 9, 10章）		課題を提出する	
第8回	対面講義 レポートを書こう（1）		復習する	
第9回	レポートを書こう（2） 現代社会学科のレポート形式		課題を提出する	
第10回	レポートを書こう（3） レジメの修正		課題を提出する	
第11回	対面講義 プレゼンテーション		プレゼンテーションの準備をしておく	
第12回	レポート1 流れと構成の確認		添削を受けたレポートの修正を行い、筑女ネットにアップする	
第13回	TOEIC Bridge 実施		受験準備をする	
第14回	レポート2 形式の確認		添削を受けたレポートの修正を行い、筑女ネットにアップする	
第15回	レポート3 最終チェック		添削を受けたレポートの修正を行い、筑女ネットにアップする	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% レポート			
小テスト等	40% 毎回の課題			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 受講態度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必修科目なので不合格にならないよう、勉強をして下さい。 わからないことも多いかと思しますので、フォーラム等でしっかりと質問して下さい。			
教科書	世界思想社編集部, 2018, 『大学生 学びのハンドブック 4訂版』 世界思想社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	基礎ゼミナール【演習】		開講時期	前期
担当教員	池田（和）・納戸（美）・高木（佳）		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本演習は、以下の事柄をおとして、大学で学ぶことの意義を知り、大学で学ぶために必要な基本的知識や技能を習得する科目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること。</li> <li>2. 調べてわかったことや自分の意見をとりまとめて、口頭やレポートで発表すること。</li> <li>3. 周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の興味や関心のあるテーマを設定することができる。</li> <li>2. 図書館やインターネット等を有効に利用し、文献・資料の収集ができる。</li> <li>3. 集めた情報を分類し整理することができる。</li> <li>4. 自分がとりまとめた内容をプレゼンテーションできる。</li> <li>5. 質の高いレポートを書くことができる。</li> <li>6. 学生同士で的確なコミュニケーションをとることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」</li> <li>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</li> <li>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</li> <li>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</li> <li>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	Information and Communication Technology（情報通信技術）の活用方法。	配信教材を活用し、筑女ネット等の使用方法を習得する。課題を提出。		
第2回	スマホ、パソコンをうまく使いこなそう（徳永）。	各自、手持ちの電子機器をうまく使いこなせるよう試行。		
第3回	学生の自己紹介（学籍番号順）①。	自分を表現するためのアイデアを考えておこう。		
第4回	学生の自己紹介（学籍番号順）②。	自分を表現するためのアイデアを考えておこう。		
第5回	大学で学ぶということ（池田、テキスト第1章の内容に即した音声解説入りスライドを再生。）	テキスト第1章 予習および復習。課題① 作成、提出。		
第6回	ノートのとり方（高木、第2章）。	テキスト第2章 予習および復習。		
第7回	図書館とデータベースの使い方（納戸、第3章）。	テキスト第3章 予習および復習。課題② 作成、提出。		
第8回	書物の読み方（池田、第4章）。	テキスト第4章 予習および復習。		
第9回	新聞を読んでみよう（納戸）。	課題③ 作成、提出。		
第10回	情報の整理・管理の方法（高木、第5章）。	テキスト第5章 予習および復習。		
第11回	研究成果の発表方法（納戸、第6章）。	テキスト第6章 予習および復習。		
第12回	プレゼンテーションの方法（池田、第7章）。	テキスト第7章 予習および復習。		
第13回	論文・レポートの作成方法（高木、第8章）。	テキスト第8章 予習および復習。		
第14回	司法福祉を学ぼう（高木）。	課題④ 作成、提出。		
第15回	まとめ——さらなる学びへ。	各自、学習成果をとりまとめる。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	100％ 課題4本（第5回、第7回、第9回、第14回授業の課題①～④）を総合的に評価する。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	なし。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本ゼミは、3クラス合同で、遠隔授業にて行う。3,4回目についてはMicrosoft teamsのビデオ会議を利用する。5回目以降については、筑女ネット上に授業動画のURLを掲載する。受講の具体的な方法については、別途、指示する。必ず、筑女ネットの本授業のページを参照しておくこと。			
教科書	佐藤望編著『アカデミック・スキルズ 第3版—大学生のための知的技法入門』（慶應義塾大学出版会、2020年）			
指定図書	なし。			
参考図書	授業中に指示する。			
オフィスワーカー	各担当教員が別途指示する。	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナール【演習】		開講時期	前期
担当教員	浅田(淳)・持尾(弘)・宇治(和)・日高(崇)		単 位	2
授業の目的と概要	<p>大学で学ぶことの意義を知り、大学で学ぶために必要な基本的知識やスキルを習得する科目です。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な文献を収集すること</li> <li>2. レポートや口頭発表を通して自己表現を行うこと</li> <li>3. 周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること</li> </ol> <p>を目的とします。所属するコースの専任教員が分担して、学生20名前後のゼミ形式で実践的に学んでいきます。学生一人ひとりが設定したテーマについて、文献を探して読み、発表資料を作成します。その発表資料を使って口頭発表し、そのテーマについてレポートを書きます。発表担当者以外は、発表者に対する質問、意見を述べることで授業に参加します。スケジュールは担当教員や学生数によって若干異なります。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の興味や関心のあるテーマを設定することができる。</li> <li>2. 図書館やインターネット等を有効に利用し、文献の検索・資料の収集ができる。</li> <li>3. 集めた情報を分類、整理し、発表資料を作成することができる。</li> <li>4. 調べた内容や主張したい内容を効果的にプレゼンテーションすることができる。</li> <li>5. 調べた内容や自分の主張をレポートとして作成することができる。</li> <li>6. 学生同士で的確なコミュニケーションをとることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」</li> <li>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</li> <li>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</li> <li>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</li> <li>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	筑女ネットでの受講について①		筑女ネットに慣れるために色々と使ってみること	
第2回	筑女ネットでの受講について②		教員や学生相互で、チャットをやってみること	
第3回	筑女ネットでの受講について③		Teamsに触れてみよう。	
第4回	筑女ネットでの受講について④		Teamsで音声を入れてみよう	
第5回	Wordで文字を打つことを覚えよう		Wordを使って、様々な文章をうつつたり、作文したりしれみる。	
第6回	Wordファイルを筑女ネットに添付してみる。		Wordファイルを、講義ツリーのフォーラムに投稿してみよう	
第7回	発表の仕方について		大学での講義の受け方と発表の仕方について(テキスト使用)	
第8回	レポートの書き方について		レポートとは何か? 書き方とは? (テキスト使用)	
第9回	発表の準備		個人研究を発表する準備をしよう(テキスト使用)	
第10回	個人研究発表(1-5)		発表テーマについて質問や意見の準備	
第11回	個人研究発表(6-10)		発表テーマについて質問や意見の準備	
第12回	個人研究発表(11-15)		発表テーマについて質問や意見の準備	
第13回	個人研究発表(16-20)		発表テーマについて質問や意見の準備	
第14回	個人研究発表(21-25)		発表テーマについて質問や意見の準備	
第15回	まとめ：さらなる学びへ		レポート作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 口頭発表後に調べ直して補足訂正したレポート 基礎ゼミナールⅡで返却します			
小テスト等	なし			
成果発表	40% 各自が担当する口頭発表と、発表資料			
受講態度他	20% 他の人が発表するときの、質問意見			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・欠席をしないよう心がけてください。積極的な参加、自発的な学習が必要です。その他、各ゼミ担当教員の指示を受けてください。			
教科書	田中共子(編)『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に指示			
オフィスアワー	浅田：火除く昼休、	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナールⅡ(再)【演習】		開講時期	後期
担当教員	宇野 智行		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続いて大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には、「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと。周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること。大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること。自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること。レポートやオーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと」などが含まれています。合わせて、受講生同士での確かなコミュニケーションをとることや、グループ活動を積極的に進めようとする態度も重視します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学を学びの場として活用することができる。</li> <li>2. それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。</li> <li>3. グループごとにテーマ設定をしたり、役割分担をして、問題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>4. 受講生同士の対話の中で、他者の意見に関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集することができる。</li> <li>5. 自分の意見（あるいはグループの意見）を、プレゼンテーションやレポートを通して表現することができる。</li> <li>6. 自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」  (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  この科目は「基礎ゼミナールⅠ」と関連する科目です。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	ガイダンス：学問とは何か	プレゼンテーション準備		
第2回	日本語・日本文学科（言語・文学・文化）の学びについて	プレゼンテーション準備		
第3回	読書の仕方	プレゼンテーション準備		
第4回	プレゼンテーション①：本の内容を紹介する	プレゼンテーション準備		
第5回	プレゼンテーション②：論文の内容を紹介する（日本語学分野）	論文要約レポート作成		
第6回	プレゼンテーション③：論文の内容を紹介する（日本文学分野）	論文要約レポート作成		
第7回	プレゼンテーション④：論文の内容を紹介する（日本文化分野）	論文要約レポート作成		
第8回	キャリアについて考える①（自分について考える）	大学やキャリアに関する資料の復習		
第9回	キャリアについて考える②（職業について考える）	大学やキャリアに関する資料の復習		
第10回	専門の学び：知の探求	テーマの調査、プレゼンテーション準備		
第11回	専門の学び：資料収集と資料分析	テーマの調査、プレゼンテーション準備		
第12回	グループ発表とディスカッション①	テーマの調査、プレゼンテーション準備、研究レポート作成		
第13回	グループ発表とディスカッション②	テーマの調査、プレゼンテーション準備、研究レポート作成		
第14回	グループ発表とディスカッション③	研究レポート作成		
第15回	まとめ（発表の振り返り）	研究レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 論文要約レポート（10％×3回）、研究レポート（20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ プレゼンテーション（内容、資料分析の正確性、表現により評価します。）			
受講態度他	20％ 授業やディスカッションへの積極的な態度を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・この授業は、2018年度入学生以前の学生が対象です。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日13：10-14：40	メールアドレス		

授業科目	近・現代文学演習 I 【演習】		開講時期	前期
担当教員	松下 博文		単 位	2
授業の目的と概要	近現代文学を読み解くために欧米のさまざまな理論を身につける。たとえば、「異化」とは何か。「エクリチュール」「オリエンタリズム」「サイボーグ」「コード」「器官」とは何か。こうした文学批評語の修得を通して「読み」の多様性を探求することを目的とする。			
到達目標	①さまざまなジャンルの作品を正確に解読することができる。 ②作品に対する幅広い知識を身につけることができる。 ③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「近現代文学基礎演習」「近現代文学講読」「卒業論文」などと関連する科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	「文学批評理論」とは何か	予習 文学批評理論入門		
第 2回	「エクリチュール」とは何か	予習 「エクリチュール」について事典等で調べる		
第 3回	「大きな物語」とは何か	予習 「大きな物語」について調べる		
第 4回	「オリエンタリズム」とは何か	予習 「オリエンタリズム」について調べる		
第 5回	「器官なき身体」とは何か	予習 「器官」「身体」について調べる		
第 6回	「コード」とは何か	予習 「コード」について調べる		
第 7回	「コノテーションとディノテーション」とは何か	予習 「コノテーションとディノテーション」について調べる		
第 8回	「サイボーグ」とは何か	予習 「サイボーグ」について調べる		
第 9回	「ジェンダー」とは何か	予習 「ジェンダー」「セクシュアリティ」について調べる		
第10回	「シニフィアンとシニフィエ」とは何か	予習 「シニフィアンとシニフィエ」について調べる		
第11回	「ジュンサンス」とは何か	予習 「ジュイサンス」について調べる		
第12回	「正典」とは何か	予習 「正典と文学」について調べる		
第13回	「対話とモノロジズム」とは何か	予習 「対話」「モノロジズム」について調べる		
第14回	「多重決定と決定不可能性」とは何か	予習 「多重決定」「決定不可能性」について調べる		
第15回	太宰治「走れメロス」を批評理論で斬る	予習 さまざまな読みの可能性を探る		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし 0%			
レポート	50% 担当箇所をレポートとして仕上げる。また、その都度レポートを要求することもある。レポートは適宜返却する。			
小テスト等	なし 0%			
成果発表	50%			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席(欠席扱い)させます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は出さないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	『現代批評理論のすべて』(大橋洋一編・新書館)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日 12時30分～13時まで	メールアドレス		

授業科目	近・現代文学演習Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	出雲 俊江		単位	2
授業の目的と概要	<p>【目的】 近・現代短歌の作品を読むことを通じて、短歌を読むとはどういうことなのかを体験的に身につける。作品を読んで、自分自身で感じることを、自分の視点から考えることを身につける。（「主体的思考」）協働的に成果を生み出すことをめざして、ディスカッションに参加することができる。（「コミュニケーション・スキル」）</p> <p>論理的、客観的な論述や発表ができる。（「論理的思考力」）</p> <p>【概要】 若山牧水の短歌作品を少しずつ読んでいきます。同時に、当時の短歌について、また、「歌う」ことについて考えてみたいと思っています。</p> <p>当時の小説作品などをとりあげ、読書会を行います。</p>			
到達目標	<p>近代の短歌や歌人について、背景や特徴、文学史などの概要を説明することができる。（「基礎的な専門性」）</p> <p>これまでの研究に目を向け、資料を収集・整理できる。（「情報リテラシー」）</p> <p>伝えたいことを整理して、口頭および文章で論理的に述べるができる。（「論理的思考力」）</p> <p>短歌についての知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らの視点で読み、自分のたてた課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス（本授業の内容・演習について） 葛原妙子について	第1回読書会課題 準備		
第2回	近代短歌の文学史 (1) 明星・スバル 発表順を決める	割り当てられた歌人の代表歌の紹介文を書く		
第3回	近代短歌の文学史 (2) アララギ	割り当てられた歌人の代表歌の紹介文を書く		
第4回	歌集『海の声』（明治40年） 研究	発表者は発表準備 そのほかの人は、該当の個所を読んでくる		
第5回	歌集『独り歌へる』（明治43年1月）・『別離』（明治43年4月） 研究	発表者は発表準備 そのほかの人は、該当の個所を読んでくる		
第6回	歌集『路上』（明治44年9月）・歌集『死か芸術か』（明治45年9月） 研究	発表者は発表準備。次回読書会課題図書のリビューを書く		
第7回	読書会 課題図書（案）若山牧水『みなかみ紀行』	発表者は発表準備 そのほかの人は、該当の個所を読んでくる		
第8回	歌集『みなかみ』（対象2年9月） 研究	発表者は発表準備 そのほかの人は、該当の個所を読んでくる		
第9回	歌集『秋風の歌』（大正3年） 研究	発表者は発表準備 そのほかの人は、該当の個所を読んでくる		
第10回	歌集『砂丘』（大正4年10月）・『朝の歌』（大正5年6月） 研究	発表者は発表準備 そのほかの人は、該当の個所を読んでくる		
第11回	読書会 受講者と相談の上決めます	課題図書を読んで、感想などのレポートを書く。		
第12回	歌集『白梅集』（大正6年8月） 研究	発表者は発表準備 そのほかの人は、該当の個所を読んでくる		
第13回	歌集『渓谷集』（大正7年5月）・歌集『さびしき樹木』（大正7年7月）	発表者は発表準備 そのほかの人は、該当の個所を読んでくる		
第14回	レポートを書くために 短歌にかかわる文献購読	レポートのテーマを絞る		
第15回	まとめ レポート相談	最終レポートに取り組む		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	担当の発表内容・準備状況20％ 最終レポート50％ 読書レポート 0％ 小レポート10％			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	20％ 討議への参加状況など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	若山牧水の短歌を読むことを通じて、短歌を読むとはどうすることなのかを体験的に学んでゆきます。最終レポートは、卒業論文のための練習として役立つことを目指してとりくみたいと考えています。読書会の課題図書は、明治・大正期の文学作品から、皆さんと相談の上決めます。			
教科書	伊藤一彦編『若山牧水歌集』（岩波文庫 2004）			
指定図書	『若山牧水 全集 第13巻』			
参考図書	ありません。			
オフィスアワー	前期水4 後期水3	メールアドレス		



授業科目	近・現代文学演習Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	松下 博文		単 位	2
授業の目的と概要	近現代文学を読み解くために欧米のさまざまな理論を身につける。たとえば、「ディスクール」とは何か。「テキスト」「帝国」「リズム」「パフォーマンス」「メタ言語」とは何か。こうした文学批評語の修得を通して「読み」の多様性を探求することを目的とする。			
到達目標	①さまざまなジャンルの作品を正確に解読することができる。 ②作品に対する幅広い知識を身につけることができる。 ③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「近現代文学概論」「近現代文学講読」「卒業論文」			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	「文学批評理論」とは何か		予習 文学批評理論入門	
第2回	「脱構築」とは何か 発表		予習 「脱構築」について調べる	
第3回	「帝国」とは何か 発表		予習 「帝国」について調べる	
第4回	「ディススクール」とは何か 発表		予習 「ディススクール」について調べる	
第5回	「ハイパーテキスト」とは何か 発表		予習 「ハイパーテキスト」について調べる	
第6回	「ハビトゥス」とは何か 発表		予習 「ハビトゥス」について調べる	
第7回	「ヘゲモニー」とは何か 発表		予習 「ヘゲモニー」について調べる	
第8回	「ポストコロニアル」とは何か 発表		予習 「ポストコロニアル」について調べる	
第9回	「ホモソーシャル」とは何か 発表		予習 「ホモソーシャル」について調べる	
第10回	「本質主義」とは何か 発表		予習 「本質主義」「構築主義」について調べる	
第11回	「ハイブリッド」とは何か 発表		予習 「ハイブリッド」について調べる	
第12回	「無意識」とは何か 発表		予習 「無意識」について調べる	
第13回	「メタ言語」とは何か		予習 「メタ言語」について調べる	
第14回	「リズム」とは何か		予習 「リズム」について調べる	
第15回	芥川龍之介「羅生門」を批評理論で斬る		予習 さまざまな読みの可能性を探る	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし 0%			
レポート	50% 担当箇所をレポートとして仕上げる。また、その都度レポートを要求することもある。レポートは適宜返却する。			
小テスト等	なし 0%			
成果発表	50%			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席(欠席扱い)させます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は出さないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	『現代批評理論のすべて』(大橋洋一編・新書館)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日 12時30分～13時まで		メールアドレス	

授業科目	近・現代文学演習Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	出雲 俊江		単 位	2
授業の目的と概要	<p>目的：作品を読んで、自分自身で感じることを、自分の視点から考えることを身につける。（「主体的思考」） 協働的に成果を生み出すことをめざして、ディスカッションに参加することができる。（「コミュニケーション・スキル」） 論理的、客観的な論述や発表ができる。（「論理的思考力」）</p> <p>概要：演習発表は、テキストの歌人の中から各自一人をとりあげ、その作品について自由に考察する。 途中2回、小説作品などをとりあげ、読書会を行う。</p>			
到達目標	<p>近・現代の短歌の文学史や背景、特徴など、概要を説明することができる。（「基礎的な専門性」） これまでの研究に目を向け、資料を収集・整理できる。（「情報リテラシー」） 伝えたいことを整理して、口頭および文章で論理的に述べる事が出来る。（「論理的思考力」） 短歌についての知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らの視点で読み、自分のたてた課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>この授業の内容は、「近・現代文学演習Ⅰ」の応用編です。「近・現代文学Ⅰ」を履修しなくても受講できます。</p> <hr/> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス 演習について 現代の短歌概観	講義の際に指示します		
第2回	短歌の文学史1 明星・スバルとその時代 発表順を決める。	小レポート 該当の短歌作品を読んで、感想を書く。		
第3回	短歌の文学史2 アララギを中心に	小レポート 該当の短歌作品を読んで、感想を書く。		
第4回	ミニ演習発表1 好きな歌人の好きな歌20首	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。		
第5回	演習発表2 私の好きな歌人について	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。		
第6回	演習発表3	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。		
第7回	演習発表4	読書会の課題図書読んでレビューを書く。		
第8回	読書会（1回目）	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。		
第9回	演習発表5	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。		
第10回	演習発表6	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。		
第11回	演習発表7	読書会の課題図書読んでレビューを書く。		
第12回	読書会（2回目）	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。		
第13回	演習発表8	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。		
第14回	演習発表9	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。		
第15回	まとめ レポート相談	最終レポート作成。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない。			
レポート	読書会レポート（2回） 20％ 最終レポート 40％			
小テスト等	行わない。			
成果発表	担当の発表 20％			
受講態度他	討議への参加状況など 20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>短歌を読むことを通じて、短歌を読むとはどうすることなのかを体験的に学んでゆきます。 最終レポートは、卒業論文のための練習として役立つことを目指してとりくみたいと考えています。 読書会の課題図書は、皆さんと相談の上決めます。</p>			
教科書	『短歌タイムカプセル』 東直子・佐藤弓生・千葉聡 編著			
指定図書	特になし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	後期 水3	メールアドレス		

授業科目	近・現代文学概論（日本文学史を含む）【講義】		開講時期	後期
担当教員	松下 博文		単 位	2
授業の目的と概要	①近現代文学の文学的潮流を作家と作品を中心に検証することを目指す。 ②さまざまなジャンルの作品を読むとともに作家についての基礎的な知識を学ぶ。 ③作品読解力の基礎として、毎回、指定のテキストによる漢字の読み書きテスト（10分）を行なう。			
到達目標	①さまざまなジャンルの作品を正確に解読することができる。 ②近・現代文学に対する幅広い知識を身につけることができる。 ③「国語」の基礎力を身につけることができる。 ④獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日（2）-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日（3）-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。「近現代文学入門」「近現代文学基礎演習」「近現代文学演習」「近現代文学講読」「近現代文学演習」「卒業論文」等と関連する科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	近代化と文学	予習 近代化について配布された内容の要点を整理すること。		
第2回	近代の特質 明治初期の文学表現	予習 明治初期の文学表現について配布された内容の要点を整理すること。		
第3回	明治中期の文学表現	予習 明治中期の文学表現について配布された内容の要点を整理すること。		
第4回	明治末期の文学表現	予習 明治末期の文学表現について配布された内容の要点を整理すること。		
第5回	大正文学の特徴 大正文壇と私小説	予習 大正文学の特質について配布された内容の要点を整理すること。		
第6回	プロレタリア文学	予習 プロレタリア文学について配布された内容の要点を整理すること。		
第7回	「大東亜戦争」と文学	予習 「大東亜戦争」について配布された内容の要点を整理すること。		
第8回	戦後文学の行方と文学の現在	予習 戦後文学について配布された内容の要点を整理すること。		
第9回	名作を読む 森鷗外「舞姫」	予習 文学事典を使って鷗外について調べる		
第10回	名作を読む 夏目漱石「吾輩は猫である」	予習 文学事典を使って夏目漱石について調べる		
第11回	名作を読む 芥川龍之介「藪の中」	予習 文学事典を使って芥川龍之介について調べる		
第12回	名作を読む 太宰治「津軽」	予習 文学事典を使って太宰治について調べる		
第13回	名作を読む 坂口安吾「桜の森の満開の下」	予習 文学事典を使って坂口安吾について調べる		
第14回	名詩鑑賞（その1）	予習 指定されたテキストの作家や作品についてレポートする（その1）		
第15回	名詩鑑賞（その2）	予習 指定されたテキストの作家や作品についてレポートする（その2）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	25% 進度によって適宜レポート提出。レポートについては次週にコメントする。			
小テスト等	25% 平素 毎回小テストを実施します。			
成果発表	毎回の小テスト、レポート、定期試験で評価する			
受講態度他	静粛に。私語は慎むこと。小テストについては授業中に解答します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	提出物は必ず期限までに提出すること。			
教科書	『すごい詩人の物語—山之口獏詩文集』（立案舎） ・佐藤喜一『基礎からのジャンプアップノート漢字2500』（旺文社） 講義内容は適宜プリントを使用して進めます。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日12時30分～13時	メールアドレス		

授業科目	近・現代文学基礎演習【演習】		開講時期	前期
担当教員	松下 博文		単位	2
授業の目的と概要	①近現代文学関係資料収集のための方法論を学ぶことを目指す。 ②近現代文学に関係する資料を集めることを主たる作業とする。			
到達目標	①文献整理についての知識を身につけることができる。 ②獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。 ③沖縄の詩人山之口貌の文献を収集し、整理することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「近現代文学概論」「近現代文学演習」「卒業論文」と関連する科目です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	図書館の利用方法 日本十進分類法とは何か		予習：講義での学びをもとに本学付属図書館を利用してみる	
第2回	図書館の利用方法 学術情報リンク集について(1)		予習：本学付属図書館を利用して学術情報リンクを利用してみる	
第3回	図書館の利用方法 学術情報リンク集について(2)		予習：本学付属図書館を利用して学術情報リンクを利用してみる	
第4回	図書館の利用方法 学術情報リンク集について(3)		予習：本学付属図書館を利用して学術情報リンクを利用してみる	
第5回	資料整理(1) 山之口貌文献目録作成		予習：講義で指示されたリンクを使って資料を整理する	
第6回	資料整理(2) 山之口貌文献目録作成		予習：講義で指示されたリンクを使って資料を整理する	
第7回	資料整理(3) 山之口貌文献目録作成		予習：講義で指示されたリンクを使って資料を整理する	
第8回	資料整理(4) 山之口貌文献目録作成		予習：講義で指示されたリンクを使って資料を整理する	
第9回	資料整理(5) 山之口貌文献目録作成		予習：講義で指示されたリンクを使って資料を整理する	
第10回	資料整理(6) 山之口貌文献目録作成		予習：講義で指示されたリンクを使って資料を整理する	
第11回	資料整理(7) 山之口貌文献目録作成		予習：講義で指示されたリンクを使って資料を整理する	
第12回	資料整理 山之口貌と沖縄(1)		予習：沖縄について調べる(1)	
第13回	資料整理 山之口貌と沖縄(2)		予習：沖縄について調べる(2)	
第14回	事実・事項調査のためレファレンスツール		予習：様々なレファレンスツールについて各自で整理する	
第15回	事実・事項調査に役立つ主要オンラインデータベースについて		予習：様々なオンラインデータベースについて各自で整理する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	100% 適宜提出 レポートは確認後返却します。			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席(欠席扱い)させます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は置かないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時		メールアドレス	

授業科目	近・現代文学基礎演習【演習】		開講時期	後期
担当教員	松下 博文		単位	2
授業の目的と概要	①近現代文学関係資料収集のための方法論を学ぶことを目指す。 ②近現代文学に関係する資料を集めることを主たる作業とする。			
到達目標	①文献整理についての知識を身につけることができる。 ②獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。 ③沖縄の詩人山之口貌の文献を収集し、整理することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「近現代文学概論」「近現代文学演習」「卒業論文」と関連する科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	図書館の利用方法 日本十進分類法とは何か	予習：講義での学びをもとに本学付属図書館を利用してみる		
第2回	図書館の利用方法 学術情報リンク集について(1)	予習：本学付属図書館を利用して学術情報リンクを利用してみる		
第3回	図書館の利用方法 学術情報リンク集について(2)	予習：本学付属図書館を利用して学術情報リンクを利用してみる		
第4回	図書館の利用方法 学術情報リンク集について(3)	予習：本学付属図書館を利用して学術情報リンクを利用してみる		
第5回	資料整理(1) 山之口貌文献目録作成	予習：講義で指示されたリンクを使って資料を整理する		
第6回	資料整理(2) 山之口貌文献目録作成	予習：講義で指示されたリンクを使って資料を整理する		
第7回	資料整理(3) 山之口貌文献目録作成	予習：講義で指示されたリンクを使って資料を整理する		
第8回	資料整理(4) 山之口貌文献目録作成	予習：講義で指示されたリンクを使って資料を整理する		
第9回	資料整理(5) 山之口貌文献目録作成	予習：講義で指示されたリンクを使って資料を整理する		
第10回	資料整理(6) 山之口貌文献目録作成	予習：講義で指示されたリンクを使って資料を整理する		
第11回	資料整理(7) 山之口貌文献目録作成	予習：講義で指示されたリンクを使って資料を整理する		
第12回	資料整理 山之口貌と沖縄(1)	予習：沖縄について調べる(1)		
第13回	資料整理 山之口貌と沖縄(2)	予習：沖縄について調べる(2)		
第14回	事実・事項調査のためレファレンスツール	予習：様々なレファレンスツールについて各自で整理する		
第15回	事実・事項調査に役立つ主要オンラインデータベースについて	予習：様々なオンラインデータベースについて各自で整理する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	100% 適宜提出 レポートは確認後返却します。			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席(欠席扱い)させます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は置かないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時	メールアドレス		

授業科目	近・現代文学講読Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	松本 常彦		単位	2
授業の目的と概要	近現代文学の基本的な読解方法について理解し、読解を実践する能力を習得することが目的である。 ①文学テキストを素材として、多様な読みの方法について学習する。 ②上記の①を踏まえ、読みの方法に応じた解釈の変異性について理解する。 ③上記の①②を通じて、文学のリテラシーが社会性や人間性と密接に関係することを理解する。 具体的には、芥川龍之介「羅生門」を素材とし、同じ一つの本文が、読み方に応じて、どのように解釈できるかを検討する。 個々の読み方については、授業計画を参照のこと。			
到達目標	①多様な読みの方法やスタイルがあることを知り、その読み方を意識することで、読みの方法と内容の相関性を自覚する。 ②読みに応じて本文の読解可能性が変化することを理解する。 ③読みに応じて本文の変異性について指摘できる。 ④読みに応じて本文の解釈を実践し、その成果を提示できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 授業概要の説明			全体的な注意点について確認する	
第2回 読む行為・読み方のモデルについての考察1			配布資料を再読しておく	
第3回 読む行為・読み方のモデルについての考察2			小説「羅生門」の本文など配布資料を再読しておく	
第4回 従来身につけてきた基本的な読み方についての検討(語彙注釈からの読み)			本文の語彙注釈の報告書の作成	
第5回 作家と作品との関係(伝記情報を援用した読み)			任意の作家の略年譜の報告書の作成	
第6回 作品(ワーク)とテキスト(作家の主体と読者の受容からの読みの検討)			配布資料を再読する	
第7回 本文の生成と異同の検討1			配布資料を再読する	
第8回 本文の生成と異同の検討2			本文異同の事例報告を作成する・随筆「大川の水」を読んでおく	
第9回 作品の時空を読む1			配布資料を再読する	
第10回 作品の時空を読む2			作品の時空についての具体的事例についての報告書を作成する	
第11回 作品の同時代性という視点			配布資料を再読する	
第12回 文化的コンテクストから読む			配布資料を再読する	
第13回 メディアとの関係から読む			配布資料を再読する	
第14回 先行論文の検討から読む			先行論文を調査する。	
第15回 授業の概括			試験準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	あり(60%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40%(アンケートによって確認)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	オンデマンド形式に対し、自主的な対応で臨むこと。			
教科書	オンデマンド形式。			
指定図書	オンデマンド形式で掲示			
参考図書	芥川龍之介全集、芥川龍之介全作品事典、芥川龍之介作品論集成など。オンデマンド形式で掲示			
オフィスアワー	随時	メールアドレス		

授業科目	近・現代文学講読Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	松本 常彦		単位	2
授業の目的と概要	授業全体の目的は、講読Ⅰで学習した読みの方法を踏まえ、多様な作品に応じて柔軟に応用した読みの総合化を実践することにある。 ①読みの総合化は、単一化ではなく、読み手一人ひとりに応じた手仕事化であることを理解する。 ②文学の読みは、ひとつの小説とひとりの読み手との人間的交渉であることを理解し、その読みを実践する。 ③19世紀から現在にいたる日本の小説を素材に、それらを系譜的に捉えるメタテキスト次元での文脈構成能力を涵養する。 ④個々の作品の表現や解釈が、同時代的な地平や読書環境との相関的な関係によって左右されることを考察する。			
到達目標	①近現代文学の特色について、複数の具体的な作品を読解することで、整理、分類した上で、表現できる。 ②上記の①を踏まえ、文学で表現された人間観や社会観や世界観について、その特色や表現の志向性を理解し、自分の意見が提示できる。 ③上記の①②を通して、多様な価値観があることを理解し、その上で、それらを生の実践の場で援用できる柔軟で創造的な思考力を養う。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	講読Ⅰを回顧して：講読Ⅰの回顧と講読Ⅱの展望	次週までに配布資料を読んでおく		
第2回	今年度の対象作家・対象作品についての説明・概要紹介	次週までに配布資料を読んでおく		
第3回	明治期の小説の講読と読解：国木田独歩・夏目漱石	次週までに配布資料を読んでおく		
第4回	明治期の小説の講読・読解2	次週までに配布資料を読んでおく		
第5回	明治期の小説の講読・読解3	次週までに配布資料を読んでおく		
第6回	大正期の小説の講読・読解：芥川龍之介・宮澤賢治	次週までに配布資料を読んでおく		
第7回	大正期の小説の講読・読解2	次週までに配布資料を読んでおく		
第8回	大正期の小説の講読・読解3	次週までに配布資料を読んでおく		
第9回	昭和前期の小説の講読・読解：梶井基次郎・太宰治	次週までに配布資料を読んでおく		
第10回	昭和前期の小説の講読・読解2	次週までに配布資料を読んでおく		
第11回	昭和前期の小説の講読・読解3	次週までに配布資料を読んでおく		
第12回	昭和後期の小説の講読・読解：松本清張	次週までに配布資料を読んでおく		
第13回	昭和後期の小説の講読・読解2	次週までに配布資料を読んでおく		
第14回	昭和後期の小説の講読・読解3	次週までに配布資料を読んでおく		
第15回	全体のまとめ	試験の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	課さない			
小テスト等	課さない			
成果発表	課さない			
受講態度他	30%(出席)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	およそ授業を受講する上での一般的なルールを守る(授業中の教室の出入りは原則的に認めない。必要な場合は申し出ること。)対面授業ができない場合は、オンライン対応の授業とする。その場合は、定期試験を止め、レポートおよび各回の課題対応などで評価する。			
教科書	使用しない。小説などの本文および資料は複写を授業時に配布する。			
指定図書	配布資料に記載			
参考図書	配布資料に記載			
オフィスアワー	火曜日の授業の前後。オンライン対応では随時。	メールアドレス		

授業科目	近・現代文学入門【講義】		開講時期	前期
担当教員	松下 博文		単位	2
授業の目的と概要	①沖縄の詩人山之口獏の作家と作品を中心に検証することを目指す。 ②それぞれの講義において、必ず代表作一篇を取り上げ、原作を読みながら講義を進行する。			
到達目標	①さまざまなジャンルの作品を正確に解読することができる。 ②詩歌に対する幅広い知識を身につけることができる。 ③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「近現代文学概論」「近現代文学講読」「近現代文学演習」等と関連する科目です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	山之口獏について		予習 山之口獏について文学事典で調べる	
第2回	沖縄の近現代の歴史について		予習 沖縄近現代史について文学事典で調べる	
第3回	「妹へ送る手紙」の世界		予習 テキストP40鑑賞	
第4回	「青空に囲まれた地球の頂点に立って」の世界		予習 テキストP44鑑賞	
第5回	「生きている位置」の世界		予習 テキストP49鑑賞	
第6回	「天から降りてきた言葉」の世界		予習 テキストP78鑑賞	
第7回	「土地1」「土地2」「土地3」の世界		予習 テキストP94鑑賞	
第8回	「ミミコの独立」の世界		予習 テキストP100鑑賞	
第9回	「親子」の世界		予習 テキストP129鑑賞	
第10回	「桃の花」の世界		予習 テキストP149鑑賞	
第11回	「ひそかな対決」の世界		予習 テキストP150鑑賞	
第12回	「沖縄よどこへ行く」の世界		予習 テキストP154鑑賞	
第13回	「思弁」の世界		予習 テキストP174鑑賞	
第14回	「ねずみ」の世界		予習 テキストP182鑑賞	
第15回	「ものもらひ」の世界		予習 テキストP190鑑賞	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし 0%			
レポート	100% 進度によって適宜提出。レポートについてはその都度コメントします。			
小テスト等	なし 0%			
成果発表	なし 0%			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席(欠席扱い)させます。レポートは確認後返却します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は出さないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	『すごい詩人の物語—山之口獏詩文集』(立案舎)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時まで		メールアドレス	



授業科目	近代日本とアジア【講義】		開講時期	後期
担当教員	横山 豪志		単位	2
授業の目的と概要	<p>国際的な視野を持つために、近代日本とアジアの関係について、印象論や思い込みあるいは一面的な見方ではなく、文脈に即した事実関係に基づき、総合的に理解していく姿勢を身につけること、これがこの講義の目的です。戦争や侵略もさることながら、そこに至った経緯、具体的には、近代の日本は「アジア」をどう捉え、どう付き合おうとしたのか、という思想面にも焦点をあて、理解を深めていきます。</p> <p>近代の日本にとってアジアは両義的な存在でした。日本はアジアなのかそれとも脱亜に始まり、「アジアの解放」を謳いながらアジアを侵略し、そして現在も親近感と優越感を併せ持っているかのようです。日本にとって「アジア」とは一体何なのか、幅広い視野からその特徴と課題を指摘します。</p>			
到達目標	<p>1. 近代の日本は、「アジア」をどう捉えていたのか、また実際にアジアにどう関与していったのかその特徴と課題を説明できる。</p> <p>2. アジアの人びとは、近代日本についてどのように捉えていた、あるいは捉えているのかを幅広い視野から説明できる。</p> <p>3. 近代日本とアジアの関係について、学術的信用度の高い文献を、自ら集め分析することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>「東アジア近現代史」、「東南アジア近現代史」を履修したうえで、この科目を履修すると、近代の日本とアジアの関係について理解を深めることができます。</p> <p>今日的課題としての歴史認識問題については「国際政治学」や「アジア政治論」と併せて履修すると、さらに理解を深めることができます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション 根拠のある議論のために		第2回用レジュメ、資料に基づき「アジア」という概念について予習		
第2回 アジアとは、日本にとってのアジア		第2回第3回用レジュメ、資料に基づき19世紀後半の日本について予習復習		
第3回 脱亜論とアジア主義 福澤諭吉、岡倉天心		第3回第4回用レジュメ、資料に基づき日本のアジア観について予習復習		
第4回 アジア主義の系譜(1)総論、宮崎滔天		第4回第5回用レジュメ、資料に基づきアジア主義について予習復習		
第5回 アジア主義の系譜(2)石原莞爾、大川周明		第5回用レジュメ、資料に基づきアジア主義者の悲劇について予習復習		
第6回 日本のアジア進出(1) 蝦夷・琉球・台湾		第6回第7回用レジュメ、資料に基づき編入と統治の論理について予習復習		
第7回 日本のアジア進出(2) 朝鮮・満洲		第7回用レジュメ、資料に基づき領土的拡大について予習復習		
第8回 朝鮮半島の植民地支配(1) 武断政治、文化政治1		第8回用レジュメ、資料に基づき植民地支配について予習復習		
第9回 朝鮮半島の植民地支配(2) 文化政治2、皇民化政策		第9回用レジュメ、資料に基づき戦争の影響について予習復習		
第10回 近代日本への眼差し(1) 20世紀初めまで		第10回用レジュメ、同時代の視点について予習復習		
第11回 近代日本への眼差し(2) 1920年代以降		レジュメ、資料に基づき期待と懸念について予習復習、期末レポート準備		
第12回 今日のアジアから見た近代日本(1)韓国、台湾		レジュメ、資料に基づき歴史認識について予習復習、期末レポート準備		
第13回 今日のアジアから見た近代日本(2)中国、東南アジア諸国		レジュメ、資料に基づき歴史認識について予習復習、期末レポート準備		
第14回 戦後日本とアジア(1)日本の歴史認識		レジュメ、資料に基づき歴史認識について予習復習、期末レポート準備		
第15回 戦後日本とアジア(2)戦後の変化		レジュメ、資料に基づき戦後の関係について予習復習、期末レポート準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	90% 期末レポート15% 毎回提出の「講義の概要」(感想等に代替の場合あり)(各回5段階評価)75% 「講義の概要」に記された質問・コメントについては翌週回答します。			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	状況に応じてシラバス内容を変更することがあります。なるべく早く確定させますが、変更する場合は速やかにみなさんにお知らせします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	火14:50~16:20、金12:30~13:00	メールアドレス		

授業科目	グローバルツーリズム I 【講義】		開講時期	前期
担当教員	三日月 雅子		単位	2
授業の目的と概要	この授業では、世界の国々の歴史・文化・社会などを紹介するテキストと映像（DVD）を通して、世界の人々が話す生の英語に触れて、その多様性と柔軟性に目を向けてみましょう。単語・語句の学習や歴史・地理など様々な側面から観光英語の基礎力を養います。 ReadingとListeningのスキルアップと、海外の文化や観光に関する知識を、国際共通語である英語を通して学習し理解することを目的とします。			
到達目標	1. 観光英語の基礎学習をする。 2. Reading, Listening, Writingの3技能を増強する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Unit 1 India (1)	一本文読解	課題	Unit 1 India 課題(1) 提出
第2回	Unit 1 India (2)	一本文読解	課題	Unit 1 India 課題(2) 提出
第3回	India 課題		課題	Indiaについて教科書以外からの英文読解と提出
第4回	Unit 2 Philippines (1)	一本文読解	課題	Unit 2 Philippines 課題(1) 提出
第5回	Unit 2 Philippines (2)	一本文読解	課題	Unit 2 Philippines 課題(2) 提出
第6回	Philippines 課題		課題	Philippinesについて教科書以外からの英文読解と提出
第7回	小テスト		なし	
第8回	Unit 3 Thailand (1)	一本文読解	課題	Unit 3 Thailand 課題(1) 提出
第9回	Unit 3 Thailand (2)	一本文読解	課題	Unit 3 Thailand 課題(2) 提出
第10回	Thailand 課題		課題	Thailandについて教科書以外からの英文読解と提出
第11回	Vietnam (1)	一本文読解	課題	Vietnam (1) 課題提出
第12回	Vietnam (2)	一本文読解2	課題	Vietnam (2) 課題提出
第13回	小テスト		なし	
第14回	学期末レポート提出		なし	
第15回	前期の総集		内容は筑女ネット「時間割」で事前に通達します。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	実施しません。			
レポート	60%：毎授業の課題提出の内容で評価する			
小テスト等	20%：2回の小テストで評価する			
成果発表	20%：学期末レポートで評価する			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	指示された課題の提出が必要です。			
教科書	著者：Scott Berlin他 World Adventures 出版社：金星堂 ISBN978-4-7647-3907-9			
指定図書	特になし			
参考図書	授業時に適宜紹介する。			
オフィスワー	質問などがあれば以下のメールアドレスに内容を送付してください。迅速に回答します。		メールアドレス	

授業科目	グローバルツーリズムⅡ【講義】		開講時期	後期
担当教員	三日月 雅子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>後期のこの授業では、前期に引き続き世界の国々の歴史・文化・社会などを紹介するテキストと映像（DVD）を通して、世界の人々が話す生の英語に触れて、その多様性と柔軟性に目を向けてみましょう。単語・語句の学習や歴史・地理など様々な側面から観光英語の基礎力を養います。 ReadingとListeningのスキルアップと、海外の文化や観光に関する知識を、国際共通語である英語を通して学習し理解することを目的とします。</p>			
到達目標	<p>1. 観光英語の学習をする。 2. Reading, Listening, Writingの3技能を増強する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション：後期授業の形態と進行についての説明	課題 Unit 5の予習		
第2回	Unit 5本文読解	課題 Unit 5 ExerciseとUnit 6の予習		
第3回	Unit 2 本文読解	課題 Unit 2 ExerciseとUnit 3の予習		
第4回	Unit 3 本文読解	課題 Unit 3 ExerciseとUnit 4の予習		
第5回	Unit 4 ExerciseとUnit 5の予習	課題 Unit 4 ExerciseとUnit 5の予習		
第6回	Unit 5 本文読解	課題 Unit 5 ExerciseとUnit 6の予習		
第7回	Unit 6 本文読解	課題 Unit 6 ExerciseとUnit 7の予習		
第8回	Unit 7 本文読解	課題 Unit 7 ExerciseとUnit 8の予習		
第9回	Unit 8 本文読解	課題 Unit 8 ExerciseとUnit 9の予習		
第10回	Unit 9 本文読解	課題 Unit 9 ExerciseとUnit 10の予習		
第11回	Unit 10 本文読解	課題 Unit 10 ExerciseとUnit 11の予習		
第12回	Unit 11 本文読解	課題 Unit 11 ExerciseとUnit 12の予習		
第13回	Unit 12 本文読解	課題 Unit 12 ExerciseとUnit 13の予習		
第14回	Unit 13 本文読解	課題 後期 (Unit 1～Unit 13) のノートチェック		
第15回	後期の復習	後期の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%：2回のレポート提出			
小テスト等	20%：2～3回の小テスト			
成果発表	40%：授業時の発表			
受講態度他	20%：出席と受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	指示された課題の提出毎回必ず必要です。			
教科書	World Adventures 著者：Scott Berlin他 出版社：金星堂 ISBN978-4-7647-3907-9			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスアワー	木・金曜日：昼休み&4限以降。Zoomでご相談を受け ます。事前にメールでご連絡をください。	メールアドレス		

授業科目	経営管理論【講義】		開講時期	後期
担当教員	藤原 隆信		単位	2
授業の目的と概要	一般的に、企業経営にはヒト、モノ、カネ、情報といった経営資源が存在し、経営者はそれら経営資源を効果的にマネジメント（管理）して行くことが求められています。本科目では、企業の経営管理に関する諸理論を学ぶとともに、それらの理論を具体的な事例に当てはめながら考えていきます。受講生の皆さんが、経営管理に関する諸理論を正確に理解し、具体的な経営現場への適応力を身に付けることで、現代企業が直面する多様な管理問題を「経営者の視点」と「労働者の視点」の両方から考え、その解決方法を提案できるようになることを目指します。			
到達目標	①企業（組織）と労働者（個人）の関係を、身近な例を使って説明できる。②企業で働く人々の「欲求」について理解し、それをマネジメントする方法を説明できる。③自分が管理者になった際、どのように部下と良好な関係を構築すれば良いかを説明できる。④上記①～③を踏まえ、どのような経営管理（マネジメント）が、企業（組織）と労働者（個人）をともに成長・発展させることができるのかを自分の言葉で説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	経営管理の基礎を考える（1） ——「経営管理」とは何か？（テイラーの「科学的管理法」）	「経営管理」という言葉でイメージするものを考えてきて下さい。		
第2回	経営管理の基礎を考える（2） ——組織で働く人間の管理とは？（レスリスパージャーの「人間関係論」）	自分が所属する組織と、そこでの人間関係の特徴を考えてきて下さい。		
第3回	経営管理の基礎を考える（3） ——VTRで考える（経営管理に必要なものは？）	「働く人間の管理に必要なものは何か？」を考えてきて下さい。		
第4回	経営管理の基礎を考える（4） ——討論&発表（経営管理に必要なものは？）（TBL）	第1回～第3回の授業を復習し、討論&発表の準備をしてきて下さい。		
第5回	経営管理と働く人々の欲求（1） ——マズローの「欲求階層説」	「あなたが、欲しいもの」を三つ考え、優先順位と理由を考えてきて下さい。		
第6回	経営管理と働く人々の欲求（2） ——マグレガーの「X-Y理論」	「一番好きな先生と苦手な先生」を思い出し、その理由を考えてきて下さい。		
第7回	経営管理と働く人々の欲求（3） ——VTRで考える（人々は何を求めて働くのか？）	アルバイトを事例に「部下のやる気の引き出し方」を考えてきて下さい		
第8回	経営管理と働く人々の欲求（4） ——討論&発表（人々は何を求めて働くのか？）（TBL）	第5回～第7回の授業を復習し、討論&発表の準備をしてきて下さい。		
第9回	経営管理における経営者の役割（1） ——バーナードの「組織と個人の統合理論」	アルバイトを事例に「個人目的」と「組織目的」の違いを考えてきて下さい。		
第10回	経営管理における経営者の役割（2） ——ハーズバーグの「動機づけ-衛生理論」	アルバイトを事例に、やる気の出る仕事と出ない仕事を考えてきて下さい。		
第11回	経営管理における経営者の役割（3） ——VTRで考える（経営者に求められる視点は？）	「経営者に求められる視点は何か？」を考えてきて下さい。		
第12回	経営管理における経営者の役割（4） ——討論&発表（経営者に求められる視点は？）（TBL）	第9回～第11回の授業を復習し、討論&発表の準備をしてきて下さい。		
第13回	経営管理の応用を考える（1） ——事例で考える経営管理【A社のケース】（TBL）	第12回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。		
第14回	経営管理の応用を考える（1） ——事例で考える経営管理【A社のケース】（TBL）	第13回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。		
第15回	経営管理の応用を考える（9） ——討論&発表（現代社会に求められる経営管理とは？）（TBL）	第1回～第14回の授業を復習し、討論&発表の準備をしてきて下さい。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 期末レポート（40%）及び講義内課題レポート（10%）の提出状況（内容含む）を評価します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況やTBLへの貢献度（＝チーム討議・クラス討議への積極的参加）を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、授業の中で課題レポートの作成やチームによる討議と発表に取り組んでもらいます。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。（※外部講師による講演&ディスカッションが入る可能性があります。シラバスを変更して対応しますのでご了承下さい）			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。	メールアドレス		

授業科目	経営史(再)【講義】【閉講】		開講時期	後期
担当教員	篠崎 真美		単位	2
授業の目的と概要	この授業の目的は、日本企業の経営プロセスや経営者(リーダー)を歴史的・経済的視点で捉え、企業がどのように形成・発展・衰退・変容してきたかを概観することにある。日本の歴史に根ざした日本型経営の特徴を理解したうえで、有数の企業家のケーススタディから経営のあり方を考察する。			
到達目標	①経済的背景を踏まえ、日本企業の経営の変遷を説明することができる ②日本の企業経営プロセスの変遷を説明することができる ③日本型経営の基本的用語を習得し、日本型経営システムについて説明ができる ④日本企業家のケーススタディから経営のあり方を推論することができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -② 多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 ガイダンス		復習：経営・経済・ビジネスの定義と関連性について(課題レポート①)		
第2回 日本経済史概論		予習：事前に指定資料を読んでくること		
第3回 経営史とはなにか		復習：経営史の概要をまとめる		
第4回 近世) 商家経営の形成と発展①：組織マネジメントの特徴		予習：事前に指定資料を読んでわからない単語を調べてくること		
第5回 近世) 商家経営の形成と発展②：ケーススタディ：三井高利(越後屋)の商法		予習：事前に指定資料を読んでわからない単語を調べてくること		
第6回 近世) 商家経営の意義と限界		予習：家族(同族)経営のメリット・デメリットを考えてくる		
第7回 近代) 経営の形成と発展①：企業家の役割		予習：事前に指定ケースを調べてくること		
第8回 近代) 経営の形成と発展②：企業家のケーススタディ③④		予習：事前に指定ケースを調べてくること		
第9回 近代) 経営の形成と発展③：財閥の形成・国家の役割		予習：事前に指定資料を読んでくること		
第10回 近代) 経済民主化：科学的管理法		復習：課題レポート②		
第11回 財閥解体と意義		予習：事前に指定資料を読んでくること		
第12回 財閥解体後の日本企業		予習：事前に指定資料を読んでくること		
第13回 高度経済成長期と日本企業		予習：事前に指定資料を読んでくること		
第14回 日本型企业(経営システム)の特徴		予習：事前に指定資料を読んでくること		
第15回 統括・試験の課題		復習：定期試験の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	35% 2回：筑女ネットに提出、評点、フィードバック			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	15%(コメント・質問：毎回講義終了時に提出) *翌講義のはじめにフィードバックする			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・早退厳禁(遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす) やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで理由とともに連絡すること 交通機関の遅延の場合は、遅延証明に学籍番号、名前を書いて提出すること 病欠で病院の証明がある場合は、学生サポート班で欠席届を申請し、事務押印の欠席届けを提出した場合は考慮する 筑女ネットを利用(通知、資料(テキスト・参考資料)置き場、課題提出、出欠票など)のため、常時アクセスすること			
教科書	なし(講義資料は必要に応じて配布)			
指定図書	なし			
参考図書	宮本又郎他編(2007)『日本経営史(新版)』有斐閣、経営史学会編(2004)『日本経営史の基礎知識』有斐閣、『詳説日本史図録』山川出版社*高校図書			
オフィスアワー	木曜日2講目 *事前にメールにて訪問日時を相談してください	メールアドレス		

授業科目	経済学【講義】		開講時期	後期
担当教員	斐 海善		単 位	2
授業の目的と概要	<p>日本は様々な面で国際社会と関わりを持ちながら、自らの経済・経営システムを発展させてきた。本講座では、近代産業の形成期から現在に至るまでの約150年間の日本経済の変化の流れと特徴を理解するとともに、現在の日本経済を理解するために必要な基礎的知識を学ぶことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>17世紀後半から現在に至るまでの日本経済の変化と経済システムの形成過程でみられる特徴を説明する。</li> <li>現在の日本経済が抱えている諸問題を、雇用、産業、金融、経済政策、少子高齢化、国際分業に焦点をおいて説明する。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幕藩体制以後から現在に至るまでの現代日本経済の発展の歩みと特徴が理解できる。</li> <li>2. 日本的経済システムが形成された背景は何かを説明できる。</li> <li>3. 現在の日本経済の現状、直面している課題が理解できる。</li> <li>4. 国際情勢が日本経済に与えた影響、日本経済がアジア経済や世界経済に及ぼした影響が説明できる。</li> <li>5. 日本経済の変化とシステムを他国と比較しながら説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第 1回	授業概要紹介、座席配置、近代産業の形成期	明治維新から日ロ戦争までの経済状況をまとめる		
第 2回	産業基盤の整備と工業化	地租改正、殖産興業政策、松方財政を調べる		
第 3回	日本の産業革命、会社制度の発展	産業革命期の産業の特徴、企業制度、通貨制度をまとめる		
第 4回	大戦景気、統制経済システム	第1次世界大戦から日中戦争勃発前までの日本経済の特徴をまとめる		
第 5回	戦時経済から復興経済	統制下での日本企業の変質をまとめる		
第 6回	GHQ管理下での日本経済、傾斜生産方式、ドッジライン	GHQの経済面の3大改革が日本経済に及ぼした影響を調べる		
第 7回	高度成長の国内環境と国際環境	戦後から現在までの景気循環を確認する		
第 8回	高度成長期の産業発展	高度成長の成果と問題を調べる		
第 9回	高度成長期の企業行動と日本的経営	雇用面での3種の神器を調べる		
第10回	オイルショック以後の国際情勢	オイルショック以後の国際情勢を調べる		
第11回	ブラザ合意とバブル経済	ブラザ合意が日本、アジア諸国に及ぼした影響を調べる		
第12回	バブル崩壊後の長期不況	バブル崩壊後の日本経済の課題を調べる		
第13回	イザナミ景気からアベノミクスまで	少子高齢化と雇用、国際分業、金融システムの変化をまとめる		
第14回	2019～2020日本経済の論点	3本の矢、新3本の矢、働き方改革の背景を調べる		
第15回	まとめ、授業評価、小テスト、出欠確認	全体内容のまとめ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10%			
小テスト等	90%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>※筑女ネットを活用します：テキスト以外の補助資料、お知らせなど。</p> <p>①テキストは1回目の授業から使います。</p> <p>②テスト：テキスト持ち込み可能（プリントの貼り付け不可、手書きOK）。授業中テストなので追試と再試なし！</p> <p>③欠席が5回を超えると受験できない（就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要）</p> <p>④授業内容に関係のない私語、スマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減点する。</p>			
教科書	斐 海善著『経済学—日本経済論—』2019年			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で適宜紹介			
オフィスアワー	月曜日、水曜日の昼休み（他の日時を希望する場合は、事前に訪問日時を相談してください）	メールアドレス		

授業科目	経済学概論（国際経済学を含む）【講義】		開講時期	後期
担当教員	裏 海善		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、経済についての基本的な見方や考え方を身につけるとともに、日本経済及び世界経済の動向について理解を高めることを目的とする。本講義は、初めて経済学を学ぶ学生のための経済学の入門コースで、前半はミクロ経済学、後半ではマクロ経済学に焦点をおいて講義を行う。経済学、マクロ経済学、国際経済学の基礎知識をベースに、日本経済と世界経済との相互関係を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済の基礎理論の知識を身に付けることができる。</li> <li>2. 現実の経済問題を理論的に説明する知識を身に付けることができる。</li> <li>3. 国際経済に関する基本的な概念と理論について説明することができる。</li> <li>4. 日本経済と世界経済の相互関係、直面している諸問題に関して、経済用語を用いて説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>幼 (2) -④ 社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>幼 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	授業計画紹介、現代経済学の範囲や分析体系	B5サイズのノートを準備する		
第 2回	経済学の論理と分析方法	ミクロ経済とマクロ経済の違いをまとめる		
第 3回	需要理論	需要決定要因を調べる		
第 4回	供給理論	供給決定要因を調べる		
第 5回	市場均衡	最低賃金を調べる		
第 6回	公共部門、市場失敗	市場失敗要因をまとめる		
第 7回	マクロ経済学の考え方	ケインズ理論を調べる		
第 8回	労働市場、生産物市場、資本市場	市場の種類と価格決定要因について調べる		
第 9回	マクロ経済指標	マクロ経済用語をまとめる		
第10回	国民所得と経済成長、景気循環	日本の経済成長と景気循環のグラフをえがく		
第11回	財政政策、金融政策	安倍政権の財政政策と金融政策の特徴を調べる		
第12回	為替レートの歴史、為替レートが経済に及ぼす影響	為替レートが貿易収支に及ぼす影響をまとめる		
第13回	原油価格、国際金利、為替レートと日本経済	日本の主な貿易相手国を調べる		
第14回	グローバル化の進展と自由貿易協定	日本のEPA進捗状況を調べる		
第15回	全体内容のまとめ、授業評価など	全体内容の復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10％			
小テスト等	90％			
成果発表	なし			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>※筑女ネットを活用する（お知らせ等）</p> <p>①テキストは1回目の授業から使います。</p> <p>②小テストにはテキスト持ち込み可能（授業中のテストなので、追試と再試はありません）。</p> <p>③欠席が5回を超えると受験できない（就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要）。</p> <p>④授業内容に関係のない私語、授業中のスマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減</p>			
教科書	裏 海善『経済学入門』2020年			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中、適宜紹介			
オフィスアワー	事前に訪問日時を相談してください	メールアドレス		

授業科目	経済学概論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	婁 海善		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、初めて経済学を学ぶ学生のための経済学の入門コースである。経済学概論Ⅰではマイクロ経済学に焦点を当て、消費者と生産者の行動、また消費者と生産者があう市場の種類と各市場における価格決定理論を理解することを目標とする。それによって経済学の側面からアジア理解を深める。</p> <p>①需要曲線と供給曲線による市場均衡、消費者理論、企業の生産理論、市場の種類と価格決定理論、市場失敗の原因を説明する。</p> <p>②国際貿易の基本仕組みにマイクロ経済理論がどのように応用されるかを説明する。</p> <p>③マイクロ経済理論づくりの思考を説明する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済理論はどのように作られるか、その仕組みが理解できる。</li> <li>2. 経済の基本理論の知識を身に付けることができる。</li> <li>3. 現実の経済問題を理論的に説明する知識を身に付けることができる。</li> <li>4. 経済人として効率高く行動する方法を考え、実行することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業計画紹介、経済学関連科目、現代経済学の範囲や分析体系	テキストを準備する		
第2回	経済学の論理と分析方法	マクロ経済学とマイクロ経済学の違いをまとめる		
第3回	需要決定要因	需要決定要因をまとめる		
第4回	供給決定要因	供給決定要因をまとめる		
第5回	市場均衡	最低価格、最高価格を調べる		
第6回	限界効用理論	限界効用逓減法則、価値の逆説を理解する		
第7回	無差別曲線理論	無差別曲線の傾きの意味を考える		
第8回	消費者均衡	無差別曲線理論に基づき、需要曲線を誘導する		
第9回	企業の利潤極大化	限界費用曲線と平均費用曲線を描いてみる		
第10回	短期の生産曲線と費用曲線	生産における短期と長期の違いを考える		
第11回	市場の種類と特徴	四つの市場の違いを比較する		
第12回	寡占理論	寡占市場の特徴を調べる		
第13回	寡占理論の発展	J. Nashを調べる		
第14回	ゲーム理論	ゲーム理論を調べる		
第15回	全体のまとめと質疑、【テスト(50分)】、授業評価、出欠確認など	まとめ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10%			
小テスト等	90%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>※筑女ネットを活用する(お知らせなど)</p> <p>①経済学概論ⅠとⅡの1年を通しての受講を勧める(テキストは経済学概論Ⅱで続けて使う)</p> <p>②テストにはテキスト持ち込み可能(授業中のテストなので、追試と再試なし)</p> <p>③欠席回数が5回を超えた場合は、受験できない(活動、病気、その他の理由による欠席は相談が必要)</p> <p>④授業内容に関係のない私語、授業中のスマートフォン・携帯電話の使用禁止(違反を見つけた場合は、受講態度から減点)</p>			
教科書	婁 海善著『経済学入門』、2020年			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日、木曜日の昼休み(前期はメールで対応します)	メールアドレス		



授業科目	経済学概論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	妻 海善		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講座ではマクロ経済学に焦点を置き、国民所得と景気変動、雇用と失業、物価、利子率、為替レートと国際収支、財政・金融政策等のマクロ経済指標を学ぶ。日本経済を事例とし、日本経済の動向をマクロ経済指標に基づいて理解する知識と能力を身に付けることを目標とする。</p> <p>①経済を見る二つの観点としてミクロ経済学とマクロ経済学があるが、経済学概論Ⅱではマクロ経済学に焦点をおき講義を行う。</p> <p>②国民所得、雇用と失業、物価、消費と投資、為替レートと貿易等のマクロ経済理論と仕組みを学ぶ。</p> <p>③マクロ経済学の応用として、日本の経済成長、景気循環、経済政策と貿易構造を学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済指標の決定要因を説明することができる。</li> <li>2. 新聞やニュースで主に扱われる経済データの種類と用語、またそれを解釈する方法が理解できる。</li> <li>3. 政府の金融政策と財政政策が我々の生活に与える影響を説明することができる。</li> <li>4. 為替レート、金利、原油価格などが、日本経済に与える影響を的確な用語で説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	本講義で学ぶこと、ミクロ経済学とマクロ経済学の分析対象	ミクロとマクロの思考の違いを比較する		
第2回	マクロ経済学の起源	マクロ経済理論の流れをまとめる		
第3回	ケインズの一般理論	国民所得を決める四つの要因の仕組みを描いてみる		
第4回	国内総生産と成長率	生産面と所得面での国民所得を比較する		
第5回	国民所得関連指標、人間開発指数	GDPとHDIの世界ランキングを比較する。		
第6回	景気循環、戦後70年間の景気変動の特徴を比べる	日本の戦後の景気循環を描いてみる		
第7回	先行指数・遅行指数・一致指数	三つの景気指数を比較する。		
第8回	失業率と有効求人倍率、株価指数と金利	景気局面がわかる景気指数を調べる		
第9回	国際金利、原油価格と日本経済	国際金利、原油価格の推移を調べる		
第10回	為替レートの歴史、為替レートが日本経済に与える影響	円高、円安・円高の効果を比較する		
第11回	国際貿易、日本の貿易収支	日本の貿易収支赤字の原因を調べる		
第12回	財政政策	財政政策をまとめる		
第13回	金融政策	金融政策をまとめる		
第14回	経済統計で社会現象を理解する	消費者決定、様々な不正、インセンティブなどを経済学的に考えてみる。		
第15回	全体のまとめと質疑、テスト、授業評価など	全体のまとめ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10%			
小テスト等	90%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①筑女ネットを活用する(お知らせなど)。</p> <p>②経済学概論Ⅰを受講してから当該科目を受講してください。テキストは前期の「経済学概論Ⅰ」で使用したものと同じです</p> <p>③テストにはテキスト持ち込み可能(授業中のテストなので、追試と再試なし)</p> <p>④欠席が5回を超えると受験できない(就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要)</p> <p>⑤授業内容に関係のない私語、スマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減点する。</p>			
教科書	妻 海善著『経済学入門』、2020年			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	事前に訪問日時を相談してください	メールアドレス		

授業科目	研究基礎【講義】	開講時期	前期
担当教員	池田 和彦・一木 順	単 位	2
授業の目的と概要	<p>大学院における専門的研究生活に必要な研究スキル（文献検索やレポート作成、プレゼンテーションに関わる諸技能）を身につける。</p> <p>この科目では、少人数の演習形式での授業を通して、大学院での研究生活、修士論文作成に関して必要なスキルを学ぶ。それによって大学院でのより主体的かつ専門的な修学環境の構築を目指す。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自分の専門領域の中から研究テーマを設定し、調査分析し、論を立てることができる。</li> <li>2) そのテーマについて、先行研究、参考文献の検索、フィールドワーク、インタビュー、アンケートの実施などの調査を行うことができる。</li> <li>3) 調査結果を文章にまとめて、その問題について自分の言葉で語るができる。</li> <li>4) 問題提起・研究経過・分析解釈を短時間で要約し、口頭発表し、質疑応答に答え、議論を深めることができる。</li> <li>5) 修士論文作成に関する基礎的スキルを身に付ける。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回	イントロダクション	シラバスを読んで参加すること	
第2回	大学院における研究とは① — 研究の進め方	学生便覧を読んでおくこと（学生便覧持参）	
第3回	大学院における研究とは② — 研究における倫理	学生便覧を読んでおくこと（学生便覧持参）	
第4回	問いの立て方	各自の研究課題についてA4用紙1枚程度にまとめてくること	
第5回	文献検索の方法	各自の研究題材にかかわるキーワードを作成すること	
第6回	文献リストの作成	指定された分量の文献検索を行っておくこと	
第7回	研究データの収集と分析	研究のアウトラインを作成すること	
第8回	文献の読み方	指定された文献を読んでくること	
第9回	プレゼンテーション準備	プレゼン企画書、ハンドアウトの作成	
第10回	プレゼンテーション報告会（言語・文化領域）	報告スライドの作成	
第11回	プレゼンテーション報告会（心理・福祉領域）	報告スライドの作成	
第12回	レポート作成の実際① — レポート作成の方法	レポート課題の設定	
第13回	レポート作成の実際② — レポート企画書の作成	レポート企画書の作成	
第14回	レポート作成の実際③ — レポートの構成	研究の計画と進め方の確認	
第15回	まとめ	最終レポートの作成と提出	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	50%		
小テスト等	20%（授業内での諸課題）		
成果発表	30%（研究発表）		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である（諸事情で欠席の際には連絡すること）。この科目は、段階を追って毎回の課題を行うことで、大学院生活のための研究スキルを習得できるようにデザインされており、授業出席のほか、毎回の課題を確実に行うことが要求されている。		
教科書	特に指定しない		
指定図書	特に指定しない		
参考図書	授業内で指示を行う		
オフィスワー	木曜日昼休み（12:30-13:00）。メールにて事前連絡のこと。	メールアドレス	

授業科目	研究指導Ⅰ【演習】	開講時期	通年
担当教員	研究指導担当教員	単位	4
授業の目的と概要	この授業科目は、修士論文作成のための基礎的な指導をするものである。「研究指導Ⅰ」においては、修士論文の完成に向けて、下記の授業（指導）計画にしたがって、研究計画を立て、研究課題の明確化、資料の収集方法、資料の講読あるいは解析（分析）、研究動向の把握、先行研究の整理、発表方法の習得等を内容とする個別的な指導を行う。下記、授業（指導）内容に記載した時期を失することなく準備することはもとより、必要な資料を収集し、できるだけ多くの関連する資料文献を講読し、これらの先行研究を充分解析（分析）することが「研究指導Ⅰ」の重要な要素である。各自の研究テーマや研究方法に従い、個別もしくは複数での指導を行っていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究計画を立て、研究課題を明確にし、関連する資料を収集することができる。</li> <li>2. 収集した資料を講読、解析（分析）し、先行研究の動向を把握して、研究の視点と方法を整理することができる。</li> <li>3. 研究の進行状況を報告書にまとめ、「中間発表会」の準備をととのえることができる。</li> <li>4. 修士論文作成の過程を通して、社会生活上の基礎的技能、特定分野の専門的知識、社会の多様な問題を考える視点を獲得することが出来る。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題及び人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 「人間科学コース」「臨床心理学コース」のそれぞれにおいて、設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探究を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果及び研究を通して身に付けた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
前期 第1～5回：	修士論文作成のための、研究テーマ、視座、方法、資料収集、資料の扱い方等の基礎的指導を受ける。「研究計画の概要」を作成し、提出する。	課題は研究指導教員の指示による	
前期 第6～10回：	研究課題を明確化する。修士論文作成のための「研究計画書」を作成し、提出する。	課題は研究指導教員の指示による	
前期 第11～15回：	資料収集と解析（分析）方法等の指導を受ける。資料を収集する。	課題は研究指導教員の指示による	
後期 第16～20回：	研究動向を把握し、先行研究の整理と検証を行う。	課題は研究指導教員の指示による	
後期 第21～25回：	文献、及び論文の講読を進め、資料の解析（分析）を進める。	課題は研究指導教員の指示による	
後期 第26～30回：	一年間の研究概要をまとめる。「中間報告書」を作成、提出し、「中間報告会」の準備をする。指導教員の指示に従い、次年度、修士論文提出までの研究計画を確認する。	課題は研究指導教員の指示による	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし。		
レポート	20％ 各報告書、提出物の内容が評価の対象となる。		
小テスト等	なし。		
成果発表	20％ 指導における成果発表が評価の対象となる。		
受講態度他	60％ 資料収集のとりくみ、研究推進の姿勢が評価の対象となる。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・研究指導と修士論文作成の過程に基づき成績評価を行う。各研究指導教員の指示を受けること。各教員の受講にあたっての留意点等は、新入生オリエンテーションで配布された「研究指導」紹介資料を参照すること。書類等の提出締め切りを厳守すること。</p> <p>・「研究基礎」を「研究指導Ⅰ」とあわせて履修すること。長期履修生は、「研究基礎」を出来るだけ「研究指導Ⅰ」以前の初年次に履修してほしい。なお、「研究指導Ⅰ」は、修了予定年次の前年に履修すること。「研究指導Ⅱ」は、修了予定年次に履修</p>		
教科書	なし。		
指定図書	なし。		
参考図書	各研究指導教員の指示を受けること。		
オフィスワー	各研究指導教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス	

授業科目	研究指導Ⅱ【演習】	開講時期	通年
担当教員	研究指導担当教員	単位	4
授業の目的と概要	この授業科目は、修士課程の修了年次、主に修士論文作成を指導するものである。「研究指導Ⅱ」においては、修士論文の完成に向けて、下記の授業（指導）計画にしたがい、各自の研究テーマに則して、論文全体のテーマ性、論証性、独自性を追究し、論文構成、執筆等について個別的に指導を行う。 下記授業（指導）内容に記載した時期を失することなく、十分な検討を行いながら、修士論文完成に向けた授業（指導）を行う。各自の研究テーマや研究方法に従い、個別、もしくは複数での指導を行っていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 収集した資料を講読、解析（分析）し、研究の視点と方法を明確にすることができる。</li> <li>2. 論証性、独自性を追究し、的確な論文構成を作成することができる。</li> <li>3. 先行研究の議論を踏まえた論理的な文章で、修士論文を執筆することができる。</li> <li>4. 修士論文の作成を通して、特定分野の専門的知識の獲得、自己と向きあい、現代社会を生きる力、社会の多様な問題を考え、アプローチする力を獲得することが出来る。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題及び人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 「人間科学コース」「臨床心理学コース」のそれぞれにおいて、設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探究を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果及び研究を通して身に付けた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
前期 第1～5回：	修士論文の中間発表を行う。「中間発表会」を通して、論文の研究課題、方法、論文構成等について検討し、方向性と骨子をまとめる。	課題は研究指導教員の指示による	
前期 第6～10回：	資料の講読、解析（分析）、研究の視点と方法について指導を受ける。論文題目を検討し、「修士論文題目届」を提出する。その後、必要に応じて「変更届」を提出する。	課題は研究指導教員の指示による	
前期 第11～15回：	論文全体の構成と執筆について指導を受ける。	課題は研究指導教員の指示による	
後期 第16～20回：	論文全体の構成と執筆について指導を受ける。「修士論文概要」を作成し、提出する。	課題は研究指導教員の指示による	
後期 第21～25回：	論文構成、文章、論旨の展開等に関する指導を受けながら、執筆を進める。	課題は研究指導教員の指示による	
後期 第26～30回：	修士論文をまとめ、提出する（1月15日締め切り）。論文提出後は、「修士論文審査」における口頭試問の準備、「修士論文発表会」の準備を行う。	課題は研究指導教員の指示による	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	—		
レポート	20％ 各報告書、提出物の内容が評価の対象となる（修士論文は別途審査）。		
小テスト等	—		
成果発表	20％ 指導における成果発表が評価の対象となる（口頭試問は別途評価）。		
受講態度他	60％ 資料収集と解析（分析）のとりくみ、論文作成過程が評価の対象となる。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	研究指導と修士論文作成の過程に基づき成績評価を行う。各研究指導教員の指示を受けること。 書類等の提出締め切りを厳守すること。 「研究指導Ⅱ」は、修了予定年次に履修すること。 修士論文提出後の「修士論文審査」（2月予定）については別途評価する。 上記、合格者は「修士論文発表会」（3月予定）において口頭発表をする。		
教科書	なし。		
指定図書	なし。		
参考図書	各研究指導教員の指示を受けること。		
オフィスワー	各研究指導教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス	

授業科目	健康・医療心理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	板井 修一		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、発達支援・発達臨床の具体的な援助方法や実践的なアプローチの一つとして、健康心理カウンセリングの基本について理解することを授業の目的としている。</p> <p>人が病気になるったり、健康でいることができたりすることについて、身体的側面からだけ捉えるのではなく、心理・社会的な側面も含めた「全人的」な立場から捉えようとする「健康心理学」の基本的考え方やアプローチ法を学習する。その際、人間の弱さよりも、ストレスや過酷な状況のなかにあっても、病気にならず健康を維持し続ける人間の「強さ」やポジティブな側面に注目をする。</p> <p>WHOの「健康」の定義と、新しい「健康」概念について解説したあと、ストレスと健康の関係、健康行動と疾病予防の関係について考察を深める。おそらく、授業終了時には、健康と病気についての、今まで持っていた考え方が、大きく変わることになって</p>			
到達目標	<p>①WHOの「健康」の定義と、新しい「健康」概念について説明できる。</p> <p>②ストレスと健康の関係について説明することができる。</p> <p>③健康リスク要因としてのパーソナリティ特性について、例を挙げて説明できる。</p> <p>④健康心理学が果たすヘルスケアシステムにおける役割を説明できる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目：臨床心理学概論、カウンセリング概論</p> <p>この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回 健康とウェルビーイング 健康心理学とは何か、健康の定義、医療制度のモデルとその限界、生物心理社会モデル		WHOの健康の定義と、それがその後どのように再検討されてきたかを調べる。		
第2回 健康な社会づくり 現代社会の健康観、学校・社会・地域の健康づくり活動、健康づくりのための政策・法律		TVや新聞、雑誌等の健康と関連した広告、出版物等について調べる		
第3回 現代社会とストレス ストレスの仕組み、ストレス感じ方と個人差、効果的なストレス対処法		現代社会にあふれるストレスサーについて、どのようなものがあるか調べる。		
第4回 健康な食生活 日本人の食生活の現状、食行動のメカニズム、食行動の発達と病理		自分の一週間の食生活について記録する		
第5回 運動と休養による健康づくり 日本における身体活動・運動と睡眠の現状と課題 等		身近な地域で行われているスポーツイベントについて調べ、一覧表を作る		
第6回 健康リスクへのアプローチ 健康リスクの考え方、発達段階と健康リスク、健康リスクへの対応		自分自身が行っている健康法と、その科学的根拠について調べる		
第7回 健康リスク要因とパーソナリティ 健康リスク要因としてのパーソナリティ、心疾患やがんとのパーソナリティ		授業で実施したパーソナリティテストの分析・解釈を報告書にまとめる		
第8回 健康リスク要因と行動 健康を阻害する行動リスク要因、喫煙、依存・嗜癖、事故、リスク認知		自分が行っている健康阻害行動のチェックとリストアップ		
第9回 女性と健康 女性と健康と健康問題、母性に関する健康問題		女性の喫煙・飲酒に関する情報を収集し分析する		
第10回 高齢者と健康 高齢者の現状と健康概念、高齢者の自立と社会参加、スピリチュアルヘルス		高齢者の生きがいづくりと健康について考え方をまとめる		
第11回 災害時の被災者の心理と支援 災害時の心理と支援の考え方、PTSD、被災者の心理、心のケア		被災時の心のケアについての活動を調べまとめる		
第12回 患者の心理と病気対処行動 病気の知覚とその対処、病気行動の自己調節過程、美容器体験に関する心理的要因、病気体験の克服		自分の「病気体験」「病気行動」について振り返り整理する		
第13回 健康心理学の臨床的展開 肥満と糖尿病・心臓疾患患者・がん患者等の治療における健康心理学的介入		「がくの告知」についてのあり方について考えをまとめる		
第14回 医療現場でのコミュニケーション 医療コミュニケーション、よりよいコミュニケーションを目指して		授業で観たDVDをもとに、医療コミュニケーションの問題点を考え整理する		
第15回 ヘルスケアシステムの現状と将来の展望 日本のヘルスケアシステムの歴史、ヘルスケアシステムの現状と問題点、今後の課題		講義をとおして学んだことのポイントを整理する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80% 指定したテーマについて、2000文字程度の期末レポートの提出を求める。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 授業で質問、発言等の積極的な態度を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回の授業で学んだことの振り返りと考えたことを記録する「リフレクション・シート」を、授業の終わりに記入し提出をする。次の講義の初めにチェックした「リフレクション・シート」を返却する。「リフレクション・シート」の提出、返却により、講義への出席と欠席、遅刻の実態を把握する。			
教科書	なし 授業内容と関連したプリントを毎回配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	島井哲志・長田久雄・小玉正博(編) 『健康心理学・入門 健康なこころ・身体・社会づくり』 有斐閣アルマud			
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス		

授業科目	健康心理学特論(心の健康教育に関する理論と実践)【講義】		開講時期	前期
担当教員	板井 修一		単 位	2
授業の目的と概要	<p>人が病気に陥ったり、健康を保持できたりすることについて、身体的側面からだけ捉えるのではなく、心理・社会的な側面も含めた「全人的」な立場から捉えようとする「健康心理学」の考え方や、健康教育というかたちでの実践アプローチの方法について学習する。その際、人間の弱さよりも、ストレスや過酷な状況のなかにあっても、病気にならず健康を維持し続ける人間の「強さ」やポジティブな側面に注目しながら考えていく。</p> <p>まず、WHOの「健康」の定義と、新しい「健康」概念について触れる。その後、ストレスと健康の関連について、健康生成論の立場から学習する。さらに、様々な領域やライフサイクルでの、心の健康と健康教育と関連した問題について見ていく。最終的には、心の健康教育の実践プランの策定が出来るようにする。</p>			
到達目標	<p>1)心の健康教育に関する理論を理解し、説明することができる  2)心の健康教育に関する実践を理解し、説明することができる  3)心の健康教育で使用する資料を自分で作成することができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。  (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。  (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。  (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	健康心理学とは何か 健康心理学のなりたち 健康心理学の目的	健康心理学の基礎に関連する論文を読む		
第2回	健康心理学の視点 WHOの健康の定義 健康観の転換と健康生成論 文献の紹介・報告・発表とディスカッション	WHOの健康の定義に関する論文を読む		
第3回	ストレスと健康 ストレスとパーソナリティ タイプA行動パターン タイプC ストレスとSOC 文献の紹介	健康生成論とSOCiに関する論文を読む		
第4回	地域における心の健康 心の健康に役立つ地域の社会資源 電話相談の役割 文献の紹介・報告・発表とディスカッション	心の健康の維持・増進に寄与する社会資源について調べる		
第5回	職場における心の健康 働き中毒 燃え尽き症候群 自殺と自殺予防 EAP 文献の紹介・報告・発表とディスカッション	国の自殺予防対策について調べる		
第6回	学校における心の健康 児童生徒のこころの問題 スクールカウンセラー制度 文献の紹介・報告・発表とディスカッション	不登校・いじめ等の問題の現状について新聞・雑誌等をもとに調べる		
第7回	高齢者を対象とした心の健康 喪失とこころの統合 一生を物語ること 衰え弱ることとの折り合い 文献の紹介・報告・発表とディスカッション	高齢者の自殺の現状と背景・対策の現状について調べる		
第8回	女性を対象とした心の健康 妊娠出産と健康心理学 子育てとストレス 更年期の心理学的問題 文献の紹介・報告・発表とディスカッション	子育てストレスについて調べる		
第9回	食行動と心の健康 過食と拒食の心理的メカニズム 文献の紹介・報告・発表とディスカッション	食行動とストレスとの関係について調べる		
第10回	アディクションと心の健康 アルコール依存やギャンブル依存・買い物依存等のアディクション 文献の紹介・報告・発表とディスカッション	自身のなかにある依存的な行動についてチェックし、その意味を考える		
第11回	慢性疾患患者の心の健康 糖尿病や心疾患、癌等の患者の心理と行動 文献の紹介・報告・発表とディスカッション	慢性疾患患者の心理について調べる		
第12回	ストレスマネジメント ストレスマネジメントの各種技法 文献の紹介・報告・発表とディスカッション	学習したストレスマネジメントの方法を実践してみる		
第13回	スポーツと心の健康 スポーツが心の健康の維持増進に果たす役割 フロー体験 文献の紹介・報告・発表とディスカッション	心の健康の維持・増進のためにしているスポーツの効果を考える		
第14回	余暇活動と心の健康 遊びとストレスコーピング レジャー 旅行 ガーデニング 文献の紹介・報告・発表とディスカッション	心の健康の維持・増進のためにしている余暇活動の効果を考える		
第15回	心の健康教育プログラム 文献の紹介・報告・発表とディスカッション	心の健康教育実践プログラムの立案		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	80% 文献報告のレジュメとプレゼンテーションのクオリティを評価する			
受講態度他	20% 積極的発言に対しては評価点を与える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義は、教員からの①講義と、学生による②関連文献の紹介・報告、それに基づく③ディスカッションの形で進めていく。文献の紹介・報告の当番となった学生は、講義テーマと関連した文献(教員が指定)を精読しレジュメを作成する。他の学生も文献を読み、ディスカッションに備える。活発な質問や意見により、講義テーマについての理解を深める。したがって、事前学習が必須であり、ディスカッションにおける積極的な発言が求められる。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	津田彰・馬場園明『健康支援学 ヘルスプロモーション最前線』現代のエスプリ440 至文堂 島井哲志『健康心理学 拡大する社会的ニーズと領域』現代のエスプリ425 至文堂			
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス		

授業科目	芸術文化論【講義】		開講時期	後期
担当教員	岡本 文子		単位	2
授業の目的と概要	<p>今日、私たちは日本をはじめ世界のさまざまな芸術を享受することができます。そしてそれらは日々私たちの生活の中で感情を呼び起こしたり、励ましてくれたり、と生活の中に息づいているものでもあります。</p> <p>私たちが享受している、あるいはまだ知り得ていない芸術について、それぞれの源流や民族の背景を知るとともに、芸術内容の題材に関する知識や意味、画材（美術）、技法を知ることにより、芸術への理解を深め「芸術とは感動」であることを体得することを目的としています。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術活動のうち美術について具体例を挙げ、知識に基づいてその概要や特徴を説明することができる。</li> <li>・芸術活動のうち美術について任意の具体例を挙げ、その魅力を知識にもとづいて各自の視点から説明できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション、この授業の進め方	出席アンケート		
第2回	イタリアルネッサンス（1）	各自で記入した授業内容確認プリント（課題B）を提出。調べ学習（課題A）		
第3回	イタリアルネッサンス（2）	各自で記入した授業内容確認プリント（課題B）を提出。		
第4回	ビエール・オーギュスト・ルノワール	各自で記入した授業内容確認プリント（課題B）を提出。調べ学習（課題A）		
第5回	フィンセント・ファン・ゴッホ	各自で記入した授業内容確認プリント（課題B）を提出。		
第6回	クロード・モネ	各自で記入した授業内容確認プリント（課題B）を提出。		
第7回	葛飾北斎	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第8回	アルペール・アンカー	各自で記入した授業内容確認プリント（課題B）を提出。		
第9回	パブロ・ピカソ	各自で記入した授業内容確認プリント（課題B）を提出。調べ学習（課題A）		
第10回	アルフォンス・ミュシャ（1）	各自で記入した授業内容確認プリント（課題B）を提出。		
第11回	アルフォンス・ミュシャ（2）	各自で記入した授業内容確認プリント（課題B）を提出。		
第12回	エルテ（ロマン・ドゥ・ティルトフ）	各自で記入した授業内容確認プリント（課題B）を提出。		
第13回	マウリッツ・エッシャー	各自で記入した授業内容確認プリント（課題B）を提出。		
第14回	トーベ・ヤンソン	各自で記入した授業内容確認アンケートに回答。		
第15回	まとめ	授業内容まとめ（印象に残った芸術家）（課題A）を提出。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	60% 4回行う調べ学習および小レポート（課題B）			
成果発表	なし			
受講態度他	40% 各回に行う前回の定着確認プリント（課題B）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書は使用しません。毎回授業内容確認プリントを配布します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 12:00～13:00	メールアドレス		

授業科目	言語学【講義】		開講時期	後期
担当教員	高井 岩生		単位	2
授業の目的と概要	<p>言語は文化的な産物であると言われることが多い。例えば、外国語を十分に理解するためには、その言語の背景にある文化を理解しなければならないというような意見を耳にする。確かに、ある言語を理解するためには、その言語話者の発想や慣習などに精通している必要はあるだろう。しかし、これらを理解したとしても、それだけでは言語を獲得することはできない。我々が話す自然言語には、他の自然現象と同じく、規則・法則性があり、これらを習得しなければ、言語を獲得することはできない。本講義では、日本語の分析を通して、自然言語に規則・法則性が存在するというものの理解を目的とする。尚、毎回の授業時に、出席のカウ入を兼ねて点練習問題を解き、その提出を義務とする。</p>			
到達目標	日本語の音韻、統語、意味、語用の各側面についての基本的な知識を理解し、各自で、日本語の簡単な分析ができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション (授業の進め方、参考図書、資料の紹介など)		なし	
第2回	音韻論Ⅰ (音素と音声)		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第3回	音韻論Ⅱ (条件異音と自由異音)		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第4回	音韻論Ⅲ (アクセントとイントネーション)		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第5回	小テスト		第2回目から第4回目までの資料を読み直しておくこと。	
第6回	形態論Ⅰ (品詞)		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第7回	形態論 (形態素)		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第8回	形態論Ⅲ (形態その組み合わせ)		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第9回	小テスト		第6回目から第8回目までの授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第10回	統語論Ⅰ (名詞の格)		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第11回	統語論Ⅱ (項名詞と付加詞)		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第12回	統語論Ⅲ (項構造)		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第13回	統語論Ⅳ (文の構築)		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第14回	小テスト		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第15回	総まとめ		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70% : 授業で取り扱った内容について試験を行います。			
レポート	なし			
小テスト等	20% (適時実施)			
成果発表	なし			
受講態度他	10% : 授業に対する意欲や受講態度により評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語・スマホの閲覧は原則的に禁止します。授業内容で分からないところがあれば、できるだけ質問してください。			
教科書	使用せず。プリント配布			
指定図書	特になし。必要があれば、授業中に紹介する。			
参考図書	特になし。必要があれば、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後、またはメールで相談	メールアドレス		



授業科目	言語生活特論【講義】	開講時期	後期
担当教員	小野 望	単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、本研究科の主題である「人間科学」のうち、「人間の社会・文化とは何か」を理解するための基幹科目として設置されているものである。</p> <p>社会を形成し、文化を創造・継承する人間のあり方と、言語の使用は不可分の関係にある。言語を実際の生活との関わりの中で考えていこうとするのが「言語生活論」の立場である。近代以前から、方言や民俗・文化の研究とともに扱われてきた言語生活研究は、現代の社会言語学、コミュニケーション論へとつながるものでもある。</p> <p>本講では、敬意表現を中心として、言語（ツールを含む）の変化と生活・社会の変化の相互影響について考察を加えることにより、言語と社会・文化の相互作用の観点から人間理解を深めることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>(1) 言語現象を観察し、問題点を整理して示すことができる。</p> <p>(2) 言語現象の意味について、先行研究を参照して考察することができる。</p> <p>(3) 人間科学の課題として、言語の問題を位置づけることができる。</p> <p>(4) 自らのテーマについて調査し、考察を加えて論理的に述べることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</p> <p>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</p> <p>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</p> <p>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 言語生活とは 「人間生活と言語」について考える		配付資料を通読し、日本語とコミュニケーションについて考えをまとめる。	
第2回 現代敬語の課題 日本語検定の敬語問題を見てみよう		配付資料を通読し、身近な言語生活を観察しよう。	
第3回 敬語とコミュニケーション 「敬語」を手がかりにコミュニケーションを考える		配付資料を通読し、敬語の歴史を確認しよう。	
第4回 敬意表現 「敬語の指針」を手がかりにコミュニケーションの変化を考える		「敬語の指針」を通読し、敬意表現の論点を整理しよう。	
第5回 敬語の分類 「敬語の指針」を手がかりに分類の変遷とその意味を考える		配付資料を読み、筆者の主張を確認しよう。	
第6回 「させていただく」 『かなり気がかりな日本語』・「させていただけます症候群」(NHK解説アーカイブス)		配付資料を読み、問題の背景を考察しよう。	
第7回 「よろしくお願ひします。」 何をどうお願ひされたのか？		配付資料を読み、筆者の主張を確認しよう。	
第8回 現代日本のコミュニケーションと配慮(1) 『言語行動における配慮の諸相』より第1章		配付資料を読み、「配慮」に関する論点を整理しよう。	
第9回 現代日本のコミュニケーションと配慮(2) 『言語行動における配慮の諸相』より第6章		配付資料を読み、「配慮」に関する事例を集めよう。	
第10回 現代日本のコミュニケーションと配慮(3) 配慮を表す言語形式、言語化しない配慮		身近な例をもとに、コミュニケーションと配慮について意見交換しよう。	
第11回 ことばの意味について考える 意味の分析方法を確認する		類義語を観察し、意味の共通点・相違点を整理しておこう。	
第12回 「文字通りではない意味」について考える A「暑いね」 B「窓、開けましょうか」		配付資料を参考に、文字通りでは解釈できない例を集めよう。	
第13回 誤解について考える 解決策を考えよう		配付資料を参考に、誤解の例を集め、その要因を整理しよう。	
第14回 あいまい文について考える 回避策を考えよう		配付資料を参考に、あいまい文の例を集め、その要因を整理しよう。	
第15回 まとめ 各自の選んだ課題について報告を行い、意見交換しよう		最終レポートの準備として、自ら考察すべき課題を深化させよう。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% 各自が選んだテーマについて、最終レポートをまとめる。		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	40% テーマ設定、テーマに関する調査、意見交換等 授業中のミニレポートを含め、真摯な考察と積極的な発言を求める。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者数の状況等によっては、上記授業計画を変更することがあります。</li> <li>・プリントを参考に、身近な言語生活から具体例を探し、考察を深めましょう。</li> <li>・情報ソース、アイデア、考察等を記録し、整理する、「自分の」方法論を見出しましょう。</li> <li>・先行研究に接することで、論理的な思考法、記述法を意識しましょう。</li> <li>・筆記試験(16回目)は行いません。</li> </ul>		
教科書	使用しない。		
指定図書	使用しない。		
参考図書	真田信治編『社会言語学の展望』くろしお出版(2006) ほか、授業中に紹介する。		
オフィスアワー	月曜日：5講時、火曜日：5講時	メールアドレス	

授業科目	言語文化特殊講義【講義】	開講時期	前期
担当教員	羅 義圭	単位	2
授業の目的と概要	<p>韓国での語学留学や韓国企業への就職のために、韓国語能力試験(TOPIK)の資格はとても求められています。本講義では、そのニーズに合わせ、「TOPIK II」の問題練習を丁寧に取り組むことによって、自分の苦手なところを発見し、そこから韓国語能力の向上に努めます。とくに、授業では「5級・6級」に焦点を当てて受験対策用として作成されたリスニング・読解問題を中心のテキストを用い、「5級・6級」の類型を把握し、実際の「TOPIK II」に準拠した問題を解くことにより、実践感覚を身に付けることができます。</p> <p>さらに、語彙力強化のために、毎回単語のテストを実施します。</p>		
到達目標	<p>①重要単語(1500語程度)と200以上の重要文法が理解でき、難しい文章を作ることができる。  ②上級会話を聞き取って理解することができる。  ③上級文章を読んで理解することができる。  ④TOPIK II (6級)合格を目標とする。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	ガイダンス TOPIK II の出題類型と内容、問題類型別分析と対策(TOPIK II の概要)	「復習(文末表現P1-2)」 「予習(読解P1-2)」	
第2回	TOPIK II によく出題される動詞と形容詞の文末形の活用	「復習(文末表現P3-4)」 「予習(読解P3-4)」	
第3回	(リスニング)類型1 質問に対する答えを選ぶ/(読解)類型1 質問の内容を把握する	「復習(文末表現P5-6)」 「予習(読解P5-6)」	
第4回	(リスニング)類型2 中心となる考え	「復習(文末表現P7-8)」 「予習(読解P7-8)」	
第5回	(読解)類型2 文脈に相応しい適切なものを選ぶ	「復習(文末表現P9-10)」 「予習(読解P9-10)」	
第6回	(リスニング)類型3 内容との一致	「復習(文末表現P11-12)」 「予習(読解P11-12)」	
第7回	(読解)類型3 新聞記事の見出しの解釈	「復習(文末表現P13-14)」 「予習(読解P13-14)」	
第8回	韓国能力試験の中間模擬試験実施-①	「復習(文末表現P15-16)」 「予習(読解P15-16)」	
第9回	(リスニング) 類型4 2問に答える形式の問題①	「復習(文末表現P17-18)」 「予習(読解P17-18)」	
第10回	(読解) 類型4 文章のポイントを把握する	「復習(文末表現P19-20)」 「予習(読解P19-20)」	
第11回	(リスニング) 類型5 2問に答える形式の問題②	「復習(接続表現P1-2)」 「予習(読解P21-22)」	
第12回	(読解) 類型5 文脈に相応しいものを選ぶ	「復習(接続表現P3-4)」 「予習(読解P23-24)」	
第13回	(リスニング) 類型6 2問に答える形式の問題③	「復習(接続表現P5-6)」 「予習(読解P25-26)」	
第14回	(読解) 類型6 文章の内容と一致するものを選ぶ	「復習(接続表現P7-8)」 「予習(読解P27-28)」	
第15回	韓国能力試験の中間模擬試験実施-②	間違った問題の分析及び文法項目の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	70% 課題提出(書き取り問題)		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30% 授業への積極的な参加(復習・予習の状況等)を考慮する		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①韓国語能力試験3級以上の資格を持っていることが履修条件です。  ②TOPIK II の受験経験者、担当先生の許可が下りた学生、交換留学の経験者も履修できます(授業の前に相談すること)。  ③TOPIKは毎年、3回(4月、7月、10月)実施しております。この授業を受ける学生は、必ず4月・7月に受験できるように、心掛けてください。  ④韓国への交換学生を希望している学生は、TOPIKを受験しなければなりません。</p>		
教科書	「teans」で資料提示		
指定図書	なし		
参考図書	全ウン・金賢珍著 『新 合格できる韓国語能力試験 TOPIK I』 アスク 2015年3月		
オフィスアワー	火曜日・木曜日 昼休み後	メールアドレス	

授業科目	言語文化特論【講義】		開講時期	前期
担当教員	緒方 隆文		単位	2
授業の目的と概要	<p>言語は、文化や社会と強く結びつき、影響しあっています。こうした言語と、文化/社会の関係を、より深く理解することを目的とします。この授業では、&lt;人&gt;&lt;言語&gt;&lt;文化/社会&gt;という3つの観点で、言葉や文化を見つめ直します。このとき、1. 人類がもつ普遍的な事柄(特定の言語を超えるもの)、2. 言語によって異なる個別の文化・社会との関係の2点から考察し、自分自身の見方を見つけられることも目的とします。</p> <p>授業では、様々な題材のプリントを通して、考察していきます。各テーマにおいて、自分の体験を通して、議論していきます。ことばと文化に関わるテーマを第2回～第12回で観ていきます。第13回～第14回は院生が選んだテーマを各自発表します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献を読み解くことで、人間存在を深く理解し、言語と文化の事象を自らの言葉で説明することができる。</li> <li>2. ことばを文化や社会という背景を通して理解し、自らの見解を加えて論ずることができる。</li> <li>3. 言語事象と文化の関わりの中から、課題を発見し、適切な研究方法に基づいて探求できる。</li> <li>4. 調査・研究により得られた結果や知見を、レポートとしてまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション： 言語文化について考察	言語文化テーマを復習。次回の内容を予習として通読する。		
第2回	テーマ： 文字のない言語文化	文字のない言語文化を復習。次回の内容を予習として通読する。		
第3回	テーマ： 非言語伝達	非言語伝達を復習。 次回の内容を予習として通読する。		
第4回	テーマ： 含意と文化	含意と文化を復習。次回の内容を予習として通読する。		
第5回	テーマ： 会話スタイル<日米のセールストーク>	日米のセールストークを復習。次回の内容を予習として通読する。		
第6回	テーマ： 会話スタイル<日米の説得法>	日米の説得法を復習。次回の内容を予習として通読する。		
第7回	テーマ： 会話スタイル<日米の学長祝辞>	日米の学長祝辞を復習。次回の内容を予習として通読する。		
第8回	テーマ： 役割語	役割語を復習。次回の内容を予習として通読する。		
第9回	テーマ： ことばのイメージとメタファー<1> (比喩表現としてのメタファー)	メタファー(1)を復習。次回の内容を予習として通読する。		
第10回	テーマ： ことばのイメージとメタファー<2> (認知プロセスとしてのメタファー)	メタファー(2)を復習。次回の内容を予習として通読する。		
第11回	テーマ： ことばによるていねい表現<1> (待遇表現としての丁寧表現)	ていねい表現(1)を復習。次回の内容を予習として通読する。		
第12回	テーマ： ことばによるていねい表現<2> (ポライトネス理論)	ていねい表現(2)を復習。次回の内容を予習として通読する。		
第13回	テーマ： 言語の性差, 院生発表(各自のテーマ)	発表の準備、レポート作成、言語の性差を復習。次回の内容を通読する。		
第14回	テーマ： 呼びかけ表現, 院生発表(各自のテーマ)	発表の準備、レポート作成、呼びかけ表現を復習。		
第15回	講義の総括： レポート内容の確認及び討議	レポート作成、修正、最終確認		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% (第13回～第14回で発表した内容をレポートとしてまとめる)			
小テスト等	なし			
成果発表	20% (授業内でのプレゼンテーション)			
受講態度他	20% (意見交換等、積極的な取り組みを評価する)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>受講者数の状況等によっては、上記授業計画を変更することがあります。事前に配布したプリントは、当該授業までに読んでおくようにしておいてください。築女ネットを活用し、課題説明・課題提出などを行います。</p>			
教科書	プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(メール等で、予約することが望ましい)	メールアドレス		

授業科目	源氏物語入門【講義】		開講時期	後期
担当教員	須藤 圭		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は「オンデマンド型オンライン授業」のかたちで実施します。授業の指示は、原則、時間割通りの時間帯に筑女ネットをとおして行います。必ず、確認するようにしてください。</p> <p>* 日本文学史のなかで、鮮やかに輝き、現在でも、多くのひとびとが関心を寄せる物語のひとつに、平安時代中期に成立した『源氏物語』があります。</p> <p>この授業では、『源氏物語』を対象として、「なぜ、光源氏は多くの女性と恋をしたのか?」「この物語は、何のために書かれたのか?」「そもそも、なぜ、この物語は、1000年以上も読み継がれているのか?」といった、さまざまな疑問をきっかけにしながら、その内容を紹介します。『源氏物語』を学ぶことによって、多様なものの感じかたや価値観を養うことを目指します。</p>			
到達目標	<p>◆以下の2つの能力を獲得することを目指します。</p> <p>A 『源氏物語』が与えた影響をふまえて、日本文学・文化の特徴を述べることができる。</p> <p>B 『源氏物語』を読み解き、自らの価値観と相対化しながら、ものごとを論じることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>◆授業外学修について。1回の授業につき、180分の予習・復習が必要です。詳しくは『学生便覧』を参照してください。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	ガイダンス・現代社会のなかの『源氏物語』(オンデマンド型オンライン授業、ワークと課題)	◆『源氏物語』について調べておきましょう。		
第2回	『源氏物語』のあらすじ 第一部1 光源氏の誕生(〃)	◆授業で扱った巻を読んでみましょう。		
第3回	『源氏物語』のあらすじ 第一部2 光源氏の禁断の恋(〃)	◆授業で扱った巻を読んでみましょう。		
第4回	『源氏物語』のあらすじ 第一部3 光源氏の女性遍歴(〃)	◆授業で扱った巻を読んでみましょう。		
第5回	『源氏物語』のあらすじ 第一部4 光源氏の流離(〃)	◆授業で扱った巻を読んでみましょう。		
第6回	『源氏物語』のあらすじ 第一部5 光源氏の栄華(〃)	◆授業で扱った巻を読んでみましょう。		
第7回	『源氏物語』のあらすじ 第二部 光源氏の苦悩(〃)	◆授業で扱った巻を読んでみましょう。		
第8回	『源氏物語』のあらすじ 第三部 光源氏没後の世界(〃)	◆授業で扱った巻を読んでみましょう。		
第9回	『源氏物語』の環境1(〃)	◆現代の環境と比べてみましょう。		
第10回	『源氏物語』の環境2(〃)	◆現代の環境と比べてみましょう。		
第11回	『源氏物語』の成立(〃)	◆紫式部について調べてみましょう。		
第12回	『源氏物語』の伝説(〃)	◆玉葛窟古墳について、調べてみましょう。		
	『源氏物語』の写本/版本/注釈書(〃)	◆博物館等で『源氏物語』の写本、版本、注釈書を探してみましょう。		
第14回	『源氏物語』の現代語訳/外国語訳(〃)	◆複数の現代語訳、外国語訳を読み比べてみましょう。		
第15回	まとめ・『源氏物語』とは、はたして、何か?(〃)	◆この授業で学んだことの復習をしましょう。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	◆期末レポート(60%)。授業内容の理解度をはかるためのレポートを課します。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	◆コメント(40%)。課題への回答や質問、意見を書いてもらいます。 ※なお、コメントで寄せられた内容は、次回の授業時にとりあげて、紹介します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◆『源氏物語』はとても長い物語ですが、この機会に、ぜひ、読破してみてください。</p> <p>◆日頃から多くの文学に接するほか、日本文学を題材としたテレビ番組なども積極的に視聴し、知識を深めてください。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症の影響による本学対応のため、当初の予定からシラバスの内容を変更しています。</p>			
教科書	◆プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	◆『源氏物語』の概要を知りたいときは、以下の本を推奨します。 ◎中野幸一『常用源氏物語要覧』(武蔵野書院、1995年)			
オフィスワー	水4限	メールアドレス		

授業科目	現代インド事情【講義】		開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合		単位	2
授業の目的と概要	<p>「南アジア入門」の基礎・発展編。前半で、民族の博覧会と呼ばれる南アジアの家族・親族のあり方を、文化人類学の視点から理解し、その多様性を学ぶ。さらにカーストやジェンダーの視点を含めて、発展的に理解する。</p> <p>中盤以降では、1991年以降空前の経済成長を続け変化する現代インド社会の諸相を検討する。国内・国際政治や経済といったダイナミックな側面から、経済発展で私たちと変わらない豊かな生活を楽しむ都市中間層の暮らしや価値変化まで扱う。さらに急速な経済変化をもたらす課題として、経済格差や環境問題、加熱する教育と矛盾、ジェンダー・マイノリティ問題などを挙げ、実証的に理解することをねらいとする。</p>			
到達目標	<p>①南アジアの家族・親族体系の多様性について説明できる。</p> <p>②カースト・ジェンダーをめぐる主たる問題について説明できる。</p> <p>③現代インド社会の「光と影」をめぐる争点を理解し、その構造を諸背景とともに説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 導入：講義のねらいと方法			プリント復習	
第2回 家族・親族概論			プリント復習	
第3回 婚姻とジェンダー			家族理論復習	
第4回 インドの家族・親族論(1)：「合同家族」論批判			プリント復習	
第5回 インドの家族・親族論(2)：ヒンドゥー家族			親族論(1) (, 2)復習	
第6回 インドの家族・親族論(3)：イスラーム家族			プリント復習	
第7回 インドの家族・親族論(4)：ナーヤルカースト、少数部族の家族			親族論(3, 4)復習	
第8回 現代インド社会の諸相(1)：国内・国際政治			小レポート	
第9回 現代インド社会の諸相(2)：経済発展と人材育成			小レポート	
第10回 現代インド社会の諸相(3)：貧困問題：政策と課題			小レポート	
第11回 現代インド社会の諸相(4)：女性・ジェンダー			小レポート	
第12回 現代インド社会の諸相(5)：マイノリティ問題			小レポート	
第13回 現代インド社会の諸相(6)：都市中間層のライフスタイルと変化する価値観			小レポート	
第14回 ディスカッション			小レポート	
第15回 まとめ			期末レポート	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート40%			
小テスト等	-			
成果発表	なし			
受講態度他	出席+リアクション・ペーパー提出 60%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日ごろから南アジア、特にインドについてのニュース、番組、その他の情報に注意し、レディネスを養ってほしい。			
教科書	講義レジュメと抜粋コピーを配布			
指定図書	『叢書激動のインド第一巻変動のゆくえ』 『現代南アジア⑤社会・文化・ジェンダー』 『現代インドを知るための60章』			
参考図書	『文化人類学事典』 『インドを知る事典』 村武精一編『家族と親族』			
オフィスアワー	火5、木4	メールアドレス		

授業科目	現代韓国事情【講義】		開講時期	前期
担当教員	裴 海善		単 位	2
授業の目的と概要	韓国の基礎知識と南北関係、歴史と近代政治、韓服、食文化、冠婚葬祭などを学ぶことによって、現代韓国の社会・文化・歴史と政治に対する理解を深めることを目的とする。 ①韓国社会と文化、歴史の多様な面を貴重な映像と豊富な資料を使って詳しく、分かりやすく説明する。 ②見て、聴いて、触れながら韓国文化と社会を学ぶ。 ③韓国の文化・社会面における特徴を日本と比較しながら学ぶ。			
到達目標	1. 韓国の歴史と政治、社会と文化、食文化、冠婚葬祭など、韓国の基礎知識を身につけることができる。 2. 韓国の多様な分野における特徴を理解し、視野を広げることができる。 3. 韓国社会を日本社会と比較しながら説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第 1回	授業概要紹介、第 1 章・韓国の歴史年代表（日中西洋比較）	テキストを購入する		
第 2回	第2章・韓国の行政区域地図	教材30頁・課題④に関して調べる		
第 3回	第3章・韓国の基礎知識/第14章・宗教	韓国語と朝鮮語の違いを調べる		
第 4回	第4章・韓国の歴史と日本との関係	朝鮮通信使について調べる		
第 5回	第5章・朝鮮王朝	教材30頁、課題①		
第 6回	第6章・朝鮮戦争と分断	板門店について調べる		
第 7回	第7章・韓国の政治（大韓民国樹立～第5共和国まで）	光州事件を調べる		
第 8回	第7章・韓国の政治（民主化宣言と第6共和国）	教材30頁・課題②		
第 9回	第8章・国会と選挙	韓国の国家議員の選挙制度を調べる		
第10回	第9章・家族関係、教育制度	韓国人の姓を調べる		
第11回	第10章・格差社会（貧富格差と男女格差）	韓国の格差社会を表す流行語を調べる		
第12回	第11章・住宅事情	不動産賃貸方法を調べる		
第13回	第12章・韓服	チマチョゴリの折り紙		
第14回	第13章・韓食とキムチ	キムチの種類を調べる		
第15回	課題①②④提出確認（教材30頁）の提出確認、③授業中のテスト（30分実施）	まとめ。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題①②（10点×2回）			
小テスト等	授業中の小テスト（80点）			
成果発表	なし			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<受講上の留意事項> ※筑女ネットを活用します：テキスト以外の補助資料、お知らせなど。 ①テキストは1回目の授業から使います。授業内容や順番は、変更ありうります。 ②小テストには自分のテキストのみ持込可能（授業中のテストなので、追試と再試なし）。 ③欠席が 5 回を超えると評価しない（就職活動、病気、その他の理由による欠席は 5 回の中でカウントする）。			
教科書	裴 海善著『現代韓国事情』2020年			
指定図書	特になし。			
参考図書	講義の中で適宜紹介			
オフィスワーカー	事前に訪問日時を相談してください	メールアドレス		

授業科目	現代言語特論【講義】		開講時期	後期
担当教員	高山 百合子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、方言から現代日本語の文法を観察し分析する力を養うことを、主な目的とする。とくに次の2点を重視する。</p> <p>(1) 日本語の文の根幹である述語構造について、現代共通語や方言を、変化の激しかった中世期と対比しながら観察することで、現代語の文の成り立ちを理解できるようになる。</p> <p>(2) 文法的観察のポイントを押さえられるようになる。</p> <p>この講義では、現在方言から遡れる中世期の中央語と、我々にとって身近な北部九州方言を比較し、肥筑方言に認められるさまざまな古態性を見出していく。現在方言から中世日本語の要素を取り出していく中で、北部九州方言の特色、もっと言えば特殊性が浮かび上がってくる。この講義は、そうした一連の過程の中から、母語である日本語を観察し、見極める力を養うことを最も重要な目的とする。</p>			
到達目標	<p>(1) 近代語、つまり中世から現代までの日本語中央語を概観する知識を持つ。</p> <p>(2) そこから、とくに文法について、一定の傾向性やルールを導き出す観察眼と方法論の基礎を身につける。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</p> <p>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</p> <p>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</p> <p>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回：オリエンテーション／日本語の文の基本構造―通時的側面、共時的側面		開講前に山口仲美『日本語の歴史』（岩波新書）を読んでおく。		
第2回：日本語の文の基本構造と文法カテゴリについて		事前予習（配布プリント①）		
第3回：述部構造と動詞		事前予習（配布プリント②）		
第4回：アスペクトと動詞の分類		事前予習（配布プリント③）		
第5回：中世語概観		事前予習（配布プリント④）		
第6回：【調査発表①】肥筑方言概観		発表準備①		
第7回：肥筑方言の文構造の特徴		発表準備②		
第8回：係り結び現象について		事前予習（配布プリント⑤）		
第9回：係り結びの周辺		事前予習（配布プリント⑥）		
第10回：方言に残る係り結び		事前予習（配布プリント⑦）		
第11回：連体と連用（1）		事前予習（配布プリント⑧）		
第12回：連体と連用（2）		事前予習（配布プリント⑨）		
第13回：文法化		事前予習（配布プリント⑩）		
第14回：【調査発表②】方言の文法研究（受講者の設定したテーマによる）		発表準備		
第15回：まとめ		これまでの復習、まとめ		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％			
小テスト等	特になし			
成果発表	20％（演習；授業での調査発表）			
受講態度他	特に点数化はしない。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*授業開始の際、あらかじめ山口仲美『日本語の歴史』（岩波新書）を読んでおく。</p> <p>*予習・復習、課題の提出などはきちんと行うこと。</p> <p>*上記授業計画は、受講生の専門など、状況に応じて変更する可能性がある。</p> <p>*課題などは、できるだけ授業中に、コメントを付して返却する。</p>			
教科書	プリント使用			
指定図書	特になし			
参考図書	山口仲美『日本語の歴史』岩波新書、文法辞典類、他、必要に応じて授業の中で提示する。			
オフィスアワー	木曜 4 講時	メールアドレス		

授業科目	現代社会特殊講義Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	佐々木 浩・大橋 健治・岡本 文子		単位	2
授業の目的と概要	本講義は、現代社会の重要な問題からテーマを設定して、ビジネス・メディア・環境共生の3領域から学際的に学ぶことを目的とする。2020年度は、「少子高齢化」をテーマとして、ガイダンスの後、ビジネス領域から大橋が4回、メディア領域から岡本が5回、環境共生領域から佐々木が4回担当して講義をし、その後まとめを行う。ビジネス領域では、労働力、企業経営、消費者ニーズ、女性の働き方、ビジネスイノベーションについて、メディア領域では、メディアの変化、ネットと少子化対策などについて、環境領域では、社会の変化、経済の変化、都市と地方のまちづくりなどについて学ぶ。この講義を受けることによって、これから少子高齢化が進む中で、自分の関わり方を考えることができるようになることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 少子高齢化とビジネスの関係について説明できる。</li> <li>2. 少子高齢化とメディアの関係について説明できる。</li> <li>3. 少子高齢化と環境の関係について説明できる。</li> <li>4. 少子高齢化が進む中で、どのような社会を作っていきたいか自分の考えを持つことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 (担当 大橋)	ガイダンス (内容概説)		課題 (予習)	
第2回 (担当 大橋)	少子高齢化とビジネス (1) 少子高齢化社会の課題		課題 (予習「少子高齢化社会」のビジネスにおける課題を調べてくる)	
第3回 (担当 大橋)	少子高齢化とビジネス (2) 労働力人口の減少と企業経営の課題		課題 (予習) 労働力人口の減少と企業経営の課題を調べてくる	
第4回 (担当 大橋)	少子高齢化とビジネス (3) 少子高齢化社会における消費者ニーズ		課題 (予習) 少子高齢化社会における消費者ニーズを調べてくる	
第5回 (担当 大橋)	少子高齢化とビジネス (4) 少子高齢化社会における女性の働き方、ビジネスイノベーション		課題 (予習) 少子高齢化社会における女性の働き方を考えてくる	
第6回 (担当 岡本)	少子高齢化とメディア (1) 結婚支援政策とメディアの役割①		課題 提示資料の内容をもとに小レポート作成、提出	
第7回 (担当 岡本)	少子高齢化とメディア (2) 結婚支援政策とメディアの役割②		課題 提示資料の内容をもとに小レポート作成、提出	
第8回 (担当 岡本)	少子高齢化とメディア (3) 海外の少子化対策とメディアの役割①		課題 提示資料の内容をもとに小レポート作成、提出	
第9回 (担当 岡本)	少子高齢化とメディア (4) 海外の少子化対策とメディアの役割②		課題 提示資料の内容をもとに小レポート作成、提出	
第10回 (担当 岡本)	少子高齢化とメディア (5) 「エンゼルプラン」「新エンゼルプラン」と少子化対策		課題 資料収集し、その内容をもとに小レポート作成、提出	
第11回 (担当 佐々木)	少子高齢化と環境 (1) 都市への集中と地方の過疎化		課題 講義資料、講義内容をもとに小レポート作成、提出	
第12回 (担当 佐々木)	少子高齢化と環境 (2) 里山資本主義		課題 講義資料、講義内容をもとに小レポート作成、提出	
第13回 (担当 佐々木)	少子高齢化と環境 (3) 循環型社会		課題 講義資料、講義内容をもとに小レポート作成、提出	
第14回 (担当 佐々木)	少子高齢化と環境 (4) 獣害		課題 義資料、講義内容をもとに小レポート作成、提出	
第15回 (担当 佐々木)	少子高齢化と環境 (5) コロナウイルス、振り返り		課題 まとめ的小レポート作成、提出	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90 % (3人の担当教員がそれぞれレポートを課して評価。それぞれ30%。)			
小テスト等	なし			
成果発表	0 %			
受講態度他	10 %			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	課題が各教員から出されます。授業の運営は筑女ネットを用いた遠隔授業によるものとします。各教員の詳細な運営方法は筑女ネット上で示します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	大橋 月曜日の14:00~17:00、岡本 月曜日3講時、佐々木 月曜日3講時		メールアドレス	



授業科目	現代社会特殊講義Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	速水 良晃・一ノ瀬 元史・野中 亮		単位	2
授業の目的と概要	本講義は、現代社会の重要な問題からテーマを設定して、社会学およびビジネス・メディア・環境共生の3領域から学際的に学ぶことを目的とする。各領域の専任教員がオムニバスで担当する。ⅠとⅡはテーマを変えて開講する。取り上げるテーマは年度によるが、今年度のⅡは「災害と社会」とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業テーマの概要について、簡潔に口頭で説明できる。</li> <li>2. 授業テーマについて、ビジネス・メディア・環境の3側面からそれぞれ詳細を説明できる。</li> <li>3. 授業テーマについて、学際的な観点から持論を展開できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧の「基本事項」の「単位」を参照してください。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 (速水担当)	授業の進め方、災害の分類	復習(災害の分類)、第2回への質問、質問3つの選択、予習レポート		
第2回 (速水担当)	地震と津波、原発過酷事故の原因は	復習(原発事故の原因)、第3回への質問、質問3つの選択、予習レポート		
第3回 (速水担当)	福島原発事故と水俣病問題の類似点	復習、第4回への質問、質問3つの選択、予習レポート		
第4回 (速水担当)	日本の原発政策は正しいか、除染廃棄物はどこに中間貯蔵すべきか	復習、第5回への質問、質問3つの選択、予習レポート		
第5回 (速水担当)	原発の問題点は安全性なのか	復習(原発の問題点は安全性なのか)、まとめのレポート		
第6回(野中担当)	コロナと私たちの生活	配布資料と用いた学習と小課題(筑女ネットアンケート機能を使用)の作成		
第7回(野中担当)	パンデミックとパニック	配布資料と用いた学習と小課題(筑女ネットアンケート機能を使用)の作成		
第8回(野中担当)	スーパー台風と「地方の戦略的撤退」論	配布資料と用いた学習と小課題(筑女ネットアンケート機能を使用)の作成		
第9回(野中担当)	震災後の東北と地域文化	配布資料と用いた学習と小課題(筑女ネットアンケート機能を使用)の作成		
第10回(野中担当)	災害と社会の変容:ウィズコロナと「災害ユートピア」	配布資料と用いた学習と小レポートの作成		
第11回 (一ノ瀬担当)	テキストデータを用いた震災後の情報環境の分析①	マスメディア(全国紙・地方紙・テレビ)等について		
第12回 (一ノ瀬担当)	テキストデータを用いた震災後の情報環境の分析②	どのような情報が流れていたのか		
第13回 (一ノ瀬担当)	震災期の新聞・TV、Yahoo!トピックス、ブログ記事と投稿の特徴	災害時の記事類型がどのような特徴がありどのように変化したか		
第14回 (一ノ瀬担当)	災害研究における情報メディアの役割を考える	報道のあり方について		
第15回 (一ノ瀬担当)	災害時に求められる情報支援のあり方とは	情報メディアの効果的な活用法について		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% (各担当者の30%(毎回の小課題(400字程度)+5回終了時のまとめのレポート(1200字程度))×3)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10%(出席や授業中の積極性が不足する場合は、レポート提出できません)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>時間割では授業は火曜日ですが、オンデマンドで、9月21日(月)に開始します。担当者は3人(速水、野中、一ノ瀬)で、基本的に「月曜に資料公開」と「金曜に課題締切」です。課題提出は、毎回の小課題(400字程度)+各担当者5回終了時のまとめのレポート(1200字程度)です。出欠は、授業資料等へのアクセスと毎回の課題提出状況あるいは出欠確認アンケートによって判断します。受講態度も評価項目に入っているので、授業には主体的に参加すること。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし(授業中に紹介する場合もある)			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	現代社会と地域デザイン【講義】		開講時期	後期
担当教員	上村 真仁		単位	2
授業の目的と概要	この講義では、人口減少社会や地球環境問題といった現代社会の諸特性が都市や農山漁村など私たちの暮らしている「地域」に与える影響を理解するとともに、より良い社会を実現するために「地域」の課題の解決に向けた実践的な方策についての関心を喚起し、基本的なスキルを身につけることを目的としています。具体的には、環境や文化遺産の保全、観光まちづくり、コミュニティ形成などの実践事例を学び、グループによる太宰府でのフィールドワークの実施により、地域デザインの基礎となる地域を見る目を養い、コミュニケーション力を身につけます。			
到達目標	1. 現代社会の地域課題や地域デザインに関する用語や考え方などの基本的な知識を習得する。 2. 実践事例の考察を通して、課題解決のために求められる自分たち市民の役割や地域デザインに参画する意義を説明できるようになる。 3. グループ討議や体験を通じて、地域課題の解決に対する自分なりの考えをまとめ、発表することが出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は民間シンクタンクにおいて官公庁の環境政策や地域振興施策の立案に関わり、また環境NGOや地域NPOでの持続可能な地域づくりの実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。 「地域資源論」「地域プロジェクト演習」「プロジェクトマネジメント」とあわせて受講するとより理解が深まります。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション 地域デザインとは何か?	自己紹介を考えて来て下さい。		
第2回	現代社会の諸特性 その1 地球環境問題の深刻化 第1回小テスト	地球環境問題と自分の暮らしの関わりについて調べてくる。		
第3回	現代社会の諸特性 その2 グローバル化と人口減少社会 第1回現社バトル 2名	グローバル化、人口減少が地域の暮らしに与える影響について調べてくる。		
第4回	地域デザイン手法 その1 地方創生のまちづくり 第2回小テスト	人口減少に対応したまちづくり事例について調べてきてください。		
第5回	地域デザイン手法 その2 住まいとまちづくり(空き家問題) 第2回現社バトル 2名	空き家や古民家の活用について調べてきてください。		
第6回	地域デザイン手法 その3 地球環境時代のまちづくり 第3回現社バトル 2名	環境と共生した住まいやまちづくり事例を調べてきてください。		
第7回	地域デザイン手法 その4 観光まちづくり 第3回小テスト	インバウンド対策事例を調べてきて下さい。		
第8回	フィールドワーク事前学習 太宰府天満宮門前町とまち歩き(文化財の保存活用型地域づくり)	太宰府の魅力や資源について調べてきてください。		
第9回	フィールドワーク 太宰府でのまち歩き実習(9回、10回をあわせて、11/22or29に開講します)	フィールドノート、撮影した写真を整理して下さい。		
第10回	フィールドワーク 太宰府でのまち歩き実習(9回、10回をあわせて、11/22or29に開講します)	まち歩き時のフィールド調査結果を資源カードにまとめる。		
第11回	地域デザインの進め方(地域課題発見とニーズの把握方法) 第4回現社バトル 2名	太宰府の魅力とその活用法を考えてきてください。		
第12回	グループ討議 太宰府の魅力とその活用に向けたデザイン(フィールドワーク取りまとめ)	グループ発表資料の作成(模造紙)		
第13回	ゲストトーク:対馬市域学連携	地域デザインにおける学生の役割や可能性について考えて下さい。		
第14回	グループ発表 第5回現社バトル 2名	発表資料を完成させ発表の練習をしてきてください。		
第15回	まとめと振り返り 第4回小テスト	復習をして下さい。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	40%(基礎的な用語や手法、事例についての小テストを授業中に4回程度実施する)			
成果発表	40% フィールドワークを通して発見した太宰府の魅力的な資源について、その理由と保全・活用のための方策をグループで協議し、プレゼン資料を作成し発表する(各自の資料20%、発表資料10%、発表内容10%)。			
受講態度他	20% 11月22日(日)or29日(日)フィールドワークへの参加の積極性により評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、受講生の中の希望者に、地域デザインに関連したキーワードについて調べ、プレゼンテーションを実施してもらいます(「現社バトル」と呼ぶ)。現社バトル発表者にはその出来栄により加点を行う。また、本講義ではフィールドワークに基づき、グループワークおよび発表を行います。11月22日(Bクラス)29日(Aクラス)のフィールドワークには出席するようにしてください。グループのメンバーに迷惑をかけないよう、積極的に参加するようにしてください。グループワーク実施、発表は評価の対象となっています。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する(授業の際に配布する)。			
指定図書	1. 調査されるという迷惑「フィールドに出る前に読んでおく本」宮本常一、安溪遊地 みずのわ出版 2. コミュニティデザイン 人がつながるしくみをつくる 山崎亮 学芸出版社			
参考図書	服部圭郎 未来社 4. 若者のためのまちづくり 服部 圭郎 岩波ジュニア新書			
オフィスワー	月曜日3限、4限	メールアドレス		

授業科目	現代社会とビジネス【講義】		開講時期	前期
担当教員	藤原 隆信		単位	2
授業の目的と概要	現代社会と企業経営（ビジネス）は切っても切れない関係にあります。本科目では、「経営学を初めて学ぶ」という学生の視点から、身近な事例を取り上げて企業経営の基本原則を学んでいきます。具体的には、①企業経営と私たちの暮らしはどのように関係しているのか、②企業経営の仕組みはどのようになっているのか、③企業はどのようにして経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を活用しているのか、といった知識を身に付けていきます。授業を通じて皆さんが、現代社会と企業経営（ビジネス）の関係性や日本社会の全体像を理解できるようになる事を目指します。			
到達目標	①現代社会で働く際に必要となる企業経営の基礎知識（経営学の基礎）を身に付ける。②企業経営の仕組みやその実態を理解する。③現代社会の課題を知ると共にその実態を理解する。④上記①～③を踏まえ、現代社会における企業経営（ビジネス）のあるべき姿を自分の言葉で説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	はじめて「経営学」を学ぶ皆さんへ（1） ——私たちと企業との関係	授業資料で提示する復習課題をやって下さい。		
第2回	はじめて「経営学」を学ぶ皆さんへ（2） ——私たちの社会生活と企業との関係	授業資料で提示する復習課題をやって下さい。		
第3回	私たちの暮らしと企業経営（1） ——私たちの生活を支える企業	筑女ネットで提示する予習課題、及び復習課題をやってください。		
第4回	私たちの暮らしと企業経営（2） ——私たちが支える企業	筑女ネットで提示する予習課題、及び復習課題をやってください。		
第5回	私たちの暮らしと企業経営（3） ——私たちの暮らしと「お金」	筑女ネットで提示する予習課題、及び復習課題をやってください。		
第6回	企業経営の仕組みについて（1） ——株式会社の仕組みと経営資源	筑女ネットで提示する予習課題、及び復習課題をやってください。		
第7回	企業経営の仕組みについて（2） ——VTRで考える企業経営（「会社」は誰のものか?）	筑女ネットで提示する予習課題、及び復習課題をやってください。		
第8回	企業による経営資源の活用（1） ——消費者ニーズと販売管理	筑女ネットで提示する予習課題、及び復習課題をやってください。		
第9回	企業による経営資源の活用（2） ——研究開発と生産管理	筑女ネットで提示する予習課題、及び復習課題をやってください。		
第10回	企業による経営資源の活用（3） ——VTRで考える企業経営（「研究開発」と人間の命）	筑女ネットで提示する予習課題、及び復習課題をやってください。		
第11回	現代の企業社会と労働（1） ——現代の企業社会と自立した個人	筑女ネットで提示する予習課題、及び復習課題をやってください。		
第12回	現代の企業社会と労働（2） ——VTRで考える企業経営（現代の労働とワーキングプア）	筑女ネットで提示する予習課題、及び復習課題をやってください。		
第13回	現代の企業社会と労働（3） ——データとVTRで考える企業経営（格差社会と企業経営）	筑女ネットで提示する予習課題、及び復習課題をやってください。		
第14回	現代社会の課題と企業経営（1） ——社会的課題の解決と企業経営	筑女ネットで提示する予習課題、及び復習課題をやってください。		
第15回	現代社会の課題と企業経営（2） ——私たちにもできるソーシャルビジネス	「期末レポート」をやってきて下さい。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% 期末レポート（40%）、事前学習（予習課題）の提出（30%）で評価します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% オンデマンド授業への参加と事後学習（復習課題）への取り組みを評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、「遠隔授業」で実施します。筑女ネットの「コース」にアップした授業の進め方をしっかりと確認し、受講して下さい。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（筑女ネットにアップする）。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の10：50～12：20	メールアドレス		

授業科目	現代社会と仏教【講義】		開講時期	後期
担当教員	金見 倫吾・盛 智照		単位	2
授業の目的と概要	<p>現代社会の様々な問題に対して自分のこととして向き合い、それを乗り越えていく上で、仏教思想がもつ可能性について理解する。さらに、仏教が希求する社会像の理解を通じて、人間と社会のあり方に対する洞察力を深める。</p> <p>仏教が追求する問題は、人間苦悩の解決の方向性を抽象的に、あるいは内面的に示すことだけにとどまらない。人間が生きていく上で社会的現実と直面することを避けられないように、仏教もまた、そこで生じる社会的な諸問題をいかに理解し乗り越えていくのかということに鋭くアプローチしてきた。授業では、現代社会が直面する具体的課題を取り上げ、それらを乗り越えていく方向性や方法を、仏教の思想的立場から考えていきたい。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族、地域社会、医療、福祉、政治等に関して、現代社会がどのような課題に直面しているのかを述べることができる。</li> <li>2. 仏教的視点に立つとき、現代社会が直面する諸課題の問題性がどのように認識されてくるのかを説明することができる。</li> <li>3. 現代社会の直面する諸課題に対し、仏教の果たすべき役割とその思想的可能性に関して自分の意見を述べることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>現 (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション (連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要)	新聞などを読み、社会で起きている事柄に興味を持つ		
第2回	仏教から社会をみる	1年生のときの「仏教学Ⅰ・Ⅱ」の復習をする		
第3回	浄土真宗から社会をみる①親鸞の信仰的立場	2年生のときの「親鸞・人と思想Ⅰ・Ⅱ」の復習をする		
第4回	浄土真宗から社会をみる②親鸞の社会的立場	2年生のときの「親鸞・人と思想Ⅰ・Ⅱ」の復習をする		
第5回	仏教とセクシュアル・マイノリティ	新聞などの関連記事を読んでおく		
第6回	ビハーラ活動について①	ビハーラ活動の概要を調べておく		
第7回	ビハーラ活動について②	課題①作成		
第8回	ビハーラ活動について③	課題①作成		
第9回	仏教と非戦・平和①憲法改定をめぐる	新聞などの関連記事を読んでおく		
第10回	仏教と非戦・平和②平和をつくる人びと	新聞などの関連記事を読んでおく		
第11回	仏教と労働問題	新聞などの関連記事を読んでおく		
第12回	仏教からみたセクシュアルマイノリティの問題	新聞などにある「セクシュアルマイノリティ」関連の記事を読んでおく		
第13回	仏教と貧困①ホームレス問題	新聞などの関連記事を読んでおく 課題②作成		
第14回	仏教と貧困②貧困の実態と背景	課題②作成		
第15回	まとめ	課題②作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%(課題2回。フィールドワーク参加記もしくは調査レポート)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>社会に関する最低限の知識を前提とします。新聞などを読み、現実社会で起こっている問題に関心を深めてください。毎回の講義終了時に、感想や意見、質問等を書いて提出してもらいます。2回のフィールドワークを予定していますので、できるだけどちらかに参加してください。(詳細は講義内で指示します)</p>			
教科書	特に指定しない			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	現代社会とポピュラー文化【講義】		開講時期	後期
担当教員	一木 順		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、私たちがふだん親しんでいるポピュラー文化を通して現代社会を学ぶための基礎知識を身につけることを目的とする。ポピュラー文化とは何か、ポピュラー文化の歴史、現代社会におけるポピュラー文化の意味、ポピュラー文化と抵抗をキーワードとし、スチュアート・ホール、アントニオ・グラムシ、ルイ・アルチュセールらの議論を参考としながら、ポピュラー文化を語るための視座を獲得することを目的とする。、			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分が親しんでいるポピュラー文化を社会的な視点から考えることができる</li> <li>2. ポピュラー文化を考えるためのキータームを説明することができる</li> <li>3. 自分が選んだ題材をより深く理解するための情報収集ができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身につけている。  現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：授業のイントロダクション			なし	
第2回：ポピュラー文化とは何か			筑女ネット上の課題ファイル1を行うこと	
第3回：ポピュラー文化とは何か②			筑女ネット上の授業資料を参照すること	
第4回：ポピュラー文化への歴史①			20世紀初頭のアメリカ社会について調べること	
第5回：ポピュラー文化への歴史②			筑女ネット上の課題②を行うこと	
第6回：ポピュラー文化と社会①			『アナと雪の女王』および『白雪姫』について調べること	
第7回：ポピュラー文化と社会②			10年後のプリンセス像について考えること	
第8回：中間のまとめ			ここまでの授業のキーワードを整理して起こること	
第9回：ポピュラー文化とイデオロギー①			『オズの魔法使い』について調べること	
第10回：ポピュラー文化とイデオロギー②			「イデオロギー」について調べること	
第11回：ポピュラー文化とテキスト論①			「モータウン」について調べること	
第12回：ポピュラー文化とテキスト論②			「ブラクスプロイテーション映画」について調べること	
第13回：ポピュラー文化と消費社会①			「チェゲバラについて調べること」	
第14回：ポピュラー文化と消費社会①			筑女ネット上の課題を行うこと	
第15回：まとめ			ここまでのキーワードを整理して持つこと	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	70％（授業内での小課題30％、学期末のコンセプトマップ40％）			
小テスト等	0％			
成果発表	10％（授業内でのグループプレゼンテーション）			
受講態度他	20％（授業前課題の提出度、出来を勘案する）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業では授業外での学習成果、授業内でのグループ学習やディスカッションへの参加を特に重視する。毎回の授業のキーワードを記録するためのポストイットを各自準備すること			
教科書	適宜プリントを配布する。また授業用の資料を筑女ネットに公開しているので、それを参照して授業に参加すること。			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスワーカー	月曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	現代社会とメディア【講義】		開講時期	前期
担当教員	橋本 嘉代		単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会とメディアについて「コミュニケーション」をキーワードとし、身近なトピックを参照しながら学ぶ。</li> <li>・情報伝達、意図の理解、関係の形成・維持など、さまざまな側面からコミュニケーションを理解し、メディアを学ぶための基礎的な力を身につける。</li> <li>・メディアの影響力や機能に関する正しい知識を獲得する。</li> <li>・企業活動や文化、情報技術など、社会の組織や社会現象においてコミュニケーションが果たす役割について考える。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会を理解するうえで基礎的知識となる「コミュニケーション」について、ミクロな相互行為からマクロな社会現象に至るまでを抽象的な理論と関連づけて理解し、自分の言葉で説明することができる。</li> <li>・メディア研究の主要な理論や学説の系譜、実験や調査といった方法論を理解し、説明することができる。</li> <li>・メディアやコミュニケーションが作り上げる社会現象や人間関係のつながりについて推論することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス			シラバス、ガイダンスに目を通す。	
第2回 第1章 コミュニケーションの基礎 (1)			第1章を読み要点を確認する。課題に取り組む。	
第3回 第1章 コミュニケーションの基礎 (2)			第1章を読み要点を確認する。課題に取り組む。	
第4回 第1章 コミュニケーションの基礎 (3)			第1章の復習 (小テスト対策)	
第5回 第2章 コミュニケーションの様相と関係性 (1)、第1章の小テスト			第2章を読み要点を確認する。課題に取り組む。	
第6回 第2章 コミュニケーションの様相と関係性 (2)			第2章を読み要点を確認する。課題に取り組む。	
第7回 第2章 コミュニケーションの様相と関係性 (3)			第2章の復習 (小テスト対策)	
第8回 第3章 コミュニケーションの影響力 (1)、第2章の小テスト			第3章を読み要点を確認する。課題に取り組む。	
第9回 第3章 コミュニケーションの影響力 (2)			第3章を読み要点を確認する。課題に取り組む。	
第10回 第3章 コミュニケーションの影響力 (3)、レポートについて			第3章の復習 (小テスト対策)	
第11回 第4章 コミュニケーションと社会 (1)、第3章の小テスト			第4章を読み要点を確認する。課題に取り組む。	
第12回 第4章 コミュニケーションと社会 (2)			第4章を読み要点を確認する。課題に取り組む。	
第13回 第4章 コミュニケーションと社会 (3)			第4章の復習 (小テスト対策)	
第14回 全体のまとめ + レポートの書き方について + 第4章の小テスト			レポート執筆	
第15回 ゲスト講師による特別講義			教科書全体の復習、レポート執筆、特別講義の質問を考える	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	30%			
小テスト等	50% (小テスト、授業外課題)			
成果発表	0%			
受講態度他	20% (リアクションペーパーやグループワークなどの取り組み)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容に沿った講義が中心ですが、受講者が主体的・能動的に学ぶためのインタラクティブな学習方法(書く、話す、調べる、発表する等)や授業前課題など取り入れます。</li> <li>・特別講義の日程は変更になる場合がありますが、その際は早めに告知します。</li> </ul>			
教科書	辻大介・是永論・関谷直也編『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣 *「筑女ネット」のオンライン教材も併用します。			
指定図書	なし			
参考図書	NHK放送文化研究所編『現代社会とメディア・家族・世代』新曜社			
オフィスアワー	火曜12:30-14:30 水曜11:00-12:45	メールアドレス		

授業科目	現代中国と教育【講義】	開講時期	後期
担当教員	崔 淑芬	単 位	2
授業の目的と概要	<p>教育の重要性については古今東西を問わず国民の大きな関心事である。21世紀を担う今日の青少年の実像に迫りながら、今日の教育あり方を再検討する必要がある。本講義では、中国の教育を取り上げ、その教育の発足・発展、また、現代中国教育の変わりつつある教育制度、教育内容及び問題を踏まえ、主に改革開放の中での教育の現状、特徴及び社会との関係に目を向け、教育や社会などの根本的な問題を検討し、今日的教育課題に対する理解を深めるようになることを目的とする。</p> <p>中国教育の変わりつつある教育制度・内容について国家近代化の過程との関連を考察すると共に、今日の改革開放の中で、教育の現状、特徴及び社会との関係に目を向け、なおかつ、現在の教育に対する理解を深めるために、近年の中国現地において女子教育や少数民族教育の調査結果、また、海外で取材した映像を使用し、レジュメの作成などにより講義を展開していく。</p>		
到達目標	<p>1、中国の教育を通して、アジアにおける教育問題にどのような傾向があるのかを認識することができる。</p> <p>2、現代中国の少数民族教育現状を理解することができる。</p> <p>3、今日の教育実相と社会などの根本的な問題を検討し、自ら心豊かな人間の形成を自覚することができる。</p> <p>4、現代教育の理念・あり方、社会との関係への認識を促進し、自己教育力を育成することができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 教育とは、教育の意義・授業計画		儒教とは	
第2回 中国の伝統教育①儒学思想と塾教育		科举制度とは	
第3回 中国の伝統教育②教育と科举制		教育近代化とは	
第4回 中国の教育近代化と日本		女子の教育と社会地位	
第5回 女子教育① 纏足・三従四徳と女子教育の在り方		女子の地位と教育	
第6回 女子教育② 女子留学・男女共学		今日の教育と宗教	
第7回 教育と宗教① (仏教を中心に)		イスラム教とは	
第8回 教育と宗教② (イスラム教を中心に)		義務教育とは	
第9回 農村部の教育の現状		一人っ子政策とは	
第10回 一人っ子政策と80後・90後の教育①		80後・90後とは	
第11回 一人っ子政策と80後・90後の教育②		21世紀の留学	
第12回 教育改革と「留学熱」①		留学生の現状	
第13回 留学の現状と特徴②		大学教育の特徴	
第14回 大学をめぐる日中現代教育の比較		教育についての総合的考察	
第15回 総括復習		レポートの作成・提出	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40%		
小テスト等	なし		
成果発表	20%		
受講態度他	40%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業に必ず出席し、積極的な授業参加を望む。</p> <p>授業中の私語は慎むこと。</p>		
教科書	使用しない。各テーマの参考プリントを配布する。		
指定図書	伊藤俊夫編『豊かな体験が青少年を育てる』(財)全日本社会教育連合会(2003年) 村瀬嘉代子ほか編『青年期の課題と支援』新曜社		
参考図書	松本ますみ『中国民族政策の研究』多賀出版 崔淑芬『中国女子教育史』中国書店 ほか、授業中に紹介する。		
オフィスワー	月 4限目	メールアドレス	

授業科目	現代東南アジア事情【講義】		開講時期	前期
担当教員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	<p>現代の東南アジアに対する知識を身につけ、その特徴と課題について理解を深めていくことがこの講義の目的です。多様な東南アジアについて、1. 戦争の影、2. 経済発展、3. 日本との関係の3つの側面に着目し認識を深めていきます。いずれも国家レベルのマクロな事柄と、個人レベルのミクロな事柄の、双方に配慮できる、多角的な理解を目指します。現代の東南アジアには2つの側面があります。1つは、20世紀後半に起こった戦争の影響を引きずっている側面であり、もう1つは、近代化し経済発展を続けている側面です。こうした事情は各国によって異なりますので、地域ごとに具体的に学びます。併せて、日本との関係についても考察します。</p>			
到達目標	<p>1. 東南アジアにおける軍事的紛争とその社会的影響について、具体的に説明できる。  2. 東南アジアの経済発展や日本との関係について、その特徴と課題について幅広い視野から説明できる。  3. 東南アジアの現代社会に関する文献を、自ら集め分析することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。  &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  「東南アジア入門」「東南アジア近現代史」で学んだことを踏まながら理解を深めます。  また「現代韓国事情」や「現代インド事情」などととも、各地が抱える現代的課題について考察します。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション 東南アジアの基礎知識			第2回に向けて日本のCOVID-19の状況を確認	
第2回 東南アジアにおけるCOVID-19、筑女ネットとTeamsの使い方確認			資料に基づきミニレポート作成、第3回用レジュメに基づき予習	
第3回 ASEAN概論 その役割と課題			第3回第4回用レジュメ、資料に基づきヴェトナムについて予習復習	
第4回 ヴェトナム戦争1 戦争の構図			第4回第5回用レジュメ、資料に基づきヴェトナム戦争について予習復習	
第5回 ヴェトナム戦争2 戦争の傷跡とドイモイ			第5回第6回用レジュメ、資料に基づき今日のヴェトナムについて予習復習	
第6回 今日のヴェトナムと日本			第6回第7回用レジュメ、資料に基づきインドシナ半島について予習復習	
第7回 カンボジア紛争1 ポル・ポト政権の成立			第7回第8回レジュメ、資料に基づきカンボジア紛争について予習復習	
第8回 カンボジア紛争2 内戦の時代			第8回第9回用レジュメ、資料に基づき内戦の影響について予習復習	
第9回 和平以降のカンボジア			第10回用レジュメ、資料に基づき和平以降のカンボジアについて予習復習	
第10回 カンボジア内戦に翻弄された人びと			第10回第11回用レジュメ、資料に基づき経済発展について予習復習	
第11回 東南アジアの経済発展			第11回第12回用レジュメ、資料に基づき今日の経済状況について予習復習	
第12回 経済発展の光と影			レジュメ、資料に資料に基づきEPAについて予習復習、期末レポート準備	
第13回 日本と東南アジア1 経済連携協定1			レジュメ、資料に基づき経済関係について予習復習、期末レポート準備	
第14回 日本と東南アジア2 経済連携協定2			レジュメ、資料に基づき日本の役割について予習復習、期末レポート準備	
第15回 日本と東南アジア3 市場としての東南アジア			レジュメ、資料に基づき今後の課題について予習復習、期末レポート準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	90% 期末レポート15% 毎回の提出物(感想・コメント/講義の概要/ミニレポート)75% 質問・コメントについては翌週回答します。			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	リアルタイム型の授業がどの程度可能なのかにより講義内容が変更されることがあります。なるべく早く確定しシラバスを更新しますので、確認してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	水14:50～16:20、木12:30～13:30		メールアドレス	



授業科目	現代日本語研究【講義】		開講時期	前期
担当教員	小野 望		単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語学の発展科目として設置されているものである。          言語は、その使用者達の社会観、人間観など、様々なものの見方を表すものだ。各時代・地域の言語動向を観察すると、大きな社会の動きを見て取れることもある。          本講は、コーパス言語学の手法を用いて、現代日本語の姿を捉え、考察することを目的とする。コーパス (corpus) とは、大量の言語資料を集めたものことで、近年複数の大規模電子コーパスの公開が進んでいる。これらを利用することによって、用字、語彙、語法、文体等の実態を見ることができ、学習者コーパスによる言語教育への応用研究も可能である。参考論文に従って、基本的なツールを使用した課題の発見や資料分析、論理解を求める道程を体験しよう。</p>			
到達目標	<p>(1) 言語資料としてのコーパスについて、その特徴を説明することができる。          (2) 計量言語学やコーパスを用いた先行研究等を参照し、言語研究のための視点や方法論を選択することができる。          (3) 自ら設定した課題について、web上に公開されているコーパスと解析ツールを用いて、言語資料を収集、分析することができる。          (4) 資料収集、分析、考察等の各過程において、適切に記録をまとめ、報告することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。          日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 日本語研究の課題を探す 課題の探し方、その課題の研究法について考えてみよう		気になる語句、構文、文法、表記などから一つの課題を探す。		
第2回 日本語研究の手法 (1) 伝統的な言語研究法の事例2種 参考資料：太宰の描く「かわいい」、近代作家の「部屋」描写		言語使用の実例から課題が明らかにされる手法を見る。		
第3回 日本語研究の手法 (2) 通時的研究法の事例 参考資料：「文体論の方法―部屋描写の場合」木原茂より)		論文を読み、課題が明らかにされる手法を見る。		
第4回 日本語研究の手法 (3) 計量的手法を用いた研究例 参考資料：「デスカの簡素化」(『日本語ウォッチング』井上史雄)		大規模データを利用した方言研究の手法について概要をまとめる		
第5回 語彙論の基礎知識 語彙論的研究の指標		延べ語数・異なり語数について確認する		
第6回 計量語彙論 語種の変遷・品詞費率		計量的手法によって明らかになることをまとめる。		
第7回 コーパスツールを使ってみる 語彙量・「少納言」による検索		計量的手法によって明らかになることをまとめる。		
第8回 コーパスとは 現代日本語書き言葉均衡コーパス		コーパスの概要を理解しよう 課題：コーパス研究の応用成果を考察す		
第9回 日本語学と自然言語処理 形態素解析		形態素解析データの利用法を考察しよう。		
第10回 計量データを読む データを加工して、読める形にする		課題：樺島・寿岳論文を読む		
第11回 コーパスを用いた研究例 (1) 意味論・文法論研究の材料として NINJAL-LWP for BCCWJ (NLB)、NINJAL-LWP for Tsukuba Web Corpus (NLT)		NLB、NLTを使ってできることを整理しよう。		
第12回 コーパスを用いた研究例 (2) 研究例を読み、研究方法やポイントを整理する (意味研究として) 類義語の意味比較 (コロケーション研究として) 語の共起関係		(杉本2009) 等の論文を確認しよう。		
第13回 コーパスを用いた研究例 (3) 新聞データベースの活用		「外来語 (メリット) と類義語比較」(宮田2007) を確認		
第14回 現代日本語研究実践演習 (1) 種々の研究方法や論文を参照し、考察可能な課題を設定して目的の言語資料を収集する		課題：設定課題を説明し、収集すべき資料を報告する		
第15回 現代日本語研究実践演習 (2) 前回収集した資料を用いて、分析すべき課題を考える		課題：自ら設定した課題について、考察をまとめる		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% オンデマンド講義での必須課題をレポートとして評価する。出席確認のアンケート項目は評価に加えない。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	30% 必須ではない課題項目を中心に、必須課題についても自らの調査と考察を加えた報告を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Web上に公開されている各種サービスを利用する作業があります。授業内外の資料提示、毎授業時の課題提出やレポート報告等も基本的には筑女ネットを活用して行う予定です。</li> <li>・初めての資料、方法もありますが、グループでの情報交換、意見交換なども活用しながら実践演習を行い、2回のレポートを完成させましょう。</li> <li>・取り組み方によって成果は大きく異なります。課題を発見し考える力を高めるため、自分なりの方法を身につけることを目標</li> </ul>			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	荻野綱男他編『講座ITと日本語研究』(明治書院)ほか、授業中に指示する。			
オフィスアワー	月曜日：5 講時、火曜日：5 講時	メールアドレス		

授業科目	現代ネットワーク社会【講義】		開講時期	後期
担当教員	一ノ瀬 元史		単位	2
授業の目的と概要	ICTの発達により、もたらされた現代ネットワーク社会について様々な角度から考察します。多くの情報システムより社会インフラが支えられており、携帯端末からいつでもどこでも情報検索ができ、音楽や電子書籍がネットから購入でき、ネット上のコミュニティで交流ができるなど一見便利な情報社会が形成されています。一方で個人情報の漏洩、サーバーテロ、人的ミスなどによりシステムダウンなどリスクも負っている。このようなネットワークがどのように形成されてきたのか、インターネットの歴史、基礎から情報通信のあり方について学ぶ。これからのネットワーク社会はどのようなものに影響され、どのようなものに影響を及ぼし、どうなると考えられるか考察して欲しい。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インターネットの仕組みを説明できる</li> <li>2. ネット社会の中で受ける恩恵とリスクを説明できる</li> <li>3. 個人の生活において情報とどのように関わっていくか見通すことができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 講義内容、評価方法について 動画視聴「天国か地獄か AI (人工知能 I)」	これまでにコミュニケーションツールの変化について調べておく		
第2回	情報が変えていく社会① 身近な変化、考え方の変化	情報社会の課題について調べておく		
第3回	情報が変えていく社会② 情報社会が抱える問題、情報社会の見方	知的財産権などについて調べておく		
第4回	情報倫理① 知的財産の尊重と個人情報の保護	ネットワーク利用のマナーについて調べておく		
第5回	情報倫理② ネットワーク利用のマナー、情報セキュリティ	コミュニケーションについて		
第6回	情報とコミュニケーション① 情報と人間のかかわり、コミュニケーションの基礎概念	メッセージの理解について		
第7回	情報とコミュニケーション② コミュニケーションモデル、メッセージを理解するとは	コンピュータのハードウェアについて		
第8回	ヒューマンコンピュータインタラクション キャラクタからグラフィック、出力装置、周辺機器	インターネットがつながる仕組みについて		
第9回	インターネット① インターネットの仕組み、インターネットアプリケーション	Web サービスについて		
第10回	インターネット② Web サービス、検索エンジン、「Web 検索はなぜ早いのか」動画視聴	インターネットの恩恵とリスクについて		
第11回	「超監視社会に生きる」動画視聴	データベースについて		
第12回	データベース データベース管理システム、データマイニング	情報システムとインターネットについて		
第13回	情報システム① 身近な買い物、旅行と情報システム、「コンビニに必ずほしいものがある理由」動画視聴	データベースと情報システム		
第14回	情報システム② ドライブ、企業のシステム	情報システムについてまとめる		
第15回	動画視聴「天使か悪魔か AI II」	まとめ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	予習レポート等30%			
小テスト等	毎回の課題50%			
成果発表	0%			
受講態度他	20% (出席を含む受講態度)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	情報システムに興味のある方におすすめ、積極的に質問しましょう			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	情報とネットワーク社会 駒谷昇一ほか オーム社			
オフィスワー	金 4限目 事前に連絡を	メールアドレス		

授業科目	現代文化論【講義】		開講時期	後期
担当教員	竹内 美帆		単位	2
授業の目的と概要	現代文化としてのマンガやアニメをめぐる様々な現象や事象、歴史を考えることを通して、私たちがそれらの文化とどのように関わっているかを考え、当たり前だと思っていた文化を捉えなおし、諸文化や社会について多様な視点から考える力を養う。			
到達目標	(1) 現代社会におけるメディアとしてのマンガやアニメに関わる知識を身に着け理解する。 (2) 文献やマンガ作品等の資料を考察するための基礎能力を養う。 (3) 自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。 (4) 文化についての興味や関心、批判的思考を養う。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 現代文化としてのマンガ1：グローバル化する日本マンガ 「文化」とは何か	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。		
第2回	現代文化としてのマンガ2：ジャンルから見たマンガ 日本の雑誌文化	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。		
第3回	性別文化としてのマンガ1：「少女マンガ」 「少女」という言説 少女雑誌と少女マンガ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。		
第4回	性別文化としてのマンガ2：少女マンガの革新性 竹宮恵子「風と木の詩」(1976)を中心に	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。		
第5回	震災とマンガ1：「少女マンガ」と現実の社会問題 ももち麗子『デイジー』(2012)、秋尾望都『なのはな』(2011)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。		
第6回	震災とマンガ2：他メディアとの比較 しりあがり寿『あの日からのマンガ』(2011)、竜田一人『いちえふ』(2014)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。		
第7回	感染症とマンガ1：過去の感染症に関するマンガ 朱戸アオ『リウーを待ちながら』、外菌昌也『エマーキング』	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。		
第8回	感染症とマンガ2：コロナ以後のマンガ界の動き メディアの変化	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。		
第9回	マンガとミュージアム1：マンガミュージアムとは何か? 北九州市漫画ミュージアムの事例	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。		
第10回	マンガとミュージアム2：マンガミュージアムの役割	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。		
第11回	マンガとミュージアム3：マンガ・アーカイブの意義 海外のマンガ展	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。		
第12回	戦争とマンガ1：こうの史代『夕風の街 桜の国』(2004)、中沢啓治「はだしのゲン」	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。		
第13回	女性の主体性表現としてのエッセイマンガ1 東村アキコ『ママはテンパリスト』(2008)、西原理恵子『毎日かあさん』(2002) SNSにおけるエッセイマンガ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。		
第14回	マンガの今後：オンラインマンガ 「脳マヴォ」の革新性 韓国のウェブトゥーンなど	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。		
第15回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、疑問点等を挙げておく。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60% 学期末レポート			
小テスト等	40% 中間レポート、小レポート			
成果発表	0% なし			
受講態度他	授業毎の課題の提出状況など、評価の際に加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	課外学習として美術館への見学を予定していましたが、遠隔授業になったため、動画等での学習とゲスト講師の出演に代えます。 オンデマンド型授業を想定しているため、授業後に復習した後、コメントの形で積極的に意見や質問等による積極的参加を求めます。 授業内で提示するマンガ作品について可能な限り事前に読むか、授業で取り上げた後に読むと理解度が高まります。			
教科書	特になし。			
指定図書	特になし。			
参考図書	大城房美編『女性マンガ研究：欧米・日本・アジアをつなぐMANGA』青弓社、2015年。			
オフィスアワー	常時メールで質問・相談に対応するほか、質問のためのオンラインミーティングも開催予定。	メールアドレス		

授業科目	現代文読解【講義】		開講時期	後期
担当教員	松下 博文		単位	2
授業の目的と概要	①短歌、俳句、詩、随筆、評論など、多岐にわたる現代文の世界を詳細に解説することを目指す。 ②過去の大学入試問題を取り扱いながら、教員採用試験、公務員試験、就職試験などへの対策を講じつつ、学習を進める。 ③指定のテキストによって、毎回、漢字の小テストを行なう。			
到達目標	②さまざまなジャンルの作品を正確に解説することができる。 ③現代文に対する幅広い知識を身につけることができる。 ④「国語」の基礎力を身につけることができる。 ⑤獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「近現代文学概論」「近現代文学講読」「近現代文学演習」などと関連する科目です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス			予習 4～7ページ	
第2回 片桐雅隆「物語る私」			予習 1-3 1-10ページ	
第3回 鷺沢萌「私の話」			予習 1-11 1-20ページ	
第4回 渡辺保「名女形・雀右衛門」			予習 2-3 2-11ページ	
第5回 森絵都「永遠の出口」			予習 2-12 2-21ページ	
第6回 桑子敏雄「風景の中の環境哲学」			予習 3-3 3-11ページ	
第7回 幸田文「闘」			予習 3-12 3-20ページ	
第8回 今西仁司「近代の労働観」			予習 4-3 4-11ページ	
第9回 佐伯一麦「遠き山に日は落ちて」			予習 4-12 4-20ページ	
第10回 町田健「ソシュールと言語学」			予習 5-3 5-11ページ	
第11回 丹羽文雄「もとの顔」			予習 5-12 5-20ページ	
第12回 三浦雅士「幻のもうひとり」			予習 6-3 6-11ページ	
第13回 山本周五郎「髪かざり」			予習 6-12 6-20ページ	
第14回 山崎正和「社交する人間」			予習 7-3 7-11ページ	
第15回 有島武郎「或る女」			予習 7-12 7-20ページ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%			
レポート	なし 0%			
小テスト等	40% 小テストについては授業中に解答します。			
成果発表	なし 0%			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席(欠席扱い)させます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①私語は慎むこと。 ②机の上に飲食物を出さないこと。 ③携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	桐原書店編集部『センター試験対策 国語実践問題集』(桐原書店) @ 佐藤喜一著 『基礎からのジャンプアップノート漢字2500』(旺文社)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時		メールアドレス	

授業科目	現代ポップカルチャー【講義】		開講時期	後期
担当教員	大城 房美		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、21世紀以降海外で加速したマンガ/アニメブームを中心に、日本文化と異文化の関係を取り上げる。グローバル化/ローカル化をキーワードとして、国際社会の中で目まぐるしく変化している多様な価値観が、私たちの生活や考え方にどのように関わっているのか、そしてこれから私たちは現代とどのように関わってゆくことができるのかを考察する。</p> <p>*発表の準備について* 発表は2種類行う。</p> <p>1. テキストをまとめる発表。&lt;担当者は、以下の要領でレジュメを作成すること&gt; (1) テキストのまとめ(用語・キーワード説明などを含む) (2) ポイント (3) みんなに考えて欲しいこと(問題提起) (4) 感想 *発表はテキストをよく読み、自分の言葉でまとめること。 2. small presentation(10分程度) ポップカルチャー紹介。 また講義では、オンラインでのゲストレクチャーや会議参加も計画している。</p>			
到達目標	<p>1. 「ポップカルチャー」への関わり方を単に楽しいからということだけでなく、なぜ私はこれが好きなのだろう、という問題提起につなげ、自分の考え方や嗜好に影響を与えているものに意識的になる。</p> <p>2. 現代を生きる「自分」とうまく付き合い、より良い生き方へとつながるリテラシーを習得する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Introduction	ポップカルチャーとは何か	講義の際に指示します。		
第2回	ソフト・パワーとグローバル化/ローカル化 発表・ディスカッション	予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。(講義で資料配付)		
第3回	文化としての日本マンガ・アニメ 発表・ディスカッション	予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。(講義で資料配付)		
第4回	北九州市漫画ミュージアム 他 視察(ミュージアムの予定により、変更が生じる場合があります)	展覧会の下調べ。		
第5回	海外から見た日本のポップーアジア/欧米 発表・ディスカッション	予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。(講義で資料配付)		
第6回	「国境」を越えるメディアとしてのマンガ メガヒット英語MANGAを読む One Piece、Attack on Titan など 発表・ディスカッション	予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。(講義で資料配付)		
第7回	「国境」を越えるメディアとしてのマンガ メガヒット英語MANGAを読む Black Butler、Boys Over Flowersなど 発表・ディスカッション	予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。(講義で資料配付)		
第8回	『女性MANGA研究』第1部 少女マンガ—グローバル化とローカル化 発表・ディスカッション	予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。(講義で指示します)		
第9回	『女性MANGA研究』第1部 少女マンガ—グローバル化とローカル化 発表・ディスカッション	予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。(講義で指示します)		
第10回	『女性MANGA研究』第1部 少女マンガ—グローバル化とローカル化 発表・ディスカッション	予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。		
第11回	『女性MANGA研究』第2部 BL:ボーイズ・ラブ—世界に広がるファン・カルチャー 発表・ディスカッション	予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。(講義で指示します)		
第12回	『女性MANGA研究』第2部 BL:ボーイズ・ラブ—世界に広がるファン・カルチャー 発表・ディスカッション	予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。(講義で指示します)		
第13回	『女性MANGA研究』第3部 女性マンガ—創造する女性たち 発表・ディスカッション	予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。(講義で指示します)		
第14回	『女性MANGA研究』第3部 女性マンガ—創造する女性たち 発表・ディスカッション	予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。(講義で指示します)		
第15回	まとめ 『出版指標』『デジタルコンテンツ白書』現在の状況について	講義の際に指示します。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	60% 講義にて指示 課題を含む			
成果発表	受講態度に含む			
受講態度他	40% 受講状況〔遅刻・欠席〕、授業参加(発表・宿題など)を含む。講義の1/3(5回)を超えて欠席した場合は受講態度の評価は無しになりますので注意して下さい。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱い(退出)。</p> <p>*発表を担当する際、参考資料は複数あげる(例えば、Wiki pediaのみに頼った発表や報告は受け付けない)。</p> <p>*レジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価しない。</p> <p>*学外講義を行う際には、現地集合となるので、アナウンスに注意すること。</p>			
教科書	『女性マンガ研究』(青弓社) (購入して下さい) 『英語で話そう!世界が恋する日本』(コピー配付) 『ONE PIECE』『進撃の巨人』『黒執事』『花より男子』など(講義の時に指示をします)			
指定図書	『出版指標年報』2020年度版、『デジタルコンテンツ白書』2020年度版、Japanese Pop Culture			
参考図書	『メディア芸術アーカイブス』『現代漫画博物館』、She Draws Comics, Reading Japan Cool, Internationalizing Cultural Studies, 『マンガは越境する!』、『思想地図』、英語版MANGA、マンガ関係の図書は請求番号726.1で			
オフィスアワー	金曜日午後(予約を入れてください)	メールアドレス		

授業科目	考古学【講義】	開講時期	前期
担当教員	大津 忠彦	単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：「考古学」といえば、珍しいものの「発見」や古代遺跡の発掘といったイメージが強いようです。それではなぜ発見物・遺跡発掘が考古学にとって必要なのでしょう。また考古学はデータをどのように生かし、解釈して人類史を考察するのでしょうか。石器や土器や金属器が遺跡から出土し、それらが博物館等で展示活用されるまでの流れにそって、考古学についての基礎的知識を身に付けます。</p> <p>概要：石器が「霹靂礎(へきれきちん)」と認識されていた段階から、近代的考古学の研究資料、社会教育資源へと変遷していく様相を、江戸時代古文書や文明開化期の大森貝塚(東京)の発掘調査事例等を通じて概観します。様々な考古遺物・遺跡や考古学研究法とその成果を、パワーポイント画像を多くまじえて紹介します。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「遺跡」・「遺物」・「遺構」について、具体例を挙げて考古学研究上の意味を説明することができる。</li> <li>・考古学的年代決定の原理・方法を具体的に列挙することができる。</li> <li>・「大森貝塚」発掘調査の動因、成果、その後への影響を学史的に説明することができる。</li> <li>・考古資料の収集から社会的活用までの流れを具体的に述べるることができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日(3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>ア(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>ア(3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	「考古学」的アプローチ：「遺跡」、「遺物」、「遺構」について	第2回までに課題①提出(2時間)	
第2回	考古学遺物の発現：石器とカミナリさま	第3回までに課題②提出(2時間)	
第3回	木内 石亭著『雲根志』を読む - その(1)：考古遺物の分類	第4回までに課題③提出(2時間)	
第4回	木内 石亭著『雲根志』を読む - その(2)：考古遺物の解釈	第5回までに課題④提出(2時間)	
第5回	考古学的年代特定 - その(1)：層序と「型式」	第6回までに課題⑤提出(2時間)	
第6回	考古学的年代特定 - その(2)：記年銘鏡、理化学法	第7回までに課題⑥提出(2時間)	
第7回	時代区分：とくに「石器時代」について	第8回までに課題⑦提出(2時間)	
第8回	C. J. トムセンと「三時期区分法」	第9回までに課題⑧提出(2時間)	
第9回	E. S. モースと大森貝塚の発掘	第10回までに課題⑨提出(2時間)	
第10回	モースと「進化論」：近代日本がモースから学んだ科学的精神	第11回までに課題⑩提出(2時間)	
第11回	大森貝塚発掘調査の「副産物」	第12回までに課題⑪提出(2時間)	
第12回	遺跡の考古学的発掘調査 ― その目的と方法 ―	第13回までに課題⑫提出(2時間)	
第13回	考古資料の保存と活用 - その(1)：研究資源	第14回までに課題⑬提出(2時間)	
第14回	考古資料の保存と活用 - その(2)：「博物館」・「観光」資源	第15回までに課題⑭提出(2時間)	
第15回	到達目標に対比した授業総括	指定の期日・時間までに「定期試験課題」提出(2時間)	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	・毎回の課題レポート(50%) ・学期末レポートを第15週目(8/3-8/7)に実施(50%)		
小テスト等	-		
成果発表	-		
受講態度他	-		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回の「遠隔授業」は、各回授業テーマの学修・自修で構成されます。提示された課題を考えるなかから、自ら課題をさらに見出し自修を深めていってください。提出物に関しては、「遠隔授業」によるやむを得ない事情には配慮しますので、しっかり対応して指定期日内の提出に努めて下さい。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	考古学事典・概説書等、授業進行にあわせ適宜紹介。信頼し得るネット情報は有効です。		
オフィスアワー	「遠隔授業」形態ですので、随時、下記メールアドレスまで質問・要望・意見等々は気軽にご連絡下さい。	メールアドレス	

授業科目	広告論【講義】		開講時期	前期
担当教員	須藤 遙子		単位	2
授業の目的と概要	テレビCMや企業サイト、雑誌広告や新聞広告の分析を通じて、メディアごとに異なる広告の特徴を学ぶ。グループでの討論をしながら、チームワークにおけるコミュニケーションスキルを高める。「消費社会」に対する批判的な視点を養う。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアの特性による情報の違いを理解する。</li> <li>・チームワークを円滑に進めるための的確な役割分担や積極的な発言ができる。</li> <li>・プレゼンテーション能力を身につける。</li> <li>・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は放送局で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。		気になるテレビCMや企業サイトをチェックする。	
第2回	テレビCM (1) 概説、分析方法。		気になるテレビCMをチェックする。	
第3回	テレビCM (2) グループ分け、テーマ決め、グループ討論。		グループで決めたテレビCMを分析し、討論用にメモする。発表準備。	
第4回	テレビCM (3) グループ発表、コメント。		テレビCM分析復習。小レポート。	
第5回	ビデオ学習 (1) 「記憶に残るCMづくり」。		グループで決めた企業サイトを分析。発表準備。	
第6回	インターネット企業サイト (1) グループ分け、テーマ決め、グループ討論。		インターネットCM分析復習。小レポート。	
第7回	インターネット企業サイト (2) グループ発表、コメント。		インターネットCM分析復習。	
第8回	ビデオ学習 (2) 「情報化社会 とどうつきあうか」。		雑誌広告分析復習。小レポート。	
第9回	街で見かけた面白い広告 (1) 個人発表・コメント。		身近な広告の分析。	
第10回	街で見かけた面白い広告 (1) 個人発表・コメント。		身近な広告の分析。	
第11回	街で見かけた面白い広告 (1) 個人発表・コメント。		身近な広告の分析。	
第12回	街で見かけた面白い広告 (1) 個人発表・コメント。		身近な広告の分析。	
第13回	街で見かけた面白い広告 (1) 個人発表・コメント。		身近な広告の分析。	
第14回	現代の広告について概説、全体討論。		これまでの授業をふまえ広告の役割について考察する。	
第15回	まとめ。		復習。	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	30%			
小テスト等	0%			
成果発表	30% (フォーラムへの参加度含む)			
受講態度他	40% (理解度チェックの内容含む)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業は遠隔で行います。出席は、各回の「理解度チェック」への回答で確認します。質問は全員が共有できるように、筑女ネット「質問箱」をお願いします。			
教科書	なし。適宜指定します。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスワーク	月曜 11 - 13時。	メールアドレス		

授業科目	交通産業論【講義】		開講時期	前期
担当教員	藤原 隆信・大橋 健治・坂本 隆行・谷口 博文		単位	2
授業の目的と概要	<p>本科目では、現代社会における交通産業を多様な視点から考察していくことにします。現代社会における「交通産業」を理解するには、飛行機や鉄道、バス、タクシーといった公共交通の担い手だけでなく、マイカー（自家用車）や交通インフラ（道路や信号機等）を扱う企業、さらには公共交通政策を扱う行政の視点などを総合的に捉えていく必要があります。近年ではこれら各分野にICT（情報通信技術）やAI（人工知能）の導入が積極的に進められており、結果として「私たちの生活」や「社会の姿」が大きく変容しつつあります。本科目では4人の教員が多様な視点から「交通産業」を概観し、考察することを通じて、受講生の皆さんが交通産業の現状を理解すると共に、将来の交通産業のあり方を構想できる力を身につけることを目指します。</p>			
到達目標	<p>①現代社会における交通産業の「現状」と「課題」を理解する。②上記「①」で理解した交通産業の「課題」の解決策を「多様な視点（アプローチ）」から考えることができる。③上記①～②を踏まえ、将来における交通産業のあるべき姿を自分の言葉で説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。          &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	交通産業の「現状」と「課題」 ——移動のための「交通」からサービスとしての「交通」へ	予習は特に必要ありません。事後学習に取り組んで下さい。		
第2回	社会を変えるMaaS (Mobility as a Service) ——世界の「MaaS」と日本の現状	予習：「MaaS」について各自で調べて下さい。復習：事後学習課題の提出		
第3回	移動手段の変遷と新たな交通サービス ——個人的所有から社会的共有（シェア）へ	予習：「シェア経済」とは何かを調べて下さい。復習：事後学習課題の提出		
第4回	MaaS先進国フィンランドの事例 ——マイカー依存からの脱却と次世代交通モデル	予習：マイカー依存の課題は何かを考えて下さい。復習：事後学習課題の提出		
第5回	日本社会にもたらすMaaSの影響（1） ——都市と地方の交通にもたらす影響	予習：MaaSが日本の交通産業に及ぼす影響は何か？復習：事後学習課題の提出		
第6回	日本社会にもたらすMaaSの影響（2） ——個人生活にもたらす影響	予習：MaaSが日本の個人生活に及ぼす影響は何か？復習：事後学習課題の提出		
第7回	交通産業のブランディング① ——事例研究 中央タクシー（長野県）	指定された資料を読み、事前学習課題・事後学習課題に取り組む。		
第8回	交通産業のブランディング② ——事例研究 西鉄バス（福岡県）	指定された資料を読み、事前学習課題・事後学習課題に取り組む。		
第9回	交通産業のブランディング③ ——交通産業企業のブランド生成	指定された資料を読み、事前学習課題・事後学習課題に取り組む。		
第10回	エアライン事業者の現状と課題	事前課題：国土交通省の資料を閲覧して自分なりに気づいたことを記述する。		
第11回	タクシー事業者の現状と課題	事前課題：国土交通省の資料を閲覧して自分なりに気づいたことを記述する。		
第12回	鉄道事業者の現状と課題	事前課題：国土交通省の資料を閲覧して自分なりに気づいたことを記述する。		
第13回	ライドシェアの海外事情と日本の現状 ——ウーバーはなぜ日本で走っていないのか	海外でのUber乗車体験談等をネットで調べ、感想を記述する。		
第14回	日本の地域公共交通と総合交通体系	公共交通が不便な地域の取り組み事例を調べてくる。（京丹後市、八女市等）		
第15回	移動（モビリティ）に便利なまちづくり	事前事例調査・事後アンケート		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 各授業担当者から出される課題レポート（各15点×4回）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40% 遠隔授業への参加状況によって評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネットに記載された指示に従い、確実に15回の授業を受講してください。授業の進め方については変更する可能性があります。変更する場合は、筑女ネットで知らせますので、定期的にチェックして下さい。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスワーク	各担当教員にメールで連絡を取って下さい。	メールアドレス		



授業科目	公的扶助論【講義】	開講時期	後期
担当教員	高木 佳世子	単位	2
授業の目的と概要	1. 貧困問題の原因と公的扶助の意義について学び、生活保護制度のあるべき運用について検討する。 2. 生活保護制度の運用の実際と生活保護法改正の概要について学び、問題点についても検討する。		
到達目標	1. 貧困問題が生じる原因と公的扶助の意義について説明できる。 2. 生活保護制度の概要について説明できる。 3. 生活保護制度改革や運用上の問題点について指摘できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は弁護士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	貧困とは／公的扶助の概念と歴史	第1章第1節～第3節を読む。	
第2回	生活保護基準と保護の種類、内容及び方法	第2章第1節3、6を読む。	
第3回	生活保護法と生活保護制度、生活保護の目的	第2章第1節1を読む。	
第4回	生活保護の原理（1）1～3条	第2章第1節2（56頁③まで）を読む。	
第5回	生活保護の原理（2）4条	第2章第1節2（56頁④から）を読む。	
第6回	生活保護の原則（1）7・8条	第2章第1節2（2）①②を読む。	
第7回	生活保護の原則（2）9・10条	第2章第1節2（2）③④を読む。	
第8回	保護施設	第2章第4節・第3章第4節を読む。	
第9回	保護利用者（被保護者）の権利及び義務	第2章第2節4（1）（2）を読む。	
第10回	不服申立てと訴訟	第2章第2節4（3）を読む。	
第11回	生活保護の実施体制、実施機関	第2章第2節1、2を読む。	
第12回	生活保護の財政	第2章第1節5を読む。	
第13回	生活保護自立支援プログラム	第3章第1節・第2節を読む。	
第14回	生活困窮者自立支援制度	第4章第2節を読む。	
第15回	ホームレスの人への施策／まとめ	第5章を読む。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	100％		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	復習として教科書とレジュメをもとに自分のノートを作成をおすすめします。 やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。		
教科書	『社会福祉学習双書2020 第7巻 公的扶助論』（全国社会福祉協議会、2020年）		
指定図書	池田和彦・砂脇恵編著『公的扶助の基礎理論－現代の貧困と生活保護制度』ミネルヴァ書房		
参考図書	生活保護制度研究会『生活保護のてびき 令和元年度版』（第一法規、2019年）、岩永理恵・卯月由佳・木下武徳『生活保護と貧困対策 その可能性と未来を拓く』（有斐閣、2018年） その他、講義の際に紹介します。		
オフィスワー	水曜4限	メールアドレス	

授業科目	公認心理師の職責【講義】		開講時期	後期
担当教員	森田 理香・針塚 進		単位	2
授業の目的と概要	<p>本科目では心理専門職の国家資格である公認心理師を目指す人に必要な知識や価値観について取り扱う。具体的には、公認心理師にとって最も重要な法案である公認心理師法を通して公認心理師の役割や、公認心理師の法的義務及び倫理及び情報の適切な取り扱いについて理解すること、さらに医療保健、福祉、教育、その他の分野における公認心理師の具体的な業務や他職種連携及び地域連携について理解することである。これらの学びを通して、国民の心の健康の保持・増進に寄与できる公認心理師になるための基礎的な知識を身につけることを授業の目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公認心理師の役割について述べる事が出来る</li> <li>2. 公認心理師の法的義務及び倫理について説明することが出来る</li> <li>3. 心理に関する支援を要する者等の安全の確保について示す事が出来る</li> <li>4. 情報の適切な取り扱いについて説明することが出来る</li> <li>5. 保健医療、福祉、教育、その他の分野における公認心理師の具体的な業務について説明することが出来る</li> <li>6. 自己課題発見、解決能力を身につけている</li> <li>7. 生涯学習への準備が出来ている</li> <li>8. 他職種連携及び地域連携について説明することが出来る</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 心(3)-②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション (森田)		公認心理師法を調べ、通読する	
第2回	公認心理師の役割 (針塚)		第1章の予習	
第3回	公認心理師の法的義務 (針塚)		第2章の予習	
第4回	公認心理師の倫理 (針塚)		第3章の予習	
第5回	心理に関する支援を要する者等の安全の確保 (針塚)		第4章の予習	
第6回	情報の適切な取り扱いについて (針塚)		第5章の予習	
第7回	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務 (針塚)		第6章の予習	
第8回	福祉分野における公認心理師の具体的な業務 (針塚)		第7章の予習	
第9回	教育分野における公認心理師の具体的な業務 (針塚)		第8章の予習	
第10回	司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務 (森田)		第9章の予習	
第11回	産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務 (森田)		第10章の予習	
第12回	支援者としての自己課題発見・解決能力 (森田)		第11章の予習	
第13回	生涯学習への準備 (森田)		第12章の予習	
第14回	多職種連携と地域連携 (森田)		第13章の予習	
第15回	全体のまとめ (森田)		授業で学んだことを振り返り、復習する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	毎回、授業の最初に予習テストを行います。テストの合計点で評価します。			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	公認心理師受験資格における必修科目になります。 遅刻、無断欠席厳禁。欠席の場合は必ず事前に理由を含めて連絡すること。			
教科書	野島一彦、繁榊算男監修『公認心理師の基礎と実践 公認心理師の職責』遠見書房			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	高齢者福祉論【講義】	開講時期	前期
担当教員	納戸 美佐子	単位	2
授業の目的と概要	<p>高齢者を取り巻く社会問題を理解した上で、高齢者を支えてきた制度の歴史的な展開について学ぶことを目的とする。</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について解説する。</li> <li>2. 高齢者福祉制度の発展過程について解説する。</li> <li>3. 介護保険制度や高齢者福祉に係る法制度について解説する。</li> </ol>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の生活実態と取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解し、説明できる。</li> <li>2. 高齢者福祉制度の発展過程について理解し、説明できる。</li> <li>3. 介護保険制度や高齢者福祉に係る法制度について理解し、説明できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 高齢者の生活と社会 ー高齢者とはー		レジュメ等を用いて、事後学習する	
第2回 高齢者の生活と社会 ー高齢化の推移・高齢者の生活ー		レジュメ等を用いて、事後学習する	
第3回 高齢者福祉の発展過程(1) ー第二次世界大戦前から老人福祉法下における発展ー		テキストの熟読及びレジュメ等を用いて、事後学習する	
第4回 高齢者福祉の発展過程(2) ー平成の高齢者保健福祉ー		テキストの熟読及びレジュメ等を用いて、事後学習する	
第5回 高齢者福祉関係の法制度(1) ー老人福祉法、高齢者虐待防止法ー		テキストの熟読及びレジュメ等を用いて、事後学習する	
第6回 高齢者福祉関係の法制度(2) ー社会福祉法、医療関係の法制度、移動・居住関係の法制度ー		テキストの熟読及びレジュメ等を用いて、事後学習する	
第7回 高齢者ケア・介護 ー認知症ケア・終末期ケアー		テキストの熟読及びレジュメ等を用いて、事後学習する	
第8回 介護保険制度(1) ー介護保険制度設立の背景・目的・仕組みー		テキストの熟読及びレジュメ等を用いて、事後学習する	
第9回 介護保険制度(2) ー介護保険財政、保険制度を支える組織および団体・専門職の役割と実際ー		テキストの熟読及びレジュメ等を用いて、事後学習する	
第10回 介護保険制度(3) ー介護保険制度の実施状況と動向ー		テキストの熟読及びレジュメ等を用いて、事後学習する	
第11回 介護保険制度におけるケアマネジメント		テキストの熟読及びレジュメ等を用いて、事後学習する	
第12回 介護保険制度と地域包括ケア(1) ー地域包括ケアの概念、ネットワーク、地域包括支援センターの役割と課題ー		テキストの熟読及びレジュメ等を用いて、事後学習する	
第13回 介護保険制度と地域包括ケア(2) ー介護予防、地域における認知症ケア体制ー		テキストの熟読及びレジュメ等を用いて、事後学習する	
第14回 高齢者の住まいと居住支援、高齢者と地域福祉		テキストの熟読及びレジュメ等を用いて、事後学習する	
第15回 講義のまとめ		これまでの講義の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	30%		
小テスト等	70%(授業内で提示する振り返りワーク)		
成果発表	0%		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・講義中の私語は厳禁とする。		
教科書	社会福祉学習双書2020「老人福祉論：高齢者に対する支援と介護保険制度」全国社会福祉協議会		
指定図書	なし		
参考図書	『新・社会福祉士養成講座 高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規		
オフィスアワー	月曜日 3限	メールアドレス	

授業科目	高齢者保健福祉特論【講義】		開講時期	後期
担当教員	未定		単 位	2
授業の目的と概要	日本の介護システムを知り、諸外国との比較を通して、介護システムの在り方について理解できるようにすることを目的とする。また、高齢者になっても地域で暮らし続けることができるようするための地域包括ケアシステムについて学ぶ。さらに、要介護高齢者と家族介護者の実態を知り、必要な支援システムについて理解できることを目標とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の介護システムについて理解し、その現状と課題について説明することができる。</li> <li>2. 地域包括ケアシステムについて理解し、実践事例を参考に、在り方を考察できる。</li> <li>3. 要介護高齢者と家族介護者への支援システムの現状と課題について理解し、必要な支援システムを提案できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	老いと社会		老いの概念整理	
第2回	日本の介護システム（1）		介護保険制度の概要整理及び介護保険法を読む	
第3回	日本の介護システム（2）		介護保険制度改正内容について整理	
第4回	日本の介護システム（3）		介護保険制度の現状と課題について整理	
第5回	諸外国の介護システム		諸外国の介護システムを調べ、日本と比較整理	
第6回	介護システムの在り方		介護システムの在り方についてプレゼンテーション準備	
第7回	施設福祉の歴史と現状		高齢者施設の類型と機能を整理	
第8回	在宅福祉の歴史と現状		高齢者の在宅福祉サービス内容の整理	
第9回	地域包括ケアシステム（1）		地域包括ケアシステム関連報告書を読む	
第10回	地域包括ケアシステム（2）		地域包括ケアシステムの実践現場見学	
第11回	地域包括ケアシステム（3）		地域包括ケアシステムの実践事例を調べ、整理	
第12回	要介護高齢者と家族介護者への理解		家族介護当事者の声を聴く	
第13回	要介護高齢者と家族介護者への支援システム（1）		家族介護者支援システムの現状と課題整理	
第14回	要介護高齢者と家族介護者への支援システム（2）		家族介護者支援システム関連文献を読む	
第15回	地域保活ケアシステムの現状と課題		地域包括ケアシステムの概要について整理	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 課題レポート レポートについては、適宜返却します。			
小テスト等	0%			
成果発表	50% 授業内での口頭発表 発表内容については、その都度フィードバックします。			
受講態度他	20% 授業での発言状況など、積極的な態度を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業では、授業内でのプレゼンテーション及びディスカッションへの積極的な参加を求める。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	副田あけみ編『リーディング日本の社会福祉3 高齢者と福祉ケアのあり方』 日本図書センター			
オフィスアワー	木曜日、12:20-13:00		メールアドレス	

授業科目	国語科教育法Ⅰ【教職】【演習】		開講時期	前期
担当教員	出雲 俊江		単位	4
授業の目的と概要	<p>&lt;目的&gt; 中学校・高等学校の国語科授業を理論的に構築し、実践するための基礎的な力を養うことを目的とする。国語科教育の理論と実践の歴史について基礎知識を身につける。学習者が真の主体となる「国語」の授業を構成することを目指し、その考え方、及び、教材研究から学習指導案作りまでを身につけることを目指す。</p> <p>&lt;概要&gt; テーマ毎に、理論についての学びと実践演習の両方を行うことを基本とする。①教材研究の基礎的資料を作成・発表し、それについてのディスカッションを行う。②学習指導案を作成発表し、それについてのディスカッションを行う。教材は主に現行国語教科書に採録された学習材をとりあげる。授業内容と並行して、読書課題を設ける（2回）。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科教育の教育課程及びその歴史について大体の知識を持っている。</li> <li>・中学校・高等学校国語の授業のための基本的な「教材研究」を行うことができる。</li> <li>・「教材研究」と学習指導案の結びつきについて理解し、学習指導案を立案することができる。</li> <li>・授業実践のための基本的な技術やコミュニケーション力を身につけている。</li> <li>・情報収集や情報発信の手段として、各種の情報機器を活用できる。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>関連する科目：「国語科教育法Ⅱ」（この授業の内容を基にして学びます）の履修は、この授業の履修を終えていることが必要です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション 〈総論〉 国語科教育とは何か。	読書課題（5月末提出）にとりかかる。		
第2回	理論：（国語科教育の歴史）国語科教育課程の意義と変遷（1） 実践：〈読むこと〉 文学教材 自分の読みを見つける	指定教材についての自由な感想文を書く。		
第3回	理論：（国語科教育の歴史）国語科教育課程の意義と変遷（2） 実践：〈読むこと〉：文学教材の授業作り（中心となる問いを作る。）	学習指導要領変遷のまとめ。 授業のための大問を考える。		
第4回	理論：文学教育の現在（国語科教育と読者論） 実践：〈読むこと〉文学教材の授業作り（大問の検討 授業計画の立て方）	単元全体の大まかな授業計画を立てる。		
第5回	<読むこと> 理論：文学教育の現在（国語科教育と分析批評） 実践：〈読むこと〉文学教材の授業作り（授業計画の検討）	授業計画の仕上げ。		
第6回	理論：古典学習について 古典学習の意義と特徴 実践：〈読むこと〉古典教材（古文 高校入門教材 説話）の教材研究について	学習指導案のうち、教材観・指導観を書く。		
第7回	理論：古典知識や文法の扱いについて 実践：〈読むこと〉古典教材（古文 『枕草子』） 学習指導案について（考え方と書き方）	学習指導案のうち、全体案を作成する。		
第8回	理論：生活につながる授業作り 実践：古典教材 全体案（『枕草子』）の検討 学習指導案 本時の計画について	本時の計画（『枕草子』）を作成。 読書課題（7月締切）		
第9回	理論：〈話すこと・聞くこと〉の授業について 実践：古典教材 本時の計画（『枕草子』）の検討	現行教科書より〈話すこと・聞くこと〉の教材分析		
第10回	理論：国語科教育課程 編成の方法 実践：複合的な授業の学習指導案 古典教材を用いて（古文 高校教材 『伊勢物語』）	複合的な授業の学習指導案（『伊勢物語』）を書く。		
第11回	理論：学習指導案の作成と発表について 実践：複合的な授業の学習指導案（『伊勢物語』）の検討。	文学教材から、自由に学習材を選んで、学習指導案を作成		
第12回	学習指導案の検討1（文学教材）	発表者は学習指導案を作成。他は教材を読んでおく。		
第13回	学習指導案の検討2（評論教材）	発表者は学習指導案を作成。他は教材を読んでおく。		
第14回	学習指導案の検討3（古典教材）	発表者は学習指導案を作成。他は教材を読んでおく。		
第15回	まとめ 課題について。	課題の準備。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない。			
レポート	最終レポート（学習指導案）30％ 読書課題 2回 20％ 毎回の課題レポート 40％			
小テスト等	行わない。			
成果発表	学習指導案の発表 5％			
受講態度他	討議への参加状況 5％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教壇に立つつもりで、毎回の授業や課題に臨むこと。 良い授業づくりのために、国語科の専門内容を深めることが求められます。積極的に勉強を進めてください。			
教科書	『中学校学習指導要領解説（国語編）』『高等学校学習指導要領解説（国語編）』文部科学省 森田信義他『新訂 国語科教育学の基礎』溪水社（平成22年）			
指定図書	特になし			
参考図書	中学校国語教科書 1・2・3年 各社 高等学校 国語総合 現代文 古典 教科書 各種			
オフィスアワー	水曜日 4限	メールアドレス		

授業科目	国語科教育法Ⅱ【教職】【演習】		開講時期	後期
担当教員	出雲 俊江		単位	4
授業の目的と概要	<p>&lt;目的&gt; 中学校・高等学校の国語科授業を理論的に構築し、実践するための基礎的な力を養うことを目的とする。国語科教育の理論と実践の歴史について基礎知識を身につける。学習者が真の主体となる「国語」の授業実践を行うための基礎的な力を養う。</p> <p>&lt;概要&gt; ①教材研究の基礎的資料を作成・発表し、それについてのディスカッションを行う。②模擬授業を行い、それについてのディスカッションを行う。教材は主にこれまで現行国語教科書に採録された学習材をとりあげる。授業内容と並行して、読書課題を設ける（2回）。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科教育についての理論と実践の歴史について、自身で学びを進めることができる。</li> <li>・中学校・高等学校国語の授業のための基本的な「教材研究」を行うことができる。</li> <li>・「教材研究」と学習指導案の結びつきについて理解し、学習指導案を立案することができる。</li> <li>・授業実践のための基本的な技術やコミュニケーション力を身につけている。</li> <li>・国語科の基本的な授業を構築することができる。</li> <li>・情報収集や情報発信の手段として、各種の情報機器を活用できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>この授業の履修には「国語科教育法Ⅰ」を取得していることが必要です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	「国語科教育法Ⅰ」の課題レポート返却と要点のまとめ <書くこと>の授業構築①ー<書くこと>指導の現在	読書課題1の準備		
第2回	<読むこと>の授業構築①ー評論文教材の教材研究と学習指導案の検討	「水の東西」(山崎正和)読む		
第3回	<読むこと>の授業構築②ー評論文教材の教材研究と学習指導案の検討(2)	参考文献(配布)読む		
第4回	<読むこと>の授業構築③ー古文教材の教材研究と学習指導案の検討(1)	「北山の垣間見」(『源氏物語』)読む		
第5回	<書くこと>の授業構築①ー書くことの教材研究と学習指導案の検討	参考文献(配布)読む		
第6回	<書くこと>の授業構築②ー書くことの教材研究と学習指導案の検討(2) 地区中学校授業研究会に参加	学習指導案の作成/授業研究会参加レポート		
第7回	模擬授業1(現代文1 文学教材)ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	学習指導案の作成。教材読んでおく。		
第8回	模擬授業2(現代文2 評論教材)ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	学習指導案の作成。教材読んでおく。		
第9回	模擬授業3(古文1 入門教材 説話 随筆など)ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	学習指導案の作成・教材読んでおく。		
第10回	模擬授業4(古文2 日記・物語)ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	模擬授業の準備・教材読んでおく		
第11回	模擬授業5(古文3 韻文)ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	模擬授業の準備・教材読んでおく		
第12回	模擬授業6(漢文1 文章)ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	模擬授業の準備・教材読んでおく		
第13回	模擬授業7(漢文2 思想)ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	模擬授業の準備・教材読んでおく		
第14回	模擬授業8(漢文3 韻文)ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	模擬授業の準備・教材読んでおく		
第15回	模擬授業9(電子黒板・その他の情報機器を用いた授業)ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	模擬授業の準備・教材読んでおく		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	行わない			
レポート	毎回のレポート 20% 読書課題(2回) 20%			
小テスト等	行わない。			
成果発表	学習指導案 20% 最終模擬授業 30%			
受講態度他	討議への参加状況 10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教壇に立つつもりで、毎回の授業や課題に臨むこと。 「国語科教育法Ⅰ」の単位取得を本科目の履修条件とする。			
教科書	『中学校学習指導要領解説(国語編)』『高等学校学習指導要領解説(国語編)』文部科学省 森田信義他『新訂 国語科教育学の基礎』溪水社(平成22年)			
指定図書	特になし			
参考図書	中学校国語教科書 1・2・3年 各社 高等学校 国語総合 現代文 古典 教科書 各種			
オフィスアワー	水曜日3限	メールアドレス		

授業科目	国際観光論【講義】		開講時期	後期
担当教員	岩井 朝子		単位	2
授業の目的と概要	本授業の目的は、「日本に観光客を誘致するインバウンドに着目し、いかにしてインバウンド産業を盛り上げ、日本を観光立国にしていくかを学ぶこと」とする。観光国としては後進国である日本の問題点と改善方法を探り、主な外国人旅行者の特徴や傾向を調べ、それぞれの観光客に合った旅行を企画立案し、その実施において想定されるリスクに対処できる知識やスキルを身に付ける。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本の観光地をアピールするために必要な知識やスキルを身に付ける</li> <li>2 各国の外国人観光客の特徴や傾向について説明できる</li> <li>3 外国人の視点から、地方にある日本の観光資源を探し、観光対象に作り上げる企画を作る</li> <li>4 インバウンドツアーを企画立案し、その実施においてリスクに対処できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	インバウンドは21世紀のリーディング産業 学生に求められるスキル	観光産業に従事するために必要なスキルについて考える		
第2回	各国の旅行者に対応した「おもてなし」	なぜ観光客の理解や把握が大切なのかを調べる		
第3回	各国の観光傾向について グループ分け	観光傾向について調べる		
第4回	外国人旅行者の誘致と受け入れ課題 グループワーク	日本側の外国人旅行者受け入れ課題について調べる		
第5回	グループ発表（各国の観光客の観光行動の傾向について）	パワーポイントによるプレゼンの予習		
第6回	日本の観光資源 地方に眠っている観光資源を探る	観光資源になりそうな地元の場所について考える		
第7回	コンテンツツーリズム	日本において新しく観光コンテンツになる得る素材について調べる		
第8回	旅行商品のマーケティング1 ターゲティング・セグメンテーション	ターゲットを絞る過程について調べる		
第9回	旅行商品のマーケティング2 有効なPRの方法	様々なPRの方法について調べる		
第10回	地元の観光資源を生かしたツアーの企画 パワーポイントを使用したプレゼンの例	新規ツアーを考案してみる		
第11回	エジプト観光から学ぶリスクマネジメント 基礎編 グループワーク	エジプトの観光ツアー・風土・習慣について調べる		
第12回	エジプト観光から学ぶリスクマネジメント 応用編 緊急事態が発生した場合の対処法	日本で起こりそうな旅行中のリスクについて考え、その対処法を検討する		
第13回	最終プレゼンテーションの中間発表 ホテル業のマーケティングについて	個性を売りにしているホテルについて調べる		
第14回	サービス業の整流化について グループワーク	観光における整流化という意味について調べる		
第15回	各国の旅行者に向けたツアー企画の発表	これまでの授業を振り返り、重要な箇所をノートにまとめる		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% プレゼンテーションを作成するために調べた内容から学んだことや感想をまとめてレポートにし、提出すること			
小テスト等	なし			
成果発表	40% 授業内でのグループ発表			
受講態度他	20% 建設的で積極的な授業内での発表など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には前回の復習を行ってから参加すること。また上記以外の課題を授業内で指定することもあり得る			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『観光白書』国土交通省ホームページ			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	国際教育論【講義】		開講時期	後期
担当教員	竹熊 真波		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、教育の国際化の状況や諸問題、ユネスコや文部科学省などが提示する国際教育についての理念や目標などへの理解を深めることを目的とします。</p> <p>授業では、前半にパワーポイントを用いた講義を、後半にDVDの視聴あるいはアクティビティ（グループ・ワーク等）を行う予定です。その際、講義の内容をノートに記入し、DVDやアクティビティの感想をまとめ、授業終了時に提出します。</p> <p>なお、本授業は対面式を考えていますが、状況に応じてオンライン併用またはオンラインのみ（リアルタイム）に変更します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際教育の前提となる異文化コミュニケーションについて説明できる</li> <li>・国際理解教育や国際教育についての理念や目標、政策を説明できる</li> <li>・海外子女・帰国子女、外国人子女、留学生など、日本の教育の国際化の現状を知り、問題点を分析できる</li> <li>・国際教育についての学校での教育実践について体験的に理解できる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 &lt;関連科目&gt;専門ゼミナールⅡ、卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回(9/21)	イントロダクション：日本の国際化と国際教育	授業ノートや配布資料の整理と復習		
第2回(9/28)	自己理解について	授業ノートや配布資料の整理と復習		
第3回(10/5)	コミュニケーション力について	授業ノートや配布資料の整理と復習		
第4回(10/12)	異文化コミュニケーション（異文化理解とカルチャーショック）	授業ノートや配布資料の整理と復習		
第5回(10/19)	ユネスコの理念と取り組み	授業ノートや配布資料の整理と復習		
第6回(11/2)	小学校における英語教育	授業ノートや配布資料の整理と復習（学習指導要領の確認）		
第7回(11/9)	海外子女・帰国子女教育	授業ノートや配布資料の整理と復習（HP；クラリネットの確認）		
第8回(11/16)	在日外国人の特徴	授業ノートや配布資料の整理と復習		
第9回(11/23)	外国人子女の教育 1 日本で学ぶ外国人子女	授業ノートや配布資料の整理と復習（福岡ISのHPの確認）		
第10回(11/30)	外国人子女の教育 2 在日コリアンと民族系学校	授業ノートや配布資料の整理と復習（民族系学校のHPの確認）		
第11回(12/7)	外国人子女の教育 3 外国人子女教育の課題	外国人にまつわる問題に関する新聞記事の検索		
第12回(12/14)	高等教育の国際化 1 留学生の受け入れ	授業ノートや配布資料の整理と復習（日本学生支援機構HPの確認）		
第13回(12/21)	高等教育の国際化 2 日本人の海外留学	授業ノートや配布資料の整理と復習（留学情報の確認）		
第14回(1/18)	海外の教育紹介 1 英米の教育	授業ノートや配布資料の整理と復習		
第15回(1/25)	海外の教育紹介 2 アジアの教育	全体の復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	90% 毎回の感想レポートまたはミニテスト（15回×6%）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	10% 受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	グループ活動などのアクティブラーニングを多く取り入れる予定です。積極的な参加を求めます。			
教科書	使用しない			
指定図書	特になし			
参考図書	授業において適宜紹介する			
オフィスアワー	月曜 4限	メールアドレス		



授業科目	国際社会と日本【講義】		開講時期	前期
担当教員	須藤 遙子		単位	2
授業の目的と概要	現在、国際社会のなかで日本が直面している問題やトピックを時事ニュースを通して考えていく。回ごとに1つのテーマを決めて解説・考察する。毎回順番にその週の国際ニュースを発表してもらう。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の現状をグローバルな観点から考察できる。</li> <li>・多角的な視野で情報を分析できる。</li> <li>・自分の考えを文章で表現する。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は放送局で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第2回	メディアとは。	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第3回	国際ニュースの見方	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第4回	9 1 1後の世界、今週の国際ニュース解説	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第5回	東アジア近現代史1：日本と朝鮮半島（1）、今週の国際ニュース解説	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第6回	東アジア近現代史2：香港、今週の国際ニュース解説	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第7回	東アジア近現代史3：天安門事件、今週の国際ニュース解説	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第8回	ビデオ学習、今週の国際ニュース解説	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第9回	東アジア近現代史4：日本と朝鮮半島（2）、今週の国際ニュース解説	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第10回	東アジア近現代史5：日本と朝鮮半島（3）、今週の国際ニュース解説	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第11回	東アジア近現代史6：日本と中国、今週の国際ニュース解説	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第12回	日本とアメリカ、今週の国際ニュース解説	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第13回	パレスチナ問題、今週の国際ニュース解説	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第14回	東アジアの中の日本、今週の国際ニュース解説	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第15回	世界の中の日本。まとめ。	復習。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30％（レポート）			
小テスト等	0％			
成果発表	30％（フォーラムへの投稿含む）			
受講態度他	40％（理科度チェック含む）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>この授業は遠隔で行います。出席は、各回の「理解度チェック」への回答で確認します。質問は全員が共有できるように、筑女ネット「質問箱」にお願いします。その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。</p>			
教科書	なし。適宜指定します。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業ごとに指定します。			
オフィスアワー	月曜 11 - 13時	メールアドレス		

授業科目	国際政治学【講義】		開講時期	前期
担当教員	横山 豪志		単位	2
授業の目的と概要	<p>国際社会の一員として生きていくために、1945年以降、今日に至るまでの日本やアジアを取り巻く国際環境と課題を理解することが、この講義の目的です。具体的には、1. 戦後日本の安全保障政策と対アジア政策、2. 国連の平和維持活動、3. 地球環境問題の3点に焦点を当て、それぞれa. 問題の所在、b. 日本の対応、c. 今後の課題について多角的に理解を深めていきます。現在の国際関係において、政治と経済は密接に関連しており、経済的要因を無視して国際政治は語れないのですが、他の講義との重複を避けるため、安全保障や紛争処理、地球環境問題といった事柄に焦点を当て考察します。なお現実の国際情勢に応じて、講義内容を一部変更することがありますので、ご了承ください。</p>			
到達目標	<p>1. 戦後日本の安全保障政策と対アジア政策について、基本姿勢とその特徴と課題について説明できる。  2. 国連の平和維持活動について、その成果と課題が説明できる。  3. 現在の国際政治に関する文献を、自ら集めて分析することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  「現代韓国事情」、「現代東南アジア事情」、「現代インド事情」などで各地域について学んだうえで、それぞれの国や地域の関係性を考えるこの講義を受講すると、理解が深まります。  またこの講義を踏まえて「時事アジア」を履修することで、今日的課題に対する多角的な視野を身につけることができます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション	国際政治学を学ぶとは	第2回用レジュメ、資料に基づきCOVID-19について予習		
第2回	COVID-19を巡る国際政治、筑女ネットとTeamsの使い方確認	第2回第3回用レジュメ、資料に基づき地球規模の課題について予習復習		
第3回	地球規模の課題と環境問題	第3回第4回用レジュメ、資料に基づきCOPについて予習復習		
第4回	気候変動枠組条約	第4回第5回用レジュメ、資料に基づき1990頃までの状況について予習復習		
第5回	日本の安全保障政策(1) 日米安全保障条約	第5回用レジュメ、資料に基づき安全保障政策について予習復習		
第6回	日本の安全保障政策(2) 冷戦後の変化	第6回第7回用レジュメ、資料に基づき日本の国際環境について予習復習		
第7回	戦後賠償からODAへ	第7回第8回用レジュメ、資料に基づきODAについて予習復習		
第8回	日中国交正常化	第8回第9回用レジュメ、資料に基づき日中韓関係について予習復習		
第9回	残された「戦後処理」 歴史認識問題について	第9回用レジュメ、資料に基づき領有権争い1について予習復習		
第10回	領土問題の現在1 領土問題の基本と竹島	第10回第11回用レジュメ、資料に基づき領有権争い2について予習復習		
第11回	領土問題の現在2 北方四島と尖閣諸島	レジュメ、資料に基づき東アジアの国際政治について予習、期末レポート準備		
第12回	中国の国際政治	レジュメ、資料に基づきPKOの課題について予習復習、期末レポート準備		
第13回	国連の平和維持活動	レジュメ、資料に基づき今後の課題について予習復習、期末レポート準備		
第14回	日本の国際貢献1 ODAの変化	レジュメ、資料に基づき今日のODAについて予習復習、期末レポート準備		
第15回	日本の国際貢献2 国際平和協力	レジュメ、資料に基づき国際平和協力について予習復習、期末レポート準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	90% (期末レポート15% 毎回の提出物(感想・コメント/講義の概要/ミニレポート)75% 質問・コメントについては翌週回答します。)			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	水14:50～16:20、木12:30～13:30	メールアドレス		

授業科目	国際ビジネス【講義】		開講時期	後期
担当教員	浅川 哲郎		単 位	2
授業の目的と概要	国際化の進展は私たちの生活の隅々にまで及んでいるが、ビジネスが国際化すると大きなメリットもある一方で、それまでになかった様々な困難に出会うことが多い。それは私たち日本人が、国際的な商習慣に慣れていないためである。本講義では、国際ビジネスの実際と理論を学びながら、企業文化や社会慣習、消費文化の違いが開発、生産、販売に対する取り組みの違いにどのように影響するのか、また企業経営とそれを取り巻く世界経済がいかに結びつき、たがいに影響を与えているかを理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国家間における言語、文化、社会システム、経済体制といった相違が、国際的な企業経営にどのような影響を与えるのかを説明できる。</li> <li>2. 異なる社会環境を越境することから生じる諸問題に対して、国際的な企業群がどのように対応しているのかについて、経営学の基本用語を用いて説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス セブンイレブンの国際事業展開	セブンイレブンの企業概況について調べてくること		
第2回	資生堂の事業について	資生堂の企業概況について調べてくること		
第3回	資生堂の海外展開について	資生堂の海外進出の歴史について調べること		
第4回	資生堂の中国進出について	資生堂の中国進出について調べること		
第5回	国際ビジネスとは？	ここまでの授業から「国際ビジネス」のポイントを確認すること		
第6回	TOTOの海外戦略	TOTOの企業概況について調べてくること		
第7回	キッコーマンの海外戦略	キッコーマンの企業概況について調べてくること		
第8回	ソニーの海外戦略	ソニーの企業概況について調べてくること		
第9回	トヨタの海外戦略	トヨタの企業概況について調べてくること		
第10回	コマツの海外戦略	コマツの企業概況について調べてくること		
第11回	医療ビジネスの国際化について	国際的に展開している資料系企業を選び、概況について調べること		
第12回	P&Gのグローバル戦略	P&Gの企業概況について調べてくること		
第13回	ネスレのグローバル戦略	ネスレの企業概況について調べてくること		
第14回	コカ・コーラのグローバル戦略	コカ・コーラの企業概況について調べてくること		
第15回	国際ビジネスのまとめ	後期の授業ノートを確認すること		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	3回課題を提出。詳細は講義の中で説明するが、テーマは第1回は「資生堂の国際ビジネスの特徴について」、第2回は「日本のメーカーの国際化の特徴について」、第3回は「多国籍企業のグローバル化の特徴について」。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	講義を聞いた後は出来るだけ興味を持って会社を検討するようにしてください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	YouTubeを使った遠隔授業をしますので、講義の時は出来るだけノートを取るようにしてください。			
教科書	プリントを配布します。			
指定図書	随時指定します。			
参考図書	ケースで取り扱う企業が日本企業の場合は、最新の有価証券報告書の、特に企業の概況と事業の状況の部分はインターネットを通じて読むようにしておいてください。			
オフィスアワー	金曜日4講目	メールアドレス		

授業科目	国際ビジネス【講義】		開講時期	後期
担当教員	篠崎 真美		単 位	2
授業の目的と概要	<p>授業の目的は、グローバル社会における日本企業の国際経営および多国籍企業のグローバル・オペレーションなど具体的な事例を取り上げ、国際ビジネスの基礎知識を修得するとともに、異なる言語、異なる文化、異なる経済体制、異なる政治システム、異なる法体系からなる外部環境がどのように国際的な企業経営に影響を与えるのか、どのような問題にどのように対応しているのか、経営学知識に基づいて論述できることである。</p> <p>ケースメソッド教育により、経営学基本知識の修得と課題の解決策の提案能力を身につける。グローバルビジネス、特に中国ビジネスでの実例を概観しながら、国際ビジネス実務を俯瞰的に概観する</p>			
到達目標	<p>①国際経営、グローバルビジネスにおける経営学基礎知識を獲得する</p> <p>②国際経営、グローバルビジネスを展開する上での課題解決策の提案能力を形成する</p>			
この授業が目的としている DP や関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技術を身に付けている</p> <p>現 (3) -②-2 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス 経営・国際経営・グローバルビジネスの基礎知識			国際経営とは、グローバルビジネスとはなにか調べてきてください	
第2回 経営 ケース①経営学基礎知識			復習：ケース①基礎単語の意味調べ	
第3回 経営 ケース①読解（1）			復習：ケース①閲読、内容把握	
第4回 経営 ケース①読解（2）			復習：ケース①閲読、内容把握	
第5回 経営 ケース①課題のディスカッション			予習：ケース①課題の回答作成	
第6回 国際経営における経済体制・政治システム			復習：理解できなかった箇所の質問準備	
第7回 国際経営における異文化マネジメントとコミュニケーション			復習：理解できなかった箇所の質問準備	
第8回 国際経営の法務とグローバルビジネスの交渉術			復習：理解できなかった箇所の質問準備	
第9回 グローバル・ブランド戦略			復習：質問書き出し	
第10回 グローバルビジネスと国家			復習：質問書き出し	
第11回 グローバルビジネス ケース②経営学基礎知識			予習：ケース②基礎単語の意味調べ	
第12回 グローバルビジネス ケース②読解（1）			予習：ケース②閲読、内容把握	
第13回 グローバルビジネス ケース②読解（2）			予習：ケース②閲読、内容把握	
第14回 グローバルビジネス ケース②課題のディスカッション			予習：ケース②課題の回答作成	
第15回 まとめ 全般の振り返りとディスカッション			予習：質問事項のまとめ	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% * 課題提出【ケース①第5回（9日1限）、ケース②第13回（12日1限）授業前に回答提出】			
小テスト	なし			
成果発表	なし			
受講態度	40% 授業参加貢献度（発言回数と積極性につき加点評価する。間違った発言等是不問。）			
受講上の留意点・ルールに関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6回以上の欠席は成績評価を未採点とする。</li> <li>・遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を一回の欠席とみなす）</li> <li>・やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで理由とともに連絡すること</li> <li>・病欠による病院の証明書は、PDF化してメール添付にて12日午前中までに教員に提出すること。</li> </ul>			
教科書	ケースメソッド教材（第一回講義で説明する）			
指定図書	なし			
参考図書	随時紹介する			
オフィスアワー	集中講義の場合は授業内に限る	メールアドレス		

授業科目	国際文化論【講義】		開講時期	後期
担当教員	間瀬 玲子		単位	2
授業の目的と概要	フランスの首都パリでは二度の都市大改革が行われた。一度目は19世紀半ば過ぎにナポレオン3世の命令による大改革であった。次の大改革は1980年代以降に行われ、パリはヨーロッパの文化都市として再生した。この都市大改革を手がかりとして、パリがヨーロッパの都市として果たしている役割を考察することを目的とする。ウィーンとロンドンの都市大改造を比較の対象として考察することも目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>19世紀パリの都市大改造を説明できる。</li> <li>19世紀ウィーンの都市大改造を説明できる。</li> <li>20世紀パリの都市大改造を説明できる。</li> <li>19世紀ロンドンの都市大改造を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目 : ヨーロッパの社会と文化、比較文学</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 講義概説	パリ、ウィーン、ロンドンの都市大改造	予習 シラバスを読む		
第2回	6世紀から中世までのパリ	予習 授業資料 (第2回)		
第3回	パリの市壁の変遷、都市大改造前のパリ	予習 授業資料 (第3回)		
第4回	19世紀パリ都市大改造により消滅した建造物	予習 授業資料 (第4回)		
第5回	カルカソンヌ、19世紀パリ都市大改造の主要な点 (1) 道路	予習 授業資料 (第5回)		
第6回	19世紀パリ都市大改造の主要な点 (2) 建造物	予習 授業資料 (第6回)		
第7回	パリのデパート	予習 授業資料 (第7回)		
第8回	ウィーンの都市構造、19世紀の都市大改造	予習 授業資料 (第8回)		
第9回	城壁を取り壊した後のウィーン	予習 授業資料 (第9回)		
第10回	20世紀パリの都市大改造	予習 授業資料 (第10回)		
第11回	パリの二大美術館 (ルーヴルとオルセー)、改装後のオルセー美術館の映像を見る	予習 授業資料 (第11回)		
第12回	20世紀パリの都市大改造後のプロジェクト	予習 授業資料 (第11回)		
第13回	19世紀ロンドンの都市大改造 建築物	予習 授業資料 (第12回)		
第14回	19世紀ロンドンの都市大改造 カフェ	予習 授業資料 (第14回)		
第15回	授業の総括	予習 授業資料 (第15回)		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	50% 期末レポート (授業の内容に即した設問)			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	50% 質問等による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業前に必ず授業資料を読んでおいてください。筑女ネットで授業の進捗状況を掲載します。必ず見てください。			
教科書	なし。授業資料を配布します。			
指定図書	内村理奈 『マリー・アントワネットの衣装部屋』平凡社、 家庭画報特別編集『ハクスバルク家「美の遺産」』 世界文化社			
参考図書	鹿島茂『失われたパリの復元』新潮社、鹿島茂『19世紀パリ 時間旅行』青幻舎			
オフィスアワー	火曜日 4 講時	メールアドレス		

授業科目	国際文化論【講義】		開講時期	後期
担当教員	山田 直子		単位	2
授業の目的と概要	<p>「文化」とは人が自然やモノや人々と交わりながら創り出した営みの全てです。本授業では、東南アジア地域に焦点を当て、人々の営みの中で共有され、継承し、変化し続ける多様な形の文化を理解することを目的とします。東南アジアは中国文化圏とインド文化圏の狭間にある多様性に富んだ特色ある地域です。固有の土着文化を持ちつつ、外来の文化による影響を絶えず受けてきた東南アジアの風土、民族、言語、食、家族関係、ジェンダー、ポップカルチャー等を中心に学習します。また東南アジア各地の学生との交流セッションを通してこの地域を内側から理解することを試みます。学期終盤では東南アジアにおいて日本文化がどのように受容されているのか、また私たちの身近な場所に存在する東南アジア文化についても議論します。本授業は「東南アジアへの扉」と位置づけ、受講者の関心の喚起・明確化を助け、歴史や社会、文化に関心を持ってもらうことがねらいです。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東南アジア地域の言語・社会・文化・歴史に関心を持つようになる。</li> <li>2. 東南アジア地域の特性について理解し、説明することができる</li> <li>3. 日本と東南アジアの関係に関する基本的な知識を習得し、自らの体験・知見にひきつけて考えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション～東南アジアへの扉～	授業資料（東南アジアの自然と地理）の予習		
第2回	東南アジアの自然環境～文化を包む環境～	授業資料（東南アジアの歴史）の予習		
第3回	東南アジアの歴史～他地域からの文化的影響～	授業資料（東南アジアの民族）の予習		
第4回	東南アジアの民族	授業資料（東南アジアの言語）の予習		
第5回	東南アジアの言語	授業資料（東南アジアの信仰）の予習		
第6回	東南アジアの信仰	東南アジア文化(1回～6回)に関連する質問の準備		
第7回	東南アジアの学生から東南アジア文化について学ぶ	授業資料（東南アジアの家族）の予習		
第8回	東南アジアの家族	授業資料（東南アジアのジェンダー）の予習		
第9回	東南アジアのジェンダー	授業資料（東南アジアの食文化）の予習		
第10回	東南アジアの食文化	授業資料（東南アジアの工芸と産業）の予習		
第11回	東南アジアの工芸と産業	授業資料（東南アジアのポピュラーカルチャー）の予習		
第12回	東南アジアのポピュラーカルチャー	東南アジア文化(8回～12回)に関連する質問の準備		
第13回	東南アジアの学生から東南アジア文化について学ぶ	東南アジアにおける日本文化の受容について調べてみる		
第14回	東南アジアの中の日本文化	日本における東南アジア文化の受容について調べてみる		
第15回	日本の中の東南アジア文化/ 総括・ディスカッション	授業の中で指示します。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	70％ 毎回のミニッツノート（授業内容の理解や意見など）を評価します。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 授業への積極的な参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>本授業はZoomを利用したリアルタイム型授業です。受講環境に問題がある場合は、第一回授業の前日までにお知らせください。受講者との連絡はTeamsと筑女ネットを利用しますので毎週必ず確認してください。6回以上の欠席で単位取得ができなくなります。自分の出欠状況を把握してください。</p>			
教科書	資料をデータで配信します。			
指定図書	今井昭夫『東南アジアを知るための50章』明石書店、古田元夫『東南アジアの歴史』放送大学			
参考図書	池端雪浦（監修）『東南アジアを知る事典』平凡社			
オフィスワー	Teamsのチャット機能、またはメールで連絡をしてください。	メールアドレス		

授業科目	国際ボランティア【講義】		開講時期	後期
担当教員	ラマン モレスル		単位	2
授業の目的と概要	近年、ボランティア活動は非常に身近なものになっています。多くの人々はボランティア活動に参加することを通じて新たな気付きを得ており、またそのような人々の繋がりや共感の輪が社会全体に広がっています。本科目では、具体的な事例の検討を通じて現代社会における「国際ボランティア」の意義と役割について考えていきます。これらの学びを通じて、受講生の皆さんがボランティア活動に対する理解を一層深めると共に、国内外問わず何らかの形でボランティア活動に参加できるようになることを目指します。			
到達目標	①現代社会における「国際ボランティア」の意義を理解し、説明することができる。②自分自身の問題意識を元に、参加してみたいボランティア活動について説明することができる。③上記②について他者と意見交換し、組織的に取り組む方法を考える事ができる。④上記③で考えた方法を、発表することができる。昨年ベシャワール会現地代表の中村医師の殺害は国際協力活動に携わっている団体や参加者に大きなショックを与えた。このような悲惨は出来事が二度と来ないためにどうすれば良いか、みんなで議論し、検討したい。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	はじめに ——「ボランティア」とは何か?	「ボランティア活動」に対して持っているイメージを考えて来て下さい。		
第2回	なぜボランティアに参加するのか? ——ボランティアの参加動機と多様な国際ボランティア	「人がボランティア活動に参加する理由」を考えて来て下さい。		
第3回	福岡を中心に国際協力活動を行っている団体を調べよう (1)	FUNNのHPを参照、様々な団体の活動内容を調べる		
第4回	バン格拉デシュと手をつなぐ会の活動紹介	HPを見て事前に基礎知識をえること、また学んだことを発表する		
第5回	国際協力活動における国家的戦略 (ODA) 目的と必要性	ODAのHPを参照		
	JICAの活動紹介 (JICA職員あるいはOB)	事前に配る資料を参考にし、自分ができることは何かを考える		
第7回	NGO活動の資金源	FUNN加盟団体のHPを参照に、グループ分けで研究発表。		
第8回	非政府組織 (NGO) で活躍する ——VTRで考える国際ボランティア③ (国際医療NGO)	第7回授業を振り返り「非政府組織 (NGO)」の意義を考えてきて下さい。		
第9回	現代社会と国際ボランティア	ベシャワール会を振り返り、国家としてできること、個人としてできること		
第10回	アドボカシー活動、事例紹介	マララさんの国連での演説を前もって見てくること		
第11回	国際協力活動における危機管理	グループディスカッション、中村医師の活動		
第12回	学生視点で考える「国際ボランティア」 (1) ——学生グループ発表②	これまでの授業内容を踏まえてグループで発表の準備をしてきて下さい。		
第13回	学生視点で考える「国際ボランティア」 (2) ——学生グループ発表③	これまでの授業内容を踏まえてグループで発表の準備をしてきて下さい。		
第14回	学生視点で考える「国際ボランティア」 (3) ——学生グループ発表④	これまでの授業内容を踏まえてグループで発表の準備をしてきて下さい。		
第15回	おわりに (授業のまとめ) ——私にとっての「国際ボランティア」	授業を振り返り、「国際ボランティア」の意義や役割を考えて来て下さい。		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 期末レポート (30%)、講義内課題レポート (20%)			
小テスト等	なし			
成果発表	30% グループ発表 (30%)			
受講態度他	20% 授業への出席状況や受講態度 (授業内でのディスカッション) などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、授業の中で課題レポートの作成やチーム討議、チーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。シラバスの順番が変わり、時に新しい内容を入れることもあります。その時その時の国内外の出来事について話したり、考えたりすることがあります。シラバス通りに行かないことや終わらないこともあります。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する (授業の際に配布する)。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業中、あるいは授業終了後	メールアドレス		

授業科目	こころと身体のフィットネス【演習】		開講時期	前期
担当教員	古田 瑞徳		単 位	2
授業の目的と概要	本演習では、特に女性の「こころと身体」の諸問題に焦点を当て、多様で変化していく社会環境下において、常に変化する自分自身を最適化するマネジメント能力と実践力を養うことを目的としています。そのため、パーソナルな運動実践を通して、身体の機能と構造を理解しながら身体感覚を高めるとともに、身体トレーニング法、リラクセス法、心の調整法などの心身問題解決のための理論と実践法を学びます。さらにそれらを日常生活の中で、自分のための心身活動としてプランニングでき、実行する力を養います。			
到達目標	① 自己の心身の問題に注意を向け、具体的に述べることができる。 ② こころや身体の機能と構造を理解し、説明することができる。 ③ さまざまなトレーニング方法を体験し、1人で実施することができる。 ④ 日常生活の中で実施できるプログラムを作成し、実施することができる。 ⑤ 自己の心身の変化に応じて、プログラムや実施の方法が変化することを理解し、変更することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 <授業外学修>1回の授業につき90分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		自分の心身の課題を見つける	
第2回	運動してみよう		来週までに、もう1度実習してみる	
第3回	トレーニング実践 エアロビク(スロー)・ストレッチ・エクササイズ		来週までに、もう1度実習してみる	
第4回	トレーニング実践 筋力トレーニング(スロー)・ストレッチ・エクササイズ		来週までに、もう1度実習してみる	
第5回	トレーニング実践 ストレッチ・女性と運動		来週までに、もう1度実習してみる	
第6回	トレーニング実践 トレーニング理論		アーサナ復習	
第7回	ヨーガ(陽)・エクササイズ① 身体・アーサナ		日常性格の中で筋肉の力の発揮を意識する練習	
第8回	ヨーガ(陽)・エクササイズ② 技術・身体・意識の使い方		単純な動作を観察する練習	
第9回	ヨーガ(陰)・エクササイズ① アーサナ		来週までに、もう1度実習してみる	
第10回	ヨーガ(陰)・エクササイズ② 観察力 調整力		日常生活の中で、快・不快の間を探る練習	
第11回	こころの法則とトレーニング① 瞑想 考えない練習 集中		考えない練習	
第12回	こころの法則とトレーニング② 瞑想 座る・立つ・歩く		活動・運動を通して、自分を観察する練習	
第13回	こころの法則とトレーニング③ コーピング		書き出すことによって、自分を視覚化し観察する練習	
第14回	こころの法則とトレーニング④ 認識を変える練習		レポート課題「こころと体のフィットネス・私の問題とその解決にむけて」	
第15回	どのように社会にフィットしていくのか		レポート課題「こころと体のフィットネス・私の問題とその解決にむけて」	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 1回のレポート課題実施。レポートは返却しません。			
小テスト等	50% 毎回の確認テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	運動にふさわしいヘアスタイル・服装で臨むこと。身体の動きがわかりやすいものが好ましい。高校時の運動服でも可。(運動用のタンクトップやタイツ姿など歓迎。ジーンズ不可。長髪の方はゴムなどで束ねること。) 私語など他の受講生を妨害するような行為は禁止。			
教科書	資料配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日 昼休み、またはメールで相談してください。		メールアドレス	



授業科目	こころと身体のフィットネス【演習】		開講時期	後期
担当教員	古田 瑞徳		単位	2
授業の目的と概要	<p>本演習では、特に女性の「こころと身体」の諸問題に焦点を当て、多様で変化していく社会環境下において、常に変化する自分自身を最適化するマネジメント能力と実践力を養うことを目的としています。そのため、パーソナルな運動実践を通して、身体の機能と構造を理解しながら身体感覚を高めるとともに、身体トレーニング法、リラクセス法、心の調整法などの心身問題解決のための理論と実践法を学びます。さらにそれらを日常生活の中で、自分のための心身活動としてプランニングでき、実行する力を養います。</p>			
到達目標	<p>① 自己の心身の問題に注意を向け、具体的に述べることができる。  ② こころや身体の機能と構造を理解し、説明することができる。  ③ さまざまなトレーニング方法を経験し、1人で実施することができる。  ④ 日常生活の中で実施できるプログラムを作成し、実施することができる。  ⑤ 自己の心身の変化に応じて、プログラムや実施の方法が変化することを理解し、変更することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」  (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき90分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション		自分の心身の課題を見つける	
第2回	身体・動きのオリエンテーション		資料にもとづき、自分の身体を視覚化する復習を行う	
第3回	トレーニング実践 エアロビク(スロー)・ストレッチ・エクササイズ		歩行時に練習をしてくる	
第4回	トレーニング実践 レジスタンス(スロー)・ストレッチ・エクササイズ		日常生活の中でできるトレーニングの復習	
第5回	トレーニング実践 トータルフィットネス・エクササイズ		日常生活の中でできるトレーニングの復習	
第6回	ヨーガ(陽)・エクササイズ① アーサナ・姿勢・スタンス・呼吸		アーサナ復習	
第7回	ヨーガ(陽)・エクササイズ② 力学を利用する		日常性格の中で筋肉の力の発揮を意識する練習	
第8回	ヨーガ(陽)・エクササイズ③ 身体・意識の使い方		単純な動作を観察する練習	
第9回	ヨーガ(陰)・エクササイズ① アーサナ		アーサナ復習	
第10回	ヨーガ(陰)・エクササイズ② 観察力 調整力		日常生活の中で、快・不快の間を探る練習	
第11回	こころの法則とトレーニング① 瞑想 考えない練習 集中		考えない練習	
第12回	こころの法則とトレーニング② 瞑想 座る・立つ・歩く		活動・運動を通して、自分を観察する練習	
第13回	こころの法則とトレーニング③ コーピング		書き出すことによって、自分を視覚化し観察する練習	
第14回	こころの法則とトレーニング④ 認識を変える練習		レポート課題「こころと体のフィットネス・私の問題とその解決にむけて」	
第15回	どのように社会問題にフィットしていくのか (質疑・応答)		まとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 1回のレポート課題実施。レポートは返却しません。			
小テスト等	なし			
成果発表	40% 毎回の報告			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>運動にふさわしいヘアスタイル・服装で臨むこと。身体の動きがわかりやすいものが好ましい。高校時の運動服でも可。(運動用のタンクトップやタイツ姿など歓迎。ジーンズ不可。長髪の方はゴムなどで束ねること。)</p> <p>私語など他の受講生を妨害するような行為は禁止。</p>			
教科書	資料配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日 昼休み、またはメールで相談してください。		メールアドレス	

授業科目	こころの危機を支える【講義】		開講時期	前期
担当教員	日高 崇博		単 位	2
授業の目的と概要	こころの危機は誰もが直面するものである。人間関係のトラブル、自然災害、事故など予期せずに発生するこころの危機は、こころや身体だけではなく、私たちの生活そのものに大きな変化をもたらす。そのこころの危機に、人はどう立ち向かい乗り越えていくのかを心理学の観点から検討していく。そして、個人、社会レベルでこころの危機にアプローチするために必要な知識やスキルを学ぶ。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こころのはたらきと危機について理解することができる。</li> <li>・こころの危機に関連するストレスやストレス反応について説明することができる。</li> <li>・困難な状況を乗り越えるために支えになるものについて理解することができる。</li> <li>・こころの危機に直面したときの諸問題を整理し、対処するための手立てを考察することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回 オリエンテーション		授業内容の復習		
第2回 ストレスとこころの危機		授業内容の復習		
第3回 ストレスと精神疾患		ミニレポート		
第4回 ライフステージとこころの危機①		授業内容の復習		
第5回 ライフステージとこころの危機②		授業内容の復習		
第6回 大学生のメンタルヘルス①		授業内容の復習		
第7回 大学生のメンタルヘルス②		ミニレポート		
第8回 自殺予防対策①		授業内容の復習		
第9回 自殺予防対策②		ミニレポート		
第10回 災害時のこころのケア①		授業内容の復習		
第11回 災害時のこころのケア②		ミニレポート		
第12回 被害者支援		授業内容の復習		
第13回 加害者支援		授業内容の復習		
第14回 こころの危機とコミュニティ		授業内容の復習		
第15回 まとめ		期末レポートへの準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ミニレポート (40%) 期末レポート (40%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	授業への積極的に参加する姿勢を考慮します (20%)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語や他の受講者の迷惑となる行為は厳禁とする			
教科書	必要に応じて紹介する			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて紹介する			
オフィスアワー	講義に関する質問は講義終了後に受け付ける	メールアドレス		

授業科目	古代日本語研究【講義】		開講時期	後期
担当教員	高山 百合子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業の目的は、日本語の歴史の変遷の概要を知ることにより、改めて現代日本語について理解を深めることである。併せて、言語研究の意味・価値を理解することが、もう1つの重要な目的である。</p> <p>■日本語の歴史の中から、〈音韻史〉〈語彙史〉〈条件表現〉〈疑問表現〉〈係り結び〉などのトピックを採り上げ、それぞれの変化・変遷の実相と、その日本語史における意味を考えていく。</p> <p>■日本語の構造や特徴について基本的な知識を持ち、説明することができるようになる。</p>			
到達目標	<p>(1) 現代語に到るまでの日本語の歴史の変遷が、一通り把握できる。</p> <p>(2) 重要なトピックについては、その概要が理解できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>【関連する科目】日本語学概論Ⅰ・Ⅱ</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション／言語変化の捉え方、日本語史の時代区分（ディスカッション）	テキストを読む；はじめに～総説（p24）		
第2回	日本語史の資料について（1）概観	テキストを読む；p24～38		
第3回	日本語史の資料について（2）文献資料	テキストを読む；p38～51		
第4回	古代語の文字・表記について（1）万葉仮名	テキストを読む；p51～67		
第5回	古代語の文字・表記について（2）漢文訓読	テキストを読む；p67～83		
第6回	音韻の変遷（1）上代特殊仮名遣い	テキストを読む；p83～109		
第7回	音韻の変遷（2）古代日本語の音節構造	講義のまとめ（課題プリント①）		
第8回	文法の変遷（1）活用体系	講義のまとめ（課題プリント②）		
第9回	文法の変遷（2）助詞、助動詞など	講義のまとめ（課題プリント③）		
第10回	方言日本語史（1）文献に残る方言	講義のまとめ（課題プリント④）		
第11回	方言日本語史（2）九州方言の場合	講義のまとめ（課題プリント⑤）		
第12回	係り結びについて（1）連体形終止	講義のまとめ（課題プリント⑥）		
第13回	係り結びについて（2）係り結びの崩壊とその意味	講義のまとめ（課題プリント⑦）		
第14回	係り結びについて（3）方言に残る係り結び	講義のまとめ（課題プリント⑧）		
第15回	連体と連用／まとめ	復習；ここまでの講義を振り返る		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題レポート50％			
小テスト等	なし			
成果発表	課題プリントを用いた発表10％			
受講態度他	50％。出席状況・受講態度などを、成績評価の際、加味する。講義内容は、すべて関連しながら全体像を形作っていくので、極力欠席しないようにしてほしい。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◇適宜演習形式を織り交ぜながら授業を進めて行く。具体的には、テーマごとに前の時間の学習のまとめ、および調べたことを発表する。</p> <p>◇課題やレポートは、添削・評価し、原則として授業中にコメントを付して返却する。</p> <p>◇テキストを購入しなければ受講できない。</p> <p>◇テキストには受講前に一通り目を通しておくこと。</p>			
教科書	沖森卓也『日本語全史』（ちくま新書）、プリントその他併用			
指定図書	特になし			
参考図書	日本語史・国語史概説書、日本語文法大辞典、日本語学研究事典、国語学大辞典など			
オフィスワー	木曜2講時	メールアドレス		

授業科目	古代文学演習 I 【演習】		開講時期	前期
担当教員	須藤 圭		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は「オンデマンド型オンライン授業」を基本とし、「リアルタイム型オンライン授業」を組み合わせて実施します。授業の指示は、原則、時間割通りの時間帯に筑女ネットをとおして行います。必ず、確認するようにしてください。</p> <p>* 平安時代に書かれた長編物語『源氏物語』は、日本の文学・文化に大きな影響を与え、多くの人々を魅了し、また、日本だけでなくとどまらず、世界文学としても高い評価を得ています。この授業では、『源氏物語』全54帖のうち、第5帖・若紫（わかむらさき）巻を講読しながら、その文化的価値とともに、古典がもつ現代的意義を学びます。第5帖・若紫巻は、光源氏が生涯をともにすることになる紫の上と出会ういっぽう、藤壺とも逢瀬を交わし、自らの運命に向きあっていく物語です。この物語をいくつかに分け、毎回、個人またはグループが発表を行い、全員で議論をしながら、読み進めていきます。</p>			
到達目標	<p>◆以下の2つの能力を獲得することを目指します。</p> <p>A 文学を読み解くために必要な専門的資料を探索し、活用することができる。</p> <p>B 自ら鑑賞のポイントを設定して、文学を分析し、過去の社会や文化を批評することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>◆授業外学修について。1回の授業につき、180分の予習・復習が必要です。詳しくは『学生便覧』を参照してください。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回 ガイダンス①・古典文学とは何か／『源氏物語』概説（オンデマンド型オンライン授業、ワークと課題）		◆『源氏物語』について調べてみましょう。		
第2回 ガイダンス②・発表のいろは／担当範囲（Ⅱ）		◆『源氏物語』第5帖を読破しておきましょう。		
第3回 論文を読む①・『源氏物語』の魅力とは何か？（Ⅱ）		◆いろいろな論文を読んでみましょう。		
第4回 論文を読む②・『源氏物語』の読解（Ⅱ）		◆いろいろな論文を読んでみましょう。		
第5回 論文を読む③・CiNiを使ってみよう（Ⅱ）		◆いろいろな論文を読んでみましょう。		
第6回 事前の接続確認（リアルタイム型オンライン授業）		◆オンライン授業で用いるツールを使ってみましょう。		
第7回 発表（1）（Ⅱ）		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第8回 発表（2）（Ⅱ）		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第9回 発表（3）（Ⅱ）		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第10回 発表（4）（Ⅱ）		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第11回 発表（5）（Ⅱ）		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第12回 発表（6）（Ⅱ）		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第13回 発表（7）（Ⅱ）		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第14回 発表（8）（Ⅱ）		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第15回 予備日（Ⅱ）		◆『源氏物語』第5帖のつづきも読んでみましょう。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	◆プレゼンテーション（50％）。たくさん調べて、充実した発表を心がけましょう。			
受講態度他	◆ディスカッション（50％）。毎回、意欲的に議論に加わりましょう。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◆授業でとりあげる文章を、辞書等を参照して、丁寧に読んでください。</p> <p>◆日頃から多くの文学に接するほか、日本文学を題材としたテレビ番組なども積極的に視聴し、知識を深めてください。</p> <p>◆なお、受講生の人数によって、スケジュールや範囲を変更することもあります。授業のテーマ・概要に変更はありません。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症の影響による本学対応のため、当初の予定からシラバスの内容を変更しています。</p>			
教科書	◆プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	<p>◆『源氏物語』をより詳しく知りたいときは、以下の注釈書を推薦します。</p> <p>◎『新潮日本古典集成 源氏物語』全8冊（新潮社、1977年～1985年）</p>			
オフィスアワー	月4限	メールアドレス		

授業科目	古代文学演習Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	須藤 圭		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は「対面授業」のかたちで実施します。授業の指示は、原則、時間割通りの時間帯に筑女ネットをとおして行います。必ず、確認するようにしてください。</p> <p>* 世界文学とも称される『源氏物語』について考えたとき、もっとも面白いことは、連歌や俳句に詠まれたり、絵画や工芸品の題材になったりと、さまざまな形で受け継がれてきたことです。</p> <p>この授業では、それらのうち、『源氏物語』を短くまとめたダイジェスト版ともいうべき梗概書『源氏物語提要』を講読します。室町時代に書かれたこの梗概書を読み解きながら、その目的、意義を考えます。『源氏物語提要』のうち、第5帖・若紫（わかむらさき）巻、第6帖・末摘花（すえつむはな）巻に該当する部分をいくつかに分け、毎回、個人またはグループが発表を行います。</p>			
到達目標	<p>◆以下の2つの能力を獲得することを目指します。</p> <p>A 文学を読み解くために必要な専門的資料を探索し、活用することができる。</p> <p>B 自ら鑑賞のポイントを設定して、文学を分析し、過去の社会や文化を批評することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>◆授業外学修について。1回の授業につき、180分の予習・復習が必要です。詳しくは『学生便覧』を参照してください。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	ガイダンス①・『源氏物語提要』とは何か？（対面授業）	◆『源氏物語』第5帖、第6帖を読破しておきましょう。		
第2回	ガイダンス②・担当範囲決め／発表のいろは（〃）	◆自分の担当範囲を読んでみましょう。		
第3回	ガイダンス③・『源氏物語』享受史の解説（〃）	◆『源氏物語』の享受史について調べてみましょう。		
第4回	発表（1）（〃）	◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第5回	発表（2）（〃）	◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第6回	発表（3）（〃）	◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第7回	発表（4）（〃）	◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第8回	発表（5）（〃）	◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第9回	発表（6）（〃）	◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第10回	発表（7）（〃）	◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第11回	発表（8）（〃）	◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第12回	発表（9）（〃）	◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第13回	発表（10）（〃）	◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第14回	発表（11）（〃）	◆講読範囲の予習・復習をしましょう。		
第15回	発表（予備日）（〃）	◆『源氏物語提要』のつづきも読んでみましょう。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	◆プレゼンテーション（50％）。たくさん調べて、充実した発表を心がけましょう。			
受講態度他	◆ディスカッション（50％）。毎回、意欲的に議論に加わりましょう。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◆授業でとりあげる文章を、辞書等を参照して、丁寧に読んでください。</p> <p>◆日頃から多くの文学に接するほか、日本文学を題材としたテレビ番組なども積極的に視聴し、知識を深めてください。</p> <p>◆なお、受講生の人数によって、スケジュールや範囲を変更することもあります。授業のテーマ・概要に変更はありません。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症の影響による本学対応のため、当初の予定からシラバスの内容を変更しています。</p>			
教科書	◆プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	<p>◆『源氏物語』の享受史をより詳しく知りたいときは、以下の本を推奨します。</p> <p>◎伊井春樹『源氏物語注釈史・享受史事典』（東京堂出版、2001年）</p>			
オフィスワー	水4限	メールアドレス		

授業科目	古代文学概論（日本文学史を含む）【講義】		開講時期	前期
担当教員	須藤 圭		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は「オンデマンド型オンライン授業」のかたちで実施します。授業の指示は、原則、時間割通りの時間帯に筑女ネットをとおして行います。必ず、確認するようにしてください。</p> <p>* 奈良時代から江戸時代に至るまで、およそ1000年にわたって、多くの文学が書かれ続けてきました。そこには、人間の本质が活写され、さまざまな価値観が描かれているといえます。この授業では、長い年月をかけて日本文学史の中に熟成されてきた古典文学のうち、奈良時代（上代）、平安時代（中古）に書かれた文学の気脈を感じとりつつ、その発展と衰退の歴史を学びます。毎回、具体的にひとつ以上の作品をとりあげ、その文学史上の意義を考えながら、関連分野も包括しつつ解説します。文学史はすでに自明のものであるかもしれませんが、各自が改めて「文学史」なるものについて考えていくことを期待します。</p>			
到達目標	<p>◆以下の2つの能力を獲得することを目指します。</p> <p>A 日本文学史（古代）の概略を説明することができる。</p> <p>B 文学がもつ問題を自分自身の問題として捉えなおし、論じることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日（2）-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日（3）-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>◆授業外学修について。1回の授業につき、180分の予習・復習が必要です。詳しくは『学生便覧』を参照してください。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	ガイダンス・古典文学／文学史を学ぶことの意味	◆プリントにひととおり目を通しておきましょう。		
第2回	神話と伝承 『古事記』『日本書紀』	◆「記紀」の予習・復習をしましょう。		
第3回	万葉の世界 『万葉集』	◆「和歌」の予習・復習をしましょう。		
第4回	漢詩文 『菅家文草』など	◆「漢詩文」の予習・復習をしましょう。		
第5回	うたと修辞 『古今和歌集』	◆「勅撰集」の予習・復習をしましょう。		
第6回	物語の誕生 『竹取物語』	◆「伝奇物語」の予習・復習をしましょう。		
第7回	物語の構造 『伊勢物語』	◆「歌物語」の予習・復習をしましょう。		
第8回	もののあはれ 『源氏物語』	◆「源氏物語」の予習・復習をしましょう。		
第9回	源氏物語以後 『夜の寝覚』『狭衣物語』など	◆「物語」の予習・復習をしましょう。		
第10回	歴史・回想 『栄花物語』『大鏡』	◆「歴史物語」の予習・復習をしましょう。		
第11回	仮名の特徴 『土左日記』	◆「日記」の予習・復習をしましょう。		
第12回	日記を書くこと 『蜻蛉日記』『更級日記』など	◆「自照文学」の予習・復習をしましょう。		
第13回	後宮の文学 『枕草子』	◆「随筆」の予習・復習をしましょう。		
第14回	説話・「集」 『今昔物語集』	◆「説話」の予習・復習をしましょう。		
第15回	まとめ・中世／近世文学への展開	◆この授業で学んだことの復習をしましょう。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	◆期末レポート（60％）。授業内容の理解度をはかるためのレポートを課します。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	◆ワークと課題（40％）。インターネット上でワークと課題を配信します。 ※なお、皆さんから寄せられた疑問や質問は、次回の授業時にとりあげて、解説します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◆授業でとりあげる作品に目をおし、教科書の関連事項を読んできてください。</p> <p>◆日頃から多くの文学に接するほか、日本文学を題材としたテレビ番組なども積極的に視聴し、知識を深めてください。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症の影響による本学対応のため、当初の予定からシラバスの内容を変更しています。</p>			
教科書	◆プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	なし。			
オフィスワー	月4限	メールアドレス		

授業科目	古代文学講読 I 【講義】		開講時期	前期
担当教員	辛島 正雄		単 位	2
授業の目的と概要	現存する唯一の短編物語集である『堤中納言物語』から、2編を取り上げ、教科書を用いて読み進めるなかで、この作品の特徴を説明できるようになること、また、古代文学ならではの作品のありかたについて、現代との相違を意識しながら説明できるようになることを目的とする。			
到達目標	(1) 古代文学を原文で読めるようになる。 (2) 古代文学の特質やその背景を説明できるようになる。 (3) 現代とは異なる古代文学の世界について意見が述べられるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第1回 ガイダンス			次回の範囲を予習しておくこと。	
第2回 「花桜折る少将」その1 (題名について)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第3回 「花桜折る少将」その2 (教科書11ページ～12ページ8行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第4回 「花桜折る少将」その3 (教科書12ページ9行～14ページ2行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第5回 「花桜折る少将」その4 (教科書14ページ3行～15ページ11行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第6回 「花桜折る少将」その5 (教科書15ページ12行～17ページ4行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第7回 「花桜折る少将」その6 (教科書17ページ5行～18ページ)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第8回 「虫めづる姫君」その1 (教科書31ページ～32ページ9行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第9回 「虫めづる姫君」その2 (教科書32ページ10行～33ページ14行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第10回 「虫めづる姫君」その3 (教科書33ページ14行～36ページ9行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第11回 「虫めづる姫君」その4 (教科書36ページ10行～39ページ2行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第12回 「虫めづる姫君」その5 (教科書39ページ2行～41ページ1行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第13回 「虫めづる姫君」その6 (教科書41ページ1行～42ページ14行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第14回 「虫めづる姫君」その7 (教科書43ページ1行～44ページ)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第15回 「虫めづる姫君」その8 総括			ノートを整理し、復習しておくこと。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	%			
小テスト等	70%			
成果発表	%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は授業にのみ集中すること。周囲に迷惑のかかるような行為は厳禁とし、そのような行為に対しては厳正に対処する。受講に当たっては、各自でノートを準備し、事前に物語本文を書き写したうえで、読み解くために必要と思われる情報を調査・確認し、適宜書き込みながら、理解を深めてゆくことに努めてほしい。			
教科書	大槻修校注『堤中納言物語』(岩波文庫)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	古代文学講読Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	辛島 正雄		単 位	2
授業の目的と概要	現存する唯一の短編物語集である『堤中納言物語』から、2編を取り上げ、教科書を用いて読み進めるなかで、この作品の特徴を説明できるようになること、また、古代文学ならではの作品のありかたについて、現代との相違を意識しながら説明できるようになることを目的とする。			
到達目標	(1) 古代文学を原文で読めるようになる。 (2) 古代文学の特質やその背景を説明できるようになる。 (3) 現代とは異なる古代文学の世界について意見が述べられるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			次回の範囲を予習しておくこと。	
第2回 「貝合」の題名について			次回の範囲を予習しておくこと。	
第3回 「貝合」その1 (教科書73ページ～74ページ2行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第4回 「貝合」その2 (教科書74ページ～76ページ12行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第5回 「貝合」その3 (教科書76ページ12行～79ページ2行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第6回 「貝合」その4 (教科書79ページ3行～81ページ7行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第7回 「貝合」その5 (教科書81ページ7行～83ページ)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第8回 「貝合」の補足と「はいずみ」の題名			次回の範囲を予習しておくこと。	
第9回 「はいずみ」その1 (教科書119ページ～121ページ1行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第10回 「はいずみ」その2 (教科書121ページ2行～123ページ4行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第11回 「はいずみ」その3 (教科書123ページ5行～125ページ6行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第12回 「はいずみ」その4 (教科書125ページ6行～127ページ6行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第13回 「はいずみ」その5 (教科書127ページ7行～129ページ6行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第14回 「はいずみ」その6 (教科書129ページ6行～131ページ2行)			次回の範囲を予習しておくこと。	
第15回 「はいずみ」その7 (教科書131ページ2行～最後) +まとめ			ノートを整理し、復習しておくこと。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	無し			
レポート	%			
小テスト等	70% (教科書・ノート・資料持ち込み可)			
成果発表	%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は授業にのみ集中すること。周囲に迷惑のかかるような行為は厳禁とし、そのような行為に対しては厳正に対処する。受講に当たっては、各自でノートを準備し、事前に物語本文を書き写したうえで、読み解くために必要と思われる情報を調査・確認し、適宜書き込みながら、理解を深めてゆくことに努めてほしい。			
教科書	大槻修校注 『堤中納言物語』 (岩波文庫)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業前後に相談してください。	メールアドレス		



授業科目	古典文学基礎演習【演習】		開講時期	前期
担当教員	須藤 圭		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は「オンデマンド型オンライン授業」のかたちで実施します。授業の指示は、原則、時間割通りの時間帯に筑女ネットをとおして行います。必ず、確認するようにしてください。</p> <p>* 時代を超えて語り継がれてきた『古今和歌集』や『源氏物語』『徒然草』といった古典文学は、わたしたちに多くのことを教えてくれます。その一方で、今とは違うことばや息づかいで書かれた古典文学を読み解くためには、専門的な知識や技能も必要不可欠です。この授業では、『伊勢物語』をテキストにしなが、古典文学の読みかたを学びます。『伊勢物語』は、平安時代に成立した「愛」と「みやび」の物語です。この物語をいくつかに分し、一人ひとりの担当範囲を決め、具体的に調査・報告を行いながら、読み進めていきます。</p>			
到達目標	<p>◆以下の2つの能力を獲得することを目指します。</p> <p>A 文学を読み解くために必要な基礎的資料を探索し、活用することができる。</p> <p>B 文学や文化に関心を寄せ、分析することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>◆授業外学修について。1回の授業につき、180分の予習・復習が必要です。詳しくは『学生便覧』を参照してください。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回 ガイダンス・古典文学とは何か／『伊勢物語』概説（オンデマンド型オンライン授業、ワークと課題）		◆『伊勢物語』を読破しておきましょう。		
第2回 古典文学の読み方①・『伊勢物語』第三段（Ⅱ）		◆授業の復習をして、自分じしんの報告範囲を読解しましょう。		
第3回 古典文学の読み方②・『伊勢物語』初段（Ⅱ）		◆授業の復習をして、自分じしんの報告範囲を読解しましょう。		
第4回 担当範囲を調べてみよう（Ⅱ）		◆授業の復習をして、自分じしんの報告範囲を読解しましょう。		
第5回 報告（1）（Ⅱ）		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第6回 報告（2）（Ⅱ）		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第7回 報告（3）（Ⅱ）		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第8回 報告（4）（Ⅱ）		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第9回 報告（5）（Ⅱ）		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第10回 報告（6）（Ⅱ）		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第11回 報告（7）（Ⅱ）		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第12回 報告（8）（Ⅱ）		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第13回 報告（9）（Ⅱ）		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第14回 報告（10）（Ⅱ）		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第15回 報告（11）（Ⅱ）		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	◆小レポート（30％）。たくさん調べて、充実した報告を心がけましょう。			
受講態度他	◆コメント（70％）。毎回、意欲的に疑問や感想を述べましょう。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◆古典文学は、抜群に面白いです。たくさん読んでみてください。</p> <p>◆日頃から多くの文学に接するほか、日本文学を題材としたテレビ番組なども積極的に視聴し、知識を深めてください。</p> <p>◆なお、受講生の人数によって、スケジュールや範囲を変更することもあります。授業のテーマ・概要に変更はありません。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症の影響による本学対応のため、当初の予定からシラバスの内容を変更しています。</p>			
教科書	◆以下のテキストを使用します。準備しておいてください。 ◎『ビギナーズクラシックス 伊勢物語』（角川ソフィア文庫、角川書店、2007年）			
指定図書	なし。			
参考図書	なし。			
オフィスアワー	月4限	メールアドレス		

授業科目	古典文学基礎演習【演習】		開講時期	後期
担当教員	須藤 圭		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は「オンデマンド型オンライン授業」のかたちで実施します。授業の指示は、原則、時間割通りの時間帯に筑女ネットをとおして行います。必ず、確認するようにしてください。</p> <p>* 時代を超えて語り継がれてきた『古今和歌集』や『源氏物語』『徒然草』といった古典文学は、わたしたちに多くのことを教えてくれます。その一方で、今とは違うことばや息づかいで書かれた古典文学を読み解くためには、専門的な知識や技能も必要不可欠です。</p> <p>この授業では、『伊勢物語』をテキストにしなが、古典文学の読みかたを学びます。『伊勢物語』は、平安時代に成立した「愛」と「みやび」の物語です。この物語をいくつかに分け、一人ひとりの担当範囲を決め、具体的に調査・報告を行いながら、</p>			
到達目標	<p>◆以下の2つの能力を獲得することを目指します。</p> <p>A 文学を読み解くために必要な基礎的資料を探索し、活用することができる。</p> <p>B 文学や文化に関心を寄せ、分析することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>◆授業外学修について。1回の授業につき、180分の予習・復習が必要です。詳しくは『学生便覧』を参照してください。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	ガイダンス・古典文学とは何か／『伊勢物語』概説（オンデマンド型オンライン授業、ワークと課題）	◆『伊勢物語』を読破しておきましょう。		
第2回	古典文学の読み方①・『伊勢物語』第三段（Ⅱ）	◆授業の復習をして、自分じしんの報告範囲を読解しましょう。		
第3回	古典文学の読み方②・『伊勢物語』初段（Ⅱ）	◆授業の復習をして、自分じしんの報告範囲を読解しましょう。		
第4回	担当範囲を調べてみよう（Ⅱ）	◆授業の復習をして、自分じしんの報告範囲を読解しましょう。		
第5回	報告（1）（Ⅱ）	◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第6回	報告（2）（Ⅱ）	◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第7回	報告（3）（Ⅱ）	◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第8回	報告（4）（Ⅱ）	◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第9回	報告（5）（Ⅱ）	◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第10回	報告（6）（Ⅱ）	◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第11回	報告（7）（Ⅱ）	◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第12回	報告（8）（Ⅱ）	◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第13回	報告（9）（Ⅱ）	◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第14回	報告（10）（Ⅱ）	◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。		
第15回	まとめ	◆授業の内容をふまえて、『伊勢物語』を再読してみよう。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	◆小レポート（30％）。たくさん調べて、充実した報告を心がけましょう。			
受講態度他	◆コメント（70％）。毎回、意欲的に疑問や感想を述べましょう。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◆古典文学は、抜群に面白いです。たくさん読んでみてください。</p> <p>◆日頃から多くの文学に接するほか、日本文学を題材としたテレビ番組なども積極的に視聴し、知識を深めてください。</p> <p>◆なお、受講生の人数によって、スケジュールや範囲を変更することもあります。授業のテーマ・概要に変更はありません。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症の影響による本学対応のため、当初の予定からシラバスの内容を変更しています。</p>			
教科書	◆以下のテキストを使用します。持参してください。 ◎『ビギナーズクラシックス 伊勢物語』（角川ソフィア文庫、角川書店、2007年）			
指定図書	なし。			
参考図書	なし。			
オフィスワー	水4限	メールアドレス		

授業科目	古典文学入門【講義】		開講時期	前期
担当教員	桐島 薫子・安永 美恵		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業では、中国文学（漢文・漢詩）と日本文学（古文）に関して基本的な語法を学びながら分かり易い作品を読解し、大学での古典学習に取り組んでいくための能力を身につけることを目的としています。具体的には、高校で古典（古文・漢文）を学んでいなかったり、学んできたが復習したいと考えていたりする学生を対象とし、中国文学・日本文学の関連科目を学習するために必要な基礎的な事柄を学びます。さらに、古典文学に関わる事柄（歴史・人物など）を知り、興味・関心を広げていく機会も設けます。</p> <p>また、現代に伝わる古典世界に触れることで、当時の倫理観・人間観・論理的な思考が反映した文章を学ぶこと、多様な情報の中から必要なものを取捨選択していくための基礎力を身につけることも目指します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中国文学：漢文訓読の方法や語法を学び、習熟することができる。</li> <li>2 中国文学：授業で学んだ作品について、文章の構成を理解し、内容を正しく解釈することができる。</li> <li>3 中国文学：授業学んだ作品について、ジャンルや時代背景を学び、視野を広げることができる。</li> <li>4 日本文学：歴史的仮名遣いや、古典の基礎知識を学び、習熟することができる。</li> <li>5 日本文学：授業で学んだ作品や文章について、構成や登場人物の関係を理解し、内容を正しく解釈することができる。</li> <li>6 日本文学：日本文学：基礎的な古典文法を理解し、練習問題を解くことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日(3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。・中国文学では、1年後期「中国文学概論」や2年「中国文学講読ⅠⅡ」で取り扱う作品を理解するための初歩的な漢文の語法を学びます。・日本文学では1年次の「古代文学概論」「中・近世文学概論」や2年次の「古代文学講読ⅠⅡ」「中・近世文学講読ⅠⅡ」で取り扱う内容を理解するための初歩的な知識を学びます。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業全体のガイダンス、古典文学について興味・関心を広げよう（身近な例の紹介）	授業の内容を復習し、身に付けたい力を考える		
第2回	中国文学：漢文の基本形式・訓読の仕方①	プリントの復習（関連箇所：教科書p94-96）		
第3回	中国文学：訓読の仕方②、書き下し文	プリントの復習（関連箇所：教科書p97-100）		
第4回	中国文学：熟語の構成、漢文の語法（句法のまとめ）の概略	プリントの復習（関連箇所：教科書156-157、3）		
第5回	中国文学：作品を読む（文学史・訓読）	作品の文学史の復習、訓読の復習		
第6回	中国文学：作品を読む（語釈・通釈）	語釈・通釈の復習		
第7回	中国文学：作品を読む（語順と訓点の関係）	語順と訓点の復習		
第8回	中国文学：総復習（訓読と白文など）	総復習、レポートに取り組む		
第9回	日本文学：歴史的仮名遣い・古語と現代語	授業内容の復習、問題集（基礎編4まで）		
第10回	日本文学：用言の活用（動詞、形容詞、形容動詞）	授業内容の復習、問題集（基礎編8まで）		
第11回	日本文学：助動詞（1）	授業内容の復習、問題集（本編4まで）		
第12回	日本文学：助動詞（2）	授業内容の復習、問題集（本編9まで）		
第13回	日本文学：助詞・係り結び	授業内容の復習、問題集（本編15まで）		
第14回	日本文学：和歌の修辞	授業内容の復習、問題集（本編19まで、23）		
第15回	日本文学：総復習	総復習、レポートに取り組む		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10%（中国文学5%、日本文学5%）			
小テスト等	75%（毎回の課題）			
成果発表	なし			
受講態度他	15%（授業への参加態度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内容やお知らせは、「筑女ネット」上で行います。毎回、必ず確認して下さい。</li> <li>2. 授業には、積極的な態度で臨みましょう。</li> </ol>			
教科書	<p>・日本文学：日楽社編集所編『解釈のための 新・古典文法ノート』日楽社、配布プリント</p> <p>・中国文学：森野繁夫・佐藤利行著『漢文 まとめと要点』白帝社、配布プリント</p>			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	(安永) 火曜4限、金曜5限 (桐島) 金曜5限	メールアドレス		

授業科目	子ども家庭福祉【講義】		開講時期	前期
担当教員	牛島 豊広		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業は、子どもの暮らしを保障するための制度、実施体系について学ぶことを目的とする。今日の社会的課題ともなっている児童虐待、子どもの貧困、DV、障がい、母子保健、健全育成等について、子どもの命や暮らし、権利を保障していくための支援の取り組みを理解をしていく。特に社会福祉に関する制度、サービスに基づいた支援の視点を学んでいく。また、地域の子育て支援の取り組みについて学び、保育施設との連携のあり方について学びを深めていくこととする。すべての子どもたちは地域で安心して生活を営む権利を有しており、子どもの人権擁護の歴史の変遷をふまえ、その意識を高めていく中で、現代社会に求められる制度、サービスのあり方について考察していく。</p>			
到達目標	<p>①子どもの権利の保障に対する保育者の支援について説明することができる。  ②子ども家庭福祉に関わる法律、制度、支援サービスについて説明することができる。  ③支援を要する子ども、家庭、地域社会に対する支援について説明することができる。  ④児童虐待、DV、少年非行、母子保健サービス及び児童健全育成等に対する実践的な支援の取り組みについて説明することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。  幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	子どもの暮らしと保育者の専門性	子どもと家族を取り巻く現代社会を事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第2回	子ども家庭福祉の理念	自立支援、子どもの権利保障を事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第3回	子どもの権利の保障と児童福祉法	子どもの権利に関する条約について事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第4回	子ども家庭福祉の制度と法体系	子ども家庭福祉領域の法律、制度を事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第5回	子育て支援及び次世代育成支援	少子化対策について事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第6回	ひとり親家庭への支援及び母子保健施策	ひとり親家庭への支援について事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第7回	子どもの貧困の理解と支援	子どもの貧困の考え方について事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第8回	子ども虐待の現状と保育者の支援	子ども虐待の現状について事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第9回	子ども虐待防止に関する法施策と支援	子ども虐待防止に関する専門機関を事前学習し授業資料で事後学習をする。		
第10回	子ども家庭福祉の実践的な支援の課題	子どもの福祉に視点による支援を事前学習し授業資料で事後学習をする。		
第11回	DVの現状と保護者支援の取り組み	DVの現状について事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第12回	社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策	社会的養護の考え方について事前学習し、授業資料で事後学習をする		
第13回	障がいのある子どもたちの福祉と支援	それぞれが有する障がい観を事前にまとめ、授業資料で事後学習をする。		
第14回	少年非行の理解と支援	少年非行に対する支援について事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第15回	子ども家庭福祉の専門職と連携	子ども家庭福祉領域の専門職について事前学習し授業資料で事後学習をする。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% (講義内容に関するレポート試験を行う)			
レポート	90% (講義内レポート等)			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	10% (講義内の発言、取り組みの姿勢等)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>子どもの福祉に関するニュースや新聞記事にふれ、それに対する自らの意見をもち授業に参加してほしい。  授業において資料を配布する。</p>			
教科書	喜多一憲 監修・堀場純矢編『子ども家庭福祉 (みらい×子どもの福祉ボックス)』 みらい			
指定図書	-			
参考図書	随時紹介する			
オフィスアワー	月曜日5限	メールアドレス		

授業科目	子ども環境論【講義】		開講時期	前期
担当教員	安恒 万記 豊増 美喜		単位	2
授業の目的と概要	<p>未来を担う子どもたちが心身ともに健康に育つことができる環境を保障することは社会の責任です。「子ども環境論」では、子どもの育つ環境を総合的に見つめ、住環境を中心に子どもの成育環境の問題を探り、そのあり方を考えます。さまざまな環境が子どもの心身に与える影響を深く理解し、豊かな成育環境の実現に向けて自ら考え、創意工夫する力を養うことを目的とします。</p> <p>授業は講義を中心に、DVDなどによる映像も使用しながら、子どもの成育環境の問題を探ります。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの成育環境を総合的に説明することができる。</li> <li>2. さまざまな環境が子どもの心身に与える影響を分析することができる。</li> <li>3. 子どもの成育環境における課題の解決に向けて自ら考え、取り組むことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>初 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>幼 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は都市・地方計画設計関係企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 子どもと環境について			情報の整理	
第2回 子どもの家庭環境① 変化する家族形態			家族形態について調べる	
第3回 子どもの家庭環境② 家族機能の変化			社会の問題を調べる	
第4回 子どもの虐待—その背景			虐待について調べる	
第5回 子育て支援			コロナ禍の遊びの支援を考える	
第6回 子どもと住まい			住宅について調べる	
第7回 子どもとまち～地域で育つ			まちの問題を考える	
第8回 子どもの遊び環境～遊びのサンマ			子どもの遊びを考える	
第9回 子どもと自然			自然環境について考える	
第10回 放課後の子どもの環境			学童保育について調べる	
第11回 ドイツの事例（プレイカーなど）			事例収集	
第12回 ビオトープ・園庭			事例収集	
第13回 プレイパーク			事例収集	
第14回 プレイリーダーと子どもたち			事例収集	
第15回 まとめとレポート			これまでのプリントを復習すること	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% 授業の感想の記述より評価する			
小テスト等	20% 最終週のレポート課題（1）より評価する			
成果発表	20% 最終週のレポート課題（2）より評価する			
受講態度他	20% 授業の出席などを考慮する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行うので、前回の講義内容を復習しておくこと。</p> <p>配布プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。</p>			
教科書	プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します			
オフィスワーク	大学での授業の場合は授業の前後、遠隔授業の場合はメール等の利用	メールアドレス		

授業科目	子どもと環境【講義】		開講時期	後期
担当教員	安恒 万記		単 位	2
授業の目的と概要	<p>未来を担う子どもたちが心身ともに健康に育つことができる環境を保障することは社会の責任です。  「子どもと環境」では、子どもの育つ環境を総合的に見つめ、住環境を中心に子どもの成育環境の問題を探り、そのあり方を考えます。さまざまな環境が子どもの心身に与える影響を深く理解し、豊かな成育環境の実現に向けて自ら考え、創意工夫する力を養うことを目的とします。  授業は講義を中心に、DVDなどによる映像も使用しながら、子どもの成育環境の問題を探ります。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの成育環境を総合的に説明することができる。</li> <li>2. さまざまな環境が子どもの心身に与える影響を分析することができる。</li> <li>3. 子どもの成育環境における課題の解決に向けて自ら考え、取り組むことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は都市・地方計画設計関係企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	子どもと環境について	情報の整理		
第2回	子どもの家庭環境～変化する家族形態（グループワーク）	家族形態について調べる		
第3回	子どもの成長と発達	社会の問題を調べる		
第4回	子どもの虐待—その背景（グループワーク）	虐待について調べる		
第5回	子育て支援	社会の問題を考える		
第6回	子どもと住まい	住宅について調べる		
第7回	子どもとまち～地域で育つ	まちの問題を考える		
第8回	子どもの遊び環境～遊びのサンマ	子どもの遊びを考える		
第9回	子どもと自然	自然環境について考える		
第10回	子どもと環境教育～ドイツの事例	事例収集		
第11回	ドイツ森の幼稚園	事例収集		
第12回	ビオトープ	事例収集		
第13回	プレイパーク	事例収集		
第14回	パークマネジメント	事例収集		
第15回	まとめ	子どもの環境についての課題の整理		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	85％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	15％ 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行うので、前回の講義内容を復習しておくこと。  配布プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。</p>			
教科書	プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します			
オフィスアワー	木曜日 9：10～12：20	メールアドレス		

授業科目	子どもの健康と安全【演習】		開講時期	後期
担当教員	原田 博子		単位	2
授業の目的と概要	保育における保健的観点を理解した上で、保育士としての具体的な対応ができるようになることを目的としています。グループワークを通して、具体的対応について考えます。また、新生児モデル人形や2歳児モデル人形などを使用し、テーマ別に技術を習得します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育における保健的観点を踏まえた保健環境や援助について理解する。</li> <li>2. 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。</li> <li>3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>4. 保育における感染症対策について、具体的に理解する。</li> <li>5. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼(3)-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は看護・助産師としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション/子どもの健康と保育環境	他職種「保育所看護師」の職域について調べる		
第2回	体調変化の際の個別対応/体温測定・呼吸測定・脈拍測定	体温測定ワークシートへの考察記入		
第3回	衛生管理/手洗い	手洗いワークシートへの考察記入		
第4回	事故防止及び安全対策/チャイルドビジョン作成	チャイルドビジョン体験ワークシートに考察記入		
第5回	保育における災害への備え①グループワーク	課題：教科書 p.33 (課題9)		
第6回	保育における災害への備え①グループワーク発表	教科書p.29 例4 を使用し、危険予測を各自で行う		
第7回	体調不良時の対応/傷害時の応急処置/薬の投薬	課題：教科書 p.45		
第8回	心肺蘇生法	心肺蘇生法体験ワークシートに相殺記入		
第9回	保育所における感染対策	感染症予防のため保護者に伝えておくことをまとめる		
第10回	乳児の抱き方	抱き方ワークシートに考察を記入		
第11回	衣服の着せ方	衣服の着せ方ワークシートに考察を記入		
第12回	身体計測	身体計測ワークシートに考察を記入		
第13回	おむつ交換	おむつ交換ワークシートに考察を記入		
第14回	授乳	授乳ワークシートに考察を記入		
第15回	沐浴	感想用紙に15回の総括を記入		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	動画を見ての振り返りシート5枚(各10点満点)			
小テスト等	課題4つ(各5点満点)			
成果発表	0%			
受講態度他	30%(学びの軌跡記載による評価と演習の受講態度)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度が評価の対象になっています。グループ活動が主ですので、その参加態度も評価します。事情がある場合はお知らせください。			
教科書	小林美由紀 『子どもの健康と安全演習ノート』 診断と治療社			
指定図書	なし			
参考図書	あすみ福祉会 『見る・考える・創り出す乳児保育』 萌文書林			
オフィスワー	月曜日4限	メールアドレス		

授業科目	子どもの食と栄養【演習】		開講時期	前期
担当教員	武部 幸世・大倉 志保子		単位	2
授業の目的と概要	子どもの栄養と食生活が健康と生活の基礎であることを理解し、成長していく過程において子どもに適切な食事指導ができるようにする。また、食事が心の健康と疾病に大きく影響することを認識する。 食は生命を維持するために必要不可欠である。子どもの食生活は順調な発育・発達を促す特性があり、適切に食べる必要がある。その時期に適した食事の特殊性を理解し、子どもにとって望ましい食事内容・組み合わせ方・調理内容を講義、実習で学ぶ。			
到達目標	① 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する知識を理解する。 ② 子どもの発育、発達と食生活の関連について理解する。 ③ 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。 ④ 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 ⑤ 特別な配慮をする子どもの食と栄養について理解する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	子どもの健康と食生活の意義(子どもの心身の健康と食生活)	子どもの食生活をめぐる現状と課題		
第2回	栄養に関する基礎知識①(炭水化物・たんぱく質・脂質)	栄養に関する基礎知識②(ビタミン・無機質)		
第3回	食事摂取基準とその活用	献立作成と調理の基本		
第4回	子どもの発育・発達と食生活(妊娠期・授乳期)	演習(調乳)レポート		
第5回	子どもの発育・発達と食生活(乳児期・離乳期(離乳の意義と進め方))	演習(離乳食(初期))レポート		
第6回	子どもの発育・発達と食生活(幼児期の心身の発達と食生活)	演習(離乳食(後期))レポート(P108~119を読んでおく)		
第7回	子どもの発育・発達と食生活(幼児期の間食)	演習(幼児期(間食))レポート(P120~125を読んでおく)		
第8回	学童期・思春期の心身の発達と食生活および生涯発達と食生活	演習(学童期)レポート(P128~141を読んでおく)		
第9回	食育の基本と内容(食育における養護と教育の一体性)	食育の内容と計画、評価および改善(P144~156を読んでおく)		
第10回	食育のための環境と支援(食育を通じた家庭や地域との連携及び支援)	子どもと一緒に作る料理を考える・レポート		
第11回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	障害児入所および通所施設における食事と栄養		
第12回	保育所給食の実践	演習(保育所給食(3~5歳児))レポート		
第13回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①(体調不良、食中毒、障害)	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②(慢性疾患)		
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養③(食物アレルギー)	演習(食物アレルギー食)レポート(P202~214を読んでおく)		
第15回	総復習	これまでの授業の振り返り		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 毎回の講義についての感想(課題)、質問を指定期日までに送付すること。送られた質問等は適宜返却します。 60% 講義全体についてのレポート(課題は後日提示)を評価・採点します			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業への参加・取り組み等(毎回のレポート内容から判断します)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	なし			
教科書	松本峰雄 監修 大江敏江 他著 『子どもの食と栄養 演習ブック』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	武藤 静子監修『小児栄養理論と実習』			
オフィスワー	質問等は、下記メールアドレスへ。	メールアドレス		



授業科目	子どもの保健【講義】	開講時期	前期
担当教員	原田 博子	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では子どもの身体・発達の特徴についての基本的知識を身につけ、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について学ぶことを目的とする。</p> <p>小児期によく遭遇する疾病や障害を解説し、その予防法や対応の仕方について講義するとともに、保育における環境や衛生管理ならびに安全管理についての学習を促す。さらに、保育所だけでなく施設における子どもの心身の健康および安全対策についても授業する。</p> <p>授業形態は講義を中心とする。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。</li> <li>2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。</li> <li>3. 子どもの心身の健康状態ととの把握方法について理解する。</li> <li>4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は看護・助産師としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回	保健活動の意義と目的	課題 「インクルーシブ保育」について調べ、わかったことを書く	
第2回	子どもの出生と母子保健の意義	課題 「合計特殊出生率」について用語の説明を書く	
第3回	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	課題 「世界の各国における乳児死亡率」について調べ、わかったことを書く	
第4回	子どもの身体発育と運動機能の発達	課題 「サーカディアンリズム」について用語の説明を書く	
第5回	生理機能の発達と生活習慣	課題 「保健師」「ソーシャルワーカー」はどのような資格なのか	
第6回	地域における保健活動	課題 「子どもの平熱」について調べ、わかったことを書く	
第7回	子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握	課題 「細菌」と「ウイルス」の違いについて調べ、わかったことを書く	
第8回	子どもの免疫の発達と感染症の特徴	課題 「病原体の感染経路」にはどのようなものがあるかについて	
第9回	感染症の予防および適切な対応	課題 「救急車を呼ぶかどうか迷ったとき」どうすればよいか	
第10回	救急疾患の特徴と適切な対応	課題 「アナフィラキシー」について調べ、わかったことを書く	
第11回	新生児の病気. 新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応	課題 「アレルギー」について用語の説明を書く	
第12回	アレルギー疾患の特徴と適切な対応	課題 「慢性疾患」とはどのようなものか調べ、わかったことを書く	
第13回	慢性疾患の特徴と適切な対応	課題 「病児保育事業」とはどのようなものか調べ、わかったことを書く	
第14回	保護者との情報共有と家族の支援	課題 「保健所」とはどこなところか調べ、わかったことを書く	
第15回	子どもの健康診断と関連機関との連携	最終課題 【ワークシート】提出 別途説明筑女ネット科目にあり	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	第15回目最終課題提出 【ワークシート:Wordの指定用紙あり】8/3(16:00)~8/10(0:00)の間に筑女ネットにて提出40%		
小テスト等	第1回から第14回 授業外学修課題提出【Forms使用】60%		
成果発表	なし		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*《各回の課題について》第1回から第14回までは筑女ネット科目においてある課題提出用Formsに書いてください。提出期限:時間割の授業日から2週間以内に提出すること。(例:第1回4/27の課題は5/10締め切りです。)200字以内で書いてください。</p> <p>*《最終課題について》第1回から第14回までの内容でわからないことを各自で調べ、わかったことを記載する【ワークシート】を筑女ネットにアップしています。毎回記入をしておいてください。それを最終課題とし、第15回目に筑女ネット科目のところから提出します。200字以内で書いてください。</p>		
教科書	小林美由紀 『子どもの保健テキスト』 診断と治療社		
指定図書	なし		
参考図書	渡辺博 『子どもの保健 改訂第3版新装版』 中山書店		
オフィスアワー	月曜日4限目	メールアドレス	

授業科目	子どもの理解と援助【演習】	開講時期	後期
担当教員	牛島 豊広	単位	2
授業の目的と概要	本授業は、保育実践において子どもそれぞれの心身の発達について把握し、また、保護者理解のための基本的態度を学ぶことを目的とする。子どもを理解する場面として、子どもの生活や遊び等の活動、保育者と子どもの関わり、子ども同士の関わり、保育者と保護者に焦点をあてていく。また、子どもを理解する方法として、観察や記録、カンファレンス等を取り上げ理解を深めていく。他に、保護者理解として、その基本的な関わりを学び、地域の子育て支援での取り組みを理解する。さらに、保育者の同僚性を取り上げ職員間の連携のあり方を考察していく。		
到達目標	①子どもの発達や学びとその過程について説明することができる。 ②保育における観察と記録の取り組みについて説明することができる。 ③子どもを理解するための保育カンファレンスについて説明し取り組み方法を説明することができる。 ④子どもを理解するための保育者同士の関係性について説明することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼(3)-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	子どもを理解する保育者の視点	子どもを理解することの意味について事前学習し授業資料で事後学習をする。	
第2回	子どもを理解することの意義	子どもの視座に立った援助について事前学習し、授業資料で事後学習をする。	
第3回	子どもへの共感的理解	保育者が取り組む共感について事前学習し、授業資料で事後学習をする。	
第4回	子どもの理解と保育の取り組み	保育者の専門性について事前学習し、授業資料で事後学習をする。	
第5回	子どもの発達と保育環境	保育活動における環境の意義について事前学習し、授業資料で事後学習をする。	
第6回	子どもの生活や遊びの理解と保育	保育現場での子どもの生活について事前学習し、授業資料で事後学習をする。	
第7回	保育における環境の理解と構成	保育者取り組む環境構成について事前学習し、授業資料で事後学習をする。	
第8回	保育の環境の変化と子ども理解	環境の変化と子どもの関係について事前学習し授業資料で事後学習をする。	
第9回	子ども理解における観察	保育現場における観察の取り組みを事前学習し、授業資料で事後学習をする。	
第10回	記録にもとづく保育カンファレンス	カンファレンスの意味と意義を事前学習し、授業資料で事後学習をする。	
第11回	発達の課題に応じた援助と関わり	子どもの発達における課題について事前学習し、授業資料で事後学習をする。	
第12回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	特別なニーズの言葉と内容について事前学習し授業資料で事後学習をする。	
第13回	子ども理解における保育者の今後の課題	子ども理解における保育者の専門性を事前学習し、授業で事後学習をする。	
第14回	保育者の理解と援助の基本	保育における同僚性について事前学習し、授業で事後学習をする。	
第15回	発達の連続性と就学への支援	子どもを理解することの振り返りを行い、授業資料で事後学習をする。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	80%(講義内容に関するレポート試験を行う)		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20%(講義内のワーク)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	子どもの福祉に関するニュースや新聞記事にふれ、それに対する自らの意見をもち授業に参加してほしい。授業において資料を配布する。		
教科書	高嶋景子・砂上史子編『新しい保育口座3 子どもの理解と援助』ミネルヴァ書房		
指定図書	-		
参考図書	随時紹介する		
オフィスアワー	月曜日5限	メールアドレス	

授業科目	古文読解【講義】	開講時期	後期
担当教員	須藤 圭	単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は「リアルタイム型オンライン授業」のかたちで実施します。授業の指示は、原則、時間割通りの時間帯に筑女ネットをとおして行います。必ず、確認するようにしてください。</p> <p>* 古文を読み解くために必要な文法、単語、敬語法、また、古典常識、文学史の知識を養い、読解力を身につけます。わたしたちが現代語で文章を書いたり、読んだりするとき、文法や単語を意識することはほとんどありません。古文が書かれた時代もおそらく同じだったことでしょう。だからこそ、古文を読むためには、たくさんの文章に接し、たくさんの実践的なトレーニングを経なければいけません。基礎事項の説明、問題演習、解説にとりくみながら、実践的に古文の読解力を養います。</p>		
到達目標	<p>◆以下の2つの能力を獲得することを目指します。</p> <p>A 古典文法、単語、敬語法、古典常識、文学史の知識を活用し、古文を読解することができる。</p> <p>B 古典を読み、論じ、批評することができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>◆授業外学修について。1回の授業につき、180分の予習・復習が必要です。詳しくは『学生便覧』を参照してください。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス・読解のための古典文法／古文単語（オンデマンド型オンライン授業） ※初回のみ、オンデマンド型オンライン授業で実施します。	◆教科書に目をとおしておきましょう。	
第2回	文法入門（リアルタイム型オンライン授業）	◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第3回	動詞（Ⅱ）	◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第4回	形容詞／形容動詞（Ⅱ）	◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第5回	助動詞① き・けり／つ・ぬ／たり・り（Ⅱ）	◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第6回	助動詞② ず／る・らる／す・さす・しむ（Ⅱ）	◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第7回	助動詞③ む・むず／べし／じ・まじ／らむ・けむ（Ⅱ）	◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第8回	助動詞④ なり／めり・まし・らし／まほし・たし・ごとし・たり（Ⅱ）	◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第9回	助詞① 助詞／格助詞／接続助詞（Ⅱ）	◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第10回	助詞② 副助詞／係助詞／終助詞（Ⅱ）	◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第11回	副詞／その他の品詞（Ⅱ）	◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第12回	敬語（Ⅱ）	◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第13回	和歌① 枕詞／序詞／和歌いろいろ（Ⅱ）	◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第14回	和歌② 掛詞／縁語・歌枕（Ⅱ）	◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第15回	まとめ・確認と復習（Ⅱ）	◆これまでに間違えた問題を全て見直しましょう。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし。		
レポート	なし。		
小テスト等	なし。		
成果発表	なし。		
受講態度他	◆授業への取り組み（100％）。毎回、しっかりと予習をして授業に参加しましょう。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◆教員採用試験レベルの古文問題を正しく読解できることを目標にします。</p> <p>◆日頃から多くの文学に接するほか、日本文学を題材としたテレビ番組なども積極的に視聴し、知識を深めてください。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症の影響による本学対応のため、当初の予定からシラバスの内容を変更しています。</p>		
教科書	◆以下のテキストを使用します。持参してください。 ◎『古文上達 基礎編 読解と演習45』（Z会、2006年）		
指定図書	なし。		
参考図書	◆古典文法をより詳しく知りたいときは、以下の本を推奨します。 ◎小田勝『実例詳解古典文法総覧』（和泉書院、2015年）		
オフィスアワー	水4限	メールアドレス	

授業科目	コミュニティ心理学【講義】	開講時期	後期
担当教員	北島 茂樹	単位	2
授業の目的と概要	地域や学校、職場等の生活共同体のなかでは、いろいろな心理-社会的問題が生じます。そうした問題の改善・解決あるいは予防のために、人-社会（環境）の適合の観点に立ち、人や人々を包むコミュニティないし生活環境側へ介入する「社会臨床」としてのコミュニティ心理学について学びます。コミュニティ心理学の成立過程、これまで発展してきた主要概念や理論、および地域や学校、職場等で生起する具体的問題への取り組み事例などを順次学んでいきます。		
到達目標	①コミュニティ心理学の成立の経緯を知り、こうした学問・実践領域の必要性について説明することができる。 ②地域や学校、職場等の生活共同体において生じる様々な心理-社会的諸問題について例示することができ、こうした問題への感受性を高める。 ③問題を抱える生活共同体への介入計画を立て、実践に移す際に役立つコミュニティ心理学の概念・原理・理論について理解を深め、活用できる。 ④介入計画の進捗や介入の効果についての評価方法を理解し、活用できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	はじめに① 一学校でのいじめ問題を通して	テキストの予習（まえがき・目次部分）	
第2回	はじめに② 一ドリーさんの事例を通して	資料の事前検討	
第3回	コミュニティ心理学の誕生	テキストの予習（P.P. 1-6）	
第4回	コミュニティ心理学の定義・理念・目標	テキストの予習（P.P. 7-16）、資料の事前検討	
第5回	主要概念1） 人と環境の適合-パラダイムとして、生活者の視点	テキストの予習（P.P. 23-30）	
第6回	主要概念1） 人と環境の適合 一生態学・システム論の視点	テキストの予習（P.P. 30-39）	
第7回	主要概念1） 人と環境の適合 一適合にかかる3つの視点	テキストの予習（P.P. 39-45）	
第8回	主要概念2） 予防 一3つの予防タイプ	テキストの予習（P.P. 47-54）	
第9回	主要概念2） 予防 一選択的予防、マイルストーン型予防	テキストの予習（P.P. 54-69）	
第10回	主要概念3） ソーシャルサポート	テキストの予習（PP.119-133）、資料の事前検討	
第11回	主要概念4） 強さとコンピテンスの強調	テキストの予習（P.P. 11-12）	
第12回	主要概念5） エンパワメント	テキストの予習（PP.141-159、133-140）、資料の事前検討	
第13回	主要概念6） 社会的資源の活用/協働	テキストの予習（PP.161-182）、資料の事前検討	
第14回	コミュニティ心理学の研究法	テキスト予習（PP.17-20）、資料の事前検討	
第15回	まとめ	テキストの予習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	実施しない		
レポート	2回提出を求めます（40%）		
小テスト等	13回小質問への解答を求めます（40%）		
成果発表	実施しない		
受講態度他	小テスト等への応答をもって受講態度の評価とします（20%）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義音声入りのパワーポイント教材の傾聴、その他ファイルの熟読、そして課したレポート・小テストに対して指示通りの提出を求めます。		
教科書	植村勝彦編 『コミュニティ心理学入門』 ナカニシヤ出版 2007年		
指定図書	なし		
参考図書	K. G. Duffy&F. Y. Wong著 『コミュニティ心理学-社会問題の理解と援助』 ナカニシヤ出版 1999年 J. Dalton, J. Elias, A. Wandersman著（笹尾敏明訳）『コミュニティ心理学』金子書房 2007年		
オフィスアワー	下記アドレスへメール相談ください	メールアドレス	

授業科目	雇用政策論【講義】		開講時期	前期
担当教員	川崎 孝明・高木 佳世子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「自立支援」を基調とする相談援助実践が展開される状況の中、生活保護制度および障害者福祉施策における就労支援制度の概要について理解する。</p> <p>さらに、就労支援施策の実際と、それを担う組織・団体、専門職の役割と連携のあり方について検討し、雇用政策全体の中で就労支援施策がもつ意義と課題を発見することを目的とする。</p> <p>そのため、具体的な事例を検討しながら、生活保護制度および障害者福祉施策における就労支援制度が、雇用政策全体の中でもつ位置づけを明確にし、そこにどのような政策課題があるのかを学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 雇用政策（労働法を含む）の概要と動向について理解できる。</li> <li>2. 生活保護制度運営における就労支援（自立支援プログラムを含む）を中心に、低所得者に対する就労支援の課題について説明できる。</li> <li>3. 福祉事務所とハローワークの連携について、現状と課題を指摘できる。</li> <li>4. 障害者福祉施策における就労支援の課題を指摘することができる。</li> <li>5. 障害者福祉施策における機関連携のあり方について理解し、その課題を指摘することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福（3）-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>科目担当者の中には弁護士としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	就労支援と雇用政策、労働市場の動向	配付資料を見直して復習する。		
第2回	労働法（1）労働法の必要性、体系・分類	配付資料を見直して復習する。		
第3回	労働法（2）賃金、労働時間等の労働条件	配付資料を見直して復習する。		
第4回	雇用保険	配付資料を見直して復習する。		
第5回	労働者災害補償保険（労災保険）	配付資料を見直して復習する。		
第6回	低所得者への就労支援（1）生活保護受給者に対する就労支援①生活保護制度の中の就労支援制度	配付資料を見直して復習する。		
第7回	低所得者への就労支援（1）生活保護受給者に対する就労支援②生活保護の要件との関係	配付資料を見直して復習する。		
第8回	低所得者への就労支援（2）特定求職者支援法・生活困窮者自立支援法	配付資料を見直して復習する。		
第9回	障害者就労支援の実際と課題	配付資料復習		
第10回	障害者雇用施策の概要① 障害者雇用促進法	配付資料復習		
第11回	障害者雇用施策の概要② 組織とその役割	配付資料復習		
第12回	障害者雇用施策の概要③ 専門職の役割	配付資料復習		
第13回	福祉的就労；サービス事業所、障害者支援施設の役割と実際	配付資料復習		
第14回	福祉的就労における専門職の役割と課題	配付資料復習		
第15回	福祉的就労における機関連携のあり方と課題	配付資料復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	100%（詳細は講義時に指示する）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義時に資料を配付するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室に資料を受け取りに来ること			
教科書	なし。授業時に資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する			
オフィスワー	(高木)水4 (川崎)火4	メールアドレス		

授業科目	コンテンツビジネス論【講義】		開講時期	後期
担当教員	小山 昌宏		単位	2
授業の目的と概要	<p>1. ポップカルチャーとビジネスの結びつきについて理解し、出版、映像、音楽産業の実態、知的財産権と著作権に関する基礎知識を取得する。</p> <p>2. 第1回は授業の学習範囲、その効果、第2～4回は出版、映像、音楽産業の現状について学び、第5～10回は、各分野の著作権についての基礎知識を取得、第12～15回は、コンテンツビジネスの根幹であるキャラクタービジネスの実務について学ぶ。</p> <p>3. 1. 2)によりコンテンツビジネスの概要と実務の基本的な考え方を身につけることができる。</p> <p>4. 具体的には、デジタル資料による予習、講義資料による復習、リアクションペーパーのまとめによる再復習により効果をあげる。</p>			
到達目標	<p>1. ポップカルチャーのビジネス展開について、産業、知財・著作権、ビジネス実務の3つの視点から「コンテンツビジネス」の概要を説明できる。</p> <p>2. 出版・映像産業、音楽・ゲーム産業、インターネット産業の歴史、各産業の特徴について説明ができる。</p> <p>3. 知的財産権と著作権の概要、各産業におけるその特徴、実務について説明ができる</p> <p>4. コンテンツビジネスの根幹にあるキャラクタービジネスの概要とプロデュースの過程について報告ができる。</p> <p>5. キャラクター創作、育成プランを立案、プロデュースすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。</p> <p>現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連科目：メディアと文化</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	コンテンツビジネスの範囲 -知的財産権と著作権	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第2回	コンテンツ産業① 出版・映像分野	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第3回	コンテンツ産業② 音楽・音声・ゲーム分野	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第4回	コンテンツ産業③ インターネット分野	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第5回	著作権① 出版物の流通システム -委託再販制度の課題	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第6回	著作権② マンガ出版に関わる実務	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第7回	著作権③ 映像・映画・アニメビジネスの実務	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第8回	著作権④ 映画・音楽・ライブビジネスの実務	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第9回	著作権⑤ 映画・ゲーム・インターネットビジネスの実務	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第10回	知的財産権 コンテンツビジネスの実務	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第11回	コンテンツビジネス① キャラクター育成と支援演習	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第12回	コンテンツビジネス② キャラクターとブランド	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第13回	コンテンツビジネス③ コンセプトとマーケティング	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第14回	コンテンツビジネス④ マーチャンダイジングとブランディング	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
第15回	コンテンツビジネス⑤ コミュニティ・ブランディングとアートプロデュース	配布資料による復習、デジタルプリント（筑女ネット）による予習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%（中間レポート） 50%（期末レポート） 20%（出席シート：リアクションペーパーの内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	初回の授業時に受講の心得についてお話しします。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 教科書はありません。毎回プリントを配布いたします。プリント、補足資料などは筑女ネットにアップします。</p> <p>2. 中間レポート提出は課題テーマ（予め設定されている）、期末レポート提出は自由テーマ（自分で設定できる）になります。</p> <p>3. 中間レポート、期末レポートは筑女ネットの専用BOXに提出します。</p> <p>4. 中間レポートの提出日は第2回の授業で、期末レポートの提出日については第10回目の授業で、内容、評価基準とともに提</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	岸川善光 編『コンテンツビジネス特論』（学文社） キャラクターマーケティングプロジェクト 編『キャラクターマーケティング』（日本能率協会マネジメントセンター）			
オフィスアワー	水曜日の昼休み またはメールで相談	メールアドレス		

授業科目	勤式作法【本願寺派教師】【演習】		開講時期	通年
担当教員	和田 法明		単 位	4
授業の目的と概要	<p>浄土真宗本願寺派の「宗法」に、「寺院の目的は教義の宣布と法要儀式の執行である」と明記してありますとおり、み教えをひろめること、おつとめ（勤行）をすることは、寺院という車の両輪であります。また、「信は莊嚴より」という言葉があるように、浄土真宗において仏徳讃嘆である勤式作法は、信の表出の一つに他ならない。おつとめ（勤行）は、聞き置く、知り置くことではなく、文字通り勤めて行うことです。</p> <p>本講義では浄土真宗本願寺派の正しい勤式作法ができるようになることを目的とする。</p> <p>本講義では、浄土真宗本願寺派における儀礼の意義の考察をはじめとし、仏具（莊嚴：お飾り）や作法の歴史と意味、読誦する経典の解説および、おつとめ（勤行）の実唱・仏前での作法などを学んでいく。</p>			
到達目標	<p>浄土真宗本願寺派の</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しいおつとめ（勤行：お経の唱え方）ができる。</li> <li>・正しい莊嚴（お飾り）や仏具の説明ができる。</li> <li>・正しい仏前での作法ができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程の科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1～2回	【宗制の大意】（浄土真宗本願寺派宗制・ご親教「念仏者の生き方」など）【勤式作法の基礎】（作法）【勤式作法の基礎】（お勤めについて）	範囲内の復習		
第3～6回	【勤式作法の基礎】（作法）【勤式作法の基礎】（正信偈・和讃・念仏・回向）	範囲内の復習		
第7～8回	【勤式作法の基礎】（十二礼・意識勤行）【法式規範の基礎知識】（一般作法・莊嚴法）	範囲内の復習		
第9～10回	【勤式作法の基礎】（仏事勤行）【法式規範の基礎知識】（一般作法・莊嚴法）	範囲内の復習		
第11～12回	【勤式作法の基礎】（御文章）【法式規範の基礎知識】（一般作法・莊嚴法）	範囲内の復習		
第13～14回	【勤式作法の基礎】（葬儀）【法式規範の基礎知識】（一般作法・莊嚴法）	範囲内の復習		
第15回	【宗制の大意】（総括）【勤式作法の基礎】（総括）【法式規範の基礎知識】（総括）	範囲内の復習		
第16～17回	【勤式作法実演】（正信偈和讃・御文章）【法式規範の基礎知識】（一般作法・被着法・執持法・莊嚴法）	範囲内の復習		
第18～19回	【勤式作法実演】（作法・声明：勤式集の解説《三奉請・先請伽陀》）	範囲内の復習		
第20～21回	【勤式作法実演】（作法・声明：勤式集の解説《無量寿経作法・阿弥陀経作法》）	範囲内の復習		
第22～23回	【勤式作法実演】（作法・声明：勤式集の解説《大師影供作法・五会念仏作法》）	範囲内の復習		
第24～25回	【勤式作法実演】（作法・声明：勤式集の解説《観無量寿経作法・奉讃早引作法》）	範囲内の復習		
第26～27回	【勤式作法実演】（作法・声明：勤式集の解説《往生礼讃・般舟讃》）	範囲内の復習		
第28～29回	【勤式作法実演】（作法・御伝鈔・儀礼の意義）	範囲内の復習		
第30回	【勤式作法実演】（まとめワーク）	範囲内の復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	30％ 理解度調査（全30回の理解度調査）			
成果発表	40％ まとめワーク【おつとめの実唱(20%)、仏前での作法(20%)】			
受講態度他	30％ 授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義には必ず聖典（筑紫女学園発行）・念珠（腕輪念珠でも可）を持参してください。			
教科書	① 聖典（学校法人筑紫女学園発行） ② 浄土真宗本願寺派 一勤式集一（本願寺出版社発行）			
指定図書	ありません			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	サブカルチャー論【講義】		開講時期	前期
担当教員	小山 昌宏		単位	2
授業の目的と概要	<p>1. ポピュラー文化における「サブカルチャー」分野について学ぶ。ポイントは、欧米で定義されるサブカルチャーが日本でいかに変容し、戦後日本文化において中心的な役割を担ってきたのか、その社会現象、歴史、文化について理解する</p> <p>2. 第1～3回は、サブカルチャーの定義、学説、歴史について、第4回は、サブカルチャーとアートとの関係、第5回～8回は、欧米のロックミュージック、日本のフォーク、ロックミュージックを視聴しつつ戦後大衆文化の歴史について学び、第9～15回は、各テーマ別にその内容を把握し、サブカルチャーの文化現象、時代背景、領域（ジャンル）について知識を得る</p> <p>3. 具体的には、講義後の配布資料、デジタル資料（筑女ネット）による復習、リアクションペーパーのまとめによる復習（振り返り）を踏まえ、立体的に講義内容を理解する</p>			
到達目標	<p>1. サブカルチャーの定義、サブカルチャーの形成、その発展から戦後日本文化への影響について説明ができる</p> <p>2. SF、フリークス、オカルト、ニューサイエンス、ニューメディアなど、サブカルチャーのカテゴリーとその内容について説明することができる</p> <p>3. サブカルチャーとサブカル、ポピュラーカルチャーとポップカルチャー、サブカルチャーとポップカルチャーの連続性と相違性について理解し、説明ができ、報告することができる</p> <p>4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、独自の「サブカルチャー観」を形成することができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連科目：オタク文化論</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	サブカルチャーとは何か？ —その定義、範疇、歴史の概要	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第2回	日本における大衆文化の基礎形成 —江戸、明治、大正、昭和初期の繁華街と享楽街	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第3回	非行文化と犯罪社会学 —モッズ、ロッカーズからアキバ系、, ビジュアル系へ	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第4回	サブカルチャーとアート —W.モリスからダリ、A.ウォーホルから現代アートへ	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第5回	欧米におけるロックミュージック —ドラッグとロックビジネス ビートルズからオアシスへ	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第6回	アメリカにおけるヒッピー文化 —ウッドストックコンサート R、ヘプンスからジミ・ヘンドリックスまで	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第7回	日本におけるサブカルチャー① 60年代フォーク・ミュージック 岡林信康から吉田拓郎まで	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第8回	日本におけるポップカルチャー② 70年代ロック・ミュージック タイガースから山下達郎まで	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第9回	日本におけるアイドル文化 —80年代アイドル、秋元康、つくくの方法論	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第10回	スピリチュアルとオカルト —心霊現象、UFO、UMAになぜ人は惹かれるのか？	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第11回	フリークスとカルト —怪物、奇形、人造人間が反映する人心の闇について	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第12回	都市伝説とホラー —コンビニ・コミックにみる「噂」「デマ」「不安」の影響	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第13回	サブカルチャーとゲーム —アナログゲーム/デジタルゲームにおけるプレイヤーとは？	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第14回	民俗学と特撮ドラマ —ウルトラマンシリーズにおけるキリスト教・仏教の影響とは？	配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習		
第15回	まとめ 報告会	報告会を受け、期末レポートの作成をおこなう		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70%（期末レポート） 20%（出席シート：リアクションペーパーの内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	10%（15回目の報告or討論の評価）			
受講態度他	第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 教科書はありません。毎回プリントを配布いたします。プリント、補足資料などは筑女ネットにアップします。</p> <p>2. 期末レポートは筑女ネットの専用BOXに提出します。</p> <p>4. 期末レポートの提出日、内容、評価基準については第10回目の授業で提示します。</p> <p>3. リアクションペーパーにて質疑応答をおこないます。Q&amp;Aは次回授業時に反映されます。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で参考文献一覧表を配布します。			
オフィスアワー	水曜日の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		



授業科目	産業・組織心理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	日高 崇博		単位	2
授業の目的と概要	労働者や企業をとりまく状況は大きな変化の中にある。「兼業・副業」「有給休暇取得促進」「同一労働同一賃金」といった働き方改革が推進される現代において、個人が組織の中でいきいきと働くために必要な本質を自分の言葉で説明できるようになること目的とする。そのために、①労働者のこころと身体の健康について学ぶ、②企業組織の抱える問題について系統的に考える、③「働きがい・働きやすさ」についてアプローチができるように心理学的な知識やスキルを身につけることを目指す。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して、必要な心理に関する支援ができるようになる。</li> <li>・職場における人の行動について理解する。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心(3)-②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>心(3)-②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		働くことについて考えておくこと		
第2回 企業における生産性と労働衛生（働き方改革について）		チームワークに関する文献を調べておくこと		
第3回 産業・労働分野における法規		労働衛生に関するニュース、事件、裁判例を調べておくこと		
第4回 組織成員の心理と行動（グループダイナミクス）		パーソナリティに関する文献を調べておくこと		
第5回 職業性ストレスモデルとメンタルヘルス		ストレス反応、精神疾患に関する文献を調べておくこと		
第6回 キャリア形成とダイバシティ		職業選択理論、キャリア発達に関する文献を調べておくこと		
第7回 ワークライフバランス		ワークライフバランスに関するニュースや事件を調べておくこと		
第8回 ハラスメントの実態と対策（パワハラ・セクハラ・マタハラなど）		ハラスメントに関するニュース、事件を調べておくこと		
第9回 職場のコミュニケーション（リーダーシップ）		コミュニケーションやリーダーシップに関する文献を調べておくこと		
第10回 産業・組織分野における?理学的援助①（カウンセリングとコンサルティング）		労働者や企業へのアプローチに関する文献を調べておくこと		
第11回 産業・組織分野における?理学的援助②（復職支援）		復職支援に関する文献を調べておくこと		
第12回 産業・組織分野における?理学的援助③（ハラスメント対策）		ハラスメント対策に関する文献を調べておくこと		
第13回 健康経営①（健診と検診）		健診と検診の相違について調べておくこと		
第14回 健康経営②（女性の活躍とダイバシティ）		健康経営優良法人について調べておくこと		
第15回 まとめ（働きがいと働きやすさ）		復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	あり（70%）			
小テスト等	なし			
成果発表	講義内容によってはロールプレイやプレゼンテーションを課すことがある（20%）			
受講態度他	積極的に参加することを求める（20%）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語や他の受講生の迷惑となる行為は厳禁とする。			
教科書	産業心理臨床実践 金井篤子 ナカニシヤ社			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて紹介する			
オフィスワーク	講義に関する質問は講義終了後に受け付ける	メールアドレス		

授業科目	産業心理学特論(産業・労働分野に関する理論)【講義】		開講時期	後期
担当教員	日高 崇博		単位	2
授業の目的と概要	組織で働くことの本質を自分の言葉で説明できるようになり、産業・労働分野において心理的な支援ができるようになることを目指す。そのために、①労働者の心と身体の健康を保持・増進に心理学の知見をもって寄与する、②労働者が健やかに働くことができるように組織の抱える問題にアプローチするために必要な知識やスキルを学ぶ。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場における問題(キャリア形成に関することを含む)に対して、必要な心理に関する支援ができるようになる。</li> <li>・組織における人(労働者)の行動について理解する。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</p> <p>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</p> <p>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</p> <p>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 産業・組織心理学とは何か(ディスカッション)		「働くということ」について考えておくこと		
第2回 企業における生産性と安全衛生		個人と組織、チームワークに関する文献を調べておくこと		
第3回 組織成員の心理と行動(グループワーク)		パーソナリティと適性、パフォーマンスに関する文献を調べておくこと		
第4回 組織のダイナミクスとマネジメント		集団力学、ヒューマンリソースマネジメントに関する文献を調べておくこと		
第5回 産業・労働分野における法規全般		労働衛生に関するニュース、事件、裁判例を調べておくこと		
第6回 職業性ストレスモデルとメンタルヘルス		精神疾患、ストレス反応、予防、ハラスメントに関する文献を調べておくこと		
第7回 カウンセリングとコンサルテーション		労働者へのアプローチ、企業へのアプローチに関する文献を調べておくこと		
第8回 動機付けとモチベーション(ロールプレイ)		職場における葛藤、ポジティブアプローチに関する文献を調べておくこと		
第9回 キャリア開発とワークライフバランス		職業選択理論、キャリア発達に関する文献を調べておくこと		
第10回 ストレスチェックと集団分析(ディスカッション)		心理学的アセスメントに関する文献を調べておくこと		
第11回 職場環境改善(プレゼンテーション)		ストレスマネジメント、復職支援に関する文献を調べておくこと		
第12回 リーダーシップ理論(プレゼンテーション)		ラインケア、PM理論に関する文献を調べておくこと		
第13回 消費者行動とマーケティング		消費者行動、企業活動に関する文献を調べておくこと		
第14回 産業・労働分野における心理職のコンピテンシー(ロールプレイ)		ビジネスマナー、活動倫理に関する文献を調べておくこと		
第15回 総括		復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない			
レポート	各講義後に内容に関連したレポートを課す(30%)			
小テスト等	実施しない			
成果発表	講義内容によっては、ロールプレイやプレゼンテーションを課すことがある(40%)			
受講態度他	積極的に参加することを求める(30%)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や労働者を対象する心理的支援を行うためにビジネスマナーは不可欠である。</li> <li>・本講義においても、ビジネスマナーに準じた振る舞いを心掛けることを求める。</li> <li>・授業外学習の方法についてはその都度指示する。</li> </ul>			
教科書	必要に応じて紹介する			
指定図書	なし			
参考図書	臨床心理学第15巻第3号ー産業・組織領域で働く心理職のスタンダードー(金剛出版, 2015)			
オフィスワーク	講義に関する質問は講義終了後に受け付ける	メールアドレス		

授業科目	サンスクリット語【演習】		開講時期	後期
担当教員	川尻 洋平		単位	1
授業の目的と概要	<p>サンスクリット語はインドの古典語であり、インドの古典世界はサンスクリット語によって語られる。またラテン語や英語やフランス語などのヨーロッパ語とともに、インド・ヨーロッパ語族に属しており、ヨーロッパの諸言語との共通点も少なくない。一方で、日本には、仏教を通じて多くのサンスクリット語の語彙が流入している。</p> <p>授業では、インドの古典世界やインド文化に触れながら、サンスクリット語の文法の基礎を学ぶ。そして繰り返し練習問題を解くことによって、簡単なサンスクリット語を理解できるようになることを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サンスクリット語の文章を読解することができる。</li> <li>2. サンスクリット語の文章に使用される名詞や動詞を分析することができる。</li> <li>3. 簡単なサンスクリット語の文章を作成することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス：「サンスクリット」とは何か。サンスクリットの言語学上の位置付けを解説する。	配布プリント復習（サンスクリットについて）		
第2回	サンスクリットの音韻、動詞の人称、名詞の変化1、名詞の性、動詞の現在変化、不変化詞の用法1	動詞の現在変化と名詞の変化を覚える。		
第3回	動詞の過去変化、不変化詞の用法2、名詞の変化2	動詞の過去変化と名詞の変化を覚える。		
第4回	動詞の態、名詞の変化3、願望法	名詞の変化を覚える。		
第5回	名詞の変化4、格の用法、音韻規則、小テスト	名詞の変化を覚える。		
第6回	願望法の用法、命令法とその用法、不変化詞の用法1	願望法、命令法、不変化詞の用法を覚える。		
第7回	指示代名詞の変化と用法1、不変化詞の用法2、語合成1（タットプルシャ）、関係代名詞の変化と用法	指示代名詞と関係代名詞の変化を覚える。		
第8回	指示代名詞の変化と用法2、語合成2（カルマダーラヤ）、現在分詞の変化と用法1	指示代名詞の変化を覚える。		
第9回	現在分詞の変化と用法2	現在分詞の変化を覚える。		
第10回	関係副詞の用法、指示代名詞の変化と用法3、小テスト	指示代名詞の変化を覚える。		
第11回	語合成3（バフウリーヒ）、指示代名詞の変化と用法4	指示代名詞の変化を覚える。		
第12回	不変化詞の用法3、名詞の変化5	名詞の変化を覚える。		
第13回	分詞構文、名詞の変化6	名詞の変化を覚える。		
第14回	疑問代名詞の変化と用法	疑問代名詞の変化を覚える。		
第15回	不定代名詞の変化と用法、小テスト	不定代名詞の変化を覚える。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	70%：2回行う。採点后、返却し、フィードバックを行う。			
成果発表	なし			
受講態度他	30%：受講態度により評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常、サンスクリット語の表記には、デーヴァナーガリー文字等が用いられますが、本授業では、アルファベットを用いて行います。</li> <li>・必ず復習してください。</li> <li>・できる範囲で予習しておいてください。</li> </ul>			
教科書	プリント配布、テキスト：小林信彦『サンスクリット入門』			
指定図書	なし			
参考図書	上村勝彦、風間喜代三『サンスクリット語・その形と心』三省堂、2010年			
オフィスワー	水曜日二講目（オンライン上でも対応します）	メールアドレス		

授業科目	社会・集団・家族心理学（家族心理学）【講義】		開講時期	前期
担当教員	洪田 登美子		単位	2
授業の目的と概要	現代では、家族を取り巻く社会的状況が刻々と変化しています。その影響を受けて、家族形態や家族関係の変容、家族機能の低下が指摘されています。しかし、その一方で子どもの発達という側面からは、これまで以上に家族の重要性が強調されています。そのような現代の家族を理解しその支援を考えると、家族システム論が役に立ちます。この授業の目的は、家族システム論を用いて家族を理解することです。そのことにより、児童虐待を含む家族内暴力や不登校など、現代の家族が抱える諸問題の原因や背景をより深く考察することができます。また、それらの問題についての家族臨床的支援について基礎的知識を得ることも目的としています。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族をシステムとしてとらえ、家族のライフサイクルについて文章で説明することができる。</li> <li>2. 家族は、家族を取り巻くより大きなシステムである社会から常に影響を受けていることを、具体的な例を挙げて述べるができる。</li> <li>3. 家族療法の特徴と代表的な技法について簡潔な文章で記述することができる。</li> <li>4. 現代の家族が抱える問題について説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心(3)-②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>心(3)-②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 家族とは何か		予習：教科書第1章 pp. 1-16		
第2回 家族の健康とは		予習：教科書第2章 pp. 17-26		
第3回 家族の発達①：家族ライフサイクルと発達課題		予習：教科書第2章 pp. 26-34		
第4回 家族の発達②：夫婦の発達とは		予習：教科書第3、4章 pp. 35-72		
第5回 家族の発達③：子どもが育つ場としての家族		予習：教科書第5章 pp. 73-77		
第6回 家族の発達④：子育てに関する神話と誤った思い込み		予習：教科書第5章 pp. 78-82		
第7回 家族と社会の関わりを児童虐待の発生要因から考える		予習：教科書第5章 pp. 82-91		
第8回 変動する社会の中の家族：システム論によって家族を理解する		予習：教科書第6章 pp. 93-111		
第9回 家族システム論から家族関係や家族の問題を理解する		予習：教科書第7章 pp. 113-126		
第10回 多世代伝達過程から家族を理解する		予習：教科書第7章 pp. 126-129		
第11回 家族への臨床的アプローチ、家族療法のDVD視聴		予習：教科書第8、9章 pp. 131-149		
第12回 現代家族の諸問題①：不登校・引きこもりの子どもがいる家族への臨床的アプローチ		予習：教科書第9章 pp. 158-160		
第13回 現代家族の諸問題②：家庭における4つの暴力		予習：教科書第9章 pp. 150-156		
第14回 現代家族の諸問題③：高齢者虐待		予習：教科書第9章 pp. 156-158		
第15回 総括と質疑		復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	学期末レポート 40%			
小テスト等	ミニテスト 2回 30% (15%×2)			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 毎回のショートライティング(学習内容の確認/意見)2%×15 フォーラムへの質問のうち、受講生の学びに貢献するものは評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず教科書の該当箇所を読んで受講してください。			
教科書	平木典子・中釜洋子・藤田博康・野末武義著『家族の心理 ― 家族への理解を深めるために 第2版』サイエンス社			
指定図書	使用しない			
参考図書	平木典子『家族との心理臨床』垣内出版			
オフィスアワー	金曜日昼休み・4限 遠隔授業中は、授業内容に関してはフォーラムで、それ以外についてはメールで。	メールアドレス		

授業科目	社会・集団・家族心理学（社会・集団心理学）【講義】		開講時期	後期
担当教員	田原 直美		単 位	2
授業の目的と概要	社会心理学の基礎知識を獲得し、個人や集団が置かれた状況との相互影響の観点から、人の行動についての理解を深める。日常的な事象について、社会的場面（他者と関わり合う状況）における人の心理や行動の特徴に基づいて考察することができる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会心理学の基礎的な用語や理論について理解し、説明できる。</li> <li>2. 実験や調査の結果を示した図や表が意味するものを読み取り、社会心理学の用語や理論に基づいて説明できる。</li> <li>3. 自分の体験や社会の出来事に関わる因果関係を、社会心理学の用語や理論を用いて説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	社会・集団・家族心理学とは何か	テキスト第1章の予習と復習		
第2回	対人認知	テキスト第2章Ⅰの予習と復習		
第3回	態度と行動	テキスト第3章の予習と復習		
第4回	態度変容と説得コミュニケーション	テキスト第3章と第7章Ⅳ		
第5回	これまでのまとめ	小テスト1の準備（テキスト1・2・3・5章の復習）		
第6回	社会的促進と社会的抑制	テキスト第6章ⅠⅢの予習と復習		
第7回	社会的手抜き	第6章Ⅱ		
第8回	社会的影響	テキスト第7章ⅠⅡⅢの予習と復習		
第9回	集団過程（1）	テキスト第8章Ⅲの予習		
第10回	第6～10回のまとめ	小テスト2の準備		
第11回	集団過程（2）－リーダーシップ	テキスト第8章Ⅱの予習と復習		
第12回	集団過程（3）－集団の中の個人過程	テキスト第8章Ⅱの予習と復習		
第13回	ステレオタイプと偏見	テキスト第4章の予習と復習		
第14回	文化と社会心理	テキスト第13章の予習と復習		
第15回	第11～15回のまとめ	小テスト3の準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	60％ 3回に分けて実施し、1回20％とする。			
成果発表	なし			
受講態度他	40％ 毎回、授業の終わりに与えられたテーマについて記述する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・授業を通して、用語を暗記するだけでなく、実際の日常的な出来事を想像しながら理解を深め、その点について毎回の授業の終わりに、「その日の授業を通して考えたこと」としてまとめ提出してもらいます。			
教科書	竹村 和久 『社会・集団・家族心理学』遠見書房			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	社会科・公民科教育法Ⅰ【教職】【演習】		開講時期	前期
担当教員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的と概要	現在の社会科・公民科教育の位置づけについて理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、社会科・公民科の教材開発につなげる。学習指導要領を分析・検討し、生徒が学ぶべき内容の把握と、具体的学習指導案づくりを行うことで、最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく興味深い授業が展開できるような技能の習得を目指し、実際に数人のグループで模擬授業を行う。 社会科授業の目的・意義・方法を理解し、教育方法や内容を社会との関連を含めて考える。 実際に学習指導要領に則り、教室での実践を前提に指導案を作成し発表・相互評価する。			
到達目標	中学社会科・公民科科目が現代社会の特質や課題をトータルに認識する力を育てる教科であると理解する。 現代社会における諸課題を理論的に表現、説明できる能力を身につける。 学習指導要領と教育基本法の重要性を受けとめて授業案を作成できる。 数人のグループで模擬授業を行うことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に該当し、以下の内容について学びます。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	教育の目的と社会科・公民科	学習指導要領解説中学社会編、高校公民編の総説を読んでください		
第2回	現代社会の諸問題と中学社会科・高校公民科	配布する時事問題を取り上げたプリントを読んでください		
第3回	中学社会科の取り扱いと内容	中学学習指導要領解説社会科の目標及び内容を読んでください		
第4回	高校公民科科目の取り扱いと内容 現代社会	高校学習指導要領解説現代社会を読んでください		
第5回	高校公民科科目の取り扱いと内容 倫理	高校学習指導要領解説倫理を読んでください		
第6回	高校公民科科目の取り扱いと内容 政治経済	高校学習指導要領解説政治経済を読んでください		
第7回	指導案について	指導案を作成してください		
第8回	指導案プレゼンテーション&ディスカッション(1)	授業中のディスカッションを経て、指導案を修正してください		
第9回	指導案プレゼンテーション&ディスカッション(2)	授業中のディスカッションを踏まえて、指導案を完成させてください		
第10回	教材研究について	自らのテーマに沿った教材を調べてください		
第11回	教材検討	授業中の検討を経て、教材を決定してください		
第12回	模擬授業と討議(チームラーニング)(1)	模擬授業準備・反省・講評(1)		
第13回	模擬授業と討議(チームラーニング)(2)	模擬授業準備・反省・講評(2)		
第14回	模擬授業と討議(チームラーニング)(3)	模擬授業準備・反省・講評(3)		
第15回	まとめ	個人発表の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	なし			
小テスト等	30% 講義終了時に提出			
成果発表	50% 指導案、模擬授業			
受講態度他	20% 講義に向き合う姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な授業参加が求められるとともに、授業時間外の活動にも取り組む必要があります。			
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』			
指定図書	なし			
参考図書	中学社会科、高校公民科の教科書			
オフィスアワー	水4、金3	メールアドレス		

授業科目	社会科・公民科教育法Ⅱ【教職】【演習】		開講時期	後期
担当教員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的と概要	<p>社会科・公民科教育法Ⅰを踏まえて、教材研究、教材作り、指導案作り、模擬授業を行い、討論を経てより良い授業作りを行う方法を学ぶ。</p> <p>社会科・公民科教育法Ⅰで学んだ、教科教育の枠組みと方法をもとに、実際に授業をおこなう訓練を、繰り返し行う。そのことを通して公民科の学習指導案を書く知識と能力を身に付け、模擬授業を実施して、教育実習のための準備を整える。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校公民科教科書の単元に基づいて、教材研究を行い、指導案が作成できる。</li> <li>・高校における公民科教育実習に向けて、実際に教壇に立って模擬授業を行うことができる。</li> <li>・討議によって、より良い授業作りに参画することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	講義の進め方	学習指導要領解説中学社会・高校公民を読んでください		
第2回	指導案発表&ディスカッション	指導案を最終チェックしてください		
第3回	模擬授業(30分)と討議(1)	模擬授業(30分)準備、反省、講評(1)		
第4回	模擬授業(30分)と討議(2)	模擬授業(30分)準備、反省、講評(2)		
第5回	模擬授業(30分)と討議(3)	模擬授業(30分)準備、反省、講評(3)		
第6回	模擬授業と討議(30分)(4)	模擬授業(30分)準備、反省、講評(4)		
第7回	指導案発表&ディスカッション	指導案を作成してください		
第8回	模擬授業(50分)と討議(1)	模擬授業(50分)準備、反省、講評(1)		
第9回	模擬授業(50分)と討議(2)	模擬授業(50分)準備、反省、講評(2)		
第10回	模擬授業(50分)と討議(3)	模擬授業(50分)準備、反省、講評(3)		
第11回	模擬授業(50分)と討議(4)	模擬授業(50分)準備、反省、講評(4)		
第12回	模擬授業(50分)と討議(5)	模擬授業(50分)準備、反省、講評(5)		
第13回	模擬授業(50分)と討議(6)	模擬授業(50分)準備、反省、講評(6)		
第14回	模擬授業(50分)と討議(7)	模擬授業(50分)準備、反省、講評(7)		
第15回	模擬授業(50分)と討議(8)	反省、講評(8)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60% 模擬授業			
受講態度他	40% グループラーニング、討議に関わる姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各自が主体的に授業に取り組むことが求められます。また、各自の指導案については筑女ネットに掲載し、相互に検討します。			
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』			
指定図書	なし			
参考図書	中学社会科、高校公民科の教科書			
オフィスアワー	火4、金3	メールアドレス		

授業科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ【教職】【演習】		開講時期	前期
担当教員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的と概要	<p>現在の社会科・地歴科教育の位置づけについて理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、地歴科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、地理・歴史に関連する諸問題を取り上げ、社会科・地歴科の教材開発につなげる。学習指導要領を分析・検討し、生徒が学ぶべき内容の把握と、具体的学習指導案づくりを行うことで、最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく興味深い授業が展開できるような技能の習得を目指し、実際に数人のグループで模擬授業を行う。</p> <p>社会科授業の目的・意義・方法を理解し、教育方法や内容を社会との関連を含めて考える。実際に学習指導要領に則り、教室での実践を前提に指導案を作成し発表・相互評価する。</p>			
到達目標	<p>中学社会科・地歴科科目が現代社会の特質や課題をトータルに認識する力を育てる教科であると理解する。 現代社会における諸課題を理論的に表現、説明できる能力を身につける。 学習指導要領と教育基本法の重要性を受けとめて授業案を作成できる。 数人のグループで模擬授業を行うことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	教育の目的と社会科・地歴科	学習指導要領解説中学社会編、高校地歴編の総説を読んでください		
第2回	現代社会の諸問題と中学社会科・高校地歴科	配布する時事問題を取り上げたプリントを読んでください		
第3回	中学社会科の取り扱いと内容	中学学習指導要領解説社会科の目標及び内容を読んでください		
第4回	高校地歴科科目の取り扱いと内容 地理	高校学習指導要領解説地理を読んでください		
第5回	高校地歴科科目の取り扱いと内容 歴史	高校学習指導要領解説歴史を読んでください		
第6回	指導案について(1)	指導案を作成してください		
第7回	指導案プレゼンテーション&ディスカッション(1)	授業中のディスカッションを経て、指導案を修正してください		
第8回	指導案について(2)	指導案を作成してください		
第9回	指導案プレゼンテーション&ディスカッション(2)	授業中のディスカッションを踏まえて、指導案を完成させてください		
第10回	教材研究について	自らのテーマに沿った教材を調べてください		
第11回	教材検討	授業中の検討を経て、教材を決定してください		
第12回	模擬授業と討議(チームラーニング)(1)	模擬授業準備・反省・講評(1)		
第13回	模擬授業と討議(チームラーニング)(2)	模擬授業準備・反省・講評(2)		
第14回	模擬授業と討議(チームラーニング)(3)	模擬授業準備・反省・講評(3)		
第15回	まとめ	個人発表の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	なし			
小テスト等	30% 講義終了時に提出			
成果発表	50% 指導案、模擬授業			
受講態度他	20% 講義に向き合う姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な授業参加が求められるとともに、授業時間外の活動にも取り組む必要があります。			
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地歴編』			
指定図書	なし			
参考図書	中学社会科、高校地歴科の教科書			
オフィスワーカー	水4、金3	メールアドレス		



授業科目	社会科・地歴科教育法Ⅱ【教職】【演習】		開講時期	後期
担当教員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的と概要	<p>社会科・地歴科教育法Ⅰを踏まえて、教材研究、教材作り、指導案作り、模擬授業を行い、討論を経てより良い授業作りを行う方法を学ぶ。</p> <p>社会科・地歴科教育法Ⅰで学んだ、教科教育の枠組みと方法をもとに、実際に授業をおこなう訓練を、繰り返し行う。そのことを通して地歴科の学習指導案を書く知識と能力を身に付け、模擬授業を実施して、教育実習のための準備を整える。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校地歴科教科書の単元に基づいて、教材研究を行い、指導案が作成できる。</li> <li>・高校における地歴科教育実習に向けて、実際に教壇に立って模擬授業を行うことができる。</li> <li>・討議によって、より良い授業作りに参画することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	講義の進め方	学習指導要領解説中学社会・高校地歴を読んでください		
第2回	指導案発表&ディスカッション	指導案を最終チェックしてください		
第3回	模擬授業(30分)と討議(1)	模擬授業(30分)準備、反省、講評(1)		
第4回	模擬授業(30分)と討議(2)	模擬授業(30分)準備、反省、講評(2)		
第5回	模擬授業(30分)と討議(3)	模擬授業(30分)準備、反省、講評(3)		
第6回	模擬授業と討議(30分)(4)	模擬授業(30分)準備、反省、講評(4)		
第7回	指導案発表&ディスカッション	指導案を作成してください		
第8回	模擬授業(50分)と討議(1)	模擬授業(50分)準備、反省、講評(1)		
第9回	模擬授業(50分)と討議(2)	模擬授業(50分)準備、反省、講評(2)		
第10回	模擬授業(50分)と討議(3)	模擬授業(50分)準備、反省、講評(3)		
第11回	模擬授業(50分)と討議(4)	模擬授業(50分)準備、反省、講評(4)		
第12回	模擬授業(50分)と討議(5)	模擬授業(50分)準備、反省、講評(5)		
第13回	模擬授業(50分)と討議(6)	模擬授業(50分)準備、反省、講評(6)		
第14回	模擬授業(50分)と討議(7)	模擬授業(50分)準備、反省、講評(7)		
第15回	模擬授業(50分)と討議(8)	反省、講評(8)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60% 模擬授業			
受講態度他	40% グループラーニング、討議に関わる姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各自が主体的に授業に取り組むことが求められます。また、各自の指導案については筑女ネットに掲載し、相互に検討します。			
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地歴編』			
指定図書	なし			
参考図書	中学社会科、高校地歴科の教科書			
オフィスアワー	火4、金3	メールアドレス		

授業科目	社会科教育法Ⅰ【教職】【演習】		開講時期	前期
担当教員	松本 和寿		単位	2
授業の目的と概要	<p>社会科の成立過程について検討することを通して、社会科の意義や目標を理解するとともに、現行学習指導要領に記された目標と内容を踏まえ、中学校社会科の望ましい指導の在り方について考察することを目的とする。</p> <p>この授業では、現行学習指導要領の趣旨について理解を図ることができるよう『中学校学習指導要領解説社会科編』の記述を読み込むとともに、具体的な指導内容について確認理解を図る。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解する。</li> <li>2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解する。</li> <li>3) 社会科の学習評価の考え方を理解する。</li> <li>4) 社会科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。</li> <li>5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は、3年次の「社会科教育法Ⅱ」に関連します。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回 社会科の成立史1 戦後教育改革と社会科の誕生		2年次科目「日本教育史」における戦後教育改革の内容を復習しておく。		
第2回 社会科の成立史2 学習指導要領の変遷		2年次科目「日本教育史」における戦後教育改革の内容を復習しておく。		
第3回 社会科のカリキュラム1 社会科の構造と3分野		『中学校学習指導要領解説社会科編』第1章を熟読しておく。		
第4回 社会科のカリキュラム2 現行学習指導要領の目標及び内容		『中学校学習指導要領解説社会科編』第2章の各分野の目標を熟読しておく。		
第5回 社会科のカリキュラム3 @	指導計画の作成と内容の取り扱い	『中学校学習指導要領解説社会科編』第3章を熟読しておく。		
第6回 教材研究とその活用1 地理的分野(日本の気候・風土)		中学校の教科書の日本の気候等に関する内容を調べておく。		
第7回 教材研究とその活用2 地理的分野(日本の産業)		中学校の教科書の日本の産業に関する内容を調べておく。		
第8回 教材研究とその活用3 @	地理的分野(世界の国々)	中学校の教科書の世界の国々に関する内容を調べておく。		
第9回 教材研究とその活用4 歴史的分野(日本の古代・中世)		中学校の教科書の日本の古代と中世の歴史に関する内容を調べておく。		
第10回 教材研究とその活用5 @		中学校の教科書の日本の近世と近代の歴史に関する内容を調べておく。		
第11回 教材研究とおの活用6 @	歴史的分野(日本の現代)	中学校の教科書の日本の現代に関する内容を調べておく。		
第12回 教材研究とその活用7 @	公民的分野(政治・経済)	中学校の教科書の政治と経済に関する内容を調べておく。		
第13回 教材研究とその活用8 @	公民的分野(国際社会)	中学校の教科書の国際社会に関する内容を調べておく。		
第14回 指導目標の設定と評価の観点		『中学校学習指導要領解説社会科編』第2章を熟読しておく。		
第15回 まとめ 主体的、対話的で深い学びに向けて。【意見交換】		社会科における主体的、対話的で深い学びとはについての発表準備をする		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	60%			
小テスト等	30%			
成果発表	なし。			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教職を目指すという自覚をもち、真剣かつ積極的な受講態度で授業に臨むこと。			
教科書	『中学校学習指導要領解説 社会編』			
指定図書	授業中に指示する。			
参考図書	授業中に指示する。			
オフィスワーカー	月曜日、金曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	社会科教育法Ⅱ【教職】【演習】		開講時期	後期
担当教員	松本 和寿		単位	2
授業の目的と概要	<p>「社会科教育法Ⅰ」での学びを踏まえて、中学校社会科の単元構成や1単位時間の展開、具体的な指導法について理解するとともに、模擬授業に取り組むことを通して実践的技能の基礎を身に付けることを目的とする。</p> <p>単元構成や1単位時間の展開などについての講義の後、模擬授業に取り組む。その指導案作成にはグループ単位で取り組み、全員もしくは代表者が授業をする。また、授業の最後には各自作成した指導案を提出することとする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生徒の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解する。</li> <li>2) 社会科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。</li> <li>3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。</li> <li>4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。</li> <li>5) 当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は、3年次の「社会科教育法Ⅰ」に関連します。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	問題解決的単元構成について	経験主義教育と系統主義教育の長所短所を整理しておく。		
第2回	1単位時間の指導について 展開、発問、板書及び「内容の取扱い」の留意点など	『中学校学習指導要領解説社会科編』第3章を熟読しておく。		
第3回	指導案の書き方 1 教材観、生徒観、指導観など	『中学校学習指導要領解説社会科編』の第2章を熟読する。		
第4回	指導案の書き方 2 目標、展開、評価の観点など	『中学校学習指導要領解説社会科編』の第2章を熟読する。		
第5回	指導案の書き方 3 情報機器等、教材の活用方法	OHC他、授業で活用可能な情報機器の機能を調べておく。		
第6回	指導案の作成と相互評価	模擬授業で取り組む単元の指導案を作成しておく。		
第7回	模擬授業の実施 1 【模擬授業及び討論】 @ 地理的分野 (日本の気候・風土)	日本の気候・風土の教材研究をしておく。(模擬授業の指導案提出)		
第8回	模擬授業の実施 2 【模擬授業及び討論】 @ 地理的分野 (日本の産業)	日本の産業の教材研究をしておく。(模擬授業の指導案提出)		
第9回	模擬授業の実施 3 【模擬授業及び討論】 @ 地理的分野 (世界の国々)	世界の国々の教材研究をしておく。(模擬授業の指導案提出)		
第10回	模擬授業の実施 4 【模擬授業及び討論】 @ 地理的分野 (日本の古代・中世)	日本の古代・中世の教材研究をしておく。(模擬授業の指導案提出)		
第11回	模擬授業の実施 5 【模擬授業及び討論】 @ 地理的分野 (日本の近世・近代)	日本の近世・近代の教材研究をしておく。(模擬授業の指導案提出)		
第12回	模擬授業の実施 6 【模擬授業及び討論】 @ 地理的分野 (日本の現代)	日本の現代の教材研究をしておく。(模擬授業の指導案提出)		
第13回	模擬授業の実施 7 【模擬授業及び討論】 @ 地理的分野 (政治・経済)	政治・経済の教材研究をしておく。(模擬授業の指導案提出)		
第14回	模擬授業の実施 8 【模擬授業及び討論】 @ 地理的分野 (国際社会)	国際社会の教材研究をしておく。(模擬授業の指導案提出)		
第15回	望ましい授業の在り方【討論】	望ましい授業の在り方について考え、発表準備をしておく。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	50%(指導案作成)			
小テスト等	なし。			
成果発表	30%(模擬授業の内容)			
受講態度他	20%(討論への参加)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教職を目指すという自覚をもち、真剣かつ積極的な受講態度で授業に臨むこと。			
教科書	『中学校学習指導要領解説 社会編』			
指定図書	授業中に指示する。			
参考図書	授業中に指示する。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	社会活動実践【演習】		開講時期	通年
担当教員	栗山(俊)・吉野(嘉)		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：社会活動に参加することで、社会の現状や仕組みについての理解を深めるとともに、責任感やコミュニケーション能力など、現代社会に必要とされる資質や能力を身に付ける。</p> <p>概要：インターンシップのほか、ボランティア活動、海外研修などを社会活動としてとらえ、一定の時間これらを体験することが中心となる。また、事前、事後の学習を通して、現代社会における自らの社会活動の位相について、より深く、広く認識する。</p>			
到達目標	<p>社会活動に参加する際の基本的なマナーを習得する</p> <p>それぞれの社会活動に参加する意義・目的について明確化し、それに従って具体的に実践できる</p> <p>同じ活動に取り組む仲間たちと協働して社会活動に取り組むことができる</p> <p>行った社会活動の内容をまとめ、他者に伝えることができる</p> <p>自らの社会活動内容について振り返り、次回に活かすことができる</p> <p>上述のような学びを通して、社会活動に積極的に参加できる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身につけている。</p> <p>この授業で行われるディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークは、基礎専門ゼミナール、専門ゼミナール、卒業ゼミナールなどで行われるそれらの基礎となるものです。</p> <p>この科目は、実践キャリア実務士、プレゼンテーション実務士、環境マネジメント実務士に関連する科目です。</p> <p>担当教員の中には仏教福祉活動・高校教員の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	全体オリエンテーション この講義の進め方	社会活動とは何か学修する		
第2回	インターンシップ・ボランティアについて (1)	インターンシップ・ボランティアについて学修する		
第3回	インターンシップ・ボランティアについて (2)	インターンシップ・ボランティアについて学修する		
第4回	社会活動の希望調査&ディスカッション	希望した社会活動について、その内容について学修する		
第5回	各社会活動に応じたグループワーク (1)	各社会活動に応じて与えられる課題に基づいて学修する		
第6回	各社会活動に応じたグループワーク (2)	各社会活動に応じて与えられる課題に基づいて学修する		
第7回	各社会活動に応じたグループワーク (3)	各社会活動に応じて与えられる課題に基づいて学修する		
第8回	社会活動実践	実際の社会活動を通して明らかになった課題について学修する		
第9回	社会活動実践	実際の社会活動を通して明らかになった課題について学修する		
第10回	社会活動実践	実際の社会活動を通して明らかになった課題について学修する		
第11回	社会活動実践プレゼンテーション準備としてのグループワーク	プレゼンテーションの分担部分について学修する		
第12回	社会活動実践プレゼンテーション資料完成	社会活動実践プレゼンテーション資料を完成させる		
第13回	社会活動実践プレゼンテーション (1)	自らのプレゼンテーションを振り返る・他者のプレゼンテーションを評価する		
第14回	社会活動実践プレゼンテーション (2)	自らのプレゼンテーションを振り返る・他者のプレゼンテーションを評価する		
第15回	社会活動実践プレゼンテーション (3)	自らのプレゼンテーションを振り返る・他者のプレゼンテーションを評価する		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない			
レポート	レポート試験 30%			
小テスト等	提出物 20%			
成果発表	社会実践活動プレゼンテーション 30%			
受講態度他	講義に取り組む姿勢 20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*インターンシップ・ボランティアなどに取り組んでおられる諸団体にご協力頂きながら実際の社会活動実践を行います。真摯に向き合ってください。 *後期通年で15回の講義を行うところ、また、社会活動実践の種類によってクラス分けを行うところなどが、他とは異なるこの講義の特徴です。 *それぞれの社会活動に関する情報等があれば、筑女ネットに掲載します。また、インターンシップ先、ボランティア先等により受講スケジュールが変わります。筑女ネットでチェックしてください。個別の質問等も筑女ネットでも受け付けます。筑女ネットの活用を心掛けてください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します			
オフィスワーク	各教員・前期・後期によって異なります。担当教員の他の前期・後期のシラバスを参照してください	メールアドレス		

授業科目	社会学【講義】		開講時期	後期
担当教員	花野 裕康		単位	2
授業の目的と概要	<p>「社会」と一言で言ってもいったい何を指すのか、そして「社会学」っていったい何を学ぶのか、よく分からない人が多いと思います。この講義は社会学の入門を学ぶものですが、社会学の科目が多い現代社会学部以外の、他学部向けの講義ですから、予備知識ゼロでも十分理解できるように講義を行います。具体的には、</p> <p>①社会学とはどのような学問なのか、その「考え方」をまず学びます。</p> <p>②次に社会学の研究対象を理解します。</p> <p>③広大な社会学の研究対象からいくつかをピックアップし、社会学の考え方を適用しつつ現代社会の様々な側面を学びます。</p> <p>④最終的には、社会学の基本的な考え方および共通研究対象を修得することを目標とします。</p>			
到達目標	<p>①社会学の考え方を正しく述べるができる</p> <p>②社会学の研究対象を正しく述べるができる</p> <p>③社会における歴史のもしくは現代的な複数のトピックを具体的に解説することができる</p> <p>④「社会学とは何か？」に対する問いに正しく答えることができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。具体的には、毎回授業終了直前に周知する次回テーマへの予習（書籍やネット上の情報を各自入手する事）と、その日学んだテーマの整理および、自身の見解の文章化（1000字程度）を行う事。</p> <p>本科目は、同時に開講されている一般教養科目「哲学」「環境学」「政治学」「倫理学」「宗教学」「心理学」等の隣接学問科目として、これらの科目と併せて受講する事で、現代社会を多角的に観察・分析することができるようになる。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 「わたし」と社会			これまでの自分と社会とのかかわりについてまとめる	
第2回 社会学の考え方と研究対象			社会学の考え方についてよく理解した上で自分の言葉でまとめる	
第3回 社会学の研究対象			社会学の研究対象についてよく理解した上で自分の言葉でまとめる	
第4回 行為とコミュニケーション			行為とコミュニケーションについて自分の言葉でまとめる	
第5回 役割とコミュニケーション			役割とコミュニケーションについて自分の言葉でまとめる	
第6回 集団と組織			集団と組織について自分の言葉でまとめる	
第7回 地域社会と国家			地域社会と国家について自分の言葉でまとめる	
第8回 社会における問題			社会における問題について自分の言葉でまとめる	
第9回 日本の戦後75年①：夢の時代			夢の時代について自分の言葉でまとめる	
第10回 日本の戦後75年②：虚構の時代			虚構の時代について自分の言葉でまとめる	
第11回 日本の戦後75年③：現実の時代			現実の時代について自分の言葉でまとめる	
第12回 若者文化①：従来型			従来型について自分の言葉でまとめる	
第13回 若者文化②：状況志向型			状況志向型について自分の言葉でまとめる	
第14回 若者文化③：放射志向型			放射志向型について自分の言葉でまとめる	
第15回 今後の「わたし」と社会			今後の「わたし」と社会について自分の言葉でまとめる	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80%（授業内で複数回行う）			
成果発表	なし			
受講態度他	20%（受講態度が悪い場合はこの%に影響するほか、その回の小テストを受け取らないことがある）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。許可された場合以外でのスマホ操作、居眠り、私語等授業中に無関係な他の事をしないこと。見つけ次第その回の小テストは未提出扱いとする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜と火曜の3講時、水曜と木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	社会学概論【講義】		開講時期	前期
担当教員	花野 裕康		単位	2
授業の目的と概要	<p>この講義は社会学の入門を学ぶものです。具体的には、</p> <p>①社会学とはどのような学問なのか、その「考え方」をまず学びます。</p> <p>②次に社会学の研究対象を理解します。</p> <p>③そして、社会学のさまざまな研究対象に共通する基本的な事柄に関して社会学の考え方を適用しつつ学びます。</p> <p>④最終的には、社会学の基本的な考え方および共通研究対象を修得することを目標とします。</p>			
到達目標	<p>①社会学の考え方を正しく説明することができる</p> <p>②社会学の研究対象を正しく説明することができる</p> <p>③自ら選んだ複数の社会現象を社会的に解説することができる</p> <p>④「社会学とは何か？」に対する問いに正しく答えることができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>ア(3)-②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>具体的には、毎回授業終了直前に周知する次回テーマへの予習(書籍やネット上の情報を各自入手する事)と、その日学んだテーマの整理および、自身の見解の文章化(1000字程度)を行う事。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	講義の説明および講義——行為とその類型、行為と社会規範、行為と社会空間、社会化と行為。	配信する解説音声付きスライドを繰り返し再生し、復習。		
第2回	社会化と行為(続き)、近代官僚制、官僚制の逆機能、官僚制の逆機能の克服、テイラー主義とフォードイズム、人間関係論、日本型経営、ポストフォードイズムとトヨタイズム。	配信する解説音声付きスライドを繰り返し再生し、復習。		
第3回	イントロダクション(授業の引き継ぎと序論)	担当者の引き継ぎに関し、授業内容上何がどう引き継がれたのかまとめる		
第4回	「わたし」と社会	これまでの自分と社会とのかかわりについてまとめる		
第5回	社会の「学」とは何か	社会学の考え方についてよく理解した上で自分の言葉でまとめる		
第6回	社会学の研究対象	社会学の研究対象についてよく理解した上で自分の言葉でまとめる		
第7回	社会的存在としての「人」	社会的存在としての「人」について自分の言葉でまとめる		
第8回	意志行為	意志行為について自分の言葉でまとめる		
第9回	コミュニケーションと心	コミュニケーションと心について自分の言葉でまとめる		
第10回	役割理論	役割理論について自分の言葉でまとめる		
第11回	人の集まり:集団	集団について自分の言葉でまとめる		
第12回	集団と組織	集団と組織について自分の言葉でまとめる		
第13回	農村と都市	農村と都市について自分の言葉でまとめる		
第14回	国家	国家について自分の言葉でまとめる		
第15回	世界社会	世界社会について自分の言葉でまとめる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80%(授業内で複数回行う)			
成果発表	なし			
受講態度他	20%(受講態度が悪い場合はこの%に影響するほか、その回の小テストを受け取らないことがある)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。講義者(花野)とのやり取りに積極的に参加すること。許可された場合以外でのスマホ操作、居眠り、私語等授業中に無関係な他の事をしないこと。見つけ次第その回の課題は未提出扱いとする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	社会学概論 I【講義】		開講時期	前期
担当教員	花野 裕康		単位	2
授業の目的と概要	この講義は社会学の入門を学ぶものです。具体的には、 ①社会学とはどのような学問なのか、その「考え方」をまず学びます。 ②次に社会学の研究対象を理解します。 ③そして、社会学のさまざまな研究対象に共通する基本的な事柄に関して社会学の考え方を適用しつつ学びます。 ④最終的には、社会学の基本的な考え方および共通研究対象を修得することを目標とします。			
到達目標	①社会学の考え方を正しく説明することができる ②社会学の研究対象を正しく説明することができる ③自ら選んだ複数の社会現象を社会的に解説することができる ④「社会学とは何か？」に対する問いに正しく答えることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 福 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 講義の説明および講義——社会化と社会的行為、行為の類型。		配信する解説音声付きスライドを繰り返し再生し、復習。		
第2回 個人主義とアノミー、社会システムと機能。		配信する解説音声付きスライドを繰り返し再生し、復習。		
第3回 イントロダクション（授業の引き継ぎと序論）		担当者の引き継ぎに関し、授業内容上何がどう引き継がれたのかまとめる		
第4回 「わたし」と社会		これまでの自分と社会とのかかわりについてまとめる		
第5回 社会の「学」とは何か		社会学の考え方についてよく理解した上で自分の言葉でまとめる		
第6回 社会学の研究対象		社会学の研究対象についてよく理解した上で自分の言葉でまとめる		
第7回 社会的存在としての「人」		社会的存在としての「人」について自分の言葉でまとめる		
第8回 意志行為		意志行為について自分の言葉でまとめる		
第9回 コミュニケーションと心		コミュニケーションと心について自分の言葉でまとめる		
第10回 役割理論		役割理論について自分の言葉でまとめる		
第11回 人の集まり:集団		集団について自分の言葉でまとめる		
第12回 集団と組織		集団と組織について自分の言葉でまとめる		
第13回 農村と都市		農村と都市について自分の言葉でまとめる		
第14回 国家		国家について自分の言葉でまとめる		
第15回 世界社会		世界社会について自分の言葉でまとめる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80% (授業内で複数回行う)			
成果発表	なし			
受講態度他	20% (受講態度が悪い場合はこの%に影響するほか、その回の小テストを受け取らないことがある)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。講義者(花野)とのやり取りに積極的に参加すること。許可された場合以外でのスマホ操作、居眠り、私語等授業中に無関係な他の事をしないこと。見つけ次第その回の課題は未提出扱いとする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	社会学概論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	花野 裕康		単位	2
授業の目的と概要	<p>この講義は、「社会学概論Ⅱ」を受けて、広大な社会学の研究対象からいくつかをピックアップし、社会学の考え方を適用しつつ現代社会の様々な側面を学びます。具体的には、</p> <p>①現代社会の「タテ」の側面である「近代社会の誕生から現在までの時間的な変遷」を「日本社会の100年」という具体例を通して学びます。</p> <p>②次に「ヨコ」面である「今現在の社会における様々なトピック」を「若者文化」という具体例を通して学びます。</p> <p>③最終的には、今ここにある現代社会をタテヨコの両面から知ることを目標とします。</p>			
到達目標	<p>①近代社会から現代社会への変遷を具体的に正しく述べることができる</p> <p>②今現在の社会における複数のトピックを具体的に正しく述べることができる</p> <p>③現代社会のありさまを時間的空間的双方の視点から立体的に解説することができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。具体的には、毎回授業終了直前に周知する次回テーマへの予習(書籍やネット上の情報を各自入手する事)と、その日学んだテーマの整理および、自身の見解の文章化(1000字程度)を行う事。</p> <p>関連科目は「社会学概論Ⅰ」である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	社会学概論Ⅰの振り返り	社会学概論Ⅰのノートを見直して、社会学の考え方を手短かにまとめる		
第2回	日本社会の100年①：戦前と戦中	「戦前と戦中」について自分の言葉でまとめる		
第3回	日本社会の100年②：夢の時代(前半)	「夢の時代(前半)」について自分の言葉でまとめる		
第4回	日本社会の100年③：夢の時代(後半)	「夢の時代(後半)」について自分の言葉でまとめる		
第5回	日本社会の100年④：虚構の時代(前半)	「虚構の時代(前半)」について自分の言葉でまとめる		
第6回	日本社会の100年⑤：虚構の時代(後半)	「虚構の時代(後半)」について自分の言葉でまとめる		
第7回	日本社会の100年⑥：現実の時代(前半)	「現実の時代(前半)」について自分の言葉でまとめる		
第8回	日本社会の100年⑦：現実の時代(後半)	「現実の時代(後半)」について自分の言葉でまとめる		
第9回	若者文化①：自分らしさとコミュニケーション	「自分らしさとコミュニケーション」について自分の言葉でまとめる		
第10回	若者文化②：状況志向型の誕生	「状況志向型の誕生」について自分の言葉でまとめる		
第11回	若者文化③：状況志向型の社会的背景	「状況志向型の社会的背景」について自分の言葉でまとめる		
第12回	若者文化④：状況志向型がもたらした社会的影響	「状況志向型がもたらした社会的影響」について自分の言葉でまとめる		
第13回	若者文化⑤：放射志向型の誕生	「放射志向型の誕生」について自分の言葉でまとめる		
第14回	若者文化⑥：放射志向型の社会的背景	「放射志向型の社会的背景」について自分の言葉でまとめる		
第15回	若者文化⑦：放射志向型がもたらした社会的影響	「放射志向型がもたらした社会的影響」について自分の言葉でまとめる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80%(授業内で複数回行う)			
成果発表	なし			
受講態度他	20%(受講態度が悪い場合はこの%に影響するほか、その回の小テストを受け取らないことがある)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。講義者(花野)とのやり取りに積極的に参加すること。許可された場合以外でのスマホ操作、居眠り、私語等授業中に無関係な他の事をしないこと。見つけ次第その回の小テストは未提出扱いとする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜と火曜の3講時、水曜と木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		



授業科目	社会学基礎A (地域) 【講義】		開講時期	後期
担当教員	野中 亮		単 位	2
授業の目的と概要	地域社会学の基礎的な視点と方法を学び、地域社会のアクチュアルな問題を理解することを目的とします。社会学における「地域」のとらえ方・考え方、「地域」を構成すると考えられている諸要素、これらに元づいて設計されている実証的研究の理論と方法などについて、具体的な事例を通じて学びます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域社会を分類／説明する概念について説明できる。</li> <li>・ 近代化と都市化の社会学理論について説明できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身につけている。 「社会学基礎」の科目群、および「地域文化論」と関連</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	地域の社会問題とは	筑女ネットの第1回用資料を用いて自学すること。		
第2回	地域とは：コミュニティ概念とシカゴ学派の地域研究(1)	筑女ネットの第2回用資料を用いて自学すること。		
第3回	地域研究の例：シカゴ学派の地域研究(2)	筑女ネットの第3回用資料を用いて自学すること。		
第4回	地域とネットワーク：パーソナルネットワークとコミュニティ	筑女ネットの第4回用資料を用いて自学すること。		
第5回	都市の社会学：都市の生成と特徴	筑女ネットの第5回用資料を用いて自学すること。		
第6回	都市の社会問題：貧困・相対的貧困を中心に	筑女ネットの第6回用資料を用いて自学すること。		
第7回	農山漁村の社会学：農山漁村の変化と現代的課題	筑女ネットの第7回用資料を用いて自学すること。		
第8回	農山漁村の社会問題：過疎化・少子高齢化を中心に	筑女ネットの第8回用資料を用いて自学すること。		
第9回	都市と文化：消費と文化創造	筑女ネットの第9回用資料を用いて自学すること。		
第10回	農山漁村と文化：伝統と文化創造	筑女ネットの第10回用資料を用いて自学すること。		
第11回	グローバル化と地域：都市と農山漁村における国際化	筑女ネットの第11回用資料を用いて自学すること。		
第12回	環境と地域：自然環境と生活環境	筑女ネットの第12回用資料を用いて自学すること。		
第13回	まちづくり／むらおこし：地域創生の新規まき直し	筑女ネットの第13回用資料を用いて自学すること。		
第14回	メディアと地域：創造と発信	筑女ネットの第14回用資料を用いて自学すること。		
第15回	まとめ	筑女ネットの第15回用資料を用いて自学すること。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	学期末レポート：55%			
小テスト等	毎回実施する小課題：45%			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「授業外学修」の欄は、主に復習を念頭に設定しています。時間は180分程度を想定しています。</li> <li>・ 教科書を使用しないので、配付資料をしっかりと学習してください。</li> <li>・ パソコンやネットワークに関する不都合などがある場合は、即時メールにて連絡してください。対処法を指示します。</li> </ul>			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社(2000)			
オフィスワー	木曜5限	メールアドレス		

授業科目	社会学基礎B (家族) 【講義】		開講時期	後期
担当教員	橋本 嘉代		単位	2
授業の目的と概要	個人や家族のあり方、変化や多様性について、社会学の視点で読み解くことで、論理的思考力を身につけることを目指します。 Q 家族とはいつの時代も変わらないもの？ Q 社会の中で「家族」の意味や語られ方、家族に期待される役割は変化してきたのか？ Q 若い女性の間では、キャリア志向と専業主婦志向、どちらが支持されているのか？ Q 日本ではなぜ少子化が進んでいるのか？ ・・・・etc			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データや仮説、メディアが描く家族像の分析などを通じ、当たり前だと思っている「家族」について、とらえ直す情報リテラシーを身につける。</li> <li>・個人の生き方が多様化するなか、誰もが尊重される社会を作るためには何が必要かを考える創造的思考力を身につける。</li> <li>・女性の貧困や男女格差、女性労働者の二極化、性別役割分業など、女性の人生をとりまく諸問題を知り、自己の将来設計に生かす。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身につけている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス			教科書(2冊)の「まえがき」と第1章を読む	
第2回 家族を読み解くために(第1章) p.1-22			テキストの範囲の予習・復習	
第3回 「近代家族」の成立①(第2章)			テキストの範囲の予習・復習	
第4回 「近代家族」の成立②(第2章)、家族・貧困・福祉①(第3章)			テキストの範囲の予習・復習。小テスト対策	
第5回 家族・貧困・福祉②(第3章) +1-2章の範囲の小テスト			課題：自分の自治体の家族支援制度を調べ、他の自治体との違いを比較	
第6回 結婚①(第4章)			テキストの範囲の予習・復習	
第7回 結婚②(第4章)、就業と家族①(第5章)			テキストの範囲の予習・復習	
第8回 就業と家族②(第5章) + 研究計画書・レポートの書き方 +3-4章の小テスト			テキストの範囲の予習・復習、個人研究のテーマ探し +小テスト対策	
第9回 妊娠・出産・子育て①(第6章)			テキストの範囲の予習・復習、個人研究のテーマ探し	
第10回 妊娠・出産・子育て②(第6章)、親-成人子関係のゆくえ①(第7章)			テキストの範囲の予習・復習。研究計画書執筆	
第11回 親-成人子関係のゆくえ②(第7章) +5-6章の小テスト			テキストの範囲の予習・復習。研究計画書執筆 +小テスト対策	
第12回 個人・家族・親密性のゆくえ(第8章)			課題：家族をテーマにしたメディア作品を探し、レポート執筆準備	
第13回 家族の語られ方(2章) +7-8章の小テスト			テキストの範囲の予習・復習、レポート執筆 +小テスト対策	
第14回 エンタメコンテンツとしての「家族のストーリー」(3章)			テキストの範囲の予習・復習、レポート執筆	
第15回 家族をめぐる政治経済的な思惑(4章)、<公><私>の揺らぎと家族の変容(5章)			テキストの範囲の予習・復習、レポート執筆	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% (研究計画、レポート)			
小テスト等	30% (基本用語の確認テスト)			
成果発表	0%			
受講態度他	30% (リアクションペーパー、小課題)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートは、家族社会学に関する個人研究です。構成を「研究計画」として事前に提出 → 授業や筑女ネットでフィードバック → 適宜、修正 → レポート執筆・提出 という流れになります。詳細は、授業中に説明し、筑女ネットにもUPします。</li> <li>・筑女ネット上で記入する小課題を随時、実施します(受講態度として評価の対象になります)。</li> </ul>			
教科書	第1回～第12回：岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学』有斐閣、第1回、第13回～15回：橋本嘉代『なぜいま家族のストーリーが求められるのか』書肆侃侃房			
指定図書	なし			
参考図書	石井クンツ昌子、2013『育メン現象の社会学』ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	火曜 12:30-14:00 水曜 11:00-12:45	メールアドレス		

授業科目	社会学基礎C（産業）【講義】		開講時期	前期
担当教員	森 康司		単位	2
授業の目的と概要	産業化のインパクトは、家族、地域社会、企業経営、働き方、環境など広範囲に及びましたが、好ましい影響ばかりではなく、様々な副作用をもたらしました。本講義では、まずは社会学の視点から、「産業社会」と呼ばれる社会の特徴と、産業化が社会全体に与えたインパクトについて概観します。そして、産業化によって私達の生活はどのように変化したのか、特に現代の労働の特徴と、その課題について、一緒に考えていきます。			
到達目標	産業社会の特徴を理解し、自分の言葉で説明できる。 社会学的な思考法を習得し、日常生活で生起する何気ない現象から、現代社会の諸問題まで社会学的に解説できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身につけている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション 社会とは何か	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
第2回	社会学の特徴①社会的要因を重視する	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
第3回	社会学の特徴②クリティカル・シンキング	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
第4回	産業社会の特徴①社会的分業	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
第5回	産業社会の特徴②核家族化、都市化	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
第6回	産業社会の諸問題	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
第7回	官僚制組織	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
第8回	官僚制の逆機能	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
第9回	テイラーシステムと人間の歯車化	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
第10回	労働の過去と現在① 日本の経営の変容	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
第11回	労働の過去と現在② 非正規雇用の増大	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
第12回	労働の過去と現在③ 若者は「ニート化」したか	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
第13回	女性の労働① 性別役割分業とは	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
第14回	女性の労働② 高度経済成長と女性の専業主婦化	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
第15回	女性の労働③ 近代家族の課題	配付資料を熟読し、分からない概念などを調べたり、質問する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし(なくしました)			
レポート	なし(なくしました)			
小テスト等	100%(テーマごとに課題を提出してもらいます)			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料は筑女ネットに何度かに分けて掲載します。掲載後は筑女ネットのメッセージ機能でお知らせします。</li> <li>理解度の確認のために、テーマごとに複数回課題を課します。</li> <li>課題にはそれぞれ提出期限があるので、注意して下さい。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	筑女ネットのメッセージ機能を推奨します。	メールアドレス		

授業科目	社会学基礎D（環境）【講義】		開講時期	後期
担当教員	中村 修		単 位	2
授業の目的と概要	環境問題について、その基本的な仕組み（生態学、経済学）と地域での対応について理解できるようになる。 環境と共生可能な地域や暮らしのあり方について生態学、経済学、科学史、女性学など様々な視点から紹介する。そもそも生活者としてはまるごと（多様な視点）という考え方に拠る。より具体的に考えるため、福岡県大木町、みやま市、タイの農村部での資源循環の取り組みについて講義する。			
到達目標	1、大木町、みやま市の資源循環の取り組みを知ること、これからの地域のあり方の一つのモデルを理解できる 2、生態学、経済学の視点での循環について理解できる 3 ごみを資源にする取り組みについて説明できる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現（3）-②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身につけている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	環境問題の基本理解1 「なぜ山の上で木は育つのか」	配布したプリントで復習		
第2回	環境問題の基本理解2 「プラスチックのバクテリアはどこまで増えるのか」	配布した資料（みやま市資料）で復習		
第3回	人口ボーナスと人口オーナス 経済成長の理論	配布した資料で復習		
第4回	専門家と社会1 水俣病、原子力発電	配布した資料で復習		
第5回	専門家と社会2 減農薬 ダーチャ（自給農園）	配布した資料で復習		
第6回	専門家と社会3 専門家が決める当事者の選択	配布した資料で復習		
第7回	わたしが食べたものが『わたし（のからだ）』1	配布した資料で復習		
第8回	わたしが食べたものが『わたし（のからだ）』2	配布した資料で復習		
第9回	森を切る文明 地球温暖化と過去の森（石炭、石油）	配布した資料で復習		
第10回	地域の回復1 ごみを資源にまちづくり 大木町 再エネ100	配布した資料（大木町資料）で復習		
第11回	地域の回復2 ごみを資源にまちづくり みやま市	配布した資料（みやま市資料）で復習		
第12回	地域の回復3 タイの農村 森を育てる農民1 映像を批判的に見る	配布した資料で復習、youtubeの映像を見る		
第13回	地域の回復4 タイの農村 森を育てる農民2	配布した資料で復習		
第14回	弱さを絆に 浦河町 当事者研究「なつひさお」	配布した資料で復習		
第15回	弱さを絆に 認知症カフェ、災害のユートピア、地域通貨（循環するお金）	配布した資料で復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% 課題レポート2題（それぞれ20%）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	60% ミニツペーパー「毎回の講義の感想、意見」			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回授業終了時（10分間）に、ミニツペーパー「講義の感想、意見」を書いて提出。講義の概要の記入は不要。受講して興味深かった点、質問、疑問、意見などを具体的に書いてください。次の講義の冒頭で、（質問などには）追加の説明などをおこないます。			
教科書	プリントなど配布			
指定図書	なし			
参考図書	中村修「ごみを資源にまちづくり」農文協 2017			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	社会学基礎E (メディア) 【講義】		開講時期	後期
担当教員	花野 裕康		単位	2
授業の目的と概要	本講義では、メディアについて社会的に学ぶ。「メディア」は、コミュニケーションのなか立ちをするものすべてを指す概念である。まずはここから出発し、メディアの歴史や発達を学んだ上で、特にマス・メディアや、インターネット等の電子メディアを学ぶ。メディアはいかなる意味でコミュニケーションや、その集まりとしての社会に影響を与え、また受けているのか。最終的には、現代社会におけるメディアの役割を知ることが目標とする。			
到達目標	①メディアの定義と諸メディアの特性を自分の言葉で簡潔に説明することができる ②メディアに関する諸理論について、自分の言葉で概略を説明することができる ③電子メディアがコミュニケーションに及ぼす影響について、自分の言葉で説明することができる ④電子メディアが社会に及ぼす影響について、自分の言葉で説明することができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身につけている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。具体的には、毎回授業終了直前に周知する次回テーマへの予習(書籍やネット上の情報を各自入手する事)と、その日学んだテーマの整理および、自身の見解の文章化(1000字程度)を行う事。 関連科目は「社会学基礎A(地域)」「社会学基礎B(家族)」「社会学基礎C(産業)」「社会学基礎D(環境)」「社会学基礎F(福祉)」「社会学基礎G(ジェンダー)」および「現代社会とメディア」「メディア論」「メディアリテラシー」「情報メディア論」「メディアコンテンツ論」「テレビ論」「ジャーナリズム論」「文化研究論」となる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	メディアとは何か	メディア概念について自分の言葉でまとめる		
第2回	メディアの歴史的系譜①: 元祖パーソナルメディアの時代	ラジオ出現以前の諸メディアについて系譜と見取り図を作成する		
第3回	メディアの歴史的系譜②: マス・メディアの誕生	マス・メディアの誕生とその社会的影響について自分の言葉でまとめる		
第4回	メディアの歴史的系譜③: 電子メディアの席卷	電子メディアの誕生とその社会的影響について自分の言葉でまとめる		
第5回	メディアの理論①: メディア効果論	メディア効果論の概略と当理論への理論的批判を自分の言葉でまとめる		
第6回	メディアの理論②: テキスト論・記号論	テキスト論・記号論をメディア論的視点から自分の言葉でまとめる		
第7回	メディアの理論③: 電子メディア論	電子メディア論についてその主要なものを自分の言葉でまとめる		
第8回	電子メディアとコミュニケーション①: ネット以前とネット以後	ネット普及後のコミュニケーションの変容について自分の言葉でまとめる		
第9回	電子メディアとコミュニケーション②: スマホ以前とスマホ以後	スマホ普及後のコミュニケーションの変容について自分の言葉でまとめる		
第10回	電子メディアとコミュニケーション③: キャッシュレス化と今後	今後の電子メディアによるコミュニケーションについて自分の言葉でまとめる		
第11回	電子メディアと社会①: ネット以前とネット以後	ネット普及でいかに社会が変わった/変わっていないか自分の言葉でまとめる		
第12回	電子メディアと社会②: スマホ以前とスマホ以後	スマホ普及でいかに社会が変わった/変わっていないか自分の言葉でまとめる		
第13回	電子メディアと社会問題①: 拡散の問題	炎上等の拡散問題の概略と解決策について自分の言葉でまとめる		
第14回	電子メディアと社会問題②: 縄張り問題	ヘイト・言語等の縄張り問題の概略と解決策について自分の言葉でまとめる		
第15回	メディアと社会の今後	今後メディアは社会の中でどのように浸透し続けるか自分の言葉でまとめる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80%(授業内で複数回行う)			
成果発表	なし			
受講態度他	20%(受講態度が悪い場合はこの%に影響するほか、その回の小テストを受け取らないことがある)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。講義者(花野)とのやり取りに積極的に参加すること。許可された場合以外でのスマホ操作、居眠り、私語等授業中に無関係な他の事をしないこと。見つけ次第その回の小テストは未提出扱いとする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜と火曜の3講時、水曜と木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	社会学基礎F（福祉）【講義】		開講時期	後期
担当教員	園田 浩之		単位	2
授業の目的と概要	この授業では、福祉社会学の視点と、そこで扱われているいくつかの問題について紹介してゆく。授業の目的は、ときに福祉をめぐる私たちの常識を問い直しながら、私たちの「生きづらさ」をめぐる現実を多面的に理解してもらうこと、そのための視点と考え方を紹介することにある。福祉をめぐるイメージ（または既知と無知）を超えて、柔軟に現実を見つめなおすセンスを養うことに主眼をおく。また、社会福祉が向き合うさまざまな「生きづらさ」をめぐる、それらを生み出す社会的・時代背景にさかのぼってその成り立ちを理解し、いまある社会とそこに生きる私たち自身の抱える問題に気づいてもらうために、社会学的なものの考え方の基礎にも親しんでもらう。			
到達目標	(1) 生きづらさや生きることの不安に関係した福祉のテーマを取り上げながら、自らの生きる現実を多面的に・柔軟に（ときに批判的に）とらえるために必要なリテラシーやクリティカル・シンキングの姿勢や視点を身につける。(2) 自らの生きる現代社会がどのような問題を抱え込んでいるかを多面的に理解し、それをできる限りクリアに・丁寧に言語化することができる。それらの学びを通じて、ものの見方と思考、そして言葉による表現の柔軟性を高める。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身につけている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	現代社会に生きることの不安 福祉「社会学」への招待	配布資料とノートをもとに初回の内容（と受講上のルールなど）をふりかえる		
第2回	生の脆さ① 「日常生活」の成り立ちから考えてみる	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第3回	生の脆さ② 自由に生きることを支えるものについて	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第4回	障害をめぐる① 生きづらさがつくり出されるとき	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第5回	障害をめぐる② 障害のありか：ふたつの視点	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第6回	障害をめぐる② 障害学の見方	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第7回	障害をめぐる③ 「障害」のある社会（と、福祉にできること）	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第8回	自立と依存をめぐる① 「自立」の意味を問い直す	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第9回	自立と依存をめぐる② 「自立」の意味を書き換える（再定義する） つながりの中の生	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第10回	ふつうに生きることの困難さ 現代の生きづらさをめぐって① さまざまな貧困	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第11回	ふつうに生きることの困難さ 現代の生きづらさをめぐって② 現代の貧困	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第12回	ふつうに生きることの困難さ 貧困を生きづらさをめぐって③ 社会問題としての生きづらさと、社会福祉の役割	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第13回	社会的排除と包摂① さまざまな排除をめぐる	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第14回	社会的排除と包摂② 「自己責任」という見方を問い直してみる	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第15回	「生きづらさ」「生きやすさ」を社会学することの意義	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	85% 期末にペーパーテストを行う。講義中に示した重要な概念や視点、事柄の説明を正しく理解するとともに、それを適切・説得的な言葉で表現できること。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。ただし、理解の適切さを確かめる意味で、講義内容に関する問いかけを行うことはある（受講態度の項目も参照）			
成果発表	なし。			
受講態度他	15% 講義への実質的な参加（講義初回に説明するマナーやルールを守ったうえで、講義中のやりとり。コメントカードの提出とその内容なども含む）。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修を希望する人たちは、必ず「初回の講義」から出席して下さい。受講上のルールや留意点の詳細は、教室で説明します。講義のはじめに説明する受講上のルールは厳守して下さい。教室が思考と学びのための快適な場になるよう、皆さんの協力もお願いします。また、成績評価に関わる項目やその割合（%）について変更がある場合には、必ず講義の中で説明しますので、よく聞いておいて下さい。			
教科書	教科書は使用しません。スライド（パワーポイント）と、そのつど配布するプリント（配布資料）で講義を進めます。			
指定図書	なし			
参考図書	講義の進行に応じて、さらに知りたくなった人・より深く考えたくなった人たちに、思考の糧・補助線になりそうなもの（場合によっては、「本」以外のものも）を紹介していけたらと思っています。			
オフィスアワー	質問や連絡等は、講義の前後に教室で直接うかがいます（いつでも、遠慮なくどうぞ）	メールアドレス		

授業科目	社会学基礎G (ジェンダー) 【講義】		開講時期	後期
担当教員	赤枝 香奈子		単位	2
授業の目的と概要	わたしたちが生きていく上で、「女」や「男」といった「性別」は非常に大きな意味を持っています。それは社会のしくみの多くが性別を基準にして成り立っているからです。このように社会のすみずみにまで浸透し、わたしたちの生を規定する性別について、「ジェンダー」という概念を用いて理解します。さらに、「ジェンダー」とかかわりの深い「セクシュアリティ」という概念について、社会学的な観点から書かれた教科書を使いながら理解します。そして、現代社会に特徴的なジェンダーやセクシュアリティをめぐる諸問題について、歴史的背景や他国の事例なども参照しながら学びます。これらの学習および映像作品の中に現れるジェンダーやセクシュアリティの表象を参考にしながら、多様な性や人生のあり方について具体的にイメージし、思考する力を養うことを目指します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジェンダーやセクシュアリティという概念について理解し、説明することができる。</li> <li>2. ジェンダーやセクシュアリティが議論されてきた歴史について理解し、説明することができる。</li> <li>3. ジェンダーやセクシュアリティに関する近年の変化について説明することができる。</li> <li>4. ジェンダーやセクシュアリティが映像作品などにおいてどのように表象されているか考察することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身につけている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション	授業後に復習を行う。		
第2回	ジェンダーとセクシュアリティ	配布資料を読み、ポイントをまとめてくる。		
第3回	女性性/男性性の表象	配布資料を読み、ポイントをまとめてくる。		
第4回	女性の権利獲得の歴史	配布資料を読み、ポイントをまとめてくる。		
第5回	セクシュアリティとジェンダー役割	教科書の1章を読み、ポイントをまとめてくる。		
第6回	性別の越境	教科書の2章を読み、ポイントをまとめてくる。		
第7回	性的指向をめぐる問題	教科書の3章を読み、ポイントをまとめてくる。		
第8回	恋愛と親密性	教科書の4章を読み、ポイントをまとめてくる。		
第9回	結婚とパートナーシップ制度	教科書の5章を読み、ポイントをまとめてくる。		
第10回	性と暴力	教科書の6章を読み、ポイントをまとめてくる。		
第11回	性の商品化	教科書の7章を読み、ポイントをまとめてくる。		
第12回	HIV/AIDSをめぐる問題	教科書の8章を読み、ポイントをまとめてくる。		
第13回	性的マイノリティが経験する生きづらさ	教科書の9章を読み、ポイントをまとめてくる。		
第14回	セクシュアリティをめぐる権利獲得の歴史	教科書の10章を読み、ポイントをまとめてくる。		
第15回	まとめ	これまでの復習を行う。レポート提出に向けた作業を行う。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%			
小テスト等	30% (授業内での小課題や冬休みのレポートを含む)			
成果発表	0%			
受講態度他	10% (ディスカッションへの参加度、受講態度も成績評価に含める)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回、授業の最後に時間を取って、その回の内容について自分の意見や質問などを書いて提出してもらいます。また、授業の際、テーマに関連する映像作品などを見て、ディスカッションを行う場合があります。教科書や配布資料を用いて予習・復習を行うのはもちろんのこと、授業内に行うディスカッションなどへの積極的参加も求められます。			
教科書	風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社			
指定図書	石田仁『はじめて学ぶLGBT』ナツメ社			
参考図書	授業内で指示する。			
オフィスアワー	水曜2限	メールアドレス		

授業科目	社会心理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	田原 直美		単位	2
授業の目的と概要	社会心理学の基礎知識を獲得し、個人や集団が置かれた状況との相互影響の観点から、人の行動についての理解を深める。日常的な事象について、社会的場面（他者と関わり合う状況）における人の心理や行動の特徴に基づいて考察することができる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会心理学の基礎的な用語や理論について理解し、説明できる。</li> <li>2. 実験や調査の結果を示した図や表が意味するものを読み取り、社会心理学の用語や理論に基づいて説明できる。</li> <li>3. 自分の体験や社会の出来事に関わる因果関係を、社会心理学の用語や理論を用いて説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 社会・集団・家族心理学とは何か		テキスト第1章の予習と復習		
第2回 対人認知		テキスト第2章Ⅰの予習と復習		
第3回 態度と行動		テキスト第3章の予習と復習		
第4回 態度変容と説得コミュニケーション		テキスト第3章と第7章Ⅳ		
第5回 これまでのまとめ		小テスト1の準備（テキスト1・2・3・5章の復習）		
第6回 社会的促進と社会的抑制		テキスト第6章ⅠⅢの予習と復習		
第7回 社会的手抜き		第6章Ⅱ		
第8回 社会的影響		テキスト第7章ⅠⅡⅢの予習と復習		
第9回 集団過程（1）		テキスト第8章Ⅲの予習		
第10回 第6～10回のまとめ		小テスト2の準備		
第11回 集団過程（2）－リーダーシップ		テキスト第8章Ⅱの予習と復習		
第12回 集団過程（3）－集団の中の個人過程		テキスト第8章Ⅱの予習と復習		
第13回 ステレオタイプと偏見		テキスト第4章の予習と復習		
第14回 文化と社会心理		テキスト第13章の予習と復習		
第15回 第11～15回のまとめ		小テスト3の準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	60％ 3回に分けて実施し、1回20％とする。			
成果発表	なし			
受講態度他	40％ 毎回、授業の終わりに与えられたテーマについて記述する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・授業を通して、用語を暗記するだけでなく、実際の日常的な出来事を想像しながら理解を深め、その点について毎回の授業の終わりに、「その日の授業を通して考えたこと」としてまとめ提出してもらいます。			
教科書	竹村 和久 『社会・集団・家族心理学』遠見書房			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		



授業科目	社会調査実習演習【演習】		開講時期	通年
担当教員	野中 亮		単 位	2
授業の目的と概要	<p>実査を経験することで、質的社会調査の具体的な考え方やスキルを身につけることを目的とします。</p> <p>この通年の授業では、調査テーマの設定、事前の資料収集、調査手法の選定、プレテスト、機器の取り扱いの練習、実査、データ整理、報告書の作成・公表という一連の流れを実際に経験します。前期にテーマ設定から実査の準備、後期に実査からデータ整理、報告書の作成をおこなうものと考えてください。</p> <p>また、正規の授業時間外での学習や活動が多いこと、多少の金銭的な負担（交通費等）が必要となることも了解した上で履修して下さい。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質的社会調査のさまざまな必須スキルを身につける</li> <li>・必要に応じて、みずから社会調査を企画・立案し、目的に応じた成果をあげることができる</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>現 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>この科目は社会調査士資格のC科目に相当します。資格取得を目指す人は、A科目（1年次開講）「データから見る社会」・B科目（1年次開講）「調査データの集め方」・C科目（2年次開講）「調査データの読み方」・D科目（2年次開講）「調査データの扱い方」・E&amp;F科目（3年次開講）「量的調査法」「質的調査法」のいずれかを修得する必要があります。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			筑女ネットの注意事項を熟読しておくこと	
第2回 調査テーマの検討			ミーティング結果を各自まとめ、自分の意見を整理	
第3～4回 地域文化関連先行研究の講読・ディスカッション			指定文献・資料の読み込みと発表準備および文献探索	
第5～6回 調査地に関する基礎資料の講読・ディスカッション			指定文献・資料の読み込みと発表準備および文献探索	
第7～9回 補足資料の講読・ディスカッション			指定文献・資料の読み込みと発表準備および文献探索	
第10～12回 文献調査：調査地と調査対象の概要のまとめ			各自担当箇所を執筆し、報告の準備をしておくこと。	
第13～14回 調査項目の検討			概要を元に詳細な調査項目を準備しておくこと。	
第15回 調査計画の策定			実査の概要を整理し、資料類とつきあわせておくこと	
第16～18回 実査の練習と課題の洗い出し			プレテスト（フィールドワーク等）の反省点と改善案を整理しておくこと	
第19～20回 実査計画の修正と確定			修正案を用意し、受講者個々のスケジュール調整をおこなっておくこと。	
第21～22回 実査（3週にわたって、授業時間および週末に調査を実施します）			調査データの整理	
第23～25回 分析			データの整理と仮説の検証をおこなっておくこと	
第26～28回 報告書原稿の作成			担当箇所毎に毎回発表の準備をしておくこと	
第29回 報告書のまとめ			報告書原稿の推敲をおこなっておくこと	
第30回 版下の作成			製本用の完成原稿を用意しておくこと。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 文献の概要報告やテーマ案の提案など、各回の報告を成果発表とみなします。			
受講態度他	50% 成果発表以外の調査運営への貢献を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習とはいえ、実際に外部の方々ときさまざまな形で接する可能性があります。その場合、マナー厳守を心がけてください。</li> <li>・出席は必須です。自分の担当については責任をもって取り組んでください。</li> <li>・全体を通じ、共同作業が多くなります。作業分担や報告の順番など、受講者同士でマメに連絡・相談・融通しあい、有意義な学びの場にしましょう。</li> <li>・野外調査を予定していますが、状況みて他の手法に変えます。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	谷富夫・芦田徹郎『よくわかる 質的社会調査』ミネルヴァ書房			
オフィスワー	水曜2限	メールアドレス		

授業科目	社会調査実習演習【演習】		開講時期	通年
担当教員	森 康司		単位	2
授業の目的と概要	調査系科目の集大成として、調査票を用いた量的調査を実践します。指定図書：『リスク社会を生きる若者たち』をベースに、若者を対象とした調査を行います。受講生は、自身の問題意識に基づいて仮説を設定し、その仮説を検証するにはどのような変数、どのような質問文と選択肢が必要かを考え、調査票を作成します。そして調査票の配付・回収を行い、さらにこれまでの授業で習得した分析手法を応用したデータ分析まで、自ら実践します。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮説を設定し、それに基づいて必要な質問文と選択肢の作成を行うことができる。</li> <li>・ データを分析し、仮説の検証を行うことができる。</li> <li>・ 調査票の配付・回収にはどのような方法があり、それぞれの特徴を説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業計画		実習のスケジュールを確認する		
第2回 問題意識の設定とグループわけ		自分の「問題意識」を整理する		
第3～5回 先行研究を整理して提出する		ネット等で先行研究を2つ以上探して熟読する		
第6回 フィードバックをもとに、研究テーマを確定し、仮説を考えて提出する		教員からのフィードバックコメントを確認する		
第7回 仮説を考えて提出する		さらに先行研究を読む		
第8～9回 独立変数と従属変数を考えて提出する		教員からのフィードバックコメントを参考に、仮説を確定させる		
第10～12回 質問文と選択肢の作成		仮説検証のためにはどのような質問文と選択肢が必要かを考える		
第13回 プレテスト		調査票全体に一度回答してみる		
第14回 調査票の確定		分析手法の確認を行う		
第15回 分析手法の確認		並行して受講している「量的調査法」を復習する		
第16～18回 データの入力と分析手法の確認 回収した調査票のデータ入力と並行しながら、分析手法を確認する		必要に応じて参考図書を読み、分析手法を確認する		
第19回 単純集計		単純集計の特徴を発表する準備を行う		
第20～26回 分析 SPSSを用いた分析を行い、経過発表を行う		仮説がどの程度検証されたのか発表する準備を行う		
第27～29回 仮説の検証 設定した仮説がどの程度検証されたのか、されなかったのかを発表する		分析結果の提出準備を行う		
第30回 分析結果の仮提出		最終レポートの作成を行う		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 最終レポートの提出			
小テスト等	なし			
成果発表	40% 個人・グループ発表と提出物			
受講態度他	20% 調査実施上の貢献度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正当な理由なく15分以上遅れての入室を遅刻とし、遅刻3回で欠席1回に換算します。前期5回、あるいは通年10回を超えて欠席した場合、単位を認定しません。</li> <li>・ 社会調査を実践する演習科目なので、遅刻・欠席は授業の進行を妨げるのみならず、自身の目標達成の妨げにもなるので注意してください。</li> <li>・ 統計分析ソフトSPSSを使用するので、必要に応じて参考図書(C科目で使用した教科書)を読んで下さい。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	石村貞夫・石村友二郎『SPSSでやさしく学ぶ統計解析(第6版)』東京図書			
オフィスワー	前期は筑女ネットのメッセージ機能か、下記アドレスへ。	メールアドレス		

授業科目	社会調査実習演習【演習】		開講時期	通年
担当教員	赤枝 香奈子		単 位	2
授業の目的と概要	これまでの社会調査系科目の集大成として、ドキュメント調査およびフィールドワークを含む質的調査を実践します。調査テーマは福岡の女性史とし、時代区分としては近現代を扱います。さまざまなドキュメントの収集と分析の方法を修得すると同時に、実際に福岡市内を中心とする地域でフィールドワークを行うことで、多様な質的調査とそのプロセスについて体験的に学習します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでに学んできた社会調査の知識を踏まえ、実際に質的調査を企画・設計することができる。</li> <li>2. 調査テーマを明らかにするための資料の収集や分析、フィールドワークやインタビュー調査を実践することができる。</li> <li>3. 調査結果を報告書の形にまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		授業の復習を行う。	
第2回	調査の視座（1）：時代背景を知る		配布資料を読んでくる。	
第3回	調査の視座（2）：多様なテーマを知る		配布資料を読んでくる。	
第4～9回	指定図書の内容の輪読		指定図書の内容の該当箇所を読んでくる。担当者は発表準備を行う。	
第10～11回	調査対象および調査方法の検討		配布資料を読んでくる。	
第12～14回	調査の企画・設計		調査計画の発表準備を行う。	
第15回	調査の実施に向けて		夏休み中のスケジュールをグループごとに確認する。	
第16回	中間報告		夏休み中に調査を実施する。進捗状況の報告準備を行う。	
第17～18回	調査の実施		中間報告を踏まえ、調査を継続する。	
第19～21回	年表作成		年表作成の準備を行う。	
第22～25回	調査結果の発表		発表準備を行う。	
第26～27回	報告書原稿の執筆および補充調査		報告書原稿を執筆し、必要があれば補充調査を行う。	
第28回	報告書原稿の修正		報告書原稿完成にむけて、冬休みにすべきことをリストアップしてくる。	
第29回	報告書原稿の完成		各自の報告書原稿を完成させてくる。	
第30回	報告書の完成に向けて		報告書完成までのスケジュールを検討し、原稿の修正を行う。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	70％（調査報告書の作成）			
小テスト等	0％			
成果発表	25％			
受講態度他	5％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業では、実際に社会調査を企画し、実施します。夏休み中も含め、授業外での作業にかなりの時間が必要になります。積極的な受講態度で授業に臨んでください。			
教科書	使用しない。			
指定図書	福岡県女性史編纂委員会『光をかざす女たち—福岡県女性のあゆみ—』西日本新聞社			
参考図書	福岡県女性史編纂委員会編『新聞にみる福岡県女性のあゆみ』ほか。授業内に指示する。			
オフィスワー	前期：火曜日3限 後期：水曜日2限		メールアドレス	

授業科目	社会的養護Ⅰ【講義】		開講時期	後期
担当教員	山之内 輝美		単 位	2
授業の目的と概要	核家族化が進み、家族形態は多様化する中で、家族の養育機能は低下してきている。現代社会の子ども達やその家族を取り巻く環境の変化の中で、社会的な養護を必要とする子どもがいる。社会的な養護を必要とする子ども達についての理解を深め、人権擁護を踏まえ、養護や支援のあり方を考察することを目的としている。授業では講義が中心となるが、配付資料、視聴覚教材やICTを活用し、里親制度や児童福祉施設等を利用している子どもの生活や実情、社会的養護についての理解を深め、知識を習得し技能を身につけてほしい。			
到達目標	①社会的養護が必要となる背景について説明することができる。 ②社会的養護の理念や倫理について説明することができる。 ③社会的養護の実施体系、家庭養護と施設養護の目的や役割を説明することができる。 ④家庭養護と施設養護の現状や課題について、資料を調べ、統計資料を読み取り、検討することができる。 ⑤関係する専門職の役割を理解し、施設養護の実際や支援のあり方を検討する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福 (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業内容、スケジュール、社会的養護とは		テキスト(pp.1-11)復習	
第2回	社会的養護の概要Ⅰ：社会的養護の対象、制度		テキスト(pp.65-69)復習	
第3回	社会的養護の体系 社会的養護の概要Ⅱ：家庭養護と施設養護		テキスト(pp.56-60,69-77)復習	
第4回	社会的養護の概要Ⅲ：家庭養護 里親やファミリーホーム		テキスト(pp.69-73)復習、視聴覚教材での里親制度のまとめ ①～④まとめ	
第5回	社会的養護の基本理念と原理 施設養護の実際Ⅰ：基本的日常生活上の支援、心身の成長の育み		テキスト(pp.78-87、98-105)復習	
第6回	施設養護の実際Ⅱ：利用する子どもの理解		テキスト(pp.50-55)	
第7回	施設養護の実際Ⅲ：自立や自己実現に向けての支援		復習テキスト(pp.105-110)復習	
第8回	施設養護の実際Ⅳ：家族再統合に向けての支援		テキスト(pp.121-133)復習 ⑤～⑧まとめ	
第9回	社会的養護の現状 社会的背景Ⅰ		テキスト(pp.16-29)復習	
第10回	社会的養護の現状 社会的背景Ⅱ		配付資料から社会的背景の整理	
第11回	虐待への対応 虐待防止と予防Ⅰ		テキスト(pp.111-120)復習	
第12回	虐待への対応 虐待防止と予防Ⅱ		⑨～⑫まとめ	
第13回	関連する専門職の連携、地域社会		テキスト(pp.129-133)復習、配付資料から専門職と連携、地域社会の整理	
第14回	子どもの権利、施設の倫理綱領		テキスト(pp.30-44)復習、配付資料から施設の倫理綱領の整理	
第15回	社会的養護の現状と課題 授業全体のまとめ		現状と課題の整理、授業全体の振り返り	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% 課題や期末提出レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的に授業に参加するように。			
教科書	小池由佳・山縣文治編著『社会的養護』ミネルヴァ書房。			
指定図書	川池智子編『児童家庭福祉論』学文社、大豆生田啓友・三谷大紀編『最新保育資料集2020』ミネルヴァ書房。			
参考図書	神戸賢次・喜多一憲編『児童の社会的養護原理』みらい、厚生労働省『児童養護施設入所児童等調査結果』、日本子ども家庭研究所『子ども虐待防止対応の手引き』有斐閣。			
オフィスアワー	後期 月曜日(12:30-13:00)	メールアドレス		

授業科目	社会的養護Ⅰ【講義】		開講時期	後期
担当教員	牛島 豊広		単位	2
授業の目的と概要	核家族化が進み、家族形態は多様化する中で、家族の養育機能は低下してきている。現代社会の子ども達やその家族を取り巻く環境の変化の中で、社会的な養護を必要とする子どもがいる。社会的養護を必要とする子ども達についての理解を深め、人権擁護を踏まえ、養護や支援のあり方を考察することを目的としている。授業では講義が中心となるが、配付資料、視聴覚教材やICTを活用し、里親制度や児童福祉施設等を利用している子どもの生活や実情、社会的養護についての理解を深め、知識を習得し技能を身につけてほしい。			
到達目標	①社会的養護が必要となる背景について説明することができる。 ②社会的養護の理念や倫理について説明することができる。 ③社会的養護の実施体系、家庭養護と施設養護の目的や役割を説明することができる。 ④関係する専門職の役割を理解し、施設養護の実際や支援のあり方を検討する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福 (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	社会的養護の意義	社会的養護を取り巻く社会状況を事前学習し授業資料で事後学習をする		
第2回	社会的養護の理念と変遷	社会的養護で示されている理念について事前学習し授業資料で事後学習をする		
第3回	子どもの権利と社会的養護	子どもがもつ権利について事前学習し授業資料で事後学習をする		
第4回	社会的養護における保育者の倫理	社会的養護における保育者の倫理について事前学習し授業資料で事後学習をする		
第5回	社会的養護の制度と実施体系	社会的養護に関わる制度について事前学習し授業資料で事後学習をする		
第6回	社会的養護施設における支援プロセス	施設支援における支援の流れを事前学習し授業資料で事後学習をする		
第7回	社会的養護における対象理解～乳児院の実践例～	社会的養護の対象について事前学習し授業資料で事後学習をする		
第8回	社会的養護における施設養護の取り組み～児童養護施設の実践例～	施設養護の取り組みについて事前学習し授業資料で事後学習をする		
第9回	社会的養護における支援と理解～福祉型障害児入所施設の実践例～	社会的養護のあり方について事前学習し授業資料で事後学習をする		
第10回	里親支援による家庭養護	里親制度について事前学習し授業資料で事後学習をする		
第11回	社会的養護における今後の課題	社会的養護の課題について事前学習し授業資料で事後学習をする		
第12回	ファミリーホームと養子縁組制度による家庭養護	家庭養護の取り組みについて事前学習し授業資料で事後学習をする		
第13回	社会的養護に関わる専門職	社会的養護に関わる専門職について事前学習し授業資料で事後学習をする		
第14回	社会的養護における運営管理	施設の運営管理について事前学習し授業資料で事後学習をする		
第15回	社会的養護に関する社会的状況と今後の課題	社会的養護における個別化について事前学習し授業資料で事後学習をする		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	100% レポート提出課題			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	社会的養護を必要とする子どもの暮らしについて理解を深め、支援の取り組みについて学びます。日ごろより支援を必要としている子どものニュースをみて自らの意見を持つこと。授業において資料を配布する。			
教科書	小池由佳・山縣文治編著『社会的養護』ミネルヴァ書房。			
指定図書	川池智子編『児童家庭福祉論』学文社、大豆生田啓友・三谷大紀編『最新保育資料集2020』ミネルヴァ書房。			
参考図書	神戸賢次・喜多一憲編『児童の社会的養護原理』みらい、厚生労働省『児童養護施設入所児童等調査結果』、日本子ども家庭研究所『子ども虐待防止対応の手引き』有斐閣。			
オフィスアワー	後期 月曜日5限	メールアドレス		

授業科目	社会的養護内容【演習】		開講時期	前期
担当教員	牛島 豊広		単 位	2
授業の目的と概要	本授業は、社会的養護の理念を基盤に据えた支援の実践について理解することを目的とする。具体的には、社会的養護に関する基本理念を踏まえ、それに関連する施設種別における保育の専門的支援について学んでいくこととする。学びをすすめる基本的な視点として、社会的養護を必要とする子どもたちを生活の主体者として捉え、基本的人権をはじめ、生まれながらに持つ権利を保障するという支援のあり方を基盤に据えて取り組んでいく。そして、日常生活支援や治療的支援、子どもへの個別的なケアにとどまらず 家族支援、地域支援等に対する支援のあり方について考察していく。			
到達目標	①子どもの安心、安全な暮らしのために求められる支援について説明することができる。 ②家庭を基盤とし、地域を含めた支援について説明することができる。 ③子どもの個別のニーズを反映した支援計画の立案ができる ④社会的養護の取り組みにおける課題を整理をし、今後の支援のあり方について考察し説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	社会的養護の実践と保育士の支援	社会的養護の現状を事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第2回	社会的養護の理念と法制度の仕組み	社会的養護の支援の仕組みを事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第3回	社会的養護を必要とする子どもの権利	子どもがもつ主体的な権利を事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第4回	社会的養護施設における支援プロセス	社会的養護施設で取り込まれる支援を事前学習し授業資料で事後学習をする。		
第5回	社会的養護施設で暮らす子どもの生活環境への支援	社会的養護施設の特徴を事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第6回	社会的養護施設の社会化	社会的養護施設の社会的役割を事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第7回	社会的養護における自立支援計画	自立支援計画について事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第8回	社会的養護実践における記録および評価	支援に必要な記録および評価の視点を事前学習し授業資料で事後学習をする。		
第9回	社会資源としての社会的養護施設	社会資源について事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第10回	社会的養護と地域連携	地域社会における施設のあり方を事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第11回	乳児院と母子生活支援施設における社会的養護の実践	施設の特徴と支援の取り組みについて事前学習し授業資料で事後学習をする。		
第12回	児童養護施設・地域小規模児童養護施設における社会的養護の実践	施設の特徴と支援の取り組みについて事前学習し授業資料で事後学習をする。		
第13回	児童心理治療施設における社会的養護の実践	施設の特徴と支援の取り組みについて事前学習し授業資料で事後学習をする。		
第14回	障害児入所施設と児童発達支援センターにおける社会的養護の実践	施設の特徴と支援の取り組みについて事前学習し授業資料で事後学習をする。		
第15回	社会的養護における今後の実践的支援の課題	社会的養護の支援のあり方について事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	-			
小テスト等	-			
成果発表	90%（講義内のワークについて発表、提出をする）			
受講態度他	10%（講義内の発言、取り組みの姿勢等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	社会的養護を必要とする子どもの暮らしについて日ごろより文献、ニュースをみて自らの意見を持つこと。 授業において資料を配布する。			
教科書	喜多一憲 監修・堀場純矢 編『社会的養護Ⅱ』みらい			
指定図書	-			
参考図書	随時紹介する			
オフィスアワー	月曜日5限	メールアドレス		

授業科目	社会福祉運営管理論【講義】		開講時期	後期
担当教員	川崎 孝明		単位	2
授業の目的と概要	<p>福祉サービスの多くは「人」によって提供されるヒューマン・サービスである。この「人」は組織や団体の職員であるため、その属する組織や団体のあり様如何によってサービスの質は大きく左右されることとなる。福祉サービス提供組織が今日的な社会的役割を果たすためには、企業において重視されるガバナンスやコンプライアンスなどの経営課題を、自らの組織のマネジメントの問題として取り組んでいくことが必要である。</p> <p>本授業では、措置から契約へと転換された後の社会福祉の基礎構造の下で、福祉サービスと福祉経営の考え方、利用者のニーズ把握とサービス管理の方法、業務運営のあり方に関する知識や技能を培うことを目的とする。加えて、福祉サービス提供組織の経営・運営のあり方、利用者ニーズを大切にする組織体制づくりやチームアプローチのあり方を理解する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉サービスに係る様々な組織や団体の現状や仕組みを具体的に説明することができる。</li> <li>2. 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論を理解することができる。</li> <li>3. 福祉サービス提供組織の経営と実際から専門職の役割を身につけることができる。</li> <li>4. 福祉サービスの経営と管理運営の方法と実際を自ら調べることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業のねらいと進め方、福祉サービスの特質		予習p122-136。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第2回 社会福祉法人制度の定義と役割		予習p146-149。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第3回 社会福祉法人制度の税制と実際		予習p150-157。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第4回 社会福祉法人制度改革をめぐる歴史的背景		予習p158-161。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第5回 社会福祉法人制度改革の内容と今後の課題		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
第6回 特定非営利活動法人の概要、小テスト		予習p162-164。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第7回 特定非営利活動法人の実際と今後の課題		予習p165。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第8回 医療法人、その他の法人（公益法人、学校法人、協同組合、株式会社など）の概要		予習p166-172。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第9回 組織に関する基礎理論		予習p176-180。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第10回 経営に関する基礎理論		予習p181-182。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第11回 管理運営に関する基礎理論		予習p185-188。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第12回 集団の力学およびリーダーシップに関する基礎理論		予習p190-194。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第13回 福祉サービス提供組織の経営の実際		予習p198-203。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第14回 適切なサービス提供体制の確保および労働環境の整備		予習p212-242。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第15回 福祉サービスの管理運営の実際、まとめ		予習p246-287。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	課題シート(20%)。原則として、単位認定には15回の授業の3分の2以上の出席を必要とする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語厳禁。			
教科書	社会福祉学習双書2020《第2巻》『社会福祉概論Ⅱ』全国社会福祉協議会(2020年)			
指定図書	なし			
参考図書	社会福祉小六法 最新版			
オフィスアワー	月曜日4講目および火曜日4講目	メールアドレス		

授業科目	社会福祉学特論【講義】		開講時期	後期
担当教員	池田 和彦		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、社会福祉について理論的・歴史的に検証し、そのあり方を明らかにすることを目的とする。まず、社会福祉の代表的理論（先行業績）に学びつつ検討を加えるとともに、社会福祉の歴史的成立過程について、イギリス・ドイツ・日本を素材として分析的に把握し、社会福祉の本質を明らかにする。最後に、その作業を通して、あるべき社会福祉政策の実現に向けた理論的・実践的課題についても検討を加えることとしたい。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉とは何か、自分なりに説明できる。</li> <li>2. 日本における社会福祉の代表的理論の概要を把握できる。</li> <li>3. 社会福祉の歴史について、イギリス、ドイツおよび日本を比較し検討できる。</li> <li>4. 社会福祉政策のあり方について意見を持つことができる。</li> <li>5. あるべき社会福祉政策の実現に向けた理論的・実践的課題について意見を持つことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	社会福祉とは何か ― 社会問題対策体系における社会福祉の位置と役割	社会政策と社会保障・社会福祉の体系についてノート整理		
第2回	社会福祉の理論的把握① ― 社会科学的方法に基づく本質論（孝橋正一の理論体系）	孝橋理論の概要について授業時に報告		
第3回	社会福祉の理論的把握② ― 社会科学的方法に基づく本質論（三塚武男の理論体系）	三塚理論の概要について授業時に報告		
第4回	社会福祉の理論的把握③ ― 社会福祉運動論	真田是、一番ヶ瀬康子などの社会福祉運動論の概要について授業時に報告		
第5回	社会福祉の理論的把握④ ― 非ないし反社会科学的方法に基づく機能論（岡村重夫の理論体系）	岡村理論の概要について授業時に報告		
第6回	社会福祉の理論的把握⑤ ― 非ないし反社会科学的方法に基づく機能論（三浦文夫のニーズ論）	三浦ニーズ論の概要について授業時に報告		
第7回	社会福祉の歴史的把握① ― イギリスにおける poor law の時代	poor law について授業時に報告		
第8回	社会福祉の歴史的把握② ― イギリスにおける社会問題とその対策の成立	イギリスにおける社会問題とその対策の成立について授業時に報告		
第9回	社会福祉の歴史的把握③ ― ドイツにおける社会保険制度の成立	ドイツにおける社会保険制度の成立について授業時に報告		
第10回	社会福祉の歴史的把握④ ― 日本における恤救規則の時代	恤救規則の歴史的特徴について授業時に報告		
第11回	社会福祉の歴史的把握⑤ ― 日本における社会事業の成立と展開	社会事業の成立とその特徴について授業時に報告		
第12回	社会福祉の歴史的把握⑥ ― 日本における戦後社会福祉の成立	戦後の状況と社会福祉の成立について授業時に報告		
第13回	近年における社会福祉政策の展開とその問題点	「社会保障制度改革」の内容とその問題点について授業時に報告		
第14回	社会福祉政策のあり方 ― あらためて社会福祉とは何か	社会福祉の概念規定について検討しレポート作成		
第15回	あるべき社会福祉政策の実現に向けた理論的・実践的課題	われわれにとっての理論的・実践的課題について検討しレポート作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	0%			
成果発表	50%（授業時の報告内容と水準）			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	大学院の授業なので、教員が一方的に講義を行うのではなく、受講生に発表を課し、講義中にも意見を求めることになる。したがって、受身の姿勢ではなく、主体的な問題意識をもって受講してほしい。			
教科書	講義時に資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスアワー	火-3	メールアドレス		



授業科目	社会福祉基礎ゼミナール【演習】		開講時期	後期
担当教員	池田(和)・高木(佳)・納戸(美)		単 位	2
授業の目的と概要	「社会福祉基礎ゼミナール」は、前期の「基礎ゼミナール」に引き続いて、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識や技能を各自に学んでもらうことを目的とする。そのなかには、「大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること」、「自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること」、「質の高い口頭発表やレポート作成を行うこと」、「自らのキャリア設計を行い、そのなかで大学で学ぶ意義を発見すること」などが含まれている。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学を学びの場として活用することができるようになる。</li> <li>2. それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できるようになる。</li> <li>3. 問題解決に必要な情報を集めることができるようになる。</li> <li>4. 自分の意見を口頭発表やレポートをとおして表現することができるようになる。</li> <li>5. 将来のキャリアを想定するなかで、大学生生活の意義を発見することができるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 福 (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回：前期の発表とレポートを振り返り、達成できたこと、できなかったことを検討する。		各自「基礎ゼミナール」での学習成果を反省してみる。		
第2回：上級生の経験に学ぶ——充実した学生生活をおくるために。		上級生の講話内容について感想文を作成、提出。		
第3回：上級生の経験に学ぶ——充実した学生生活をおくるために。		上級生の講話内容について感想文を作成、提出。		
第4回：本専攻の卒業生の講話を聴き、大学での学修を社会のなかでどのように活かせるかを学ぶ。		卒業生の講話内容について感想文を作成、提出。		
第5回：本専攻の卒業生の講話を聴き、大学での学修を社会のなかでどのように活かせるかを学ぶ。		卒業生の講話内容について感想文を作成、提出。		
第6回：本専攻の卒業生の講話を聴き、大学での学修を社会のなかでどのように活かせるかを学ぶ。		卒業生の講話内容について感想文を作成、提出。		
第7回：本専攻の卒業生の講話を聴き、大学での学修を社会のなかでどのように活かせるかを学ぶ。		卒業生の講話内容について感想文を作成、提出。		
第8回：発表と討論A班。		発表担当者は発表要旨を準備。		
第9回：発表と討論B班。		発表担当者は発表要旨を準備。		
第10回：発表と討論C班。		発表担当者は発表要旨を準備。		
第11回：発表と討論D班。		発表担当者は発表要旨を準備。		
第12回：発表と討論E班。		発表担当者は発表要旨を準備。		
第13回：発表と討論F班。		発表担当者は発表要旨を準備。		
第14回：発表と討論G班。		発表担当者は発表要旨を準備。		
第15回：卒業後の進路を考えながら、大学での学修目標を構想する。		各自、大学での今後の学修目標を構想し、発表する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60%			
小テスト等	10% (講話の感想文)			
成果発表	30%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学生参加型の授業なので、積極的に発言することをこころがけること。			
教科書	佐藤望編著『アカデミック・スキルズ 第3版』（慶應義塾大学出版会、2020年）			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に指示する。			
オフィスワー	担当各教員より別途指示する。	メールアドレス		

授業科目	社会福祉行財政論【講義】		開講時期	前期
担当教員	川崎 孝明		単位	2
授業の目的と概要	福祉専門職がソーシャルワークを実践するには、社会福祉の制度やシステムの構造を理解して利用者へ橋渡しすることが必要であり、制度やシステムを利用者のニーズに応じたものにしていくことが求められる。その際に重要な関わりをもってくるのが、国や地方自治体の福祉行政組織の関与や仕組み、連携である。この授業では、社会福祉関係法の構造と相互の関係や社会福祉行政の実施体制の現状と課題を理解し、ソーシャルワーク実践に活用できる知識として身につけることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦後から現在に至るまでの社会福祉関係法の歩みと制度の変遷及び、社会福祉の理念や仕組みの変化を比較できる。</li> <li>2. 福祉の行財政の実施体制（国と地方自治体、組織や団体、財源、専門職の役割と機能）を説明できる。</li> <li>3. 社会福祉財政の動向及び国・地方自治体の負担関係、民間社会福祉事業の財政について述べることができる。</li> <li>4. 国と地方自治体の政策に位置づけられる福祉計画の種類や内容を説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業のねらいと進め方、社会福祉関係法の発展段階		予習p6-19。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第2回 福祉行政の実施体制①—国・都道府県の役割—		予習p30-42。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第3回 福祉行政の実施体制②—市町村の役割—		予習p43-47。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第4回 国と地方の関係—地方分権の推進—		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第5回 福祉行政の組織および団体の役割—福祉事務所、児童相談所—		予習p64-71。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第6回 福祉行政の組織および団体の役割—身体障害者更生相談所ほか—、小テスト		予習p72-74。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第7回 福祉行政における専門職の役割		予習p75-78。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第8回 福祉の財源—国の財源—		予習p49-51。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第9回 福祉の財源—地方、その他の財源—		予習p51-63。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第10回 福祉計画の意義と目的、福祉計画における住民参加の意義		予習p82-85。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第11回 福祉行財政と福祉計画の関係、福祉計画の主体と方法、小テスト		予習p87-92。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第12回 福祉計画の種類とその関係		予習p93-98。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第13回 福祉計画の策定過程および策定方法と留意点		予習p99-113。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第14回 福祉計画の評価方法と実際		予習p114-118。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
第15回 授業のまとめと振り返り		予習p119-121。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%			
小テスト等	課題シート(40%)			
成果発表	なし			
受講態度他	原則として、単位認定には15回の授業の3分の2以上の出席を必要とする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講者が不快な思いをしないよう講義中の私語は厳禁とする。ルールを守ることができない者は途中退席を命じる場合があるが、その場合は欠席扱いとする。			
教科書	社会福祉学習双書2020《第2巻》『社会福祉概論Ⅱ』全国社会福祉協議会(2020)			
指定図書	なし			
参考図書	社会福祉小六法 最新版			
オフィスワー	月曜日4講目および火曜日4講目	メールアドレス		

授業科目	社会福祉原論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	納戸 美佐子		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、現代社会を維持・再生産していくうえで必要不可欠な社会福祉という営みについて学ぶことを目的とする。</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における福祉制度の意義、福祉政策との関係について解説する。</li> <li>2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について解説する。</li> <li>3. 福祉政策におけるニーズと資源について解説する。</li> <li>4. 福祉制度の発達過程について解説する。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における福祉制度の意義、福祉政策との関係について理解し、説明できる。</li> <li>2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、説明できる。</li> <li>3. 福祉政策におけるニーズと資源について理解し、説明できる。</li> <li>4. 福祉制度の発達過程について理解し、説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 社会福祉とは		レジュメ等を用いて、事後学習する		
第2回 社会の変化と福祉(1) -福祉国家の成立と変容-		レジュメ等を用いて、事後学習する		
第3回 社会の変化と福祉(2) -現代社会の変化と福祉、福祉政策の現代的課題-		レジュメ等を用いて、事後学習する		
第4回 福祉と福祉政策(1) -価値規範としての福祉、社会福祉の拡大と限定-		レジュメ等を用いて、事後学習する		
第5回 福祉と福祉政策(2) -施策コラボレーションとしての福祉政策、社会福祉士の役割と機能-		レジュメ等を用いて、事後学習する		
第6回 福祉の理念と哲学		レジュメ等を用いて、事後学習する		
第7回 社会政策と福祉政策(1) -社会政策の中の福祉政策-		レジュメ等を用いて、事後学習する		
第8回 社会政策と福祉政策(2) -社会政策の体系と社会福祉政策-		レジュメ等を用いて、事後学習する		
第9回 福祉政策の発達過程(1) -近代国家形成以前の救済・近代国家における救済制度と慈善事業-		レジュメ等を用いて、事後学習する		
第10回 福祉政策の発達過程(2) -近代国家における社会事業、戦後社会福祉の成立-		レジュメ等を用いて、事後学習する		
第11回 福祉政策の発達過程(3) -高度経済成長期の福祉政策-		レジュメ等を用いて、事後学習する		
第12回 少子高齢化時代の福祉政策 -高度経済成長期から2000年代以降の福祉政策-		レジュメ等を用いて、事後学習する		
第13回 福祉政策における必要と資源 -必要と需要、必要とニーズ、福祉政策の資源-		レジュメ等を用いて、事後学習する		
第14回 社会福祉士及び精神保健福祉士について学ぶ		レジュメ等を用いて、事後学習する		
第15回 講義のまとめ		講義の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	30%			
小テスト等	70%(授業内で提示する振り返りワーク70%)			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・講義中の私語は厳禁とする。			
教科書	『新・社会福祉士養成講座 現代社会と福祉 第4版』中央法規			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスワー	月曜3限	メールアドレス		

授業科目	社会福祉原論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	納戸 美佐子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、社会福祉原論Ⅰで学んだ社会福祉についての基本的な知識を前提とし、福祉政策や関連施策（教育・住宅・雇用等）および相談援助活動について学ぶことを目的とする。</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉政策の課題について解説する。</li> <li>2. 福祉政策の構成要素、他の関連施策（教育政策・住宅政策・雇用政策等）の関係について解説する。</li> <li>3. 相談援助活動と福祉政策との関係について解説する。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉政策の課題について理解し、説明できる。</li> <li>2. 福祉政策の構成要素、他の関連施策の関係について理解し、説明できる。</li> <li>3. 相談援助活動と福祉政策との関係について理解し、説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福（3）-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	福祉政策の理念・主体・手法（1）－福祉政策の理念－	レジュメ等を用いて、事後学習する		
第2回	福祉政策の理念・主体・手法（2）－福祉政策資源の配分システム－	レジュメ等を用いて、事後学習する		
第3回	福祉政策の理念・主体・手法（3）－福祉政策の手法と政策決定過程・評価	レジュメ等を用いて、事後学習する		
第4回	福祉政策の関連領域（1）－人権擁護と福祉政策、保健医療と福祉政策－	レジュメ等を用いて、事後学習する		
第5回	福祉政策の関連領域（2）－所得保障と福祉政策、雇用と福祉政策、教育と福祉政策－	レジュメ等を用いて、事後学習する		
第6回	福祉政策の関連領域（3）－住宅と福祉政策、震災と福祉政策－	レジュメ等を用いて、事後学習する		
第7回	社会福祉制度の体系（1）－社会福祉制度の構造－	レジュメ等を用いて、事後学習する		
第8回	社会福祉制度の体系（2）－社会福祉制度と福祉サービス－	レジュメ等を用いて、事後学習する		
第9回	福祉サービスの提供	レジュメ等を用いて、事後学習する		
第10回	福祉サービスと援助活動（1）－相談援助の原則・視点・考え方・方法－	レジュメ等を用いて、事後学習する		
第11回	福祉サービスと援助活動（2）－地域福祉への展開－	レジュメ等を用いて、事後学習する		
第12回	福祉政策の国際比較（1）－欧米の福祉政策－	レジュメ等を用いて、事後学習する		
第13回	福祉政策の国際比較（2）－東アジア諸国の福祉政策－	レジュメ等を用いて、事後学習する		
第14回	福祉政策の課題と展望（1）－社会不安と福祉政策の課題、社会福祉の政策と解決過程－	レジュメ等を用いて、事後学習する		
第15回	福祉政策の課題と展望（2）－包摂的福祉政策への展開－	これまでの講義の復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	30%			
小テスト等	70%（毎回の講義において提示する振り返りワークまたは課題）			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回レジュメや資料を筑女ネットに掲載するので、必要に応じてプリントアウトすること。</li> <li>・振り返りワーク等の提出締め切りを守ること。</li> </ul>			
教科書	『新・社会福祉士養成講座 現代社会と福祉 第4版』中央法規			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスアワー	月曜3限	メールアドレス		

授業科目	社会福祉専門ゼミナール【演習】		開講時期	後期
担当教員	池田(和)・高木(佳)・栗田(紀)		単 位	2
授業の目的と概要	<p>社会福祉（ソーシャルワーク）に関連する研究テーマを自ら設定し、自覚的・主体的に追究することを通して、論理的かつ実践的な思考力および問題解決能力を身につけることを目的とする。ソーシャルワーカーとしてはいうまでもなく、将来ひとりの職業人となるにあたって、ある状況に対する自分の考え方や態度を確立することは非常に重要だからである。</p> <p>人間関係総合演習（ゼミナール）は、社会福祉（ソーシャルワーク）に関連する研究テーマを自ら設定し、自覚的・主体的に追究することを通して、論理的かつ実践的な思考力および問題解決能力を身につけることを支援する科目で、これまでの学習内容を総合的に体得するという意味を持つ。具体的には、各専任教員が少人数のゼミを分担し、学生はいずれかのゼミに所属する。学生各自が自らのテーマを設定し、それにそった資料や文献の収集、報告・討論といったことが主たる内容となる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら取り組む研究テーマが設定できる。</li> <li>2. 研究の視点を理解し、研究方法を身につけることができる。</li> <li>3. 研究成果を発表したり、それについて討議する能力が習得できる。</li> <li>4. 次年度の「卒業研究」作成に向けた計画を立てることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。          福(3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 研究テーマの設定1			研究テーマの検討	
第 2回 研究テーマの設定2			研究テーマの検討	
第 3回 資料収集および研究方法、レジュメ作成方法の学習			資料収集・検討	
第 4回 研究発表および討論1			発表資料（レジュメ）作成	
第 5回 研究発表および討論2			発表資料（レジュメ）作成	
第 6回 研究発表および討論3			発表資料（レジュメ）作成	
第 7回 研究発表および討論4			発表資料（レジュメ）作成	
第 8回 研究発表および討論5			発表資料（レジュメ）作成	
第 9回 研究発表および討論6			発表資料（レジュメ）作成	
第10回 研究発表および討論7			発表資料（レジュメ）作成	
第11回 研究発表および討論8			発表資料（レジュメ）作成	
第12回 研究発表および討論9			発表資料（レジュメ）作成	
第13回 研究発表および討論10			発表資料（レジュメ）作成	
第14回 研究発表および討論11			発表資料（レジュメ）作成	
第15回 全体のまとめ — 卒業研究・卒業論文作成に向けて			卒業研究・卒業論文テーマの検討	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	70% 演習での研究発表、メンバー間の討論や教員からの指導などをふまえ、レポートを作成			
小テスト等	なし。			
成果発表	30% 研究発表の内容・水準			
受講態度他	なし。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 履修登録オリエンテーション時に指定されたゼミ（クラス）で履修登録し、所属したゼミを担当する教員の指導を受けることになる。</li> <li>2. 毎回の授業の出席及び積極的な発言と参加態度が重要となる。</li> </ol>			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	なし。			
オフィスアワー	別途指示する。	メールアドレス		

授業科目	社会福祉相談援助演習【演習】		開講時期	後期
担当教員	川崎 孝明		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業では、社会福祉相談援助、とりわけソーシャルワークをどう捉えるのか、社会科学的視点から考察し、社会問題の構造とその対策体系の中に位置づけたソーシャルワークの役割について学ぶことを目的とする。</p> <p>具体的には、社会福祉における社会科学的方法に関する基本文献を取り上げ、ソーシャルワークのあり方について理解する。さらに、実証研究に関する方法について先行研究・調査を把握しながら、各自の問題意識に照らしあわせて、関心のある先行研究について報告し、議論を深めていくことにする。</p>			
到達目標	<p>①社会福祉相談援助とは何か、自分なりに説明できる。</p> <p>②社会科学的方法から社会福祉相談援助を把握できる。</p> <p>③先行研究を踏まえた独自の考察が展開できるようになる。</p> <p>④社会福祉政策のなかで社会福祉相談援助の役割について説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</p> <p>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</p> <p>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</p> <p>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーションー社会福祉相談援助とは何か	取り扱う文献について自分なりに整理する。		
第2回	基本文献の購読 (1)ー社会福祉における社会科学的研究とは	基本文献を事前に読み、自分の意見を整理、レジュメにまとめる。		
第3回	基本文献の購読 (2)ー社会福祉機能論とその評価	基本文献を事前に読み、自分の意見を整理、レジュメにまとめる。		
第4回	基本文献の購読 (3)ーバイステックのケースワーク論をめぐる評価	基本文献を事前に読み、自分の意見を整理、レジュメにまとめる。		
第5回	基本文献の購読 (4)ージェネラリストソーシャルワークをめぐる評価	基本文献を事前に読み、自分の意見を整理、レジュメにまとめる。		
第6回	基本文献の購読 (5)ー「大きなお世話」と「適切な援助」の違い	基本文献を事前に読み、自分の意見を整理、レジュメにまとめる。		
第7回	各自の問題意識に基づく事例報告 (1)ー発表者Aグループ	事前資料を精読し、疑問点を整理する。		
第8回	各自の問題意識に基づく事例報告 (2)ー発表者Bグループ	事前資料を精読し、疑問点を整理する。		
第9回	社会福祉相談援助における評価手法ー生活困窮者支援を例に	事前に配布する資料を読み込み、自分の考えを整理する。		
第10回	社会福祉相談援助体制をめぐる課題ー包括的連携のあり方	事前に配布する資料を読み込み、自分の考えを整理する。		
第11回	社会福祉相談援助技法をめぐる課題ースーパービジョンを中心に	事前に配布する資料を読み込み、自分の考えを整理する。		
第12回	社会福祉相談援助の実例 (1)ー家計相談支援	取り扱うテーマについて事前に調べ、疑問点を整理する。		
第13回	社会福祉相談援助の実例 (2)ーソーシャルアクション	取り扱うテーマについて事前に調べ、疑問点を整理する。		
第14回	社会福祉相談援助とネガティブケイパビリティ	基本文献を事前に読み、自分の意見を整理する。		
第15回	総括	学習の到達点を評価し、未達成の内容について整理する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% (フィードバックについては、事前に評価項目・水準を示し、コメントを付けて返却する)			
小テスト等	0%			
成果発表	50%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本授業は演習形式が中心であるため、受講生の主体的な取り組みが前提である。文献調査のまとめや事例報告に対して積極的な姿勢をもって受講することをお願いしたい。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業内に随時紹介する。			
オフィスアワー	月曜日4講目	メールアドレス		

授業科目	社会福祉調査法【講義】		開講時期	後期
担当教員	花野 裕康		単位	2
授業の目的と概要	社会福祉の現場における様々なニーズに応じた調査を企画・実施・活用するための基礎知識を修得することを目的とします。より具体的には、まず現場における調査の必要性にどのようなものがあるか一通り見ていきます。これを受けて、ではどのような調査を企画すべきかを考察し、そのために必要なさまざまな知識を学びます。そして実際に調査を実施するとなった場合に必要な技法（調査票作成に関するものや、統計学的なもの）を学び、最後に総括として、調査結果の現場での活用法を考察します。			
到達目標	①社会福祉調査の意義について理解・説明できるようになる。 ②量的調査の基本的な手法について理解・実施できるようになる。 ③質的調査の基本的な手法について理解・実施できるようになる。 ④社会福祉調査の結果を有効に活用できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 福(3)-②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	社会福祉調査の対象と主体	社会福祉調査の対象と主体について自分の言葉でまとめる		
第2回	社会福祉調査の目的と社会貢献	社会福祉調査の目的と社会貢献について自分の言葉でまとめる		
第3回	社会福祉調査の企画と実施回数	社会福祉調査の企画と実施回数について自分の言葉でまとめる		
第4回	社会福祉調査における標本と調査協力	社会福祉調査における標本と調査協力について自分の言葉でまとめる		
第5回	量的調査：質問紙の作り方と測定法	質問紙の作り方と測定法について自分の言葉でまとめる		
第6回	量的調査：事前調査と本調査（配布と回収、自計式と他計式）	事前調査と本調査について自分の言葉でまとめる		
第7回	量的調査：記述統計と仮説検証	記述統計と仮説検証について自分の言葉でまとめる		
第8回	量的調査：統計的手法および実験	統計的手法および実験について自分の言葉でまとめる		
第9回	質的調査：面接と観察	面接と観察について自分の言葉でまとめる		
第10回	質的調査：記録と分析	記録と分析について自分の言葉でまとめる		
第11回	社会福祉調査のコストおよび掲載場所、調査倫理	社会福祉調査のコスト、掲載場所、調査倫理について自分の言葉でまとめる		
第12回	統計法と政府統計およびITの活用	統計法と政府統計およびITの活用について自分の言葉でまとめる		
第13回	国際比較調査および調査結果の活用	国際比較調査および調査結果の活用について自分の言葉でまとめる		
第14回	社会福祉調査のメリット・デメリット	社会福祉調査のメリット・デメリットについて自分の言葉でまとめる		
第15回	授業のまとめ	社会福祉調査法全体について、自分の言葉で総括する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80%（授業内で複数回行う）			
成果発表	なし			
受講態度他	20%（受講態度が悪い場合はこの%に影響するほか、その回の小テストを受け取らないことがある）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。許可された場合以外でのスマホ操作、居眠り、私語等授業中に無関係な他の事をしないこと。見つけ次第その回の小テストは未提出扱いとする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜と火曜の3講時、水曜と木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	社会福祉文献講読【演習】		開講時期	前期
担当教員	未定		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業では、以下の論文を講読する。  Sophie Goldingay and Karen Stagnitti, 2013, "Inclusive Service Design for Young People with Learning Disabilities Who Exhibit Behaviours of Concern", Ann Taket, Beth R. Crisp, Melissa Graham, Lisa Hanna, Sophie Goldingay and Linda Wilson eds., Practising Social Inclusion, Routledge, 106-114.  この論文を精読することで、読解力、語学力、論理的思考能力の向上をはかることが、本授業の目的である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英文で書かれた文献を正確に読解できるようになる。</li> <li>2. 英単語の意味、英文の構造、文法を理解できるようになる。</li> <li>3. 問題提起から結論に至るまでの論理の流れを理解できるようになる。</li> <li>4. 学習障がいをもつ若者への適切な社会福祉援助を構想できるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 福 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Introduction 1			テキスト該当部分を予習。	
第2回 Introduction 2			テキスト該当部分を予習。	
第3回 Impact on effectiveness of standard treatment programmes			テキスト該当部分を予習。	
第4回 Impact of learning disability on problematic behaviour 1			テキスト該当部分を予習。	
第5回 Impact of learning disability on problematic behaviour 2			テキスト該当部分を予習。	
第6回 Impact of learning disability on problematic behaviour 3			テキスト該当部分を予習。	
第7回 Impact of learning disability on problematic behaviour 4			テキスト該当部分を予習。	
第8回 Impact of learning disability on problematic behaviour 5			テキスト該当部分を予習。	
第9回 Impact of learning disability on problematic behaviour 6			テキスト該当部分を予習。	
第10回 Assessment			テキスト該当部分を予習。	
第11回 Intervention 1			テキスト該当部分を予習。	
第12回 Intervention 2			テキスト該当部分を予習。	
第13回 Intervention 3			テキスト該当部分を予習。	
第14回 Wider implications 1			テキスト該当部分を予習。	
第15回 Wider implications 2			テキスト該当部分を予習。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	100%。訳出の正確さで通常評価する。			
受講態度他	なし。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講者は、テキスト該当部分を予習しておくこと。また、辞書(電子辞書も可)を必ず持参すること。 テキストは平易な内容なので、奮って受講していただきたい。			
教科書	Inclusive Service Design for Young People with Learning Disabilities Who Exhibit Behaviours of Concern			
指定図書	なし。			
参考図書	なし。			
オフィスアワー	月曜4限・火曜3限。	メールアドレス		



授業科目	社会福祉論【講義】		開講時期	後期
担当教員	伊東 良輔・鄭 瑞河・田中 伸助		単位	2
授業の目的と概要	本授業では、全ての人が個人の尊厳を持ち、生活する上で不可欠となる社会福祉の、基礎的な知識と考え方を習得することを目的としている。人が誕生し死を迎えるまで、どのような社会福祉制度が関係しているのか、またその制度が保障する事項、社会福祉施設、制度以外の社会福祉の取り組みについて学ぶ。さらに、社会福祉を実施するための相談援助のあり方、利用者保護に関わる仕組みを知った上で、社会福祉の理念に基づいた子ども家庭支援の視点を、倫理観と共に習得する。			
到達目標	①社会福祉の機能について、現代社会における様々な社会問題と関連づけることができる。 ②社会福祉の歴史の変遷や、日本及び他国の社会福祉の特徴について、整理することができる。 ③様々な社会福祉関連制度や政策の現状について理解し、その課題を挙げるすることができる。 ④相談援助技術の基礎を身に付けることができる。 ⑤社会福祉としての子ども家庭支援の視点や、専門職倫理について、意見を述べるることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	全ての人の権利を保障するための社会福祉	日本国憲法を事前に読み、身近な社会問題について事後に調べる。		
第2回	現代の社会問題と社会福祉 ー少子高齢社会及び人口減少社会における福祉課題ー	配布資料を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。		
第3回	社会福祉の概念と構造 ー社会福祉の定義と社会福祉の構造ー	配布資料を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。		
第4回	社会福祉のあゆみ ー日本と欧米の福祉の歴史の変遷ー	配布資料を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。		
第5回	社会保障制度の種類と概要 ー多様な社会保険制度と公的扶助ー	配布資料を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。		
第6回	各社会福祉分野の制度と法体系 ー高齢者福祉・障害者福祉制度ー	配布資料を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。		
第7回	社会福祉の施設 ー各施設の目的と内容ー	配布資料を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。		
第8回	子どもの人権と子ども家庭福祉 ー家庭に生じる生活問題の理解と援助についてー	配布資料を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。		
第9回	社会福祉の専門性と倫理 ーKJ法を用いた専門性と倫理についてのグループ討議ー	配布資料を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。		
第10回	相談援助の意義と機能 ーソーシャルワークの原則と具体的な援助技術理解ー	配布資料を事前に読み、レジュメを用いて事後学習する。		
第11回	現代の社会問題と社会福祉 ー少子高齢社会及び人口減少社会における福祉課題ー	配布資料を事前に読み、講義後は感想等のアンケートを提出する。		
第12回	子どもの人権と子ども家庭福祉 ー家庭に生じる生活問題の理解と援助についてー	配布資料を事前に読み、講義後は感想等のアンケートを提出する。		
第13回	子どもの成長発達における課題 ー愛着形成、思春期問題、子どもの生きづらさ等ー	配布資料を事前に読み、講義後は感想等のアンケートを提出する。		
第14回	社会福祉分野における保育士の役割 ー理論的理解と意義ー	配布資料を事前に読み、講義後は感想等のアンケートを提出する。		
第15回	社会福祉専門職としての保育士のあり方 ー全国保育士会倫理綱領についてー	全国保育士会倫理綱領を事前に読み、講義後は課題レポートを提出する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% (アンケート回答、感想レポート、課題レポート等)			
小テスト等	ー			
成果発表	ー			
受講態度他	遠隔授業のため、特になし。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料等は事前に配布する。 社会福祉に関するニュース、事件等に関心を持って参加すること。 授業に関する情報や、課題についてなどの連絡は、筑女ネットを活用する。			
教科書	教科書は指定しない(但し、講義中に配布資料あり)			
指定図書	ー			
参考図書	随時紹介する			
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	社会保障論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	川崎 孝明		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、労働者階級の貧困化（現象的には少子・高齢化、労働環境の変化、貧困・格差の拡がり、精神的・身体的健康状態の悪化などとなって現われる労働・生活問題の拡大・深化）が進行する日本社会において、社会保障制度が果たすべき役割と課題について理解することを目的とする。</p> <p>まず社会保障の対象課題を把握したうえで、社会保障の概念と歴史、範囲について理解し、社会保障の行財政と財源確保のあり方など今後の課題についても考察を深める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障の対象課題である生活問題の発生原因と実情について理解できる。</li> <li>2. 社会保障の概念と範囲について説明できる。</li> <li>3. 社会保障の現状を認識し、その課題について自分なりの意見をもつことができる。</li> <li>4. 社会保障の行財政について理解できる。</li> <li>5. 社会保障の財源をめぐる問題を理解し、その解決策について自分なりの意見をもつことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	社会保障の対象課題は生活問題		振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理。	
第2回	生活問題を規定する社会的条件(1) — 生計中心者の仕事		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理	
第3回	生活問題を規定する社会的条件(2) — ヨコのつながりと社会サービス		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理	
第4回	生活問題の内容(1) — 暮らしの単位、暮らしの場		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理	
第5回	生活問題の内容(2) — 暮らしの中身、健康状態		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理	
第6回	社会保障の歴史と概念（社会保障の権利論を含む）、小テスト		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理	
第7回	社会保障の範囲 — 社会保障の制度体系		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理	
第8回	社会保障制度の概要(1) — 社会保険と社会手当制度		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理	
第9回	社会保障制度の概要(2) — 公的扶助と社会福祉施設・サービス制度		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理	
第10回	社会保障行財政(1) — 社会保障行政		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理	
第11回	社会保障行財政(2) — 社会保障財政、小テスト		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理	
第12回	社会保障の課題(1) — 社会保障制度改革の背景		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理	
第13回	社会保障の課題(2) — 社会保障制度改革の経緯と内容		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理	
第14回	社会保障の課題(3) — 社会保障制度改革推進法とプログラム法		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理	
第15回	課題解決に向けて — 社会保障の制度設計と財源確保		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70%			
小テスト等	課題シート(30%)			
成果発表	なし			
受講態度他	原則として、単位認定には15回の授業の3分の2以上の出席を必要とする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講者が不快な思いをしないよう講義中の私語は厳禁とする。ルールを守ることができない者は途中退席を命じる場合があるが、その場合は欠席扱いとする。			
教科書	講義時に資料を配布する。			
指定図書	社会福祉小六法2020年版			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスアワー	月曜日4講目および火曜日4講目		メールアドレス	

授業科目	社会保障論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	川崎 孝明		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本授業は、社会保障論Ⅰで学んだ社会保障についての基本的な知識を前提とし、社会保障制度（とくにその中心である社会保険制度）それぞれの仕組みと課題について理解することを目的とする。</p> <p>具体的には、医療保険、年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険、介護保険という5つの社会保険制度を中心に、関連する社会手当制度、公的扶助制度、社会福祉施設・サービス制度について考察し、制度の全体像を把握することを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療保険および年金保険、介護保険の基本的な仕組みと課題が理解できる。</li> <li>2. 雇用保険、労働者災害補償保険の基本的な仕組みと課題が理解できる。</li> <li>3. 社会保険制度全体に共通する問題とその解決策について自分なりの意見をもつことができる。</li> <li>4. 社会保障制度体系における社会福祉の位置と役割が理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回 社会保険の仕組み		振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理すること。		
第2回 医療保険制度の基本的な仕組み(1) — 健康保険の保険者、被保険者(被扶養者)、保険料		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
第3回 医療保険制度の基本的な仕組み(2) — 健康保険の保険給付		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
第4回 医療保険制度の基本的な仕組み(3) — 船員保険と共済組合		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
第5回 医療保険制度の基本的な仕組み(4) — 国民健康保険		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
第6回 医療保険制度の基本的な仕組み(5) — 高齢者医療、小テスト		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
第7回 医療保険制度の課題		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
第8回 年金保険制度の基本的な仕組み(1) — 国民年金の保険者、被保険者、保険料		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
第9回 年金保険制度の基本的な仕組み(2) — 国民年金の保険給付		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
第10回 年金保険制度の基本的な仕組み(3) — 厚生年金の保険者、被保険者、保険料		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
第11回 年金保険制度の基本的な仕組み(4) — 厚生年金の保険給付、小テスト		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
第12回 年金保険制度の課題		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
第13回 労働保険制度 — 雇用保険と労働者災害補償保険		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
第14回 介護保険制度		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
第15回 社会手当、公的扶助、社会福祉施設・サービス制度		予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	毎回提出する課題シート10%。原則として、単位認定には15回の授業の3分の2以上の出席を必要とする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	視覚教材を活用することもある。			
教科書	講義時に資料を配布する。			
指定図書	社会福祉小六法			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスアワー	月曜4講目および火曜4講目	メールアドレス		

授業科目	社会問題論【講義】		開講時期	前期
担当教員	花野 裕康		単位	2
授業の目的と概要	<p>何の問題も起こらない社会は望ましいでしょうか？いや、逆にそういう社会こそが問題だ、という指摘があります。しかし一方で社会の中の問題はそれが問題である以上「解決」しなければなりません。この講義では、このように一筋縄ではいかない、社会における「問題」を取り上げ、考察して行きます。具体的には、</p> <p>①「社会問題」とは何か、その定義と対象を理解します。</p> <p>②次に社会問題を理解するための主要な道具としての理論を理解します。</p> <p>③そしてさまざまな社会問題を取り上げ、②の理論を適用しつつ考察します。</p> <p>④最終的には、現代の社会問題に対する現実的な「解決」策を提示することを目標とします。</p>			
到達目標	<p>①「社会問題」の定義と対象とを正しく説明できる</p> <p>②社会問題に用いる諸理論を正しく説明することができる</p> <p>③複数の社会問題を理論的に解説することができる</p> <p>④現代の社会問題に対する現実的な解決策を提示することができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。具体的には、毎回授業終了直前に周知する次回テーマへの予習（書籍やネット上の情報を各自入手する事）と、その日学んだテーマの整理および、自身の見解の文章化（1000字程度）を行う事。</p> <p>本科目は、現代社会学概論I, IIや社会学入門、社会学史そして理論社会学に続いて、現代社会における現状、とくに諸問題への社会学的枠組みを提供するための重要科目である。本科目を受講する事で、各論としての「〇〇社会学（〇〇には産業、家族等の語句が入る）」や「〇〇社会論（同様）」等の開講科目の（復習的な意味での）理解もスムーズに行く。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 「社会問題」の列挙		授業内でリストアップされた「社会問題」をグループ分けし整理する		
第2回 「社会問題」のタイプを考える		別のタイプがないかもあわせて、タイプ別の特徴を考えまとめる		
第3回 「社会問題」とは何か		3回の授業を受け、「社会問題」概念を自分の言葉で再定義する		
第4回 社会問題の諸理論①：社会的緊張論		社会的緊張論の具体的適用事例をまとめる		
第5回 社会問題の諸理論②：文化的逸脱論		文化的逸脱論の具体的適用事例をまとめる		
第6回 社会問題の諸理論③：社会的統制論		社会的統制論の具体的適用事例をまとめる		
第7回 社会問題の諸理論④：折衷理論		折衷理論の具体的適用事例をまとめる		
第8回 社会問題の諸理論⑤：ラベリング論		ラベリング論の具体的適用事例をまとめる		
第9回 社会問題の諸理論⑥：構築主義社会問題論		構築主義社会問題論の具体的適用事例をまとめる		
第10回 関係の社会問題：差別といじめ、犯罪		関係の社会問題に関し授業内容を踏まえ自身の見解をまとめる		
第11回 状態の社会問題：少子高齢化、引きこもりとニート		状態の社会問題に関し授業内容を踏まえ自身の見解をまとめる		
第12回 性の社会問題：性的少数者、性の商品化		性の社会問題に関し授業内容を踏まえ自身の見解をまとめる		
第13回 国家間の社会問題：日韓関係		国家間の社会問題に関し授業内容を踏まえ自身の見解をまとめる		
第14回 ネット上の社会問題：炎上		ネット上の社会問題に関し授業内容を踏まえ自身の見解をまとめる		
第15回 今後起こりうる社会問題		今後起こりうる社会問題に関し授業内容を踏まえ自身の見解をまとめる		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80%（授業内で複数回行う）			
成果発表	なし			
受講態度他	20%（受講態度が悪い場合はこの%に影響するほか、その回の小テストを受け取らないことがある）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。許可された場合以外でのスマホ操作、居眠り、私語等授業中に無関係な他の事をしないこと。見つけ次第その回の小テストは未提出扱いとする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	出版文化【講義】	開講時期	後期
担当教員	田口 淳一	単位	2
授業の目的と概要	現代の社会では、「活字ばなれ」「読書ばなれ」といった言葉をよく見聞きします。新聞産業や出版産業の危機として語られることもあります。それでも、新聞は発行され、本は生まれ、それぞれに読まれています。言葉を得た人間が脈々と続けてきたことでもあります。そのようにして、私たちは知識を得、世界へ、内面へ想像力の翼を広げ、その視野のかなたに希望を見い出してきました。もし「活字ばなれ」や「読書ばなれ」が進んでいるのだとすれば、本を繙かないという事態が加速されているのだとしたら、一人ひとりが希望について考える機会を見失うのではないかと、ということも懸念されます。履修者は、出版の現況を見つめ、出版のもつ役割をあらためて考えてみます。足元の九州で生まれた書物などを素材に、文学、歴史、社会、写真、ジャーナリズムなど多様な角度から、本の魅力を見つめ直し、読むこと、感ずること、考えるということについて認識を深めます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活字文化、出版界が置かれている現状について知る。</li> <li>・本がもたらす、人や世界との出会いについて理解を深める。</li> <li>・本と出会う多様な場について認識し、自らの想像力、思索力を耕し、やわらかい視線の創造に努める。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 「読書ばなれ」というけれど	(出版をめぐる歩みに触れ、現状と課題について考える)	配布資料などに目を通す	
第2回 文字の時間・紙の時間・本の時間	(私たちは何を獲得しながら歩んできたのか考えてみる)	提示する参考文献・資料に目を通す	
第3回 本が売れないということ	(いくつかの300万部の物語について考える)	参考文献・資料に触れる	
第4回 絶版と復刻	(メールもスマホも、ファクスもなかった頃、地方で書く若き小説家たちがいたことに触れてみる)	参考文献・資料を読む	
第5回 30年の拒絶	(失語から本になるまでの長い年月について、SNSの時代に考えてみる)	参考文献・資料を読む	
第6回 限られた時間、限られたところから	(そこで表現されたものを通して広がっていく「宇宙」を感じてみる)	参考文献・配布資料を読む	
第7回 本を超えてゆくもの①	(一人ひとりの顔をしたリアリティーについて考えてみる)	参考文献・資料を読む	
第8回 本を超えてゆくもの②	(死者たちの魂さえとらえられるということ、『苦海浄土』が語りかけるものについて考える)	配布資料などに目を通す	
第9回 なかったことになるということ	(隠喩としての病、ハンセン病の問題が問いかけたことについて考える)	参考文献・資料などを読む	
第10回 写真が語る声	(映像がもたらす想像力、リアリティー、あるいはプロパガンダなどについて考えてみる)	資料に目を通す	
第11回 絵本と出会う	(さまざまな年代に深い語りかけをしているという絵本の力に触れてみる)	参考文献・資料に触れる	
第12回 『医者 井戸を掘る』という問い	(中村哲氏に寄せられた思いのありかについても考えてみる)	参考資料に目を通す	
第13回 出版文化のすそ野	(地方出版のレジェンド、装幀家、本に親しむ人たちの営みに触れてみる)	参考資料を読む	
第14回 引き継がれてきたもの 消えてゆくもの	(いま、言葉の重みはどうなろうとしているのか、と問いかけてみる)	参考文献・資料に触れる	
第15回 「AIの時代」というけれど	(私たちはどんな時代を生きようとしているのだろうか、少し想像してみる)	参考文献・資料に触れる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	30%		
レポート	30% (レポート提出・2回程度)		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	40%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業はパワーポイントを使いながら、講義形式で行います。毎回、参考文献を示し、資料を配布して講義内容を補完します。随時、レポート提出をお願いしますので、できるだけ配布資料などに目を通し、授業で興味を抱いたこと、気づいたことをメモするよう心がけてください。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	講義のなかで随時紹介し、筑女ネットに掲げる。必要に応じて部分的なコピーを配布します。		
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス	

授業科目	出版メディア論【講義】		開講時期	後期
担当教員	田口 淳一		単位	2
授業の目的と概要	<p>現代社会では、「活字ばなれ」「読書ばなれ」といった言葉をよく見聞きします。新聞産業や出版産業の危機としても語られます。それでも、新聞や本は日々生まれ、それぞれに読まれています。言葉を得た人間が脈々と続けてきたことでもあります。そして、私たちは知識を得、世界へ、内面へ想像力の翼を広げ、その視野のなかに希望を見出してきました。もし、「活字ばなれ」、活字に触れないという事態が加速しているのだとしたら、一人ひとりが希望について考える機会を見失うのではないかとこのことも懸念されます。</p> <p>履修者は、出版の現況や役割についてあらためて考えてみます。また、足元の九州で生まれた書物、あるいは新聞を素材に、文学、歴史、社会など様々な角度から、本の魅力、活字の役割を見つめ直し、読むこと、感じることを、考えるということについて認識を深めます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活字文化、出版界が置かれている現状について知る。</li> <li>・本、あるいは新聞などのメディアがそれぞれにもたらす、人や世界との出会いについて理解を深める。</li> <li>・本をはじめ活字と遭遇する多様な場について認識し、自らの想像力、思索力を耕し、やわらかい視線の創造に努める。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>日(3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 「活字ばなれ」というけれど	(出版や新聞など活字をめぐる事態について考えてみる)	配布資料などに目を通す		
第2回 文字の時間 紙の時間 本の時間	(人が大事に育んできた歩みについて思いをめぐらせてみる)	提示する参考文献・資料に目を通す		
第3回 300万部の物語	(大ベストセラーがふいに生まれるということを見つめてみる)	参考文献・資料に触れる		
第4回 メールもスマホもなかった頃に	(ファクスさえなかった時代、地方で書き続けた作家がいたことに触れてみる)	参考文献・資料に触れる		
第5回 言葉に拒絶されるという体験	(失語から本になるまでに要した30年について考えてみる)	参考文献・資料を読む		
第6回 限られた時間 限られたところから	(そこから発信されるものが広がっていく「宇宙」を感じてみる)	参考文献・資料に触れる		
第7回 一人ひとりの顔をしたリアリティー	(たとえば、『チェルノブイリの祈り』は何を語りかけているのか、考えてみる)	参考文献・配布資料を読む		
第8回 本を超えてゆくもの	(死者たちの魂のささえとらえようとする、『苦海浄土』の語りかけについて考えてみる)	参考文献・資料に触れる		
第9回 なかったことになるということ	(隠喩としての病、ハンセン病の問題が問いかけたことについて考えてみる)	参考文献・資料に触れる		
第10回 写真が語る声	(映像がもたらす想像力やリアリティー、プロパガンダなどについて考えてみる)	参考資料に目を通す		
第11回 絵本と出会う／出遭う	(さまざまな年代に深い語りかけをするという絵本の力について考えてみる)	参考文献・資料に触れる		
第12回 『医者 井戸を掘る』という問い	(アフガンにいたおれた中村哲氏をめぐる思いについても考えてみる)	参考文献・配布資料に触れる		
第13回 出版文化のすそ野	(地方出版の担い手たち、装幀家、本に親しむ人たちの営みに触れてみる)	参考文献・資料に触れる		
第14回 引き継がれてきたもの 消えてゆくもの	(いま、言葉の重みはどうなろうとしているのか、と問いかけてみる)	参考資料を読む		
第15回 「AIの時代」というけれど	(私たちはどんな時代を生きようとしているのだろうか、すこし想像してみる)	参考文献・資料に触れる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30%			
レポート	30% (レポート提出 2回程度)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業はパワーポイントを使いながら、講義形式で行います。毎回、参考文献を示し、資料を配布して講義内容を補完します。随時、レポート提出をお願いしますので、できるだけ配布資料などに目を通し、授業に興味を抱いたこと、気づいたことをメモするよう心がけてください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義のなかで随時紹介し、筑女ネットに掲げる。必要に応じて参考文献の部分をコピーして配布します。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	出版論【講義】		開講時期	前期
担当教員	橋本 嘉代		単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>雑誌を中心とする出版メディアの特性と社会的役割を理解する。</li> <li>出版業の現状、課題、今後の可能性について、認識を深める。</li> <li>制作プロセスや出版に携わる人々の体験談を参考にし、出版への理解を深める。</li> <li>さまざまな角度から雑誌を分析する方法を学び、情報リテラシーを養う。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>書籍や雑誌の主なジャンルとその特性、社会的機能を類別できる。</li> <li>出版関連の仕事の多様性を知り、進路選択の参考にできる。</li> <li>インターネットやソーシャルメディアの普及が「出版」「編集」「読書」に与えた影響を述べるができる。</li> <li>著作権・肖像権について正しい知識を持ち、ネット利用などの際に著作権者の権利を守ることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-3 現代社会で活躍するために求められる特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション + 1冊の本ができるまで	オリエンテーションの内容を復習		
第2回	出版にかかわる仕事 ①企画・編集・制作 ②社外の専門職	出版物を読んだり、出版業界を舞台とするメディア作品を視聴		
第3回	出版にかかわる仕事 ③販売・宣伝・広告営業 ④取次・書店	書店のPOPや陳列の観察、イベントなどの取り組みを調べる(課題1)		
第4回	出版の歴史と法制度(著作権、肖像権、再販制など)	次週の小テストに向けて復習		
第5回	出版メディアの特性と機能 ①書籍(文芸、ノンフィクション、実用書)+小テスト	ベストセラーや文学賞受賞作を読む		
第6回	出版メディアの特性と機能 ②雑誌(ファッション誌、ライフスタイル誌)	ターゲットが異なる複数の雑誌に目を通し、分析したい雑誌を探す		
第7回	雑誌分析 ①女子大生向け雑誌の「就活ファッション」の経年変化	1980年代以降の女子大学生の就職に関する歴史を調べる		
第8回	雑誌分析 ②パパ誌の分析	「イクメン」現象を考察するための資料を探し、読む		
第9回	雑誌分析 ③ママ誌の分析	7~10回の分析をふまえたミニレポート(課題2)を執筆		
第10回	雑誌分析 ④競合誌比較(受講者が雑誌を持参)	対象誌の中から分析したい雑誌を選び、読む。発行部数や公式サイトを見る		
第11回	出版産業の概要(出版社の特徴と業績、業界規模、ビジネスモデル)	授業で示された統計データや各社のHPを参照。小テスト対策の復習		
第12回	デジタル時代の出版(産業構造や読書形態の変化)	電子書籍や書評サイトなど、関連する事象にふれる。小テスト対策の復習		
第13回	出版物のデザイン(フォント、レイアウト)+小テスト	装丁や帯のデザインやコピー、フォントの種類を調べる		
第14回	ゲスト講師による特別講義	ゲストへの質問を考える。レポートを書く(課題3)		
第15回	出版という行為の社会的な位置づけ	レポート(課題3)の執筆		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% (課題3回分)			
小テスト等	20%			
成果発表	0%			
受講態度他	20% (授業での積極的な態度を考慮します)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書は指定しませんが、分析用の書籍や雑誌を入手し、持参してもらいます。</li> <li>受講者同士で雑誌を回し読みしたり意見交換するといったグループワークを行います。</li> <li>ゲスト講師の回は、日程や場所が変更になる場合があります。</li> <li>レポートの詳細は授業で説明します。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	川井良介編『出版メディア入門 第2版』日本評論社、橋本嘉代『なぜいま家族のストーリーが求められるのか』書肆侃侃房			
オフィスアワー	火曜12:30-14:30 水曜11:00-12:45	メールアドレス		

授業科目	宗教学【講義】		開講時期	前期
担当教員	宇野 智行		単位	2
授業の目的と概要	<p>宗教の発生要因とその変遷についての知識を得る。さらに、各宗教の救済概念について学び、宗教そのものが持つ働き（機能）について学ぶ。宗教に対する総合的理解により、世界における複眼的な倫理観・人間観を身につける。様々な宗教がどのように発生し、どのように変遷したか、それぞれの宗教の歴史を概観する。特に、ユダヤ教、キリスト教、バラモン教、ヒンドゥー教、仏教を取り上げ、その思想的変遷を講義する。また、それぞれの「救済」という概念を比較することにより、宗教の「働き（機能）」、宗教の「目的」を明らかにする。</p>			
到達目標	<p>1. 道徳（倫理）と宗教の違いを説明することができる。  2. 政治経済の働きと宗教による救済の違いを説明することができる。  3. キリスト教および大乘仏教において、どのように悪人が救済されるかを説明することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  この科目は「哲学」「倫理学」「仏教学Ⅰ」「仏教学Ⅱ」と関連する科目です。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 宗教の発生			プリント復習（宗教とは何か）	
第2回 ユダヤ教（1）：ユダヤ民族の歴史			プリント復習（人間とヤーヴェの関係）	
第3回 ユダヤ教（2）：裁きと律法			プリント復習（神殿と律法）	
第4回 キリスト教（1）：エッセネ派とイエス			プリント復習（キリスト教における神とイエス）	
第5回 キリスト教（2）：イエスの贖罪と悪人救済			プリント復習（イエスと罪概念／許し・癒し）	
第6回 バラモン教：祭式におけるギヴァンドテイク			プリント復習（インドの神概念）	
第7回 ヒンドゥー教：神への信愛による悪人救済			プリント復習（バクティ思想）	
第8回 初期仏教：ブッダと救済			プリント復習（釈尊のまなざし）	
第9回 大乘仏教（1）：アジャセ王の救済			プリント復習（『大乘涅槃経』）	
第10回 大乘仏教（2）：菩薩の回向による悪人救済			プリント復習（阿弥陀仏信仰）	
第11回 日本仏教：悪人正機説			プリント復習（浄土仏教の発展）	
第12回 悪とは何か：法律上の悪と宗教上の悪			プリント復習（悪人とは誰か）・レポート作成「宗教の本質」	
第13回 宗教と道徳：カント、ニーチェによる宗教批判とその答え			プリント復習（宗教と道徳倫理）・レポート作成「宗教の本質」	
第14回 宗教と政治経済：ギヴァンドテイクで人は救われるか			プリント復習（人生は合理的か）・レポート作成「宗教の本質」	
第15回 宗教の働き（まとめ）：救済を必要とするのは誰か			全講義の復習・レポート作成「宗教の本質」	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% レポート「宗教の本質」			
小テスト等	60% 確認小テスト（毎回授業ごとに実施）			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	レポートの内容については、授業内で指示する。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	加藤隆『一神教の誕生：ユダヤ教からキリスト教へ』（講談社）、伊藤益『親鸞：悪の思想』（集英社）			
オフィスアワー	火曜日 15：00-16：20	メールアドレス		



授業科目	宗教学【講義】		開講時期	前期
担当教員	小林 久泰		単位	2
授業の目的と概要	<p>「宗教」という概念の定義とその変遷についての知識を得る。さらに、各宗教における「聖なるもの」についての考え方を学び、各宗教の基本的性格を理解する。宗教に対する総合的理解により、日常感覚とは異なる視点から物事を考える姿勢を身につける。</p> <p>本講義では、宗教を定義するキーワードのひとつ、「聖と俗」という概念に焦点を当て、世界の様々な宗教を概観していく。そのうえで、「聖と俗」を分離することで人間は何を目指してきたのか、人間の宗教的営みにはどのような意味があるのかということについて考察を深める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「宗教」の定義の変遷を自分の言葉で説明することができる。</li> <li>2. 各宗教における「聖なるもの」についての考え方の特徴を説明することができる。</li> <li>3. 「聖なるもの」という普段とは異なる視点から、自分自身の日常を捉え直すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	現代社会と聖なるもの：日常的「宗教」概念	復習・課題①レポート「宗教の定義」作成		
第2回	宗教とは：「聖と俗」による宗教定義	復習・課題①レポート「宗教の定義」作成		
第3回	ユダヤ教と聖なるもの	復習・課題①レポート「宗教の定義」作成		
第4回	キリスト教と聖なるもの	復習・課題①レポート「宗教の定義」作成		
第5回	イスラームと聖なるもの	復習・課題①レポート「宗教の定義」作成		
第6回	ヒンドゥー教と聖なるもの	復習・課題②レポート「宗教と儀礼」作成		
第7回	ジャイナ教と聖なるもの	復習・課題②レポート「宗教と儀礼」作成		
第8回	仏教と聖なるもの	復習・課題②レポート「宗教と儀礼」作成		
第9回	大乘仏教と聖なるもの	復習・課題②レポート「宗教と儀礼」作成		
第10回	「象徴」と宗教	復習・課題②レポート「宗教と儀礼」作成		
第11回	身体と聖なるもの：儀礼	復習・期末レポート「なぜ宗教は必要か」作成		
第12回	言葉と聖なるもの：聖典	全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート		
第13回	世俗化論と再聖化論	復習・期末レポート「なぜ宗教は必要か」作成		
第14回	日本人と聖なるもの	復習・期末レポート「なぜ宗教は必要か」作成		
第15回	まとめ	復習・期末レポート「なぜ宗教は必要か」作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% 課題レポート2回(20%×2回)・学期末レポート(30%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 質問等、講義への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	期日内に課題を提出しない場合は減点します。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜3講時	メールアドレス		

授業科目	宗教学概論Ⅰ【本願寺派教師】【講義】		開講時期	前期
担当教員	小林 久泰		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、宗教を「文化」として捉え、それが時代・地域によって変化する過程を理解することを目的とする。「文化」とは人間が自然界の中で生きていくために作り上げてきたものであり、「生きるための工夫」と考えることができる。本講義では、宗教を文化の一部と捉え、宗教が、様々な地域に伝播する中、その各所において大きな変容を遂げつつ土着する仕組みを仏教を例に概観していく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教が果たす機能について説明することができる。</li> <li>2. 宗教が土着化する理由について説明することができる。</li> <li>3. 仏教の変容した点を整理した上で、仏教教義の普遍性を説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程の科目です。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回：総説：宗教のはたらき		復習・課題レポート「宗教と文化」作成		
第2回：宗教の起源と様々な定義		復習・課題レポート「宗教と文化」作成		
第3回：人間にとって「神」とは何か		復習・課題レポート「宗教と文化」作成		
第4回：「文化」としての諸宗教		復習・課題レポート「宗教と文化」作成		
第5回：文化の変容：進化論と変容論		復習・課題レポート「宗教と文化」作成		
第6回：文化的抵抗と土着化		復習・課題レポート「宗教と文化」作成		
第7回：文化の国際化		復習・課題レポート「宗教と文化」作成		
第8回：インド仏教の拡がり		復習・期末レポート「仏教文化の受容と変容」作成		
第9回：中国における仏教伝来		復習・期末レポート「仏教文化の受容と変容」作成		
第10回：儒教・道教との融合		復習・期末レポート「仏教文化の受容と変容」作成		
第11回：日本における仏教受容		復習・期末レポート「仏教文化の受容と変容」作成		
第12回：本地垂迹説		復習・期末レポート「仏教文化の受容と変容」作成		
第13回：年忌法要		復習・期末レポート「仏教文化の受容と変容」作成		
第14回：仏教の変容と普遍性		復習・期末レポート「仏教文化の受容と変容」作成		
第15回：まとめ：世俗化と再聖化		復習・期末レポート「仏教文化の受容と変容」作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	課題レポート（30％）、期末レポート（40％）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	30%（質疑とディスカッション）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	期日内に課題の提出がない場合は減点します。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜 3 講時	メールアドレス		

授業科目	宗教学概論Ⅱ【本願寺派教師】【講義】		開講時期	後期
担当教員	前田 知郷		単 位	2
授業の目的と概要	<p>目的 1. 世界の主要な宗教について基礎的な知識を得る 2. 人間社会における宗教の役割の重要性を理解する 3. 宗教の本質、宗教的な精神の重要性を認識する 4. 日常生活における宗教的な体験の重要性を理解する</p> <p>概要 1. 世界に分布する主要な宗教、日本における宗教、インドならびにネパールにおける民族的な宗教、の歴史と変遷を概観する 2. 物・カネの時代から心・精神の時代に転換しつつあることを認識し、混迷する現代社会の中での宗教の可能性と方向性を考察する</p>			
到達目標	<p>1. 世界の主要な宗教についてそれぞれの特徴を説明できる。</p> <p>2. 民族宗教とはどのようなものなのかについて説明できる。</p> <p>3. 宗教の本質、宗教的な精神の重要性を説明できる。</p> <p>4. 人間社会における宗教の役割を説明できる。</p> <p>5. 日常生活において宗教的な体験をすることがいかに大切であるかを説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程の科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション&主要な宗教の世界分布	復習・課題レポート作成		
第2回	宗教的体験	復習・課題レポート作成		
第3回	宗教と文化	復習・課題レポート作成		
第4回	宗教儀礼	復習・課題レポート作成		
第5回	一神教・多神教	復習・課題レポート作成		
第6回	ユダヤ教・キリスト教の歴史と変遷①	復習・課題レポート作成		
第7回	ユダヤ教・キリスト教の歴史と変遷②	復習・課題レポート作成		
第8回	ユダヤ教・キリスト教の歴史と変遷③	復習・課題レポート作成		
第9回	イスラーム教の歴史と変遷①	復習・学期末レポート作成		
第10回	イスラーム教の歴史と変遷②	復習・学期末レポート作成		
第11回	イスラーム教の歴史と変遷③	復習・学期末レポート作成		
第12回	日本の宗教と変遷	復習・学期末レポート作成		
第13回	ヒンドゥー教徒の歴史と変遷	復習・学期末レポート作成		
第14回	インド・ネパールの宗教	復習・学期末レポート作成		
第15回	まとめ	復習・学期末レポート作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題レポート35%・学期末レポート35%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 出席状況ならびに授業態度(質疑応答など、講義への積極的参加)を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須です。私語など他者に迷惑のかかる行為は慎んでください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日 3 講目	メールアドレス		

授業科目	宗教社会学【講義】		開講時期	前期
担当教員	野中 亮		単 位	2
授業の目的と概要	この授業では、オカルトの流行を事例として日本における宗教意識の変化とその背景について学び、そこから現代日本社会の宗教意識の特性を理解することを目的とします。 私たちの社会は、科学的合理性に基づいて設計され、そこに暮らす私たちが科学的に思考し合理的に行動することが前提とされています。しかしながら、実際には、新宗教の流行などとともに、パワースポットや占いなどの「オカルト」が流行することが多々あります。各回で異なった事例を取り上げ、時代・社会背景や分析例などを参照しつつ、社会問題論・社会意識論・大衆文化論の観点も交えて考察を加えます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会学用語としての「合理性」概念を理解し、現代社会の諸現象の分析に活用することができる。</li> <li>・オカルトの流行を通じて現代日本社会の特性を理解し、他の社会現象の分析・理解に役立てることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 「社会意識論」「サブカルチャー論」などの科目も合わせて履修することで、より深い理解が得られます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション：オカルトとは何か	現代の学校教育の議論とからめて鍵概念を復習しておくこと。		
第2回	神秘体験	宗教学的な背景をふまえて鍵概念を復習しておくこと。		
第3回	西洋神秘主義と現代オカルティズム：現代オカルトの基礎知識	近代史との関連で鍵概念を復習しておくこと。		
第4回	超能力：科学とオカルトのはざま	マズローの欲求階層説を踏まえて鍵概念を復習しておくこと。		
第5回	偽史とムー大陸：ナショナリズムと歴史	歴史の正統性・政治性の問題を踏まえて鍵概念を復習しておくこと。		
第6回	ノストラダムスと世紀末：終末論とディストピア	冷戦という時代背景とリスク社会の議論を絡めて鍵概念を復習しておくこと。		
第7回	臨死体験：彼岸と此岸をめぐる世界観	科学的／スピリチュアルな解釈の違いに着目して鍵概念を復習しておくこと。		
第8回	心霊写真：機械と神秘	民俗の心性と科学技術の融和という観点から鍵概念を復習しておくこと。		
第9回	癒し・健康・エコロジー・ロハス：身体概念の変化と拡大	ニューエイジ思想の一般化という視点から鍵概念を復習しておくこと。		
第10回	占い：予知から現状把握へ	現代的ニーズによる伝統の変化という視点から鍵概念を復習しておくこと。		
第11回	UFOと宇宙人：生活世界の拡大と異邦人	冷戦～グローバル化という時代背景に注意し鍵概念を復習しておくこと。		
第12回	UMA・妖怪・モンスター：異世界のノスタルジー	「都市化・ヴァナキュラー化」という言葉に注意し鍵概念を復習しておくこと		
第13回	オカルト雑誌：オカルト市場の拡大と成熟	ジャンルと年齢層の拡大にともなう市場の拡大という視点を確認しておくこと		
第14回	漫画・アニメ・ゲームとオカルト：教養としてのオカルト	第13回と関連し、大衆文化化という観点から鍵概念を復習しておくこと。		
第15回	まとめ：近代合理性の臨界点	近代の社会現象としての科学という視点から鍵概念を復習しておくこと。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート(50%)			
小テスト等	毎週の課題(50%)			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業外学修」の欄は、主に復習を念頭に設定しています。時間は180分程度を想定しています。</li> <li>・今年度は遠隔授業で、学修上さまざまな問題が生じることが予想されます。筑女ネットのフォーラムなどを使い、遠慮無く質問してください。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	レイチェル・ストーム『ニューエイジの歴史と現在』角川選書、渡辺恒夫 他『オカルト流行の深層社会心理』ナカニシヤ出版、その他、授業中に指示します。			
オフィスアワー	水曜2限	メールアドレス		

授業科目	宗門法規【本願寺派教師】【講義】		開講時期	後期
担当教員	藤春 美德		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的： 本講義は、浄土真宗本願寺派の僧侶、教師資格取得のために開設されています。しかし、僧侶、資格取得のための内容にこだわらず、様々な法（規則）の目的や役割を具体的条文や寺務を通して学び、現代社会における教団（宗派）・本願寺・寺院の役割が、私たち1人ひとりの課題になることを目的とします。</p> <p>概要： お念仏（普遍的真実）を拠り所とする浄土真宗本願寺派という宗教団体が、近代国家による法の支配のもと、自らも様々な規則を整備したうえで組織を構築し、宗教活動（運動）を推進しています。教団（宗派）の現状をどのように受け止め、同時に様々な問題を内包する社会の現実はどう向き合って歩いていくかともに学びます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国憲法における宗教に対する基本姿勢並びに、宗教法人法が理解できる。</li> <li>2. 宗門の基本法規を通して、浄土真宗本願寺派並びに、本願寺の機構・組織・活動（運動）が理解できる</li> <li>3. 寺院の規則、役割が理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程の科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	宗門基本法規について : 本講義のねらい(得度・教師資格)	宗派・本山法規通則並びに、得度・教師規程の復習		
第2回	法の目的と役割① : 日本国憲法における宗教に対する基本姿勢、宗教法人法	日本国憲法における宗教に対する基本理念の復習、宗教法人法の基本理念		
第3回	宗門の組織① : 浄土真宗本願寺派の機構・組織	宗門(宗派)機構組織略図表の復習		
第4回	宗門の組織② : 本願寺の機構・組織 宗門の活動 : 御同朋の社会をめざす運動(実践運動)	宗門(本願寺)機構組織略図表並びに、実践運動の目的の復習		
第5回	宗門の基本法規① : 浄土真宗本願寺派宗制	浄土真宗本願寺派宗制の基本理念の復習		
第6回	宗門の基本法規② : 浄土真宗本願寺派宗法 1	浄土真宗本願寺派宗法第1条～第30条の復習		
第7回	宗門の基本法規③ : 浄土真宗本願寺派宗法 2	浄土真宗本願寺派宗法第31条～第98条、附則の復習		
第8回(規則)	宗門の基本法規④ : 宗教法人「浄土真宗本願寺派」宗規(宗教法人法による宗派)	宗教法人法による宗派規則の復習		
第9回	宗門の基本法規⑤ : 本山典令(本願寺の宗教団体としての自治法)	本山典令の基本理念の復習		
第10回	宗門の基本法規⑥ : 「本願寺」寺法(宗教法人による本願寺規則)	宗教法人による本願寺規則の復習		
第11回	寺院規程 : 一般寺院及び宗教法人たる教会規則	寺院の目的、責務の復習		
第12回	宗教法人「〇〇寺」寺院準則 : 宗教法人による寺院規則	一般寺院の規則の復習		
第13回	宗教法人の意義と実際の運用① : 宗教法人の備え付け書類・帳簿等	寺院規程第30条、備付表簿の復習		
第14回	宗教法人の意義と実際の運用② : 宗教法人の財務・税務等	宗教法人財産管理と運用の復習		
第15回	まとめ、小テスト	全体を通しての復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0%			
小テスト等	80%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>講義中専門用語を多用するため、不明の点があれば講義中であっても気兼ねなく質問してください。</p> <p>講義毎に参考資料となるプリントを配布いたしますので、必ずファイリングをして講義に持参してください。</p>			
教科書	なし プリント配布			
指定図書	適宜紹介			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	講義終了後	メールアドレス		

授業科目	小学校英語教育研究【講義】		開講時期	後期
担当教員	アダチ 徹子		単位	2
授業の目的と概要	小学校における外国語科・外国語活動の目標、内容、教材・教具の利用、授業実践の在り方などについて知り、小学校外国語教育に関する基礎的な知識を獲得し、授業実践の基礎的な力を養う。また、中学校・高等学校を見通して小学校外国語教育の意義を考える。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校の外国語科・外国語活動の設定の経緯や、学習指導要領の内容を説明することができる。</li> <li>2. 指導する言語材料、言語活動、教材教具などの概要を知っている。</li> <li>3. 小中高における英語教育の方向性や連携等を踏まえた上で、児童期における指導の在り方について考えをもつことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	オリエンテーション／第1章 小学校における英語教育	第1章の復習と第2章の予習		
第 2回	第1章の続き／第2章 言語習得理論と関連領域	第2章の復習と第3章の予習		
第 3回	第3章 基本的な外国語教授法	第3章の復習と第4章の予習		
第 4回	第4章 国際理解教育と英語教育	第4章の復習と第6章の予習		
第 5回	第6章 カリキュラム・年間指導計画作成のポイント	第6回の復習と第7回の予習		
第 6回	第7章 小学校の英語授業作り	第7章の復習と第8章の予習		
第 7回	第8章 特別支援教育における外国語活動	第8章の復習と第9章の予習		
第 8回	第9章 クラスルーム・イングリッシュの活用	第9章の復習と第10章の予習		
第 9回	第10章 求められる教員の資質	第10章の復習と第11章の予習		
第10回	第11章 教材の使い方・選び方と開発方法	第11章の復習と第12章の予習		
第11回	第12章 ICTの効果的な活用	第12章の復習と第13章の予習		
第12回	第13章 指導の基本と留意ポイント	第13章の復習と第14章の予習		
第13回	第14章 指導の実際	第14章の復習と第15章の予習		
第14回	第15章 文字指導のあり方	第15章の復習と第5章の予習		
第15回	第5章 評価の意義と評価方法	5章の復習と第16章を読むこと		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	最終レポート20%			
小テスト等	ワークシート、課題、リアクションなどの学習確認活動 70%			
成果発表	なし			
受講態度他	出席・受講態度（筑女ネットへのアクセス状況を含む）等 10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	新学習指導要領での小学校外国語教育は、みなさんが受けた英語活動といろいろな点で異なります。知識をアップデートするためにも真摯な学習を期待します。 授業計画は、状況により変更することがあります。 出席は原則として、オンデマンド型の授業の場合は授業時間中の筑女ネットへのアクセス、リアルタイム型の場合は指定の時刻に授業に参加することで判断します。			
教科書	金森強（編著）『小学校英語科教育法 ー理論と実践ー』成美堂			
指定図書	文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』開隆堂			
参考図書	授業で適宜紹介します			
オフィスワー	火曜4時間目 または予約により随時	メールアドレス		

授業科目	生涯学習概論【博物館学芸員】【講義】		開講時期	前期
担当教員	野島 智司		単位	2
授業の目的と概要	生涯学習の歴史や理念と課題、生涯学習と社会教育及び学校教育との関係を学習するとともに、現代的課題を生涯学習のまなざしで考えます。また、生涯学習の場づくりを实践する形態の授業も行います。これらの学習を通して、自らの教育・学習観をふりかえり、問い直し、暮らしや社会のあり方を生涯学習という観点から考えます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生涯学習の基礎的な知識について理解すること。</li> <li>● 学ぶということの意味と価値について問い直し、考えるとともに、自分の言葉で説明できるようになること。</li> <li>● 他者とともに主体的に学ぶ方法を身につけるとともに、生涯学習の場づくりを構想できるようになること。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、博物館学芸員課程の専門科目です。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、自己紹介、生涯学習とは、など)	「生涯学習」という言葉から連想することを、考えてきてください。		
第2回	生涯学習の基礎1:学習と教育	「今まで経験したなかで、好きだった授業」を考えてきてください。		
第3回	生涯学習の基礎2:人間の生涯	子どものころ「好きだった遊び」を思い出してきてください。		
第4回	生涯学習を考える1:子どもと生涯学習	学校外の学びの場について、考えてきてください。		
第5回	生涯学習を考える2:言葉と生涯学習	言葉を学ぶということに、どんな意味があるか、考えてきてください。		
第6回	生涯学習を考える3:アートと生涯学習	アート表現には、どんな意味があるのでしょうか。考えてきてください。		
第7回	生涯学習を考える4:地域と生涯学習	地域に根差した学びにどんな意味があるか、考えてきてください。		
第8回	生涯学習を实践する1:身近な自然の観察	自宅周辺の小さな自然を、できる範囲で観察しておいてください。		
第9回	生涯学習を实践する2:短歌に想いを表現してみよう	日々の暮らしを見つめなおし、三十一文字で表現してみましょう。		
第10回	生涯学習を实践する3:哲学カフェをやってみよう	みんなで話し合うと学びが深まりそうテーマを考えてきてください。		
第11回	生涯学習を实践する4:3回の経験のふりかえり	3種類の実践で生まれた学びについてふりかえっておいてください。		
第12回	生涯学習の可能性1:持続可能な開発目標(SDGs)と生涯学習	配布した資料を読み、どんな学習が必要になるか考えてきてください。		
第13回	生涯学習の可能性2:社会教育施設の可能性	あなたがこれまで社会教育施設をどう利用してきたか、考えてきてください。		
第14回	私が生涯学習の場をつくるとしたら1:グループワーク	これまでの授業をふりかえり、どんな場が作りたいか、考えてきてください。		
第15回	私が生涯学習の場をつくるとしたら2:プレゼンテーション	プレゼンテーションの内容を考えてきてください。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% 学期末にレポートの提出を求めます。筑女ネット等を利用してフィードバックします。			
小テスト等	なし			
成果発表	グループワークの際は、全体共有を目的とした発表を求めます。成績評価の対象とはしません。			
受講態度他	30% 授業のたびに小課題を出すので、提出すること。筑女ネット等を利用してフィードバックします。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 自分の考えをゆっくり丁寧に伝えることと、異なる考えを理解するよう務めることを大切にしてください。 2. オンラインでの講義(オンデマンド型を予定)となるため、当初の予定を変更することがあります。その都度お知らせいたします。			
教科書	使用しません。必要に応じて、プリントを配布します。			
指定図書	佐藤一子『地域学習の創造 地域再生への学びを拓く』(東京大学出版会、2015年)			
参考図書	野島智司『マイマイ計画ブック かたつわり生活入門』(Pヴァイン、2015年)、鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論:すべての人が「学ぶ」ために必要なこと(「ESDでひらく未来」シリーズ)』(学文社、2018年)			
オフィスワー	相談等は筑女ネットを通じて行います。また、メールでも連絡を受け付けます。	メールアドレス		

授業科目	障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論)【講義】		開講時期	前期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	<p>障害児の発達心理的・生理的特徴を知り、それをを援助する方法についての理解を深める。</p> <p>まず、発達に障害があるとはどのようなことか各障害別に学習し、その支援について福祉的観点から学んでいく。さらに、発達を援助する方法を学習した後、アセスメントについて実際的な学習を行う。最後に障害を抱えた子どもの家族を支援する方法について学んでいく。</p>			
到達目標	<p>各障害の心理的、生理的特徴を説明できる。</p> <p>発達を援助する方法を説明できる。</p> <p>家族に対し発達心理的な視点を提供でき、支援ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</p> <p>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</p> <p>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</p> <p>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		障害について予習	
第2回	障害について		視覚障害について予習	
第3回	視覚障害の心理と福祉的支援		聴覚障害について予習	
第4回	聴覚障害の心理と福祉的支援		知的障害について予習	
第5回	知的障害の心理と福祉的支援		肢体不自由について予習	
第6回	肢体不自由の心理と福祉的支援		病弱について予習	
第7回	病弱の心理と福祉的支援		言語障害について予習	
第8回	言語障害の心理と福祉的支援		ASDについて予習	
第9回	発達障害の心理と福祉的支援 1 ASD		ADHDについて予習	
第10回	発達障害の心理と福祉的支援 2 ADHD		LDについて予習	
第11回	発達障害の心理と福祉的支援 3 LD		アセスメントについて予習	
第12回	障害の支援のために アセスメント		乳幼児期・学童期の支援について予習	
第13回	生涯を通じた支援(乳幼児期・学童期)		思春期・青年期の支援について予習	
第14回	生涯を通じた支援(思春期・青年期)		障害受容について予習	
第15回	障害受容と家族支援		発表準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 90% 講義は質問応答形式で進めます。受け答えを評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回授業の最後に次回のテーマの課題を出します。かならず予習すること。「わかりません」は厳禁です。			
教科書	使用しません			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日12:30~13:00 生息地8号館 4F		メールアドレス	



授業科目	障害者・障害児心理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	<p>障害者・障害児の心理的特徴を理解し、この後のこれらの人の支援を含めた学習の基礎を身につけることを目的とします。障害は多様で、それぞれの障害によって発達、心理的特徴があり、それを理解した上で接したり、支援することが大切です。さらに障害のある人が自立していくために周囲が小さいころからどのようなことについて配慮していくのか知っておくことが大切です。</p>			
到達目標	<p>それぞれの障害における発達の特徴、心理的特徴を説明できる。          障害者の自立に向けて周囲の配慮事項を説明できる。          障害者の家族への支援の大切さが理解できている。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		ショートレポート	
第2回	障害の理解とその方法		ショートレポート	
第3回	知的障害の理解		ショートレポート	
第4回	自閉スペクトル症 (ASD)の理解 (1)		ショートレポート	
第5回	自閉スペクトル症 (ASD)の理解 (2)		ショートレポート	
第6回	注意欠如/多動症 (ADHD)の理解		ショートレポート	
第7回	限局的学習症 (SLD)の理解		ショートレポート	
第8回	言葉の障害の理解		ショートレポート	
第9回	視覚障害の理解		ショートレポート	
第10回	聴覚障害の理解		ショートレポート	
第11回	肢体不自由の理解		ショートレポート	
第12回	重度・重複障害の理解		ショートレポート	
第13回	精神障害の理解1 (統合失調症、双極性障害、その他)		ショートレポート	
第14回	障精神障害の理解2 (適応障害、摂食障害、人格障害、その他)		ショートレポート	
第15回	障害者の福祉 (制度、関係機関) と心理職の役割		最終レポート	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	授業の終わりにショートレポート30% 最終レポート70%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	参考にします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻3回は欠席1回としてみなします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時	メールアドレス		

授業科目	障害者福祉論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	川崎 孝明		単位	2
授業の目的と概要	本授業では、障害者を取り巻く社会的状況において、障害とは何かを理解するために雇用・労働問題を根底に据えて考える。社会問題としての基本的な障害者生活問題を把握し、障害概念の諸説を理解する。障害者総合支援法の基本的な仕組みを把握し、その問題点と課題について考察を深めることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者福祉が取り組む課題について理解し、自分の考えをもつことができる。</li> <li>2. 障害者生活問題を構造的に捉える見方ができる。</li> <li>3. 障害の概念についてまとめることができる。</li> <li>4. 障害者福祉に関する法制度の仕組みと課題を整理することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福(3)-②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	障害者福祉の対象課題－生活問題とは何か	振り返りシートで講義内容のまとめと疑問点を整理すること。		
第2回	障害者とは－制度にみる障害者の定義	予習pp15-25。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第3回	障害の概念①－ICIDH	予習pp26-27。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第4回	障害の概念②－ICF	予習pp28-30。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第5回	障害者福祉制度の発展過程	予習pp2-14。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第6回	障害者総合支援法の仕組み①－目的・理念、小テスト	予習pp102-104。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第7回	障害者総合支援法の仕組み②－支給決定のプロセス	予習pp118-125。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第8回	障害者総合支援法の仕組み③－サービス体系	予習pp105-117。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第9回	障害者総合支援法の仕組み④－相談支援	予習pp131-137。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第10回	障害者総合支援法の仕組み⑤－苦情解決・審査請求	予習pp140-147。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第11回	障害者総合支援法の仕組み⑥－障害者福祉計画、小テスト	予習pp138-139。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第12回	障害児に対する支援①－障害児施策の現状	予習pp154-159。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第13回	障害児に対する支援②－当事者家族を取り巻く課題	予習pp160-169。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第14回	障害者総合支援法の問題点と課題	予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第15回	これまでの振り返りとまとめ	予習 次回レジュメ。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70%			
小テスト等	課題シート(30%)			
成果発表	0%			
受講態度他	原則として、単位認定には15回の授業の3分の2以上の出席を必要とする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講者が不快な思いをしないよう講義中の私語は厳禁とする。ルールを守ることができない者は途中退席を命じる場合があるが、その場合は欠席扱いとする。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第5版』(中央法規出版、2016年)			
指定図書	なし			
参考図書	高林秀明『障害者・家族の生活問題』(ミネルヴァ書房、2008年)、社会福祉小六法 最新版			
オフィスアワー	月曜4講目および火曜4限目	メールアドレス		

授業科目	障害者福祉論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	川崎 孝明		単位	2
授業の目的と概要	本授業は「障害者福祉論Ⅰ」を踏まえ、障害者総合支援法における組織および団体の役割について学ぶとともに、障害者福祉関連法制を概要し、運用上の問題点、その課題について理解することを目的とする。また、医療関係者や精神保健福祉士といった多職種連携の方法・実際について学び、ネットワークングとその活用について学ぶこととする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者福祉関連法制の概要を説明できるようになる。</li> <li>2. 障害者福祉関連法制の問題点とその課題について具体的に述べるができる。</li> <li>3. 障害者福祉を取り巻く多職種連携の方法と実施について身につけることができる。</li> <li>4. 障害者福祉をめぐるネットワークング手法について調べることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	障害者総合支援法における組織および団体の役割と実際一 国・都道府県・市町村の役割	予習pp170-182。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第2回	障害者総合支援法における組織および団体の役割と実際一 労働および教育機関の役割	予習pp183-199。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第3回	障害者総合支援法における多職種連携	予習pp200-203。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第4回	障害者福祉における専門職の役割と実際	予習pp204-229。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第5回	障害者福祉におけるネットワークングと実際	予習pp230-236。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第6回	相談支援事業所の役割と実際、小テスト	予習pp237-253。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第7回	障害者福祉関連法一 身体障害者福祉法	予習pp46-49。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第8回	障害者福祉関連法一 知的障害者福祉法	予習pp50-52。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第9回	障害者福祉関連法一 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	予習pp53-155。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第10回	障害者福祉関連法一 発達障害者支援法	予習pp56-58。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第11回	障害者福祉関連法一 障害者基本法、小テスト	予習pp32-45。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第12回	障害者福祉関連法一 虐待防止法、バリアフリー法および雇用に関する法制	予習pp59-73。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第13回	障害者にかかわるその他の法体系	予習pp76-89。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第14回	障害者権利条約とその影響	予習pp2-14。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
第15回	わが国の障害者福祉をめぐる課題	予習 配布レジュメ。振り返りシートで講義内容と疑問点を整理。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80%			
小テスト等	なし			
成果発表	0%			
受講態度他	毎回提出する課題シート20%。原則として、単位認定には15回の授業の3分の2以上の出席を必要とする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	視覚教材を活用する場合がある。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第5版』(中央法規出版、2016年)			
指定図書	なし			
参考図書	高林秀明『障害者・家族の生活問題』(ミネルヴァ書房、2008年)、社会福祉小六法 最新版			
オフィスアワー	月曜日4講目および火曜日4講目	メールアドレス		

授業科目	障がい児保育【演習】		開講時期	前期
担当教員	S. Kumar		単位	2
授業の目的と概要	<p>障害児（特に幼児）の心理的・生理的特徴を知り、それにあつた対応ができるようになる。  乳幼児期の障害は理解しにくい場合が多く、保護者の受け入れも困難な場合が多い。ここでは障害の心理的・生理的な特徴を学習し、それにあつた対応がどのようなものであるかを学習していく。また、乳幼児期は保護者の影響が大きい時期でもある。障害を持った子どもの保護者の心理的サポートも重要である。そのサポートをどのように行なったら良いかについても学習する。</p>			
到達目標	<p>各障害の心理的・生理的特徴を説明できる。  障害に応じた適切な対応法を提案できる。  保護者に対するカウンセリングを含めた対応の方法を提案できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>幼（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション・障がいとは	障がいの理解についてのレポート作成		
第2回	障がい児保育の歴史とノーマライゼーションの考え方	Inclusion についてのレポート作成		
第3回	発達障がいの理解、自閉症について	自閉症の主な特徴のレポート作成		
第4回	ADHDについてアクティブ・ラーニングの学習	ADHDの特徴の理解と対応のレポート作成		
第5回	知的障害について	知的障害のレベルと日常生活指導についてのレポート作成		
第6回	感覚統合について	押す、引く、吹く、吸う、止まるなど感覚の理解レポート作成		
第7回	発達障がいを理解するためICT活用した学習	発達の異常とは何かについての事後学修とレポート作成		
第8回	発達障がいの理解と事例	自閉症児の乳幼児の関わり方についてのレポート作成		
第9回	ことばの障がいについて	ことばの発達のプロセスの理解についてのレポート作成		
第10回	情報リテラシーによるダウン症についての理解と子ども同士の関わり	ダウン症の特徴についての事前学修		
第11回	運動障がいの支援	肢体不自由児、脳性麻痺児についてのレポート作成		
第12回	聴覚障がいについて	難聴についてのレポート作成		
第13回	視覚障害について	弱視の支援に使われる指導教材についてのレポート作成		
第14回	家族支援と関係機関との連携について	保護者のサポートにつながる支援の理解についてのレポート作成		
第15回	障がい児保育全体内容のまとめ	全体の事後学修と各自で幼稚園での障がいを持つ子どもの活動観察		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90％レポート課題の提出			
小テスト等	-			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ : Teamsでの参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業で紹介した内容をノートに記入しておくこと。			
教科書	使用しません、プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	平山 諭・清水 良三・栃尾 勲『障害児保育コンセンサス』福村出版、深津 時吉・岸 勝利『障害児の心理的理解』ブレーン出版、若井淳二・水野薫・酒井幸子『障害児保育テキスト』			
オフィスワー	月・木の昼休み（12:30～13:00）Teams, mailによって連絡しての要約	メールアドレス		

授業科目	書誌学【講義】	開講時期	前期
担当教員	安永 美恵	単位	2
授業の目的と概要	日本の古典籍を対象として、その特性を理解し、取扱いに必要な基本知識を得ることを目的としています。日常生活の中で、古典籍を扱うことは少ないかもしれませんが、人文学分野の、明治初期までの資料を一次資料として取り扱う研究分野の学問を深めたい、卒論で取り上げる、という場合には、学術書や論文を理解する際に、役立つこともあるでしょう。講義では、日本の古典籍の、歴史、特性、具体的な構成要素について、多数の現存本のある江戸時代の版本を例にして学びます。一点一点の資料には、それぞれ個性があること、特性に適った扱い方が必要であることを、適宜、参考資料を用いながら、理解してゆきます。また、古典籍について調査する際の基本的な態度、方法を知ることができます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本の古典籍について、歴史的・地理的な背景をふまえて、その特性を説明することができる。</li> <li>2 日本の古典籍に関する主要な書誌学用語を理解し、用いることができる。</li> <li>3 版本を対象とした、簡単な書誌調査を行うことができる。</li> <li>4 現存する日本の古典籍について、基礎的な範囲での情報収集を行うことができる。</li> <li>5 調査した結果を整理し、作者や本屋、所蔵者などの背景を考察して、見解をレポートにまとめることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>主に明治期以前の書物に収められた内容を対象とする科目と関連があります。古典文学分野や日本文化分野の他、「卒業論文」において、古典籍資料を取り扱う場合に関連する科目です。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 ガイダンス：授業の目的、書誌学について		テキストの予習と復習	
第2回 文字を読む：変体仮名とくずし字（訓み方についての意見を出し合う）		くずし字を読む練習	
第3回 書物の歴史と形態（1）：紙の出現以前と以後		配布資料による版面を読む練習	
第4回 書物の歴史と形態（2）：書物の装訂		国会図書館HPを利用して古典籍の装丁を確認する	
第5回 書物の歴史と形態（3）：袋とじ		袋綴じ作業の復習	
第6回 書物の種類：写本と刊本		博物館、資料館等の展示古典籍の装訂を調べる	
第7回 書物の種類：刊本（整版）		課題：『日本書誌学大系』の論文を読み、レポートにまとめる	
第8回 書物の種類：刊本（活字版）		整版と活字版の資料を復習する	
第9回 製版本のできるまで		整版本のできるまでの資料を復習する	
第10回 書物の種類：刊本の検討方法		書誌学参考文献を読む	
第11回 書物の各部位の名称		書物の各部位の名称を覚える	
第12回 江戸時代の書物の分類		書物の分類の資料を復習する	
第13回 書誌調査入門（意見交換しながら調査・作業を進める）		課題：図書館での書誌調査	
第14回 参考情報の利用（意見交換しながら調査・作業を進める）		課題：図書館での書誌調査、書籍情報調査	
第15回 補足、まとめ。レポート作成上の注意事項。		レポート準備	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし。		
レポート	50%。授業での課題（20%）、期末レポート（30%）		
小テスト等	30% 小課題含む。		
成果発表	なし。		
受講態度他	20% 作業を含む授業への積極的な態度を考慮。授業内容に関する記述課題。調査課題。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>講義の冒頭や終了前に、課題の確認や講義内容に関する質問を、口頭またはカードで行う場合があります。資料に触れる前の手洗い励行。資料を扱い、調査方法を説明するので、B以上の柔らかい鉛筆と、物差またはメジャーを準備してください。</p> <p>袋綴じ演習には、太めの針と糸、はさみを持参してください。</p> <p>・授業連絡に「筑女ネット」を利用することがあります。</p>		
教科書	廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』世界思想社、プリント配布。		
指定図書	なし		
参考図書	『日本古典籍書誌学辞典』岩波書店、中野三敏『江戸の板本 書誌学談義』岩波書店、堀川貴司『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版、その他は授業時に紹介する。		
オフィスアワー	火曜 4限、金曜 5限	メールアドレス	

授業科目	初等英語科概論【講義】		開講時期	前期
担当教員	林 裕子		単 位	2
授業の目的と概要	小学校外国語活動および外国語において、その改訂の経緯や目標および内容の取り扱いについて、学習指導要領解説外国語編に基づいて理解するとともに、小学校外国語活動及び外国語について基礎的な理論および知識を習得することを目的とする。『小学校学習指導要領解説外国語編』に基づき、目標や内容、指導計画作成上の留意点などに関する講義を行う。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校外国語活動・外国語の改訂の経緯、目標や内容について述べることができる。</li> <li>・小学校外国語活動・外国語の学習内容について、基礎的理論および知識について説明することができる。</li> <li>・小学校外国語活動・外国語における指導計画作成上の留意点について述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	講義の概要説明、改訂の経緯、外国語活動・外国語の目標について	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
第2回	外国語に関する基本的事柄の理解 (音声・語彙・文構造・文法等)	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
第3回	第二言語習得に関する基本的理解	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
第4回	児童文学 (絵本、子ども向けの歌) についての理解	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
第5回	外国語活動の背景としての異文化理解	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
第6回	外国語の思考力・判断力・表現力等	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
第7回	外国語活動における「聞くこと」 (小学校3年生および4年生)	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
第8回	外国語における「聞くこと」 (小学校5年生および6年生)	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
第9回	外国語における「読むこと」 (小学校5年生および6年生)	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
第10回	外国語活動における「話すこと (やり取り)」 (小学校3年生および4年生)	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
第11回	外国語における「話すこと (やり取り)」 (小学校5年生および6年生)	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
第12回	外国活動における「話すこと (発表)」 (小学校3年生および4年生)	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
第13回	外国語における「話すこと (発表)」 (小学校5年生および6年生)	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
第14回	外国語における「書くこと (小学校5年生および6年生)	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
第15回	外国語活動および外国語のまとめ	教科書や講義資料、小学校学習指導要領解説外国語編を読み、予習復習を行う		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80%			
小テスト等	20%			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと			
教科書	『小中学校で英語を教えるための必携テキスト』 (中村・鈴木・巽・林・矢野, 2019)			
指定図書	小学校学習指導要領解説外国語編 (文部科学省、東洋館出版社)			
参考図書	小学校英語教科書、『Let's Try! 1, 2』			
オフィスアワー	授業後に対応します	メールアドレス		

授業科目	初等家庭科概論【講義】		開講時期	後期
担当教員	金井 千尋		単位	2
授業の目的と概要	<p>小学校の家庭科は、児童が知識や技能を身に付けるとともに生活の営みを大切にしようとする意欲や態度を育むことを目標にした教科であり、その内容は生涯にわたる家庭生活を支える基盤となる。</p> <p>この授業は、将来児童を指導することを踏まえて、小学校における家庭科教育の役割や目標を知り、各内容を深く理解することを目的としている。講義を通じて基礎的知識を身に付けるとともに、調べ学習やグループ活動を行い、配布資料・課題プリントを利用して自分自身の生活を振り返ることにより課題点を見つけ、生活における問題解決方法を考察していく。簡単な製作実習によって教科目標の理解を深め、手縫いの基礎的スキルを習得する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭科の教科としての特徴を説明することができる。</li> <li>2. 小学校学習指導要領家庭科の教科目標や内容について述べるができる。</li> <li>3. 家庭科の基礎的知識について理解し、説明することができる。</li> <li>4. 身近な素材を利用した簡単な作品を製作することができる。</li> <li>5. 手縫いの基礎的スキルを身に付ける。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション 家庭科教育の特徴	このシラバスを読んでおく。今まで学んだ家庭科の内容を確認する。		
第2回	小学校学習指導要領家庭科の改訂点	学習指導要領解説のp.1～11を熟読する。		
第3回	小学校学習指導要領家庭科の目標 家族とは何か	学習指導要領解説のp.12～23を熟読する。		
第4回	家庭の仕事 生活時間	学習指導要領解説のp.23～31を熟読する。		
第5回	食事の役割 調理の基礎(1) —調理計画・調理法—	学習指導要領解説のP.32～41を熟読する。 安全対策を調べる。		
第6回	調理の基礎(2) —米飯及びみそ汁の料理—	学習指導要領解説のp.42～43を熟読する。 食事記録をつける。		
第7回	栄養素の働きと食品の栄養的特徴(1)	学習指導要領解説p.43～45を熟読する。 食品の特徴を調べる。		
第8回	栄養素の働きと食品の栄養的特徴(2) 献立と調理	学習指導要領解説のp.45～48を熟読する。		
第9回	被服製作の基礎(1) —製作計画・手縫いの実習—	学習指導要領解説のp.53～57を熟読する。 製作用具の準備をする。		
第10回	被服製作の基礎(2) —手縫いの実習・用具の安全な取り扱い—	作品を仕上げ、製作記録を完成させる。		
第11回	衣服の働きと衣服の素材の種類と性質	学習指導要領解説のp.49～50を熟読する。 衣服の表示を調べ、まとめる。		
第12回	快適な着方	学習指導要領解説のp.52を熟読する。発表の準備をする。		
第13回	快適な着方・日常の手入れと洗濯	学習指導要領解説のp.51～52を熟読する。 洗剤の種類を調べる。		
第14回	快適な住まい方 消費生活と環境	学習指導要領解説のp.58～70を熟読する。		
第15回	消費生活と環境 まとめ	学習指導要領解説のp.64～70を熟読する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% 課題プリント 詳細は授業内で適宜指示する。			
小テスト等	30%			
成果発表	20% 課題発表、製作作品			
受講態度他	10% 授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>将来、教職に就く者として真摯な態度と積極的な授業参加を期待します。</p> <p>実習に関しては各自用意するものがあります。詳細は授業時にお知らせします。</p> <p>必要な材料や用具は確実に準備してください。</p> <p>配布プリントは資料として取りまとめ、授業時に持参してください。</p> <p>グループ活動では互いに協力し合い、実習では常に安全面に留意するようにしてください。</p>			
教科書	<p>文部科学省 『小学校学習指導要領解説 家庭編』 東洋館</p> <p>内野紀子 鳴海多恵子 石井克枝他 『小学校わたしたちの家庭科 5・6』 開隆堂</p>			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の中で適宜お知らせします。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	初等教育実習Ⅰ【実習】		開講時期	通年
担当教員	稲田 八徳・松本 和寿・石原 努		単 位	2
授業の目的と概要	<p>実習前の学習としては学内オリエンテーションや講義、小学校教師や校長の講話等を通じて、教育実習の意義、子どもの理解、教師と子どもの関わり方などについて理解する。また、実習終了後は、実習の反省・評価を行い、実習体験を振り返りながら新たな課題の設定を行うなどを目的としている。</p> <p>教育実習に向けての心がまえや実習の意義・目的を理解し、実習記録の書き方など実習に向けて、事前準備ができるようにする。また、実習終了後は、実習体験をふまえて、感想等の交流やテーマを設定した意見交換を行い教職に向けての基本的な認識を確かなものにする。</p>			
到達目標	<p>小学校教育実習の意義や目的内容を説明することができるとともに、実習記録の書き方、実習の心構えなどについて説明することができる。また、自己の実習課題を明確に説明することができることを目標とする。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  初(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション	幼稚園実習の際の成果と課題を明らかにしておく。		
第2回	学校経営（小学校の意義）	1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。		
第3回	学校経営（学校の組織、関係法規）	1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。		
第4回	学校経営（危機管理、安全指導、研修）	1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。		
第5回	学級経営（学級集団づくり）	目指す学級の姿をまとめておく。		
第6回	学級経営（人権教育）	2年次科目「人権教育」の内容について整理しておく。		
第7回	学級経営（特別支援教育）	特別支援学校での成果と課題を整理しておく。		
第8回	教科指導（基本的な展開）	「初等教科教育法」（各教科）の内容を整理しておく。		
第9回	教科指導（指導案、板書、評価）	「初等教科教育法」（各教科）の内容を整理しておく。		
第10回	教科指導（模擬授業）	第8回で提示するテーマに関する展開を考えておく。		
第11回	教育実習に向けて（日誌の書き方他）	幼稚園実習の際の日誌の内容を整理しておく。		
第12回	教育実習に向けて（講話）	目指す教師像についてまとめておく。		
第13回	教育実習に向けて（実習生調書他の書き方）	実習校の情報、期間等をまとめておく。		
第14回	教育実習に向けて（心構え、注意事項、詳細確認等）	実習に臨む目的や課題を整理しておく。		
第15回	教育実習を終えて ※後期実施 教育実習のまとめを作成する。	教育実習の成果と課題等をまとめる。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％（各回の担当者により詳細を伝達します。）			
小テスト等	なし			
成果発表	20％（実習後の提出物等）			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師を目指すという自覚をもって臨むこと。 適宜、ディスカッション・グループワークを行うので、積極的に参加すること。			
教科書	特に指定しない。			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	小学校学習指導要領 文部科学省			
オフィスワーク	担当教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス		



授業科目	初等教育実習Ⅱ【実習】		開講時期	通年
担当教員	稲田 八徳・松本 和寿・石原 努		単位	4
授業の目的と概要	<p>小学校での実習を通して、大学で学修した教科の知識と技術を基盤とし、子ども理解や子どものかかわり方を把握しながら学校での実習を行い、小学校教諭という仕事への理解を深めるとともに、指導力の基礎を培うことを目的とする。</p> <p>3年次の後期、9月中旬から4週間、小学校における実習を行う。希望する小学校に依頼し実習校を決定する。実習前と実習後に、それぞれ事前と事後の指導を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 一人一人の子どもに対する理解を深めることができる。</li> <li>2 小学校教諭の職務内容を理解することができる。</li> <li>3 教科の指導や子どものかかわり方、学級経営など、指導力の基礎を身に付けることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 実習校による指導（校長講話、担当者からの連絡等、配属学級での実習）		3年次科目「初等教育実習指導」の内容を整理しておく。		
第2回 実習校による指導（配属学級での実習）		大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第3回 実習校による指導（配属学級での実習）		大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第4回 実習校による指導（配属学級での実習）		大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第5回 実習校による指導（配属学級での実習）		大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第6回 実習校による指導（配属学級での実習）		大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第7回 実習校による指導（配属学級での実習）		大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第8回 実習校による指導（配属学級での実習）		大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第9回 実習校による指導（配属学級での実習）		大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第10回 実習校による指導（配属学級での実習）		大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第11回 実習校による指導（配属学級での実習）		大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第12回 実習校による指導（配属学級での実習）		大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第13回 実習校による指導（配属学級での実習）		大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第14回 実習校による指導（配属学級での実習）		大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第15回 実習校による指導（配属学級での実習、実習の総括的指導）		大学での関連科目の内容を整理しておく。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20％（日誌、指導案等の必要文書）			
小テスト等	なし			
成果発表	40％（実習授業等）			
受講態度他	40％（実習評価等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師を目指すという自覚をもって臨むこと。			
教科書	特に指定しない。			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	小学校学習指導要領（文部科学省）			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照すること	メールアドレス		

授業科目	初等教育実習指導【演習】		開講時期	前期
担当教員	松本(和)・稲田(八)・石原(努)・今里(順)・山本(尚)		単位	1
授業の目的と概要	実習前の講義概要は、教育実習に向けての心がまえや実習の意義・目的を理解すること、実習記録の書き方など実習に向けて事前準備を整えること、教師として子どもとの関わり方等について理解することを目的とする。実習終了後は、実習の反省・評価を行い、実習体験を振り返りながら新たな課題の設定を行うことを目的とする。これらの活動を通して、教職に向けての基本的な認識を確かなものにするを目的とする。			
到達目標	小学校教育実習の意義や目的内容を説明することができるとともに、実習記録の書き方、実習の心構えなどについて説明することができる。また、自己の実習課題を明確に説明することができることを目標とする。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	幼稚園実習の際の成果と課題を明らかにしておく。		
第2回	学校経営(小学校の意義)	1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。		
第3回	学校経営(学校の組織、関係法規)	1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。		
第4回	学校経営(危機管理、安全指導、研修)	1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。		
第5回	学級経営(学級集団づくり)	目指す学級の姿をまとめておく。		
第6回	学級経営(人権教育)	2年次科目「人権教育」の内容について整理しておく。		
第7回	学級経営(特別支援教育)	特別支援学校での成果と課題を整理しておく。		
第8回	教科指導(基本的な展開)	「初等教科教育法」(各教科)の内容を整理しておく。		
第9回	教科指導(指導案、板書、評価)	「初等教科教育法」(各教科)の内容を整理しておく。		
第10回	教科指導(模擬授業)	第8回で提示するテーマに関する展開を考えておく。		
第11回	教育実習に向けて(日誌の書き方他)	幼稚園実習の際の日誌の内容を整理しておく。		
第12回	教育実習に向けて(教師としての心構え)	目指す教師像についてまとめておく。		
第13回	教育実習に向けて(実習生調書他の書き方)	実習校の情報、期間等をまとめておく。		
第14回	教育実習に向けて(小学校での動き及び留意点、詳細確認等)	実習に臨む目的や課題を整理しておく。		
第15回	教育実習を終えて(実習報告書等の作成)	実習の成果と課題を明らかにしておく。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	60%			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	40%			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師を目指すという自覚をもって臨むこと。			
教科書	特に指定しない。			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	小学校学習指導要領 文部科学省			
オフィスワーク	月曜日・金曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	初等教育特殊講義Ⅰ【講義】		開講時期	後期
担当教員	平山 静男・今里 順一・山本 尚史		単 位	2
授業の目的と概要	<p>小学校教員として必要な基礎的学力の向上と基礎的指導力を身に付けることができることを目的とする。まず授業の1回から5回までは理科を取り上げ、領域毎に問題を解きながら、科学的な知識や概念の理解深化を図るとともに、基礎的な指導力については、実践的な指導場面を取り上げながら学修を深める。次に授業の6回から10回までは数学を取り上げ、数学的な思考力・実践力を身につける。数学では受講生がお互いに教え合う機会を設けて、指導を意識した学修を期待する。最後に11回から15回は学習指導要領について学修を深める。学校教員に求められている資質・能力はどのようなものか。学校教育に求められている社会的要請とは何なのかを受講生とともに考えたい。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、理科の基礎的な学力について列挙することができる。</li> <li>2、理科の基礎的な指導力について使用することができる。</li> <li>3、数学の基礎的な学力を身につけることができる。</li> <li>4、数学の基礎的な指導力について使用することができる。</li> <li>5、学習指導要領の基本的な考え方について身につけることができる。</li> <li>6、学習指導要領の総則について学校教育に求められている資質・能力を考察することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は中学校理科教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連する科目は初等教科教育法(理科)である。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション。エネルギーに関する学力向上と指導力育成	復習：エネルギーに関する振り返り		
第2回	粒子に関する学力向上と指導力育成	復習：粒子に関する振り返り		
第3回	生命に関する学力向上と指導力育成	復習：生命に関する振り返り		
第4回	地球に関する学力向上と指導力育成	復習：地球に関する振り返り		
第5回	理科に関する学力向上と指導力育成のまとめ	復習：理科に関する指導の振り返り		
第6回	数・数式・関数に関する学力向上と指導力育成	復習：数・数式・関数に関する振り返り		
第7回	関数とグラフに関する学力向上と指導力育成	復習：関数とグラフに関する振り返り		
第8回	平面図形に関する学力向上と指導力育成	復習：平面図形に関する振り返り		
第9回	立体図形に関する学力向上と指導力育成	復習：立体図形に関する振り返り		
第10回	確率・統計に関する学力向上と指導力育成	復習：確率・統計に関する振り返り		
第11回	学習指導要領改訂の方向性、育成すべき資質・能力の三つの柱	復習：重要ポイントの振り返り		
第12回	学習指導要領総則 主体的・対話的で深い学びの実現、カリキュラム・マネジメント、プログラミング教育	復習：重要ポイントの振り返り		
第13回	学習指導要領にみる学校教員に求められる資質・能力	復習：重要ポイントの振り返り		
第14回	学習指導要領にみる学校教育に求められるもの	復習：重要ポイントの振り返り		
第15回	自らが考える学校教員としての資質・能力とは	復習：重要ポイントの振り返り		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	なし。			
小テスト等	理科に関するもの30%。次時に返却。 数学に関するもの30%。			
成果発表	なし。			
受講態度他	10%。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を届けること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワー	平山：月曜日3限目。	メールアドレス		

授業科目	初等教育特殊講義Ⅰ【講義】		開講時期	後期
担当教員	稲田 八徳・北村 真理		単位	2
授業の目的と概要	本授業では、子どもから大人まですべての人々が親しむ絵本に関心を持ち、人が発達するなかで、絵本がどのような役割を担うのか、どのように活用することができるのか等、絵本に関する多様な知識の基礎を習得することを目的とする。 絵本の歴史や絵本のジャンル、地域図書館等における絵本に関わる取り組みの実践について理解を深める。その上で、絵本に関わる専門職が、多々ある絵本の中から対象者や場面に応じてどのように絵本を選択しているか、読み聞かせの際にどのような留意点を持っているのかを知り、それらを意識する力を養う。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵本について、その歴史や絵本が持つ魅力についての基礎を理解し、述べることができる。</li> <li>・ 絵本の多様なジャンルの違いとその特徴を理解し、対象者や場面の応じて絵本を選定することができる。</li> <li>・ 図書館等公共の場における絵本に関する取り組みの実践を知り、取り組みにおける意図や工夫について意見交換ができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回 オリエンテーション	―読書推進活動や絵本専門士の役割理解及び、グループによる本講義受講の意欲等に関するディスカ	将来自分がどのように絵本に関わりたいかをまとめる		
第2回 絵本総論（絵本とは何か）	―絵本とは何か絵本が持つ特性・多面性の理解―	予習：絵本の思い出を書いておく 復習：絵本の特性・多面性をまとめる		
第3回 絵本各論（絵本の歴史、絵本賞について）	―世界の絵本、日本の絵本の歴史、及び絵本賞について―	予習：世界の絵本を探す 復習：絵本賞受賞作品の魅力をもとめる		
第4回 絵本各論（視覚表現、言語表現から見た絵本）	―絵本の視覚表現、言語表現の特性理解―	予習：視覚表現の絵本を探す。 復習：視覚表現、言語表現の特性をまと		
第5回 絵本各論（子どもの社会的発達と絵本の関わり）	―各年齢期の子どもの発達と絵本の関係について―	予習：子どもの発達段階を調べる 復習：発達と絵本についてまとめる		
第6回 さまざまなジャンルの絵本（物語の絵本）	―物語を内容とした絵本の特性と、絵と言葉で語る技法について―	予習：物語絵本を探す 復習：物語絵本の特性についてまとめる		
第7回 さまざまなジャンルの絵本（昔話、童話を基にした絵本）	―昔話、童話を題材にした絵本の特性や絵本の質について―	予習：昔話絵本を探す。 復習：昔話や童話の特性についてまとめ		
第8回 さまざまなジャンルの絵本（科学絵本等）	―自然科学、社会科学に関する絵本の特性と活用について―	予習：科学絵本を探す。 復習：科学絵本の魅力と活用についてま		
第9回 絵本と出会う（図書館等での出会い）	―公共図書館の行う児童サービス及び地域の活動について―	予習：公共図書館について調べる 復習：地域の図書館のサービスをレポート		
第10回 絵本を紹介する技術（支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割）	―支援を必要とする人への絵本の提供と意義について―	予習：支援の必要性について知る 復習：絵本を選び、提供方法を考える		
第11回 絵本の世界を広げる技術（絵本を探す技術）	―絵本の情報源や図書館におけるレファレンスサービスについて―	予習：目的を持って絵本を探す 復習：絵本探しについてレポートする		
第12回 絵本の世界を広げる技術（ワークショップ）	―絵本を活用した表現活動について―	予習：絵本を活用したワークショップを知る		
第13回 ホスピタリティに学ぶ（人を楽しませるための技法を学ぼう）	―絵本以外の手法による子どもへのホスピタリティについて―	予習：ホスピタリティを知る 復習：ホスピタリティの方法をレポート		
第14回 絵本の持つ力（さまざまな角度から絵本を見る）	―絵本の持つ力の捉え方、絵本の批評について―	予習：絵本の力について考える 復習：絵本評価のレポートを作成する		
第15回 心に寄り添う絵本（心のケアと絵本の可能性）	―心のケアが求められる場面における絵本活用について―	予習：心のケアをする絵本を探す 復習：ケアについて自分の考えをまとめ		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%（講義内容全般に関する試験を行う）			
小テスト等	30%（事後学習指定レポート等）			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講義は認定絵本士養成講座の指定科目である。講座の規定により出席回数で8割未満となった場合、認定絵本士の資格を与えることはできない。指定された課題が未提出の場合も、資格を与えることができない場合がある。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	随時紹介する			
オフィスアワー	水曜日、木曜日午後	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（音楽）【演習】		開講時期	前期
担当教員	北原 涼子		単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽科における表現及び鑑賞の活動を通して、学習指導要領に示された目標、内容を理解することができるようにする。</li> <li>○音楽的な見方・考え方を働かせ、音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成を目指す授業の在り方について理解を深める。</li> <li>○題材分析をし、児童が自ら思いや意図をもって意欲的に学べるような指導内容を構成し、楽しく音楽活動を行うことができる指導方法を工夫し、学習指導案を作成する。</li> <li>○音楽科の模擬授業をグループで取り組むことを通して、授業実践力を培うことができる。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽科の教育目標を理解して題材の指導計画案を作成することができる。</li> <li>○音楽科指導に関わる指導内容を理解し、題材分析をすることができる。</li> <li>○児童が自ら思いや意図をもって意欲的に学べるような指導内容を構成し、楽しく音楽活動を行うことができる指導方法を工夫し、学習指導案を作成することができる。</li> <li>○グループで協力し、学習指導案を作成し模擬授業を行うことができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	学習指導要領における小学校音楽科の概観と音楽科の目標	学習指導要領の詳読・音楽科目標と内容のまとめ		
第2回	小学校音楽科学習指導の基礎・基本	小学校音楽科学習指導の基礎・基本のまとめ		
第3回	小学校音楽科学習指導案の形式及び作成の仕方、評価の意義	課題及び復習 等		
第4回	音楽科学習指導のあり方・学習指導案の作成①	課題及び復習 等		
第5回	音楽科学習指導のあり方・学習指導案の作成②	課題及び復習 等		
第6回	音楽科学習指導のあり方・学習指導案の作成③	課題及び復習・模擬授業の指導案作成と授業準備		
第7回	音楽科学習指導のあり方・学習指導案の作成④	課題及び復習・模擬授業の指導案作成と授業準備		
第8回	模擬授業と授業の工夫についての協議①（発表・ディスカッション）	模擬授業の指導案作成と授業準備・課題及び復習		
第9回	模擬授業と授業の工夫についての協議②（発表・ディスカッション）	模擬授業の指導案作成と授業準備・課題及び復習		
第10回	模擬授業と授業の工夫についての協議③（発表・ディスカッション）	模擬授業の指導案作成と授業準備・課題及び復習		
第11回	模擬授業と授業の工夫についての協議④（発表・ディスカッション）	模擬授業の指導案作成と授業準備・課題及び復習		
第12回	模擬授業と授業の工夫についての協議⑤（発表・ディスカッション）	模擬授業の指導案作成と授業準備・課題及び復習		
第13回	模擬授業と授業の工夫についての協議⑥（発表・ディスカッション）	模擬授業の指導案作成と授業準備・課題及び復習		
第14回	模擬授業と授業の工夫についての協議⑦（発表・ディスカッション）	模擬授業の指導案作成と授業準備・課題及び復習		
第15回	小学校音楽科学習指導のまとめ・学習指導案（細案）提出	全講義のまとめ		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 学習指導案（細案）の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 模擬授業の内容			
受講態度他	20％ 受講態度、模擬授業及びディスカッション等参加態度、等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽活動の楽しさを自ら実感し、そのよさを味わえるよう授業に参加すること。</li> <li>○自分の思いや意図をもち、グループ討議に積極的に参加し、表現すること。</li> <li>○模擬授業においては、積極的に学習指導案の作成や資料作りに参画し発表すること。</li> </ul>			
教科書	小学校教員養成課程用 『最新 初等科音楽教育法』 2017年告示 「小学校学習指導要領」 準拠 音楽之友社			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に指示する			
オフィスアワー	火曜日5限目（16：30～18：00）	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（国語）【演習】		開講時期	前期
担当教員	稲田 八徳		単位	2
授業の目的と概要	<p>国語を適切に表現し理解する能力を育成するための内容を、小学校学習指導要領に基づいて整理し、系統的な能力形成について理解し、実践的な力をつけることを目的とする。伝え合う力を高め、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てるような授業作りについて理解する。</p> <p>○小学校国語科の授業を計画、実践するために、各領域の授業のあり方について理解する。</p> <p>○国語科授業を構成するための理論、指導方法、教材や言語活動についての研究方法を理解し、学習指導案を作成する。</p> <p>○アクティブラーニングを取り入れた模擬授業を行う。</p>			
到達目標	<p>○学習者である児童理解に基づき、教材研究を行うことができる。</p> <p>○国語科の目標や児童理解の上で、単元の指導計画案を作成する力をつける。</p> <p>○国語科指導に関わる指導内容を理解して、アクティブラーニングを取り入れた学習指導案を作成することができる。</p> <p>○国語科指導に関わる指導方法を理解して、学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。</p> <p>○国語科指導における評価の方法を理解して、評価表を作成したり、模擬授業の中に評価活動を取り入れたりすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初（4）-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>新学習指導要領を基に教材研究の仕方や単元計画作りを学び、少人数得ループで学習指導案を作成して模擬授業を行う。この学習は1年次履修科目「初等国語科概論」で学んだ力を生かし、実践的な力を育成する。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>小学校教員の実務経験あり。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション、国語科の目標と授業、国語科教育の構造 新学習指導要領と現学習指導要領の目標や内容を読み比べ、これからの国語科授業について	予習：新学習指導要領を読む 復習：目標と指導事項をまとめる		
第2回	国語科授業の計画 学力を考慮した国語科授業の計画・学習形態・情報機器の活用はいかにあるべきかを学ぶ。	予習：授業作りについてマッピング 復習：授業作りの基本をまとめる		
第3回	教材研究と教材開発（知識及び技能） 伝統的な言語文化や書写に浮いて学ぶことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫など	予習：配付資料の教材研究 復習：授業作りをまとめる		
第4回	教材研究と教材開発（話すこと・聞くこと） 話すこと・聞くことについて学ぶことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などにつ	予習：単元計画の作成 復習：授業作りをまとめる		
第5回	教材研究と教材開発（書くこと） 書くことについて学ぶことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などについて考える	予習：配付資料の教材研究 復習：授業作りをまとめる		
第6回	教材研究と教材開発（文学的文章） 文学を読むことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などについて考える。	予習：単元計画の作成 復習：授業作りをまとめる		
第7回	教材研究と教材開発（説明的文章） 説明的文章を読むことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などについて考える。	予習：配布資料で授業作り 復習：授業作りをまとめる		
第8回	模擬授業の学習指導案作り 自分の選んだジャンルの教材研究、教材開発、指導案作成をグループで行う。	予習：模擬授業の教材研究 復習：模擬授業の指導案作成		
第9回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第1回 「伝統的な言語文化」グループ	予習：授業準備、配布指導案を読む 復習：模擬授業の評価		
第10回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第2回 「書写」グループ	予習：授業準備、配布指導案を読む 復習：模擬授業の評価		
第11回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第3回 「話すこと・聞くこと」グループ	予習：授業準備、配布指導案を読む 復習：模擬授業の評価		
第12回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第4回 「書くこと」グループ	予習：授業準備、配布指導案を読む 復習：模擬授業の評価		
第13回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第5回 「読むこと（文学的文章）」グループ	予習：授業準備、配布指導案を読む 復習：模擬授業の評価		
第14回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第6回 「読むこと（説明的文章）」グループ	予習：授業準備、配布指導案を読む 復習：模擬授業の評価		
第15回	模擬授業の振り返り、授業のまとめ 自分たちの模擬授業をビデオで振り返り、目標と評価の関連についてまとめる。	予習：模擬授業のVTRを視聴 復習：評価のあり方、学習のまとめ		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 教材研究、模擬授業の学習指導案作成、ミニ課題			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 模擬授業			
受講態度他	20％ 質問、意見発表など積極的な授業参加、グループ活動の様子、			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>本講義のノートを作成してください。</p> <p>予習、復習はノートにまとめてください。</p> <p>模擬授業の学習指導案は、前の週に配布してください。他のグループはそれを読んで模擬授業に参加してください。</p>			
教科書	『新たな時代の学びを創る 小学校国語科教育研究』全国大学国語教育学会編／東洋館出版社／2019年			
指定図書	授業で紹介			
参考図書	アクティブラーニングの授業展開（山元隆春編、東洋館出版）			
オフィスアワー	火曜日午後、水曜日午前	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（算数）【演習】		開講時期	後期
担当教員	石原 努		単位	2
授業の目的と概要	<p>小学校学習指導要領解説「算数編」をもとに、「児童が、数量や図形の基礎的・基本的な知識及び技能の内容を理解するとともに、日常的な事象を数理的に処理する力を楽しく身に付けそれを表現する」という算数科の授業の在り方について理解を深めることを目的とする。</p> <p>また、実際に、算数科の学習目標や内容・指導方法・評価項目等を吟味した学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、授業実践力を高めることを目的とする。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数科の目標を踏まえ、単元の指導計画を作成することができる。</li> <li>算数科の内容を踏まえ、学習指導案を作成することができる。</li> <li>算数科の指導方法を踏まえ、模擬授業をすることができる。</li> <li>模擬授業を通して、算数科の具体的な評価方法や子どもとの関わり方等を工夫することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	本講義の概要説明と学習指導要領における算数科教育の目標・内容	講義内容の復習と、学習指導要領解説の目標部分の熟読		
第2回	数学的活動・問題解決型授業展開・ICT活用等について	数学的活動・問題解決型授業・ICT活用等についてまとめる。		
第3回	算数科の学習指導案の書き方①（単元観・児童観・指導観） 指導をする際の留意点 教材の解釈の仕方 子どものつまずき等	参考資料（指導案）を熟読し、指導案の書き方の流れを理解する。		
第4回	算数科の学習指導案の書き方②（評価規準・学習計画・展開） 前学年とのつながり 各領域のつながり 授業展開等	参考資料（指導案）を熟読し、指導案の書き方の流れを理解する。		
第5回	模擬授業に向けた事前準備① グループワーク等を通して、模擬授業に向けた事前準備を行う。	指導案の作成、教材の作成を行う。		
第6回	模擬授業に向けた事前準備② グループワーク等を通して児童の反応を予想し、最終的な授業構想を行う。	学習展開等を指導案の形式にまとめ、授業の練習をする。		
第7回	数と計算領域（1～3年）の模擬授業と授業に関するディスカッション	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
第8回	数と計算領域（4～6年）の模擬授業と授業に関するディスカッション	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
第9回	図形領域（1～3年）の模擬授業と授業に関するディスカッション	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
第10回	図形領域（4～6年）の模擬授業と授業に関するディスカッション	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
第11回	測定領域の模擬授業と授業に関するディスカッション	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
第12回	変化と関係領域の模擬授業と授業に関するディスカッション	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
第13回	データの活用領域の模擬授業と授業に関するディスカッション	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
第14回	データの活用領域の模擬授業と授業に関するディスカッション	学習構想に関する考察・まとめ		
第15回	算数科教育・授業作りのまとめ 授業づくりについてのポイントをディスカッション等を通して整理する。	指導案の作成・提出準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 学習指導案、レポート等の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	40% 模擬授業等の内容			
受講態度他	10% 指導案検討や模擬授業へ向けた取組の参加態度等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究・指導案作成・模擬授業準備等、グループで協同して作業を進める。</li> <li>指示された内容以外においても、必要に応じて事前準備を行うこと。</li> </ul>			
教科書	小学校指導要領解説 算数編（平成29年6月 文部科学省）			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスアワー	月曜日2限、水曜日2限	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（社会）【演習】		開講時期	後期
担当教員	松本 和寿		単 位	2
授業の目的と概要	<p>『小学校学習指導要領解説（社会編）』に基づき、指導目標や内容、指導方法などを吟味した学習指導案を作成し、模擬授業をすることを通して、社会科指導の基礎的実践力を身に付ける。</p> <p>目的が達成できるよう、実践事例の紹介や解説に学んだ上で、グループごとに学習指導案を作成し模擬授業を行う。なお、この授業は1年次「初等社会科概論」の学習内容を基礎として行う。</p> <p>模擬授業後には、学習指導要領に照らした内容の適切性や児童の意識の流れに即した発問や資料などを視点に毎回班別討議と全体討議を行う。その内容を踏まえて担当教員が助言を行う。（授業内容の下段は助言の視点）</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の目標を理解して単元の指導計画を作成することができる。</li> <li>・社会科の内容を理解して学習指導案を作成することができる。</li> <li>・社会科の指導方法を理解して学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初（3）-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>この科目は1年次の「初等社会科概論」に関連します。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション・学習指導要領における小学校社会科の目標と内容	1年次科目「初等社会科概論」を復習しておく。		
第2回	学習指導要領における小学校社会科の学年の目標と内容	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章を熟読しておく。		
第3回	社会科の単元構成と問題解決的学習、授業の構成と発展的学習	『小学校学習指導要領解説社会編』第3章を熟読しておく。		
第4回	模擬授業の準備（子どもの認識や思考の流れと情報機器・資料とのかかわり）	教材研究、指導案作成、資料作成をしておく。		
第5回	模擬授業の準備（学習指導案における指導上の留意点と評価を踏まえた個へのかかわり方）	教材研究、指導案作成、資料作成をしておく。（継続）		
第6回	模擬授業の準備（教材研究の視点、学習指導案の構成と記述の留意点）	教材研究、指導案作成、資料作成（模擬授業指導案提出）		
第7回	模擬授業①と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・指導要領との内容の整合性 ・資料の妥当性	模擬授業参加の視点についてまとめておく。		
第8回	模擬授業②と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・発問 ・机間指導	模擬授業を参観し気づいたことをまとめておく。		
第9回	模擬授業③と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・板書 ・話し合いの設定	模擬授業（参観）の振り返り		
第10回	模擬授業④と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・児童の意識の流れに即した資料提示 ・児童の発言への対応	模擬授業を参観し気づいたことをまとめておく。		
第11回	模擬授業⑤と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・視聴覚機器の活用	模擬授業を参観し気づいたことをまとめておく。		
第12回	模擬授業⑥と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）	個人指導案作成（最終提出用）		
第13回	模擬授業⑦と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言） 1単元1サイクルの授業展開	個人指導案作成（最終提出用）（継続）		
第14回	模擬授業⑧と振り返り【模擬授業及び討議】（1. 授業者のコメント 2. 班別討議 3. 全体討議 4. 担当教員の助言）・形成的評価の方法	個人指導案作成（最終提出用）（継続）		
第15回	模擬授業⑨と振り返り【模擬授業及び討議】（模擬授業全体の総括 個人指導案提出）・授業計画立案と教材研究のポイント	個人指導案（最終提出用）を完成させておく。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%（個人で記述した指導案の内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	30%（模擬授業の内容）			
受講態度他	20%（討論への参加）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。			
教科書	正当な理由なく欠席しないこと。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み	メールアドレス		



授業科目	初等教科教育法（図画工作）【演習】		開講時期	前期
担当教員	納屋 亮		単位	2
授業の目的と概要	<p>図画工作科における表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうことができるようにするための内容を学習指導要領に基づいて理解することを目的とする。また、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことができるような授業を構成するために、学習目標を立て、学習内容を構成し、楽しく学べるような指導方法を設定し、一人ひとりの子どもが学習で身につけた内容を評価ができるような指導計画を作成し、模擬授業などができるようにする。</p> <p>また、模擬授業の内容についてディスカッションし、より良い授業のあり方について検討するとともに、それを受けて改善計画</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>図画工作科の教育目標を理解して、題材全体の指導計画案を作成することができる。</li> <li>図画工作科指導に関わる指導内容を理解して、学習指導案を作成することができる。</li> <li>図画工作科指導に関わる指導方法を理解して、学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。</li> <li>図画工作科指導における評価方法を理解して評価表を作成したり、模擬授業の中に評価活動取り入れたりすることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初(1)-③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」  初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	小学校学習指導要領(図画工作科)の目標と内容構成	予習：学習指導要領の目標及び内容構成の振り返り		
第2回	A表現領域及びB鑑賞領域の内容と教科書との関連	予習：教科書題材の分野別分類と教材研究のポイント調査		
第3回	図画工作科学習指導の実際と学習指導案作成の重点	予習：模擬授業題材の絞り込み		
第4回	模擬授業の構想と学習指導案の作成	指導案構想、参考作品製作		
第5回	模擬授業の学習指導案と提示資料の作成	指導案作成、教材製作		
第6回	模擬授業①「第1学年及び第2学年の絵に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第7回	模擬授業②「第3学年及び第4学年の絵に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第8回	模擬授業③「第5学年及び第6学年の絵に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第9回	模擬授業④「第1学年及び第2学年の立体に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第10回	模擬授業⑤「第3学年及び第4学年の立体に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第11回	模擬授業⑥「第5学年及び第6学年の立体に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第12回	模擬授業⑦「第1学年及び第2学年の工作に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第13回	模擬授業⑧「第3学年及び第4学年の工作に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第14回	模擬授業⑨「第5学年及び第6学年の工作に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第15回	評価活動を取り入れた授業改善の工夫と講義のまとめ	指導細案、板書計画、ワークシートの作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 題材全体を通じた学習指導案(細案)の作成			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 模擬授業の内容			
受講態度他	20% 授業・ディスカッションへの参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>模擬授業においては、積極的に学習指導案の作成や資料づくりに参画すること。</li> <li>他のグループが行う模擬授業後のディスカッションに積極的に参加し、改善策を提案すること。</li> </ul>			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説(図画工作編)』日本文教出版			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	阿部 宏行『いっしょに考えよう 図工のABC』日本文教出版			
オフィスワーカー	月曜日④⑤限	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（図画工作）【演習】		開講時期	後期
担当教員	納屋 亮		単位	2
授業の目的と概要	<p>図画工作科における表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうことができるようにするための内容を学習指導要領に基づいて理解することを目的とする。また、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことができるような授業を構成するために、学習目標を立て、学習内容を構成し、楽しく学べるような指導方法を設定し、一人ひとりの子どもが学習で身につけた内容を評価ができるような指導計画を作成し、模擬授業などができるようにする。</p> <p>また、模擬授業の内容についてディスカッションし、より良い授業のあり方について検討するとともに、それを受けて改善計画</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>図画工作科の教育目標を理解して、題材全体の指導計画案を作成することができる。</li> <li>図画工作科指導に関わる指導内容を理解して、学習指導案を作成することができる。</li> <li>図画工作科指導に関わる指導方法を理解して、学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。</li> <li>図画工作科指導における評価方法を理解して評価表を作成したり、模擬授業の中に評価活動取り入れたりすることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初（1）-③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」  初（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	小学校学習指導要領(図画工作科)の目標と内容構成	予習：学習指導要領の目標及び内容構成の振り返り		
第2回	A表現領域及びB鑑賞領域の内容と教科書との関連	予習：教科書題材の分野別分類と教材研究のポイント調査		
第3回	図画工作科学習指導の実際と学習指導案作成の重点	予習：模擬授業題材の絞り込み		
第4回	模擬授業のグループ編成と学習指導案の作成	指導案作成、教材製作		
第5回	模擬授業①「第1学年及び第2学年の絵に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第6回	模擬授業②「第3学年及び第4学年の絵に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第7回	模擬授業③「第5学年及び第6学年の絵に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第8回	模擬授業④「第1学年及び第2学年の立体に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第9回	模擬授業⑤「第3学年及び第4学年の立体に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第10回	模擬授業⑥「第5学年及び第6学年の立体に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第11回	模擬授業⑦「第1学年及び第2学年の工作に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第12回	模擬授業⑧「第3学年及び第4学年の工作に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第13回	模擬授業⑨「第5学年及び第6学年の工作に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第14回	模擬授業⑩「第1学年及び第2学年の造形遊び題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。	指導案作成、教材製作		
第15回	評価活動を取り入れた授業改善の工夫と講義のまとめ	指導細案、板書計画、ワークシートの作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 題材全体を通じた学習指導案（細案）の作成			
小テスト等	10％ 模擬授業の評価			
成果発表	30％ 模擬授業の内容			
受講態度他	10％ グループ活動への参画度、ディスカッションへの参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>模擬授業においては、グループで役割を分担して積極的に学習指導案の作成や資料づくりに参画すること。</li> <li>他のグループが行う模擬授業後のディスカッションに積極的に参加し、改善策を提案すること。</li> </ul>			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』日本文教出版			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	阿部 宏行『いっしょに考えよう 図工のABC』日本文教出版			
オフィスワーカー	火曜日①②限	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（生活）【演習】		開講時期	後期
担当教員	山本 尚史		単位	2
授業の目的と概要	<p>具体的な授業場面を想定した授業設計と学習指導案の作成、模擬授業の実施を行うことができるようになることを目的とする。授業は、小学校学習指導要領解説生活科の振り返り、教材研究、学習指導案作成、模擬授業の実施と授業研究から成る。</p>			
到達目標	<p>1, 子どもの認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性学び、実践することができる。  2, 生活科の特性に応じた教材及び情報機器の効果的な活用法を説明することができ、授業設計に活用することができる。  3, 学習指導案の構成を説明することができ、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。  4, 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を説明することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション。小学校学習指導要領解説生活編の振り返り、学習指導案の構成と考え方	復習（小学校学習指導要領生活編を再確認する）		
第2回	入学当初の生活科を核とした単元計画と学習指導案（情報機器の扱いを含む）	復習（教科書P57-70）		
第3回	家族のよさへの気付きの質の高まりをめざす単元計画と学習指導案（情報機器の扱いを含む）	復習（教科書P71-84）		
第4回	地域のよさへの気付きの質の高まりをめざす単元計画と学習指導案（情報機器の扱いを含む）	復習（教科書P85-96）		
第5回	公共物や公共施設の利用への気付きの質の高まりをめざす単元計画と学習指導案（情報機器の扱いを含む）	復習（教科書P97-109）		
第6回	自然への気付きの質の高まりをめざす単元計画と学習指導案（情報機器の扱いを含む）	復習（教科書P111-121）		
第7回	自然のおもしろさや不思議さに気付くことができる単元計画と学習指導案（情報機器の扱いを含む）	復習（教科書P123-135）		
第8回	アサガオへの気付きの質の高まりをめざす単元計画と学習指導案（情報機器の扱いを含む）	復習（教科書P137-148）		
第9回	「生活やできごとの交流」を軸とした「町探検」の単元計画と学習指導案（情報機器の扱いを含む）	復習（教科書P149-161）		
第10回	自分の成長を振り返る単元計画と学習指導案（情報機器の扱いを含む）	復習（教科書P163-175）/レポート		
第11回	「学校と生活」に関する模擬授業	グループ活動（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第12回	「地域と生活」に関する模擬授業と授業研究	グループ活動（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第13回	「公共物や公共施設の利用」に関する模擬授業と授業研究	グループ活動（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第14回	「自然や物を使った遊び」に関する模擬授業と授業研究	グループ活動（模擬授業の改善の検討）/レポート		
第15回	模擬授業の総括、授業のまとめ	復習（模擬授業の改善）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	50%。学習指導案、教材研究等に関するレポート			
小テスト等	なし。			
成果発表	50%。模擬授業。			
受講態度他	なし。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>私語は厳禁。教員になれば様々な場面で自分の意見を述べるのが求められます。正しい答えはなかなかありません。授業においても積極的に自らの考えを述べてください。  欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。</p>			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』、吉田武男監修、片平克弘・唐木清志編著『初等生活科教育』ミネルヴァ書房（2018）			
指定図書	なし。			
参考図書	授業内容に応じて適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日3限	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（体育）【演習】		開講時期	前期
担当教員	宮平 喬		単 位	2
授業の目的と概要	この授業では、新学習指導要領に基づいて体育科の内容を理解するとともに、体育授業運営の指導技術を得ることを目的とする。 具体的には、学習目標を立て、学習内容を構成し、楽しく且つ、規範性を学べるような指導方法を設定し、一人ひとりの子どもが学習で身につけた内容を評価ができるような指導計画案を作成し、模擬授業を通して体育科領域の実践的能力を身につける。加えて、学校教育における体育の変遷を理解し、身体の発育・発達や運動能力にかかわる子どもたちの実態を把握しながら、体育科の役割を理解することも目的としている。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科の教育目標を理解して単元の指導計画案やワークシートを作成することができる。</li> <li>・体育領域に関わる指導内容を理解して学習指導案を作成することができる。</li> <li>・体育領域に関わる指導方法を理解して模擬授業をすることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初（2）-①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 初（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション（授業の目的、到達目標、班分け等）	新学習指導要領における「体育科の目標」を調べる（予習）		
第2回	小学校体育教育の歴史と体育科の意義及び学習指導要領における体育科の目標	体育教育の歴史の変遷、体育科ができた背景をまとめる（復習）		
第3回	子どもの健康・体力の現状と課題及び体育の指導法 教材の工夫と情報機器の活用	子どもの健康・体力に対するデータ収集する（予習）		
第4回	第1学年及び第2学年の目標・内容についての理解と評価	低学年における体育の目標と内容について調べる（予習）		
第5回	学習指導案に基づいた模擬授業（第1学年及び第2学年） 鬼遊び 歩・走の運動遊び等	体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を立てる（予習）		
第6回	学習指導案に基づいた模擬授業（第1学年及び第2学年） ボールゲーム、走・跳の運動遊び等	体育指導書等を参考に担当する模擬授業の内容を深める（予習）		
第7回	第3学年及び第4学年の目標・内容についての理解及び模擬授業の反省と課題の抽出	中学年における体育の目標と内容について調べる（予習）		
第8回	新学習指導案に基づいた模擬授業（第3学年及び第4学年） マット運動、鉄棒運動等	体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を立てる（予習）		
第9回	学習指導案に基づいた模擬授業（第3学年及び第4学年） 表現・リズムダンス	体育指導書等を参考に担当する模擬授業の内容を深める（予習）		
第10回	第5学年及び第6学年の目標・内容についての理解及び模擬授業の反省と課題の抽出	高学年における体育の目標と内容について調べる（予習）		
第11回	新学習指導案に基づいた模擬授業（第5学年及び第6学年） ハードル走、走り高跳び	体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を立てる（予習）		
第12回	新学習指導案に基づいた模擬授業（第5学年及び第6学年） 跳び箱、鉄棒運動等	体育指導書等を参考に担当する模擬授業の内容を深める（予習）		
第13回	保健領域の目標と内容についての理解及び模擬授業の反省と課題の抽出	保健領域授業に関する目標を調べる（予習）		
第14回	学習指導案に基づいた模擬授業（保健）	保健の模擬授業から得た知見を整理する（予習）		
第15回	模擬授業の反省と課題の抽出、授業総括、授業評価	体育科教育の意義について再検証する（復習）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	% なし			
レポート	60% 学習指導案の提出（実技用30% 講義用30%） 提出した指導案は添削し返却する。			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	40% 授業態度の悪い学生は10%～50%減点する 2回連続の遅刻は反省文を課す。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	質問等があれば、事前にメールで知らせてください。			
教科書	文部科学省 『小学校学習指導要領解説 体育編』 東洋館出版社			
指定図書	特になし			
参考図書	戸田芳雄 『新しい保健』東京書籍 細江文利（編）「体育の学習」公文書院			
オフィスアワー	月曜日12:20-13:10	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（理科）【演習】		開講時期	前期
担当教員	平山 静男		単 位	2
授業の目的と概要	<p>様々な学習指導理論を踏まえて 具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができるようになることを目的とする。あわせて、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるようになることを目的とする。</p> <p>授業は、学習指導要領解説の振り返り、授業設計の考え方と学習指導案の構成・作成、教材研究、模擬授業と授業研究から成る。</p>			
到達目標	<p>1、子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を説明することができる。</p> <p>2、理科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を説明できるとともに、授業設計に活用することができる。</p> <p>3、学習指導案の構成を把握し、具体的な授業設計と学習指導案を作成することができる。</p> <p>4、模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を説明することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は中学校理科教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連する科目は初等理科概論、初等生活科概論です。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション。グループ編成、模擬授業単元の検討	グループワーク：教材研究、模擬授業の準備、学習指導案の作成		
第2回	教科書の読み取り、単元展開	グループワーク：教材研究、模擬授業の準備、学習指導案の作成		
第3回	教科書指導書の読み取り、評価の方法、学習指導案の作成	グループワーク：教材研究、模擬授業の準備、学習指導案の作成		
第4回	評価の方法	グループワーク：教材研究、模擬授業の準備、学習指導案の作成		
第5回	学習指導案の作成	グループワーク：教材研究、模擬授業の準備、学習指導案の作成		
第6回	模擬授業の検討	グループワーク：教材研究と模擬授業準備、学習指導案の作成		
第7回	第3学年A領域の模擬授業とディスカッション	グループワーク：教材研究と模擬授業準備、学習指導案の作成		
第8回	第3学年B領域の模擬授業とディスカッション	グループワーク：教材研究と模擬授業準備、学習指導案の作成		
第9回	第4学年A領域の模擬授業とディスカッション	グループワーク：教材研究と模擬授業準備、学習指導案の作成		
第10回	第4学年B領域の模擬授業とディスカッション	グループワーク：教材研究と模擬授業準備、学習指導案の作成		
第11回	第5学年A領域の模擬授業とディスカッション	グループワーク：教材研究と模擬授業準備、学習指導案の作成		
第12回	第5学年B領域の模擬授業とディスカッション	グループワーク：教材研究、模擬授業準備、学習指導案の作成		
第13回	第6学年A領域の模擬授業とディスカッション	グループワーク：教材研究、模擬授業準備、学習指導案の作成		
第14回	第6学年B領域の模擬授業とディスカッション	復習：模擬授業の改善		
第15回	授業改善の視点、授業のまとめ	復習：授業改善の視点についての振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	80％。課題5回分。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	20％。授業に臨む意欲的な態度など積極的な受講態度について、質問や意見発表により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。			
教科書	「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編」 文部科学省 東洋館出版社			
指定図書	なし。			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワー	月曜日3限目。	メールアドレス		

授業科目	初等国語科概論【講義】		開講時期	前期
担当教員	稲田 八徳		単 位	2
授業の目的と概要	<p>幼児期における言葉についての感覚や表現力、小学校国語科教育における目標、内容について理解する。「幼稚園教育要領」および「小学校学習指導要領 国語編」に基づき、教科内容を系統的に理解し、説明できるようになることを目的とする。さらに、自分たちの分担課題について主体的に調べ、グループで協働的に発表することを通して、初等国語科の教育内容にかかわる知識のさらなる習得、教員としての能力を身に付けることを目指す。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼児期から児童期の言葉の発達を理解し、言葉に対する感覚や表現について概要を説明することができる。</li> <li>○ 小学校国語科の内容について基礎的な知識を身に付け、系統的な指導法の必要性を説明することができる。</li> <li>○ 日本文学史の概要および代表的な作品について説明することができる。</li> <li>○ 毛筆と硬筆による「書写」指導の内容について理解し、自身の書写の基礎的技能を高めることができる。</li> <li>○ 言語を用いた種々の表現活動をグループで協働的に創造し、発表することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第 1 回	オリエンテーション、人間と言葉	復習： 言葉の機能や働きについてまとめる。		
第 2 回	言葉と生活（方言、外来語、流行語） 選んだ言葉で詩を書き換える（グループ活動）	予習： 配付資料を読む 復習： 生活と言葉についてまとめる		
第 3 回	国語辞典と漢和辞典	復習： 時代と言葉について考えをまとめる		
第 4 回	言語活動①（絵本の読み聞かせをグループ内で行う）	予習： 読み聞かせの思い出を書く 復習： 思い出の絵本を再読する		
第 5 回	言語活動②（音読・朗読をグループで発表する）	予習： 課題の音読練習をする。 復習： 音読、朗読についてまとめる。		
第 6 回	言語活動③（詩、短歌、俳句） グループ活動で句会をする	予習： 詩、短歌、俳句を創作する 復習： それぞれの良さをまとめる。		
第 7 回	日本の文学①（上代～中世） グループでブックトークをする。	予習： 提示された時代の文学作品を探す		
第 8 回	日本の文学②（近世～現代） ブックトークをする。	予習： 提示された時代の文学作品を探す		
第 9 回	「話すこと・聞くこと」の指導について	予習： 「小学校学習指導要領解説国語編」を読む。		
第10回	「書くこと」の指導について	予習： 「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む		
第11回	「読むこと」の指導について	予習： 「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む		
第12回	「伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項」の指導について	予習： 「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む		
第13回	書体の種類：書写①（毛筆による楷書）	予習： 「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む		
第14回	書体の種類：書写②（硬筆）	予習： 「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む		
第15回	言語活動における交流活動についてグループ討議をする。 学修のまとめ	復習： 交流活動の意義について 授業個人評価		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	課題中に出されたミニレポート30% 最終のレポート50%			
小テスト等	なし			
成果発表	10% リモートでのグループ発表			
受講態度他	10% 質問、意見発表など積極的な授業参加を求める。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ミニ課題は一週間以内に提出してください。			
教科書	小学校学習指導要領解説（国語編）（初等コースのみ） 幼稚園教育要領（幼保コースのみ）			
指定図書	なし			
参考図書	授業の際に適時指示します。			
オフィスアワー	火曜日、木曜日午後	メールアドレス		

授業科目	初等算数科概論【講義】		開講時期	前期
担当教員	石原 努		単位	2
授業の目的と概要	<p>幼稚園教育要領、及び、小学校学習指導要領解説「算数編」の目標・内容（A数と計算、B図形、C測定、変化と関係、Dデータの活用）・数学的活動等を踏まえ、幼児期から児童期における、数量や図形に対する関心や数学的なものの方や考え方等の特徴を理解することを目的とする。</p> <p>また、各学年における内容（A～Dの4領域）の系統性や数学的活動の意義を理解し、それに関する基礎的な理論や知識を習得することを目的とする。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期から児童期における数に対する関心や数学的なものの方や考え方等の特徴について説明することができる。</li> <li>・4領域（A数と計算、B図形、C測定・変化と関係、Dデータの活用）の内容、及び、系統性に関する基礎的な理論を説明することができる。</li> <li>・各領域における数学的活動について列挙することができる。</li> <li>・算数科に関する基本的な概念や用語等を踏まえ、的確に用いることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
1	本講義の概要、及び、幼児期における数量や図形に対する関心	講義内容を復習し、幼児期の数に対する関心・見方等の特徴をまとめる。		
2	小学校算数科の目標・内容・数学的活動	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（P14～17）を熟読する。		
3	A数と計算①（整数・小数・分数の概念・表記）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。		
4	A数と計算②（整数とその計算）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。		
5	A数と計算③（小数と分数とその計算）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。		
6	A数と計算④（見積り・概算）	第3～6回の講義内容を復習し、数と計算領域の系統性をまとめる。		
7	B図形①（図形の概念形成・作図）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（B領域）を熟読する。		
8	B図形②（面積・体積）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（B領域）を熟読する。		
9	B図形③（拡大・縮図・対称・単位変換）	第7～9回の講義内容を復習し、B領域の系統性をまとめる。		
10	C測定（長さやかさ等）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（C領域）を熟読する。		
11	C変化と関係①（折れ線グラフ等）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（C領域）を熟読する。		
12	C変化と関係②（伴って変わる2量の関係・比例・比等）	第10～12回の講義内容を復習し、C領域の系統性をまとめる。		
13	Dデータの活用①（データの分類整理等）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（D領域）を熟読する。		
14	Dデータの活用②（統計・平均等）	第13～14回の講義内容を復習し、数量関係領域の系統性をまとめる。		
15	算数科概論のまとめ	第1回講義内容～第14回講義内容についてまとめる。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 各領域（A～D）の系統性をまとめ、4回提出（Formsの課題）する。			
小テスト等	10%毎回のFormsの課題			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちのよい履修態度で臨むこと。</li> <li>・指示された内容がある場合は、必ず、予習・復習をすること。</li> </ul>			
教科書	文部科学省 『小学校学習指導要領解説（算数編）』 東洋館出版社			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスアワー	月曜日2限、水曜日2限	メールアドレス		

授業科目	初等社会科概論【講義】		開講時期	前期
担当教員	松本 和寿		単位	2
授業の目的と概要	<p>小学校社会科について、その性格と歴史、学習指導要領に基づく目標と内容の取り扱いを理解するとともに、小学校社会科の内容について基礎的な理論および知識を習得することを目的とする。</p> <p>『小学校学習指導要領解説社会編』に基づき社会科の目標や内容、指導計画作成上の留意点などに関する講義を行う。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校社会科の成立過程、変遷、目標、内容について述べるができる。</li> <li>・ 小学校社会科の学習内容について基礎的理論および知識について説明することができる。</li> <li>・ 社会を取り巻く諸問題について国土および国際的視点から興味・関心を持ち、述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>この科目は1年次の「初等教科教育法（社会）」に関連します。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	教育課程編成の必要性（教育基本法、学校教育法等を踏まえて）【討論】	小学生のときに受けた社会科授業を早期し説明する準備をする。		
第2回	社会科の目標と学年の目標	『小学校学習指導要領解説社会編』第1章を熟読しておく。		
第3回	3・4年生の目標と内容①（身近な地域、地域の生産や販売等）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（3・4年）を熟読しておく。		
第4回	3・4年生の目標と内容②（地域の安全を守る諸活動、地域の発展に尽くした人々等）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（3・4年）を熟読しておく。		
第5回	5年生の目標と内容①（我が国の国土の様子と国民生活との関連）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（5年）を熟読しておく。		
第6回	5年生の目標と内容②（我が国の農業や水産業の様子と国民生活との関連）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（5年）を熟読しておく。		
第7回	5年生の目標と内容③（我が国の工業の様子と国民生活との関連）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（5年）を熟読しておく。		
第8回	5年生の目標と内容④（我が国情報産業などの様子と国民生活との関連）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（5年）を熟読しておく。		
第9回	6年生の目標と内容①（我が国の歴史上の主な事象①縄文～奈良・平安）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（6年）を熟読しておく。		
第10回	6年生の目標と内容②（我が国の歴史上の主な事象②鎌倉・室町・江戸）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（6年）を熟読しておく。		
第11回	6年生の目標と内容③（我が国の歴史上の主な事象③明治・大正・昭和）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（6年）を熟読しておく。		
第12回	6年生の目標と内容④（我が国の政治の働き、日本国憲法の考え方）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（6年）を熟読しておく。		
第13回	6年生の目標と内容⑤（我が国とつながりの深い国の人々の生活、国際社会における我が国の役割）	『小学校学習指導要領解説社会編』第2章（3・4年）を熟読しておく。		
第14回	社会科で身に付ける学力とは（評価の観点）	『小学校学習指導要領解説社会編』第1章と第3章を熟読しておく。		
第15回	まとめ（社会科の指導計画作成上の留意点）【討論】	社会科指導で大切なことについて考え発表準備をしておく。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60%			
小テスト等	30%			
成果発表	なし。			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説（社会編）』東洋館出版社			
指定図書	指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み	メールアドレス		



授業科目	初等生活科概論【講義】		開講時期	後期
担当教員	山本 尚史		単位	2
授業の目的と概要	<p>生活科において育まれることを目指す資質・能力を説明できるようになることを目的とする。あわせて、学習指導要領に示された生活科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて説明できるようになることを目的とする。</p> <p>授業は、改訂の経緯及び基本方針、生活科改訂の趣旨及び要点、教科目標、学年の目標、内容構成の考え方とその内容、指導計画の作成と内容の取扱い、指導計画の作成と学習指導から成り、生活科教育、生活科の授業を行うための基礎的・基本的な内容を学ぶ。</p>			
到達目標	<p>1, 学習指導要領における生活科の目標及び主な内容並びに全体構造を説明することができる。</p> <p>2, 個別の学習内容について指導上の留意点を説明することができる。</p> <p>3, 生活科の学習評価の考え方を説明することができる。</p> <p>4, 生活科と背景となる学問領域との関係を説明することができ、教材研究に活用することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション。生活科教育を思い出す	予習 (各自が受けてきた生活科を振り返る)		
第2回	生活科改訂の趣旨及び要点	復習 (教科書P13-19)		
第3回	教科目標の構成、教科目標の趣旨、資質・能力の三つの柱としての目標の趣旨	復習 (教科書P3-19)		
第4回	学年の目標	復習 (教科書P9-12)		
第5回	内容構成の考え方	復習 (教科書P21-22)		
第6回	生活科の内容	復習 (教科書P23-26)		
第7回	指導計画作成上の配慮事項 (情報機器の扱いを含む)	復習 (教科書P31-43)		
第8回	内容の取扱いについての配慮事項	復習 (配布資料)		
第9回	生活科における指導計画と学習指導の基本的な考え方、小テスト	復習 (配布資料)		
第10回	生活科における年間指導計画の作成	復習 (教科書P34-38)		
第11回	単元計画の作成	復習 (教科書P38-43)		
第12回	学習評価の在り方	復習 (教科書P45-49)		
第13回	学習指導の進め方：試行錯誤、交流する場	復習 (教科書P49-54)		
第14回	学習指導の進め方：表現する機会、豊かな学び	復習 (教科書P49-54)、レポート作成		
第15回	授業のまとめ	復習 (学習指導要領の理解深化)		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	100% (ミニレポート、講義で扱ったテーマに関するレポート。)			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	なし。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>私語は厳禁。教員になれば様々な場面で自分の意見を述べるのが求められます。正しい答えはなかなかありません。授業においても積極的に自らの考えを述べてください。</p> <p>欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。</p>			
教科書	吉田武男監修、片平克弘・唐木清志編著『初等生活科教育』ミネルヴァ書房 (2018)			
指定図書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』			
参考図書	授業内容に応じて適宜紹介する。			
オフィスワー	火曜日3限	メールアドレス		

授業科目	初等理科概論【講義】		開講時期	後期
担当教員	平山 静男		単 位	2
授業の目的と概要	<p>理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を説明することができようになることを目的とする。あわせて、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて説明することができるようになることを目的とする。</p> <p>授業は、理科の改訂の経緯及び基本方針、理科改訂の趣旨及び要点、理科の目標及び内容、各学年の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取り扱いから成る。</p>			
到達目標	<p>1, 学習指導要領における理科の目標及び主な内容並びに全体構造を説明することができる。</p> <p>2, 個別の学習内容について指導上の留意点を説明することができる。</p> <p>3, 理科の学習評価の考え方を説明することができる。</p> <p>4, 理科と背景となる学問領域との関係を説明することができ、教材研究に活用することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は中学校理科教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連する科目は初等教科教育法（理科）です。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション。改訂の経緯及び基本方針	復習：基本方針を中心とした振り返り		
第2回	理科改訂の趣旨、理科改訂の要点	復習：改訂の要点を中心とした振り返り		
第3回	教科の目標	復習：理科の目標についての振り返り		
第4回	理科の内容構成、学年目標と学年内容の構成の考え方	復習：理科の内容構成、学年目標と学年内容の構成の考え方の振り返り		
第5回	第3学年の目標	復習：第3学年の目標についての振り返り		
第6回	第3学年の内容	復習：第3学年の内容についての振り返り		
第7回	第4学年の目標	復習：第4学年の目標についての振り返り		
第8回	第4学年の内容	復習：第4学年の内容についての振り返り		
第9回	第5学年の目標	復習：第5学年の目標についての振り返り		
第10回	第5学年の内容	復習：第5学年の内容についての振り返り		
第11回	第6学年の目標	復習：第6学年の目標についての振り返り		
第12回	第6学年の内容	復習：第6学年の内容についての振り返り		
第13回	指導計画作成上の配慮事項	復習：指導計画作成上の配慮事項についての振り返り		
第14回	内容の取り扱いについての配慮事項	内容の取り扱いについての配慮事項についての振り返り		
第15回	事故防止、薬品などの管理、授業のまとめ	復習：事故防止、薬品などの管理についての振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	70%。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	30%。授業に臨む意欲や受講態度について、主として意見発表や質問などにより評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社			
指定図書	なし。			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワー	月曜日3限目。	メールアドレス		

授業科目	書道・書道史Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	川上 貴子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>中学校国語科書写では「文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てること」を目標としています。本科目では、中学校で書写を教えるための知識や技能を習得することを目的とします。知識面では、書写の学習指導や手書きすることの意義および書写の歴史（書道史）について学び、技能面では、漢字・平仮名・片仮名の特徴や基本点画について習得します。また実用的な書として、原稿用紙や封筒・はがきの書き方などにも取り組み、目的や必要に応じた書き方を身につけます。</p>			
到達目標	<p>①中学校書写教育の概要について理解する。  ②書写のねらいである「文字を正しく・整えて・速く 書く」技能を習得する。  ③実用的な書の書き方を学び、生活に役立てる。  ④手書き文字の形成背景および文化を理解する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。  &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		テキスト4～5ページ	
第2回	言語文化と文字文化		テキスト22ページ	
第3回	文字の歴史(1)		テキスト23～24ページ	
第4回	文字の歴史(2)		テキスト23～24ページ	
第5回	文字の歴史(3)		テキスト23～24ページ	
第6回	書写における字体と字形		テキスト25ページ	
第7回	筆記具等と姿勢・執筆		テキスト26ページ～31ページ	
第8回	平仮名・片仮名		テキスト32ページ～33ページ	
第9回	平仮名・片仮名-楷書に調和する平仮名-		テキスト34ページ～35ページ	
第10回	平仮名・片仮名-楷書に調和する片仮名-		テキスト36ページ～37ページ	
第11回	楷書の特徴		テキスト38ページ～43ページ	
第12回	字形―筆順―		テキスト44ページ～45ページ	
第13回	字形―点画の長短 画と画の間―		テキスト46ページ～47ページ	
第14回	字形―点画の方向―		テキスト48ページ～49ページ	
第15回	字形―点画の接し方―		テキスト50ページ～51ページ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 毎回の課題、作品で評価します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業の出欠については、期間内の課題提出をもって出席とします。欠席が授業回数の1/3(5回)を超えた場合、無資格となり単位取得はできません。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	30分以上の遅刻2回は欠席1回とします。(対面授業の場合) 用具用材は必ず準備すること。 教科書を購入しなければ受講はできません。(5月半ば以降) テキストの該当箇所は事前に読んでおくこと。(5月まで筑女ネットに添付します) 上記授業計画は、状況に応じて変更する可能性があります。			
教科書	全国大学書写書道教育学会編『国語科書写の理論と実践』 萱原書房 令和2年3月発行 江守賢治『筆順のすべて』 日本習字普及協会			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後に相談して下さい		メールアドレス	

授業科目	書道・書道史Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	川上 貴子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>中学校国語科書写では「文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てること」を目標としています。本科目では、中学校で書写を教えるための知識や技能を習得することを目的とします。書道・書道史Ⅰに続き本科目では、技能面を中心として漢字・平仮名・片仮名の特徴や基本点画について習得します。また実用的な書として、手紙・レポート用紙の書き方などにも取り組み、目的や必要に応じた書き方を身につけます。</p>			
到達目標	<p>①中学校書写教育の概要について理解する。  ②書写のねらいである「文字を正しく・整えて・速く 書く」技能を習得する。  ③実用的な書の書き方を学び、生活に役立てる。  ④手書き文字の形成背景および文化を理解する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。  &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 楷書	字形一点画の交わり方ー	テキスト52ページ～53ページ		
第2回 楷書	字形ー「左右」から成る文字の組立て方ー	テキスト54ページ～55ページ		
第3回 楷書	字形ー「上下」から成る文字の組立て方ー	テキスト56ページ～57ページ		
第4回 楷書	字形ー「内外」から成る文字の組立て方ー	テキスト58ページ～59ページ		
第5回 楷書	字形ー文字の大きさと配列①楷書/点画のつながりー	テキスト60ページ～63ページ		
第6回 行書	(1) 行書指導の基本的な考え方 (2) 行書の特徴ー点画の丸み/点画の方向や形の変化①ー	テキスト64ページ～65ページ		
第7回	(2) 行書の特徴ー点画の丸み/点画の方向や形の変化②ー	テキスト66ページ～67ページ		
第8回	(2) 行書の特徴ー点画の連続①②ー	テキスト68ページ～70ページ		
第9回	(2) 行書の特徴ー点画の省略 筆順の変化ー	テキスト71ページ～73ページ		
第10回	(2) 行書の特徴ー行書に調和する仮名ー	テキスト74ページ～75ページ		
第11回	(2) 行書の特徴ー文字の大きさと配列②行書ー	テキスト76ページ～77ページ		
第12回	(2) 行書の特徴ー実用書式 ①和封筒 ②はがきー	テキスト78ページ～79ページ		
第13回	(2) 行書の特徴ー実用書式 ③手紙文ー	テキスト80ページ		
第14回	(2) 行書の特徴ー実用書式 ④原稿用紙ー	テキスト81ページ		
第15回	(2) 行書の特徴ー行事に生かすー	テキスト82ページ～83ページ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 毎回の課題、作品で評価します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業の出欠については、期間内の課題提出をもって出席とします。欠席が授業回数の1/3(5回)を超えた場合、無資格となり単位取得はできません。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	30分以上の遅刻2回は欠席1回とします。(対面授業の場合) 用具用材は必ず準備すること。 教科書を購入しなければ受講はできません。 テキストの該当箇所は事前に読んでおくこと。 上記授業計画は、状況に応じて変更する可能性があります。			
教科書	全国大学書写書道教育学会編『国語科書写の理論と実践』 萱原書房 令和2年3月発行 江守賢治『筆順のすべて』 日本習字普及協会			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後に相談して下さい	メールアドレス		

授業科目	視覚障がい者の心理と教育【講義】		開講時期	前期
担当教員	中野 桂子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>視覚障害は主として臨床医学上の疾患によるものであるから、感覚の生理・病理の観点から視覚の機能を明らかにする。また、この障害は、文字の読解に支障をきたすので、治癒可能な眼疾患を基本的に述べる。さらに、視覚障害（盲）の子どもが、いかにして音声言語及び触覚言語（点字）を学び、自分たちの世界をつくり出しているかを示し、そのための支援と教育を具体的に述べる。</p> <p>視覚の解剖生理（機能と構造）を述べ、さらに眼疾患のなかで一般的なものを述べる。また、視覚と文字、身体言語の関連を示し、視覚障害の子どもには聴覚が支えであり、これが視覚障害児の知・情・意、その行動、環境を特徴あるものになっていることを説明し、それに即した支援と教育のあり方を述べる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視覚についての基本的な構造と機能及び眼疾患の主要なものについて述べるができる。</li> <li>2. 視覚障害児者と世界（環境と人）との関係の心理的特徴について述べるができる。</li> <li>3. 視覚障害者の伝え合いの方法（会話、点字など）について説明できる。</li> <li>4. 視覚障害児者と世界（環境と人）のかかわりを理解し、そのための支援と教育のあり方を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	感覚の生理 (1 感覚)	テキスト1章 (pp. 9~11) の熟読ノートの作成		
第2回	感覚の生理 (2 感覚の一般的性質)	テキスト1章 (pp. 12~14) の熟読ノートの作成		
第3回	眼 (1 眼の発生)	テキスト2章 (pp. 15~18) の熟読ノートの作成		
第4回	眼 (2 人の眼)	テキスト2章 (pp. 19~22) の熟読ノートの作成		
第5回	眼 (3 視覚に障害があること)	テキスト2章 (pp. 23~26) の熟読ノートの作成		
第6回	眼 (4 生きられる世界)	テキスト2章 (pp. 27~33) の熟読ノートの作成		
第7回	視覚 (1 眼球の構造)	テキスト3章 (pp. 35~40) の熟読ノートの作成		
第8回	視覚 (2 眼球の機能)	テキスト3章 (pp. 35~40) の熟読ノートの作成		
第9回	視覚 (3 視覚の機能)	テキスト3章 (pp. 41~44) の熟読ノートの作成		
第10回	眼疾患 (1 先天性鼻涙管閉塞 結膜炎 麦粒腫 眼瞼下垂)	テキスト4章 (pp. 45~46) の熟読ノートの作成		
第11回	眼疾患 (2 緑内障 屈折異常 斜視 弱視)	テキスト4章 (pp. 47~49) の熟読ノートの作成		
第12回	眼疾患 (3 先天色覚異常 網膜芽細胞腫 先天白内障)	テキスト4章 (pp. 50~52) の熟読ノートの作成		
第13回	盲の子どもの世界 (1 聴覚の進化)	テキスト8章 (pp. 79~pp. 88) の熟読ノートの作成		
第14回	盲の子どもの世界 (2 伝え合い——音声言語、点字、支援と教育)	テキスト8章 (pp. 88~pp. 93) の熟読ノートの作成		
第15回	盲の子どもの世界 (3 闇との出会い——沈黙・孤独・静寂、内向・内面性、受容・共存性、時間的世界・想像力の深化)、まとめ	テキスト8章 (pp. 94~pp. 98) の熟読ノートの作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% (ノート<自筆・手書き>)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度も考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は慎むこと			
教科書	中野桂子『視覚・聴覚障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
指定図書	中野桂子『病弱・障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
参考図書	中野桂子『知的障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店 中野桂子『肢体不自由児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
オフィスアワー	水曜昼休み	メールアドレス		

授業科目	自然科学【講義】		開講時期	前期
担当教員	速水 良晃		単位	2
授業の目的と概要	最新の科学に基づいた技術が非常に便利で使いやすい製品の形で普及しているため、私達はそれらの中身の科学や技術の仕組みを知らないでも生活できるが、常にそうではないということ、あちこちで発生する災害時のニュースで知ることが出来る。この授業は現代社会を豊かにそして安全に過ごすために、科学の基本的考え方や新しい技術の仕組みを正しく理解できるようにすることを目的とする。 教科書として選んだ本は、科学の分野毎の系統に沿って、生活の中の身近な現象を採り上げ、科学の基礎原理を分かりやすく説明してある。これらの多数のトピックの解説を通じて、「理科」の基礎的知識を学び、それを基に自らの生活を安全に快適に、そして持続可能な生活スタイルに変えていくことを工夫する。			
到達目標	① 授業で採り上げた各トピックについて、科学的説明ができる。 ② 科学的説明の論理性を身の回りの事象にも応用できる。 ③ 現代社会に氾濫している過大広告などのウソの情報を見破ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	授業の進め方 質問づくりの目的と方法		第2回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第2回	第16章 からだを守るシステム		第3回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第3回	第1章 水 最も身近な環境		第4回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第4回	第2章 大気 きれいな空気を求めて		第5回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第5回	第3章 大地 いのちと暮らしの基盤		第6回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第6回	第4章 環境化学物質 環境を蝕む		第7回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第7回	第5章 エネルギー 現状と将来		第8回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第8回	第6章 不思議な水の性質		第9回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第9回	第7章 ものが燃えるとは		第10回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第10回	第8章 溶ける・洗う		第11回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第11回	第9章 くっつくとは		第12回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第12回	第10章 色をつける 光源色、吸収色、物体色、視覚、色覚		第13回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第13回	第11章 暮らしの中の金属		第14回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第14回	第12章 進化し続けるプラスチック		第15回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第15回	第13章 生体内で働いている分子たち、総合的な質問、まとめ、授業評価		科学的思考への「質問づくり」の有効性の検証と今後の方策の検討	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	45% 毎回の「3つの質問」についての予習内容(3つの選択理由、3つの予習レポート内容、受講上の留意点に合致していること)、40% 最終レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 毎回の「独自の質問」の数			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回の授業(月曜)日に翌週の授業内容についての「質問の焦点」が提示される。それを基に月曜日以内に受講生全員が「独自の質問」をアンケートで提出する。火曜日に発表された全員の質問の中から、重要と考えられる質問を3つ選んで、火曜日以内に投票する。水曜日に発表された「3つの質問」について予習した内容を予習レポートとして金曜夜までに提出する。他人のレポートの参照は不正行為です。書籍、論文、ネット情報を引用する場合は「・・・」で囲み、参照する場合も含めて、その文末に出典を(速水 2020)のように明記しなければ、不正行為とみなします。また、レポートに占める引用部分の量は2割			
教科書	伊藤明夫 『環境・暮らし・いのちのための化学の心』 裳華房			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーカー	メールで相談してください		メールアドレス	

授業科目	自然地理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	黒田 圭介		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、中学校社会科、高校地理における自然地理のテーマを一通り学ぶことで、社会科教員として持っていてしかなるべき知識、技術を修得することを目標とする。自然地理は理系の内容を含むことが多いので、文系の学生諸君には敬遠されがちであるが、地理学を学ぶ上で地球上の諸自然現象を理解しておくことは必須であろう。そこで、難しい内容でも平易かつ理解しやすいように講義を進める。</p> <p>特に本講義では高校地理Bの教科書における自然地理学的内容のうち、地形とケッペンの気候区分を中心に取り上げる。また、教育現場、特に教材研究活動に求められる地理学的解析の技術養成を目指して、簡単な解析作業を何度か行う。何度かプロジェクトを用い、視覚的に分かりやすい授業をこころがける。</p>			
到達目標	<p>*ケッペンの気候分類について、その成因まで含めて理解が出来る。  *地球表面の形成を総合的に解釈できる(マントル対流→プレートテクトニクス→大地の形成など)。  *人為的・自然的な環境変化について理解できる(地球温暖化、都市の形成、自然災害など)。  *ある事象について地理学的な視点を持って調査・解析・考察し、報告できるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。  心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。  福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 自然地理学とは		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第2回 気候1～気候の基礎		教科書 p 50-53 を読んでおくこと		
第3回 気候2～海流		教科書 p 55-56 を読んでおくこと		
第4回 気候3～ケッペンの気候区分		教科書 p 56-57 を読んでおくこと		
第5回 気候4～熱帯、温帯		教科書 p 60-61, p 64-67 を読んでおくこと		
第6回 気候5～乾燥帯、亜寒帯、寒帯		教科書 p 62-63, p 68-71 を読んでおくこと		
第7回 気候6～日本の四季		教科書 p 78 を読んでおくこと		
第8回 地図の読み方：等高線について理解を深める（実習）		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第9回 地形とは		教科書 p 28-31 を読んでおくこと		
第10回 小地形1～V字谷と扇状地		教科書 p 36 を読んでおくこと		
第11回 小地形2～沖積平野		教科書 p 37 を読んでおくこと		
第12回 小地形3～河岸段丘		教科書 p 38 を読んでおくこと		
第13回 プレートテクトニクスと新期造山帯		教科書 p 34-35 を読んでおくこと		
第14回 地震災害～プレート型地震と活断層		教科書 p 32-33 を読んでおくこと		
第15回 まとめ、予備日		質問の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	80% 試験の他に、数回講義中に簡単なレポートを課す。			
レポート	-			
小テスト等	20%			
成果発表	-			
受講態度他	-			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*毎回テキスト(新詳地理B)を必ず持参すること。  *内容は変更になることがある。  *予備知識は特に必要ないので、高校地理を受講していなくても履修できる。  *特別な事情を除いて、授業開始10分後以降の入室は認めない。</p>			
教科書	帝国書院「新詳地理B」			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて適宜紹介する。			
オフィスアワー	本講義終了後	メールアドレス		

授業科目	肢体不自由教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	稲田 八徳		単 位	2
授業の目的と概要	近年、障害の重複化、多様化を受けて一人一人のニーズに応じた教育的配慮が強く求められている。そのような社会的な情勢を視野に入れ、肢体不自由児・者を始めとする知的障害者の教育について基礎的・基本的な知識を身に付けることを目的とする。肢体・知的障害者の医学的・心理的特徴を理解するとともに、教育課程の編成や指導、支援の工夫について考えを深めていくことができるようにする。また、自立活動に向け、専門機関との連携や情報機器の活用等も考慮した個別の支援計画や個別の教育指導計画の作成を目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由児・者、知的障害者の歴史的過程と現状・課題を説明することができる。</li> <li>・ 肢体不自由児・者、知的障害者の基本原理や教育課程について説明することができる。</li> <li>・ 肢体不自由児・者への指導や支援のあり方について考えを述べる事が出来る。</li> <li>・ 肢体不自由児・者教育における自立活動や他機関との関係を説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション 「肢体不自由」の用語の概念について	復習 「肢体不自由」についてまとめる		
第2回	我が国における肢体不自由教育の発足と発展の歴史について	予習 配布資料を読んでおく 復習 肢体不自由教育の歴史をまとめる		
第3回	肢体不自由児・者が学ぶ様々な教育の場について	予習 配布資料を読んでおく 復習 教育の場についてまとめる		
第4回	肢体不自由児・者の医学的側面（骨、筋）について	予習 配布資料を読んでおく 復習 運動発達の仕組みをまとめる		
第5回	肢体不自由児・者の医学的側面（脳性麻痺、二分脊椎）について	予習 配布資料を読んでおく 復習 脳性疾患についてまとめる		
第6回	肢体不自由児・者の心理学的側面（発達、障害特性）について	予習 配布資料を読んでおく 復習 心理学的側面についてまとめる		
第7回	肢体不自由児における教育課程・指導法（乳幼児期）について	予習 配布資料を読んでおく 復習 乳幼児期の指導についてまとめる		
第8回	肢体不自由児における教育課程・指導法（小学校期）について	予習 配布資料を読んでおく 復習 小学校期の指導についてまとめる		
第9回	肢体不自由者における教育課程・指導法（中学校期）について	予習 配布資料を読んでおく 復習 中学校期の指導についてまとめる		
第10回	肢体不自由者における教育課程・指導法（高等学校期）について	予習 配布資料を読んでおく 復習 高等学校期の指導についてまとめ		
第11回	教科指導（学習上の困難と困難への対応）について	予習 配布資料を読んでおく 復習 教科指導法についてまとめる		
第12回	重複障害について（指導法）	予習 配布資料を読んでおく 復習 重複障害についてまとめる		
第13回	動作法について（体と心、身体の動きを通した指導法）	予習 配布資料を読んでおく 復習 動作法についてまとめる		
第14回	肢体不自由児・者の自立活動の必要性について（指導計画作成）	予習 配布資料を読んでおく 復習 個別の教育指導計画を作成する		
第15回	専門機関との連携、保護者の支援について	予習 支援についてグループ討議 復習 支援のありかたについてまとめる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 定期試験			
レポート	20％ ミニレポート1回			
小テスト等	なし			
成果発表	10％ 個別の教育指導計画			
受講態度他	10％ グループ討議の様子			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料を配布しますので、ファイルを準備してください。			
教科書	『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』文部科学省			
指定図書	特になし			
参考図書	日本肢体不自由教育研究会監修『肢体不自由教育の基本とその展開』慶応義塾出版会 (文部科学省)『特別支援学校教育要領・学習指導要領』海文堂出版			
オフィスアワー	水曜日、木曜日午後	メールアドレス		



授業科目	肢体不自由教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	木舩 憲幸		単位	2
授業の目的と概要	近年、障害の重複化、多様化を受けて一人一人のニーズに応じた教育的配慮が強く求められている。そのような社会的な情勢を視野に入れ、肢体不自由児・者を始めとする知的障害者の教育について基礎的・基本的な知識を身に付けることを目的とする。肢体、知的障害の医学的・心理的特徴を理解するとともに、教育課程の編成や指導、支援の工夫について考えを深めていく。また、自立活動に向け、専門機関との連携や情報機器の活用等も考慮した個別の指導計画や支援計画の重要性を理解する。この授業は肢体不自由児・者及び知的障害児・者の教育の歴史と現状、心理的医学的特徴を理解した上で、その教育課程の編成や指導の方法、支援の在り方について考察する。さらに、動作法などの指導法についても知り、専門機関との連携や保護者への支援の在り方についても考えられるようにする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由児・者、知的障害者の歴史的過程と現状・課題を説明することができる。</li> <li>・ 肢体不自由児・者、知的障害者の基本原理や教育課程について説明することができる。</li> <li>・ 肢体不自由児・者への指導や支援のあり方について考えを述べる事が出来る。</li> <li>・ 肢体不自由児・者教育における自立活動や他機関との関係を説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション・「肢体不自由」の用語の概念について	肢体不自由についてまとめる。		
第2回	我が国における肢体不自由教育の発足と発展の歴史について	肢体不自由教育の歴史をまとめる。		
第3回	肢体不自由児・者の教育課程の編成と配慮事項について	教育課程の編成についてまとめる。		
第4回	肢体不自由児・者の動作法（姿勢）の指導法について	動作法（姿勢）についてまとめる。		
第5回	肢体不自由児・者の動作法（移動）の指導法について	動作法（移動）についてまとめる。		
第6回	肢体不自由児・者の動作法（姿勢変換）の指導法について	動作法（姿勢変換）についてまとめる。		
第7回	肢体不自由児・者の心理学的側面について	発達や障害特性についてまとめる。		
第8回	肢体不自由児における教育課程と各教科の指導法について	各教科の指導法をまとめる。		
第9回	肢体不自由者における個別の教育支援計画について	教育支援計画をまとめる。		
第10回	肢体不自由者における個別の指導計画について	指導計画についてまとめる。		
第11回	教科指導（学習上の困難と困難への対応）について	教科指導法についてまとめる。		
第12回	重複障害について（指導法）	重複障害についてまとめる。		
第13回	調和的発達・全人的発達について（指導法）	発達についてまとめる。		
第14回	肢体不自由児・者の自立活動の必要性について（指導計画）	個別の指導計画を立てる。		
第15回	専門機関との連携、保護者の支援について	連携についてまとめる。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％（肢体不自由児教育の教育課程・各教科の指導と自立活動・姿勢運動などの指導法の理解度を評価する。）			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	30％（質疑応答や討論への参加度）			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書、資料を適宜読んで、予習をしてください。</li> <li>・ ノートを作成し、学んだことをきちんと整理してください。</li> </ul>			
教科書	『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』（海文堂） 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（開隆堂）			
指定図書	なし			
参考図書	講義で紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	肢体不自由者の心理・生理・病理【講義】		開講時期	前期
担当教員	中野 桂子		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業では、肢体不自由児者を医学（生理・病理）及び心理学の観点から理解し、それによって肢体不自由児者の学習、社会生活はどのようにして達成できるかを問い、そのあり方を明らかにすることを第一の課題としている。さらに、このテーマを踏まえて、肢体不自由児者の支援と教育の具体的なあり方を学ぶことを第二の課題としている。</p> <p>肢体不自由児者には知的障害を伴うものもあるが、いずれも臨床医学における疾患があるので、その疾患が生じる生理・病理学上の知識を明らかにする。さらに、その疾患が生む運動機能および社会生活上の障害を説明し、具体的にどのような支援、教育が可能であるかを述べる。続いて、この可能性は、支援・教育する人びとの態度によって開かれることを合わせて明らかにする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肢体不自由は医学的疾患（病理）によるものであるから、まず、肢体不自由の原因である疾患が説明できる。</li> <li>2. 知的障害をも合併している複雑多様な肢体不自由児者の学習、社会生活を考え、その状況を具体的に述べることができる。</li> <li>3. 肢体不自由児者の支援と教育を、その身にそって行うことの意味が説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	肢体不自由児者（1 肢体が不自由であるということの意味）	テキスト（2章 pp.39～42）の熟読 レポート（ノート）の作成		
第2回	肢体不自由児者（2 肢体不自由児の状況 3 生きられる世界）	テキスト（2章 pp.43～48）の熟読 レポート（ノート）の作成		
第3回	肢体不自由児者の生理（骨）	テキスト（3章）の熟読、レポート（ノート）の作成		
第4回	肢体不自由児者の生理（筋）	テキスト（3章）の熟読、レポート（ノート）の作成		
第5回	肢体不自由児者の生理（神経系 1 分類 2 神経の興奮）	テキスト（4章）の熟読、ノートの作成、		
第6回	肢体不自由児者の生理（末梢神経系 1 脳神経 2 脊髄神経 3 自律神経）	テキスト（5章）の熟読、ノートの作成、		
第7回	肢体不自由児者の生理（中枢神経系 1 構造と機能 2 高次脳機能）	テキスト（6章）の熟読、ノートの作成、		
第8回	肢体不自由児者の生理（運動生理）	テキスト（7章）の熟読、ノートの作成 解剖・運動生理学の本を検索		
第9回	肢体不自由児者の病理（1） 中枢神経疾患 末梢神経疾患	テキスト（7章）の熟読、ノートの作成 小児科学の本を検索		
第10回	肢体不自由児者の病理（2） 筋性および整形外科的疾患	テキスト（7章）の熟読、ノートの作成 小児科学の本を検索		
第11回	障害児（知的障害を伴う肢体不自由児）への実践心理学的アプローチ（1）実践心理学	テキスト（1章）の熟読 レポート（ノート）の作成		
第12回	障害児（知的障害を伴う肢体不自由児）への実践心理学的アプローチ（2）障害児が求めているもの	テキスト（1章）の熟読 レポート（ノート）の作成		
第13回	障害児（知的障害を伴う肢体不自由児）への実践心理学的アプローチ（3）共感	テキスト（1章）の熟読 レポート（ノート）の作成		
第14回	障害児（知的障害を伴う肢体不自由児）への実践心理学的アプローチ（4）その身になること	テキスト（1章）の熟読 レポート（ノート）の作成		
第15回	脳性麻痺のある子ども（事例検討）、まとめ	テキスト（8章）の熟読 レポート（ノート）の作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% レポート（ノート）（自筆・手書き）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度も考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は慎んで下さい。			
教科書	中野桂子『肢体不自由児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
指定図書	中野桂子『病弱・障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
参考図書	中野桂子『知的障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店 中野桂子『視覚・聴覚障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス		

授業科目	質的調査法【講義】		開講時期	前期
担当教員	赤枝 香奈子		単位	2
授業の目的と概要	社会調査のうち、質的データを扱う調査である「質的調査」について学びます。さまざまな質的データの特徴やそれらの収集・分析方法について理解できるようになることを目指します。			
到達目標	1. さまざまな質的データの収集・分析方法について説明できる。 2. 1. で修得した知識を応用しながら、実際に質的調査を行ってみることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション：社会学における質的データとは	第1回の授業内容の復習		
第2回	質的調査の歴史と特徴	配布資料を読んでくる。		
第3回	参与観察法（1）：参与観察の方法論	配布資料を読んでくる。		
第4回	参与観察法（2）：実践のポイントとまとめ方	配布資料を読んでくる。		
第5回	フィールドワーク（1）：フィールドワークの方法論	配布資料を読んでくる。		
第6回	フィールドワーク（2）：フィールドワークの実践	配布資料を読んでくる。		
第7回	インタビュー（1）：インタビューの方法論	配布資料を読んでくる。		
第8回	インタビュー（2）：インタビュー・データの分析	配布資料を読んでくる。		
第9回	ライフヒストリー（1）：ライフヒストリーとは何か	配布資料を読んでくる。		
第10回	ライフヒストリー（2）：ライフヒストリー調査の実践	配布資料を読んでくる。		
第11回	会話分析：会話分析とエスノメソドロジー	配布資料を読んでくる。		
第12回	ドキュメント分析：さまざまな生活記録の分析法	配布資料を読んでくる。		
第13回	テキストの内容分析：新聞記事などの分析法	配布資料を読んでくる。		
第14回	質的調査と調査倫理	配布資料を読んでくる。		
第15回	質的調査のまとめ方	配布資料を読んでくる。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60%			
小テスト等	30%			
成果発表	0%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業では、学んだ知識をもとに、実際に簡単な質的調査を行っていただきます。作業は授業時間外に行うことになります。積極的な受講態度で授業に臨んでください。			
教科書	使用しない。			
指定図書	松田素二・川田牧人編著『エスノグラフィー・ガイドブック』嵯峨野書院 小林多寿子編著『ライフストーリー・ガイドブック』嵯峨野書院			
参考図書	谷富夫・芦田徹郎編著『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房 工藤保則・寺岡伸悟・宮垣元編『質的調査の方法』法律文化社			
オフィスアワー	火曜日3限	メールアドレス		

授業科目	司法・犯罪心理学集中講義【講義】		開講時期	後期
担当教員	日高 みちえ		単位	2
授業の目的と概要	<p>犯罪や非行の概念、これまでの犯罪・非行研究の歴史と理論、我が国における犯罪や非行の現状、その処遇について理解する。また、犯罪被害者、家事事件、裁判員制度における心理的な問題とそれへの支援について理解する。さらに、犯罪や非行を抑止するために必要な方策や、日常生活の中で実践できることについて考えを深める。</p> <p>講義の中では情報提供に併せて学生同士のディスカッションや意見発表などを行い、より多面的に犯罪や非行等について考え、その後の生活に活用できるようにする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 犯罪・非行の概念、犯罪・非行についての理論、処遇について基本的なことを説明できる。</li> <li>2. 犯罪被害者、家事事件及び裁判員制度において生じやすい心理的な問題と必要とされる支援について基本的なことを説明できる。</li> <li>3. 犯罪及び非行を抑止するための方策について自らの考えを述べることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション、犯罪・非行とは何か	新聞、テレビ、インターネット検索により検討する		
第2回	犯罪・非行についての研究の歴史と主な理論	配布資料及びインターネット検索により検討する		
第3回	我が国の犯罪・非行の現状と背景にある問題	配布資料及びインターネット検索により検討する		
第4回	非行少年に関連する機関と手続きの流れ	配布資料及びインターネット検索により検討する		
第5回	犯罪者に関連する機関と手続きの流れ	配布資料及びインターネット検索により検討する		
第6回	犯罪者及び非行少年のアセスメント	配布資料を検討する		
第7回	非行少年の処遇と必要とされる心理的な支援	配布資料及びインターネット検索により検討する		
第8回	犯罪者の処遇と必要とされる心理的な支援	配布資料及びインターネット検索により検討する		
第9回	医療観察制度と必要とされる心理的な支援	配布資料及びインターネット検索により検討する		
第10回	犯罪被害者支援の現状と必要とされる心理的な支援	配布資料及びインターネット検索により検討する		
第11回	家事事件と必要とされる心理的な支援	配布資料及びインターネット検索により検討する		
第12回	裁判員制度と必要とされる心理的な支援	配布資料及びインターネット検索により検討する		
第13回	犯罪・非行に関連する自助グループの活動	配布資料及びインターネット検索により検討する		
第14回	犯罪・非行を抑止するための方策	配布資料及びインターネット検索により検討する		
第15回	まとめ、小テスト、レポート	配布資料全体に目を通し、検討する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% レポート			
小テスト等	40% 小テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 出席、受講中の参加態度、意見発表			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1コマの授業時間について、20分以上の遅刻及び早退は、出席とみなしません。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	岡本吉生編『司法・犯罪心理学』 野島一彦他監修「公認心理師の基礎と実践19」 遠見書房			
オフィスアワー	昼休み時間中	メールアドレス		

授業科目	司法福祉論【講義】		開講時期	後期
担当教員	高木 佳世子		単位	2
授業の目的と概要	<p>1. 更生保護の意義（犯罪を犯した人や非行少年をなぜ援助しなければならないのか）を考え、近年の犯罪現象をデータで冷静に把握し、更生保護制度改革の課題についても検討する。</p> <p>2. 成人の刑事司法手続、少年司法手続を概観し、更生保護の位置づけを確認した上で、保護観察と更生緊急保護の制度について詳細に学ぶ。</p> <p>3. 心神喪失者等医療観察法の概要と問題点を学ぶ。</p>			
到達目標	<p>1. 更生保護の意義を理解し、社会福祉の担い手としてのあるべき関わりについて自分なりの考え方ができること。</p> <p>2. 保護観察・更生緊急保護について正確に理解し他者に説明できること。</p> <p>3. 心神喪失者等医療観察法の概要と問題点について指摘できること。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福（3）-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は弁護士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	社会福祉専門職が更生保護に関わる意味	配付資料を復習する。		
第2回	更生保護の意義と歴史	第3部第2章第1節を読む。		
第3回	データでみる犯罪・非行	配付資料を見直して復習する。		
第4回	成人の刑事司法手続	第3部第1章第1節・第3節を読む。		
第5回	少年司法手続	第3部第1章第2節を読む。		
第6回	仮釈放・仮退院	第3部第2章第4節を読む。		
第7回	保護観察（1）	第3部第2章第2節を読む。		
第8回	保護観察（2）	第3部第2章第2節を読む。		
第9回	生活環境調整と就労支援／更生緊急保護	第3部第2章第3節・第5節を読む。		
第10回	更生保護の担い手（1）保護観察官／保護司	第3部第3章第1節・第2節を読む。		
第11回	更生保護の担い手（2）更生保護施設／民間協力者	第3部第3章第3節・第4節を読む。		
第12回	関係機関との連携／犯罪被害者等の支援／恩赦	第3部第4章全体と第2章第6節・第7節を読む。		
第13回	医療観察法（1）医療観察法の概要、手続きの流れ	第3部第5章第1節～第3節を読む。		
第14回	医療観察法（2）手続きの流れ（続）と対象者の支援	第3部第5章第4節～第5節を読む。		
第15回	まとめワーク	レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100％			
小テスト等	出席要件としてのみ課す（成績評価資料にはしない。）。			
成果発表	なし			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 日頃馴染みがないと思われる犯罪・非行という事象や裁判手続き、更生保護に関わる人や組織について、できるだけ具体的な事例を挙げたり映像を用いたりしてお伝えしたいと思います。ぜひ、紹介する参考図書などにも積極的に触れて、具体的なイメージが描けるように心がけてください。</p> <p>2. やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。</p>			
教科書	『社会福祉学習双書2020 第13巻 法学 権利擁護と成年後見制度／更生保護制度』（全国社会福祉協議会、2020年）第3部を使用。前半は民法改正や行政不服審査法改正にも対応しているため復習や国試対策に利用して欲しい。			
指定図書	法務省法務総合研究所編『令和元年版 犯罪白書』 全文インターネットで閲覧可能			
参考図書	西日本新聞社会部著『ルポ 罪と更生』（法律文化社）、山本讓司『刑務所しか居場所がない人たち 学校では教えてくれない障害と犯罪の話』（大月書店）など その他、授業の際に紹介			
オフィスワー	水曜4限	メールアドレス		

授業科目	シルクロード文化交流史【講義】		開講時期	後期
担当教員	小林 知美		単位	2
授業の目的と概要	目的：「シルクロード」を行き交った物・人・情報（思想）の具体例を学び、東西交流の歴史について理解します。とくに日本が古代以来、「シルクロード」に由来する文化をいかに多く受容してきたかについての認識を深めることを目的とします。また、シルクロードの歴史研究において、探検家の活躍、仏教への関心が重要な役割を果たしたことを再確認します。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「シルクロード」を経由して日本へ伝わった物・人・思想を説明することができる。</li> <li>・「シルクロード」を行き交った歴史上の人物とその事績について具体的に述べることができる。</li> <li>・「シルクロード」の仏教遺跡について具体的に述べることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	「シルクロード」：だれが、なにを、どのように定義したのか？	課題①：九博常設展示資料 関連資料収集		
第2回	「シルクロード」文化の受容形態	課題①：九博常設展示資料 関連資料検討		
第3回	10月7日 フィールドワーク①～九州国立博物館文化交流展示見学～	課題①：九博常設展示資料 レポート執筆		
第4回	「シルクロード」の求法僧（1）：法顕	課題②：「シルクロード」の求法僧 関連資料収集		
第5回	「シルクロード」の求法僧（2）：鳩摩羅什	課題②：「シルクロード」の求法僧 関連資料検討		
第6回	「シルクロード」の求法僧（3）：玄奘	課題②：「シルクロード」の求法僧 レポート執筆		
第7回	「シルクロード」の遺跡・遺物（1）：キジル石窟	課題②：「シルクロード」の遺跡・遺物 @関連資料収集		
第8回	「シルクロード」の遺跡・遺物（2）：敦煌莫高窟	課題②：「シルクロード」の遺跡・遺物 @関連資料検討		
第9回	「シルクロード」遺跡・遺物（3）：正倉院宝物	課題③：「シルクロード」の遺跡・遺物 @レポート執筆		
第10回	「シルクロード」と太宰府 玄昉・鑑真	課題③：「シルクロード」の探検家 関連資料収集		
第11回	「シルクロード」探検家（1）：ヘディンと大谷光瑞	課題④：「シルクロード」の探検家 関連資料検討		
第12回	「シルクロード」探検者（2）：オーレル・スタイン	課題④：「シルクロード」の探検家 レポート執筆		
第13回	「シルクロード文化交流史」総括	課題④：自由テーマ 資料収集		
第14回	日程未定 フィールドワーク②～玄昉・鑑真の伝えたもの・観世音寺戒壇院見学～ ※第14、15回合同	課題⑤：自由テーマ 資料検討		
第15回	日程未定 フィールドワーク②～玄昉・鑑真の伝えたもの・観世音寺戒壇院見学～ ※第14、15回合同	課題⑤：自由テーマ レポート執筆		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%（課題①～⑤各10%）、提出方法：筑女ネットにて提出）、文字数：1200字～2000字、参考文献明記、タイトルは自分で考えて付けること。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50% 資料講読への参加態度、理解深度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	フィールドワーク①見学先：九州国立博物館常設展、10月7日（水）教室集合後出発、学生証持参で無料。フィールドワーク②見学先：戒壇院、日時未定、費用：1,000円（予定）。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	神経・生理心理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	岡村 尚昌		単位	2
授業の目的と概要	本講義では、人間の行動や、心理的機能及び神経・生理的機能を理解することを目的とします。近年、神経・生理心理学的な心身相関の研究は、心理学の分野で広く応用され、とくに現代社会におけるストレスや心身の疾患などの問題を解決する大きな役割を担っています。この講義では、身体機能の生理学的基礎を踏まえながら、神経・生理心理学の基礎的研究や臨床場面への応用を紹介いたします。また、心理的ストレスと心身疾患における諸問題についても神経・生理心理学的立場から論じます。			
到達目標	①脳と心の関係について、その基礎知識を獲得する。 ②神経・生理心理学の講義で学んだ知識を、心理学研究に応用できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 神経・生理心理学の概要		脳と心の関係について調べる		
第2回 神経・生理心理学の研究法		配布資料を熟読し、神経・生理心理学の研究法を予習しておく		
第3回 脳の構造1：中枢神経活動		配布資料を熟読し、中枢神経活動について予習しておく		
第4回 脳の構造2：情動・記憶		配布資料を熟読し、情動・記憶について予習しておく		
第5回 脳と学習		配布資料を熟読し、脳と学習について予習しておく		
第6回 動機づけ		配布資料を熟読し、動機づけについて予習しておく		
第7回 ストレスと疾患1：ストレスとは何か		ストレスとは何かについて考えをまとめておく		
第8回 ストレスと疾患2：ストレスの生理心理学的メカニズム		配布資料を熟読し、ストレスと疾患について予習しておく		
第9回 ストレスと疾患3：心の病気と脳		心の病気と脳との関係について調べておく		
第10回 睡眠		睡眠と健康について調べておく		
第11回 薬物依存・ギャンブル依存と脳		配布資料を熟読し、薬物依存・ギャンブル依存と脳について予習しておく		
第12回 臨床心理学と脳科学1：ADHD		ADHDについて調べておく		
第13回 臨床心理学と脳科学2：自閉症		自閉症について調べておく		
第14回 臨床心理学と脳科学3：認知症		認知症について調べておく		
第15回 臨床心理学と脳科学4：犯罪		配布資料を熟読し、犯罪と脳と関係について予習しておく		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 学んだことの復習として行う。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 講義に対する意欲や参加態度も考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	配布プリントの内容を事前に予習・復習してください。講義をよく聴き、積極的に討論に参加してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	講義の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	真宗学講読Ⅰ【本願寺派教師】【講義】		開講時期	前期
担当教員	真名子 晃征		単位	2
授業の目的と概要	仏教に関する重要な用語や、仏教各宗の概要を学ぶ。 そのうえで、仏教の思想を通して、現代社会が抱える問題についてどのように向き合えばよいかを考える。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「縁起」「大乘仏教」「阿弥陀仏」「本願」などのキーワードを解説することができる。</li> <li>仏教各宗の概要を説明することができる。</li> <li>現代社会がかかえる問題に対して、仏教の思想をふまえて、自身の考えを述べることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程の科目です。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 ガイダンス		復習・レポート作成のための文献調査		
第2回 大乘仏教とは何か		復習・レポート作成のための文献調査		
第3回 浄土教と末法思想		復習・レポート作成のための文献調査		
第4回 積尊の生涯（1）受胎～成道		復習・レポート作成のための文献調査		
第5回 積尊の生涯（2）転法輪～入涅槃		復習・レポート作成のための文献調査		
第6回 仏教の基礎知識		復習・レポート作成のための文献調査		
第7回 総説（1）縁起		復習・レポート作成のための文献調査		
第8回 総説（2）さとり		復習・レポート作成のための文献調査		
第9回 総説（3）部派仏教と大乘仏教		復習・学期末レポートのテーマ選定		
第10回 総説（4）中観と唯識		復習・学期末レポートのテーマ選定		
第11回 各宗教義（1）奈良時代の仏教		復習・学期末レポートのテーマ選定		
第12回 各宗教義（2）平安時代の仏教		復習・学期末レポートの作成		
第13回 各宗教義（3）鎌倉時代の仏教		復習・学期末レポートの作成		
第14回 各宗教義（4）浄土宗と浄土真宗		復習・学期末レポートの作成		
第15回 まとめ		復習・学期末レポートの作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	55％ 学期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	45％ 毎回提出する感想・質問、および受講態度によって評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語、携帯電話の使用などは厳禁です。			
教科書	『浄土真宗聖典 註釈版第2版』 本願寺出版社 / 『浄土三部経（現代語訳）』 本願寺出版社			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、授業中に指示します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		



授業科目	真宗学講読Ⅱ【本願寺派教師】【講義】		開講時期	後期
担当教員	菊川 一道		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、本願寺派の教師資格取得課程、および仏教専修課程履修者のための科目として、浄土真宗の教義を構造的に理解することを目的とする。</p> <p>親鸞の教えを体系的に領解するために、主著『顕浄土真実教行証文類』のなかの「正信偈」を購読することによって、親鸞によって示された浄土真宗の教えを明らかにする。さらに、親鸞以降の覚如・存覚・蓮如ら歴代宗主の教えも含めて講義する。</p>			
到達目標	<p>1、親鸞の代表的な文章を読むことができる。</p> <p>2、親鸞の教えとはどういうものであるかを説明できる。</p> <p>3、親鸞の教えと、仏教の普遍的な教えとの関係を説明できる。</p> <p>4、親鸞の教えを通して自ら考えたことを発表し、意見交換することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程の科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入：「正信偈」について		真宗学講読Ⅰの復習		
第2回 真宗教義①「浄土三部経」『無量寿経』にまなぶ		聖典の『無量寿経』を読んで講義に臨む		
第3回 真宗教義②「浄土三部経」『観無量寿経』『阿弥陀経』にまなぶ		聖典の『観無量寿経』『阿弥陀経』を読んで講義に臨む		
第4回 真宗教義③七高僧にまなぶ―龍樹・天親―		聖典の『高僧和讃』『龍樹讃』『天親讃』を読んで講義に臨む		
第5回 真宗教義④七高僧に学ぶ―曇鸞・道綽―		聖典の『高僧和讃』『曇鸞讃』『道綽讃』を読んで講義に臨む		
第6回 真宗教義⑤七高僧に学ぶ―善導・源信―		聖典の『高僧和讃』『善導讃』『源信讃』を読んで講義に臨む		
第7回 真宗教義⑥七高僧に学ぶ―源空―		聖典の『高僧和讃』『源空讃』を読んで講義に臨む		
第8回 真宗教義⑦親鸞の信の構造		聖典の『正信偈』を読んで講義に臨む		
第9回 真宗教義⑧親鸞の信と念仏		聖典の『正信偈』を読んで講義に臨む		
第10回 真宗教義⑨親鸞の煩惱即菩提		聖典の『正信偈』を読んで講義に臨む		
第11回 真宗教義⑩親鸞の人間観		聖典の『歎異抄』を読んで講義に臨む		
第12回 真宗教義⑪親鸞の浄土観		聖典の『顕浄土真実教行証文類』『証巻』を読んで講義に臨む		
第13回 真宗教義⑫存覚・覚如の教え		聖典の『口伝鈔』を読んで講義に臨む		
第14回 真宗教義⑬蓮如の教え		聖典の『御文章』を読んで講義に臨む		
第15回 まとめ		講義を通して考えたことについてまとめる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	70% 講読準備30%、発表40%			
受講態度他	30% 授業に取り組む姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	基本的に「正信偈」の購読をもとに講義をすすめます。徐々に、聖典を読むことに慣れてください。			
教科書	浄土真宗聖典 註釈版			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します			
オフィスアワー	火5、水3	メールアドレス		

授業科目	真宗史Ⅰ【本願寺派教師】【講義】		開講時期	前期
担当教員	盛 智照		単 位	2
授業の目的と概要	<p>真宗史の始点としての親鸞聖人の生涯と、そこに至るまでのインド・中国・日本の仏教の歴史を概観する。そのことを通して、浄土真宗の教えが人間とその社会に対して何をもたらしたのかについて考察することを目的とする。</p> <p>親鸞聖人が切り開いた宗教的地平の背景にある仏教の歴史的展開を踏まえた上で、親鸞聖人の教えと生き方が、歴史社会の中でどのような存在意義を発揮したのかということについて学んでいきます。</p>			
到達目標	<p>1、インド・中国・日本（親鸞以前）の仏教史について、説明することができる。</p> <p>2、親鸞聖人の生涯について、説明することができる。</p> <p>3、浄土真宗の教えと、その教えに基づいて生きようとした人びととの関係をとおして、自分自身の生き方と現代の社会のありようを見つめ直すことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程の科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			「仏教学」で学んだ内容を振り返る	
第2回 釈尊の教えとインドにおける仏教の展開			釈尊の生涯やインド仏教について書かれた書籍を読む	
第3回 中国における仏教受容とその展開			中国仏教史について書かれた書籍を読む	
第4回 中国浄土教の思想と展開			中国浄土教（特に曇鸞・道綽・善導）について書かれた書籍を読む	
第5回 日本における仏教受容とその展開			日本仏教史や日本の高僧について書かれた書籍を読む	
第6回 親鸞聖人と当時の仏教界			「親鸞 人と思想」で学んだ内容を振り返る	
第7回 親鸞聖人の誕生と出家			「教科書」1～3頁	
第8回 法然門下への帰入			「教科書」4～8頁	
第9回 専修念仏弾圧と流罪			「教科書」9～12頁	
第10回 東国伝道と信者たち			「教科書」13～17頁	
第11回 『教行信証』の撰述			「教科書」18～22頁	
第12回 善鸞の異義事件			「教科書」23～28頁	
第13回 晩年の親鸞聖人			「教科書」29～33頁	
第14回 日本仏教史上の親鸞聖人の位置			親鸞聖人の生涯について振り返る	
第15回 まとめの講義			講義全体を振り返る	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ レポート試験を行う。			
小テスト等	30％ 毎回の講義に配布するシートに、課題に対する解答や講義の感想、質問等を書かせ、それを評価する。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 出席回数や講義に向き合う姿勢などを総合的に評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>講義の対象領域が広いので、進度が速くなります。それを補うため、質疑応答の時間を設けます。積極的に発言してください。</p> <p>また、全学礼拝・礼拝アワーに参加して下さい。感想文の提出により、加点します。</p>			
教科書	『真宗史』本願寺出版社。 加えて、プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜紹介します。			
オフィスアワー	講義終了後に対応	メールアドレス		

授業科目	真宗史Ⅱ【本願寺派教師】【講義】		開講時期	後期
担当教員	金見 倫吾		単位	2
授業の目的と概要	<p>親鸞とその後の浄土真宗の展開について、本願寺教団の歴史を中心として学ぶ。そのことを通して、浄土真宗の教えが具体的な人間と社会に何をもたらしたかについて考察することを目的とする。</p> <p>親鸞の切り開いた宗教的地平は、その後の教団にどのように理解されたのか、また、のちの教団は如何なる制度と組織を作り上げ、歴史社会の中で、どのような存在意義を發揮したのか学んでいきます。</p>			
到達目標	<p>1、親鸞の生涯について具体的に述べることができる。</p> <p>2、本願寺教団の歴史的展開について、説明することができる。</p> <p>3、浄土真宗の教えと、その教えに基づいて生きようとした人びととの関係をとおして、自分自身の生き方と現代の社会のありようを見つめ直すことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程の科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	親鸞の生涯とその教え	真宗史Ⅰの復習（「教科書」1～33頁）		
第2回	戦国期までの本願寺（1）	「教科書」34～38頁		
第3回	戦国期までの本願寺（2）	「教科書」39～42頁		
第4回	戦国期までの本願寺（3）	「教科書」42～46頁		
第5回	蓮如と本願寺教団の発展	「教科書」47～55頁		
第6回	一向一揆のたたかい（1）	「教科書」56～60頁		
第7回	一向一揆のたたかい（2）	「教科書」60～65頁		
第8回	近世本願寺教団の形成	「教科書」66～76頁		
第9回	近世の教学と信仰	「教科書」77～83頁		
第10回	維新政治と真宗	「教科書」84～88頁		
第11回	教団の近代化	「教科書」89～94頁		
第12回	近代教団の発展（1）	「教科書」95～98頁		
第13回	近代教団の発展（2）	「教科書」99～102頁		
第14回	近・現代社会と真宗	「教科書」103～107頁		
第15回	まとめ	現在の真宗教団の課題を明確化する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし。			
小テスト等	40％ 3回に1回、理解度を測るための小テストで評価する。			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 毎講義の感想カードで思考・表現の力を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>講義の対象領域が広いので、進度が速くなります。毎回の感想で、質問をお寄せください。</p> <p>また、全学礼拝・礼拝アワーには積極的に参加してください。</p>			
教科書	『真宗史』本願寺出版社 加えて、プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	講義内面で適宜紹介します。			
オフィスアワー	月・木曜9:00～17:00に人間文化研究所に在室しています。来室にあたっては事前にご連絡ください。	メールアドレス		

授業科目	親鸞・人と思想Ⅰ【講義】	開講時期	前期
担当教員	楠本 信道	単位	2
授業の目的と概要	本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土真宗の教えの主な特色について説明することができる。</li> <li>2. 親鸞の生涯における主な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 浄土真宗の教えと親鸞の生涯を学ぶことを通じて、社会と自己の関わりを捉え直すことができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	釈尊から親鸞へ(1)---心と行為---	予習 聖典 pp.195-196, 課題(1)レポート	
第2回	釈尊から親鸞へ(2)---大乘と小乗---	予習 聖典 pp.20-24, 課題(1)レポート	
第3回	釈尊から親鸞へ(3)---煩惱と智慧---	予習 聖典 p.72, 課題(1)レポート	
第4回	釈尊から親鸞へ(4)---智慧と慈悲---	予習 聖典 p.189, 課題(1)レポート	
第5回	釈尊から親鸞へ(5)---阿弥陀仏---	予習 聖典 pp.109-111, 課題(1)レポート	
第6回	釈尊から親鸞へ(6)---観想念仏と称名念仏---	予習 聖典 pp.201-204, 課題(2)レポート	
第7回	親鸞の生涯(1)---得度---	予習 聖典 pp.201-204, 課題(2)レポート	
第8回	親鸞の生涯(2)---比叡山の修行---	予習 聖典 pp.201-204, 課題(2)レポート	
第9回	親鸞の生涯(3)---法然との出会い---	予習 聖典 pp.201-204, 課題(2)レポート	
第10回	親鸞の生涯(4)---流罪---	予習 聖典 pp.201-204, 課題(2)レポート	
第11回	親鸞の生涯(5)---越後---	予習 聖典 pp.201-204, 課題(3)期末レポート	
第12回	親鸞の生涯(6)---関東---	予習 聖典 pp.201-204, 課題(3)期末レポート	
第13回	親鸞の生涯(7)---帰洛後---	予習 聖典 pp.201-204, 課題(3)期末レポート	
第14回	仏教を学ぶ意義(1)---中村久子の人生---	ノートまとめ, 全講義の復習, 課題(3)期末レポート	
第15回	仏教を学ぶ意義(2)---田あれば田を憂う---	ノートまとめ, 全講義の復習, 課題(3)期末レポート	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% 課題(1)レポート10%, 課題(2)レポート10%, 課題(3)期末レポート20%.		
小テスト等	60% 毎回の「小レポート」(4%×15回)		
成果発表	なし		
受講態度他	「小レポート」と「レポート」を真面目に書かない方は減点します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	『聖典』を予習し、筑女ネット上の「講義PDF」はすべて読んだ上で授業に臨んでください。15回の「小レポート」と3回の「レポート」についての提出期限は厳守すること。		
教科書	筑紫女学園聖典改定委員編『聖典』及び筑女ネット上の「講義PDF」		
指定図書	なし		
参考図書	「講義PDF」の中で適宜紹介します		
オフィスアワー	n-kusumoto@chi-kushi-u.ac.jpにメールを送ってください。	メールアドレス	

授業科目	親鸞・人と思想Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	毛利 俊英		単位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建掌の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。</p>			
到達目標	<p>1. 親鸞の生き方を貫いた浄土の教え、特に阿弥陀仏の本願が説明できるようになる。  2. 親鸞の生涯を説明できるようになる。  3. 親鸞の思想を学ぶことによって、現在の自分のあり方について考えてみる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	親鸞の生きた時代		配布プリントの復習	
第2回	誕生と出家		配布プリントの復習	
第3回	比叡山		配布プリントの復習 課題レポート①	
第4回	比叡山の修行と挫折		配布プリントの復習	
第5回	和国の教主聖徳太子と夢告		配布プリントの復習 課題レポート②	
第6回	法然との出会い		配布プリントの復習	
第7回	法難		配布プリントの復習 課題レポート③	
第8回	越後流罪		配布プリントの復習	
第9回	関東教化(1) 門弟の広がり		配布プリントの復習	
第10回	関東教化(2) 『教行信証』の製作		配布プリントの復習 課題レポート④	
第11回	帰洛		配布プリントの復習	
第12回	善鸞事件		配布プリントの復習	
第13回	往生		配布プリントの復習	
第14回	親鸞とその家族		配布プリントの復習	
第15回	学期末レポート		学期末レポートを実施します。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 4回の課題レポートと期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60% 毎回の授業で配布するラベルの記述を重視する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>「聖典」を必ず持参すること。講義は授業中に配布するプリントを用います。講義中に与えられた課題レポートは必ず提出すること。なお、聖典忘れ、私語、居眠り、遅刻は減点、許可無き早退は欠席とみなします。学内で開催される全学礼拝、礼拝アワーに積極的に参加すること。</p>			
教科書	『聖典』（筑紫女学園聖典改訂委員会）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談して下さい。		メールアドレス	

授業科目	親鸞・人と思想Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	真名子 晃征		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につけ、「倫理観・人間観」について考える。</p> <p>1年次に学んだ仏教学を復習しながら、親鸞に至るまでの仏教の変遷を確認する。そのうえで、親鸞の生涯を概観し、どのような人生の中でその思想が構築されたのかを学ぶ。また、その生き方が現代に生きる私たちにとって、どのような意味を持つのか、「市民としての社会的責任・勤労観」などを考えていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土教に至るまでの仏教の変遷を説明することができる。</li> <li>2. 親鸞の生涯における主要な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 親鸞の生涯に照らして、自身の生き方を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関与することができる。「市民としての社会的責任・勤労観」  (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 仏教学の復習			復習・課題レポートの作成	
第2回 積尊の仏教			復習・課題レポートの作成	
第3回 大乘仏教の成立			復習・課題レポートの作成	
第4回 浄土教の展開			復習・課題レポートの作成	
第5回 仏教の伝来			復習・課題レポートの作成	
第6回 末法思想と浄土教			復習・課題レポートの作成	
第7回 親鸞の生涯（幼少期とその時代）			復習・課題レポートの作成	
第8回 親鸞の生涯（比叡山での修行）			復習・課題レポート	
第9回 親鸞の生涯（法然との出会い）			復習・課題レポートの作成	
第10回 親鸞の生涯（越後への流罪）			復習・課題レポートの作成	
第11回 親鸞の生涯（関東での伝道）			復習・学期末レポートの作成	
第12回 親鸞の生涯（京都での執筆）			復習・学期末レポートの作成	
第13回 親鸞の生涯（親鸞の晩年）			復習・学期末レポートの作成	
第14回 親鸞の門弟			復習・学期末レポートの作成	
第15回 まとめ			復習・学期末レポートの作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％（課題レポート20％・学期末レポート20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 毎回提出する感想・質問、および受講態度によって評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語、携帯電話の使用などは厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、授業中に指示します。			
オフィスワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	親鸞・人と思想Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	宇治 和貴		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>親鸞は日本の思想史上でも優れて、社会を相対化し、自らがどのように生きることが人間として最も大切かを仏教にもとづいて考えた人物です。その親鸞の宗教が、日本の宗教状況においてどのような意味を持つかを確認します。さらに、その生き方が現代社会に生きる私たちにとってどのような意味を持つかを考えます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民族宗教と普遍宗教の基本的性格の違いが説明できる。</li> <li>2. 日本に仏教が伝来してから、親鸞に至るまでの流れが説明できる。</li> <li>3. 現代社会の問題について、浄土真宗の視点とはどのようなものかを発言することができるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関与することができる。「市民としての社会的責任・勤労観」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は仏教福祉活動の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）	「私語について」課題カード提出		
第2回	日本における宗教状況認識について	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部の課題カード提出		
第3回	仏教の伝来	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-1の課題カード提出		
第4回	古代日本における宗教	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-2の課題カード提出		
第5回	聖徳太子の仏教理解と実践	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-3の課題カード提出		
第6回	行基の仏教理解と実践	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-5の課題カード提出		
第7回	最澄の仏教理解と実践	「最長の仏教理解」の課題カード提出		
第8回	末法思想と浄土教の関係について	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-6の課題カード提出		
第9回	法然の仏教理解と実践	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-8の課題カード提出		
第10回	親鸞の生涯（出生から出家まで）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-1の課題カード提出		
第11回	親鸞の生涯（比叡山での修行）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-2の課題カード提出		
第12回	親鸞の生涯（吉水時代と夢告）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-2の課題カード提出		
第13回	親鸞の生涯（念仏弾圧と流罪）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-3の課題カード提出		
第14回	親鸞をとりまく宗教状況について	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-3の課題カード提出		
第15回	現代社会と浄土真宗	「自分自身の生き方と親鸞の信仰」について課題レポート提出		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	中間レポート「祈りの宗教と目覚めの宗教について」、期末レポート「祈りの仏教と目覚めの仏教について」60%			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	40%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される全学礼拝や礼拝アワーなどの行事に積極的に参加すること。			
教科書	二葉憲香・福嶋寛隆『新編 歴史のなかの親鸞』			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス		

授業科目	親鸞・人と思想Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	小林 久泰		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>1年次に学んだ仏教の基本を振り返り、親鸞に至るまでの仏教の変遷を確認する。その上で親鸞の生涯を概観し、彼がどのような人生を歩む中で、浄土真宗の教えを築き上げていったのかを学ぶ。そしてその教えが、現代に生きる私たちにどのような指針を与えているのかを考えていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土教に至るまでの仏教の変遷を説明することができる。</li> <li>2. 親鸞の生涯のうち、転機となった主要な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 親鸞の生涯に照らして、自分自身の生き方を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」</p> <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <hr/> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	仏教学の復習	復習・課題レポート「親鸞年表」作成		
第2回	仏教の根本思想：苦の自覚	復習・課題レポート「親鸞年表」作成		
第3回	大乘仏教の成立：空の思想	復習・課題レポート「親鸞年表」作成		
第4回	浄土教への展開：様々な菩薩と仏たち	復習・課題レポート「親鸞年表」作成		
第5回	仏教の伝来：日本人の仏教受容	復習・課題レポート「親鸞年表」作成		
第6回	末法思想と幼少期の親鸞	復習・課題レポート「親鸞年表」作成		
第7回	若き親鸞の悩み	復習・課題レポート「親鸞年表」作成		
第8回	法然との出会い	復習・課題レポート「親鸞年表」作成		
第9回	越後への流罪	復習・課題レポート「親鸞年表」作成		
第10回	恵心尼との結婚	復習・期末レポート「自力と他力」作成		
第11回	関東での伝道	復習・期末レポート「自力と他力」作成		
第12回	京都での執筆生活	復習・期末レポート「自力と他力」作成		
第13回	晩年の親鸞	復習・期末レポート「自力と他力」作成		
第14回	親鸞の門弟たち	全授業の復習・期末レポート「自力と他力」作成		
第15回	まとめ	ノートまとめ・期末レポート「自力と他力」作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題レポート（20％）・学期末レポート（20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 毎回の「感想」の記述内容および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	期日内に課題を提出しない場合は減点します。毎回授業終了時に「感想」を書いて提出すること。			
教科書	配布プリントおよび『聖典』（筑紫女学園大学聖典改訂委員会編）			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、授業中に指示する。			
オフィスアワー	水曜 3 講時	メールアドレス		



授業科目	親鸞・人と思想Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	真名子 晃征		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につけ、「倫理観・人間観」について考える。</p> <p>1年次に学んだ仏教学を復習しながら、親鸞に至るまでの仏教の変遷を確認する。そのうえで、親鸞の生涯を概観し、どのような人生の中でその思想が構築されたのかを学ぶ。また、その生き方が現代に生きる私たちにとって、どのような意味を持つのか、「市民としての社会的責任・勤労観」などを考えていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土教に至るまでの仏教の変遷を説明することができる。</li> <li>2. 親鸞の生涯における主要な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 親鸞の生涯に照らして、自身の生き方を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」  (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第1回 仏教学の復習			復習・課題レポートの作成	
第2回 積尊の仏教			復習・課題レポートの作成	
第3回 大乘仏教の成立			復習・課題レポートの作成	
第4回 浄土教の展開			復習・課題レポートの作成	
第5回 仏教の伝来			復習・課題レポートの作成	
第6回 末法思想と浄土教			復習・課題レポートの作成	
第7回 親鸞の生涯（幼少期とその時代）			復習・課題レポートの作成	
第8回 親鸞の生涯（比叡山での修行）			復習・課題レポート	
第9回 親鸞の生涯（法然との出会い）			復習・課題レポートの作成	
第10回 親鸞の生涯（越後への流罪）			復習・課題レポートの作成	
第11回 親鸞の生涯（関東での伝道）			復習・学期末レポートの作成	
第12回 親鸞の生涯（京都での執筆）			復習・学期末レポートの作成	
第13回 親鸞の生涯（親鸞の晩年）			復習・学期末レポートの作成	
第14回 親鸞の門弟			復習・学期末レポートの作成	
第15回 まとめ			復習・学期末レポートの作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%（課題レポート20%・学期末レポート20%）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60% 毎回提出する感想・質問、および受講態度によって評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語、携帯電話の使用などは厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、授業中に指示します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	親鸞・人と思想Ⅰ【講義】	開講時期	前期
担当教員	川尻 洋平	単位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞の生涯について知る。さらに浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>親鸞に至るまでの仏教の変遷や親鸞の生涯を概観し、仏教の中でも浄土真宗の教えがどのような特徴を持っているのかを学ぶ。そして、その教えが私たちにとってどのような示唆を与えているのかを考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大乘仏教の特質である菩薩や慈悲などの概念を説明することができる。</li> <li>2. 親鸞の生涯に起こった主要な出来事を説明することができる。</li> <li>3. 親鸞の生涯に照らして、自らの生き方を振り返ることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」</p> <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 仏教学の復習		配布プリント復習（仏教学の復習）	
第2回 大乘仏教：菩薩		配布プリント復習（菩薩について）・課題レポート作成	
第3回 大乘仏教：慈悲		配布プリント復習（慈悲について）・課題レポート作成	
第4回 大乘仏教：阿弥陀仏と極楽		配布プリント復習（阿弥陀仏と極楽について）・課題レポート作成	
第5回 仏教伝来：日本の浄土思想		配布プリント復習（日本の浄土思想について）・課題レポート作成	
第6回 親鸞誕生の時代背景：末法思想		配布プリント復習（末法思想について）・課題レポート作成	
第7回 比叡山時代の親鸞		配布プリント復習（比叡山時代の親鸞について）	
第8回 法然との出逢い		配布プリント復習（法然との出逢いについて）	
第9回 越後流罪		配布プリント復習（越後流罪について）	
第10回 親鸞と結婚		配布プリント復習（親鸞と結婚について）	
第11回 関東伝道		配布プリント復習（関東伝道について）	
第12回 帰洛		配布プリント復習（関東からの帰洛について）・学期末レポート作成	
第13回 晩年の親鸞		配布プリント復習（晩年の親鸞について）・学期末レポート作成	
第14回 親鸞にとっての仏教		配布プリント復習（親鸞と仏教について）・学期末レポート作成	
第15回 まとめ		学期末レポート作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40％：課題レポート「親鸞の生涯」（20％）・学期末レポート「親鸞と私」（20％）		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	60％ 毎回の「理解度チェック」の回答内容および受講態度により評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	期日内に、「理解度チェック」に回答していない場合、欠席扱いになります。「理解度チェック」に含まれる質問や感想については、次回講義時にフィードバックします。		
教科書	配布プリントおよび筑紫学園大学・短期大学部編『聖典』		
指定図書	なし		
参考図書	適宜紹介する。		
オフィスワー	火曜日15:00-17:00（オンライン上で対応します）	メールアドレス	

授業科目	親鸞・人と思想Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	盛 智照		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>この講義は基本的にはテキストに沿って進め、日本の古代から中世までの仏教の歴史を概観する。しかしその目的は単に知識を得ることではなく、現実の社会の中で生きる私にとって「仏教とは何か」ということを、自分なりに考え、またそれを自分以外の誰かに伝えられるようになるということを目指します。</p>			
到達目標	<p>1、宗教の二つの型（民族宗教と普遍宗教）について、それぞれの基本的な性格を説明することができる。</p> <p>2、日本の仏教の歴史（仏教伝来～親鸞の登場）の特徴を具体的に説明することができる。</p> <p>3、自分にとって仏教がいかなる意味を持つのかを説明することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」</p> <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	仏教とは何か		一学年時の復習	
第2回	仏教伝来以前の日本人の精神世界		予習：教科書1～10頁	
第3回	仏教の伝来		予習：教科書11～15頁	
第4回	聖徳太子の仏教理解		予習：教科書16～26頁	
第5回	国家仏教の成立		予習：教科書27～33頁	
第6回	行基の仏教理解と実践		予習：教科書34～43頁	
第7回	最澄の仏教理解と実践		予習：教科書44～49頁	
第8回	院政期の仏教		予習：教科書50～58頁	
第9回	法然の仏教理解と実践		予習：教科書59～63頁	
第10回	親鸞の生涯①（出生と出家）		予習：教科書67～72頁	
第11回	親鸞の生涯②（比叡山での修行）		予習：教科書73～86頁 期末レポート作成	
第12回	親鸞の生涯③（六角堂の夢告と法然との出会い）		予習：教科書87～107頁 期末レポート作成	
第13回	親鸞の生涯④（建永の念仏弾圧）		予習：教科書108～119頁 期末レポート作成	
第14回	親鸞の生涯⑤（越後流罪と非僧非俗の宣言）		予習：教科書120～125頁 期末レポート作成	
第15回	前期のまとめ		期末レポート提出	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％			
小テスト等	10％（中間レポート、礼拝レポート）			
成果発表	なし			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>全学礼拝・礼拝アワー等に出席し、レポートを提出してください。</p> <p>毎回の講義終了時に感想や質問を出席カードの裏に書いて提出してください。</p>			
教科書	二葉憲香・松尾博仁（著）福嶋寛隆（編）『新編 歴史のなかの親鸞』永田文昌堂			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	講義終了後に応じます。	メールアドレス		

授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	毛利 俊英		単位	2
授業の目的と概要	浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。前期の講義を受けて、親鸞の生き方や思想をさらに深く理解する。特に、後期は『歎異抄』の言葉から、親鸞の後半生に深められた思想の中核を学んでみたい。『歎異抄』は、親鸞の面授の弟子である唯円が著し、親鸞の生きた言葉が多く収められている。そこに伝えられる親鸞の言葉は、現代社会に生きる私たちに、あらためて様々な課題を見つける視点を与えてくれるだろう。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本願、慈悲、悪人、浄土、往生など、主要な教義について説明できるようになる。</li> <li>2. 授業で取り上げた『歎異抄』の言葉について、その趣旨を説明できるようになる。</li> <li>3. 現代社会の課題を、親鸞の思想の観点から、考えることができるようになる。</li> <li>4. 自らの死生観について考えてみる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</li> <li>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</li> <li>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	『歎異抄』序・後序 ～唯円の嘆き～		予習 聖典p.115-116、p.168	
第2回	第2回 『歎異抄』第一条 ～弥陀の誓願～		予習 聖典p.117-118	
第3回	『歎異抄』第一条 ～往生～		予習 聖典p.117-118 課題レポート①	
第4回	『歎異抄』第一条 ～摂取不捨～		予習 聖典p.117-118	
第5回	『歎異抄』第二条 ～善鸞義絶と関東異義～		予習 聖典p.118-120 課題レポート②	
第6回	『歎異抄』第二条 ～往生極楽の道①～		予習 聖典p.118-120	
第7回	『歎異抄』第二条 ～往生極楽の道②～		予習 聖典p.118-120 課題レポート③	
第8回	『歎異抄』第三条 ～悪人～		予習 聖典p.121-122	
第9回	『歎異抄』第三条 ～悪人正機～		予習 聖典p.121-122	
第10回	『歎異抄』第四条 ～聖道の慈悲～		予習 聖典p.122-123	
第11回	『歎異抄』第四条 ～浄土の慈悲～		予習 聖典p.122-123 4	
第12回	『歎異抄』第五条 ～念仏～		予習 聖典p.123-124	
第13回	『歎異抄』第五条 ～有縁を度す～		予習 聖典p.123-124	
第14回	『歎異抄』第九条 ～浄土～		予習 聖典p.127-129	
第15回	『歎異抄』第十三条 ～業縁～		予習 聖典p.135-145	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 4回の課題レポート及び期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60% 毎回の授業で配布するラベルの記述を重視する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	「聖典」を必ず持参すること。講義は授業中に配布するプリント、および『聖典』を用います。講義中に与えられた課題レポートは必ず提出すること。なお、聖典忘れ、私語、居眠り、遅刻は減点、許可無き早退は欠席と見なします。学内で開催される全学礼拝、礼拝アワーには積極的に参加すること。			
教科書	『聖典』（筑紫女学園聖典改訂委員会）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談して下さい。		メールアドレス	

授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	真名子 晃征		単 位	2
授業の目的と概要	<p>浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深め、社会問題に対する「問題解決能力」を養う。</p> <p>前期で学習した親鸞の生涯を踏まえ、後期では親鸞の著作などから、浄土真宗の基本的な教えについて理解を深める。なかでも「正信念仏偈」を通して、その内容と背景となる思想について学ぶ。そのうえで、「幅広い視野」をもって現代に生きる私たちの指針となるものを考えていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土真宗の教えに関する基本的な用語を説明することができる。</li> <li>2. 「正信念仏偈」に示された内容と、その背景となる思想について説明することができる。</li> <li>3. 現代において、親鸞の思想がどのような意味をもつのかを発言することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</li> <li>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</li> <li>(3) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</li> <li>(2) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	親鸞の生涯の復習	復習・課題レポートの作成		
第2回	親鸞の著作とその思想	復習・課題レポートの作成		
第3回	「正信念仏偈」の概要	復習・課題レポートの作成		
第4回	「正信念仏偈」から学ぶ（阿弥陀仏の願い）	復習・課題レポートの作成		
第5回	「正信念仏偈」から学ぶ（どんな者であっても）	復習・課題レポートの作成		
第6回	「正信念仏偈」から学ぶ（南無阿弥陀仏とは）	復習・課題レポートの作成		
第7回	「正信念仏偈」から学ぶ（二つの道）	復習・課題レポートの作成		
第8回	「正信念仏偈」から学ぶ（ただ一心に）	復習・課題レポートの作成		
第9回	「正信念仏偈」から学ぶ（他力とは）	復習・課題レポートの作成		
第10回	「正信念仏偈」から学ぶ（末法のなかで）	復習・課題レポートの作成		
第11回	「正信念仏偈」から学ぶ（名を称える）	復習・学期末レポートの作成		
第12回	「正信念仏偈」から学ぶ（信じる心と疑う心）	復習・学期末レポートの作成		
第13回	「正信念仏偈」から学ぶ（念仏の教え）	復習・学期末レポートの作成		
第14回	「正信念仏偈」から学ぶ（信心と念仏）	復習・学期末レポートの作成		
第15回	まとめ	復習・学期末レポートの作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％（課題レポート20％・学期末レポート20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 毎回提出する感想・質問、および受講態度によって評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語、携帯電話の使用などは厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、授業中に指示します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	楠本 信道		単位	2
授業の目的と概要	浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>『歎異抄』の成立背景と概要について説明することができる。</li> <li>聖道門・浄土門・凡夫・悪人などの基本的な言葉の意味について説明することができる。</li> <li>親鸞の思想を学ぶことを通じて、現代社会の問題や人間存在の意味を捉え直すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</li> <li>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</li> <li>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	『歎異抄』第一条---老少・善悪のひとをえらばれず---	予習 聖典 pp.117-118, 課題(1)レポート		
第2回	『歎異抄』第二条---十余箇国のさかひをこえて---	予習 聖典 pp.118-120, 課題(1)レポート		
第3回	『歎異抄』第三条---善人なほもて往生をとぐ---	予習 聖典 pp.121-122, 課題(1)レポート		
第4回	『歎異抄』第四条---慈悲に聖道・浄土のかはりめあり---	予習 聖典 pp.122-123, 課題(1)レポート		
第5回	『歎異抄』第五条---みなもて世々生々の父母・兄弟なり(1)---前生---	予習 聖典 pp.123-124, 課題(1)レポート		
第6回	『歎異抄』第五条---みなもて世々生々の父母・兄弟なり(2)---輪廻---	予習 聖典 pp.123-124, 課題(1)レポート		
第7回	『歎異抄』第五条---みなもて世々生々の父母・兄弟なり(3)---民族---	予習 聖典 pp.123-124, 課題(1)レポート		
第8回	『歎異抄』第六条---如来よりたまはりたる信心---	予習 聖典 pp.124-126, 課題(2)レポート		
第9回	『歎異抄』第七条---念仏者は無碍の一道なり---	予習 聖典 p.126, 課題(2)レポート		
第10回	『歎異抄』第八条---念仏は行者のために非行・非善なり---	予習 聖典 pp.126-127, 課題(2)レポート		
第11回	『歎異抄』第九条---踊躍歡喜のころおろそかに候ふこと---	予習 聖典 pp.127-129, 課題(3)レポート		
第12回	『歎異抄』と現代(1)---生(1)---人種差別---	ノートまとめ、全講義の復習、課題(3)期末レポート		
第13回	『歎異抄』と現代(2)---生(2)---人間の不完全性---	ノートまとめ、全講義の復習、課題(3)期末レポート		
第14回	『歎異抄』と現代(3)---老病死(1)---人間の中の差別意識---	ノートまとめ、全講義の復習、課題(3)期末レポート		
第15回	『歎異抄』と現代(4)---老病死(2)---如衆水入海一味---	ノートまとめ、全講義の復習、課題(3)期末レポート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 課題(1)レポート10%, 課題(2)レポート10%, 課題(3)期末レポート20%.			
小テスト等	60% 毎回の「小レポート」(4%×15回)			
成果発表	なし			
受講態度他	「小レポート」と「レポート」を真面目に書かない方は減点します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	『聖典』を予習し、筑女ネット上の「講義PDF」はすべて読んだ上で授業に臨んでください。15回の「小レポート」と3回の「レポート」についての提出期限は厳守すること。			
教科書	筑紫女学園聖典改定委員編『聖典』及び筑女ネット上の「講義PDF」			
指定図書	なし			
参考図書	「講義PDF」の中で適宜紹介します			
オフィスアワー	n-kusumoto@chi-kushi-u.ac.jpにメールを送ってください。	メールアドレス		

授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	小林 久泰		単位	2
授業の目的と概要	浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。前期で学習した親鸞の生涯を踏まえ、後期では親鸞の言葉を記録した『歎異抄』などを通じて、浄土真宗の基本的な教えについてさらに理解を深める。日常生活とは異なる視点から、自分自身の生き方と向き合う時間としたい。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土真宗の教えに関する基本的な言葉の意味を説明することができる。</li> <li>2. 『歎異抄』に示された親鸞の言葉について、その趣旨を説明することができる。</li> <li>3. 親鸞の視点に立ち、自分自身の生き方を見つめ直すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</li> <li>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</li> <li>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	親鸞の生涯の復習	復習・法話レポート作成・課題レポート「歎異抄と私（1～5条）」作成準備		
第2回	親鸞の著作と『歎異抄』	復習・法話レポート作成・課題レポート「歎異抄と私（1～5条）」作成準備		
第3回	『歎異抄』成立の背景	復習・法話レポート作成・課題レポート「歎異抄と私（1～5条）」作成準備		
第4回	『歎異抄』第2条：ひたすら信じる道	復習・法話レポート作成・課題レポート「歎異抄と私（1～5条）」作成		
第5回	『歎異抄』第1条：もれなく救われる私たち	復習・法話レポート作成・課題レポート「歎異抄と私（1～5条）」作成		
第6回	『歎異抄』第3条：言うまでもなく悪人は救われる	復習・法話レポート作成・課題レポート「歎異抄と私（1～5条）」作成		
第7回	『歎異抄』第4条：自力で何かを救うことはできるのか	復習・法話レポート作成・課題レポート「歎異抄と私（1～5条）」作成		
第8回	『歎異抄』第5条：念仏を唱えるのは供養のためではない	復習・法話レポート作成・課題レポート「歎異抄と私（1～5条）」作成		
第9回	『歎異抄』第6条：弟子はとりません	復習・法話レポート作成・期末レポート「歎異抄と私（6～10条）」作成		
第10回	『歎異抄』第7条：なにものにも妨げられない道	復習・法話レポート作成・期末レポート「歎異抄と私（6～10条）」作成		
第11回	『歎異抄』第8条：念仏は行でも善でもない	復習・法話レポート作成・期末レポート「歎異抄と私（6～10条）」作成		
第12回	『歎異抄』第9条：救われている実感が湧かない私たち	復習・法話レポート作成・期末レポート「歎異抄と私（6～10条）」作成		
第13回	『歎異抄』第10条：念仏とは何か	復習・法話レポート作成・期末レポート「歎異抄と私（6～10条）」作成		
第14回	『歎異抄』後序：もうひとつの物差し	復習・法話レポート作成・期末レポート「歎異抄と私（6～10条）」作成		
第15回	まとめ	ノートまとめ・期末レポート「歎異抄と私（6～10条）」作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	法話レポート（15％）・課題レポート（20％）・期末レポート（20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	45％ 毎回の「感想」の記述内容および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	期日内に課題を提出しない場合は減点します。毎回授業終了時に「感想」を書いて提出すること。			
教科書	配布プリントおよび『聖典』（筑紫女学園聖典改訂委員会編）			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、授業中に指示する。			
オフィスアワー	水曜3講時	メールアドレス		

授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	宇治 和貴		単 位	2
授業の目的と概要	<p>浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。</p> <p>親鸞の生涯の後半を学ぶ。併せて、親鸞の思想の特色である他力本願理解などを多角的に学び、自己と人間、社会に対する認識を深めていきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親鸞の説いた生き方を知ることで、仏教にもとづいた倫理観や人間観を学ぶ。</li> <li>2. 親鸞が求めた社会の在り方を考えることで、社会の多様な問題について関心をもつ。</li> <li>3. 親鸞思想と私たちの生活の関係を説明できる。</li> <li>4. 親鸞精神と本学の建学の精神との関係を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は仏教福祉活動の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）	テキスト『歴史のなかの親鸞』に関する課題カード提出		
第2回	親鸞の生涯（復習）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部に関する課題カード提出		
第3回	親鸞の生涯（恵信尼との結婚）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-4に関する課題カード提出		
第4回	親鸞の生涯（関東時代の伝道）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-5に関する課題カード提出		
第5回	親鸞の生涯（帰洛と執筆活動）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-6に関する課題カード提出		
第6回	親鸞の生涯（親鸞の求めた社会の在り方について）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-8に関する課題カード提出		
第7回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～信心とは～	テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に関する課題カード提出		
第8回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～世をいとふしるしとは①～	テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に関する課題カード提出		
第9回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～世をいとふしるしとは②～	テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に関する課題カード提出		
第10回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～善人と悪人①～	テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に関する課題カード提出		
第11回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～善人と悪人②～	テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に関する課題カード提出		
第12回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～他力本願とは①～	「他力本願」に関して課題カード提出		
第13回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～他力本願とは②～	「他力本願」に関して課題カード提出		
第14回	浄土真宗と社会的課題	「浄土真宗と社会」に関する課題カード提出		
第15回	浄土真宗の目指す生き方と社会	「浄土真宗の目指す生き方」に関して課題カード提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	中間レポート「親鸞の他力思想について」、期末レポート「悪を抱えながら他を利することについて」60%			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	40%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される全学礼拝や礼拝アワーなどの行事に積極的に参加すること			
教科書	二葉憲香・福嶋寛隆『新編 歴史のなかの親鸞』			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	水～木の3講目	メールアドレス		



授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	川尻 洋平		単位	2
授業の目的と概要	浄土真宗の基本的な教えについて知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間や社会に対する見方を深める。 『歎異抄』に示される親鸞の言葉を通じて、浄土真宗の基本的な教えについて理解を深め、それを手がかりに自らの生活を振り返る。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土真宗の基本的な教えである他力本願、念仏、悪人正機などについて説明することができる。</li> <li>2. 『歎異抄』に示される親鸞の言葉について、その趣旨を説明することができる。</li> <li>3. 親鸞の人間観を理解し、それを踏まえて、自らの生き方を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</li> <li>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</li> <li>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	親鸞の生涯の復習	配布プリント復習（親鸞の生涯）		
第2回	親鸞の著作	配布プリント復習（親鸞の著作について）		
第3回	『歎異抄』成立の背景	配布プリント復習（『歎異抄』の成立について）		
第4回	『歎異抄』第2条：地獄は一定すみかぞかし	配布プリント復習（『歎異抄』第2条について）・課題レポート作成		
第5回	『歎異抄』第1条：弥陀の誓願	配布プリント復習（『歎異抄』第1条について）・課題レポート作成		
第6回	『歎異抄』第3条：悪人正機	配布プリント復習（『歎異抄』第3条について）・課題レポート作成		
第7回	『歎異抄』第4条：慈悲の限界	配布プリント復習（『歎異抄』第4条について）・課題レポート作成		
第8回	『歎異抄』第5条：父母のための念仏の否定	配布プリント復習（『歎異抄』第5条について）		
第9回	『歎異抄』第6条：はからい	配布プリント復習（『歎異抄』第6条について）		
第10回	『歎異抄』第7条：妨げられない道	配布プリント復習（『歎異抄』第7条について）		
第11回	『歎異抄』第8条：他力の念仏	配布プリント復習（『歎異抄』第8条について）		
第12回	『歎異抄』第9条：実感できない救い	配布プリント復習（『歎異抄』第9条について）・学期末レポート作成		
第13回	『歎異抄』第10条：念仏とは	配布プリント復習（『歎異抄』第10条について）・学期末レポート作成		
第14回	『歎異抄』後序：ひとえに親鸞ひとりがため	配布プリント復習（『歎異抄』後序について）・学期末レポート作成		
第15回	まとめ	学期末レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％：課題レポート「他力本願について」（20％）・学期末レポート「親鸞思想と私」（20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 毎回提出する「感想・質問カード」の記述内容および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	期日内に、「理解度チェック」に回答していない場合、欠席扱いになります。「理解度チェック」に含まれる質問や感想については、次回講義時にフィードバックします。			
教科書	配布プリントおよび筑紫女学園大学・短期大学部編『聖典』			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワー	水曜日二講目（オンライン上でも対応します）	メールアドレス		

授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	真名子 晃征		単位	2
授業の目的と概要	<p>浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深め、社会問題に対する「問題解決能力」を養う。</p> <p>前期で学習した親鸞の生涯を踏まえ、後期では親鸞の著作などから、浄土真宗の基本的な教えについて理解を深める。なかでも「正信念仏偈」を通して、その内容と背景となる思想について学ぶ。そのうえで、「幅広い視野」をもって現代に生きる私たちの指針となるものを考えていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土真宗の教えに関する基本的な用語を説明することができる。</li> <li>2. 「正信念仏偈」に示された内容と、その背景となる思想について説明することができる。</li> <li>3. 現代において、親鸞の思想がどのような意味をもつのかを発言することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</li> <li>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</li> <li>(3) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</li> <li>(2) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	親鸞の生涯の復習	復習・課題レポートの作成		
第2回	親鸞の著作とその思想	復習・課題レポートの作成		
第3回	「正信念仏偈」の概要	復習・課題レポートの作成		
第4回	「正信念仏偈」から学ぶ（阿弥陀仏の願い）	復習・課題レポートの作成		
第5回	「正信念仏偈」から学ぶ（どんな者であっても）	復習・課題レポートの作成		
第6回	「正信念仏偈」から学ぶ（南無阿弥陀仏とは）	復習・課題レポートの作成		
第7回	「正信念仏偈」から学ぶ（二つの道）	復習・課題レポートの作成		
第8回	「正信念仏偈」から学ぶ（ただ一心に）	復習・課題レポートの作成		
第9回	「正信念仏偈」から学ぶ（他力とは）	復習・課題レポートの作成		
第10回	「正信念仏偈」から学ぶ（末法のなかで）	復習・課題レポートの作成		
第11回	「正信念仏偈」から学ぶ（名を称える）	復習・学期末レポートの作成		
第12回	「正信念仏偈」から学ぶ（信じる心と疑う心）	復習・学期末レポートの作成		
第13回	「正信念仏偈」から学ぶ（念仏の教え）	復習・学期末レポートの作成		
第14回	「正信念仏偈」から学ぶ（信心と念仏）	復習・学期末レポートの作成		
第15回	まとめ	復習・学期末レポートの作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%（課題レポート20%・学期末レポート20%）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60% 毎回提出する感想・質問、および受講態度によって評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語、携帯電話の使用などは厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、授業中に指示します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	盛 智照		単位	2
授業の目的と概要	<p>浄土真宗の基本的な教えについて知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間や社会に対する見方を深める。</p> <p>親鸞の生涯の後半を学ぶ。また親鸞が門弟に宛てた消息（手紙）を読み、具体的な状況下での親鸞の思想を読み解く。親鸞の思想の特色である「本願」「念仏」「他力」などを多角的に学び、現実社会の中で「仏教を抛り所に生きる」ことで、様々な社会的問題を発見し、その解決への道筋を自分なりに構築する力を養うことを目的とする。</p>			
到達目標	<p>1、親鸞の教えについての基本的な語句の意味を説明することができる。</p> <p>2、「消息」に示された親鸞の人間像・社会像がどのようなものか説明することができる。</p> <p>3、自己と社会のあり方にとって、親鸞の教えがどのような意味を持つか述べるすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	親鸞の生涯⑥（恵心尼との結婚）	予習：教科書126～136頁		
第2回	親鸞の生涯⑦（関東時代の伝道）	予習：教科書137～159頁		
第3回	親鸞の生涯⑧（帰洛と執筆活動）	予習：教科書160～171頁		
第4回	親鸞の生涯⑨（関東の門弟たちの動揺）	予習：教科書172～185頁		
第5回	親鸞の生涯⑩（建長の念仏弾圧）	予習：教科書186～222頁		
第6回	親鸞の生涯 まとめ（親鸞の求めた社会の在り方について）	予習：教科書223～244頁		
第7回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～成立の背景～	予習：教科書275頁		
第8回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～世をいとふしるしとは①～	予習：教科書276～283頁		
第9回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～世をいとふしるしとは②～	予習：教科書284～291頁		
第10回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～善人と悪人①～	予習：教科書296～301頁		
第11回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～善人と悪人②～	予習：教科書302～307頁 期末レポート作成		
第12回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～他力本願とは①～	予習：教科書308～315頁 期末レポート作成		
第13回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～他力本願とは②～	予習：教科書346～350頁 期末レポート作成		
第14回	浄土真宗と社会的課題	課題レポート作成		
第15回	浄土真宗の目指す生き方と社会	講義内容全体をふりかえる 期末レポート提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％			
小テスト等	10％（中間レポート、礼拝レポート）			
成果発表	なし			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>全学礼拝・礼拝アワー等に出席し、レポートを提出してください。</p> <p>講義ごとの感想・質問等を毎回提出してください。</p>			
教科書	二葉憲香・松尾博仁（著）福嶋寛隆（編）『新編 歴史のなかの親鸞』永田文昌堂			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	講義の前後で応じます。	メールアドレス		

授業科目	心理演習Ⅰ【演習】	開講時期	後期
担当教員	大霧(香)・榊(祐)・森田(理)	単 位	2
授業の目的と概要	心理に関する支援を要する者に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識、及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイ）等を通して、心理師として人と関わる際にどのような視点や態度、手続き等が必要かについて学ぶ。		
到達目標	①心理的支援を要する者に対するカウンセリングの基本的な方法を修得する ②実践場面を想定した心理的支援について、提案することが出来る		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	カウンセリングの基本的知識と技能：コミュニケーション	コミュニケーションの特徴と技法についての復習	
第2回	カウンセリングの基本的知識と技能：コミュニケーション技術	自己理解についてのレポート作成	
第3回	カウンセリングの基本的知識と技能：聞く体験	聴く体験についてのレポート作成	
第4回	カウンセリングの基本的知識と技能：カウンセリング学習①	心理面接の注意点についてのレポート作成	
第5回	カウンセリングの基本的知識と技能：カウンセリング学習②	心理面接で留意することについてのレポート作成	
第6回	カウンセリングの基本的知識と技能：カウンセリング実習①	カウンセリングを振り返ってレポート作成	
第7回	カウンセリングの基本的知識と技能：カウンセリング実習②	カウンセリングを振り返ってレポート作成	
第8回	ハンディキャップ体験①	ハンディキャップ体験についての振り返り	
第9回	ハンディキャップ体験②	ハンディキャップ体験についての振り返り	
第10回	グループアプローチ①	グループアプローチの方法についての復習	
第11回	グループアプローチ②	グループ体験についての振り返り	
第12回	箱庭療法①	箱庭療法の特徴についての復習	
第13回	箱庭療法②	箱庭療法の分析についての復習	
第14回	リラクゼーション①	リラクゼーションの方法についての復習	
第15回	リラクゼーション②	リラクゼーション体験についての振り返り	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	100% 毎回、授業終了後に授業内容についてのレポート課題を提示します。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻や欠席のないよう努めること。無断欠席は認めません。 体験学習には積極的に参加すること。		
教科書	指定なし		
指定図書	指定なし		
参考図書	適宜紹介		
オフィスワーカー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス	

授業科目	心理演習Ⅱ【演習】		開講時期	前期
担当教員	大轟（香）・森田（理）・日高（崇）		単 位	2
授業の目的と概要	<p>心理に関する支援を要する者に対する心理検査、心理面接、地域支援等についての知識及び技能を修得する。また、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携及び地域連携等について事例検討を通して心理的知識や技能を修得する。また、公認心理師としての職業倫理及び法的義務についても理解を深める。</p> <p>この授業は15人以下のグループにつき1名以上の教員による指導が行われる。</p>			
到達目標	<p>①心理に関する支援を要する者に対する心理検査、地域支援についての知識及び技能を修得する</p> <p>②心理的支援を要する者等を理解し、ニーズを把握したうえで、支援計画を作成できる</p> <p>③心理的支援におけるチームアプローチ、多職種連携及び地域連携等について説明することが出来る</p> <p>④公認心理師としての職業倫理及び法的義務について説明することが出来る</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には心理相談・特別支援教育としての実務経験のある者があり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			レポート	
第2回 心理アセスメント① 発達・知能検査			レポート	
第3回 心理アセスメント② 人格検査（質問紙法）			レポート	
第4回 心理アセスメント③ 人格検査（投射法）			レポート	
第5回 地域支援			レポート	
第6回 チームアプローチ			レポート	
第7回 病院での公認心理師の仕事			レポート	
第8回 公認心理師の職業倫理・法的義務			レポート	
第9回 アセスメント、見立てと方針（保健医療分野、産業・労働分野）			レポート	
第10回 アセスメント、見立てと方針（福祉分野）			レポート	
第11回 アセスメント、見立てと方針（教育分野）			レポート	
第12回 多職種連携と地域連携（保健医療分野、産業・労働分野）			レポート	
第13回 多職種連携と地域連携（福祉分野）			レポート	
第14回 多職種連携と地域連携（教育分野）			レポート	
第15回 まとめ			レポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100%（毎回、授業毎にレポートを提出）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度を考慮する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>欠席・遅刻の場合は教員に連絡すること</p> <p>レポートは期日までに提出すること</p> <p>1～8回までは遠隔授業、9回以降は対面での授業の予定です。筑女ネットを必ず確認してください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーカー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	心理学【講義】	開講時期	後期
担当教員	S. Kumar	単位	2
授業の目的と概要	人間形成の原理と社会に生きていく上で、心理学の考え方やそれに関する様々な方法を学びます。心理学的な専門知識の視点から子どもの成長として、発達、教授や学習の過程、学習への動機、人格の形成の基本知識を学びます。人間は生まれてからどのような発達段階を経て、成長していくことへの理解。それに関して、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期の理解。それぞれの発達段階で知能の発達、情緒の発達、社会性の発達などを理解しながら学ぶ。様々な心理テストなどを通して、人間の考え方、知能、行動、学習過程、記憶、性格をもっと理解することを学ぶ。		
到達目標	社会の中生きることとして生まれてから成長していく発達の段階、様々な学習と記憶のプロセスと理論、考え方、人格の形成や人間の行動について様々な心理テストを通して理解する。社会的自立の知識として日常生活の中、上記のものを取り入れて、心理学の基本要素として人間の行動、対人関係、発達の適切な理解や判断力を身につけることができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	心理学とは何かと心理学の歴史	心理の定義の理解課題のプリントの事後学修	
第2回	乳幼児期の運動と知能の発達	反射運動研究の心理学者についての事前・事後学修	
第3回	愛着の形成	安全基地についての事前・事後学修	
第4回	ピアジェの発達段階論の理解	ピアジェ理論の細かい範囲事後学修	
第5回	幼児期の運動と、情緒の発達と発達チェック	運動や言語の発達についての事前学修	
第6回	生活に生かす心理学、ICT活用	集団遊びの事前・事後学修	
第7回	思考、行動、情緒について	日常生活の行動、情調の事前学修	
第8回	学習過程の知識論	日常生活の学習についての課題のプリント復習	
第9回	古典的条件、B F Skinner のオペラント条件	スモール・ステップ原理学習の課題の復習	
第10回	認知論、記憶と忘却、内発的動機付けと外発的動機づけと記憶	短期記憶と長期記憶の理解課題	
第11回	自己、自我、人格の理解	人格の要因についての復習	
第12回	アクティブ・ラーニングによるJungの人格の理論	性格の理解課題のプリント学修	
第13回	感覚と知覚、投影法検査心理テストの理解	心理テストはなぜ必要かの事後学修	
第14回	グループディスカッション形の発達・学習・人格に関する心理テスト理解の	判断と意思決定、心理テストの理解課題	
第15回	授業全体の理解と総まとめ	人間と心理の関係を理解するため各自で幼稚園で子どもの活動観察	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	筆記試験 なし		
レポート	100%レポート提出		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	Teamsの参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の際に指示します		
教科書	指定しない (資料配布)		
指定図書	鼻地 三郎 監修『新教育心理』ナカニシヤ出版		
参考図書	岩田純一・佐々木正人・石田勢津子・落石幸子『児童の心理学』		
オフィスアワー	火・木の昼休み (12:30~13:00)	メールアドレス	

授業科目	心理学概論Ⅰ【講義】	開講時期	前期
担当教員	榊 祐子	単位	2
授業の目的と概要	<p>人間の多面的理解に貢献してきた心理学の諸領域について概観し、特に、人間の発達や性格、社会的行動に関する基礎的知識の習得を目指す。</p> <p>それぞれの領域における重要な事項を選択し、日常的なテーマなども取り入れながら、心理学概論Ⅱとあわせて、心理学全般にわたる基本概念を学ぶ。単なる知識の獲得にとどまらず、自分自身の性格や行動、日常生活における対人関係などと関連付けながら理解を深めていく。</p>		
到達目標	<p>①人間の発達段階や理論について比較し、それぞれの特徴を具体的に述べる事が出来る</p> <p>②性格の特性や分類を説明し、自らの性格と関連づけて述べる事が出来る。</p> <p>③集団における行動の特徴について説明する事が出来る</p> <p>④日常生活での経験やこれまでの体験を発達、社会、人格などの視点から解釈し説明する事が出来る</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当して</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 心理学とは①：心理学の概要		心理学の歴史についての復習	
第2回 心理学とは②：心理学の領域と歴史		心理学の領域と成果についての復習	
第3回 発達①：人間の発達段階とは		発達段階の特徴についての復習	
第4回 発達② 言語の発達		言語の発達の整理と復習	
第5回 発達③ 社会性の発達		家族や友人関係の発達についての復習	
トピックを隠す		ピアジェ・エリクソンの発達段階論についての復習	
第7回 まとめ①：心理学の歴史、発達		心理学の歴史と発達心理学の整理	
第8回 性格①：人格の特性について		人格のとらえ方の復習	
第9回 性格②：性格の分類		人格理論の復習	
第10回 性格③：性格の形成		性格形成の要因についての復習	
第11回 性格④：集団と性格		集団が正確に与える影響についての復習	
第12回 社会①：集団における個人の行動		集団における性格と行動についての復習	
第13回 社会②：個人と対人関係		個人と社会的知覚についての復習	
第14回 社会③：同調行動について		同調行動の経験についての振り返り	
第15回 まとめ②：人格、社会		人格と社会心理学の振り返り	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% 歴史、発達、人格、社会の領域からそれぞれテーマを設定し、調べてまとめる 30% まとめ①、②のまとめレポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30% 授業に関するコメントや講義内容に関するショートレポート		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退出は慎むこと。		
教科書	指定なし		
指定図書	指定なし		
参考図書	適宜紹介		
オフィスアワー	火曜日 2限	メールアドレス	

授業科目	心理学概論Ⅱ【講義】	開講時期	前期
担当教員	安藤 満代	単位	2
授業の目的と概要	この授業は、主に基礎心理学の領域の基礎知識を身につけることを目的とする。人がどのように周りの世界を認識し（知覚・認知）、どのように記憶したり忘却しているか（記憶）、どのように新しい行動を習得しているか（学習）、さらに感情や情動のはたらき、言語と思考、認知の発達などを学ぶことにより、人の心と行動を多面的に理解する。合わせて、日常的な事象や体験を心理学的な視点から客観的に理解しようとする態度を身につけることを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人が自分を取り巻く生活環境の認識に関して、視覚のはたらき、注意のはたらきについて説明することができる。</li> <li>2. 記憶における短期記憶、長期記憶、日常記憶、それを支える知識の表象について説明することができる。</li> <li>3. 新しい行動を学習していく主要なメカニズム、行動を開始させる動機づけについて具体的な例をあげて説明することができる。</li> <li>4. 思考や問題解決の基本的考え方を理解し、論理的思考について理解できる。</li> <li>5. 情動、動機づけに関する基本的理論が理解でき、日常生活での機能を理解することができる。</li> <li>6. これらを通して、科学的思考の基礎を養うことができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション： 1) 授業の目的と進行について 2) 心理学の歴史と理論の変遷		心理学の興味ある歴史について調べてみる	
第2回 知覚：私たちは生活環境のどのようにとらえているのか		生活の中で知覚体験と実際が異なっていた経験をまとめる	
第3回 注意： 注意の働きと基本的理論を知る		日常生活における注意の種類について調べる	
第4回 短期記憶： 感覚記憶、短期記憶、ワーキングメモリ		記憶の種類について調べる	
第5回 長期記憶：		記憶障害の事例について調べる	
第6回 日常記憶： 日常生活における記憶		日常生活における記憶の役割を考える	
第7回 まとめ1：講義前半のまとめを行う		知覚、注意、記憶で疑問に感じたこと、興味を持ったことを考える	
第8回 知識と表象：人はいかにして脳内で知識を表象しているのか		表象やイメージについて考える	
第9回 言語と問題解決：認知的問題を解決するプロセスを考える		認知的問題を解決するプロセスについて内省してみる	
第10回 学習：古典的条件づけと道具的条件づけ		条件づけの例を日常生活のなかで考える	
第11回 動機づけ：やる気が出たり、出なかったりする仕組みを知ろう		やる気が出るときの要因を自己の体験から振り返る	
第12回 情動：人の感情や情動のはたらきを知る		情動が行動とどのように関連しているのか、情動の役割も一緒に考える	
第13回 認知発達① 乳幼児の認知発達		乳幼児の認知能力について調べる	
第14回 カレントトピックス（感性認知）：		感性が生活のなかでどのように関わっているか考える	
第15回 まとめ2：後半の講義のまとめを行う		後半の講義で疑問に思ったこと、興味や関心を持ったことについて振り返る	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	課題を出します		
小テスト等	なし（定期的に確認テストは実施する）		
成果発表	ーなし		
受講態度他	出席状況を含めた受講態度（講義後のショートライティング）を加味する10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業で扱っているテーマを自分の経験に関連づけながら、受講すること。ショート・ライティングに書かれている質問は、次週、または関連するテーマの時に説明する。		
教科書	箱田裕司他著 「認知心理学」 有斐閣		
指定図書	服部雅史他 基礎から学ぶ認知心理学 有斐閣		
参考図書	行場次朗・箱田裕司編 新知性と感性の心理 福村出版		
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス	



授業科目	心理学研究法【演習】	開講時期	後期
担当教員	大上 八潮	単位	2
授業の目的と概要	目に見えない「こころ」を扱うために心理学では様々な研究法が利用され、研究で得られた成果や知見を理解するためには、用いられた研究法そのものを理解する必要がある。この授業では、心理学で利用される実験法・調査法・観察法・面接法を取り上げ、各方法の基本的な考え方や技法ならびにそこで利用される統計的な方法について理解を深めることを目的とする。実験法では、実験の論理や実験計画、分析方法を中心に解説する。調査法では、心理尺度による心理テスト開発に関する調査の計画・実施・分析方法について解説する。観察法では、組織的観察法を中心にサンプリング・記録方法・分析方法について解説する。面接法では非構造化面接ならびに半構造化面接を取り上げ、面接法実施における留意点を解説する。さらに、心理学における研究計画から発表・論文執筆までに必要な技法を紹介し、この授業を通じて卒業研究を行うために必要な能力を身につけることを目標とする。		
到達目標	①実験法における目的の見つけ方、計画の立て方や分析方法を説明し、実験計画を作成することができる ②心理尺度を用いた調査の実施、分析方法を計画し作成することができる ③面接法の分類や特徴を説明し、留意点を把握した上で、目的にあった面接法を計画することができる ④観察法におけるサンプリングや記録方法について具体的に説明することができる ⑤研究法の様々なアプローチを用いて、人間の行動特性を客観的手続きから予測し一般化することができる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	心理学の研究とは	心理学の研究法についての復習	
第2回	実験法1：実験の準備と基礎知識	実験計画についての復習	
第3回	実験法2：実験法の概要、レポート作成①	実験の変数の統制についての復習、レポート作成準備	
第4回	実験法3：実験計画、レポート作成②	実験手続きについての復習	
第5回	実験法4：実験計画（変数と尺度、剰余変数の統制）、レポート作成③	実験の分析についての復習	
第6回	観察法1：観察法の概要、観察方法と記録方法	観察方法、記録方法についての復習	
第7回	観察法2：観察研究例の紹介（量的方法と質的方法）	観察法の分析方法についての復習	
第8回	調査法1：調査法の概要と調査票や質問紙の例	質問紙調査法についての復習	
第9回	調査法2：心理尺度について、尺度の作成、レポート作成①	心理尺度、質問項目についての復習	
第10回	質問紙調査法3：質問紙の作成、レポート作成②	調査の実施、結果の解釈についての復習	
第11回	質問紙調査法4：質問紙（尺度）の作成、レポート作成③	調査法の留意点についての復習	
第12回	面接法1：面接法の概要	面接法についての復習	
第13回	面接法2：面接法による研究事例の紹介	面接の研究事例についての復習	
第14回	研究の進め方：研究計画から発表・論文の執筆、研究倫理	研究計画についての復習	
第15回	全体のまとめ：研究倫理と実験・調査レポート執筆について	研究法についての総合的な振り返りの復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% 実験法、調査法に関する研究計画レポート（2×20=40点）		
小テスト等	60% 授業中実施するアンケート・小テストの結果（15×4=60点）		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業はすべてオンデマンド型で行う。毎回、動画や資料を用いて学習し、アンケート・小テストの提出をもって出席と認める。		
教科書	村井 潤一郎 『Progress & Application 心理学研究法』 サイエンス社		
指定図書	なし		
参考図書	高野陽太郎・岡隆 『心理学研究法』 有斐閣 大村彰道(編) 『教育心理学研究の技法』 福村出版		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	心理学研究法特論【講義】	開講時期	前期
担当教員	榊 祐子	単位	2
授業の目的と概要	臨床心理学研究における基本技法を学び、自らの研究活動の基礎となり、適用すべき研究アプローチを選択できるようになることを目的とする。さらに、心理的援助のための実践活動に求められるアセスメントや介入技法、事例研究についても理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学における研究の基本技法を整理し、説明することが出来る</li> <li>2. 実践的研究法を説明し、自らの研究計画を適応することが出来る</li> <li>3. 臨床心理学的アセスメントや介入技法について説明することが出来る</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	大学院での学びと研究の基礎①	研究方法の復習	
第2回	大学院での学びと研究の基礎②	学部と大学院での研究方法の整理	
第3回	実践的研究① 会話分析、事例研究	会話分析、事例研究の復習	
第4回	実践的研究② 効果研究、メタ分析	効果研究、メタ分析の復習	
第5回	実践的研究③ 社会行動、認知的実験研究	社会行動、認知的実験研究の復習	
第6回	アセスメントの技法	アセスメントの技法の整理	
第7回	心理臨床的介入技法	心理臨床的介入技法の整理	
第8回	研究計画の検討①	研究計画の作成	
第9回	研究計画の検討②	研究計画の作成	
第10回	研究計画の検討③	研究計画の作成	
第11回	研究計画の検討④	研究計画の作成	
第12回	研究計画の検討⑤	研究計画の作成	
第13回	事例研究①	事例のまとめ	
第14回	事例研究②	事例のまとめ	
第15回	事例研究③	事例のまとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	研究計画のレポート 60%		
小テスト等	なし		
成果発表	授業中の研究経過報告 20%		
受講態度他	討論への参加 20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	修士論文をふまえた研究計画を作成するので、討論には積極的に参加すること		
教科書	適宜紹介		
指定図書	下山 「臨床心理学研究の技法」 福村出版		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日2限	メールアドレス	

授業科目	心理学実験【実験】	開講時期	後期
担当教員	榊 祐子・大上 八潮	単位	2
授業の目的と概要	人間の行動特性を客観的に理解することを目標として、学習、知覚、認知、記憶といった心理学の各分野における基礎的な実験を体験し、心理学における実験レポートの書き方を学ぶ。実験の目的、手続きなどについての講義の後5, 6名程度の小グループにわかれ、コンピュータや質問紙等を用いて実験を行なう。結果の処理や実験技法を習得した後、実験レポートを提出することが課題となる。また、最新の心理学の分野でどのような実験が行なわれているか、参加者として体験する機会も設ける予定である。本授業では、心理学研究法の一つである実験という手法を用いて、心理・社会的諸問題における行動特性などを客観的データを収集することで説明することを目的とする。		
到達目標	①心理学における基本的な実験の流れ（目的、方法、結果、考察）を説明することができる ②心理学実験を実験者としてデータを測定する、また被験者として課題を実施することができる ③測定したデータを結果としてまとめ、考察を行い、レポートを作成することができる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 担当教員の中には心理相談の実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	心理学実験とは①：心理学実験の概要	心理学実験のイントロダクションについての復習	
第2回	心理学実験とは②心理学研究法について	様々な心理学研究法の整理	
第3回	心理学実験とは③心理統計法の基礎	心理統計法の基礎についての復習	
第4回	知覚実験1-1 ミュラー・リヤー錯視（実験の説明と実施）	課題（レポート）	
第5回	知覚実験1-2 ミュラー・リヤー錯視（データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第6回	知覚実験2-1 触2点閾（実験の説明と実施）	課題（レポート）	
第7回	知覚実験2-2 触2点閾（データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第8回	認知実験1 ストループ課題（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第9回	認知実験2 自由再生法（実験の説明と実施）	課題（レポート）	
第10回	実験のまとめ①	レポート作成の復習	
第11回	学習実験1 分散・集中学習（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第12回	学習実験2 鏡映描写（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第13回	行動実験 一対比較法（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）	課題（レポート）	
第14回	最新の心理学実験の動向 様々な分野における最新の心理学実験を体験	課題（レポート）	
第15回	実験のまとめ②	レポート作成と実験方法についての振り返り	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	80% 毎回の実験後にレポートを作成		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 授業に関するショートレポートを提出		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	小グループに分かれて実験を実施、データ測定、レポート作成を行う。実験に参加しなければ、レポートを作成、提出できないため、毎回の出席が非常に重要である。クラスごとの開講になるため、実験の実施順序は前後することがある。授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退出は慎むこと。		
教科書	使用しない。資料はプリントにて配布する。		
指定図書	特になし		
参考図書	心理学実験指導研究会 『実験とテスト=心理学の基礎 実習編』 培風館 心理学実験ノート編集委員会 『心理学実験ノート』 二瓶社		
オフィスアワー	火曜日 2限（榊）	メールアドレス	

授業科目	心理学的支援法【講義】	開講時期	後期
担当教員	日高 崇博	単位	2
授業の目的と概要	<p>代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界についてふれながら、専門的かつ実践的な心理学的支援について学ぶ。さらに、心理学的支援において重要であるプライバシーへの配慮について理解する。様々な領域における心理学的支援の在り方について学び、他職種との良好な人間関係を築くためのコミュニケーションや連携について学ぶ。</p> <p>訪問による地域支援における心理学的支援の意義などについてもふれ、その一環でもある心の健康教育について学ぶ。また、クライアントの特徴に合わせた支援に加え、クライアントを取り巻く周囲の他者、環境への心理学的支援の在り方について考える。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応および限界について理解し、説明することができる。</li> <li>2. 心理学的支援において重要なプライバシーへの配慮の在り方について理解し、説明することができる。</li> <li>3. 地域における訪問支援や心の健康教育の重要性について理解し、説明することができる。</li> <li>4. 心理学的支援を要する者を取り巻く周囲の他者や環境への支援、配慮について説明することができる。</li> <li>5. 良好な人間関係を築き、他職種との連携や協働につながるコミュニケーションの方法について理解し、説明することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション		授業内容の復習	
第2回 代表的な心理療法①（精神分析・来談者中心療法・遊戯療法など）		授業内容の復習	
第3回 代表的な心理療法②（行動療法・認知行動療法・応用行動分析など）		授業内容の復習	
第4回 代表的な心理療法③（集団療法・イメージ療法など）		ミニレポート	
第5回 医療領域における心理臨床①（精神科・心療内科など）		授業内容の復習	
第6回 医療領域における心理臨床②（小児・高齢者・がん）		授業内容の復習	
第7回 教育領域における心理臨床①（スクールカウンセリング）		授業内容の復習	
第8回 教育領域における心理臨床②（特別支援教育）		授業内容の復習	
第9回 福祉領域における心理臨床（障害児支・就労支援）		授業内容の復習	
第10回 産業領域における心理臨床（労働者・健康経営）		授業内容の復習	
第11回 様々な領域におけるプライバシーへの配慮の重要性		ミニレポート	
第12回 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション		授業内容の復習	
第13回 他職種との連携・協働とコミュニケーション		授業内容の復習	
第14回 臨床心理学的地域援助		授業内容の復習	
第15回 心の健康教育		期末レポートの準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	ミニレポート（40%） 期末レポート（40%）		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	授業へ積極的に参加する姿勢を考慮します（20%）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語や他の受講者の迷惑となる行為は厳禁とする		
教科書	必要に応じて紹介する		
指定図書	なし		
参考図書	必要に応じて紹介する		
オフィスアワー	講義に関する質問は講義終了後に受け付ける	メールアドレス	

授業科目	心理学統計法Ⅰ【講義】	開講時期	後期
担当教員	赤須 大典	単位	2
授業の目的と概要	人間の行動を正しく理解するためには、観察者の主観的かつ直感的な判断のみに頼ることは適切ではない。観察や調査によって人間の行動を測定し、それに関するデータを採取し分析することで客観的に捉えることが必要である。そうすることによって誤った信念や思い込みを排除し、より適切な行動への対処が可能になるからである。本授業では、統計学に関して最低必要限な知識を学びつつ、より実践・応用的な“道具”としての統計学を学習する。		
到達目標	1 統計学に関する基礎的な知識を習得することができる。 2 科学的なデータの基礎的な分析方法を実践することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	統計についてのいろいろな知識	資料をまとめるためのA4サイズのフォルダを用意しておくこと。	
第2回	代表値（平均値、中央値、最頻値） 統計解析に関するEXCEL操作	代表値の求め方の復習	
第3回	分散と標準偏差	分散と標準偏差の求め方の復習。分散と標準偏差の区別をつける	
第4回	データの種類とサンプリング、正規分布	授業内容の理解	
第5回	第4回までのまとめ 統計ソフトウェアの紹介	統計ソフトのダウンロード	
第6回	標準化	標準化の計算に慣れておく	
第7回	相関 -理論-	授業内容の理解	
第8回	相関 -実践-	実際に相関分析をやってみる	
第9回	$\chi^2$ 乗検定	実際に $\chi^2$ 乗検定をやってみる	
第10回	t検定	実際にt検定をやってみる	
第11回	分散分析 -理論-	授業内容の理解	
第12回	分散分析 -1 要因分散分析-	実際に分散分析をやってみる	
第13回	分散分析 -2 要因分散分析-	実際に分散分析をやってみる	
第14回	論文・レポートへの分析結果の記述法	これまでの授業内容をあてはめて考える	
第15回	全体のまとめ	全体の総見直しと試験の準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	70% レポート形式で出題		
レポート	0%		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	30% 主として出席。欠席に関してやむを得ぬ事情（実習や交通機関の乱れなど）がある場合は考慮する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	表計算ソフト（EXCEL）を使用してデータ整理を行うことが、実際の統計解析でも一般的な作業としてあげられる。そのため、各人Excelについて基本的な機能を使いこなせるようになっておくこと。		
教科書	特に指定しない		
指定図書	特に指定しない		
参考図書	特に指定しない		
オフィスワーカー	授業終了後にご相談ください	メールアドレス	

授業科目	心理学統計法Ⅱ【講義】	開講時期	前期
担当教員	岡嶋 一郎	単位	2
授業の目的と概要	心理学で用いられる代表的な統計手法を、「いつ使用するか」「どう使用するか」について、統計解析ソフト（SPSS）を使って実践的に学びます。また、実践的に学びながら、統計学に関する基礎的な知識の深化をはかります。これらによって、人間の行動や感情の仕組みや変化を、客観的に把握・評価する方法や技術を習得していきます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 統計学に関する基礎的な知識を、求めに応じて披露することができる。</li> <li>2 心理学で用いられる統計手法を、研究の目的やデータの性質によって選択することができる。</li> <li>3 統計解析ソフト（SPSS）を、求めに応じて時間内に作動させることができる。</li> <li>4 統計解析の結果を、求めに応じて記述することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心（3）-②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>関連する科目：心理学統計法Ⅰ</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 ガイダンス ※ 心理学統計法Ⅰの資料をお持ちの方は、持参ください。		心理学統計法Ⅰの復習	
第2回 SPSSをまず使ってみる（度数分布、記述統計）		代表値・分散・正規分布について、心理学統計法Ⅰの資料等で確認しておく	
第3回 クロス集計と $\chi^2$ 検定		$\chi^2$ 検定について、心理学統計法Ⅰの資料等で確認しておく	
第4回 データの入力と加工		配布プリントを熟読して、予習しておく	
第5回 t検定		t検定について、心理学統計法Ⅰの資料等で確認しておく	
第6回 分散分析（1要因被験者間分散分析）		1要因分散分析について、心理学統計法Ⅰの資料等で確認しておく	
第7回 分散分析（1要因被験者内分散分析）		1要因分散分析について、心理学統計法Ⅰの資料等で確認しておく	
第8回 分散分析（2要因被験者間分散分析）		2要因分散分析について、心理学統計法Ⅰの資料等で確認しておく	
第9回 分散分析（2要因被験者内分散分析）		2要因分散分析について、心理学統計法Ⅰの資料等で確認しておく	
第10回 相関分析		相関について、心理学統計法Ⅰの資料等で確認しておく	
第11回 因子分析		配布資料を熟読し、因子分析を予習しておく	
第12回 重回帰分析		配布資料を熟読し、重回帰分析を予習しておく	
第13回 クラスタ分析		配布資料を熟読し、クラスタ分析を予習しておく	
第14回 総合演習		これまでの配布資料を熟読する。課題のデータを分析する	
第15回 まとめ		これまでの配布資料を熟読する。課題のデータを分析する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	80％ 学んだことの確認・応用問題として出題します。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20％ 講義対する意欲や参加態度も考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	配布プリントはA4サイズのファイルに綴じ、毎回持参してください。心理学統計法Ⅰを受講しておいてください。		
教科書	教科書は特に指定せず、毎回講義プリントを配布します。		
指定図書	なし		
参考図書	適宜紹介します。		
オフィスアワー	授業終了後に相談ください。	メールアドレス	

授業科目	心理基礎ゼミナール【演習】	開講時期	後期
担当教員	浅田 淳一・日高 崇博	単 位	2
授業の目的と概要	「心理基礎ゼミナール」は、前期の「基礎ゼミナール」に引き続いて大学で学ぶことの意義と大学で心理学を中心とした内容を、学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと」「大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること」「自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること」「レポートやオーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと」などが含まれています。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を学びの場として活用することができる。</li> <li>・それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。</li> <li>・問題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>・自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる。</li> <li>・自分の希望するキャリアの中で、大学生生活の意義を発見することができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回：前期の様々な講義を聞いた上での自分の中での問題点を、アンケートの形で収集し議論する。		自分なりに大学での勉強の仕方に関する問題点を反省してみる。	
第2回：様々な講義の受講に関するアンケートから分かる問題点に関して、解決策を考える。		問題に対する解決策を自分なりに考えてみる。	
第3回：前期の発表とレポートを振り返り、難しかった点などを取り上げて、改善点などを検討する。 レポートの課題の提示		自分なりに後期のレポートの課題を探す。	
第4回：講師が、自分の読書体験を紹介しつつ、読書の魅力について考え、読書課題（本の推薦）を説明する。		各自、読みたい本を選び、読書を開始する。	
第5回：本専攻を卒業した先輩方を招き、専門を社会の中でどのように活かしているかを学ぶ。（合同）		各自、卒業後の自分の姿について、考えてみる。	
第6回：本専攻を卒業した先輩方を招き、専門を社会の中でどのように活かしているかを学ぶ？（合同）		各自、卒業後の自分の姿について、考えてみる。	
第7回：本専攻を卒業した先輩方を招き、専門を社会の中でどのように活かしているかを学ぶ（合同）		各自、卒業後の自分の姿について、考えてみる。	
第8回：第4回講義で提示された課題に対する解答から優秀作品を選び、本の魅力についてプレゼンしてもらう。		プレゼンされた内容について考え、改善点などを各自検討する。	
第9回：前期で行った発表に関する反省点についてアンケートを行い、問題点を集約し議論する。		具体的にプレゼンの仕方を考えて、レポートの形で次週提出	
第10回：よりよい発表（プレゼン）の仕方について、具体例（レポートから抽出）を挙げながら皆で議論する。		各自、自分なりにプレゼン方法についてさらに工夫してみる。	
第11回：学内で様々な活動をしている先輩たちを招き、課外活動の重要性と面白さを学ぶ？（合同）		自分なりに課外活動の可能性について考えてみる。	
第12回：学内で様々な活動をしている先輩たちを招き、課外活動の重要性と面白さを学ぶ？（合同）		自分なりに課外活動の可能性について考えてみる。	
第13回：大学での今後の生活から卒業後の人生までも含めて、自分の将来のイメージについて、皆で考えてみる。（合同）		自分の将来の姿について、幾つかの観点から思いを巡らせてみる。	
第14回：第13回の講義を踏まえて、大学の四年間について、自分なりの目標を立ててみる。		これからの大学生活でやってみたいこと取り組んでみたいことを考える	
第15回：第14回講義の成果を踏まえて、大学四年間の自分なりのポートフォリオを作成する。		第3回講義で設定した課題についてレポートを作成する。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	50%		
小テスト等	20%		
成果発表	20%		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	アクティブ・ラーニング型の授業なので、積極的に授業に参加することに心がけること。		
教科書	『よくわかる学びの技法』田中共子編（ミネルヴァ書房）		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス	

授業科目	心理実習Ⅰ【実習】	開講時期	後期
担当教員	酒井(均)・大鷲(香)・針塚(進)・森田(理)・神(祐)・日高(崇)	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本実習は、臨床心理学的な支援を行う現場の実習を中心に行う。福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野に関する施設において各施設の心理臨床的位置づけの差異に注目する一方、これらの現場に通ずる支援の基本的要素にも留意しながら見学を行い、その中で実践的な知識・技能を学ぶ。また、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務においても理解を深める。</p> <p>心理実習Ⅰでは、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、および産業労働分野についての4領域における施設の見学実習を行う。15人以下のグループに分かれ、それぞれのグループに教員が1名以上担当し、各施設への引率は実習担当教員が行う。</p>		
到達目標	<p>(1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて理解する  (2) 多職種連携及び地域連携について理解する  (3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務について理解する</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>担当教員の中には心理相談・特別支援教育の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回：心理実習とは	第2回：公認心理師としての職業倫理と法的義務	授業の振り返り	
第3回：福祉分野での心理師の役割、第4回：福祉実習機関・施設の理解	－利用者理解と支援内容	福祉施設に関する事前学習（レポート）	
第5回：福祉施設での実習	、第6回：福祉施設実習の振り返り	福祉施設の実習に関するレポート	
第7回：福祉分野での多職種連携・地域連携への理解、第8回：教育分野での心理師の役割		授業の振り返り	
第9回：教育実習機関・施設の理解	－利用者理解と支援内容	教育施設に関する事前学習（レポート）	
第10回～第13回	教育施設での実習、第14回：教育施設実習の振り返り	教育施設の実習に関するレポート	
第15回：教育分野での多職種連携・地域連携への理解		授業の振り返り	
第16回：司法・犯罪分野での心理師の役割、第17回：司法・犯罪分野における実習機関・施設の理解	①－利用者理解と支援内容	司法・犯罪分野における機関・施設に関する事前学習（レポート）	
第18回：司法・犯罪分野における施設での実習、第19回：司法・犯罪分野における施設実習の振り返り		司法・犯罪分野における機関・施設の実習に関するレポート	
第20回：司法・犯罪分野での多職種連携・地域連携への理解		授業の振り返り	
第21回：産業・労働分野での心理師の役割、第22回：産業・労働分野における施設の理解	－利用者理解と支援内容	産業・労働分野に関する事前学習（レポート）	
第23回：産業・労働分野における施設での実習、第24回：産業・労働分野における施設実習の体験への振り返り		産業・労働分野における実習に関するレポート	
第25回：産業・労働分野での多職種連携・地域連携への理解、第26回：地域の相談室等についての理解		授業の振り返り	
第27回、第28回	臨床心理センターでの実習	学内施設における実習に関するレポート	
第29回、第30回	実習体験のグループ討議（1）施設理解について（2）今後の自分の課題	最終レポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60％		
小テスト等	なし		
成果発表	20％（振り返りのディスカッション）		
受講態度他	20％（見学実習時の態度・姿勢）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この科目を履修するためには実習諸経費の納入が必要になります。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス	



授業科目	心理実習Ⅱ【実習】		開講時期	後期
担当教員	酒井(均)・大鷲(香)・針塚(進)・榊(祐)・森田(理)・日高(崇)		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本実習では保健医療の現場である総合病院、精神科病院、精神科クリニック等で5日間の見学実習を行う。心理面接、心理検査などを通して心理状態の観察及び分析ならびに必要な支援についての実践的な知識、技能を学ぶ。また、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務においても理解を深める。</p> <p>事前・事後指導は15人以下のグループにつき1名以上の実習担当教員による指導が行われる。施設においては実習指導者による指導を受け、実習担当教員による週1回以上の巡回指導を行う。</p>			
到達目標	<p>①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて理解する  ②多職種連携及び地域連携について理解する  ③公認心理師としての職業倫理及び法的義務について理解する</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>担当教員の中には心理相談・特別支援教育の実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	保健医療分野での心理師の役割、職業倫理	レポート		
第2回	医療機関での心理師の職務、多職種連携	事前学習書類の作成		
第3回	実習書類について	実習書類の作成		
第4回	実習施設についての理解	実習書類の作成		
第5回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成		
第6回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成		
第7回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成		
第8回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成		
第9回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成		
第10回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成		
第11回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成		
第12回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成		
第13回	見学実習 (8時間×5日間)	実習日誌作成		
第14回	医療機関での実習の振り返り	実習終了レポートの作成		
第15回	保健医療分野での多職種連携・地域連携への理解	実習報告書の作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	100%実習指導者の評価および実習記録の評価を基準に、実習指導担当教員が評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この科目を履修するためには実習諸経費の納入が必要です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	心理実習指導【演習】	開講時期	後期
担当教員	森田 理香・大霧 香・日高 崇博	単 位	1
授業の目的と概要	本科目は心理実習ⅠⅡの事前指導を目的とする。実習の意義、位置づけ、各分野の特徴と心理業務についての理解を深める。また、実習に際しての倫理、知識、記述及び記録法についての理解を深める。		
到達目標	(1) 心理実習の意義や目的、内容が説明できる。 (2) 実習施設の目的や役割について説明することができる。 (3) 実習の計画、記録の方法や内容について理解することができる。 (4) 実習内容を理解し、自己の実習課題を明確にすることができる。 (5) 心理師としての職業倫理、法的義務について説明できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	心理実習の意義・目的	実習の手引きの精読	
第2回	実習の年間の流れ、実習計画について	教科書第2章の精読	
第3回	心理実習の内容	教科書第8章の精読	
第4回	実習の留意点①：実習における基本的態度	実習の手引き、教科書第4章の精読、レポート①	
第5回	実習の留意点②：実習における遵守事項	実習の手引き、教科書第4章の精読、レポート①作成	
第6回	実習機関・施設の理解（医療分野）	教科書第1章の精読、レポート②作成	
第7回	実習機関・施設の理解（教育分野）	レポート③作成	
第8回	実習機関・施設の理解（産業・労働分野）	レポート④作成	
第9回	実習機関・施設の理解（福祉分野）	レポート⑤作成	
第10回	実習機関・施設の理解（司法・犯罪分野）	レポート⑥作成	
第11回	実習施設との事前打ち合わせについて	実習書類の作成	
第12回	実習関係書類の内容について（事前学習・実習生紹介票・誓約書）	実習書類の作成	
第13回	実習日誌について①（4分野：見学実習）	レポート⑦作成	
第14回	実習日誌について②（病院実習）	レポート⑦作成	
第15回	自己課題の明確化	レポート⑧作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	80％		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	今年度、心理実習ⅠⅡを履修する人のための授業です。遅刻、無断欠席厳禁。やむを得ない事情がある場合は、必ず、事前連絡すること。		
教科書	鈴木伸一（編集代表）『公認心理師養成のための保健・医療系実習ガイドブック』北大路書房		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に指示する		
オフィスワーカー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス	

授業科目	心理専門ゼミナール【演習】		開講時期	後期
担当教員	酒井(均)・大鷲(香)・針塚(進)・榊(祐)・森田(理)・宇治(和)・浅田(淳)・日高(崇)		単 位	2
授業の目的と概要	<p>心理学やその関連領域に関するテーマ設定し、文献研究を通して学習を深化することができる。調べた成果を発表し、討論することができる。</p> <p>個々の学生が選択したテーマを元に文献研究等で学習した成果をまとめ発表していく。その後、学生相互の討論や教員からの助言を通して、さらに深化させていく。</p>			
到達目標	<p>① 心理学やその関連領域について関心のあるテーマを設定し、先行研究の文献検索が適切に行なえる</p> <p>② 先行研究をまとめ、効果的な発表できる。</p> <p>③ 卒業ゼミナールに向けて、問題を解決、考察するための研究計画を立てることができる</p> <p>④ 他者の発表に対して創造的、論理的意見を述べ、議論を深めることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			各自研究テーマについて調べておく。	
第2回 テーマの設定			テーマに関する先行研究の検索	
第3回 先行研究の整理			先行研究の講読	
第4回 発表・討論①： 先行研究の整理、問題点の明確化 (グループ①)			先行研究についてまとめたレジュメを作成	
第5回 発表・討論②： 先行研究の整理、問題点の明確化 (グループ②)			先行研究についてまとめたレジュメを作成	
第6回 発表・討論③： 先行研究の整理、問題点の明確化 (グループ③)			先行研究についてまとめたレジュメを作成	
第7回 研究計画の作成			研究テーマを具体化するための計画を作成	
第8回 発表・討論①： 研究計画について、途中経過の発表、検討 (グループ①)			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第9回 発表・討論②： 研究計画について、途中経過の発表、検討 (グループ②)			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第10回 発表・討論③： 研究計画について、途中経過の発表、検討 (グループ③)			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第11回 発表・討論④： 研究計画について、途中経過の発表、検討 (グループ④)			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第12回 発表・討論⑤： 研究計画について、途中経過の発表、検討 (グループ⑤)			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第13回 発表・討論⑥： 研究計画について、途中経過の発表、検討 (グループ⑥)			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第14回 発表・討論⑦： 研究計画について、途中経過の発表、検討 (グループ⑦)			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第15回 まとめ			復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
小テスト等	なし			
成果発表	30% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
受講態度他	30% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回の出席は必須条件、遅刻も厳禁</p> <p>資料の丸写し、インターネットを用いてのコピー&amp;ペーストは厳禁</p> <p>自分の見解を加味した上で資料を作成し発表を行う。</p>			
教科書	各担当教員による			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	浅田:火を除く昼休、酒井:火昼休、洪田:水4、大鷲:月5、,榊:火2、森田:火2、宇治:火水昼休、針塚水	メールアドレス		

授業科目	心理的アセスメントⅠ【演習】	開講時期	前期
担当教員	森田 理香	単 位	2
授業の目的と概要	心理臨床においては、こころに悩みや課題を抱えた人に対する援助の方針を決定するために、対象となった人を客観的に理解することが求められる。対象者を理解するために行う一連の作業をアセスメントという。本講義ではアセスメントに必要な基本的な姿勢、そして、人を理解するための技法について理解を深める。さらに、子どもの特徴によってどのアセスメント技法が有効であるかについて判断できるようにする。乳幼児・児童を対象とした発達検査や知能検査の理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人を理解する上で必要な基本姿勢について説明することが出来る。</li> <li>2. アセスメントの方法（観察法、面接法、心理検査法）について、簡潔な文章で説明することが出来る。</li> <li>3. 発達検査、知能検査の種類、特徴について説明することが出来る。</li> <li>4. 対象者の特徴やアセスメントの目的に応じて、適切な検査を判断することが出来る。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回 オリエンテーション		授業の進め方、レポート提出の仕方など確認	
第2回 心理アセスメントとは		心理アセスメントとは何かについてレポートにまとめる	
第3回 心理アセスメントにおける倫理		心理アセスメントにおける倫理的配慮についてまとめる	
第4回 アセスメントの方法		アセスメントにはどのような方法があるか、復習する	
第5回 心理アセスメントを行う実践場面		心理臨床におけるアセスメントの位置づけについてまとめる	
第6回 面接法の実践		面接法の方法の違いによるそれぞれの特徴についてまとめる	
第7回 観察法の実践		観察記録の提出	
第8回 心理検査の種類		心理検査にはどのようなものがあるか復習する	
第9回 発達検査：遠城寺式乳幼児発達検査		発達検査についてまとめ	
第10回 発達検査：新版K式発達検査法		発達検査についてまとめ	
第11回 乳幼児健診における心理師の役割		ウェクスラー式知能検査について復習	
第12回 知能検査：ウェクスラー式知能検査の概要		知能検査について復習	
第13回 知能検査：ウェクスラー式知能検査の活用		知能検査について復習	
第14回 田中ビネー知能検査V		知能検査について復習	
第15回 まとめ		この授業に関するまとめ	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	100％ 5～6回、レポート課題を提示します		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし 積極的な態度で受講すること		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	グループでの学習を行いますので、遅刻、欠席に関しては厳しく対応します。主体的、協力的に授業に参加することを求めます。		
教科書	特になし		
指定図書	特になし		
参考図書	松原達哉・楡木満生 共編『臨床心理アセスメント演習』培風館		
オフィスアワー	月曜昼休み	メールアドレス	

授業科目	心理的アセスメントⅡ【演習】	開講時期	後期
担当教員	石井 洋平	単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業では、人格理解の1つの方法としてのパーソナリティ・テストを、実際に被験者として体験し、自分自身を客観的に分析することを試みます。</p> <p>また、心理テストを実際に体験するなかで、心理アセスメントの意義や限界を理解し、危険性についての認識を深める。</p> <p>8人程度の小グループを作り、グループ学習の形態をとります。各グループごとに、4種類の心理テストのうちのどれか一つを担当者となって、詳しく事前学習し、各グループでの指導者となって、テストの整理分析方法や解釈の仕方について説明を行う。教員からは、必要に応じて補足説明を行う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パーソナリティ・テストの仕組みについて説明できるようになる。</li> <li>2. パーソナリティ・テストの実施方法、結果の整理・分析の仕方が分かる。</li> <li>3. テスト結果に基づき、自分のパーソナリティについて客観的理解を深める。</li> <li>4. 得られた結果から、パーソナリティ・アセスメントを報告書の形にまとめることができるようになる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回	オリエンテーション：演習の進め方と諸注意、心理テストの倫理について	参考書・参考資料を読書	
第2回	心理アセスメントの目的と方法 ー臨床心理学の中での心理アセスメントの役割	参考書・参考資料を読書	
第3回	パーソナリティーについてーその考え方と把握の仕方ー	参考書・参考資料を読書	
第4回	質問紙法1：Y-G性格検査の体験と結果の整理・分析	レジュメ作成 報告書①	
第5回	質問紙法2：Y-G性格検査の結果の整理・分析	レジュメ作成 報告書①	
第6回	質問紙法3：新型TEGⅡの体験と結果の整理・分析	レジュメ作成 報告書②	
第7回	質問紙法4：新型TEGⅡの結果の解釈と理論的説明	レジュメ作成 報告書②	
第8回	作業検査法1：クレペリン検査の体験	レジュメ作成 報告書③	
第9回	作業検査法2：クレペリン検査の結果の整理と分析	レジュメ作成 報告書③	
第10回	投影法1：投影法の紹介と解説、SCTの施行方法と実施	レジュメ作成 報告書④	
第11回	投影法2：SCTの結果分析と解釈	レジュメ作成 報告書④	
第12回	投影法3：バウムテストの体験	レジュメ作成 報告書⑤	
第13回	投影法4：バウムテストの結果の分析と解釈	レジュメ作成 報告書⑤	
第14回	投影法5：ロールシャッハ・テストの説明	参考資料を読書	
第15回	まとめ：テストバッテリーの考え方	参考資料を読書	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% 各検査についてのレポートを提出すること。		
小テスト等	なし		
成果発表	20% グループ内での担当部分の資料(レジュメ)作成と解説の内容。		
受講態度他	20% 履修規定10条(2)に従う。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自ら被験者となって、実際に心理テストを体験します。心理テストは、こころの内側を覗き見ることになりますから、テストの実施については、真剣な取り組み、得られた結果についての慎重な取り扱いを求めます。		
教科書	使用しない		
指定図書	なし		
参考図書	赤塚大樹ほか著『心理アセスメント』培風館 ほか(必要に応じ授業中に適宜紹介)		
オフィスアワー	講義の前後に相談ください。	メールアドレス	

授業科目	心理統計法特論【講義】	開講時期	後期
担当教員	池田 浩	単 位	2
授業の目的と概要	心理学では実証的な方法によって研究が行われるため、各種統計的な方法が利用されている。心理学の研究を理解し、さらに独自に研究を行うためには統計的な方法に関する知識が必要となる。そこで、本講義では、さらに代表的な統計解析ソフトウェアを利用した実習を通してデータ解析のスキルを身につける。		
到達目標	心理学の研究を理解するうえで必要な統計的な方法に関して、その理論や応用について学ぶ。		
この授業が目的として いるDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</p> <p>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</p> <p>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</p> <p>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	心理統計法とは 実証科学における統計的方法の必要性や、データとは何かまたデータの尺度水準について学ぶ。	尺度水準とは何かについて復習する。	
第2回	表とグラフ 図と表による集計の仕方について学ぶ。	統計ソフトウェアを利用して表とグラフを作成する。	
第3回	代表値と散布度 平均や分散といった記述統計の指標の持つ意味や計算方法について学ぶ。	統計ソフトウェアを利用して代表と散布度を計算する。	
第4回	相関 相関とは何か、相関係数の求め方、相関係数を解釈する上での注意点、相関係数に影響を与える要因	統計ソフトウェアを利用して相関を計算する。	
第5回	統計的仮説検定1 独立1標本の母平均の検定を取り上げ、検定の基本的な考え方について学ぶ。	統計ソフトウェアを利用して検定を行う。	
第6回	統計的仮説検定2 独立ならびに対応のある2標本の平均の差の検定を取り上げ、具体的な分析方法について学ぶ。	統計ソフトウェアを利用して検定を行う。	
第7回	回帰分析 回帰分析とは何か、回帰直線の求め方、予測の標準誤差、決定係数について学ぶ。	統計ソフトウェアを利用して回帰分析を行う。	
第8回	重回帰分析 重回帰モデル、重相関係数、モデル全体の評価、偏回帰係数の検定といった理論について学ぶ。	統計ソフトウェアを利用して重回帰分析を行う。	
第9回	重回帰分析2 偏回帰係数を利用した結果の解釈並びに留意点、パス解析との関係、分析するにあたっての留意点	統計ソフトウェアを利用して重回帰分析を行う。	
第10回	因子分析1 構成概念と潜在変数、質問紙調査と因子分析、因子分析の基本モデルを通して因子分析の基本的な考	統計ソフトウェアを利用して因子分析を行う。	
第11回	因子分析2 分析時の留意点（因子数の決定、変数選択、回転の選択）、結果の解釈の仕方など応用について学ぶ	統計ソフトウェアを利用して因子分析を行う。	
第12回	分散分析 実験と分散分析、2標本の検定との違い、さらに1要因分散分析モデルを通して分散分析の基本的な考	統計ソフトウェアを利用して分散分析を行う。	
第13回	分散分析2 2要因分散分析モデル（交互作用、単純主効果も含む）、実験参加者内要因・実験参加間要因を扱っ	統計ソフトウェアを利用して分散分析を行う。	
第14回	構造方程式モデリング 構造方程式モデリングについて理論や概念について学ぶ。	統計ソフトウェアを利用して構造方程式モデリングを行う。	
第15回	まとめ 心理学研究において利用される統計的方法全般について学ぶ。	心理学で用いられる統計的方法について名称と内容について整理する。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	70% 授業で習得した統計的方法を利用したデータ解析に関する課題と統計的方法に対する自分自身の考えに関する課題		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30% 授業中に与えられた実習課題や参加態度		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義だけでなく、コンピュータを利用した実習も行います。実習課題がありますので、欠席しないようにしてください。実習に必要なデータは筑女ネットからダウンロードできるようにする予定です。		
教科書	なし。統計ソフトウェアを使った各分析方法については、スライドを配布いたします。		
指定図書	なし		
参考図書	小宮あすか・布井雅人（2018）. Excelで今すぐはじめる心理統計：簡単ツールHADで基本を身につける 講談社 中村知靖・前田忠彦・松井仁（2007）. 心理統計法への招待—統計をやさしく学び身近にするために— サイエンス社		
オフィスアワー	授業前後	メールアドレス	

授業科目	心理文献講読【講義】	開講時期	後期
担当教員	浅田 淳一	単 位	2
授業の目的と概要	<p>心理学の文献を正確に読解し、適切な日本語に翻訳できるようになること。また、それによって、心理学を引き続き研究できる他本学を含めた大学院を受験して合格できる英語の読解力を身につけること。</p> <p>心理学の入門書 Introduction To Psychology(Ann L. Weber)を、各自で読んで適切な日本語に翻訳し、毎時間ごとにその翻訳をチェックしながら、英文法を復習し、心理学の英語文献の翻訳に慣れていくことを目指す。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の基本的な文法を理解し、その知識を英語の翻訳に適宜応用することができる。</li> <li>2. 心理学の基本的な概念を英語で理解することができる。</li> <li>3. 心理学の基本的な用語を英語で覚えていることができる。</li> <li>4. 大学院の英語の入試問題を、辞書を使って時間をかければ読解し翻訳することができる。</li> <li>5. 何故、そのように翻訳したかを、文法的に説明することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	本講義の目的と授業補法についての説明とテキストの配布	Text予習	
第2回	Preface	Text予習 (v - vi)	
第3回	Chap1. The Origins and Scope of Psychology① (Introduction)	Text 予習 (p. 1-2)	
第4回	Chap1. The Origins and Scope of Psychology②(The History of Psychology)	Text予習 (p. 3-8)	
第5回	Chap.1 The Origins and Scope of Psychology③(Professional Psychology)	Text予習 (p. 9-12)	
第6回	Chap.1 The Origins and Scope of Psychology④(Therapeutic Roots of Psychology)	Text予習 (p. 13-15)	
第7回	Chap.1 The Origins and Scope of Psychology⑤(Popular Psychology)	Text予習 (p. 15-18)	
第8回	Chap.2 Research Methods and Statistics①(Basic and Applied Research)	Text予習 (p. 19-20)	
第9回	Chap.2 Research Methods and Statistics②(The Experimental Method)	Text予習 (p. 20-24)	
第10回	Chap.2 Research Methods and Statistics③(Other Research Methods)	Text予習 (p. 24-26)	
第11回	Chap.2 Research Methods and Statistics④(Methods of Analysis)	Text予習 (p. 26-30)	
第12回	Chap.3 The Physiological Basis of Behavior①(The Nervous System)	Text予習 (p. 31-34)	
第13回	Chap.3 The Physiological Basis of Behavior②(The Central Nervous System)	Text予習 (p. 34-38)	
第14回	Chap.3 The Physiological Basis of Behavior③(The Endocrine System)	Text予習 (p. 39-40)	
第15回	Chap.3 The Physiological Basis of Behavior④(Resume)	Text予習 (p. 40-41)	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	0%		
小テスト等	0%		
成果発表	80% 到達目標の各項目をその都度チェックする。		
受講態度他	20% 遅刻などせず、講義に集中して受講しているか。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講は、本気で大学院受験を考えている学生に限る。特に大学院を目指さない学生の参加も認めるが、しっかり予習して来ない学生は、途中で受講を禁ずる場合もある。		
教科書	コピー資料を配布		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス	

授業科目	心理療法特論【講義】		開講時期	前期
担当教員	森田 理香		単位	2
授業の目的と概要	心理療法にはさまざまな学派やアプローチがある。それらを概観し、心理療法に必要な考え方や基本姿勢を身につける。そして、心理療法における枠組み、面接の流れ、等について理解する。さらに、非言語的なアプローチ、言語的なアプローチ、遊技療法など、それぞれ特性を理解し、心理に関する支援を要する人にどう適用するかについて考える。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理療法に必要な考え方や基本姿勢を身につける</li> <li>2. 主要な心理療法について説明できる</li> <li>3. それぞれの心理療法の特性を理解し、心理に関する支援を要する人に適用することが出来る</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	心理療法とは何か		心理療法について調べ、発表資料作成	
第2回	心理療法の目指すもの		発表資料作成	
第3回	心理療法の枠組み		発表資料作成	
第4回	心理療法の進め方		発表資料作成	
第5回	心理テストとのかかわり		発表資料作成	
第6回	心理療法：言語的アプローチ		発表資料作成	
第7回	心理療法：非言語的アプローチ		発表資料作成	
第8回	心理療法：遊技療法		発表資料作成	
第9回	親面接		発表資料作成	
第10回	スーパーヴィジョンと事例検討について		発表資料作成	
第11回	模擬カウンセリング：方法		レポート：体験の報告	
第12回	模擬カウンセリング：実際		レポート：体験の報告	
第13回	事例検討（1）カウンセリング		文献から事例を選び、発表資料作成	
第14回	事例検討（2）：非言語的アプローチ		文献から事例を選び、発表資料作成	
第15回	授業のまとめ		まとめのレポート	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 2～3回の体験レポート、学期末のレポート			
小テスト等	なし			
成果発表	40% 授業内での発表			
受講態度他	30% ディスカッションへの参加、発言			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	基本的に受講生が事前に調べた内容を発表する形で授業をすすめます。積極的な参加を求めます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜昼休み	メールアドレス		



授業科目	ジャーナリズム論【講義】		開講時期	後期
担当教員	吉野 嘉高		単位	2
授業の目的と概要	<p>今、ジャーナリズムが揺らいでいる。ニュースメディアに対する不信感が、日本だけでなく、世界各国で広がっており、民主主義の原動力としての機能に、新たな問いがいくつも突き付けられている。この授業では、世界同時多発的なメディア不信の現状を俯瞰し、それをもたらした社会的、技術的背景を掘り下げることで、現代ジャーナリズムの課題を浮き彫りにする。</p> <p>また、満州事変以降、新聞や放送メディアが日本社会でどのように機能してきたかを振り返ることで、日本のジャーナリズムの「現在」を「過去」と関連づけて考察する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャーナリズムと民主主義社会との関係について説明できる。</li> <li>・ドイツ、イギリス、アメリカのメディアについて説明できる。</li> <li>・日本の報道機関の特徴と問題点について説明できる。</li> <li>・日本の報道機関の歴史について説明できる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-3 現代社会で活躍するために求められる特定分野の知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は放送関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第 1回	オリエンテーション ジャーナリズムの役割と民主主義社会	予習・復習		
第 2回	ニュースメディアへの不信感① ～ジャーナリズム論受講生の意識は?～	予習・復習		
第 3回	ニュースメディアへの不信感② ～ドイツの場合～	予習・復習		
第 4回	ニュースメディアへの不信感③ ～イギリスの場合～	予習・復習		
第 5回	ニュースメディアへの不信感④ ～米国の場合～	予習・復習		
第 6回	ニュースメディアへの不信感⑤ ～日本の場合～	中間レポート		
第 7回	ニュースメディアとしてのSNS	予習・復習		
第 8回	「客観報道」は客観的なのか① ～エコナクッキングオイル報道～	予習・復習		
第 9回	「客観報道」は客観的なのか② ～反原発報道～	予習・復習		
第10回	記者クラブの構造① 記者は何をやっているのか?	予習・復習		
第11回	記者クラブの構造② メリットとデメリット (前半)	予習・復習		
第12回	記者クラブの構造③ デメリット (後半)	予習・復習		
第13回	日本のジャーナリズムの歴史① ～日露戦争から満州事変～	予習・復習		
第14回	日本のジャーナリズムの歴史② ～太平洋戦争から戦後～	予習・復習		
第15回	まとめ	復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	期末レポート30% 中間レポート20%			
小テスト等	30% (授業の最後に毎回実施)			
成果発表	-			
受講態度他	20% 積極的な受講態度を重視			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>パワーポイントで作成した資料や、映像資料を使います。</p> <p>毎回授業の最後に小テストを実施します。授業を聴いていれば、簡単に答えることができます。</p> <p>1回目以外は、基本的にTeamを使ったリアルタイム授業とします。変更する場合は、連絡します。</p>			
教科書	林香里『メディア不信 何が問われているのか』岩波新書			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	情報科学概論【講義】		開講時期	前期
担当教員	持尾 弘司		単位	2
授業の目的と概要	<p>コンピュータを利用した情報処理の基本的仕組みを理解し、現代社会における「情報」のありかたについて考察することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「情報」という言葉の意味を説明できるようになる。</li> <li>2. コンピュータによる情報処理の基本的仕組みを理解し説明することができるようになる。</li> <li>3. 社会発展の歴史において、情報処理技術がいかなる役割を果たしたかを認識できるようになる。</li> </ol> <p>「情報」とは何かという考察から始めて順次情報科学のトピックを取り上げて行く。また、知識の定着を図るため問題演習を二回実施する。さらに最終回にはまとまった確認テストを行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータの基本原則を説明できる。</li> <li>2. ハードウェアとソフトウェアについて説明できる。</li> <li>3. ネットワーク社会の仕組みと諸問題について説明できる。</li> <li>4. 情報科学の基礎理論について説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  「情報処理基礎演習Ⅰ」「情報処理基礎演習Ⅱ」「情報処理応用演習A」「情報処理応用演習B」「情報処理応用演習C」「情報処理応用演習D」は関連する科目である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：情報とは何か、情報量の概念、デジタルデータ、計算	復習	講義内容	
第2回	情報処理装置1：コンピュータとは、ハードウェアとソフトウェア、入出力装置	復習	講義内容	
第3回	情報処理装置2：処理速度、データ記憶	復習	講義内容	
第4回	情報の表現1：2進数、2進数演算、論理演算	復習	講義内容	
第5回	情報の表現2：文字、数値、画像、音声	復習	講義内容	
第6回	情報の伝送と情報量：誤り検出と訂正、二分決定木	復習	講義内容	
第7回	問題演習1：第1回～第6回内容の確認	復習	第1回～第6回の内容	
第8回	情報の処理1：アルゴリズム（その1 整列）	復習	講義内容	
第9回	情報の処理2：アルゴリズム（その2 探索）	復習	講義内容	
第10回	情報の組織化：永続化、関係データベース、データベース管理システム	復習	講義内容	
第11回	情報の共有1：ネットワークの基本、インターネットとは、自律分散	復習	講義内容	
第12回	情報の共有2：インターネットプロトコル、名前解決、経路制御	復習	講義内容	
第13回	情報セキュリティ：誰から何を守るか、暗号化、公開鍵暗号系	復習	講義内容	
第14回	問題演習2：第7回～第12回内容の確認	復習	第7回～第12回の内容	
第15回	総まとめの確認テスト	復習	第1回～第14回の内容	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30%：問題演習1、2（各々15%） 50%：総まとめの確認テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	20%（欠席1回につき5%減、遅刻は1回につき2%減）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	水曜昼休み	メールアドレス		

授業科目	情報処理応用演習A (Word) 【演習】	開講時期	後期
担当教員	持尾 弘司・一ノ瀬 元史	単位	1
授業の目的と概要	<p>MS Wordはワードプロセッサのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Wordを自在に活用することができる知識と技術を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会で遭遇する様々な局面で的確に文書を作成することができるようになる。</li> <li>2. 決められた様式にしたがって文書を正確に作成できるようになる。</li> <li>3. 類似文書やテンプレートの利用ができるようになる。</li> </ol> <p>毎回数題の問題演習を行い、作成した文書を提出する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会で要求される文書の概要を把握している。</li> <li>2. 文字列、グラフィック、図表とグラフの挿入配置ができる。</li> <li>3. 文字、段落、ページ書式の設定ができる。箇条書きと段落番号の設定ができる。</li> <li>4. ハイパーリンクを設定できる。</li> <li>5. テンプレートの利用ができる。</li> <li>6. 文書の保存管理ができる。</li> <li>7. コメントと変更履歴の管理ができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「情報処理基礎演習Ⅰ」「情報処理基礎演習Ⅱ」は関連する科目である。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション、ビジネス文書の基礎知識、【基礎編】 通知状	予習 p.2～p.5	
第2回	【基礎編】 あいさつ状、招待状、礼状、【応用編】 案内状	予習 p.6～p.12	
第3回	【応用編】 案内状、通知状、あいさつ状、礼状	予習 p.13～p.16	
第4回	【基礎編】 通知状、FAX送付状、見積書	予習 p.17～p.27	
第5回	【基礎編】 納品書、わび状、依頼状、【応用編】 注文書	予習 p.28～p.34	
第6回	【応用編】 請求書、見積書、通知状、送付状	予習 p.35～p.38	
第7回	【応用編】 宛名ラベル、わび状、【基礎編】 報告、連絡	予習 p.39～p.47	
第8回	【基礎編】 連絡、稟議書、議事録、社内報	予習 p.48～p.55	
第9回	【応用編】 報告、連絡、稟議書、議事録	予習 p.56～p.59	
第10回	【応用編】 報告、通達、【基礎編】 企画、提案	予習 p.60～p.69	
第11回	【基礎編】 提案、企画、【応用編】 企画	予習 p.70～p.75	
第12回	【応用編】 提案、【基礎編】 ポスター	予習 p.76～p.83	
第13回	【基礎編】 パンフレット、ポスター	予習 p.84～p.89	
第14回	【応用編】 ポスター、パンフレット	復習 p.90～p.92	
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題	復習 p.2～p.92	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50%：第1回から第14回までの課題 40%：到達度確認演習		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% (欠席1回につき5%減、遅刻は1回につき2%減)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。		
教科書	Wordビジネス活用ドリル 2016対応 (日経BP社)		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	情報処理応用演習A (Word) 【演習】	開講時期	前期
担当教員	持尾 弘司・末吉 智奈佐	単位	1
授業の目的と概要	<p>MS Wordはワードプロセッサのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Wordを自在に活用することができる知識と技術を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会で遭遇する様々な局面で的確に文書を作成することができるようになる。</li> <li>2. 決められた様式にしたがって文書を正確に作成できるようになる。</li> <li>3. 類似文書やテンプレートの利用ができるようになる。</li> </ol> <p>毎回数題の問題演習を行い、作成した文書を提出する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会で要求される文書の概要を把握している。</li> <li>2. 文字列、グラフィック、図表とグラフの挿入配置ができる。</li> <li>3. 文字、段落、ページ書式の設定ができる。箇条書きと段落番号の設定ができる。</li> <li>4. ハイパーリンクを設定できる。</li> <li>5. テンプレートの利用ができる。</li> <li>6. 文書の保存管理ができる。</li> <li>7. コメントと変更履歴の管理ができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「情報処理基礎演習Ⅰ」「情報処理基礎演習Ⅱ」は関連する科目である。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション、ビジネス文書の基礎知識、【基礎編】 通知状	予習 p.2～p.5	
第2回	【基礎編】 あいさつ状、招待状、礼状、【応用編】 案内状	予習 p.6～p.12	
第3回	【応用編】 案内状、通知状、あいさつ状、礼状	予習 p.13～p.16	
第4回	【基礎編】 通知状、FAX送付状、見積書	予習 p.17～p.27	
第5回	【基礎編】 納品書、わび状、依頼状、【応用編】 注文書	予習 p.28～p.34	
第6回	【応用編】 請求書、見積書、通知状、送付状	予習 p.35～p.38	
第7回	【応用編】 宛名ラベル、わび状、【基礎編】 報告、連絡	予習 p.39～p.47	
第8回	【基礎編】 連絡、稟議書、議事録、社内報	予習 p.48～p.55	
第9回	【応用編】 報告、連絡、稟議書、議事録	予習 p.56～p.59	
第10回	【応用編】 報告、通達、【基礎編】 企画、提案	予習 p.60～p.69	
第11回	【基礎編】 提案、企画、【応用編】 企画	予習 p.70～p.75	
第12回	【応用編】 提案、【基礎編】 ポスター	予習 p.76～p.83	
第13回	【基礎編】 パンフレット、ポスター	予習 p.84～p.89	
第14回	【応用編】 ポスター、パンフレット	復習 p.90～p.92	
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題	復習 p.2～p.92	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50%：第1回から第14回までの課題 40%：到達度確認演習		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% (欠席1回につき5%減、遅刻は1回につき2%減)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。		
教科書	Wordビジネス活用ドリル 2016対応 (日経BP社)		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	情報処理応用演習B (Excel) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	持尾 弘司・一ノ瀬 元史		単位	1
授業の目的と概要	MS Excelはスプレッドシートのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Excelを自在に活用する知識と技術を身に付ける。 1. データを的確に記録、整理できるようになる。 2. 記録されたデータを必要に応じて処理できるようになる。 3. 処理結果を要求された形式で適切に表示、出力することができるようになる。 毎回教科書にしたがって順次課題の作成に取り組む。			
到達目標	1. 実社会で遭遇する表計算の概要を把握している。 2. セルへの数値、文字列、画像データ入力や編集ができる。 3. セルの書式設定ができる。 4. ワークシートの整理、ページ設定と印刷等ブック管理ができる。 5. オートフィルタによる抽出や並べ替えができる。 6. 関数を用いたデータ処理ができる。 7. 図表とグラフの作成ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「情報処理基礎演習1」は関連する科目である。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	表作成の基本操作	予習 p. 1～p. 15		
第2回	表を見やすく使いやすくする編集操作	予習 p. 16～p. 29		
第3回	数式・関数を活用した集計表の作成	予習 p. 30～p. 44		
第4回	表示形式や関数を活用した表の作成	予習 p. 45～p. 57		
第5回	定型の表を作成する操作	予習 p. 58～p. 71		
第6回	グラフの基本	予習 p. 72～p. 86		
第7回	目的に応じたグラフの作成と編集	予習 p. 87～p. 103		
第8回	データベース機能の利用	予習 p. 104～p. 117		
第9回	データの抽出	予習 p. 118～p. 131		
第10回	条件を指定した集計・分析	予習 p. 132～p. 142		
第11回	ワークシート間の集計	予習 p. 143～p. 153		
第12回	集計作業の自動化	予習 p. 154～p. 168		
第13回	総合問題演習1：総合1～総合3	復習 p. 1～p. 168		
第14回	総合問題演習2：総合4～総合6	復習 p. 1～p. 168		
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題	復習 p. 1～p. 175		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%：第1回から第12回までの課題 10%：総合問題演習(5%×2) 40%：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10%(欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	情報利活用 表計算 Excel 2016対応(日経BP社)			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	情報処理応用演習B (Excel)【演習】		開講時期	後期
担当教員	末吉 智奈佐		単位	1
授業の目的と概要	MS Excelはスプレッドシートのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Excelを自在に活用する知識と技術を身に付ける。 1. データを的確に記録、整理できるようになる。 2. 記録されたデータを必要に応じて処理できるようになる。 3. 処理結果を要求された形式で適切に表示、出力することができるようになる。 毎回教科書にしたがって順次課題の作成に取り組む。			
到達目標	1. 実社会で遭遇する表計算の概要を把握している。 2. セルへの数値、文字列、画像データ入力や編集ができる。 3. セルの書式設定ができる。 4. ワークシートの整理、ページ設定と印刷等ブック管理ができる。 5. オートフィルタによる抽出や並べ替えができる。 6. 関数を用いたデータ処理ができる。 7. 図表とグラフの作成ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「情報処理基礎演習1」は関連する科目である。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	表作成の基本操作	予習 p.1～p.15		
第2回	表を見やすく使いやすくする編集操作	予習 p.16～p.29		
第3回	数式・関数を活用した集計表の作成	予習 p.30～p.44		
第4回	表示形式や関数を活用した表の作成	予習 p.45～p.57		
第5回	定型の表を作成する操作	予習 p.58～p.71		
第6回	グラフの基本	予習 p.72～p.86		
第7回	目的に応じたグラフの作成と編集	予習 p.87～p.103		
第8回	データベース機能の利用	予習 p.104～p.117		
第9回	データの抽出	予習 p.118～p.131		
第10回	条件を指定した集計・分析	予習 p.132～p.142		
第11回	ワークシート間の集計	予習 p.143～p.153		
第12回	集計作業の自動化	予習 p.154～p.168		
第13回	総合問題演習1：総合1～総合3	復習 p.1～p.168		
第14回	総合問題演習2：総合4～総合6	復習 p.1～p.168		
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題	復習 p.1～p.175		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%：第1回から第12回までの課題 10%：総合問題演習(5%×2) 40%：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10%(欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	情報利活用 表計算 Excel 2016対応(日経BP社)			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	情報処理応用演習B (Excel) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	持尾 弘司		単位	1
授業の目的と概要	<p>MS Excelはスプレッドシートのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Excelを自在に活用する知識と技術を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データを的確に記録、整理できるようになる。</li> <li>2. 記録されたデータを必要に応じて処理できるようになる。</li> <li>3. 処理結果を要求された形式で適切に表示、出力することができるようになる。</li> </ol> <p>毎回教科書にしたがって順次課題の作成に取り組む。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会で遭遇する表計算の概要を把握している。</li> <li>2. セルへの数値、文字列、画像データ入力や編集ができる。</li> <li>3. セルの書式設定ができる。</li> <li>4. ワークシートの整理、ページ設定と印刷等ブック管理ができる。</li> <li>5. オートフィルタによる抽出や並べ替えができる。</li> <li>5. 関数を用いたデータ処理ができる。</li> <li>6. 図表とグラフの作成ができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「情報処理基礎演習1」は関連する科目である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	表作成の基本操作	予習 p. 1～p. 15		
第2回	表を見やすく使いやすくする編集操作	予習 p. 16～p. 29		
第3回	数式・関数を活用した集計表の作成	予習 p. 30～p. 44		
第4回	表示形式や関数を活用した表の作成	予習 p. 45～p. 57		
第5回	定型の表を作成する操作	予習 p. 58～p. 71		
第6回	グラフの基本	予習 p. 72～p. 86		
第7回	目的に応じたグラフの作成と編集	予習 p. 87～p. 103		
第8回	データベース機能の利用	予習 p. 104～p. 117		
第9回	データの抽出	予習 p. 118～p. 131		
第10回	条件を指定した集計・分析	予習 p. 132～p. 142		
第11回	ワークシート間の集計	予習 p. 143～p. 153		
第12回	集計作業の自動化	予習 p. 154～p. 168		
第13回	総合問題演習1：総合1～総合3	復習 p. 1～p. 168		
第14回	総合問題演習2：総合4～総合6	復習 p. 1～p. 168		
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題	復習 p. 1～p. 175		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%：第1回から第12回までの課題 10%：総合問題演習(5%×2) 40%：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10%(欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	情報利活用 表計算 Excel 2016対応(日経BP社)			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	水曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	情報処理応用演習C (Power Point) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	持尾 弘司		単位	1
授業の目的と概要	<p>MS PowerPointはプレゼンテーションソフトのデファクトスタンダードである。本演習では、MS PowerPointを自在に活用できる知識と技術を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要な説明内容をプレゼンテーションの標準形式にまとめることができるようになる。</li> <li>2. PowerPointの多機能を利用して効果的な説明と説得ができるようになる。</li> <li>3. プレゼンテーションに付随する各種資料を適切に準備することができるようになる。</li> </ol> <p>教科書にしたがって順次課題の作成を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会で要求されるプレゼンテーションの概要を把握している。</li> <li>2. 文字列、表、グラフ、図表、図形、グラフィックを挿入配置してスライドを作成できる。</li> <li>3. スライドの書式設定ができる。</li> <li>4. スライドマスタを利用できる。</li> <li>5. 画面切り替えとアニメーションの設定ができる。</li> <li>6. プレゼンテーションの発行ができる。</li> <li>7. 配布資料や発表者ノートの準備ができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「情報処理基礎演習1」は関連する科目である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	プレゼンテーションの企画	予習 p.1～p.16		
第2回	わかりやすいストーリー構成	予習 p.17～p.26		
第3回	必要な情報の収集	予習 p.27～p.39		
第4回	センスアップするレイアウトデザイン	予習 p.40～p.54		
第5回	視覚に訴えるチャート化	予習 p.55～p.73		
第6回	訴求力を上げるカラー化	予習 p.74～p.85		
第7回	数値をアピールする表・グラフ活用	予習 p.86～p.102		
第8回	イメージを伝えるイラスト・写真活用	予習 p.103～p.114		
第9回	発表で魅せるアニメーション	予習 p.115～p.126		
第10回	自信を高める万全な準備 & メッセージが伝わる発表スキル	予習 p.127～p.151		
第11回	信頼を得る質疑応答	予習 p.152～p.164		
第12回	総合問題1	予習 p.1～p.164		
第13回	総合問題2	復習 p.1～p.164		
第14回	総合問題3	復習 p.1～p.164		
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題	復習 p.1～p.173		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%：第1回から第11回までの課題 15%：総合問題(5×3) 45%：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10%(欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	情報利活用 プレゼンテーション PowerPoint 2016対応(日経BP社)			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	水曜日昼休み	メールアドレス		



授業科目	情報処理応用演習D (Access) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	持尾 弘司		単位	1
授業の目的と概要	<p>MS Accessは小規模な関係データベースのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Accessを自在に活用できる知識と技術を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 要求に従って関係データベースを全体設計できるようになる。</li> <li>2. データを記録し永続化することができるようになる。</li> <li>3. 記録データを必要に応じて加工・抽出できるようになる。</li> <li>4. インターフェイスや出力フォーマットを独自設定できるようになる。</li> </ol> <p>教科書にしたがって順次データベースを構築しデータ処理を行う。最後に2回の総合演習を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会で利用される関係データベースの概要を把握している。</li> <li>2. 関係データベースの構築ができる。</li> <li>3. 関係データベース要素の作成と書式設定ができる。</li> <li>4. データ入力と編集ができる。</li> <li>5. クエリによるデータ抽出・加工ができる。</li> <li>6. フォームデザイン、レポートデザインができる。</li> <li>7. 関係データベースの維持管理ができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「情報処理基礎演習1」「情報科学概論」は関連する科目である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、リレーショナルデータベースのはじめ	予習 p.1～p.31		
第2回	データベースとテーブルの作成(その1)：データ型、フィールドプロパティ、主キー、データシート書式	予習 p.33～p.63		
第3回	データベースとテーブルの作成(その2)：インポートとエクスポート、フィルター、リレーションシップ、復習問題	予習 p.64～p.92		
第4回	クエリの作成(その1)：クエリ作成方法、整列、抽出(単一/複合/部分一致/Between)	予習 p.93～p.119		
第5回	クエリの作成(その2)：パラメータクエリ、複数テーブルに基づくクエリ、復習問題	予習 p.120～p.134		
第6回	テーブル正規化：第一正規形(スカラデータ)、第二正規形(部分関数従属)、第三正規形(推移的関数従属)	復習 講義・演習内容		
第7回	リレーションシップと結合属性：主キーと外部キー、内部結合、左外部結合、右外部結合	復習 講義・演習内容		
第8回	参照整合性と連鎖更新・削除：データ更新と整合性、連鎖操作による整合性維持	復習 講義・演習内容		
第9回	フォームの作成と編集(その1)：ツールとウィザード、フィールド追加、コントロールの配置とサイズ	予習 p.135～p.161		
第10回	フォームの作成と編集(その2)：コントロールの種類変更、入力順の変更、復習問題	予習 p.162～p.176		
第11回	レポートの作成と編集：ツールとウィザード、レポートセクション、コントロールの配置とサイズ、宛名ラベル	予習 p.177～p.204		
第12回	いろいろなクエリ：クエリによる集計(集計/クロス集計)、抽出(不一致/重複)	復習 講義・演習内容		
第13回	総合問題1、2、3	予習 p.206～p.215		
第14回	総合問題4、5	予習 p.215～p.219		
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題	復習 p.1～p.219		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%：第1回から第12回までの課題 10%：総合問題(5%×2回) 40%：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10%(欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	Access2016 基礎セミナーテキスト(日経BP社)			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	水曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	情報処理基礎演習Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	持尾(弘)・一ノ瀬(元)・坂根(美)・小川(暢)・富永(信)・末吉(智)		単位	1
授業の目的と概要	<p>社会生活で必須とされるインターネット(情報探索・発信)、ワードプロセッサ、プレゼンテーションソフト、表計算ソフト、データベースの使い方を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータとインターネットについて理解し、情報セキュリティに配慮し、情報モラルを守ることができるようになる。</li> <li>2. 文字データや画像データを利用した文書作成ができるようになる。</li> <li>3. 文字データや画像データを利用してプレゼンテーションをすることができるようになる。</li> <li>4. データを表形式で整理し処理・分析できるようになる。</li> <li>5. データを永続化し探索・活用することができるようになる。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インターネット、情報セキュリティ、情報モラルの概要を説明することができる。</li> <li>2. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。</li> <li>3. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。</li> <li>4. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。</li> <li>5. Accessを用いて、関係データベースを作成し永続的にデータを探索・活用することができる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。  「情報処理基礎演習Ⅱ」「情報科学概論」「情報処理応用演習A」「情報処理応用演習B」「情報処理応用演習C」「情報処理応用演習D」は関連する科目である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	コンピュータとネットワーク：パーソナルコンピュータ、インターネット、Web、情報セキュリティ、情報モラル	予習 p.1～p.58		
第2回	基本的な文書の作成：タッチタイピング、文字変換、ページ設定、文字書式、段落書式	予習 p.62～p.82		
第3回	オブジェクトの取り扱い：脚注、ヘッダーとフッター、表、図・写真、ワードアート	予習 p.83～p.103		
第4回	Word課題作成	復習 p.62～p.103		
第5回	プレゼンテーションの作成：プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図	予習 p.194～p.208		
第6回	プレゼンテーションの構成、書式：発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷	予習 p.209～p.230		
第7回	PowerPoint課題作成	復習 p.194～p.230		
第8回	Excelの基本と関数の利用：データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数	予習 p.108～p.137		
第9回	書式の設定、グラフ：行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け	予習 p.138～p.160 p.184～p.186		
第10回	高度な関数1：RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR	予習 p.161～p.168		
第11回	高度な関数2：LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE	予習 p.168～p.172 p.186～p.188		
第12回	リストデータベース：リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル	予習 p.173～p.183		
第13回	Excel課題作成	復習 p.108～p.190		
第14回	関係データベースの基本：オブジェクト、テーブル、主キー、フィールド定義、並べ替え、抽出	予習 p.234～p.254		
第15回	リレーションシップ、クエリ、入出力：リレーションシップ、選択クエリによる探索と抽出、フォーム、レポート	予習 p.255～p.273		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%：通常提出			
小テスト等	20%：Word課題 10%：PowerPoint課題 30%：Excel課題			
成果発表	なし			
受講態度他	20% (欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	作業中、互いに教え合うことは可。ただし、周りの迷惑にならないように十分注意すること。それ以外の私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。			
教科書	情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2016+Access 2016対応版(オーム社)			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワーク	水曜日昼休み(持尾)、金曜日昼休み(一ノ瀬)、授業の前後(小川、富永、坂根、末吉)	メールアドレス		

授業科目	情報処理基礎演習Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	持尾(弘)・一ノ瀬(元)・坂根(美)・富永(信)・小川(暢)・末吉(智)		単位	1
授業の目的と概要	<p>ワードプロセッサによる高度な文書作成の方法を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字データや画像データを記録し、整理することができるようになる。</li> <li>2. データを活用した高度な文書作成ができるようになる。</li> <li>3. 表やグラフの形でデータを提示することができる。</li> </ol> <p>毎回、テーマに沿って具体的な課題文書を作成する。教科書には細かな手順が記載されているので指示通りに作業を行い、完成したものを提出する。さらに、二回の総合問題演習を行う。最終回に到達度確認テストを実施する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。</li> <li>2. Wordの校正機能によって文書を誤りのないものにし、レビュー機能で変更履歴を管理できる。</li> <li>3. Excelと連携して表やグラフの形でデータを整理・提示することができる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「情報処理基礎演習Ⅰ」「情報処理応用演習A」「情報処理応用演習B」は関連する科目である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	文書の作成と整理：新規文書、文字入力、文字の強調、保存と印刷	予習 p.1～p.14		
第2回	一般的なビジネス文書の作成：基本ルール、インデント、均等割り付け、タブによる位置揃え、ルビ	予習 p.15～p.27		
第3回	シンプルなレポートや報告書の作成：基本ルール、段落書式、罫線、箇条書き、行送り	予習 p.28～p.43		
第4回	表、画像、図形を使った文書の作成(1)：表の挿入、表のレイアウト、画像の挿入、画像のスタイル、図形の作成	予習 p.44～p.58		
第5回	表、画像、図形を使った文書の作成(2)：表のデザイン、セルの書式、ワードアートの作成と編集、図形の編集	予習 p.59～p.76		
第6回	図やグラフで情報を伝える文書：SmartArtの作成と編集、グラフの作成と編集、テキストボックス	予習 p.77～p.89		
第7回	既存のデータを利用した文書の作成：文書の組み合わせ、Excelデータの貼り付け、画像のトリミング、画像の効果設定	予習 p.90～p.102		
第8回	読みやすいレイアウトの長文作成：スタイルによる書式統一、段組、ドロップキャップ、ページ罫線	予習 p.103～p.113		
第9回	効率の良い長文の作成：アウトライン、文書構造の変更、検索と置換、移動、ウィンドウ分割と参照	予習 p.114～p.126		
第10回	長文の編集と加工：表紙、目次、脚注、セクション、ヘッダーとフッター、ページ番号	予習 p.127～p.138		
第11回	共同作業と文書の保護：コメント、変更履歴の記録と反映、異なる文書の比較、文書の保護	予習 p.139～p.151		
第12回	複数の宛先に送付する文書の作成：差し込み印刷、データファイル、差し込みフィールド、宛名ラベル	予習 p.152～p.164		
第13回	総合問題演習：総合問題1、総合問題2、総合問題3	予習 p.165～p.168		
第14回	総合問題演習：総合問題4、総合問題5	予習 p.169～p.172		
第15回	到達度確認テスト	復習 p.1～p.172		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%：通常提出 10%：総合問題演習(各回5%)			
小テスト等	50%：到達度確認テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	20%(欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。			
教科書	情報利活用 文書作成 Word 2016対応(日経BP社)			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワーク	水曜日昼休み(持尾)、金曜日昼休み(一ノ瀬)、授業の前後(小川、富永、坂根、末吉)	メールアドレス		

授業科目	情報メディアの活用【司書教諭】【講義】		開講時期	後期
担当教員	持尾 弘司		単位	2
授業の目的と概要	<p>司書教諭に求められる情報メディアの活用能力を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要に応じ適切な情報メディアを選ぶことができるようになる。</li> <li>2. 個々の情報メディアを使いこなすことができるようになる。</li> <li>3. 情報メディアを学校教育に役立てることができるようになる。</li> <li>4. 情報メディアの利用を促進することができるようになる。</li> </ol> <p>高度情報社会、情報メディアの特性と選択、視聴覚メディアの活用について講義した後、プレゼンテーション、映像、データベース、Webページについて順次課題作成の演習を行う。最後に著作権とその保護について学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 司書教諭に求められる情報リテラシーについて理解している。</li> <li>2. 情報メディアの概要を把握している。</li> <li>3. プレゼンテーションツールを幅広く活用することができる。</li> <li>4. 映像メディアを利用してプロモーションを行うことができる。</li> <li>5. Webを使って情報発信ができる。</li> <li>6. ネットワークを通じたコミュニケーションを促すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>学校図書館司書教諭資格取得のための科目です。 教員免許取得予定者および取得者のみ受講できます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「情報処理応用演習C」「情報処理応用演習D」は関連する科目である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	高度情報社会、学校図書館、情報メディアの特性と選択	復習 講義内容		
第2回	プレゼンテーション課題作成1：データ取り込み、トリミング、スライド作成	予習 オンラインPowerPoint チュートリアル（初級）を実行		
第3回	プレゼンテーション課題作成2：テキスト挿入、場面切替効果、アニメーション	予習 オンラインPowerPoint チュートリアルを（中級）を実行		
第4回	プレゼンテーション課題作成3：ナレーション、効果音、BGM	予習 オンラインPowerPoint チュートリアル（上級前半）を実行		
第5回	プレゼンテーション課題作成4：全体構成、タイミング設定、自動実行設定	予習 オンラインPowerPoint チュートリアル（上級後半）を実行		
第6回	映像編集課題作成1：データ取り込み、タイムライン配置、トリミング	復習 解説内容（映像データフォーマットおよびオーサリングソフトの概要）		
第7回	映像編集課題作成2：場面切替効果、特殊効果、タイトル、エンドロール	復習 解説内容（主要な映像表現手法）		
第8回	映像編集課題作成3：ナレーション、効果音、BGM	復習 解説内容（映像と音の合成）		
第9回	映像編集課題作成4：全体構成、ビルド、フォーラムへの投稿	復習 解説内容（映像編集と映像データの書き出し）		
第10回	データベースと情報検索1：データベースの仕組み、テーブル、主キー、インデックス	予習 オンラインAccessチュートリアル（テーブル）を実行		
第11回	データベースと情報検索2：リレーションシップ、クエリ	予習 オンラインAccessチュートリアル（クエリ）を実行		
第12回	データベースと情報検索3：フォーム、レポート	予習 オンラインAccessチュートリアル（フォーム、レポート）を実行		
第13回	Web課題作成1：トップページの作成、レイアウト、書式、HTML書出し	復習 解説内容（HTTPとHTMLの概要）		
第14回	Web課題作成2：情報検索ページの作成、レイアウト、書式、リンク設定、HTML書出し	復習 解説内容（高機能HTMLエディターの仕組みとWebページ作成）		
第15回	学校図書館メディアと著作権	復習 講義内容		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	25%：プレゼンテーション課題 25%：映像編集課題 10%：データベース課題 10%：Web課題 10%：講義内容確認課題			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%（欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワーク	水曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	女性・ジェンダー論③【講義】	開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合・武藤 桐子・赤枝 香奈子	単位	2
授業の目的と概要	みなさんにとって明快な区分である男女の別は、普遍的・固定的ではなく、社会により異なり歴史的に変化してきたことが明らかとなっています。それをジェンダー（社会的文化的性差）と呼びます。この講義では、まず性差概念を整理したうえで、歴史や現代社会における性差をめぐる事象と諸課題を担当講師三人の専門領域を中心に検討します。はじめに導入を武藤が行い、日本におけるジェンダーについて、家族、労働などの身近な問題を中心に、歴史的視点を取り入れながら理解します。次に喜多村が担当し、異文化におけるジェンダーを多面的に知ることをテーマに、インドを中心にその特徴と諸課題を理解します。最後に赤枝が担当し、歴史におけるジェンダーについて、女性解放運動とのかかわりや、問題の変化や広がり理解します。		
到達目標	①性差概念を理解し、その差異化と制度化の過程、およびその背景を理解し説明できる。 ②日本社会におけるジェンダー問題や諸課題を理解し説明できる。 ③インドにおけるジェンダーのあり方や課題、可能性を理解し説明できる。 ④歴史に見られるジェンダーをめぐる問題やその変化を理解し説明できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	導入Ⅰ：講義のねらいと性差概念のオリエンテーションⅠ	参考映像	
第2回	導入Ⅱ：性差概念のオリエンテーションⅡ	教科書第1章	
第3回	導入Ⅲ：性差概念のオリエンテーションⅡ	教科書第8章	
第4回	日本におけるジェンダー：性別役割分業	教科書第2章unit4、第3章unit10 指定図書②第4章	
第5回	日本におけるジェンダー：働くこととジェンダー	教科書第3章unit7、8、9 指定図書①第3章、第5章 指定図書②	
第6回	日本におけるジェンダー：家族をめぐる制度とジェンダー	教科書第2章unit4 指定図書①第1章	
第7回	日本におけるジェンダー：暴力とジェンダー	教科書第5章unit15 指定図書①第2章、第4章、レポート作	
第8回	異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅠ	指定図書①第3、6、14章（喜多村分）	
第9回	異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅡ	教科書unit19 指定図書②（喜多村分）	
第10回	異文化に見るジェンダー：インドの女性問題と地位向上のあゆみ	教科書unit18 指定図書②第Ⅲ部4（喜多村分）	
第11回	異文化に見るジェンダー：インドの女性の政治経済参加と課題	指定図書③4章（喜多村分）、レポート作成	
第12回	歴史におけるジェンダー：日本における女性解放運動	教科書 unit 5, unit 16, unit 23	
第13回	歴史におけるジェンダー：売買春と戦時下・戦後の性暴力	教科書 unit17, unit 20, unit 21	
第14回	歴史におけるジェンダー：セクシュアリティとジェンダー	教科書 unit3, unit14 指定図書①（赤枝分）	
第15回	歴史におけるジェンダー：多様な性／生のあり方	教科書 unit22, unit24、レポート作成	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	中間および期末レポート(各講師ごとのテーマで作成)計3回 各30% (計90%)		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% (リアクションペーパーによる) なお、各講師ごとの4回の授業について、毎回リアクション・ペーパーを課すので、3回以上提出すること。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日頃から女性・ジェンダーにかかわる新聞・雑誌記事、テレビニュースや番組などに関心を持って準備してほしい。		
教科書	千田有紀他『ジェンダー論をつかむ』有斐閣		
指定図書	①角田由紀子『性と法律』岩波新書 ②高橋準『ジェンダー学への道案内』（喜多村分、赤枝分は女性・ジェンダー論①②を参照）		
参考図書	①加藤秀一他『図解雑学 ジェンダー』 ②江原由美子、山田昌弘『ジェンダーの社会学入門』（喜多村分、赤枝分は女性・ジェンダー論①②を参照）		
オフィスアワー	喜多村（メール） 赤枝（メール） 武藤（メール）	メールアドレス	

授業科目	女性・ジェンダー論①【講義】	開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合・武藤 桐子・赤枝 香奈子	単 位	2
授業の目的と概要	<p>みなさんにとって明快な区分である男女の別は、普遍的・固定的ではなく、社会により異なり歴史的に変化してきたことが明らかとなっています。それをジェンダー(社会的文化的性差)と呼びます。この講義では、まず性差概念を整理したうえで、歴史や現代社会における性差をめぐる事象と諸課題を担当講師三人の専門領域を中心に検討します。</p> <p>導入を喜多村が行い、前半では異文化におけるジェンダーを多面的に知ることをテーマに、インドを中心にその特徴と諸課題を理解します。中盤を赤枝が担当し、歴史におけるジェンダーについて、女性解放運動とのかかわりや、問題の変化や広がりを理解します。後半を武藤が担当し、日本におけるジェンダーについて、家族、労働などの身近な問題を中心に、歴史的視点を取り入れながら理解します。</p>		
到達目標	<p>①性差概念を理解し、差異化や制度化の歴史的な過程、およびその背景を理解し説明できる。</p> <p>②インドにおけるジェンダーのあり方や課題、可能性を理解し説明できる。</p> <p>③歴史に見られるジェンダーをめぐる問題やその変化を理解し説明できる。</p> <p>④日本社会におけるジェンダー問題や諸課題を理解し説明できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回 導入Ⅰ：講義方法と性差概念のオリエンテーションⅠ		参考映像	
第 2回 導入Ⅱ：性差概念のオリエンテーションⅡ		教科書第1章	
第 3回 導入Ⅲ：性差概念のオリエンテーションⅢ		教科書第8章	
第 4回 異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅠ		指定図書①第3、6、14章	
第5回 異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅡ		教科書unit19 指定図書②	
第6回 異文化に見るジェンダー：インドの女性の地位向上のあゆみ		教科書unit18 指定図書②第Ⅲ部4	
第7回 異文化に見るジェンダー：インドの女性の政治経済参加と課題		指定図書③4章、レポート作成	
第8回 歴史におけるジェンダー：日本における女性解放運動		教科書 unit 5, unit 16, unit 23	
第9回 歴史におけるジェンダー：売買春と戦時下・戦後の性暴力		教科書 unit 17, unit 20, unit 21	
第10回 歴史におけるジェンダー：セクシュアリティとジェンダー		教科書 unit 3, unit 14, 指定図書①(赤枝分)	
第11回 歴史におけるジェンダー：多様な性/生のあり方		教科書 unit22, unit 24、レポート作成	
第12回 日本におけるジェンダー：性別役割分業		教科書第2章unit4、第3章unit10 指定図書②第4章	
第13回 日本におけるジェンダー：働くこととジェンダー		教科書第3章unit7、8、9 指定図書①第3章、第5章 指定図書②	
第14回 日本におけるジェンダー：家族をめぐる制度とジェンダー		教科書第2章unit4 指定図書①第1章	
第15回 日本におけるジェンダー：暴力とジェンダー		教科書第5章unit15 指定図書①第2章、第4章、レポート作	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	中間および期末レポート(各講師ごとのテーマで作成)計3回 各30%(計90%)		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10%(リアクションペーパーによる) なお、各講師ごとの4回の授業について、毎回リアクション・ペーパーを課すので、3回以上提出すること。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日頃から女性・ジェンダーにかかわる新聞・雑誌記事、テレビニュースや番組などに関心を持って準備してほしい。		
教科書	千田有紀他『ジェンダー論をつかむ』(有斐閣)		
指定図書	①伊藤公雄『ジェンダーの社会学』 ②田中雅一他『南アジア社会を学ぶ人のために』 ③水島司編『叢書激動のインド第一巻変動のゆくえ』(赤枝、武藤分は、女性・ジェンダー論②③をそれぞれ参照)		
参考図書	①鈴木正崇編『南アジアの文化と社会を読み解く』 ②木村涼子編『よくわかるジェンダー・スタディーズ』③山下博司『インドを知る事典』(赤枝、武藤分は、女性・ジェンダー論②③をそれぞれ参照)		
オフィスワ	喜多村(メール) 赤枝(メール) 武藤(メール)	メールアドレス	

授業科目	女性・ジェンダー論②【講義】	開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合・武藤 桐子・赤枝 香奈子	単位	2
授業の目的と概要	<p>みなさんにとって明快な区分である男女の別は、普遍的・固定的ではなく、社会により異なり歴史的に変化してきたことが明らかとなっています。それをジェンダー(社会的文化的性差)と呼びます。この講義では、まず性差概念を整理したうえで、歴史や現代社会における性差をめぐる事象と諸課題を担当講師三人の専門領域を中心に検討します。</p> <p>導入を赤枝が行い、前半では歴史におけるジェンダーについて、女性解放運動とのかかわりや、問題の変化や広がりを理解します。中盤を武藤が担当し、日本におけるジェンダーについて、家族、労働などの身近な問題を中心に、歴史的視点を取り入れながら理解します。後半を喜多村が担当し、異文化におけるジェンダーを多面的に知ることをテーマに、インドを中心にその特徴と諸課題を理解します。</p>		
到達目標	<p>①性差概念を理解し、差異化や制度化の歴史的な過程、およびその背景を理解し説明できる。</p> <p>②インドにおけるジェンダーのあり方や課題、可能性を理解し説明できる。</p> <p>③歴史に見られるジェンダーをめぐる問題やその変化を理解し説明できる。</p> <p>④日本社会におけるジェンダー問題や諸課題を理解し説明できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	導入Ⅰ：講義方法と性差概念のオリエンテーションⅠ	参考映像	
第2回	導入Ⅱ：性差概念のオリエンテーションⅡ	教科書第1章	
第3回	導入Ⅲ：性差概念のオリエンテーションⅢ	教科書第8章	
第4回	歴史におけるジェンダー：日本における女性解放運動	教科書 unit 5, unit 16, unit 23	
第5回	歴史におけるジェンダー：売買春と戦時下・戦後の性暴力	教科書 unit 17, unit 20, unit 21	
第6回	歴史におけるジェンダー：セクシュアリティとジェンダー	教科書 unit 3, unit 14 指定図書①	
第7回	歴史におけるジェンダー：多様な性/生のあり方	教科書 unit 22, unit 24、レポート作成	
第8回	日本におけるジェンダー：性別役割分業	教科書第2章unit4、第3章unit10 指定図書②第4章	
第9回	日本におけるジェンダー：働くこととジェンダー	教科書第3章unit7、8、9 指定図書①第3章、第5章 指定図書②	
第10回	日本におけるジェンダー：家族をめぐる制度とジェンダー	教科書第2章unit4 指定図書①第1章	
第11回	日本におけるジェンダー：暴力とジェンダー	教科書第5章unit15 指定図書①第2章、第4章、レポート作	
第12回	異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅠ	指定図書①第3、6、14章(喜多村分)	
第13回	異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅡ	教科書 unit 19 指定図書②(喜多村分)	
第14回	異文化に見るジェンダー：インドの女性の地位向上のあゆみ	教科書 unit 18 指定図書②第三部4(喜多村分)	
第15回	異文化に見るジェンダー：インドの女性の政治経済参加と課題	指定図書③4章(喜多村分)、レポート作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	中間および期末レポート(各講師ごとのテーマで作成)計3回 各30%(計90%)		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	10%(リアクションペーパーによる) なお、各講師ごとの4回の授業について、毎回リアクション・ペーパーを課すので、3回以上提出すること。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日頃から女性・ジェンダーにかかわる新聞・雑誌記事、テレビニュースや番組などに関心を持って準備してほしい。		
教科書	千田有紀他『ジェンダー論をつかむ』有斐閣		
指定図書	①加藤秀一他『図解雑学 ジェンダー』ナツメ社 (喜多村分は女性・ジェンダー論①を、武藤分は女性・ジェンダー論③を参照)		
参考図書	①石田仁『はじめて学ぶLGBT』ナツメ社 ②風間孝他『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社 (喜多村分は女性・ジェンダー論①を、武藤分は女性・ジェンダー論③を参照)		
オフィスワーカー	喜多村(メール) 赤枝(メール) 武藤(メール)	メールアドレス	

授業科目	女性心理学【講義】	開講時期	前期
担当教員	洪田 登美子	単 位	2
授業の目的と概要	<p>人生80余年という長寿命化と少子化が急速に進む現代において、女性の性役割観や価値観が変容し、女性の生き方は多様化しています。女性が生き方を選択できるようになったとすることができますが、どのようなライフコースを選んでも、女性は男性以上に何度も人生の岐路に立たされ、選択を迫られることとなります。</p> <p>この授業は、現代女性の生き方に影響を与えている生物学的要因、文化・社会的要因、心理的要因について考察します。その中で自分自身に向き合い、現代社会に生きる女性として自分らしい将来設計をすることを目的とします。</p>		
到達目標	<p>1. 女性の生き方や女性特有の心理臨床の問題に影響を与えている文化・社会的要因、心理的要因、生物学的要因について説明することができる。</p> <p>2. 女性の多様なライフコースとそれぞれのコースに想定される心理的な危機について具体的に述べるすることができる。</p> <p>3. ワーク・ライフ・バランスについて自分の考えを述べるすることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」</p> <p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>幼 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション： 女性の発達とライフサイクル	女性やジェンダーに関連する新聞記事等を調べる	
第 2回	女性らしくとは	女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第 3回	思春期における心理臨床：女性と食行動	女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第 4回	女性のライフコースとキャリア発達	厚生労働省HP「女子大学生就活ガイド」を調べる	
第 5回	女性のキャリア発達とその関連要因	自分の経験をもとに考察するレポートを作成する	
第 6回	現代の結婚事情	レポートを作成する	
第 7回	親となるプロセス①： 妊娠・出産に関わる意思決定	身近な女性から妊娠・出産にまつわる話を聞く	
第 8回	親となるプロセス②： 現代の子育て事情	子育て支援の地域資源について調べる	
第 9回	ライフコースの調整とケア役割	どのような働き方をしたいか自分の考えをまとめる	
第10回	ケア・テイカーとしての女性	家庭を維持していくために誰がどのような役割を果たしているのか考える	
第11回	中年期女性の選択	アイデンティティの発達について復習しておく	
第12回	支え、支えられる中高年期	コンボイについて調べる	
第13回	うつと女性：なぜ性差があるのか	講義内容の復習	
第14回	ジェンダーの問題としてDVを考える	居住地域の男女共同参画センターについて調べる	
第15回	国際比較から日本の女性を考える	ジェンダーギャップ指数について調べる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	20% 中間レポート：授業の内容に関連した新聞・雑誌の記事を用いた レポート 1500字程度 30% 学期末レポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	50% 毎回のショートライティング(学習内容の確認/意見)フォーラムへの質問のうち、受講者の学びに貢献する良い質問を評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>当たり前と思っていたことが、実は当たり前ではなく、自分が気づいていなかったジェンダーの問題かもしれません。漠然と聞くのではなく、将来の自分や身近な女性をイメージし、自己関与しながら受講してください。</p> <p>授業中のスマホ操作は厳禁です。</p>		
教科書	毎回資料を配布する		
指定図書	使用しない		
参考図書	肥田幸子・太田和佐・堀篤実・清水紀子・大見サキエ(著) 『女性心理学 一現代を女性として生きるために』 唯学書房 園田雅代・平木典子・下山晴彦(著) 『女性の発達臨床心理学』金剛出版		
オフィスアワー	金曜日昼休み・4限 遠隔授業中は授業内容に関してはフォーラムで、それ以外はメールにて。	メールアドレス	



授業科目	女性と経済（ワークライフバランスを含む）【講義】		開講時期	後期
担当教員	婁 海善		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、日本の女性労働の実態と特徴、女性労働者の雇用促進政策、税・社会保障、他の先進国の取組など、今後女性が社会進出し、経済活動を行う上で知っておくべき労働関連基礎知識を身につけると共に、女性雇用が経済成長にどのように繋がるかを理解することを目的とする。</p> <p>女性労働問題を経済理論に基づいて説明し、女性労働の特徴と女性労働とかわる諸問題、女性労働者の保護法案・雇用促進法案・税・社会保険問題・ワークライフバランスなどを学ぶ。</p>			
到達目標	<p>①女性の就業決定要因に影響を与える要因を経済理論に基づいて理解することができる。</p> <p>②女性の経済活動は社会的・制度的・経済的要因によって影響し合っていることが理解できる。</p> <p>③女性の働き方は、少子高齢化、経済成長、社会保険などと関わることが確認できる。</p> <p>④なぜ、ワークライフバランスが必要であるかが理解できる。</p> <p>⑤今後、女性雇用者として働く上で知っておくべき労働法、税・社会保険制度の仕組みなどが理解できる。</p> <p>⑥今後、女性の社会・経済的地位を高めるために必要な課題と改善策は何かを模索することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 座席配置、評価基準、定期試験、男女共同参画社会と用語の解説		<ul style="list-style-type: none"> <li>・B5サイズのノートを準備する</li> <li>・男女共同参画社会関連用語をまとめる</li> </ul>		
第2回 ・国際：女性政策の歩み：CEDWからSDGsまで・世界ジェンダー格差指数（GGGI）の比較		女性政策の国際的動向と日本国内での歩みを比較する		
第3回 女性雇用政策（労働基準法から働き方改革関連法案まで）		女性雇用促進政策の内容と成果をまとめる		
第4回 女性労働・男女共同参画社会の実態		ワークライフバランス憲章、働き方改革関連法案の背景と特徴をまとめる		
第5回 多様な働き方		非正規雇用の種類と定義をまとめる		
第6回 就職活動・労働契約		働くうえで確認すべき労働契約内容を調べる		
第7回 賃金構造と賃金格差		男女賃金格差の原因を調べる		
第8回 労働時間・有給休暇		残業時間の制限と割り増し賃金率を調べる		
第9回 女性の経歴断絶と男女賃金格差		男女賃金格差の原因を考える		
第10回 各種保険・年金制度		日本の国民年金第3号被保険者の条件を調べる		
第11回 仕事と家庭の両立支援		育児休業制度を調べる		
第12回 税・社会保険制度と女性の働き方		雇用保険、健康保険、国民年金の加入条件を調べる		
第13回 女性の働き方―海外事例：スウェーデン・フィンランド・ノルウェー		先進主要国の女性雇用率を調べる		
第14回 女性の働き方―海外事例：ドイツ		日本の産前後休暇、育児休業制度をまとめる		
第15回 女性の働き方―海外事例：韓国		なし		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0%			
小テスト等	100%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>※筑女ネットを活用します。授業で使うテキスト以外の補助資料・お知らせは筑女ネットで確認してください。</p> <p>①テキストは1回目の授業から使います。</p> <p>②テスト：テキスト持ち込み可能（プリントの貼り付け不可、手書きOK）。授業中テストなので追試と再試なし！</p> <p>③欠席が5回を超えると受験できない（就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要）。</p> <p>④授業内容に関係のない私語、授業中のスマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減</p>			
教科書	婁 海善著『女性と経済（WLBを含む）』			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	事前に訪問日時を相談してください	メールアドレス		

授業科目	女性と言語文化①【講義】	開講時期	後期
担当教員	大城 房美・高山 百合子	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本科目は、「女性の生き方を考える」副専攻の授業科目である。</p> <p>■この科目では、言語および言語による文化事象の中に社会的性差（ジェンダー）がどのように反映しているかを分析・考察していくことで、幅広い視野を獲得することができる。 主に日本語と英語を対象として、文学作品の他、映画、マンガなどサブカルチャーを含む幅広い文化領域を視野に入れて学んでいく。</p> <p>■言語文化においても、男女の力関係の不均衡が強く影響を与えている現実を明らかにしていくことで、女性の置かれている状況により自覚的になることを重要な目的とする。</p>		
到達目標	女性と言語文化に関連するテーマを設定し、自分自身の視点から問題提起ができるようになる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>【関連する科目】女性生き方を考える副専攻授業科目（学生便覧参照）</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回：オリエンテーション、ベアテ・シロタ・ゴードンに関する映像の視聴…女性と言語文化2クラスの合同授業(8302)		配布したプリントを元に復習し、自分の意見をまとめること	
第2回：ベアテ・シロタ・ゴードンに関する映像の視聴…女性と言語文化2クラスの合同授業(8302)		配布したプリントを元に予習・復習を行い、自分の意見をまとめること	
第3回：少女文化（1）少女とは何か 少女雑誌の世界		関連する事象の紹介発表準備など	
第4回：少女文化（2）少女マンガ かわいいと自己表現		関連する事象の紹介発表準備など	
第5回：少女文化（3）欧米の場合 Wonder Woman		関連する事象の紹介発表準備など	
第6回：少女文化（4）世界に広がるHello Kitty		関連する事象の紹介発表準備など	
第7回：女性と言語文化 合同授業		関連する事象の紹介発表準備など	
第8回：女性文化：女性が描く		関連する事象の紹介発表準備など	
第9回：女性と言語文化 合同授業 (8302)		関連する事象の紹介発表準備など	
第10回：ヴァーチャルなことば「役割語」という視点		関連する事象の紹介発表準備など	
第11回：「女学生」の出現と〈てよだわ〉ことば		関連する事象の紹介発表準備など	
第12回：マスメディアとしての少女雑誌		関連する事象の紹介発表準備など	
第13回：フィクションの中の女性、翻訳の中の女性		関連する事象の紹介発表準備など	
第14回：女性の人称「おれ」「ぼく」をめぐって		関連する事象の紹介発表準備など講義の時に指示します。	
第15回：まとめ		これまでのノートの整理	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	課題レポート50%（大城25%、高山25%）		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	50%（大城25%、高山25%）。課題の提出状況・出席状況などを加味します。講義の1/3を超える欠席をした場合は受講態度の評価点はありませんので注意して下さい。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>■欠席する場合は担当教員に理由を伝えること。</p> <p>■資料を使用しない講義も含むので、ノートはしっかりとること。</p> <p>■課題・レポートは、提出されたものを紹介するかたちで、返却に代えることとする。</p>		
教科書	プリント、画像、映像などを使用。		
指定図書	『想い出の少女雑誌物語』（熊本出版文化会館2018）The Only Woman in the Room A Memoir of Japan, Human Rights, and the Arts 『文学批評女性と表現』		
参考図書	『ジェンダー研究を継承する』『美少女の美術史』『イメージとしての女性』『乙女の日本史』『乙女の世界史』、中村桃子『女ことばと日本語』（岩波新書）、今田絵里香『「少年」「少女」の誕生』等		
オフィスアワー	大城：金曜3講時（要メール連絡） 講時	高山：木曜2	メールアドレス

授業科目	女性と言語文化②【講義】	開講時期	後期
担当教員	大城 房美・高山 百合子	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本科目は、「女性の生き方を考える」副専攻の授業科目である。</p> <p>■この科目では、言語および言語による文化事象の中に社会的性差（ジェンダー）がどのように反映しているかを分析・考察していくことで、幅広い視野を獲得することができる。</p> <p>主に日本語と英語を対象として、文学作品の他、映画、マンガなどサブカルチャーを含む幅広い文化領域を視野に入れて学んでいく。</p> <p>■言語文化においても、男女の力関係の不均衡が強く影響を与えている現実を明らかにしていくことで、女性の置かれている状況により自覚的になることを重要な目的とする。</p>		
到達目標	女性と言語文化に関連するテーマを設定し、自分自身の視点から問題提起ができるようになる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>【関連する科目】女性生き方を考える副専攻授業科目（学生便覧参照）</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回：オリエンテーション、ベアテ・シロタ・ゴードンに関する映像の視聴…女性と言語文化2クラスの合同授業(8302)		配布したプリントを元に復習し、自分の意見をまとめること	
第2回：ベアテ・シロタ・ゴードンに関する映像の視聴…女性と言語文化2クラスの合同授業(8302)		配布したプリントを元に予習・復習し、自分の意見をまとめること	
第3回：ヴァーチャルなことば「役割語」という視点		関連する事象の紹介発表準備など	
第4回：「女学生」の出現と〈てよだわ〉ことば		関連する事象の紹介発表準備など	
第5回：マスメディアとしての少女雑誌		関連する事象の紹介発表準備など	
第6回：フィクションの中の女性、翻訳の中の女性		関連する事象の紹介発表準備など	
第7回：女性と言語文化2クラスの合同授業		講義の時に指示します	
第8回 女性の人称「おれ」「ぼく」をめぐって		関連する事象の紹介発表準備など	
第9回 : 女性と言語文化2クラスの合同授業		講義の時に指示します	
第10回 : (1) 少女とは何か 少女雑誌の世界少女文化		関連する事象の紹介発表準備など	
第11回：(2) 少女マンガ かわいいと自己表現		関連する事象の紹介発表準備など	
第12回：(3) 欧米の場合 Wonder Woman		関連する事象の紹介発表準備など	
第13回：少女文化(4) 世界に広がるHello Kitty		関連する事象の紹介発表準備など	
第14回：女性文化：女性を描く		関連する事象の紹介発表準備など	
第15回：まとめ (合同授業 (8302) 講義)		これまでのノートの整理	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	課題レポート50% (大城25%、高山25%)		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	50% (大城25%、高山25%)。課題の提出状況・出席状況などを加味します。講義の1/3を超える欠席をした場合は受講態度の評価点はありませんので注意して下さい。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>■欠席する場合は担当教員に理由を伝えること。</p> <p>■資料を使用しない講義も含むので、ノートはしっかりとること。</p> <p>■課題・レポートは、提出されたものを紹介するかたちで、返却に代えることとする。</p>		
教科書	プリント、画像、映像などを使用。		
指定図書	『『少女の友』創刊100周年記念号 明治・大正・昭和ベストセレクション』、『中原淳一の「女学生服装帖」』『『少女小説』の生成: ジェンダー・ポリティクス』の世紀』		
参考図書	『美少女の美術史』『イメージとしての女性』『乙女の日本史』『乙女の世界史』、中村桃子『女ことばと日本語』(岩波新書)、寿岳章子『日本語と女』(岩波新書)、今田絵里香『「少年」「少女」の誕生』等		
オフィスアワー	大城：金曜3講時(要メール連絡) 高山：木曜2講時	メールアドレス	

授業科目	女性と政治【講義】	開講時期	前期
担当教員	浅田 淳一	単 位	2
授業の目的と概要	<p>女性と政治の関係について学ぶ。          そもそも「政治」とは何かという原理論から出発し、先ず、政治学の歴史的發展を追う。          その上で、女性がどれほど、政治から遠ざけられ、抑圧されてきたかを確認し、18世紀以来の女性の政治参加への苦難の道のりを、多様な女性解放運動の潮流を紹介しながら辿っていく。          さらに、「女性による政治学」が、近代政治学の前提そのものを揺るがせる重要な批判的視点を提供していることを確認し、21世紀の政治が、女性の政治参加と「女性による政治学」を如何に強く要請しているかを考察する。</p>		
到達目標	<p>①政治とは何かを原理的に理解できる。          ②政治学の歴史の概要を理解できる。          ③女性が、如何に政治から遠ざけられ、抑圧されてきたかを理解することができる。          ④女性解放運動の歴史を構造的に把握することができる。          ⑤女性解放運動の諸潮流の主張を理解することができる。          ⑥「女性による政治学」が、政治学のパラダイムシフトを促している理由を理解することができる。          ⑦21世紀の政治が、女性の参加とその政治学を要求していることを理解することができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」          (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回：政治とは何か？ ボリスの学としての政治学の位置づけ		国家と地方自治体は、何が違うか？ 各自で考えてみる。	
第2回：古代の国家観 プラトンの「国家」とアリストテレスの「政治学」		民主主義って、本当に最善の政治制度なのか？ 各自で考えてみる。	
第3回：近代政治学の誕生 ホブズの『リヴァイアサン』 ロックの『市民政府に論』		主権とはなにか？ 各自、具体的に考えてみる。	
第4回：ルソーの『社会契約論』		ルソー以外の社会契約論についても各自調べてみる。	
第5回：フランス革命と女性の政治参加		フランス革命やマリーアントワネットについて、これまでの学習を振り返る	
第6回：オランブ・ド・グージュ『女性と女性市民の権利の宣言』		現在の女性の権利と当時を比べてみる。	
第7回：女性解放運動の諸潮流Ⅰ（リベラル・フェミニズム）		男性の権利と女性の権利の異同について考えてみる。	
第8回：女性解放運動の諸潮流Ⅱ（社会主義フェミニズム）		資本主義体制の中での女性の立場について反省してみる。	
第9回：女性解放運動の諸潮流Ⅲ（第二波フェミニズム）		第一波フェミニズムと第二波フェミニズムを対比してみる。	
第10回：女性解放運動の諸潮流Ⅳ（ラディカル・フェミニズム）		自分自身の中に外から刷り込まれている「女性性」がないか反省してみる。	
第11回：女性解放運動の諸潮流（マルクス主義フェミニズム）		女性が被っている三重の差別について振り返ってみる。	
第12回：新しい流れⅠ（エコロジカル・フェミニズム）		女性と自然との関係について反省してみる。	
第13回：新しい流れⅡ（ケアの倫理に基づくフェミニズム）		男性中心の「正義の倫理」と「ケアの倫理」を対比してみる。	
第14回：近代政治のパラダイム批判としての「女性による政治学」		自由独立でない存在に対する「ケアの政治学」の必要性を考えてみる。	
第15回：21世紀の政治と女性		21世紀の政治が直面する問題に女性がどう関われるか考えてみる。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	100%		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。テストの成績が合否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	『女の人権宣言ーフランス革命とオランブ・ドゥ・グージュの生涯』 オリヴィエ・ブラン著 岩波書店 1995年		
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス	

授業科目	時事アジア【講義】	開講時期	後期
担当教員	横山 豪志	単 位	2
授業の目的と概要	<p>これまで大学で勉強してきたことを踏まえ、今日のアジア各地で起こっている政治、経済、社会などに関する時事問題を多角的に理解することが講義の目的です。</p> <p>地域ごとに話題のトピックをとりあげ、理解を深めていきます。同時に、時事問題に関するメディアリテラシーを身につけます。</p> <p>それぞれの地域の時事問題については、a. 事前に指名された学生が、特定地域の時事問題を取りあげ話題提供をし、b. その日にとりあげるトピックを決め、担当教員がトピックに関する基礎情報を提供します。それを踏まえc. 当該トピックについて各自がwebデータを収集し、分析、整理したうえで、d. 指名された学生を中心に、各自が調べたことを報告し、それを担当教員が補足解説をして理解を深めます。</p>		
到達目標	<p>1. 最近のアジア各地の政治、経済、社会の特徴とその課題が説明できる。</p> <p>2. 時事問題について、自らデータを収集分析していくことができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>「現代インド事情」「現代東南アジア事情」「現代韓国事情」「現代中国と教育」などアジアの現代事情に関する科目を受講したうえで、直近の出来事としての時事問題を扱うこの講義を受ければ、更に理解を深めることができます。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 時事問題を学ぶ意義	第2回に備え情報収集	
第2回	時事問題の情報収集方法	講義内容を踏まえ第3回に備え情報収集	
第3回	東アジアの時事問題(1) 中国 「発表」	第3回用話題提供準備、第4回に備え情報収集、レポート1準備	
第4回	東アジアの時事問題(2) 韓国 「発表」	第4回用話題提供準備、レポート1準備	
第5回	資料検索・ミニレポート作成練習	第6回用話題提供準備、レポート1準備	
第6回	東南アジアの時事問題(1) インドネシア、マレーシア、シンガポール 「発表」	第6回用話題提供準備、第7回に備え情報収集、レポート1準備	
第7回	東南アジアの時事問題(2) ヴェトナム、ラオス、カンボジア 「発表」	第7回用話題提供準備、第8回に備え情報収集、レポート1準備	
第8回	南アジアの時事問題(1) インド 「発表」	第8回用話題提供準備、第9回に備え情報収集、レポート2準備	
第9回	南アジアの時事問題(2) パキスタン、アフガニスタン 「発表」	第9回用話題提供準備、第10回に備え情報収集、レポート2準備	
第10回	西アジアの時事問題(1) イラン 「発表」	第10回用話題提供準備、第11回に備え情報収集、レポート2準備	
第11回	西アジアの時事問題(2) アラブ諸国 「発表」	第11回用話題提供準備、第12回に備え情報収集、レポート2準備	
第12回	日本とアジアに関する時事問題(1) グループ分けとテーマ設定 「グループワーク」	第14回15回用プレゼンテーション準備	
第13回	日本とアジアに関する時事問題(2) グループ発表内容調整 「グループワーク」	第14回15回用プレゼンテーション準備	
第14回	日本とアジアに関する時事問題(3) グループA発表 「プレゼンテーション」	第14回15回用プレゼンテーション準備、発表を踏まえてのレポート準備	
第15回	日本とアジアに関する時事問題(3) グループB発表 「プレゼンテーション」	第14回15回用プレゼンテーション準備、発表を踏まえてのレポート準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0% なし		
レポート	45% 2回のミニ・レポート、グループ発表レポート提出 15%×3		
小テスト等	0% なし		
成果発表	45% 話題提供、各回報告 10% グループ発表 35% それぞれの発表には個別にコメントします。		
受講態度他	10% 課題に基づき、きちんと資料収集		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>私語は厳禁です。ひどい場合は退出してもらいます。</p> <p>資料収集、報告などには積極的に参加してください。</p> <p>第2回の時に、話題提供の順番を決めますので必ず出席してください。</p> <p>その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	講義内で適宜、指示します。		
オフィスアワー	火14:50～16:20、金12:30～13:00	メールアドレス	

授業科目	実用英語Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	高森 暁子		単位	1
授業の目的と概要	この科目は実用的な英語の運用能力の基礎を学び、英語を用いたコミュニケーションの多様な場面に対応できる能力を身につけることを目的とします。基本的な英語の聞き取りトレーニングと語彙の修得、文法事項の確認をまず行います。そのうえで日常生活の実際的な場面を想定したTOEIC形式の問題に取り組みます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の基本的な文法を理解して、日常生活の現実的な場面を想定した運用ができるようになる。</li> <li>2. ナチュラル・スピードの英語を聞き取り、要点を把握することができる。</li> <li>3. 実用的なコミュニケーションの場面にふさわしい基本的な語彙や表現を用いることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。  関連する科目： 「実用英語Ⅱ」</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション 遠隔授業の概要説明	テキスト予習 (Unit L-1, Unit R-1) とそれに関連する課題		
第2回	リスニング (写真問題Unit L-1) とリーディング (文法問題Unit R-1)	テキスト予習 (Unit L-2, Unit R-2) および復習とそれに関連する課題		
第3回	リスニング (写真問題Unit L-2) とリーディング (文法問題Unit R-2)	テキスト予習 (Unit L-3, Unit R-3) および復習とそれに関連する課題		
第4回	リスニング (応答問題Unit L-3) とリーディング (文法問題Unit R-3)	テキスト予習 (Unit L-4, Unit R-4) および復習とそれに関連する課題		
第5回	リスニング (応答問題Unit L-4) とリーディング (文法問題Unit R-4)	テキスト予習 (Unit L-5, Unit R-5) および復習とそれに関連する課題		
第6回	リスニング (応答問題Unit L-5) とリーディング (Unit R-5)	テキスト予習 (Unit L-6, Unit R-6) および復習とそれに関連する課題		
第7回	リスニング (応答問題Unit L-6) とリーディング (長文穴埋め問題Unit R-6)	テキスト予習 (Unit L-7, Unit R-7) および復習とそれに関連する課題		
第8回	リスニング (会話問題 Unit L-7) とリーディング (読解問題Unit R-7)	テキスト予習 (Unit L-8, Unit R-8) および復習とそれに関連する課題		
第9回	リスニング (会話問題Unit L-8) とリーディング (読解問題Unit R-8)	テキスト予習 (Unit L-9, Unit R-9) および復習とそれに関連する課題		
第10回	リスニング (会話問題Unit L-9) とリーディング (読解問題Unit R-9)	テキスト予習 (Unit L-10, Unit R-10) および復習とそれに関連する課題		
第11回	リスニング (説明文問題Unit L-10) とリーディング (読解問題Unit R-10)	テキスト予習 (Unit L-11, Unit R-11) および復習とそれに関連する課題		
第12回	リスニング (説明文問題Unit L-11) とリーディング (読解問題Unit R-11)	テキスト予習 (Unit L-12, Unit R-12) および復習とそれに関連する課題		
第13回	リスニング (説明文問題Unit L-12) とリーディング (読解問題R-12)	テキスト予習 (Unit L-13, Unit R-13) および復習とそれに関連する課題		
第14回	リスニング (写真問題、会話問題Unit L-13) とリーディング (文法問題、長文穴埋め問題Unit R-13)	テキスト予習 (Unit L-14, Unit R-14) および復習とそれに関連する課題		
第15回	リスニング (応答問題、説明文問題Unit L-14) とリーディング (読解問題Unit R-14)	全体の復習		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	予習と復習の課題 85%			
成果発表	0%			
受講態度他	15% ログイン状況、課題へのアクセス状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	2019年度入学者は、TOEIC (TOEIC IPを含む) 510点以上、または英検2級以上を取得している場合は、この科目の単位が認定されます。学生便覧の「資格認定」のページを確認のうえ、教務班で手続きを行ってください。2019年度以前の入学者は、単位認定の要件が異なるので、自分の入学年度の学生便覧で確認してください。授業で使用する資料や音声データは筑女ネットの授業ページにアップします。			
教科書	西谷敦子ほか著 『Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test』 (Level 400) 朝日出版社			
指定図書	なし			
参考図書	『TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編』 国際ビジネスコミュニケーション協会			
オフィスアワー	水曜5時間目	メールアドレス		

授業科目	実用英語Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	林 恵子		単位	1
授業の目的と概要	この科目は「実用英語Ⅰ」に引き続き、実用的な英語の運用能力を高め、英語を用いたコミュニケーションの多様な場面に対応できる能力を身につけることを目的とします。実際の日常会話で遭遇する英語のリズムとスピードに慣れる練習や、まとまった量の文章を効率よく読む練習を行います。そのうえで日常生活やビジネスの実際的な場面を想定したTOEIC形式の問題に取り組みます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実用的なコミュニケーションの場面にふさわしい語彙や表現を用いることができる。</li> <li>2. ビジネスを含めた日常生活の場面における多様な英語話者の発話を聞き取ることができる。</li> <li>3. フレーズ・リーディング、スキヤニング、スキミングを用いて、まとまった量の文章を効率的に読むことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 授業の概要説明			テキスト予習 (pp. 16-21)	
第2回 Unit 1 Daily Life			テキスト予習 (pp. 22-27)	
第3回 Unit 2 Shopping			テキスト予習 (pp. 28-33)	
第4回 Unit 3 Parties and Events			テキスト予習 (pp. 34-40)	
第5回 Traffic and Travel			テキスト予習 (pp. 42-47)	
第6回 Unit 5 Office Work			テキスト予習 (pp. 48-54)	
第7回 Unit 6 Marketing and ICT			テキスト予習 (pp. 56-63)	
第8回 Review Test 1			テキスト予習 (pp. 64-75)	
第9回 Unit 7 Production and Logistics			テキスト予習 (pp. 76-81)	
第10回 Unit 8 Employment			テキスト予習 (pp. 82-88)	
第11回 Unit 9 Personnel			テキスト予習 (pp. 90-96)	
第12回 Unit 10 Business			テキスト予習 (pp. 98-103)	
第13回 Unit 11 Health and Environment			テキスト予習 (pp. 104-110)	
第14回 Unit 12 Finance			テキスト予習 (pp. 112-119)	
第15回 Review Test 2			テキスト予習 (pp. 120-130)	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	小課題 60% 学期末課題 40%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席回数が5回を超えると単位修得の資格を失います。毎回必ず辞書を携帯してください。TOEIC (TOEIC IPを含む) 500点以上を取得している場合は、この科目の単位が認定されます。学生便覧の「資格認定」のページを確認のうえ、教務課で手続きを行ってください。			
教科書	SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC L AND R TEST		Masako Yasunaru (KINSEIDO, 2020)	
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	初回授業時に通知		メールアドレス	

授業科目	実用韓国語【演習】		開講時期	後期
担当教員	金 智淑		単 位	2
授業の目的と概要	世界のグローバル化とともに外国語によるコミュニケーション能力が様々な分野で求められています。そして日本と韓国は隣国同士として観光や文化の面で交流が盛んに行われており、韓国人の若者も日本へ高い関心を示しています。一方、日本でも若者を中心に韓国のK-popやファッション、ドラマ等への関心が高まっており、韓国への旅行が盛んになっています。本講義では、交通機関や宿泊先、買い物やコンサートチケットの予約など、旅行を含むあらゆる場面で実用的に使われる会話の表現を身に付け、前期の韓国語作文のスキルアップを目指します。			
到達目標	①韓国語のコミュニケーションスキルアップができる。 ②様々な場面で使える韓国語を身につけ、ネイティブとの意思疎通ができる実力を身につける。 ③韓国語で声をかけることに自信をもって、積極的に広く「行きたい・見たい・体験したい」気持ちを動かす。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス、自己紹介			韓国の基本知識や関心のある分野について調べる	
第2回 空港・案内			韓国の空港や場所、特徴を調べる	
第3回 交通			地下鉄路線図の読み方を調べる	
第4回 宿泊			ホテルやゲストハウスなどについて調べる	
第5回 料理			好きな韓国料理や人気のある韓国料理について調べる	
第6回 レストラン・カフェでの注文			メニューや値段について調べる	
第7回 道を尋ねる			方向と関連する単語を調べる	
第8回 中間テスト：発表			まとめ、復習、テスト勉強	
第9回 韓国の観光地			観光地を調べる	
第10回 買い物			人気のある韓国のお土産、話題のアイテムについて調べる	
第11回 コンサート・映画のチケットの購入			人気公演と映画を調べる	
第12回 韓国の各地でのイベント・祭り			韓国各地のイベントや祭り、ご当地グルメについて調べる	
第13回 ファストフード店での注文			ファストフード店を調べる	
第14回 病院・トラブル			緊急の時に利用できる施設について調べる	
第15回 2人組で旅行プラン作成			これまで勉強してきた様々な場面をしっかりと復習する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	なし			
小テスト等	20%			
成果発表	20%			
受講態度他	20% 出席点検(受講態度、積極性などを考慮)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修した人、または準じるレベル(相談)を対象とする。 ②授業が効果的にできるように、LMS(e-Learningシステム)である「筑女ネット」を利用する。 ③欠席が5回を超えると評価しない(就職活動、病気、その他の理由による欠席は5回の中でカウントする)。 ④授業ではグループで行う作業や共同して調べ、発表することも多くなる。			
教科書	木内 明著 『いちばんはじめの韓国語会話』 発行所：株式会社ナガセ			
指定図書	特になし。			
参考図書	授業の中で随時紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		



授業科目	児童・家庭福祉論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	大西 良		単 位	2
授業の目的と概要	現代社会における子どもおよび家族（家庭）の福祉（ウェルビーイング）を促進するため、子どもと家族（家庭）のニーズを明らかにし、ニーズに対応するためのマイクロ・メゾ・マクロの支援のあり方について、包括的に理解できるようになることを目的としている。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の子どもと家族の課題を質問されたときに具体的かつ幅広い視点から答えることができるようになる。</li> <li>・子どもに関する相談を受けたときに基本的な受け答えができるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福（3）-②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 子どもとは		教科書の第1章（4～23ページ）を読んで予習してくる		
第2回 子どもを取り巻く環境とライフステージ ～第1章のまとめとディスカッション～		教科書の第1章（4～23ページ）を読んで予習してくる		
第3回 権利行使の主体である子ども		教科書の第2章（26～45ページ）を読んで予習してくる		
第4回 エンパワメントとアドボカシー ～第2章のまとめとディスカッション～		教科書の第2章（26～45ページ）を読んで予習してくる		
第5回 子どもの保護から子ども家庭福祉まで		教科書の第3章（48～69ページ）を読んで予習してくる		
第6回 日本の近代化と児童問題 一明治期（1868－1912）		教科書の第3章（48～69ページ）を読んで予習してくる		
第7回 児童保護から児童福祉へ 一大正期・昭和期前半（1912-1950年代）		教科書の第3章（48～69ページ）を読んで予習してくる		
第8回 子ども家庭福祉の成立		教科書の第3章（48～69ページ）を読んで予習してくる		
第9回 少子化対策から子育て支援へ ～第3章のまとめとディスカッション～		教科書の第3章（48～69ページ）を読んで予習してくる		
第10回 児童相談所と市町村		教科書の第4章（74～97ページ）を読んで予習してくる		
第11回 子どもの権利擁護のしくみ ～第4章のまとめとディスカッション～		教科書の第4章（74～97ページ）を読んで予習してくる		
第12回 社会的養護の体系		教科書の第5章（100～131ページ）を読んで予習してくる		
第13回 施設体系		教科書の第5章（100～131ページ）を読んで予習してくる		
第14回 里親制度		教科書の第5章（100～131ページ）を読んで予習してくる		
第15回 養子縁組制度 ～第5章のまとめとディスカッション～		教科書の第5章（100～131ページ）を読んで予習してくる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	50％ 遠隔授業の中で課題を出すので、調べたこと等をまとめて提出すること（筑女ネットの活用） ※提出された課題はその都度採点（評価）して、授業時に返却します。			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 積極的な受講を求める 2. 受講にあたっては、予習と復習を必ずすること			
教科書	「新・基礎からの社会福祉7 子ども家庭福祉」 第2版 ミネルヴァ書房			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で随時紹介する			
オフィスアワー	月曜日1講目および火曜日1講目	メールアドレス		

授業科目	児童・家庭福祉論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	大西 良		単 位	2
授業の目的と概要	現代社会における子どもおよび家族（家庭）の福祉（ウェルビーイング）を促進するため、子どもと家族（家庭）のニーズを明らかにし、ニーズに対応するためのミクロ・メゾ・マクロの支援のあり方について包括的に理解できるようになることを目的としている。またコロナ禍における子どもならびに子育て家庭の実情を知り、具体的対応（支援策）について学びを深める。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の子どもと家族の課題を質問されたときに具体的かつ幅広い視点から答えることができるようになる。</li> <li>・子どもに関する相談を受けたときに基本的な受け答えができるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福（3）-②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回 子ども虐待		教科書の第6章（136～143ページ）を読んで予習してくる		
第2回 子どもの貧困		教科書の第6章（144～149ページ）を読んで予習してくる		
第3回 ドメスティック・バイオレンス		教科書の第6章（150～155ページ）を読んで予習してくる		
第4回 母子保健		教科書の第6章（156～161ページ）を読んで予習してくる		
第5回 ひとり親家庭		教科書の第6章（162～167ページ）を読んで予習してくる		
第6回 障害		教科書の第6章（168～173ページ）を読んで予習してくる		
第7回 子育て支援		教科書の第7章（176～181ページ）を読んで予習してくる		
第8回 乳幼児期の保育と教育		教科書の第7章（182～189ページ）を読んで予習してくる		
第9回 学齢期の教育・福祉支援		教科書の第7章（190～195ページ）を読んで予習してくる		
第10回 子どもの健全育成		教科書の第7章（196～201ページ）を読んで予習してくる		
第11回 非行		教科書の第7章（202～209ページ）を読んで予習してくる		
第12回 いじめと不登校		教科書の第7章（210～215ページ）を読んで予習してくる		
第13回 子ども家庭福祉の実際1 ～レポート課題①～		授業で指示した課題を調べてくる		
第14回 子ども家庭福祉の実際2 ～レポート課題②～		授業で指示した課題を調べてくる		
第15回 まとめ		1～14回までの授業内容を復習してくる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	30％ 講義の中で確認テストを行ったり、調べたこと等を論述したりなど、課題の提出を求めるので、期日までに回答（提出）すること。			
成果発表	20％ 資料の作成および提出			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 2/3（10回）以上の出席が必要である 2. 積極的な受講を求める 3. 受講にあたっては、予習と復習を必ずすること 4. 確認テストおよびレポート課題等は、期日までに回答（提出）すること			
教科書	「新・基礎からの社会福祉7 子ども家庭福祉」第2班 ミネルヴァ書房			
指定図書	特になし			
参考図書	大西良編著「貧困のなかにいる子どものソーシャルワーク」中央法規			
オフィスアワー	月曜日1講目	メールアドレス		

授業科目	児童英語教育研究Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	西島 裕里		単位	2
授業の目的と概要	<p>児童期（6歳～12歳）における英語教育について、民間の子ども英語教室と小学校での現状について比較する。2020年度より小学校5・6年生に「外国語科（英語）」が新設された。また、3・4年生には「外国語活動（英語）」が必修科目となったことに鑑み、小学校での英語教育についても具体的に知る。</p> <p>今日の児童の実態に触れながら教材研究を行い、教える側に立ち、どのように指導したらよいか理解する。総じて、児童英語教育という分野での専門的知識を身に付け、児童に英語を教えるために必要な知識を実践に向けて習得する。</p>			
到達目標	<p>1、民間の子ども英語教室と小学校外国語活動及び外国語科のねらいの違いについて説明できる。</p> <p>2、児童のための英語教育における教材（英語のうた・英語のゲーム・英語の絵本など）と、その活用法を理解できる。</p> <p>3、児童対象の英語の授業について、その進め方や方法を考察し、実践に向けて調べたり準備ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英(3)-①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>英(3)-②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	講義の概要説明・アンケート		アンケート回答	
第2回	民間子ども英語教室と小学校外国語科・外国語活動、指導者としての資質		指導者の資質について考察する	
第3回	「子ども」を理解する		「児童期」とは何才から何才までを指し示すのか調べる	
第4回	教材研究①「英語のうた・チャンツ」		自分自身が小学校や英語教室で歌った「英語のうた」を思い出す	
第5回	教材研究②「英語のゲーム」		自分自身が小学校や英語教室で行った「英語のゲーム」を思い出す	
第6回	教材研究③「英語の絵本」		自分自身が小学校や英語教室で触れた「英語の絵本」を思い出す	
第7回	教科書 Lesson 1 : An Overview of the Courses of Study		教科書11、13ページの予習	
第8回	教科書 Lesson 2 : English Teaching Methodologies(1) / Lesson 3 : English Teaching Methodologies (2)		教科書15、17、19、21ページの予習	
第9回	教科書 Lesson 5 : Teaching Listening / 教材研究④「リスニング教材」		教科書29、31ページの予習	
第10回	教科書 Lesson 6 : Teaching Speaking / 教材研究⑤「Show & Tell」		教科書33、35ページの予習	
第11回	教科書 Lesson 7 : Teaching Reading / 教材研究⑥「Phonics」		教科書37、39ページの予習	
第12回	教科書 Lesson 8 : Teaching Writing / 教材研究⑦「ライティング教材」		教科書41、43ページの予習	
第13回	教科書 Lesson 9 : Activities to Get Children Involved(1) / Lesson 10 : Activities to Get Children Involved(2)		教科書47、49、51、53ページの予習	
第14回	教科書 Lesson 11 : Activities to Get Children Involved(3)		教科書55、57ページの予習	
第15回	これまでの復習とレポートの提出		レポートの提出（締め切り日までに提出）	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% 授業内で指示されたタイトルでレポートを完成させ、期日までに提出すること。詳細は授業中に指示する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 授業用ファイルへのアクセス状況や積極的な参加姿勢の状況を勘案する。6回以上アクセスがなかった場合は無資格とする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1、授業に関する情報は、主として筑女ネットの「時間割」セクションを通して行いますので、こまめにチェックして下さい。</p> <p>2、各回の授業には公開日があります。その公開日以降に取り組むことで授業に参加することができます。</p> <p>3、質問やその他、連絡を取りたい場合は下記メールアドレスか授業コース内にある指示に従って下さい。</p>			
教科書	小原弥生/豊田典子/高橋まり/Steven Rogers 『ここから始めよう児童英語！理論から実践へ Let's Have Fun Teaching English From Theory to Practice』南雲堂			
指定図書	なし			
参考図書	デビッド・ポール『子ども中心ではじめる英語レッスン』ピアソン・エデュケーション			
オフィスワーク	メールまたは授業コース内のフォーラム機能を使用して下さい。	メールアドレス		

授業科目	児童英語教育研究Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	西島 裕里		単 位	2
授業の目的と概要	前期「児童英語教育研究Ⅰ」に引き続き、2020年度より小学校高学年で「外国語科（英語）」が新設されたことに鑑み、民間の子ども英語教室と小学校における英語教育はどのようなものかを踏まえた上で、専門的な知識と実践力を身に付ける。児童（6歳～12歳）対象の英語指導法については、実際の授業映像を見て、授業研究を行い学ぶ。これまで学んだ知識を用いて、レッスンプラン（指導案）を作成する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民間の子ども英語教室と小学校における外国語科・外国語活動（英語）のねらいについて理解し、レッスンプラン（指導案）の作成へつなげることができる。</li> <li>2. 児童英語教育及び小学校「外国語科（英語）」における教材を用いて、レッスンプラン（指導案）の下調べ・準備ができる。</li> <li>3. 児童対象の英語の授業について、その進め方や方法など考察し、レッスンプラン（指導案）を完成させることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	講義の概要説明、「児童英語教育研究Ⅰ」（前期）の復習、クラスルーム・イングリッシュ	文部科学省HP閲覧（小学校外国語科・外国語活動について）		
第2回	【授業研究】「実際の授業映像視聴」（小学校高学年）	小学校英語活動授業風景を検索して見てみる		
第3回	教科書 Lesson 4 : Teachers	小学校英語活動授業風景を検索して見てみる		
第4回	教科書 Lesson 14 : Evaluation	小学校英語活動授業風景を検索して見てみる		
第5回	教科書 Lesson 12 : Developing Children's Thinking Skills(1)/子どもに英語を教えるために必要な知識や能力	教科書 p61予習		
第6回	教科書 Lesson 13 : Developing Children's Thinking Skills(2)	教科書 p65予習		
第7回	教科書 Lesson 15: Teaching Practice	教科書 p75予習		
第8回	レッスンプラン（指導案）の組み立て方①	自分でレッスンプラン（指導案）を作成する準備		
第9回	レッスンプラン（指導案）の組み立て方②	自分でレッスンプラン（指導案）を作成する準備		
第10回	レッスンプラン（指導案）の作成①	レッスンプラン（指導案）の作成		
第11回	レッスンプラン（指導案）の作成②	レッスンプラン（指導案）の作成		
第12回	レッスンプラン（指導案）の作成③	レッスンプラン（指導案）の作成		
第13回	レッスンプラン（指導案）の作成④	レッスンプラン（指導案）の作成		
第14回	レッスンプラン（指導案）の提出	レッスンプラン（指導案）の完成		
第15回	「小テスト」	これまでの総復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%（なし）			
レポート	0%（なし）			
小テスト等	30% 指定された方法での学習や課題への取り組み、「小テスト」などで評価します。			
成果発表	40% レッスンプラン（指導案）の作成過程と提出で評価します。			
受講態度他	30% 筑女ネットへのアクセス状況や、授業への積極的な参加姿勢などを評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この科目は対面授業と遠隔授業の混合型です（筑女ネットの授業ページで必ず確認して下さい）。授業についての情報は、筑女ネットの授業ページでお知らせします。毎回の授業毎にチェックして取り組んで下さい。レッスンプラン（指導案）の作成にあたっては、個別指導となりますのでパソコンでの受講となります。			
教科書	小原弥生/豊田典子/高橋まり/Steven Rogers『ここから始めよう児童英語！理論から実践へ Let's Have Fun Teaching English From Theory to Practice』南雲堂			
指定図書	なし			
参考図書	デビット・ポール『子ども中心ではじめる英語レッスン』ピアソン・エデュケーション			
オフィスアワー	メールで質問など受け付けます。	メールアドレス		

授業科目	児童福祉特論【講義】		開講時期	前期
担当教員	大西 良		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「子ども虐待」や「子どもの貧困」など我々が長年目を背けてきた子どもに関する問題が近年あらわになってきた。また不登校や非行といった以前からある問題も解消の方向に向かっているとは言いがたい状況である。これらの問題を理解するには人とそれを取り巻く家族そして社会環境を複眼的に見つめる視点が必要になる。そこでこの授業では虐待ネグレクトや不登校など子どもと家庭に関する課題を幅広くとりあげ、問題を理解する枠組み（アセスメント）を学ぶ。そのうえで課題を抱えるケースに対してどのように支援していくかというソーシャルワークの方法論について学習していく。</p> <p>担当教員が著した論文を授業外学修資料として提供し、論文作成の方法も同時に学べるようにする</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども家庭福祉に関する問題を人と環境の視点から理解できるようになる</li> <li>2. 子どもと家庭に関する問題に関してある程度的確にアセスメントできるようになる</li> <li>3. 子どもと家庭に関する問題に対して有効な援助方法を選択できるようになる</li> <li>4. 論文作成の方法論が理解できるようになる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			これまで行ってきた経験・実践・研究を整理しておく	
第2回 子どもにとっての家族			事前配布資料を熟読しておく	
第3回 子ども家庭福祉の具体的課題（1）：虐待ネグレクト①概要			事前配布資料を熟読しておく	
第4回 子ども家庭福祉の具体的課題（2）：虐待ネグレクト②支援の基本的枠組み			事前配布資料を熟読しておく	
第5回 子ども家庭福祉の具体的課題（3）：虐待ネグレクト③事例研究			事前配布資料を熟読しておく	
第6回 子ども家庭福祉の具体的課題（4）：子どもの貧困①概要			事前配布資料を熟読しておく	
第7回 子ども家庭福祉の具体的課題（5）：子どもの貧困②貧困と不登校			事前配布資料を熟読しておく	
第8回 子ども家庭福祉の具体的課題（6）：社会的養護①施設養護の概要			事前配布資料を熟読しておく	
第9回 子ども家庭福祉の具体的課題（7）：社会的養護②家庭養護の概要			事前配布資料を熟読しておく	
第10回 子ども家庭ソーシャルワーク（1）：アセスメント①ジェノグラムの描き方			事前配布資料を熟読しておく	
第11回 子ども家庭ソーシャルワーク（2）：アセスメント①ジェノグラムの読み方			事前配布資料を熟読しておく	
第12回 子ども家庭ソーシャルワーク（3）：児童相談所のソーシャルワーク①在宅援助			事前配布資料を熟読しておく	
第13回 子ども家庭ソーシャルワーク（4）：児童相談所のソーシャルワーク②家族再統合支援			事前配布資料を熟読しておく	
第14回 子ども家庭ソーシャルワーク（5）：施設ソーシャルワーク			事前配布資料を熟読しておく	
第15回 まとめ			1回から14回までの授業の復習をしておく	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30％ ※提出された課題はその都度採点（評価）して、適宜返却します。			
小テスト等	—			
成果発表	30％ グループワークまとめ（10％）、グループワーク口頭発表・プレゼンテーション（20％）			
受講態度他	40％ 授業中やフォーラムでの発言			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	子ども家庭福祉に関してあまり知識がない受講生は下記の参考図書を読んでおくことが望ましい			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	西澤哲『子ども虐待』講談社現代新書 池上彰編『日本の大課題 子ども貧困』ちくま新書			
オフィスアワー	月曜日1限目（9:10-10:40）または火曜日1限目（9:10-10:40）	メールアドレス		

授業科目	人権教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	栗山 俊之		単位	2
授業の目的と概要	<p>人権の大切さを理解し、人権に関わる具体的な問題について、論理的に、様々な教材を用いながら授業することができるようになることを目指します。また、そのためのよりよい授業の組み立て方や、教材収集の方法を身に付けてください。なお、部落差別、水俣病、ハンセン病、在日コリアンなどをテーマとして講義を行います。また、時事により、新たな人権問題を組み入れることがあります。</p> <p>講義を通してボランティアや現地研修を自ら行い、現代社会が抱える諸問題について理解し、その解決方法を模索することができるようになってください。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らが受けた人権教育を整理し、検証できる。</li> <li>2. 人権に関する現代的問題に関心をもつ。</li> <li>3. 人権に関する授業を組み立てることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」  (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は仏教福祉活動・高校教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 講義の進め方		高校までに学習した人権に関する事柄を復習しておく		
第2回 人権とは何か		配布する人権に関するプリントを読む		
第3回 人権についての講義（人権を損なうもの）		配布する差別に関するプリントを読む		
第4回 人権にかかわる基本的学習（人権の歴史）		配布する人権の歴史に関するプリントを読む		
第5回 人権にかかわる基本的学習（人権思想）		配布する思想に関するプリントを読む		
第6回 人権にかかわる基本的学習（人権関係法・条約）		配布する人権関係法・条約に関するプリントを読む		
第7回 人権にかかわる諸問題（部落差別）		配布する部落差別に関するプリントを読む		
第8回 人権にかかわる諸問題（外国人差別）		配布する外国人差別に関するプリントを読む		
第9回 人権にかかわる諸問題（ハンセン病）		配布するハンセン病に関するプリントを読む		
第10回 人権にかかわる諸問題（水俣病）		配布する水俣病に関するプリントを読む		
第11回 人権にかかわる諸問題（子どもの人権）		配布する子どもの人権に関するプリントを読む		
第12回 人権にかかわる諸問題（障害者差別）		配布する障害者差別に関するプリントを読む		
第13回 人権にかかわる諸問題（戦争）		配布する戦争に関するプリントを読む		
第14回 人権にかかわる諸問題（DV）		配布するDVに関するプリントを読む		
第15回 まとめ		もう一度、人権教育の意義について考察する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ レポート試験			
レポート	40％ 講義終了前10分前に小レポートを課します			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％ 講義に向き合う姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回、講義終了10分前に「講義の感想・意見」を書いて提出してください。自らが教える場合はどうするかということに常に意識しながら講義に向き合ってください。教職関連科目です。教員を目指す学生に照準を合わせて講義を進めますので、真摯に取り組んでください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します			
オフィスアワー	火4、金3	メールアドレス		

授業科目	人権教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	峰 司郎		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、これまで受けてきた人権教育を振り返り、人権教育に関する法規や人権問題を理解する。様々な人権課題について主体的に考え、解決しようとする意欲や態度を育てる。子どもたちの発達段階に応じた人権尊重の精神を育てるための多様な授業の在り方を紹介し実践意欲を育てる。社会にある人権問題に気づき、解決しようとする人権感覚を育てる。ニュースなど日常生活の中で人権問題に関する関心を高める。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権についての法規や歴史について学び、人権とは何かを理解することができる。</li> <li>・人権教育が世界的な課題であることを理解することができる。</li> <li>・社会にある多様な人権課題に気づく人権感覚を高める。</li> <li>・「体験・参加・協力」をキーワードにした人権教育の学習活動を紹介します、人権教育へのイメージをもつことができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」  (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回：イントロダクション～人権・同和教育についての振り返り		資料を読み自分が学んできた小中高の人権・同和教育を振り返る。		
第2回：人権教育における個別の人権課題～人権教育の指導方法等の在り方について【第三次とりまとめ】より		資料を読む。新聞やテレビなどの人権問題の記述を探す。		
第3回：小学校の教科書にみる人権		小学校6年生社会科教科書の資料を読み、記述の変遷を振り返る。		
第4回：差別と区別について		資料や「ちがいのちがいがい」について考える。		
第5回：中学校の社会科教科書にみる人権～歴史公民分野		中学校社会科資料を読み人権への知識を深める。		
第6回：子どもの人権問題～いじめ・虐待・貧困		子どもの現状に関心をもち料を読み、ニュースなどに関心をもつ		
第7回：女性・性的少数者の人権について		資料を読み女性問題や多様な性の新聞記事などに関心をもつ		
第8回：福岡県人権・同和教育副読本「かがやき」DVD教材「あおぞら1・2」について		資料を読み人権に関する教材への関心を広める。		
第9回：ハンセン病について～正しく知る大切さ		講義や資料を参考に正しく知る大切さについて意見をもつ		
第10回：部落差別について考える①～部落差別の現状		教科書資料や本時の資料を読み現存する部落差別を考える		
第11回：部落差別について考える②～部落差別解消推進法		講義や資料を読み部落差別解消に向けてできることを考える		
第12回：障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消推進法と条例		3つの差別解消法の資料を読み、各地の条例を探す。		
第13回：人権教育の課題としての自尊感情		講義や資料を読み自分と自尊感情について考える。		
第14回：人権教育教育の進め方		講義を振り返り、人権教育のイメージをもつ		
第15回：これからの人権教育（レポート課題）		人権教育とアクティブラーニング、就学前教育の重要性を考える		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 第15回の講義(1月14日)でレポートの課題を出します。提出期限は、1月21日(木)			
小テスト等	50% 講義ごとに感想を提出。出席確認します。			
成果発表	なし			
受講態度他	毎回の感想。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1 毎回配布する資料は、整理保存しておくこと。レポート作成の資料としてください。  2 講義内容と自分との関連を主体的に考え、ニュースなどへの関心を広げる。  3 プレゼンを使って講義を行います。資料を読む時間もとりまします。  4 感想を講義で紹介することがあります。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	福岡県同和教育副読本「かがやき」 DVD版「あおぞら」 小学校6年社会科 中学校社会科歴史・公民分野			
オフィスアワー	授業の前後で相談に応じる	メールアドレス		

授業科目	人体の構造と機能及び疾病【講義】		開講時期	後期
担当教員	百瀬 義人		単位	2
授業の目的と概要	公認心理師に必要なとなる医学の基礎的知識を身につけ、医療における基本的な考え方を理解すると同時に、認知症や障害が日常生活に及ぼす影響とそれに対する支援のあり方について考察しながら、論理的思考力、創造的思考力、問題解決力の他、社会の多様な問題を考えアプローチできる力を養うことを目的とする。この目的を達成するために心理分野に必要なとされる医学的知識と医療における考え方を中心に、公認心理師の専門職としての実践に必要なレベルを常に意識する。入学初年次より精神保健福祉の対象となる様々な医学的側面を学ぶことにより公認心理師専門職志向ををしっかり高めていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心身機能と身体構造について説明することができる。</li> <li>2. 先天性疾患、加齢に伴う疾患の概要について説明することができる。</li> <li>3. 障害の原因となる諸疾患の医学的側面について説明することができる。</li> <li>4. リハビリテーションと生活機能分類について説明することができる。</li> <li>5. 認知症や障害が日常生活に及ぼす影響と、本人や家族に対する支援やケアのあり方について説明することができる。</li> <li>6. 健康に関する国の施策について説明することができる。</li> <li>7. がん、難病等の心理に関する援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション／学習成果 課題：評価方法および評価基準		予習：シラバスを読む。 復習：授業内容を再確認。		
第2回 人の成長・発達と老化 (1) 虐待の傷 再生への道 課題：児童虐待防止法、母子保健法、児童福祉法		予習：p. 12, pp. 236-238。 復習：配付資料を通読。		
第3回 人の成長・発達と老化 (2) ストーカー 殺意の深層 課題：心的外傷後ストレス障害、ストーカー規制法改正		予習：pp. 8-13, p. 171。 復習：配付資料を通読。		
第4回 人の成長・発達と老化 (3) 食の崩壊と低栄養 課題：低アルブミン血症、サルコペニア、フレイル		予習：pp. 14-18, 117-121。 復習：配付資料を通読。		
第5回 身体構造と心身の機能 (1) 水分と脱水症 課題：高齢者の脱水症		予習：pp. 28-29。 復習：配付資料を通読。		
第6回 身体構造と心身の機能 (2) 腎臓と疾患 課題：腎臓の働き、慢性腎臓病		予習：pp. 34-35, 87-94。 復習：配付資料を通読。		
第7回 疾病の概要 (1) 深刻化する依存症 課題：ゲーム依存症、治療と支援		予習：pp. 56-57。 復習：配付資料を通読。		
第8回 疾病の概要 (2) 感染症との戦い 課題：感染症成立の3要因、検疫法		予習：pp. 103-106, 222-224。 復習：配付資料を通読。		
第9回 疾病の概要 (3) 終末期医療と緩和ケア 課題：ホスピス、終末期、在宅緩和ケア		予習：pp. 122-126。 復習：配付資料を通読。		
第10回 障害の概要 (1) 再生医療の衝撃 課題：医療と倫理的課題、患者の人権の尊重		予習：pp. 130-151。 復習：配付資料を通読。		
第11回 障害の概要 (2) 再生医療の挑戦 課題：間葉系幹細胞、脊髄損傷		予習：pp. 130-151。 復習：配付資料を通読。		
第12回 国際生活機能分類 基本的な考え方と概要 課題：障害者の理解と支援		予習：pp. 193-203。 復習：配付資料を通読。		
第13回 国民健康づくり対策 (1) 健康日本21 課題：メタボリックシンドローム		予習：pp. 54-57, 218-221。 復習：配付資料を通読。		
第14回 国民健康づくり対策 (2) うつ病の理解 課題：防衛本能がもたらす宿命、扁桃体		予習：pp. 170-171。 復習：配付資料を通読。		
第15回 まとめワーク 課題①5つの課題をまとめる。 ②練習問題を解く。		予習：すべての配付資料を通読。 復習：練習問題を再確認。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% (5つの課題についての的確にまとめられているかを評価する。50点満点とする。)			
小テスト等	30% (受講時に提出する全ての練習問題の回答を評価する。30-0点を配点する。)			
成果発表	なし			
受講態度他	20% (受講回数を評価して、20-0点を配点する。)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。 復習箇所を明記している回は、授業後に復習をしてください。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座Ⅰ 人体の構造と機能及び疾病 第3版』(中央法規)			
指定図書	なし			
参考図書	随時、図書や資料を紹介			
オフィスワーク	受講日。	メールアドレス		



授業科目	人文地理学【講義】	開講時期	後期
担当教員	黒田 圭介	単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、中学校社会科、高校地理における人文地理のテーマを一通り学ぶことで、社会科教員として持っていてしかるべき知識、技術を修得することを目標とする。また、人間活動の面的な諸現象の規則性を、その要因とともに考えることのできる人材輩出をも目標とする。</p> <p>本講義では高校地理A・Bの教科書における人文地理学的内容の中で、主に資源と産業に着目するとともに、教科書に頻出する地図の読み方を取り上げる。具体的な内容は各回ごとの授業内容を参照のこと。また、教育現場、特に教材研究活動に求められる地理学的解析の技術養成を目指して簡単な解析作業を何度か行う。プロジェクターを用い視覚的に分かりやすい授業をこころがける。</p>		
到達目標	<p>*特に高校地理Bにおける人分地理学的内容（農業、工業、商業、人工、土地利用等）を理解できる。</p> <p>*地理学的な統計情報を的確にグラフ化、地図化できる。</p> <p>*目的に応じて地図を加工し、新たな知見を得ることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 講義説明、連絡		*予習のポイントは講義終了後に通知する。	
第2回 農業の発達と分布		教科書 p 94-95 を読んでおくこと	
第3回 農業の地域区分1～伝統的農業		教科書 p 96-97 を読んでおくこと	
第4回 農業の地域区分2～商業的・企業的農業		教科書 p 98-101 を読んでおくこと	
第5回 エネルギー資源の種類と利用		教科書 p 120-122 を読んでおくこと	
第6回 鉱産資源の種類と利用		教科書 p 124-125 を読んでおくこと	
第7回 工業の発達と種類		教科書 p 136-137 を読んでおくこと	
第8回 工業立地の特徴		教科書 p 138-139 を読んでおくこと	
第9回 世界の工業地域		教科書 p 140-143 を読んでおくこと	
第10回 第三次産業1～商業立地		教科書 p 153-154 を読んでおくこと	
第11回 第三次産業2～観光産業		教科書 p 156-157 を読んでおくこと	
第12回 地図1～分布図の見方（実習）		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第13回 地図2～図形表現図の見方（実習）		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第14回 地図3～流線図の見方（実習）		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第15回 まとめ、予備日		*復習のポイントは講義終了後に通知する。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	-		
レポート	80%		
小テスト等	20%		
成果発表	-		
受講態度他	-		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*テキストを必ず持参すること。</p> <p>*内容は変更になることがある。</p> <p>*予備知識は特に必要ないので、高校地理を受講していなくても履修できる。</p>		
教科書	新詳地理B(帝国書院)		
指定図書	適宜紹介する		
参考図書	適宜紹介する		
オフィスアワー	講義終了後	メールアドレス	

授業科目	数学応用【演習】		開講時期	後期
担当教員	飯塚 勝		単位	2
授業の目的と概要	この科目はこれまでに学んだ数学の基礎知識を確認しながら、数的推理や判断推理といった数学的な思考法を様々な分野に応用する方法を学ぶことを目的としています。「場合の数」「確率」「データの整理」「統計」「数列と級数」などについての簡単な演習問題を解きながら、日常生活の事象を数理的に捉え処理するための考え方の基礎を身につけます。受講生の状況を見ながら、担当者の判断で内容を変更することがあります（その場合は授業で説明します）。			
到達目標	<p>1. 「場合の数」「確率」「データの整理」「統計」「数列と級数」といった分野における基本的な問題の解き方について説明することができる。</p> <p>2. 日常生活の諸問題について、数学的思考に基づいて論理的に思考し、解決することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。毎回、授業外学修のための課題を課す。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
場合の数			プリント復習（場合の数と順列）	
事象			プリント復習（組合せ、集合と事象）	
確率			プリント復習（確率の概念とその性質、事象の独立性）	
確率変数			プリント復習（条件付き確率、確率変数とその分布）	
確率変数の特性量			プリント復習（いろいろな確率分布、平均と分散）	
連続型確率変数			プリント復習（正規分布、大数の法則と中心極限定理）	
確率論の応用			プリント復習（賭けの数理と保険の数理）	
データ解析			プリント復習（いろいろなデータと量的データの解析）	
多変量データの解析			プリント復習（相関係数と回帰直線）	
統計解析の考え方			プリント復習（母集団と母数、データの無作為抽出）	
統計解析の手法			プリント復習（統計的推定と統計的検定）	
総計学の応用			プリント復習（社会調査の数理）	
数列と級数			プリント復習（等差数列と等比数列、数列の和）	
数列と級数の応用			プリント復習（生命科学の数理）	
まとめワーク			講義全体の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% まとめワーク（講義全体の到達度を評価する） 45% 毎回、授業内容に即した演習問題を提出			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 授業の受講態度の適切性についても成績評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話等の操作、他の科目の学習は禁止する。			
教科書	プリントを配布（平方根が計算できる電卓を準備すること）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	「筑女ネット」によるリアルタイム型遠隔授業を実施するので、授業中のチャットと時間外メールで対応		メールアドレス	

授業科目	数学基礎【演習】		開講時期	前期
担当教員	飯塚 勝・安武 久洋		単位	2
授業の目的と概要	この科目はこれまでに学んだ数学の基礎知識を確認しつつ、数的推理、判断推理といった数学的な思考法の基礎を身につけることを目的としています。「数の計算」「式の計算」「方程式」「関数とグラフ」などについての演習問題を解きながら、日常生活の事象を数理的に捉え処理するための考え方の基礎を身につけます。受講生の状況を見ながら、担当者の判断で内容を変更することがあります（その場合は授業で説明します）。他者と協働して演習問題に取り組むこともあります。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「数の計算」「式の計算」「方程式」「関数とグラフ」といった分野における基本的な問題の解き方について説明することができる。</li> <li>日常生活の諸問題について、数学的思考に基づいて論理的に思考し、解決することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」</li> <li>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</li> <li>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
数の世界			プリント復習（数の概念）	
有理数と無理数			プリント復習（分数と非循環小数）	
数の演算			プリント復習（四則演算）	
素数と素因数分解			プリント復習（素因数分解を用いた約数と倍数の計算）	
式の世界			プリント復習（文字式の有用性）	
式の演算（1）			プリント復習（式の四則演算と展開）	
式の演算（2）			プリント復習（因数分解の熟達）	
不等式			プリント復習（一次不等式）	
比例関係			プリント復習（数と数の相対関係の表現）	
方程式（1）			プリント復習（一次方程式と連立方程式）	
方程式（2）			プリント復習（二次方程式）	
関数			プリント復習（関数の概念とその有用性）	
一次関数			今プリント復習（一次関数の性質）	
二次関数			プリント復習（二次関数の性質とその応用）	
まとめワーク			講義全体の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% まとめワーク（講義全体の到達度を評価する） 45% 毎回、授業内容に即した演習問題を提出			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 授業の受講態度の適切性についても成績評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話等の操作、他の科目の学習は禁止する。			
教科書	プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後に相談に応じる		メールアドレス	

授業科目	スクール（学校）ソーシャルワーク演習【SSW】【演習】		開講時期	前期
担当教員	大西 良		単位	2
授業の目的と概要	<p>本科目は、スクール（学校）ソーシャル教育課程におけるスクール（学校）ソーシャルワーク専門科目群の1つである【※スクール（学校）教育課程の学生のみ受講可能】。</p> <p>事例検討やグループワーク等を通じて、スクール（学校）ソーシャルワーカーに求められる知識と技術を理解し習得する。またスクール（学校）ソーシャルワーク実践におけるミクロ・メゾ・マクロプラクティスの実践について習得する。</p>			
到達目標	<p>本科目では、スクールソーシャルワークにおける相談援助の知識と技術について実践的に習得するとともに、それらを理論化して体系立てていくことができる能力を身につける。また、学校現場でソーシャルワークを実践する際のソーシャルワーカーの具体的な動きについて習得する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は、スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程の専門科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 本授業の方針、今後のスケジュールを確認	復習：年間のスケジュールを確認する		
第2回	スクール（学校）ソーシャルワークとは 福祉の視点を教育と調和させながら示せる安定した福祉の価値観を実践的に獲得する	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。		
第3回	子どもを取り巻く地域および社会の状況の理解 子どもを取り巻く地域の資源、サービスを知る	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。		
第4回	学校・地域アセスメント ソーシャルワークの展開において学校アセスメント、地域アセスメントの必要性とその手法を学ぶ学校の実態や状況、組織システムを把握する	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。		
第5回	スクール（学校）ソーシャルワークにおける相談援助の実践① スクール（学校）ソーシャルワークにおける相談援助活動について学ぶ	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。		
第6回	スクール（学校）ソーシャルワークにおける相談援助の実践② スクール（学校）ソーシャルワークにおける相談援助活動について学ぶ	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。		
第7回	事例検討を通じてミクロプラクティスを学ぶ① アセスメント、プランニング、援助の実行のプロセスを学ぶ	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。		
第8回	事例検討を通じてミクロプラクティスを学ぶ② アウトリーチの実践について学ぶ	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。		
第9回	事例検討を通じてメゾプラクティスを学ぶ① 校内ケース会議や連携ケース会議を進める手法を学ぶ	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。		
第10回	事例検討を通じてメゾプラクティスを学ぶ② 教育行政との協働システムの策定について学ぶ	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。		
第11回	事例検討を通じてマクロプラクティスを学ぶ① 学校外の資源を活用し、地域に根ざした相談活動の展開方法について学ぶ	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。		
第12回	事例検討を通じてマクロプラクティスを学ぶ② スクール（学校）ソーシャルワークが広く子どもたちの代弁ができる位置にあることを理解し、新たな仕組みを開発する視点を養う	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。		
第13回	スクール（学校）ソーシャルワークにおける記録の意義と実際 記録をつける、データの蓄積を行うなど説明できる力、効果測定を行う力をつける	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。		
第14回	スクール（学校）ソーシャルワークにおけるスーパービジョン 地域でのスーパービジョン体制を策定する意義を理解し、その体制づくりを実践的に学ぶ	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。		
第15回	全体総括	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	50% 遠隔授業の中で課題を出すので、調べたこと等をまとめて提出すること（筑女ネットの活用） ※提出された課題はその都度採点（評価）して、適宜返却します。			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 積極的な受講を求める</p> <p>2. 受講にあたっては、予習と復習を必ずすること</p>			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で随時紹介する			
オフィスアワー	月曜日1講目および火曜日1講目	メールアドレス		

授業科目	スクール（学校）ソーシャルワーク実習指導【SSW】【演習】	開講時期	後期
担当教員	大西 良	単位	1
授業の目的と概要	本科目は、スクール（学校）ソーシャル教育課程におけるスクール（学校）ソーシャルワーク専門科目群の1つである【※スクール（学校）教育課程の学生のみ受講可能】。学校現場等の実習において、学校現場および学校組織の理解を深めるとともに、スクール（学校）ソーシャルワーカーとしての相談援助活動の知識と技術を習得する。さらに、実習で習得した援助活動を専門的援助技術として、概念化、理論化して体系立てていく能力を養うことを目的とする。		
到達目標	(1) スクール（学校）ソーシャルワーク実習の意義を理解する。(2) 学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など学校組織を理解する。(3) 学校と連携する関係機関の理解を深める。(4) 学校、家庭、地域について理解を深める。(5) 学校現場で必要とされる相談援助やケース会議等の知識と技術を理解する。(6) 学校に必要とされるチームで対応する力を養う。(7) 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務に関して理解する。(8) スクール（学校）ソーシャルワーカーの援助技術を概念化、理論化して体系的に理解する。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程の専門科目です。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回オリエンテーション	本授業の方針、今後のスケジュールを確認	復習：年間のスケジュールを作成する	
第2回	スクール（学校）ソーシャルワーク実習の意義	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。	
第3回	実習目標・実習計画の作成①実習生、実習担当専任教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。	
第4回	実習目標・実習計画の作成②実習生、実習担当専任教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。	
第5回	実習目標・実習計画の作成③実習生、実習担当専任教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。	
第6回	実習目標・実習計画の作成④実習生、実習担当専任教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。	
第7回	実習目標・実習計画の作成⑤実習生、実習担当専任教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。	
第8回	実習目標・実習計画の作成⑥実習生、実習担当専任教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。	
第9回	実習目標・実習計画の作成⑦実習生、実習担当専任教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。	
第10回	実習目標・実習計画の作成⑧実習生、実習担当専任教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。	
第11回	学校・教育委員会・教育センターなど学校組織の理解①学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室などの理解	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。	
第12回	学校・教育委員会・教育センターなど学校組織の理解②学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室などの理解	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。	
第13回	ゲストスピーカー①子どもの置かれている環境について理解する	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。	
第14回	ゲストスピーカー②学校、家庭、地域の連携、ネットワークについて理解する	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。	
第15回	全体総括	復習：達成できたことと課題として残ったことを振り返り確認する。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0％		
レポート	50％		
小テスト等	20％ 講義の中で課題を出すので、調べたこと等をまとめて提出すること（筑女ネットの活用） ※提出された課題はその都度採点（評価）して、適宜返却します。		
成果発表	20％ グループワークまとめ（10％）、グループワーク口頭発表・プレゼンテーション（10％）		
受講態度他	10％ 講義中に質疑応答や話し合いの時間を設けるので、積極的に参加すること		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 2/3（10回）以上の出席で定期試験の受験資格を得ることができる 2. 積極的な受講を求める 3. 受講にあたっては、予習と復習を必ずすること		
教科書	特になし		
指定図書	特になし		
参考図書	授業の中に随時紹介する		
オフィスアワー	月曜日1講目	メールアドレス	

授業科目	スクール（学校）ソーシャルワーク論【講義】	開講時期	後期
担当教員	大西 良	単位	2
授業の目的と概要	今日の学校教育現場が抱える課題とスクール（学校）ソーシャルワーカー導入の意義、スクール（学校）ソーシャルワークの発展過程、目的・価値、スクールソーシャルワークの方法技術、スクールカウンセラーとの異同、多職種との連携、スクールソーシャルワークの実践事例などについて概説した後、グループによる事例検討（不登校・いじめなど）・ディスカッションを行う。なお、本科目は、スクール（学校）ソーシャルワーク課程履修予定者は必修である。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクール（学校）ソーシャルワークの歴史・理念・方法と、具体的事例への対応を説明できる。</li> <li>・児童・生徒が抱えがちな問題とその背景を知ろうとする態度や意欲が形成されている。</li> <li>・児童・生徒が抱える問題を解決する具体的方法をイメージできる。</li> <li>・具体的事例の支援をデザインできる。また関係職種との連携の方法を具体的に活用できる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福（3）-②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	スクールソーシャルワークとは	教科書の第Ⅱ章（24～33ページ）を読んで予習してくる	
第2回	スクールソーシャルワークの目的と役割	教科書の第Ⅱ章（24～33ページ）を読んで予習してくる	
第3回	スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーの違い ～第Ⅱ章のまとめとディスカッション～	教科書の第Ⅱ章（24～33ページ）を読んで予習してくる	
第4回	日本のスクールソーシャルワーク1～スクールソーシャルワーク前史～	教科書の第Ⅲ章（34～51ページ）を読んで予習してくる	
第5回	日本のスクールソーシャルワーク2～近年のスクールソーシャルワーク ～第Ⅲ章のまとめとディスカッション～	教科書の第Ⅲ章（34～51ページ）を読んで予習してくる	
第6回	スクールソーシャルワークの基礎理論	教科書の第Ⅵ章（96～113ページ）を読んで予習してくる	
第7回	スクールソーシャルワークにおけるアセスメント	教科書の第Ⅶ章（114～133ページ）を読んで予習してくる	
第8回	スクールソーシャルワークにおけるモニタリング	教科書の第Ⅶ章（114～133ページ）を読んで予習してくる	
第9回	スクールソーシャルワークにおけるプランニング ～第Ⅵ章および第Ⅶ章のまとめとディスカッション～	教科書の第Ⅶ章（114～133ページ）を読んで予習してくる	
第10回	スクールソーシャルワーク実践1 ～いじめとスクールソーシャルワーク～	教科書のⅧ章（134～225ページ）を読んで予習してくる	
第11回	スクールソーシャルワーク実践2 ～不登校とスクールソーシャルワーク～	教科書のⅧ章（134～225ページ）を読んで予習してくる	
第12回	スクールソーシャルワーク実践3 ～児童虐待とスクールソーシャルワーク～	教科書のⅧ章（134～225ページ）を読んで予習してくる	
第13回	スクールソーシャルワーク実践4 ～貧困とスクールソーシャルワーク～	教科書のⅧ章（134～225ページ）を読んで予習してくる	
第14回	スクールソーシャルワーク実践5 ～非行とスクールソーシャルワーク～	教科書のⅧ章（134～225ページ）を読んで予習してくる	
第15回	まとめとグループディスカッション	1～14回までの授業内容を復習してくる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	50％		
レポート	0％		
小テスト等	20％ 講義の中で課題を出すので、調べたこと等をまとめて提出すること（筑女ネットの活用） ※提出された課題はその都度採点（評価）して、		
成果発表	20％ グループワークまとめ（10％）、グループワークの口頭発表・プレゼンテーション（10％）		
受講態度他	10％ 講義中に質疑応答や話し合いの時間を設けるので、積極的に参加すること		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 2/3（10回）以上の出席で定期試験の受験資格を得ることができる 2. 積極的な受講を求める 3. 受講にあたっては、予習と復習を必ずすること		
教科書	「よくわかる スクールソーシャルワーク」第2版 ミネルヴァ書房		
指定図書	特になし		
参考図書	大西良編著「精神保健福祉士のためのスクールソーシャルワーク入門」へるす出版		
オフィスアワー	月曜日1講時	メールアドレス	

授業科目	スタディ・アブロードA【演習】	開講時期	後期
担当教員	羅 義圭・徐 涛	単 位	2
授業の目的と概要	<p>アジア圏留学が決定した学生を対象とする、留学目的を明確化し留学成果を最大限引き出すための実践的な準備科目である。導入後、各テーマでのプレゼンテーションやディスカッション、レポート作成を通して、基本となる語学4技能の集中的学習を行う。さらに、帰国学生、学内留学生のプレゼンテーションとディスカッションを通して、留学リテラシーを習得する。さらに留学中に実施する研究・調査・活動について計画を立てディスカッションを踏まえて、終盤に行う留学目標・研究/調査/活動テーマの発表に反映させる。</p> <p>このほかに、将来構想（留学経験と進路）に関する検討を行い、中長期的な視野の中での留学の意義を考える。併せて渡航準備や海外滞在中の危機管理などに関する具体的スキルも習得する。</p>		
到達目標	<p>①海外留学の意義や海外の高等教育事情を学ぶことで、留学の動機を明確にする。  ②留学先で必要となる語学力を中心とした基礎的な学習スキル・生活スキルを身に付ける。  ③留学先で、日本の文化・社会、筑紫女学園大学について紹介ができる。  ④留学先で、各学生が計画した調査・研究・実践を行い一定の成果を持ち帰ることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：オンデマンド型で授業実施(筑女ネット科目コースで確認することー韓国)	課題の確認・準備	
第2回	留学と異文化理解：教員・帰国学生の体験レクチャー①生活編 ディスカッション	レポート作成・エッセイ課題準備	
第3回	留学と異文化理解：教員・帰国学生の体験レクチャー②学習編 ディスカッション	レポート作成・エッセイ課題準備	
第4回	交換留学生レクチャー：異文化つにて ディスカッション	レポート作成・エッセイ課題準備	
第5回	プレゼン・エッセイライティング	エッセイ作成・プレゼン準備	
第6回	中国語・韓国語プレゼンテーション：自分自身と筑紫女学園大学①	プレゼン準備	
第7回	中国語・韓国語プレゼンテーション：自分自身と筑紫女学園大学②	レポート作成・プレゼン準備	
第8回	中国語・韓国語プレゼンテーション：日本文化①	プレゼン準備	
第9回	中国語・韓国語プレゼンテーション：日本社会②	レポート作成	
第10回	留学と進路：帰国学生レクチャー、進路支援課指導 ディスカッション	レポート作成・テーマ準備	
第11回	留学中の学修①：テーマ設定、調査・研究・活動などを発表	レポート作成・テーマ準備	
第12回	留学中の学修②：テーマ設定、調査・研究・活動などを発表	レポート作成・テーマ準備	
第13回	渡航準備・危機管理オリエンテーション(国際交流センター)	レポート作成・プレゼン準備	
第14回	まとめ：留学目標・研究・活動テーマ発表① 総合ディスカッション	レポート作成	
第15回	まとめ：留学目標・研究・活動テーマ発表② 総合ディスカッション	期末レポート作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40%(韓国:自分のパートナーへ韓国語で手紙を書くこと)		
小テスト等	なし		
成果発表	40% プレゼンテーション(20%)、ディスカッション(20%)		
受講態度他	20% 授業での積極的な発言		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①常に明確な目的意識を持ち、主体的にクラスに臨むこと。  ②内外の国際交流イベント(例:国際交流センターが実施する「international Cafe」など)に、積極的に参加すること。  ③事後研究:留学中の学修の成果報告・事後レポート提出。  ④帰国報告会、次年度留学生への指導。</p>		
教科書	毎回、作成したPDFまたはワード資料を提示		
指定図書	なし		
参考図書	授業時紹介		
オフィスアワー	月曜日・木曜日 お昼休み後	メールアドレス	

授業科目	スタディ・アブロードB【演習】		開講時期	前期
担当教員	山田 直子		単位	2
授業の目的と概要	英語圏への長期留学が確定している学生を対象とするアクティブラーニング授業です。豊かな学びや成長につながる留学するために、本授業では各々の留学の目的や学習計画を再考します。また海外留学に必要な知識（アカデミックスキル、異文化適応と異文化コミュニケーション、健康・安全管理、海外渡航の基礎知識等）を獲得することを目的としています。現地での留學生生活を想定し、英語による体験学習を行い留学先での学習に備えます。			
到達目標	①自らの留学の動機や目的、学習計画を明確にすることで、主体的に留学の準備をすることができる。 ②留学中に必要な学習スキル、生活スキル、コミュニケーションスキルについて説明することができる。 ③自らの考えや調べた内容について、具体的に述べるができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション・アイスブレイキング	ワークシート（1）自らの「留学」を再考する		
第2回	自分はなぜ留学をするのか、留学に何を期待しているのか？	ワークシート（2）必要な留学準備の明確化とスケジュールリング		
第3回	留学準備について考える（手続き、語学学習、現地で参加する科目に関する予備知識）	ワークシート（3）自分の授業ノートや読書習慣を分析してみよう		
第4回	留学のための学習スキル（1）Note Taking & Reading	ワークシート（4）自分の授業参加姿勢を振り返る		
第5回	留学のための学習スキル（2）Being Active Learner (Discussion, Presentation, and Talking to Professors)	ワークシート（5）これまでの課題取組について振り返る		
第6回	留学のための学習スキル（3）Academic Integrity (Studying for Exams & Writing Essay)	ワークシート（6）授業以外の活動を振り返る		
第7回	留学のための生活スキル（1）Being Active on Campus and Using Campus Resources	ワークシート（7）派遣先大学の健康や安全に関する施設や支援を調べる		
第8回	留学のための生活スキル（2）Mental and Physical Health & Safety	留学先国・地域・大学の特徴についての調査、プレゼンテーション準備		
第9回	派遣先国・地域・大学について理解する [アメリカ]	留学先国・地域・大学の特徴についての調査、プレゼンテーション準備		
第10回	派遣先国・地域・大学について理解する [カナダ]	太宰府と筑紫女学園についてのプレゼンテーションを行うための準備		
第11回	太宰府・筑紫女学園について発信しよう（個人プレゼンテーション）	配布資料を読み、質問を考える		
第12回	異文化コミュニケーション [理論編]	太宰府と筑紫女学園についてのプレゼンテーションを一つにまとめ練習する		
第13回	異文化コミュニケーション [実践編] 留学生とのディスカッション	自らの留学計画を再度検討し、新しい計画の発表準備を行う		
第14回	「私の留学計画」（個人プレゼンテーション）	ワークシート（8）自分の留学計画に関するコメントやアドバイスを振り返る		
第15回	総括・コンサルテーション	自分のポートフォリオを見直し、学習を振り返る		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 8回のワークシートの提出			
小テスト等	なし			
成果発表	30% プレゼンテーション			
受講態度他	30% 十分に課題を行なった上で、積極的に授業に参加できているか否かを考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	課題を必ず行なった上で参加してください。欠席が6回に達すると単位取得の資格を失います。			
教科書	なし			
指定図書	適宜、授業内で紹介します。			
参考図書	適宜、授業内で紹介します。			
オフィスアワー	水曜 3 時間目	メールアドレス		



授業科目	図画工作Ⅰ【演習】		開講時期	後期
担当教員	岡山 万里・納屋 亮		単位	1
授業の目的と概要	<p>保育所、幼稚園、小学校の保育・教育現場において、楽しい造形遊びや造形活動が実現できるように、保育所保育指針、幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領に基づいて、乳幼児の造形表現、小学校図画工作科の概要を把握し、必要な基礎的理論と知識、技能などについて修得を図ることを目的とする。</p> <p>特に作品製作を中心にもものをつくりだす喜びを味わいながら修得し、保育士・幼稚園教諭及び小学校教諭として必要な知識・技能の習得を目指す。また、美術作品鑑賞の考え方について触れながら、自ら製作した作品を中心とした評価・鑑賞活動を行う。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 造形教育及び図画工作科の教育目標について説明することができる。</li> <li>・ 材料・用具の特性を理解し、その使用方法を説明することができる。</li> <li>・ 色彩を学び、表現の基礎について説明することができる。</li> <li>・ 作品の鑑賞について、そのあり方を説明することができる。</li> <li>・ 領域「表現」、小学校図画工作科の学習目標を理解し、その目標達成のための基本的内容を説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」  初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  幼 (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」  幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション (授業の進め方、子どもの造形表現の発達)	復習：別紙プリント「子どもの絵の発達段階」熟読		
第2回	保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「表現」及び小学校図画工作科の目標と内容	復習：別紙プリント「目標と内容穴あき問題」		
第3回	造形表現活動①色彩についての基礎学習 (12色相環、色の3要素、補色、類似色)	復習：別紙プリント「12色相環」		
第4回	造形表現活動②12色相環を使った平面構成作品の製作	復習：作品仕上げ		
第5回	造形表現活動③木版画の製作 (下絵の転写、彫刻刀の種類、彫り跡の違い、白黒の配分)	復習：作品に応じた彫刻刀の選択		
第6回	造形表現活動④木版画の製作 (線彫りと面彫りの違い)	復習：線彫り・面彫りの練習		
第7回	造形表現活動⑤木版画の製作 (刷りの基本、インクの量、ローラーの動かし方、バレンの使い方)	復習：作品仕上げ		
第8回	造形表現活動⑦混色による濃いめの彩色 (絵の具の出し方、筆洗の使い方、混色の仕方)	復習：作品製作		
第9回	造形表現活動⑧混色による濃いめの彩色 (筆に含ませる水の量)	復習：作品製作		
第10回	造形表現活動⑨混色による濃いめの彩色 (意図をもった色づくりと配色計画)	復習：作品仕上げ		
第11回	造形表現活動⑩動くおもちゃ製作 (基本形づくり、アイデアスケッチ)	復習：アイデアスケッチ		
第12回	造形表現活動⑪動くおもちゃ製作 (動く仕組みづくり)	復習：丈夫で壊れない仕組みづくり		
第13回	造形表現活動⑫動くおもちゃ製作 (飾りのデザイン、切り方、貼り方)	復習：作品仕上げ		
第14回	粘土による造形遊び (子どもの活動が連続発達するように活動1～3をグループワークで構想する)	復習：別紙プリント「粘土の諸技能」		
第15回	幼児・児童作品の鑑賞のあり方、造形・美術作品の鑑賞活動、まとめ	復習：別紙プリント「先生のコメント」		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	20%			
レポート	60% 提出作品の完成度			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業への積極的参加度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者・教職をめざす者として積極的な発言や授業への参加を期待する。</li> <li>・ 材料・用具等の忘れ物がないように気をつけること。</li> </ul>			
教科書	小学校学習指導要領解説(図画工作編)、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	高橋淑子著、財団法人日本色彩研究所監修 『色彩ナビ』 日本色研事業株式会社			
オフィスワーク	各教員の他科目のシラバスを参照。	メールアドレス		

授業科目	図画工作Ⅱ【演習】		開講時期	前期
担当教員	岡山 万里・納屋 亮		単位	1
授業の目的と概要	<p>保育所、幼稚園、小学校の保育・教育現場において、楽しい造形遊びや活動が実現できるように、保育所保育指針、幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領に基づいて、乳幼児の造形表現、小学校図画工作科の概要を把握し、必要な基礎的理論と知識、技能などについて修得を図ることを目的とする。</p> <p>また、実際に作品を製作する活動を通して、つくりだす喜びを味わいながら修得し、保育士・幼稚園教諭及び小学校教諭として必要な知識・技能の修得を目指す。特に美術教育に対する考えを深めながら、絵画的表現や版画・木工の実技及び鑑賞活動を行う。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 造形教育、美術教育の意義について説明することができる。</li> <li>・ 幼児造形教育や小学校図画工作科の理論と知識・技能を身につけると共に表現活動に効果的に応用することができる。</li> <li>・ 鑑賞活動を通じて、そのあり方を説明できる。</li> <li>・ 製作プロセス、用具材料の特性を理解した上で、計画的に製作することができる。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目など	<p>初 (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」  初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  幼 (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」  幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション (授業計画、グループ編成)	予習：美術資料の通読		
第2回	造形表現活動①モダンテクニックの技法体験 (マーブリング、ドロッピング、吹き流し、デカルコマニー、染め紙)	復習：美術資料p. 64の技法練習		
第3回	造形表現活動②モダンテクニックの技法体験 (フロッタージュ、カラージュ、スパッタリング、パチック、スタンピング)	復習：美術資料p. 65の技法練習		
第4回	造形表現活動③モダンテクニックの技法を使った構想画製作	復習：美術資料pp. 64-65の技法練習		
第5回	造形表現活動④水彩絵の具による淡彩表現 (いわさきちひろの生涯、代表的な作品、ちひろ美術館)	予習：美術資料pp. 6-7淡彩画の描き方		
第6回	造形表現活動⑤水彩絵の具による淡彩表現 (ぼかし、たらしこみによるにじみ技法)	復習：美術資料p. 6 にじみの練習		
第7回	造形表現活動⑥水彩絵の具による淡彩表現 (いわさきちひろ作品の模写)	復習：模写の仕上げ		
第8回	造形表現活動⑦版画の種類と表現の違い (紙版画、木版画、ドライポイント、ステンシル、エッチング)	予習：美術資料pp. 26-35通読		
第9回	造形表現活動⑧ドライポイントによる作品製作 (陰影の表現)	予習：美術資料pp. 26-35		
第10回	造形表現活動⑨ドライポイントによる作品製作 (エッチングプレス機の各部名称、インクのふき取り)	復習：陰影の出し方練習		
第11回	造形表現活動⑩ドライポイントによる作品製作 (エッチングプレス機の各部名称、インクのふき取り)	復習：作品の仕上げ		
第12回	造形表現活動⑪木工の基本 (のこぎりや電動糸のこぎりを使った切断、ボンドを使った接合の仕方)	予習：美術資料pp. 66-71		
第13回	造形表現活動⑫ジグソーパズルの製作 (木取り、切断、中抜き)	復習：中抜きの練習		
第14回	造形表現活動⑬ジグソーパズルの製作 (みがき、塗装、ワックスがけ)	復習：塗装の練習		
第15回	鑑賞活動とまとめ	製作した作品の自己評価及び他者評価		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80% 提出作品の完成度			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業への積極的参加度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者・教職をめざす者として、授業への積極的な参加を期待する。</li> <li>・ 授業において必要な材料・用具などを忘れないように注意すること。</li> </ul>			
教科書	京都市立芸術大学美術教育研究会編 『美術資料一元気な福岡の美術』 秀学社			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	阿部宏行 『いっしょに考えよう 図工のABC』 日本文教出版			
オフィスワーカー	各教員の他科目のシラバスを参照。	メールアドレス		

授業科目	生活学【講義】		開講時期	前期
担当教員	豊増 美喜		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業では、生活の器である「住まい」の意味や成り立ちから、より良い住まい方を検討し、住まいに関する事象について、幅広く問題を提起しながら学んでいきます。</p> <p>具体的には、日本の住まいの変遷を学び、現在に続いている自分の生活を見つめます。また、一人暮らしや、子どもの成長に応じた住まいのプランを概観することで、家族の形態や生活のスタイル、ライフステージ等による住要求の違いや、住要求をデザインとして表す手法を学びます。自分の生活を見つめ、安全で快適な、そして創意に満ちた魅力ある住まいを創造するための基礎的知識と技術を身につけましょう。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本に住居の変遷を知り、現代の住生活とのつながりを説明できる。</li> <li>2 生活の主体者として住要求を識別し、住要求を満たす、住まいの形をイメージすることができる。</li> <li>3 ライフステージにあった住まいの選択をすることができる。</li> <li>4 健康で、安心・安全な住生活を送るための基礎的な知識を身につけ、生活に生かすことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	住生活とは何か-----住まいのイメージと気候風土	教科書（14ページ～19ページ1行目まで）を熟読すること		
第2回	住居の変遷と住意識（1）-----竪穴式住居、寝殿造、書院造	教科書（6ページ～9ページ）を熟読すること		
第3回	住居の変遷と住意識（2）-----町家、農家	教科書（10ページ）を熟読すること		
第4回	住居の変遷と住意識（3）-----近代日本の住宅	教科書（11ページ～12ページ）を熟読すること		
第5回	生活様式と住居-----現代の住文化と起居様式	教科書（13ページ）を熟読すること		
第6回	住宅の選択と管理（1）-----家族周期と住要求	レポートの作成		
第7回	住宅の選択と管理（2）-----住宅に関する情報、購入と賃貸借	教科書（55ページ～59ページ）を熟読すること		
第8回	住宅の選択と管理（3）-----住要求とプラン・図面を読む～若い世帯の住まい選び	レポートの作成		
第9回	住宅の選択と管理（4）-----住要求とプラン・図面を読む～高齢者の住まい選び	レポートの作成		
第10回	安全・安心と住まい-----防災・減災と住まい	プリントを熟読すること		
第11回	健康で快適な室内環境（1）-----各部屋の安全と、温熱環境の調整	教科書（34ページ～41ページ）を熟読すること		
第12回	健康で快適な室内環境（2）-----音環境の調整	教科書（42ページ～44ページ）を熟読すること		
第13回	健康で快適な室内環境（3）-----光環境、空気環境などの調整	教科書（45ページ～48ページ）を熟読すること		
第14回	快適に暮らす住まい-----掃除の科学	プリントを熟読すること		
第15回	まとめレポート	これまでプリント等を読み、復習する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% 毎回の授業の感想より評価する			
小テスト等	20% 最終週のレポート課題（1）より評価する			
成果発表	20% 最終週のレポート課題（2）より評価する			
受講態度他	20% 授業の出席などを考慮する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行うので、前回の講義内容を復習しておくこと。</p> <p>図面やプリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。</p> <p>レポートは基本的にチェック後に次回の授業で返却する。</p>			
教科書	後藤久著「First Stage 精選住居学（First Stageシリーズ）」実教出版			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワーク	大学での授業の場合は授業の前後、遠隔授業の場合はメール等の利用	メールアドレス		

授業科目	生活の科学【講義】		開講時期	前期
担当教員	速水 良晃		単位	2
授業の目的と概要	最新の科学に基づいた技術が非常に便利で使いやすい製品の形で普及しているため、私達はそれらの中身の科学や技術の仕組みを知らないでも生活できるが、常にそうではないということ、あちこちで発生する災害時のニュースで知ることが出来る。この授業は現代社会を豊かにそして安全に過ごすために、科学の基本的考え方や新しい技術の仕組みを正しく理解できるようにすることを目的とする。 教科書として選んだ本は、科学の分野毎の系統に沿って、生活の中の身近な現象を採り上げ、科学の基礎原理を分かりやすく説明してある。これらの多数のトピックの解説を通じて、「理科」の基礎的知識を学び、それを基に自らの生活を安全に快適に、そして持続可能な生活スタイルに変えていくことを工夫する。			
到達目標	① 授業で採り上げた各トピックについて、科学的説明ができる。 ② 科学的説明の論理性を身の回りの事象にも応用できる。 ③ 現代社会に氾濫している過大広告などのウソの情報を見破ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	授業の進め方 質問づくりの目的と方法		第2回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第2回	第16章 からだを守るシステム		第3回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第3回	第1章 水 最も身近な環境		第4回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第4回	第2章 大気 きれいな空気を求めて		第5回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第5回	第3章 大地 いのちと暮らしの基盤		第6回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第6回	第4章 環境化学物質 環境を蝕む		第7回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第7回	第5章 エネルギー 現状と将来		第8回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第8回	第6章 不思議な水の性質		第9回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第9回	第7章 ものが燃えるとは		第10回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第10回	第8章 溶ける・洗う		第11回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第11回	第9章 くっつくとは		第12回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第12回	第10章 色をつける 光源色、吸収色、物体色、視覚、色覚		第13回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第13回	第11章 暮らしの中の金属		第14回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第14回	第12章 進化し続けるプラスチック		第15回の内容についての質問を提出、重要質問3つを投票、予習レポート提出	
第15回	第13章 生体内で働いている分子たち、総合的な質問、まとめ、授業評価		科学的思考への「質問づくり」の有効性の検証と今後の方策の検討	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	45% 毎回の「3つの質問」についての予習内容(3つの選択理由、3つの予習レポート内容、受講上の留意点に合致していること)、40% 最終レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 毎回の「独自の質問」の数			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回の授業(月曜)日に翌週の授業内容についての「質問の焦点」が提示される。それを基に月曜日以内に受講生全員が「独自の質問」をアンケートで提出する。火曜日に発表された全員の質問の中から、重要と考えられる質問を3つ選んで、火曜日以内に投票する。水曜日に発表された「3つの質問」について予習した内容を予習レポートとして金曜夜までに提出する。他人のレポートの参照は不正行為です。書籍、論文、ネット情報を引用する場合は「・・・」で囲み、参照する場合も含めて、その文末に出典を(速水 2020)のように明記しなければ、不正行為とみなします。また、レポートに占める引用部分の量は2割			
教科書	伊藤明夫 『環境・暮らし・いのちのための化学の心』 裳華房			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	メールで相談してください		メールアドレス	

授業科目	精神医学Ⅰ【講義】		開講時期	後期
担当教員	今村 芳博		単位	2
授業の目的と概要	精神医学を体系的に、総論と各論を学ぶので、精神医学ⅠとⅡをともに受講する必要がある。最終学年時には精神保健福祉士国家試験に合格する。精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の基礎知識を体系的に学ぶ。受講を通して、精神障がいを抱える人に接するときの、適切な態度、留意点をも身につける。担当教員の現場経験に基づく知識と情報を介して、受講生は精神医療の歴史と現在の問題点について理解できる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医学・精神医療の歴史および概念を説明できる</li> <li>2. 精神医学的診断、治療の概要を説明できる</li> <li>3. 代表的精神疾患について概要を説明できる</li> <li>4. 精神保健福祉士国家試験において精神医学問題の60%以上を正答できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 精神医学の歴史			教科書予習 第1章第1節 第6章第1節	
第2回 精神現象の生物学的基礎			教科書予習 第1章第2節、第3節	
第3回 精神疾患の概念と分類			教科書予習 第2章、第3章	
第4回 認知症			教科書予習 第4章第1節	
第5回 アルコール依存症			教科書予習 第4章第2節	
第6回 統合失調症①			教科書予習 第4章第3節	
第7回 気分障害①			教科書予習 第4章第4節	
第8回 神経症性障害			教科書予習 第4章第5節	
第9回 摂食障害			教科書予習 第4章第6節	
第10回 精神遅滞			教科書予習 第4章第7節、第8節	
第11回 心理的発達の障害			教科書予習 第4章第9節、第10節	
第12回 精神疾患の治療①			教科書予習 第5章	
第13回 精神科治療構造			教科書予習 第6章、第7章、第8章	
第14回 児童思春期の対応			教科書予習 第4章第9節、第10節	
第15回 社会的問題①			レジュメの復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	20% 学期末にレポート提出を求め、理解度、説明能力の程度を評価する			
小テスト等	50% 授業中、復習のテストを数回おこなう			
成果発表	-			
受講態度他	30% 出席、質問などによる積極性を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目は精神保健福祉士国家試験受験のための指定科目である。同試験を受験する者は必修。			
教科書	「精神疾患とその治療」新・精神保健福祉士養成講座 1巻 第2版 中央法規 2016年			
指定図書	1) 渡辺雅幸『はじめての精神医学』中山書店 2) 青木省三『こころの病を診るということ』医学書院 3) 滝川一廣『子どものための精神医学』医学書院			
参考図書	随時、紹介する			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	精神医学Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	今村 芳博		単位	2
授業の目的と概要	<p>精神医学を体系的に、総論と各論を学ぶので、精神医学ⅠとⅡをともに受講する必要がある。最終学年時には精神保健福祉士国家試験に合格する。  精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の基礎知識を体系的に学ぶ。  受講を通して、精神障害を抱える人に接するときの、適切な態度、留意点をも身につける。  座学にとどまらず、精神医学Ⅱの授業では学生自身が講師を果たす役割分担を体験できる。  担当教員の現場経験に基づく知識と情報を介して、受講生は精神医療の歴史と現在の問題点について理解できる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医学・精神医療の歴史および概念を説明できる</li> <li>2. 精神医学的診断、治療の概要を説明できる</li> <li>3. 代表的精神疾患について概要を説明できる</li> <li>4. 精神保健福祉士国家試験において精神医学問題の60%以上を正答できる</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 精神科医療の現状			教科書予習 第1章第1節、第6章第1節	
第2回 こころの理解			教科書予習 第1章第2節、第3節	
第3回 状態像・診断・検査			教科書予習 第2章、第3章	
第4回 器質性精神障害			教科書予習 第4章第1節	
第5回 物質使用による障害			教科書予習 第4章第2節	
第6回 統合失調症②			教科書予習 第4章第3節	
第7回 気分障害②			教科書予習 第4章第4節	
第8回 ストレス関連障害			教科書予習 第4章第5節	
第9回 睡眠障害			教科書予習 第4章第6節	
第10回 パーソナリティ障害			教科書予習 第4章第7節、第8節	
第11回 行動および情緒の障害			教科書予習 第4章第9節、第10節	
第12回 精神疾患の治療			教科書予習 第5章	
第13回 連携・患者人権擁護			教科書予習 第6章、第7章、第8章	
第14回 児童思春期の対応			教科書予習 第4章第9節、第10節	
第15回 社会的問題②			レジュメの復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	20% 学期末にレポート提出を求め、理解度、説明能力の程度を評価する			
小テスト等	50% 授業中、復習のテストを数回おこなう			
成果発表	-			
受講態度他	30% 出席、質問などによる積極性を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目は精神保健福祉士国家試験受験のための指定科目である。同試験を受験する者は必修。			
教科書	「精神疾患とその治療」新・精神保健福祉士養成講座 1巻 第2版 中央法規 2016年			
指定図書	1) 渡辺雅幸『はじめての精神医学』中山書店 2) 青木省三『こころの病を診るといふこと』医学書院 3) 滝川一廣『子どものための精神医学』医学書院			
参考図書	随時、紹介する			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)【講義】		開講時期	後期
担当教員	納富 恵子・古賀 聡		単 位	2
授業の目的と概要	精神医学の基礎知識、方法論を学び、人間理解を深める。こうして、福祉、心理系だけでなく、言語、文科系分野の大学院生にとっても、自分の研究課題を適切に設定できる。以下の授業内容は学生の興味、関心、希望により、変わりうる。			
到達目標	現代の精神医学、精神保健の話題のなかで、専門分野の学生として知っておくべき重要項目は欠かさず学ぶ。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。 (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。 (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。 (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	認知障害のある高齢患者への回想ドラマ療法 (担当:古賀)	授業前の事例論文の読解、精神医学、臨床心理学の基礎知識の確認		
第 2回	統合失調症・精神科長期入院患者への臨床心理劇 (担当:古賀)	授業前の事例論文の読解、精神医学、臨床心理学の基礎知識の確認		
第 3回	嗜癪問題を抱える患者への臨床心理劇・ロールレタリング① (担当:古賀)	授業前の事例論文の読解、精神医学、臨床心理学の基礎知識の確認		
第 4回	嗜癪問題を抱える患者への臨床心理劇・ロールレタリング② (担当:古賀)	授業前の事例論文の読解、精神医学、臨床心理学の基礎知識の確認		
第 5回	うつ病と希死念慮を呈する患者への認知行動療法と臨床動作法 (担当:古賀)	授業前の事例論文の読解、精神医学、臨床心理学の基礎知識の確認		
第 6回	抑うつ感と身体症状を呈する高齢患者への臨床動作法 (担当:古賀)	授業前の事例論文の読解、精神医学、臨床心理学の基礎知識の確認		
第 7回	パニック発作を訴える患者への解決志向催眠療法 (担当:古賀)	授業前の事例論文の読解、精神医学、臨床心理学の基礎知識の確認		
第 8回	精神医学の歴史 医学、科学との位置付け (担当:納富)	授業の復習		
第 9回	精神医学の概念 特殊性と普遍性 (担当:納富)	授業の復習		
第10回	身体と精神 睡眠 (担当:納富)	授業の復習		
第11回	身体と精神 食べる 過食、肥満 やせ症 (担当:納富)	授業の復習		
第12回	嗜好と依存 アルコール 薬物 タバコ ギャンブル (担当:納富)	授業の復習		
第13回	おとなの発達障害 (担当:納富)	授業の復習		
第14回	労働者のメンタルヘルス、労働と人生 (担当:納富)	授業の復習		
第15回	自分の研究課題を精神医学の見方で発表 (担当:納富)	授業の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	授業中のディスカッションを重視する			
受講態度他	出席を含めて、積極性を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①			
教科書	三村 将ほか:精神疾患とその治療、医歯薬出版株式会社、2019 価格:3,200円+税			
指定図書	中井久夫、山口直彦:看護のための精神医学・第2版、医学書院、その他、図書室の蔵書から指定する			
参考図書	その都度、提示する			
オフィスワー	質問と相談は授業中、その後にいつでも良い	メールアドレス		

授業科目	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	栗田 紀子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本授業では精神保健福祉の理論と相談援助の展開について精神科リハビリテーションを中心に学び、精神保健福祉士としての役割と機能を理解することが目的である。</p> <p>精神医療の特性と、精神障害者に対する支援の基本的考え方、精神科リハビリテーションの概念、知識、技術、そのプロセスについて学ぶことで、チーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割と機能について理解する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について説明できる。</li> <li>2. 精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について説明できる。</li> <li>3. 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む）の知識と技術及び活用の方法を実践できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係わる科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向	事前学習；テキスト 第1章第1節		
第2回	諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷	事前学習；テキスト 第1章第2節		
第3回	精神保健福祉士における活動の歴史	事前学習；テキスト 第2章第1節		
第4回	精神障害者支援の理念	事前学習；テキスト 第2章第2節		
第5回	精神保健医療福祉領域における支援対象	事前学習；テキスト 第2章第3節		
第6回	精神障害者の人権	事前学習；テキスト 第2章第4節		
第7回	精神障害者の支援について	予習課題；精神障害者の支援における精神保健福祉士の役割についてまとめる		
第8回	精神科リハビリテーションの概念	事前学習；テキスト 第3章第1節		
第9回	精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則	事前学習；テキスト 第3章第2節		
第10回	精神科リハビリテーションの構成と展開	事前学習；テキスト 第3章第3節		
第11回	精神科リハビリテーションのプロセス	事前学習；テキスト 第4章第1節		
第12回	精神科リハビリテーション計画	予習課題；事例についての計画立案		
第13回	アプローチの方法	事前学習；テキスト 第4章第2節		
第14回	疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション	事前学習；テキスト 第4章第3節		
第15回	まとめと振り返り（理解度の把握）	学習習熟度の理解のために過去問題に取り組みんでみましょう。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％。レポート課題（ふりかえりのレポート、学期末のレポート）。			
小テスト等	30％。学習習熟度をみるために学期末に小テストを実施します。			
成果発表	なし			
受講態度他	20％。講義中に、質問や話し合いなどをしますので、積極的に参加してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して学習内容を深めましょう。			
教科書	新・精神保健福祉士養成講座4 『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 第2版』 中央法規出版			
指定図書	なし。			
参考図書	講義の際、必要に応じて紹介します。			
オフィスアワー	前期；木曜日2限目（10：50－12：20）、後期；月曜日5限目（14：50－16：20）	メールアドレス		



授業科目	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ【講義】		開講時期	前期
担当教員	栗田 紀子		単位	2
授業の目的と概要	精神保健福祉の理論と相談援助の展開について学び、精神保健福祉士としての役割と機能を理解する。 精神科リハビリテーションのプロセス、集団精神療法など医療機関における精神科リハビリテーションを学ぶことで、精神保健福祉士としての役割と機能を理解する。			
到達目標	精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む）の知識と技術及び活用する方法について説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係わる科目です。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	精神科専門療法①（作業療法、レクリエーション療法）	事前学習；テキスト第5章第1節		
第2回	精神科専門療法②（集団精神療法）	事前学習；テキスト第5章第1節		
第3回	精神科専門療法③（行動療法、認知行動療法）	事前学習；テキスト第5章第1節		
第4回	精神科専門療法④（SST：社会生活技能訓練）	事前学習；テキスト第5章第1節		
第5回	家族教育プログラム	事前学習；テキスト第5章第2節		
第6回	精神科デイケア①（デイケア、ナイトケア、デイナイトケア）	事前学習；テキスト第5章第3節		
第7回	精神科デイケア②（チーム医療における精神保健福祉士の役割）	事前学習；テキスト第5章第3節		
第8回	医療機関のアウトリーチ	事前学習；テキスト第5章第4節		
第9回	チーム医療の概要、多職種との協働、連携	事前学習；テキスト第5章第5節、第6節		
第10回	精神障害者支援の実践モデルの意味と内容	事前学習；テキスト第6章第1節		
第11回	代表的な精神障害者の支援の実践モデル	事前学習；テキスト第6章第2節		
第12回	地域を基盤とした相談援助①（ケース発見～アセスメント）	事前学習；テキスト第7章第1節～第4節		
第13回	地域を基盤とした相談援助②（支援計画～アフターケア）	事前学習；テキスト第7章第5節～第8節		
第14回	面接技術	事前学習；テキスト第8章		
第15回	スーパービジョンとコンサルテーション	事前学習；テキスト第9章		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％。レポート課題（ふりかえりのレポート、学期末のレポート）。			
小テスト等	30％。学習習熟度をみるために学期末に小テストを実施します。			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 講義中に、質問や話し合いなどをしますので、積極的に受講してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して学習内容を深めましょう。			
教科書	新・精神保健福祉士養成講座4 『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 第2版』 中央法規出版（「精神科ソーシャルワーク論Ⅰ」に同じ。）			
指定図書	なし。			
参考図書	講義の際、必要に応じて紹介します。			
オフィスアワー	前期；木曜日2限目（10：50～12：20）、後期；月曜日5限目（14：50～16：20）	メールアドレス		

授業科目	精神科ソーシャルワーク論Ⅲ【講義】		開講時期	後期
担当教員	栗田 紀子		単位	2
授業の目的と概要	本授業では精神保健福祉の理論と相談援助の展開について学ぶ。			
到達目標	精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む）の展開について理解する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係わる科目です。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	相談援助活動の内容と方法	事前学習；テキスト第1章第1節		
第2回	個別支援の実際①	事前学習；テキスト第1章第2節		
第3回	個別支援の実際②（事例分析）	事前学習；テキスト第1章第2節		
第4回	集団を活用した支援の実際①	事前学習；テキスト第1章第2節		
第5回	集団を活用した支援の実際②（事例分析）	事前学習；テキスト第1章第3節		
第6回	精神保健福祉にける精神障害者と家族の関係	事前学習；テキスト第2章第1節		
第7回	家族支援の方法	事前学習；テキスト第2章第2節、第3節		
第8回	地域移行支援の対象および体制	事前学習；テキスト第3章第1節、第2節		
第9回	精神保健福祉士の役割と多職種との連携	事前学習；テキスト第3章第3節		
第10回	精神科入院患者の地域移行支援・地域定着支援の取組み	事前学習；テキスト第3章第4節		
第11回	地域移行にかかわる機関と組織	事前学習；テキスト第3章第5節		
第12回	精神障害者を取り巻く社会的状況	事前学習；テキスト第4章第1節		
第13回	地域相談援助の主体および対象	事前学習；テキスト第4章第2節、第3節		
第14回	地域相談援助の体制	事前学習；テキスト第4章第4節		
第15回	まとめと振り返り（理解度の把握）	学習習熟度の理解のために過去問題に取り組んでみましょう。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％。レポート試験（グループワークでのふりかえりのレポート、学期末のレポート）。			
小テスト等	30％。学習習熟度をみるために小テストを実施します。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％。講義中に、適時質問などしますので、積極的に参加してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。			
教科書	新・精神保健福祉士養成講座5 『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第2版』 中央法規出版			
指定図書	なし。			
参考図書	講義の際、必要に応じて紹介します。			
オフィスアワー	前期；木曜日2限目（10：50－12：20）、後期；月曜日5限目（14：50－16：20）	メールアドレス		

授業科目	精神科ソーシャルワーク論Ⅳ【講義】		開講時期	後期
担当教員	栗田 紀子		単位	2
授業の目的と概要	精神保健福祉の理論と相談援助の展開について学び、精神保健福祉士としての役割と機能を理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。</li> <li>2. 精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。</li> <li>3. 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について理解する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係わる科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	地域ネットワーク	事前学習；第5章第1節		
第2回	アウトリーチ	事前学習；第5章第2節		
第3回	地域生活支援事業と訪問援助	事前学習；第5章第3節		
第4回	セルフヘルプグループおよび家族会	事前学習；第5章第4節		
第5回	精神保健福祉ボランティアの育成と活用	事前学習；第5章第5節		
第6回	ケアマネジメントの原則	事前学習；第6章第1節		
第7回	ケアマネジメントの意義と方法	事前学習；第6章第2節		
第8回	ケアマネジメントの展開過程	事前学習；第6章第3節		
第9回	事例検討	事前学習；第6章第5節		
第10回	地域を基盤にした支援の概念と基本的性格	事前学習；第7章第1節		
第11回	地域アセスメントと分析	事前学習；第7章第2節		
第12回	事例検討①	事前学習；第7章第3節		
第13回	事例検討②	事前学習；第7章第4節		
第14回	包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開	事前学習；第8章第1節		
第15回	事例検討	事前学習；第8章第2節		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％。レポート試験（グループワークでのふりかえりのレポート、学期末のレポート）。			
小テスト等	30％。学習習熟度をみるために小テストをします			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 講義中に、適時質問や話し合いの時間をとりますので、積極的に受講してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。			
教科書	新・精神保健福祉士養成講座5 『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第2版』 中央法規出版（「精神科ソーシャルワーク論Ⅲ」に同じ。）			
指定図書	なし。			
参考図書	講義の際、必要に応じて紹介します。			
オフィスアワー	前期；木曜日2限目（10：50－12：20）、後期；月曜日5限目（14：50－16：20）	メールアドレス		

授業科目	精神疾患とその治療【講義】		開講時期	後期
担当教員	納富 恵子		単位	2
授業の目的と概要	本授業は、公認心理師をはじめとする心理専門職になろうとする人には必須の知識である精神疾患とその治療について系統的に学ぶ。とくに、①精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）、② 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、及び③ 医療機関との連携について理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、支援について説明できる</li> <li>2. 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化を説明できる</li> <li>3. 心理的支援において医療機関との連携について概要を説明できる</li> <li>4. 公認心理師の国家試験において精神医学問題の60%以上を正答できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	精神医学とは 学習のすすめかたと参考資料の紹介 厚生労働省HPみんなのメンタルヘルス紹介	教科書予習 紹介HPによる復習		
第2回	精神疾患の診断	教科書予習		
第3回	統合失調症とその類縁疾患	教科書予習		
第4回	気分(感情)障害	教科書予習		
第5回	精神遅滞、注意欠如/多動症 愛着障害	教科書予習		
第6回	自閉スペクトラム症、学習症	教科書予習		
第7回	神経症性障害、成人のパーソナリティ障害	教科書予習		
第8回	摂食障害、睡眠障害、リエゾン精神医学	教科書予習		
第9回	器質性精神疾患(症状性を含む)とてんかん	教科書予習		
第10回	精神作用物質による精神及び行動の障害	教科書予習		
第11回	検査法	教科書予習 最終レポートの準備計画		
第12回	精神科治療における薬物療法について	教科書予習		
第13回	公認心理師が知っておくべき関連法令	教科書予習		
第14回	チーム医療、医療関連、カルテ記載	教科書予習		
第15回	最終まとめ 最終レポートへのフィードバック	教科書予習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 学期末にレポート提出を求め、理解度、説明能力の程度を評価する			
小テスト等	50% 授業中、復習のテストを数回おこなう			
成果発表	希望する学生は後半、自分の関心のある課題について講義中に自己学習の成果を発表できる。加点の対象となる。			
受講態度他	30% 出席、ミニレポート、質問などによる積極性を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目は公認心理師国家試験受験のための指定科目である。同試験を受験する者は必修。			
教科書	子安増生監修：公認心理師のための精神医学 精神疾患とその治療、2020 金芳堂 価格：2640円＋税			
指定図書	1. こころの病を診るといふこと 2. 子どものための精神医学 図書室にある			
参考図書	随時、紹介する			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	精神保健学Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	小山 宏子		単位	2
授業の目的と概要	<p>精神保健とは単に精神疾患の予防や治療にとどまらず、心の健康の保持、向上をめざした実践を行うことである。本講義では、専門職として学ぶのみでなく、ストレス社会といわれる現代社会において、周囲の人や自分自身の心の健康について考察することにより、適切なアプローチができるようになることを目的とする。</p> <p>精神保健は非常に広い範囲・領域をもつため、時間的なわけ方（ライフサイクルとの関連）と空間的なわけ方（家庭・学校・職場・地域等場所との関連）の両方の立場から学習を進める。特に専門職としての知識にとどまらず、自分自身や家族、周囲の人たちの心の問題として身近なところから考察することができるように、随時関連テーマの映画等も教材とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ライフサイクルにおける精神保健の課題についての的確に説明することができる。</li> <li>2 家族、学校教育、職場、地域の精神保健の視点からみた課題を身近な事例を通して理解し、簡潔に説明したり文章化することができる。</li> <li>3 精神保健福祉の視点からみた現代社会の課題を説明し、専門職としての役割を説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回～2回	①精神保健の概要 ②精神保健の歴史と課題	予習 p 2～19		
第3回～4回	①ライフサイクルと発達課題 ②出生前・胎児期の発達課題	予習 p 20～28		
第5回～6回	①乳幼児期の発達課題 ②学童期・思春期の発達課題	予習 p 29～31		
第7回～8回	①青年期・成人期の課題 ②壮年期・中年期の課題	予習 p 34～36		
第9回～10回	①老年期の課題 ②ストレスと精神の健康	予習 p 37～43		
第11回～12回	①精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ・現代日本の家族の特徴 ②育児の精神保健・発達障害	予習 p 80～85、p 91～98		
第13回～14回	①社会的ひきこもりをめぐる精神保健 ②ひきこもり家族支援の方法論	予習 p 99～103		
第15回～16回	①家族相談の機関 ②家族相談における精神保健福祉士の役割	予習 p 114～125		
第17回～18回	①学校教育の課題とアプローチ ②教員の精神保健	予習 p 126～157		
第19～20回	①関与する専門職と関係法規 ②学校における精神保健福祉士の役割	予習 p 158～162		
第21回～22回	①精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ、現代日本の労働環境 ②うつ病、アルコール	予習 p 170～184		
第23回～24回	①精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 ②発達障害、アルコール、薬物依存の対策	予習 p 204～223、関心のあるテーマを調べレポート		
第25回～26回	①うつ病、認知症、社会的ひきこもり対策 ②精神保健の対策と精神保健福祉士の役割まとめ	予習 p 224～239		
第27回～28回	①現代社会の課題とアプローチ-ニート、ホームレスと精神保健 ②ターミナルケアと精神保健	予習 p 252～270、280～287・関心のあるテーマをPCで調べレポート		
第29回～30回	①地域精神保健の諸活動-調査、資源開発、ネットワークづくり ②諸外国の精神保健活動と日本	予習 p 288～301、p 312～321		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	授業内での課題レポート：60% 学期末レポートを15週目に実施：40%			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	-			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目であることを認識して下さい。</li> <li>② 欠席が事前に分かっている場合は（実習・研修等）、前もって届け出下さい。</li> </ol>			
教科書	『精神保健の課題と支援』（新・精神保健福祉士講座 中央法規）			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	精神保健学Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	小山 宏子		単位	2
授業の目的と概要	<p>精神保健とは単に精神疾患の予防や治療にとどまらず、心の健康の保持、向上をめざした実践を行うことである。本講義では、専門職として学ぶのみでなく、ストレス社会といわれる現代社会において、周囲の人や自分自身の心の健康について考察することにより、適切なアプローチができるようになることを目的とする。</p> <p>精神保健は非常に広い範囲・領域をもつため、時間的なわけ方（ライフサイクルとの関連）と空間的なわけ方（家庭・学校・職場・地域等場所との関連）の両方の立場から学習を進める。特に専門職としての知識にとどまらず、自分自身や家族、周囲の人たちの心の問題として身近なところから考察することができるように、随時関連テーマの映画等も教材とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ライフサイクルにおける精神保健の課題についての的確に説明することができる。</li> <li>2 家族、学校教育、職場、地域の精神保健の視点からみた課題を身近な事例を通して理解し、簡潔に説明したり文章化することができる。</li> <li>3 精神保健福祉の視点からみた現代社会の課題を説明し、専門職としての役割を説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	①精神保健の概要 ②精神保健の歴史と課題	予習 p 2～19		
第2回	①ライフサイクルと発達課題 ②出生前・胎児期の発達課題	予習 p 20～28		
第3回	①乳幼児期の発達課題 ②学童期・思春期の発達課題	予習 p 29～31		
第4回	①青年期・成人期の課題 ②壮年期・中年期の課題	予習 p 34～36		
第5回	①老年期の課題 ②ストレスと精神の健康	予習 p 37～43		
第6回	①精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ・現代日本の家族の特徴 ②育児の精神保健・発達障害	予習 p 80～85、p 91～98		
第7回	①社会的ひきこもりをめぐる精神保健 ②ひきこもり家族支援の方法論	予習 p 99～103		
第8回	①家族相談の機関 ②家族相談における精神保健福祉士の役割	予習 p 114～125		
第9回	①学校教育の課題とアプローチ ②教員の精神保健	予習 p 126～157		
第10回	①関与する専門職と関係法規 ②学校における精神保健福祉士の役割	予習 p 158～162		
第11回	①精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ、現代日本の労働環境 ②うつ病、アルコール	予習 p 170～184		
第12回	①精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 ②発達障害、アルコール、薬物依存の対策	予習 p 204～223、関心のあるテーマを調べレポート		
第13回	①うつ病、認知症、社会的ひきこもり対策 ②精神保健の対策と精神保健福祉士の役割まとめ	予習 p 224～239		
第14回	①現代社会の課題とアプローチ-ニート、ホームレスと精神保健 ②ターミナルケアと精神保健	予習 p 252～270、280～287・関心のあるテーマをPCで調べレポート		
第15回	まとめの課題レポート	-		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題レポート：30% 学期末レポートを15週目に実施：70%			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	-			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目であることを認識して下さい。</li> <li>② 欠席が事前に分かっている場合は（実習・研修等）、前もって届け下さい。</li> </ol>			
教科書	『精神保健の課題と支援』（新・精神保健福祉士講座 中央法規）			
指定図書	吉川武彦『これからの精神保健』南山堂			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	精神保健福祉援助演習【演習】		開講時期	通年
担当教員	栗田 紀子		単 位	4
授業の目的と概要	精神保健福祉援助の知識と技術に関する科目を基盤として、「精神保健福祉士」としての実践力について、体験学習できる。次に掲げる方法を用いて、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得する。さらに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことで、問題解決能力を高め支援力を培える。			
到達目標	本演習の到達目標はコーチング方式で次のような4段階で設定しています。各自の個別計画をもとに学習ができるように行います。 ①総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例について、政策や制度、社会資源について説明ができる。 ②具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイによる面談、グループによるリーダー体験）などを通して、「精神保健福祉士」としての態度や技術が実践できる ③認知行動療法、アサーション、カウンセリング技法など専門的技術を面接技術として実施できる。 ④「精神保健福祉実習・演習発表会」などで、気づきを基にした実習体験についてプレゼンテーションができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本科目は、①精神保健福祉課程の専門科目、②精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健福祉援助演習（専門）」です。本科目は、 ①精神保健福祉士指定科目「精神保健福祉援助実習（基礎）」（社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助演習」）と、 ②精神保健福祉士指定科目の講義科目、実習指導科目とともに、「精神保健福祉援助実習」を充実したものにするために、精神保健福祉士としての実践力を体験学習によって身につける科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1～2回	オリエンテーション。 精神保健福祉援助場面および過程の実践的習得 ①インテーク・契約・アセスメント・プランニング	事前学習はテキスト「第2章」		
第3～4回	精神保健福祉援助場面および過程の実践的習得 ②支援の実施・モニタリング・効果測定と支援の評価・終結とアフターケアについて	事前学習はテキスト「第2章」		
第5～6回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 退院支援、地域移行、地域生活継続に関する相談援助の過程の実技指導	事前学習はテキスト「事例4」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録		
第7～8回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 退院支援、地域移行、地域生活継続に関する相談援助の過程の実技指導	事前学習はテキスト「事例5」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録		
第9～10回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 退院支援、地域移行、地域生活継続に関する相談援助の過程の実技指導	事前学習はテキスト「事例6」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録		
第11～12回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 社会的排除に関する相談援助の過程の実技指導	事前学習はテキスト「事例2」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録		
第13～14回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 貧困・低所得に関する相談援助の過程の実技指導	事前学習はテキスト「事例18」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録		
第15～16回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 ピアサポートに関する相談援助の過程の実技指導	事前学習はテキスト「事例20」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録		
第17～18回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 自殺、ひきこもりなど地域保健に関する相談援助の過程の実技指導	事前学習はテキスト「事例10」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録		
第19～20回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 教育、就労（雇用）に関する相談援助の過程の実技指導	事前学習はテキスト「事例15」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録		
第21～22回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 精神科リハビリテーションに関する事例の理解	事前学習はテキスト「第7章」、事後学習は「ふりかえりシート」		
第23～24回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 危機状態にある精神保健福祉に関する事例の理解	事前学習はテキスト「事例12」、事後学習は「ふりかえりシート」		
第25～26回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 アウトリーチ・ケアマネジメント	事前学習はテキスト「事例11、13」、事後学習は「ふりかえりシート」		
第27～28回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 チームアプローチ・ネットワーキング	事前学習はテキスト「事例8、21」、事後学習は「ふりかえりシート」		
第29～30回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 社会資源の活用・調整・開発 講義のふりかえり	事前学習はテキスト「事例7、22」、事後学習は「ふりかえりシート」		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%。レポート課題（ふりかえりレポート）および事例課題。			
小テスト等	なし			
成果発表	30%。授業内での発表（グループで話し合った内容の発表も含む）。			
受講態度他	20% 講義中に、質問や話し合いの時間をとりますので、積極的に受講してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。また他の科目で学んだ理論的なものを実践し、実習に生かせるようにしましょう。実習では、様々な生き方や考えを持った方と出会います。授業をとおし、コミュニケーションの取り方など技術的なものだけでなく、自分と違う価値観があることも学んでいきましょう。			
教科書	新・精神保健福祉士養成講座8 『精神保健福祉援助演習（基礎・専門） 第2版』 中央法規出版			
指定図書	なし			
参考図書	講義の際、必要に応じて紹介します。			
オフィスアワー	前期；木曜日2限目（10：50～12：20）、後期；月曜日5限目（14：50～16：20）	メールアドレス		

<b>授業科目</b>	精神保健福祉援助実習【実習】		<b>開講時期</b>	通年
<b>担当教員</b>	栗田 紀子・坂井 和美		<b>単位</b>	4
<b>授業の目的と概要</b>	<p>実習先施設・機関における精神保健福祉援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得するとともに、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目的とする。また、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できることを目指している。</p>			
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>利用者やその関係者、施設・機関等の職員等とのコミュニケーションをはかり、円滑な人間関係の形成ができる。</li> <li>利用者理解とそのニーズ把握及び支援計画の作成ができる。</li> <li>利用者やその関係者と援助関係の形成ができる。</li> <li>利用者やその関係者に対する権利擁護及び支援とその評価ができる。</li> <li>支援におけるチームアプローチの実践を体得できる。</li> <li>精神保健福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員としての役割と責任について理解できる。</li> <li>施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実践を理解でき、地域社会への働きかけができる。</li> </ol>			
<b>この授業が目的としているDPや関連する科目など</b>	精神保健福祉士課程の専門科目である。			
<b>授業計画</b>	<b>授業内容</b>	<b>授業外学修など</b>		
	原則として28日間（実習時間210時間）以上の配属実習を行うものとする。	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
<b>成績評価</b>	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	実習先指導者の評価および実習記録の評価を基準に、実習指導担当教員が評価する。			
<b>受講上の留意点・ルールに関する情報</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>実習に対する課題や問題意識を持ち積極的に取り組むこと。</li> <li>遅刻や欠勤がないよう日頃から心身の健康管理を徹底すること。</li> <li>実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。</li> </ol>			
<b>教科書</b>	『精神保健福祉援助実習の手引き』（筑紫女学園大学）← 大学から配布 新・精神保健福祉士養成講座9 『精神保健福祉援助実習指導・実習 第2版』 中央法規出版			
<b>指定図書</b>	なし			
<b>参考図書</b>	『精神保健福祉援助実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
<b>オフィスワーク</b>	質問等は常に実習支援センターを活用のこと	<b>メールアドレス</b>		



授業科目	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ【演習】		開講時期	後期
担当教員	大山 和宏・坂井 和美		単位	1
授業の目的と概要	<p>本科目は、実習分野の中から実習指導者及び精神障害当事者・家族を招き実践現場の理解を深め、個別指導及び集団指導等により実習に係る基礎的な指導を行う。</p> <p>実習先における支援の実態や実習に際しての基本的態度や精神保健福祉専門職に求められる価値・倫理・知識・技術及び記録法について理解を深める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の目標や意義など実習全体の展開方法について理解することができる。</li> <li>2. 精神障害者や家族の現状と課題を理解することができる。</li> <li>3. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術について理解することができる。</li> <li>4. 実習における個人のプライバシーの保護と秘密保持について理解することができる。</li> <li>5. 実習記録ノートへの記録内容及び記録方法について理解することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係わる科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		実習の意義と目的について考察		
第2回 現場に学ぶ①（当事者による講話）		課題② レポート作成と提出		
第3回 現場に学ぶ②（家族による講話）		課題② レポート作成と提出		
第4回 現場に学ぶ③（精神保健福祉士による講話）		課題② レポート作成と提出		
第5回 現場に学ぶ④（他職種による講話）		課題② レポート作成と提出		
第6回 精神科病院の概要 ― 沿革・歴史、根拠法と制度		課題③ 精神科病院の概要整理		
第7回 障害福祉サービス施設等の概要① ― 沿革・歴史、根拠法と制度		課題③ 障害福祉サービス施設等の概要について整理		
第8回 障害福祉サービス施設等の概要② ― 対象者とニーズ		課題③ 障害福祉サービス施設等の対象者とニーズについて整理		
第9回 行政機関の概要 ― 関連職種・業務とサービス内容		課題③ 行政機関の概要整理		
第10回 対人援助技術① ― 人権の尊重と共感的態度		課題④ 人権についての理解		
第11回 対人援助技術② ― 対人関係の構築に関する技術		課題④ 対人関係の構築についての理解		
第12回 秘密保持とプライバシー ― 個人情報保護法		課題⑤ 秘密保持、プライバシーについての理解		
第13回 倫理綱領と守秘義務 ― 精神保健福祉士法		課題⑤ 倫理綱領、精神保健福祉士法についての理解		
第14回 記録① ― 実習記録ノートの意義と書き方		課題⑥ 記録の書き方についての理解		
第15回 記録② ― 記録（メモ等）の取り方		記録（メモ等）の取り方についての理解		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 授業で指示するレポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 授業に対する主体性			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方について、第1回めの授業で説明するので、指示に十分注意すること。</li> <li>2. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのこと、レポート等の提出期限は必ず守ること。</li> <li>3. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。</li> <li>4. つねに実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。</li> </ol>			
教科書	『精神保健福祉援助実習の手引き』（筑紫女学園大学）← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『精神保健福祉援助実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワーカー	質問等は実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授業科目	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ【演習】		開講時期	前期
担当教員	栗田 紀子・坂井 和美		単位	1
授業の目的と概要	<p>本科目は、精神保健福祉援助実習の事前指導を目的とする。  実習教育における実習の意義、位置づけ及び実習諸領域の特徴と関連業務の理解を深め、実習に際しての倫理・知識・技術及び記録法について具体的に学ぶとともに実習における実習目標および課題を設定した実習計画の作成方法を習得する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習先の根拠法、サービス内容、対象者について理解できる。</li> <li>2. 実習先に当てはめて倫理・知識・技術及び記録の実際について説明できる。</li> <li>3. 実習場を想定した守秘義務やプライバシーの保護ができる。</li> <li>4. 実習中における実習記録ノートへの記録内容及び記録方法について習得できる。</li> <li>5. 実習先における実習目標と課題を設定し実習計画書を作成できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	精神保健福祉士課程の専門科目である。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション	精神保健福祉援助実習の意義と目的	実習の意義と目的についての確認		
第2回 実習先の理解①	沿革、根拠法と制度的位置	実習先の沿革、根拠法などについてのレポート		
第3回 実習先の理解②	利用者理解、サービス内容	利用者理解、サービス内容などについてのレポート		
第4回 実習先の理解③	関連職種（医療・看護等）との連携	関連職種との連携についてレポート		
第5回 実習先の理解④	実習先機関・施設で必要とされる知識と技術	実習先で必要となる知識と技術についてのレポート		
第6回 実習計画書の作成①	実習計画書の意義と内容	実習計画書の作成・提出		
第7回 実習計画書の作成②	実習計画書の様式と書き方	実習計画書の作成・提出		
第8回 実習計画書の作成③	実習計画の目標と課題の設定①（実習先の特徴）	実習計画書の作成・提出		
第9回 実習計画書の作成④	実習計画の目標と課題の設定②（実習課題の明確化）	実習計画書の作成・提出		
第10回 実習計画書の作成⑤	実習計画の目標と課題の設定③（実習課題達成のために必要なこと）	実習計画書の作成・提出		
第11回 実習記録ノートの書き方①	実習記録ノートの意義と内容	記録の実践		
第12回 実習記録ノートの書き方②	実習中の記録（メモ等）の取り方	記録内容の確認		
第13回 倫理綱領と守秘義務①	精神保健福祉士法と守秘義務	精神保健福祉士としての倫理		
第14回 倫理綱領と守秘義務②	個人情報保護法とプライバシー	個人情報、プライバシーへの配慮		
第15回 実習の心得	実習教育スーパービジョンと巡回指導の意義	実習に向けての最終確認		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 担当教員が指示するレポートなどの提出物			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 授業に対する主体性			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのこと、レポート等の提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。資格に係る科目のため別途指示します。</li> <li>3. つねに実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。</li> </ol>			
教科書	『精神保健福祉援助実習の手引き』（筑紫女学園大学）← 大学から配布 新・精神保健福祉士養成講座9 『精神保健福祉援助実習指導・実習 第2版』 中央法規出版			
指定図書	なし			
参考図書	『精神保健福祉援助実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワーカー	質問等は実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授業科目	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ【演習】		開講時期	前期
担当教員	高木 佳世子・栗田 紀子・坂井 和美		単位	1
授業の目的と概要	<p>本科目は、精神保健福祉援助実習の事前及び実習中の指導を行う科目である。</p> <p>障害福祉サービス施設等と精神科病院等における実習の意義、位置づけを明確にし、実習諸領域の特徴と関連業務の理解を深め、実習を通して倫理・知識・技術及び記録法を習得するため、実習目標及び課題を設定した実習計画について、必要な修正を行いながら充実した実習を行えるようにする。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱで作成した実習計画について、実習先機関・施設への事前訪問と実習指導者との打ち合わせ、実習中の個別・集団でのスーパービジョンによる指導を行い、実習の充実を図る。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習先の根拠法、サービス内容、対象者について理解できる。</li> <li>2. 実習先に当てはめて、倫理・知識・技術を理解することができる。</li> <li>3. 実習場面を想定した守秘義務やプライバシーの保護ができる。</li> <li>4. 実習中における「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法が習得できる。</li> <li>5. 実習における目標と課題を設定し、実習計画書の検討と必要な修正ができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>精神保健福祉士課程の専門科目である。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	実習事前訪問に関するオリエンテーション	障害福祉サービス施設等と精神科病院等への事前訪問について確認		
第2回	障害福祉サービス施設等への事前訪問についての指導	障害福祉サービス施設等への事前訪問の内容整理		
第3回	障害福祉サービス施設等におけるスーパービジョン（巡回指導）	実習中の課題整理		
第4回	自立支援の実習事例についてグループ・スーパービジョン（帰校指導）	自立支援の実習事例について検討		
第5回	就労支援・地域生活継続支援の実習事例についてグループ・スーパービジョン（帰校指導）	就労支援・地域生活継続支援の実習事例について検討		
第6回	障害福祉サービス施設等における実習体験についてのグループ・スーパービジョン（帰校指導）	障害福祉サービス施設等での実習体験について検討		
第7回	精神科病院等への事前訪問についての指導	精神科病院等への事前訪問の内容整理		
第8回	精神科病院等におけるスーパービジョン（巡回指導）	実習中の課題整理		
第9回	精神科病院等での業務（入退院相談の実際）に基づいたスーパービジョン（帰校指導）	入退院相談の実際について検討		
第10回	精神科病院等での業務（外来患者、急性期病棟患者への援助の実際）に基づいたスーパービジョン（帰校指導）	外来患者、急性期病棟患者への援助の実際について検討		
第11回	精神科病院等での業務（慢性期・認知症病棟患者への援助の実際）に基づいたスーパービジョン（帰校指導）	慢性期・認知症病棟患者への援助の実際について検討		
第12回	精神科病院等での業務（デイケア、家族会、医療スタッフ連携）に基づいたグループ・スーパービジョン（帰校指導）	デイケア、家族会、医療スタッフ連携について検討		
第13回	精神保健福祉援助実習での体験と実習事例についてグループ・スーパービジョン	精神保健福祉援助実習での体験と実習事例について検討		
第14回	精神保健福祉援助実習における事例研究に対する指導	事例検討		
第15回	精神保健福祉援助実習における自己覚知に関する指導	自己覚知について検証		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 担当教員が指示するレポートなどの提出物			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 事前訪問についての指導、巡回指導・帰校指導時の受け答えなど			
受講態度他	50% 特に実習先との関係づくりを重視した実習への取り組み態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業では特に実習先指導者との関係が出てくるので、学ぶ姿勢や態度に十分注意すること。</li> <li>2. 事前訪問や実習について、つねに担当教員や実習支援センターとの連絡や相談を行うこと。</li> </ol>			
教科書	『新・精神保健福祉士養成講座9 精神保健福祉援助実習指導・実習 第2版』（中央法規、2015年） 『精神保健福祉援助実習の手引き』（筑紫女学園大学）← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『精神保健福祉援助実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワーカー	質問等は実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授業科目	精神保健福祉援助実習指導Ⅳ【演習】		開講時期	後期
担当教員	高木 佳世子・栗田 紀子・坂井 和美		単位	1
授業の目的と概要	<p>本科目は現場実習の事後学習を目的とする。事後学習は、実習前に学んだ精神医療、精神保健福祉についての知識が実践の場でのように展開されているのかについて、現場の体験をもとに整理することを目的とする。</p> <p>また実習全体を振り返ることにより、自分自身の実習目的、実習課題の達成度の自己評価を行い、専門職として実践できる技術を身につけることを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習報告会を通して実習課題の達成状況に関するレポートを作成できる。</li> <li>2. 個別・グループによる実習教育スーパービジョンを通して実習全体を振り返ることができる。</li> <li>3. 実習記録をもとに実習報告書を作成することができる。</li> <li>4. 実習先の評価と自己評価を踏まえて、今後の学習課題を明らかにすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>精神保健福祉士課程の専門科目である。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 精神保健福祉援助実習の報告会①		課題① 報告レポートもしくはスライドの作成と報告		
第2回 精神保健福祉援助実習の報告会②		課題① 報告レポートもしくはスライドの作成と報告		
第3回 精神保健福祉援助実習の報告会③		課題① 報告レポートもしくはスライドの作成と報告		
第4回 精神保健福祉援助実習の報告会④		課題① 報告レポートもしくはスライドの作成と報告		
第5回 精神保健福祉援助実習の報告会⑤		課題① 報告レポートもしくはスライドの作成と報告		
第6回 実習報告書の作成① — 実習報告書の意義と目的		課題② 実習報告書の作成・提出		
第7回 実習報告書の作成② — 実習報告書の書き方		課題② 実習報告書の作成・提出		
第8回 実習報告書の作成③ — 実習報告書の第一次草稿作成		課題② 実習報告書の作成・提出		
第9回 実習報告書の作成④ — 実習報告書の第二次草稿作成		課題② 実習報告書の作成・提出		
第10回 実習報告書の作成⑤ — 実習報告書の提出		課題② 実習報告書の作成・提出		
第11回 実習評価表と自己評価① — 実習成果の振り返り		課題③ 実習の総括		
第12回 実習評価表と自己評価② — 学習課題の抽出		課題③ 今後の学習課題の確認		
第13回 実習成果とディレンマ① — 個別・集団指導		課題④ 実習で感じたディレンマ		
第14回 実習成果とディレンマ② — 自己覚知		課題④ 自己覚知		
第15回 実習のまとめ		課題⑤ 実習の総括と学習課題について最終確認		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 実習報告書			
小テスト等	なし			
成果発表	25% 実習報告会での報告			
受講態度他	25% 授業に対する主体性			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのこと、レポート等の提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない(遅刻2回=欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる)。資格に係る科目のため別途指示します。</li> <li>3. つねに実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。</li> </ol>			
教科書	『新・精神保健福祉士養成講座9 精神保健福祉援助実習指導・実習 第2版』(中央法規、2015年) 『精神保健福祉援助実習の手引き』(筑紫女学園大学) ← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『精神保健福祉援助実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授業科目	精神保健福祉相談援助の基盤 I 【講義】		開講時期	前期
担当教員	栗田（紀）		単位	2
授業の目的と概要	精神保健福祉士の役割と意義について理解する。精神保健福祉士の専門性、社会福祉士との協働などについて理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健福祉士の役割と意義について理解する</li> <li>2. 社会福祉士の役割と意義について理解する</li> <li>3. 相談援助の概念と範囲について理解する</li> <li>4. 相談援助の理念について理解する</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福(3)-②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目は精神保健福祉士の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション・授業の内容や授業計画について	日本精神保健福祉士協会ホームページ内「精神保健福祉士について」閲覧		
第2回	科目の位置づけ、精神保健福祉士の概要	予習課題；精神保健福祉士の役割について考える		
第3回	精神保健福祉士制度化の歩み	事前学習；テキスト第1章第1節		
第4回	精神保健福祉士の専門性	事前学習；テキスト第1章第2節		
第5回	社会福祉士及び介護福祉士法における位置づけ	事前学習；テキスト第2章第1節		
第6回	社会福祉士の役割	事前学習；テキスト第2章第2節		
第7回	相談援助の定義	事前学習；テキスト第3章第1節		
第8回	相談援助活動の定義と概念	事前学習；テキスト第3章第2節		
第9回	相談援助についてのまとめ	予習課題；社会福祉士の役割、相談援助の概念についてまとめる		
第10回	ソーシャルワークの価値と理念	事前学習；テキスト第4章第1節		
第11回	価値・理念の具体的内容	事前学習；テキスト第4章第2節		
第12回	ソーシャルワークの源流と形成過程	事前学習；テキスト第5章第1節		
第13回	日本におけるソーシャルワークの形成過程	事前学習；テキスト第5章第2節		
第14回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク	事前学習；テキスト第5章第3節		
第15回	まとめと振り返り（理解度の把握）	学習熟度の理解のために過去問題に取り組んでみましょう。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	50％。レポート課題（ふりかえりレポート、学期末のレポート）			
小テスト等	30％。学期末に小テストを実施します。			
成果発表	なし。			
受講態度他	20％。講義中に質問や話し合いの時間をとりますので、積極的に受講して下さい。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講態度（遅刻や欠席も含め）を重視します。</li> <li>2. 欠席が3分の1以上あれば、原則単位取得は認められません。</li> </ol>			
教科書	新・精神保健福祉士養成講座3 『精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門） 第2版』 中央法規出版			
指定図書	なし			
参考図書	講義の際、必要に応じて紹介します。			
オフィスアワー	前期；木曜日2限目（10：50－12：20）、後期；月曜日5限目（14：50－16：20）	メールアドレス		

授業科目	精神保健福祉相談援助の基盤Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	栗田（紀）		単位	2
授業の目的と概要	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助、精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲、権利擁護、多職種連携などについて理解する。事例や視聴覚教材等も利用しながら、精神保健福祉士の実践について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方について学ぶ</li> <li>2. 相談援助に係わる専門職の概念と範囲について学ぶ</li> <li>3. 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について学ぶ</li> <li>4. 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について学ぶ</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福（3）-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 この科目は精神保健福祉士の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 相談援助とは		プリント復習；ソーシャルワークについて		
第2回 精神保健福祉分野における相談援助活動の対象		事前学習；テキスト第6章第1節		
第3回 精神保健福祉分野における相談援助活動の目的と意義		事前学習；テキスト第6章第2節		
第4回 精神保健福祉分野における相談援助活動の現状と今後の展開		事前学習；テキスト第6章第3節		
第5回 専門職の概念		事前学習；テキスト第7章第1節		
第6回 精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念とその業務		事前学習；テキスト第7章第2節		
第7回 精神科医療機関における専門職		事前学習；テキスト第7章第2節		
第8回 その他関係機関における専門職		事前学習；テキスト第7章第2節		
第9回 精神保健福祉士と他専門職との相違		予習課題；各専門職の役割についてまとめる		
第10回 相談援助活動における権利擁護の概念と範囲		事前学習；テキスト第8章第1節		
第11回 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割		事前学習；テキスト第8章第2節		
第12回 専門職倫理と倫理的ジレンマ		事前学習；テキスト第8章第3節		
第13回 総合的・包括的な援助を支える理論		事前学習；テキスト第9章第1節		
第14回 総合的・包括的な援助の機能と概要		事前学習；テキスト第9章第2節		
第15回 多職種連携の意義と精神保健福祉士の役割		事前学習；テキスト第9章第3節、第4節		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	40％。レポート試験（グループワークでのふりかえりレポート、学期末のレポート）			
小テスト等	30％。小テストを実施します。			
成果発表	なし。			
受講態度他	30％。講義中に適時質問や話し合いの時間をとりますので、積極的に受講して下さい。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講態度（遅刻や欠席も含め）を重視します。</li> <li>2. 欠席が3分の1以上あれば、原則単位取得は認められません。</li> <li>3. 講義中にグループでの話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加しましょう。</li> </ol>			
教科書	新・精神保健福祉士養成講座3 『精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門） 第2版』 中央法規出版 ※「精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰ」で使用したテキストを使います			
指定図書	なし。			
参考図書	講義の際、必要に応じて紹介します。			
オフィスアワー	前期；木曜日2限目（10：50－12：20）、後期；月曜日5限目（14：50－16：20）	メールアドレス		

授業科目	精神保健福祉論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	小山 宏子		単位	2
授業の目的と概要	<p>「精神保健福祉論」は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係る指定科目において中心的な位置づけの科目である。精神障害者の「相談援助活動」と「制度とサービスの総合作用」をふまえて精神障害者に関する法律の歴史を理解する。又、精神保健福祉士法における精神保健福祉士の役割について学び課題について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害者に関する法律については100年の歴史の概要を理解するために視聴覚教材を活用する。</li> <li>・精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割について現状を整理し、さらに課題についても考えていく。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害者に関する法律の歴史（精神障害者監護法から障害者総合支援法）と各法律の改正点について概要を説明することができる。</li> <li>・精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割について主要な関連業務を例に挙げ説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係る科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：精神保健福祉論では何を学ぶか、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの位置づけ	予習 シラバスに目を通しておく		
第2回	第1章 社会保障全体から見た精神保健福祉に関する制度とサービス	予習 教科書該当箇所		
第3回	第2章 精神保健福祉法成立までの経緯と意義、その後の変化 第1節 精神障害者監護法から精神保健福祉法成立までの経緯	予習 教科書該当箇所		
第4回	第2節 精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯	予習 教科書該当箇所		
第5回	第3節 精神保健福祉法成立の意義とその後の変化	障害者自立支援法～総合支援法への改正の課題と内容について教科書を読む		
第6回	第3章 精神保健福祉法の概要 第1節 精神保健福祉法の構成	予習 教科書該当箇所		
第7回	第2節 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割①	予習 教科書該当箇所		
第8回	第2節 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割②	予習 教科書該当箇所		
第9回	第3節 最近の動向③	予習 教科書該当箇所		
第10回	第4章 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 第1節障害者基本法と精神障害者施策とのかかわり	予習 教科書該当箇所		
第11回	第2節 障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際	予習 教科書該当箇所		
第12回	第5節 精神障害者を対象とした福祉施策・事業	予習 教科書該当箇所		
第13回	第6節 最近の動向	予習 教科書該当箇所		
第14回	前期の授業のまとめ	予習 教科書該当箇所		
第15回	前期の授業のまとめ	予習 教科書該当箇所		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	授業内での課題レポート：60％ 学期末レポートを15週目に実施：40％			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	—			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目は精神保健福祉士受験資格取得のための必須科目であるが、障害者自立支援法以後、社会福祉の援助対象者に精神障害者が明確に位置づけられたことから、精神保健福祉士国家試験受験資格課程生以外の社会福祉コース学生の聴講も勧める。			
教科書	『精神保健福祉に関する制度とサービス』新・精神保健福祉士養成校講座6 中央法規			
指定図書	—			
参考図書	『心を病むってどういうこと』ぶどう社、『わが家の母はピョーキです』サンマーク出版、『シブナスの笑い』ラグーナ出版			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	精神保健福祉論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	小山 宏子		単位	2
授業の目的と概要	精神障害者に深く関連する制度について理解を深め、現場で精神保健福祉士として業務に関わる際に活用できるよう現状と課題について考察する。 精神保健福祉論Ⅱの学習内容の中で「社会福祉関連科目ですすでに学習した内容については復習をし、再確認をしていく。 医療観察法は近年精神保健福祉士が関わる新しい分野であるため、事例を中心に業務の理解をしていく。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神障害者に関連する社会保障制度（医療保険制度・介護保険制度）について概要を説明することができる。</li> <li>更生保護制度、医療観察法における精神保健福祉士の業務と役割について簡潔に説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係わる科目です。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回 第5章 精神障害者に関連社会保障制度の概要 ①精神障害者と社会保障制度		予習 教科書P134～		
第2回 精神障害者に関連社会保障制度の概要 ②医療保険制度、介護保険制度		予習 教科書P137～158		
第3回 精神障害者に関連社会保障制度の概要 ③経済的支援に関する制度		予習 教科書P159～175		
第4回 第6章 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 ①行政組織と民間組織		予習 教科書P178～181		
第5回 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 ②インフォーマルな社会資源の役割		予習 教科書P182～200		
第6回 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 ③専門職や地域住民の役割と実際		予習 教科書P201～209		
第7回 第7章 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 ①刑事司法と更生保護		予習 教科書P212～225		
第8回 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 ②保護観察所と更生保護の担い手		予習 教科書P226～234		
第9回 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 ③司法・医療・福祉の連携の必要性和実際		予習 教科書P235～244		
第10回 第8章 医療観察法の概要と実際 ①医療観察法の意義と内容		予習 教科書P246～250		
第11回 医療観察法の概要と実際 ②医療観察法の審判と精神保健参与員の役割		予習 教科書P251～256		
第12回 医療観察法の概要と実際 ③入院医療、地域処遇、社会復帰調整官の役割と実際		予習 教科書P257～277		
第13回 第9章 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 ①調査の意義、目的、対象、倫理		予習 教科書P280～293 復習「社会福祉調査法」		
第14回 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 ②量的調査と質的調査		予習 教科書P294～325 復習「社会福祉調査法」		
第15回 まとめの課題レポート		事前に講義で配布したレポートなど再度読み返しておく		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題レポート：30％ 学期末レポートを15週目に実施：70％			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	—			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目は精神保健福祉士受験資格取得のための必須科目である。			
教科書	『精神保健福祉に関する制度とサービス』新・精神保健福祉士養成校講座6 中央法規			
指定図書	—			
参考図書	『心を病むってどういうこと』ぶどう社、『わが家の母はビョーキです』サンマーク出版、『シブナスの笑い』ラグーナ出版			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		



授業科目	精神保健福祉論Ⅲ【講義】		開講時期	前期
担当教員	小山 宏子		単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害の概念を理解したうえで精神障がい者の生活の実態を把握し人権について考察を深める。</li> <li>・精神障がい者の居住支援、雇用・就業支援の現状と課題について学び、精神保健福祉士の役割について理解する。</li> </ul>			
到達目標	障がい者の中での精神障がい者の概念を説明することができる 精神障がい者の生活の実態を自分の言葉で説明することができる。 精神障がい者の人権について自分の考えを述べるができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係わる科目です。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 第1章	精神障がい者の概念 法律による精神障がい者の概念と特性	予習 p2～p24		
第2回 第2章	精神障がい者の生活の実際 ①精神障がい者の現状	予習 p26～p37		
第3回 第2章	精神障がい者の生活の実際 ②家族の現状、地域社会と精神障がい者	予習 p50～p58		
第4回 第3章	精神障がい者の生活と人権 ①生活支援の理念と概要	予習 p62～p71		
第5回 第3章	精神障がい者の生活と人権 ②精神障がい者の人権	予習 p72～p77		
第6回 第4章	精神障がい者の地域生活支援システム ①自立と社会参加のための地域生活支援システム	予習 p79～p85		
第7回 第4章	精神障がい者の地域生活支援システム ②相談援助、雇用・就業以外の就労、余暇活動	予習 p86～p99		
第8回 第4章	精神障がい者の地域生活支援システム ③ソーシャルサポートネットワーク、地域生活支援システムの実際	予習 p100～p133		
第9回 第5章	精神障がい者の居住支援 ①居住支援の歴史	予習 p134～p143、精神障がい者の居住の現状と課題について予習レポート		
第10回 第5章	精神障がい者の居住支援 ②居住の場の確保、支援の実際と精神保健福祉士の役割	予習 p144～p173		
第11回 第6章	精神障がい者の雇用、就業支援 ①就業支援制度の概要と歴史	予習 p175～p194		
第12回 第6章	精神障がい者の雇用、就業支援 ②就業に関わる専門職、支援の実際、近年の動向	予習 p195～p224、精神障がい者の就労の現状と課題について予習レポート		
第13回 第7章	行政における相談支援 ①市町村・都道府県における相談援助システム	予習 p225～p255		
第14回 第7章	行政における相談支援 ②行政における精神保健福祉士の役割と機能	予習 p256～p259		
第15回	精神保健福祉論Ⅲのまとめ・テスト	総括		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	授業内での課題レポート：40% 学期末レポートを15週目に実施：60%			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	—			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	精神保健福祉論ⅠからⅡについては国家試験の問題を踏まえて復習をしながら精神保健福祉論を学んでいく			
教科書	『精神障がい者の生活支援システム』新・精神保健福祉士養成講座7 中央法規			
指定図書	無し			
参考図書	無し			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	政治学【講義】	開講時期	前期
担当教員	村上 悠	単 位	2
授業の目的と概要	<p>私たちは、数多くの人々とおなじ空間で生活を共にしています。しかし、理想とする生活のビジョンや、それをどうやって実現するかという考え方は、人によって様々に異なります。そうした「違い」は、時として、深刻な争いを招くことになります。このような、対立する意見を調整しながら、秩序や安定を生み出そうとするのが、「政治」の重要な営みです。そうした「政治」の営みと、私たちの暮らしとは、具体的にはどのようにかかわっているのでしょうか。</p> <p>本講義では、「政治」について語るうえで、まずは理解しておかねばならない政治学の基礎知識を習得したいと思います。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 政治学において用いられる基本用語を理解する。</li> <li>2. 《政治とは何か?》という問いに対して、具体的イメージを抱くことができるようになる。</li> <li>3. 私たちの日常生活と政治とのつながりを意識する習慣を身につける。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション：政治学を学ぶ意義	日々の時事ニュースについて疑問をもつことを心掛けてください	
第2回	政治とはなにか1：国家権力	授業終了時に次回のための予習課題を示します	
第3回	政治とはなにか2：支配と正統性	授業終了時に次回のための予習課題を示します	
第4回	政治の目標：自由主義、民主主義	授業終了時に次回のための予習課題を示します	
第5回	政治のしくみ1：立憲主義、三権分立	授業終了時に次回のための予習課題を示します	
第6回	政治のしくみ2：議院内閣制、大統領制	授業終了時に次回のための予習課題を示します	
第7回	政治のしくみ3：議会と政党	授業終了時に次回のための予習課題を示します	
第8回	政治とのかかわり1：選挙	授業終了時に次回のための予習課題を示します	
第9回	政治とのかかわり2：利益集団、中間団体	授業終了時に次回のための予習課題を示します	
第10回	政治とのかかわり3：世論、マスメディア	授業終了時に次回のための予習課題を示します	
第11回	政治の課題1：地方自治、住民参加、市民運動	授業終了時に次回のための予習課題を示します	
第12回	政治の課題2：社会福祉	授業終了時に次回のための予習課題を示します	
第13回	グローバル化と政治1：主権国家体制	授業終了時に次回のための予習課題を示します	
第14回	グローバル化と政治2：グローバル・イシュー	授業終了時に次回のための予習課題を示します	
第15回	まとめ	学期末レポートの準備を行ってください	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	2000字程度の学期末レポートを課します(70%)。具体的なテーマについては第15回目の講義の際にお知らせします。		
小テスト等	授業状況を見て、中間テストを行う場合があります(実施する場合は事前に告知します)		
成果発表	なし		
受講態度他	コメントシートへの記述内容および提出状況も評価対象(30%)となります。コメントシートの詳細は「受講上の留意点」を参照のこと。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	コメントシートとは、「受講姿勢の真摯さ」および「授業内容の理解度」を確認する一助として、授業中に適宜配布し、授業内容にかかわる質問や感想などを記入するものです。コメントシートは、知識や情報の正誤を問うものではありませんし、提出の事実それ自体に高い価値をおくもの(提出しさえすればそれでよいというもの)でもありません。自分なりの意見や、素朴な疑問や感想など、率直かつ誠実な姿勢で書かれているものを高く評価します。また、コメントシートを通じて出された質問等には各回の冒頭で回答します。		
教科書	使用しません		
指定図書	なし		
参考図書	川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会(2012年)、加茂利男・大西仁ほか『現代政治学[第4版]』有斐閣(2012年)ロバート・ダール著、高島通敏訳『現代政治分析』岩波書店(2012年)		
オフィスワーカー	質問はコメントシートを通じてお願いします。	メールアドレス	

授業科目	政治学概論（国際政治学を含む）【講義】	開講時期	前期
担当教員	横山 豪志	単位	2
授業の目的と概要	政治は、私たちの社会に大きな影響を及ぼしています。これから現代社会について勉強していくにあたり、社会の基礎をなしている政治を理解することは重要です。この講義は政治を理解するための分析視角である「政治学」の主要分野の基礎的な知識を習得し、幅広い知識を身につけることを目的としています。現実の政治の中からトピックをとりあげ、それを手がかりに「政治学」の主要分野の基礎知識を身につけます。講義は「覚えること」を網羅的に列挙するのではなく、焦点を絞りながら「理解する」ための考え方を提示していきます。ただし現実の政治状況によって講義内容を一部変更することがありますので、ご了承ください。		
到達目標	1. 日本の政治制度の特徴と課題について幅広い視野から説明できる。 2. 政策決定過程における「鉄の三角同盟」の仕組みが説明できる。 3. 政治学や現実の政治に関する基礎的文献を、自ら集めて分析していくことができる。		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	心 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 幼 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション 政治学を学ぶとは		第2回用レジュメ、資料に基づき国際政治について予習	
第2回 国際政治 国際政治の特徴とCOVID-19		第2回第3回用レジュメ、資料に基づき国際政治と国内政治について予習復習	
第3回 政策決定過程、筑女ネットとTeamsの使い方確認		第3回第4回用レジュメ、資料に基づき国会について予習復習	
第4回 国会(1) 政策決定における野党の役割		第4回第5回用レジュメ、資料に基づき国会運営について予習復習	
第5回 国会(2) 政策決定における与党の役割		第6回用レジュメ、資料に基づき国会の課題について予習復習	
第6回 国会(3) 近年の動向、官僚制(1) 日本の官僚制		第6回第7回用レジュメ、資料に基づき日本の官僚制について予習復習	
第7回 官僚制(2) 官僚制の特徴		第7回第8回用レジュメ、資料に基づき官僚制について予習復習	
第8回 日本の行政改革(1) 行財政改革		第8回第9回用レジュメ、資料に基づき行政改革について予習復習	
第9回 日本の行政改革(2)、利益団体(1)		第9回用レジュメ、資料に基づき利益集団について予習復習	
第10回 利益団体(2) 利益集団の構造		第10回第11回用レジュメ、資料に基づき投票行動について予習復習	
第11回 投票行動(1) 棄権する理由、候補を選ぶ理由1		レジュメ、資料に基づき利益団体について予習、期末レポート準備	
第12回 投票行動(2) 候補を選ぶ理由2		レジュメ、使用に基づき選挙について予習復習、期末レポート準備	
第13回 選挙制度(1) 様々な選挙制度		レジュメ、資料に基づき選挙制度について予習復習、期末レポート準備	
第14回 選挙制度(2) 日本の選挙制度		レジュメ、資料に基づき民主主義について予習、期末レポート準備	
第15回 政治思想 民主主義の諸相		レジュメ、資料に基づき民主主義の課題について復習、期末レポート準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0% なし		
レポート	90% 期末レポート15% 毎回の提出物(感想・コメント/講義の概要/ミニレポート)75% 質問・コメントについては翌週回答します。		
小テスト等	0% なし		
成果発表	0% なし		
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。		
教科書	北山俊哉、真淵勝、久米郁夫(編)『はじめて出会う政治学 第3版』有斐閣2009年		
指定図書	久米郁夫ほか(編)『政治学 補訂版』有斐閣2011年		
参考図書	講義内で適宜、指示します。		
オフィスアワー	水14:50～16:20、木12:30～13:30	メールアドレス	

授業科目	政治学概論Ⅰ【講義】	開講時期	前期
担当教員	横山 豪志	単位	2
授業の目的と概要	政治は、私たちの社会に大きな影響を及ぼしています。これから現代社会について勉強していくにあたり、社会の基礎をなしている政治を理解することは重要です。この講義は「政治学概論Ⅱ」と共に、政治を理解するための分析視角である「政治学」の主要分野の基礎的な知識を習得し、幅広い視野を身につけることを目的にしています。現実の政治の中からトピックをとりあげ、それを手がかりに「政治学」の主要分野の基礎知識を身につけます。講義は「覚えること」を網羅的に列挙するのではなく、焦点を絞りながら「理解する」ための考え方を提示していきます。ただし現実の政治状況によって講義内容を一部変更することがありますので、ご了承ください。		
到達目標	1. 日本の政治制度の特徴と課題について説明できる。 2. 政策決定過程における「鉄の三角同盟」の仕組みが説明できる。 3. 政治学や現実の政治に関する基礎的文献を、自ら集めて分析していくことができる。		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「政治学概論Ⅱ」を履修することでより理解を深められると同時に、「経済学概論Ⅰ」や「経済学概論Ⅱ」を履修することで、政治と密接に関係する経済(学)に関する理解を深めることができます。 また「アジア政治論」や「国際政治学」を履修することで、より詳細な内容が理解できます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション 政治学を学ぶとは		第2回用レジュメ、資料に基づき国際政治について予習	
第2回 国際政治 国際政治の特徴とCOVID-19		第2回第3回用レジュメ、資料に基づき国際政治と国内政治について予習復習	
第3回 政策決定過程、筑女ネットとTeamsの使い方確認		第3回第4回用レジュメ、資料に基づき国会について予習復習	
第4回 国会(1) 政策決定における野党の役割		第4回第5回用レジュメ、資料に基づき国会運営について予習復習	
第5回 国会(2) 政策決定における与党の役割		第6回用レジュメ、資料に基づき国会の課題について予習復習	
第6回 国会(3) 近年の動向、官僚制(1)		第6回第7回用レジュメ、資料に基づき日本の官僚制について予習復習	
第7回 官僚制(2) 官僚制の特徴		第7回第8回用レジュメ、資料に基づき官僚制について予習復習	
第8回 日本の行政改革(1) 行財政改革		第8回第9回用レジュメ、資料に基づき行政改革について予習復習	
第9回 日本の行政改革(2)、利益団体(1)		第9回用レジュメ、資料に基づき利益集団について予習復習	
第10回 利益団体(2) 利益集団の構造		第10回第11回用レジュメ、資料に基づき投票行動について予習復習	
第11回 投票行動(1) 棄権する理由、候補を選ぶ理由1		レジュメ、資料に基づき投票行動について予習復習、期末レポート準備	
第12回 投票行動(2) 候補を選ぶ理由2		レジュメ、使用に基づき選挙について予習復習、期末レポート準備	
第13回 選挙制度(1) 様々な選挙制度		レジュメ、資料に基づき選挙制度について予習復習、期末レポート準備	
第14回 選挙制度(2) 日本の選挙制度		レジュメ、資料に基づき民主主義について予習、期末レポート準備	
第15回 政治思想 民主主義の諸相		レジュメ、資料に基づき民主主義の課題について復習、期末レポート準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0% なし		
レポート	0% 期末レポート15% 毎回の提出物(感想・コメント/講義の概要/ミニレポート)75% 質問・コメントについては翌週回答します。		
小テスト等	0% なし		
成果発表	0% なし		
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。「政治学概論Ⅱ」と併せて受講することが望ましいですが、どちらか一方だけを受講することも可能です。		
教科書	北山俊哉、真淵勝、久米郁夫(編)『はじめて出会う政治学 第3版』有斐閣2009年		
指定図書	久米郁夫ほか(編)『政治学 補訂版』有斐閣2011年		
参考図書	講義内で適宜、指示します。		
オフィスアワー	水14:50~16:20、木12:30~13:30	メールアドレス	

授業科目	政治学概論Ⅱ【講義】	開講時期	後期
担当教員	横山 豪志	単位	2
授業の目的と概要	政治は、私たちの社会に大きな影響を及ぼしています。これから現代社会について勉強していくにあたり、社会の基礎をなしている政治を理解することは重要です。この講義は「政治学概論Ⅰ」と共に、政治を理解するための分析視角である「政治学」の主要分野の基礎的な知識を習得し、幅広い視野を身につけることを目的にしています。現実の政治の中からトピックをとりあげ、それを手がかりに「政治学」の主要分野の基礎知識を身につけます。講義は「覚えること」を網羅的に列挙するのではなく、焦点を絞りながら「理解する」ための考え方を提示していきます。ただし現実の政治状況によって講義内容を一部変更することがありますので、ご了承ください。		
到達目標	1. 日本政府が行っている経済政策社会保障制度について、その特徴と課題が政治学的に説明できる。 2. 日本の地方自治体が抱えている課題が、政治学的に説明できる。 3. 政治学や現実の政治に関する基礎的文献を、自ら集めて分析していくことができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「政治学概論Ⅰ」を履修することでより理解を深められると同時に、「経済学概論Ⅰ」や「経済学概論Ⅱ」を履修することで、政治と密接に関係する経済(学)に関する理解を深めることができます。 また「アジア政治論」や「国際政治学」を履修することで、より具体的な内容が理解できます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション 政治学を学ぶとは		第2回用レジュメ、資料に基づき市場メカニズムについて予習	
第2回 市場の失敗、政府の失敗(1) 「小さな政府」の限界		第2回第3回用レジュメ、資料に基づき経済政策について予習復習	
第3回 市場の失敗、政府の失敗(2) 「大きな政府」の落とし穴		第3回第4回用レジュメ、資料に基づきケインズ主義の限界について予習復習	
第4回 市場の失敗、政府の失敗(3) 日本の行財政改革		第4回第5回用レジュメ、資料に基づき新自由主義について予習復習	
第5回 福祉国家とそのゆくえ(1) 福祉国家の分類		第5回第6回用レジュメ、資料に基づき社会保障制度について予習復習	
第6回 福祉国家とそのゆくえ(1) 日本の社会保障制度		第6回第7回用レジュメ、資料に基づき日本の特徴について予習復習	
第7回 経済政策と社会保障政策(応用) 「ディスカッション」		第7回第8回用レジュメ、資料に基づきディスカッション準備	
第8回 市町村合併(1) 日本の地方行政制度		第8回第9回用レジュメ、資料に基づき市町村について予習復習	
第9回 市町村合併(2) 平成の大合併1		第9回第10回用レジュメ、資料に基づき平成の大合併について予習復習	
第10回 市町村合併(3) 平成の大合併2 「ディスカッション」		レジュメ、資料に基づき市町村合併についてのディスカッション準備	
第11回 地方分権(1) 地方公共団体の役割		レジュメ、資料に基づき地方公共団体について予習復習、期末レポート準備	
第12回 地方分権(2) 地方分権化の推進		レジュメ、資料に基づき今日の課題について予習復習、期末レポート準備	
第13回 地球規模の課題(1) グローバリゼーションの時代		レジュメ、資料に基づき多国間関係について予習復習、期末レポート準備	
第14回 地球規模の課題(2) 地球環境問題		レジュメ、資料に基づき環境問題について予習復習、期末レポート準備	
第15回 世論とメディア		レジュメ、資料に基づきマスメディアについて予習復習、期末レポート準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0% なし		
レポート	90% 期末レポート15% 毎回提出の「講義の概要」など(各回5段階評価)75% 「講義の概要」に記された質問・コメントについては翌週回答します。		
小テスト等	0% なし		
成果発表	0% なし		
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	「政治学概論Ⅰ」と併せて受講することが望ましいですが、どちらか一方だけを受講することも可能です。状況に応じてシラバス内容を変更することがあります。なるべく早く確定させますが、変更する場合は速やかにみなさんにお知らせします。		
教科書	北山俊哉、真淵勝、久米郁夫(編)『はじめて出会う政治学 第3版』有斐閣2009年		
指定図書	久米郁夫ほか(編)『政治学 補訂版』有斐閣2011年		
参考図書	講義内で適宜、指示します。		
オフィスアワー	火14:50～16:20、金12:30～13:00	メールアドレス	

授業科目	生徒・進路指導【講義】		開講時期	前期
担当教員	川野 司		単 位	2
授業の目的と概要	①教職を目指す人のために実践的指導力を修得する。 ②学校における生徒指導及び進路指導の課題を考え、その解決方法について学修する。 ③自らの意見や考えを相手に伝えることができるとともに、相手の意見や考えが傾聴できるようになる。 以上の3項目を修得するために、授業では小中学校のケースを取り上げ、討論型授業を行います。そのために、学生の皆さんは授業前に個別学習（予習）が必要です。予習ではテキストの「設問」と「考えてみよう」の回答をレポートにまとめることが大切になります。			
到達目標	授業では、考える習慣（思考力）、コミュニケーション力、判断力と表現力など教職に必要な実践的指導力を修得するとともに、人間としての生き方などを修得します。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初（3）-②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業についての説明とレポート課題の書き方の説明。教科書は2～31頁。		教科書2～31頁を読んでおく。	
第2回	Case21 生徒指導について考える。教科書175～180頁。		Case21の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第3回	Case1 学級担任になったA先生の不安を考える 教科書34～38頁		Case1の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第4回	Case3 基本的生活習慣について考える。教科書49～57頁		Case3の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第5回	Case4 学級崩壊の噂が出始めた担任と児童との関係を考える。教科書58～68頁		Case4の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第6回	Case7 昼休みの怪我について考える。教科書86～94頁		Case7の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第7回	Case8 学級における不登校を考える 教科書95～103頁		Case8の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第8回	Case22 保護者からの相談について考える。教科書181～186頁		Case22の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第9回	Case23 学級崩壊について考える。教科書187～192頁		Case23の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第10回	Case24 体罰について考える。教科書193～197頁		Case24の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第11回	Case26 不登校について考える（その2）。教科書203～207頁		Case26の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第12回	Case27 学校給食について考える。教科書208～211頁		Case27の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第13回	Case28 いじめについて考える。教科書212～216頁		Case28の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第14回	Case29 授業の中での規律づくりについて考える。教科書217～221頁		Case29の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第15回	Case30 学校における危機管理について考える。教科書222～226頁		Case30の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 課題のレポートは毎週提出が必要です。全員が12回分の提出になります。			
小テスト等	なし			
成果発表	発表グループは与えられたCaseのプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをする班はレポート提出は必要ありません。			
受講態度他	40％（成績評価は、出席、レポート内容と提出状況、プレゼンテーション発表などを総合的に評価します。授業期間中に行う「授業の振り返りシート」（授業評価のアンケート）は全項目に記載します。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①グループ発表班はプレゼンを提出期限までに筑女ネット「課題提出」で送付する。発表班はレポート提出はありません。 ②レポート提出も提出期限までに筑女ネット「課題提出」で送付する。			
教科書	川野司著『教師のためのケースメソッドで学ぶ実践力』昭和堂			
指定図書	川野司著『実践！学校教育入門—小中学校を考える』昭和堂 川野司著『教師のためのケースで学ぶ実践力』昭和堂			
参考図書	文部科学省『生徒指導必携』教育図書			
オフィスワーカー	授業前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	生徒・進路指導【教職】【講義】		開講時期	前期
担当教員	松尾 公孝		単位	2
授業の目的と概要	<p>学習指導と並ぶ重要な教育活動である生徒指導について、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。</p> <p>また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。</p> <p>いずれも、「生き方」の教育に直接かかわることである。本講では、学校教育の現状を踏まえながら、教師としてどのように支援していくのかについて考察する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生徒指導、進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解できる。</li> <li>2) すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導、進路指導・キャリア教育の進め方を理解できる。</li> <li>3) 生徒の抱える主な生徒指導上の課題や進路指導・キャリア教育上の課題の形態や指導の在り方を理解できる。</li> <li>4) 養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を考察できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「生徒指導の倫理及び方法」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	事前に、本授業のシラバスを読む。		
第2回	生徒指導の意義と原理 1 教育課程上の位置づけ	復習として配布資料を読む。		
第3回	生徒指導の意義と原理 2 各教科、道徳教育等との関連	復習として配布資料を読む。		
第4回	生徒指導の意義と原理 3 集団指導と個別指導	復習として配布資料を読む。		
第5回	進路指導・キャリア教育の意義と理論 1 教育課程上の位置づけ	復習として配布資料を読む。		
第6回	進路指導・キャリア教育の意義と理論 2 キャリア教育の視点と指導の在り方	復習として配布資料を読む。		
第7回	生徒指導体制	復習として配布資料を読む。		
第8回	生徒全体への指導 1 指導方針、年間指導計画	復習として配布資料を読む。		
第9回	生徒全体への指導 2 ガイダンスの機能を生かした指導	復習として配布資料を読む。		
第10回	生徒全体への指導 3 生活習慣の確立と規範意識。自己存在感の醸成に向けて	復習として配布資料を読む。		
第11回	生徒全体への指導 4 職業体験活動との関係	復習として配布資料を読む。		
第12回	個別の課題への対応 1 生徒指導上の法令（校則、懲戒、体罰など）	復習として配布資料を読む。		
第13回	個別の課題への対応 2 生徒指導上の課題（不登校、いじめ、問題行動など）	復習として配布資料を読む。		
第14回	個別の課題への対応 3 カウンセリングとしての指導	復習として配布資料を読む。		
第15回	まとめ	授業全体を振り返り、整理する。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	10% 授業中でのレポート 40% 学期末の課題レポート			
小テスト等	30% 授業ごとの振り返り（1回の授業ごとに0点、1点、2点で評価します。）			
成果発表	20% 映画鑑賞のレポート			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講にあたっては、テーマや課題について、教師としてどのように理解し、支援していくのかについて、具体的なイメージを持って授業に臨んで欲しい。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	諸富祥彦『新しい生徒指導の手引き』図書文化 2013 文部科学省『生徒指導提要』教育図書 2010 文部科学省『キャリア教育の手引き』教育出版 2011			
オフィスワー	メールにてお願いします。	メールアドレス		

授業科目	生物のしくみ【講義】		開講時期	後期
担当教員	佐々木 浩		単 位	2
授業の目的と概要	人間は生物の一種なのですが、生活が自然とだんだん離れていくにつれて、それを意識しないようになってきています。また、自然の一部である人間社会の急激な発展、変化は、他の生物との関係を変化させ、鳥インフルエンザ等の様々な問題を引き起こし、そして多くの生物を絶滅に追い込むなどの変化をもたらしています。この授業では、生物のしくみや、人間はどのような生物なのかを理解することにより、これからの人間のあり方を考えて、自己管理能力を高めることができるようになることを目的としています。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の特徴を説明できるようになる。</li> <li>・自分の体のしくみについて説明できるようになる。</li> <li>・これからの人間のあり方や自分の生活について考えを述べられるようになる。</li> <li>・人間の生物としての面から自己管理が出来るようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 (オンデマンド遠隔講義)	講義概説		講義した内容に関して自宅学習する。	
第 2回 (リアルタイム遠隔講義)	1-2月	体の構造1 動的平衡	教科書 1月 (p. 2-p. 18) の復習をする。	
第 3回 (リアルタイム遠隔講義)	1-2月	体の構造2 補充される細胞と減るだけの細胞	教科書 1月 (p. 18-p. 32) の復習をする。	
第 4回 (リアルタイム遠隔講義)	1-2月	体の構造3 体を作る物質	教科書 2月 (p. 18-p. 32) の復習をする。	
第 5回 (リアルタイム遠隔講義)	1-2月	体の構造4 単細胞と多細胞	教科書 2月 (p. 18-p. 32) の復習をする。	
第 6回 (リアルタイム遠隔講義)	3月	物質代謝1 同化と異化	教科書 3月 (p. 33-p. 56) の復習をする。	
第 7回 (リアルタイム遠隔講義)	3月	物質代謝2 呼吸	教科書 3月 (p. 33-p. 56) の復習をする。	
第 8回 (リアルタイム遠隔講義)	4月	情報伝達	教科書 4月 (p. 57-p. 78) の復習をする。	
第 9回 (リアルタイム遠隔講義)	5月	免疫1 アレルギー	教科書 5月 (p. 59-p. 100) の復習をする。	
第10回 (リアルタイム遠隔講義)	5月	免疫2 細菌	教科書 5月 (p. 59-p. 100) の復習をする。	
第11回 (リアルタイム遠隔講義)	6月	性と生殖	教科書 6月 (p. 101-p. 118) の復習をする。	
第12回 (リアルタイム遠隔講義)	7月	発生	教科書 7月 (p. 119-p. 140) の復習をする。	
第13回 (リアルタイム遠隔講義)	8月	遺伝	教科書 8月 (p. 141-p. 158) の復習をする。	
第 1 4回 (リアルタイム遠隔講義)	9月	遺伝子	教科書9月 (p. 159-p. 180) の復習をする。	
第15回 (リアルタイム遠隔講義)	まとめ		これまでの復習をする。	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	90% 3回のレポート			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	第一回の講義は、オンデマンドで行います。二回目以降は、teams(またはZoom)でリアルタイムで講義を行います。個人的事情による欠席はすべて欠席扱いとなります。			
教科書	吉田邦久、2012、『好きになる生物学 第二版』 講談社 2000円+税			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日 2講時	メールアドレス		



授業科目	生命科学【講義】		開講時期	前期
担当教員	関口 猛		単 位	2
授業の目的と概要	植物や動物（人間を中心とする）がどのようにして生きているかについていろいろな知識を得ることを目標とする。また、食べ物に含まれるさまざまな栄養素について紹介する。高等学校で学んだ生物の知識をもとにいくつかの単元に焦点を当てて理解する。さらに、生命の尊さを学ぶことを目的とする。			
到達目標	1. 植物や動物がどのようにして生きているか説明できる。2. 生物の持つ物質とそれらの働きについて理解できる。3. 遺伝について理解できる。4. 体を作る仕組みや病気から体を守る仕組みを理解できる。5. 生物に関するニュースを理解できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	いのちの不思議ー睡眠、冬眠について。 講義の受け方の説明もします。	睡眠、冬眠について疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。		
第2回	コーヒーに含まれるカフェインの働き。	カフェインについての疑問や面白いと思ったことについて調べる。		
第3回	植物の生き方。スマートフォンかPCを用いて栄養素について調べる。	植物について疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。		
第4回	植物と環境との関わり。スマートフォンかPCを用いて栄養素について調べる。	講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。		
第5回	植物と動物との関わり。スマートフォンかPCを用いて栄養素について調べる。	講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。		
第6回	植物と人間との関わり。スマートフォンかPCを用いて栄養素について調べる。	講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。		
第7回	生物の生きている仕組み。スマートフォンかPCを用いて栄養素について調べる。	講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。		
第8回	生活に役立つ人の遺伝ーメンデルの遺伝。スマートフォンかPCを用いて栄養素について調べる。	講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。		
第9回	生活に役立つ人の遺伝ー遺伝子とは。スマートフォンを用いて栄養素について調べる。	講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。		
第10回	癌はどういうものか。スマートフォンかPCを用いて栄養素について調べる。	講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。		
第11回	遺伝と病気。スマートフォンかPCを用いて栄養素について調べる。	講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。		
第12回	遺伝子組み換え生物（GMD）について。スマートフォンかPCを用いて栄養素について調べる。	講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。		
第13回	健康を保つ仕組みー免疫に働く細胞。スマートフォンかPCを用いて栄養素について調べる。	講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。		
第14回	健康を保つ仕組みー免疫の役割。スマートフォンかPCを用いて栄養素について調べる。	講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。		
第15回	健康を保つ仕組みの異常ーアレルギー。スマートフォンかPCを用いて栄養素について調べる。	講義の中で面白いものを次回までネットや本などで調べてください。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% 「毎週出している課題レポート（第二回目から第14回目まで）（13%） 学期末レポートを第十五週目（8/3-8/7）に実施（37%）」			
小テスト等	50% 「毎週出している感想（25%）、毎週出している問題（25%）」			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	事前に筑女ネットに載せているテキストを声をだして読むようにしてください。わからない言葉がでたら辞書等で意味を調べてください。記事を読んだ感想と問題は小テスト等ということことで評価します。また毎週出している課題レポートも評価の対象です。これら提出する3つを期限までに毎回忘れずにアップロードしてください。学期末レポートは期末に出していただくこととなりますが、毎週出している問題をみて書けるようになっていきます。講義の内容に関する質問等は筑女ネットのフォーラムの中で質問を受け付けます。			
教科書	なし。			
指定図書	とことんやさしいヒト遺伝子のしくみ 体型も性格も運動能力も病気のかかりやすさも左右する， たたかう植物: 仁義なき生存戦略			
参考図書	よくわかる生物学			
オフィスアワー	講義の前夜	メールアドレス		

授業科目	生命倫理【講義】	開講時期	後期
担当教員	清水 満	単 位	2
授業の目的と概要	現代応用倫理学の主要なテーマ・概念から初め、その後、生命倫理の場で基本的とみなされる考え方を学び、生命倫理が必要とされるケアの現場の問題を実例などで考察します。 日常の諸問題でどのように考えればよいのか、毎回、問題が課され、自分で解答を作成します。その後、事例を通して、生命倫理にかんする基本的な考え方を講義します。		
到達目標	1, 医療化された現代社会で生きる一人の人間として、病気、出産、家族の介護などの個々の状況において、適切な対応ができる「判断力」を涵養する。 2, 上記の場において、自分の判断を客観的に説明できる力を身につける。 3, 教育、福祉など、ケア労働の場で将来働きたいと思っている者、あるいは育児・介護にかかわる者に、その基礎となる倫理観、人間観を培う一助とする。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	倫理学序論 なぜ「生命倫理」が出てきたか。	配布プリントを再読する。	
第2回	生命倫理の基礎（1）功利主義 難破船のパラドックス 「討議」	配布プリントを復習し、自分の回答を書き直す。	
第3回	生命倫理の基礎（2）自由主義 ミル原理を学ぶ 「討議」	配布プリントを復習し、自分の回答を書き直す。	
第4回	生命倫理の基礎（3）人格概念 カントの人格主義 「討議」	配布プリントを復習し、自分の回答を書き直す。	
第5回	生命倫理の基礎（4）結婚・恋愛 進化生物学の成果 「討議」	配布プリントを復習し、自分の回答を書き直す。	
第6回	生命倫理の場（1）プロフェッション概念とIC（インフォームド・コンセント） 「討議」	配布プリントを復習し、自分の回答を書き直す。	
第7回	生命倫理の場（2）エンハンスメント 美容整形はよいことか 「討議」	配布プリントを復習し、基礎概念を覚える。	
第8回	生命倫理の場（3）障害（しょうがい）学と障害者福祉 「討議」	配布プリントを復習し、基礎概念を覚える。	
第9回	生命倫理の場（4）出生前検査の問題 「不幸な」子どもは不要か？ 「討議」	配布プリントを復習し、基礎概念を覚える。	
第10回	生命倫理の場（5）ケアとコミュニケーション メイヤロフのケア概念 「討議」	配布プリントを復習し、基礎概念を覚える。	
第11回	生命倫理の場（6）ケアとコミュニケーションの実践例1	配布プリントを復習する。	
第12回	生命倫理の場（6）ケアとコミュニケーションの実践例2 かねはら小児科と「じねんじょ」	配布プリントを復習し、参考文献を読む。	
第13回	生命倫理の場（7）子どもの貧困と子ども食堂	配布プリントを復習し、参考文献を読む。	
第14回	生命倫理の場（8）バザリアの実践と日本の「精神病院」	配布プリントを復習し、参考文献を読む。	
第15回	まとめと補遺	配布プリントを復習し、参考文献を読む。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% 講義で扱った基礎概念の客観的説明問題を課します。		
小テスト等	30% 講義で問題を出し、その回答をほぼ毎回書いてもらいます。		
成果発表	%		
受講態度他	10% 出席、積極性を見ます。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	問題をほぼ毎回出しますので、誠実に回答してください。		
教科書	なし。毎回講義プリントを配布します。		
指定図書	なし。		
参考図書	講義プリントで、毎回指示します。		
オフィスアワー	講義のあと。	メールアドレス	

授業科目	世界遺産論【講義】		開講時期	後期
担当教員	小林 知美		単位	2
授業の目的と概要	<p>テーマ：「世界遺産」の現状と課題</p> <p>この授業では、世界遺産の考え方、内容、成立背景や問題点を知ること、そして具体的に日本を中心としたアジアの遺産の数例についてその概要を理解することを目的とします。また、地元太宰府の遺産の実地見学をとおして、地域の遺産を知り守る意識をもつことが、世界遺産の思想の本当の理解へとつながることを学びとります。まず、『世界遺産を学ぶ人のために』（奈良大学文学部世界遺産を考える会編、世界思想社、2000年初版）の第1章「世界遺産をどう学ぶか」を読み、学ぶ意義を確かめます。次に「負の遺産」、自然遺産、文化遺産の3区分により、アジアを中心とした世界の遺産について文献と映像を併用して知識を深めます。また実地見学（フィールドワーク）を通して主体的に地元の遺産を学ぶ姿勢を身につけます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産のなかから具体的な例をあげて概要を説明することができる。（課題①）</li> <li>地域の文化遺産について具体的な例をあげて説明できる。（課題②）</li> <li>世界遺産の定義とその内容と問題点を説明し、今後の世界遺産のあり方について自分なりの意見をもつ。（課題③）</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション：『世界遺産を学ぶ人のために』を読む	世界遺産についての参考資料収集		
第2回	世界遺産をどう学ぶか1：ユネスコの世界遺産条約	【課題①】〇〇遺産（地元／世界／無形／記憶etc.）関連資料収集		
第3回	世界遺産をどう学ぶか2：日本の世界遺産	【課題①】〇〇遺産（地元／世界／無形／記憶etc.）関連実地見学		
第4回	厳島神社と原爆ドーム～HIROSHIMAのモニュメント～	【課題①】〇〇遺産（地元／世界／無形／記憶etc.）関連資料分析		
第5回	「負の遺産」：アウシュビッツ強制収容所～戦争史への門～	【課題①】〇〇遺産（地元／世界／無形／記憶etc.）レポート執筆		
第6回	自然遺産1：知床半島～日本版ナショナルトラスト運動～	【課題②】遺産見学フィールドワーク関連資料収集		
第7回	自然遺産2：白神山地と紀伊半島～山岳信仰の遺産～	【課題②】遺産見学フィールドワーク関連資料分析		
第8回	自然遺産3：屋久島～保護活動の課題～	【課題②】遺産見学フィールドワーク見学レポート執筆		
第9回	文化遺産1：法隆寺～木造建築の知恵～	【課題③】「世界遺産」の現状と課題関連資料収集		
第10回	文化遺産2：石窟庵と仏国寺、宗廟～仏教、儒教の遺産～	【課題③】「世界遺産」の現状と課題関連資料分析		
第11回	文化遺産3：敦煌莫高窟～シルクロードの文化交流～	【課題③】「世界遺産」の現状と課題レポート執筆		
第12回	授業全体の振り返り	【課題①②③】を読みなおす		
第13回	まとめ：「世界遺産」の現状と課題	これまでの学びの総括		
第14回・15回合同授業	地元遺産関連見学（フィールドワーク） ※10月27日（日）午前、太宰府市文化ふれあい館「大宰府歴史展」見学	見学関連資料収集、分析		
第14回・15回合同授業	地元遺産関連見学（フィールドワーク） ※10月27日（日）午前、太宰府市文化ふれあい館「大宰府歴史展」見学	見学関連資料収集、分析		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	90％（課題①～③、各30％）、提出先：レポートボックス（※ボックスを間違わないこと）、文字数：1200文字程度、参考文献明記、レポートタイトルは自分で考えて付けること。			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>○地元遺産に関わる時間外・学外見学（フィールドワーク）を行います。交通費は自己負担です。</p> <p>○対象：太宰府市文化ふれあい館（太宰府市国分4丁目9番1号、電話092-928-0800）「大宰府まるごと歴史展（予定）」。</p> <p>○当日参加できない人は、各自で見学し、課題②提出時に館のスタンプ、下記2点の写真又はスケッチ（ふれあい館の七重塔、筑前国分寺跡の塔心礎石）を添えて提出すること。</p>			
教科書	なし			
指定図書	西岡常一『木のいのち木のこころ 天』草思社（1996年）、島本慈子『戦争で死ぬ、ということ』岩波書店（2006年）、多田満『レイチェル・カーソンはこう考えた』ちくまプリマ-新書241（2015）。			
参考図書	『世界遺産を学ぶ人のために』（奈良大学文学部世界遺産を考える会編、世界思想社、2000年初版）ほか。 ※必要部分をコピーして配布します。			
オフィスアワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	世界英語概説【講義】		開講時期	後期
担当教員	松崎 徹		単位	2
授業の目的と概要	<p>現在世界の多くの国々や地域で英語が使われていますが、この授業では古くは英国固有の言語であった英語がなぜ世界で幅広く使われる国際語になったのか、その背景と現状を探ることを目的とします。世界英語は人種や文化の隔たりを超えて多種多様な人々に用いられる国際語を指すものであり、こうしたことから、世界英語について学ぶことは、世界情勢について考えることにもつながります。それを踏まえたうえで、本講義の前半では、英語圏と呼ばれる各地域の英語の特徴をその歴史とともに概観します。講義後半では、世界英語といっても英語という純粋な一つのことが用いられているのではなく、さまざまな種類の英語、つまり英語の変種が使用されている現状を世界の地域ごとに見ていきます。授業は遠隔により実施予定で、Web ページ上の動画なども活用しながら展開していく予定です。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. なぜ英語が世界に広がっていったかを理解する。</li> <li>2. どのような英語が世界各国で使用されているかを理解する。</li> <li>3. それぞれの国で使われている英語の特徴を理解する。</li> <li>4. 英語の未来の姿を予測できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入：世界英語 World Englishes とは？		教科書 pp. i-vii		
第2回 イギリス英語とその方言 (1) - イギリスにおける主要な言語接触		教科書 pp. 3-7		
第3回 イギリス英語とその方言 (2) - 容認発音 (RP)		教科書 pp. 10-13		
第4回 イギリス英語とその方言 (3) - イングランドの方言		教科書 pp. 14-17		
第5回 ケルト語地域の英語		教科書 pp. 28-41		
第6回 アメリカ英語 (1) - アメリカ英語の歴史		教科書 pp. 51-56		
第7回 アメリカ英語 (2) - 地域方言		教科書 pp. 56-59		
第8回 アメリカ英語 (3) - 人種による変種		教科書 pp. 59-63		
第9回 オーストラリア英語 (1) - オーストラリア英語の歴史		教科書 pp. 67-71		
第10回 オーストラリア英語 (2) - 言語的特徴		教科書 pp. 71-77		
第11回 インドの英語 (1)		教科書 pp. 93-103		
第12回 インドの英語 (2)		教科書 pp. 104-109		
第13回 東アジアの英語 (1) - Japlish		教科書 pp. 187-191		
第14回 東アジアの英語 (2) - Konglish & Chinish		教科書 pp. 191-199		
第15回 まとめ		教科書 pp. 203-204		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 学期末レポート (レポートのテーマは第13週目に発表します)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 学修の取り組み (授業への参加、取り組みの姿勢、等を評価します)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネットのコース上にアップしている留意事項を参照のこと			
教科書	田中春美・田中幸子編『World Englishes - 世界の英語への招待』昭和堂			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、授業の中で紹介します。			
オフィスアワー	質問等は電子メールにて受け付けます	メールアドレス		

授業科目	世界史【講義】	開講時期	後期
担当教員	大久保 里香	単位	2
授業の目的と概要	授業では古代から現代までの世界史を学び、理解を深めます。そして歴史上の重要な出来事や各時代の政治・文化・社会について、現代とのつながりや相違点を意識しながら、多面的に考える力を身につけます。さらに、自らが関心を持ったテーマについて、歴史的な文脈をふまえて論じられるようにします。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古代から現代までの重要な歴史的出来事について、その経緯や意義を理解できる。</li> <li>2. 様々な国・時代の歴史について、多様な視点から考察できる。</li> <li>3. 自らの関心のあるテーマについて、授業で学んだ知識をもとに論理的に述べられる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション： 授業概要と目的、授業の構成と進め方、成績評価、受講上の注意等の説明	配布レジュメ内容（授業の目的・受講上の注意）の復習	
第2回	古代ギリシア世界	桜井万里子『古代ギリシアの女たち』中央公論社、1992年。	
第3回	東アジア文化圏の成立と発展	石見清祐『唐代の国際関係』山川出版社、2009年。	
第4回	イスラーム世界の形成	片倉もとこ他編『イスラーム世界』岩波書店、2004年。	
第5回	ヨーロッパ世界とキリスト教	服部良久他編『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』ミネルヴァ書房、2006年。	
第6回	ルネサンスと宗教改革	小泉徹『宗教改革とその時代』山川出版社、1996年。	
第7回	大航海時代と世界の一体化	J・M・ロバーツ『近代ヨーロッパ文明の成立』創元社、2003年。	
第8回	革命と近代社会	長谷川まゆ帆『女と男と子どもの近代』山川出版社、2007年。	
第9回	欧米における近代国民国家の成立	アンソニー・D・スミス『ナショナリズムとは何か』筑摩書房、2018年。	
第10回	帝国主義とアジア諸国の動向	木谷勤『帝国主義と世界の一体化』山川出版社、1997年。	
第11回	期末レポートについての説明	都筑学『大学1年生のための伝わるレポートの書き方』有斐閣、2016年。	
第12回	第一次世界大戦	木村靖二『第一次世界大戦』筑摩書房、2014年。	
第13回	第二次世界大戦	山本秀行『ナチズムの時代』山川出版社、1998年。	
第14回	冷戦の時代	松戸清裕『歴史のなかのソ連』山川出版社、2005年。	
第15回	講義のまとめ	配布レジュメ内容（全講義のふりかえり）の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% 期末レポート(2000字程度)		
小テスト等	20% 授業の中で小テストの返却、解説を行う。		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 毎回のコメントシート（質問・感想）や受講態度で評価する。コメントシートは、次回授業でフィードバックする。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	高校で世界史を選択していなかった方の受講も歓迎します。その場合、事前に世界史の概説書や参考図書を通読するようにしてください。特段の理由がない限り、欠席・遅刻・途中退室は控えてください。授業中の私語などの迷惑行為も禁止です。「筑女ネット」上で、授業連絡や使用したレジュメのアップロードを行うので、適宜確認してください。		
教科書	なし（レジュメを配布）		
指定図書	なし		
参考図書	木村靖二、岸本美緒、小松久男編『詳説世界史研究』山川出版社、2017年。 谷澤伸、甚目孝三、柴田博、高橋和久『流れ図 世界史図録ヒストリカ』（新訂版）山川出版社、2017年。		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	世界史Ⅰ【講義】	開講時期	前期
担当教員	大久保 里香	単位	2
授業の目的と概要	授業では古代から現代までの世界史を学び、理解を深めます。そして歴史上の重要な出来事や各時代の政治・文化・社会について、現代とのつながりや相違点を意識しながら、多面的に考える力を身につけます。さらに、自らが関心を持ったテーマについて、歴史的な文脈をふまえて論じられるようにします。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古代から現代までの重要な歴史的出来事について、その経緯や意義を説明できる。</li> <li>2. 様々な国・時代の歴史について、多様な視点から考察できる。</li> <li>3. 自らの関心のあるテーマについて、授業で学んだ知識をもとに論理的に述べられる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション： 授業概要と目的、授業の構成と進め方、成績評価、受講上の注意等の説明	配布レジュメ内容（授業の目的・受講上の注意）の復習	
第2回	古代ギリシア世界	桜井万里子『古代ギリシアの女たち』中央公論社、1992年。	
第3回	東アジア文化圏の成立と発展	石見清祐『唐代の国際関係』山川出版社、2009年。	
第4回	イスラーム世界の形成	片倉もこと他編『イスラーム世界』岩波書店、2004年。	
第5回	ヨーロッパ世界とキリスト教	服部良久他編『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』ミネルヴァ書房、2006年。	
第6回	ルネサンスと宗教改革	小泉徹『宗教改革とその時代』山川出版社、1996年。	
第7回	大航海時代と世界の一体化	J・M・ロバーツ『近代ヨーロッパ文明の成立』創元社、2003年。	
第8回	革命と近代社会	長谷川まゆ帆『女と男と子どもの近代』山川出版社、2007年。	
第9回	欧米における近代国民国家の成立	アンソニー・D・スミス『ナショナリズムとは何か』筑摩書房、2018年。	
第10回	期末レポートについての説明	都筑学『大学1年生のための伝わるレポートの書き方』有斐閣、2016年。	
第11回	帝国主義とアジア諸国の動向	木谷勤『帝国主義と世界の一体化』山川出版社、1997年。	
第12回	第一次世界大戦	木村靖二『第一次世界大戦』筑摩書房、2014年。	
第13回	第二次世界大戦	山本秀行『ナチズムの時代』山川出版社、1998年。	
第14回	冷戦の時代	松戸清裕『歴史のなかのソ連』山川出版社、2005年。	
第15回	講義のまとめ	配布レジュメ内容(全講義のふりかえり)の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% 期末レポート(2000字程度)		
小テスト等	20% 授業の中で小テストの返却、解説を行う。		
成果発表	なし		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>高校で世界史を選択していなかった人の受講も歓迎します。その場合、事前に世界史の概説書や参考図書を通読するようにしてください。特段の理由がない限り、欠席・遅刻・途中退室は控えてください。授業中の私語などの迷惑行為も禁止です。</p> <p>「筑女ネット」上で、授業連絡や使用したレジュメのアップロードを行うので、適宜確認してください。</p>		
教科書	なし（レジュメを配布）		
指定図書	なし		
参考図書	<p>木村靖二，岸本美緒，小松久男編『詳説世界史研究』山川出版社、2017年。</p> <p>谷澤伸，甚目孝三，柴田博，高橋和久『流れ図 世界史図録ヒストリカ』（新訂版）山川出版社、2017年。</p>		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	世界史Ⅱ【講義】	開講時期	後期
担当教員	大久保 里香	単位	2
授業の目的と概要	授業では、近現代の世界史について、主にナチ体制下のドイツを中心として学び、知識を深めます。1933年に政権を獲得して以来、ナチ・ドイツは全世界に多大な影響を及ぼしました。第二次大戦中に日独伊三国同盟を締結した日本も、ドイツと深い関わりを持ちました。ナチズムに内在する暴力の問題や戦後ドイツの「ナチズムの過去」への取り組みについて、日本などの他国と比較しながら学び、多面的に考察できるようにします。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近現代史における重要な事象について、その経緯や意義を説明できる。</li> <li>2. 現代社会の諸問題について、歴史的な文脈と関連づけて考察できる。</li> <li>3. 自らの関心のあるテーマについて、多角的に論じられる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション： 授業概要と目的、授業の構成と進め方、成績評価、受講上の注意等の説明	配布レジュメ内容（授業目的・受講上の注意）の復習	
第2回	戦間期におけるファシズムの台頭	山口定『ファシズム』岩波書店、2006年。	
第3回	第二次世界大戦	J・M・ロバーツ『第二次世界大戦と戦後の世界』創元社、2003年。	
第4回	ナチ期ドイツの社会	山本秀行『ナチズムの時代』山川出版社、1998年。	
第5回	ナチズムとホロコースト(1)―絶滅収容所に至るまで	芝健介『ホロコースト』中央公論社、2008年。	
第6回	ナチズムとホロコースト(2)―「最終的解決」	ヴァンゼー会議記念館編著『資料を見て考えるホロコーストの歴史』春風社。	
第7回	ナチ体制下の断種・「安楽死」政策(1)―概要	米本昌平他『優生学と人間社会』講談社、2000年。	
第8回	ナチ体制下の断種・「安楽死」政策(2)―断種政策	M・バーリー他『人種主義国家ドイツ1933-45』刀水書房、2001年。	
第9回	ナチ体制下の断種・「安楽死」政策(3)―「安楽死」作戦	エルンスト・クレー『第三帝国と安楽死』批評社、1999年。	
第10回	ナチ体制下の抵抗運動	C・ベトリ著、関楠生訳『白バラ抵抗運動の記録』未来社、1971年。	
第11回	期末レポートについての説明	都筑学『大学1年生のための伝わるレポートの書き方』有斐閣、2016年。	
第12回	ナチ・ドイツと日本	河島真『戦争とファシズムの時代へ』吉川弘文館、2017年。	
第13回	戦後ドイツの「過去の克服」(1)―補償政策	石田勇治『過去の克服―ヒトラー後のドイツ』白水社、2014年。	
第14回	戦後ドイツの「過去の克服」(2)―ホロコーストの記憶	川喜田敦子『ドイツの歴史教育』白水社、2005年。	
第15回	講義のまとめ	配布レジュメ内容（全講義のふりかえり）の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% 期末レポート(2000字程度)		
小テスト等	20% 授業の中で小テストの返却、解説を行う。		
成果発表	0%		
受講態度他	20% 毎回のコメントシート（質問・感想）や受講態度で評価する。コメントシートは、次回授業でフィードバックする。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	高校で世界史を選択していなかった人の受講も歓迎します。その場合、事前に世界史の概説書や参考図書を通読するようにしてください。特段の理由がない限り、欠席・遅刻・途中退室は控えてください。授業中の私語などの迷惑行為も禁止です。「筑女ネット」上で、授業連絡や使用したレジュメのアップロードを行うので、適宜確認してください。		
教科書	なし（レジュメを配布）		
指定図書	なし		
参考図書	木村靖二編『ドイツ史』山川出版社、2001年。 田野大輔、柳原伸洋編著『教養のドイツ現代史』ミネルヴァ書房、2016年。		
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス	

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	野中 亮		単位	4
授業の目的と概要	<p>地域生活を、特に文化の観点から研究することを主な目的とします。おおまかな流れとしては、(1)地域生活と文化に関する理解を深めて、(2)個々の問題意識を明確にし、(3)実際に調査研究をおこなって、(4)簡単な報告書にまとめる、というものです。これらの研究を通じて、4年次の卒業研究に備えます。フィールドワークなどで正規の時間外（週末や夏休み）にも研究活動を行います。また、研究テーマによっては、シラバスの予定変更や交通費などの負担が発生することもあります。研究対象とする地域や文化現象は、日常的な調査が可能な福岡県内～九州北部地方を対象とする予定です。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活と文化に関する専門的な知識をもとに、研究課題を設定できるようになる</li> <li>・設定した課題を研究するための、研究・調査の方法を身につける</li> <li>・地域研究に関する研究成果の要点を整理できるようになる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 社会調査士関連科目と合わせて受講することで、より深い理解が得られます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション			配布資料を読んでおくこと	
第2回 地域研究の研究領域を知る			資料を読んでコメントをつける	
第3回 地域研究の理論を知る1			資料を読んでコメントをつける	
第4回 地域研究の理論を知る2			資料を読んでコメントをつける	
第5回 地域研究の方法を知る1			資料を読んでコメントをつける	
第6回 地域研究の方法を知る2			資料を読んでコメントをつける	
第7回 資料の種類と使い方			これまでの資料を分類し、使い方を確認する	
第8回 地域研究の具体例1			分担で論文を読み、報告	
第9回 地域研究の具体例2			分担で論文を読み、報告	
第10回 地域研究の具体例3			分担で論文を読み、報告	
第11回 平戸魅力発見プロジェクト(1)			長崎県平戸に関する基本資料の確認	
第12回 平戸魅力発見プロジェクト(2)			長崎県及び平戸市の観光課の資料を中心に要点をまとめておくこと。	
第13回 平戸魅力発見プロジェクト(3)			zoomミーティング用の意見をまとめておくこと。	
第14回 ゼミ×企業 zoomコラボ			事前に資料映像を確認後、アンケートに回答しておくこと。	
第15回 これまでのふりかえり			後期に向けた資料の収集と読み込み	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 文献の概要報告やテーマ案の提案など、各回の報告を成果発表とみなします。			
受講態度他	50% 成果発表以外のゼミ運営への貢献を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は必須です。自分の担当については責任をもって取り組んでください。</li> <li>・全体を通じ、共同作業が多くなります。作業分担や報告の順番など、受講者同士でマメに連絡・相談・融通しあい、有意義な学びの場にしましょう。</li> <li>・今年度については遠隔授業のため予定の変更が発生する可能性が高いので、筑女ネットやTeamsでの連絡に注意してください。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	谷富夫・芦田徹郎『よくわかる 質的社会調査』ミネルヴァ書房 佐藤郁哉『フィールドワーク：書を持って街へ出よう（増訂版）』新曜社			
オフィスアワー	水曜2限	メールアドレス		



授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	藤原 隆信		単位	4
授業の目的と概要	<p>&lt;ゼミテーマ：ソーシャルビジネスを研究・実践するゼミ&gt;          本ゼミナールでは、私たちの身の回りには多様な「社会問題」を、ビジネス（お金儲け）をしながら解決していく方法と理論を学んでいきます。同時に、地域社会や世界にも目を向け、具体的な実践活動（ビジネスの実践）に取り組んで行く予定です。ゼミⅠでは、「ソーシャルビジネス」や「社会貢献と仕事の関係」等に関する基礎的な理論を学ぶとともに、実践活動に向けたニーズ調査・準備を行います。このような「理論研究」と「実践活動」を通じて、経営学を総合的に学ぶとともに、「社会に貢献しながら働くこと」の意義を考えていきます。</p>			
到達目標	<p>①「ソーシャルビジネス」に関する基礎理論を理解し、説明できる。②「ソーシャルビジネス」の実践に必要な知識を身につけ、それを自分の言葉で説明できる。③上記①～②を前提に、「ソーシャルビジネス」の具体的な構想を描き、他人にプレゼンすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」          &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	はじめに ——なぜ今、ソーシャルビジネス(SB)なのか?	教科書の序章(pp.24-29)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第2回	文献研究と実践活動の検討 ——SBを始める前に考えておくべきこと	教科書の第1章(pp.32-41)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第3回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり(1): 成立要件	教科書の第2章(pp.44-56)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第4回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり(2): マネタイズモデル	教科書の第2章(pp.56-73)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第5回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり(3): 事業計画	教科書の第2章(pp.73-82)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第6回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり(4): 財務計画・価格設定	教科書の第2章(pp.82-95)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第7回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの準備(1): 始動テスト	教科書の第3章(pp.98-110)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第8回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの準備(2): 経営資源(ヒト・カネ)	教科書の第3章(pp.110-127)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第9回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの準備(3): 経営資源(モノ・情報)	教科書の第3章(pp.128-138)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第10回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの開始(1): サービスイン	教科書の第4章(pp.140-160)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第11回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの開始(2): 供給ライン(その①)	教科書の第4章(pp.160-176)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第12回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの開始(3): 供給ライン(その②)	教科書の第4章(pp.176-192)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第13回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの展開・発展(1): スケールアップ	教科書の第5章(pp.194-207)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第14回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの展開・発展(2): スケールアウト	教科書の第5章(pp.207-222)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第15回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの展開・発展(3): 制度化	教科書の第6章(pp.224-241)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60% 授業の進行に合わせて適宜、発表をしてもらいます。その内容で判断します。			
受講態度他	40% 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本ゼミナールでは、授業の中でチーム討議やチーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。(※外部講師による講演&ディスカッションが入る可能性があります。シラバスを変更して対応しますのでご了承下さい)			
教科書	駒崎弘樹『社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門』PHP新書、2015年。			
指定図書	授業の中で適宜紹介する。			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み(12:20~13:10) ※事前に予約を取って下さい。	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	川尻 洋平		単位	4
授業の目的と概要	<p>宗教文化を通して現代社会の諸相について考察するために、宗教文化を研究する方法論を身につけることを目的とする。それによって、現代社会の諸相に宗教文化がどのように関係しているのかを理解する。</p> <p>まず、宗教文化や宗教に関する基本的文献や論文を読む。受講者は、指定された学術論文を要約し、その内容についてディスカッションを行うことによって理解を深める。フィールドワークとして、宗教文化がどのように現代社会に組み込まれているのかを観察する。そして研究発表を通じて、論理的思考力や情報リテラシーを養い、質疑応答を通じてコミュニケーション能力を高める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学術論文の内容を正確に読解し、まとめることができる。</li> <li>2. 自分が興味を持つことについて、資料を蒐集し、分析することができる。</li> <li>3. 他者に伝えるように、研究成果をまとめて、発表することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 インTRODクシヨン			課題①宗教学に関する文献を読み、内容をまとめる。	
第2回 宗教学とは何か			課題①宗教学に関する文献を読み、内容をまとめる。	
第3回 フィールドワーク：現代社会と宗教文化			課題②日本の宗教文化に関する文献を読み、内容をまとめる。	
第4回 学術論文とは何か			課題②日本の宗教文化に関する文献を読み、内容をまとめる。	
第5回 文献読解①：日本の宗教文化について			課題③海外の宗教文化に関する文献を読み、内容をまとめる。	
第6回 文献読解②：海外の宗教文化について			課題③海外の宗教文化に関する文献を読み、内容をまとめる。	
第7回 文献読解③：現代社会と宗教について			課題④現代社会と宗教に関する文献を読み、内容をまとめる。	
第8回 文献読解④：宗教哲学について			課題⑤宗教哲学に関する文献を読み、内容をまとめる。	
第9回 テーマの設定			研究テーマを考えておく	
第10回 資料収集①：図書			文献リスト（図書）を作成する。	
第11回 資料収集②：学術論文			文献リスト（学術論文）を作成する。	
第12回 資料分析			発表準備（資料収集・資料分析・原稿作成）	
第13回 研究発表①：グループA			発表準備および原稿の修正	
第14回 研究発表②：グループB			発表準備および原稿の修正	
第15回 研究発表③：グループC			発表準備および原稿の修正	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％ 論文要約課題5回：指定された学術論文を800字程度に要約する。			
小テスト等	0％			
成果発表	30％ 研究発表：内容、表現、質疑応答、修正後の再提出			
受講態度他	20％ 受講態度：発表への取り組み、他の学生の発表に対する質問など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、リアルタイム型（主）とオンデマンド型を併用して行います。</li> <li>・リアルタイム型の授業に関して参加は必須です。自分の担当や発表については責任をもって行うこと。</li> <li>・オンデマンド型授業について、期日内に「理解度チェック」で回答していない場合、欠席扱いになります。</li> <li>・「理解度チェック」に含まれる質問や感想については、次回講義時にフィードバックします。</li> <li>・研究発表時には、必ず質問をすること。</li> </ul>			
教科書	適宜プリントを配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示する。			
オフィスワー	火曜日 15:00-17:00（オンライン上で対応します）	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	花野 裕康		単位	4
授業の目的と概要	<p>この演習では、「音楽の社会学」ゼミのスタート地点として、以下の手順で進めていきます。まず</p> <p>①「ゼミ生カルテ」に自身の関心や研究テーマについての希望を記載した上で、ゼミ生の前で「自己紹介」と関心があることに関する「軽いプレゼンテーション」を行います。</p> <p>②次にゼミメンバー全員を知った上で、関心が近い者同士でゼミ内グループを作ります。</p> <p>③その上で、グループ内の発表と意見交換を重ね、自身の研究テーマを深めていきます。</p> <p>④さらに③の合間にはゼミ生全員の前でプレゼンテーションを行い、ゼミ生および私からの意見やアドバイスを受ける事で課題を見つけ、さらに研究テーマを進めてゆきます。</p> <p>ゼミ生主体のゼミ生が作っていくのが「音楽の社会学」ゼミの大きな特徴なので、主体的に演習に臨んでください。</p>			
到達目標	<p>①自身の音楽上、または「音」上の関心について適切に述べるができる</p> <p>②自らの関心に最も近いゼミ内グループを吟味し、期間を通じてそこに所属し活動することができる</p> <p>③ゼミ内グループでのディスカッションに積極的に参加し自他の意見を述べ、また参考にすることができる</p> <p>④自身の研究テーマについて、ゼミ生の前で説得力あるプレゼンテーションを行うことができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。具体的には、自身のテーマのブラッシュアップ及び他ゼミメンバーのテーマに対する批評の文章化を行う事。</p> <p>本ゼミナールは2年次に履修した「基礎専門ゼミナール」の発展版として、この基礎の上に立つ性格を持つ。その他、「メディアと文化」「現代社会学概論Ⅰ,Ⅱ」「消費社会学」さらにメディア社会コースの科目となるが「ポピュラー文化論」や「サブカルチャー論」等も関連がある科目となる。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ゼミ生カルテへの記入と自己紹介	次回行う「研究テーマプレゼンテーション」の準備		
第2回	研究テーマプレゼンテーションとグループ分け	ゼミ生から出たアドバイスを受けてプレゼンテーションを修正		
第3回	グループワーク①：研究テーマの相互紹介	グループ内で出たアドバイスを受けて研究テーマを修正		
第4回	グループワーク②：研究テーマの相互意見交流	グループ内で出たアドバイスを受けて研究テーマを修正		
第5回	全体プレゼンテーション①：ゼミ生前半メンバー	ゼミ生から出たアドバイスを受けて研究テーマを修正		
第6回	全体プレゼンテーション②：ゼミ生後半メンバー	ゼミ生から出たアドバイスを受けて研究テーマを修正		
第7回	グループワーク③：研究テーマの改善案相互相談	グループ内で出たアドバイスを受けて研究テーマを修正		
第8回	グループワーク④：研究テーマの改善案提示	グループ内で出たアドバイスを受けて研究テーマを修正		
第9回	全体プレゼンテーション③：ゼミ生前半メンバー	ゼミ生から出たアドバイスを受けて研究テーマを修正		
第10回	全体プレゼンテーション④：ゼミ生後半メンバー	ゼミ生から出たアドバイスを受けて研究テーマを修正		
第11回	シャッフルグループワーク①：研究テーマの前期最終案相互相談	別の視点から得たアドバイスを受けてさらに研究テーマを進める		
第12回	シャッフルグループワーク②：研究テーマの前期最終案提示	別の視点から得たアドバイスを受けてさらに研究テーマを進める		
第13回	研究テーマ暫定発表	ゼミ生から出たアドバイスを受けてテーマを仮確定する		
第14回	4年生の研究テーマから学ぶ①：学んだ事柄の整理	研究方法やプレゼンのやり方等、得たものを整理しまとめる		
第15回	4年生の研究テーマから学ぶ②：学んだ事柄の自身のテーマへの取り込み	研究方法やプレゼンのやり方等、得たものを整理しまとめる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	70% (全体プレゼンテーションでの発表内容)			
受講態度他	30% (グループワーク時の参加度)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに参加すること。グループワークでは積極的に発言すること。ゼミ活動に関係ないことを行なっている場合はその回もしくは次回の成果発表を認めない。ゼミであっても「不可」や「無資格」になる可能性があるのは他の講義と変わらないが、これは講義でなく「演習」である以上、講義以上に積極的かつ主体的に参加すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	赤枝 香奈子		単位	4
授業の目的と概要	人々の性別や性にかかわる「ジェンダー」や「セクシュアリティ」という概念を手掛かりにしながら、さまざまな差異をもつ多様な人々が暮らしやすい社会（包摂的な社会）のあり方について考えます。まずゼミの進め方について理解したのち、ジェンダーやセクシュアリティ、社会的包摂にかんする基本的文献を全員で読みます。受講者は毎回交代で、レジュメを作って報告し、全員でディスカッションを行います。後半は、4年生の卒業研究に関連する文献を読み、調査内容にかんする知識や理解を深めながら、自分が研究したいテーマについて考えます。途中、社会的包摂にかんする活動をしている団体の見学も予定しています。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジェンダーやセクシュアリティ、社会的包摂／社会的排除に関連する文献を読み、その内容をレジュメにまとめ、報告することができる。</li> <li>2. ジェンダーやセクシュアリティが、現代社会の諸問題とどのように関連しているか理解できる。</li> <li>3. 社会的包摂／社会的排除といった概念を理解し、それらをめぐる問題が現代社会にどのような形で表れているか理解できる。</li> <li>4. 自分が研究したいテーマについて、説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション	前期のスケジュールについて計画を立てる。		
第2回	文献読解①ジェンダー／セクシュアリティと社会的包摂をめぐらる問題について	配布資料を読み、内容をまとめる。		
第3回	文献読解②ジェンダー	文献を読み、内容をまとめる。		
第4回	文献読解③セクシュアリティ	文献を読み、内容をまとめる。		
第5回	文献読解④社会的排除	文献を読み、内容をまとめる。		
第6回	文献読解⑤社会的包摂	文献を読み、内容をまとめる。		
第7回	卒業研究報告①ジェンダー	4年生の卒業研究に関連する文献を読み、内容をまとめる。		
第8回	卒業研究報告②セクシュアリティ	4年生の卒業研究に関連する文献を読み、内容をまとめる。		
第9回	卒業研究報告③社会的包摂／社会的排除	4年生の卒業研究に関連する文献を読み、内容をまとめる。		
第10回	活動団体訪問（学外授業）	配布資料を読み、疑問点を整理してくる。		
第11回	研究テーマ理解①ジェンダー	卒業研究の内容を理解し、要点や疑問点をまとめる。		
第12回	研究テーマ理解②セクシュアリティ	卒業研究の内容を理解し、要点や疑問点をまとめる。		
第13回	研究テーマ理解③社会的包摂／社会的排除	卒業研究の内容を理解し、要点や疑問点をまとめる。		
第14回	問題関心の整理	自分自身が研究したいテーマについて考えてくる。		
第15回	まとめ	夏休み中の研究計画を立てる。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	0％			
成果発表	45％			
受講態度他	5％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	前期は文献を読む作業が中心になります。授業では読んできた文献をもとに議論するので、事前に必ず文献を読み、要点や疑問点をまとめた上で授業に臨んでください。			
教科書	使用しない。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業内で指示する。			
オフィスアワー	火曜3限	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	一木 順		単 位	4
授業の目的と概要	ポピュラー文化を通して現代社会の諸相について考えるということを主な目的とする。それによって、さまざまな政治的、経済的、社会的関係の中にとりこまれた自分自身が、社会とどのような関係を結んでいるのかを理解する。 また成果発表のための作業を通して、自ら問いを立てること、自らの思索を深めること、そのために他者との共同作業を行うこと、を実践する。			
到達目標	a) 自分が普段親しんでいるポピュラーメディア（映画、マンガ、音楽、テレビなど）の中から自分で問題を発見することができる。 b) その問題について、先行研究、参考文献の検索、フィールドワーク、インタビュー、アンケートの実施などの調査を行うことができる。 c) 調査結果を文章にまとめて、その問題について自分の言葉で語るすることができる。 d) 問題提起・研究経過・分析解釈を短時間で要約し、口頭発表し、質疑応答に答えて対話することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 授業の概要の説明		なし		
第2回 研究トピックの発表および質疑応答		それぞれの研究題材について、一人約10分の発表準備		
第3回 映画を「読む」行為について		America on Film (配布資料) を読んでくること		
第4回 映画を「読む」行為について		America on Film (配布資料) を読んでくること		
第5回 「読み」の多様性①		『シンゴジラ (予定)』鑑賞レポート		
第6回 「読み」の多様性②		合同講義への感想レポート		
第7回 問いを立てる①		自分のトピックについて、問いと仮説的答えを考えてくる		
第8回 問いを立てる②		担当者が指定した課題を行うこと		
第9回 材料を集める①		文献リスト1 (図書編) 作成		
第10回 材料を集める②		文献リスト1 (雑誌記事、論文編) 作成		
第11回 材料をまとめる①		キーワードリストを完成させること		
第12回 材料をまとめる②		強制連結リストの作成		
第13回 研究計画表の作成		個人研究計画表の作成		
第14回 グループ活動		強制連結リストの手直し		
第15回 まとめ		なし		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80% 授業内の小レポート60%、自分の発表についてのテーマ、アウトライン、文献一覧20%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 授業内での取り組みを勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である。授業に際しては、自分の担当部分、発表に関して責任を持って行うこと。やむを得ず自分の発表回に欠席せざるを得ないときは、自分の責任で他の人と発表を代ってもらうこと。			
教科書	適宜プリントを配布する			
指定図書	『America on Film』、 『映画分析入門』 (ライアン)			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスアワー	木曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	一ノ瀬 元史		単位	4
授業の目的と概要	ネットワーク社会においては、ICTが暮らしを支え、コミュニケーションのあり方を変化させ、またビジネスのあり方も変化させています。そこには、たくさんの情報システムの働きがあります。それを支えているのはいうまでもなくコンピュータです。ここではコンピュータの働きを知るために、デスクトップパソコンを組み立ててみて、構造を学びます。またネットワークについても基本的な知識を学び情報社会の仕組みについて概観できるようになることです。			
到達目標	a) コンピュータの仕組みが理解できる。 b) ネットワークの基本的な仕組みが理解できる c) 情報システムの仕組みを概観できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション Rubyインストール1	プログラミングについて調べる		
第2回	Rubyプログラミング1章と実行	Rubyについて調べる		
第3回	Rubyプログラミング2章と実行	周辺装置について調べる		
第4回	Rubyプログラミング3章と実行	記憶装置や補助記憶装置について調べる		
第5回	Rubyプログラミング4章と実行	情報システムのインフラについて調べる		
第6回	Rubyプログラミング5章と実行	見学研修レポート作成		
第7回	Rubyプログラミング6章と実行	ソフトウェア OSについて調べる		
第8回	Rubyプログラミング7章と実行	アプリケーションソフトウェアについて調べる		
第9回	Rubyプログラミング8章と実行	プログラミングの練習		
第10回	Rubyプログラミング9章と実行	プログラミングの練習		
第11回	Rubyプログラミング10章,11章と実行	プログラミング練習		
第12回	Rubyプログラミング12章と実行	プログラミング練習		
第13回	PC組立て	パソコンの構造について		
第14回	ソフトウェア (OS、アプリケーションソフトウェア、Office2016)のインストール	ソフトのインストール		
第15回	ふり返りまとめ 動画鑑賞	卒論テーマまたは作品について検討		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% ふり返りレポート30%			
小テスト等	なし			
成果発表	20%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑紫女学園大学の電子メールアドレス宛に送信された電子メールを少なくとも毎日1回は閲覧すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	水、金 15:00-17:30	メール等で事前に連絡をお願いします。	メールアドレス	

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	須藤 遙子		単 位	4
授業の目的と概要	<p>メディア社会を文化経済・文化政治・文化政策の観点から研究する。  前半は、就活を念頭に置いた「読解力・文章力・発想力」を鍛える演習を中心とする。  後半は、各自の卒業研究に向けてのテーマ設定・資料収集・論文指導を行う。  適宜グループディスカッションを取り入れ、自分の意見を発表すると同時に、他人の意見をよく聞き尊重する姿勢を学ぶ。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアの分析、またメディア企業への就職に必要な「読解力・文章力・発想力」を身につける。</li> <li>・プレゼンテーション能力を身につける。</li> <li>・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。文章読解：絵本（1）。	絵本『ちいさなうさこちゃん』シリーズを読む。卒論目次作成。		
第2回	文章読解：絵本（2）。卒論課題発表・討議。	絵本『ぐりとぐら』『ちびくろさんぼ』を読む。卒論調査。		
第3回	文章読解：絵本（3）。	児童文学『王さまびつくり』を読む。卒論準備。		
第4回	文章読解：児童文学（1）。卒論中間発表・討議。	児童文学『いやいやえん』を読む。卒論準備。		
第5回	文章読解：児童文学（2）。卒論中間発表・討議。	児童文学『ちいさいモモちゃん』を読む。卒論準備。		
第6回	文章読解：児童文学（3）。卒論中間発表・討議。	児童文学『モモちゃんとプー』を読む。卒論準備。就活対策。		
第7回	文章読解：児童文学（4）。卒論中間発表・討議。	児童文学『モモちゃんとあかねちゃん』を読む。卒論準備。就活対策。		
第8回	文章読解：児童文学（5）。卒論中間発表・討議。	児童文学『だれも知らない小さな国』を読む。卒論準備。		
第9回	文章読解：児童文学（4）。卒論中間発表・討議。	児童文学『豆つぶほど小さいぬ』を読む。卒業論文執筆。		
第10回	文章読解：長編児童文学（1）。卒論中間発表・討議。	児童文学『ふたりのイダ』を読む。卒業論文執筆。		
第11回	文章読解：長編児童文学（2）。卒論中間発表・討議。	『小川未明童話集』を読む。卒業論文執筆。		
第12回	文章読解：長編児童文学（3）。卒論中間発表・討議。	児童文学『冒険者たち』を読む。卒業論文執筆。		
第13回	文章読解：長編児童文学（4）。卒論中間発表・討議。	児童文学『冒険者たち』（続き）を読む。卒業論文執筆。		
第14回	文章読解：長編児童文学（5）。卒論中間発表・討議。	児童文学『モモ』を読む。卒業論文執筆。		
第15回	文章読解まとめ。卒論中間発表まとめ。	児童文学『モモ』（続き）を読む。卒業論文執筆。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30％			
小テスト等	％			
成果発表	40％（毎回の課題とりくみ）			
受講態度他	30％（フォーラムへの投稿も含める）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>この授業は遠隔で行います。  出席は、各回の「理解度チェック」への回答で確認します。  質問は全員が共有できるように、筑女ネット「質問箱」にお願いします。  3年生に引き続き、本（小説）をたくさん読むことが求められます。  また就活の進展に伴い、随時エントリーシートや小論文対策を行います。</p>			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	火曜10-12時	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	吉野 嘉高		単 位	4
授業の目的と概要	<p>メディアの学びを映像取材で深める中、就活や実社会においても必要な「課題発見・解決力」と「対話力」を伸ばすための演習である。メディアに関するテーマ（例、SNSで拡散されるフェイクニュースへの対応とは？、市民メディアはなぜ根付かないのか？等々）を設定し、書籍、メディア資料、新聞などでリサーチしてレポートを作成することに加えて、テーマに関連がある人物に映像取材を行うことで考察を深める。</p> <p>未来社会でも課題は山積と思われるので、課題を丁寧に観察して最適解を探す「課題発見・解決力」が、この先も社会人の基礎能力であることは変わらない。「対話力」もまたしかり。実社会において、仕事上、苦手な人とのコミュニケーションを避けることができない。そこで必要なのは「対話力」というスキルである。「対話力」は、企業において、営業でも、販売でも、企画でも活かせる。コロナ禍により前期は遠隔授業となる。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の関心事に引き寄せてメディアに関するテーマを設定することができる。</li> <li>設定したテーマに合わせて各種資料を使ってリサーチをすることができる。</li> <li>「対話力」とは何かをまとめて説明することができる。</li> <li>対話のためのスキルを実践することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		課題 ア) 映像制作とイ) メディア研究のテーマ案と計画案を作成	
第2回	ア) 映像制作のテーマ案と計画案の発表とオンラインディスカッション		テーマ案と計画案の修正	
第3回	就活や実社会で求められる対話力とは		指定図書の熟読し、対話の観点から論点整理	
第4回	イ) メディア研究のテーマ案と計画案の発表とオンラインディスカッション		テーマ案と計画案の個別指導	
第5回	「暗ラーニング」ゲスト講師によるオンラインコミュニケーション研修(不確定)		研修についてまとめる。	
第6回	指定図書『伝えることから始めよう』についての発表とディスカッション① 学籍番号前半		テーマ案と計画案の個別指導	
第7回	指定図書『伝えることから始めよう』についての発表とディスカッション② 学籍番号後半		ディスカッションについてまとめる	
第8回	「聞く力」「質問力」とは		配布資料の熟読	
第9回	「聞く力」「質問力」スキルアップワーク		「聞く力」「質問力」についてまとめる。	
第10回	映像取材進捗状況の中間発表		映像制作計画の練り直し	
第11回	メディア研究進捗状況の中間発表		メディア研究計画の練り直し	
第12回	コロナ禍によってメディア業界はどう変わるのか		配布資料の熟読	
第13回	レポート第1稿(1000字以上)の発表とオンラインピアレビュー① 4年生と3年生学籍番号前半		指摘された部分の修正	
第14回	レポート第1稿(1000字以上)の発表とオンラインピアレビュー② 3年生学籍番号後半		指摘された部分の修正	
第15回	まとめ 後期について		後期のための準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%(レポート第1稿の評価)			
小テスト等	なし			
成果発表	30%(課題の評価)			
受講態度他	40%(オンライン上での積極性を評価)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1人か2人でペアになってひとつのテーマを設定するが、発表は全て個人で行う。レポート作成の進捗状況は、一人ひとり異なることが予想されるため、授業外での「個別指導」も重視する。オンラインディスカッションやピアレビューを必要に応じて行う。</p> <p>授業外のメディア活動は希望者に指導する。(参加者には加点評価)</p>			
教科書	なし			
指定図書	高田明『伝えることから始めよう』東洋経済			
参考図書	松本幸夫『人を動かす聞く力&質問力』三笠書房			
オフィスアワー	火曜日昼休み(12:20~13:10) 水曜日昼休み(12:20~13:10)	メールアドレス		



授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	荒巻 龍也		単位	4
授業の目的と概要	ゼミ形式で「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ」と継続して学びます。映像を楽しむことを第一として、これまでに学んだ知識やスキルを基礎として進めていきます。①CM、ドラマ、PR動画、映像表現や映像関連産業（広告含む）などに関して学び、研究もしていきます。②テーマを設定しながら、映像制作手順を身につけ、協力して作品を制作します。③映像関連全般の専門的な知識とスキルを身につけると同時に、専門研究を通して研究方法や発信方法を磨いていきます。④ゼミ活動全般から自主性、協働性、課題解決力そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につけることも目標としています。			
到達目標	1) メディア（映像）リテラシー演習を通して映像メディアに関する理解を深め、研究につなげることができる。 2) 映像制作手順（企画、撮影、編集など）を身につけ、テーマを自ら定め、そのテーマを具現化するためにどうすればよいかを考えつつ実際に作品を作ることができる。 3) 映像関連全般について学び・研究して、テーマを設定してまとめることができる。 4) ゼミ活動全般ならびに「タクナル演習」から自主性、協働性、課題発見・解決力そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目：基礎専門ゼミナールⅠ・Ⅱ、専門ゼミナールⅡ、卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ、メディア・IT活用演習、メディアコンテンツ論、テレビ論 など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション：映像とは何か、映像の持つ影響力 テキスト『映像メディアの作り方』(1) 1章メディアを制作する	まとめ課題1（映像の持つ影響力）		
第2回	PROG受験+テキスト『タクナル』グループワーク演習(1) オリエンテーション ワークシート (WS) 1：ギャップの王様	PROGの教科書の自己チェック、WS1の復習		
第3回	テキスト『タクナル』グループワーク演習(2) かるく議論してみよう WS2「無人島」、WS3「LINEの告白」、「キャンペーン標語」グループでのまとめと発表	WS2の復習、WS3の復習		
第4回	テキスト『タクナル』グループワーク演習(3) 本格的に議論してみよう WS4「文化祭の動物園」、「文化祭の動物園」グループ発表	WS4の復習、グループ発表準備		
第5回	映像制作(1) 撮影実習(1) 基本的な撮影手法の実践による修得 絵コンテとロケハンについて	映像制作課題1（コンテ作成、ロケハン）		
第6回	テキスト『映像メディアの作り方』(2) 2章 メディアの種類と特徴 テキスト『映像メディアの作り方』(3) 3章 テレビ番組のジャンル	WS5「メディア接触調査」、WS6「テレビ番組のジャンル」		
第7回	メディア（映像）リテラシー(1) テレビCM 私たちとテレビコマーシャル ～CM数量分析～	映像リテラシー課題1（CM数量分析）		
第8回	メディア（映像）リテラシー(2) テレビCM2 CMで学ぶ映像言語 CM映像言語グループワーク（まとめと発表）	映像リテラシー課題2（CM映像言語分析）		
第9回	メディア（映像）リテラシー(3) テレビCM3 ターゲット・オーディエンス	映像リテラシー課題3（CMターゲット・オーディエンス分析）		
第10回	テキスト『映像メディアの作り方』(4) 6章 CM テキスト『映像メディアの作り方』(5) 10章 CM制作	WS7（カップ麺企画）、映像制作課題2（ACC学生CM企画）		
第11回	映像制作(2) CM制作実践 ～企画書・企画コンテ作成～ 企画書・企画コンテ作成グループワーク	映像制作課題3（企画書・企画コンテ）		
第12回	映像制作(3) CM制作実践 ～絵コンテ・撮影～	映像制作課題4（絵コンテ・撮影素材整理）		
第13回	映像研究(1)：映像関連企業研究(1) ～テレビ局基礎データ・組織図～	まとめ課題2（基礎データ、組織図）		
第14回	映像研究(2)：映像関連企業研究(2) ～決算書・番組制作比率～	まとめ課題3（決算書など）		
第15回	映像研究(3)：映像関連企業訪問 ～テレビ局・映像制作会社訪問～	まとめ課題4（企業等訪問報告書）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	70% まとめ課題(15%)、ワークシート(WS) (20%)、映像リテラシー課題(15%)、映像制作課題(20%) *提出された課題はその都度採点（評価）して、授業時に返却します。			
小テスト等	0% なし			
成果発表	20% グループワークまとめ(10%)、グループワーク口頭発表・プレゼンテーション(10%)			
受講態度他	10% 受講態度、活動参加状況ならびに授業中やフォーラムでの発言など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業が効果的にできるように、LMS（e-Learningシステム）である「筑女ネット」を利用します。授業連絡、進捗確認、授業テキスト・資料、課題、課題提出、フォーラム、授業関連アンケート、評定などの機能をフル活用して使っていきますので、常時アクセスして確認しておいてください。 授業ではグループで行う作業や共同して調べ、発表するようなことも多くなります。また撮影、調査、フィールドワーク、PBLなどで学外で活動することもあります。			
教科書	なし（「筑女ネット」のオンライン教材ならびにプリント）			
指定図書	なし			
参考図書	久保田賢一 編著 『映像メディアの作り方』 北大路書房 松村直樹 他 『タクナル』 リアセック *その他は、その都度授業で紹介いたします。			
オフィスアワー	火曜日2限目（10:50-12:20）	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	岡本 文子		単位	4
授業の目的と概要	<p>現代社会を生きる私たちの身に着けている衣服は、連綿と受け継がれてきた服飾史の延長線上にある。日常意識する機会の少ない衣服のしくみへの理解を深めることを通して、服飾と社会との関係に関心を持ち、服飾の社会的役割を理解することを目的としている。</p> <p>本演習では、各自が服飾史やファッション・トレンドなどからテーマを設定し調査・分析を行う。その社会背景や特徴について理解を深め、最終的にテーマに沿った1つのデザインを決定する。</p> <p>決定したデザインは後期専門ゼミナールⅡでトワール製作へ繋がる。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考えること」「立案すること」「計画すること」の重要性を認識し、日常のなかからさまざまな課題を見出すことができる。</li> <li>・現代社会と服飾史の関係について理解し、簡潔に説明できる。</li> <li>・現代社会と近現代のファッション・トレンドについて理解し、簡潔に説明できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション (今後の進め方)		研究方法の整理	
第2回	資料・文献の検索		検索資料の整理	
第3回	資料収集 (服飾史18世紀～19世紀)		当該資料の整理	
第4回	資料収集 (服飾史19世紀)		当該資料の整理	
第5回	資料収集 (服飾史20世紀)		当該資料の整理	
第6回	資料収集 (ファッション・トレンド 近代・現代)		当該資料の整理	
第7回	テーマの設定		当該資料の整理	
第8回	発表準備 (定義など)		これまでの資料整理	
第9回	発表準備 (社会的背景)		資料収集	
第10回	発表		発表資料の補完	
第11回	テーマのトワールデザインの検討		資料収集	
第12回	テーマのトワールデザインの決定		画像資料の準備	
第13回	テーマのトワール作成のための資料		画像資料整理	
第14回	テーマのトワールデザインの材料		画像資料の整理	
第15回	まとめ		まとめの復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	0%			
成果発表	50%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 12:00～13:00		メールアドレス	

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	小山 昌宏		単 位	4
授業の目的と概要	1. 卒業研究にいたるマンガ、アニメ分野、コンテンツ文化における基礎教養、テキスト読解力、課題設定力を身につける 2. マンガ、アニメ、映像、音楽関連分野から、卒業研究に向けた幾つかのテーマ候補を発見し、絞り込み具体化する 3. 具体的には、授業前の教科書による予習、レジュメ（資料）のまとめによる知識の体系化、発表、討論による理解の深化を通して、当該分野に対する立体的な理解を深める 4. 時間割は、3限は基礎読解、4限は文章力養成、専門分野の掘り下げ、アニメ、映画、舞台、ライブなどの基礎研究をおこなう。 5. 学外授業は日頃の学習成果の確認、新たな知見、着眼力を得る			
到達目標	1. マンガ、アニメ表現の原理、その発展から著作権実務、制作上の問題点、課題について説明することができる 2. 1に関連する出版、映像、音楽、ゲーム、映画、インターネットの法務について説明することができる 3. 政府の文化政策とマンガ、アニメ文化が有する問題点を発見し、それについて深く考え、その内容について報告することができる 4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、独自の「マンガ観」「アニメ観」、「コンテンツ文化観」を形成することができる 5. ゼミ運営、参加を通して、テーマに関する知識運用、対話能力、企画力、表現力を向上させることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。  関連科目：マンガ・アニメ論 サブカルチャー論 オタク文化論			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	3限：オリエンテーション ゼミナールの計画、全体日程、到達目標の確認、相談 4限：ガイダンス ゼミナール活動の初歩 相互理解ゲーム「ギャップの王様」	教科書：マンガ研究13講（水声社） 第2回授業分を予習する		
第2回	3限：マンガ研究① 第2章：【表現論】 マンガ表現論の「歴史」とその展望 4限：プレゼン、文章構成の基礎	教科書：アニメ研究入門応用編（現代書館） 第3回授業分を予習		
第3回	3限：アニメ研究① 第2章：【映像演出論】 制作における演出の技術と方法 4限：舞台装置（照明）の基礎	教科書：マンガ研究13講（水声社） 第4回授業分を予習する		
第4回	3限：マンガ研究② 第7章：【映像・芸術論】 マンガにみる複数の瞬間 4限：舞台演出の基礎	教科書：マンガ研究13講（水声社） 第5回授業分を予習する		
第5回	3限：マンガ研究③ 第8章：【記号論・物語論】 マンガにおける物語論の可能性 4限：舞踊（ダンス）演出の基礎	教科書：アニメ研究入門 応用編（現代書館） 第6回授業分を予習する		
第6回	3限：アニメ研究② 第9章：【物語論】 アニメの物語構造 4限：3年生発表会	第2～6回授業の復習を配布資料に基づきおこなう		
第7回	3限：著作権① 出版の基礎／文化政策 4限：3年生発表会	第7回授業の復習を配布資料に基づきおこなう		
第8回	3限：歌詞・会話分析の基礎 4限：3年生発表会／4年生卒研中間発表会	事前調査：学外授業に対応して事前に下調べをおこなっておく		
第9回	3～4限：学外授業 美術館・博物館・スタジオ見学	学外授業の成果、まとめをおこなう		
第10回	3限：著作権② 出版・マンガ 4限：4年生卒研中間発表会への参加	第10回授業の復習を配布資料に基づきおこなう		
第11回	3限：著作権③ 映像・映画・アニメ 4限：4年生卒研中間発表会への参加	第11回授業の復習を配布資料に基づきおこなう		
第12回	3限：著作権④ 映画・音楽・ライブイベント（舞台） 4限：色彩・図案分析の基礎	第12回授業の復習を配布資料に基づきおこなう		
第13回	3限：著作権⑤ 映像・ゲーム・インターネット 4限：音楽分析の基礎	第13回授業の復習を配布資料に基づきおこなう		
第14回	3限：アニメ研究③ 第4章：【声優論】 アニメ演出論 4限：映像・物語論テスト	第14回授業の予習をテキストに基づきおこなう		
第15回	3限：アニメ研究④ 第10章：【マルチモーダル情報論】 「まど☆マギ」を題材にして 4限：前期のまとめ	3年生：小テストにそなえる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10％（各回のレジュメ内容の評価）			
小テスト等	70％（テキストの理解確認）			
成果発表	10％（各回の報告、プレゼンを含む）			
受講態度他	10％（議論、討論への積極性を評価）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 3限：教科書は小山が解説し、担当がリードし、討論をおこなう 4限：オリエンテーションにて計画詳細をさらに練る 2. マンガ、アニメメディア、著作権実務の基礎を身につけるためにテキストの精読をおこなう 3. 3限は基本的に小山が解説し、担当がリードし、議論をすすめる 4. 報告形式は、レジュメ（文章式）、パワーポイント（図解式）のどちらでもよい 5. 討論に参加するために必ず、事前に配布資料を読み込んでおく			
教科書	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編『マンガ研究13講』（水声社） 小山昌宏・須川亜紀子編『アニメ研究入門 応用編』（現代書館）			
指定図書	米村みゆき・須川亜紀子編『アニメ文化 55のキーワード』（ミネルヴァ書房）			
参考図書	竹内オサム・西原麻里編『マンガ文化 55のキーワード』（ミネルヴァ書房）			
オフィスワーカー	水曜日の昼休み、またはメールにて相談	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	橋本 嘉代		単位	4
授業の目的と概要	「メディア分析・発信」をテーマに研究と実践活動を行う。 学生が関心のある社会現象や社会問題などをリサーチし、企画を持ち寄ってディスカッションを行う。 決定したゼミ共通の年間テーマでフィールドワークや取材活動を行い、学びの成果をメディアコンテンツとして発信する手順を学ぶ。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに関するメディアの報道や情報発信の状況を探索して分析し、媒体による特性や編集方針、表現方法の違いを理解する情報リテラシーを身につける。</li> <li>・どのようなテーマ設定で研究を進めるべきか、世の中で必要とされているものは何か、といった「問い」を立て能動的に学ぶ姿勢を身につける。</li> <li>・新聞や雑誌のフォーマットに沿って、タイトル・本文・リード・キャプションなどを書き分けることができる。</li> <li>・メディアコンテンツの企画を考え、ラフコンテや企画書の形にして提示するプレゼンテーション力を身につける。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	年間計画、授業の進め方、過年度の制作物と制作プロセスの確認、企画提案書の書き方	企画提案書の作成、リサーチ。教科書を手し目を通す。		
第2回	編集会議（企画提案書★をもとにしたプレゼンテーション→ディスカッション） ★課題1	過年度の卒業制作や参考にした雑誌等を参照し、企画提案書を書く。		
第3回	テーマの深め方（図書館の契約データベース）、教科書の内容報告★① ★課題2	関心事について調べ、知識を深め、2回目プレゼンに反映。レジュメ作成		
第4回	編集会議 2回目プレゼン<修正案★>→議論→全体テーマを決定、教科書の内容報告② ★課題3	雑誌の事例や議論を参考に修正点を考え企画提案書を練り直す。レジュメ作成		
第5回	リサーチとラフコンテ★（取材先候補の探し方、コンテの描き方） 教科書の内容報告③ ★課題4	リサーチを行い、ラフコンテを描く。レジュメ作成		
第6回	ラフコンテ発表会 → 改善点探し ★課題5	文字数や写真の撮り方、点数などを考え、詳細なラフコンテを描く		
第7回	写真の撮り方、画像管理、レイアウトの仕方	参考にしたい写真の例を集める。写真撮影や画像管理の練習をする		
第8回	ヒト取材体験（取材準備と実践、原稿★執筆） ★課題6	質問を考えるためのリサーチ、原稿執筆		
第9回	場所取材体験（取材準備と取材、原稿★執筆） ★課題7	事前リサーチ、原稿執筆		
第10回	イベント・現象取材体験（取材準備と取材、原稿★執筆） ★課題8	事前リサーチ、原稿執筆		
第11回	チーム会議（関心事ごとのチームに分かれ、打合せ。取材計画を立てる）	会議用資料★の作成。テーマを掘り下げたための資料集め ★課題9		
第12回	オリジナルコンテンツの取材計画と取材準備	取材申込先のリスト作成、取材申込書執筆など		
第13回	コンテのブラッシュアップ版★提出、チーム会議（取材計画の進捗状況を共有） ★課題10	コンテの練り直し、スケジュール案の作成		
第14回	夏休み・後期に向けての課題の明確化、各自の研究計画と進捗状況の共有①	報告資料の作成		
第15回	各自の研究計画と進捗状況の共有②	報告資料の作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	70%（各回の課題）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	30%（ディスカッションなどへの参加の度合い）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCを使わない日は、教室が変更になる場合があります。</li> <li>・各課題に取り組み、着実に積み重ねることが重要です。やむを得ず欠席する場合も課題の提出は必須です。欠席した回の内容は授業外に自習し、キャッチアップしてください。</li> </ul>			
教科書	編集の学校／文章の学校編『編集者・ライターのための必修基礎知識』雷鳥社、2015年、1800円			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜 16:30-18:00	金曜 16:30-18:00	メールアドレス	

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	安恒 万記 豊増 美喜		単 位	4
授業の目的と概要	子どもと環境について、学生が自らの問題意識に即して調査、研究を行い、現代社会における子どもと環境に関する課題を見出し、深く考察することを目的とします。 研究課題に関する文献、資料に幅広く触れ、目的にあったデータ収集の方法、適切な分析、問題を発見する力や論理的能力、加えてそれを発表することでプレゼンテーション能力、さらに、討論やフィールドワークを通してコミュニケーション能力をも身に付けることを目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもと環境について、現代社会における問題・課題を発見することができる。</li> <li>2. その問題・課題について、参考文献や先行研究の検索、フィールドワークやアンケートなどの調査を提案することができる。</li> <li>3. その問題・課題について、具体的にまとめることができる。</li> <li>4. テーマに沿って論点を見つけ、ディスカッションすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション	興味、関心のあるテーマを考える		
第2回	年間ゼミナール計画の策定①（グループワーク）	参加イベントやフィールドワーク、ヒアリング調査の情報収集		
第3回	年間ゼミナール計画の策定②（グループワーク）	参加イベントやフィールドワーク、ヒアリング調査の計画立案		
第4回	参考文献、先行研究の整理①	参考文献、先行研究の情報収集		
第5回	参考文献、先行研究の整理、ディスカッション②	4回目までの内容の確認		
第6回	文献、先行研究：研究方法（理科系の作文技術）	文献を読み、自分の研究と結びつける		
第7回	文献、先行研究：研究方法（研究方法の選択）	文献を読み、自分の研究と結びつける		
第8回	文献、先行研究：研究方法（インタビュー調査の事例）	文献を読み、自分の研究と結びつける		
第9回	文献、先行研究：研究方法（行動観察の事例）	文献を読み、自分の研究と結びつける		
第10回	研究方法（アンケート調査）	文献を読み、自分の研究と結びつける		
第11回	学内調査、事前調査の検討	発表準備		
第12回	発表の準備（1回目）とチェック・修正	発表準備		
第13回	発表の準備（1回目）とチェック・修正	発表準備		
第14回	前期最終発表（1回目）	発表準備		
第15回	前期最終発表（2回目）	発表準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	50%			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な参加を期待します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて適宜授業内で指示します。			
オフィスアワー	大学での授業の場合は授業の前後、遠隔授業の場合はメール等の利用	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	栗木 明裕		単位	4
授業の目的と概要	栗木ゼミ「健康的なライフスタイルを考えるゼミ」では、幸福感（well-being）をテーマに人（心とカラダ）や生活についての調査や実験を通して理解を深め、生活環境や社会環境から健康を捉えてヘルスプロモーションのためのノウハウを考えていく。専門ゼミナールⅠでは、卒業研究に至る研究分野の基礎知識・技術を習得することを目的としている。そのため、ゼミで使用する研究方法をオムニバス形式で学び、自分自身の興味あるテーマを明確にする。これを基礎に専門ゼミナールⅡにおいて研究テーマを設定し、必要な関連資料の収集・整理を行い、研究計画書を作成して具体化していく。さらに、適宜作業内容をアウトプットすることにより、知識を深め体系化する。最終的には4年次の卒業ゼミナールⅠ・Ⅱへと発展し、研究論文としてまとめていくこととなる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世間に流布されている様々な情報の中から必要な情報を収集し、見極める能力を養う（情報リテラシーを養う）。</li> <li>2. 自己のテーマに関する情報を自ら収集することができる。</li> <li>3. 自己のテーマに関する知識を吸収し、咀嚼して説明することができる。</li> <li>4. 研究を進めるための基本的な手順・手法について説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現（4）-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション～ゼミの概要、授業の進め方の説明	研究分野の概要を調べる（予習）		
第2回	健康を知る	世界保健機構前文やその他の資料から自分なりの考えをまとめる（予習）		
第3回	健康情報（1）：衛生統計	指定した統計データを抽出する（予習）		
第4回	健康情報（2）：成人保健	現代のライフスタイルが招く健康問題を調査する（予習）		
第5回	健康情報（3）：身近な生活圏の情報	調査データや政策から考えられる社会の諸問題をまとめる（予習）		
第6回	健康情報（4）：ダイエットなど巷に流布する健康情報を読み解く	ゼミ生の興味に応じた情報を抽出し、まとめる（予習）		
第7回	人の動きを知る（1）：力学の基礎	ニュートンの法則を確認しておく（予習）		
第8回	人の動きを知る（2）：バイオメカニクスの方法（運動学的、生理学的手法）	配布資料を熟読する（予習）		
第9回	人の動きを知る（3）：測定	配布資料を熟読する（予習）		
第10回	人の動きを知る（4）：分析・考察	配布資料を熟読する（予習）		
第11回	生活環境とストレス（1）：現代社会とストレス	身の回りのストレスラーを調べる（予習）		
第12回	生活環境とストレス（2）：ストレスと向き合う	自分自身あるいは身近な人々の様子を観察する（予習）		
第13回	生活環境とストレス（3）：ストレスへの対処	ストレスへの対処法を考える（予習）		
第14回	スポーツを楽しむ：ダイエットや健康づくりに有用な身体活動を考える（企画・実践）	大学や太宰府などの生活環境を活かした身体活動を企画する（予習）		
第15回	まとめ（発表）と専門ゼミナールⅡへの準備	自己のテーマに関する調査状況をまとめる（予習）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 全授業中に1回課す（30%）授業ごとに小課題（30%）			
小テスト等	実施しない			
成果発表	30%（全授業中に1回課す）			
受講態度他	10% 積極的な態度、発言 私語など受講態度が悪く、授業の進行や他の学生の妨げとなる場合は減点もあり得る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	専門ゼミナールは、卒業ゼミナールへとつながる大切な科目である。この科目で研究の方向性を定めて学びを深めていく。自分自身で主体的に決断し、進めていかなくてはならないため、自身の興味を大切にして、自分自身で考えることを大切にする。授業内容に応じて学外で授業を行うことがあるので、適宜指示する。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	水曜日 10：50～12：20（事前連絡要）	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	上村 真仁		単位	4
授業の目的と概要	この科目は原則的に遠隔授業で実施します。住民参加の地域づくりについて、特に地域固有の資源である自然や伝統文化、暮らしの視点からの研究や実践を行うことで、地域の課題解決や持続可能な暮らしを実現するための力を養うことを目的とします。3年生の後期の専門ゼミナールⅡ、4年生の卒業ゼミナールⅠ、Ⅱと合わせて開講します。専門ゼミナールでは、4年次に実施する卒業研究の準備として、地域づくりに関する基本的スキル（聞き書き）と事例に関する理解の促進を図ることを目的とします。前期は、地域の魅力を掘り起こすための手法を身につけるために聞き書きについて学びます。また、後期にフィールドに出るためのテーマと地域の絞り込みを行います。			
到達目標	1. ヒアリング調査を円滑に実施する方法についての説明ができる。 2. 聞き取り調査に基づき、地域の魅力を発見し、地域の人々の想いを汲み取ることができる。 3. 聞き取った内容を記録し、第三者にとって分かりやすい文章としてまとめ、発表することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。  この科目は民間シンクタンクにおいて官公庁の環境政策や地域振興施策の立案に関わり、また環境NGOや地域NPOでの持続可能な地域づくりの実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション ゼミの目標の設定	事前 配布資料の熟読とアンケート、事後 関心領域の掘り起こし		
第2回	研究・実践テーマの検討 SDGs（持続可能な開発目標への理解）	事前 配布資料の熟読とアンケート、事後 関心テーマ・地域の仮設定		
第3回	研究・実践計画の策定 年間の希望活動内容の共有	事前 計画（案）作成課題、事後 他のメンバーとの協働方策の検討		
第4回	社会課題への理解；貧困と飢餓 & 地域を知るための技術（聞き書きの概要）	事前 配布資料の熟読とアンケート、事後 聞き書き事例の理解		
第5回	社会課題への理解；健康とウェルビーイング & 地域を知るための技術（聞き書きの効果）	事前 配布資料の熟読とアンケート、事後 聞き書き事例の理解		
第6回	社会課題への理解；教育とジェンダー & 地域を知るための技術（聞き書きの方法）	事前 配布資料の熟読とアンケート、事後 聞き書き事例の理解		
第7回	社会課題への理解；水とエネルギー & 地域を知るための技術（聞き書きのまとめ方）	事前 配布資料の熟読とアンケート、事後 聞き書き事例の理解		
第8回	社会課題への理解；雇用と産業 & 地域を知るための技術（聞き書きの清書の方法）	事前 配布資料の熟読とアンケート、事後 聞き書き事例の理解		
第9回	社会課題への理解；居住とまちづくり & 聞き書きの計画づくり	事前 配布資料の熟読とアンケート、事後 同居家族の聞き取りの計画		
第10回	社会課題への理解；責任ある生産と消費 & 聞き書きの事前調査	事前 配布資料の熟読とアンケート、事後 聞き書き対象者の概要のまとめ		
第11回	社会課題への理解；気候変動 & 聞き書き方針の検討（意見交換）	事前 配布資料の熟読とアンケート、事後 聞き書き調査1		
第12回	社会課題への理解；生物多様性の保全 & 聞き書きの進捗確認	事前 配布資料の熟読とアンケート、事後 聞き書き調査2		
第13回	聞き書きの取りまとめ、質疑応答、ディスカッション	事前 聞き取り調査の書き起こし、事後 @聞き書き調査の編集・整理		
第14回	4年生研究・実践計画の中間発表、合同討議	事前 発表資料の作成、事後 発表資料の作成		
第15回	聞き書き結果の発表 まとめ	事前 後期に向けた計画（案）の作成 事後 専門ゼミナールⅡ計画策定		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30% 事前、事後課題への回答			
成果発表	50% （30% 聞き書きの取りまとめ、20% 後期に実施する聞き書き計画）			
受講態度他	20% ディスカッション、質疑応答などへの参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この科目は原則的に遠隔授業で実施します。受講生の皆さんはインターネット環境のあるPC、タブレット、スマートフォンを使って、受講することが可能です。筑女ネットにアップロードされているレジュメ、講義資料（パワーポイントなど）、ワークシートなどのファイルをもとに自主学習を行うとともに、チャットやインターネット会議システムなどを利用して質疑やディスカッションを行うことができます。後期以降のフィールドでの活動を円滑に行うための知識と技術の習得に力を入れることとしますので、しっかりと身に付けるようにして下さい。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業時に指示します。			
オフィスアワー	月曜日 4限	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	佐々木 浩		単 位	4
授業の目的と概要	<p>本講義は、専門ゼミナールⅠ、Ⅱ、卒業ゼミナールⅠ、Ⅱと半期の講義が4回連続する講義の最初の半年となる。この2年間で、人間とその他の動物とが共生していくための持続可能な地域デザインはどのようなものかを考えていく。人間社会が大きく変化してきていることによって、野生動物、家畜など様々な身の回りの動物との関係も変化してきている。1. 関連資料の収集等による課題の探索、2. 課題を解決するための研究計画の立案、3. 調査の実施、4. 結果の分析、5. 地域における実践によって、課題発見、解決能力を身につけることを目的とする。これらの過程で、プレゼンテーションや論理的な議論の技術も学ぶ。この半年では、関連資料を収集して課題の探索を行い、解決策を模索するための研究計画を検討していくことが中心となる。</p>			
到達目標	<p>1. 「自然と共生する地域デザイン」について、参考資料を収集して課題を発見することができる。  2. 課題の解決策を模索するための研究計画を立案することができる。  3. 課題の解決策を模索するため、論理的な議論ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション。それぞれの関心があるテーマについて議論し、学びを深める。	講義後、関心のあるテーマについて情報収集を行う。		
第2回	論文紹介1	担当者は事前にレジメを作成する。		
第3回	論文紹介2	担当者は事前にレジメを作成する。		
第4回	論文紹介3	担当者は文献を読んでレジメを作成する。		
第5回	卒論計画1	担当者は事前にレジメを作成する。		
第6回	動物と人 動画鑑賞	担当者は事前に鑑賞動画を選ぶ		
第7回	卒論計画2	担当者は事前にレジメを作成する。		
第8回	論文紹介4	担当者は事前にレジメを作成する。		
第9回	動物園見学	見学の視点を事前に検討する		
第10回	動物園見学意見交換	見学レポートを作成しておく		
第11回	論文紹介5	担当者は事前にレジメを作成する。		
第12回	猫の島見学	見学の視点を事前に検討する		
第13回	相の島見学意見交換	見学レポートを作成しておく		
第14回	卒論計画3	担当者は事前にレジメを作成する。		
第15回	夏合宿検討	夏休みの活動の確認		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	論文紹介のレジメ 70% 見学レポート10%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	フィールドワークができるようになったら実施したいと思います			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日 3講時	メールアドレス		



授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	アジア文化学科教員		単位	2
授業の目的と概要	<p>「専門ゼミナールⅠ」の目的は、4年生で「卒業論文」を作成するための準備として、情報収集の方法やレポートの書き方など論文執筆のための基礎的技能を学ぶとともに、自身の研究テーマの方向性を探り、「専門ゼミナールⅡ」へとつなげることにあります。</p> <p>従って、この授業では、言語・社会・文化の各領域について、アジア文化学科の先生方が研究されている専門分野の概要について、オムニバス形式で学ぶほか、WEB情報やアジアに関する映像の視聴を通じて自身の関心あるテーマを絞り込む作業を行います。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アジアの言語・文化・社会に関する特定のテーマに関して、資料を収集・分析できるようになる。</li> <li>2. アジア文化学科専任教員の研究内容を理解した上で、自分なりの意見を持つことができる</li> <li>3. これまでに学んだことや調べたことに基づき、そのテーマの課題を見出し、問題設定を立てることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 このゼミナールで専任教員の専門性を理解し、基礎的なスキルを身につけ、「専門ゼミナールⅡ」での課題探求を行い、「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」履修することによって「卒業論文」を作成することにつながります。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 遠隔授業の動作環境の確認(担当:竹熊)	次回からの本格的なWEB授業に備える		
第2回	アジアについてのweb情報の収集と検討(課題提出)	提示されたweb情報以外のトピックを自身でも収集する		
第3回	言語分野専任教員(中国語:石)による専門分野の説明と理解	授業のレビューと自身の研究テーマの絞り込み		
第4回	言語分野専任教員(中国語:崔)による専門分野の説明と理解	授業のレビューと自身の研究テーマの絞り込み		
第5回	言語分野専任教員(韓国語:羅)による専門分野の説明と理解	授業のレビューと自身の研究テーマの絞り込み		
第6回	国際社会専任教員(経済学:裏)による専門分野の説明と理解	授業のレビューと自身の研究テーマの絞り込み		
第7回	国際社会専任教員(政治学:横山)による専門分野の説明と理解	授業のレビューと自身の研究テーマの絞り込み		
第8回	映像を通じてのアジア理解	授業のレビューと自身の研究テーマの絞り込み		
第9回	国際社会専任教員(文化人類学:喜多村)による専門分野の説明と理解	授業のレビューと自身の研究テーマの絞り込み		
第10回	国際社会専任教員(教育学:竹熊)による専門分野の説明と理解	授業のレビューと自身の研究テーマの絞り込み		
第11回	地理歴史専任教員(徐)による専門分野の説明と理解	授業のレビューと自身の研究テーマの絞り込み		
第12回	文化専任教員(小林)による専門分野の説明と理解	授業のレビューと自身の研究テーマの絞り込み		
第13回	レポートの書き方について(横山)	レポートに向けて準備を進める。		
第14回	アジア文化賞紹介(小林)	期末レポート準備		
第15回	レポートの執筆と提出(研究テーマについて調べ学習をし、2,000字程度でまとめること)	8月5日(水) 〆切厳守		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	40% 期末レポートその他			
小テスト等	60% 各回のミニレポートの提出 (第2回~13回×5%)			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関する情報	<p>遠隔授業となりますが、時間割通りにデータ等をアップする予定ですので、授業の時間になりましたらアクセスをお願いします。</p> <p>なお、授業資料の中には本来、著作権法により web 上での無断利用ができませんにもかかわらず、オンライン授業に限り特別に利用が認められているものがあります。受講生のみならずも授業外での利用や無断転載は禁止されていますので、取り扱いには注意してください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	谷口 博文		単位	4
授業の目的と概要	【課題解決実践ゼミ・プロジェクトデザイン】 専門ゼミナールⅠ（前期）は下記①～③、Ⅱ（後期）は③～⑤を行います。自分のやりたい仕事に結びつけて新しいビジネス手法を実践的に学びます。①今どんな新しいビジネスが生まれてきているのか、それが社会のどんな問題を解決しようとしているのか、実際に携わっている人から話を聞いていろいろな実例を学びます。②それを参考にしながら、自分が今後関わっていきたいと考える最も関心の高いテーマを選びチームを作ります。③そのテーマの中で具体的な困りごとをうまく解決できないか？ 現場でインタビューし、チームでアイデアを出し合い、他の地域や海外での事例を調べ、学外の学生や企業などの知恵を借りながらアイデアを形にします。④さらにビジネスとして持続的な事業活動ができないか現場で検証し、うまくいかなければ再度試みるなど実践を繰り返します。⑤最終的に取り組みの成果を発表・報告してもらいます。			
到達目標	(1) 問題発見力を高め、課題解決力及び実践力を身につける。 (2) チームや社会に積極的に貢献する姿勢を身につける。 (3) 取り組みの成果を効果的に発信できる表現力を身につける。 (4) 得意とする分野を開拓し、キャリア形成の足場を築く。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 ガイダンス 授業の体制づくり 連絡方法、Slack、Zoom等の活用ルールの確認。自己紹介などでお互いを知る。		アプリ等の使用方法に習熟する。 次回講師のプロフィールを調べる。		
第2回 4/29 問題発見 外部講師による講演（Ⅰ）若い起業家たちの挑戦 両角将太 FVentures代表ほか		講演からの学び→自分がやりたいことは何かを考える。		
第3回 5/13 問題発見 外部講師による講演（Ⅱ）福岡で活躍するソーシャルビジネス 原口瑛子ビジネスレザーフクトリー社長 横山玖未子ボーダレスジャパン		講演からの学び→社会課題と向き合う。		
第4回 5/20 問題発見 ワークショップ 発散型ディスカッション 身のまわりの困りごとや悩みをできるだけ数多く拾い上げ、さまざまな問題に気付き言語化する。		困りごとの発表、チーム編成準備		
第5回 5/27 課題設定 ワークショップ チームビルディング 収束型ディスカッション 自分にとって切実な問題をそれぞれ発表する。共感したテーマを選びチームを作る。サブテーマを考		自分にとって大事な問題が何かを探る。 自分ごと化		
第6回 6/3 課題設定 ワークショップ サブテーマと目標設定 フィールドワーク事前準備 インタビュー先の選定 インタビュー項目の作成		チームの役割分担と連絡方法確認 自分の問題意識を絞り込む。		
第7回 6/10 解決案づくり アイデア探しのための情報収集 ネット調査（海外・国内・文献調査） 調査研究業績		日程調整 インタビュー先との事前コンタクト、事後フォロー		
第8回 学外調査フィールドワーク 現場で何に困っているか、どうすれば解決できそうか、どんなサービスをして欲しいと考えているか		成果をまとめ資料を作成する。		
第9回 学外調査 フィールドワーク 現場で何に困っているか、どうすれば解決できそうか、どんなサービスをして欲しいと考えているか		講演からの学び→自分のキャリアについて考える。		
第10回 フィールドワークのまとめ ワークショップ インタビュー記録の作成 情報分析 結果をレポートとプレゼン資料にまとめる。		現場の課題認識を確認し、求められるソリューションを探る。		
第11回 フィールドワーク成果発表 他のチームの成果を共有する。		チーム自らのプロジェクトマネジメントのもと、調査を行う。		
第12回 解決案づくり 九大起業部との合同ワークショップ 発散型ディスカッション 課題解決のためのアイデアを数多く考える。		解決策提案の準備		
第13回 解決案づくり 九大起業部との合同ワークショップ 収束型ディスカッション 課題解決策の提案・発表		解決策の実践準備		
第14回 解決策のまとめ 発表 解決策を形にする 検証、見直し作業、フィードバック		今後の方針の打ち合わせ		
第15回 振り返り		前期の反省 フィードバック		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%			
小テスト等	なし			
成果発表	30%			
受講態度他	授業やチームへの貢献（積極性・質問発言・責任分担） 50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	進捗状況や外部講師の都合によって日程が変更となる可能性があるため、更新情報に注意してください。遅刻、早退、欠席する場合は理由の如何を問わず、必ず授業時間前に直接教員に連絡してください。モバイルPC、タブレット、スマホを使って授業を行いますので、特にモバイルPC、タブレットを持っている人は持参してください。			
教科書	なし			
指定図書	山口高広 「アイデア・メーカー」 東洋経済新報社			
参考図書	その都度授業で紹介			
オフィスワーク	随時メールで受け付けます。	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅠ【演習】	開講時期	前期
担当教員	坂本 隆行	単位	4
授業の目的と概要	<p>〈ゼミテーマ：中小企業がどのように企業ブランドを生成するかについて研究するゼミ〉  本ゼミナールは、ブランド力を持つ中小企業が「どのような日々の経営活動を経て企業ブランドを生成しているのか」について、地域の中小企業を訪問調査し、その事例をもとに研究することを目的とします。研究の方法は①企業ブランドの生成を文献から学ぶ②研究対象や問題意識を明確化する③学習した知識をもとに地域の中小企業を訪問調査する④訪問調査をもとに、持論を展開する、という流れとなります。</p> <p>中小企業は地域経済や特定市場に限定された企業経営をしており、そのため中小企業の企業ブランドの効果は、一般にはなかなか指摘しにくいと言われております。よって、企業ブランドの効果を生かすためには、中小企業の経営者や従業員の方々との信頼関係を構築できるよう、コミュニケーションスキルを高めることも必要です。</p>		
到達目標	①ブランド論に関する基礎理論を理解し説明できる。 ②企業ブランドの生成理論を理解し説明できる。 ③中小企業の企業経営と企業ブランドの生成の関連性について理解し説明できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 社会調査士関連科目と合わせて受講することで、より深い理解が得られます。 <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 ガイダンス		教科書の序章 (pp、3-11) を読んで事前学習をしてください。	
第2回 研究へのレディネス① 中小企業の経営課題についての学習		教科書の第1章 (pp、15-22) を読んで事前学習をしてください。	
第3回 研究へのレディネス② 自立型中小企業についての学習		教科書の第1章 (pp、23-30) を読んで事前学習をしてください。	
第4回 研究へのレディネス③ ブランド一般論についての学習		教科書の第3章 (pp、43-49) を読んで事前学習をしてください。	
第5回 研究へのレディネス④ 企業ブランドについての学習		教科書の第3章 (pp、50-59) を読んで事前学習をしてください。	
第6回 研究へのレディネス⑤ 中小企業独自の企業ブランドについての学習		教科書の第2章 (pp、33-39) を読んで事前学習をしてください。	
第7回 研究へのレディネス⑥ ここまでの学習のまとめと意見交換		教科書の再読と整理をしてください。	
第8回 研究へのレディネス⑦ ブランド中小企業の事例についての学習		教科書の第5章 (pp、79-95) を読んで事前学習をしてください。	
第9回 研究へのレディネス⑧ 顧客志向・社会貢献志向の経営理念についての学習		教科書の第6章 (pp、99-109) を読んで事前学習をしてください。	
第10回 研究へのレディネス⑨ 中小企業の労働者の人事管理についての学習		教科書の第7章 (pp、113-118) を読んで事前学習をしてください。	
第11回 研究へのレディネス⑩ 中小企業経営者のリーダーシップについての学習		教科書の第7章 (pp、118-128) を読んで事前学習をしてください。	
第12回 研究へのレディネス⑪ 中小企業の企業ブランド醸成メカニズムについての学習		教科書の第8章 (pp、131-145) を読んで事前学習をしてください。	
第13回 研究へのレディネス⑫ ここまでの学習のまとめと意見交換		教科書の再読と整理をしてください。	
第14回 企業への訪問調査の方法① 研究対象企業の選定とアプローチについての学習		事前に配布する資料を読んで事前学習をしてください。	
第15回 これまでの学習のまとめ		事前に配布する資料を読んで事前学習をしてください。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	実施しません。		
レポート	実施しません。		
小テスト等	実施しません。		
成果発表	50% 与えられた課題や調査報告を、成果発表とみなします。		
受講態度他	50% ゼミへの積極的な態度や貢献を評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遠隔授業の進め方については、変更する可能性があります。変更の場合筑女ネットで知らせます。 筑女ネットで通知、出席管理、資料提出、フィードバック指導を行うため、指示した日時にアクセスしてください。 ※ 受講確認の「回答する」ボタンで出欠確認をします。 遠隔授業・チャットルール①批判はしない。②常にポジティブシンキングで提案する。③ファシリテーター(教員)の指示に従ってください。		
教科書	坂本隆行著『中小企業のコーポレート・ブランド生成—自立した経営を目指して—』晃洋書房、2019年。		
指定図書	特にありません。		
参考図書	講義の中で適宜紹介します。		
オフィスアワー	毎週月曜日 10:00-12:00	メールアドレス	

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	野中 亮		単 位	4
授業の目的と概要	<p>地域生活を、特に文化の観点から研究することを主な目的とします。おおまかな流れとしては、(1)地域生活と文化に関する理解を深めて、(2)個々の問題意識を明確にし、(3)実際に調査研究をおこなって、(4)簡単な報告書にまとめる、というものです。これらの研究を通じて、4年次の卒業研究に備えます。フィールドワークなどで正規の時間外（週末や夏休み）にも研究活動を行います。また、研究テーマによっては、シラバスの予定変更や交通費などの負担が発生することもあります。研究対象とする地域や文化現象は、日常的な調査が可能な福岡県内～九州北部地方を対象とする予定です。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活と文化に関する専門的な知識をもとに、研究課題を設定できるようになる</li> <li>・設定した課題を研究するための、研究・調査の方法を身につける</li> <li>・地域研究に関する研究成果の要点を整理できるようになる</li> <li>・自分の研究成果を整理し、卒業報告レベルの課題設定や研究・調査方法の策定ができるようになる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 社会調査士関連科目と合わせて受講することで、より深い理解が得られます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			前期の成果の確認	
第2回 実査と補足調査1			スケジュールの確認等、実査の準備	
第3回 実査と補足調査2			スケジュールの確認等、実査の準備	
第4回 実査と補足調査3			スケジュールの確認等、実査の準備	
第5回 調査データの整理1：概要報告			各自の調査データの概要をまとめ報告の準備をしておくこと	
第6回 調査データの整理2：調査データの精査			お互いの調査データに関する解釈・分析案を用意しておくこと	
第7回 報告書のプロット作成			仮説とデータを照らし合わせプロットを作成しておくこと	
第8回 報告書をまとめる1：調査の目的と概要			報告書の原稿を用意してくる	
第9回 報告書をまとめる2：先行研究のレビュー			報告書の原稿を用意してくる	
第10回 報告書をまとめる3：データの検討			報告書の原稿を用意してくる	
第11回 報告書をまとめる4：結論			報告書の原稿を用意してくる	
第12回 報告書原稿のしあげ			お互いの報告書に対するコメントを用意しておくこと	
第13回 卒業研究にむけて1：後期研究成果の総括			各自の研究成果の総括	
第14回 卒業研究に向けて2：研究課題の方向性の確認			各自の研究の方向性の立案	
第15回 まとめ			今年度の研究成果の整理	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 文献の概要報告やテーマ案の提案など、各回の報告を成果発表とみなします。			
受講態度他	50% 成果発表以外のゼミ運営への貢献を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は必須です。自分の担当については責任をもって取り組んでください。</li> <li>・全体を通じ、共同作業が多くなります。作業分担や報告の順番など、受講者同士でマメに連絡・相談・融通しあい、有意義な学びの場にしましょう。</li> <li>・後期は対面授業が再開されます。通学时・大学滞在時・授業中はコロナ感染リスクの軽減に務めてください。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	谷富夫・芦田徹郎『よくわかる 質的社会調査』ミネルヴァ書房 佐藤郁哉『フィールドワーク：書を持って街へ出よう（増訂版）』新曜社			
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	花野 裕康		単位	4
授業の目的と概要	<p>前期の「専門ゼミナールⅠ」に引き続き、</p> <p>①グループワークと全体プレゼンテーションの二本立てで自身の研究テーマを進めていきます。</p> <p>②なおテーマ変更がある場合はこの演習の期間中に申請します。</p> <p>③4年生は卒業製作や卒業論文の時期になりますので、その様子を間近で観察し、次年度に自身が作成する卒業製作や卒業論文への参考にします。</p> <p>④最終的に次年度の「卒業ゼミナール」に向けた、自身の研究テーマの概要を作成する事を目標とします。</p>			
到達目標	<p>①グループワークと全体プレゼンテーションの二本立てで自身の研究テーマを進めることができる</p> <p>②自身の研究テーマについて今後を予測し、必要に応じて軌道修正することができる</p> <p>③4年生ゼミメンバーの卒業論文や卒業制作の作成過程を自身の研究成果発表に役立てることができる</p> <p>④自身の研究テーマの概要を作成し説得力を持ってゼミ内で発表することができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。具体的には、自身のテーマのブラッシュアップ及び他ゼミメンバーのテーマに対する批評の文章化を行う事。</p> <p>本ゼミナールは2年次に履修した「基礎専門ゼミナール」の発展版および3年次前期「専門ゼミナールⅠ」の続編として、この基礎の上に立つ性格を持つ。その他、「メディアと文化」「現代社会学概論Ⅰ,Ⅱ」「消費社会論」さらにメディア社会コースの科目となるが、「ポピュラー文化論」や「サブカルチャー論」等も関連がある科目となる。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	夏休み期間中の進捗状況報告	ゼミ生から出たアドバイスを受けて研究テーマを固め、進める		
第2回	グループワーク①：研究テーマの相互紹介	グループ内で出たアドバイスを受けて研究テーマを進める		
第3回	グループワーク②：研究テーマの相互意見交流	グループ内で出たアドバイスを受けて研究テーマを進める		
第4回	グループワーク③：研究テーマの改善策相互相談	グループ内で出たアドバイスを受けて研究テーマを進める		
第5回	全体プレゼンテーション①：ゼミ生1/3メンバー(No. 1, 2, 3, 4)	グループから出たアドバイスを受けて研究テーマを進める		
第6回	全体プレゼンテーション②：ゼミ生2/3メンバー(No. 5, 6, 7, 8)	グループから出たアドバイスを受けて研究テーマを進める		
第7回	全体プレゼンテーション③：ゼミ生3/3メンバー(No. 9, 10, およびこれ以降)	グループから出たアドバイスを受けて研究テーマを進める		
第8回	シャッフルグループワーク①：研究テーマの後期最終案相互相談	別の視点から得たアドバイスを受けてさらに研究テーマを進める		
第9回	シャッフルグループワーク②：研究テーマの前期最終案提示	別の視点から得たアドバイスを受けてさらに研究テーマを進める		
第10回	グループワーク④：研究テーマの3年時完成案相互相談	グループから出たアドバイスを受けて研究テーマを進める		
第11回	グループワーク⑤：研究テーマの3年時完成案提示	グループから出たアドバイスを受けて研究テーマを進める		
第12回	グループワーク⑥：研究テーマの3年時完成版提示と相互批評	グループから出たアドバイスを受けて研究テーマを進める		
第13回	研究テーマ確定プレゼンテーション	4年生や他の3年生から出たアドバイスを受けて成果物作成計画を練る		
第14回	卒業論文・卒業制作から学ぶ①：4年生ゼミ生前半メンバーから	4年生の最終発表から来年の卒業ゼミナールにつながるヒントを整理する		
第15回	卒業論文・卒業制作から学ぶ②：4年生ゼミ生後半メンバーから	4年生の最終発表から来年の卒業ゼミナールにつながるヒントを整理する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	70%(全体プレゼンテーションでの発表内容)			
受講態度他	30%(グループワーク時の参加度)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに参加すること。グループワークでは積極的に発言すること。ゼミ活動に関係ないことを行なっている場合はその回もしくは次回回の成果発表を認めない。ゼミであっても「不可」や「無資格」になる可能性があるのは他の講義と変わらないが、これは講義でなく「演習」である以上、講義以上に積極的かつ主体的に参加すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜と火曜の3講時、水曜と木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	藤原 隆信		単位	4
授業の目的と概要	<p>&lt;ゼミテーマ：ソーシャルビジネスを研究・実践するゼミ&gt;          本ゼミナールでは、私たちの身の回りにある多様な「社会問題」を、ビジネス（お金儲け）をしながら解決していく方法と理論を学んでいきます。同時に、地域社会や世界にも目を向け、具体的な実践活動（ビジネスの実践）に取り組んで行く予定です。ゼミⅡでは、「ソーシャルビジネス」や「社会貢献と仕事の関係」等に関する発展的な理論を学ぶとともに、具体的な実践活動に取り組んで行く予定です。このような「理論研究」と「実践活動」を通じて、経営学を総合的に学ぶとともに、「社会に貢献しながら働くこと」の意義を考えていきます。</p>			
到達目標	<p>①「ソーシャルビジネス」に関する基本的な仕組みを理解し、説明できる。②「ソーシャルビジネス」の実践に必要な知識を応用して、具体的な活動を起こすことができる。③上記①～②を前提に、「ソーシャルビジネス」の実践活動を通じて得られたもの（知識・経験）と改善策について説明することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	はじめに：ソーシャルビジネス（SB）の実践を考える ——「Win」の累乗という考え方	教科書の「はじめに」（pp.1-13）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第2回	文献研究と実践活動のプラン作成（1） ——SBを成功に導く理由	教科書の第1章（pp.26-39）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第3回	文献研究と実践活動のプラン作成（2） ——「Win」の累乗を実現する「5C」	教科書の第1章（pp.40-64）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第4回	文献研究と実践活動のプラン作成（3） ——ケースで考える「Win」の作り方	教科書の第2章（pp.66-82）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第5回	文献研究と実践活動の実践準備（1） ——一緒に働く仲間に「Win」を作る①	教科書の第3章（pp.84-110）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第6回	文献研究と実践活動の実践準備（2） ——一緒に働く仲間に「Win」を作る①	教科書の第3章（pp.111-121）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第7回	文献研究と実践活動の実践準備（3） ——サービスの受け手に「Win」を作る①	教科書の第4章（pp.124-143）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第8回	文献研究と実践活動の実践準備（4） ——サービスの受け手に「Win」を作る②	教科書の第4章（pp.144-151）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第9回	文献研究と実践活動の実践準備（5） ——コミュニティーに「Win」を作る①	教科書の第5章（pp.154-168）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第10回	文献研究と実践活動の実践（1） ——コミュニティーに「Win」を作る①	教科書の第5章（pp.169-178）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第11回	文献研究と実践活動の実践（2） ——出資者に「Win」を作る①	教科書の第6章（pp.180-196）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第12回	文献研究と実践活動の実践（3） ——出資者に「Win」を作る②	教科書の第6章（pp.197-205）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第13回	文献研究と実践活動の実践（4） ——「競合」を「協業」に変えて「Win」を作る①	教科書の第7章（pp.208-224）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第14回	文献研究と実践活動の実践（5） ——「競合」を「協業」に変えて「Win」を作る②	教科書の第7章（pp.225-232）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第15回	まとめ：ソーシャルビジネスの（SB）の実践を振り返る ——「社会を良くしてお金を稼ぐ仕組み」とは？	教科書の「おわりに」（pp.241-248）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60% 授業の進行に合わせて適宜、発表をしてもらいます。その内容で判断します。			
受講態度他	40% 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本ゼミナールでは、授業の中でチーム討議やチーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。（※外部講師による講演&ディスカッションが入る可能性があります。シラバスを変更して対応しますのでご了承下さい）			
教科書	小暮真久『社会を良くしてお金も稼げるしくみのつくりかた』ダイヤモンド社、2012年。			
指定図書	授業の中で適宜紹介する。			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】	開講時期	後期
担当教員	川尻 洋平	単位	4
授業の目的と概要	<p>宗教文化を通して現代社会の諸相について考察するために、宗教文化を研究する方法論を身につけることを目的とする。それによって、現代社会の諸相に宗教文化がどのように関係しているのかを理解する。</p> <p>まず、宗教文化や宗教に関する基本的文献や論文を読む。受講者は、指定された学術論文を要約し、その内容についてディスカッションを行うことによって理解を深める。フィールドワークとして、宗教文化がどのように現代社会に組み込まれているのかを観察する。そして研究発表やプレゼンテーションを通じて、論理的思考力や情報リテラシーを養い、質疑応答を通じてコミュニケーション能力を高める。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学術論文の内容を正確に読解し、まとめることができる。</li> <li>2. 自分が興味を持つことについて、資料を蒐集し、分析することができる。</li> <li>3. 他者に伝わるように、研究成果をまとめて、発表することができる。</li> <li>4. 卒業論文で取り扱いたいテーマについて、全体構想と研究計画を説明することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	イントロダクション	資料収集および発表準備	
第2回	研究テーマの設定	資料収集および発表準備	
第3回	フィールドワーク：現代社会と宗教文化	資料収集および発表準備	
第4回	資料収集：先行研究の収集	資料収集および発表準備	
第5回	文献読解①：卒業論文で扱う分野の図書	課題①卒業論文で扱う分野の図書を読み、内容をまとめる。	
第6回	文献読解②：卒業論文で扱う分野の論文	課題②卒業論文で扱う分野の論文を読み、内容をまとめる。	
第7回	資料分析：先行研究の批判的検討	先行研究の整理	
第8回	プレゼンテーション：全体構想について	発表準備	
第9回	論文の書き方①：論文構成と表現方法	論文構成の検討	
第10回	論文の書き方②：参考文献リスト	参考文献（図書・論文）リストの作成	
第11回	論文の書き方③：推敲	発表準備（資料収集・資料分析・原稿作成）	
第12回	研究発表①：グループA	発表準備および原稿の修正	
第13回	研究発表②：グループB	発表準備および原稿の修正	
第14回	研究発表③：グループC	発表準備および原稿の修正	
第15回	まとめ：研究計画の検討	春休み中の研究計画を立てる。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	20% 課題レポート2回：論文等の要約		
小テスト等	0%		
成果発表	60% 研究発表とプレゼンテーション：内容、表現、質疑応答		
受講態度他	20% 受講態度：発表への取り組み、他の学生の発表に対する質問など		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は必須です。自分の担当や発表については責任をもって行うこと。</li> <li>・研究発表時には、必ず質問をすること</li> </ul>		
教科書	適宜プリントを配布する。		
指定図書	なし		
参考図書	授業内で指示する。		
オフィスアワー	水曜日二限目	メールアドレス	

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	赤枝 香奈子		単位	4
授業の目的と概要	専門ゼミナールⅠで学んだ知識をもとに、各自の関心に従って研究テーマを考えます。テーマに関連する先行研究の検討を行い、研究テーマを決定します。研究テーマに沿って、調査計画を立て、調査を行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマに関連する先行研究を探し、その内容について検討することができる。</li> <li>2. 先行研究の検討をもとに、研究テーマを決め、調査計画を立てることができる。</li> <li>3. 調査計画に従って、調査を進めることができる。</li> <li>4. 調査結果をまとめ、報告することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション	夏休み中の作業の振り返りを行う。		
第2回	研究テーマの検討①アイディアの持ち寄り	研究テーマを考えてくる。		
第3回	研究テーマの検討②先行研究の検索	研究テーマに関連する先行研究を探してくる。		
第4回	研究テーマの検討③先行研究の検討	先行研究を読み、その内容について検討する。		
第5回	研究テーマの検討④先行研究の報告	先行研究の報告準備を行う。		
第6回	研究テーマの検討⑤研究テーマの決定	研究テーマを具体化し、決定する。		
第7回	調査計画の検討①調査内容の検討	研究テーマに沿って、どのような調査を行うか考えてくる。		
第8回	調査計画の検討②調査の立案	調査内容を検討し、調査計画を立てる。		
第9回	調査計画の検討③調査計画の報告	調査計画の報告準備を行う。		
第10回	調査の実施①調査の実施準備	調査の実施に向けた準備を行う。		
第11回	調査の実施②調査の開始	調査計画に従って、調査を始める。		
第12回	調査の実施③調査の継続	調査計画に従って、調査を続ける。		
第13回	調査の実施④調査のまとめ	調査結果を整理する。		
第14回	調査の実施⑤調査結果の報告	調査結果の報告準備を行う。		
第15回	まとめ：卒業ゼミナールに向けて	専門ゼミナールの振り返りを行い、春休み中の研究計画を立てる。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	%			
成果発表	45%			
受講態度他	5%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	先行研究の検討、調査テーマの決定、調査計画の立案、調査の実施、すべてにおいて、各自の主体的な関与が不可欠です。授業では、各自が考えた事柄、実施した調査について情報を共有し、互いに助言を行い、研究テーマにかんする理解を深めます。			
教科書	使用しない。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業内で指示する。			
オフィスワー	水曜2限	メールアドレス		



授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	一ノ瀬 元史		単 位	4
授業の目的と概要	ここでは専門ゼミⅠで学んだことを踏まえ、発展させる。さまざまな情報システムの中から各自興味のあるシステムに注目し、その基本的な仕組みを理解し、活用する。さらにそれらが社会においてどのような位置づけにあり、われわれと関係しているか理解する。			
到達目標	1. プログラミングができる 2. 動画やゲームの作成手法を説明できる。 3. それらが社会とどのように関わっているか説明できる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業の概要 ガイダンス はじめに、データの扱い	Ruby の準備		
第2回	基本的な使い方 4年生と合同討議	プログラム作成、研究レポート作成		
第3回	配列とクラス、メソッド 4年生と合同討議	プログラム作成、研究レポート作成		
第4回	スコープ、引数を扱う 4年生と合同討議	プログラム作成、研究レポート作成		
第5回	プログラム作品作成 4年生と合同討議	プログラム作成、研究レポート作成		
第6回	プログラム作品作成 4年生と合同討議	プログラム作成、研究レポート作成		
第7回	プログラム作品作成 4年生と合同討議	プログラム作成、研究レポート作成		
第8回	プログラム作品作成 4年生と合同討議	プログラム作成、研究レポート作成		
第9回	プログラム作品作成 4年生と合同討議	プログラム作成、研究レポート作成		
第10回	プログラム作品作成 卒業研究レポート中間発表・討議	プログラム作成、研究レポート作成		
第11回	プログラム作品作成 卒業研究中間発表・討議	プログラム作成、研究レポート作成		
第12回	プログラム作品作成、卒業研究中間発表・討議	プログラム作成、研究レポート作成		
第13回	プログラム作品作成、卒業研究中間発表・討議	プログラム作成、研究レポート作成		
第14回	プログラム作品作成、卒業研究中間発表・討議	プログラム作成、研究レポート作成		
第15回	ゼミ合同卒業研究発表	作品作成、研究レポート作成提出		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%			
小テスト等	なし			
成果発表	30%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プログラム言語Rubyに関する書籍をみておきましょう			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	金 15:00-17:00 事前に連絡をお願いします。	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	橋本 嘉代		単 位	4
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用により受講者同士で情報共有や意見交換を行う双方向型授業です。</li> <li>・企画立案や取材、写真撮影、原稿執筆、デザインなど、メディアコンテンツの企画・発信に必要な基本的なスキルを修得する。</li> <li>・グループワークを行い、コミュニケーション力を身に付ける。</li> <li>・フィールドワークを含む取材活動を通じて社会の課題を発見し、問題解決を考える力を磨く。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ページレイアウトソフトで簡単なコンテンツを制作することができる。</li> <li>・オリジナルコンテンツに必要な取材、撮影を手配し、実行することができる。</li> <li>・取材や調査、考察の結果を文章や写真、図などを用いてわかりやすい形でまとめる情報リテラシーを身につける。</li> <li>・他者と協業し、趣旨やスケジュールに沿ってプロジェクトを進めることができる。</li> <li>・筑女ネットを活用し、eラーニングや情報共有を行うことができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	夏休みの報告、デザインや文章の参考事例の共有、レイアウトフォーマットの検討	各自で作成した報告書★によるプレゼン準備 ★課題1		
第2回	進捗状況の確認とスケジュールの調整・確認、フォーマット決定、レイアウト作成開始	初回での指摘を反映させ、企画を練り直し、再検討		
第3回	レイアウト作成・提出(タイトル案も盛り込む) ★課題2	デザインや文章の参考事例を持参。文字数や段落を計算		
第4回	レイアウト修正、文字数決定、画像の加工と流し込み	取材、撮影、原稿執筆(他のコンテンツに関しても、随時、進めておく)		
第5回	写真候補の提出★、レイアウトへの配置と文字数の調整 ★課題3	写真候補の選定、原稿執筆、修正。取材は11月末までに完了させる(授業外)		
第6回	レイアウト提出★、原稿執筆 ★課題4	レイアウト作成、原稿執筆、取材		
第7回	Word原稿★提出 ★課題5	原稿執筆(自己流で書かず、雑誌などを参考にする)		
第8回	原稿の修正、レイアウト微調整	原稿執筆、修正(他のゼミ生との相互チェック、教員のコメントを反映)		
第9回	原稿完成→レイアウトへの流し込み → PDF化★ ★課題6	原稿執筆、レイアウト調整		
第10回	全体での微調整①、取材協力者への内容確認と修正箇所の反映	他の人の制作物を見て、調整や修正が必要な部分を指摘し合う		
第11回	全体での微調整②、画像ファイルの整理とリンク	画像ファイルの整理と共有、取材協力者への連絡		
第12回	表紙・目次・編集後記などの制作、校正	制作、校正		
第13回	完成版ファイル★の提出、ファイルの統合・調整、印刷発注 ★課題7	制作		
第14回	振り返り、全体の統括	工夫したところや反省点の共有、今後の課題の整理		
第15回	次年度の計画	次年度に向けての準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60%(課題2～7)			
小テスト等	0%			
成果発表	10%(課題1)			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・締め切りから逆算し、スケジュール管理をする習慣をつけましょう。			
教科書	編集の学校/文章の学校(監修)『エディターズ・ハンドブック 編集者・ライターのための必修基礎知識』雷鳥社			
指定図書	なし			
参考図書	ARENSKI『InDesignをフルに使うGirls Magazine DTP』技術評論社			
オフィスアワー	火曜 12:30-14:00、水曜 11:00-12:45、授業の後	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	吉野 嘉高		単位	4
授業の目的と概要	前期「専門ゼミナールⅠ」と同様、就活や実社会においても必要な「課題発見・解決力」と「対話力」を伸ばすための演習である。引き続き前期に設定したテーマに沿って、レポートを作成することに加えて、前期の「対話力」に関する理解を踏まえて、映像取材を学外で実施する。また、リサーチの過程で見つけた「興味深い本」を取り上げビブリオバトルを実施する。最終的には、テキスト資料（レポートとプレゼン資料）と動画で、それぞれの知的探求の成果を表現する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定したテーマに合わせてリサーチをすることができる。</li> <li>・リサーチした内容を考察し、テキスト資料（レポート、プレゼン資料）と動画で発表することができる。</li> <li>・「異質な他者」との対話によりテーマに沿った情報を引き出すことができる。（対話力スキルアップ）</li> <li>・参考書籍の内容を他の学生にわかりやすく説明することができる。</li> <li>・対話について自分の考えを説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 映像取材のスキル	取材対象者の修正 取材交渉		
第2回	レポートの章立てと研究計画の発表 映像取材中間報告	資料収集・整理 映像取材		
第3回	映像編集の基礎知識	個別指導		
第4回	取材結果報告 編集構成	映像編集		
第5回	メディア最前線講義準備（地域メディアについてテーマ設定） 期末ゼミ発表会についてディスカッション	個別指導		
第6回	ゲスト講師によるメディア最前線についての講義 ディスカッション	地域メディアの未来について考えたことをまとめる。		
第7回	映像コンテンツ素材発表会①（対話力ピアレビュー）	インタビューについて考えたことをまとめる。		
第8回	映像コンテンツ素材発表会②（対話力ピアレビュー）	インタビューについて考えたことをまとめる。		
第9回	実社会における「聞く力」「伝える力」	「聞く力」「伝える力」について考えたことをまとめる。		
第10回	レポートの中間発表（2000字以上、パワポ資料も作成） 中間発表	ビブリオバトルの準備		
第11回	ビブリオバトル	映像編集		
第12回	ゼミ発表会動画の制作・修正	レポート3000字以上の執筆		
第13回	レポートの中間発表（3000字以上） オンラインピアレビュー	映像編集 レポートの修正		
第14回	各自の映像コンテンツを発表	配布資料の熟読		
第15回	まとめと今後のゼミ計画	配布資料の熟読		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%			
小テスト等	20%（課題等）			
成果発表	30%（映像コンテンツ）			
受講態度他	20%（授業内ゼミ、授業外ゼミでの積極的な発言と行動で評価）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>前期に引き続き授業外での「個別指導」を重視する。ディスカッションやピアレビューを必要に応じて行う。最終的成果物は①テキスト（レポート、プレゼン資料） ②動画（インタビューは必須）であることを念頭に受講すること。筑女ネット（LMS）を使用しての「オンラインピアレビュー」を実施する。学生の研究の進捗状況を見ながら、スケジュール変更もあり得る。</p>			
教科書	なし			
指定図書	高田明『伝えることから始めよう』ダイヤモンド社			
参考図書	松本幸夫『人を動かす聞く力&質問力』三笠書房			
オフィスアワー	火曜日昼休み(12:20~13:10) 水曜日昼休み(12:20~13:10)	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	荒巻 龍也		単位	4
授業の目的と概要	映像を楽しむことを第一として、これまでに学んだ知識やスキルを基礎として進めていきます。①CM、ドラマ、PR動画、映像表現や映像関連産業（広告含む）などに関して学び、研究もしていきます。②テーマを設定しながら、映像制作手順を身につけ、協力して作品を制作します。③映像関連全般の専門的な知識とスキルを身につけると同時に、専門研究を通して研究方法や発信方法を磨いていきます。④ゼミ活動全般から自主性、協働性、課題解決力そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につけることも目標としています。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) メディア（映像）リテラシー演習を通して映像メディアに関する理解を深め、研究につなげることができる。</li> <li>2) 映像制作手順（企画、撮影、編集など）を身につけ、テーマを自ら定め、そのテーマを具現化するためにどうすればよいかを考えつつ実際に作品を作ることができる。</li> <li>3) 映像関連全般について学び・研究して、テーマを設定してまとめることができる。</li> <li>4) ゼミ活動全般ならびに「タクナル演習」から自主性、協働性、課題発見・解決力そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につける。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。  関連する科目：基礎専門ゼミナールⅠ・Ⅱ、専門ゼミナールⅠ、卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ、メディア・IT活用演習、メディアコンテンツ論、テレビ論 など</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 後期オリエンテーション 『タクナル』グループワーク演習(4) Episode 6 情報を集めよう		WS1 (情報収集計画シート)		
第2回 『タクナル』グループワーク演習(5) Episode 7 情報を集めよう (発表会)		WS2 (さまざまなダイエット法)、発表準備		
第3回 『タクナル』グループワーク演習(6) Episode 9 情報を分析しよう		WS3 (情報を分析しよう)		
第4回 『タクナル』グループワーク演習(7) Episode 10 情報を分析しよう (発表回)		WS4 (おすすめの住む街)、発表準備		
第5回 メディア（映像）リテラシー(4) ドラマ映像言語		映像リテラシー課題1 (ドラマ映像言語分析)		
第6回 メディア（映像）リテラシー(5) ドラマが提供する価値観		映像リテラシー課題2 (ドラマが提供する価値観)		
第7回 メディア（映像）リテラシー(6) ドラマと家族		映像リテラシー課題2 (ドラマと家族)		
第8回 『映像メディアのつくり方』(5) 5章ドラマ		テキスト(5章)熟読、説明用スライド作成、まとめ課題1		
第9回 『映像メディアのつくり方』(6) 10章ドラマ制作		テキスト(10章)熟読、WSドラマ絵コンテ作成、まとめ課題2		
第10回 映像制作(4) 大宰府の秋を撮影		シーン・カットアイディアカード作成、撮影素材整理		
第11回 映像制作(5) 動画編集		動画編集・ムービー作成		
第12回 映像制作(6) 撮影実習		シーン・カットアイディアカード作成、撮影素材整理		
第13回 映像制作(7) PR動画作成		PR動画作成		
第14回 『タクナル』グループワーク演習(8) Episode 11 「プラスバンドGIFTの憂鬱」		WS5 (問題発見シート)、振り返りシート		
第15回 まとめ グループワーク演習、映像制作、メディア（映像）リテラシーなどに関する総括		これまでの課題の整理・確認		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	70% まとめ課題(10%)、ワークシート(WS)(25%)、映像リテラシー課題(15%)、映像制作課題(20%) *提出された課題はその都度採点(評価)して、授業時に返却します。			
小テスト等	0% なし			
成果発表	20% グループワークまとめ・口頭発表(10%)、撮影実習・プレゼンテーション(10%)			
受講態度他	10% 受講態度、活動参加状況ならびに授業中やフォーラムでの発言など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業が効果的にできるように、LMS(e-Learningシステム)である「筑女ネット」を利用します。授業連絡、進捗確認、授業テキスト・資料、課題、課題提出、フォーラム、授業関連アンケート、評定などの機能をフル活用して使っていきますので、常時アクセスして確認しておいてください。授業ではグループで行う作業や共同して調べ、発表するようなことも多くなります。また撮影、調査、フィールドワーク、PBLなどで学外で活動することもあります。			
教科書	なし(「筑女ネット」のオンライン教材ならびにプリント)			
指定図書	なし			
参考図書	久保田賢一 編著 『映像メディアのつくり方』 北大路書房 松村直樹 他 『タクナル』 リアセック *その他は、その都度授業で紹介いたします。			
オフィスアワー	火曜日2限目(10:50-12:20)	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】	開講時期	後期
担当教員	小山 昌宏	単 位	4
授業の目的と概要	1. 卒業研究にいたる物語研究分野の基礎教養、テキスト読解力、課題設定力を身につける 2. 物語研究により、マンガメディア、アニメメディアを含む「ドラマ」を読み解く力を身につけ、映像分析など様々な手法とあわせ、マンガ、アニメ、映画、ドラマ、舞台、ライブ作品などを自力で分析し、作品内容を構造的に解明できる 3. 具体的には、講義前の教科書による予習、レジュメ（資料）のまとめによる知識の体系化、発表、討論による理解の深化を通して、作品分析力を身につける 4. 3限は基礎読解、4限は前期に学習した色彩、造形心理、音楽、舞踊などの知識を活かし、マンガ、アニメ、映画、舞台、ライブなどの作品鑑賞、プレゼン、討論をおこない、各自卒業研究テーマを明確にする		
到達目標	1. 物語論の基礎知識、物語分析、物語構造分析のための様々な手法を学び、実際にその手法を用いることができる 2. 1の手法を用いてマンガ、アニメ、映画、ドラマ、舞台などの作品を分析し、物語のメッセージ、隠された意図を映像分析の手法を併用して明らかにすることができる 3. 期末レポートにいたる学習過程で、物語読解力を向上させ、討論により他者の意見を取り入れ、総合的な物語理解を身につけることができる 5. ゼミ運営、参加を通して、テーマに関する知識運用、対話能力、企画力、表現力、文章力を向上させることができる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連科目：マンガ・アニメ論 サブカルチャー論 オタク文化論		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	3限：オリエンテーション／後期授業内確認 行事確認 役割分担 4限：教科書：はじめに：「現代の神話」としての映像作品／第1章：言語論的展開と主体	教科書： 物語構造分析の理論と技法 の「第2・3章」までを予習しておく	
第2回	3限 第2章：解釈学概観／第3章：神話学外観／第4章：物語論概説（小山解説） 4限：映像鑑賞（第4章該当分）	教科書： 第4章を予習する	
第3回	3限 第5章：隠喩理論（小山解説）／映像討論（第4章該当映像） 4限：映像鑑賞（第5章該当分）	教科書： 第5章を予習する	
第4回	3限 第6章：映画・映像論（小山解説）／映像討論（第5章該当映像） 4限：映像鑑賞（第6章該当分）	教科書： 第6章を予習する	
第5回	3限 第7・12章：心理学的基礎概念（小山解説）／映像討論（第6章該当映像） 4限：映像鑑賞（第7・12章該当分）	教科書： 第7・12章を予習する 卒研ワークシートの記入	
第6回	学外授業 美術館・博物館・スタジオ見学	見学に際する該当テーマ課題の学習	
第7回	3限 第8章：典型ストーリーの抽出／第9章：シーケンス分析（小山解説） 映像討論（第7・12章該当映像）	教科書： 第8・9章を予習する 卒研ワークシートの記入	
第8回	3限 第10章：行為項分析（小山解説）／映像討論（第8・9章該当映像） 4限：映像鑑賞（第10章該当分）	教科書： 第10章を予習する	
第9回	3限 卒業研究の方法と執筆実習 4限：3年生卒研中間発表会①	卒研中間発表会に向けた準備	
第10回	3限 3年生卒研中間発表会② 4限：4年生卒研最終発表会への参加	卒研中間発表会に向けた準備	
第11回	3限 4年生卒研最終発表会への参加 4限：4年生卒研最終発表会への参加	4年生卒研最終発表会への参加準備	
第12回	3限 第11章：シーン分析（小山解説）／映像討論（第10章該当映像） 4限：映像鑑賞（第11章該当分）	教科書：第11章を予習する	
第13回	3限 第13・14章：深層・訴求構造（小山解説）／映像討論（第11章該当映像） 4限：映像鑑賞（第13・14章該当分）	教科書：第13・14章を予習する	
第14回	3限 第15章：CMの構造分析（小山解説）／映像討論（第13・14章該当映像） 4限 映像鑑賞（第15章該当分）	教科書：第15章を予習する	
第15回	3限 映像討論（第15章該当映像） 4限 後期のまとめ 来期に向けた討論	卒研ワークシートの完成 レポート提出の準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	70％（期末レポート）		
小テスト等	なし		
成果発表	20％（各回の報告、プレゼンを含む）		
受講態度他	10％（議論、討論への積極性を評価）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 3限：教科書は小山が解説し、前回の鑑賞映像を担当ゼミ生がリードして議論をおこなう 2. 4限：教科書回に該当する映像の鑑賞をおこなう 9回分あるので、3年生が担当する。4年生は1名担当 3. 報告形式は、レジュメ（文章式）、パワーポイント（図解式）のどちらでもよい 4. 報告担当にあたらなくても、また欠席した場合でも、討論に参加するために必ず、事前に文章を読み、映像を鑑賞しておくことが望ましい		
教科書	高田明典『物語構造分析の理論と技法：CM・アニメ・コミック分析を例として』（大学教育出版）		
指定図書	なし		
参考図書	橋本陽介『物語論 基礎と応用』（講談社）		
オフィスワー	水曜日の昼休み、またはメール相談	メールアドレス	

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	一木 順		単 位	4
授業の目的と概要	ポピュラー文化を通して現代社会の諸相について考えるということを主な目的とする。それによって、さまざまな政治的、経済的、社会的関係の中にとりこまれた自分自身が、社会とどのような関係を結んでいるのかを理解する。			
到達目標	a) 自分が普段親しんでいるポピュラーメディア（映画、まんが、音楽、テレビなど）の中から自分で問題を発見することができる。 b) その問題について、先行研究、参考文献の検索、フィールドワーク、インタビュー、アンケートの実施などの調査を行うことができる。 c) 調査結果を文章にまとめて、その問題について自分の言葉で語るすることができる。 d) 問題提起・研究経過・分析解釈を短時間で要約し、口頭発表し、質疑応答に答えて対話することができる。 e) 自分がまとめた議論を電子書籍で出版できる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業の概要の説明			なし	
第 2回 ディスカッションの実際：ディベート準備			グループでのディベート準備	
第 3回 ディスカッションの実際：ディベート			ディベート準備	
第 4回 研究テーマについての発表			研究レポートの概要の提出（A4用紙1～2枚）	
第 5回 研究発表			ミニ発表	
第 6回 研究発表			ミニ発表	
第 7回 研究発表			レポートサマリーの提出	
第 8回 研究発表			レポートサマリーの提出	
第 9回 研究発表			レポートサマリーの提出	
第10回 研究発表			レポートサマリーの提出	
第11回 研究発表			レポートサマリーの提出	
第12回 研究発表			レポートサマリーの提出	
第13回 研究発表			レポートサマリーの提出	
第14回 まとめ			指定された課題を行うこと	
第15回 まとめ			指定された課題を行うこと	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60％ 授業内の小レポート30%、自分の発表をまとめた電子書籍ファイル30%			
小テスト等	—			
成果発表	30% 自分のテーマについての発表			
受講態度他	10% 受講態度を勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である。授業に際しては、自分の担当部分、発表に関して責任を持って行うこと。やむを得ず自分の発表回に欠席せざるを得ないときは、自分の責任で他の人と発表を代ってもらうこと。			
教科書	特に指定しない			
指定図書	『America on Film』、 『映画分析入門』（ライオン）			
参考図書	授業内で指示			
オフィスアワー	木曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	須藤 遙子		単位	4
授業の目的と概要	<p>メディア社会を文化経済・文化政治・文化政策の観点から研究する。  前半は、就活を念頭に置いた「読解力・文章力・発想力」を鍛える演習を中心とする。  後半は、各自の卒業研究に向けてのテーマ設定・資料収集・論文指導を行う。  適宜グループディスカッションを取り入れ、自分の意見を発表すると同時に、他人の意見をよく聞き尊重する姿勢を学ぶ。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアの分析、またメディア企業への就職に必要な「読解力・文章力・発想力」を身につける。</li> <li>・プレゼンテーション能力を身につける。</li> <li>・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	前期の復習。夏休み宿題発表。	長編小説『ノルウェイの森・上』を読む。各自の卒業研究中間発表準備。		
第2回	文章読解：長編小説（1）。4年生卒業研究中間発表を聞いて討議。	長編小説『ノルウェイの森・上』（続き）を読む。		
第3回	文章読解：長編小説（2）。4年生卒業研究中間発表を聞いて討議。	長編小説『ノルウェイの森・下』を読む。		
第4回	文章読解：長編小説（3）。4年生卒業研究中間発表を聞いて討議。	長編小説『ノルウェイの森・下』（続き）を読む。		
第5回	文章読解：長編小説（4）。	学術書『メディア人間』を読む。		
第6回	文章読解：長編小説（5）。	学術書『メディア人間』（続き）を読む。		
第7回	合同ゼミ（1）：担当教員研究発表・質疑応答。	教員の研究テーマ・分析手法をふまえ、卒業テーマを考える。		
第8回	合同ゼミ（2）：担当教員研究発表・質疑応答。	教員の研究テーマ・分析手法をふまえ、卒業テーマ発表準備。		
第9回	文章読解：学術書（1）。卒業テーマ発表・討議。	学術書『メディア人間』（続き）を読む。卒業テーマ発表準備。		
第10回	文章読解：学術書（2）。卒業テーマ発表・討議。	学術書『メディア人間』（続き）を読む。		
第11回	文章読解：学術書（3）。	学術書『メディア人間』（続き）を読む。		
第12回	文章読解：学術書（4）。	学術書『メディア人間』（続き）を読む。		
第13回	文章読解：学術書（5）。	学術書『メディア人間』（続き）を読む。		
第14回	文章読解：学術書（6）。4年生卒業研究発表・質疑応答。	4年生の発表をふまえ卒業研究練り直し。		
第15回	4年生卒業研究発表・質疑応答。	2年間の復習。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	30%			
小テスト等	%			
成果発表	40%			
受講態度他	30%（全体討論への参加態度も含める）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	専門ゼミナールⅠに引き続き、本（小説）をたくさん読むことが求められます。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスワーカー	金曜日昼休み。	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	岡本 文子		単 位	4
授業の目的と概要	<p>現代社会を生きる私たちの身につけている衣服は、連綿と受け継がれてきた服飾史の延長線上にある。日常意識する機会の少ない衣服のしくみへの理解を深めることを通して、服飾と社会との関係に関心を持ち、服飾の社会的役割を理解することを目的としている。</p> <p>本演習では、各自が服飾史やファッション・トレンドなどからテーマを設定し、実際にボディを使って、布地をカットイングし、トワルを製作することによって、イメージしたデザインを表現する。トワル製作では布地の特性や衣服のしくみを理解することができる。</p> <p>完成した作品は写真撮影し、画像をデータとしてコンピュータに入力する。 この画像データは4年次の専門ゼミナールに繋がることになる。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考えること」「立案すること」「計画すること」の重要性を認識し、日常のなかからさまざまな課題を見出すことができる。</li> <li>・トワル製作を通して、布地の特性を理解し、その特性を説明できる。</li> <li>・トワル製作を通して、衣服のしくみと人体の関係を理解し、衣服のしくみについて説明できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション (今後の進め方)	研究方法の整理		
第2回	デザインと材料の選定	資料の整理		
第3回	デザインと製作計画	製作計画の確認、材料の確認		
第4回	トワル製作と衣服のしくみ (パニエ ディメンション)	ディテール製作		
第5回	トワル製作と衣服のしくみ (ボトム シルエット)	ディテール製作		
第6回	トワル製作と衣服のしくみ (ボトム 細部)	ディテール製作		
第7回	トワル製作と衣服のしくみ (トップス ベース)	ディテール製作		
第8回	トワル製作と衣服のしくみ (トップス 細部)	ディテール製作		
第9回	トワル製作と衣服のしくみ (コンポジション)	ディテール製作		
第10回	トワル製作と衣服のしくみ (バリエーション)	ディテール製作		
第11回	トワル製作と衣服のしくみ (デコレーション)	ディテール製作		
第12回	トワル製作と衣服のしくみ (トリミング)	ディテール製作		
第13回	トワル製作と衣服のしくみ (バランス)	ディテール製作		
第14回	トワル完成	デザインの確認、写真撮影準備		
第15回	写真撮影	撮影写真の整理		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	90%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 12:00~13:00	メールアドレス		



授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	上村 真仁		単位	4
授業の目的と概要	地域づくりについて学ぶこと、特に地域固有の資源である自然や伝統文化、暮らしを継承する視点からの研究・地域での実践を行うことで、地域課題に主体的に関わり、その解決策を構想する力を養うことを目的とします。3年生の専門ゼミナールⅠ、Ⅱとの協働での開催とします。前年度の専門ゼミナールⅡで企画・立案した研究計画・実践計画に基づき、調査（あるいは地域での実践活動）を進め、最終的には、卒業研究（あるいは実践報告）としてまとめます。※調査（あるいは地域での実践活動）とは、調査は卒業研究を、実践活動は、特定のフィールドでのまちづくりプロセスの企画・実施に参加し報告書を作成することを指す。			
到達目標	地域課題を発見しその解決策について研究あるいは、実践的な立場から地域の実情を踏まえた分析、提案を構想できるようになる 地域のステークホルダーとの良好なコミュニケーションを通じて、研究、実践を進めることができる 自らの研究、実践の成果を論文、もしくは研究、報告書としてまとめることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 ＜授業外学修＞1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は民間シンクタンクにおいて官公庁の環境政策や地域振興施策の立案に関わり、また環境NGOや地域NPOでの持続可能な地域づくりの実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	夏期における卒業研究・実践等の進捗報告	夏期活動成果の取りまとめ		
第2回	卒業研究・実践テーマの見直し	夏期成果をもとに見直し、深化		
第3回	環境コース合同 卒業研究等発表会 討議	研究・実践の実施と発表資料の作成		
第4回	卒業研究・実践のための情報収集と分析 その1 研究・実践の中間発表、討議	情報収集、レジュメ作成		
第5回	卒業研究・実践のための情報収集と分析 その2 研究・実践の中間発表、討議	情報収集、レジュメ作成		
第6回	卒業研究・実践のためのフィールドワーク 計画の作成	補足調査の計画を検討する		
第7回	卒業研究・実践のためのフィールドワーク（現地調査）	対象フィールドでの情報収集と調査（ヒアリング、調査結果の取りまとめ）		
第8回	研究・実践の取りまとめ方針の発表、討議	発表資料の作成		
第9回	卒業研究・実践の報告書取りまとめ（背景、目的、位置付け、方法）	報告書執筆作業		
第10回	卒業研究・実践の報告書取りまとめ（本論、調査データ、実践内容）	報告書執筆作業		
第11回	卒業研究・実践の報告書取りまとめ（結論・まとめ）	報告書執筆作業		
第12回	卒業研究・実践の報告書取りまとめ（素案提出）	報告書作成		
第13回	関係者へのフィードバック資料作成	報告書修正		
第14回	関係者へのフィードバック	発表資料の作成		
第15回	まとめ 卒業研究・実践報告会	大学4年間の振り返り		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%（卒業研究・実践報告書）			
小テスト等	なし			
成果発表	20%（中間、最終発表会）			
受講態度他	20%（ゼミ運営への積極的参加など）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	参加者の主体的な事例調査及びフィールドワークにより進めます。フィールドワークなどで正規の時間外（週末や夏休み）にも活動を行います。また、研究・実践のテーマによっては、シラバスの予定変更や交通費などの負担が発生することもあります。授業の一部を小鳥居小路の町家で実施します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業時に指示します。			
オフィスアワー	月曜日 3限、4限、水曜日 3限、4限	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	安恒 万記		単 位	4
授業の目的と概要	子どもと環境について、学生が自らの問題意識に即して調査、研究を行い、現代社会における子どもと環境に関する課題を見出し、深く考察することを目的とします。 研究課題に関する文献、資料に幅広く触れ、目的にあったデータ収集の方法、適切な分析、問題を発見する力や論理的な能力、加えてそれを発表することでプレゼンテーション能力、さらに、討論やフィールドワークを通してコミュニケーション能力をも身に付けることを期待します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもと環境について、現代社会における問題・課題を発見することができる。</li> <li>2. その問題・課題について、参考文献や先行研究の検索、フィールドワークやアンケートなどの調査を提案することができる。</li> <li>3. その問題・課題について、具体的にまとめることができる。</li> <li>4. テーマに沿って論点を見つけ、ディスカッションすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション	興味、関心のあるテーマを考える		
第2回	年間ゼミナール計画の策定① (グループワーク)	参加イベントやフィールドワーク、ヒアリング調査の情報収集		
第3回	年間ゼミナール計画の策定② (グループワーク)	参加イベントやフィールドワーク、ヒアリング調査の計画立案		
第4回	参考文献、先行研究の整理①	参考文献、先行研究の情報収集		
第5回	参考文献、先行研究の整理とディスカッション②	発表準備		
第6回	フィールドワークC (グループワーク)	調査計画		
第7回	フィールドワークCまとめとディスカッション	発表準備 (筑女ネットを使用して資料準備)		
第8回	文献、先行研究輪読③	発表準備		
第9回	文献、先行研究まとめ③	発表準備		
第10回	文献、先行研究輪読④	発表準備		
第11回	文献、先行研究まとめ④	発表準備		
第12回	フィールドワークD (グループワーク)	発表準備 (筑女ネットを使用して資料準備)		
第13回	フィールドワークDまとめとディスカッション	発表準備 (筑女ネットを使用して資料準備)		
第14回	成果発表とディスカッション	発表準備 (筑女ネットを使用して資料準備)		
第15回	まとめ	課題の整理		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	50%			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な参加を期待します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて適宜授業内で指示します。			
オフィスワー	木曜日 9:10~12:20	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	佐々木 浩		単 位	4
授業の目的と概要	<p>本講義は、専門ゼミナールⅠ、Ⅱ、卒業ゼミナールⅠ、Ⅱと半期の講義が4回連続する講義の2回目となる。この2年間で、人間とその他の動物とが共生していくための持続可能な地域デザインはどのようなものかを考えていく。人間社会が大きく変化してきていることによって、野生動物、家畜など様々な身の回りの動物との関係も変化してきている。1. 関連資料の収集等による課題の探索、2. 課題を解決するための研究計画の立案、3. 調査の実施、4. 結果の分析、5. 地域における実践によって、課題発見、解決能力を身につけることを目的とする。これらの過程で、プレゼンテーションや論理的な議論の技術も学ぶ。この半年では、関連資料を収集して課題の探索を行い、解決策を模索するための研究計画を検討し、予備的な調査を行うことが中心となる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「自然と共生する地域デザイン」について、参考資料を収集して課題を発見することができる。</li> <li>2. 課題の解決策を模索するための研究計画を立案することができる。</li> <li>3. 課題の解決策を模索するため、論理的な議論ができる。</li> <li>4. 課題についてプレゼンテーションすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	夏休みの活動報告	事前に、夏休みの活動の報告の準備。		
第2回	4年生の中間発表会事前発表に参加	卒論について予習し、議論に参加する。		
第3回	フィールドワーク1	必要な準備をする。		
第4回	フィールドワーク2	事前に必要な準備をし、事後に報告書を作成する。		
第5回	文献紹介1	担当者は、文献を読んでレジメを作成する。		
第6回	文献紹介2	担当者は、文献を読んでレジメを作成する。		
第7回	文献紹介3	担当者は、文献を読んでレジメを作成する。		
第8回	計画発表内容の準備1、ディスカッション	必要な準備をする。		
第9回	計画発表内容の準備2、ディスカッション	必要な準備をする。		
第10回	卒論計画発表会予行演習	パワーポイントの準備をしてください。		
第11回	卒論計画発表	パワーポイントの準備をしてください。		
第12回	卒論計画の再検討	発表会の議論を参考に再検討をする		
第13回	卒論計画の決定	必要な準備をする。		
第14回	卒論計画のコース発表	必要な準備をする。		
第15回	卒論計画の修正	来年に向けて準備をする。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	論文紹介のレジメ 40% フィールドワークの報告 20%			
小テスト等	なし			
成果発表	卒論計画発表会 30%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	全回を対面講義で行います。積極的な参加を期待します。就職活動が始まるまでに、出来るだけ卒論を進めます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日 2講時	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	栗木 明裕		単位	4
授業の目的と概要	栗木ゼミ「健康的なライフスタイルを考えるゼミ」では、幸福感（well-being）をテーマに人（心とカラダ）や生活についての調査や実験を通して理解を深め、生活環境や社会環境から健康を捉えてヘルスプロモーションのためのノウハウを考えていく。専門ゼミナールⅠでは、卒業研究に至る研究分野の基礎知識・技術を習得することを目的としている。そのため、ゼミで使用する研究方法をオムニバス形式で学び、自分自身の興味あるテーマを明確にする。これを基礎に専門ゼミナールⅡにおいて研究テーマを設定し、必要な関連資料の収集・整理を行い、研究計画書を作成して具体化していく。さらに、適宜作業内容をアウトプットすることにより、知識を深め体系化する。最終的には4年次の卒業ゼミナールⅠ・Ⅱへと発展し、研究論文としてまとめていくこととなる。			
到達目標	1. 解決すべき現象、問題、疑問事項などの研究課題を絞り込み、研究テーマを決定する。 2. テーマに関する資料、参考文献、先行研究を調査し、その内容をまとめる。 3. 研究計画を作成し、発表する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現（4）-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション：授業の進め方の説明	シラバスの確認と専門ゼミナールⅠの内容を復習（予習）		
第2回	ゼミ研究概論	大学での学び、卒業までのスケジュールを確認する（予習）		
第3回	研究計画について	研究分野を選定する（予習）		
第4回	研究テーマ選定（1）	研究テーマを選定する（予習）		
第5回	研究テーマ選定（2）：発表・ディスカッション	研究テーマとその動機について発表準備をする（予習）		
第6回	情報収集（1）	研究に必要な情報・資料の収集方法を確認する（予習）		
第7回	情報収集（2）：発表・ディスカッション	研究に必要な資料をまとめて発表準備をする（予習）		
第8回	情報収集（3）：発表・ディスカッション	前回の発表で受けた助言をもとに修正する（追加資料を収集など）。（予習）		
第9回	研究方法の検討（1）	収集した資料から研究方法を検討する（予習）		
第10回	研究方法の検討（2）：発表・ディスカッション	発表準備をする（予習）		
第11回	研究方法の検討（3）：発表・ディスカッション	前回の発表で受けた助言をもとに修正する。		
第12回	研究計画書づくり（1）	計画書の作成手順に沿って計画書を作成する（予習）		
第13回	研究計画書づくり（2）：発表・ディスカッション	各自発表準備を行い疑問点などをまとめておく（予習）		
第14回	研究計画書づくり（3）：発表・ディスカッション	前回の発表で受けた助言をもとに修正し、各自の計画書の完成と発表準備		
第15回	まとめと卒業ゼミナールⅠへの準備	発表・ディスカッションで気づいた事項を整理する（予習）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 研究計画書			
小テスト等	実施しない			
成果発表	60%（全授業中に4回課す）			
受講態度他	10% 積極的な態度、発言 私語など受講態度が悪く、授業の進行や他の学生の妨げとなる場合は減点もあり得る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	専門ゼミナールは、卒業ゼミナールへとつながる大切な科目です。この科目で研究の方向性を定めて学びを深めていきます。自分自身で主体的に決断し、進めていかなくてはならないので、みなさんの興味を大切に、自分自身で考えることを大切にします。 研究テーマによっては学外調査を行うことがあるので、その都度指示します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 10：50～12：20（事前連絡要）	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	喜多村 百合・横山 豪志・竹熊 真波・小林 知美		単位	2
授業の目的と概要	本講義は、自身の卒業後のキャリアを見通すこと、卒業論文執筆に向けてのテクニックを磨くことを目的とします。まず、それぞれ興味あるテーマごとに4つのクラスに分かれ、さらに各クラスをいくつかのグループに細分化し、各自テーマを設定し、資料を収集・分析・整理した上で発表を行い、それに対する質疑応答を行い、最後に期末レポートとしてまとめます。授業終盤では、専門ゼミナールⅠで学んだ先生方の専門や自身の問題意識に基づいて「卒業論文希望調査票」を作成・提出し、担当教員が決定されます。また、進路についてのオリエンテーションや4年生代表が行う卒論発表会をつうじて自身のキャリアを考えます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の問題意識にしたがって、論文のテーマを設定し、関連資料を収集・分析することができる。</li> <li>2. 自分の意見を、分かりやすく的確に伝えることができる。</li> <li>3. 質疑応答での他者の意見を踏まえた上で考察を深め、執筆の手順に沿ってレポートを作成できる。</li> <li>4. 進路オリエンテーションや最終講義、卒論発表会などを通じて、自身の将来像を見通すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。          &lt;関連する科目&gt;「専門ゼミナールⅠ」、「卒業ゼミナールⅠ」、「卒業ゼミナールⅡ」、「卒業論文」</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回(9/24)	「専門ゼミナールⅠ」の目的と進め方：クラス分け(A=1201教室、B=1205教室)		決定されたクラスの確認	
第2回(10/1)	発表に向けての準備①資料の調べ方、議論の組み立て方の修得 (クラス別=喜多村6103、小林6204、横山8201、竹熊1205)		各自研究テーマの決定と資料収集(以後毎回)	
第3回(10/8)	喜多村・小林クラス：特別講義①進路オリエンテーション(1201) 横山・竹熊クラス：発表に向けての準備②発表のテーマ決めとプレゼン方法の修得		講義に関するミニレポート執筆①or研究テーマに関する資料収集	
第4回(10/15)	喜多村・小林クラス：発表に向けての準備②発表のテーマ決めとプレゼン方法の修得		研究テーマに関する資料収集or講義に関するミニレポート執筆①	
第5回(10/29)	発表と質疑応答①グループA		発表者はその準備、発表者以外はコメント	
第6回(11/5)	発表と質疑応答②グループB		発表者はその準備、発表者以外はコメント	
第7回(11/12)	発表と質疑応答③グループC		発表者はその準備、発表者以外はコメント	
第8回(11/19)	発表と質疑応答④グループD		発表者はその準備、発表者以外はコメント	
第9回(11/26)	発表と質疑応答⑤グループE		発表者はその準備、発表者以外はコメント	
第10回(12/3)	発表と質疑応答⑥グループF		発表者はその準備、発表者以外はコメント +卒ゼミ希望調査票の提出	
第11回(12/10)	発表と質疑応答⑥グループG		発表者はその準備、発表者以外はコメント	
第12回(12/17)	発表と質疑応答⑧グループH+卒ゼミ担当教員の決定		発表者はその準備、発表者以外はコメント	
第13回(12/24)	発表と質疑応答⑨グループI		発表者はその準備、発表者以外はコメント	
第14回(1/14)	特別講義②卒業論文発表会(各ゼミ代表)		講義に関するミニレポート執筆②	
第15回(1/23予定)	特別講義③石先生最終講義(10/22休講分の補講)		講義に関するミニレポート執筆③及び期末レポートの執筆(2/4ページ)	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%：期末レポート30%、特別講義レポート15%(3×5%)、アジア塾5%、			
小テスト等	0%			
成果発表	20%：発表			
受講態度他	30%：他の受講生の発表に対するコメント等(10×3%)			
受講上の留意点・ルールに関する情報	4年次での学びの集大成「卒業論文」執筆に向けての準備の最終段階となる重要な科目ですので、そのつもりで取り組んでください。期末レポートは4,000字から5,000字で作成し、2月4日(木)までに提出してください。卒論執筆中の4年生は、期末レポートに替えて「アジア文化学科での4年間の学びを振り返って」(1,200字)を作成していただきます。1月14日(木)までに提出してください。メール提出の場合は、件名を「専門ゼミナールⅡ期末レポート」とし、添付ファイル			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に指示します。			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照。		メールアドレス	

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	谷口 博文		単位	4
授業の目的と概要	【課題解決実践ゼミ・プロジェクトデザイン】 専門ゼミナールⅡ（後期）は、前期に行った問題発見、課題設定、解決策創出のアイデアをベースにビジネスプランを作成し、ブラッシュアップしながら新しいビジネス手法を実践的に学びます。そのため、①学外の知恵も借りつつプロトタイプを作り、②現場でのインタビューやヒアリングを通じて課題解決の有効性や持続可能性を検証し、③ソリューションや課題設定の再検討を経て資料にまとめ、④成果発表を行います。具体的には、九州ニュービジネス協議会の「大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」に応募し、その申請、審査、フィードバックを通じて、ビジネスプランの作成方法、調査分析手法、プレゼンテーションスキル等を実践的に学ぶとともに、学外との接触の中で社会の実態に触れ、自らのキャリア形成に繋がります。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 問題発見力を高め、課題解決力及び実践力を身につける。</li> <li>(2) チームや社会に積極的に貢献する姿勢を身につける。</li> <li>(3) 取り組みの成果を効果的に発信できる表現力を身につける。</li> <li>(4) 得意とする分野を開拓し、キャリア形成の足場を築く。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 (9/23)	ビジネスプランコンテスト申請書の作成・提出準備 (対面) 学外メンターの指導	9/28 申請書提出期限		
第2回 (日時変更) (10/1) (木)	3・4限 外部講師による講義・ワークショップ (対面) 濱久人慶応大学講師 ファシリテーションスキルを学ぶ	プロトタイピング		
第3回 (10/7)	ワークショップ (対面) プロジェクトマネジメント、スケジュール作成、フィールドワーク準備	プロトタイピング		
第4回 (10/14)	外部講師による講義・ワークショップ (遠隔) 原口唯講師 プロトタイピングのためのアイディエーション	インタビューの日程調整、動画作成準備		
第5回	時間・場所未定 フィールドワーク 検証 プロトタイプの提供 現場インタビュー 改善点の発見	10月下旬 第1次審査		
第6回 (10/28)	ワークショップ (対面) チームごとの発表概要の検討、シナリオの確定	3分動画作成		
第7回 (11/4)	外部講師による講義と実践的ワークショップ (対面) 藤重知子講師 (仮) プレゼンテーションの技法	11月上旬 動画提出締切		
第8回 (11/11)	ワークショップ (対面) 発表に向けた日程調整 プロジェクトマネジメント	11/14 第2次審査		
第9回 (11/18)	ワークショップ (対面) 筋立て・内容の再検討 資料作成 パワポ・動画作成	内容再検討 資料作成打合せ		
第10回 (11/25)	外部講師による講義と実践的ワークショップ (対面) 藤重知子講師 (仮) 発表練習 撮影	動画編集		
第11回 (12/2)	学内発表 (対面) 審査員による審査 プレゼンテーションの相互評価 審査員からのフィードバック	12月上旬 動画提出締切		
第12回 (12/9)	資料修正 発表練習 (対面) 審査 評価 フィードバック	フィードバック		
第13回 (12/19) (土)	最終審査 (対面or遠隔)	ゼミ報告会		
第14回 (12/23)	レポート作成 個別指導	レポート作成		
第15回 (1/13)	振り返り (対面)	なし		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%			
小テスト等	なし			
成果発表	30%			
受講態度他	授業やチームへの貢献(積極性・質問発言・責任分担) 40%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	進捗状況や外部講師の都合によって日程が変更となる可能性があるため、更新情報に注意してください。遅刻、早退、欠席する場合は理由の如何を問わず、必ず授業時間前に直接教員に連絡してください。授業でモバイルPC、タブレットを使いますので対面式の場合も持参してください(BYOD)。			
教科書	なし			
指定図書	前野隆司「システム×デザイン思考で世界を変える」日経BP社、2014			
参考図書	山口高広「アイデア・メーカー」東洋経済新報社、2015			
オフィスワーク	随時メールで受け付けます。	メールアドレス		

授業科目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	坂本 隆行		単 位	4
授業の目的と概要	<p>〈ゼミテーマ：中小企業がどのように企業ブランドを生成するかについて研究するゼミ〉</p> <p>本ゼミナールは、ブランド力を持つ中小企業が「どのような日々の経営活動を経て企業ブランドを生成しているのか」について、地域の中小企業を訪問調査し、その事例をもとに研究することを目的とします。研究の方法は①企業ブランドの生成を文献から学ぶ②研究対象や問題意識を明確化する③学習した知識をもとに文献から中小企業の事例調査する④事例調査をもとに、持論を展開する、という流れとなります。</p> <p>中小企業は地場経済や特定市場に限定された企業経営をしており、そのため中小企業の企業ブランドの効果は、一般にはなかなか指摘しにくいと言われていています。4年生では、企業ブランドの効果を実態調査することを予定しています。3年次の時点で、中小企業の経営者や従業員の方々の信頼関係を構築できるような、コミュニケーションスキルを高めることも必要です。</p>			
到達目標	<p>①ブランド論に関する基礎理論を理解し説明できる。</p> <p>②企業ブランドの生成理論を理解し説明できる。</p> <p>③中小企業の企業経営と企業ブランドの生成の関連性について理解し説明できる。</p> <p>④文献調査を通して、中小企業の企業ブランドの生成現象をとらえ分析し、自論を説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>社会調査士関連科目と合わせて受講することで、より深い理解が得られます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第1回 ガイダンス			前期の復習をしてください。	
第2回 調査対象の整理			先行研究のまとめを再読して、事前学習をしてください。	
第3回 文献調査のまとめ			先行研究を、体系的にまとめておいてください。	
第4回 文献調査のまとめ 班別報告			事前に報告資料を作成しておいてください。	
第5回 調査対象企業の選定 (文献のリサーチ)			調査対象企業を班の中でイメージしてください。	
第6回 調査企業の概要のまとめ			事前配布の資料を読んで事前学習をしてください。	
第7回 調査企業の研究発表①			当該チームは、調査報告書の前稿を準備してください。	
第8回 調査企業の研究発表②			当該チームは、調査報告書の前稿を準備してください。	
第9回 企業調査の検証			各班でまとめた先行研究を再度復習してください。	
第10回 研究結果の発表①			当番班は、研究結果報告書の前稿を準備してください。	
第11回 研究結果の発表②			登板班は、研究結果報告書の前稿を準備してください。	
第12回 ゼミ内ディスカッション			他のチームの報告内容に対するコメントを用意してください。	
第13回 研究報告書のまとめ 一持論の展開			文献調査でのブランド生成理論の前稿を準備してください。	
第14回 3年次研究報告書の作成			文献調査でのブランド生成理論の前稿を準備してください。	
第15回 まとめ (3年次研究報告書提出)			これまでの研究活動を整理してください。	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	実施しません。			
レポート	50% 与えられた課題や調査報告を、3000字以上のレポートにまとめて提出すること。			
小テスト等	実施しません。			
成果発表	実施しません。			
受講態度他	50% ゼミへの積極的な態度や貢献を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>本ゼミナールでは、チームによる研究調査や討論、チーム別の発表をしてもらいます。</p> <p>授業では積極的に発言・質問・問題提起をし、意見交換が活発になるような積極的な姿勢を求めます。</p> <p>また、毎時チームに適宜課題を出す予定ですので、チーム内での役割分担を意識してチーム内での報告・連絡・相談等コミュニケーションを図ること。</p> <p>欠席・遅刻・早退については事由を明示のうえ、必要な届を提出すること。</p>			
教科書	坂本隆行著『中小企業のコーポレート・ブランド生成—自立した経営を目指して—』晃洋書房、2019年。			
指定図書	特にありません。			
参考図書	講義の中で適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日の昼休み (メール等で、予約することが望ましい)	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルビジネス論【講義】		開講時期	後期
担当教員	藤原 隆信		単位	2
授業の目的と概要	自然環境破壊や少子高齢化、雇用を取り巻く問題（ニートやワーキングプア、ホームレスの問題等）など、現代社会には多様な「社会問題（社会的課題）」が存在しています。そのような社会問題は、政府・自治体といった行政機関やボランティア団体・NPO法人といった非営利組織が、その解決に取り組むのが一般的でした。しかし近年、そのような社会問題の解決をビジネスの手法で（＝お金儲けをしながら）取り組む事業体（社会的企業）が出現しています。本科目では、社会的企業の具体的な事例を取り上げながら、ビジネスによって社会的な課題を解決する方法を学んでいくことにします。（※授業の進捗にあわせて外部講師を招いた授業も実施する予定です）			
到達目標	①現代の社会的課題をビジネスの手法で解決する事業体（社会的企業）について理解し、説明できる。②ソーシャルビジネスの仕組みや行動原理を説明できる。③自分自身の問題意識を元に、どのようなソーシャルビジネスに取り組んでみたいかを説明できる。④上記③について他者と意見交換し、組織的に取り組む方法を考える事ができる。⑤上記④で考えた方法を、発表することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 現 (3) -②-3 現代社会で活躍するために求められる特定分野の知識・技能を身に付けている。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	はじめに ——現代社会の多様な問題とソーシャルビジネス	あなたの身の回りにある「社会問題」について考えて来て下さい。		
第2回	日本で活躍する社会的企業（1） ——病児保育の問題を解決するNPO	第1回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。		
第3回	日本で活躍する社会的企業（2） ——ホームレス問題を解決する有限会社	第2回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。		
第4回	日本で活躍する社会的企業（3） ——ソーシャルビジネスを育成する株式会社	第3回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。		
第5回	世界で活躍する社会的企業（1） ——途上国と先進国の食糧問題を解決するNGO	第4回授業で配布する「授業前課題レポート」をやっけてきてください。		
第6回	世界で活躍する社会的企業（2） ——食品ロスを削減する流通企業	第5回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。		
第7回	女性視点で考えるソーシャルビジネス（1） ——女性の社会進出と女性起業家	第6回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。		
第8回	女性視点で考えるソーシャルビジネス（2） ——全国で盛り上がる「ママ起業」	第7回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。		
第9回	ソーシャルビジネスの事例報告（1） ——外部講師によるレクチャー（日程変更の可能性あり）	第8回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。		
第10回	ソーシャルビジネスの事例報告（2） ——外部講師によるレクチャー（日程変更の可能性あり）	第9回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。		
第11回	ソーシャルビジネスの事例報告（3） ——外部講師によるレクチャー（日程変更の可能性あり）	第10回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。		
第12回	学生視点で考えるソーシャルビジネス（1） ——グループディスカッション	これまでの授業内容を踏まえてディスカッションの準備をしてきて下さい		
第13回	学生視点で考えるソーシャルビジネス（2） ——グループ発表①	これまでの授業内容を踏まえてグループ発表の準備をしてきて下さい。		
第14回	学生視点で考えるソーシャルビジネス（3） ——グループ発表②	これまでの授業内容を踏まえてグループ発表の準備をしてきて下さい。		
第15回	学生視点で考えるソーシャルビジネス（4） ——グループ発表③	これまでの授業内容を踏まえてグループ発表の準備をしてきて下さい。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 期末レポート（50%）			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 第13回～15回の授業で実施するチーム発表の内容を評価します。			
受講態度他	30% 出席状況やTBLへの貢献度（＝チーム討議・クラス討議への積極的参加）を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、授業の中で課題レポートの作成やチームによる討議と発表に取り組んでもらいます。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。	メールアドレス		



授業科目	ソーシャルメディア論【講義】		開講時期	後期
担当教員	古屋 啓子		単位	2
授業の目的と概要	<p>近年のソーシャルメディアの普及はめざましく、日常に不可欠なモノとしてあらたな流通や経済を生みだしている。それは従来のメディアのように一方的なものではなく、双方向の情報のやりとりだからこそ生まれた、つながりが誘因となっているのではないだろうか。</p> <p>本講義では、事例やワークショップを交え、ソーシャルメディアがいかに関人の生活を変え、メディアをはじめとする社会にどのように影響を与えているのかを理解し、その可能性と問題点について考察する。</p> <p>遠隔授業の特性を活かし、TeamsやZoomを使ってネットコミュニケーションの実体験を多く盛り込んでいきます。</p>			
到達目標	<p>ソーシャルメディアの社会での役割を理解し説明できる。</p> <p>ソーシャルメディアを正しく利用できる。</p> <p>ソーシャルメディアの問題点について説明できる。</p> <p>ソーシャルメディアの有効な活用法について紹介できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション ～ソーシャルメディア論 授業の概要～		予習：シラバスを読んでくる		
第2回 歴史からたどるソーシャルメディア ～そもそもソーシャルメディアって何だろう～		予習：Teamsの使い方を把握しておく		
第3回 文字コミュニケーションの体験 ～Teamsのチャットシステムを使って文字だけのコミュニケーションを体験してみよう～		予習：Teamsでのチャットの使い方を把握しておく		
第4回 音声コミュニケーションの体験 ～Teams会議を使って声だけのコミュニケーション体験をしよう～		予習：Teams会議でマイクが使えるように準備する		
第5回 ビデオコミュニケーション体験 ～Teams会議を使って顔の見えるコミュニケーション体験をしよう～		予習：Teams会議でビデオが使えるように準備する		
第6回 ソーシャルメディアの特徴 ～なにげなく使っているSNSの特徴や活用方法をしらべてみよう～		予習：自分はどんな用途でSNSを使っているか考えてくる		
第7回 日記・記録としてのSNS ～1945ひろしまタイムラインを読んでみよう～		予習：広島原爆について調べてくる		
第8回 ソーシャルメディアと広告 ～ユーチューバー、ブロガーの出現は何を物語っているか考えてみよう～		予習：自分の理想的な収入について考えてくる		
第9回 あらたな流通、消費者生成メディア ～個人で生産から販売までこなせるフィールド～		予習：最近買ったものをメモしておく		
第10回 人々が動かされる広告 ロコミ・レビュー ～「事実」と「意見」を読み分けるスキル～		予習：今買いたいものについて考えてくる		
第11回 シェアリング・エコノミーがもたらす新たな経済 ～眠っている資産の活用は？～		予習：借りたいもの、貸したいものを考えてくる		
第12回 ソーシャルメディアの事件 ～ソーシャルメディアで人生を棒に振らないために～		予習：最近の気になる事件について調べてくる		
第13回 ソーシャルメディアの情報共有、拡散にまつわる法とモラル ～シェアする前に知っておくべきことについて考える～		予習：迷惑だと感じる行為について考えてくる		
第14回 災害から見たソーシャルメディア ～ソーシャルメディアを非常時に役立てる～		予習：非常に役に立つアプリやサイトを調べてくる		
第15回 まとめ		予習：講義を振り返り、質問の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	授業内容に対する毎回の考察と課題 (75%)			
成果発表	なし			
受講態度他	授業での活発な態度 (25%)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータおよびWord、ブラウザ、メールの基本的操作ができること。</li> <li>・TeamsやZoomを使うので、マイクやビデオカメラの準備が必要です。スマートフォンでも構いません。</li> <li>・毎回グループワークをします。</li> </ul>			
教科書	データ配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業の前後にTeams、またはメールで相談してください。	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク演習Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	山崎(安)・田中(茂)・川崎(孝)		単位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴでは、相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得することにより、理論と実践の統合を理解できるようになることを主な目的とする。</p> <p>そこで、本演習Ⅰでは、相談援助に欠かすことのできない価値観や心構え、援助関係を形成するための基本概念について理解できるようになることを目的とする。その際には、社会福祉士に求められる理念、価値観、哲学的基礎、つまり専門職としての人間観を形成するための基本的な概念を、相談援助事例を通して理解できるようになることを目的とする。また、具体的な事例検討を通して、福祉専門職として身に付けるべきチームワーク力や問題解決力を育むことを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門的な援助関係形成の重要な基盤である自己覚知ができる。</li> <li>2. 専門的な援助関係形成の重要な基盤である基本的なコミュニケーション技術が習得できる。</li> <li>3. 専門的な援助関係形成の重要な基盤である基本的な面接技術が習得できる。</li> <li>4. 1～3を通して相談援助の基礎的素養が習得できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には社会福祉・児童福祉の実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	自己覚知(1)～自己の特性～	自己の特性を理解する		
第2回	自己覚知(2)～自他の違い～	自他の違いを理解する		
第3回	基本的なコミュニケーション技術習得(1)～コミュニケーションの基礎～	言語的・非言語的なコミュニケーションを理解する		
第4回	基本的なコミュニケーション技術習得(2)～言語的なコミュニケーション～	言語的なコミュニケーションの技法を理解する		
第5回	基本的なコミュニケーション技術習得(3)～非言語的なコミュニケーション～	非言語的なコミュニケーションの技法を理解する		
第6回	ロールプレイ	言葉の二面性をまとめる		
第7回	基本的な面接技術(1)～個別化～	個別化の原則を理解する		
第8回	基本的な面接技術(2)～受容と非審判的態度～	受容、非審判的態度の原則を理解する		
第9回	基本的な面接技術(3)～自己決定～	クライアントの自己決定を理解する		
第10回	基本的な面接技術(4)～バイステックの7原則～	バイステックの7原則をまとめる		
第11回	社会福祉士の倫理綱領	社会福祉士の倫理綱領をまとめる		
第12回	社会福祉士の行動規範	社会福祉士の行動規範をまとめる		
第13回	ソーシャルワークの価値	ソーシャルワークの価値を理解する		
第14回	グループワーク(1)～コミュニケーション技法～	コミュニケーション技法をまとめる		
第15回	グループワーク(2)～ソーシャルワークの倫理と価値～	ソーシャルワークの倫理と価値をまとめる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 課題①～⑥の詳細は、各教員から指示する レポートについては、その都度採点(評価)して、授業時に適宜返却する			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況 + 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関する情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 資格にかかわる科目のため、4回以上の欠席では原則単位取得が認められない(遅刻2回=欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる)。</li> <li>3. 演習による授業のため、当然のこととして学生の積極的な取り組みが求められる。&lt;重要&gt;2つの国家資格取得を希望する学生は、精神保健福祉士の取得希望調査に基づき、精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健</li> </ol>			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク演習Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	山崎(安)・田中(茂)・川崎(孝)		単 位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅱでは、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、具体的な相談援助事例をとりあげながら、社会生活上の諸問題について理解し、問題の発生や解決課題を洞察し、その援助について総合的・包括的・実践的に習得することを目的とする。</p> <p>社会生活・社会問題への視点から、具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む）を活用するとともに、視覚教材の使用や現場訪問を含めて、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。また、具体的な事例検討を通して、福祉専門職として身に付けるべきチームワーク力や問題解決力を育むことを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな生活上の苦難をかかえる人とその問題を理解することができる。</li> <li>2. 個人、家族、地域の人々のつながりや地域に存在する機関や施設、公的・私的な社会資源を理解できる。</li> <li>3. 生活問題発生の際、社会経済的問題や国家施策との関連について考え、その課題を指摘できる。</li> <li>4. コミュニケーションスキルや援助関係の形成スキルが向上する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には社会福祉・児童福祉の実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	社会生活・社会問題への視点	現代社会の諸課題をまとめる		
第2回	社会的排除① アルコール依存等の社会的ストレス	アルコール依存症をめぐる諸課題をまとめる		
第3回	社会的排除② 路上死、孤独死、自殺などの社会的孤立	社会的な孤立の現状を調べる		
第4回	社会的排除③ 外国人などへの社会的排除	社会的に排除されている外国人の具体例を調べる		
第5回	虐待① 家庭における児童や高齢者の虐待	在宅における虐待の現状を調べる		
第6回	虐待② 施設における利用者への虐待	施設における虐待の現状を調べる		
第7回	家庭内暴力① 福祉事務所、司法関係者による把握	家庭内暴力が把握されるまでの経緯を調べる		
第8回	家庭内暴力② 母子生活支援施設、その他のシェルターにおける事例	母子生活支援施設について調べる		
第9回	低所得者① ワーキングプア	ワーキングプアの現状を調べる		
第10回	低所得者② 生活保護受給者、救護施設等への入所者	生活保護受給者の現況をまとめる		
第11回	ホームレス① ホームレスの原因とその実態	ホームレスの現況をまとめる		
第12回	ホームレス② ホームレスの新たな形態（ネットカフェ難民など）	新たな形態のホームレスについて理解する		
第13回	その他の危機状態にある相談援助事例① 日常生活自立支援事業	日常生活自立支援事業を理解する		
第14回	その他の危機状態にある相談援助事例② 成年後見制度	成年後見制度を理解する		
第15回	その他の危機状態にある相談援助事例③ 自然災害・公害・薬害等	災害福祉を理解する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 課題①～④の詳細は、各教員から指示する レポートについては、その都度採点(評価)して、授業時に返却する			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況 + 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない(遅刻2回=欠席1回とみなす)。資格に係わる科目のため別途指示します。</li> <li>3. 演習による授業のため、当然のこととして学生の積極的な取り組みが求められる。</li> </ol>			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規 など			
オフィスワーク	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク演習Ⅲ【演習】		開講時期	前期
担当教員	山崎(安)・納戸(美)		単位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅲでは、ソーシャルワークの方法および地域福祉論の学修を踏まえ、演習Ⅱでとりあげた事例等を題材として、具体的な相談援助技術の習得を目的とする。あわせて地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、地域福祉活動推進の実際について習得することを目指している。ソーシャルワーク実習を控えた時期であり、集団指導並びに個別指導により、実習現場でも想定される相談援助場面の事例や地域福祉の推進に係る事例をとりあげ、援助関係の形成や援助過程について理解をうながすとともに、その関連する地域における総合的・包括的支援を視野に入れた実技指導を行う。また、具体的な事例検討を通して、福祉専門職として身に付けるべきチームワーク力や問題解決力を育むことを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ロールプレイングやグループワークを活用した演習により、コミュニケーション力、援助関係形成・面接技術の習得を図り、実習先において想定される相談援助の実際をより良く理解できる。</li> <li>2. フォーマル、インフォーマルな社会資源を生活問題の実際に合わせて有効活用するため、個人と環境の両側面からのアプローチについて理解を深めると共に、チームアプローチやネットワークワーキングの必要性が理解できる。</li> <li>3. 地域福祉活動におけるソーシャルワーカーの役割を学び社会資源の調整・開発の必要性について理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には社会福祉・児童福祉の実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	相談援助場面及び相談援助の過程① アウトリーチとニーズ把握	アウトリーチについて調べる		
第2回	相談援助場面及び相談援助の過程② インテーク	インテークを理解する		
第3回	相談援助場面及び相談援助の過程③ アセスメントとプランニング	アセスメントを理解する		
第4回	相談援助場面及び相談援助の過程④ 社会資源の活用・調整・開発	社会資源を調べる		
第5回	相談援助場面及び相談援助の過程⑤ 支援の実施とチームアプローチ	チームアプローチを理解する		
第6回	相談援助場面及び相談援助の過程⑥ ネットワーキング	ネットワークワーキングを理解する		
第7回	相談援助場面及び相談援助の過程⑦ モニタリングと効果測定	モニタリングを理解する		
第8回	相談援助場面及び相談援助の過程⑧ 終結とアフターケア	アフターケアの意味を理解する		
第9回	地域福祉活動推進の実際① その意義	各自地域の福祉活動の状況を調べる		
第10回	地域福祉活動推進の実際② アウトリーチとニーズ把握	各自地域のニーズをまとめる		
第11回	地域福祉活動推進の実際③ 地域福祉の計画(1)	各自地域福祉計画を調べる		
第12回	地域福祉活動推進の実際④ 地域福祉の計画(2)	地域福祉計画内容を理解する		
第13回	地域福祉活動推進の実際⑤ ネットワーキング	各自地域のネットワークワーキング状況を調べる		
第14回	地域福祉活動推進の実際⑥ 社会資源の活用・調整・開発	各自地域に必要な資源を開発する		
第15回	地域福祉活動推進の実際⑦ サービスの評価	サービス評価の意味を理解する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 「授業外学修」欄を参照(詳細は講義時に指示する) レポートについては、その都度採点(評価)して、適宜返却する			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況 + 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関する情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない(遅刻2回=欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる)。資格に係る科目のため別途指示します。</li> <li>3. 演習による授業のため、当然のこととして学生の積極的な取り組みが求められる。</li> </ol>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規			
オフィスワーク	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク演習Ⅳ【演習】		開講時期	後期
担当教員	山崎(安)・納戸(美)		単位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅳでは、ソーシャルワーク実習を経験した後の演習であることから、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行うことを目的とする。ソーシャルワーク実習指導Ⅲとの関連性も視野に入れながら、演習クラスのそれぞれに異なる実習先の学生が個別体験を開示・共有し、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅲで学修してきた相談援助や地域福祉の推進に係る知識や技術について再確認し、実践的な知識や技術として一般化し体得できるようロールプレイングやグループワークを活用した実技指導を行う。また、具体的な事例検討を通して、福祉専門職として身に付けるべきチームワーク力や問題解決力を育むことを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな福祉問題に直面する人々への、在宅や施設及び地域の福祉専門機関等の中で展開される相談援助や地域福祉活動の実際について、学生各自の実習での体験を一般化することができる。</li> <li>2. 1について、専門的援助技術の知識や技術として概念化・理論化し、体系立てて理解することができる。</li> <li>3. コミュニケーションスキルや援助関係の形成スキルが向上する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は社会福祉・児童福祉の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	実習での個別体験の開示・共有	実習での個別体験を整理する		
第2回	個別援助の視点と方法(1) ～インテーク～	個別援助からインテークを理解する		
第3回	個別援助の視点と方法(2) ～アセスメント～	個別援助からアセスメントを理解する		
第4回	個別援助の視点と方法(3) ～プランニング～	個別援助からプランニングを理解する		
第5回	個別援助の視点と方法(4) ～モニタリング～	個別援助からモニタリングを理解する		
第6回	個別援助の視点と方法(5) ～アフターケア～	個別援助からアフターケアを理解する		
第7回	個別援助の視点と方法(6) ～振り返りと評価～	個別援助を振り返り、評価する		
第8回	個別援助から支援課題検証(1) ～支援課題をまとめる～	個別援助から支援課題をまとめる		
第9回	個別援助から支援課題検証(2) ～機関別・制度別の支援課題をまとめる～	機関別・制度別の支援課題をまとめる		
第10回	個別援助から支援課題検証(3) ～普遍的な課題をまとめる～	個別課題から普遍的な課題をまとめる		
第11回	各種の援助場面での相談援助実践の概念化・体系化	相談援助に係る技術をまとめる		
第12回	地域福祉の基盤と開発(1) ～アウトリーチ～	事例から地域住民へのアウトリーチを理解し、まとめる		
第13回	地域福祉の基盤と開発(2) ～ネットワークング～	事例からネットワークングの現状を理解し、まとめる		
第14回	地域福祉の基盤と開発(3) ～社会資源の開発～	事例から地域の社会資源の開発を理解し、まとめる		
第15回	地域福祉の基盤と開発(4) ～サービス評価～	事例からサービス評価の意味を理解し、まとめる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 「授業外学習」欄を参照(詳細は講義時に指示する) レポートについては、その都度採点(評価)して、適宜返却する			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況 + 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 資格にかかわる科目のくため、4回以上の欠席では原則単位取得が認められない(遅刻2回=欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる。)</li> <li>3. 演習による授業のため、当然のこととして学生の積極的な取り組みが求められる。</li> </ol>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク演習Ⅴ【演習】		開講時期	前期
担当教員	大西(良)・川崎(孝)・山崎(安)		単位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅴでは、各学生が専門職者として将来的に希望する道に見合った演習内容を主体的に選択する。特化したコースでは、ソーシャルワークのジェネリックな要素、即ち各分野や援助形態に共通する概念、知識、方法、社会資源の体系を、総合的・包括的にとらえながら、それらの要素をさまざまな場面に応じてスペシフィックに適用できる実践力を身につけることができることを目的とする。これらを通して、福祉専門職として身に付けるべきチームワーク力及び問題解決力を育む。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>事例の個別性や複合性に目を向ける視点を養うことができる。</li> <li>利用者の自己決定権を尊重し自立を促進させようとする姿勢や人権擁護・権利擁護の立場が理解できる。</li> <li>コミュニケーションスキルや援助関係の形成スキルが向上する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には社会福祉・児童福祉の実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	マイクロレベルでのソーシャルワークの実践(1) ～マイクロレベルのソーシャルワーク～	マイクロレベルでのソーシャルワーク実践を理解する		
第2回	マイクロレベルでのソーシャルワークの実践(2) ～自己実現～	クライアントの自己実現に向けた支援を理解する		
第3回	マイクロレベルでのソーシャルワークの実践(3) ～QOLの向上～	クライアントのQOL向上に向けた支援を理解する		
第4回	マイクロレベルでのソーシャルワークの実践(4) ～権利擁護～	クライアントの権利擁護を理解する		
第5回	メゾレベルでのソーシャルワークの実践(1) ～メゾレベルでのソーシャルワーク～	メゾレベルでのソーシャルワーク実践を理解する		
第6回	メゾレベルでのソーシャルワークの実践(2) ～自助グループ～	自助グループの活動を調べる		
第7回	メゾレベルでのソーシャルワークの実践(3) ～自治体の独自福祉事業～	自治体の独自福祉事業を調べる		
第8回	メゾレベルでのソーシャルワークの実践(4) ～地域包括ケアシステム～	地域包括ケアシステムを理解する		
第9回	マクロレベルでのソーシャルワークの実践(1) ～マクロレベルのソーシャルワーク～	マクロレベルでのソーシャルワーク実践を理解する		
第10回	マクロレベルでのソーシャルワークの実践(2) ～制度の理解～	制度の狭間について理解する		
第11回	マクロレベルでのソーシャルワークの実践(3) ～制度の狭間解決に向けたソーシャルワーク～	制度の狭間解決に向けたソーシャルワーク実践を理解する		
第12回	マクロレベルでのソーシャルワークの実践(4) ～国内外の関連制度～	国内外の関連制度を調べる		
第13回	困難に直面している対象への支援	マイクロ・メゾ・マクロレベルでの支援内容を調べる		
第14回	困難に直面するリスクのある対象の早期発見・早期介入	早期発見・早期介入の重要性を理解する		
第15回	困難発生予防及び社会参加・活動支援	困難発生予防のために必要なソーシャルワークを理解する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 課題①②の詳細は、各教員から指示する 課題については、その都度採点(評価)して、適宜返却する			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況 + 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業の具体的な進め方について、掲示および第1回めのオリエンテーションで説明するので、指示に十分注意すること。</li> <li>この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。</li> <li>資格にかかわる科目のため、4回以上の欠席では原則単位取得が認められない(遅刻2回=欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる)。</li> </ol>			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク実習【実習】		開講時期	通年
担当教員	池田(和)・山崎(安)・大西(良)・川崎(孝)・納戸(美)・武田(陽)・坂井(和)・甲斐(麻)		単位	4
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理観・人間観、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目的とする。また、関連分野の専門職との連携のあり方及びその方法を実践的に理解できることを目指している。</p> <p>実習生は実習指導者によるスーパービジョンを受け、ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して、実習生及び実習指導者との連絡調整を行い、実習生の状況について把握し、実習教育スーパービジョンを活かした個別指導を行う。</p> <p>また、実習中のスーパービジョンなどを通して、市民としての社会的責任や勤労観、卒業後の自己のキャリアを構想する力を身につけることも課題とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>利用者やその関係者、施設・機関の職員等とのコミュニケーション・スキルとチームワーク力を身につけることができる。</li> <li>利用者理解とそのニーズ把握及び支援計画の作成ができる。</li> <li>利用者やその関係者と援助関係の形成ができる。</li> <li>利用者やその関係者に対する権利擁護及び支援とその評価を展開する問題解決力を身につけることができる。</li> <li>支援におけるチームアプローチ（チームワーク力）の実際を体得できる。</li> <li>社会福祉士としての倫理観・人間観を身につけ、施設・機関の職員としての役割と責任について理解できる。</li> <li>施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際を理解でき、地域社会への働きかけができる。</li> <li>実習全体を通じた体験的・実践的な学習によって、社会福祉専門職に求められる知識・技能を身につけることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>担当教員の中には社会福祉・児童福祉の実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
	年間を通じ24日間（実習時間180時間）以上の配属実習を行うものとする。			
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	100% 実習先指導者の評価および実習記録の評価を基準に、実習指導担当教員が評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>実習に対する課題や問題意識を持ち積極的に取り組むこと。</li> <li>遅刻や欠勤がないよう日頃から心身の健康管理を徹底すること。</li> <li>実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。</li> </ol>			
教科書	『ソーシャルワーク実習の手引き』（筑紫女学園大学）← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『ソーシャルワーク実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は常に実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ【演習】		開講時期	後期
担当教員	山崎(安)・納戸(美)・栗田(紀)・武田(陽)・坂井(和)・甲斐(麻)		単 位	1
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク実習の意義や相談援助に関する知識と技術について具体的かつ実際に理解するとともに、社会福祉士に求められる資質、コミュニケーション・スキル等の技能、倫理観・人間観、自己に求められる課題把握等、基礎的な能力を習得する。</p> <p>そのため、実習分野の中から実習指導者を学外講師として迎え、専門職に求められる知識や技術、資質や倫理、介護等の関連業務の内容やチームアプローチ等について実践現場に対する理解を深めたいと、個別指導・集団指導を通して、実習分野の概要や相談援助の知識や技術、専門職に求められる倫理観・人間観や自己覚知、人権への配慮、および記録の意義等についての基本的な理解を深める。</p> <p>また、これらの学習を通して、市民としての社会的責任や勤労観、卒業後の自己のキャリアを構想する力を身につけることも</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の意義と目的及び実習全体の展開方法について理解できる。</li> <li>2. 利用者理解と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。</li> <li>3. 実習先で必要とされる相談援助の知識やコミュニケーション・スキル等の技術及び関連業務やサービスについて理解できる。</li> <li>4. 実習先の施設・機関がチームによる支援（チームワーク力）で課題解決を行う（問題解決力）展開方法について理解できる。</li> <li>5. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の重要性を理解できる。</li> <li>6. 実習記録の記録内容及び記録方法について理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には社会福祉・児童福祉の実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	ソーシャルワーク実習・実習指導における個別及び集団指導の目的と意義	実習に取り組む姿勢・態度についてノート整理		
第2回	現場に学ぶ① 児童福祉施設	レポート作成と提出（感想と考察）		
第3回	現場に学ぶ② 障害者支援施設	レポート作成と提出（感想と考察）		
第4回	現場に学ぶ③ 高齢者福祉施設	レポート作成と提出（感想と考察）		
第5回	現場に学ぶ④ 行政機関	レポート作成と提出（感想と考察）		
第6回	現場に学ぶ⑤ 社会福祉協議会・医療機関	レポート作成と提出（感想と考察）		
第7回	社会福祉施設・機関の概要① — 沿革・歴史、根拠法と制度	沿革・歴史、根拠法と制度についてノート整理		
第8回	社会福祉施設・機関の概要② — 対象者とニーズ	対象者とニーズについてノート整理		
第9回	社会福祉施設・機関の概要③ — 関連職種・業務とサービス内容	社会福祉施設・機関についてレポート作成と提出		
第10回	対人援助技術の方法① — 人権の尊重と共感的態度（グループワーク、ディスカッションを含む）	人権の尊重と共感的態度についてノート整理		
第11回	対人援助技術の方法② — 対人関係の構築に関する技術（グループワーク、ディスカッションを含む）	対人関係の構築についてノート整理		
第12回	対人援助技術の方法③ — 倫理綱領と守秘義務（グループワーク、ディスカッションを含む）	対人援助技術についてレポート作成と提出		
第13回	記録① — ソーシャルワークにおける記録の意義（秘密保持・プライバシーを含む）	記録の意義についてノート整理		
第14回	記録② — 実習記録ノートの記入方法	記録方法についてノート整理		
第15回	記録③ — 記録（メモ等を含む）の取り方	記録についてレポート作成と提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% 担当教員が指示するレポートなどの提出物			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50% 授業に対する主体性			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の具体的な進め方について、第1回めの授業で説明するので、指示に十分注意すること。</li> <li>2. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのこと、レポート等の提出期限は必ず守ること。</li> <li>3. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。資格に係わる科目のため別途指示します。</li> </ol>			
教科書	『ソーシャルワーク実習の手引き』（筑紫女学園大学） ← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『ソーシャルワーク実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は常に実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		



授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ【演習】		開講時期	前期
担当教員	池田(和)・山崎(安)・大西(良)・納戸(美)・川崎(孝)・武田(陽)・坂井(和)・甲斐(麻)		単位	1
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク実習の事前指導を行い、相談援助に係る知識とコミュニケーション・スキル等の技術を体得するとともに、社会福祉士に求められる資質、技能、倫理観・人間観などを習得する。</p> <p>各自の配属実習先施設・機関等についての理解を深め、実習先で事前の現場体験学習及び見学実習を行い、それらを踏まえて実習先で必要とされる相談援助の知識とコミュニケーション・スキル等の技術の理解のうえに、各自の実習目標および課題を設定した「実習計画書」を作成する。あわせて実習に臨むに当たって、個人のプライバシーの保護と守秘義務等の再認識や実習記録の意義と内容および方法などを習得する。</p> <p>また、この過程を通して、市民としての社会的責任や勤労観、卒業後の自己のキャリアを構想する力を身につけることも課題とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習先施設・機関等の利用者、サービス内容の理解を通して、社会福祉現場における問題解決力を身につけることができる。</li> <li>2. 相談援助の知識と技術並びに関連業務の内容及びチームアプローチの実際（チームワーク力）について体験的に理解できる。</li> <li>3. 実習での個人のプライバシーの保護や守秘義務の重要性を理解できる。</li> <li>4. 実習中の実習記録への記入内容及び方法について習得できる。</li> <li>5. 実習に臨んでの目標や課題を設定し、実習指導者・担当教員の指導のもと実習計画書を作成できる。</li> <li>6. 実習の事前学習を通して、社会福祉専門職に求められる知識・技能を身につけることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は社会福祉・児童福祉の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ソーシャルワーク実習の目的と意義	実習に臨む姿勢・態度についてノート整理		
第2回	実習先機関・施設の理解① — 沿革、根拠法と制度的位置	機関・施設の総合的理解についてノート整理		
第3回	実習先機関・施設の理解② — 利用者理解、サービス内容	機関・施設利用者とサービスの理解についてノート整理		
第4回	実習先機関・施設の理解③ — 関連職種（介護や保育等）と連携	多職種連携の理解についてノート整理		
第5回	実習先機関・施設の理解④ — 実習先機関・施設で必要とされる知識と方法	知識と方法の理解についてノート整理		
第6回	実習計画書の作成① — 実習計画書の意義と内容	実習計画書の意義と内容についてノート整理		
第7回	実習計画書の作成② — 実習計画書の様式と書き方	実習計画書の様式と書き方についてノート整理		
第8回	実習計画書の作成③ — 実習計画の目標と課題設定①（実習先の特徴）	実習先の特徴についてノート整理		
第9回	実習計画書の作成④ — 実習計画の目標と課題設定②（実習課題の明確化）	実習課題の明確化と実習計画書の作成		
第10回	実習計画書の作成⑤ — 実習計画の目標と課題設定③（実習課題達成のために必要なこと）	実習計画書の作成・提出		
第11回	実習記録ノートの書き方① — 実習記録ノートの意義と内容	記録の意義と内容についてノート整理		
第12回	実習記録ノートの書き方② — 実習中の記録（メモ等）の取り方	記録の方法についてノート整理		
第13回	倫理綱領と守秘義務① — 社会福祉士及び介護福祉士法と守秘義務についてディスカッション	ソーシャルワーカーの倫理についてノート整理		
第14回	倫理綱領と守秘義務② — 個人情報保護法とプライバシーについてディスカッション	個人情報、プライバシーへの配慮についてノート整理		
第15回	実習の心得について — グループワークとディスカッション	実習に向けての最終確認		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% 担当教員が指示するレポートなどの提出物			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50% 授業に対する主体性			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのこと、レポート等の提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。資格に係わる科目のため別途指示します。</li> <li>3. つねに実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。</li> </ol>			
教科書	『ソーシャルワーク実習の手引き』（筑紫女学園大学） ← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『ソーシャルワーク実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は常に実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ【演習】		開講時期	前期
担当教員	池田(和)・山崎(安)・大西(良)・川崎(孝)・納戸(美)・武田(陽)・坂井(和)・甲斐(麻)		単 位	1
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク実習に向けた事前訪問（実習先指導者と実習計画の内容確認および修正、実習中の指示などの機会、原則として2回の訪問を行う）についての事前指導と事後指導、ならびに実習中の巡回訪問指導（週に1回行う）のための授業であり、ソーシャルワーク実習指導Ⅱで設定した学生各自の実習課題達成を確実なものとするを目的とする。</p> <p>また、実習中のスーパービジョンなどを通して、市民としての社会的責任や勤労観、卒業後の自己のキャリアを構想する力を身につけることも課題とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習先機関・施設との間で実習計画の明確化を図ることができる。</li> <li>2. 実習先機関・施設における職場実習の実際を把握できる。</li> <li>3. 実習先機関・施設における職場実習の実際（現場における倫理観・人間観やコミュニケーション・スキル等）を把握できる。</li> <li>4. 実習中における実習記録ノートへの記録内容と方法について吟味できる。</li> <li>5. ソーシャルワーク実習における事例研究と自己覚知について理解を深めることができる。</li> <li>6. スーパービジョンを通して、社会福祉専門職に求められる知識・技能（チームワーク力、問題解決力を含む）を身につけることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には社会福祉・児童福祉の実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	実習先機関・施設への事前訪問の意義、実習中の具体的指導方法について	事前訪問および実習中の指導方法について確認		
第2回	実習先機関・施設への事前訪問（1回目）の事前指導	実習計画内容の確認と実習先指導者への説明の仕方		
第3回	実習先機関・施設への事前訪問（1回目）の事後指導	1回目事前訪問の成果と課題確認		
第4回	実習先機関・施設への事前訪問（1回目）をふまえた実習計画明確化についての指導（グループワークを含む）	実習先の現状に合った実習計画の明確化		
第5回	実習先機関・施設への事前訪問（2回目）の事前指導	1回目の事前訪問で確認した課題についての検討		
第6回	実習先機関・施設への事前訪問（2回目）の事後指導	2回目事前訪問の成果と課題確認		
第7回	実習先機関・施設への事前訪問（2回目）をふまえた実習計画明確化についての指導（グループワークを含む）	実習先の現状に合った実習計画の明確化		
第8回	職場実習の体験をふまえたスーパービジョン	職場実習の成果と課題確認		
第9回	職場実習に関する実習記録についての指導	現場での実習記録確認		
第10回	職種実習の体験をふまえたスーパービジョン	職種実習の成果と課題確認		
第11回	職種実習に関する実習記録についての指導	現場での実習記録の確認と修正		
第12回	ソーシャルワーク実習の体験をふまえたスーパービジョン（グループワークを含む）	ソーシャルワーク実習全体の成果と課題確認		
第13回	ソーシャルワーク実習に関する実習記録についての指導	実習記録全体の整理・点検		
第14回	ソーシャルワーク実習における事例研究に対する指導（発表とディスカッション）	実習中に接した事例についてのレポート作成		
第15回	ソーシャルワーク実習における自己覚知に関する指導（発表とディスカッション）	実習体験を通しての自己覚知と今後の課題について整理		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	20% 担当教員が指示するレポートなどの提出物			
小テスト等	0%			
成果発表	30% 事前訪問についての指導、巡回指導時の受け答えなど			
受講態度他	50% 特に実習先との関係づくりを重視した実習への取り組み態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業では特に実習先指導者との関係が出てくるので、学ぶ姿勢や態度に十分注意すること</li> <li>2. 事前訪問や実習について不安があれば、すぐに担当教員や実習支援センターに相談すること</li> </ol>			
教科書	『ソーシャルワーク実習の手引き』（筑紫女学園大学） ←大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『ソーシャルワーク実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は常に実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ【演習】		開講時期	後期
担当教員	池田(和)・山崎(安)・大西(良)・川崎(孝)・納戸(美)・武田(陽)・坂井(和)・甲斐(麻)		単 位	1
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク実習の事後指導として、個別・集団指導を通して、実習での具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を修得する。</p> <p>実習後の教育として、各自が事前に設定した実習計画書を中心として、各自の実習記録や実習体験を踏まえた振り返りを行い、演習クラス単位及び全体報告会や個別指導・集団指導を通して、具体的な体験や援助実践を総括し、専門職がもつべき倫理観・人間観、現場で求められるコミュニケーション・スキル等の実践的・専門的援助技術の課題を踏まえた実習報告書を作成する。</p> <p>また、実習の事後学習を通して、市民としての社会的責任や労働観、卒業後の自己のキャリアを構想する力を身につけることも課題とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習クラス及び全体での報告会を通して、各自の実習記録や体験を整理するレポートを作成できる。</li> <li>2. 個別・グループによるスーパービジョンを通して、実習中の行動の意味づけ、ディレンマの解消等の振り返りができる。</li> <li>3. 実習記録や体験を客観化し、実習総括レポートと実習報告書を作成できる。</li> <li>4. 実習先の評価表と自己評価を踏まえて、各自の今後の学習課題を明らかにできる。</li> <li>5. 事後学習を通して、社会福祉専門職に求められる知識・技能（チームワーク力、問題解決力を含む）を身につけることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には社会福祉・児童福祉の実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	各班での実習報告	報告スライドの作成と報告		
第2回	ソーシャルワーク実習の報告会① — プレゼンテーションとディスカッション (全体報告会)	報告スライドの作成と報告		
第 3回	ソーシャルワーク実習の報告会② — プレゼンテーションとディスカッション (全体報告会)	報告スライドの作成と報告		
第 4回	ソーシャルワーク実習の報告会③ — プレゼンテーションとディスカッション (全体報告会)	報告スライドの作成と報告		
第 5回	実習報告書の作成① — 実習報告書の意義と目的	実習報告書の意義と目的についてノート整理		
第 6回	実習報告書の作成② — 実習報告書の書き方	実習報告書の書き方についてノート整理		
第 7回	実習報告書の作成③ — 実習報告書の第一次草稿作成	実習報告書第一次草稿の作成・提出		
第 8回	実習報告書の作成④ — 実習報告書の第二次草稿作成	実習報告書第二次草稿の作成・提出		
第 9回	実習報告書の作成⑤ — 実習報告書の提出	実習報告書の作成・提出		
第10回	実習評価表と自己評価① — 実習成果の振り返り	実習の総括		
第11回	実習評価表と自己評価② — 学習課題の発見と整理	今後の学習課題の確認		
第12回	実習成果とディレンマ① — 個別・集団指導 (グループワークとディスカッションを含む)	実習で感じたディレンマについて検討		
第13回	実習成果とディレンマ② — 自己覚知 (グループワークとディスカッションを含む)	自己覚知についてその内容の整理と検討		
第14回	実習報告① (全体会)	発表者のプレゼンテーションを聞いてのまとめ		
第15回	実習報告② (全体会)	実習の総括と学習課題について最終確認		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% 実習報告書			
小テスト等	0%			
成果発表	25% 実習報告会での報告			
受講態度他	25% 授業に対する主体性			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのこと、レポート等の提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない(遅刻2回=欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる)。</li> <li>3. つねに実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。</li> </ol>			
教科書	『ソーシャルワーク実習の手引き』(筑紫女学園大学) ← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『ソーシャルワーク実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は常に実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク総論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	大西 良		単 位	2
授業の目的と概要	現代社会における社会福祉士・精神保健福祉士の役割と存在意義を理解し、専門職としての知見を深める。また社会的に困難を抱える人々へのソーシャルワーク（相談援助）の理念および方法について学び、対人援助職としての自覚と専門性を意識することを目的とする。ソーシャルワーク（相談援助）における社会的包摂と社会的排除、ノーマライゼーション、権利擁護、チームアプローチなどの重要な概念について理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の役割と意義を理解する</li> <li>2. ソーシャルワーク（相談援助）の理念を説明できる</li> <li>3. ソーシャルワークの概念、構成要素、形成過程を理解する</li> <li>4. ソーシャルワークの方法と技術を理解する</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福（3）-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ソーシャルワークとは何か	教科書の第1章（4～23ページ）を読んで予習してくる		
第2回	ソーシャルワークが求められる社会状況	教科書の第1章（4～23ページ）を読んで予習してくる		
第3回	ソーシャルワークの視点と役割 ～第1章のまとめとディスカッション～	教科書の第1章（4～23ページ）を読んで予習してくる		
第4回	ソーシャルワークとソーシャルワーカー	教科書の第2章（26～45ページ）を読んで予習してくる		
第5回	ソーシャルワーカーの資格	教科書の第2章（26～45ページ）を読んで予習してくる		
第6回	社会福祉士の役割と仕事	教科書の第2章（26～45ページ）を読んで予習してくる		
第7回	ソーシャルワーカーの専門性 ～第2章のまとめとディスカッション～	教科書の第2章（26～45ページ）を読んで予習してくる		
第8回	ソーシャルワークのグローバル定義	教科書の第3章（48～65ページ）を読んで予習してくる		
第9回	ソーシャルワークの歴史 ～第3章のまとめとディスカッション～	教科書の第3章（48～65ページ）を読んで予習してくる		
第10回	ソーシャルワークを支える理念	教科書の第4章（68～87ページ）を読んで予習してくる		
第11回	一人ひとりの「生活」を「支援する」ということと、ソーシャルワークの理念	教科書の第4章（68～87ページ）を読んで予習してくる		
第12回	ソーシャルワークにおける「利用者本位」とは何か	教科書の第4章（68～87ページ）を読んで予習してくる		
第13回	ソーシャルワークにおける「自立支援」とは何か	教科書の第4章（68～87ページ）を読んで予習してくる		
第14回	ソーシャルワークを支えるノーマライゼーションと社会的包摂 ～第4章のまとめとディスカッション～	教科書の第4章（68～87ページ）を読んで予習してくる		
第15回	専門職と倫理綱領 ～第5章のまとめとディスカッション～	教科書の第5章（90～103ページ）を読んで予習してくる		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	50% 遠隔授業の中で課題を出すので、調べたこと等をまとめて提出すること（筑女ネットの活用） ※提出された課題はその都度採点（評価）して、適宜返却します。			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的な受講を求める</li> <li>2. 受講にあたっては、予習と復習を必ずすること</li> </ol>			
教科書	「新・基礎からの社会福祉2 ソーシャルワーク」 ミネルヴァ書房			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で随時紹介する			
オフィスアワー	月曜日1講目および火曜日1講目	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク総論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	大西 良		単位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク総論Ⅰで学んだソーシャルワークの概念、相談援助の価値や理念を基礎として、相談援助に関わる専門職について理解する。また相談援助専門職の概念、専門職倫理と倫理的ジレンマなど相談援助の実践について理解することを目的とする。事例検討を通じて、ジェネラリスト・ソーシャルワークによる相談援助について学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助にかかる専門職の概念と範囲を理解する。</li> <li>2. 相談援助専門職の概念を理解する。</li> <li>3. 専門職倫理と倫理的ジレンマについて理解を深める。</li> <li>4. 総合的かつ包括的な相談援助の全体像について認識できる。</li> <li>5. 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論を説明できる。</li> <li>6. 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能を理解する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ソーシャルワークの共通基盤	教科書の第6章(108～111ページ)を読んで予習してくる		
第2回	個人や集団にかかわるソーシャルワーク	教科書の第6章(112～115ページ)を読んで予習してくる		
第3回	地域を対象とするソーシャルワーク	教科書の第6章(116～119ページ)を読んで予習してくる		
第4回	社会環境への働きかけとその他の関連技術	教科書の第6章(120～123ページ)を読んで予習してくる		
第5回	ソーシャルワークの展開過程	教科書の第6章(124～127ページ)を読んで予習してくる		
第6回	権利擁護が求められる背景	教科書の第7章(130～133ページ)を読んで予習してくる		
第7回	権利擁護とは何か	教科書の第7章(134～137ページ)を読んで予習してくる		
第8回	ソーシャルワークに求められる総合的かつ包括的な援助	教科書の第8章(144～147ページ)を読んで予習してくる		
第9回	地域における多職種連携	教科書の第8章(148～151ページ)を読んで予習してくる		
第10回	多職種連携によるチームアプローチを機能させるためのソーシャルワーカーの役割	教科書の第8章(152～155ページ)を読んで予習してくる		
第11回	チームカンファレンス、サービス担当者会議、地域ケア会議の必要性 ～第8章のまとめとディスカッション～	教科書の第8章(156～157ページ)を読んで予習してくる		
第12回	関係性に着目するソーシャルワーカー	教科書の第9章(160～163ページ)を読んで予習してくる		
第13回	一人前になるために必要なトレーニング	教科書の第9章(164～171ページ)を読んで予習してくる		
第14回	私の支援を振り返る ～スーパービジョンの必要性～	教科書の第9章(176～179ページ)を読んで予習してくる		
第15回	まとめ	授業の第1回から第14回までの内容を復習してくる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	30% 講義の中で確認テストを行ったり、調べた内容等の提出を求めたりします。期日までに回答(提出)するようにしてください。			
成果発表	20% 資料の作成および提出			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2/3(10回)以上の出席が必要である</li> <li>2. 積極的な受講を求める</li> <li>3. 受講にあたっては、予習と復習を必ずすること</li> <li>4. 確認テストやレポートの提出は、期日までに回答(提出)すること</li> </ol>			
教科書	「新・基礎からの社会福祉2 ソーシャルワーク」 ミネルヴァ書房			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で随時紹介する			
オフィスアワー	月曜日1講目	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワークの方法Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	大西(良)、納戸(美)、福崎(千)		単位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーカー（社会福祉士）の役割と機能について説明できる。          ソーシャルワーク（相談援助）の展開過程を理解し、クライアントを支援する具体的イメージを想起できるようになる。          ソーシャルワークにおける当事者主体のソーシャルワークの展開の意義を理解する。          また将来専門職として働く際に、相談援助の過程を明確に意識化することができることを目的としている。</p>			
到達目標	<p>1. ソーシャルワーカーの役割と機能について理解し、説明できる。          2. ソーシャルワークの展開過程を理解し、説明できる。          3. 事例を通して相談援助の展開ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。          福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。          &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ソーシャルワーカーの役割と相談援助（ソーシャルワーク）の概要を理解する（福崎）	事後学習する		
第2回	相談援助における援助関係（1）：援助関係を構築するための原則を理解する（大西）	教科書等を用いて、事後学習する		
第3回	相談援助における援助関係（2）：バ이스テックの7原則を理解する（大西）	教科書等を用いて、事後学習する		
第4回	相談援助における援助関係（3）：ソーシャルワークにおける援助関係の特徴を理解する（大西）	教科書等を用いて、事後学習する		
第5回	相談援助の展開過程（1）：相談援助の展開過程を理解する（大西）	教科書等を用いて、事後学習する		
第6回	相談援助の展開過程（2）：インテーク①基本的原則を理解する（大西）	教科書等を用いて、事後学習する		
第7回	相談援助の展開過程（3）：インテーク②面接の方および契約手続きを理解する（大西）	教科書等を用いて、事後学習する		
第8回	相談援助の展開過程（4）：アセスメント①アセスメントの方法と技術を理解する（納戸）	教科書等を用いて、事後学習する		
第9回	相談援助の展開過程（5）：アセスメント②アセスメントツールを活用できる（納戸）	教科書等を用いて、事後学習する		
第10回	相談援助の展開過程（6）：プランニングと支援（介入）方法を理解する（納戸）	教科書等を用いて、事後学習する		
第11回	相談援助の展開過程（7）：モニタリングと再アセスメントを理解する（納戸）	教科書等を用いて、事後学習する		
第12回	相談援助の展開過程（8）：終結・効果測定・事後評価・フォローアップを理解する（納戸）	教科書等を用いて、事後学習する		
第13回	相談援助のための記録の技術（納戸）	教科書等を用いて、事後学習する		
第14回	相談援助の実際（大西・納戸）	教科書等を用いて、事後学習する		
まとめ（大西・納戸）	1～14回までの授業内容の復習			
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％			
小テスト等	40％ 講義の中で課題を出すので、調べたこと等をまとめて提出すること			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 筑女ネットを通して、随時レポートなどの課題を課すため、提出物および提出期限は必ず守ること。			
教科書	「新・社会福祉士養成講座 第7巻 相談援助の理論と方法Ⅰ」 第3版 中央法規			
指定図書	特になし			
参考図書	『相談援助演習 [第4版] —ソーシャルワーク演習【社会福祉士シリーズ21】』 弘文堂、『社会福祉士 相談援助演習 第2版』 中央法規 その他、授業の中で随時紹介する			
オフィスワー	月曜日 4限（納戸美佐子）	月曜日 1限（大西良）	メールアドレス	

授業科目	ソーシャルワークの方法Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	大西 良・納戸 美佐子		単 位	2
授業の目的と概要	ソーシャルワーク（相談援助）の視点を生態学（エコロジカル）およびシステム理論の枠組みから理解すること。また多様な実践アプローチを学ぶことによってソーシャルワーカー（社会福祉士）が行う対人援助方法の深さと多様性が理解できるようになることを目的としている。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの実践モデルを理解し、事例を読んで、その事例で用いたアプローチや方法がどのような理論に基づいているかを説明できるようになる。</li> <li>2. ソーシャルワーク（相談援助）の展開過程を理解し、クライアントの状況に応じたアプローチを考察することができる。</li> <li>3. ソーシャルワークにおける当事者主体のソーシャルワーク実践アプローチの意義を理解する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 福 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	相談援助における対象の理解	教科書の第1章第1・2節（P2～P20）を熟読してくる		
第2回	ケースマネジメント（ケアマネジメント）①	教科書の第2章第1・2節（P28～P38）を熟読してくる		
第3回	ケースマネジメント（ケアマネジメント）②	教科書の第2章第3・4・5節（P39～P53）を熟読してくる		
第4回	グループを活用した相談援助	教科書の第3章第1・2節（P60～P80）を熟読してくる		
第5回	コーディネーション	教科書の第4章第1・2節（P82～P91）を熟読してくる		
第6回	ネットワーキング	教科書の第4章第3・4・5節（P92～P104）を熟読してくる		
第7回	相談援助における社会資源の活用・調整・開発	教科書の第5章第1・2・3節（P106～P126）を熟読してくる		
第8回	ジェネラリスト・ソーシャルワーカーとしての社会福祉士について理解する	教科書を用いて、事後学習する		
第9回	ソーシャルワーク実践アプローチ（1）：治療モデル・生活モデル・ストレングスモデルについて理解する	教科書を用いて、事後学習する		
第10回	ソーシャルワーク実践アプローチ（2）：問題解決アプローチ・課題中心アプローチを理解する	教科書を用いて、事後学習する		
第11回	ソーシャルワーク実践アプローチ（3）：危機介入アプローチ・行動変容アプローチを理解する	教科書を用いて、事後学習する		
第12回	ソーシャルワーク実践アプローチ（4）：エンパワメントアプローチを理解する	教科書を用いて、事後学習する		
第13回	事例考察によるアプローチの理解（1）：学校領域における支援事例	教科書を用いて、事後学習する		
第14回	事例考察によるアプローチの理解（2）：地域福祉領域における支援事例	教科書を用いて、事後学習する		
第15回	まとめ	教科書を用いて、事後学習する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% レポート課題の提出を求めるので、期日（後日、お知らせします）までに提出すること			
小テスト等	50% 小テストや振り返りワーク等については、筑女ネット及び授業内で説明する。筑女ネットに提出する。			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習復習を行い講義に臨むこと。なお、随時レポートなどの課題を課すため、提出物および提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 確認問題または振り返りワークの提出により出席を確認する（筑女ネットにおいて説明）。2/3（10回）以上の出席でテスト受験資格を得ることができる。</li> <li>3. 学生の理解状況に応じて進めるため、各回のテーマや内容等を若干変更する場合がある。</li> </ol>			
教科書	「新・社会福祉士養成講座 第8巻 相談援助の理論と方法Ⅱ」 第3版 中央法規			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で随時紹介する			
オフィスアワー	月曜日 9：10～10：30	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワークの方法Ⅲ【講義】		開講時期	前期
担当教員	川崎 孝明		単位	2
授業の目的と概要	社会福祉の援助方法・技術は、人とくらしを地域や制度等の生活条件と一体のものとしてトータルに把握したうえで、それぞれに働きかけていく。そのため、社会福祉の対象課題である生活問題の性質に応じた援助技術の視点と方法の体系をまずおさえる必要がある。そのうえで、この授業では援助方法の体系に位置づけて、連携・ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発などの地域をベースとした援助の方法・技術について理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの方法として主に地域を基盤としたアセスメントおよび支援展開の考え方と方法を理解し説明することができる。</li> <li>2. 実際にニーズ把握等の生活課題の分析と支援方法を思考でき、一連の作業において具体的に記述し表現できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 福 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ソーシャルワークにおける方法体と講義における範囲	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
第2回	生活問題に対する方法としてのソーシャルワーク	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
第3回	コーディネーションの目的と意義・方法・技術 と事例	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
第4回	ネットワーキングの意義と目的・方法	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
第5回	総合的なネットワークの形成の事例	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
第6回	社会資源の活用・調整・開発の意義・目的	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
第7回	社会資源の活用・調整・開発の意義	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
第8回	生活と地域をトータルにアセスメントし援助計画を作成する方法の演習①一人寄りがない人のニーズ	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
第9回	生活と地域をトータルにアセスメントし援助計画を作成する方法の演習②一人寄りがない人の支援展開	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
第10回	記録の意義、目的、方法、留意点（個人情報保護含む）	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
第11回	ソーシャルアクションの事例	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
第12回	アウトリーチの目的・方法	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
第13回	スーパービジョンの意義・目的・方法、留意点	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
第14回	地域をベースとした援助事例①一多職種連携	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
第15回	地域をベースとした援助事例②一家計相談支援	振り返りシートにて授業内容のまとめと問題点を整理		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70%（フォードバックについて、事前に評価項目・基準を示し、教員コメントをつけて返却する。）			
小テスト等	課題シート（30%）			
成果発表	なし			
受講態度他	原則として、単位認定には15回の授業の3分の2以上の出席を必要とする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講者が不快な思いをしないよう講義中の私語は厳禁とする。ルールを守ることができない者は途中退席を命じる場合があるが、その場合は欠席扱いとする。			
教科書	特になし			
指定図書	講義中に紹介する。			
参考図書	社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第2版』（中央法規、2011年）			
オフィスアワー	月曜日4講目および火曜日4講目	メールアドレス		



授業科目	ソーシャルワークの方法Ⅳ【講義】		開講時期	後期
担当教員	川崎 孝明		単位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワークの方法Ⅰ～Ⅲをふまえて関連講義と結びつけながら相談援助の方法を理解する。  相談援助場面における専門職としての価値・倫理および知識、技術を理解する。  相談援助場面における記録の意義、目的、様式について習熟し、個人情報保護の重要性を理解し、記録物の管理ができる。  スーパービジョンの意義、方法を理解し、自己評価により課題を明確化し改善点を確認する。  事例を通して援助の実際を理解することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助における記録や情報管理について理解する。</li> <li>2. 相談援助における個人情報保護の意義と重要性について理解する。</li> <li>3. スーパービジョンの意義、重要性について理解する。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記録の意義を理解し、目的に応じた記録の書き方を修得する。</li> <li>2. 相談援助におけるIT活用について理解し、説明することができる。</li> <li>3. 個人情報保護の重要性や取り扱いについて理解できる。</li> <li>4. 事例分析の意義・方法を理解し、支援方法を考えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。  福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	記録の意義とその活用目的を理解する	課題:教科書『相談援助の理論と方法Ⅰ』第13章第1節を熟読してくる		
第2回	記録の方法および留意点を理解する	課題:社会福祉実習で用いた記録物の取り扱い方法等について振り返る		
第3回	記録の様式と書き方 および目的に応じた記録の活用法を理解する	課題:教科書『相談援助の理論と方法Ⅰ』第13章第2節を熟読してくる		
第4回	相談援助における情報通信技術 (ICT) 活用の意義を理解する	課題:教科書Ⅰ『相談援助の理論と方法Ⅰ』第13章第3～4節を熟読してくる		
第5回	相談援助におけるICT活用の現状を知る	課題:教科書『相談援助の理論と方法Ⅱ』第12章第1節を熟読してくる		
第6回	相談援助におけるICT活用の留意点を理解する	課題:IT機器の有効活用とIT活用の可能性について考察する		
第7回	権利擁護活動における個人情報保護の重要性を理解する	課題:教科書『相談援助の理論と方法Ⅱ』第11章を熟読してくる		
第8回	相談援助における個人情報保護の意義と目的を理解する	課題:社会福祉実習現場での個人情報保護について考察する		
第9回	相談援助における個人情報保護の留意点を理解する	課題:相談援助における個人情報保護の取り扱いについて考察する		
第10回	相談援助の実際① 事例分析—DVケースへの対応を理解する	課題:DV事例についての新聞記事等を読み、生活課題や支援を考察する		
第11回	相談援助の実際② 事例分析—虐待ケースへの対応を理解する	課題:虐待事例について新聞記事等を読み、生活課題や支援を考察する		
第12回	スーパービジョンの意義と目的、方法を理解する	課題:教科書『相談援助の理論と方法Ⅱ』第9章第1節を熟読してくる		
第13回	スーパービジョンの留意点を理解し実際どのように行われているのか理解する	課題:教科書『相談援助の理論と方法Ⅱ』第9章第2節を熟読してくる		
第14回	コンサルテーションを理解する	課題:教科書『相談援助の理論と方法Ⅱ』第9章第3節を熟読してくる		
第15回	相談援助の実際② 事例分析 災害時における支援者のための支援を考察する	課題:授業で提示した課題を調べてくる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	課題シート20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①本講義はオンデマンド型で行う(音声付きスライドをダウンロードして、授業を受けること)。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編集『相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』中央法規			
指定図書	なし			
参考図書	授業の際に適宜指示する			
オフィスアワー	火曜日 14:50～16:20	メールアドレス		

授業科目	総合講座（人権・平和）【講義】		開講時期	後期
担当教員	松下 博文・小川 直樹・浅田 淳一・一木 順・金見 倫吾		単位	2
授業の目的と概要	<p>人権・平和について、様々な視角から学ぶことによって、人権・平和を尊重しながら生きることができるようになる。ともすればそのことに無自覚になりがちですが、人権・平和は常に私たちを支えています。</p> <p>例えば日本国憲法は、人権について「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であって」、「過去幾多の試練に堪へ、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたもの」であり、「国民の不断の努力によってこれを保持しなければならない」と規定しています。では、「多年にわたる」「努力」によって「獲得」した「侵すことのできない永久の権利」を「保持」するために、どのような「不断の努力」が必要なのでしょう。</p> <p>そもそも人権・平和とは、それを損なう差別や戦争とは何なのでしょう。そして私たちは、様々な人権・平和の問題とどのように向き合っていけばいいのでしょうか。ともに考えたいと思います。</p>			
到達目標	<p>1、人権・平和について具体的に述べることができる。</p> <p>2、人権・平和を損なうものとしての差別や戦争について説明することができる。</p> <p>3、現代社会における多種多様な人権・平和問題に関して、それぞれの問題性を明らかにすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、人権の成立（浅田担当）	この講義を履修した動機について考えてみてください		
第2回	人権の成立（浅田担当）	フランス人権宣言について調べる		
第3回	人権の成立（浅田担当）	フランス人権宣言と自然法について調べる		
第4回	日本国憲法と人権・平和（小川担当）	授業内で出される課題①を行うこと		
第5回	日本国憲法と人権・平和（小川担当）	授業内で出される課題②を行うこと		
第6回	日本国憲法と人権・平和（小川担当）	授業内で出される課題③を行うこと		
第7回	沖縄の人権と平和を考える①（松下担当）	「琉球処分」について調べてくる		
第8回	沖縄の人権と平和を考える②（松下担当）	「人類館事件」について調べてくる		
第9回	沖縄の人権と平和を考える③（松下担当）	「基地問題」について調べてくる		
第10回	平和とは何か（金見担当）	①平和をめぐるさまざまな意見について調べてくる		
第11回	平和を作る人々（金見担当）	②非戦・平和に取り組んだ人物や団体について調べてくる		
第12回	平和運動の課題と展望（金見担当）	③平和運動の現在の課題や今後の展望について調べてくる		
第13回	人種差別について（一木担当）	なぜ人種差別は悪いのか、自分の意見をまとめること		
第14回	『ミシシッピーバーニング』にみる黒人差別の在り方（一木担当）	映画の感想を800字程度で書くこと		
第15回	人種差別は誰を傷つけるのか、授業のまとめ（一木担当）	授業の振り返りを行うこと		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	50% レポート試験を行う。14週目の授業時に課題について記載したプリントを配布する。			
小テスト等	20% 担当教員によっては、講義終了時の10～15分間に小レポートを課す。			
成果発表	なし。			
受講態度他	30% 講義に向き合う姿勢を評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	一木がコーディネーターを担当しています。質問等あれば尋ねてください。また、12月の人権講演会に参加して、レポート試験時のレポートボックスに、レポートとともに提出してください。感想文の提出により、加点します。			
教科書	プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	講義時に紹介します。			
オフィスアワー	授業前後に相談してください。他は、各先生担当科目のシラバス参照。	メールアドレス		

授業科目	総合講座（生命）【講義】		開講時期	前期
担当教員	浅田 淳一・佐々木 浩・速水 良晃・金見 倫吾・田尻 雅美		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「生命」は38億年前に誕生し、私たちが他の生き物とともにそれを引き継いでいます。また、人間は科学技術を発展させ、遺伝子操作や臓器移植、さらには、生殖医療や出生前診断などの医療の場において、「生命」をどう考えるかということが、突きつけられています。この授業では、「生命」について様々な立場からの考え方を学ぶことによって、自分自身の倫理観・人間観にも深く関わる「生命とは何か？」という問いを、自分自身の問題として考えることができるようになることを目的としています。また、授業で自ら自分の意見を発表することにより自分自身のコミュニケーション・スキルの向上にも務めてください。</p> <p>この授業では、各教員がそれぞれの専門分野の知識を通して「生命」について講義をします。生命の発生から現代社会がかかえる生命に関する課題まで、多くのテーマが様々な視点から語られますので、大いに興味をもって受講しましょう。なお、下記は予定です。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命を生み出した宇宙と地球の歴史について、生命と関連して説明ができる。</li> <li>2. 生物の進化や人間の進化について説明できる。</li> <li>3. 現代社会・医療がかかえる問題について、課題を明らかにしつつ自分の見解を述べるができる。</li> <li>4. 仏教などの宗教における生命観をとおして、「私のいのちの受け止め」を問い直すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」  (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」  (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とながらるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	宇宙の歴史と生命（担当：速水）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第2回	地球の歴史と生命（担当：速水）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第3回	物質とエネルギーと生命のつながり（担当：速水）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第4回	生物の進化から見た命（担当：佐々木）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第5回	生物のつながりから見た命（担当：佐々木）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第6回	私たちの生活と生物の命（担当：佐々木）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第7回	生命と倫理の関係（担当：浅田）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第8回	「生命功利主義」の問題性（担当：浅田）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第9回	「授かりもの」としての生について（担当：浅田）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第10回	水俣病の歴史と現在（担当：田尻）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第11回	障害者の視点から見る胎児性水俣病（担当：田尻）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第12回	原田正純の足跡から学ぶ（担当：田尻）	授業で配布された資料をもとに、予習復習を行う。		
第13回	仏教の死生観（担当：金見）	新聞などにより、現代社会の医療状況について調べる。		
第14回	死とどう向き合うのか：ターミナル・ケア（担当：金見）	新聞などにより、現代社会の医療状況について調べる。		
第15回	生きる意味について考える（担当：金見）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% 期末レポート（授業で扱ったテーマを選んで問いに答える）			
小テスト等	—			
成果発表	0%			
受講態度他	50%各教員の出す 課題レポート等による			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業外学習や課題については、各担当教員からの指示に従って下さい。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	担当者が授業において紹介します。			
オフィスワー	授業の前後、または、各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	総合表現演習【演習】		開講時期	後期
担当教員	今釜 亮・北村 真理		単位	1
授業の目的と概要	<p>領域「表現」に関する保育技術を、「劇発表」という形で実践する計画を立て、劇発表を行う。このことにより、授業や実習でこれまで学んできた表現及び五領域に関する保育技術の総まとめとし、保育者としての資質を高める。</p> <p>保育活動にエビデンスを持たせ展開するため、保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園等における保育・教育の内容を理解しその上で身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を育成することを目的とする。</p> <p>また、他者と協働して劇を創り上げることで、保育現場での協働も実践的に学ぶことを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 五領域を横断的に理解し、実践につなげることができる。</li> <li>2. 言語表現と身体表現、音楽表現、造形表現を関連付けて劇を行うことができる。</li> <li>3. 保育現場を想定し、子どもや保護者に加え、地域の方々にも開かれたマネジメントを行うことができる。</li> <li>4. 子どもの視点に立ち、子どもたちが感じ取ることができる表現活動を実施することができる。</li> <li>5. 他者と協働し、実務を行うことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション			題目などを考える	
第2回 計画の策定(題目・係・役割など)			テーマに沿って計画を細分化し、役割分担をする	
第3回 係での作業① 作業計画			今後の授業の見通しを立て計画を立てる	
第4回 係での作業② 作業の実際			各係に必要な作業を進める	
第5回 劇の準備① 全体構成の確認			台本・音楽・美術など必要なものを整理する	
第6回 劇準備② 流れの確認			通し練習に向けて全体の流れを確認する	
第7回 通し練習① 確認通し			通し練習ができるよう準備する	
第8回 通し練習② 全通し			途中で止まらないよう準備する	
第9回 リハーサル			リハーサルに必要なものを全て準備する	
第10回 リハーサルの手直し			各自課題を分析し、改善を図る	
第11回 仕込み			物品の搬入と用具の確認	
第12回 劇発表① 子どもたちへの導入			導入部分を準備する	
第13回 劇発表② 劇発表			本番に向けて必要な準備を行う	
第14回 後片付け			用具の管理をしっかりと行う	
第15回 振り返り			発表とレポート	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% レポート(40%)			
小テスト等	0%			
成果発表	30% 総合表現の発表の完成度および態度等			
受講態度他	30% 授業集中度、意見、発表、練習参加、実務態度等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽演習、体育Ⅰ・体育Ⅱ、図画工作Ⅰ、図画工作Ⅱ、保育内容演習(表現)等で学習した表現技術を基礎とする。</li> <li>・授業に対して積極的参加はもとより、最後は集団での表現活動の発表になるので、役割分担し協力して取り組むこと。</li> </ul>			
教科書	資料を配布			
指定図書	授業で適宜指示			
参考図書	授業で適宜指示			
オフィスアワー	今釜：月・火昼休み、月曜日4限、水曜日4限 北村：月曜日昼休み、月曜日3限、水曜日4限	メールアドレス		

授業科目	相談援助【講義】		開講時期	後期
担当教員	牛島 豊広		単位	2
授業の目的と概要	本授業では、相談援助の理論と実践展開について理解するとともに、対人援助職に求められる相談援助の技法を習得することを目的とする。保育における相談援助の位置づけを理解し、相談援助職に求められる価値観や自己覚知、保育活動における他者理解、他者と信頼関係の構築を目指す過程について実践的に学んでいくこととする。他に、保育場面における事例に触れ、相談援助の理論をもとにした支援の取り組みについて考え、それを実際に展開するための方法、課題を理解をする。そして、保育現場における相談援助の必要性を認識し、子どもや家庭が有する様々な生活上の課題を受け止め、子どもの生活を保障するとともに、保護者支援の取り組みについて考察していく。			
到達目標	①相談援助の意義や機能について説明することができる。 ②相談援助の過程について説明することができる。 ③相談援助における援助者の関わりについて説明することができる。 ④相談援助における記録の目的と意味について説明することができる。 ⑤相談援助の計画と援助に必要な社会資源の活用について説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 保育における相談援助の意義と必要性		保育における相談援助の取り組みを事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第2回 保育の専門性と相談援助		相談援助における保育の役割について事前学習し授業資料で事後学習をする		
第3回 相談援助の考え方と視点		相談援助の捉え方について事前学習し授業資料で事後学習をする		
第4回 相談援助の実践とバイスティックの原則		コミュニケーション方法について整理し、授業資料で事後学習をする。		
第5回 相談援助の過程		相談援助の進め方について事前学習をし、授業資料で事後学習をする		
第6回 相談援助と自己覚知		他者と関わる際の自らの特徴を整理し、授業資料で事後学習をする。		
第7回 相談援助における傾聴		傾聴の内容と実践について事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第8回 相談援助とコミュニケーションスキル		それぞれ皆さんのコミュニケーション特性を整理し授業資料で事後学習をする		
第9回 相談援助におけるリフレーミング		リフレーミングの考え方について事前学習し授業資料で事後学習をする		
第10回 相談援助におけるインテークとアセスメント		相談援助の過程で学んだ内容について事前学習し、授業資料で事後学習をする		
第11回 相談援助とICFの考え方		ICFの考え方について事前学習し、授業資料で事後学習をする。		
第12回 相談援助における保育者の今後のあり方		保育を取り巻く社会環境について事前学習し、授業資料で事後学習をする		
第13回 相談援助における生活課題の把握		保育施設を利用する方の生活課題の特徴を事前学習し授業資料で事後学習する		
第14回 相談援助における障がい受容		障がい授業の過程について事前学習し、授業資料で事後学習をする		
第15回 相談援助の視点を活用した実践的支援		相談援助が必要な場面について事前学習し、授業資料で事後学習をする		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80%(講義内容に関するレポート課題を行う)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%(講義のコメント)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	保育に求められる相談援助の必要性について意識を高め授業に参加すること。 授業において資料を配布する。			
教科書	前田敏 雄監修・佐藤信隆・中西彦彦『演習・保育と相談援助』みらい			
指定図書	-			
参考図書	随時紹介する			
オフィスアワー	月曜日5限	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	C. Provenzano		単位	2
授業の目的と概要	<p>While Japan has long identified as a monolingual and monocultural society, the globalization of business and culture is bringing rapid change. In this seminar, students will explore issues related to bilingualism both in Japan and in other countries. Students will examine and reflect on definitions of bilingualism, approaches to bilingual education, and the cognitive and social effects of bilingualism</p> <p>** A high-intermediate level of English is required to participate in this seminar, as classes will be conducted in English, materials are in English, and students will prepare and deliver their term-end presentations in English</p>			
到達目標	<p>In addition to exploring content related to bilingualism, this seminar gives students an opportunity to integrate and improve all English skills, especially reading, discussion, writing and oral presentation.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will read content materials in English, check comprehension and discuss issues related to the topic.</li> <li>2. Students will actively participate in discussions centered around weekly readings.</li> <li>3. Through discussion of weekly readings, students will gain skills in paraphrasing and summarizing, as well as drawing conclusions and stating opinions based on multiple source materials.</li> <li>4. Students will research a theme related to bilingualism, and will prepare and present their research and conclusions (in English) in an oral presentation.</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  英(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Introduction to bilingualism (levels of bilingualism)	Read / respond to material for day 2		
第2回	What is a bilingual? (Degrees of bilingualism)	Read / respond to material for day 3		
第3回	What is a bilingual? (Self analysis)	Read / respond to material for day 4		
第4回	Discussion of concepts; Skills review (presentation research & preparation)	Read / respond to material for day 5		
第5回	Effects of bilingualism (Social and economic effects)	Read / respond to material for day 6		
第6回	Effects of bilingualism (Cognitive effects)	Read / respond to material for day 7		
第7回	Effects of bilingualism (An opposite viewpoint)	Read / respond to material for day 8		
第8回	Discussion of concepts; Skills review (Presentation preparation)	Read / respond to material for day 9		
第9回	Bilingual Education (weak forms)	Read / respond to material for day 10		
第10回	Bilingual Education (Strong forms)	Read / respond to material for day 11		
第11回	Bilingual Education (Options in Japan)	Continue work on own presentation		
第12回	In-class support for presentation preparation (computer lab)	Continue work on own presentation		
第13回	Presentations	Prepare for own presentation or review peer evaluation form		
第14回	Presentations	Prepare for own presentation or review peer evaluation form		
第15回	Presentations	Prepare for own presentation or review peer evaluation form		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	-			
小テスト等	-			
成果発表	50%			
受講態度他	50% class participation, including homework completion			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	It is important to be prepared for class discussions. Students must read assigned materials and come to class ready to discuss the content.			
教科書	Teacher will provide all materials			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Please contact the instructor to make an appointment	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	三日月 雅子		単位	2
授業の目的と概要	このゼミの主要課題は、Airline関連の分野で必要とされる実践的な英語力と基礎知識を身につけることです。この基本的な認識を基に、受講生は、Airline関連の各テーマを英語で読んで学び、基礎知識を養い、理解力を高めることを目的にします。さらに、その過程で論理的思考力、問題解決力、特定分野の知識・技能も身につくことができます。このゼミでは受講者の発表が中心となります。調べた内容を全員の前で効果的に発表できるよう技術的な側面も指導していきたいと思ひます。Airline関連の英語そのものもつ規則性や特徴も同時に考察していきます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Airline分野に関する英文のトピックを選び、その内容を正確に読み理解する。</li> <li>2. 調べたことを、的確かつ正確な言葉で口頭発表をする。</li> <li>3. 講義で学んだAirline分野の知識に関して知識を深める。</li> <li>4. 講義中の質疑応答やディスカッションなどでコミュニケーションスキルを向上する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション			発表資料の作成準備	
第2回 模擬発表			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料を精読	
第3回 発表第1回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(1)を精読	
第4回 発表第2回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(2)を精読	
第5回 発表第3回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(3)を精読	
第6回 発表第4回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(4)を精読	
第7回 発表第5回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(5)を精読	
第8回 発表第6回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(6)を精読	
第9回 発表第7回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(7)を精読	
第10回 発表第8回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(8)を精読	
第11回 発表第9回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(9)を精読	
第12回 発表第10回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(10)を精読	
第13回 発表第11回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(11)を精読	
第14回 発表第12回(プレゼンテーション)			発表担当者は発表資料を作成・担当者以外も資料(12)を精読	
第15回 学習内容の質疑応答			学習内容の全体的復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 毎回の授業における課題。			
小テスト等	なし			
成果発表	60% 口頭発表。			
受講態度他	20% 積極的な参加(発表・質問等)。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学習態度(授業参加度・プレゼン発表)や課題を重視する。発表は十分な時間をかけ準備をして臨むこと。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	特になし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	水・木。金曜日の昼休みと4限目以降		メールアドレス	

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	人間形成教員		単位	2
授業の目的と概要	3年次科目「人間形成総合演習」を通して学んだ幼児教育及び小学校教育などに関する研究課題について、自らの問題意識に即して調査・研究をしたり、その内容について発表・討論等を行ったりして、教育について深く考察することを目的とする。研究課題に関連する文献・資料に幅広く触れ、目的にあったデータ収集の方法及びその適切な分析・吟味、問題を発見する力や論理的思考能力、プレゼンテーション能力等を獲得することを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題の設定、調査方法の選択及び実施、結論やその吟味、研究成果の発表など、問題解決的な手法で研究することができる。</li> <li>2 課題設定の理由（必要性・研究する価値）を明確にもち説明することができる。</li> <li>3 課題について、客観的な事実を踏まえながら立論することができる。</li> <li>4 他の学生の研究内容への質問や助言、意見交換などを積極的に行うことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初（3）-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション（研究課題、今後の研究の進め方の確認）	3年次科目「人間形成総合演習」の進捗状況を整理し文章にまとめる。		
第2回	研究報告の要件、様式、提出期日等について 研究状況報告・討議1-①（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第3回	研究状況報告・討議1-②（順を決め3名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第4回	研究状況報告・討議1-③（順を決め3名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第5回	研究状況報告・討議1-④（順を決め3名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第6回	研究状況報告・討議2-①（順を決め2名程度） ※ 研究題目の決定	課題についての調査及び報告の準備		
第7回	研究状況報告・討議2-②（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第8回	研究状況報告・討議2-③（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第9回	研究状況報告・討議2-④（順を決め3名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第10回	中間発表 各ゼミ・各自の進捗状況をまとめ、中間発表を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第11回	研究状況報告・討議3-①（順を決め3名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第12回	研究状況報告・討議3-②（順を決め3名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第13回	研究状況報告・討議3-③（順を決め3名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第14回	研究状況報告・討議3-④（順を決め3名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第15回	進捗状況及び「卒業ゼミナールⅡ」の進め方の確認	卒業ゼミナールⅠの成果と課題の振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％（各回の研究状況報告の内容等）			
小テスト等	なし			
成果発表	40％（卒業論文・卒業研究の内容、提出物）			
受講態度他	20％（授業に臨む積極的な姿勢、質問・意見、調査内容等の報告等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各回の研究状況の発表の際にはレポート（卒業論文・研究の原稿）を用いて報告すること。各自の報告後にディスカッション等を行うので、積極的に質問や意見を述べること。			
教科書	特に定めない。			
指定図書	特に定めない。			
参考図書	『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房（購入済：1年次「基礎ゼミナール」で使用した教科書）			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	大橋 健治		単位	4
授業の目的と概要	卒業研究の仮説作りを促進することを目的とする。授業を運営する方法を遠隔授業による抄読会形式で行い、ゼミ生全員が経験学習、とりわけ内省のメカニズムへの理解を促進することに注力する。抄読会とは、ゼミ生が自分の研究テーマに基づいて選んだ文献を深く読み、その内容と得られた示唆を報告しあう場のことを言う。この授業では文献を教科書に統一し、読み手によって内容のとらえ方が多様であること、すなわち経験学習に差が生じることを感じてもらうような彼我比較の場としたい。また、併せて専門ゼミナールで行ってきた、ゼミの目標と自らの目標をすり合わせてブレークダウンし実行に移すことを“見える化”した実施計画書のレビューも継続して推し進め、Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）の能力を養う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経験学習の行い方を理解し、自らが実践することができる。</li> <li>2. 他者に気づきを与え、他者から気づきを得られるような場づくりを実践することができる。</li> <li>3. 上記2項目に基づいて、実施計画のPDCA（とりわけ研究の仮説づくり）ができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現（4）-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス＋ゼミ生による2月中旬から4月中旬までのレビュー	シラバスの熟読と実施計画書のレビュー		
第2回	教科書序章「経験から学べる人、学べない人」の抄読会&月度レビュー	教科書序章の熟読と報告の準備&実施計画書のリバイス&レビュー		
第3回	教科書第1章「成長とは何か」の抄読会&月度レビュー	教科書第1章の熟読と報告の準備&実施計画書のリバイス&レビュー		
第4回	教科書第2章「経験から学ぶ」の抄読会&月度レビュー	教科書第2章の熟読と報告の準備&実施計画書のリバイス&レビュー		
第5回	教科書第3章「経験から学ぶための三つの力」の抄読会&月度レビュー	教科書第3章の熟読と報告の準備&実施計画書のリバイス&レビュー		
第6回	教科書第4章「思いとつながり」の抄読会&月度レビュー	教科書第4章の熟読と報告の準備&実施計画書のリバイス&レビュー		
第7回	教科書第5章「学ぶ力を育てるOJT」の抄読会&月度レビュー	教科書第5章の熟読と報告の準備&実施計画書のリバイス&レビュー		
第8回	第6章「学ぶ力を高めるツール」の抄読会&月度レビュー	教科書第6章の熟読と報告の準備&実施計画書のリバイス&レビュー		
第9回	研究計画書の発表と内容の協議Ⅰ（8名中2名）&月度レビュー	研究計画書のプレゼンテーションの準備&実施計画書のリバイス&レビュー		
第10回	研究計画書の発表と内容の協議Ⅱ（8名中2名）&月度レビュー	研究計画書のプレゼンテーションの準備&実施計画書のリバイス&レビュー		
第11回	研究計画書の発表と内容の協議Ⅲ（8名中2名）&月度レビュー	研究計画書のプレゼンテーションの準備&実施計画書のリバイス&レビュー		
第12回	研究計画書の発表と内容の協議Ⅳ（8名中2名）&月度レビュー	研究計画書のプレゼンテーションの準備&実施計画書のリバイス&レビュー		
第13回	アクションラーニング実践講座Ⅰ（要領説明と第1セッション）&月度レビュー	事後学習（気づきと実践計画）の提出&実施計画書のリバイス&レビュー		
第14回	アクションラーニング実践講座Ⅱ（第2、第3セッション）&月度レビュー	事後学習（気づきと実践計画）の提出&実施計画書のリバイス&レビュー		
第15回	アクションラーニング実践講座Ⅲ（第4セッション）&後期に向けた課題提示	事後学習（気づきと実践計画）の提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 抄読会、研究計画書のプレゼンテーションにおける質問の質と量			
受講態度他	50% 実施計画書の進捗状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように、本授業では遠隔授業による抄読会形式というアクティブ・ラーニングの手法を導入する。この手法を成立させる大前提は、学生相互による責任をもった授業外学修と、教員との相互確認（質疑応答）である。これを筑女ネット上で行うものとする。			
教科書	『職場が生きる 人が育つ「経験学習」入門』（松尾 睦著、2011、ダイヤモンド社）			
指定図書	『新しい人事労務管理』（佐藤 博樹、藤村 博之、矢代充史共著、2015、有斐閣）			
参考図書	『最強の経験学習』（デイヴィッド・コルブ、ケイ・ピーターソン共著、2018、辰巳出版）			
オフィスアワー	月曜日の14：00～17：00	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	野中 亮		単 位	4
授業の目的と概要	<p>専門ゼミナールⅠ・Ⅱに引き続き、地域生活を、特に文化の観点から研究することを主な目的とします。専門ゼミナールⅡで設定した各自の研究課題にそって調査・研究をすすめ、最終的に卒業研究としてまとめます。フィールドワークなどで正規の時間外（週末や夏休み）にも研究活動を行います。また、研究テーマによっては、シラバスの予定変更や交通費の負担などが発生することもあります。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献調査やフィールドワークを通じた地域調査を行うことができる</li> <li>・自らの調査を通じて得たデータについて、卒業研究レベルでの分析をおこなうことができる</li> <li>・自らの研究成果を論文、もしくは報告書の形式でまとめることができる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 社会調査士関連科目と合わせて受講することで、より深い理解が得られます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション	春休みの課題の提出		
第2回	卒業論文テーマの設定1	各自テーマ案を準備		
第3回	卒業論文テーマの設定2	各自テーマ案を準備		
第4回	卒業論文用基本資料の確認1	各自卒論の基本資料を報告		
第5回	卒業論文用基本資料の確認2	各自卒論の基本資料を報告		
第6回	卒業論文用基本資料の確認3	各自卒論の基本資料を報告		
第7回	卒業論文タイトルの見直しと確定1	各自基本資料を踏まえてタイトルを報告		
第8回	卒業論文タイトルの見直しと確定2	各自基本資料を踏まえてタイトルを報告		
第9回	卒業論文構成案の作成1：問題意識	各自卒論構成案を報告		
第10回	卒業論文構成案の作成2：問題意識（続）	各自卒論構成案を報告		
第11回	卒業論文の作成：先行研究のレビュー	合同ゼミでのミーティングを受け、課題を整理		
第12回	卒業論文の作成：先行研究のレビュー（続）	配布資料の読み込み		
第13回	卒業論文の作成：先行研究のレビュー（続）	合同ゼミでのミーティングを受け、課題を整理		
第14回	企業×ゼミ zoomコラボ	事前に資料映像を確認後、アンケートに回答しておくこと。		
第15回	これまでのふりかえり	卒論の問題意識と先行研究のまとめ		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 各回の報告を成果発表とみなします。			
受講態度他	50% 成果発表以外のゼミ運営への貢献を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は必須です。自分の担当については責任をもって取り組んでください。</li> <li>・共同作業が多くなります。作業分担や報告の順番など、受講者同士でマメに連絡・相談・報告しあい、有意義な学びの場にしましょう。</li> <li>・今年度については遠隔授業のため予定の変更が発生する可能性が高いので、筑女ネットやTeamsでの連絡に注意してください。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	谷富夫・芦田徹郎『よくわかる 質的社会調査』ミネルヴァ書房 佐藤郁哉『フィールドワーク：書を持って街へ出よう（増補版）』新曜社			
オフィスワー	水曜2限	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	花野 裕康		単位	4
授業の目的と概要	<p>一年間にわたる卒業ゼミナールの前半部分として、以下の手順を踏みます。</p> <p>①新たに参加する3年ゼミ生に対するアドバイスを行う。</p> <p>②ゼミ内グループの活動では、主導的にアドバイスや意見を出す。</p> <p>③成果物として卒業制作と卒業論文のどちらを作成するかを決め、その形式にそった成果物の作成に取りかかる。</p> <p>④全体プレゼンテーションにおいて、自身の発表が3年生への模範となるよう心がける（これは同時に自身の研究を高める事になります）。</p> <p>なおこの時期就職活動が忙しくなる可能性があります、ゼミ活動に支障が出ないよう、細心の注意を払ってください（随時相談に乗ります）。</p>			
到達目標	<p>①3年生のゼミメンバーに対してゼミ活動におけるアドバイスを行うことができる</p> <p>②ゼミ内グループにおいて主導的な役割を果たし様々な意見やアイデアを出すことができる</p> <p>③成果物（卒業制作または卒業論文）の作成に取り掛かり、その過程をゼミ内でプレゼンテーションできる</p> <p>④全体プレゼンテーションにおいて、自身の発表が3年生への模範となることができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。具体的には、自身のテーマのブラッシュアップ及び他ゼミメンバーのテーマに対する批評の文章化を行う事。</p> <p>関連科目は3年次開講の「専門ゼミナールⅠ、Ⅱ」である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 新ゼミ生への指導（カルテ記入）と自己紹介		次回のグループ分けに向けて新ゼミ生の研究テーマを分類する		
第2回 研究テーマ紹介とグループ分け		次回のグループワークに向けて自身の研究テーマを整理する		
第3回 グループワーク①：研究テーマの相互紹介		グループ内の授業外連絡を主導し、自身の研究テーマを進める		
第4回 グループワーク②：研究テーマの相互意見交流		グループ内の授業外連絡を主導し、自身の研究テーマを進める		
第5回 全体プレゼンテーション①：ゼミ生前半メンバー		授業外でもゼミ生とアドバイスを出し合い、自身の研究テーマを進める		
第6回 全体プレゼンテーション②：ゼミ生後半メンバー		授業外でもゼミ生とアドバイスを出し合い、自身の研究テーマを進める		
第7回 グループワーク③：研究テーマの改善案相互相談		グループ内の授業外連絡を主導し、自身の研究テーマを進める		
第8回 グループワーク④：研究テーマの改善案提示		グループ内の授業外連絡を主導し、自身の研究テーマを進める		
第9回 全体プレゼンテーション③：ゼミ生前半メンバー（改善版）		授業外でもゼミ生とアドバイスを出し合い、自身の研究テーマを進める		
第10回 全体プレゼンテーション④：ゼミ生後半メンバー（改善版）		授業外でもゼミ生とアドバイスを出し合い、自身の研究テーマを進める		
第11回 シャッフルグループワーク①：研究テーマの前期最終案相互相談		普段もらえないアドバイスを受けて自身の研究テーマの修正を図る		
第12回 シャッフルグループワーク②：研究テーマの前期最終案提示		普段もらえないアドバイスを受けて自身の研究テーマの修正を図る		
第13回 3年生研究テーマへのアドバイス		自身が行ったアドバイスが自身の研究テーマにも適用できているか確認		
第14回 研究内容プレゼンテーション①：ゼミ生前半メンバー（前期最終版）		ゼミ生から出たアドバイスを受け卒業成果物に向けて作業を進める		
第15回 研究内容プレゼンテーション②：ゼミ生後半メンバー（前期最終版）		ゼミ生から出たアドバイスを受け卒業成果物に向けて作業を進める		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	70%（全体プレゼンテーションでの発表内容）			
受講態度他	30%（グループワーク時の参加度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに参加すること。グループワークでは積極的に発言すること。ゼミ活動に関係ないことを行なっている場合はその回もしくは次回の成果発表を認めない。ゼミであっても「不可」や「無資格」になる可能性があるのは他の講義と変わらないが、これは講義でなく「演習」である以上、講義以上に積極的かつ主体的に参加すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	赤枝 香奈子		単 位	4
授業の目的と概要	人々の性別や性にかかわる「ジェンダー」や「セクシュアリティ」という概念を手掛かりにしながら、さまざまな差異をもつ多様な人々が暮らしやすい社会（包摂的な社会）のあり方について考えます。まずゼミの進め方について理解したのち、ジェンダーやセクシュアリティ、社会的包摂にかんする基本的文献を全員で読みます。受講者は毎回交代で、レジュメを作って報告し、全員でディスカッションを行います。同時に、各自の研究テーマに沿って卒業研究の調査を進め、その途中経過について報告を行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジェンダーやセクシュアリティ、社会的包摂／社会的排除に関連する文献を読み、その内容をレジュメにまとめ、報告することができる。</li> <li>2. ジェンダーやセクシュアリティが、現代社会の諸問題とどのように関連しているか説明できる。</li> <li>3. 社会的包摂／社会的排除といった概念を理解し、それらをめぐる問題が現代社会にどのような形で表れているか説明できる。</li> <li>4. 卒業研究の調査を実施し、その途中経過を報告することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション	前期のスケジュールについて計画を立てる。		
第2回	文献読解①ジェンダー／セクシュアリティと社会的包摂をめぐる問題について	配布資料を読み、内容をまとめる。		
第3回	文献読解②ジェンダー	文献を読み、内容をまとめる。		
第4回	文献読解③セクシュアリティ	文献を読み、内容をまとめる。		
第5回	文献読解④社会的排除	文献を読み、内容をまとめる。		
第6回	文献読解⑤社会的包摂	文献を読み、内容をまとめる。		
第7回	卒業研究報告①文献紹介（ジェンダー）	卒業研究に関連する文献の報告準備を行う。		
第8回	卒業研究報告②文献紹介（セクシュアリティ）	卒業研究に関連する文献の報告準備を行う。		
第9回	卒業研究報告③文献紹介（社会的包摂／社会的排除）	卒業研究に関連する文献の報告準備を行う。		
第10回	調査計画の検討	調査の途中経過について振り返りを行い、今後の調査計画について検討する。		
第11回	卒業研究の実施①調査内容の報告（ジェンダー）	調査内容の報告準備を行う。		
第12回	卒業研究の実施②調査内容の報告（セクシュアリティ）	調査内容の報告準備を行う。		
第13回	卒業研究の実施③調査内容の報告（社会的包摂／社会的排除）	調査内容の報告準備を行う。		
第14回	調査内容の検討	調査内容の振り返りを行う。		
第15回	まとめ	夏休み中の研究計画を立てる。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	0％			
成果発表	45％			
受講態度他	5％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	前期は文献を読む作業が中心になります。授業では読んできた文献をもとに議論を行うので、事前に必ず文献を読み、要点や疑問点をまとめた上で授業に臨んでください。			
教科書	使用しない。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業内で指示する。			
オフィスアワー	火曜3限	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	藤原 隆信		単 位	4
授業の目的と概要	<p>&lt;ゼミテーマ：ソーシャルビジネスを研究・実践するゼミ&gt;          本ゼミナールでは、私たちの身の回りには多様な「社会問題」を、ビジネス（お金儲け）をしながら解決していく方法と理論を学んでいきます。同時に、地域社会や世界にも目を向け、具体的な実践活動（ビジネスの実践）に取り組んで行く予定です。ゼミⅠでは、「ソーシャルビジネス」や「社会貢献と仕事の関係」等に関する基礎的な理論を学ぶとともに、実践活動に向けたニーズ調査・準備を行います。このような「理論研究」と「実践活動」を通じて、経営学を総合的に学ぶとともに、「社会に貢献しながら働くこと」の意義を考えていきます。          ※「卒業ゼミ」では、3年生のゼミ生に対する指導を行って頂きます。自分自身が昨年度「学んだ」内容を、3年生に「教える」という視点でより深い学びにつなげてもらいます。</p>			
到達目標	<p>①「ソーシャルビジネス」に関する基礎理論を理解し、説明できる。②「ソーシャルビジネス」の実践に必要な知識を身につけ、それを自分の言葉で説明できる。③上記①～②を前提に、「ソーシャルビジネス」の具体的な構想を描き、他人にプレゼンすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」          &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	はじめに ——なぜ今、ソーシャルビジネス(SB)なのか?	教科書の序章(pp.24-29)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第2回	文献研究と実践活動の検討 ——SBを始める前に考えておくべきこと	教科書の第1章(pp.32-41)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第3回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり(1):成立要件	教科書の第2章(pp.44-56)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第4回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり(2):マネタイズモデル	教科書の第2章(pp.56-73)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第5回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり(3):事業計画	教科書の第2章(pp.73-82)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第6回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり(4):財務計画・価格設定	教科書の第2章(pp.82-95)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第7回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの準備(1):始動テスト	教科書の第3章(pp.98-110)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第8回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの準備(2):経営資源(ヒト・カネ)	教科書の第3章(pp.110-127)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第9回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの準備(3):経営資源(モノ・情報)	教科書の第3章(pp.128-138)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第10回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの開始(1):サービスイン	教科書の第4章(pp.140-160)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第11回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの開始(2):供給ライン(その①)	教科書の第4章(pp.160-176)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第12回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの開始(3):供給ライン(その②)	教科書の第4章(pp.176-192)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第13回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの展開・発展(1):スケールアップ	教科書の第5章(pp.194-207)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第14回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの展開・発展(2):スケールアウト	教科書の第5章(pp.207-222)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第15回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの展開・発展(3):制度化	教科書の第6章(pp.224-241)を読んで事前学習をしておいて下さい。		
成績評価	割合(%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60% 授業の進行に合わせて適宜、発表をしてもらいます。その内容で判断します。			
受講態度他	40% 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本ゼミナールでは、授業の中でチーム討議やチーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。(※外部講師による講演&ディスカッションが入る可能性があります。シラバスを変更して対応しますのでご了承下さい)			
教科書	駒崎弘樹『社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門』PHP新書、2015年。			
指定図書	授業の中で適宜紹介する。			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み(12:20~13:10) ※事前に予約を取って下さい。	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	須藤 遙子		単 位	4
授業の目的と概要	<p>メディア社会を文化経済・文化政治・文化政策の観点から研究する。  前半は、就活を念頭に置いた「読解力・文章力・発想力」を鍛える演習を中心とする。  後半は、各自の卒業研究に向けてのテーマ設定・資料収集・論文指導を行う。  適宜グループディスカッションを取り入れ、自分の意見を発表すると同時に、他人の意見をよく聞き尊重する姿勢を学ぶ。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアの分析、またメディア企業への就職に必要な「読解力・文章力・発想力」を身につける。</li> <li>・プレゼンテーション能力を身につける。</li> <li>・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。文章読解：絵本（1）。	絵本『ちいさなうさこちゃん』シリーズを読む。卒論目次作成。		
第2回	文章読解：絵本（2）。卒論課題発表・討議。	絵本『ぐりとぐら』『ちびくろさんぼ』を読む。卒論調査。		
第3回	文章読解：絵本（3）。	児童文学『王さまびつくり』を読む。卒論準備。		
第4回	文章読解：児童文学（1）。卒論中間発表・討議。	児童文学『いやいやえん』を読む。卒論準備。		
第5回	文章読解：児童文学（2）。卒論中間発表・討議。	児童文学『ちいさいモモちゃん』を読む。卒論準備。		
第6回	文章読解：児童文学（3）。卒論中間発表・討議。	児童文学『モモちゃんとプー』を読む。卒論準備。就活対策。		
第7回	文章読解：児童文学（4）。卒論中間発表・討議。	児童文学『モモちゃんとあかねちゃん』を読む。卒論準備。就活対策。		
第8回	文章読解：児童文学（5）。卒論中間発表・討議。	児童文学『だれも知らない小さな国』を読む。卒論準備。		
第9回	文章読解：児童文学（4）。卒論中間発表・討議。	児童文学『豆つぶほど小さいぬ』を読む。卒業論文執筆。		
第10回	文章読解：長編児童文学（1）。卒論中間発表・討議。	児童文学『ふたりのイダ』を読む。卒業論文執筆。		
第11回	文章読解：長編児童文学（2）。卒論中間発表・討議。	『小川未明童話集』を読む。卒業論文執筆。		
第12回	文章読解：長編児童文学（3）。卒論中間発表・討議。	児童文学『冒険者たち』を読む。卒業論文執筆。		
第13回	文章読解：長編児童文学（4）。卒論中間発表・討議。	児童文学『冒険者たち』（続き）を読む。卒業論文執筆。		
第14回	文章読解：長編児童文学（5）。卒論中間発表・討議。	児童文学『モモ』を読む。卒業論文執筆。		
第15回	文章読解まとめ。卒論中間発表まとめ。	児童文学『モモ』（続き）を読む。卒業論文執筆。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30％			
小テスト等	％			
成果発表	40％（毎回の課題とりくみ）			
受講態度他	30％（フォーラムへの投稿も含める）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>この授業は遠隔で行います。  出席は、各回の「理解度チェック」への回答で確認します。  質問は全員が共有できるように、筑女ネット「質問箱」にお願いします。  3年生に引き続き、本（小説）をたくさん読むことが求められます。  また就活の進展に伴い、随時エントリーシートや小論文対策を行います。</p>			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	月曜 11 - 13時	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	小山 昌宏		単位	4
授業の目的と概要	<p>1. マンガ、アニメ分野、コンテンツ文化における基礎教養、テキスト読解力、課題設定力を身につけることを前提に、卒業研究にむけて具体的な成果を著わせる力を養う</p> <p>2. マンガ、アニメ関連分野(コンテンツ文化)から、卒業研究に向けたテーマを絞り込み、執筆を通して課題を解明する力を養う</p> <p>3. 具体的には、授業前の教科書による予習、レジュメ(資料)のまとめによる知識の体系化、発表、討論による理解を前提に、3年生をリードし、自らの研究テーマにとりくみ、まとめる力を養う</p> <p>4. 時間割は、3限は基礎読解、4限は各自専門養成、アニメ、映画、舞台、ライブなどの作品鑑賞を通して、討論をおこなうための応用力を養う</p>			
到達目標	<p>1. マンガ、アニメ表現、映像表現、舞台表現の原理、その発展から日本のコンテンツ文化の歴史、制作上の問題点、課題について説明することができる</p> <p>2. 1を踏まえ、卒業研究テーマを確定し、計画表を作成し、論文執筆をおこなうことができる</p> <p>3. 2を踏まえ、論文執筆のための準備、計画遂行、変更を常時おこない、適宜調整することができる</p> <p>4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、独自の「マンガ観」「アニメ観」、「コンテンツ文化観」を形成し、論文執筆に活かすことができる</p> <p>5. ゼミ運営、参加を通して、テーマに関する知識運用、対話能力、企画力、表現力を向上させることができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連科目：マンガ・アニメ論 サブカルチャー論 オタク文化論</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 3限：オリエンテーション ゼミナールの計画、全体日程、到達目標の確認、相談 4限：ガイダンス ゼミナール活動の初歩 相互理解ゲーム「ギャップの王様」		教科書：マンガ研究13講(水声社) 第2回授業分を予習する		
第2回 3限：マンガ研究① 第2章：【表現論】マンガ表現論の「歴史」とその展望 4限：プレゼン、文章構成の基礎		教科書：アニメ研究入門応用編(現代書館) 第3回授業分を予習		
第3回 3限：アニメ研究① 第2章：【映像演出論】制作における演出の技術と方法 4限：舞台装置(照明)の基礎		教科書：マンガ研究13講(水声社) 第4回授業分を予習する		
第4回 3限：マンガ研究② 第7章：【映像・芸術論】マンガにみる複数の瞬間 4限：舞台演出の基礎		教科書：マンガ研究13講(水声社) 第5回授業分を予習する		
第5回 3限：マンガ研究③ 第8章：【記号論・物語論】マンガにおける物語論の可能性 4限：舞踊(ダンス)演出の基礎		教科書：アニメ研究入門 応用編(現代書館) 第6回授業分を予習する		
第6回 3限：アニメ研究② 第9章：【物語論】アニメの物語構造 4限：3年生発表会でアドバイスをおこなう		第2～6回授業の復習を配布資料に基づきおこなう		
第7回 3限：著作権① 出版の基礎/文化政策 4限：3年生発表会でアドバイスをおこなう		第7回授業の復習を配布資料に基づきおこなう		
第8回 3限：歌詞・会話分析の基礎 4限：3年生発表会でアドバイスをおこなう/4年生卒研中間発表会		事前調査：課外授業に対応して事前に下調べをおこなっておく		
第9回 3～4限：学外授業 美術館・博物館・スタジオ見学		学外授業の成果、まとめをおこなう		
第10回 3限：著作権② 出版・マンガ 4限：4年生卒研中間発表会への参加		第10回授業の復習を配布資料に基づきおこなう		
第11回 3限：著作権③ 映像・映画・アニメ 4限：4年生卒研中間発表会への参加		第11回授業の復習を配布資料に基づきおこなう		
第12回 3限：著作権④ 映画・音楽・ライブイベント(舞台) 4限：色彩・図案分析の基礎		第12回授業の復習を配布資料に基づきおこなう		
第13回 3限：著作権⑤ 映像・ゲーム・インターネット 4限：音楽分析の基礎		第13回授業の復習を配布資料に基づきおこなう		
第14回 3限：アニメ研究③ 第4章：【声優論】アニメ演出論 4限：卒研相談会		第14回授業の予習をテキストに基づきおこなう		
第15回 3限：アニメ研究6 第10章：【マルチモーダル情報論】「まど☆マギ」を題材にして 4限：前期のまとめ		4年生：卒業論文の最終提出に備える		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70%			
小テスト等	なし			
成果発表	20%(各回の報告、プレゼン)			
受講態度他	10%(議論、討論への積極性を評価)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 3限：教科書は小山が解説し、担当がリードし、討論をおこなう 4限：オリエンテーションにて計画詳細をさらに練る</p> <p>2. マンガ、アニメメディア、著作権実務の基礎を身につけるためにテキストの精読をおこなう</p> <p>3. 3限は基本的に小山が解説し、担当がリードし、議論をすすめる</p> <p>4. 報告形式は、レジュメ(文章式)、パワーポイント(図解式)のどちらでもよい</p> <p>5. 討論に参加するために必ず、事前に配布資料を読み込んでおく</p>			
教科書	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編『マンガ研究13講』(水声社) 小山昌宏・須川亜紀子編『アニメ研究入門応用編』(現代書館)			
指定図書	米村みゆき・須川亜紀子『アニメ文化 55のキーワード』(ミネルヴァ書房)			
参考図書	竹内オサム・西原麻里編『マンガ文化 55のキーワード』(ミネルヴァ書房)			
オフィスワー	水曜日昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	岡本 文子		単 位	4
授業の目的と概要	<p>現代社会を生きる私たちの身につけている衣服は、連綿と受け継がれてきた服飾史の延長線上にある。「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」に引き続き日常意識する機会の少ない衣服のしくみへの理解を深めることを通して、服飾と社会との関係に関心を持ち、服飾の社会的役割を理解することを目的としている。</p> <p>さらに本演習では、「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」で理解したこと、身に付けたことを発展させ、制作した作品の画像をもとに、プログラミングの基礎を習得し、色彩の基礎知識・カラーコーディネートの知識を活用することを通して、現代社会における社会そのものや生活と色彩との関わりについて、体得することを目的としている。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考えること」「立案すること」「計画すること」の重要性を認識し、日常のなかからさまざまな課題を見出すことができる。</li> <li>・衣服のしくみを理解した上で必要に応じたパーツに分類することができる。</li> <li>・プログラミングの基礎を理解し活用することができる。</li> <li>・色彩の基礎知識を理解し活用することができる。</li> <li>・カラーコーディネートのテクニックを理解し活用することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション(今後の進め方)	テーマに関する資料収集		
第2回	学外実習 : 布地に関する知識 (レース等の布地の種類について、ブレードについて)	布地に関する知識の復習		
第3回	プログラミング① デザインソフトについて	画像の選択についての予習		
第4回	プログラミング② 画像の選択・画像の入力	パーツ分類計画についての予習		
第5回	プログラミング③ プログラムの書き換え	プログラムの確認		
第6回	プログラミング④ パーツ分類	パーツ分類の補習		
第7回	プログラミング⑤ マスキング(ベース)	マスキング(ベース)の補習		
第8回	プログラミング⑥ マスキング(トリミング)	マスキング(トリミング)の補習		
第9回	プログラミング⑦ プログラムの確認(マッピングの手法)	プログラムの確認の補習		
第10回	カラーコーディネートの計画	資料収集の補完		
第11回	カラーコーディネートのテーマ設定	カラーコーディネートのテクニックの復習		
第12回	カラーコーディネート① シミュレーション	カラーコーディネートのテクニックの復習		
第13回	カラーコーディネート② 作品画像の要素分析	作品画像の確認		
第14回	カラーコーディネート③ 作品画像の要素分析	作品画像の整理		
第15回	まとめ	「卒業ゼミナールⅡ」に向けて資料の整理		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	%			
小テスト等	%			
成果発表	90%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 12:00~13:00	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	一木 順		単 位	4
授業の目的と概要	本ゼミでは文化遺産や自然遺産など地方都市の持つリソースを分析し、その魅力を発信するためのプロジェクトを行う。今年度は長崎県の平戸市を題材として扱い、グループごとにテーマを設定し、平戸市の魅力についてリサーチを行い、それを発信する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平戸市の歴史、文化、風土について説明できる</li> <li>2. 平戸市の魅力について、それぞれでテーマを設定できる</li> <li>3. テーマに従ってリサーチすることができる</li> <li>4. 自分たちの発見をプレゼンしてまとめて発信できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 授業概要の説明			なし	
第2回 平戸について知る①			平戸市の概要について調べる	
第3回 平戸について知る②			平戸市の観光統計（30年度）を読んでくる	
第4回 平戸について知る③			平戸に関する文献をグループごとに読んでくる。文献は授業内で指定する。	
第5回 平戸について知る④：ゲスト講義			講義感想レポート	
第6回 観光について知る①			指定された文献をグループごとに読んでくる。文献は授業内で指定する。	
第7回 観光について知る②			グループプレゼンの準備	
第8回 観光について知る③：ゲスト講義			講義感想レポート	
第9回 観光について知る④：ゲスト講義			講義感想レポート	
第10回 平戸研修計画の実際①			それぞれで検討したトピックについて調べる	
第11回 平戸研修計画の実際②			それぞれで検討したトピックについて調べる	
第12回 第1回平戸研修			研修計画を立てる	
第13回 第1回平戸研修			研修計画を立てる	
第14回 第1回平戸研修			研修計画を立てる	
第15回 まとめ			なし	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% 授業内の小レポート			
小テスト等	-			
成果発表	40% グループ発表			
受講態度他	20% 授業内での取り組みを勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である。授業に際しては、自分の担当部分、発表に関して責任を持って行うこと。やむを得ず自分の発表回に欠席せざるを得ないときは、自分の責任で他の人と発表を代ってもらうこと。			
教科書	適宜プリントを配布する			
指定図書	指定しない			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスアワー	木曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	荒巻 龍也		単位	4
授業の目的と概要	ゼミ形式で「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ」と継続して学びます。映像を楽しむことを第一として、これまでに学んだ知識やスキルを基礎として進めていきます。①CM、ドラマ、PR動画、映像表現や映像関連産業（広告含む）などに関して学び、研究もしていきます。②テーマを設定しながら、映像制作手順を身につけ、協力して作品を制作します。③映像関連全般の専門的な知識とスキルを身につけると同時に、専門研究を通して研究方法や発信方法を磨いていきます。④ゼミ活動全般から自主性、協働性、課題解決力そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につけることも目標としています。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) メディア（映像）リテラシー演習を通して映像メディアに関する理解を深め、研究につなげることができる。</li> <li>2) 映像制作手順（企画、撮影、編集など）を身につけ、テーマを自ら定め、そのテーマを具現化するためにどうすればよいかを考えつつ実際に作品を作ることができる。</li> <li>3) 映像関連全般について学び・研究して、テーマを設定してまとめることができる。</li> <li>4) ゼミ活動全般ならびに「タクナル演習」から自主性、協働性、課題発見・解決力そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につける。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。  関連する科目：基礎専門ゼミナールⅠ・Ⅱ、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業ゼミナールⅡ、メディア・IT活用演習、メディアコンテンツ論、テレビ論 など</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：映像とは何か、映像の持つ影響力 テキスト『映像メディアの作り方』(1) 1章メディアを制作する	まとめ課題1（映像の持つ影響力）		
第2回	PROG受験+テキスト『タクナル』グループワーク演習(1) オリエンテーション ワークシート (WS) 1：ギャップの王様	PROGの教科書の自己チェック、WS1の復習		
第3回	テキスト『タクナル』グループワーク演習(2) かるく議論してみよう WS2「無人島」、WS3「LINEの告白」、「キャンペーン標語」グループでのまとめと発表	WS2の復習、WS3の復習		
第4回	テキスト『タクナル』グループワーク演習(3) 本格的に議論してみよう WS4「文化祭の動物園」、「文化祭の動物園」グループ発表	WS4の復習、グループ発表準備		
第5回	映像制作(1) 撮影実習(1) 基本的な撮影手法の実践による修得 絵コンテとロケハンについて	映像制作課題1（コンテ作成、ロケハン）		
第6回	テキスト『映像メディアの作り方』(2) 2章 メディアの種類と特徴 テキスト『映像メディアの作り方』(3) 3章 テレビ番組のジャンル	WS5「メディア接触調査」、WS6「テレビ番組のジャンル」		
第7回	メディア（映像）リテラシー(1) テレビCM 私たちとテレビコマーシャル ～CM数量分析～	映像リテラシー課題1（CM数量分析）		
第8回	メディア（映像）リテラシー(2) テレビCM2 CMで学ぶ映像言語 CM映像言語グループワーク（まとめと発表）	映像リテラシー課題2（CM映像言語分析）		
第9回	メディア（映像）リテラシー(3) テレビCM3 ターゲット・オーディエンス	映像リテラシー課題3（CMターゲット・オーディエンス分析）		
第10回	テキスト『映像メディアの作り方』(4) 6章 CM テキスト『映像メディアの作り方』(5) 10章 CM制作	WS7（カップ麺企画）、映像制作課題2（ACC学生CM企画）		
第11回	映像制作(2) CM制作実践 ～企画書・企画コンテ作成～ 企画書・企画コンテ作成グループワーク	映像制作課題3（企画書・企画コンテ）		
第12回	映像制作(3) CM制作実践 ～絵コンテ・撮影～	映像制作課題4（絵コンテ・撮影素材整理）		
第13回	映像研究(1)：映像関連企業研究(1) ～テレビ局基礎データ・組織図～	まとめ課題2（基礎データ、組織図）		
第14回	映像研究(2)：映像関連企業研究(2) ～決算書・番組制作比率～	まとめ課題3（決算書など）		
第15回	映像研究(3)：映像関連企業訪問 ～テレビ局・映像制作会社訪問～	まとめ課題4（企業等訪問報告書）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	70% まとめ課題(15%)、ワークシート(WS) (20%)、映像リテラシー課題 (15%)、映像制作課題 (20%) *提出された課題はその都度採点（評価）して、授業時に返却します。			
小テスト等	0% なし			
成果発表	20% グループワークまとめ (10%)、グループワーク口頭発表・プレゼンテーション (10%)			
受講態度他	10% 受講態度、活動参加状況ならびに授業中やフォーラムでの発言など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業が効果的にできるように、LMS（e-Learningシステム）である「筑女ネット」を利用します。授業連絡、進捗確認、授業テキスト・資料、課題、課題提出、フォーラム、授業関連アンケート、評定などの機能をフル活用して使っていきますので、常時アクセスして確認しておいてください。授業ではグループで行う作業や共同して調べ、発表するようなことも多くなります。また撮影、調査、フィールドワーク、PBLなどで学外で活動することもあります。			
教科書	なし（「筑女ネット」のオンライン教材ならびにプリント）			
指定図書	なし			
参考図書	久保田賢一 編著 『映像メディアの作り方』 北大路書房 松村直樹 他 『タクナル』 リアセック *その他は、その都度授業で紹介いたします。			
オフィスアワー	火曜日2限目（10:50-12:20）	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	吉野 嘉高		単 位	4
授業の目的と概要	<p>メディアの学びを映像取材で深める中、就活や実社会においても必要な「課題発見・解決力」と「対話力」を伸ばすための演習である。メディアに関するテーマ（例、SNSで拡散されるフェイクニュースへの対応とは？、市民メディアはなぜ根付かないのか？等々）を設定し、書籍、メディア資料、新聞などでリサーチしてレポートを作成することに加えて、テーマに関連がある人物に映像取材を行うことで考察を深める。</p> <p>未来社会でも課題は山積と思われるので、課題を丁寧に観察して最適解を探す「課題発見・解決力」が、この先も社会人の基礎能力であることは変わらない。「対話力」もまたしかり。実社会において、仕事上、苦手な人とのコミュニケーションを避けることができない。そこで必要なのは「対話力」というスキルである。「対話力」は、企業において、営業でも、販売でも、企画でも活かせる。コロナ禍により前期は遠隔授業となる。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の関心事に引き寄せてメディアに関するテーマを設定することができる。</li> <li>設定したテーマに合わせて各種資料を使ってリサーチをすることができる。</li> <li>「対話力」とは何かをまとめて説明することができる。</li> <li>対話のためのスキルを実践することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション	課題 ア) 映像制作とイ) メディア研究のテーマ案と計画案を作成		
第2回	ア) 映像制作のテーマ案と計画案の発表とオンラインディスカッション	テーマ案と計画案の修正		
第3回	就活や実社会で求められる対話力とは	指定図書の熟読し、対話の観点から論点整理		
第4回	イ) メディア研究のテーマ案と計画案の発表とオンラインディスカッション	テーマ案と計画案の個別指導		
第5回	「暗ラーニング」ゲスト講師によるオンラインコミュニケーション研修(不確定)	研修についてまとめる。		
第6回	指定図書『伝えることから始めよう』についての発表とディスカッション① 学籍番号前半	テーマ案と計画案の個別指導		
第7回	指定図書『伝えることから始めよう』についての発表とディスカッション② 学籍番号後半	ディスカッションについてまとめる		
第8回	「聞く力」「質問力」とは	配布資料の熟読		
第9回	「聞く力」「質問力」スキルアップワーク	「聞く力」「質問力」についてまとめる。		
第10回	映像取材進捗状況の中間発表	映像制作計画の練り直し		
第11回	メディア研究進捗状況の中間発表	メディア研究計画の練り直し		
第12回	コロナ禍によってメディア業界はどう変わるのか	配布資料の熟読		
第13回	レポート第1稿(1000字以上)の発表とオンラインピアレビュー① 4年生と3年生学籍番号前半	指摘された部分の修正		
第14回	レポート第1稿(1000字以上)の発表とオンラインピアレビュー② 3年生学籍番号後半	指摘された部分の修正		
第15回	まとめ 後期について	後期のための準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%(レポート第1稿の評価)			
小テスト等	なし			
成果発表	30%(課題の評価)			
受講態度他	40%(オンライン上での積極性を評価)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1人か2人でペアになってひとつのテーマを設定するが、発表は全て個人で行う。レポート作成の進捗状況は、一人ひとり異なることが予想されるため、授業外での「個別指導」も重視する。オンラインディスカッションやピアレビューを必要に応じて行う。</p> <p>授業外のメディア活動は希望者に指導する。(参加者には加点評価)</p>			
教科書	なし			
指定図書	高田明『伝えることから始めよう』東洋経済			
参考図書	松本幸夫『人を動かす聞く力&質問力』三笠書房			
オフィスアワー	火曜日昼休み(12:20~13:10) 水曜日昼休み(12:20~13:10)	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	橋本 嘉代		単位	4
授業の目的と概要	<p>「メディア分析・発信」をテーマに研究と実践活動を行う。          学生が関心のある社会現象や社会問題などをリサーチし、企画を持ち寄ってディスカッションを行う。          決定したゼミ共通の年間テーマでフィールドワークや取材活動を行い、学びの成果をメディアコンテンツとして発信する手順を学ぶ。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに関するメディアの報道や情報発信の状況、媒体による特性や編集方針、表現方法の違いを理解する。</li> <li>・どのようなテーマ設定で研究を進めるべきか、世の中で必要とされているものは何か、といった「問い」を立て、能動的に学ぶ姿勢を身につける。</li> <li>・新聞や雑誌のフォーマットに沿って、タイトル・本文・リード・キャプションなどを書き分けることができる。</li> <li>・メディアコンテンツの企画を考え、ラフコンテや企画書の形にして提示することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	年間計画、授業の進め方、過年度の制作物と制作プロセスの確認、企画提案書の書き方	企画提案書の作成、リサーチ。教科書を入力し目を通す。		
第2回	編集会議（企画提案書★をもとにしたプレゼン→ディスカッション） ★課題1	過年度の卒業制作や参考にした雑誌等を参照し、企画提案書を書く。		
第3回	テーマの深め方（図書館の契約データベース）、教科書の内容報告★① ★課題2	関心事について調べ、知識を深め、2回目プレゼンに反映。レジュメ作成		
第4回	編集会議 2回目プレゼン<修正案★>→議論→全体テーマを決定、教科書の内容報告② ★課題3	雑誌の事例や議論を参考に修正点を考え企画提案書を練り直す。レジュメ作成		
第5回	リサーチとラフコンテ★（取材先候補の探し方、コンテの描き方） 教科書の内容報告③ ★課題4	リサーチを行い、ラフコンテを描く。レジュメ作成		
第6回	ラフコンテ発表会 → 改善点探し ★課題5	文字数や写真の撮り方、点数などを考え、詳細なラフコンテを描く		
第7回	写真の撮り方、画像管理、レイアウトの仕方	参考にしたい写真の例を集める。写真撮影や画像管理の練習をする		
第8回	ヒト取材体験（取材準備と実践、原稿★執筆） ★課題6	質問を考えるためのリサーチ、原稿執筆		
第9回	場所取材体験（取材準備と取材、原稿★執筆） ★課題7	事前リサーチ、原稿執筆		
第10回	イベント・現象取材体験（取材準備と取材、原稿★執筆） ★課題8	事前リサーチ、原稿執筆		
第11回	チーム会議（関心事ごとのチームに分かれ、打合せ。取材計画を立てる）	会議用資料★の作成。テーマを掘り下げするための資料集め ★課題9		
第12回	オリジナルコンテンツの取材計画と取材準備	取材申込先のリスト作成、取材申込書執筆など		
第13回	コンテのブラッシュアップ版★提出、チーム会議（取材計画の進捗状況を共有） ★課題10	コンテの練り直し、スケジュール案の作成		
第14回	夏休み・後期に向けての課題の明確化、各自の研究計画と進捗状況の共有①	報告資料の作成		
第15回	各自の研究計画と進捗状況の共有②	報告資料の作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	70%（各回の課題）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	30%（ディスカッションなどへの参加の度合い）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCを使わない日は、教室が変更になる場合があります。</li> <li>・各課題に取り組み、着実に積み重ねることが重要です。やむを得ず欠席する場合も課題の提出は必須です。欠席した回の内容は授業外に自習し、キャッチアップしてください。</li> </ul>			
教科書	編集の学校／文章の学校編『編集者・ライターのための必修基礎知識』雷鳥社、2015年、1800円			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜 12:30-14:00、水曜 11:00-12:45、授業の後	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	一ノ瀬 元史		単位	4
授業の目的と概要	ネットワーク社会においては、ICTが暮らしを支え、コミュニケーションのあり方を変化させ、またビジネスのあり方も変化させています。そこには、たくさんの情報システムの働きがあります。それを支えているのはいうまでもなくコンピュータです。ここではコンピュータの働きを知るために、デスクトップパソコンを組み立ててみて、構造を学びます。またネットワークについても基本的な知識を学び情報社会の仕組みについて概観できるようになることです。			
到達目標	a) コンピュータの仕組みが理解できる。 b) ネットワークの仕組みが理解できる c) 情報社会の課題を知ることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 講義内容について	卒業研究レポート執筆・中間発表準備。		
第2回	HTMLによるホームページ作成 1	HTMLと卒業研究レポート準備		
第3回	続 HTMLによるホームページ作成 2	HTMLと卒業研究レポート準備		
第4回	続 HTMLによるホームページ作成 3	HTMLと卒業研究レポート準備。		
第5回	続 HTMLによるホームページ作成 4	HTMLと卒業研究レポート執筆・中間発表準備。		
第6回	続 HTMLによるホームページ作成 5	HTMLと卒業研究レポート執筆・中間発表準備。		
第7回	続 HTMLによるホームページ作成 6	HTMLと卒業研究レポート執筆		
第8回	続 HTMLによるホームページ作成 7	HTMLと卒業レポート執筆		
第9回	続 HTMLによるホームページ作成 8	HTMLと卒業研究レポート執筆		
第10回	続 HTMLによるホームページ作成 9	HTMLと卒業研究レポート執筆		
第11回	続 HTMLによるホームページ作成 1 0	プログラミングについて		
第12回	続 HTMLによるホームページ作成 1 1	卒業研究レポート執筆		
第13回	続 HTMLによるホームページ作成 1 2 完成に向けて	卒業論文執筆・中間発表準備。		
第14回	卒業レポートについて検討・考察	卒業研究レポート発表準備		
第15回	卒業研究レポート発表まとめ	卒業研究レポート執筆		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%			
小テスト等	なし			
成果発表	30%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑紫女学園大学の電子メールアドレス宛に送信された電子メールを少なくとも毎日1回は閲覧すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	水、金 15:00-17:30	メール等で事前に連絡をお願いします。	メールアドレス	

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	佐々木 浩		単 位	4
授業の目的と概要	<p>本講義は、専門ゼミナールⅠ、Ⅱ、卒業ゼミナールⅠ、Ⅱと半期の講義が4回連続する講義の最初の半年となる。この2年間で、人間とその他の動物とが共生していくための持続可能な地域デザインはどのようなものかを考えていく。人間社会が大きく変化してきていることによって、野生動物、家畜など様々な身の回りの動物との関係も変化してきている。1. 関連資料の収集等による課題の探索、2. 課題を解決するための研究計画の立案、3. 調査の実施、4. 結果の分析、5. 地域における実践によって、課題発見、解決能力を身につけることを目的とする。この半年では、卒論を進めるに当たって必要な文献や資料を収集して現状把握を行い、卒業研究を進めていく。</p>			
到達目標	<p>1. 「自然と共生する地域デザイン」について、参考資料を収集して課題を発見することができる。  2. 課題の解決策を模索するため、論理的な議論ができる。  3. 課題の解決策を模索するため、問題を解決しながら研究を進めることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	これまでの研究の進行状況の報告		事前に研究の進行状況をまとめる。	
第2回	論文紹介1		担当者は事前に、レジメを作成する。	
第3回	論文紹介2		担当者は事前に、レジメを作成する。	
第4回	論文紹介3		担当者は事前に、レジメを作成する。	
第5回	卒論計画1		担当者は事前に、レジメを作成する。	
第6回	動物と人 動画鑑賞		担当者は事前に、鑑賞動画を選ぶ	
第7回	卒論計画2		担当者は事前に、レジメを作成する。	
第8回	論文紹介4		担当者は事前に、レジメを作成する。	
第9回	動物園見学		見学の視点を事前に検討する。	
第10回	動物園見学意見交換		見学レポートを作成しておく	
第11回	論文紹介5		担当者は事前に、レジメを作成する。	
第12回	猫の島見学		見学の視点を事前に検討する。	
第13回	相の島見学意見交換		見学レポートを作成しておく	
第14回	卒論計画3		担当者は事前に、レジメを作成する。	
第15回	夏合宿検討		夏休みの活動の確認	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	論文紹介のレジメ 70% 見学レポート10%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	基本はリアルタイム講義。フィールドワークは2回実施。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日 3講時	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	安恒 万記 豊増 美喜		単位	4
授業の目的と概要	住環境に関する課題について、自らの問題意識に即してグループでの調査・研究を行い、発表と討論を行うことによって住環境について深く考察します。特に3年生と合同でのグループをまとめ、研究課題に関する文献、資料に幅広く触れ、目的に合ったデータを収集し、適切な分析を行い、発表と討論を行うことによって、課題発見能力や論理的な思考力、プレゼンテーション能力などを身につけることを目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広く住環境について、現代社会における問題・課題を発見することができる。</li> <li>2. その問題・課題について、参考文献や先行研究の検索、フィールドワークやアンケートなどの調査を提案することができる。</li> <li>3. その問題・課題について、具体的にまとめることができる。</li> <li>4. テーマに沿って論点を見つけ、ディスカッションすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」の内容を整理する		
第2回 年間ゼミナール計画の策定①		年間計画を作成する		
第3回 年間ゼミナール計画の策定②		研究テーマ、研究方法、データの整理		
第4回 研究テーマ設定		研究テーマ、研究方法、データの整理		
第5回 参考文献、先行研究の整理、ディスカッション		4回目までの内容の確認		
第6回 文献、先行研究：研究方法（理科系の作文技術）		文献を読み、自分の研究と結びつける		
第7回 文献、先行研究：研究方法（研究方法の選択）		文献を読み、自分の研究と結びつける		
第8回 文献、先行研究：研究方法（インタビュー調査の事例）		文献を読み、自分の研究と結びつける		
第9回 文献、先行研究：研究方法（行動観察の事例）		文献を読み、自分の研究と結びつける		
第10回 研究方法（アンケート調査）		文献を読み、自分の研究と結びつける		
第11回 学内調査、事前調査の検討		発表資料の準備（筑女ネットを活用しPPT資料のブラッシュアップ）		
第12回 発表の準備（1回目）とチェック・修正		発表資料の準備（筑女ネットを活用しPPT資料のブラッシュアップ）		
第13回 発表の準備（2回目）とチェック・修正		発表資料の準備（筑女ネットを活用しPPT資料のブラッシュアップ）		
第14回 前期最終発表（1回目）		プレゼンテーション準備		
第15回 まとめと総括 前期最終発表（2回目）		発表準備 今後の課題の整理		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	50%			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な参加を期待します			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	大学での授業の場合は授業の前後、遠隔授業の場合はメール等の利用	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	栗木 明裕		単位	4
授業の目的と概要	栗木ゼミ「健康的なライフスタイルを考えるゼミ」では、幸福感 (well-being) をテーマに人 (心とカラダ) や生活についての調査や実験を通して理解を深め、生活環境や社会環境から健康を捉えてヘルスプロモーションのためのノウハウを考えていく。卒業ゼミナールⅠでは、専門ゼミナールで学んだ内容を踏まえて具体的に卒業研究を計画して実践する。そして卒業ゼミナールⅡでは収集したデータを分析・考察して研究論文としてまとめる。また、各ゼミナールのそれぞれの過程では、作業内容をアウトプットして討議を繰り返しながら知識を体系化していく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活環境や社会環境における問題・課題の中から研究テーマを決定し、研究計画を立てることができる。</li> <li>2. 研究テーマに関連する資料を元に適宜研究計画を調整し、討議することができる。</li> <li>3. 研究を進めるための基本的な手順・手法を実践することができる。</li> <li>4. 収集したデータを整理・管理できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション		専門ゼミナールⅠ・Ⅱの内容を整理する	
第2回	年間ゼミナールの計画策定		年間計画を策定する	
第3回	研究テーマの見直しとテーマ設定 (1)		研究テーマ、研究方法の整理	
第4回	研究テーマの見直しとテーマ設定 (2)		研究テーマ、研究方法の整理、先行研究の調査	
第5回	研究テーマの見直しとテーマ設定 (3)		研究テーマ、研究方法の整理、先行研究の調査	
第6回	研究プロポーザルの作成 (1) : 指導教員と質疑		プロポーザル作成	
第7回	研究プロポーザルの作成 (2) : 他学生に発表・討議		発表と討議準備	
第8回	研究プロポーザルの作成 (3) : 指導教員と質疑		討議の結果を踏まえた修正	
第9回	研究準備 (1) : スケジュール確定		研究手法を踏まえて手順の確認と備品の準備・作成	
第10回	研究準備 (2) : 手順確認と備品準備		研究手法を踏まえて手順の確認と備品の準備・作成	
第11回	研究準備 (3) : 手順確認と備品準備		研究手法を踏まえて手順の確認と備品の準備・作成	
第12回	研究準備 (4) : 予備日		研究手法を踏まえて手順の確認と備品の準備・作成	
第13回	研究実施 (1)		研究のシミュレーションと準備	
第14回	研究実施 (2)		研究のシミュレーションと準備、採取したデータの管理	
第15回	まとめ (発表) と卒業ゼミナールⅡへの準備		研究の状況把握と今後の計画設定	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 研究プロポーザル (授業中に1回)			
小テスト等	なし			
成果発表	60% 研究計画時の討議とプロポーザルの発表 (全授業中に各1回課す)			
受講態度他	10% 積極的な態度、発言 私語など受講態度が悪く、ゼミ進行や他の学生の妨げとなる場合は減点もあり得る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業ゼミナールはゼミ活動の仕上げであり、研究テーマにおける基本的な研究方法を学び、実践することが重要である。自分自身で主体的に取り組み、自分自身で実践し、自分自身で考えることを大切にする。授業内容に応じて学外で授業を行うことがあるので、適宜指示する。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	水曜日 10:50~12:20 (事前連絡要)		メールアドレス	



授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	高森 暁子		単 位	2
授業の目的と概要	各自が選んだ文学作品を対象に、テキストを精読し、問いをたて、それについて検証する練習を行います。各自の研究内容をプレゼンテーションとしてまとめ、クラス内で発表を行います。プレゼンテーション後に、そこで取り上げられたテーマや、浮かび上がってきた問題点について、全員でディスカッションを行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品の内容や背景について客観的に説明することができる。</li> <li>2. 作品を精読し、批評的に分析することができる。</li> <li>3. それぞれの作品が、どのように受容されているのかを説明することができる。</li> <li>4. 自らの研究内容を効果的にプレゼンテーションすることができる。</li> <li>5. プレゼンテーションの内容を論理的な構成の文章にまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目：「卒業ゼミナールⅡ」「卒業論文」			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	遠隔授業に関する準備	履修環境に関する準備を整える		
第2回	オリエンテーション	発表対象の作品について調査する		
第3回	発表スケジュールの確認と調整	発表スケジュールをゼミ生の間で調整する		
第4回	自己紹介、発表に向けた情報交換	発表作品についての情報収集		
第5回	Microsoft Teamsビデオ会議機能の使い方	Microsoft Teamsの使い方に関する動画視聴		
第6回	Teamsを使ったプレゼンテーション練習	プレゼンテーションの準備とTeamsの画面共有機能の練習		
第7回	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーション(1)で取り上げられたテーマについて調べる		
第8回	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーション(2)で取り上げられたテーマについて調べる		
第9回	プレゼンテーション(3)	プレゼンテーション(3)で取り上げられたテーマについて調べる		
第10回	プレゼンテーション(第1ラウンド)の振り返り	プレゼンテーション(4)(5)(6)に向けた情報収集		
第11回	プレゼンテーションに基づく中間レポート作成	中間レポートの作成		
第12回	プレゼンテーション(4)	プレゼンテーション(4)で取り上げられたテーマについて調べる		
第13回	プレゼンテーション(5)	プレゼンテーション(5)で取り上げられたテーマについて調べる		
第14回	プレゼンテーション(6)	プレゼンテーション(6)で取り上げられたテーマについて調べる		
第15回	文学作品とその翻案	期末レポートの準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	中間レポート30%、期末レポート30%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40% 授業中の発表およびディスカッションへの積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に関する連絡や授業で使用する資料は、筑女ネットの授業ページに掲載します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて授業中に指示します。			
オフィスアワー	水曜5時～	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	間瀬 玲子		単位	2
授業の目的と概要	フランス文化またはフランス文化が英語圏文化に与えた影響に関する資料を参考にしながら他のゼミ生と積極的に議論を行う。その議論を糧として独自の研究テーマを考える。前もって筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとにプレゼンテーションを行う。そして問題解決力と論理的思考力を駆使して、研究成果をレポートの形にまとめることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 フランス文化またはフランス文化が英語圏文化に与えた影響に関する研究テーマを自分で考えることができる。</li> <li>2 配布資料の内容に関して議論を行うことができる。</li> <li>3 筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとにプレゼンテーションをすることができる。</li> <li>4 研究の成果をレポートにまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  関連する科目 : 基礎ゼミナール、映画学概論、比較文学			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	授業の概要	予習 シラバスを前もって読む		
第2回	歴史と文化の街パリ (オースマンの都市大改革)、テーマの立て方	予習 配布資料 (第2回)		
第3回	歴史と文化の街パリ (デパート) 研究テーマ、研究概要、参考文献を提出する	予習 配布資料 (第3回)		
第4回	パリの暮らし (パリの市場)	予習 配布資料 (第4回)		
第5回	パリの暮らし (ワイン) 、参考文献の書き方	予習 配布資料 (第5回)		
第6回	パリの暮らし (のみの市)	予習 配布資料 (第6回)		
第7回	芸術と文化の首都 (パリの三大美術館)	予習 配布資料 (第7回)		
第8回	各自の研究概要を発表する、研究概要を書いて提出する	予習 研究概要を考える		
第9回	芸術と文化の首都 (グランプロジェ)	予習 配布資料 (第9回)		
第10回	芸術と文化の首都 (バンド・デシネ)	予習 配布資料 (第10回)		
第11回	芸術と文化の首都 (映画)	予習 配布資料 (第11回)		
第12回	発表資料の作り方、筑女ネットへのアップの仕方を学ぶ	予習 配布資料 (第12回) 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す		
第13回	プレゼンテーションの仕方を勉強する、ボルドーワイン	予習 配布資料 (第13回) 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す		
第14回	レポートの書き方、卒業まえに見てほしい映像作品	予習 配布資料 (第14回) 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す		
第15回	中間発表	発表要旨を作成し、筑女ネットに前もってアップしておく		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	50% 中間レポート (A4判 2枚以上)			
小テスト等	0% なし			
成果発表	20% 中間発表 (ファイルをアップ)			
受講態度他	30% フォーラムにおける質問等による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネットに授業の進捗、最新情報を掲載しますので、頻りにチェックしてください。			
教科書	教科書はありません。授業資料は前もって読んでおいてください。			
指定図書	『チーズの事典』 誠文堂新光社、ドミニク・レスプロ『街角の遺物』 原書房			
参考図書	田村毅 『フランス文化読本』 丸善出版			
オフィスアワー	月曜日4講時 (前期は遠隔授業のため、オフィスアワーはありません。メールをください)	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	T. R. Honkomp		単位	2
授業の目的と概要	<p>The Cultural Contrasts seminar will focus primarily on the differences between American and Japanese cultures. Current media use cultural stereotypes of both Japanese and Western cultures to influence and send messages to their audiences. These messages reflect the work ethic, values, reputations, and national images that are prevalent in aspects of both societies.</p> <p>In addition to the cultural themes explored, an effort will be made in the seminar to increase fluency and student output in English. Improved speaking abilities are expected to enhance participation in this seminar.</p>			
到達目標	<p>The seminar will consider situations presented by TV programs, movies &amp; video, popular music, Internet and other forms of mass communication in both American and Japanese societies. The situations examined include observable cultural items such as clothing, food customs and eating habits. Other aspects that are included but are harder to observe are values of society, relationships and common sense. The resulting contrasts will be analyzed and discussed. The seminar will look at the situations of people who have lived in both countries and analyze some of the cultural encounters they have experienced.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Seminar Introduction - Goals & Expectations Introduction to Stereotypes		Article on Cultural Stereotypes		
第2回 American & Japanese Cultural Norms and Stereotypes		Handouts		
第3回 American & Japanese Cultural Norms and Stereotypes Continued Introduction to video clips		Reading on Deep Culture vs. Shallow Culture		
第4回 Presentation of Stereotypes in Media - American & Japanese		Assignment #1		
第5回 Student Presentations of Stereotypes begin		Paper #1 due		
第6回 Selected Scenes from Media - Analysis & Discussion Student Presentations of Stereotypes Continued		Readings from A Taste of Japan		
第7回 Selected Scenes from Media - Analysis & Discussion Finish Student Presentations of Stereotypes		Readings from A Taste of Japan continued		
第8回 Begin in-class Video #1		Handout		
第9回 In-class Video #1 Continued		Readings from A Taste of Japan continued		
第10回 Finish In-class Video #1 Begin Essay Analysis Assignment		Assignment #2		
第11回 Student Presentations of Essay Analysis		Paper #2 due		
第12回 Student Presentations of Essay Analysis Continued Begin In-class Video #2		Finish readings from A Taste of Japan		
第13回 Finish Student Presentations of Essay Analysis Continue In-class Video #2		Assignment Review		
第14回 Finish In-class Video #2 Comments and Discussion		Review vocabulary from semester vocab. list		
第15回 Semester Consolidation and Exam Review		Exam review sheet		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% End of term report			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	35% Class participation and presentations ( Papers ) 25% Written assignments			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Evaluation in the Seminar is based on class participation, completion of assignments, attendance and exams. Students are encouraged to make a positive effort and have open communication.			
教科書	-			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Tuesday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 1st period (9:10-10:40)	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	松崎 徹		単 位	2
授業の目的と概要	本ゼミナールでは、講師が幅広く集めた、英語に見られる興味深い言語現象を受講生と一緒に分析しながら、英語の持つ不思議な魅力を体感していきます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語には興味深い言語現象が数多く存在していることを理解できる。</li> <li>2. そうした言語現象の多くにはきちんとした由来が存在していることが理解できる。</li> <li>3. 上で学んだ言語現象の由来を類似した他の言語現象の説明にも応用できるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	導入問題の解答と解説	授業の既習事項の復習および配布プリントの予習		
第2回	英語の発音と綴りの不思議 (1) 【発音】	授業の既習事項の復習および配布プリントの予習		
第3回	英語の発音と綴りの不思議 (2) 【綴り】	授業の既習事項の復習および配布プリントの予習		
第4回	英語の発音と綴りの不思議 (3) 【発音と綴りの歴史】	授業の既習事項の復習および配布プリントの予習		
第5回	アルファベットの不思議 (1) 【アルファベットの由来】	授業の既習事項の復習および配布プリントの予習		
第6回	アルファベットの不思議 (2) 【アルファベットの種類】	授業の既習事項の復習および配布プリントの予習		
第7回	アルファベットの不思議 (3) 【英語のアルファベットの歴史】	授業の既習事項の復習および配布プリントの予習		
第8回	英語の数の不思議 (1) 【言語と数】	授業の既習事項の復習および配布プリントの予習		
第9回	英語の数の不思議 (2) 【可算と不可算】	授業の既習事項の復習および配布プリントの予習		
第10回	英語の数の不思議 (3) 【数詞】	授業の既習事項の復習および配布プリントの予習		
第11回	英語の性別の不思議 (1) 【言語と性】	授業の既習事項の復習および配布プリントの予習		
第12回	英語の性別の不思議 (2) 【英語の性の歴史】	授業の既習事項の復習および配布プリントの予習		
第13回	英語の性別の不思議 (3) 【現代英語での性】	授業の既習事項の復習および配布プリントの予習		
第14回	レポート作成	レポート作成		
第15回	レポート提出	レポート完成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 口頭発表			
受講態度他	50% 授業での積極的な取り組みを考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・あらかじめ配布された予習プリントは次回の授業時までにはかならず予習をしておいてください。また、授業で学んだことは、その日のうちに復習しておいてください。 ・授業は講義形式が主ではありますが、本ゼミの受講生には授業がより活気あるものとなるよう、各自の積極的な参加と活発な意見の交換を期待します。 ・理解度の確認という目的で各単元の終了ごとに小テストを実施しますので、テストに備えて日ごろから講義内容の復習を心が			
教科書	プリント資料配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜指示します。			
オフィスワー	筑女ネット上で適宜質問などを受け付けます。	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	アダチ 徹子		単位	2
授業の目的と概要	このゼミナールでは、酒井他『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』を活用して、英語教育に関するトピックについて広く深く知識を広げ、受講生同士で話し合いながら教師としての資質を向上させることをめざします。理論的な基礎は、授業実践力の支えとなります。さまざまな側面から英語教育について検討することを通して、幅広い知識をもち、多面的な思考ができる英語教師としての成長をめざします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>英語教育に関するさまざまなトピックについて知り、説明できるようになる。</li> <li>これからの英語教育の方向性を理解し、教育実習や教員採用試験への準備に役立てることができる。</li> <li>受講生同士のディスカッションに協力的に参加し、学びの共同体に貢献することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 <関連する授業科目>卒業ゼミナールⅡ			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション			第1章のWarm-up課題	
第2回 第1章 英語という言葉の特質 (理解する)			ワークシート、ディスカッションの準備	
第3回 第1章 英語という言葉の特質 (深める)			ミニレポート、スライド視聴、Warm-up課題	
第4回 第2章 日本社会における英語 (理解する)			ワークシート、ディスカッションの準備	
第5回 第2章 日本社会における英語 (深める)			ミニレポート、スライド視聴、Warm-up課題	
第6回 第3章 日本の外国語教育 (理解する)			ワークシート、ディスカッションの準備	
第7回 第3章 日本の外国語教育 (深める)			ミニレポート、スライド視聴、Warm-up課題	
第8回 第4章 コミュニケーション能力 (理解する)			ワークシート、ディスカッションの準備	
第9回 第4章 コミュニケーション能力 (深める)			ミニレポート、スライド視聴、Warm-up課題	
第10回 第5章 英語学習の共通性 (理解する)			ワークシート、ディスカッションの準備	
第11回 第5章 英語学習の共通性 (深める)			ミニレポート、スライド視聴、Warm-up課題	
第12回 第6章 言語適性 (理解する)			ワークシート、ディスカッションの準備	
第13回 第6章 言語適性 (深める)			ミニレポート、スライド視聴、Warm-up課題	
第14回 第7章 動機づけ (理解する)			ワークシート、ディスカッションの準備	
第15回 第7章 動機づけ (深める)			ミニレポート、スライド視聴	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ミニレポート 50%			
小テスト等	ワークシート課題 20%			
成果発表	担当章でのディスカッション・リーダー 15%			
受講態度他	定期的な筑女ネットへのアクセス、積極的な学習、ディスカッション等への貢献 15%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○さまざまなトピックに興味をもち、テキスト以外にも積極的に文献を調べて、知識や視野を広げてください。 ○このテキストには、コンパニオン・ウェブサイトがあります。各章に関する資料の他に、便利な文献やサイトも紹介してありますので、有効に活用してください。なお、利用の前に、テキストxi-xiiiページの留意事項を必ず読んでください。 <a href="https://www.taishukan.co.jp/item/jissenteki_eigokakyoi/kuho/">https://www.taishukan.co.jp/item/jissenteki_eigokakyoi/kuho/</a> ○ミニレポートは次の回でコメントとともに返却するほか、ユニークな視点や興味深い内容などを全員でシェアします。			
教科書	酒井英樹・廣森友人・吉田達弘(編著)『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』大修館書店			
指定図書	なし			
参考図書	文献を紹介します			
オフィスアワー	火曜日4時間目に筑女ネットのチャットにて または 予約により随時	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	宮原 牧子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>ヴィクトリア朝時代のイギリスのバラッド詩を精読、鑑賞、翻訳します。翻訳とは、単なる訳ではありません。詩人の他の作品や伝記、時代背景など、さまざまな知識が必要です。真に作品を理解した上で、詩を翻訳しましょう。翻訳は、とても時間のかかる作業です。根気よく頑張ります。</p> <p>なお、完成した翻訳作品は、『英国バラッド詩アーカイブ』（<a href="http://literaryballadarchive.com/">http://literaryballadarchive.com/</a>）に掲載されます。担当作品は、責任をもって仕上げてください。</p> <p>①詩人と作品を選定します。  ②時代背景や伝記について調べます。また、詩人の他の作品も読みます。  ③作品を精読します。 ④グループごとに試訳をつくり、全員で検討します。 ⑤翻訳作品を完成させます。</p>			
到達目標	1. 英詩の構造を正確にとらえ、内容を理解することができる 2. 文学用語、詩人、作品、時代背景に関する知識を身につけることができる 3. 作品にふさわしい日本語で詩を翻訳することができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション 「翻訳とは何か」	担当者は論文の内容をまとめたレジュメを作成・担当者以外も必ず読むこと		
第2回	ヴィクトリア朝時代の時代背景 「進歩と警告」	担当者は論文の内容をまとめたレジュメを作成・担当者以外も必ず読むこと		
第3回	ヴィクトリア朝時代の社会の構造 「統一性と多様性」	担当者は論文の内容をまとめたレジュメを作成・担当者以外も必ず読むこと		
第4回	ヴィクトリア朝時代の社会の構造 「労働者階級の生活」	担当者は論文の内容をまとめたレジュメを作成・担当者以外も必ず読むこと		
第5回	ヴィクトリア朝時代の文学 「アイデンティティの諸問題」	担当者は論文の内容をまとめたレジュメを作成・担当者以外も必ず読むこと		
第6回	ヴィクトリア朝時代の文学 「文学の多様性」	担当者は論文の内容をまとめたレジュメを作成・担当者以外も必ず読むこと		
第7回	ヴィクトリア朝時代の文化	グループごとに試訳を作成		
第8回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（1） 誰にでも解る翻訳を目指す	グループごとに試訳を作成		
第9回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（2） 辞書や辞典の活用	グループごとに試訳を作成		
第10回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（3） グループ案の作成	グループごとに試訳を作成		
第11回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（4） グループ間ディスカッション	グループごとに試訳を作成		
第12回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（5） 背景の研究	グループごとに試訳を作成		
第13回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（6） 翻訳作品原案作成	翻訳第一案の検討		
第14回	翻訳作品の校正（1） グループによるディスカッション	翻訳第二案の検討		
第15回	翻訳作品の校正（2） 作品の完成	翻訳作品を完成させる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	60％ 文献の紹介や翻訳作品の完成度により評価します。			
受講態度他	40％ オンライン講義への参加度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。			
教科書	プリント（筑女ネットにアップします。）			
指定図書	—			
参考図書	必要に応じて講義中にご紹介します。			
オフィスアワー	学内立入禁止が解除された場合は水曜日3限目 それまではメールで対応します。	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	大城 房美		単位	2
授業の目的と概要	<p>研究課題：ポップカルチャーとアイデンティティ</p> <p>英語は、国際共通語として、グローバルに文化をつないでいる。マンガ、アニメ、映画、小説、音楽、ゲーム、など、私たちが身近に触れている様々なコンテンツは、どのように消費されながら、私たちが想像／創造へとつなぐのか。ゼミでは、英語による表現でグローバルな視座から描かれた作品を扱いながら、多様な文化のあり方と私たちのアイデンティティのつながりを考察する。講義は、各ゼミ生が興味のあるポップカルチャーについて自由に紹介する <b>small presentation</b> と、各講義で考察する作品や論文のレジュメ作成担当者による問題提起からの議論の2部構成で進行する。また社会的実践例を学ぶため、公的施設の視察も行う。各回のテーマを自身の視点から考えると同時に、自分の意見をどう伝えればよりよく伝わるか、他のゼミ生たちはどう考えるのか、など、常に問題提起しながら、それぞれのテーマを共有する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「ジェンダー」論についての基本的な知識を習得し、分析・問題提起ができるようになる。</li> <li>グローバルな視点から、文化受容について考察しその重要性を理解する。（ゼミでは、積極的に英語テキストを取り上げ、比較文化的視点から分析すること）</li> <li>「主体性表現」として文化表現を考察し、ジェンダーをはじめとしたアイデンティティと、現代社会に関する問題を自分の視点から考え、それに対する意見を述べるができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>英(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Introduction		講義の際に指示します。		
第2回 北九州市漫画ミュージアム 訪問・視察（ミュージアムの予定により変更可能性有り）		講義で扱う内容についてリスポンス投稿。		
第3回 Film Showing: Snow White (Disney)		講義で扱う内容についてリスポンス投稿。		
第4回 「白雪姫」『お姫様とジェンダー』 ジェンダー論の基礎		講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第5回 Nightmare and Fairy Tale より "Cinderella"		講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第6回 "Beyond Borders: Shoyo Manga and Gender"		講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第7回 Skim Chapter 1 Chapter 2		講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第8回 Skim Chapter 3 Chapter 4		講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第9回 Skim Chapter 5 Chapter 6		講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第10回 『Women's Manga in Asia and Beyond』 アジアにおけるマンガと英語翻訳の状況について		講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第11回 Dolltopia に 表現されるアイデンティティ "Self-Esteem" Ch1		講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第12回 Dolltopia に 表現されるアイデンティティ "Self-Esteem" Ch2		講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第13回 Dolltopia に 表現されるアイデンティティ "Self-Esteem" Ch3		講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第14回 Dolltopia に 表現されるアイデンティティ "Self-Esteem" Ch4		講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第15回 『Shoyo Across Media』 グローバルに広がる女性とComics/MANGA 文化		講義の際に指示します。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 4000字以上。参考文献5点以上。引用処理を的確に行っていないものは不可。			
小テスト等	なし			
成果発表	レポートに含む			
受講態度他	20% 講義での活動(出席状況・発表・宿題など)を含む。 リスポンス20% 各講義について、質問やコメントなどを筑女ネットのフォーラムに投稿する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*発表のレジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価しない。</p> <p>Presentationの準備 &lt;レジュメの作成&gt;</p> <p>Small presentationsの準備 (10分程度の発表)</p> <p>・「ジェンダー」 ・「少女・女性MANGA」 (英語圏で出版されている作品報告)</p> <p>*補講(時間割外講義)や学外講義の連絡に注意すること</p>			
教科書	<p>・『女性マンガ研究—欧米・アジア・日本を繋ぐMANGA』(青弓社) ・『新版大学生のためのレポート・論文術』(講談社) ・Skim (Groundwood Books) ・Girl (Ski邦訳) ・DOLLTOPIA ・Mantra</p>			
指定図書	Women's Manga in Asia and Beyond(Palgrave macmillan), Shoyo Across Media (Palgrave macmillan), Kawaii!: Japan's Culture of Cute,			
参考図書	『女性学事典』『文学批評用語辞典』『マンガは越境する!』Cartoon Cultures, Media, Gender and Identity (Routledge 2008), The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture、英語版MANGA、マンガ関係の図書は請求番号726.1で検索			
オフィスアワー	火曜日午後（予約を入れてください）	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	D. J. Wood		単位	2
授業の目的と概要	Students will: * develop their command of verbal linguistic patterns * analyze common conceptual features like experience processing and assimilation * learn how to grasp structure and logical development of spoken interaction; and * identify elements common to all communication and the themes which it includes. * use their own photos to ask and answer questions for communication			
到達目標	To present the nature of visual and aural communication for close study in relation to the overall meaning of such universal topics as the nature of teaching and learning, students: * deepen their ability to comprehend all the levels at which conversations operate to present the same orally. * develop the necessary analytical tools and skills to make insightful conclusions; and * learn and demonstrate the ability to write their questions, impressions and interpretation			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Seminar orientation and interpersonal communication method introduction	Prepare assignment 2		
第2回	Exchange of personal information, about recent activities for listening and expression and preparation of photos for communicative interaction	Prepare assignment 3		
第3回	Exchange of personal information, about recent activities for listening and expression	Prepare assignment 4		
第4回	Class report writing	Prepare assignment 5		
第5回	Photo background studies introduction	Prepare assignment 6		
第6回	Initial photo interpretation	Prepare assignment 7		
第7回	Analysis of the detailed content of students' photos	Prepare assignment 8		
第8回	Photo interpretation and interaction	Prepare assignment 9		
第9回	Analysis of the detailed content of the photos	Prepare assignment 10		
第10回	Photo interpretation of individual photos in groups	Prepare assignment 11		
第11回	Advanced interpretation of students' photos	Prepare assignment 12		
第12回	Analysis of the overall content to identify its themes and expressive forms	Prepare assignment 13		
第13回	Review of the photo's content and meaning	Prepare assignment 14		
第14回	Report orientation	Prepare assignment 15		
第15回	First draft of photo report	Prepare assignment review		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% Class participation and contribution			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	Materials will be distributed			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	緒方 隆文		単 位	2
授業の目的と概要	<p>目標1：卒業ゼミナールを通して、言語・文化に関する専門知識を身につけ、深い人間理解ができるようになる。目標2：英語理論を学び、言葉としての英語に関心を持つとともに、自ら探求する方法を身につける。目標3：英語圏文化を、学んだり調べたりすることで、英語に対する理解を深め、様々な視点で英語をとらえることができるようになる。その過程で、論理的思考力、問題解決力、特定分野の知識・技能を身につける。</p> <p>授業は基本、二部構成で進められる。前半では受講者は、自分のテーマによる発表を行い、全員で討議する。協働して取り組むことで、内容がより深くなるよう討議する。後半ではプリントを用いて、言語理論(認知言語学)や英語学全般の内容を取り上げ学習する。英語そのものがもつ規則性・特徴を、言語理論に偏ることなく、幅広く見ていく。そうすることで、英語に対する理解を深め、英語そのものをことばとして楽しむことが期待されている。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語に関するテーマを一つ選び、課題に向き合い、期末レポートを書くことができる。レポート作成では、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、より深い知見が得られるよう探求することができる。</li> <li>2. 調べたことを、口頭発表(2回)することができる。</li> <li>3. 講義で学んだ特定分野の知識・技能に関して、人類の文化・社会と自然への理解を背景に持ちながら、論理的に説明することができる。</li> <li>4. 口頭発表など講義中に、質疑応答やディスカッションなど積極的に参加することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  英(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	オリエンテーション, テーマ仮決め/情報検索と収集	情報検索と収集の復習、発表/レポート作成準備		
第2回	マインドマップの作り方, ハンドアウトの作り方	マインドマップの作り方の復習, 発表/レポート作成準備		
第3回	プレゼンテーションについて, 期末レポートの書き方	レポートの書き方の復習, 発表/レポート作成準備		
第4回	発表A(第1回); 認知言語学/英語学全般(オリエンテーション)(発表とディスカッションを含む)	認知言語学の復習, 発表/レポート作成準備		
第5回	発表A(第2回); 認知言語学/英語学全般(Overの意味拡張(1):多義性について)(発表とディスカッションを含む)	Overの意味拡張(1)の復習, 発表/レポート作成準備		
第6回	発表A(第3回); 認知言語学/英語学全般(Overの意味拡張(2):事例研究)(発表とディスカッションを含む)	Overの意味拡張(2)の復習, 発表/レポート作成準備		
第7回	発表A(第4回); 認知言語学/英語学全般(メタファー(1):理論的背景)(発表とディスカッションを含む)	メタファー(1)の復習, 発表/レポート作成準備		
第8回	発表A(第5回); 認知言語学/英語学全般(メタファー(2):方向付けのメタファー)(発表とディスカッションを含む)	メタファー(2)の復習, 発表/レポート作成準備		
第9回	発表B(第1回); 認知言語学/英語学全般(メタファー(3):容器のメタファー)(発表とディスカッションを含む)	メタファー(3)の復習, 発表/レポート作成準備		
第10回	発表B(第2回); 認知言語学/英語学全般(訳にあたって(1):翻訳原理)(発表とディスカッションを含む)	訳にあたって(1)の復習, 発表/レポート作成準備		
第11回	発表B(第3回); 認知言語学/英語学全般(訳にあたって(2):日英の視点の違い)(発表とディスカッションを含む)	訳にあたって(2)の復習, 発表/レポート作成準備		
第12回	発表B(第4回); 認知言語学/英語学全般(訳にあたって(3):事例研究)(発表とディスカッションを含む)	訳にあたって(3)の復習, 発表/レポート作成準備		
第13回	発表B(第5回); 認知言語学/英語学全般(ポライトネスストラテジー(1):理論)(発表とディスカッションを含む)	ポライトネスストラテジー(1)の復習, 発表/レポート作成準備		
第14回	発表B(第6回); 認知言語学/英語学全般(ポライトネスストラテジー(2):応用研究)(発表とディスカッションを含む)	ポライトネスストラテジー(2)の復習, 発表/レポート作成準備		
第15回	総括: レポート最終指導, 学習内容の全体的復習	レポート仕上げ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 期末レポートの他に、毎回の授業において課題が課せられる。なお提出した課題は、次回の授業において返却される。			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 各自口頭発表が2回ずつある。			
受講態度他	20% 積極的な参加(発表・質問等)を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>学習態度(授業参加度・プレゼン発表)や課題/レポートを重視する。発表やレポートはしっかりと時間をかけ準備をし、自分でも十分に満足のものにすること。</p> <p>細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。</p> <p>筑女ネットを活用し、課題説明・課題提出などを行う。授業課題は、次回講義にて返却しフィードバックする。なお学生同士で行ったコメント・質問・評価は、発表者に一覧表として渡され、フィードバックされる。</p>			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(メール等で、予約することが望ましい)	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	小林 久泰		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、卒業論文を書くことを前提として、テーマの設定、先行研究の調査、資料や参考文献の探索と整理の方法を身につけることを目的とする。 論文を書くとはどういうことかということについて、最初の数回はガイダンスとして講義をする。その後、各自のテーマに沿って文献の探索、資料調査などを実際に行い、その結果をまとめる作業を進めていくこととなる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の関心を論文のテーマとして設定できる。</li> <li>2. テーマに関する先行研究を調査し、その内容をまとめることができる。</li> <li>3. 論文を書くために必要な資料、参考文献を自分で探すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション：学術論文とは	資料収集、発表準備		
第2回	テーマの設定	資料収集、発表準備		
第3回	テーマに関する情報収集	資料収集、発表準備		
第4回	アウトラインの作成	資料収集、発表準備		
第5回	口頭発表とディスカッション：テーマ発表	資料収集、発表準備		
第6回	論文の書式	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第7回	論述の方法：文章作法	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第8回	口頭発表とディスカッション：中間構想（1）	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第9回	口頭発表とディスカッション：中間構想（2）	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第10回	参考文献リストの作り方	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第11回	注・引用の形式	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第12回	先行研究の評価	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第13回	口頭発表とディスカッション：本論1（1）	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第14回	口頭発表とディスカッション：本論1（2）	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第15回	アウトラインの見直し	資料収集、原稿執筆、発表準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% テーマに沿って調査した結果の報告内容を評価する。			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 研究発表の内容を評価する。			
受講態度他	30% 授業への参加意欲、受講態度を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	意欲を持って積極的に取り組む姿勢のない者は指導できない。 週に1度は状況を報告すること。			
教科書	白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	適宜指示する。			
オフィスワー	月曜 2 講時	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合		単位	2
授業の目的と概要	本演習は、本学科の学びの集大成である卒業論文制作に向けての自主的な研究の計画と遂行、という位置づけを持つ。各自の関心に沿ってテーマを設定し、資料を収集する中から争点を絞りこみ中間報告を行う。それを踏まえた小論文を制作する中で、後期の作業課題を明らかにすることがねらいである。			
到達目標	①テーマ設定に際し、先行研究やその他の資料を収集・検討し、争点把握と論述方針を固める。 ②①の作業をまとめ、中間報告で報告する。小論文を制作し、演習Ⅱにおける検討課題を設定する。 ③他のメンバーの研究に対し、積極的に批評ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入①：卒業研究のねらいとオンラインゼミの進め方		課題設定		
第2回 導入②：問題設定ほか作業内容の確認。オンライン報告スケジュールの決定		資料収集		
第3回 報告とディスカッション		レジュメ制作		
第4回 報告とディスカッション・課題指示		追加資料の検討		
第5回 報告とディスカッション		レジュメ制作		
第6回 報告とディスカッション：課題指示		追加資料の検討		
第7回 報告とディスカッション・課題指示		レジュメ制作		
第8回 報告とディスカッション：課題指示		テーマ発展の検討		
第9回 報告とディスカッション・課題指示		テーマ発展の検討		
第10回 報告とディスカッション		テーマ発展の検討		
第11回 報告とディスカッション・課題指示		卒論執筆と章建て		
第12回 報告とディスカッション		卒論執筆と章建て		
第13回 報告とディスカッション・課題指導		卒論執筆と章建て		
第14回 中間報告とディスカッション		中間レポート作成方法		
第15回 中間報告とディスカッション・課題指示		中間レポート作成方法		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 期末レポート			
小テスト等	-			
成果発表	30% (中間報告10%、期末報告20%)			
受講態度他	40% 個人指導時の報告と作業レポート提出			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テーマ設定にあたり、資料収集と検討作業において自発的かつタフに行うことを期待します。 同様に、他のメンバーの研究についても関心を持ち、問題提起できることを期待します。			
教科書	適宜プリントを配布			
指定図書	個別に指示			
参考図書	個別に指示			
オフィスアワー	火5、木4 (メールあるいはTEAMSで)	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	竹熊 真波		単位	2
授業の目的と概要	<p>卒業論文執筆という最終目標に向けて、卒業ゼミナールⅠでは、論文の書き方の基本を習得するとともに、日本やアジアの教育の現状と課題についての理解を深め、自己のテーマを絞り込むことを目的とする。</p> <p>なお、今年度は遠隔授業で行うため、筑女ネットやTeamsなどを利用する。まずは、指導教員の論文の講読を通じて、論文の書き方を学ぶ。次いで、自身の卒論テーマと研究の方法を持ち寄り、討論をする。その後、関連の先行文献（書籍に限る）を検索し、その内容を要約し、発表する。幾度かの受講生間のディスカッション等を経た上で、最終的に卒業論文の具体的なテーマと構成を決定する。最後に、卒業論文の第1章を想定してレポートを作成する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文構成、文献検索の方法、著作権の所在など論文を書くための基本的知識を習得する</li> <li>日本とアジアの教育の現状と課題について批判的に考察できる</li> <li>自己の最も関心あるテーマについて、先行研究を検討し、他者に説明できる</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。&lt;関連科目&gt;卒業ゼミナールⅡ、卒業論文、国際教育論</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 4/28	イントロダクション（自己紹介や関心あるテーマの発表）		1,200字程度の卒論構想レポートの提出	
第2回 5/5	教員の研究分野の紹介と卒論執筆要項		テキスト入手次第該当箇所を精読しておくこと	
第3回 5/12	卒論の書き方①論文の基本ルール		該当箇所の精読と要約レポートの作成	
第4回 5/19	卒論の書き方②文献・資料の集め方		該当箇所の精読・要約レポートの作成	
第5回 5/26	卒論の書き方③卒業論文の執筆		該当箇所の精読・要約レポートの作成	
第6回 6/2	卒論の書き方④注意点		該当箇所の精読・要約レポートの作成	
第7回 6/9	卒論執筆計画検討会		アウトラインの作成+レジュメの作成と発表の準備（1名）	
第8回 6/16	テーマ別発表と質疑応答① グローバル化と教育		レジュメの作成と発表の準備（2名）	
第9回 6/23	テーマ別発表と質疑応答② 情報教育・語学教育		レジュメの作成と発表の準備（2名）	
第10回 6/30	テーマ別発表と質疑応答③ 環境教育		レジュメの作成と発表の準備（2名）	
第11回 7/7	テーマ別発表と質疑応答④ アジアの子ども		レジュメの作成と発表の準備（2名）	
第12回 7/14	期末レポートの仮提出		期末レポート（卒論の序章、第1章相当分）の作成準備	
第13回 7/21	レポート検討会1		質疑応答・教員の修正を受けてのレポートの修正	
第14回 7/28	レポート検討会2		質疑応答・教員の修正を受けてのレポートの修正	
第15回 8/4	期末レポートの最終提出		夏休みに取り組むべき課題の設定	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％ 卒論構想レポート、要約レポート、卒論執筆計画書（アウトライン）及び期末レポート（添削指導後返却する）			
小テスト等	なし			
成果発表	15％ テーマ別発表（レジュメ含む）			
受講態度他	15％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>4年前期は就活などと重なる時期ですが、やむを得ず休む場合は必ずゼミ教員に直接連絡を入れ、補講を受けてください。ゼミへの能動的な参加を期待します。授業時間になったら筑女ネットやTeamsなどにアクセスして下さい！</p> <p>なお、授業資料の中には本来、著作権法により web 上での無断利用ができないにもかかわらず、オンライン授業に限り特別に利用が認められているものがあります。受講生のみならず授 業外での利用や無断転載は禁止されていますので、取り扱いには注意してください。</p>			
教科書	小笠原喜康「新版 大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜 2 時間目、火曜 2 時間目	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	崔 淑芬		単 位	2
授業の目的と概要	個別指導のもとで、発表・質疑応答・執筆を通じて、実社会で不可欠なプレゼンテーション能力・問題解決能力を高めることができる。 自らのテーマを見出し、独自の視点から考察を加えて論文を作成する。 前・後期に各2回発表し、それらの質疑応答を踏まえて論文をまとめ、卒業論文を仕上げることを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業ゼミナールを通じて、自己の卒業論文のテーマを設定できる。</li> <li>データを分析し、資料や情報を収集することができる。</li> <li>適切な文献資料を整理し、考察を加えることによって、論証を進めることができる。</li> <li>結論を論理的に導き、卒業論文を作成することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	ガイダンス：卒業論文とは、資料の調べ方、論文の形式・構成など	個人別課題の学習、テーマの設定、資料の調査		
第2回	個別面談、テーマと研究法の指導	論文テーマを設定し、資料を調査しよう		
第3回	個別面談、指導	テーマを絞り、研究動向を整理しよう		
第4回	個別面談、指導	先行研究を調べ、まとめよう		
第5回	個別面談、研究法について指導	先行研究を調べ、まとめよう		
第6回	個別面談、指導	資料を調査、分析しよう		
第7回	個別面談、指導	中間発表の準備：資料を収集、検討し、レジュメを作成しよう		
第8回	第一回中間発表と質疑応答	テーマを絞り、資料を検討、分析し、研究動向を整理しよう		
第9回	データの分析方法、論証を進める	資料、データを分析する		
第10回	個別面談、論文作成の指導	論文執筆・進行のスケジュールを立てよう		
第11回	個別面談、論文作成の指導	論文執筆		
第12回	個別面談、論文作成の指導	論文執筆		
第13回	個別面談、論文作成の指導	論文執筆		
第14回	個別面談、論文構成の指導	発表の準備		
第15回	第二回発表・質疑応答・論文進行のスケジュール	前期の総括・夏休みの課題について計画を作成しよう		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%中間報告レポート、			
小テスト等	なし			
成果発表	70%：論文、データの分析・論文発表会と質疑応答			
受講態度他	10%情報・意見交換を行い、積極性などを評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	研究情報に基づき意見交換を行い、適切な先行研究や文献資料の収集と検討に、真剣に取り組む。			
教科書	使用しない			
指定図書	個別に適切な文献資料を指示する。			
参考図書	個別に適切な文献資料を指示する。			
オフィスアワー	金曜：4限	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	<p>卒業論文の製作に取り組むためのゼミナールです。  具体的には、A. 東南アジアに関する事柄、またはB. 日本を含むアジアの政治や社会などに関する事柄、のいずれかについて自身でテーマを設定し、資料を収集、分析し、議論を組み立てて卒業論文を製作することが、卒業ゼミナールⅡと併せて、このゼミナールの目的となります。</p> <p>方法論としては、1. 適切な研究テーマを設定する、2. テーマに沿った資料の収集分析し理解を深める、3. 卒論に向けて議論を組み立てる技術を身につけること、を目指します。個別指導が中心になりますが、お互いに刺激しあうために報告の時間を重ねることがあります。中間発表での質疑応答も同様の趣旨から重視します。自分の欠点は解りにくいものですが、他人の欠点はすぐ解ります。いい意味でお互いに切磋琢磨してください。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 調べるに足る十分な資料がある事柄を、研究テーマに設定できる。</li> <li>2. 研究テーマに従って、適切な資料を見つけ、収集分析できる。</li> <li>3. 調べたことに基づき、その課題を見つけ論理的に議論を組み立てられるようになる。</li> <li>4. 中間発表を踏まえ、問題設定を立て結論を導くようなレポートが作成できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」  ア (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」  ア (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」  ア (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  「卒業ゼミナールⅡ」とともに卒業論文の作成を目指します。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 演習の目的と進め方		各人の研究テーマ確定に向けた資料の情報収集	
第2回	研究テーマを決定するための文献調査とその過程の報告1 「発表」		各人の研究テーマ確定に向けた資料の情報収集分析	
第3回	研究テーマを決定するための文献調査とその過程の報告2 「発表」		各人の研究テーマ確定に向けた資料の分析整理	
第4回	研究テーマの概要報告 「発表」		各人の前期レポートに向けた資料の情報収集分析	
第5回	研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告1 「発表」		各人の前期レポートに向けた資料の情報収集分析	
第6回	研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告2 「発表」		各人の前期レポートに向けた資料の情報収集分析	
第7回	研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告3 「発表」		各人の前期レポートに向けた資料の情報収集分析	
第8回	研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告4 「発表」		各人の前期レポートに向けた資料の情報収集分析	
第9回	研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告5 「発表」		各人の前期レポートに向けた資料の分析整理	
第10回	研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告6 「発表」		各人の前期レポートに向けた議論組立準備	
第11回	研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告7 「発表」		各人の前期レポートに向けた議論組立準備	
第12回	研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告8 「発表」		各人の前期レポートに向けた議論組立準備	
第13回	レポート作成のための議論の立て方		各人のレポートの議論構成の確認	
第14回	レポート作成について		レポート作成について	
第15回	レポートの執筆と提出		期末レポート準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40% 各回の報告、他の受講生の発表に対するコメント			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	基本的に結果を求めます。期末レポートが十分なレベルに達するよう努めてください。その他の事柄についてはオリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水14:50～16:20、木12:30～13:30		メールアドレス	

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	羅 義圭		単位	2
授業の目的と概要	卒業論文の制作に取り組むためのゼミナールです。 具体的には、A. 言語多文化主義に関すること、B. 日本と韓国の歴史・文化・社会に関すること。いずれかについて、自分自身のテーマを設定し、資料を収集し、分析し、そこから独自の視点をもって論文を作成する。 前・後期に各2回発表し、それらの質疑応答を踏まえて論文をまとめ、卒業論文を仕上げることを目的とする。			
到達目標	①テーマ設定に際し、先行研究やそのほかの資料を収集・検討し、争点把握と論述方針を固める。 ②適切な文献資料を整理し、考察を加えることによって、論証を進めることができる。 ③調べたことに、議論を組み立て中間発表ができる。 ④「①・②・③」の作業をまとめ、中間報告で報告。演習Ⅱにおける検討課題を設定する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス：卒業研究のねらいと進め方	各人の問題関心にあわせて、その都度課題を提示する。		
第2回	個別面談、テーマと研究法の指導	各人の問題関心にあわせて、その都度課題を提示する。		
第3回	個別面談、指導	各人の問題関心にあわせて、その都度課題を提示する。		
第4回	個別面談、指導	各人の問題関心にあわせて、その都度課題を提示する。		
第5回	個別面談、指導	各人の問題関心にあわせて、その都度課題を提示する。		
第6回	個別面談、指導	中間発表の準備：資料を収集し、検討し、レジュメを作成しよう。		
第7回	個別面談、指導	中間発表のレジュメ準備		
第8回	第1回中間発表と質疑応答	テーマを絞り、資料を検討、分析し、研究内容を整理しよう		
第9回	データの分析方法、論証を進める	資料、データを分析する		
第10回	個別面談、論文作成の指導	卒論執筆と章立て		
第11回	個別面談、論文作成の指導	卒論執筆と章立て		
第12回	個別面談、論文作成の指導	卒論執筆と章立て		
第13回	個別面談、論文作成の指導	中間発表作成方法		
第14回	個別面談、論文作成の指導	中間発表作成方法		
第15回	第2回中間発表・質疑応答・論文進行のスケジュール	前期総括・夏休みの課題について計画を作成しよう		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 中間報告レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 論文、データの分析・論文発表会と質疑応答			
受講態度他	20% 情報・意見交換を行い、積極性などを評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①テーマ設定にあたり、資料収集と検討作業において自発的に行なう。 ②第2回中間報告書が十分なレベルに達するよう努めること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日・木曜日 昼休み後	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	小林 知美		単 位	2
授業の目的と概要	卒業論文執筆のために、各自の研究テーマを吟味して最終決定し、資料・参考文献を収集しテーマに接近する方法を考える。各自の仮テーマについて収集資料に検討を加え、テーマ決定に結びつける。テーマ決定の後、レジュメをつくり口頭発表する。授業の開始直後に、研究テーマ最終決定の助けとするため、美術・博物館への、学期中に地域文化財の実地見学（フィールドワーク）をおこなう。夏休み中には合宿形式での中間報告会を行い執筆作業の途中経過を確認する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文の研究テーマを具体的に説明することができる。</li> <li>テーマに応じた参考資料の収集方法を習得し、その資料に的確な分析を加えることができる。</li> <li>集めた資料・情報をもとに、内容を論議的に構成し、目次を作成することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション：ゼミの進め方について	研究テーマ（仮）についてのレポート執筆		
第2回	研究テーマ（仮）の口頭発表	見学レポート執筆		
第3回	研究テーマ（仮）の口頭発表	研究テーマに応じた資料収集と分析		
第4回	図書館での資料収集方法紹介	研究テーマに応じた資料収集と分析		
第5回	収集した資料の検討と意見交換	研究テーマに応じた資料収集と分析		
第6回	報告会1：研究テーマと収集資料の報告（文化史班）	研究テーマに応じた資料収集と分析		
第7回	報告会2：研究テーマと収集資料の報告（美術史班）	研究テーマに応じた資料収集と分析		
第8回	資料講読1：収集資料の講読と意見交換	講読資料の要約		
第9回	資料講読2：収集資料の講読と意見交換	講読資料の要約		
第10回	口頭表準備（内容の検討、レジュメの作り方と、画像スキャン方法）	口頭発表のためのレジュメと画像準備		
第11回	口頭表準備（内容の検討、レジュメの作り方と、画像スキャン方法）	口頭発表のためのレジュメと画像準備		
第12回	口頭表準備（内容の検討、レジュメの作り方と、画像スキャン方法）	口頭発表のためのレジュメと画像準備		
第13回	口頭発表1	発表準備と振り返り		
第14回	口頭発表2	発表準備と振り返り		
第15回	口頭発表3	発表準備と振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	50％			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業ゼミナールの主役は皆さんです。無断欠席は厳禁です。</li> <li>可能な限りで見学（フィールドワーク）を実施します。交通費・見学費は各自で負担してください。行き先・日程は未定です。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスワー	随時	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	裏 海善		単位	2
授業の目的と概要	興味があるテーマを選択し、卒業論文としてスムーズに作成し、仕上げで提出できるようになることを目的とする。 1. 論文の書き方を教える。 2. 韓国の社会、文化、歴史、政治、経済、他に北朝鮮を対象にテーマを選び、目次作成、資料収集を指導する。 3. 毎回の発表会で、まとめた内容に関してコメントし、次の報告日まで調べて書くように指導する。			
到達目標	1. 興味があるテーマを設定し、目次を立てて文章としてまとめるスキルを身に付けることができる。 2. 論文の作成方法で学んだスキルを、今後職場での報告書作成に生かすことができる。 3. 文献検索方法と能力、発表資料を作る方法、プレゼンテーションやコミュニケーションスキルをアップすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	総括指導、自己紹介、毎回提出物の説明、図書購入方法を説明する。	連絡先を教員に伝送する		
第2回	論文作成の基本を説明	テーマと目次提出		
第3回	グループA発表①(図書5冊、その他10点)及び内容調べ(A4用紙3枚以上)	課題①準備		
第4回	グループB発表①(図書5冊、その他10点)及び内容調べ(A4用紙3枚以上)	課題①準備		
第5回	グループA発表②とディスカッション	報告準備		
第6回	グループB発表②ディスカッション	報告準備		
第7回	個別指導(6回までの内容で、質疑)	6回までの内容を整理する		
第8回	グループA発表③;中間報告(A4用紙8枚以上)	報告準備		
第9回	グループB発表③;中間報告(A4用紙8枚以上)	課題準備		
第10回	論文編集の基本を学ぶ	今まで進んだ内容の編集		
第11回	グループA発表④(A4用紙10枚以上)	報告準備		
第12回	グループA発表④(A4用紙10枚以上)	課題準備		
第13回	グループB発表⑤(A4用紙12枚以上)	課題準備		
第14回	グループB発表⑤(A4用紙12枚以上)	報告準備		
第15回	最終報告とディスカッション・期末レポート提出(A4用紙12枚以上)	前期までの内容や資料を整理する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題60%			
小テスト等	0%			
成果発表	40%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	※筑女ネットを活用します(進行状況、卒論のお手本、お知らせなど) ①提出物はすべてパソコン入力し、参加人数分準備する。 ②報告日は必ず守ること、締切日を過ぎた課題は評価しない。 ③就職活動、病気、その他の理由による欠席は証明書提出要。 ④報告日に欠席が予想されるときは、ほかの曜日の報告者とお互いに交渉し、教員に知らせる。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	訪問日時を相談して決めます	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	石 其琳		単 位	2
授業の目的と概要	<p>自分で研究テーマを決め、自主性を持って研究資料の収集整理が出来ることを目的とする。          本授業は、ゼミ生全員に対して個別指導を行う。前期は主にテーマを決め、その研究テーマについて、資料を収集し整理しながら、数回の間接発表を通して、研究基盤のもとになる内容をまとめる。</p>			
到達目標	<p>自分の研究対象に対して積極的に資料の収集整理を行い、自分自身の思考表現によって、この研究成果を論文に作成することを目標とする。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」          ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」          ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」          ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション（論文作成の注意点について説明する）	研究テーマを選定		
第2回	各自で研究計画を発表し、質疑問答を行う	レジュメを提出		
第3回	個別に研究内容を再検討し、最終的研究テーマを選定する。	各自研究資料収集整理		
第4回	各自で研究テーマの構想発表を行う	レジュメを提出		
第5回	各自の研究作業を始めて、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第6回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第7回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第8回	全員による中間発表及び討論。	レジュメを提出		
第9回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第10回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第11回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第12回	全員による中間発表及び討論	レジュメを提出		
第13回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第14回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第15回	各自前期の総まとめとして発表を行う。	各自の研究資料まとめ		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%（レジュメによる発表）			
小テスト等	なし			
成果発表	50%（前期の総まとめレポート）			
受講態度他	0%（受講態度として、質問や発表による授業への積極性を参考にする。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に指導する際、決められた課題に対して必ず積極的に取り込むこと。</li> <li>・個別指導のため、研究作業の進行状況などについてこまめに報告すること。</li> </ul>			
教科書	個別指導のため、個別に指示をする。			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスワーカー	火、水、木、金	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	徐 涛		単 位	2
授業の目的と概要	卒業論文執筆という最終目標に向けて、書き方の基本を習得するとともに、自己のテーマを絞り込み、論文の構想を固めていくことを目的とする。 具体的には、①論文の書き方の基本を学び、②モデル論文（現代中国の政治外交や日中関係に関する文献）の分析を通じて、論文の作成要領に対する理解を深め、③卒論のテーマを決め、資料文献を収集・分析し、研究計画を立てる。④進捗状況報告と中間発表を経て卒論構想を固めていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料文献を踏まえ、卒業論文のテーマを設定できる。</li> <li>2. 卒論のテーマについて、独自の視点から資料文献を整理し、議論を論理的に組み立てることができる。</li> <li>3. 余裕のある執筆計画を立て、中間発表までに卒業論文の構想の大枠（目次）を決める。</li> <li>4. 現代中国の政治外交や日中関係の現状と課題に関する知識を獲得できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</li> <li>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</li> <li>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</li> <li>(3) -②-4アジアへの理解に基づいて、多角的な視点から自らの考えを示すことができる。</li> <li>(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション：演習の目的と進め方	研究テーマ確定に向けた資料の収集、参考文献リストの作成		
第2回	研究テーマ（仮）の口頭発表	レジュメ（参考文献リスト付き）の作成		
第3回	論文作成の基本ルールと文献・資料の集め方	参考資料を事前に読んでおく		
第4回	卒業論文の構造と作成の注意点	参考資料を事前に読んでおく		
第5回	モデル論文の分析 1	事前に読み、論文の構成を説明できる		
第6回	モデル論文の分析 2	事前に読み、論文の構成を説明できる		
第7回	卒論のテーマ・概要・執筆計画の発表	レジュメ要（参考文献リスト付き）		
第8回	進捗状況の報告 1：研究テーマと資料の収集・分析	中間発表に向けた資料の収集・分析		
第9回	進捗状況の報告 2：研究テーマと資料の収集・分析	中間発表に向けた資料の収集・分析		
第10回	進捗状況の報告 3：研究テーマと資料の収集・分析	中間発表に向けた資料の収集・分析		
第11回	進捗状況の報告 4：研究テーマと資料の収集・分析	中間発表に向けた資料の収集・分析		
第12回	中間発表に向けての準備（議論の立て方、レジュメやパワーポイント資料の作成）	レジュメの準備・修正、期末レポート（卒論の序章に相当する部分）の作成		
第13回	中間発表（卒論構想発表）と質疑応答 1	期末レポート（卒論の序章に相当する部分）の修正		
第14回	中間発表（卒論構想発表）と質疑応答 2	期末レポート（卒論の序章に相当する部分）の修正		
第15回	期末レポートの提出と卒論執筆計画書の提出	期末レポートの提出、夏休みに取り組むべき課題の設定		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 卒論のテーマ・概要・執筆計画の発表、参考文献リスト、中間発表（卒論構想発表）と質疑応答			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗状況の報告の回数は便宜的なもので、履修者の人数や進度によって変わってくる。</li> <li>・履修者の人数や関心に合わせて、個別指導と発表の割合やモデル論文の本数を調整し柔軟に対応する。</li> <li>・報告日に欠席が予想される場合は、ほかの曜日の報告者とお互いに交渉し、教員に知らせる。</li> <li>・就職活動、病気、その他の理由による欠席は証明書提出要。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	水曜日 3限目	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	酒井(均)・浅田(淳)・大霧(香)・榎(祐)・森田(理)・宇治(和)・針塚(進)		単位	2
授業の目的と概要	<p>これまでの講義や演習の総括として、各学生がテーマを選択し、研究計画を立て、実施に向けた準備を進めていくことを目的とする。これらの過程を通して、心理学に関して自らが選択した問題について知識を深め、解決に導くための論理的思考力を身につける。</p> <p>自らが設定した心理学に関するテーマに対して、心理学における様々な研究方法から適切なアプローチを決定し、研究計画の具体化を目指す。また、発表資料の作成、発表方法、議論の方法についても理解を深め、実践する。</p> <p>この授業では、課題の設定し、ディスカッションやプレゼンテーションを行うアクティブ・ラーニング型の授業である。</p>			
到達目標	<p>①心理学に関するテーマを自ら見つけ、批判的視点を持ちながら、研究目標を設定することが出来る</p> <p>②上記の目的について適切な研究方法を決定し、具体的な研究計画を組み立てることが出来る</p> <p>③発表資料の作成や発表方法を具体的に選択し、実践することができる</p> <p>④③の作業を通して、問題解決に必要な情報を集め、系統立てて説明することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心(3)-②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>心(4)-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	論文の形式について①：論文の形式について		各自の文献を読み進める	
第2回	論文の形式について②授業計画の作成：執筆にあたっての注意		文献を読み進める	
第3回	授業計画の作成：テーマに基づいて、卒業ゼミナールⅠ・Ⅱを通じた年間計画作成		年間計画の作成	
第4回	テーマの設定：研究テーマの選択、決定		文献収集し、読み進める	
第5回	文献収集①：先行研究の検索		文献収集し、読み進める	
第6回	文献収集②：先行研究における問題点の検討		研究の問いを立てる	
第7回	文献収集③：各自の研究目標の具体化		研究の問いを立てる	
第8回	発表・討論①：途中経過の発表、検討（グループ①）		発表資料の作成	
第9回	発表・討論②：途中経過の発表、検討（グループ②）		発表資料の作成	
第10回	発表・討論③：途中経過の発表、検討（グループ③）		発表資料の作成	
第11回	発表・討論④：途中経過の発表、検討（グループ④）		発表資料の作成	
第12回	発表・討論⑤：途中経過の発表、検討（グループ⑤）		発表資料の作成	
第13回	研究計画の作成：研究の目的や意義の明確化、研究方法の検討		プレゼンテーションの準備	
第14回	卒研中間発表会：卒研についての研究計画、概要を発表		プレゼンテーションの準備	
第15回	全体のまとめと総括：各研究テーマの達成度や課題について検討		今後の課題を明確にする	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 研究計画、先行研究についてのレポート			
小テスト等	なし			
成果発表	40% 研究計画、先行研究についての発表、中間発表含む			
受講態度他	20% 発表に対する質疑応答			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文希望の人は詳細な研究計画の作成（目的、方法、質問紙の作成、実験計画など）が求められる。成果発表は研究計画についての発表と中間発表の2回のを課題とする。			
教科書	指定なし			
指定図書	指定なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	浅田:火を除く昼休、酒井:水昼休、洪田:月4、大霧:月5 榎:火2、森田:金4、宇治:火水5、針塚水4	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	山崎(安)・未定・高木(佳)・川崎(孝)・大西(良)・納戸(美)・栗田(紀)		単 位	2
授業の目的と概要	<p>社会福祉を学ぶ過程で、学生自らが明確化したテーマを自覚的に追求し、テーマについての論理的思考力、さらには問題解決力を身につけることを目的とする。ソーシャルワーカーとしてはいうまでもなく、将来ひとりの職業人となるにあたって、ある状況に対する自分の考え方や態度を確立することは非常に重要だからである。</p> <p>卒業ゼミナールは、社会福祉を学ぶ過程で、学生自らが明確化したテーマを自覚的に追求し、論理的思考力や問題解決力を身につけることを支援する科目で、大学生活を通じた集大成としての意味を持つ。具体的には、各専任教員がそれぞれの専門性を背景とした少人数ゼミを分担し、学生は自らのテーマに応じていずれかのゼミに所属する。学生各自が自らのテーマを設定でき、それにそった資料や文献の収集、報告・討論といったことが主たる内容となる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら取り組む研究テーマを設定できる。</li> <li>2. 研究の視点を理解し、研究方法を身につけることができる。</li> <li>3. 1・2の成果として「卒業研究」が作成できる。</li> <li>4. 「卒業研究」を発表したり、それについて討議する能力が習得できる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>福(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」  福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。  福(3)-②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。  福(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 卒業研究のテーマ設定			資料収集・検討	
第2回 卒業研究のテーマ設定			資料収集・検討	
第3回 卒業研究のテーマ設定			資料収集・検討	
第4回 卒業研究の構想発表			発表と討論	
第5回 卒業研究の構想発表			発表と討論	
第6回 卒業研究の構想発表			発表と討論	
第7回 卒業研究の構想発表			発表と討論	
第8回 卒業研究の構想発表			発表と討論	
第9回 卒業研究の中間発表			発表と討論	
第10回 卒業研究の中間発表			発表と討論	
第11回 卒業研究の中間発表			発表と討論	
第12回 卒業研究の中間発表			発表と討論	
第13回 卒業研究の中間発表			発表と討論	
第14回 卒業研究の中間発表			発表と討論	
第15回 卒業研究の中間発表			発表と討論	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	50% 発表資料(レジュメ)を中心に評価する。			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 研究発表の内容・水準。			
受講態度他	なし。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本ゼミは、遠隔授業にて行う。受講の具体的な方法については、別途、指示する。必ず、筑女ネットの本授業のページを参照すること。			
教科書	各教員による。			
指定図書	各教員による。			
参考図書	各教員による。			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	山田 直子		単位	2
授業の目的と概要	グローバル化の急速な進展により、言語や文化の異なる「他者」との接触・交流・協働の機会が著しく増えています。この授業では、相互交流と相互依存の進むグローバル社会の中で現れる文化の衝突や共存のありように関して、様々な文献資料に触れながら活発に議論を行います。各自の関心を深められるように文献を読み込む力を養い、研究テーマを絞り込み、論じる方法を身につけます。毎回、授業は2部構成になっており、前半は講義及びディスカッション、後半は学生による発表を行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多文化関係に関連する研究テーマを模索し、問を立てることができる。</li> <li>2. 文献資料の内容について議論することができる。</li> <li>3. 研究テーマについて文献やデータをもとに探究し、自らの考察を発表することができる。</li> <li>4. 研究の成果をレポートにまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	イントロダクション・アイスブレイキング	講義で扱う内容について予習		
第2回	グローバル社会とその課題	講義で扱う内容について予習		
第3回	「内なる国際化」について考える	講義で扱う内容について予習		
第4回	〔研究〕テーマの立て方と研究の進め方	講義で扱う内容について予習		
第5回	世界の高等教育における学生モビリティ	講義で扱う内容について予習、担当者はレジュメの準備		
第6回	日本で学ぶ外国人留学生 / 学生発表 (1)	講義で扱う内容について予習、担当者はレジュメの準備		
第7回	大学での多文化共修と異文化交流 / 学生発表 (2)	講義で扱う内容について予習、担当者はレジュメの準備		
第8回	〔研究〕先行研究のレビュー / 学生発表 (3)	講義で扱う内容について予習、担当者はレジュメの準備		
第9回	多文化社会における外国語教育 / 学生発表 (4)	講義で扱う内容について予習、担当者はレジュメの準備		
第10回	国内・海外の日本語教育 / 学生発表 (5)	講義で扱う内容について予習、担当者はレジュメの準備		
第11回	外国籍児童と不就学児童 / 学生発表 (6)	講義で扱う内容について予習、担当者はレジュメの準備		
第12回	〔研究〕データ収集と分析 / 学生発表 (7)	講義で扱う内容について予習、担当者はレジュメの準備		
第13回	外国人労働者と企業・地域社会 / 学生発表 (8)	講義で扱う内容について予習、担当者はレジュメの準備		
第14回	災害時における外国籍住民 / 学生発表 (9)	講義で扱う内容について予習		
第15回	総括・多文化共生と異文化コミュニケーション	授業の中で指示します。		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	なし			
成果発表	レポートに含む			
受講態度他	50% 積極的な参加姿勢、課題 (発表を含む) への取り組み			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	築女ネットに授業の進捗、最新情報を掲載しますので、頻りにチェックしてください。			
教科書	授業の際に印刷物を配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 4 時間目	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開講時期	前期
担当教員	上村 真仁		単 位	4
授業の目的と概要	この科目は原則的に遠隔授業で実施します。住民参加の地域づくりについて、特に地域固有の資源である自然や伝統文化、暮らしの視点からの研究や実践を行うことで、地域課題に主体的に関わり、その解決策を構想する力を養うことを目的とします。3年生の専門ゼミナールⅠ、Ⅱと合わせて開催します。前年度の専門ゼミナールⅡで企画・立案した研究計画・実践計画に基づき、調査（あるいは地域での実践活動）を進め、最終的には、卒業研究（あるいは実践報告）としてまとめます。※調査（あるいは地域での実践活動）とは、調査は卒業研究を、実践活動は、特定のフィールドでのまちづくりプロセスの企画・実施に参加し報告書を作成することを指す。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域課題を発見しその解決策について研究あるいは、実践的な立場から地域の実情を踏まえた分析、提案を構想できるようになる</li> <li>2. 地域のステークホルダーとの良好なコミュニケーションを通じて、研究、実践を進めることができる</li> <li>3. 自らの研究、実践の成果を論文、もしくは研究、報告書としてまとめることができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>「現代社会と地域」「地域環境論」「地域デザイン」「エコツーリズム論」「NPO論」の受講をしていることが望ましい。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション ゼミの目標の設定		予習 シラバスの熟読、復習 オリエンテーションの内容の復習	
第2回	研究・実践テーマの見直し		専門ゼミナールの成果の見直し、深化	
第3回	研究・実践計画の策定 グループワークでの年間ゼミナール計画の策定		テーマ見直しに合わせた計画の修正を行う	
第4回	卒業研究・実践の準備 4年生研究・実践計画の中間発表、合同討議		事例収集、レジュメ作成	
第5回	既往研究、事例のサーベイ1 情報の収集・整理		検索キーワードリストの整理、レジュメ作成	
第6回	既往研究、事例のサーベイ2 情報の分類・整理		インターネット等での情報収集、研究の位置づけ	
第7回	研究の目的、方法の検討		自分の研究・実践フィールドの絞り込み	
第8回	研究・実践計画の中間発表、合同討議(4年生間)		発表資料の作成	
第9回	卒業研究・実践の準備 → アイデア出しと論点整理(グループディスカッション)		情報収集、レジュメの作成	
第10回	現地調査の方法等の検討 調査手法及び対象の検討		情報収集、レジュメの作成	
第11回	現地調査スケジュール検討 9月以降の調査計画		フィールド関係者との事前調整(依頼文書作成)	
第12回	卒業研究の仮説、構成の検討		研究仮説及び構成(案)作成	
第13回	中間発表に向けた検討		中間発表資料の作成	
第14回	4年生研究・実践計画の中間発表、合同討議		発表資料の作成	
第15回	3年生聞き書き結果の発表会 まとめ		卒業ゼミナールⅡに向けた課題整理	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 卒業研究の骨子作成			
小テスト等	20% 事前、事後の課題			
成果発表	30% 卒業研究中間発表会			
受講態度他	20% 授業での質疑やディスカッションへの参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>基本的にはインターネット会議やチャットシステム、メール添付による資料の添削指導などの遠隔による授業となります。適宜、ゼミ生(下級生を含む)との学習成果(卒業研究の進捗)の共有やディスカッションを行うこととしています。</p> <p>授業の進め方や内容の理解の促進のために、適宜、教員、受講生とのディスカッション、質疑応答の機会を設けますので、良く分からないことがあれば、気軽に質問してください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業時に指示します。			
オフィスワー	月曜日 4限	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	栗山 俊之		単 位	4
授業の目的と概要	本ゼミでは、本学が取り組んできた東日本大震災ボランティア研修を総括する冊子を作成していく。そのための、現地取材を行う。			
到達目標	現（4）ー①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探求力」 <授業外学修> 1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	1、東日本大震災の全体像について理解する 2、東日本大震災に関する様々な文章・映像に触れ、整理する 3、被災者の思いを取材し、纏める 4、被災地の変遷を纏める 5、1～4を整理し、冊子を作成していく			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		自ら経験した東日本大震災ボランティア研修を振り返り整理する	
第2回	東日本大震災の記録に触れる<文章編>①		東日本大震災に関する文章を読み、纏める	
第3回	東日本大震災の記録に触れる<文章編>②		東日本大震災に関する文章を読み、纏める	
第4回	東日本大震災の記録に触れる<文章編>③		東日本大震災に関する文章を読み、纏める	
第5回	編集作業<文章編>		編集方針を明確にする	
第6回	東日本大震災の記録に触れる<映像編>①		東日本大震災に関する映像を見て、纏める	
第7回	東日本大震災の記録に触れる<映像編>②		東日本大震災に関する映像を見て、纏める	
第8回	東日本大震災の記録に触れる<映像編>③		東日本大震災に関する映像を見て、纏める	
第9回	編集作業<映像編>		編集方針を明確にする	
第10回	報告書編集①		報告書を読み、取り上げるものをピックアップする	
第11回	報告書編集②		報告書を読み、取り上げるものをピックアップする	
第12回	報告書編集③		報告書を読み、取り上げるものをピックアップする	
第13回	写真編集①		写真を見て、取り上げるものをピックアップする	
第14回	写真編集②		写真を見て、取り上げるものをピックアップする	
第15回	現地研修の計画		取材のための現地研修を計画する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	60％ 編集した成果を評価			
受講態度他	40％ ゼミ活動に取り組む姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	これまで東日本大震災ボランティア研修に関わってくださった方々の負託に応える冊子を作っていきたいと思います。思いを共にしてください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	水4、金3		メールアドレス	



授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	C. Provenzano		単位	2
授業の目的と概要	<p>While Japan has long identified as a monolingual and monocultural society, the globalization of business and culture is bringing rapid change. In this term seminar students will continue to explore issues related to bilingualism both in Japan and in other countries, but will focus on biculturalism in the Japanese context. Students will investigate and reflect on a number of case studies of bicultural residents of Japan and will explore the cultural benefits and pitfalls of an increasingly globalized society.</p> <p>** A high-intermediate level of English is required to participate in this seminar, as classes will be conducted in English and all materials are in English.</p>			
到達目標	<p>In addition to exploring content related to bilingualism and biculturalism, this term's activities will give students an opportunity to integrate and improve all English skills, especially listening, reading, discussion, and critical thinking.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will read content materials in English, check comprehension and discuss issues related to the topic.</li> <li>2. Students will actively participate in discussions centered around weekly readings and media viewings.</li> <li>3. Through discussion of weekly readings and media viewings, students will gain skills in paraphrasing and summarizing, as well as drawing conclusions and stating opinions based on multiple source materials and personal experience.</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  英(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Review bilingualism issues; Introduction to biculturalism	Review materials assigned to prepare for day 2		
第2回	Documentary movie screening: Bicultural people in Japan (Part 1)	Review materials assigned to prepare for day 3		
第3回	Documentary movie screening: Bicultural people in Japan (Part 2)	Review materials assigned to prepare for day 4		
第4回	Documentary movie screening: Bicultural people in Japan (Part 3)	Review day 5 materials		
第5回	Bringing up Japanese-English bilinguals in Japan	Review materials assigned to prepare for day 6		
第6回	Bilingual families can collaborate on English education	Review materials assigned to prepare for day 7		
第7回	Bilingual but not bicultural? The Japanese Brazilians	Review materials assigned to prepare for day 8		
第8回	Introduction to Third Culture Kids	Review materials assigned to prepare for day 9		
第9回	TCKs, CCKs and Kikokushijo (part 1)	Review materials assigned to prepare for day 10		
第10回	TCKs, CCKs and Kikokushijo (part 2)	Review materials assigned to prepare for day 11		
第11回	Introduction to the cultural iceberg	Review materials assigned to prepare for day 12		
第12回	Reflection and discussion on the cultural iceberg	Review materials assigned to prepare for day 13		
第13回	Introduction to culture shock	Review materials assigned to prepare for day 14		
第14回	Culture shock -- a discussion	Review all course material from this term		
第15回	Discussion and reflection	Discussion will cover all course material from this term		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	40%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60% class participation, including homework completion			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	It is important to be prepared for class discussions. Students must read or watch assigned materials and come to class ready to discuss the content.			
教科書	Teacher will provide all materials			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Please contact the instructor to make an appointment.	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	三日月 雅子		単位	2
授業の目的と概要	このゼミの主要課題は、Airline関連の分野で必要とされる実践的な英語力と基礎知識を身につけることです。この基本的な認識を基に、受講生は、Airline関連の各テーマを英語で読んで学び、基礎知識を養い、理解力を高めることを目的にします。さらに、その過程で論理的思考力、問題解決力、特定分野の知識・技能も身につくことができます。後期は、Airline関連の英語そのものもつ規則性や特徴を、文法および意味論の立場から、時に語用論の見解を交えながら考察していきます。ゼミは受講者の発表を軸に進めます。調べた内容を全員の前で効果的に発表できるよう技術的な側面も指導していきたいと思ひます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Airline分野に関する英文のトピックを選び、その内容を正確に読み理解する。</li> <li>2. 調べたことを、的確かつ正確な言葉で口頭発表をする。</li> <li>3. 講義で学んだAirline分野の知識に関して知識を深める。</li> <li>4. 講義中の質疑応答やディスカッションなどでコミュニケーションスキルを向上する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	前期の講評と後期の発表テーマ決め	発表資料の配布と学習方法についての提案と説明		
第2回	発表第1回 テーマ(1)についてのディスカッション・質疑応答	発表担当者は資料を作成、担当者以外も資料(1)を精読		
第3回	発表第2回 テーマ(2)についてのディスカッション・質疑応答	発表担当者は資料を作成、担当者以外も資料(2)を精読		
第4回	発表第3回 テーマ(3)についてのディスカッション・質疑応答	発表担当者は資料を作成、担当者以外も資料(3)を精読		
第5回	発表第4回 テーマ(4)についてのディスカッション・質疑応答	発表担当者は資料を作成、担当者以外も資料(4)を精読		
第6回	発表第5回 テーマ(5)についてのディスカッション・質疑応答	発表担当者は資料を作成、担当者以外も資料(5)を精読		
第7回	発表第6回 テーマ(6)についてのディスカッション・質疑応答	発表担当者は資料を作成、担当者以外も資料(6)を精読		
第8回	発表第7回 テーマ(7)についてのディスカッション・質疑応答	発表担当者は資料を作成、担当者以外も資料(7)を精読		
第9回	AirlineとTourism関連の論文(1)の読解	論文(1)の予習		
第10回	AirlineとTourism関連の論文(2)の読解	論文(2)の予習		
第11回	AirlineとTourism関連の論文(3)読解	論文(3)の予習		
第12回	卒業発表のテーマ決め	各自テーマを考えて持ち寄る		
第13回	卒業発表	発表担当者は資料を作成、担当者以外も発表資料を精読		
第14回	卒業発表	発表担当者は資料を作成、担当者以外も発表資料を精読		
第15回	卒業発表	発表担当者は資料を作成、担当者以外も発表資料を精読		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 毎回の授業の課題			
小テスト等	なし			
成果発表	60% 口頭発表。			
受講態度他	20% 積極的な参加(発表・質問等)。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学習態度(授業参加度・プレゼン発表)や課題を重視する。発表は十分な時間をかけ準備をして臨むこと。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	特になし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	水・金曜日：昼休み&4限以降	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	藤原 隆信		単位	4
授業の目的と概要	<p>&lt;ゼミテーマ：ソーシャルビジネスを研究・実践するゼミ&gt;  本ゼミナールでは、私たちの身の回りには多様な「社会問題」を、ビジネス（お金儲け）をしながら解決していく方法と理論を学んでいきます。同時に、地域社会や世界にも目を向け、具体的な実践活動（ビジネスの実践）に取り組んで行く予定です。ゼミⅡでは、「ソーシャルビジネス」や「社会貢献と仕事の関係」等に関する発展的な理論を学ぶとともに、具体的な実践活動に取り組んで行く予定です。このような「理論研究」と「実践活動」を通じて、経営学を総合的に学ぶとともに、「社会に貢献しながら働くこと」の意義を考えていきます。  ※「卒業ゼミ」では、3年生のゼミ生に対する指導を行って頂きます。自分自身が昨年度「学んだ」内容を、3年生に「教える」という視点でより深い学びにつなげてもらいます。</p>			
到達目標	<p>①「ソーシャルビジネス」に関する基本的な仕組みを理解し、説明できる。②「ソーシャルビジネス」の実践に必要な知識を応用して、具体的な活動を起こすことができる。③上記①～②を前提に、「ソーシャルビジネス」の実践活動を通じて得られたもの（知識・経験）と改善策について説明することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	はじめに：ソーシャルビジネス（SB）の実践を考える ——「Win」の累乗という考え方	教科書の「はじめに」（pp.1-13）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第2回	文献研究と実践活動のプラン作成（1） ——SBを成功に導く理由	教科書の第1章（pp.26-39）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第3回	文献研究と実践活動のプラン作成（2） ——「Win」の累乗を実現する「5C」	教科書の第1章（pp.40-64）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第4回	文献研究と実践活動のプラン作成（3） ——ケースで考える「Win」の作り方	教科書の第2章（pp.66-82）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第5回	文献研究と実践活動の実践準備（1） ——一緒に働く仲間に「Win」を作る①	教科書の第3章（pp.84-110）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第6回	文献研究と実践活動の実践準備（2） ——一緒に働く仲間に「Win」を作る①	教科書の第3章（pp.111-121）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第7回	文献研究と実践活動の実践準備（3） ——サービスの受け手に「Win」を作る①	教科書の第4章（pp.124-143）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第8回	文献研究と実践活動の実践準備（4） ——サービスの受け手に「Win」を作る②	教科書の第4章（pp.144-151）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第9回	文献研究と実践活動の実践準備（5） ——コミュニティーに「Win」を作る①	教科書の第5章（pp.154-168）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第10回	文献研究と実践活動の実践（1） ——コミュニティーに「Win」を作る①	教科書の第5章（pp.169-178）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第11回	文献研究と実践活動の実践（2） ——出資者に「Win」を作る①	教科書の第6章（pp.180-196）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第12回	文献研究と実践活動の実践（3） ——出資者に「Win」を作る②	教科書の第6章（pp.197-205）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第13回	文献研究と実践活動の実践（4） ——「競合」を「協業」に変えて「Win」を作る①	教科書の第7章（pp.208-224）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第14回	文献研究と実践活動の実践（5） ——「競合」を「協業」に変えて「Win」を作る②	教科書の第7章（pp.225-232）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
第15回	まとめ：ソーシャルビジネスの（SB）の実践を振り返る ——「社会を良くしてお金を稼ぐ仕組み」とは？	教科書の「おわりに」（pp.241-248）を読んで事前学習をしておいて下さい。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60% 授業の進行に合わせて適宜、発表をしてもらいます。その内容で判断します。			
受講態度他	40% 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本ゼミナールでは、授業の中でチーム討議やチーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。（※外部講師による講演&ディスカッションが入る可能性があります。シラバスを変更して対応しますのでご了承下さい）			
教科書	小暮真久『社会を良くしてお金も稼げるしくみのつくりかた』ダイヤモンド社、2012年。			
指定図書	授業の中で適宜紹介する。			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	大橋 健治		単位	4
授業の目的と概要	卒業論文の仕上げに取り組むことを第一義とする。卒業論文は、基本的に就職内定先企業の5年から10先の事業構造の変化、職場や職務遂行方法の変化を想定し、そこで求められる社員の資質や能力の変化について仮説を立てて検証するというテーマを作成する。このテーマは人材開発ゼミナールの総括としてふさわしいものであるし、学生にとってもこのテーマで論文を仕上げることによってアドバンテージを作って来年4月の入社を迎えられるものと考えている。 コロナ禍のさなかではあるが、感染予防対策に充分配慮しながら対面方式による授業を実施し、学習効果を高め充実した卒業論文を完成させることを目指したい。ただし、対面方式が難しくなった場合はMS-teamsを用いた双方向型の遠隔授業を実施することも考える。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経験学習をはじめ学習理論に関する知識を使って実証研究ができる。</li> <li>2. 社内外の環境変化の分析視点を養い、論文作成と併せて実践することができる。</li> <li>3. 上記2項目に基づいて、実施計画のPDCA（とりわけ研究の仮説→検証）を実践し、卒業論文を作成することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。 <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業概要のガイダンスと8月度、9月度レビューおよび夏休み課題の評価	夏休みの課題の整備と実施計画書の整備		
第2回	論文の構成の仮確定と8月度、9月度レビュー	研究計画書仮確定版の提出と実施計画書の整備		
第3回	研究の進捗状況確認（プレゼンテーションと質疑応答）	後期実施計画書（10月から3月期）の作成 取り掛かり、進捗状況のレビュー		
第4回	研究の進捗状況確認と後期実施計画の発表	後期実施計画書（10月から3月期）の発表、 研究の進捗状況確認		
第5回	研究の進捗状況確認（仮説設定）とアドバイス	研究の進捗状況のレビューと質問事項の抽出		
第6回	研究の進捗状況確認（調査方法）とアドバイスⅠ	研究の進捗状況のレビューと質問事項の抽出		
第7回	研究の進捗状況確認（実施計画書）とアドバイスⅡ	研究の進捗状況のレビューと質問事項の抽出、 実施計画書のレビュー		
第8回	研究の進捗状況確認（調査方法）とアドバイスⅢ	研究の進捗状況のレビューと質問事項の抽出		
第9回	卒業論文中間発表会	ほぼ完成した論文内容のプレゼンテーション準備		
第10回	卒業論文仕上げ指導Ⅰ	研究の進捗状況のレビューと質問事項の抽出		
第11回	研究の進捗状況確認、卒業論文仕上げ指導Ⅱ	実施計画書のレビューと質問事項の抽出		
第12回	卒業論文仕上げ指導Ⅲ	卒業論文の最終整備		
第13回	卒業論文最終提出	卒業論文の見直し		
第14回	卒業制作発表会	成果発表の準備（第3回あたりから）		
第15回	卒業にむけて（ゼミナール総括）	2年間の実施計画書の総括		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	80％ 卒業論文の出来栄え（70％）、進捗状況発表の出来栄え（10％）			
受講態度他	20％ 実施計画書発表の出来栄え（10％）、ゼミ内役割の達成度（10％）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	コロナ禍のさなかではあるが、卒業論文の作成指導という趣旨から極力対面方式で教室内授業を実施したい。通学や対面授業に不安のある学生は担当教員に相談すること。別途遠隔方式での授業出席の方法論を考える。			
教科書	『最強の経験学習』（デイヴィッド・コルブ、ケイ・ピーターソン共著、2018、辰巳出版）			
指定図書	『新しい人事労務管理』（佐藤 博樹、藤村 博之、矢代充史共著、2015、有斐閣）			
参考図書	『職場が生きる 人が育つ「経験学習」入門』（松尾 睦著、2011、ダイヤモンド社）			
オフィスワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	赤枝 香奈子		単 位	4
授業の目的と概要	専門ゼミナールおよび卒業ゼミナールⅠで学んだ知識と卒業研究にかんする検討結果をもとに、各自の研究テーマに沿って卒業研究を進めます。授業内で適宜、報告を行いながら、卒業研究を完成させます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマに関連する文献を読み進め、その内容について検討し、報告することができる。</li> <li>2. 卒業研究の完成に向けて補充調査を行い、草稿を執筆・報告することができる。</li> <li>3. 卒業研究を完成させ、その内容について報告することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	イントロダクション	夏休みに進めた研究内容を整理する。		
第2回	卒業研究の報告①途中経過の報告	卒業研修の進捗状況について報告準備を行う。		
第3回	卒業研究の報告②今後の研究計画の報告	後期の研究計画について報告準備を行う。		
第4回	調査の実施①補充調査	これまでの調査の振り返りを行い、適宜、補充調査を行う。		
第5回	調査の実施②補充調査（続き）	これまでの調査の振り返りを行い、適宜、補充調査を行う。		
第6回	中間報告	補充調査の結果をまとめ、報告準備を行う。		
第7回	調査のまとめ①草稿準備	調査を終え、調査内容をまとめる。		
第8回	調査のまとめ②草稿執筆	卒業研究の草稿を執筆する。		
第9回	調査のまとめ③草稿発表	草稿の報告準備を行う。		
第10回	卒業研究の執筆①原稿執筆	卒業研究完成に向けて、原稿を執筆する。		
第11回	卒業研究の執筆②原稿完成	卒業研究の原稿を完成させる。		
第12回	卒業研究の報告準備	卒業研究報告に向け、原稿を手直しする。		
第13回	卒業研究の報告	卒業研究の報告準備を行う。		
第14回	卒業研究抄録の提出	卒業研究の抄録原稿を執筆する。		
第15回	まとめ	大学4年間の振り返りを行う。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％			
小テスト等	％			
成果発表	35％			
受講態度他	5％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	調査テーマの決定、先行研究の検討、調査計画の立案、調査の実施、すべてにおいて、各自の主體的な関与が不可欠です。授業では、各自が考えた事柄、実践した調査について情報を共有し、互いに助言を行い、研究テーマにかんする理解を深めます。			
教科書	使用しない。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業内で指示する。			
オフィスアワー	水曜2限	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	野中 亮		単 位	4
授業の目的と概要	<p>専門ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業ゼミナールⅠに引き続き、地域生活を、特に文化の観点から研究し、最終的に卒業研究を完成させることを目的とします。</p> <p>卒業ゼミナールⅠで設定した各自の研究課題にそって調査・研究をすすめ、卒業研究を完成させます。</p> <p>フィールドワークなどで正規の時間外（週末や夏休み）にも研究活動を行います。また、研究テーマによっては、シラバスの予定変更や交通費の負担などが発生することもあります。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献調査やフィールドワークを通じた地域調査を行うことができる</li> <li>・自らの調査を通じて得たデータについて、卒業研究レベルでの分析をおこなうことができる</li> <li>・自らの研究成果を論文、もしくは報告書の形式でまとめることができる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>社会調査士関連科目と合わせて受講することで、より深い理解が得られます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第1回 ガイダンス			前期および夏休み中の調査・研究成果の確認	
第2回 補足調査の検討			文献調査や野外調査で収集したデータが十分かどうか確認しておくこと。	
第3回 補足調査の実施1：調査計画の確認			未収集データ・追加データの収集計画を立てておくこと。	
第4回 補足調査の実施2：追加データの確認			収集したデータを整理しておくこと。	
第5回 卒業研究の執筆1：構成の報告			卒業研究の構成案を用意しておくこと	
第6回 卒業研究の執筆2：データ分析			収集したデータの集計や仮分析を済ませておくこと。	
第7回 卒業研究の執筆3：報告書構成とデータの照合			構成案と整理済みデータに齟齬がないか確認しておくこと。	
第8回 卒業研究の執筆4：序章			卒業研究の該当箇所の原稿を用意してくる	
第9回 卒業研究の執筆5：先行研究のレビュー			卒業研究の該当箇所の原稿を用意してくる	
第10回 卒業研究の執筆6：データの分析			卒業研究の該当箇所の原稿を用意してくる	
第11回 卒業研究の執筆7：データからの推論			卒業研究の該当箇所の原稿を用意してくる	
第12回 卒業研究の執筆8：論旨の再検討			ここまでの原稿の論理に齟齬がないか確認しておくこと。	
第13回 卒業研究の執筆9：結論			結論部分を執筆し、全体の見直しをおこなっておくこと。	
第14回 卒業研究の執筆10：最終校正・提出			文献リストや添付資料も含めた構成作業をおこなっておくこと。	
第15回 ふりかえり			提出済卒業研究を読み返しておくこと	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 各回の報告を成果発表とみなします。			
受講態度他	50% 成果発表以外のゼミ運営への貢献を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は必須です。自分の担当については責任をもって取り組んでください。</li> <li>・共同作業が多くなります。作業分担や報告の順番など、受講者同士でマメに連絡・相談・報告しあい、有意義な学びの場にしましょう。</li> <li>・後期は対面授業が再開されます。通学时・大学滞在中・授業中はコロナ感染リスクの軽減に務めてください。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	谷富夫・芦田徹郎『よくわかる 質的社会調査』ミネルヴァ書房 佐藤郁哉『フィールドワーク：書を持って街へ出よう（増補版）』新曜社			
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	花野 裕康		単位	4
授業の目的と概要	<p>いよいよ成果物完成に向けての演習となります。この時期この時期就職活動が忙しくなる可能性があります、ゼミ活動に支障が出ないよう、細心の注意を払ってください（随時相談に乗ります）。その上で、まずは</p> <p>①自身の研究テーマについて作成した成果物を完成させます。  ②次いでゼミ生全員の前でその成果物の概要をプレゼンテーションします。  ③もちろんこれと同時にグループ内研究活動も行い、3年生へのアドバイス等も積極的に行います。  ④成果物発表以外での全体プレゼンテーションは「途中経過」としての位置付けでゼミ生からアドバイスをもらい、これを成果物完成に生かします。大学4年間の総仕上げを行う、最後の演習です。  ⑤総力を挙げて演習に参加し、活動する、これが最終目標です。</p>			
到達目標	<p>①自身の研究テーマについて作成した成果物（卒業制作または卒業論文）を完成させることができる  ②成果物の概要を説得力を持ってゼミ生の前でプレゼンテーションできる  ③グループ内研究活動も積極的に行い、3年生へのアドバイスを効果的に行える  ④ゼミ内でのプレゼンテーションにおける他ゼミ生からの意見が成果物に効果的に取り入れられている  ⑤大学生活およびゼミ活動の総仕上げとして本演習を位置づけ、ゼミ活動にそのさまを反映させることができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。具体的には、自身のテーマのブラッシュアップ及び他ゼミメンバーのテーマに対する批評の文章化を行う事。  関連科目は前期開講「卒業ゼミナールⅠ」および3年次開講の「専門ゼミナールⅠ、Ⅱ」である。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	夏休み期間中の進捗状況報告	ゼミ生から出たアドバイスを受けて研究テーマを進める		
第2回	グループワーク①：研究テーマの相互紹介	グループ内の授業外連絡を主導し、自身の研究テーマを進める		
第3回	グループワーク②：研究テーマの相互意見交流	グループ内の授業外連絡を主導し、自身の研究テーマを進める		
第4回	グループワーク③：研究テーマの改善策相互相談	グループ内の授業外連絡を主導し、自身の研究テーマを進める		
第5回	全体プレゼンテーション①：ゼミ生1/3メンバー（No, 1, 2, 3, 4）	授業外でもゼミ生とアドバイスを出し合い、自身の研究テーマを進める		
第6回	全体プレゼンテーション②：ゼミ生2/3メンバー（No, 5, 6, 7, 8）	授業外でもゼミ生とアドバイスを出し合い、自身の研究テーマを進める		
第7回	全体プレゼンテーション③：ゼミ生3/3メンバー（No, 9, 10, 11, 12）	授業外でもゼミ生とアドバイスを出し合い、自身の研究テーマを進める		
第8回	シャッフルグループワーク①：研究テーマの後期最終案相互相談	普段もらえないアドバイスを受けて自身の研究テーマの深化を図る		
第9回	シャッフルグループワーク②：研究テーマの後期最終案提示	普段もらえないアドバイスを受けて自身の研究テーマの深化を図る		
第10回	グループワーク④：研究テーマの完成案相互相談	グループ内の授業外連絡を主導し、自身の研究テーマを進める		
第11回	グループワーク⑤：研究テーマの完成案提示	グループ内の授業外連絡を主導し、自身の研究テーマを進める		
第12回	グループワーク⑥：研究テーマの完成版提示と相互批評	グループ内の授業外連絡を主導し、自身の研究テーマを進める		
第13回	3年生の研究テーマ確定プレゼンテーション	引き続き3年生にアドバイスを行う。自身の成果物も最終調整に入る		
第14回	最終発表①：ゼミ生前半メンバー	ゼミ生の感想等を受け最後の微調整を行い、成果物を完成させる		
第15回	最終発表②：ゼミ生後半メンバー	ゼミ生の感想等を受け最後の微調整を行い、成果物を完成させる		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	70%（全体プレゼンテーションでの発表内容）			
受講態度他	30%（グループワーク時の参加度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに参加すること。グループワークでは積極的に発言すること。ゼミ活動に関係ないことを行なっている場合はその回もしくは次回の成果発表を認めない。ゼミであっても「不可」や「無資格」になる可能性があるのは他の講義と変わらないが、これは講義でなく「演習」である以上、講義以上に積極的かつ主体的に参加すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜と火曜の3講時、水曜と木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	橋本 嘉代		単 位	4
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用により受講者同士で情報共有や意見交換を行う双方向型授業です。</li> <li>企画立案や取材、写真撮影、原稿執筆、デザインなど、メディアコンテンツの企画・発信に必要な基本的なスキルを修得する。</li> <li>グループワークを行い、コミュニケーション力を身に付ける。</li> <li>フィールドワークを含む取材活動を通じて社会の課題を発見し、問題解決を考える力を磨く。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ページレイアウトソフトで簡単なコンテンツを制作することができる。</li> <li>オリジナルコンテンツに必要な取材、撮影を手配し、実行することができる。</li> <li>取材や調査、考察の結果を文章や写真、図などを用いてわかりやすい形でまとめる情報リテラシーを身につける。</li> <li>他者と協業し、趣旨やスケジュールに沿ってプロジェクトを進めることができる。</li> <li>筑女ネットを活用し、eラーニングや情報共有を行うことができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	夏休みの報告、デザインや文章の参考事例の共有、レイアウトフォーマットの検討	各自で作成した報告書★によるプレゼン準備 ★課題1		
第2回	進捗状況の確認とスケジュールの調整・確認、フォーマット決定、レイアウト作成開始	初回での指摘を反映させ、企画を練り直し、再検討		
第3回	レイアウト作成・提出 (タイトル案も盛り込む) ★課題2	デザインや文章の参考事例を持参。文字数や段落を計算		
第4回	レイアウト修正、文字数決定、画像の加工と流し込み	取材、撮影、原稿執筆 (他のコンテンツに関しても、随時、進めておく)		
第5回	写真候補の提出★、レイアウトへの配置と文字数の調整 ★課題3	写真候補の選定、原稿執筆、修正。取材は11月末までに完了させる (授業外)		
第6回	レイアウト提出★、原稿執筆 ★課題4	レイアウト作成、原稿執筆、取材		
第7回	Word原稿★提出 ★課題5	原稿執筆 (自己流で書かず、雑誌などを参考にする)		
第8回	原稿の修正、レイアウト微調整	原稿執筆、修正 (他のゼミ生との相互チェック、教員のコメントを反映)		
第9回	原稿完成→レイアウトへの流し込み → PDF化★ ★課題6	原稿執筆、レイアウト調整		
第10回	全体での微調整①、取材協力者への内容確認と修正箇所の反映	他の人の制作物を見て、調整や修正が必要な部分を指摘し合う		
第11回	全体での微調整②、画像ファイルの整理とリンク	画像ファイルの整理と共有、取材協力者への連絡		
第12回	表紙・目次・編集後記などの制作、校正	制作、校正		
第13回	完成版ファイル★の提出、ファイルの統合・調整、印刷発注 ★課題7	制作		
第14回	振り返り、全体の統括	工夫したところや反省点の共有、今後の課題の整理		
第15回	次年度の計画	次年度に向けての準備		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60% (課題2～7)			
小テスト等	0%			
成果発表	10% (課題1)			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・締め切りから逆算し、スケジュール管理をする習慣をつけましょう。			
教科書	編集の学校/文章の学校 (監修) 『エディターズ・ハンドブック 編集者・ライターのための必修基礎知識』 雷鳥社			
指定図書	なし			
参考図書	ARENSKI 『InDesignをフルに使うGirls Magazine DTP』 技術評論社			
オフィスワーク	火曜 12:30-14:00、水曜 11:00-12:45、授業の後	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	荒巻 龍也		単 位	4
授業の目的と概要	映像を楽しむことを第一として、これまでに学んだ知識やスキルを基礎として進めていきます。①CM、ドラマ、PR動画、映像表現や映像関連産業（広告含む）などに関して学び、研究もしていきます。②テーマを設定しながら、映像制作手順を身につけ、協力して作品を制作します。③映像関連全般の専門的な知識とスキルを身につけると同時に、専門研究を通して研究方法や発信方法を磨いていきます。④ゼミ活動全般から自主性、協働性、課題解決力そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につけることも目標としています。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) メディア（映像）リテラシー演習を通して映像メディアに関する理解を深め、研究につなげることができる。</li> <li>2) 映像制作手順（企画、撮影、編集など）を身につけ、テーマを自ら定め、そのテーマを具現化するためにどうすればよいかを考えつつ実際に作品を作ることができる。</li> <li>3) 映像関連全般について学び・研究して、テーマを設定してまとめることができる。</li> <li>4) ゼミ活動全般ならびに「タクナル演習」から自主性、協働性、課題発見・解決力そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につける。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。  関連する科目：基礎専門ゼミナールⅠ・Ⅱ、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業ゼミナールⅠ、メディア・IT活用演習、メディアコンテンツ論、テレビ論 など</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 後期オリエンテーション 『タクナル』グループワーク演習(4) Episode 6 情報を集めよう		WS1 (情報収集計画シート)		
第2回 『タクナル』グループワーク演習(5) Episode 7 情報を集めよう (発表会)		WS2 (さまざまなダイエット法)、発表準備		
第3回 『タクナル』グループワーク演習(6) Episode 9 情報を分析しよう		WS3 (情報を分析しよう)		
第4回 『タクナル』グループワーク演習(7) Episode 10 情報を分析しよう (発表回)		WS4 (おすすめの住む街)、発表準備		
第5回 卒業制作(1) 企画 (構想)		企画書、スケジュール作成		
第6回 卒業制作(2) 企画コンテ		企画コンテ作成、ロケーションハンティング		
第7回 卒業制作(3)		ロケーションハンティング、絵コンテ作成		
第8回 『映像メディアのつくり方』(5) 5章ドラマ、10章ドラマ制作		テキスト(5章、10章)熟読、まとめ課題1、まとめ課題2		
第9回 卒業制作(4) 撮影		撮影準備		
第10回 映像制作(4) 大宰府の秋を撮影		シーン・カットアイディアカード作成、撮影素材整理		
第11回 映像制作(5) 動画編集		動画編集・ムービー作成		
第12回 卒業制作(5) 撮影素材確認～仮編集		撮影素材確認表作成、カット表作成		
第13回 卒業制作(5) 編集		映像(動画)編集、完成ムービー作成		
第14回 『タクナル』グループワーク演習(8) Episode 11 「プラスバンドGIFTの憂鬱」		WS5 (問題発見シート)、振り返りシート		
第15回 まとめ グループワーク演習、映像制作、メディア(映像)リテラシーなどに関する総括		これまでの課題の整理・確認		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	70% 卒業制作・論文(45%)、ワークシート(WS) (15%)、まとめ課題・映像制作課題(10%) *提出された課題はその都度採点(評価)して、授業時に返却します。			
小テスト等	0% なし			
成果発表	20% グループワークまとめ・口頭発表(10%)、撮影実習・プレゼンテーション(10%)			
受講態度他	10% 受講態度、活動参加状況ならびに授業中やフォーラムでの発言など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業が効果的にできるように、LMS(e-Learningシステム)である「筑女ネット」を利用します。授業連絡、進捗確認、授業テキスト・資料、課題、課題提出、フォーラム、授業関連アンケート、評定などの機能をフル活用して使っていきますので、常時アクセスして確認しておいてください。</p> <p>授業ではグループで行う作業や共同して調べ、発表するようなことも多くなります。また撮影、調査、フィールドワーク、PBLなどで学外で活動することもあります。</p>			
教科書	なし(「筑女ネット」のオンライン教材ならびにプリント)			
指定図書	なし			
参考図書	久保田賢一 編著 『映像メディアのつくり方』 北大路書房 松村直樹 他 『タクナル』 リアセック *その他は、その都度授業で紹介いたします。			
オフィスアワー	火曜日2限目(10:50-12:20)	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	小山 昌宏		単 位	4
授業の目的と概要	1. 卒業研究にいたる物語研究分野の応用力、テキスト読解力、課題解決力を養う 2. 物語研究により、マンガメディア、アニメメディアを含む「ドラマ」を読み解く力を身につけ、映像分析ほか様々な手法とあわせ、マンガ、アニメ、映画、ドラマ、舞台、ライブ作品などを自力で分析し、作品内容を構造的に解明できる力を養う 3. 具体的には、講義前の教科書による予習、レジュメ（資料）のまとめによる知識の体系化、発表、討論による理解の深化を通して、作品分析力を身につけ、その成果を文章化（卒業論文）する力を養う 4. 3限は基礎読解、4限は色彩、造形心理、音楽、舞踊などについて学びつつ、マンガ、アニメ、映画、舞台、ライブなどの作品鑑賞、討論をおこない、その成果を報告することができる力を養う			
到達目標	1. 物語論の基礎知識、物語分析、物語構造分析のための様々な手法を学び、実際にその手法を用いることができる 2. 1の手法を用いてマンガ、アニメ、映画、ドラマ、舞台などの作品を分析し、物語のメッセージ、隠された意図を映像分析の手法を併用して明らかにすることができる 3. 期末レポートにいたる学習過程で、物語読解力を向上させ、討論により他者の意見を取り入れ、総合的に物語分析力を向上させることができる 5. ゼミ運営、参加を通して、テーマに関する知識運用、対話能力、企画力、表現力、文章力を向上させることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連科目：マンガ・アニメ論 サブカルチャー論 オタク文化論			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション／ 教科書：はじめに：「現代の神話」としての映像作品／第1章：言語論的展開と主体問題	教科書： 物語構造分析の理論と技法 の「第2・3章」までを予習しておく		
第2回	3限 第2章：解釈学概観／第3章：神話学外観／第4章：物語論概説（小山解説） 4限：映像鑑賞（第4章該当分）	教科書： 第4章を予習する		
第3回	3限 第5章：隠喩理論（小山解説）／映像討論（第4章該当映像） 4限：映像鑑賞（第5章該当分）	教科書： 第5章を予習する		
第4回	3限 第6章：映画・映像論（小山解説）／映像討論（第5章該当映像） 4限：映像鑑賞（第6章該当分）	教科書：第6章を予習する 卒研相談会実施		
第5回	3限 第7・12章：心理学的基礎概念（小山解説）／映像討論（第6章該当映像） 4限：映像鑑賞（第7・12章該当分）	教科書： 第7・12章を予習する 卒研相談会実施		
第6回	学外授業 美術館・博物館・スタジオ見学	見学に際する該当テーマ課題の学習		
第7回	3限 第8章：典型ストーリーの抽出／第9章：シーケンス分析（小山解説） 映像討論（第7・12章該当映像）	教科書： 第8・9章を予習する		
第8回	3限 第10章：行為項分析（小山解説）／映像討論（第8・9章該当映像） 4限：映像鑑賞（第10章該当分）	教科書： 第10章を予習する		
第9回	3限 卒業研究の方法と執筆実習 4限：3年生卒研中間発表会でのアドバイス①	卒研中間発表会に向けた準備		
第10回	3限 3年生卒研中間発表会でのアドバイス② 4限：4年生卒研最終発表会	卒論提出への追い込み		
第11回	3限 4年生卒研最終発表会 4限：4年生卒研最終発表会	教科書： 第15章を予習する		
第12回	3限 第11章：シーン分析（小山解説）／映像討論（第10章該当映像） 4限：映像鑑賞（第11章該当分）	教科書：第11章を予習する		
第13回	3限 3限 第13・14章：深層・訴求構造（小山解説）／映像討論（第11章該当映像）	後期ゼミに関する課題と各々の進捗概要を準備する		
第14回	3限 第15章：CMの構造分析（小山解説）／映像討論（第13・14章該当映像） 4限 映像鑑賞（第15章該当分）	教科書：第15章を予習する 卒論最終提出に向けたおいこみ		
第15回	3限 映像討論（第15章該当映像） 4限 後期のまとめ 来期に向けた討論	卒論の完成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	85%（卒業研究・卒業論文）			
小テスト等	なし			
成果発表	15%（中間発表プレゼン）			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 3限：教科書は小山が解説し、前回の鑑賞映像をゼミ生が解説する 2. 4限：教科書回にイメージされる該当映像を鑑賞する。9回分あるので3年生が担当し、4年生は1名が担当する 3. 報告形式は、レジュメ（文章式）、パワーポイント（図解式）のどちらでもよい 4. 報告担当にあたらなくても、また欠席した場合でも、討論に参加するために必ず、事前に文章を読み、映像を鑑賞しておくことが望ましい			
教科書	高田明典『物語構造分析の理論と技法：CM・アニメ・コミック分析を例として』（大学教育出版）			
指定図書	なし			
参考図書	各自の研究テーマにそった文献を提示する			
オフィスアワー	水曜日昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	一ノ瀬 元史		単位	4
授業の目的と概要	ここでは卒業ゼミⅠで学んだことを踏まえ、さらに発展させ課題解決の道を探る。さまざまな情報社会の中から各自関心のある課題に注目し、理解し、解決の方策を検討する。さらにそれらが社会においてどのような位置づけにあり、われわれと関係しているか理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報社会の課題を理解できる</li> <li>2. 課題解決の方策を検討できる。</li> <li>3. 課題解決に向けた提案ができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業の概要 ガイダンス		情報社会の課題調査		
第2回 情報社会の課題について発表		情報社会の課題について検討準備		
第3回 情報社会の課題について検討		発表準備		
第4回 情報社会の課題の解決策について検討発表		情報社会の課題について検討準備		
第5回 情報社会の次の課題について発表		情報社会の課題の準備		
第6回 その課題について検討		課題について発表準備・研究レポート作成準備		
第7回 その課題の解決策について検討発表		情報社会の課題について報告準備・卒業研究レポート作成		
第8回 次の課題について発表		卒業論文執筆		
第9回 その課題について検討		卒業論文執筆		
第10回 その課題の解決策について検討発表		卒業論文執筆		
第11回 次の課題について発表		卒業論文執筆		
第12回 その課題について検討		卒業論文執筆		
第13回 その課題の解決策について検討発表		ゼミ報告会準備		
第14回 ゼミ合同卒業研究発表		卒業論文執筆		
第15回 研究まとめ発表		卒業研究レポート作成提出		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	なし			
成果発表	30%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プログラム言語Rubyに関する書籍をみておきましょう			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	金 15:00-17:00 事前に連絡をお願いします。	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	岡本 文子		単 位	4
授業の目的と概要	<p>現代社会を生きる私たちの身につけている衣服は、連綿と受け継がれてきた服飾史の延長線上にある。「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」に引き続き日常意識する機会の少ない衣服のしくみへの理解を深めることを通して、服飾と社会との関係に関心を持ち、服飾の社会的役割を理解することを目的としている。</p> <p>さらに本演習では、「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」で理解したこと、身に付けたことを発展させ、制作した作品の画像をもとに、プログラミングの基礎を習得し、色彩の基礎知識・カラーコーディネートの知識を活用することを通して、現代社会における社会そのものや生活と色彩との関わりについて、体得することを目的としている。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考えること」「立案すること」「計画すること」の重要性を認識し、日常のなかからさまざまな課題を見出すことができる。</li> <li>・衣服のしくみを理解した上で、現代社会の衣服の役割について説明できる。</li> <li>・色彩の基礎知識を活用することを通して、現代社会と色彩との関わりについて説明できる。</li> <li>・カラーコーディネートのテクニックの活用を通して、現代社会とカラーコーディネートの関わりについて説明できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション (今後の計画)	前期の資料整理		
第2回	カラーコーディネートの分析結果のまとめ	要素分析の補充		
第3回	前期の考察のまとめ	資料の整理と補充		
第4回	制作の成果発表準備① (制作資料の整理)	制作資料の補充		
第5回	制作の成果発表準備② (発表資料作成)	発表資料作成		
第6回	制作の成果発表準備③ (発表原稿作成)	発表原稿・質問紙作成		
第7回	制作の成果発表	発表内容の復習		
第8回	制作の成果発表のフィードバック	発表内容の復習		
第9回	制作レポート執筆 (テーマの社会的背景)	資料の補充		
第10回	制作レポート執筆 (デザインの特徴とトータル制作)	追加資料の整理		
第11回	制作レポート執筆 (制作過程)	テーマの社会背景とデザインの特徴資料の補充		
第12回	制作レポート執筆 (プログラミング過程)	制作過程資料の補充		
第13回	制作レポート執筆 (カラーコーディネート)	プログラミングの過程資料の補充		
第14回	制作レポート執筆 (要素分析と考察)	考察資料の補充		
第15回	まとめ (制作レポート提出)	レポートの補充		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	%			
小テスト等	%			
成果発表	90%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 12:00~13:00		メールアドレス	

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	吉野 嘉高		単位	4
授業の目的と概要	前期「専門ゼミナールⅠ」と同様、就活や実社会においても必要な「課題発見・解決力」と「対話力」を伸ばすための演習である。引き続き前期に設定したテーマに沿って、レポートを作成することに加えて、前期の「対話力」に関する理解を踏まえて、映像取材を学外で実施する。また、リサーチの過程で見つけた「興味深い本」を取り上げビブリオバトルを実施する。最終的には、テキスト資料（レポートとプレゼン資料）と動画で、それぞれの知的探求の成果を表現する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定したテーマに合わせてリサーチをすることができる。</li> <li>・リサーチした内容を考察し、テキスト資料（レポート、プレゼン資料）と動画で発表することができる。</li> <li>・「異質な他者」との対話によりテーマに沿った情報を引き出すことができる。（対話力スキルアップ）</li> <li>・参考書籍の内容を他の学生にわかりやすく説明することができる。</li> <li>・対話について自分の考えを説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 映像取材のスキル	取材対象者の修正 取材交渉		
第2回	レポートの章立てと研究計画の発表 映像取材中間報告	資料収集・整理 映像取材		
第3回	映像編集の基礎知識	個別指導		
第4回	取材結果報告 編集構成	映像編集		
第5回	メディア最前線講義準備（地域メディアについてテーマ設定） 期末ゼミ発表会についてディスカッション	個別指導		
第6回	ゲスト講師によるメディア最前線についての講義 ディスカッション	地域メディアの未来について考えたことをまとめる。		
第7回	映像コンテンツ素材発表会①（対話力ピアレビュー）	インタビューについて考えたことをまとめる。		
第8回	映像コンテンツ素材発表会②（対話力ピアレビュー）	インタビューについて考えたことをまとめる。		
第9回	実社会における「聞く力」「伝える力」	「聞く力」「伝える力」について考えたことをまとめる。		
第10回	レポートの中間発表（2000字以上、パワポ資料も作成） 中間発表	ビブリオバトルの準備		
第11回	ビブリオバトル	映像編集		
第12回	ゼミ発表会動画の制作・修正	レポート3000字以上の執筆		
第13回	レポートの中間発表（3000字以上） オンラインピアレビュー	映像編集 レポートの修正		
第14回	各自の映像コンテンツを発表	配布資料の熟読		
第15回	まとめと今後のゼミ計画	配布資料の熟読		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%			
小テスト等	20%（課題等）			
成果発表	30%（映像コンテンツ）			
受講態度他	20%（授業内ゼミ、授業外ゼミでの積極的な発言と行動で評価）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>前期に引き続き授業外での「個別指導」を重視する。ディスカッションやピアレビューを必要に応じて行う。最終的成果物は①テキスト（レポート、プレゼン資料） ②動画（インタビューは必須）であることを念頭に受講すること。筑女ネット（LMS）を使用しての「オンラインピアレビュー」を実施する。学生の研究の進捗状況を見ながら、スケジュール変更もあり得る。</p>			
教科書	なし			
指定図書	高田明『伝えることから始めよう』ダイヤモンド社			
参考図書	松本幸夫『人を動かす聞く力&質問力』三笠書房			
オフィスアワー	火曜日昼休み(12:20~13:10) 水曜日昼休み(12:20~13:10)	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	須藤 遙子		単位	4
授業の目的と概要	<p>メディア社会を文化経済・文化政治・文化政策の観点から研究する。  前半は、就活を念頭に置いた「読解力・文章力・発想力」を鍛える演習を中心とする。  後半は、各自の卒業研究に向けてのテーマ設定・資料収集・論文指導を行う。  適宜グループディスカッションを取り入れ、自分の意見を発表すると同時に、他人の意見をよく聞き尊重する姿勢を学ぶ。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアの分析、またメディア企業への就職に必要な「読解力・文章力・発想力」を身につける。</li> <li>・プレゼンテーション能力を身につける。</li> <li>・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	前期の復習。夏休み宿題発表。	長編小説『ノルウェイの森・上』を読む。各自の卒業研究中間発表準備。		
第2回	文章読解：長編小説（1）。卒業研究中間発表・討議。	長編小説『ノルウェイの森・上』（続き）を読む。卒業論文執筆。		
第3回	文章読解：長編小説（2）。卒業研究中間発表・討議。	長編小説『ノルウェイの森・下』を読む。卒業論文執筆。		
第4回	文章読解：長編小説（3）。卒業研究中間発表・討議。	長編小説『ノルウェイの森・下』（続き）を読む。卒業論文執筆。		
第5回	文章読解：長編小説（4）。卒業研究中間発表・討議。	学術書『メディア人間』を読む。卒業論文執筆。		
第6回	文章読解：長編小説（5）。卒業研究中間発表・討議。	学術書『メディア人間』（続き）を読む。卒業論文執筆。		
第7回	合同ゼミ（1）：担当教員研究発表・質疑応答。	教員の研究テーマ・分析手法をふまえ、卒業テーマ深化。		
第8回	合同ゼミ（2）：担当教員研究発表・質疑応答。	教員の研究テーマ・分析手法をふまえ、卒業テーマ深化。学術書を読む。		
第9回	文章読解：学術書（1）。卒業研究中間発表・討議。	学術書『メディア人間』（続き）を読む。卒業論文執筆。		
第10回	文章読解：学術書（2）。卒業研究中間発表・討議。	学術書『メディア人間』（続き）を読む。卒業論文執筆。		
第11回	文章読解：学術書（3）。卒業研究中間発表・討議。	学術書『メディア人間』（続き）を読む。卒業論文執筆。		
第12回	文章読解：学術書（4）。卒業研究中間発表・討議。	学術書『メディア人間』（続き）を読む。卒業論文執筆。		
第13回	文章読解：学術書（5）。卒業研究中間発表・討議。	学術書『メディア人間』（続き）を読む。卒業研究プレゼン準備。		
第14回	文章読解：学術書（6）。卒業研究プレ発表・討議。	各自プレゼン資料修正。		
第15回	卒業研究発表。	2年間の復習。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％（卒業論文）			
小テスト等	％			
成果発表	20％（卒業研究発表）			
受講態度他	30％（全体討論への参加態度も含める）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>専門ゼミナールに引き続き、本（小説）をたくさん読むことが求められます。  大学生活の集大成となる卒業論文を完成させます。</p>			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	金曜日昼休み。	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	一木 順		単 位	4
授業の目的と概要	本ゼミでは文化遺産や自然遺産など地方都市の持つリソースを分析し、その魅力を発信するためのプロジェクトを行う。今年度は長崎県の平戸市を題材として扱い、グループごとにテーマを設定し、平戸市の魅力についてリサーチを行い、それを発信する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平戸市の歴史、文化、風土について説明できる</li> <li>2. 平戸市の魅力について、それぞれでテーマを設定できる</li> <li>3. テーマに従ってリサーチすることができる</li> <li>4. 自分たちの発見をプレゼンしてまとめて発信できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 授業の概要の説明			なし	
第2回 平戸研修の振り返り①			それぞれのグループでプレゼン準備を行うこと	
第3回 平戸研修の振り返り②			それぞれのグループでプレゼン準備を行うこと	
第4回 平戸へのまなざし①			映画『男はつらいよ、がんばれ！寅次郎』鑑賞レポート	
第5回 平戸へのまなざし②			映画『あなたへ』鑑賞レポート	
第6回 プロジェクト中間発表①			各グループが10分間のプレゼンを行うこと	
第7回 プロジェクト中間発表②			各グループが10分間のプレゼンを行うこと	
第8回 平戸の魅力発信に向けて①			中間発表の振り返りを行うこと	
第9回 平戸の魅力発信に向けて②			それぞれが設定したプロジェクトを進めること	
第10回 平戸の魅力発信に向けて③			それぞれが設定したプロジェクトを進めること	
第11回 最終発表に向けて①			それぞれが設定したプロジェクトを進めること	
第12回 最終発表に向けて②			それぞれが設定したプロジェクトを進めること	
第13回 最終発表に向けて③			それぞれが設定したプロジェクトを進めること	
第14回 最終発表			各グループが30分間のプレゼンを行うこと	
第15回 まとめ			なし	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% 授業内の小レポート			
小テスト等	-			
成果発表	40% グループ発表			
受講態度他	20% 授業内での取り組みを勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である。授業に際しては、自分の担当部分、発表に関して責任を持って行うこと。やむを得ず自分の発表回に欠席せざるを得ないときは、自分の責任で他の人と発表を代ってもらうこと。			
教科書	適宜プリントを配布する			
指定図書	指定しない			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスアワー	木曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	安恒 万記		単 位	4
授業の目的と概要	住環境に関する課題について、自らの問題意識に即してグループでの調査・研究を行い、発表と討論を行うことによって住環境について深く考察します。特に3年生と合同でのグループをまとめ、研究課題に関する文献、資料に幅広く触れ、目的に合ったデータを収集し、適切な分析を行い、発表と討論を行うことによって、課題発見能力や論理的な思考力、プレゼンテーション能力などを身につけることを目的とします。			
到達目標	1. 広く住環境について、現代社会における問題・課題を発見することができる。 2. その問題・課題について、参考文献や先行研究の検索、フィールドワークやアンケートなどの調査を提案することができる。 3. その問題・課題について、具体的にまとめることができる。 4. テーマに沿って論点を見つけ、ディスカッションすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション	「卒業ゼミナールⅠ」の内容を整理する		
第2回	年間ゼミナール計画の見直し	年間計画を見直す		
第3回	研究状況の発表・ディスカッション①	研究テーマ、研究方法、データの整理		
第4回	研究状況の発表・ディスカッション②	研究テーマ、研究方法、データの整理		
第5回	研究状況の発表・ディスカッション③	発表資料の準備		
第6回	研究状況の発表・ディスカッション④	調査計画		
第7回	研究状況の発表・ディスカッション⑤	発表準備		
第8回	研究状況の発表・ディスカッション⑥	発表資料の準備		
第9回	研究状況の発表・ディスカッション⑦	発表資料の準備		
第10回	研究状況の発表・ディスカッション⑧	発表資料の準備		
第11回	研究状況の発表・ディスカッション⑨	発表資料の準備		
第12回	卒論発表に向けた検討	卒論発表のためのデータ整理		
第13回	卒論発表準備	プレゼンテーション準備（筑女ネットを使用しPPT資料のブラッシュアップ）		
第14回	卒論発表	プレゼンテーション準備（筑女ネットを使用しPPT資料のブラッシュアップ）		
第15回	まとめと総括	振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	50%			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な参加を期待します			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	木曜日 9：10～12：20	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	佐々木 浩		単 位	4
授業の目的と概要	<p>本講義は、専門ゼミナールⅠ、Ⅱ、卒業ゼミナールⅠ、Ⅱと半期の講義が4回連続する講義の2回目となる。この2年間で、人間とその他の動物とが共生していくための持続可能な地域デザインはどのようなものかを考えていく。人間社会が大きく変化してきていることによって、野生動物、家畜など様々な身の回りの動物との関係も変化してきている。1. 関連資料の収集等による課題の探索、2. 課題を解決するための研究計画の立案、3. 調査の実施、4. 結果の分析、5. 地域における実践によって、課題発見、解決能力を身につけることを目的とする。これらの過程で、プレゼンテーションや論理的な議論の技術も学ぶ。この半年では、研究の進展に適宜対応しながら、研究を完成させる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域課題を解決するための研究を具体的に進めることができる。</li> <li>2. 問題点を整理して論理的な議論ができる。</li> <li>3. 課題についてプレゼンテーションすることができる。</li> <li>4. 実践した研究について論理的にまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	夏休みの活動の報告	事前に活動報告の準備をする。		
第2回	卒論中間発表会の予行演習	事前に発表の準備をする。		
第3回	フィールドワーク1	事前に必要な準備をする。		
第4回	フィールドワーク2	事前に必要な準備をし、事後に報告書を作成する。		
第5回	文献紹介1	担当者はレジメを作成する。		
第6回	文献紹介2	担当者はレジメを作成する。		
第7回	文献紹介3 プレゼンテーション	担当者はレジメを作成する。		
第8回	3.4年卒論（計画）発表内容の準備1 ディスカッション	卒業論文の準備をする。		
第9回	3.4年卒論（計画）発表内容の準備2 ディスカッション	卒業論文の準備をする。		
第10回	3.4年卒論（計画）発表内容の準備3 ディスカッション	卒業論文の準備をする。		
第11回	3.4年卒論（計画）発表会予行演習 プレゼンテーション	発表の準備をする。		
第12回	3.4年卒論（計画）の再検討	予行演習の議論を参考に再検討をする。		
第13回	3.4年卒論（計画）の決定	卒業論文を進める。		
第14回	3.4年卒論（計画）準備	卒業論文を進める。		
第15回	卒論発表会	発表準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	論文紹介のレジメ 20％ フィールドワークの報告 10％ 卒論 30％			
小テスト等	なし			
成果発表	卒論中間発表会及び発表会 30％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	全回を対面講義で行います。積極的な参加を期待します。卒論のまとめに入ります。後輩の指導も行いながら、完成させていきます。卒論と学科でまとめる卒論の抄録も作成します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日 2講時	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	栗木 明裕		単 位	4
授業の目的と概要	栗木ゼミ「健康的なライフスタイルを考えるゼミ」では、幸福感 (well-being) をテーマに人 (心とカラダ) や生活についての調査や実験を通して理解を深め、生活環境や社会環境から健康を捉えてヘルスプロモーションのためのノウハウを考えていく。卒業ゼミナールⅠでは、専門ゼミナールで学んだ内容を踏まえて具体的に卒業研究を計画して実践する。そして卒業ゼミナールⅡでは収集したデータを分析・考察して研究論文としてまとめる。また、各ゼミナールのそれぞれの過程では、作業内容をアウトプットして討議を繰り返しながら知識を体系化していく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活環境や社会環境における問題・課題の中から研究テーマを決定し、研究計画を立てることができる。</li> <li>2. 研究テーマに関連する資料を元に適宜研究計画を調整し、討議することができる。</li> <li>3. 研究を進めるための基本的な手順・手法を実践することができる。</li> <li>4. 収集したデータを整理・管理できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 卒業研究の進捗報告		夏季休業中の成果をまとめる		
第2回 卒業研究 分析 (1)		分析方法を確認		
第3回 卒業研究 分析・考察 (1)		分析結果をまとめ考察を加える		
第4回 卒業研究 分析・考察 (2)		分析結果と考察について討議の準備		
第5回 卒業研究 分析・考察 (3)		分析結果と考察について討議の準備		
第6回 研究論文作成 (1)		プロポーザルをもとに研究論文をまとめる (背景, 目的, 方法)		
第7回 研究論文作成 (2)		プロポーザルをもとに研究論文をまとめる (背景, 目的, 方法)		
第8回 研究論文作成 (3)		研究論文をまとめる (結果, 考察)		
第9回 研究論文作成 (4)		研究論文をまとめる (結果, 考察)		
第10回 卒業研究中間発表		発表準備		
第11回 研究論文作成 (5)		発表と質疑の結果をもとに論文を修正する		
第12回 研究論文作成 (6)		発表の準備, 研究論文作成		
第13回 研究論文作成 (7)		研究論文作成		
第14回 関係者へのフィードバック		発表準備		
第15回 まとめ: 卒業研究報告会		ゼミ活動の振り返り		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 研究論文			
小テスト等	なし			
成果発表	30% (中間報告会, 最終発表会)			
受講態度他	10% 積極的な態度、発言 私語など受講態度が悪く、ゼミ進行や他の学生の妨げとなる場合は減点もあり得る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業ゼミナールはゼミ活動の仕上げであり、研究テーマにおける基本的な研究方法を学び、実践することが重要である。自分自身で主体的に取り組み、自分自身で実践し、自分自身で考えることを大切にする。授業内容に応じて学外で授業を行うことがあるので、適宜指示する。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	水曜日 10:50~12:20 (事前連絡要)	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	緒方 隆文		単 位	2
授業の目的と概要	<p>目標1：卒業ゼミナールを通して、言語・文化に関する専門知識を身につけ、深い人間理解ができるようになる。目標2：英語理論を学び、言葉としての英語に関心を持つとともに、自ら探求する方法を身につける。目標3：英語圏文化を、学んだり調べたりすることで、英語に対する理解を深め、様々な視点で英語をとらえることができるようになる。その過程で、論理的思考力、問題解決力、特定分野の知識・技能を身につける。</p> <p>授業は基本、二部構成で進められる。前半では受講者は、自分のテーマによる発表を行い、全員で討議する。協働して取り組むことで、内容がより深くなるよう討議する。後半ではプリントを用いて、言語理論(認知言語学)や英語学全般の内容を取り上げ学習する。英語そのものがもつ規則性・特徴を、言語理論に偏ることなく、幅広く見ていく。そうすることで、英語に対する理解を深め、英語そのものをことばとして楽しむことが期待されている。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語に関するテーマを一つ選び、課題に向き合い、期末レポートを書くことができる。レポート作成では、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、より深い知見が得られるよう探求することができる。</li> <li>2. 調べたことを、口頭発表(2回)することができる。</li> <li>3. 講義で学んだ特定分野の知識・技能に関して、人類の文化・社会と自然への理解を背景に持ちながら、論理的に説明することができる。</li> <li>4. 口頭発表など講義中に、質疑応答やディスカッションなど積極的に参加することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>英(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション；認知言語学/英語学全般(語用論(1)：会話の格率)	語用論(1)の復習，発表/レポートの作成準備		
第2回	ディスカッション・質疑応答の仕方；認知言語学/英語学全般(語用論(2)：遂行動詞)	語用論(2)の復習，発表/レポートの作成準備		
第3回	発表C(第1回)；認知言語学/英語学全般(語用論(3)：比喩表現) (発表とディスカッションを含む)	語用論(3)の復習，発表/レポートの作成準備		
第4回	発表C(第2回)；認知言語学/英語学全般(語形成(1)：派生と複合) (発表とディスカッションを含む)	語形成(1)の復習，発表/レポートの作成準備		
第5回	発表C(第3回)；認知言語学/英語学全般(語形成(2)：逆成・省略・頭文字語他) (発表とディスカッションを含む)	語形成(2)の復習，発表/レポートの作成準備		
第6回	発表C(第4回)；認知言語学/英語学全般(語形成(3)：音象徴・混成・異分析他) (発表とディスカッションを含む)	語形成(3)の復習，発表/レポートの作成準備		
第7回	発表C(第5回)；認知言語学/英語学全般(アイロニー(1)：アイロニーの公式) (発表とディスカッションを含む)	アイロニー(1)の復習，発表/レポートの作成準備		
第8回	発表C(第6回)；認知言語学/英語学全般(アイロニー(2)：アイロニーの対象) (発表とディスカッションを含む)	アイロニー(2)の復習，発表/レポートの作成準備		
第9回	発表D(第1回)；認知言語学/英語学全般(アイロニー(3)：類似表現との比較) (発表とディスカッションを含む)	アイロニー(3)の復習，発表/レポートの作成準備		
第10回	発表D(第2回)；認知言語学/英語学全般(描写の立場(1)：表現における視点) (発表とディスカッションを含む)	描写の立場(1)の復習，発表/レポートの作成準備		
第11回	発表D(第3回)；認知言語学/英語学全般(描写の立場(2)：実証研究) (発表とディスカッションを含む)	描写の立場(2)の復習，発表/レポートの作成準備		
第12回	発表D(第4回)；認知言語学/英語学全般(描写の立場(3)：日英比較) (発表とディスカッションを含む)	描写の立場(3)の復習，発表/レポートの作成準備		
第13回	発表D(第5回)；認知言語学/英語学全般(オノマトペ(1)：具体例とその対応関係) (発表とディスカッションを含む)	オノマトペ(1)の復習，発表/レポートの作成準備		
第14回	発表D(第6回)；認知言語学/英語学全般(オノマトペ(2)：日英比較) (発表とディスカッションを含む)	オノマトペ(2)の復習，発表/レポートの作成準備		
第15回	総括：レポート最終指導，学習内容の全体的復習	レポート仕上げ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 期末レポートの他に、毎回の授業において課題が課せられる。なお提出した課題は、次回の授業において返却される。			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 各自口頭発表が2回ずつある。			
受講態度他	20% 積極的な参加(発表・質問等)を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>学習態度(授業参加度・プレゼン発表)や課題/レポートを重視する。発表やレポートはしっかりと時間をかけ準備をし、自分でも十分に満足のものにすること。</p> <p>細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。</p> <p>筑女ネットを活用し、課題説明・課題提出などを行う。授業課題は、次回講義にて返却しフィードバックする。なお学生同士で行ったコメント・質問・評価は、発表者に一覧表として渡され、フィードバックされる。</p>			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(メール等で、予約することが望ましい)	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	高森 暁子		単位	2
授業の目的と概要	英語文学を原作とする映画、演劇、ミュージカルを題材に、作り手が原作をどのような視点から解釈し、どのようなメッセージを発信しているか、さらにそれらがどう受容されてきたかを検証します。前期は、様々なメディアにおいて広く受容されているシェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を題材に取り上げます。まずは原作の書かれた時代や文化的な背景を踏まえながら、原作を精読し、テキストを分析的に読む訓練をします。その後、複数のメディア作品と原作との比較を行います。それによって、翻案作品（映画など）について多角的な視点から理解することができるようになることを目指します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原作のストーリーや登場人物について細部まで正確に理解することができる。</li> <li>2. 原作に描かれたテーマやモチーフを理解することができる。</li> <li>3. 原作とその様々なメディア作品について、両者の違いを認識することができる。</li> <li>4. それぞれのメディア作品の特徴や、どのような視点から制作されたものかを具体的に説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目：「卒業ゼミナールⅠ」「卒業論文」			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション：授業の進めかたの説明、スケジュールの確認		『ロミオとジュリエット』（プロローグ、第1幕）に関する予習		
第2回 『ロミオとジュリエット』（プロローグ、第1幕）の研究、ディスカッション		『ロミオとジュリエット』（第2幕）に関する予習		
第3回 『ロミオとジュリエット』（第2幕）の研究、ディスカッション		『ロミオとジュリエット』（第3幕）に関する予習・課題		
第4回 『ロミオとジュリエット』（第3幕）の研究、ディスカッション		『ロミオとジュリエット』（第4幕）に関する予習・課題		
第5回 『ロミオとジュリエット』（第4幕）の研究、ディスカッション		『ロミオとジュリエット』（第5幕）に関する予習・課題		
第6回 『ロミオとジュリエット』（第5幕）の研究、ディスカッション		『ロミオとジュリエット』のテーマについて意見をまとめる		
第7回 『ロミオとジュリエット』のテーマに関する研究、ディスカッション		『ロミオとジュリエット』の映画版（ゼフィレリ監督作品）について調べる		
第8回 映画版（ゼフィレリ監督作品）研究		『ロミオとジュリエット』の映画版（ラーマン監督作品）について調べる		
第9回 映画版（ラーマン監督作品）研究		『ロミオとジュリエット』のミュージカル版について調べる		
第10回 ミュージカル版（プレスギユルヴィック作詞・作曲作品）研究		ミュージカル『ウェストサイド物語』の時代背景について調べる		
第11回 ミュージカル版（『ウェストサイド物語』）研究		『ロミオとジュリエット』の日本での舞台版について調べる		
第12回 宝塚版『ロミオとジュリエット』研究		『ロミオとジュリエット』のパレエ版について調べる		
第13回 パレエ版（ケネス・マクミラン振り付け作品）研究		『ロミオとジュリエット』のマンガ・アニメ版について調べる		
第14回 英語マンガ版（Selfmade Hero制作作品）研究		『ロミオとジュリエット』映画版、舞台版、アニメ版、マンガ版の復習		
第15回 まとめ、後期レポートに関する説明		後期レポート作成の準備をすること		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%（期末レポート）			
小テスト等	40%（課題提出）			
成果発表	なし			
受講態度他	20%（ディスカッションへの積極的な参加を求めます）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に関する連絡や、授業で配布する資料については、筑女ネットの授業ページに掲載します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜5時間目	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	松崎 徹		単 位	2
授業の目的と概要	前期に引き続き本ゼミナールでは、講師が幅広く集めた、英語に見られる興味深い言語現象を受講生と一緒に分析しながら、英語の持つ不思議な魅力を体感していきます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語には興味深い言語現象が数多く存在していることを理解できる。</li> <li>2. そうした言語現象の多くにはきちんとした由来が存在していることが理解できる。</li> <li>3. 上で学んだ言語現象の由来を類似した他の言語現象の説明にも応用できるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第1回	導入問題の解答と解説		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第2回	英語の主語の不思議 (1) 【諸言語の主語】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第3回	英語の主語の不思議 (2) 【英語の主語】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第4回	英語の助動詞の不思議 (1) 【助動詞の定義】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第5回	英語の助動詞の不思議 (2) 【助動詞の起源】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第6回	英語の時制の不思議 (1) 【英語と日本語の時制】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第7回	英語の時制の不思議 (2) 【完了時制の仕組み】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第8回	学期末レポート面談 (1)		レポートプロポーザル作成	
第9回	学期末レポート面談 (2)		レポートプロポーザル作成	
第10回	英語の「不規則」の不思議 (1) 【不規則動詞と規則動詞】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第11回	英語の「不規則」の不思議 (2) 【不規則動詞の歴史】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第12回	英語の「不規則」の不思議 (3) 【不規則動詞の未来】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第13回	学期末レポート中間発表 (1)		中間発表準備	
第14回	学期末レポート中間発表 (2)		中間発表準備	
第15回	学期末レポート中間発表 (3)		中間発表準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30% 小テスト			
成果発表	50% 学期末レポート			
受講態度他	20% 授業での積極的な取り組みを考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・あらかじめ配布された予習プリントは次回の授業時までにはかならず予習をしておいてください。また、授業で学んだことは、その日のうちに復習しておいてください。 ・授業は講義形式が主とはなりますが、本ゼミの受講生には授業がより活気あるものとなるよう、各自の積極的な参加と活発な意見の交換を期待します。 ・理解度の確認という目的で各単元の終了ごとに小テストを実施しますので、テストに備えて日ごろから講義内容の復習を心が			
教科書	プリント資料配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜指示します。			
オフィスアワー	火曜日 3限目	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	小林 久泰		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、卒業論文の完成に向けて、前期に引き続き資料、参考文献の収集と読解に取り組み、論文としてまとめる方法を身につけることを目的とする。 前期の成果を基に問題点を整理し、さらに不足した資料などを補いながら、実際に自分の見解をまとめていく作業をしていく。最終的に卒業論文を完成させるために、具体的に指導していく演習となる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要な資料を正確に読解し、批判的に分析することができる。</li> <li>2. 資料を基に自分の見解を論理的な文章で書くことができる。</li> <li>3. 研究の結果を正しい書式に則って論文にまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	最終アウトラインの作成	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第2回	口頭発表とディスカッション：本論2（1）	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第3回	口頭発表とディスカッション：本論2（2）	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第4回	進行状況の確認と指導	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第5回	口頭発表とディスカッション：本論3（1）	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第6回	口頭発表とディスカッション：本論3（2）	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第7回	口頭発表とディスカッション：本論4（1）	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第8回	口頭発表とディスカッション：本論4（2）	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第9回	進行状況の確認と指導	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第10回	進行状況の確認と指導	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第11回	進行状況の確認と指導	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第12回	卒業論文の原案完成	発表準備		
第13回	口頭発表とディスカッション：最終発表（1）	発表準備		
第14回	口頭発表とディスカッション：最終発表（2）	発表準備		
第15回	編集作業	編集作業		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	70% 提出された論文の内容を評価する。卒論として完成できなくても、演習の成果をレポートにまとめなければならない。			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30% 演習への参加意欲、準備の完成度を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	意欲を持って積極的に取り組む姿勢のない者は指導できない。 週に1度は状況を報告すること。			
教科書	白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	適宜指示する。			
オフィスワー	金曜 4 講時	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	間瀬 玲子		単位	2
授業の目的と概要	卒業ゼミナールⅠに続き、フランス文化またはフランス文化が英語圏文化に与えた影響に関する配布資料を参考にしながら他のゼミ生と積極的に議論を行う。その議論の過程で前期に考えた研究テーマに検討を加え、決定する。前もって筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとにプレゼンテーションを行う。そして問題解決能力と論理的思考力を駆使して、研究成果を最終レポートにまとめることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分で考えたフランス文化またはフランス文化が英語圏文化に与えた影響に関する研究テーマを再検討し、探究することができる。</li> <li>2 配布資料の内容に関して議論を行うことができる。</li> <li>3 筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとにプレゼンテーションをすることができる。</li> <li>4 研究の成果をレポートにまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目 基礎ゼミナール、映画学概論、比較文学、卒業ゼミナールⅠ			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業の概要		予習 シラバスを前もって読む		
第2回 生活という名の文化 (グルメ)		予習 配布資料 (第2回)		
第3回 生活という名の文化 (ワイン)		予習 配布資料 (第3回)		
第4回 生活という名の文化 (ファッション、ブランド)		予習 配布資料 (第4回)		
第5回 さまざまな芸術のかたち (ミュージカル)		予習 配布資料 (第5回)		
第6回 さまざまな芸術のかたち (オペラ、バレエ)		予習 配布資料 (第6回)		
第7回 さまざまな芸術のかたち (印象派)		予習 配布資料 (第7回)		
第8回 研究テーマの決定について議論を行う		準備 研究概要を考える		
第9回 世界の都パリ (地下鉄)		予習 配布資料 (第9回)		
第10回 世界の都パリ (ルーヴル美術館、オルセー美術館)		予習 配布資料 (第10回)		
第11回 世界の都パリ (パリを見下ろすモニュメント)		予習 配布資料 (第11回)		
第12回 発表資料の作成の仕方		予習 配布資料 (第12回) 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す		
第13回 プレゼンテーションをきわめる		予習 配布資料 (第13回) 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す		
第14回 レポートの書き方		予習 配布資料 (第14回) 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す		
第15回 研究発表及びディスカッション		発表要旨を作成し、筑女ネットにアップする		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	50% 最終レポート (A4版 8枚、参考文献・図版を含む)			
小テスト等	0% なし			
成果発表	20% 研究発表			
受講態度他	30% 質問等による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネットに授業の進捗、最新情報を掲載しますので、頻りにチェックしてください。			
教科書	教科書はありません。授業資料(冊子体)を配布します。			
指定図書	MKA POSA『フランス式おしゃれの引き算』産業編集センター、今井干美『旅するパリより住みたいパリ』ごま書房新社			
参考図書	三浦信孝『現代フランス社会を知るための62章』明石書店、渡辺諒『フランス・ミュージカルへの招待』春風社			
オフィスアワー	火曜日 4 講時	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	宮原 牧子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>前期に引き続き、ヴィクトリア朝時代のイギリスのバラッド詩を精読、鑑賞、翻訳します。より深い理解を基に、より完成度の高い翻訳を目指しましょう。</p> <p>なお、完成した翻訳作品は、『英国バラッド詩アーカイブ』 (<a href="http://literaryballadarchive.com/">http://literaryballadarchive.com/</a>) に掲載されます。担当作品は、責任をもって仕上げてください。</p> <p>①詩人と作品を選定します。  ②時代背景や伝記について調べます。また、詩人の他の作品も読みます。  ③作品を精読します。 ④試訳を全員で検討します。 ⑤翻訳作品を完成させます。</p>			
到達目標	1. 英詩の構造を正確にとらえ、内容を理解することができる 2. 文学用語、詩人、作品、時代背景に関する知識を身につけることができる 3. 作品にふさわしい日本語で詩を翻訳することができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	前期完成作品の講評	第2回の準備（作品の選定）		
第2回	イントロダクション 「翻訳とは一その2」	作品の精読と訳案の作成		
第3回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（1） 詩人の背景を知る	作品の精読と訳案の作成		
第4回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（2） 時代背景を知る	作品の精読と訳案の作成		
第5回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（3） 言葉の選択について	作品の精読と訳案の作成		
第6回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（4） 担当箇所の発表	作品の精読と訳案の作成		
第7回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（5） グループによるディスカッション	作品の精読と訳案の作成		
第8回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（6） 検討作業	第一案作成		
第9回	翻訳作品の校正（1） グループ1作品発表	グループ1：第二案作成、グループ2：第一案の検討		
第10回	翻訳作品の校正（2） グループ2作品発表	グループ1：翻訳を完成させる、グループ2：第二案作成		
第11回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（7） 最終案作成	グループ1、2ともに翻訳の最終校正		
第12回	詩の精読と翻訳 個別の翻訳	第一案原案作成		
第13回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（8） 第一案作成	第二案原案作成		
第14回	翻訳作品の校正（3） グループ別検討作業	最終案の作成		
第15回	翻訳作品の完成 作品の発表	原稿を完成させ、提出		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	70% 翻訳作品の完成度により評価します。			
受講態度他	30% 講義への参加度・受講態度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。 やむを得ず発表の担当の回に欠席する場合は、当日の朝8時までに連絡すること。			
教科書	プリント			
指定図書	—			
参考図書	必要に応じて講義中にご紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 4 限目（この時間帯以外を希望する場合はメールでご相談ください）	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	大城 房美		単位	2
授業の目的と概要	このゼミは、ポップカルチャーが私たちのアイデンティティについて提起する問題について考え、現代に生きる私たちの女性観やジェンダー観を問いなおし、私たちと社会の関わりを考えてゆくことを目的とする。各ゼミ生が準備する発表を通して、アイデンティティに関する自分自身の価値観を分析し、問い直す。そして、公的機関を実際に訪問し視察することで、社会とそれぞれの問題のつながりを含めて考えてゆく。各ゼミ生は、それぞれ研究発表テーマと扱う作品を決め、発表前にアウトラインを他のゼミ生に配布できるように、準備すること。OHCやPOWERPOINT、DVDなどのビジュアルな機器と配布資料を活用し、よりよく伝わる発表をめざすこと。各発表は15分から20分程度。各発表者は筑女ネットのフォーラムから、ディスカッションリストを立ち上げ、そこに発表前の準備に関する記事を投稿する。発表後、他の学生は、そこからリスポンスを投稿すること。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学に入ってつちかかってきた英語力をフルに活用する。(ゼミでは、積極的に英語テキストを取り上げ、比較文化的視点から分析すること)</li> <li>2. グローバルな視点から、様々な文化のフォームに現れるジェンダーに関する問題を提起し、分析する。</li> <li>3. 性と現代社会に関する問題を自分の視点から考え、それに対する意見を述べるができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Introduction		講義の際に指示します。		
第2回 各学生による自由研究発表計画についての報告 *海外、特に英語/英語圏文化との関連から、自由研究のテーマをたてること*		発表の概要、アウトラインを考えること。		
第3回 福岡市男女共同参画センター「アミカス」、または北九州市漫画ミュージアム視察・施設見学(施設の予定により変更可能性有り)		訪問施設について下調べをしておくこと。リスポンス投稿。		
第4回 福岡市男女共同参画センター「アミカス」、または北九州市漫画ミュージアム視察・話し合い・図書室でのリサーチ(施設の予定により変更可能性有り)		訪問施設についての質問を考えておくこと。リスポンス投稿		
第5回 九州マンガ交流部会参加(研究発表会)、ディスカッション		発表テーマについて、下調べをする。発表についてリスポンス投稿。		
第6回 各学生による自由研究発表、ディスカッション		発表についてリスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成		
第7回 各学生による自由研究発表、ディスカッション。		発表についてリスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第8回 各学生による自由研究発表、ディスカッション		発表についてリスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第9回 各学生による自由研究発表、ディスカッション		発表についてリスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第10回 各学生による自由研究発表、ディスカッション		発表についてリスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第11回 各学生による自由研究発表、ディスカッション		発表についてリスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第12回 各学生による自由研究発表、ディスカッション。		発表についてリスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第13回 各学生による自由研究発表、ディスカッション。		発表についてリスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第14回 各学生による自由研究発表、ディスカッション。		発表についてリスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第15回 最終レポートのテーマ発表とディスカッション。		最終レポートのアウトライン作成。最終レポートの作成準備。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% レポートは4000字以上。参考文献5点以上。引用処理が的確でないものは不可。			
小テスト等	リスポンス20% 各講義について、質問やコメントなどを筑女ネットのフォーラムに投稿する			
成果発表	レポートに含む			
受講態度他	20% 講義での活動(受講状況・発表・宿題など)を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	*レジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価しない 発表担当については、次の2点の準備をすること。 発表前:アウトラインの準備(筑女ネットでディスカッションリストをつくる)、発表当日:レジュメ配布。 *学外講義は、訪問施設の予定によりスケジュールを調整。現地集合。集合時間などはゼミで確認する。			
教科書	前期に購入したテキストと指定図書、他。各発表担当者がレジュメを準備。発表前に、筑女ネットを通して、発表テーマ、アウトライン等を告知する。発表後各学生は筑女ネットにリスポンスを投稿する。			
指定図書	Anime explosion! 『学生・研究者のための使える!PowerPointスライドデザイン』 Manga and the representation of Japanese history			
参考図書	『Critical Approaches to Comics』、A Comics Studies Reader (UP of Mississippi)、The Manga Guide to the Universe、Manga Shakespeare Series (Romeo and Juliet 他)、その他英語版MANGA、マンガ関係の図書は請求番号726.1で検索			
オフィスアワー	火曜日午後(予約をしてください)	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	アダチ 徹子		単位	2
授業の目的と概要	このゼミナールでは、酒井他『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』を活用して、英語教育に関するトピックについて広く深く知識を広げ、受講生同士で話し合いながら教師としての資質を向上させることをめざします。テキストの後半は、学校での実践に即した内容が増えます。小中高それぞれでの英語教育について知り、10年間の英語教育の中で学習者を支えることができる教師をめざします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語教育に関するさまざまなトピックについて知り、説明できるようになる。</li> <li>2. これからの英語教育の方向性を理解し、教育実習や教員採用試験への準備に役立てることができる。</li> <li>3. 受講生同士のディスカッションに協力的に参加し、学びの共同体に貢献することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 <関連する授業科目>卒業ゼミナールⅠ			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション／前期の振り返り		卒業ゼミナールⅠの内容を振り返る	
第2回	第8章 学習方略 (理解する)		関連事項について調べる。担当者は次回の発表・討議の準備を行う。	
第3回	第8章 学習方略 (深める)		ミニレポートの作成。第9章の予習。	
第4回	第9章 学習評価のあり方・進め方 (理解する)		関連事項について調べる。担当者は次回の発表・討議の準備を行う。	
第5回	第9章 学習評価のあり方・進め方 (深める)		ミニレポートの作成。第10章の予習。	
第6回	第10章 小学校の指導と評価 (理解する)		関連事項について調べる。担当者は次回の発表・討議の準備を行う。	
第7回	第10章 小学校の指導と評価 (深める)		ミニレポートの作成。第11章の予習。	
第8回	第11章 中学校の指導と評価 (理解する)		関連事項について調べる。担当者は次回の発表・討議の準備を行う。	
第9回	第11章 中学校の指導と評価 (深める)		ミニレポートの作成。第12章の予習。	
第10回	第12章 高等学校の指導と評価 (理解する)		関連事項について調べる。担当者は次回の発表・討議の準備を行う。	
第11回	第12章 高等学校の指導と評価 (深める)		ミニレポートの作成。第13章の予習。	
第12回	第13章 英語教師としての成長 (理解する)		関連事項について調べる。担当者は次回の発表・討議の準備を行う。	
第13回	第13章 英語教師としての成長 (深める)		ミニレポートの作成。第2章の予習。	
第14回	自己課題の点検		これまでに学んだことを踏まえて、自己の課題を点検する。	
第15回	まとめ		学習のまとめをする。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ミニレポート 計48%、最終レポート 12%			
小テスト等	なし			
成果発表	担当章でのディスカッション・リーダー 20%			
受講態度他	積極的な受講及びディスカッション等への貢献 20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○さまざまなトピックに興味をもち、テキスト以外にも積極的に文献を調べて、知識や視野を広げてください。 ○このテキストには、コンパニオン・ウェブサイトがあります。各章に関する資料の他に、便利な文献やサイトも紹介してありますので、有効に活用してください。なお、利用の前に、テキストxi-xiiページの留意事項を必ず読んでください。 <a href="https://www.taishukan.co.jp/item/jissenteki_eigokakyoikuho/">https://www.taishukan.co.jp/item/jissenteki_eigokakyoikuho/</a> ○ミニレポートは次の回でコメントとともに返却するほか、ユニークな視点や興味深い内容などを全員でシェアします。			
教科書	酒井英樹・廣森友人・吉田達弘『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』大修館書店			
指定図書	なし			
参考図書	文献を紹介します			
オフィスアワー	火曜日4時間目 または予約により随時		メールアドレス	

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	T.R. Honkomp		単位	2
授業の目的と概要	<p>The second semester of this seminar is a continuation of the first semester. The seminar will focus primarily on the differences between American and Japanese cultures. Current media use cultural stereotypes of both Japanese and Western cultures to influence and send messages to their audiences. These messages reflect the work ethic, values, reputations, and national images that are prevalent in aspects of both societies.</p> <p>A distinction is made to show that "Shallow Culture" items are easy to observe. They include things like clothing, eating habits, customs and etiquette. By contrast, "Deep Culture" items are more difficult to observe. They include things like values of society, relationships and common sense. Participants are encouraged to relate and discuss their own personal experiences.</p>			
到達目標	<p>The seminar will consider situations presented by TV programs, movies &amp; video, popular music, Internet and other forms of mass communication in both American and Japanese societies. The resulting contrasts will be analyzed and discussed. The seminar will look at the situations of people who have lived in both countries and analyze some of the cultural encounters they have experienced.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  英(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Semester Introduction Second Semester Goals & Expectations Begin Real-Life Cross-Cultural Experience Assignment	Review assignment sheet; prepare presentation schedule		
第2回	Begin In-class Video #1- Culture Characteristics in Business Practices Students begin Real-Life Cross-Cultural Presentations	Handout		
第3回	Student Presentations Continued In-class Video #1 Continued	Reading handout continued		
第4回	Student Presentations Continued Finish In-class video #1	Paper #1 due		
第5回	野球 vs. Baseball Begin selected readings on baseball and Japanese Sports Culture	Read assigned article; review question sheet		
第6回	野球 vs. Baseball Continued Students present findings from article	Reading of article continued		
第7回	Finish 野球 vs. Baseball Wrap up In-class Video #2 and discussion questions	Finish article reading; question sheet answer review		
第8回	Introduction to Cultural Adjustment Assignment	Handout		
第9回	Begin Student Presentations on Cultural Adjustment Assignment	Reading handout continued		
第10回	Student Presentations on Cultural Adjustment Continued	Assignment #2		
第11回	Begin In-class Video #3	Paper #2 due		
第12回	In-class Video #3 Continued Begin Culture Shock Discussion	Readings from Culture Shock in Japan		
第13回	Finish In-class Video #3 Culture Shock Discussion and Analysis	Readings from Culture Shock in Japan		
第14回	Student Presentations & Discussion	Finish Culture Shock in Japan		
第15回	Semester Wrap-up and Exam Review	Exam review sheet		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	35% Class participation and presentations 25% Written assignments and papers			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Evaluation in the Seminar is based on class participation, completion of assignments, attendance and exams. Students are encouraged to make a positive effort and have open communication.			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスワー	Monday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 2nd period (10:50-12:20)	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	D. J. Wood		単位	2
授業の目的と概要	Students will: * develop their command of verbal linguistic patterns * analyze common conceptual features like experience processing and assimilation * learn how to grasp structure and logical development of spoken interaction; and * identify elements common to all communication and the themes which it includes. * use their own photos to ask and answer questions for communication			
到達目標	To present the nature of visual and aural communication for close study in relation to the overall meaning of such * universal topics as the nature of teaching and learning, students: * deepen their ability to comprehend all the levels at which conversations operate to present the same orally. * develop the necessary analytical tools and skills to make insightful conclusions; and * learn and demonstrate the ability to write their questions, impressions and interpretation			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Seminar orientation and interpersonal communication method introduction	Prepare assignment 2		
第2回	Information sharing about recent activities for listening and expression/preparation of photos for interaction	Prepare assignment 3		
第3回	Exchange of personal information, about recent activities for listening and expression	Prepare assignment 4		
第4回	Class report writing	Prepare assignment 5		
第5回	Photo background studies introduction	Prepare assignment 6		
第6回	Initial photo interpretation	Prepare assignment 7		
第7回	Analysis of the detailed content of students' photos	Prepare assignment 8		
第8回	Photo interpretation and interpretation	Prepare assignment 9		
第9回	Analysis of the detailed content of the photos	Prepare assignment 10		
第10回	Photo interpretation of individual photos in groups	Prepare assignment 11		
第11回	Advanced interpretation of students' photos	Prepare assignment 12		
第12回	Analysis of the overall content to identify its themes and expressive forms	Prepare assignment 13		
第13回	Review of the photo's content and meaning	Prepare assignment 14		
第14回	Report orientation	Prepare assignment 15		
第15回	First draft of photo report	Prepare review assignment		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% Class participation and contribution			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	Materials will be distributed			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	崔 淑芬		単 位	2
授業の目的と概要	個別指導のもとで、発表・質疑応答・執筆を通じて、実社会で不可欠なプレゼンテーション能力・問題解決能力を高めることができる。 自らのテーマを見出し、独自の視点から考察を加えて論文を作成する。 前・後期に各2回発表し、それらの質疑応答を踏まえて論文をまとめ、卒業論文を仕上げることを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業ゼミナールを通じて、自己の卒業論文のテーマを設定できる。</li> <li>・データを分析し、資料や情報を収集することができる。</li> <li>・適切な文献資料を整理し、考察を加えることによって、論証を進めることができる。</li> <li>・結論を論理的に導き、卒業論文を作成することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回 ガイダンス：論文の進行、資料を分析し、論証を進める		テーマを絞り、研究課題について後期の計画を作成しよう		
第2回 個別面談、論文作成の指導		論文執筆		
第3回 個別面談、論文作成の指導		論文執筆		
第4回 個別面談、論文作成の指導		論文執筆		
第5回 個別面談、論文作成の指導		論文執筆		
第6回 個別面談、論文作成の指導		中間発表の準備：資料を検討し、レジュメを作成しよう		
第7回 第三回中間発表と質疑応答		論文執筆		
第8回 個別面談、論文作成の指導		論文執筆		
第9回 個別面談、論文作成の指導		論文執筆		
第10回 個別面談、論文作成の指導		論文執筆		
第11回 個別面談、論文作成の指導		論文執筆		
第12回 個別面談、論文作成の指導		論文執筆		
第13回 個別面談、論文作成の指導		論文執筆		
第14回 個別指導、論文の訂正		論文を訂正し、研究成果発表の準備：資料をまとめ、検討し、レジュメを作成		
第15回 第四回研究成果の発表・質疑応答		論文を訂正し、提出しよう		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%中間報告レポート、			
小テスト等	なし			
成果発表	70%：論文、データの分析・論文発表会と質疑応答			
受講態度他	10%情報・意見交換を行い、積極性などを評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	研究情報に基づき意見交換を行い、適切な先行研究や文献資料の収集と検討に、真剣に取り組む。			
教科書	使用しない。			
指定図書	個別に適切な文献資料を指示する。			
参考図書	個別に適切な文献資料を指示する。			
オフィスワー	金曜：4限	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	妻 海善		単位	2
授業の目的と概要	<p>興味があるテーマを選択し、卒業論文としてスムーズに作成し、仕上げて提出できるようになることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期の続きで、文献を読み、内容を深化させるように指導する。</li> <li>2. 完成度を高めて卒論として提出できるよう指導する。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 興味があるテーマを設定し、目次を立てて文章としてまとめるスキルを身に付けることができる。</li> <li>2. 論文の作成方法で学んだスキルを、今後職場での報告書作成に生かすことができる。</li> <li>3. 文献検索方法と能力、発表資料を作る方法、プレゼンテーションやコミュニケーションスキルをアップすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」  ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」  ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」  ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	グループA報告(A4用紙12枚程度)		課題①準備	
第2回	10月6日、時間割外授業(13:30-15時) 韓国語スピーチコンテスト参加		課題①準備	
第3回	時間割外授業:韓国語スピーチコンテスト参加及び参観		感想文提出	
第4回	全員出席(A4用紙15枚程度)		課題②準備	
第5回	全員出席(A4用紙15枚程度)		課題②準備	
第6回	全員集合:ディスカッション		報告準備	
第7回	全員集合:校正指導(A4用紙15枚程度)		論文編集	
第8回	全員集合:校正指導(A4用紙15枚程度)		論文編集	
第9回	全員集合:校正指導(A4用紙15枚程度)		論文編集	
第10回	全員集合:編集指導		論文編集	
第11回	全員集合:編集指導		論文編集	
第12回	全員集合:卒論提出の準備(12月第3週目頃提出予定)		論文提出(提出先:学科会議室):12月20日(金)	
第13回	製本向けの校正及び編集指導		論文編集	
第14回	製本向けの校正及び編集指導		論文編集	
第15回	両面コピー提出		論文の最終バージョン提出	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題30%(3回)、レポート提出10%			
小テスト等	0%			
成果発表	論文の完成度60%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>※連絡事項は筑女ネットで確認ください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①報告日は必ず守ること、締切日を過ぎた課題は減点にする。</li> <li>③欠席は5回を超えないように!(就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要)。</li> <li>④報告日に欠席が予想されるときは、ほかの曜日の報告者とお互いに交渉し、教員に知らせる。</li> </ol>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	訪問日時を相談して決めます		メールアドレス	

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	竹熊 真波		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業は、「卒業ゼミナールⅠ」での学修を踏まえて、日本やアジアの教育についての理解を深めるとともに、本格的な卒業論文の執筆を行うこと通して論理的思考力や問題解決力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>具体的に、本授業では「研究目的と章立て」を学生間で確認することを中心に進めていく。論文執筆の目標は11月末、その後、形式や文章表現のチェックなどの細かい作業を行う。1月はレジュメの作成と報告会・反省会を予定している。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究目的の明確化や論文構成について具体的に実行できる</li> <li>・多くの先行研究に触れ、テーマについての理解を深め、批判的に思考できる</li> <li>・インタビューやフィールドワークなど研究に独創的な手法や視点の導入を試みることができる</li> <li>・著作権などに留意しながら論文として文章化できる</li> <li>・卒業論文作成を通して自身の大学生としての学習の総まとめを行う</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。&lt;関連科目&gt;卒業ゼミナールⅠ、卒業論文</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	卒論執筆計画の確認・レポートの返却	収集した文献の整理と講読		
第2回	卒論構想の発表(卒論テーマと研究目的、章立て、参考文献リスト)	他者の意見を踏まえ、卒論構想を再考する		
第3回	論文の進捗状況の報告と指導①序章、本章前半の執筆	序章、本章を執筆。		
第4回	論文の進捗状況の報告と指導②本章中間部分の執筆	本章を執筆。		
第5回	論文の進捗状況の報告と指導③本章後半の執筆	本章を執筆		
第6回	論文の進捗状況の報告と指導④終章の執筆	終章を執筆		
第7回	卒論中間発表会	書き上げた本章部分をもとに研究目的を再考する		
第8回	論文の進捗状況の報告と指導⑤序章・本章前半の修正	自身の論文を批判的に読み返し、修正を加える		
第9回	論文の進捗状況の報告と指導⑥本章後半・終章の修正	自身の論文を批判的に読み返し、修正を加える		
第10回	卒論の完成とゼミ教員への提出	論文の形式通りとなっているか、最終確認を行う		
第11回	卒論の修正・文献リストの整理	誤字脱字などがいないか、最終確認を行う		
第12回	卒論の印刷、提出	卒論レジュメの作成		
第13回	卒論レジュメの提出と指導	卒論レジュメの修正と発表準備		
第14回	卒論発表会	論文の輪読・相互評価		
第15回	卒業ゼミナール全体のまとめ	これまでの学修を振り返る		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 卒論レジュメ(卒業論文の内容については別途卒業論文において評価する) レジュメ集を作成、配布する			
小テスト等	なし			
成果発表	40% 卒論構想発表、卒論中間発表会等での発表			
受講態度他	40% 卒論執筆への取り組みの状況を中心として評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>後期が始まって、卒業論文を提出するまであつという間です。先行文献は、インターネット情報だけでなく、書籍も大いに活用してください。また、可能な限り第1次資料にあたるのが肝要です。そのためにも夏休みのうちにたくさんの本に目を通しておい</p> <p>てください。</p> <p>なお、前期に引き続き就活などで授業に出席できない場合は、必ず事前に連絡を入れ、補講を受けてください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	個別に指導する			
オフィスワー	水曜4限、金曜3限	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	<p>卒業論文の製作に取り組むためのゼミナールです。  具体的には、A. 東南アジアに関する事、またはB. 日本を含むアジアの政治や社会などに関する事、のいずれかについて自分自身でテーマを設定し、資料を収集、分析し、議論を組み立てて卒業論文を製作することが、卒業ゼミナールⅠと併せて、このゼミナールの目的になります。卒業論文を提出しない場合は、それに代わるものとして、卒業レポートを作成することになります。</p> <p>いずれにせよ、議論を組み立てて文章にまとめていきます。  個別指導が中心になりますが、お互いに刺激しあうために報告の時間を重ねることがあります。  最終発表での質疑応答も同様の趣旨から重視します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期の成果を発展させ、適切な資料をみつけその分析を行い、テーマに関する理解を深めることができる。</li> <li>2. 調べたことに基づき、その課題を見つけ論理的に議論を組み立て最終発表ができる。</li> <li>3. 最終発表を踏まえ、卒業論文を書き上げることができる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目など	<p>ア (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」  ア (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」  ア (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」  ア (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  「卒業ゼミナールⅡ」とともに卒業論文の作成を目指します。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回 オリエンテーション 演習の目的と進め方 「発表」		各人の最終発表・卒論執筆に向けた資料の情報収集分析		
第2回 進捗状況の報告1 「発表」		各人の最終発表・卒論執筆に向けた資料の情報収集分析		
第3回 最終発表に向けての確認、進捗状況の報告 「発表」		各人の最終発表・卒論執筆に向けた資料の情報収集分析		
第4回 最終発表のためのレジユメの草案作成 「発表」		各人の最終発表・卒論執筆に向けた議論組立準備		
第5回 最終発表のためのレジユメの草案作成、個別指導1 「発表」		各人の最終発表・卒論執筆に向けた資料の情報収集分析		
第6回 最終発表のためのレジユメの草案作成、個別指導2 「発表」		各人の最終発表・卒論執筆に向けた資料の情報収集分析		
第7回 最終発表、発表と質疑応答1 「発表」		卒論執筆準備		
第8回 最終発表、発表と質疑応答2 「発表」		卒論執筆準備		
第9回 論文の書き方に関する最終確認		卒論執筆		
第10回 論文の文章化作業、個別指導1		卒論執筆		
第11回 論文の文章化作業、個別指導2		卒論執筆		
第12回 論文の文章化作業、個別指導3		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第13回 論文の文章化作業、個別指導4		卒論執筆		
第14回 論文未提出者のレポート作成作業1		レポート執筆、卒論発表準備		
第15回 卒論発表 「発表」		卒論発表準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	40% 卒業論文または期末レポート			
小テスト等	0% なし			
成果発表	30% 最終発表			
受講態度他	30% 各回の報告、他の受講生の発表に対するコメント			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>基本的に結果を求めます。  卒業論文あるいは期末レポートが十分なレベルに達するよう努めてください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	火14:50~16:20、金12:30~13:00	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	小林 知美		単 位	2
授業の目的と概要	<p>各自の研究テーマに従って資料を収集し、検討を加え、卒業論文の完成にいたることを目的とします。指導は個人形式とし、毎回の研究状況報告において、資料の検討方法を吟味し、論文完成へと進んでいきます。学期中に後期報告会、論文提出後に最終発表会を行い、自分の考えを文章のみでなくプレゼンテーションをととして他者へ伝えることができるようになることを目指します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の問題意識に従って研究テーマを設定し、そのテーマにそって資料を収集し、論理的に考察し、その結果を論文形式に則って表現する。</li> <li>・自分の考えを、AV機材や資料を用いて他者に的確に説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」  ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」  ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」  ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 個人指導1：進行状況報告			研究テーマに関する収集資料	
第2回 個人指導2：収集資料報告			資料検討と論文執筆	
第3回 個人指導3：収集資料の検討			資料検討と論文執筆	
第4回 個人指導4：収集資料の分析結果報告			資料検討と論文執筆	
第5回 個人指導5：目次検討			後期報告会の準備	
第6回 後期報告会 ※日時調整、全員参加			資料検討と論文執筆	
第7回 個人指導6：内容の再検討			資料検討と論文執筆	
第8回 個人指導7：目次完成			資料検討と論文執筆	
第9回 個人指導8：内容完成			資料検討と論文執筆	
第10回 個人指導10：形式調整			資料検討と論文執筆	
第11回 個人指導11：論文完成			資料検討と論文執筆	
第12回 論文提出12：論文提出			口頭発表会の準備	
第13回 最終発表会 ※第13回～第15回合同、次年度のゼミ生を含めての公開形式。参加必須。			冊子編集	
第14回 最終発表会 ※第13回～第15回合同、次年度のゼミ生を含めての公開形式。参加必須。			冊子編集	
第15回 冊子編集			冊子編集	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	-			
成果発表	50%			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論完成だけでなく、口頭発表会と卒論冊子編集への参加も義務とします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	羅 義圭		単 位	2
授業の目的と概要	卒業論文の制作に取り組むためのゼミナールです。 具体的には、A. 言語多文化主義に関すること、B. 日本と韓国の歴史・文化・社会に関すること。いずれかについて、自分自身のテーマを設定し、資料を収集し、分析し、そこから独自の視点をもって論文を作成する。 前・後期に各2回発表し、それらの質疑応答を踏まえて論文をまとめ、卒業論文を仕上げることを目的とする。			
到達目標	①テーマ設定に際し、先行研究やそのほかの資料を収集・検討し、争点把握と論述方針を固める。 ②適切な文献資料を整理し、考察を加えることによって、論証を進めることができる。 ③調べたことに、議論を組み立て中間発表ができる。 ④「①・②・③」の作業をまとめ、中間報告で報告。演習Ⅱにおける検討課題を設定する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス：卒論制作の作業確認	文献・資料の検討		
第2回	個別面談、論文作成の指導	筑女ネットを活用し、論文作成について指導を行なう。		
第3回	個別面談、論文作成の指導	論文内容についてディスカッションを行なう。		
第4回	個別面談、論文作成の指導	論文執筆		
第5回	個別面談、論文作成の指導	プレゼンテーション① 資料を検討し、レジュメを作成しよう		
第6回	個別面談、論文作成の指導	プレゼンテーション② パワーポイント作成		
第7回	第3回中間発表と質疑応答(プレゼンテーション③ 発表)	論文執筆		
第8回	個別面談、論文作成の指導	論文執筆		
第9回	個別面談、論文作成の指導	論文について発表とディスカッションを行なう。		
第10回	個別面談、論文作成の指導	論文執筆		
第11回	個別面談、論文作成の指導	論文執筆		
第12回	個別面談、論文作成の指導	論文執筆		
第13回	個別面談、論文作成の指導	論文執筆		
第14回	個別面談、論文の訂正	論文を訂正し、研究成果発表の準備		
第15回	研究成果の発表・質疑応答	論文を訂正し、提出しよう		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 中間報告レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 論文、データの分析・論文発表会と質疑応答			
受講態度他	20% 情報・意見交換を行い、積極性などを評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①テーマ設定にあたり、資料収集と検討作業において自発的に行なう。 ②研究成果の発表において、十分なレベルに達するよう努めること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日・木曜日 昼休み後	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	石 其琳		単 位	2
授業の目的と概要	<p>自分で研究テーマを決め、自主性を持って研究資料の収集整理が出来ることを目的とする。  本授業は、ゼミ生全員に対して個別指導を行う。前期は主にテーマを決め、その研究テーマについて、資料を収集し整理しながら、数回の中間発表を通して、研究基盤のもとになる内容をまとめる。</p>			
到達目標	<p>自分の研究対象に対して積極的に資料の収集整理を行い、自分自身の思考表現によって、この研究成果を論文に作成することを目標とする。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」  ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」  ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」  ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション（論文作成の注意点について説明する）	研究テーマを選定		
第2回	各自で研究計画を発表し、質疑問答を行う	レジュメを提出		
第3回	個別に研究内容を再検討し、最終的研究テーマを選定する。	各自研究資料収集整理		
第4回	各自で研究テーマの構想発表を行う	レジュメを提出		
第5回	各自の研究作業を始めて、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第6回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第7回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第8回	全員による中間発表及び討論。	レジュメを提出		
第9回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第10回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第11回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第12回	全員による中間発表及び討論	レジュメを提出		
第13回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第14回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第15回	各自前期の総まとめとして発表を行う。	各自の研究資料まとめ		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%（レジュメによる発表）			
小テスト等	なし			
成果発表	50%（前期の総まとめレポート）			
受講態度他	0%（受講態度として、質問や発表による授業への積極性を参考にする。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に指導する際、決められた課題に対して必ず積極的に取り込むこと。</li> <li>・個別指導のため、研究作業の進行状況などについてこまめに報告すること。</li> </ul>			
教科書	個別指導のため、個別に指示をする。			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	火、水、木、金	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	徐 涛		単 位	2
授業の目的と概要	卒業ゼミナールⅠでの学修を踏まえ、論文形式にのっとり、卒業論文を仕上げることを目的とする。中心作業は、①資料文献の収集・分析、②卒論の論点と枠組み（研究方法など）の改善、③卒論の執筆（文章化）、という三点になる。履修者はこの三点を中心に卒論執筆を進め、教員はその進捗状況を確認し、改善するための指導を行う。個別指導とともに、卒論構想の発表や卒論中間発表会、卒論発表会を通じて、履修者の論理的思考力や問題解決力、コミュニケーション力を向上させ、卒論のレベルを高める。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業論文のテーマについて、独自の視点から資料文献を整理し考察を加え、議論を論理的に組み立てることができる。</li> <li>2. インタビューやフィールドワークなどの研究手法の導入を試みることができる。</li> <li>3. 形式や著作権に留意しながら、卒業論文を作成することができる。</li> <li>4. 卒業論文の執筆を通して、論理的思考力や批判的思考力、問題解決力を向上させることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</li> <li>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</li> <li>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</li> <li>(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 卒論執筆計画の確認		文献の整理、卒論構想の修正		
第2回 卒論構想の発表（卒論テーマと研究目的、章立て、参考文献リスト）		他者の意見を踏まえ、卒論構想を改善する		
第3回 個人指導：資料の検討・進行状況の報告など		資料検討と論文執筆		
第4回 個人指導：資料の検討・進行状況の報告など		資料検討と論文執筆		
第5回 個人指導：資料の検討・進行状況の報告など		資料検討と論文執筆		
第6回 個人指導：資料の検討・進行状況の報告など		中間発表の準備（レジュメやPPT資料の作成）		
第7回 卒論中間発表会		論文執筆		
第8回 個人指導：内容の検討を経て卒論完成に至る		資料検討と論文執筆		
第9回 個人指導：内容の検討を経て卒論完成に至る		資料検討と論文執筆		
第10回 個人指導：内容の検討を経て卒論完成に至る		卒論の修正		
第11回 個人指導：卒論の修正		卒論の最終確認（誤字脱字や形式）		
第12回 個人指導：卒論の修正		卒論の最終確認（誤字脱字や形式）		
第13回 卒論の完成とゼミ教員への提出		発表の準備（レジュメやPPT資料の作成）		
第14回 卒論発表会		論文の輪読・相互評価		
第15回 卒論発表会		論文の輪読・相互評価		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60％ 卒論構想発表や卒論中間発表会、卒論発表会等での発表と質疑応答；データの分析と論文の内容			
受講態度他	40％ 卒論執筆への取り組みの状況を中心に評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 卒論執筆に主体的に取り組み、執筆スケジュールをしっかりと管理すること。</li> <li>② 発表会では積極的に自分の意見を述べること。</li> <li>③ 履修者と相談したうえで、個人指導と発表会の回数を調整することがある。</li> <li>④ 報告日に欠席が予想されるときは、ほかの曜日の報告者とお互いに交渉し、教員に知らせる。</li> </ol>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	個別に指導する			
オフィスアワー	火曜日 2限目	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	喜多村 百合		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本演習は、前期に引き続き、学科の学びの集大成である卒業論文を制作するための研究的位置づけを持つ。演習Ⅱでは、前期で収集検討した議論をさらに精緻化し、最終報告を経て論文として完成させるのが目的である。</p> <p>すべて個人指導で実施する。前半は論述を総括化する作業を、後半では執筆作業を指導する。11月中旬に最終報告を行い、卒論完成につなげる。</p>			
到達目標	<p>①資料収集・検討作業を通し、前期の議論をさらに深化・精緻化させ、最終報告にまとめる。  ②上を踏まえて論述の修正をし、卒論を完成させる。  ③他のメンバーの研究に対し、積極的に批評ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」  ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」  ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」  ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 導入：卒論制作の作業確認			文献・資料の検討	
第2回 個別指導			文献・資料の検討	
第3回 個別指導			文献・資料の検討	
第4回 個別指導			論文制作	
第5回 個別指導			論文制作	
第6回 個別指導			レジュメ作成	
第7回 経過報告			論文制作	
第8回 個別指導			論文制作	
第9回 個別指導			論文制作	
第10回 個別指導			論文制作	
第11回 個別指導			論文制作	
第12回 個別指導			論文制作	
第13回 個別指導			レジュメ作成	
第14回 最終報告			レジュメ作成	
第15回 最終報告・ディスカッション・課題指示			卒論完成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	卒業論文/研究レポート			
小テスト等	-			
成果発表	70%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	前期に引き続き、テーマをめぐる議論をさらに発展、深化させ、卒業論文として結実させることに最善を尽くしてください。同様に、他のメンバーの研究についても継続的にコメントし、問題提起ができるよう期待します。			
教科書	適宜プリントを配布			
指定図書	個別に指示			
参考図書	個別に指示			
オフィスワー	月3、木4	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	山崎(安)・高木(佳)・川崎(孝)・大西(良)・納戸(美)・栗田(紀)		単 位	2
授業の目的と概要	<p>社会福祉を学ぶ過程で、学生自らが明確化したテーマを自覚的に追求し、論理的思考力、さらには問題解決力を身につけることを目的とする。ソーシャルワーカーとしてはいうまでもなく、将来ひとりの職業人となるにあたって、ある状況に対する自分の考え方や態度を確立することは非常に重要だからである。</p> <p>卒業ゼミナールは、社会福祉を学ぶ過程で、学生自らが明確化したテーマを自覚的に追求し、論理的思考力や問題解決力を身につけることを支援する科目で、大学生活を通じた集大成としての意味を持つ。具体的には、各専任教員がそれぞれの専門性を背景とした少人数ゼミを分担し、学生は自らのテーマに応じていずれかのゼミに所属する。学生各自が自らのテーマを設定でき、それにそった資料や文献の収集、報告・討論といったことが主たる内容となる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら取り組む研究テーマが設定できる。</li> <li>2. 研究の視点を理解し、研究方法を身につけることができる。</li> <li>3. 1・2の成果として「卒業研究」が作成できる。</li> <li>4. 「卒業研究」を発表したり、それについて討議する能力が習得できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心(3)-②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>心(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	卒業研究発表および討論		発表と討論	
第2回	卒業研究発表および討論		発表と討論	
第3回	卒業研究発表および討論		発表と討論	
第4回	卒業研究発表および討論		発表と討論	
第5回	卒業研究発表および討論		発表と討論	
第6回	卒業研究発表および討論		発表と討論	
第7回	卒業研究または卒業論文の執筆(文章)指導		執筆と個別・集団指導	
第8回	卒業研究または卒業論文の執筆(文章)指導		執筆と個別・集団指導	
第9回	卒業研究または卒業論文の執筆(文章)指導		執筆と個別・集団指導	
第10回	卒業研究または卒業論文の執筆(文章)指導		執筆と個別・集団指導	
第11回	卒業研究または卒業論文の執筆(文章)指導		執筆と個別・集団指導	
第12回	卒業研究または卒業論文の執筆(文章)指導		執筆と個別・集団指導	
第13回	卒業研究または卒業論文の執筆(文章)指導		執筆と個別・集団指導	
第14回	卒業研究または卒業論文の研究成果確認		卒業研究または卒業論文の総括	
第15回	卒業研究または卒業論文の研究成果確認		卒業研究または卒業論文の総括	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 発表資料(レジュメ)、卒業研究・卒業論文を中心に評価する			
小テスト等	なし			
成果発表	25% 研究発表の内容・水準			
受講態度他	25% 出席状況 + 討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新4年生対象のオリエンテーション時に卒業研究・卒業論文についての説明を行うので、必ず参加すること。</li> <li>2. 毎回の授業の出席及び積極的な発言と参加態度が重要となる。</li> </ol>			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	各教員による			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	人間形成教員		単 位	2
授業の目的と概要	卒業ゼミナールⅠで設定した各自の研究課題にそって調査・研究をすすめ、卒業論文・研究を完成させます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミメンバーと議論を通じ、自らの課題意識を明確にし、課題の克服に向けて研究を行うことができる。</li> <li>・文献調査やフィールドワークを通じた調査を行うことができる</li> <li>・自らの研究成果を論文、もしくは報告書の形式でまとめることができる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			研究の目的・意義の確認。前期および夏休み中の調査・研究成果の確認	
第2回 補足調査の検討			文献調査や野外調査で収集したデータが十分かどうか確認しておくこと。	
第3回 補足調査の実施1：調査計画の確認			未収集データ・追加データの収集計画を立てておくこと。	
第4回 補足調査の実施2：追加データの確認			収集したデータを整理しておくこと。	
第5回 卒業研究の執筆1：構成の報告			卒業研究の構成案を用意しておくこと	
第6回 卒業研究の執筆2：データ分析			収集したデータの集計や仮分析を済ませておくこと。	
第7回 卒業研究の執筆3：報告書構成とデータの照合			構成案と整理済みデータに齟齬がないか確認しておくこと。	
第8回 卒業研究の執筆4：序章			卒業研究の該当箇所の原稿を用意してくること。	
第9回 卒業研究の執筆5：先行研究のレビュー			卒業研究の該当箇所の原稿を用意してくること。	
第10回 卒業研究の執筆6：データの分析			卒業研究の該当箇所の原稿を用意してくること。	
第11回 卒業研究の執筆7：データからの推論			卒業研究の該当箇所の原稿を用意してくること。	
第12回 卒業研究の執筆8：論旨の再検討			ここまでの原稿の論理に齟齬がないか確認しておくこと。	
第13回 卒業研究の執筆9：結論			結論部分を執筆し、全体の見直しをおこなっておくこと。	
第14回 卒業研究の執筆10：最終校正			文献リストや添付資料も含めた構成作業をおこなっておくこと。	
第15回 卒業研究の提出			完成した卒業研究を提出できる状態にしておくこと。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	80％ 各回の報告を成果発表とみなします。			
受講態度他	20％ 質疑応答への積極的関与			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は必須です。自分の担当については責任をもって取り組んでください。</li> <li>・共同作業が多くなります。作業分担や報告の順番など、受講者同士でマメに連絡・相談・報告しあい、有意義な学びの場にしましょう。</li> <li>・調査・研究は思い通りに進まないのが当たり前です。あせらず、地道に作業を積み重ねましょう。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します			
オフィスアワー	火曜 昼休み	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	上村 真仁		単位	4
授業の目的と概要	地域づくりについて学ぶこと、特に地域固有の資源である自然や伝統文化、暮らしを継承する視点からの研究・地域での実践を行うことで、地域課題に主体的に関わり、その解決策を構想する力を養うことを目的とします。3年生の専門ゼミナールⅠ、Ⅱとの協働での開催とします。前年度の専門ゼミナールⅡで企画・立案した研究計画・実践計画に基づき、調査（あるいは地域での実践活動）を進め、最終的には、卒業研究（あるいは実践報告）としてまとめます。※調査（あるいは地域での実践活動）とは、調査は卒業研究を、実践活動は、特定のフィールドでのまちづくりプロセスの企画・実施に参加し報告書を作成することを指す。			
到達目標	地域課題を発見しその解決策について研究あるいは、実践的な立場から地域の実情を踏まえた分析、提案を構想できるようになる 地域のステークホルダーとの良好なコミュニケーションを通じて、研究、実践を進めることができる 自らの研究、実践の成果を論文、もしくは研究、報告書としてまとめることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 ＜授業外学修＞1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「現代社会と地域」「地域環境論」「地域デザイン」「エコソリズム論」「NPO論」とあわせて受講するとより理解が深まります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	夏期における卒業研究・実践等の進捗報告	夏期活動成果の取りまとめ		
第2回	卒業研究・実践テーマの見直し	夏期成果をもとに見直し、深化		
第3回	環境コース合同 卒業研究等発表会 討議	研究・実践の実施と発表資料の作成		
第4回	卒業研究・実践のための情報収集と分析 その1 研究・実践の中間発表、討議	情報収集、レジュメ作成		
第5回	卒業研究・実践のための情報収集と分析 その2 研究・実践の中間発表、討議	情報収集、レジュメ作成		
第6回	卒業研究・実践のためのフィールドワーク 計画の作成	補足調査の計画を検討する		
第7回	卒業研究・実践のためのフィールドワーク（現地調査）	対象フィールドでの情報収集と調査（ヒアリング、調査結果の取りまとめ）		
第8回	研究・実践の取りまとめ方針の発表、討議	発表資料の作成		
第9回	卒業研究・実践の報告書取りまとめ（背景、目的、位置付け、方法）	報告書執筆作業		
第10回	卒業研究・実践の報告書取りまとめ（本論、調査データ、実践内容）	報告書執筆作業		
第11回	卒業研究・実践の報告書取りまとめ（結論・まとめ）	報告書執筆作業		
第12回	卒業研究・実践の報告書取りまとめ（素案提出）	報告書作成		
第13回	関係者へのフィードバック資料作成	報告書修正		
第14回	関係者へのフィードバック	発表資料の作成		
第15回	まとめ 卒業研究・実践報告会	大学4年間の振り返り		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%（卒業研究・実践報告書）			
小テスト等	なし			
成果発表	20%（中間、最終発表会）			
受講態度他	20%（ゼミ運営への積極的参加など）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	参加者の主体的な事例調査及びフィールドワークにより進めます。フィールドワークなどで正規の時間外（週末や夏休み）にも活動を行います。また、研究・実践のテーマによっては、シラバスの予定変更や交通費などの負担が発生することもあります。授業の一部を小鳥居小路の町家で実施します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業時に指示します。			
オフィスアワー	月曜日3限、4限、水曜日3限、4限	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	酒井(均)・浅田(淳)・大鷲(香)・榊(祐)・森田(理)・宇治(和)・針塚(進)		単 位	2
授業の目的と概要	卒業ゼミナールⅠにおいて設定した研究テーマに基づいた計画の具体化を行なう。目的や問題に対する結果を分析し、考察としてまとめ、卒業研究として執筆を目指す。  研究計画に沿って、先行研究の講読、問題点の整理、データ収集、結果の分析や考察を進める。心理学論文の読み方や執筆のルールなどについても十分理解し、引用の仕方、論理的文章作成を実践できるようにする。			
到達目標	①研究計画に基づいて、先行研究やデータの収集、分析を行なうことが出来る ②先行研究を検索、収集し、問題点や課題を明確化できる ③先行研究を踏まえた上で、研究計画にそって目的、方法、結果、考察を文章で表現することが出来る ④③の実践を通して、心理学において特化した問題を、客観的視点から分析し、論理的に解決することが出来る			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 ..... ..... <授業外学修>授業外学修は1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	論文の形式について：論文の形式や執筆の再確認	論文の形式と書き方について復習		
第2回	研究計画の再検討：前期に作成した計画の見直しと修正	宿題		
第3回	文献収集：先行研究における問題点の検討	宿題		
第4回	卒業研究の構成 発表①：研究テーマに沿った卒業論文・研究の目次（構成）を作成	課題：目次（構成）を作成、文献を読み進める		
第5回	卒業研究の構成 発表②：研究テーマに沿った卒業論文・研究の目次（構成）を作成	課題：目次（構成）を作成、文献を読み進める		
第6回	卒業研究の構成 発表③：研究テーマに沿った卒業論文・研究の目次（構成）を作成	課題：目次（構成）を作成、文献を読み進める		
第7回	データ収集①：計画に基づいたデータの収集、分析方法	課題：データの収集と分析		
第8回	データ収集②：データ分析、考察の方向性決定	課題：データの収集と分析		
第9回	発表・討論1-1：執筆要項に沿っているか形式等確認作業	課題：執筆		
第10回	発表・討論1-2：執筆要項に沿っているか形式等確認作業	課題：執筆		
第11回	発表・討論2-1：研究計画と執筆内容の整合性確認作業	課題：発表資料の作成、執筆		
第12回	発表・討論2-2：研究計画と執筆内容の整合性確認作業	課題：発表資料の作成、執筆		
第13回	発表・討論2-3：研究計画と執筆内容の整合性確認作業	課題：発表資料の作成、執筆		
第14回	卒研発表会	課題：発表会の資料の準備、抄録原稿の準備		
第15回	全体のまとめと総括	抄録の最終確認		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 研究計画、先行研究についての論文、あるいはレポート			
小テスト等	なし			
成果発表	40% 研究計画、先行研究についての中間発表、最終発表を含む			
受講態度他	20% 発表に対する質疑応答			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし			
教科書	指定なし			
指定図書	指定なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	浅田：火を除く昼休、酒井：火昼休、洪田：月4、大鷲：月2、榊：火2、森田：火2、宇治：火水昼休、針塚水2	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	山田 直子		単 位	2
授業の目的と概要	卒業ゼミナールⅠに続き、このゼミでは、社会の中で現れる文化の衝突や共存のありようについて配布資料を参考にしながら、活発に議論を行います。前期に各自が設定したテーマについて、さらに理解や考察を深めるため、必要となるデータを収集し検討します。最終的には自らの考察を研究成果としてまとめ、レポート及び口頭で発表します。この過程を通して、社会の様々な場面で表出する多文化関係のダイナミズムや課題を理解すると共に、コミュニケーション能力、論理的思考、表現力、自己管理能力を養うことを目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多文化関係に関連する研究テーマを模索し、問を立てることができる。</li> <li>2. 文献資料の内容について議論することができる。</li> <li>3. 研究テーマについて文献やデータをもとに探究し、自らの考察を発表することができる。</li> <li>4. 研究の成果をレポートにまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(英 (2) -⑤)人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション・前期の振り返り・研究の進め方	自らの研究計画に従い研究を進める。ゼミ生のレポートを熟読する。		
第2回	研究レポートのピアレビュー (1)	自らの研究計画に従い研究を進める。ゼミ生のレポートを熟読する。		
第3回	研究レポートのピアレビュー (2)	自らの研究計画に従い研究を進める。ゼミ生のレポートを熟読する。		
第4回	研究レポートのピアレビュー (3)	自らの研究計画に従い研究を進める。ゼミ生のレポートを熟読する。		
第5回	研究レポートのピアレビュー (4)	文献紹介のレジュメ作成		
第6回	文献紹介 (1)	文献紹介のレジュメ作成		
第7回	文献紹介 (2)	文献紹介のレジュメ作成		
第8回	文献紹介 (3)	文献紹介のレジュメ作成		
第9回	文献紹介 (4)	文献紹介のレジュメ作成		
第10回	文献紹介 (5)	発表準備とレポートの作成		
第11回	学生による研究発表 (1) ・ディスカッション	発表準備とレポートの作成		
第12回	学生による研究発表 (2) ・ディスカッション	発表準備とレポートの執筆		
第13回	学生による研究発表 (3) ・ディスカッション	発表準備とレポートの執筆		
第14回	学生による研究発表 (4) ・ディスカッション	発表準備とレポートの執筆		
第15回	卒業論文執筆者による研究発表・ディスカッション	研究レポート冊子の編集		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 研究レポート (研究発表を含む)			
小テスト等	なし			
成果発表	20%ピアレビュー・文献紹介			
受講態度他	20% 主体的に課題に取り組んでいるか、積極的にゼミに参加しているかを考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	築女ネット (Teams)に授業の進捗、最新情報を掲載しますので、頻りにチェックしてください。学習への取組姿勢を重視します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、紹介します。			
オフィスアワー	適宜、メールによる相談、あるいは日程調整の上、個別面談が可能です。	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	栗山 俊之		単 位	4
授業の目的と概要	本ゼミでは、本学が取り組んできた東日本大震災ボランティア研修を総括する冊子を作成していく。そのための、現地取材を行う。			
到達目標	現（4）－①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探求力」 <授業外学修> 1回の授業につき360分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	1、東日本大震災の全体像について理解する 2、東日本大震災に関する様々な文章・映像に触れ、整理する 3、被災者の思いを取材し、纏める 4、被災地の変遷を纏める 5、1～4を整理し、冊子を作成していく			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 現地研修①			被災者の思いを取材する	
第2回 現地研修②			被災者の思いを取材する	
第3回 現地研修③			被災者の思いを取材する	
第4回 現地研修④			被災者の思いを取材する	
第5回 現地研修⑤			被災者の思いを取材する	
第6回 現地研修⑥			被災地の変遷を纏める	
第7回 現地研修⑦			被災地の変遷を纏める	
第8回 現地研修の整理①			現地研修を整理し、纏める	
第9回 現地研修の整理②			現地研修を整理し、纏める	
第10回 現地研修取材編集①			現地研修で得た情報を整理する	
第11回 現地研修取材編集②			現地研修で得た情報を整理する	
第12回 現地研修取材編集③			整理した情報を編集する	
第13回 冊子化作業①			冊子の編集と校正	
第14回 冊子化作業②			冊子の編集と校正	
第15回 冊子化作業③			冊子の編集と校正	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	60％ 編集した成果を評価			
受講態度他	40％ ゼミ活動に取り組む姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	これまで東日本大震災ボランティア研修に関わってくださった方々の負託に応える冊子を作っていきます。思いを共にしてください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	水4、金3	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	三日月 雅子		単 位	4
授業の目的と概要	卒業論文では、卒業ゼミナールⅠ・Ⅱで行う研究を更に深め、その研究成果を論文にまとめます。前期は卒業ゼミナールと別に時間をとり、全体指導を数回行います。研究の方法・手順を学ぶとともに、テーマを絞り込み研究の下準備を行います。後期は個別指導です。各自アポイントメントを取り、途中経過に関して指導教員から助言・指示を得て、作成作業を進めていきます。内容への指導を受ける前に、卒論のスタイル・スペリング等を確認し適切なものしておくことが望まれます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 航空関連の英語に関するテーマを一つ設定し、卒業論文を書くことができるようになること。</li> <li>2. テーマに関することを、図書やインターネットを使い情報を収集すること。</li> <li>3. 収集した資料や情報を適確に分類し、活用すること。</li> <li>4. 資料や情報をもとに、オリジナルな論考または視点を入れて論文としてまとめること。</li> <li>5. 卒業論文の内容に関して、適切に説明することができるようになること。</li> <li>6. 特定分野の知識・技能を説明することができるようになること。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1-2回	テーマ決定までのスケジュールと手順	テーマを決めるための情報収集		
第 3-4回	テーマの設定	図書館およびWeb上で関連文献を収集		
第 5-6回	アウトラインの作成	資料等をもとにアウトラインを作成する		
第7-8回	文献収集および文献リスト# 1の作成	収集済み、および未収集文献のリストを作成する		
第 9-10回	修正プロポーザルの作成および提出	収集した資料を基に修正プロポーザルを作成する		
第11-12回	文献リスト# 2作成および提出	文献を継続収集しながら、同時に文献を精読していく		
第13-14回	ドラフトの書き方	ドラフトを書き始める。夏休みの計画を立てる		
第15回	夏休み計画の作成/ 文献リスト# 3 提出	夏休み: ドラフトは半分程度まで書く		
第16-17回	ドラフト(2分の1)提出および面談	研究の方向性と全体像の確認を行う		
第18-19回	内容指導	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第20-21回	ドラフト(3分の2)提出および面談	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第22-23回	内容指導	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第24-25回	ドラフト(全部)提出および面談	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第26-27回	最終分量に到達したドラフトの提出・面談	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第28-30回	最終確認 / 卒業論文提出	指導を踏まえ、ドラフトの最終確認を行い提出する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 途中定期的に、卒論のドラフト提出が課せられる			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 卒業論文(学生便覧の規定に従うこと)			
受講態度他	30% 卒論指導の受講状況、経過報告、口頭発表、ハンドアウト、卒論取組み度等を考慮し判断する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論提出の期日を厳守すること。期限を守れなかった場合は不合格とする。卒論はその作成過程も重視される。そのため、授業計画に明記されたことを実行できない場合は評価に大きく影響する。			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	水・木・金曜日：昼休み&4限目以降	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	C. Provenzano		単位	4
授業の目的と概要	Students choose a topic of academic interest to research and investigate. They present their findings and analysis in the form of a thesis written in English.			
到達目標	Students gain a deep knowledge of their topic and related issues, develop their abilities to analyze and express findings. In the process, they will develop and refine their academic writing skills in English.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1-2回 Investigating themes			Gathering information to help choose a theme	
第3-4回 Reviewing literature			Reviewing related literature: Library/Internet	
第4-5回 Proposal			Based on discussion and literature review, create proposal	
第6-7回 Annotated bibliography			Prepare annotated list of proposed sources	
第8-9回 Outline			Prepare detailed outline	
第10-11回 First draft			Prepare first draft	
第12-13回 First draft, continued			Continue preparation of first draft	
第14-15回 Revise outline based on progress made on first draft			Revise outline and develop action plan for summer vacation	
第16-17回 First draft/ post-summer vacation consultation			Confer about first draft	
第18-19回 Revision, preparation of Draft 2			Revision of first draft	
第20-21回 Revision, preparation of Draft 2			Continued revision of first draft	
第22-23回 Revision, preparation of Draft 2			Continued revision of first draft	
第24-25回 Progress conference			Discussion about revision	
第26-27回 Final progress conference			Discussion about final revisions	
第28-29回 Preparation and submission of final draft			Prepare and submit final draft	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	30% Timely submission of required assignments (proposal, outline, annotated bibliography, drafts)			
小テスト等	-			
成果発表	50% Graduation thesis (based on guidelines in the student handbook)			
受講態度他	20% Participation (attendance at consultation, participation/effort, etc.)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Papers must be written in English. Copy/pasting from other sources (plagiarism) and use of online translation will result in a grade of 0%. Students must meet submission deadlines for each stage of the writing process.			
教科書	-			
指定図書	-			
参考図書	Various reference materials will be introduced as necessary			
オフィスワー	To be announced	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	人間形成教員		単位	4
授業の目的と概要	4年次科目「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」を通して取り組む各自の研究課題について探究し、卒業論文としてまとめることを目的とする。また、論文制作の過程や論文発表等を通して、目的にあったデータ収集方法及びその適切な分析・吟味、問題を発見する力や論理的思考能力、文章構成能力等を獲得することを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題の設定、調査方法の選択及び実施、結論やその吟味、研究成果の発表など、問題解決的な手法で研究に臨むことができる。</li> <li>2 課題設定の理由（必要性・研究する価値）を明確にもち説明することができる。</li> <li>3 課題について、客観的な事実を踏まえながら立論することができる。</li> <li>4 研究の成果を卒業論文としてまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼（3）-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第2回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第3回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第4回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第5回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第6回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第7回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第8回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第9回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第10回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第11回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第12回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第13回	卒業論文発表に向けた発表資料等の作成	発表資料の作成及び口述試問の準備		
第14回	卒業論文発表会（専攻全体で実施）	発表及び口述試問の準備と発表後の振り返り		
第15回	卒業論文発表会（専攻全体で実施）	発表及び口述試問の準備と発表後の振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	80％（卒業論文の内容及び口述試問）			
受講態度他	20％（卒業論文作成へ向けての取り組み方等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文の様式や提出期限を遵守できるよう研究を進めること。 卒業研究・卒業論文の関する規定は、別途指示する。			
教科書	特に指示しない。			
指定図書	特に指示しない。			
参考図書	『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房（購入済：1年次「基礎ゼミナール」で使用した教科書）			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	須藤 圭		単 位	4
授業の目的と概要	卒業論文は、大学での学びの集大成です。この授業では、日本古代文学（上代、中古）をテーマにした卒業論文を作成します。論文を書くことはとても難しい作業ですが、ゼミでの発表、討議、個別指導をとおして、優れた論文に仕上げることが目指します。			
到達目標	<p>◆以下の4つの能力を獲得することを目指します。</p> <p>A 論理的に考え、分析し、その結果を文章化することができる。</p> <p>B テーマに関する研究史的に正確に把握し、説明することができる。</p> <p>C 日本文学・文化にかかわる学術領域から、自らにふさわしいテーマを見定め、論じることができる。</p> <p>D 研究をとおして、多彩で広がりのある価値観を身につけることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日 (4) -① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>◆授業外学修について。1回の授業につき、180分の予習・復習が必要です。詳しくは『学生便覧』を参照してください。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	ガイダンス・どうして、卒業論文を書くのか？	◆卒業論文を書くための手順を理解しましょう。		
第2回	いま、考えていること	◆研究テーマを熟考しましょう。		
第3回	調査・研究① 作品を熟読する	◆授業をふまえて、研究をふかめましょう。		
第4回	調査・研究② 疑問点を調べる	◆授業をふまえて、研究をふかめましょう。		
第5回～第7回	紹介	◆発表をとおして、課題を見つけましょう。		
第8回	調査・研究③ テーマを見定める	◆授業をふまえて、研究をふかめましょう。		
第9回	調査・研究④ 先行研究をさがす	◆授業をふまえて、研究をふかめましょう。		
第10回～第14回	発表	◆発表をとおして、課題を見つけましょう。		
第15回	夏休みの課題（ここまで前期）	◆卒業論文をいちど書いてみましょう。		
第16回	夏休みの取り組みの報告	◆ここまでの取り組みをふりかえってみましょう。		
第17回	調査・研究⑤ 論文の構成を考える	◆授業をふまえて、研究をふかめましょう。		
第18回	調査・研究⑥ 注釈を付ける	◆授業をふまえて、研究をふかめましょう。		
第19回～第23回	発表	◆発表をとおして、課題を見つけましょう。		
第24回～第27回	卒業論文の完成と提出に向けた準備をする	◆優れた卒業論文を書き上げましょう。		
第28回～第30回	口頭試問（ここまで後期）	◆分かりやすく伝えることを心がけましょう。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	◆レポート（60％）。中間レポート、卒業論文を評価します。 ※なお、中間レポートは、添削して返却を行い、卒業論文は、その内容について口頭試問を実施します。			
小テスト等	なし。			
成果発表	◆プレゼンテーション（20％）。きちんと調べて、しっかりとした報告を心がけましょう。			
受講態度他	◆ディスカッション（20％）。毎回、意欲的に議論に加わりましょう。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◆適宜、個別指導を行います。</p> <p>◆折々に、九州国立博物館などに出かける機会を設けます。</p> <p>◆なお、受講生の人数によって、スケジュールを変更することもあります。授業のテーマ・概要に変更はありません。</p> <p>◆この授業は、前期は「リアルタイム型オンライン授業」、後期は「対面授業」のかたちで実施します。授業の指示は、筑女ネット等をとおして行います。必ず、確認するようにしてください。</p>			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	◆以下の本の関連する部分を必ず読んでおきましょう。 ◎『平安文学研究ハンドブック』（和泉書院、2004年）			
オフィスアワー	前期・月4限／後期・水4限	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	鷹野 恵		単 位	4
授業の目的と概要	卒業論文は、4年間の学びの集大成である。その集大成を見える形に作り上げることが本授業の目的とする。そのために、提出までのスケジュール管理、文献の収集と読み込み、論文執筆、教員とゼミ生同士のコミュニケーションなど多岐に亘る技能が求められる。これらは社会人としての生活に必要な技能であり、卒業論文はその一つの事前訓練であると位置づけられる。各自、自己管理と問題意識を持ち、豊かな創造力を身につけることが期待される。完成した卒業論文は、2月1週目の口頭試問に合わせ、論文集として冊子化し、配布予定。			
到達目標	(1) 日本語教育学に関わる領域の一般的な知識を身につける。 (2) 先行研究をまとめ、独自性のある研究課題を設定することができる。 (3) 研究課題に沿った研究方法、考察を行い、明快かつ首尾一貫した論文を書くことができる。 (4) 授業内でディスカッションに参加し、相互に研究内容を深め合うことができる。 (5) まとめた論文を複数の人の前で口頭発表し、質疑応答に対応することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。 日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。 日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1～2回	ガイダンス		課題 (1) 文献購読	
第3～4回	全体講義 (卒業論文執筆方法の全般、発表準備)		課題 (2) 文献購読	
第5～6回	発表準備 (テーマの第一案を持ち寄り討議)		個人発表準備	
第7～8回	第1回個人発表		課題 (3) 全体構想	
第9～10回	第1回個人発表		課題 (4) 目次	
第11～12回	第1回個人発表		課題 (5) 先行研究概観	
第13～14回	第1回個人発表		課題 (6) 先行研究の整理と研究課題再設定	
第15回	第1回個人発表		論文執筆	
第16～17回	全体講義 (進捗報告)		論文執筆	
第18～19回	第2回個人発表		論文執筆	
第20～21回	第2回個人発表		論文執筆	
第22～23回	第2回個人発表		論文執筆	
第24～25回	第2回個人発表		論文執筆	
第26～28回	第2回個人発表		論文執筆	
第29～30回	口頭試問、総括		要旨作成、論文の全体修正	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 前期・後期各1回の発表と質疑応答			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	●スケジュール管理を入念にし、早めに取り組むこと。 ●発表会では積極的にディスカッションに参加すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	個別に指示する			
オフィスアワー	水曜2限 ※事前にメールで連絡のこと		メールアドレス	



授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	森田 真也		単 位	4
授業の目的と概要	この講義は、日本、及び沖縄等の文化や社会についての研究を進め、卒業論文を執筆することを目的としている。そして、資料収集と読み込み、分析、論文執筆を通して、総合的な学修経験から創造的な思考力と実践力を獲得する。そのため講義には、履修者（ゼミ生）が、各自の問題意識、研究テーマを持って出席してもらう。講義は、教室で行なうものと研究室での個別指導となる。具体的な進め方としては、前期は論文作成の方法等の解説、レジュメを作成しての各自の研究テーマ、論文構成に関する口頭発表、全体でのディスカッション、あわせて適時、個別指導を行なっていく。後期は、個別指導が中心となる。中間レポートの提出、最終的な論文の提出だけでなく、論文の執筆プロセスにあわせた文章添削、論文の構成等の指導を適時行なっていく。ただし、2020年度前期はメールやネットを活用した相談、指導を中心とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年間の学修成果の集大成として、これまで本学科で学んだ知識、技能、感性を活かしながら一つの研究テーマ（課題）を設定し、論理的考察を行なうことができる。</li> <li>・日本・沖縄・東アジアの諸地域の文化や社会に関わる先行研究の見識を深め、適切な理解、文章表現で研究論文を作成することができる。</li> <li>・資料収集と整理、分析、論文作成といった総合的な学修経験から、人間観、幅広い視野、創造的な思考力を獲得し、社会の多様な問題を考え、アプローチする実践力を獲得することができる。</li> </ul> なお、卒業論文は、各自の問題意識や興味を活かして、自分自身で資料を収集して分析しながら書き進んでもらうが、研究論文である以上、オリジナルな論文としての体裁、文章構成、分量、ある程度のレベルが要求される。			
この授業が目的として いるDPや関 連する科目 など	日(3)-②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。 日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。 日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日(4)-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 この授業は日本語・日本文学科の全ての科目、主に日本文化に関する科目と関連します。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1～3回：	研究論文とは何か－研究テーマの設定と資料収集、整理・分析について－	卒業論文の考え方、全体の進行について理解する、「春休みの課題」提出		
第4～6回：	文献資料の収集・一覧表の作成	文献資料の収集、一覧表作成		
第7回：	研究テーマ設定の動機－「はじめに」を書いてみよう－	研究テーマ設定の動機について考え、「はじめに」を書く		
第8回：	論文の構成について	目次案を作成する		
第9～12回：	論文の構成と目次案について（個別指導）	目次案、論文の構成の修正を行なう		
第13～15回：	研究の目的と方法、先行研究の整理と定義づけ－「第1章にむけて」－	研究目的と方法について、先行研究の整理と定義について考える		
第16回：	卒論の執筆について	卒論執筆の手順と指導方法について理解し、執筆する		
第17～20回：	個別指導（1）－論文の構成と添削指導－	卒論執筆、添削指導、修正を行なう		
第21回：	卒論の提出方法について	卒論の提出方法について理解し、提出準備にあたる		
第22～25回：	個別指導（2）－論文の添削指導－	卒論執筆、添削指導、修正を行なう		
第26回：	卒論提出（12月20日：2020年は同日日曜日のため21日）	卒論執筆、最終調整と確認、校正を行なう		
第27回：	卒論発表会について	卒論発表の方法について理解し、準備をする		
第28～30回：	卒論発表会（2月上旬）	卒論発表会の準備、資料作成		
－	－	－		
－	－	－		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	70％ 提出課題の内容、「卒業論文」の内容を評価する。			
小テスト等	無し。			
成果発表	10％ 卒論発表会の内容を評価する。			
受講態度他	20％ 論文作成過程、研究姿勢、取り組みを評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席・遅刻の場合は必ず連絡すること。論文の進行状況に従い、積極的に研究室に相談に来ること。 ただし、2020年度前期はメールを活用した相談、指導を中心とする。 2万字以上、締め切りを厳守すること。 2月上旬に卒論発表会をする（予定）。 （次年度ゼミ希望者は、3年時に「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい）			
教科書	無し。			
指定図書	無し。			
参考図書	各自の研究テーマに従い指導する。			
オフィスアワー	前期：メールで質問を受けます。 後期：火曜日、金曜日の昼休み（随時相談を受け付けます）	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	安永 美恵		単 位	4
授業の目的と概要	4年間の学びの集大成として、卒業論文を完成させることを目的とする科目です。各自研究テーマを設定し、適切な研究方法を決め、自ら構想を立て、論述することにより、論理的な思考力を身につけます。研究対象を読み抜き、読み解き、これまでに身につけた日本語・日本文学分野の知識や技能を活用して、個性を生かした論文を作成します。一年間のスケジュールを組み立て、研究段階ごとの課題に取り組みながら提出期日までに完成させることで、問題解決力や自己管理能力を高めることができます。また、授業では、中間報告や構想発表を通して、ゼミ生相互に意見交換や情報交換を行い、互いの研究内容に関心を持つことにより、近世文学に関する情報を共有しながら、理解を深めていきます。後期は特に個別面談に重点を置き、各自の個性を生かした論文執筆が行えるように助言します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の興味・関心から、卒業論文の研究テーマを見出すことができる。</li> <li>2. 必要な先行研究論文等を収集し、適切な研究方法を見出すことができる。</li> <li>3. 研究書や論文を読み、現在の研究状況を把握し、自分の視点を持つことができる。</li> <li>4. 資料を適切に使用し、論理的な筋道のそった構想をたてることができる。</li> <li>5. 客観性を維持しつつ、一貫性のある、オリジナルな論文を書くことができる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目など	日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。 日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。 日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日 (4) -① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション： 卒論とは	年間スケジュール確認		課題：研究テーマを考える	
第 2回 テーマ設定			課題：研究テーマを決める	
第 3回 文献資料の調査と収集			課題：文献資料の調査	
第 4～ 6回 作品理解のための近世文学史の確認			課題：文献資料の調査・収集	
第 7～ 9回 テーマと研究方法			課題：研究方法を考え、調査する	
第10～14回 中間発表と質疑応答			課題：研究方法を考え、調査する。調査結果をまとめる。	
第15回 前期研究のまとめと、夏季休暇期間の研究計画			課題：研究計画 レポート (9月の第1回授業時締切り)	
第16～18回 後期の計画と論文構想の具体例			課題：論文の構想をたてる	
第19～24回 構想発表			課題：論文の構想を立て、執筆する	
第25回 下書き完成			課題：この時間までに下書き提出	
第26回 問題解決から完成へ			課題：論文執筆	
第27回 推敲と提出時の注意点			課題：論文執筆と推敲	
第28回 卒業論文の完成と提出			課題：卒業論文を完成させ、提出する	
第29回 ゼミのまとめと卒論発表会準備			課題：発表会の準備	
第30回 卒論発表会			課題：卒業論文集作成	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 卒業論文、レポートを対象とする。			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 中間発表会、構想発表会、卒論発表会。			
受講態度他	30% 演習、授業への積極的な態度を考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文は自分自身の研究であることを認識し、各自で計画的、積極的に研究を進めること。面談、相談の際は、その時点で必要な、調査資料、関係参考資料を、持参または手元で見られるよう準備しておきましょう。面談、相談希望者は、できるだけ事前に連絡してください。会議等の時間と調整をするためです。			
教科書	なし。各自が、テーマに沿って作品の本文や注釈書を準備する。配布プリント。			
指定図書	なし。			
参考図書	『新版近世文学研究事典』（おうふう）、『日本古典文学大辞典』（岩波書店）。その他、授業時、または個別に指示する。			
オフィスアワー	前期： 火曜4限、金曜5限 後期： 火曜5限 金曜4限、	金	メールアドレス	

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	松下 博文		単 位	4
授業の目的と概要	4年間の集大成として、近現代文学に関わる領域から、各自課題を自由に選択し、論文を制作することを目指す。大学での学修をもとに各自の知的興味・関心を深め、卒業論文において自らの考えを明確に伝える。			
到達目標	①多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。 ②獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。 ③社会の多様な問題を発見し、解決することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。 日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。 日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。「近現代文学概論」「近現代文学基礎演習」「近現代文学演習」「近現代文学講義」等と関連する科目です。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	卒業論文入門① テーマの確認		テーマについて確認する (テーマ再考)	
第 2回	卒業論文入門② テーマの再確認		テーマについて再度確認する (テーマ確定)	
第 3回	先行論文について		先行論文を探す (情報収集のためのツールについて)	
第 4回	再説 先行論文について		先行論文を集める (情報収集)	
第 5回	先行論文を読む		集めた先行論文を読む (論文チェック)	
第 6回	発表		集めた先行論文について、発表資料を作成する	
第 7回	再発表		集めた先行論文について、再度、発表資料を作成する	
第 8回	作家と作品について発表		作家と作品について、発表資料を作成する	
第 9回	作家と作品について再発表		作家と作品について、再度、発表資料を作成する	
第10回	中間レポート提出		中間レポート資料作成	
第11回	レポート再考		資料作成 再考レポート作成	
第12回	構想発表		資料作成 構想資料	
第13回	卒業論文提出		論文のチェック	
第14回	卒業論文検証		論文の最終チェック	
第15回	口頭試問		試問の為の資料作成	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	60% 前期1回 (30%)、後期1回 (30%)、中間レポート提出。			
小テスト等	0% なし			
成果発表	30% 資料をしっかりとって発表すること。発表資料、レポートで総合的に評価する。			
受講態度他	10% 自覚を持って取り組むこと。レポートは添削して返却します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	提出物は必ず期限までに提出すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日12時30分～13時	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	時里 奉明		単 位	4
授業の目的と概要	<p>卒論のテーマは、①日本の歴史と文化（主に近代）、②博物館、の範囲で設定する。自らの問いを卒論のテーマとして設定し、自ら研究を進めることを学ぶ。そうした研究の成果を論理的な文章にすることを旨とする。大学時代の集大成として、自分の作品を完成させること。前期、夏休み、後期でそれぞれ研究の成果を報告し、全員でより良いものになるように協力する。</p> <p>前期は卒論指導と同時に、1冊の本を読む。夏休み中に中間報告、後期は授業中に最終報告を行う。卒論提出後に全員で完成版を報告する。その間、枚数を設けて数回提出させ、個別指導を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 興味のあるテーマを設定し、論理的な思考を文章にまとめることができる。「課題探求力」</li> <li>2 テーマに関する資料を図書館やインターネットを使って調査、収集できる。</li> <li>3 論文完成までに、報告を行い、文章を提出することによって、段取りと労力を理解し、実行に移すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。  日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。  日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。  日 (4) -① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探求力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス：卒論のねらい スケジュールと履修方針の確認	課題（スケジュールを知る）		
第2回～6回	テーマの概要を報告 テキスト（山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』）を使用しながらテーマの設定、先行研究の整理、資料の調査と収集、執筆の仕方について指導する	課題（論文作成の手順を理解する）		
第7回～12回	読書会：テキスト（大沼保昭『「歴史認識」とは何か』）を読む。毎回数人、担当の箇所をレジュメを使って報告する。	課題（論文を整理する、報告の準備）		
第13回～14回	夏休み前、研究の成果を報告する	課題（論文の形式を理解する）		
第15回	今後のスケジュールの確認	課題（期末レポートを提出する）		
第16回	夏休みゼミ合宿：卒論報告	課題（論文の作成を進め、報告を準備する）		
第17～27回	卒論最終報告	課題（論文の作成を進める、11月前後に中間論文を提出する）		
第28回	卒論提出の確認	課題（卒論の形式を確認する）		
第29回	卒論提出後の指導	課題（報告の確認）		
第30回	卒論報告会	課題（報告の準備）		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 卒業論文（途中、文章の提出を含む）			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 卒論報告とテキスト報告（口頭発表と質疑応答）			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	評価は卒業論文の内容によるが、完成にいたるまでのプロセスも重視したい。日ごとの取り組みが大切で、授業時の欠席や遅刻は厳しく指導する。夏休み中のゼミ合宿、卒論報告会は、全員参加すること。			
教科書	山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年） 大沼保昭『「歴史認識」とは何か—対立の構図を超えて』（中公新書、2015年）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に紹介する。			
オフィスワー	金曜日の昼休み。研究室にいる時はいつでも。	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	桐島 薫子		単位	4
授業の目的と概要	<p>この授業では、日本の文学・言語・文化に大きな影響を与えた中国文学や漢字文化、その他関連する諸問題について、①履修者が自ら興味ある研究テーマを設定し、多様な情報の中から必要なものを選択・活用して自身の考えをまとめ伝えること、②専門知識を高め、幅広い視野をもってさまざまな価値観を尊重しつつ考察を行うこと、③論旨明快な学術論文にまとめること、などを目指します。</p> <p>また、問題が複雑化・多様化する現代社会において必要とされる、課題解決力・コミュニケーション能力・チームワーク力・自己管理能力、規範やルールに従って行動できる能力なども身に付けていきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門知識を獲得しつつ先行研究を収集・整理して、研究テーマを設定することができる。</li> <li>2. 研究テーマの重要性やオリジナル性を客観的に説明することができる。</li> <li>3. 考察した内容を論旨明快な論文にまとめることができる。</li> <li>4. 発表や論文執筆において、日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。</li> <li>5. これまでに獲得した知識・技能・態度などを総合的に活用し、自らの課題に向き合い解決に向けて行動することができる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>日(3)-②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。  日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。  日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。  日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  この授業は、主に、「中国文学概論」、「漢字と故事成語」、「中国文学講読ⅠⅡ」、「漢文読解」、「中国文学演習ⅠⅡ」等</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 ガイダンス、「卒業論文」について		先輩ゼミ生の「アドバイスメッセージ集」を読む。テーマについて考える。		
第2回 興味があるテーマについて考える		興味のあるテーマへのアプローチを始める。		
第3回 卒業論文の事例紹介（構成とオリジナル性）		筑紫語文』事例のプリントを読む。		
第4回 卒業論文の事例紹介（発表から論文へ）		『筑紫語文』事例の発表段階の資料を確認する。		
第5回 専門知識の獲得と先行研究の収集		広く専門知識を学び先行研究の収集を始める。		
第6回 専門知識の向上と先行研究の整理		学術情報の整理を始める。		
第7回 中間のまとめ（研究テーマの専門知識）		テーマに関する専門知識を説明できるよう準備する。		
第8回 中間のまとめ（研究テーマの先行研究）		テーマに関する先行研究を説明できるよう準備する。		
第9回 中間のまとめ（研究テーマと論文構成案）		研究テーマと論文の目次案を考える。		
第10～14回 中間発表		第7～9回の取り組みを再検討しまとめる。		
第15回 前期の振り返り、夏休みの課題		課題を確認し、解決するための方法を考える。		
第16回 夏休みの取り組みの報告と今後について		課題の解決の現状と今後について考える。		
第17～19回 研究テーマの論証方法		論文の目的・章立て・論証方法の妥当性を確認する。		
第20～24回 研究発表（論文構成と論証の確認）		研究発表の準備		
第25～30回 論文の執筆・完成、口頭試問		研究発表をもとに論文を完成させる。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％（授業中の提出課題、卒業論文）			
小テスト等	なし			
成果発表	20％（発表および質疑応答）			
受講態度他	20％（授業への参加態度）			
受講上の留意点・ルールに関する情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期は、原則として、遠隔授業（オンデマンド型）を行います。</li> <li>2. リアルタイム型授業については、はじめは履修者の受講環境や筑女ネットのアクセス状況が把握できませんので行いません。授業が進み、全員がリアルタイム型に対応できることが確認でき、その方が理解や研究が進む、というような状況になった場合は取り入れる可能性があります。その際は、事前に、授業で皆さんの意見を聞いたり、状況を確認したりしますので、心配しないで</li> </ol>			
教科書	配布プリント			
指定図書	なし			
参考図書	各自の発表内容に応じて適宜紹介			
オフィスアワー	前期：金曜5限、後期：火曜昼休み	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	出雲 俊江		単位	4
授業の目的と概要	<p>目的：自分にとっての本質的な問いにつながる問題を研究テーマとして設定し、自ら研究をすすめることを学びます。研究の成果を論理的に文章にして発表する力をつけることを目指します。 参考文献の検索・調査の方法を身につけます。 他者の研究に敬意を払いつつ、建設的な態度でディスカッションに参加することを体験的に学びます。</p> <p>概要：それぞれの設定したテーマについての発表・討議を通じて、研究を深めてゆきます。 担当者のレジュメを中心とした発表と質疑応答を基本的な形式とします。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の問題としての、研究テーマを設定する。</li> <li>これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた課題に向き合うことができる。「課題探究力」</li> <li>ディスカッション、論文執筆の過程で、日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。</li> <li>設定したテーマと同じ問題や近い問題について、その特徴や背景について概要を説明することができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを論文の形で論理的に述べる。（論文の構成・引用・論述について学ぶ）</li> <li>資料検索や調査の方法を身につける。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>日(3)-②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日(4)-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1・2回	ガイダンス 卒業論文を書くために。提出までのスケジュールについて。		テーマに関わる分野の書籍を読む。	
第3・4回	テーマの設定(1) 取り組みたい分野と、自分との関わりや経緯や背景についてを発表する(全員)		発表の準備。	
第5・6回	テーマの設定(2) 先行研究にあたる。(テーマを絞る：対象分野の基本文献を読み、現在の問題点を知る。)		基本文献の購読。	
第7・8回	テーマの設定(3) 先行研究の整理。自分の問題を絞り込む。		資料収集・文献購読。発表担当者は発表の準備	
第9・10回	中心的研究課題への取り組み。研究・調査進捗状況の報告。		資料収集・文献購読。発表担当者は発表の準備	
第11・12回	研究発表		資料収集・文献購読。発表担当者は発表の準備	
第13・14回	研究発表		資料収集・文献購読。発表担当者は発表の準備	
第15・16回	構想発表会(全員) 目次(案)の作成(ゼミ合宿)		発表準備(全員)	
第17・18回	個別相談または少人数での研究発表		それぞれ研究・調査をすすめる。発表担当者は発表の準備。	
第19・20回	中間発表		発表準備(全員)	
第21・22回	個別相談または少人数での研究発表		それぞれ研究・調査をすすめる。発表担当者は発表の準備。	
第23・24回	個別相談または少人数での研究発表		それぞれ研究・調査をすすめる。発表担当者は発表の準備。	
第25・26回	論文タイトルの最終決定。目次作成・参考文献一覧作成など		論文構成の確認。最終点検	
第27・28回	論文提出 卒業論文集について。卒論発表会について。		文集校正など。	
第29・30回	総括 卒論発表会(自身の研究の、目的、方法、成果などについて、論理的に説明する。)		発表資料準備 卒論発表会の準備。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	行わない			
レポート	80% 卒業論文			
小テスト等	行わない			
成果発表	卒論発表会を行う。 卒業論文集作成。			
受講態度他	20% 討議への参加状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論演習は、自分の問題を立て、自分で考えるという卒業論文制作の孤独な営みを、互いに支えあう場です。自分の問題にも、他の人の問題にも、真摯に向き合うことを求めます。構想発表会を、ゼミ合宿中に行います。			
教科書	講義の際に指示します			
指定図書	使用しない			
参考図書	使用しない			
オフィスアワー	前期 水4 後期 水3	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	小野 望		単 位	4
授業の目的と概要	<p>卒業論文は、日本語・日本文学科での学修の集大成として取り組む必修科目である。日本語の様々な課題の中から自らのテーマを見出し、独自の視点から考察を加えて論文を作成する。この過程全体を通して、課題の発見、問題点や資料の整理・分析、論理的な思考により解を導き、明確に論述して成果を発信するという、一連の作業が求められる。テーマそのものは大学での学修内容（に過ぎない）かもしれないが、これらの作業は、今後社会人・職業人として求められる思考・行動のシミュレーションとなるはずである。</p> <p>初めての論文を執筆する期間として、4～12月の9ヶ月間は短い。指定の発表会、報告会でのレジュメや、中間報告書などを作成することで、計画的に論文を構築していこう。就職活動との両立など、自己管理も求められる。日本語・日本文学・日本文化を中心とした4年間の勉学の成果を一つのテーマに集約するつもりで、真剣に取り組むことを期待する。</p>			
到達目標	<p>(1) 日本語に関し、適切な課題を選んで立論することができる。</p> <p>(2) 先行研究を整理し、必要なデータを収集することができる。</p> <p>(3) データを分析し、論証を進めることができる。</p> <p>(4) 結論を論理的に導き、明快に論述することができる。</p>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日 (4) -① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	論文とは : 文体、形式、構成など	自らのテーマについて考察を進めておこう。		
第2回	テーマ発表会 各々のテーマについて、質疑応答、情報提供などの議論を行う。	レジュメを作成して発表に臨もう。		
第3回	日本語学研究法 : 分野、資料 各自のテーマについて、どのような視点があるか、語学・文学・文化の幅広い面から考察する。	日本語学研究の分野・資料に関する配付資料を確認しておこう。		
第4回	日本語学研究法 : 研究方法 希望テーマに関するものを中心に、代表的な研究方法について紹介する。	研究方法に関する配付資料を熟読し、各自のテーマへの概要を覚えておこう。		
第5～7回	情報収集・データ等の下調べ作業 テーマを絞るために、先行研究を調査し、入手可能なデータを取得する。	入手可能な先行研究・データ等を確認する。進捗状況は筑女ネットで共有。		
第8回	経過報告会 各々のテーマについて、質疑応答、情報提供などの議論を行う。	レジュメを作成し発表することで、自らの研究段階を確認しよう。		
第9～12回	研究計画作成作業 論文用のWordファイルフォーマットを作成し、これを利用してアウトライン案を構築する。	資料・研究方法を選び、計画を作成しよう。		
第13～15回	調査計画の策定・実行 先行研究も参考にしながら、データの収集を開始する。	研究計画に従い、データ収集を開始しよう。		
第16回	中間報告会 各々の発表について、質疑応答を行い、論文としての可能性について議論を行う。	レジュメ作成及び中間報告書提出。		
第17～19回	資料分析、理論構築作業 データ分析を行い、仮説を検証する。	アウトラインに従って、論文作成。		
第20回	論文形式の確認 本文・注・参考文献等の書式を再確認する。	論文作成作業。		
第21～23回	題目・構成計画の確定 論文の全体構造を確定して報告し、その妥当性について議論する。	論文作成作業、及び題目・論文構成計画（目次）提出。		
第24～26回	個別面談 : 論文完成	論文を完成させ、提出する。		
第27～29回	個別面談 : 口頭試問	予め正誤表を作成。指摘事項があれば、修正して再提出する。		
第30回	論文報告会 各々の発表について、質疑応答を行い、論文の成果について議論を行う。	研究成果発表原稿（論文概要）を提出し、発表に臨もう。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0% 筆記試験は行わない。			
レポート	10% : 中間報告レポート：授業時に返却し、修正点等の指導を行う。			
小テスト等	0%			
成果発表	70% : 論文：口頭試問時に返却し、評価できる点、問題点等を指摘する。			
受講態度他	20% : 経過報告会、個別面談等における作成資料、議論での積極性などを評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・12月の提出までは、毎週教室に集合する。そのほか、個別面談は相談の上適宜行う。</p> <p>・研究を進める過程で、ゼミメンバーによる情報・意見交換を行う。異なるテーマであっても、研究法その他参考になることは多い。積極的に活用されることを期待する。</p> <p>・このゼミでは、研究成果を広く公開することを想定するところまでを課題としてとらえている。もちろん、論文が最大の表現手段であるが、これに加えて卒論概要を作成し、成果報告書として次年度ゼミへのアドバイスとする予定である。</p>			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	個別に指示する。			
オフィスアワー	月曜：5講時、火曜：5講時	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	宇野 智行		単位	4
授業の目的と概要	<p>宗教学・仏教学に関わる研究をすすめ、研究論文を作成する。自己の選択したテーマについて統合的な学習をすすめた上で、創造的思考力を養う。その研究成果を「卒業論文」という作品として表現することを目的とする。</p> <p>本授業では、四年間の集大成として「卒業論文」の作成を目指す。前期は主に卒論作成のための具体的なテクニックについて講義を行う。後期は、中間発表を複数回行い、読者を意識した論文の完成を目標とする。各自の卒業論文は『卒業論文集』として製本し、卒業式時に学びの証しとして配布する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら課題を発見し、課題解決のための資料を網羅的に収集することができる。</li> <li>2. 収集した資料を正確に読解し、批判的に分析することができる。</li> <li>3. 証拠となる資料を適切に使用して、論理的な文章を作成することができる。</li> <li>4. 自らの研究成果を文章化した上で、プレゼンテーションできる。</li> <li>5. 研究成果の発表をベースに、積極的に意見交換・ディスカッションができる。</li> <li>6. 正しい書式に則って、研究成果を学術論文に纏めることができる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日 (4) -① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1-2回	学術論文とは何か・資料論・資料収集法	テーマ発表準備		
第3-4回	口頭発表とディスカッション：テーマとアプローチ	テーマ発表準備・資料収集		
第5-6回	論文の構成・テーマ発表	資料収集、第1回中間発表準備		
第7-8回	論文の書式・論述の方法	資料収集、第1回中間発表準備		
第9-10回	口頭発表とディスカッション：第1回中間発表	資料収集、原稿執筆・第2回中間発表準備		
第11-12回	参考文献表・脚注の作り方	資料収集、原稿執筆・第2回中間発表準備		
第13回	学術論文の読解と評価	資料収集、原稿執筆・第2回発表準備		
第14-15回	口頭発表とディスカッション：第2回中間発表	資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成		
第16-17回	口頭発表とディスカッション：第3回中間発表	資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成		
第18-20回	個別指導（1）	資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成		
第21-22回	口頭発表とディスカッション：第4回中間発表	資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成		
第23-25回	個別指導（2）	資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成		
第26-27回	口頭発表とディスカッション：第5回中間発表	資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成		
第28-29回	口頭試問	最終発表準備		
第30回	口頭発表とディスカッション：最終発表	最終発表準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	（研究発表）30％：全6回（卒業論文）40％：論文の内容により評価（卒業論文書式）10％：体裁・表記・表現力により評価			
受講態度他	（受講態度）10％：発表への取り組み（口頭試問）10％：論文内容把握、推敲能力により評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>全力を尽くして、主体的に論文作成に取り組むことが求められる。論文作成にあたり、最大限教員を利用すること。9月に合宿を開催し、中間発表を行う。20000字以上、締め切りを厳守すること。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各自のテーマに従い、指示する。			
オフィスアワー	前期：火曜日13：00-16：20 後期：連絡の上、随時受け付ける。	メールアドレス		



授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	高山 百合子		単位	4
授業の目的と概要	<p>卒業論文は、日本語・日本文学科での学修の集大成として取り組む必修科目である。日本語の様々な課題の中から自らのテーマを見出し、独自の視点から考察を加えて論文を作成する。この過程全体を通して、課題の発見、問題点や資料の整理・分析、論理的な思考により解を導き、明確に論述して成果を発信する。この一連の取り組みは、今後社会人・職業人として求められる問題発見・問題解決行動のシミュレーションである。</p> <p>年間のスケジュールを睨みながら、論文作成を進めていく。小学校以来の学びの最終段階であることを自覚し、一つ一つの過程を確実に進めて、自らの集大成としていく。</p>			
到達目標	<p>(1) 日本語に関し、適切な課題を選んで立論することができる。</p> <p>(2) 先行研究を整理し、必要なデータを収集することができる。</p> <p>(3) データを分析し、論証を進めることができる。</p> <p>(4) 結論を論理的に導き、明快に論述することができる。</p>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。〔課題探究力〕</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション；論文とはどのようなものか		小調査の発表準備；発表資料を作成しておく	
第2回	小調査発表会（1）		小調査の発表準備；発表資料を作成しておく	
第3回	小調査発表会（2）		テーマと研究方法について考える	
第4回	日本語学研究法：分野、資料、研究方法		テーマと研究方法について考える	
第5～7回	テーマ決定（個別面談を含む）		テーマを絞り、研究動向を整理する	
第8回	経過報告会		研究計画原案作成	
第9～12回	研究計画作成（個別面談を含む）		資料・研究方法を選び、計画を作成する	
第13～15回	個別面談：研究計画報告		研究計画に従い、データ収集を行う	
第16回	中間報告会		発表資料及び中間報告レポート提出	
第17～19回	個別面談：資料分析、理論構築		論文作成	
第20～22回	個別面談：題目・構成計画（章立て）		論文作成	
第23-25回	個別指導（論文の構成、文章表現を中心に）		資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成	
第23回	構想発表会		題目・論文構成計画（目次）提出	
第24～26回	個別面談：論文提出		論文提出	
第27～29回	個別面談：口頭試問 / 第30回 論文報告会		研究成果発表原稿作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	中間レポート 10％			
小テスト等	なし			
成果発表	卒業論文 80％			
受講態度他	卒業論文作成過程での取り組み姿勢 10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◇課題提出などの締め切りを守って、論文の完成（20000字以上）を目指し、段階を踏んで進めていってほしい。</p> <p>◇課題や中間レポートは、添削・評価し、コメントを付して、なるべく早く返却する。</p>			
教科書	岩崎美紀子『「知」の方法論』（岩波書店）			
指定図書	なし			
参考図書	各自のテーマに従い、提示する。			
オフィスアワー	2020年度は、基本的には常時メールで質問・相談を受け付けます。	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	小林 久泰		単位	4
授業の目的と概要	<p>宗教・文化に関する研究をすすめ、研究論文を作成する。自分で選択したテーマについて統合的な学習をすすめ、創造的思维能力を養う。その研究成果を「卒業論文」という作品として表現することを目的とする。</p> <p>4年間の大学生活の集大成として「卒業論文」を作成していく。前期は主に卒論作成のための具体的なテクニックについて講義をする。後期は、中間発表を複数回行い、読者を意識した論文の完成を目標とする。各自の卒業論文は『卒業論文集』として製本する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要な資料を収集した上で、それを正確に読解し、批判的に分析することができる。</li> <li>2. 資料を適切に使用して、論理的な文章を作成することができる。</li> <li>3. 正しい書式に則って、研究成果を学術論文に纏めることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>英(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	学術論文とは何か	発表準備		
第2-4回	テーマの選定とアウトラインの作成	資料収集、発表準備		
第5回	口頭発表とディスカッション：テーマ発表	資料収集、発表準備		
第6-7回	論文の書式・論述の方法	資料収集、発表準備		
第8-9回	口頭発表とディスカッション：構想中間	資料収集、発表準備		
第10-12回	論文作法：参考文献リスト・注記・引用の作り方、先行研究の評価	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第13-14回	口頭発表とディスカッション：本論1	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第15-16回	アウトラインの見直しと最終アウトライン作成	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第17-18回	口頭発表とディスカッション：本論2	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第19回	進行状況の確認と指導	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第20-21回	口頭発表とディスカッション：本論3	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第22-23回	口頭発表とディスカッション：本論4	卒論作成・資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成		
第24-27回	進行状況の確認と指導	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第28-29回	口頭発表とディスカッション：最終発表	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第30回	編集作業	編集作業		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	30%：研究発表(全6回)			
受講態度他	(受講態度)10%：発表への取り組み(口頭試問)10%：論文内容把握能力、推敲能力により評価 (卒業論文)40%：論文の内容により評価 10%：体裁・表記・表現力により評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>全力を尽くして、主体的に論文作成に取り組むことが求められる。</p> <p>9月に合宿を開催し、中間発表を行う。</p> <p>字数、締め切りを厳守すること。</p>			
教科書	白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	各自のテーマに従い、適宜指示する。			
オフィスアワー	月曜2講時	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	松崎 徹		単位	4
授業の目的と概要	卒業論文を書くことで、言語・文化に関する専門知識を身につけ、深い人間理解ができるようになる、言語としての英語または英語圏文化を学んだり調べたりすることで、英語に対する理解を深め、様々な視点で英語をとらえることができるようになる、自ら設定したテーマを探求する方法(調査・分類・執筆)を身につけることができる、などがこの授業の目的である。具体的な指導のスケジュールとしては、前期は卒業ゼミナールと別に時間をとり、全体指導を数回行っていく。研究の方法・手順を学ぶとともに、テーマを絞り込み研究の下準備を行っていく。後期は個別指導が中心となるので、各自アポイントメントを取り、指導教員から助言・指示を受けながら論文の作成作業を進めていく。なお、教員からの指導が円滑に進むように、誤字・脱字等がないか指導前に確認しておくことが望まれる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語に関するテーマを一つ設定し、卒業論文を書くことができる。</li> <li>2. テーマに関することを、図書やインターネットを使い、情報を収集することができる。</li> <li>3. 収集した資料や情報を、適確に分類し、活用することができる。</li> <li>4. 資料や情報をもとに、オリジナルな論考または視点を入れて、文章にまとめることができる。</li> <li>5. 卒業論文の内容に関して、適切に説明することができる。</li> <li>6. 特定分野の知識・技能を説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第 1- 2 回	テーマ決定までの手順/ テーマ仮提出	テーマを決めるための情報収集およびテーマ決定		
第 3- 4 回	文献調査	図書館およびWeb上で関連文献を調査		
第 5- 6回	プロポーザル作成	資料等をもとに、プロポーザルを作成する		
第 7- 8回	文献収集および文献リスト# 1の作成	収集済み、および未収集文献のリストを作成する		
第 9-10回	修正プロポーザルの作成および提出	収集した資料を基に修正プロポーザルを作成する		
第11-12回	文献リスト# 2作成および提出	文献を継続収集しながら、同時に文献を精読していく		
第13-14回	ドラフトの書き方	ドラフトを書き始める。夏休みの計画をたてる		
第15回	夏休み計画の作成/ 文献リスト# 3 提出	夏休み: ドラフトは半分程度まで書く		
第16-17回	ドラフト(2分の1)提出および面談	研究の方向性と全体像の確認を行う		
第18-19回	内容指導	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第20-21回	ドラフト(3分の2)提出および面談	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第22-23回	内容指導	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第24-25回	ドラフト(全部)提出および面談	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第26-27回	最終分量に到達したドラフトの提出・面談	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第28-30回	最終確認 / 卒業論文提出	指導を踏まえ、ドラフトの最終確認を行い提出する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 途中定期的に、卒論のドラフト提出が課せられる			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 卒業論文 (学生便覧の規定に従うこと)			
受講態度他	30% 卒論指導の受講状況、経過報告、口頭発表、ハンドアウト、卒論取組み度等を考慮し判断する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論提出の期日を厳守すること。期限を守れなかった場合は、不合格とする。卒論は提出すればよいというものではなく、その作成過程も重視する。そのため、授業計画に明記されたことを実行できない場合は評価に大きく影響する。詳細については、初回授業においてプリントを配布する。			
教科書	特になし。			
指定図書	特になし。			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	前期: 火曜日 4 限目 後期: 火曜日 3 限目	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	宮原 牧子		単位	4
授業の目的と概要	卒業論文では、卒業ゼミナールⅠ・Ⅱで行う研究を更に深め、その研究成果を論文にまとめます。 和文で論文を執筆する場合は20,000字以上、英文の場合は8,000語以上とします。 論文提出後に口頭試問を行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英詩の構造を正確につかみ、内容を理解できる</li> <li>2. 文学用語、詩人、作品、時代背景を理解できる</li> <li>3. 先行研究について十分に調査することができる</li> <li>4. 作品を「分析・批評」する独自の視点を持つことができる</li> <li>5. 「テーマ」定め、論文の構成を考えることができる</li> <li>6. 参考資料や文献を正しく参照・引用することができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
卒論スケジュールについて			詩人・作品の選定	
第2・3・4回 作品読解			文献収集	
第5・6回 文献収集結果報告			アウトライン作成	
第7回 アウトラインの作成 (A4用紙1~2枚)・質疑応答			論文作成	
第8・9回 論文作成指導			論文作成	
第10・11・12・13・14回 第1稿の執筆 (毎週、途中経過を報告)			論文作成	
第15回 中間発表(1)			論文作成	
第16回 論文作成指導			論文作成	
第17・18・19回 第2稿の執筆 (毎週、途中経過を報告)			論文作成	
第20回 中間発表(2)			論文作成	
第20・21・22回 最終稿作成指導 (毎週、途中経過を報告)			論文校正・発表会準備	
第23回 卒業ゼミナール内発表会			論文作成	
第24・25回 最終稿作成指導			論文校正	
第26・27回 最終チェック			論文校正・提出	
第28・29・30回 口頭試問 (全員参加)			最終原稿提出	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	80% 提出された論文で評価します。			
小テスト等	—			
成果発表	20% 口頭試問で評価します。			
受講態度他	—			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論提出の期日を厳守すること。遅れて提出した場合は、不合格とします。			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスワー	前期：水曜日3限目 後期：水曜日4限 (この時間帯以外を希望する場合はメールでご相談ください)	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	大城 房美		単位	4
授業の目的と概要	現代文化論／女性学・ジェンダー学／英語文学・文化に関するテーマを設定し、自分の視点から問題提起しながら、資料収集・作品分析を行い、自分の主張を論文にまとめることができる。 前期は論文の構成やテーマ設定を含むスタイルに関する部分を、後期は論文の執筆をし、適宜面談を行いながら指導する。			
到達目標	(1) 現代文化論／女性学・ジェンダー学／英語文学・文化に関するテーマを設定する。 (2) 資料収集・作品分析を行い、先行研究を把握する。 (3) 自分の主張を論文にまとめる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1-2回	Introduction 文献収集の基礎を確認する	資料収集『大学生のためのレポート論文術』の文献収集を読む		
第3-4回	卒業論文の構成やスケジュールを確認する	『大学生のためのレポート論文術』の卒業論文の箇所を読む		
第5-6回	卒業論文のスタイルを確認する	『大学生のためのレポート論文術』の書き方の約束を読む		
第7-8回	テーマ設定と資料リストの提出と確認	資料収集とテーマ構想		
第9-10回	アウトラインの提出	資料収集とアウトライン構想		
第11-12回	各章についてのアウトライン	資料収集とアウトライン構想		
第13-14回	「はじめに」	資料収集 論文執筆		
第15回	前期の成果を提出 (テーマ、アウトライン、「はじめに」、資料リスト)	前期の成果をまとめる		
第16-17回	全体の構想を確認 各章のアウトライン構想	論文執筆		
第18-30回	各章ごとに提出、その都度確認・修正	論文執筆		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	80%提出された卒業論文による評価。			
受講態度他	20%前期の成果提出を含む。卒業論文完成に至るまでの受講態度。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	前期中に、前期の成果 (テーマ、アウトライン、はじめに、資料リスト) を提出すること。			
教科書	『新版 大学生のためのレポート・論文術』 (小笠原喜康)			
指定図書	『A Manual for Writers of Research Papers, Theses, and Dissertations. 9th ed』 (2018) 『A Pocket Style Manual 8th ed』 (2017) 『これから論文を書く若者のために 大改訂増補版』 (酒井聡樹)			
参考図書	論文の内容により指導			
オフィスアワー	授業の前後 (要メール連絡)	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	T.R. Honkomp		単位	4
授業の目的と概要	The embarkation and subsequent completion of a graduation thesis is a highly individualistic experience and its process and success are largely dependent on the effort of the student who authors the paper. The Graduation Thesis is subject to the rules, requirements and procedures that are indicated in the student handbook and all students writing a thesis should be aware of them			
到達目標	From the advisor's perspective it is important that students adhere to a year-long timetable in order to ensure a timely finish. That timetable includes completion of the following steps sequentially, although some flexibility is possible depending on individual circumstances: thesis statement, general outline, detailed outline, research ideas and suggestions, incremental pages of production, rough draft, final rough draft and final paper.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 英(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Thesis statement; define and narrow thesis statement		Prepare thesis statement; prepare research options for discussion	
第2回	General outline; edit general outline and indicate research directions		Begin Research	
第4回	General outline; edit general outline and indicate research directions		Continued	
第8回	Detailed outline; refine outline and confirm research directions		Research	
第10回	Detailed outline; refine outline and confirm research directions		Research	
第12回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback		Research	
第14回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback		Research	
第16回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback		Research	
第18回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback		Research	
第20回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback		Research	
第22回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback		Research	
第24回	First rough draft Editing and correction continued		Research	
第26回	First rough draft All references and research properly noted		Final editing	
第28回	Final rough draft; All references and research properly noted		Processes	
第30回	Final paper Final check and confirmation for university requirements		Review Final Paper; self assessment feedback	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	20% Adherence to time schedule ( Paper ) 80% Completion of Graduation Thesis			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Graduation Thesis papers must be written in English. It is asked that only students who are serious about doing research and about completing the paper take this course. Students should be aware that the graduation thesis paper is due near the end of December. Effort should be made to adhere to this deadline.			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Tuesday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 1st period (9:10-10:40)	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	高森 暁子		単 位	4
授業の目的と概要	英語文学、文化、言語に関するテーマについて、卒業論文を作成することを目的とします。オリジナルな視点を持ってテーマを設定することが、論文作成の第一歩であり、最終的に良い論文になるかどうかを左右します。テーマ選びの段階から話し合い、結論まで首尾一貫した議論ができるよう指導をします。論文提出後には口頭試問を行いません。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論文にふさわしい適切な言語表現ができる。</li> <li>2. 自ら設定したテーマについて、独自の視点をもって発展的に思考することができる。</li> <li>3. 自分の考えを論理的かつ説得力のある文章で論じることができる。</li> <li>4. 参考資料や文献を正しく参照・引用することができる。</li> <li>5. 議論の流れを考えて、論文の構成を考えることができる。</li> <li>6. 研究と論文の執筆を、1年間計画的に継続することができる。</li> <li>7. 論文作法を実につけ、書式を整えることができる。</li> <li>8. 自分の論文の内容を明確かつ論理的に説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目：「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			作品およびテーマの絞込み	
第2-3回 テーマの設定			研究計画作成に向けた準備	
第4-5回 研究計画の作成			資料の収集の方法について調べる	
第6-8回 資料・文献の収集と整理			先行研究に関する情報を収集する	
第9-10回 先行研究調査			論文の構成を検討する	
第11-13回 論文構成の決定			論文作法について調べる	
第14回 論文書式と体裁の確認			中間報告をまとめる	
第15回 中間報告			論文作成	
第16-24回 論文作成			論文を通読して点検する	
第25回 論文点検			指摘を受けた箇所を修正する	
第26回 論文校正			指示に従って論文を構成しなおす	
第27回 論文校正			指示に従って内容を修正する	
第28回 論文校正			指示に従って文言を修正する	
第29回 口頭試問準備			口頭試問に向けた想定練習	
第30回 口頭試問			口頭試問の振り返り	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 提出された論文			
小テスト等	なし			
成果発表	10% 口頭試問			
受講態度他	10% 自発的にアイデアを出し、継続的に執筆に取り組む姿勢を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	決まった授業時間はないので、相談のうえ指導のスケジュールを決めます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜5時間目	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	緒方 隆文		単位	4
授業の目的と概要	<p>目的1：卒業論文を書くことで、言語・文化に関する専門知識を身につけ、深い人間理解ができるようになる。目的2：言語としての英語または英語圏文化を、学んだり調べたりすることで、英語に対する理解を深め、様々な視点で英語をとらえることができるようになる。目的3：自ら設定したテーマを、探求する方法を身につける(調査・分類・執筆)。その過程で、論理的思考力、問題解決力を培うとともに、特定分野の知識・技能を身につけ、自己管理能力をも養う。</p> <p>前期は卒業ゼミナールと別に時間がとられ、全体指導が数回ある。研究の方法・手順を学ぶとともに、テーマを絞り込み研究の下準備を行っていく。後期は個別指導を受けていく。各自アポイントメントを取り、途中経過を指導教員から助言・指示を得て、作成作業を進めていく。内容への指導に集中できるように、スタイル・スベリング等、指導前にきちっと確認し適切なものしておくことが望まれる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語に関するテーマを一つ設定し、課題を探求し、卒業論文を書くことができる。このとき、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、より深い知見が得られるよう探求することができる。</li> <li>2. テーマに関することを、図書やインターネットを使い、情報を収集することができる。</li> <li>3. 収集した資料や情報を、適確に分類し、活用することができる。</li> <li>4. 資料や情報をもとに、オリジナルな論考または視点を入れて、論理的に筋道をたてて、文章にまとめることができる。</li> <li>5. 卒業論文の内容に関して、適切に説明することができる。</li> <li>6. 特定分野の知識・技能を説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」  英(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1-2回	テーマの決め方(プリント配布) / テーマ仮提出	テーマを決めるための情報収集およびテーマ決定		
第3-4回	MindMappingの書き方 / Mindmapの仮作成	テーマに関するMindMappingの作成		
第5-6回	プロポーザル / プロポーザル(Map)作成	全体像および資料等をもとに、プロポーザルの作成		
第7-8回	文献リストとフォーム / 文献リストの作成	収集したあるいはこれからする文献のリストを作成する		
第9-10回	資料の収集方法 / プロポーザル(Map)提出	資料の収集法の確認と計画、プロポーザルの作成		
第11-12回	文献リスト1提出 / 文献収集	文献を収集する。それと同時に文献を読破していく。		
第13-14回	原稿の書き方	原稿を書き始める。夏休みの計画をたてる		
第15回	夏休み計画の作成 / 文献リスト2	夏休み: Mappingを修正、原稿は半分程度まで書く		
第16-17回	原稿(2分の1)と全体図(Map)提出・相談	研究の方向と、全体像の確認を行い。原稿の加筆・修正を行う		
第18-19回	内容指導	指導を踏まえ、原稿の加筆・修正を行う		
第20-21回	原稿(3分の2)と全体図(Map)提出・相談	指導を踏まえ、第20-21回期間の原稿の加筆・修正を行う		
第22-23回	内容指導	指導を踏まえ、第22-23回期間の原稿の加筆・修正を行う		
第24-25回	原稿(全部)と全体図(Map)提出・相談	指導を踏まえ、第24-25回期間の原稿の加筆・修正を行う		
第26-27回	原稿の最終分量に達成提出・相談	指導を踏まえ、第26-27回期間の原稿の加筆・修正を行う		
第28-30回	最終チェック期間提出・相談 / 卒業論文提出	指導を踏まえ、第28-30回期間の原稿の最終確認を行い提出		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 途中定期的に、卒論内容の提出が課せられる。なお提出した課題は、次回の授業において、返却される。			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 卒業論文(学生便覧の規定に従うこと)。			
受講態度他	30% 卒論指導の受講状況、経過報告、口頭発表、ハンドアウト、卒論取組み度等を考慮し判断する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論提出の期日を厳守すること。遅れて提出した場合は、不合格とする。 卒論は提出すればよいというものではなく、その途中経過も重視する。そのため途中経過において決められたことを実行しない場合、評価に大きく影響する。細かいルールは、初回授業において配布する。 築女ネットを活用し、課題説明・課題提出などを行う。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	特になし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(メール等で、予約することが望ましい)	メールアドレス		



授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	アダチ 徹子		単 位	4
授業の目的と概要	英語教育に関するテーマを設定し、文献資料を読み進めたりリサーチを行うなどして研究を深め、その結果を論文にまとめることを目的とします。論理的な文章の書き方や、説得力のある根拠の提示方法などを習得し、論理的思考力や問題解決能力を高めます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語教育に関するオリジナルなテーマを設定し、課題解決を行うことができる。</li> <li>2. 必要な資料や情報を適切な方法で収集し、活用することができる。</li> <li>3. 適切な書式に則り、論理的な文章を書くことができる。</li> <li>4. 計画的に研究を行い、卒業論文を完成させることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第1回 オリエンテーション			論文とはどのようなものかを調べ、テーマを考え始める	
第2-4回 テーマの設定			基礎資料を読み、テーマを決定する	
第5-6回 資料・文献の収集			先行研究や関連領域を調べる	
第7-8回 調査方法の検討			課題解決のための方法を考える	
第9-10回 文献収集・リスト作成			必要な文献を収集し、リストを作成する	
第12-13回 口頭発表とディスカッション			発表の準備	
第14-15回 論文構成の決定			論文の流れを決定する	
第16-18回 論文作成 (1/3)			全体の1/3程度を作成する	
第19-21回 論文作成 (2/3)			全体の2/3程度を作成する	
第22-23回 論文作成 (3/3)			最後まで書き進める	
第24-25回 形式等の確認			論文の書式、文体、引用文献表など細かいところまで点検する	
第25-26回 点検及び修正			指摘を受けた箇所を修正する	
第27-28回 最終チェック及び提出			全体をチェックし、卒業論文を提出する	
第29回 口頭発表の準備			発表の準備をする	
第30回 発表会			発表を行い、質問等に答える	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 提出された卒業論文			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 口頭発表及び質疑応答			
受講態度他	20% 研究への姿勢や経過報告など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	主体的に取り組むことを期待します。締切は厳守してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』 戸田山和久 NHK出版			
オフィスアワー	火曜日4時間目 または予約により随時		メールアドレス	

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	間瀬 玲子		単 位	4
授業の目的と概要	フランス文化が英語圏文化に与えた影響の中から卒業論文のテーマを自分で考えて選ぶ。選んだテーマに基づいて学術的な観点から文献を収集する。前期は他の学生の前で中間発表を行う。その後中間レポートを提出する。後期は担当教員の指導のもとで卒業論文を完成し、研究発表において卒業論文に関する質問に答えることができることを目的とする。			
到達目標	1 フランス文化が英語圏文化に与えた影響の中から自分で卒業論文のテーマを見つけることができる。2 自分で選んだテーマに基づいて研究資料を収集することができる。3 筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとに他の学生の前で中間発表を行うことができる。4 研究の成果の一部を中間レポートにまとめることができる。5 中間レポートを再検討し、研究を更に進めることができる。6 筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとに他の学生の前でプレゼンテーションを行うことができる。7 論理的思考力や問題解決力を駆使して、研究の成果を卒業論文にまとめることができる。8 研究発表において卒業論文に関する質問に答えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 英(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目：基礎ゼミナール、映画学概論、比較文学			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回～第2回	卒業論文のテーマを考える。	課題(テーマの概略)		
第3回～第4回	卒業論文のテーマを決定する。	課題(テーマ決定)		
第5回～第6回	卒業論文の章・節を考える。	課題(章・節の案)		
第7回～第8回	卒業論文の章・節を決定する。	課題(章・節決定)		
第9回～第10回	参考文献を収集する。	課題(参考文献一覧表)		
第11回～第12回	参考文献の分析	課題(参考文献分析)		
第13回～第14回	筑女ネットに発表要旨をアップし、中間発表の準備を行う。	課題(発表要旨準備)		
第15回～第16回	中間発表、中間レポートを作成する。	課題(中間レポート)		
第17回～第18回	中間レポートを見直す	課題(中間レポート見直し)		
第19回～第20回	文献収集を行う。	課題(文献収集)		
第21回～第22回	卒業論文の下書きを提出する。	課題(卒業論文の下書き)		
第23回～第24回	卒業論文の問題箇所を訂正する。	課題(卒業論文の下書き)		
第25回～第26回	卒業論文を提出する。	課題(卒業論文の見直し)		
第27回～第28回	研究発表要旨、発表原稿を作成する。	課題(研究発表要旨、発表原稿)		
第29回～第30回	研究発表の準備及び研究発表	課題(研究発表の準備)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	80% 卒業論文			
小テスト等	0% なし			
成果発表	20% 研究発表			
受講態度他	0% なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	英語学科の規定に従い、卒業論文を完成させてください。			
教科書	教科書はありません。			
指定図書	新田誠吾『はじめてでも、ふたたびでも、これならできる! レポート・論文のまとめ方』すばる舎、佐藤佳弘『わかる! 伝わる! 文章力』武蔵野大学出版会			
参考図書	三浦信孝『現代フランス社会を知るための62章』明石書店、梅本洋一『パリ・フランスを知るための44章』明石書店			
オフィスアワー	後火曜日4講時。前もってメールで相談をしてください。前期はメールをください。	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	D. J. Wood		単位	4
授業の目的と概要	Students choose a topic of interest to research and deepen their understanding of by presenting their findings in the form of a thesis			
到達目標	Students acquire knowledge of a subject of interest to them and apply the necessary analytical and expressive skills to take their grasp further			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 proposal submission			Prepare for class 2 assignment	
第2回 detailed chapter by chapter description			Prepare for class 3 assignment	
第3回 chapter description feedback for rewriting			Prepare for class 4 assignment	
第4回 rewritten chapter description check			Prepare for class 5 assignment	
第5回 final version of chapter description			Prepare for class 6 assignment	
第6回 first draft of thesis in accordance with the revised proposal			Prepare for class 7 assignment	
第7回 initial feedback on the first draft of the thesis			Prepare for class 8 assignment	
第8回 follow-up comments and rewriting of the first draft			Prepare for class 9 assignment	
第9回 review of the reworked first draft			Prepare for class 10 assignment	
第10回 final outline thesis draft proposal presentation			Prepare for class 11 assignment	
第11回 extension of the thesis parameters to include all relevant background perspective			Prepare for class 12 assignment	
第12回 first rewrite including the additional perspectives			Prepare for class 13 assignment	
第13回 confirmation of the rewritten version			Prepare for class 14 assignment	
第14回 oral presentation of the rewrite for feedback			Prepare for class 15 assignment	
第15回 tentative final version submission			Prepare for review assignment	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	All study materials will be arranged in class			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	アジア文化学科教員		単 位	4
授業の目的と概要	担当の各専任教員の個別指導のもとで卒業論文の作成、またはこれにかわる卒業制作を仕上げることを目的とする。授業は、すべて自身の「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」担当の教員の指導にしたがう。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業ゼミナールを通じて、自分の卒業論文のテーマを再考し、最終決定に至る。</li> <li>・自分のテーマについて、様々な方法で資料や情報を収集し、分析することができる。</li> <li>・独自に集めた資料や情報を整理し、考察を加えることによって、卒業論文を作成する、または卒業制作を仕上げるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>ア(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>ア(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>ア(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。&lt;関連科目&gt;卒業ゼミナールⅠ、卒業ゼミナールⅡ</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第2回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第3回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第4回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第5回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第6回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第7回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第8回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第9回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第10回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第11回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第12回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第13回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第14回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第15回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% 卒業論文または制作			
小テスト等	-			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文は、選択科目ではありますが、全員が執筆することを前提として指導が行われます。必ず履修登録して下さい。なお、学生便覧に示される規定を確認し、卒業論文の提出期限を厳守して下さい。			
教科書	各教員の指示に従うこと			
指定図書	各教員の指示に従うこと			
参考図書	各教員の指示に従うこと			
オフィスワーカー	各教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	浅田(淳)・酒井(均)・大鷲(香)・榊(祐)・森田(理)・宇治(和)・針塚(進)		単位	4
授業の目的と概要	自らが設定した課題に対して、研究計画に基づいたデータ分析や文献研究を行い、卒業論文という形式にまとめる。研究成果を心理学研究法に則してまとめることで、論理的な思考や客観的に問題を解決する力を身につける			
到達目標	①創造的思考力を用いて、心理学に関わる問題を設定し、心理学の研究方法に即した研究計画が立てられる ②研究計画に基づいて、データを測定するために必要なアプローチを選択することが出来る ③客観的指標に基づいたデータ収集、あるいは文献研究を行なうことが出来る ④得られた結果を論理的にまとめ、客観的視点から考察を導き出すことが出来る ⑤問題や研究計画などを論文にまとめ、その成果を論理的に説明し、発表できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心(3)-②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 心(4)-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1・2回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照	テーマの設定、情報の収集		
第3・4回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照	テーマの設定、情報の収集		
第5・6回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照	テーマの設定、情報の収集		
第7・8回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照	テーマの設定、情報の収集		
第9・10回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照	テーマの設定、情報の収集		
第11・12回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照	テーマの設定、情報の収集		
第13・14・15回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照	プレゼンの準備(中間発表)		
第16回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	データの整理、論文執筆及び推敲		
第17・18回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	データの整理、論文執筆及び推敲		
第19・20回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	論文執筆及び推敲		
第21・22回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	論文執筆及び推敲		
第23・24回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	論文執筆及び推敲		
第25・26・27回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	論文執筆及び推敲		
第28・29回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	プレゼンの準備(最終発表)		
第30回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	プレゼンの準備(最終発表)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 卒業論文、抄録の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 卒論発表会にて、プレゼンテーションを行う。			
受講態度他	20% 口答試問			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	口答試問では、主査(担当ゼミ教員)、副査(学科の他の専任教員1名)の2名の先生をまじえ、論文について質疑を行う。該当学生は、指定された時間で卒業論文の概要を説明することが求められる。卒論発表会では、心理学科専任教員と在学生に対して発表を行う。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各ゼミによる			
オフィスアワー	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス		

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	山崎（安）・未定・高木（佳）・川崎（孝）・大西（良）・納戸（美）・栗田（紀）		単 位	4
授業の目的と概要	<p>卒業ゼミナールでの取り組みをさらに深化・発展させ、各専任教員による個別指導のもとで、「卒業論文」を作成することを目的とする。</p> <p>卒業研究での取り組みをさらに深化・発展させ、各専任教員による個別指導のもとで、「卒業論文」を作成する。「卒業論文」のテーマ範囲は、社会福祉、人権・社会問題及び人間の福祉に関する諸課題とする。</p> <p>卒業論文の履修は、学生各自の大学での個別の研究の総括として、「卒業研究」での課題を超えて、それぞれの研究テーマをより深く追求・発展させたいとする学生及び上級学校（大学院等）への進学を考えている学生を対象とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら取り組む研究テーマが設定できる。</li> <li>2. 研究の視点を理解し、研究方法を身につけることができる。</li> <li>3. 1・2の成果として「卒業論文」が作成できる。</li> <li>4. 「卒業論文」を発表したり、それについて討議する能力が習得できる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>福(2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>福(3)-②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>福(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1～3回	卒業論文のテーマ設定		資料収集・検討	
第4～6回	資料収集および研究方法の学習		発表資料（レジュメ）作成	
第5～12回	卒業論文構想発表		卒業論文構想のプレゼンテーション	
第13～20回	中間報告		中間報告のプレゼンテーション	
第21～28回	卒業論文発表および討論		発表と討論	
第29～30回	卒業論文の研究成果確認		卒業論文の総括	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ 卒業論文の審査を主とする。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 口頭試問での受け答えなど。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本ゼミは、遠隔授業にて行う。受講の具体的な方法については、別途、指示する。必ず、筑女ネットの本授業のページを参照すること。			
教科書	各教員による。			
指定図書	各教員による。			
参考図書	各教員による。			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照。		メールアドレス	

授業科目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当教員	山田 直子		単 位	4
授業の目的と概要	卒業論文は大学での学びや経験を形に表す一つの手段です。この授業では、多文化関係学（異文化コミュニケーション、多文化共生、言語と文化などを含む）の領域から卒業論文のテーマを考え、担当教員のアドバイスを受けながら調査研究・論文の執筆を行います。特徴はフィールドワークです。資料で学んだ事象について、実際の現場に身を置き、参与観察や聞き取り調査を行います。卒業研究の取り組みを通して、専門知識を身につけるだけでなく、論理的思考力、課題解決力、自己管理能力を養います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマに関する研究状況を把握し、説明することができる。</li> <li>2. 学術的な研究に答えを与えるために必要な文献やデータの収集方法を習得することができる。</li> <li>3. 資料やデータをもとに、論理的に考え、分析し、その結果を文章や口頭で説明することができる。</li> <li>4. 研究を通して、多様な価値観に触れることを楽しみ、理解し、受け入れることができるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 英 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション・アイスブレイキング	テーマを決めるための情報収集と検討		
第2～3回	テーマの設定	研究計画作成に向けた準備		
第4～5回	研究計画の作成	文献調査の方法について調べる		
第6～7回	資料・文献の収集と整理	先行研究について検討する		
第8～9回	先行研究のレビュー	フィールドワークの場所と調査の方法について検討する		
第10～12回	フィールドワーク調査	論文の構成を検討する		
第13回	論文構成の決定	論文執筆の基本ルールについての資料を読む		
第14回	論文の文章表現法やルールについて学ぶ	中間報告の準備を行う		
第15回	中間報告	論文作成		
第16～25回	論文作成	チェックリストを使って論文を点検する		
第26回	論文点検	指摘を受けた箇所を修正する		
第27回	論文校正	指示に従って論文の加筆・修正を行う		
第28回	論文校正	指示に従って論文の加筆・修正を行う		
第29回	口頭試問の準備	口頭試問に向けた想定練習を行う		
第30回	口頭試問	口頭試問の振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 提出された論文			
小テスト等	なし			
成果発表	10% 口頭試問			
受講態度他	10% 主体的・継続的に調査や論文執筆に取り組む姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	相談の上、指導スケジュールを決めます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します			
オフィスワー	水曜4時間目	メールアドレス		

授業科目	ソフトウェア演習C【演習】		開講時期	前期
担当教員	古屋 啓子		単位	1
授業の目的と概要	<p>社会人の基礎力として欠かせないプレゼンテーションは、情報を的確に伝えるだけでなく、相手を説得し、行動を促進することが求められる。そこには、論理的思考能力、確かな日本語コミュニケーション力、豊かな表現力など社会人として必要とされる能力が凝縮されている。</p> <p>本講義では、PowerPointの操作能力を向上するだけでなく、実際にプレゼンテーションを作成し、発表する体験を通して社会で通用するプレゼンテーション技術の習得を目的とする。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>PowerPointの基本から応用までの操作を習得し、スライドやポスターを作成できる。</li> <li>プレゼンテーションの配布資料を印刷することができる。</li> <li>PowerPointを使用してプレゼンテーションを実施することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>現 (3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業の進め方と準備について 講義の説明と授業環境の確認		予習：シラバスを読んでおく		
第2回 PowerPointとプレゼンテーションの作成 プレゼンテーションツールとしてのスライドの作成の一連の基本操作		復習：メールソフトの署名、連絡先の設定を完了する		
第3回 訴求力のあるスライドの作成 (1) 文字による表現方法 (フォントの種類、サイズ、色、埋め込みなど)		復習：文字による表現についてまとめ、課題に取り組む		
第4回 訴求力のあるスライドの作成 (2) 表、グラフによる表現方法 (グラフの用途と種類、表のメリットとポイント)		復習：グラフ、表による表現についてまとめ、課題に取り組む		
第5回 訴求力のあるスライドの作成 (3) 図形による表現方法		復習：図形による表現についてまとめ、課題に取り組む		
第6回 訴求力のあるスライドの作成 (4) 画像による表現方法		復習：画像による表現についてまとめ、課題に取り組む		
第7回 与えられたテーマでプレゼンテーションを作成 (共通テーマ1) 共通演習課題1		復習：自動プレゼンテーションについてまとめ、課題に取り組む		
第8回 プレゼンテーションの実行と相互評価 クラス全員の共通演習課題1をスライドショーで実行し、相互評価シートを作成		復習：共通テーマ1の振り返り、課題に取り組む		
第9回 共通テーマ1の反省と共通テーマ2のプレゼンテーションの作成 共通テーマ2の提出		復習：課題に取り組む		
第10回 共通テーマ2のプレゼンテーションのビデオ化、自由テーマの計画書作成 共通テーマ2にナレーションをつけてビデオを作成		予習：自由テーマの計画書を作成		
第11回 自由テーマのプレゼンテーションの作成		予習：自由テーマのプレゼンテーションの完成		
第12回 ポスターの作成 自由テーマのプレゼンテーションのためのポスター作成し提出		復習：ポスターを完成		
第13回 自由テーマのプレゼンテーションの発表 クラス全体で自由テーマのプレゼンテーションを実行し、相互評価・意見交換		予習：プレゼンテーションの準備		
第14回 自由テーマのプレゼンテーションの発表 クラス全体で自由テーマのプレゼンテーションを実行し、相互評価・意見交換		予習：プレゼンテーションの準備		
第15回 まとめ 自由テーマのプレゼンテーションの発表 クラス全体で自由テーマのプレゼンテーションを実行し、相互評価・意見交換		講義を振り返り、質問の準備		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	プレゼン課題提出・発表 (80%)			
受講態度他	授業に対する意欲 (20%)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>コンピュータおよびWord、ブラウザ、メールの基本的操作ができること。</p> <p>提出物は欠席された場合も後日自習をし提出してください。</p>			
教科書	ファイル配布			
指定図書	なし			
参考図書	『よくわかる Microsoft PowerPoint 2013 基礎』FOM出版 『よくわかる Microsoft PowerPoint 2013 ビジネス活用編』FOM出版			
オフィスワーカー	授業の前後、またはメールで相談してください。	メールアドレス		



授業科目	ソフトウェア演習D【演習】		開講時期	後期
担当教員	冨永 信一		単位	1
授業の目的と概要	本演習は、データベースソフトの操作方法等に習熟するための演習を中心に行い、資格検定試験に合格できる程度の実力を養成する。データベースソフトであるMicrosoft Accessの基本的な使用方法を確認し、その応用的な使用方法まで身に付けることを可能とする。同ソフトウェアで何が出来るのか理解し、簡単なデータベースを作成したり、既存のデータベースをカスタマイズしたりする事ができるようになることを目標とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リレーショナルデータベースについて説明することができる。</li> <li>2. 簡単なデータベースを設計し作成することができる。</li> <li>3. Microsoft Accessの操作ができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>現 (3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス、データベース概説			データベースについての復習	
第2回 データベースの要素：テーブル			テーブルに関する復習	
第3回 データベースの要素：リレーションシップ			リレーションシップに関する復習	
第4回 データベースの要素：クエリ			クエリに関する復習	
第5回 データベースの要素：フォーム			フォームに関する復習	
第6回 データベースの要素：レポート			レポートに関する復習	
第7回 小テスト			小テストに関する復習	
第8回 SQL			SQL についての復習	
第9回 正規化			正規化についての復習	
第10回 データベースの作成：テーブルとリレーションシップ			作成したデータベースのテーブルとリレーションシップについて見直す	
第11回 データベースの作成：クエリ			作成したデータベースのクエリについて見直す	
第12回 データベースの作成：フォーム			作成したデータベースのフォームについて見直す	
第13回 データベースの作成：レポート			作成したデータベースのレポートについて見直す	
第14回 総まとめ			全体の復習	
第15回 小テスト			小テストに関する復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	授業中に提示される課題 40%			
小テスト等	小テスト 20% x 2			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度 20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語厳禁。			
教科書	「30時間でマスター Access2013」 実教出版 (変更予定)			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	体育Ⅰ【演習】	開講時期	後期
担当教員	宮平 喬・古田 瑞穂	単位	1
授業の目的と概要	本授業では、遊びを通じて子どもの基本的な運動機能の発達に必要な体の使い方を学ぶ。それを踏まえ、指導に必要な創造的な思考力を身に付けることを目的としている。また、適切な運動遊びを安全に指導・援助ができる能力を身に付け、子どものモデルになる保育・教育者として優れた所作や運動の示範ができることを目的としている。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊具を用いた基本的な遊びを実践することができる。</li> <li>・遊びを通じた運動や小学校で行われる遊具を用いた基礎的な運動を指導することができる。</li> <li>・音楽と人の動きをうまくコーディネートし、表現することが可能となる。</li> <li>・運動あそびの楽しさを知り、安全に指導・援助することができる</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション(授業の目的、計画、課題等)、体ならし		子どもの遊び、運動に関する知識を得ておく(予習)	
第2回 ダンス・ステップ		基本的なダンス・ステップを調べる(予習)	
第3回 子どもの体操・ダンス		子ども向けの体操について調べる(予習)	
第4回 小型遊具を用いた遊び ①フープ フープを用いた表現運動		ナワトビの基本技術を習得しておく(予習)	
第5回 小型遊具を用いた遊び ②縄跳び 縄跳びを用いた表現運動		授業で学んだナワトビの技の完成度を上げる(復習)	
第6回 小型遊具を用いた遊び ③ボール ボールを用いた表現運動		実技テストの練習(復習) フープ	
第7回 複数の小型遊具を組み合わせた運動(フープ、縄跳び、ボール) 3種の遊具を用いた表現運動		コーディネーショントレーニングについて調べる(予習)	
第8回 大型遊具を用いた運動 ①マット運動、②跳び箱の基本運動		実技テストの練習(復習) 跳び箱運動	
第9回 大型遊具を用いた運動 ①マット運動、②跳び箱、③鉄棒の基本運動		実技テストの練習(復習) 鉄棒運動 運動創作発表の準備(予習)	
第10回 大型遊具を用いた運動 ①マット運動、②跳び箱、③鉄棒、④平均台の基本運動		実技テストの練習(復習) 運動創作発表の準備(予習)	
第11回 大型遊具と小型遊具を融合させた遊び		運動創作の発表準備(予習) 各自素案を持ち寄り協議する	
第12回 運動創作の発表及び振り返り(音源の選定)		運動創作発表の準備(予習) 音源に合った動きを考える	
第13回 運動創作の発表及び振り返り(音源に適したふりつけ)		運動創作発表の準備(予習) 音と身体活動の調和を高める	
第14回 運動創作の発表及び振り返り(グループでの動きの精練化)		運動創作発表の準備(予習) リハーサル	
第15回 授業総括及び授業評価		授業で実施した運動遊びについて整理・分類し知見とする(復習)	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	5% 運動創作の内容を記した学習指導案		
小テスト等	30% 実技テストは、小型遊具と大型遊具を用いて行う。原則として課題達成まで指導を行う。		
成果発表	25% 音楽を用いた運動遊びをグループで考案し発表を行う。 発表した作品はビデオ撮影し最終週に全員で鑑賞する(フィードバック)。		
受講態度他	40% 受講態度が悪い学生は10~40%減点する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	安全のため髪をまとめ、爪を伸ばさないこと。 子どもの気持ちに戻って実技を行うことが望ましい。 身体運動を通じて常に保育者の立場になって運動あそびを考えるよう心がける。 授業進行を妨げたり、他の受講者の妨げとなるような行為はしないこと。		
教科書	なし		
指定図書	特になし		
参考図書	柳沢秋孝『柳沢運動プログラム-基礎編-』オフィスエム 細江文利『新版 体育の学習』光文書院		
オフィスアワー	月曜日の12:20-13:10(宮平) 月曜日・水曜日12:20-13:10(古田)	メールアドレス	

授業科目	体験－アジア音楽と舞踊【演習】		開講時期	後期
担当教員	田村 史子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>目的：アジアには、多様なパフォーマンス・アーツ（音楽・舞踊・演劇などの上演芸術）があります。このような芸術の多くは、何世代にもわって口承で伝えられてきたもので、人々の感性や考え方を知る上で、とても重要な手がかりを与えてくれます。この実習では、インドネシアの伝統的な合奏音楽である“ガムラン”の理論と演奏について学び、それを通してアジア文化の実感的な理解を目指します。また、自らが学んだ異文化を他の人々に伝達する方法を学びます。</p> <p>概要：ガムランは日本の雅楽や西洋のオーケストラにも匹敵するアジアを代表する合奏音楽です。日本の伝統音楽とも西洋の音楽とも全く 異なった独自の構造を持っています。この授業ではその原理を実践的に学びます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガムランの音楽や楽器の構造を理解し、その演奏の実際を感じ取れるようになる。</li> <li>2. ガムランやその舞踊などにまなび、その文化的背景を知ることができる。</li> <li>3. 他の人々に自分の学んだことを伝達することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	ガムランはどのような音楽であるか	復習・予習		
第 2回	楽器の構造の理解	復習・予習		
第 3回	楽器の製造法	復習・予習		
第 4回	ジャワ・ガムランの合奏の基礎① メロディーについて知る	復習・予習		
第 5回	ジャワ・ガムランの合奏の基礎②合奏の構造を知る	復習・予習		
第 6回	ジャワ・ガムランの合奏の基礎③リズムについて知る	復習・予習		
第 7回	ジャワ・ガムランの合奏の基礎④楽器同士の合わせ方を知る	復習・予習		
第 8回	「ジャワ・ガムランを通して知る人々の生活と考え方・感じ方」 ①	復習・予習		
第 9回	「ジャワ・ガムランを通して知る人々の生活と考え方・感じ方」 ②	復習・予習		
第10回	「ジャワ・ガムランを通して知る人々の生活と考え方・感じ方」?	復習・予習		
第11回	ジャワ舞踊の基礎①体の構え方	復習・予習		
第12回	ジャワ舞踊の基礎②歩き方	復習・予習		
第13回	ジャワ舞踊の基礎③パターンを知る「	復習・予習		
第14回	ジャワ舞踊の基礎④音楽と合わせる方法を知る	復習・予習		
第15回	総括 ガムランはどのような力を持つ音楽であるか	復習・予習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	50%			
成果発表	20			
受講態度他	30			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的に試みてみること。			
教科書	随時プリントを用意。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授業科目	体験－伝統文化【演習】		開講時期	前期
担当教員	小林 知美・川上 貴子		単位	2
授業の目的と概要	<p>テーマ：伝統美術</p> <p>日本をはじめとする東アジアの伝統的美術である絵画や書道、また近代以前の彫刻の主流をなしていた仏像などの美術作品は、現代の日本人にとってあまりなじみのない存在といえます。この授業では、日本の伝統的美術のなかでとくに絵画史と書道史とに焦点をあて、それぞれの見学レポート概要を学び、実技や実地調査を通して体験的理解を深めることを目的とします。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統的美術作品を鑑賞し、その作品について美術史的解説をすることができる。</li> <li>・ 美術作品の実地調査の方法について具体的に説明し、実践することができる。</li> <li>・ 作品調査の成果を調書としてまとめることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：授業の目的と方法「東アジアにおける書画」	身近な絵画作品を探す		
第2回	文化財調査法	絵画作品の調書作成【課題①】		
第3回	調書の確認・検討	比較作品を探す		
第4回	日本絵画史概説 日本絵画の比較～技法、主題、形式	比較作品の調書作成【課題②】		
第5回	日本絵画の見方 日中絵画の比較	身近な絵画作品と比較作品から作品解説のテーマを設定する		
第6回	作品解説執筆	作品解説完成【課題③】		
第7回	作品解説（プレゼンテーション）と質疑応答 その1	作品解説についての意見交換		
第8回	作品解説（プレゼンテーション）と質疑応答 その2	作品解説についての意見交換		
第9回	絵画史授業の振り返り	絵画史授業の振り返り		
第10回	書道史概説1 〈篆書〉	篆書を書く【課題④】		
第11回	書道史概説2 〈隸書〉	「曹全碑」を書く【課題⑤】		
第12回	書道史概説3 〈草書〉	「蘭亭序」を書く【課題⑥】		
第13回	書道史概説4 〈楷書〉	書欧陽詢「九成宮醴泉銘」と顔真卿「顔氏家廟碑」を書く【課題⑦】		
第14回	書道史概説5 〈平仮名〉	額田の王の歌を書く【課題⑧】		
第15回	書道史概説5 〈片仮名・まとめ〉	書道史概説を受講して【課題⑨】		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	計60％ 前半20％【課題①～②】（各10％） 後半40％【課題④～⑧】（各8％）			
小テスト等	0％			
成果発表	計10％ 前半10％【課題③】 後半0％			
受講態度他	計30％ 前半20％【課題③】への取り組み姿勢 後半10％【課題④～⑧】への取り組み姿勢（各2％）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	フィールドワークの実施が不可能の場合、後半は書道体験を行う。その際の道具（筆ペンでもよい）は各自で準備すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	随時	メールアドレス		

授業科目	体験－ミュージック・セラピー【演習】		開講時期	前期
担当教員	田村 史子		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：音楽は不思議な力を持つ。言葉には表すことのできない深い思いを伝えたり、人と自然や超自然的な存在との交流を可能にしたりする。また、心や体に障がいを持つ人たちが、音楽によって自由に動けるようになる瞬間さえある。この授業では、ミュージック・セラピー（音楽療法）について基本的なことを学んだ後、実際に、障がいを持つ人たちのグループとともにガムランを用いて体験プログラムを行う。体験のための音楽としてガムランを用いるので、体験－アジア音楽実習・アジア舞踊実習を履修していることが望ましい。</p> <p>概要：アジアの音楽は、その構造の中に、さまざまな立場の人々が、ともに輝き、精神的に豊かに生きていくための知恵と力が組み込まれている。その力を感じ取るために、理論的・実践的に学び、実際に、地域の知的障がいを持つ人たちと交流会を持って、学んだことを実践する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミュージック・セラピー（音楽療法）について基本的なことを理解する。</li> <li>2. 音楽（“ガムラン”）を用いて、障がいを持つ人たちと交流することを理解する。</li> <li>3. さまざまな人たちとの“ともいき”の可能性について考える支点を得る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	導入：ミュージック・セラピー（音楽療法）について	復習と予習		
第2回	導入：ガムランの持つ力について	復習と予習		
第3回	実技：ガムランの実技の研修①	復習と予習		
第4回	実技：ガムランの実技の研修②	復習と予習		
第5回	実技：ガムランの実技の研修③	復習と予習		
第6回	実技：ガムランの実技の研修④ 障がいを持つ人たちの交流会（11月中の日曜日）	復習と予習		
第7回	実技：ガムランの実技の研修⑤ 障がいを持つ人たちの交流会（11月中の日曜日）	復習と予習		
第8回	音楽の力：交流会の分析から学ぶ	復習と予習		
第9回	音楽の力：よりよい演奏を目指す	交流のための曲や歌詞を作る		
第10回	音楽の力：よりよい演奏を目指す	復習と予習		
第11回	音楽の力：音楽と人と社会のかかわりについて	復習と予習		
第12回	音楽の力：音楽と人と社会のかかわりについて	復習と予習		
第13回	実技：ガムランの実技の研修⑥ 障がいを持つ人たちの交流会（12月中の日曜日）	レポート作成		
第14回	実技：ガムランの実技の研修⑥ 障がいを持つ人たちの交流会（12月中の日曜日）	レポート作成		
第15回	交流会の結果を検討し問題点・青果などについてまとめる	復習と予習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	50％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら体験することがすべてです。積極的な関与を求めます。</li> <li>2. 交流会は2回、授業外の時間帯に行われます。本学で行われる場合と、学外で行われる場合があります。その場合の交通費は自己負担です。</li> </ol>			
教科書	随時プリントを用意			
指定図書	生野里花『音楽療法士のしごと』			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授業科目	体験－ミュージアムで学ぶアジア【演習】		開講時期	前期
担当教員	小林(知)・徐(涛)		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業は、史料や文献、ケーススタディを通して、アジアの文化交流史における日本の位置づけを考えます。「東アジア文化圏」をテーマとして、その形成過程と現在について学び、「東アジア」というアイデンティティの将来について考えます。</p> <p>授業内容は二部構成で、一部では史料や文献の精読を通じて、東アジア文化圏が形成され、変遷した歴史を中心に取り上げます。二部では、越境するポップカルチャーと東アジア・アイデンティティの関連について議論し、東アジア文化圏の今日の在り方に対する理解を深めます。</p> <p>また、状況が許せば、太宰府という屋根のないミュージアム（博物館や史跡など）や福岡アジア美術館に足を運び、東アジア文化圏の歴史と現代を実地体験します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史料や画像、文献、実地（またはヴァーチャル）見学など、五感を通した体験を通じて、アジアの文化交流史における日本の位置づけについて、とくに東アジア文化圏を中心に、理解を深める。</li> <li>・21世紀における東アジア文化圏の在り方を、ポップカルチャーの越境や地域統合の進行を踏まえ、事例をあげて説明できる。</li> <li>・現代の国際社会におけるアジアの現状と課題について、具体的な例をあげて説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(3)-②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		授業スケジュールと方法を確認し、次回にむけて準備する		
第2回 東アジアの歴史と文化		配布資料 「世界としての東アジア文化圏」を読む		
第3回 「世界としての東アジア文化圏」、史料と解説		配布資料 「東アジア世界論の有効性」を読む		
第4回 「東アジア世界論の有効性」、史料と解説		配布資料 「漢字文化の伝播と受容」を読む		
第5回 「漢字文化の伝播と受容」、史料と解説		配布資料 「中国文化の受容と定着」を読む		
第6回 「中国文化の受容と定着」、史料と解説		配布資料 「遠の朝廷 大宰府」を読む		
第7回 屋根のない「ミュージアム」－太宰府		関連HPを視聴する		
第8回 まとめ：東アジア文化圏の歴史		前半授業まとめレポート「東アジア世界論の歴史に学ぶ」執筆		
第9回 現代東アジア文化圏の形成とその特徴（「都市中間層」の文化、ポップカルチャーの越境など）		配布資料「『混成文化』の展開と広がる『都市中間層』」を読む		
第10回 ケーススタディ①日本における韓流現象と韓国に対する国民感情		課題①： 事前に2000年以降日本における韓流の展開を調べておく		
第11回 ケーススタディ②中国における日本のポップカルチャーの受容と歴史認識		課題②： 事前に中国における日本のポップカルチャーの受容を調べておく		
第12回 ポップカルチャーと東アジア・アイデンティティ		配布資料「越境するメディア文化と国民感情」を読む		
第13回 東アジア地域統合と東アジア・アイデンティティ		配布資料「東アジアとは何か―（文明）と（文化）から考える」を読む		
第14回 東アジア文化圏の歴史と現在		前半授業まとめレポート「東アジア文化圏の現在」執筆(課題)		
第15回 レポートの執筆・提出		これまでの振り返り		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% (前半・後半まとめレポート各20%)			
小テスト等	0%			
成果発表	60% (毎回の課題へのとりくみ前半・後半各30%)			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>下記のテキストを使用します。各回授業で使用部分のみPDF資料を配布します。できれば購入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・李成市『東アジア文化圏の形成』（世界史リブレット）山川出版社、2000年</li> <li>・杉原敏之『遠の朝廷 大宰府』（シリーズ「遺跡跡を学ぶ」61）新泉社、2011年</li> <li>・青木保「『混成文化』の展開と広がる『都市中間層』」『東アジア共同体と日本の針路』NHK出版、2005年、67-115頁</li> <li>・小倉紀蔵『東アジアとは何か―（文明）と（文化）から考える』弦書房、2012年</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	太宰府市・太宰府市教育委員会・太宰府市文化スポーツ振興財団『まるごと太宰府歴史展』（2012）ほか、適宜紹介します。			
オフィスアワー	常時メールにて受け付けます	メールアドレス		

授業科目	対照言語学【講義】		開講時期	前期
担当教員	高井 岩生		単 位	2
授業の目的と概要	留学生と接していると、我々日本人からは想像もできないような間違いをよく聞く。彼らの目には、日本語はどのように映っているのだろうか。日本語を客観的に捉えるには、他の言語と比較し、その相違点を見つけ出すのが有効である。本講義では、日本語と英語、中国語（場合によれば他の言語）との比較を通して、特に日本語教育に繋がるような日本語の特性を明らかにすることを目的とする。基本的には、音韻、形態、統語の3分野における日本語と他言語との比較分析を行う。尚、毎回の授業時に、出席の確認を兼ねた練習問題を解き、その提出を義務とする。			
到達目標	日本語と英語・中国語の音韻、統語、語用の各分野の相違点を理解する。日本語の誤用例を分析し、原因を見つけることができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。 英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。 ア (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、参考図書、資料の紹介など）		なし	
第2回	対照言語学の概論（方法論と実例）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第3回	音声と表記の誤用		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第4回	音声Ⅰ（子音と母音、音節とモーラ）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第5回	音声Ⅱ（音節とモーラ）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第6回	音声Ⅲ(音素)		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第7回	小テスト		第6回目までに配布した資料を読み直しておくこと。	
第8回	文法の誤用		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第9回	文法Ⅰ（述語の形態変化）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第10回	文法Ⅱ（名詞の格）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第11回	文法Ⅲ（自他動詞）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第12回	文法Ⅳ（受身、使役、可能）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第13回	文法Ⅴ（アスペクト、テンス）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第14回	小テスト		第8回目から第13回目までの資料を読み直しておくこと。	
第15回	授業のまとめ、授業評価アンケート、試験について		授業で挙げたポイントについて復習すること。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	第13回目授業～第15回目授業のそれぞれの回において、小テストを実施。小テスト20%×3回＝60%			
成果発表	なし			
受講態度他	40% 課題の提出回数及びその内容に基づき評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語・スマホの閲覧は原則的に禁止します。授業内容で分からないところがあれば、そのままにせずに、調べたり、質問する習慣をつけましょう。			
教科書	使用せず。プリント配布			
指定図書	特になし。必要があれば、授業中に紹介する。			
参考図書	特になし。必要があれば、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	木曜日昼休み、または授業の前後		メールアドレス	

授業科目	対人コミュニケーション論Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	高山 百合子		単位	2
授業の目的と概要	<p>「コミュニケーション」とは、単に「情報伝達」というに止まらず、コミュニケーションの交わされる場の状況全体を含みきわめて大きな概念である。日本語では「伝え合い」と言うのがふさわしい。</p> <p>人のコミュニケーション、伝え合いにおいて（機械や動物の場合もある）、「相互理解」を抜きにすることはできない。日本語のスムーズな相互理解のために機能する重要な要素として「敬語」がある。この授業では、日本語による対人コミュニケーションの重要なトピックである「敬語」（待遇表現）を中心に学んでいく。</p> <p>その最終的な目的は、受講生の皆さんが対人コミュニケーションのポイントを習得し、同時に一人前の敬語の遣い手となることである。そのため、たびたび練習や練習問題を織り交ぜながら授業を進めていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニケーションの概念を理解し、説明することができる。</li> <li>2) 敬語（待遇表現）のしくみを理解し、説明、および実践することができる。</li> <li>3) 敬語（待遇表現）の適切な使い方を理解し、より良い使い方に修正することができる。</li> <li>4) 相互理解の重要性を理解し、対人関係の構築に前向きに取り組むことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>日(3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	コミュニケーション、対人コミュニケーションとは	小レポート①（コミュニケーションとは）		
第2回	敬語（待遇表現）について（概説）	受講後課題①		
第3回	敬語のしくみ	受講後課題②		
第4回	尊敬語について	受講後課題③		
第5回	謙譲語について（1）	受講後課題④		
第6回	謙譲語について（2）	受講後課題⑤		
第7回	丁重語について	受講後課題⑥		
第8回	敬語的人称について	受講後課題⑦		
第9回	所有者敬語について	受講後課題⑧		
第10回	さまざまな尊敬語（1）	受講後課題⑨		
第11回	さまざまな尊敬語（2）	受講後課題⑩		
第12回	ここまでのまとめ	小レポート②（敬語（待遇表現）とは）		
第13回	ノンバーバル・コミュニケーション	受講後課題⑪		
第14回	社会的距離など	受講後課題⑫		
第15回	まとめ、コミュニケーションとは	授業の復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	小レポート 20％			
小テスト等	受講後課題 80％			
成果発表	なし			
受講態度他	授業に積極的・前向きに臨んでいるかを加味します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遠隔授業という、学生にとっても、教員にとっても初めてのやり方です。みんなで授業を作るという姿勢で臨んでくれることを期待します。			
教科書	各種の配付資料に拠る。			
指定図書	とくに指定しない。			
参考図書	とくに挙げない。			
オフィスアワー	本年度は、基本的には常時メールで質問・相談を受け付けます。	メールアドレス		



授業科目	対人コミュニケーション論Ⅱ【演習】	開講時期	後期
担当教員	池澤 明子	単 位	2
授業の目的と概要	この授業の目的は、就職活動と職業生活に必要なコミュニケーションとマナーに関して、基礎的な知識と実践力を獲得することである。ひいては、コミュニケーションそのものについて批判的な思考力と表現力を獲得することである。授業および授業外学修では、教材から知識を獲得した上で、それらを使用した実践活動を行う。さらに、成果をクラスで共有することで、相互に学びを広げ、深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 敬語や文体に関して、言語学・社会言語学・文化の観点から説明できる</li> <li>2. 就職活動と職業生活に必要なコミュニケーションとマナーに関して、言語学・社会言語学・文化の観点から説明できる</li> <li>3. コミュニケーションそのものについて批判的に考え、それを表現することができる</li> <li>4. 就職活動と職業生活に必要なコミュニケーションとマナーに関して、基礎的な知識を持っている</li> <li>5. 就職活動と職業生活に必要なコミュニケーションとマナーに関して、基礎的な実践力を持っている</li> <li>6. 就職活動と職業生活に必要なコミュニケーションとマナーに関して、履修後も自律的に学んでいける</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき最低60分必要。詳しくは学生便覧参照		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回	オリエンテーション、自己紹介、敬語と文体について言語学・社会言語学・文化の観点から考える	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
第2回	教科書第一部第1章 これからのキャリア形成と就業意識	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
第3回	教科書第一部第2章 職場のコミュニケーション	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
第4回	教科書第一部第3章 来客応対と訪問	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
第5回	教科書第一部第4章 電話応対	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
第6回	教科書第一部第5章 交際業務	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
第7回	教科書第一部第6章 自己紹介とプレゼンテーション	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
第8回	教科書第二部第1章 仕事の取組み方	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
第9回	教科書第二部第2章 会議業務	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
第10回	教科書第二部第3章 ビジネス文書の基本	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
第11回	教科書第二部第4章 社内文書の作り方	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
第12回	教科書第二部第5章 社外文書の作り方	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
第13回	教科書第二部第6章 業務・職種の種類、会社と経営、情報収集	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
第14回	エントリーシート・履歴書・添え状の書き方	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
第15回	面接対策	教材を読む、確認問題に回答する、作文を書く	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	10% 試験はない。15回目の面接のシナリオを期末課題とし、10%の評価をあてる。		
レポート	45% 各回の作文など 1回3点×15回		
小テスト等	30% 各回の確認問題など(アンケート) 1回2点×15回		
成果発表	ない。各回の課題が成果発表にあたる		
受講態度他	15% 授業参加度 1回1点×15回		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各回の確認問題回答と作文の提出をもって、出席とみなす</li> <li>2. 提出は、次の授業の前日23:59までに行う</li> <li>3. 期限までに提出しない確認問題と作文の点数は得られない(遅れての提出は受け付けない)</li> <li>4. 確認問題と作文は、教材の内容に即しているのので、教材を熟読した上で行う</li> <li>5. 授業参加度は、提出物の不足や完成度の低さにより減点する</li> </ol>		
教科書	授業で説明する		
指定図書	岡野絹江編集代表(2019)『よくわかる社会人の基礎知識～マナー・文書・仕事のキホン～』ぎょうせい		
参考図書	才木弓加(2020)『内定獲得のメソッド 面接 自己PR 志望動機』マイナビ出版 渡辺由佳(2019)『どんなに緊張してもうまく話せる!「言いたいこと」が思いどおりに伝わる話し方のコツ』日本実業出版社		
オフィスアワー	Teamsで連絡	メールアドレス	

授業科目	太宰府学【講義】		開講時期	前期
担当教員	井上 理香		単位	2
授業の目的と概要	<p>皆さんが学生生活を送る太宰府は、いにしへの昔からさまざまな歴史事象の舞台となってきました。教科書をひもとくと、そこに登場する地名や人物の足跡・伝説などが、街の至る所に遺っています。市の面積の17%にも及ぶ広大な史跡地は、福岡都市圏の中でも貴重な自然環境を有して多くの人々に親しまれ、太宰府天満宮への参拝客を含めて、年間1千万人も観光客が訪れる街として全国に知られています。</p> <p>この授業を通して、歴史・文化と共に歩んできた太宰府という地域の特徴と、その風土を守り伝えてきた人々の取り組みを学び、若い皆さんが、永いバトンリレーの一走者となって、さらに次の世代へ太宰府の魅力を伝えていただく契機とします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学の所在地である「太宰府」の主要な史跡や文化財について、自分の言葉で説明することができる。</li> <li>2. 生活の中で太宰府の歴史や文化が感じられる場所・空間を発見し、現代社会と歴史的遺産とを関連づけて認識できる。</li> <li>3. 伝統文化が守り伝えられてきた背景を知り、分かりやすく冊子に表現することで、理論的思考とコミュニケーション・スキルを磨く。</li> <li>4. 太宰府の魅力を身近な人々に伝える行為を通じて、史跡の保存・広報普及に寄与する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション「太宰府のイメージ」 (授業の目標、課題・成果物、授業の進め方と評価、基礎知識の確認)	教科書『太宰府紀行』、参考図書『目でみる太宰府』通覧。レポート①「作成		
第2回	太宰府の魅力を知る(1) 「新元号「令和」で起こったこと」 (1年前の出来事を振り返り、太宰府と令和の関わりを知る)	別途資料配布		
第3回	太宰府の魅力を知る(2) 「太宰府天満宮と菅原道真」 (菅原道真の生涯をたどり、太宰府天満宮の起こりや天神信仰について考える)	教科書「太宰府天満宮と光明寺」を読んでおく。		
第4回	訪ねるシリーズ(1) 「大宰府観光の中核・太宰府天満宮を訪ねて」 (天満宮参道から境内とその周辺)」	教科書「榎社から般若寺へ」を読んでおく。		
第5回	太宰府の魅力を知る(3) 「古代の国際情勢と大宰府」 (古代の国際情勢とともに大宰府を理解。水城跡・大野城跡)	教科書「遠の朝廷」「四王寺山」「水城跡」を読んでおく。		
第6回	大宰府の魅力を知る(4) 「大宰府」と「太宰府」 (市の名の起こりとなった大宰府とは何か)	教科書「大宰府政庁跡」「観世音寺と戒壇院」を読んでおく。		
第7回	訪ねるシリーズ(2) 「史跡のまち太宰府～水城・大野城を訪ねて」	別途史跡・施設関連資料配布		
第8回	訪ねるシリーズ(3) 「史跡のまち太宰府～大宰府政庁跡・観世音寺・戒壇院を訪ねて」	別途史跡・施設関連資料配布		
第9回	太宰府の魅力を守り、伝える(1) 「文化のまち太宰府～さいふまいりと観光名所」 (太宰府観光の萌芽)	別途資料配布		
第10回	太宰府の魅力を守り、伝える(2) 「幕末～明治、変わる太宰府」 (町の変貌、歴史のまちへ)	別途資料配付		
第11回	太宰府の魅力を守り、伝える(3) 「博覧会から博物館へ」 (幕末明治の太宰府から九州国立博物館の誘致・建設まで)	別途資料配付		
第12回	太宰府の魅力を守り、伝える(4) 「史跡の保存と活用」 (大宰府史跡が現在の姿になるまでのものがたり)	別途資料配付		
第13回	訪ねるシリーズ(4) 「九州国立博物館を訪ねて」 (九州国立博物館が目指すもの)	別途資料配布		
第14回	訪ねるシリーズ(5) 「観光のまち太宰府の多様性と物語をたどる」 (文化の町・太宰府の多様性とものがたり、伝える人々の活動)	別途資料配付		
第15回	総括・プレゼンテーションパンフレット制作と成果発表 (「太宰府案内パンフレット」を各自で作成し、合評会を行う。)	「太宰府パンフレット」作成・提出、プレゼン準備、総括レポート作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% ①「太宰府のイメージ」、②「総括レポート」			
小テスト等	30% 各回授業時の課題提出			
成果発表	30% 成果物(パンフレット)制作と、最終回プレゼンテーション(人に伝える)			
受講態度他	10% 授業参加(アンケート回答による出欠確認)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外での授業の機会が多いことがこの講座の特徴ですが、今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学外での授業を行うことができないので、別の方法で行います。</li> <li>・最終回は「はじめて太宰府を訪れる人」を対象に、太宰府の魅力を「パンフレット」にまとめ、プレゼン後総括レポートと共に提出して下さい。</li> </ul>			
教科書	(財) 古都太宰府保存協会編『太宰府紀行』海鳥社			
指定図書	なし			
参考図書	(財) 古都太宰府保存協会編『目で見る大宰府』			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	中・近世文学演習Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	安永 美恵		単位	2
授業の目的と概要	近世文学分野の基礎的な知識・技能を身につけることを目的とする科目です。これまで得た知識を活用しつつ、主体的に作品を読むための力をつけます。具体的には、本文を翻字し、解釈するための参考書籍を知り、これを使用して、正確な本文解釈ができるようになることです。ここでは、井原西鶴の作品を取り上げ、古典利用と、当代性を反映した表現の具体的な様相を学びます。同時に、人情の描写を味わい、鑑賞します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>くずし字の字母を学び、版本の影印を読む練習ができる。</li> <li>本文解釈の根拠となる適切な用例・資料の探し方を知り、手順を把握することができる。</li> <li>西鶴文学の表現の特徴や、作者の着眼点について、説明することができる。</li> <li>興味のあるテーマを設定し、必要な調査を行い、文章構成を考え、レポートにまとめることができる。</li> <li>作品を通して、人が生きることについて、考えを深めることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>1年次「中・近世文学概論」、2年次の「中・近世文学講読Ⅰ・Ⅱ」、「古典文学基礎演習」で学んだ知識を活用する科目です。「中・近世文学演習Ⅱ」と合わせて、近世文学の専門的な知識を深めることができ、「卒業論文」で、近世資料を取り扱うための</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス： 授業概要の説明			授業概要の注意すべき点を確認する	
第2回 西鶴の略年譜を知る： 俳諧活動			配布プリントの復習	
第3回：西鶴の略年譜を知る： 浮世草子			配布プリントの復習	
第4回 西鶴の略年譜を知る：晩年			配布プリントの復習	
第5回 くずし字をよんでみよう：字母を学ぶ			くずし字の練習問題を解く	
第6回 くずし字をよんでみよう：振り仮名から漢字を類推する			くずし字の練習問題を解く	
第7回 用例を引く：工具書・手順を知る			用例の引き方の説明を復習する	
第8回 その他の参考資料を知る：江戸時代の生活・風俗			配布プリントの復習	
第9回 序文を読んでみる① 商習慣			配布プリントの復習	
第10回 序文を読んでみる② 西鶴の発句			配布プリントの復習	
第11回 『世間胸算用』巻2の4「門柱も皆かりの世」を読む（発端）			配布プリントの復習	
第12回 『世間胸算用』巻2の4「門柱も皆かりの世」を読む（展開部）			配布プリントの復習	
第13回 『世間胸算用』巻2の4「門柱も皆かりの世」を読む（大晦日）			配布プリントの復習	
第14回 作品に対する感想、他の話へのアプローチを考える			課題：これまでの演習内容の復習・レポート準備	
第15回 まとめ、レポート作成			課題：レポート作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	25% 期末レポート(担当した範囲に関するもの)			
小テスト等	60% 毎回の小テスト・小課題への取り組み			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 授業への参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	原則的に、オンデマンド方式による遠隔授業を行う。もし、大学図書館の資料の使用が可能になった場合には、図書館での演習授業を入れることがある。リアルタイム授業を可能にする機器や動作環境、同じく受講生の環境が安定的に確保でき、目的のために有効であると判断できた場合には、Teams等を用いた授業を行うことがある。但し、参加者の状況を考慮せずに進めることはしない。また、後期に対面授業ができる場合には、前期の学びを後期演習に生かすことができます。			
教科書	プリント配布。伊地知鐵男編『仮名変体集』新典社。(但し、すでに『字典 かな』笠間書院等のくずし字読解用書籍を持っている場合は、それを用いてよい)。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業時に一覧を配布するほか、適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜 4限、金曜 5限	メールアドレス		

授業科目	中・近世文学演習Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	安永 美恵		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、近世文学作品を主体的に読む力をつけることを目的としている。本文を解釈するだけでなく、作品に対しての自分なりの問題意識を持てることが望ましい。プリント資料作成や、発表内容を伝える力も培い、同時に、他の参加者との意見交換によって理解を深めることができる。調査・検討結果をレポートにまとめることにより、論理的思考力を養うことができる。作品は、井原西鶴の『西鶴諸国はなし』を取り上げ、各話ごとに異なる世界を扱っている奇談集の様々な資料に触れることにより、知識の幅を広げたい。多様な読みの可能性があるため、積極的に謎解きに関わって欲しい。原則的に、1回一人から二人担当予定。なお、受講生数により、授業計画を一部変更することがある。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本文の影印版をもとに翻字し、注釈書の諸注を参照後、語釈・注・挿絵の説明をつけることができる。</li> <li>2 語釈、通釈の根拠となる適切な用例を掲出したり、出典や他作品との比較を行うことができる。</li> <li>3 工具書や参考文献を適切に使用して調査し、発表資料（レジュメ）を作成して、内容を分かりやすく説明できる。</li> <li>4 担当した話、部分に対しての自分なりの見解を述べるができる。</li> <li>5 担当発表日に、責任をもって発表内容を準備し、他の受講生と相互に意見交換ができる。</li> <li>6 興味のあるテーマを設定し、文章構成を考え、的確にまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>1年次「中・近世文学概論」、2年次の「中・近世文学講読」Ⅰ・Ⅱ、「古典文学基礎演習」で学んだ知識を活用する科目です。「中・近世文学演習Ⅰ」と合わせて、近世文学の専門的な知識を深めることができ、「卒業論文」で、近世資料を取り扱うための基礎的な内容を含みます。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス：講義のねらい、作品紹介、発表資料について	くずし字を読む練習をする		
第2回	演習資料作成の説明。	作品に関する資料を読む		
第3回	担当スケジュール、担当箇所決め。崩し字を読む練習。	担当する作品を読む		
第4回	演習資料を図書館で調査する。	演習準備：担当箇所の翻字作業を始める		
第5回	PCスポット授業：国文学研究資料館データベース利用方法他	演習準備：語釈のための用例等の調査		
第6回	発表準備：出典探索、参考文献の利用	演習準備：文献・資料の調査・収集		
第7回	発表準備：同時代資料、地図の見方	課題：発表準備 予習：「見せぬ所は女大工」前半を読む		
第8回	発表と質疑応答：「見せぬ所は女大工」前半	課題：発表準備 予習：「見せぬ所は女大工」後半を読む		
第9回	発表と質疑応答：「見せぬ所は女大工」後半	課題：発表準備 予習：「不思議の足音」前半を読む		
第10回	発表と質疑応答：「不思議の足音」前半	課題：発表準備 予習：「不思議の足音」後半を読む		
第11回	発表と質疑応答：「不思議の足音」後半	課題：発表準備・レポート準備 予習：「残る物とて金の鍋」前半を読む		
第12回	発表と質疑応答：「残る物とて金の鍋」前半	課題：発表準備・レポート準備 予習：「残る物とて金の鍋」後半を読む		
第13回	発表と質疑応答：「残る物とて金の鍋」後半	課題：発表準備・レポート準備 予習：「命に替わる鼻の先」を読む		
第14回	発表と質疑応答：「命に替わる鼻の先」	課題：レポート準備（担当話の関連作品を読む）		
第15回	まとめ、レポート作成準備	課題：レポート作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 期末レポート（担当した章に関するもの）			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 口頭発表と質疑応答			
受講態度他	20% 質問・意見			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回の作品を事前に読んでおくこと。また、担当決定後は責任を持って発表すること。なお、受講生数により、担当形式やスケジュール、取り上げる作品と章を変更することがある。そのため、上記は仮の範囲として理解しておくこと。</p> <p>卒業論文で近世文学を選択する可能性のある場合は、必ず受講してほしい。</p> <p>・授業連絡に「筑女ネット」を利用することがあります。</p>			
教科書	配布プリント。伊地知鐵男編『仮名変体集』新典社。（但し、『字典 かな』笠間書院等のくずし字読解のための参考書籍を持っている場合はそれを使用して下さい）。			
指定図書	なし。			
参考図書	『新日本古典文学大系』岩波書店、『新編日本古典文学全集』小学館、『対訳西鶴全集』明治書院。西鶴作品他については授業時に一覧を配布する。			
オフィスアワー	火曜 5限 金曜 4限	メールアドレス		

授業科目	中・近世文学概論（日本文学史を含む）【講義】		開講時期	後期
担当教員	安永 美恵		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、日本文学のうち、中世文学、近世文学を対象として、その概要を知り、文学史的な基礎知識を得ることを目的としています。古代と近代との間のこの時期には、社会が大きく変化しました。文学にも変遷があり、多様化が進みます。そのため全てを扱うことはできませんが、前時代の継承と新しい展開に着目し、作品の一部を読み、その変化について理解を得られるよう進めます。特に、思想、宗教の影響、表現の様々な注目をします。耳で聞き、声に出して鑑賞することは、現代では少なくなりました。古典を学ぶことで、人間の思考の多様性に触れ、新しい視点を獲得し、現代的な課題に対しても、柔軟な思考を得る手がかりとして欲しいと考えています。文学史的な変遷を把握することは、先人たちの言語表現や文化全般の理解にも役立ちます。なお、全ての回を対面授業で行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中世文学と近世文学について、文学史の概要を理解し、説明できる。</li> <li>2 授業で学んだ作品を通して、代表的な文学観や文芸思潮を踏まえ、表現技法を説明することができる。</li> <li>3 授業で取り上げた作品・分野について、文学史的な意義を説明できる。</li> <li>4 授業内容をを通して、文学作品と、地理的・歴史的背景や自然・文化的傾向など、様々な事柄との関連を考察することができる。</li> <li>5 授業で学んだ作品について、自分なりの視点で鑑賞文を書くことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「古代文学概論」「近・現代文学概論」と合わせて、日本文学史全体を概観できます。1年次「江戸の小説を読む」や上位学年の「中・近世文学講義Ⅰ・Ⅱ」「中・近世文学演習Ⅰ・Ⅱ」で具体的な作品に触れ、理解を深めることができます。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業概要説明・中世文学概観	配布プリント予習、「中世」概説。「三大歌風」を調べる。		
第2回	新古今和歌集の時代	配布プリント予習、「中世」第1章1、2		
第3回	新古今時代の和歌	配布プリント予習、「中世」第1章3、4		
第4回	連歌の展開	配布プリント予習、「中世」第3章1		
第5回	説話	配布プリント予習、「中世」第3章2		
第6回	軍記物語	配布プリント予習、「中世」第5章・第6章		
第7回	日記・紀行・随筆	配布プリント予習、「近世」概説、序章		
第8回	近世文学概観・雅と俗	配布プリント予習、「近世」概説、序章、第7章		
第9回	和歌（国学）	配布プリント予習、「近世」第1章（掲載された作品を読む）		
第10回	幕初の儒者たちの文学観など	配布プリント予習、「近世」第3章		
第11回	漢詩	配布プリント予習、「近世」第3章（掲載された作品を読む）		
第12回	狂詩・狂歌	配布プリント予習、「近世」第1章2		
第13回	俳諧	配布プリント予習「近世」第2章		
第14回	近世小説 仮名草子・浮世草子	配布プリント予習、「近世」第5章		
第15回	近世小説 読本、まとめ	近世文学の復習、レポート作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	10%			
小テスト等	75% 毎回の課題。			
成果発表	なし。			
受講態度他	15%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・授業中は、読み・考えることに集中する。これを中断するような行為（授業中の入退室、授業に関係のない私語など）は慎みましよう。 ・毎回の課題、レポート提出には、筑女ネットを使用します。			
教科書	なし。プリントを配布する。受講生の内、上位学年の日本語・日本文学科生で、この科目のテキストとして久保田淳編『日本文学史』（おうふう）を過年度に購入していた人は、これをテキストとして使用することができます。			
指定図書	なし。			
参考図書	『新編日本古典文学全集』小学館 『新日本古典文学大系』岩波書店 他			
オフィスアワー	火曜5限 金曜4限。（臨時の会議、打ち合わせが入ることもあります）	メールアドレス		

授業科目	中・近世文学講読Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	安永 美恵		単位	2
授業の目的と概要	日本の中・近世の文学作品を取り上げ、読解する講義を通して、日本語・日本文学分野の文学作品を読むための基礎知識を身につけることを目的とする科目です。近世の文学では、前時代までの古典に関する知識を素材として取り入れることが多く、それが特徴ともなっています。この講義では、古典をどのように利用してきたかに注目して進めます。また、『おくのほそ道』の優れた文章を味わって鑑賞します。ここでは特に、『源氏物語』、西行、および歌枕に関する古典素材に注目して読んでいきます。歌枕探訪の旅は、失われた自然、失われた遺跡と向き合う場面を多く含みます。そこに描かれた心情は、現代人にも共感できる面があります。人間にとっての普遍的な心情を受け止めてもらいたいと思います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業で取り上げた作品について、古典作品が、どのように利用されたのか、具体的、論理的に説明することができる。</li> <li>2 授業で取り上げた作品、文章について、正しい解釈をすることができる。</li> <li>3 紀行文としての『おくのほそ道』の特徴を、具体的に説明することができる。</li> <li>4 授業で学んだことを踏まえて、自分の着眼点や問題意識をもって、鑑賞文やレポートを書くことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>「中・近世文学概論」での学びを、具体的な作品を通して理解することができる科目です。「中・近世文学講読Ⅱ」と合わせることで対象分野が広がります。また「中・近世文学演習」で、ここで得た知識や読解力を実践的に鍛えることができます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス 授業概要の説明 文学史の復習	概要をよく理解し、課題に取り組む		
第2回	連歌から俳諧へ	連歌に関する資料の復習		
第3回	松尾芭蕉について	貞門と談林に関する資料の復習		
第4回	芭蕉と俳諧	芭蕉と俳諧に関する資料の復習		
第5回	連句	連句に関する資料の復習		
第6回	芭蕉の紀行文	芭蕉の紀行文に関する資料の復習		
第7回	『おくのほそ道』 発端・旅立ち	「旅立ち」に関する課題に取り組む		
第8回	『おくのほそ道』 日光	「日光」までの本文と発句評釈を読む		
第9回	『おくのほそ道』 那須野	「那須野～雲巖寺」を読む		
第10回	『おくのほそ道』 白河の関	「那須野」に関する課題に取り組む		
第11回	『おくのほそ道』 松島	テキスト本文「殺生石・遊行柳、白河の関」を読む		
第12回	『おくのほそ道』 象潟	テキスト本文「宮城野」～「松島」を読む		
第13回	『おくのほそ道』 多太神社	テキスト本文「出羽三山」～「象潟」を読む		
第14回	『おくのほそ道』 全体の構成	テキスト本文「市振」「～「大垣」」を読む		
第15回	まとめ、レポート準備	レポート準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	25%			
小テスト等	60% (小テスト、小課題含む)			
成果発表	なし。			
受講態度他	15%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンド方式による遠隔授業を行う。</li> <li>・指示に従って、課題に取り組むこと。</li> <li>・授業では、『おくのほそ道』全文を読む時間はありますが、受講生は全文を読んでください。</li> <li>・シラバスは、状況によって、変更する場合があります。</li> </ul>			
教科書	額原退蔵『新版 おくのほそ道 現代語訳/曾良随日記付き』角川学芸出版			
指定図書	なし。			
参考図書	・授業時に指示する。			
オフィスアワー	火曜 4限、金曜 5限	メールアドレス		

授業科目	中・近世文学講読Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	安永 美恵		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、上田秋成の読本『雨月物語』を取り上げ、現代小説とは異なる近世小説の世界を理解できるようになることを目的としています。具体的には、1. 構想や文章の表現に、和漢の古典がどのように利用されているか。2. 作品の背景となる歴史・思想や、作者の人間把握はどのようであるか。3. 挿絵の役割とは。などの点から解説してゆきます。作品の生まれた時代の政治・文化的傾向、学問の動向、海外文化の影響など、作品・作者を取り巻く大きな環境の理解が必須であることも、理解して欲しいところです。特に、高い評価を受けている文体の、緻密な表現を読み解くことは、読解力、洞察力を培うことにつながります。現代語訳によるストーリー把握だけでは不十分です。配布する資料や、他の話と合わせて読み、普遍的な価値がどこに見いだせるかを考えてみてください。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業で取り上げた作品を理解し、内容について説明することができる。</li> <li>2 典拠とその利用の仕方を説明し、論理的にその利用意図を考察することができる。</li> <li>3 注目すべき表現や挿絵等について、表現の意図を考察することができる。</li> <li>4 授業内容を踏まえて、作品の主題について考察し、考えを述べることができる。</li> <li>5 作者や作品について、文学史上の位置と意義を述べるができる。</li> <li>6 作品の種々の表現に関し、興味を持った事柄について調査し、考えを述べるができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>「中・近世文学概論」での学びを、具体的な作品を通して理解することができる科目です。「中・近世文学講読Ⅰ」と合わせるにより対象分野が広がります。また「中・近世文学演習」で、ここで得た知識や読解力を実践的に鍛えることができます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	作者・上田秋成について	テキストの略年譜や秋成の資料を読む。		
第2回	『雨月物語』について	テキストの「解説」を読んで復習する。		
第3回	「序」を読む	テキスト「白峯」を読む。		
第4回	「菊花の約」を読む1 出合い	「白峯」から「菊花の約」への連環について考える。		
第5回	「菊花の約」を読む2 背景	テキスト「浅茅が宿」を読む。		
第6回	「菊花の約」を読む3 出典	「菊花の約」から「浅茅が宿」への連環について考える。		
第7回	「菊花の約」を読む4 創作	「菊花の約」全体と、出典とを読み比べてみる。		
第8回	「菊花の約」を読む5 怪異と主題	テキスト 「蛇性の姪」を読む		
第9回	「蛇性の姪」を読む 1 出合い	「蛇性の姪」の恐ろしさを考える。		
第10回	「蛇性の姪」を読む 2 背景	テキスト「吉備津の釜」を読む		
第11回	「蛇性の姪」を読む 3 出典	「吉備津の釜」の正太郎と豊雄の人物像を考える		
第12回	「蛇性の姪」を読む 4 改変	『道成寺』を読む		
第13回	「蛇性の姪」を読む 5 怪異	作品の描く「怖さ」について考える		
第14回	古典教養の浸透と近世文学	古典教養の浸透に関する資料を復習する		
第15回	講義のまとめと試験について	総復習をする。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	30%(小レポート含む)			
小テスト等	60%(小テスト、小課題含む)			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンデマンド方式による遠隔授業を行う。授業内容は、筑女ネットを使用して提供する。</li> <li>・ 筑女ネットによる指示に従って、課題に取り組むこと。</li> <li>・ この授業時間中には、『雨月物語』全文を読む時間はありませんが、受講生は、自分で全文を読んでおくことが望ましい。</li> <li>・ シラバスは、状況によって、変更することがあります。その際には、連絡をします。</li> </ul>			
教科書	上田秋成著 鷗月洋『改定版 雨月物語 現代語訳付』角川ソフィア文庫			
指定図書	無し			
参考図書	新編日本古典文学全集78『英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語』小学館、井上泰至『春雨物語』角川ソフィア文庫 その他は、授業時に指示する			
オフィスアワー	火曜 5限 金曜 4限	メールアドレス		

授業科目	中国現代文学【講義】		開講時期	後期
担当教員	石 其琳		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「中国文学」は歴史が長く、古典より現代へと転形しつづけている。この講義は、新世紀の中国文学として、そのモダンからポストモダンへの実態を理解し、その問題点を考察することが目的とする。</p> <p>中国現代文学の発展は、時代と共に範疇を拡大し続けている、特に新ジャンル「微型小説」を確立させたことを理解できる。現代中国文学の広義的創作視点から、「華文学」作品の地域性を重要視することが不可欠である。特にアジア文化を学習する上で、「中国現代文学」から「世界華文学」として展開し、アジア地域の作品が描く現実の理解を深め、作品が提示するさまざまな問題を啓発学習する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新世紀の中国文学について、その成立と展開過程を認識し、説明できる。</li> <li>2. 中国現代文学の新しいジャンルの「微型小説」の確立を理解し、説明できる。</li> <li>3. 中国現代文学の領域、特に[微型小説]創作の地域性の視点より、「世界華文学」の位置づけと重要性を述べるができる。</li> <li>4. 現在世界華文学の作品内容表現から、さまざまな問題点を具体的に説明することが出来る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。          関連科目：中国語初級、中級、上級、中国少数民族の文化、東アジア入門、東アジア近現代史</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	新世紀の中国文学概論Ⅰ（現代文学への転形）	ミニレポートを提出		
第 2回	新世紀の中国文学概論Ⅱ（五四新文化運動について）	各回講義内容についてミニレポートを提出		
第 3回	新世紀の中国文学概論Ⅲ（モダンからポストモダンへの確立）	各回講義内容についてミニレポート提出		
第 4回	言語と文学（口頭文学の歴史と現代への展開）	各回講義内容についてミニレポートを提出		
第 5回	文学作品の映画化とその表現問題	各回講義内容についてミニレポートを提出		
第 6回	現代文学大系における台湾現代文学の社会意識の変遷	各回講義内容についてミニレポートを提出		
第 7回	中国現代文学の新ジャンルの「微型小説」について	各回講義内容についてミニレポートを提出		
第 8回	「中国現代微型小説」の作品購読～その表現と社会的意義	各回講義内容についてミニレポートを提出		
第 9回	世界華文学への視角とアジア地域への展開	各回講義内容についてミニレポートを提出		
第10回	世界女性華文学への視角	各回講義内容についてミニレポートを提出		
第11回	世界華文学作品の講読（香港作家の作品について）	各回講義内容についてミニレポートを提出		
第12回	世界華文学作品の講読（シンガポール作家の作品について）	各回講義内容についてミニレポートを提出		
第13回	世界華文学作品の講読（マレーシア作家の作品について）	各回講義内容についてミニレポートを提出		
第14回	世界華文学作品の講読（インドネシア作家の作品について）	各回講義内容についてミニレポートを提出		
第15回	中国現代文学および世界華文学についての総まとめ	総まとめのレポートを提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80%（毎授業中提出するミニレポート）			
小テスト等	なし			
成果発表	20%（総まとめのレポート）			
受講態度他	0%（出席状況を学習態度として参考にする）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎講義後、当日の講義内容に関する小課題（ミニレポート）をその場で書き、提出することをしなければならないので、欠席をしないよう注意すること。授業に対しての質疑も小課題に記入することが出来る。質疑に対し、必要に応じて次回の授業で返答する。</p>			
教科書	プリント資料配布			
指定図書	<p>①「土地と靈魂」 王幼華 著 中国書店 ②新しい中国文学史 藤井省三／大木康 著          ③ 中国を読む「新語：二十一世紀の大国」 莫邦富著 日本放送出版協会</p>			
参考図書	中国20世紀文学 中国文芸研究会 編 白帝社			
オフィスアワー	火、水、木、金	メールアドレス		



授業科目	中国語Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	荀 暁崢		単位	1
授業の目的と概要	<p>この授業では大学で初めて中国語を学ぶ学生を対象とし、中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につける。また、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方をマスターする。</p> <p>学ぶ教科書の範囲は、第5課までで、第6課以降は、「中国語Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。</p>			
到達目標	<p>1、発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。</p> <p>2、教科書（第5課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。</p> <p>3、教科書（第5課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</p> <p>4、授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	ウォーミングアップ・発音のポイント①（音調・単母音）	配付プリントの講読		
第2回	発音のポイント②（重母音と子音・声調符号の位置）	教科書P6～7「発音のポイント」、配付プリントの復習		
第3回	発音のポイント③（子音・-n、-ngを持つ母音・音調の変化）、単語の発音練習	教科書P7～8「発音のポイント」、配布プリントの復習		
第4回	発音のポイント④（声調の変化・単語の発音練習）	教科書第1課の予習：P11 単語と本文の読み書きを練習しておくこと。		
第5回	第1課 自己紹介：本文とポイント（人称代名詞・名前の問い方と答え方・動詞・疑問詞）	教科書第1課の復習、学習シート		
第6回	第1課 自己紹介：本文の復習と練習問題	教科書第2課の予習：P17 単語と本文の読み書きを練習しておくこと。		
第7回	第2課 妹が2人います：本文とポイント（数字と年齢の言い方・副詞・「有」・動詞）	教科書第2課の復習、学習シート		
第8回	第2課 妹が2人います：本文の復習と練習問題	教科書第3課の予習：P23 単語と本文の読み書きを練習しておくこと。		
第9回	第3課 道をたずねる：本文とポイント（方位詞・年月日曜日の言い方・「在」・語気助詞など）	教科書第3課の復習、学習シート		
第10回	第3課 道をたずねる：本文の復習と練習問題	教科書第4課の予習：P29 単語と本文の読み書きを練習しておくこと。		
第11回	第4課 買い物：本文とポイント（指示代名詞・助数詞・形容詞・助動詞・疑問詞など）	教科書第4課の復習、学習シート		
第12回	第4課 買い物：本文の復習と練習問題	教科書第5課の予習：P35 単語と本文の読み書きを練習しておくこと。		
第13回	第5課 アルバイト：本文とポイント（有点儿と一点儿・程度補語など）	教科書第5課の復習、学習シート		
第14回	第5課 アルバイト：本文の復習と練習問題	教科書第5課の復習、学習シート		
第15回	前期まとめ、総合練習の実施	まとめワーク		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	・課題の提出10%、課題の完成度30%			
小テスト等	・小テスト35%			
成果発表	・指定された内容の朗読20%			
受講態度他	・5%（遠隔授業への取り組み、指定された期間内に筑女ネットにアクセスする）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に取り組むこと。</li> <li>・予習、復習を行うこと。</li> <li>・欠席は授業回数の三分の一（5回）を超えないこと。</li> </ul>			
教科書	児野道子・鄭高咏著 『ちからになる中国語』 金星堂			
指定図書	なし			
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相原 茂・石田 知子・戸沼 市子著 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』 同学社</li> <li>・『中日辞典』『日中辞典』 小学館、『標準中国語辞典』 白帝社、その他は授業中に指示する。</li> </ul>			
オフィスアワー	火曜昼休み（なるべく授業の前後にご相談ください。）	メールアドレス		

授業科目	中国語Ⅰ【演習】	開講時期	前期
担当教員	梁 桂穎	単位	1
授業の目的と概要	<p>この授業では大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とし、中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につける。また、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方をマスターする。</p> <p>学ぶ教科書の範囲は、第5課までで、第6課以降は、「中国語Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2、教科書（第5課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。</li> <li>3、教科書（第5課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4、授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回	ガイダンス・発音のポイント①（声調・単母音）	教科書・配布プリントの復習・CDを聞く	
第2回	発音のポイント②（重母音・子音）	教科書・配布プリントの復習・CDを聞く	
第3回	発音のポイント③（子音の復習・声調符号の位置・声調の変化）	教科書・配布プリントの復習・CDを聞く	
第4回	発音総復習（重母音・子音・声調符号の位置・声調の変化）	CDを聞く	
第5回	第1課 自己紹介 文法ポイント学習(人称代名詞・名前の問い方と答え方・動詞・疑問詞)	教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第6回	第1課 自己紹介 文法ポイントの復習 本文・ドリル・絵単語・リスニング	文法・ドリルの復習・本文プリント・CDを聞き単語を覚える	
第7回	第2課 妹が2人います 文法ポイント学習(数字と年齢の言い方・副詞・「有」・動詞)	教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第8回	第2課 妹が2人います 文法ポイントの復習 本文・ドリル・絵単語・リスニング	文法・ドリルの復習・本文プリント・CDを聞き単語を覚える	
第9回	第3課 道をたずねる 文法ポイント学習(方位詞・年月日曜日の言い方・動詞「在」)	教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第10回	第3課 道をたずねる 文法ポイントの復習 本文・ドリル・絵単語・リスニング	文法・ドリルの復習・本文プリント・CDを聞き単語を覚える	
第11回	第4課 買い物 文法ポイント学習(指示代名詞・助数詞・形容詞・助動詞・疑問詞)	教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第12回	第4課 買い物 文法ポイントの復習 本文・ドリル・絵単語・リスニング	文法・ドリルの復習・本文プリント・CDを聞き単語を覚える	
第13回	第5課 アルバイト 文法ポイント学習(有点儿と一点儿・程度補語など)	教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第14回	第5課 アルバイト 文法ポイントの復習 本文・ドリル・絵単語・リスニング	文法・ドリルの復習・本文プリント・CDを聞き単語を覚える	
第15回	第1課～第5課総復習・まとめの課題	振り返り・まとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% (復習課題の提出・確認テスト)		
小テスト等	なし		
成果発表	30% (まとめ課題の提出)		
受講態度他	30% 出席状況(筑女ネットへのアクセス状況)・個人反復練習		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業へ参加。</li> <li>・予習、復習を行うこと。</li> <li>・理解度などに合わせ、授業計画を一部変更する場合がある。</li> </ul>		
教科書	児野道子・鄭高味著 『ちからになる中国語』 金星堂		
指定図書	なし		
参考図書	『中日辞典』『日中辞典』 小学館、その他は授業中に紹介する。		
オフィスアワー	授業の前後に相談して下さい。	メールアドレス	

授業科目	中国語Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	王 暁芳		単 位	1
授業の目的と概要	この授業では大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とし、履修者が中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につけること、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方を身につけることを目標とする。 学ぶ教科書の範囲は、第5課までである。第6課以降は、「中国語Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス・発音のポイント1～4	CDを聞く。発音を練習する。		
第2回	発音のポイント5～7	CDを聞く。発音を練習する。		
第3回	発音のポイント8～12	CDを聞く。発音を練習する。		
第4回	第1課 自己紹介 本文とポイント（人称代名詞・名前のたずね方と答え方・動詞・疑問詞・的の用法）	本文を音読する（p11）		
第5回	第1課の復習と練習	文法、練習問題の復習（p12～16）		
第6回	第2課 妹が2人います 本文とポイント（数字と年齢の言い方・副詞「也と都」・「有」・「喜？」）	本文を音読する（p17）		
第7回	第2課の復習と練習	文法、練習問題の復習（p18～22）		
第8回	第3課道を尋ねる	練習問題の答えの確認		
第9回	第3課道を尋ねる 練習問題の説明	本文を音読する（p23）		
第10回	第1課～第3課の復習と確認小テスト	文法、練習問題の復習（p24～28）		
第11回	第4課 買物 本文とポイント（指示代名詞・助数詞・形容詞・助動詞・疑問詞など）	本文を音読する（p29）		
第12回	第4課の復習と練習	文法、練習問題の復習（p30～34）		
第13回	第5課 アルバイト 本文とポイント（有点儿と一点儿・程度補語・好好儿）	本文を音読する（p35）		
第14回	第5課の復習と練習	文法、練習問題の復習（p36～40）		
第15回	今学期学習した内容の復習	定期試験の準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	50％課題として出します。			
成果発表	50％課題提出			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は少しずつ進めるので、できるだけ毎回の勉強をすること。課題を必ず出すように努力してください。			
教科書	児野道子・鄭高味著『ちからになる中国語』金星堂			
指定図書	なし			
参考図書	中日辞典			
オフィスワー	メールあるいは授業中にteams。	メールアドレス		

授業科目	中国語Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	関 久美子		単 位	1
授業の目的と概要	この授業では大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とし、中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。また、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方をマスターする。 学ぶ教科書の範囲は、第5課までで、第6課以降は、「中国語Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	1 発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。 2 教科書（第5課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。 3 教科書（第5課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。 4 授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	中国語の特徴についての紹介・簡単な挨拶言葉・発音学習1…ピンイン・声調	課題を解いて、ピンイン・声調について理解する		
第2回	発音学習2…単母音・複合母音・子音（有気音と無気音・そり舌音）	課題を解いて、単母音・複合母音・子音について理解する		
第3回	発音学習3…鼻母音・声調変化・アル化	課題を解いて、鼻母音・声調変化・アル化について理解する		
第4回	発音学習4…発音の総復習・中国文化の理解（DVD）	課題を解いて、発音について復習する		
第5回	第1課「自己紹介」…文法ポイント学習（人称代名詞・断定の動詞“是”・動詞述語文・名前の尋ね方）	課題を解いて、1課の新出文法について理解する		
第6回	第1課 文法ポイントの復習・本文・練習問題	本文の発音を音読練習、本文を書写する		
第7回	第2課「二人の妹」…文法ポイント学習（数字の表現・年齢の表現・副詞“也”と“都”）	課題を解いて、第2課の新出文法を理解する		
第8回	第2課 文法ポイントの復習・本文・練習問題	課題を解いて2課の内容を理解する。本文の発音を音読練習、本文の書写		
第9回	第3課「道を探ねる」…文法ポイント学習（年月日・曜日・時刻の表現・場所の前置詞“在”）	課題を解いて、3課の新出文法を理解する		
第10回	第3課 文法ポイントの復習・本文・練習問題	課題を解いて3課の内容を理解する。本文の発音を音読練習、本文の書写		
第11回	第4課「買い物」…文法ポイント学習（指示代名詞・形容詞述語文・助動詞“想”“要”）	課題を解いて、4課の新出文法を理解する		
第12回	第4課 文法ポイントの復習・本文・練習問題	課題を解いて4課の内容を理解する。本文の発音を音読練習、本文の書写		
第13回	第5課「アルバイト」…文法ポイント学習（「少し」の表現・程度補語）	課題を解いて、5課の新出文法を理解する		
第14回	第5課 文法ポイントの復習・本文・練習問題	課題を解いて5課の内容を理解する。本文の発音を音読練習、本文の書写		
第15回	前期の総合復習	総合復習課題を解いて、前期の復習をする		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	各回の課題…50%			
成果発表	なし			
受講態度他	出席…50%（授業に対する質問など、授業への積極的参加を考慮する）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回必ず授業時間内に出席ボタンを押してください。課題も必ず期限内に提出してください。			
教科書	児野道子・鄭高咏『ちからになる中国語』金聖堂			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に随時紹介			
オフィスワーカー	オンデマンド授業のため、質問等があればメッセージにてお願いします。	メールアドレス		

授業科目	中国語Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	大塚 佐織		単位	1
授業の目的と概要	この授業では大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とし、中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につける。また、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方をマスターする。学ぶ教科書の範囲は、第5課までで、第6課以降は、「中国語Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第5課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第5課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス・発音のポイント①（声調・単母音）	教科書・配布プリントの復習・音声を聞く		
第2回	発音のポイント②（重母音・子音・鼻母音・そり舌・有気音・無気音）	教科書・配布プリントの復習・音声を聞く		
第3回	発音のポイント③（子音の復習・声調符号の位置・声調の変化）	教科書・配布プリントの復習・音声を聞く		
第4回	発音総復習（重母音・子音・鼻母音・声調符号の位置・声調の変化）	音声を聞く		
第5回	第1課 自己紹介 P12～P13 文法ポイント（人称代名詞・名前の問い方と答え方・動詞・疑問詞）	教科書の復習・音声を聞き単語を覚える		
第6回	第1課 自己紹介 P11・P14～P16 本文・ドリル・絵単語・リスニング	文法・ドリルの復習・本文プリント・音声を聞き単語を覚える		
第7回	第1課 復習プリント 第2課 妹が2人います P18～P19 文法ポイント（数字と年齢の言い方・副詞・動詞「有	教科書の復習・音声を聞き単語を覚える		
第8回	第2課 妹が2人います P17・P20～P22 本文・ドリル・絵単語・リスニング	文法・ドリルの復習・本文プリント・音声を聞き単語を覚える		
第9回	第2課 復習プリント 第3課 道をたずねる P24～P25 文法ポイント（方位詞・年月日曜日の言い方・動詞「在	教科書の復習・音声を聞き単語を覚える		
第10回	第3課 道をたずねる P23・P26～P28 本文・ドリル・絵単語・リスニング	文法・ドリルの復習・本文プリント・音声を聞き単語を覚える		
第11回	第3課 復習プリント 第4課 買い物 P30～P31 文法ポイント（指示代名詞・助数詞・形容詞・助動詞・疑問	教科書の復習・音声を聞き単語を覚える		
第12回	第4課 買い物 P29・P32～P34 本文・ドリル・絵単語・リスニング	文法・ドリルの復習・本文プリント・音声を聞き単語を覚える		
第13回	第4課 復習プリント 第5課 アルバイト P36～P37 文法ポイント（有点儿・一点儿・程度補語など）	教科書の復習・音声を聞き単語を覚える		
第14回	第5課 アルバイト P35・P38～P40 本文・ドリル・絵単語・リスニング	文法・ドリルの復習・本文プリント・音声を聞き単語を覚える		
第15回	第5課 復習プリント 第1課～5課総復習	第1課～5課総復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	40% 各課で指定した課題を提出する。			
成果発表	50% 第1課から第5課までの総復習プリントの課題を提出する。			
受講態度他	10% 授業参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各課の復習プリントの提出とやり直し。 予習・復習を行うこと。 積極的な授業への参加。			
教科書	児野道子・鄭高咏著『ちからになる中国語』金星堂			
指定図書	授業中に紹介する。			
参考図書	『日中辞典』『中日辞典』小学館・『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』相原茂（株）同学社 その他、授業中に紹介する。			
オフィスワーカー	以下のメールアドレスへ質問してください。	メールアドレス		

授業科目	中国語Ⅱ【演習】	開講時期	後期
担当教員	梁 桂穎	単 位	1
授業の目的と概要	<p>この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた人を対象とし、基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につける。また、発音をマスターする。</p> <p>学ぶ教科書の範囲は、第6課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第6～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第6～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>この授業は、「中国語Ⅰ」に続き、主に以下のDPの達成に関わる科目である。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 第6課 運転の練習 文法ポイント学習(二つの「了」・助動詞「会」「能」「打算」)		第1～5課の復習 教科書の復習・練習問題・CDを聞く	
第2回 第6課 運転の練習 文法ポイントの復習・本文・絵単語・リスニング		教科書の復習・ドリル・CDを聞く ・第7課の予習	
第3回 第7課 電話をかける 本文・文法ポイント学習(動作の進行を表す「在」、前置詞の「在」「快～了」など)		教科書の復習・練習問題・CDを聞く ・第8課の予習	
第4回 第7課 電話をかける 文法ポイントの復習・本文・絵単語・リスニング 第8課 ディズニールランド 文法ポイント学習(経験の表現・時間と回数・動詞の重ね型・連動文)		教科書の復習・ドリル・練習問題・CDを聞く	
第5回 第8課 ディズニールランド 文法ポイントの復習・本文・絵単語・リスニング		教科書の復習・ドリル・CDを聞く ・第9課の予習	
第6回 第9課 進歩した！ 本文・文法ポイント学習(比較表現・前置詞・動詞+一下・方向補語)		教科書の復習・練習問題・CDを聞く ・第10課の予習	
第7回 第9課 進歩した！ 本文・文法ポイントの復習・絵単語・リスニング 第10課 スマートフォン 文法ポイント学習(使役形・助動詞・禁止表現・太～了)		教科書下の復習・ドリル・練習問題・CDを聞く	
第8回 第10課 スマートフォン 文法ポイントの復習・本文・絵単語・リスニング		教科書の復習・ドリル・CDを聞く ・第11課の予習	
第9回 第11課 スキー 文法ポイント学習(結果補語・持続の表現・選択疑問文・動詞+起来)		教科書の復習・練習問題・CDを聞く	
第10回 第11課 スキー 文法ポイントの復習・本文・絵単語・リスニング		教科書の復習・ドリル・CDを聞く ・第12課の予習	
第11回 第12課 財布 文法ポイント学習(「把」・可能補語・是～的・前置詞)		教科書の復習・練習問題・CDを聞く	
第12回 第12課 財布 文法ポイントの復習・本文・絵単語・リスニング		教科書の復習・ドリル・CDを聞く ・第13課の予習	
第13回 第13課 試験 文法ポイント学習(受身形・理由の言い方など)		教科書の復習・練習問題・CDを聞く	
第14回 第13課 試験 文法ポイントの復習・本文・絵単語・リスニング		教科書の復習・ドリル・CDを聞く	
第15回 総復習・まとめの課題		振り返り・まとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 毎回の課題の提出状況		
小テスト等	なし		
成果発表	40% 確認テスト・まとめ課題の提出状況と完成度で評価します。		
受講態度他	30% 筑女ネットへのアクセス状況や授業への積極的な参加姿勢などを評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関する情報は、主として筑女ネットの授業ページ上で行います。</li> <li>・積極的に授業へ参加し、予習、復習を行うこと。</li> <li>・理解度などに合わせ、授業計画を一部変更する場合があります。</li> </ul>		
教科書	児野道子・鄭高咏著 『ちからになる中国語』 金星堂		
指定図書	なし		
参考図書	『中日辞典』『日中辞典』 小学館、その他は授業中に指示する。		
オフィスアワー	授業の前後に相談して下さい。	メールアドレス	

授業科目	中国語Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	王 暁芳		単位	1
授業の目的と概要	この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた人を対象とし、履修者が基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につけること、発音をマスターすることを目標とする。学ぶ教科書の範囲は、第6課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス・第6課車の運転を習う：本文とポイント（二つの上・助動詞）	本文を音読する（p41）・ドリル6を書く（p45）		
第2回	第6課の練習問題（p44～46）・第7課 電話をかける ポイント（動作の進行「在」・前置詞「在」・快～了など）	第7課の本文の予習（p47）		
第3回	第7課の本文と練習	文法、練習問題の復習（p48～52）		
第4回	第8課 デイズニerland 本文とポイント（経験を表す「？」・時間と回数・動詞重ね型・連動文）	本文を音読する（p53）		
第5回	第8課の復習と練習	文法、練習問題の復習（p54～58）		
第6回	第9課 進歩した 本文とポイント（比較表現・前置詞「在」・動詞+一下・方向補語）	本文を音読する（p59）		
第7回	第9課の復習と練習	文法、練習問題の復習（p60～64）		
第8回	第10課 スマートフォン 本文とポイント（使役形・助動詞（可以）・禁止表現・太～了）	本文を音読する（p65）		
第9回	第10課の復習と練習	文法、練習問題の復習（p66～70）		
第10回	第11課 スキー 本文とポイント（結果補語・持続の表現・選択疑問文・動詞+起来）	本文を音読する（p71）		
第11回	第11課の復習と練習	文法、練習問題の復習（p72～76）		
第12回	第12課 財布 本文とポイント（「把」・可能補語・是～的・从～到）	本文を音読する（p77）		
第13回	第12課の復習と練習	文法、練習問題の復習（p78～82）		
第14回	第13課 試験 本文とポイント（受身形・理由の言い方・跟+～一？）	本文を音読する		
第15回	第13課の復習と練習	教科書で復習する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 毎回指定された課題の提出状況と完成度で評価します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 筑女ネットへのアクセス状況や授業への積極的な参加姿勢などを評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	指示された課題の提出は必ず期間内に提出してください。 授業に関する情報は、主として筑女ネットの授業ページ上で行います。 理解度などに合わせ、授業計画を一部変更する場合があります。			
教科書	児野道子・鄭高味著『ちからになる中国語』金星堂			
指定図書	なし			
参考図書	中日辞典			
オフィスアワー	遠隔なので、メールで連絡してください。	メールアドレス		

授業科目	中国語Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	関 久美子		単 位	1
授業の目的と概要	この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた人を対象とし、基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につける。また、発音をマスターする。 学ぶ教科書の範囲は、第6課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第6～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第6～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業のガイダンス・中国語スピーチコンテストのおしらせ・第6課「運転の練習」…文法ポイント学習（完了と変化の助詞“了”・助動詞“会”“能”“打算”）	第6課文法のPPTを参照して、新出文法について理解する		
第2回	第6課 文法ポイントの復習・本文・練習問題	本文の発音を音読練習・第6課の復習		
第3回	第7課「電話」…文法ポイント学習（進行の“在”・前置詞の“在”・“快～了”・電話番号）	第7課文法のPPTを参照して新出文法について理解する		
第4回	第7課 文法ポイントの復習・本文・練習問題	本文の発音を音読練習・第7課の復習		
第5回	第8課「ディズニーランド」…文法ポイント学習（経験の表現・回数・動詞の重ね型・連動文）	第8課文法のPPTを参照して新出文法について理解する		
第6回	第8課 文法ポイントの復習・本文・練習問題	本文の発音を音読練習・第8課の復習		
第7回	第9課「進歩した」…文法ポイント学習（比較・前置詞“給”・動詞+“一下”・方向補語）	第9課文法のPPTを参照して新出文法について理解する		
第8回	第9課 文法ポイントの復習・本文・練習問題	本文の発音を音読練習・第9課の復習		
第9回	第10課「スマートフォン」…文法ポイント学習（使役表現・助動詞“可以”・禁止の表現）	第10課文法のPPTを参照して、新出文法について理解する		
第10回	第10課 文法ポイントの復習・本文・練習問題	本文の発音を音読練習・第10課の復習		
第11回	第11課「スキー」…文法ポイント学習（結果補語・持続の“着”・選択疑問文）	第11課文法のPPTを参照して新出文法について理解する		
第12回	第11課 文法ポイントの復習・本文・練習問題	本文の発音を音読練習・第11課の復習		
第13回	第12課「財布」…文法ポイント学習（“把”構文・可能補語・“是～的”）	第12課文法のPPTを参照して新出文法について理解する		
第14回	第12課 文法ポイントの復習・本文・練習問題 第13課「試験」…文法ポイント学習（受身表現・理由の言い方）	第12課本文の音読練習・第12課の復習・第13課の新出文法について理解する		
第15回	後期の総復習…後期のまとめとして総復習課題を提出		総合復習課題の見直し・全体の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	後期の総復習課題…30%			
レポート	毎回の課題提出…40%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	受講態度…30%（出席状況や授業への積極的参加を考慮する）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書を見て、予習をしてください。毎課ごとのPPT/PDF/動画を理解できるまで見てください。質問があれば、フォーラムやメールで連絡してください。課題は毎回提出期限内に提出すること。授業状況によっては、シラバスの内容が若干変更になることもあります。			
教科書	児野道子・鄭高咏『ちからになる中国語』金聖堂			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	オンデマンド授業であるから、メールで随時連絡してください。	メールアドレス		



授業科目	中国語Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	荀 暁崢		単位	1
授業の目的と概要	<p>この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた学生を対象とし、基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につける。また、発音をマスターする。</p> <p>学ぶ教科書の範囲は、第6課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、さらに発音することができる。</li> <li>2 教科書（第6～13課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第6～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 第6課 車の運転を習う：本文とポイント（二つの“了”、助動詞）		教科書第6課：P41、単語と本文の読み書きを練習しておくこと。		
第2回 第6課 車の運転を習う：本文の復習と練習問題		教科書第6課の復習、学習シート		
第3回 第7課 電話をかける：本文とポイント（動作の進行形・前置詞・“快…了”など）		教科書第7課：P47単語と本文の読み書きを練習しておくこと。		
第4回 第7課 電話をかける：本文の復習と練習問題		教科書第7課の復習、学習シート		
第5回 第8課 ディズニーランド：本文とポイント（経験の表現・時間と回数・動詞の重ね型・連動文）		教科書第8課：P53単語と本文の読み書き練習をしておくこと。		
第6回 第8課 ディズニーランド：本文の復習と練習問題		教科書第8課の復習、学習シート		
第7回 第9課 進歩した！：本文とポイント（比較表現・前置詞・動詞+一下・方向補語）		教科書第9課：P59単語と本文の読み書き練習をしておくこと。		
第8回 第9課 進歩した！：本文の復習と練習問題		教科書第9課の復習、学習シート		
第9回 第10課 スマートフォン：本文（とポイント（使役形・助動詞・禁止表現・太～了）		教科書第10課：P65単語と本文の読み書き練習をしておくこと。		
第10回 第10課 スマートフォン：本文の復習と練習問題		教科書第10課の復習、学習シート		
第11回 第11課 スキー：本文とポイント（結果補語・持続の表現・選択疑問文・動詞+起来）		教科書第11課：P71単語と本文の復習と練習問題		
第12回 第11課 スキー：本文の復習と練習問題		教科書第11課の復習、学習シート		
第13回 第12課 財布：本文とポイント（「把」・可能補語・是～的・前置詞）		教科書第12課：P77単語と本文の読み書きを練習しておくこと。		
第14回 第12課 財布：本文の復習と練習問題		教科書第12課の復習、学習シート		
第15回 後期まとめワーク		まとめワーク		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	・なし			
レポート	・課題の提出10％ ・課題の完成度30％			
小テスト等	・小テスト30％			
成果発表	・指定された内容の朗読25％			
受講態度他	・5％（遠隔授業への取り組み、指定された期間内に筑女ネットにアクセスするなど。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に取り組むこと。</li> <li>・予習、復習を行うこと。</li> <li>・欠席は三分の一を超えないこと。</li> </ul>			
教科書	児野道子・鄭高咏 『ちからになる中国語』 金星堂			
指定図書	なし			
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相原 茂・石田 知子・戸沼 市子著 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』 同学社</li> <li>・『中日辞典』『日中辞典』 小学館、『標準中国語辞典』 白帝社、その他は授業中に指示する。</li> </ul>			
オフィスアワー	火曜昼休み（なるべく授業の前後にご相談ください。）	メールアドレス		

授業科目	中国語Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	大塚 佐織		単位	1
授業の目的と概要	この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた人を対象とし、基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につける。 また、発音をマスターする。 学ぶ教科書の範囲は、第6課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第6～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第6～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 第6課 運転の練習 文法ポイント（二つの了、会と能、打算+動詞句）P42～P43・本文P41		本文プリント・ドリル・CDを聞く		
第2回 第6課 本文・ドリル解答・絵単語・リスニング・P44～P46 第7課 電話をかける 文法ポイント（動作の進行・前置詞の「在」）P48		第6課復習・本文プリント・CDを聞く		
第3回 第6課復習プリント 第7課 電話をかける 文法ポイント（「快～了」、勧誘、電話）P49・本文P47		文法復習・本文プリント・ドリル・CDを聞く		
第4回 第7課 本文・ドリル解答・絵単語P50・リスニングP52 第8課 デイズニーランド 文法ポイント（経験・時間や回数を表す言葉の位置）P54		第7課復習・CDを聞く		
第5回 第7課復習プリント 第8課 デイズニーランド 文法ポイント（動詞の重ね型・連動文）P55		文法復習・本文プリント・ドリル・CDを聞く		
第6回 第8課 本文・ドリル解答・絵単語P56・リスニングP58 第9課 進歩した！文法ポイント（比較表現・前置詞）P60		第8課復習・CDを聞く		
第7回 第8課復習プリント 第9課 進歩した！文法ポイント（動詞+一下・方向補語）P61・本文P59・絵単語P62		文法復習・本文プリント・ドリル・CDを聞く		
第8回 第9課 本文・ドリル解答・リスニングP64・第9課題		第9課復習・CDを聞く		
第9回 第9課題解答・復習プリント 第10課 スマートフォン 文法ポイント文法ポイント（使役形・助動詞）P66（禁止表現		文法復習・本文プリント・復習プリント・CDを聞く		
第10回 第10課 本文・9課復習プリント解答 第10課絵単語P68・リスニングP70・ドリルP69		文法復習・ドリル・本文プリント復習・CDを聞く		
第11回 第10課ドリル解答・復習プリント 第11課 スキー 文法ポイント（結果補語・持続の表現・選択疑問文・動詞+起来）P72～P73		第10課復習・第11課文法復習・本文プリント・CDを聞く		
第12回 第11課 本文・10課復習プリント解答・第11課絵単語P74・ドリルP75・リスニングP76		本文・第10課復習・ドリル・CDを聞く		
第13回 第11課ドリル解答・復習プリント 第12課 財布 文法ポイント（「把」構文・可能補語「得」・「是～的」・前置詞「从		文法復習・本文プリント・ドリル・CDを聞く		
第14回 第11課復習プリン解答 第12課 本文解答・絵単語P80・ドリルP81・リスニングP82		第11課・第12本文復習・ドリル・CDを聞く		
第15回 第12課ドリル解答・総復習（第6課～第12課）		第6課～第12課総復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 毎回終了課ごとの復習プリントや指示した提出物などの提出と完成度で評価します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 筑女ネットへのアクセス状況や授業への積極的な参加姿勢などを評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に関する情報は、主として筑女ネットの授業ページ上で行いますので、こまめにチェックしてください。 指示された課題の提出は必ず期限内に提出をしてください。 予習・復習は必ず行ってください。 積極的な授業への参加。 理解度などに合わせ、授業計画を一部変更する場合がある。			
教科書	児野道子・鄭高味著『ちからになる中国語』金星堂			
指定図書	授業中に紹介する。			
参考図書	『日中辞典』『中日辞典』小学館・『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』相原茂（株）同学社 その他、授業中に紹介する。			
オフィスワーカー	できるだけ授業時間内にメールでご連絡ください。	メールアドレス		

授業科目	中国語Ⅲ【演習】		開講時期	前期
担当教員	荀 暁崢		単位	1
授業の目的と概要	<p>中国語の基礎を習得した学生を対象に、基礎的な文法を復習しながら、徐々に準中級の文法内容をプラスしていく。豊富な会話表現を通じて長めの中国語の文を理解できる。作文・読解のレベルアップおよびコミュニケーションの一環として身近な話題を中国語で話すことができることを学習目標とします。</p> <p>授業では準中級のテキストを使う。12課構成のテキストを、2週間で1課ずつ読み進む予定である。1週目は文法を説明しながら作文の練習をする。2週目は本文の日本語訳および発声練習、ドリルなどをする。また、コミュニケーションを取るために語彙数を増やしていくことも肝要ですので、日頃から短時間でも単語や常套表現の暗唱を心がけましょう。一年通して「話す・読む・書く・聴く」という四つの方面からバランスよく学びましょう。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、教科書で学ぶ準中級の語法を理解できる。</li> <li>2、教科書で学ぶ語法を使いやや長めの作文ができる。</li> <li>3、教科書の会話文に倣って身近な会話ができる。</li> <li>4、教科書のやや長めの文を流暢に音読できる。</li> <li>5、中国語の学習を通じて異文化に対する興味・理解を深める。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	初級の復習（プリントを配布する予定）	P10第1課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。		
第2回	第1課 「中国に行こう」 学習事項：助動詞“可以”と“要”の用法・主述述語文・目的語が主述句	P10本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱		
第3回	第1課 「中国に行こう」 復習および練習	P14第2課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。		
第4回	第2課 「ウーロン茶を飲もう」 学習事項：原因理由を表す“因為”・逆接を表す“可是”・語気助詞	P14本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱		
第5回	第2課 「ウーロン茶を飲もう」 復習および練習	P18第3課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。		
第6回	第3課 「友だちをつくろう」 学習事項：連動文・“是…的”の文・疑問詞	P18本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱		
第7回	第3課「友だちをつくろう」 復習および練習	P22第4課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。		
第8回	第4課 「長城に登ろう」 学習事項：“了”の3つの用法・副詞“就”	P22本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱		
第9回	第4課 「長城に登ろう」 復習および練習	P26第5課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。		
第10回	第5課 「漢字を覚えよう」 学習事項：結果補語・副詞“有点儿”・仮定を表す“要是”	P26本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱		
第11回	第5課 「漢字を覚えよう」 復習および練習	P30第6課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。		
第12回	第6課 「街を歩こう」 学習事項：存現文・接続詞“又～又～”	P30本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱		
第13回	第6課 「街を歩こう」 復習および練習	P30引き続き音読練習と単語の暗唱		
第14回	復習課	配布された課題を完成してください。		
第15回	前期まとめワーク	前期の学習内容をよく確認した上、繰り返し復習してください。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	・課題の提出10％、課題の完成度30％			
小テスト等	・小テスト35％			
成果発表	・指定された内容の朗読20％			
受講態度他	・5％（遠隔授業への取り組み、指定された期間内に筑女ネットにアクセスする。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に取り組むこと。</li> <li>・欠席は授業回数数の三分の一を超えないこと。</li> <li>・教科書は先輩から譲り受けないこと。</li> </ul>			
教科書	『新版 中国語さらなる一歩』 尹景春・竹島毅 著 白水社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日昼休み（12：30-13：00）	なるべく授業前後にご相談ください。	メールアドレス	

授業科目	中国語Ⅲ【演習】		開講時期	前期
担当教員	王 暁芳		単 位	1
授業の目的と概要	中国語学習を通して、現代中国の社会、文化に対する理解を深める。コミュニケーションの能力を養成するための練習を行う。テキスト以外に、プリント、視聴覚的な教材も併用して、中国語で「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」ことができることを目的とする。中国語の勉強によって、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力を向上させる。国際的視点から思考する力を育てる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基本的な文法や語彙の使い方について、理解することができる。</li> <li>2 教科書の文書から必要な情報を読み取り、理解することができる。</li> <li>3 中国語検定試験4級程度の表現力を身につけ、3級を目指すための基礎能力を修得する。</li> <li>4 中国語と中国社会についての知識・技能を身につけることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
		「ちからになる中国語」の復習		
第 2 回	「ちからになる中国語」復習・課題	「ちからになる中国語」の復習		
第 3 回	第 1 課 中国の朝食 単語・会話・文法	会話を音読する		
		短文を音読する		
		会話を音読する		
第 6 回	タクシーに乗る 短文 練習	短文を音読する		
		会話を音読する		
		短文を音読する		
第 9 回	第4課 割り勘と傾斜割り勘	会話を音読する		
第10回	第4課 割り勘と傾斜割り勘短文と練習問題	短文を音読する		
第 1 1 回	第5課 お腹をください 単語・会話・文法	会話を音読する		
第 1 2 回	お腹をください 短文・練習	短文を音読する		
第 1 3 回	第6課 ネットショッピング 単語・会話・文法	会話を音読する		
第 1 4 回	第6課 ネットショッピング 短文・練習	短文を音読する		
第 1 5 回	授業のまとめ	前期の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	50%課題として出します			
成果発表	30%課題の提出			
受講態度他	20%授業参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は少しずつ進めるので、できるだけ毎回出席をすること。 予習、復習をよくすること。			
教科書	「中国語への道―浅きより深きへ 改訂版」 内田慶市 など 著 金星堂			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワーカー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	中国語IV【演習】		開講時期	後期
担当教員	王 曉芳		単位	1
授業の目的と概要	<p>前期の学習内容を踏まえて学習を進める。後期は中国語の実用会話や文章の理解力と読解実力を向上することができる。</p> <p>①前期学んだ知識の復習しながら、更に充実した文章力と会話力を身につけることができる。</p> <p>②練習問題を一つひとつ自力で解かせて、中国語文法、現代中国語文章に関する理解度と運用能力を高めることができる。</p> <p>③中級の実践的なコミュニケーション能力を身につけることができる。</p>			
到達目標	<p>①基礎的な知識を踏まえ、文章の単語・読解・文法など多様な練習を通じて、総合的な知識を身につけることができる。</p> <p>②練習問題を自分の力で解かせて、理解度と運用能力を確認することを主眼とする。</p> <p>③中国語コミュニケーションの更なるステップアップすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス・第7課「余り男」「余り女」 単語・会話・文法	会話を音読する (p30)		
第2回	第7課 「余り男」「余り女」 短文・練習	短文を音読する (p32)		
第3回	第8課 大学生は、アルバイトは控え、たくさん勉強すべきです 単語・会話・文法	会話を音読する (p34)		
第4回	第8課 大学生は、アルバイトは控え、たくさん勉強すべきです 短文・練習	短文を音読する (p36)		
第5回	第9課 感謝を表す習慣 単語・会話・文法	会話を音読する (p38)		
第6回	第9課 感謝を表す習慣 短文・練習問題	短文を音読する (p40)		
第7回	第7～第9課の復習	第10課会話の予習 (p42)		
第8回	第10課 若者の就職観 単語・会話・文法	会話を音読する (p42)		
第9回	第10課 若者の就職観 短文・練習	短文を音読する (p44)		
第10回	第11課 月光族 単語・会話・文法	会話を音読する (p46)		
第11回	第11課 月光族 短文・練習	短文を音読する (p48)		
第12回	第12課 海外での中国語との意外な出会い 単語・会話・文法	会話を音読する (p50)		
第13回	第12課 海外での中国語との意外な出会い 短文・練習	短文を音読する (p52)		
第14回	第10～第12課の復習	第10課～第12課の練習問題を復習する		
第15回	授業のまとめ	教科書での復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 毎回指定された課題の提出状況と完成度で評価します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 筑女ネットへのアクセス状況や授業への積極的な参加姿勢などを評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>課題は必ず期間内に提出すること。</p> <p>理解度などに合わせ、授業計画を一部変更する場合がある。</p> <p>授業に関する情報は、主として筑女ネットの授業ページ上で行います。</p>			
教科書	内田 慶市・奥村 加代子・張 軼欧著 「中国への道」 準中級編 浅きより深きへ 改訂版 金星堂			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワー	遠隔なので、メールで連絡してください。	メールアドレス		

授業科目	中国語Ⅳ【演習】		開講時期	後期
担当教員	荀 暁暉		単位	1
授業の目的と概要	<p>中国語の基礎を習得した学生を対象に、基礎的な文法を復習しながら、徐々に準中級の文法内容をプラスしていく。豊富な会話表現を通じて長めの中国語の文を理解できる。作文・読解のレベルアップおよびコミュニケーションの一環として身近な話題を中国語で話すことができることを学習目標とします。</p> <p>授業では準中級のテキストを使う。1 2 課構成のテキストを、2 週間で1 課ずつ読み進む予定である。1 週目は文法を説明しながら作文の練習をする。2 週目は本文の日本語訳および発声練習、ドリルなどをする。また、コミュニケーションを取るために語彙数を増やしていくことも肝要ですので、日頃から短時間でも単語や常套表現の暗唱を心がけましょう。一年通して「話す・読む・書く・聴く」という四つの方面からバランスよく学びましょう。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、教科書で学ぶ準中級の語法を理解できる。</li> <li>2、教科書で学ぶ語法を使いやや長めの作文ができる。</li> <li>3、教科書の会話文に倣って身近な会話ができる。</li> <li>4、教科書のやや長めの文を流暢に音読できる。</li> <li>5、中国語の学習を通じて異文化に対する興味・理解を深める。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	前期の復習（プリントを配布する予定）	P34第7課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。		
第2回	第7課 「中国映画を見よう」 学習事項：状態の持続を表す“着”・副詞“再”・部分否定	P34本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱		
第3回	第7課 「中国映画を見よう」 復習および練習	P38第8課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。		
第4回	第8課 「シルクを買おう」 学習事項：方向補語・使役文・疑問詞の不定用法	P38本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱		
第5回	第8課 「シルクを買おう」 復習および練習	P42第9課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。		
第6回	第9課 「中華を食べよう」 学習事項：可能補語・強調表現	P42本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱		
第7回	第9課 「中華を食べよう」 復習および練習	P46第10課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。		
第8回	第10課 「太極拳を習おう」 学習事項：目的を表す“为了”・推測を表す“会”・“～了”の用法	P46本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱		
第9回	第10課 「太極拳を習おう」 復習および練習	P50第11課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。		
第10回	第11課 「水滸伝を楽しもう」 学習事項：結果補語・受身文	P50本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱		
第11回	第11課 「水滸伝を楽しもう」 復習および練習	P54第12課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。		
第12回	第12課 「春節を過ごそう」 学習事項：“快～了”の用法・介詞“把”	P54本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱		
第13回	第12課 「春節を過ごそう」 復習および練習	P58の予習 音読の練習と和訳を予習しておく。		
第14回	「手紙を書こう」 学習事項：手紙文の日本語訳およびポイント確認	課題のプリントを配布する予定。		
第15回	後期まとめワーク	後期の学習内容をよく確認した上、繰り返し復習してください。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	・なし			
レポート	・課題の提出10％ ・課題の完成度30％			
小テスト等	・小テスト30％			
成果発表	・指定された内容の朗読25％			
受講態度他	・5％（遠隔授業への取り組み、指定された期間内に筑女ネットにアクセスするなど。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に取り組むこと。</li> <li>・欠席は三分の一を超えないこと。</li> <li>・教科書は先輩から譲り受けないこと。</li> </ul>			
教科書	『新版 中国語さらなる一歩』 尹景春・竹島毅 著 白水社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日昼休み（12：30-13：00）	なるべく授業前後にご相談ください。	メールアドレス	

授業科目	中国語ガイド試験対策【演習】		開講時期	後期
担当教員	徐 涛		単 位	1
授業の目的と概要	<p>訪日中国人観光客が年間1000万人に達する時代に入った。本授業は、中国語通訳ガイド試験対策に特化した学習を通じて、総合的な実力を向上させることを目的とする。</p> <p>中国語通訳ガイド試験は第1次試験（中国語・日本地理・日本歴史・一般常識の4科目）と第2次試験（口述）からなっている。本授業では第1次試験の4科目を中心に受験能力の向上を図っていくが、重点を中国語におく。</p> <p>具体的には、①過去の試験内容を踏まえ4科目の試験を解説し、試験問題の練習を行う。②中国語を聞く、話す力を強化する。③模擬試験を通じて実戦力を養成する。</p>			
到達目標	<p>①通訳ガイド試験に関する知識を身につけ、試験問題を解く実戦力を養い、中国語ガイド試験に挑戦する自信をもつことができる。</p> <p>②ガイドに関わる中国語の会話・リスニングなどの練習を通して、中国語のレベルを高めることができる。</p> <p>③中国語の学習を通じて、中国の社会や文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>④日本の地理・歴史・経済・政治などの知識を身につけることができる。</p> <p>⑤通訳案内士になるための基礎知識を身につけた、観光や教育などの仕事に従事する人材を育成することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	中国語ガイド試験とは：資格の意義と授業計画の説明	第1課予習:p.6-7		
第2回	前半：日本地理① ・ 後半：中国語学習	配布資料の要点のまとめ 第1課予習:p.8-9		
第3回	前半：日本地理② ・ 後半：中国語学習	配布資料の要点のまとめ 第2課予習p.10-11		
第4回	前半：日本地理③ ・ 後半：中国語学習	配布資料の要点のまとめ 第2課予習.12-13		
第5回	前半：日本歴史① ・ 後半：中国語学習	配布資料の要点のまとめ 第3課予習:p.14-15		
第6回	前半：日本歴史② ・ 後半：中国語学習	配布資料の要点のまとめ 第3課予習:p.16-17		
第7回	前半：日本歴史③ ・ 後半：中国語学習	配布資料の要点のまとめ 第4課予習:p.18-19		
第8回	前半：一般常識①産業 ・ 後半：中国語学習	配布資料の要点のまとめ 第4課予習:p.20-21		
第9回	前半：一般常識②経済 ・ 後半：中国語学習	配布資料の要点のまとめ 第5課予習:p.22-23		
第10回	前半：一般常識③政治 ・ 後半：中国語学習	配布資料の要点のまとめ 第5課予習:p.24-25		
第11回	前半：一般常識④文化 ・ 後半：中国語学習	配布資料の要点のまとめ 第6課予習:p.26-27		
第12回	前半：中国語試験問題①日本語語彙の中訳 ・ 後半：中国語学習	配布資料の要点のまとめ 第6課予習:p.28-29		
第13回	前半：中国語試験問題②中国語による語句説明 ・ 後半：中国語学習	配布資料の要点のまとめ 第7課予習		
第14回	前半：中国語試験問題③中文日訳/日文中訳 ・ 後半：中国語学習	成果発表の準備		
第15回	成果発表・総括	全体の復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 毎回配布した資料のポイントをまとめること、指定した課題を提出すること			
小テスト等	なし			
成果発表	40% 指定したテーマを中国語で発表する			
受講態度他	20% 毎回、コメントシートを提出すること、携帯の使用、遅刻、無断退室などは禁止。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①積極的に授業へ参加し、授業中の私語は慎むこと。</p> <p>②単語の意味調べなど、授業内容の予習は必須である。</p> <p>③毎回の課題を期限内に提出すること。</p> <p>④配布した資料は必ずファイルにまとめること。</p>			
教科書	『2年めの伝える中国語—自分のこと日本のこと』（及川淳子 著）（白水社、2019年）			
指定図書	なし			
参考図書	<p>①『徹底攻略 国家試験通訳ガイド 中国語』一ツ橋書店</p> <p>②『中国語短文会話800』スリーエーネットワーク</p>			
オフィスアワー	火曜日 2限目	メールアドレス		

授業科目	中国語検定A【演習】		開講時期	前期
担当教員	崔 淑芬		単位	1
授業の目的と概要	本講義は、中国語の検定試験（日本中国語検定協会実行）3級から1級まで、検定試験に対応する総合的な実力を養成する授業です。授業の内容としては、それぞれ学年の語学レベルに合わせながら、検定試験の語彙・文法・聞き取り・長文・翻訳などを練習し、出題率の高い問題や重点的な問題、間違いやすい部分を短期での訓練を受け、試験に対応実力を身につけ、読解力・リスニングレベルを高めます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語検定の受験に必要な能力、文法・読解・中国語翻訳実力などを修得することができる。</li> <li>2. 試験の出題ポイントを押さえ短期での訓練を受け、試験に対応実力を身につけることができる。</li> <li>3. 中国語検定を受験することにより、自分の目指す目標を身近に設定し、無理なく確実に実力を延ばしていくことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 ガイダンス： 本授業の概要、目標、授業の進め方、模擬テスト		到達目標を設定すること		
第2回 第90回リスニング試験問題（1）の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第90回リスニング試験問題（2）		
第3回 リスニング試験問題（2）の分析、聞き取り練習		リスニング試験問題（2）の復習； 予習：第91回リスニング試験問題（1）		
第4回 リスニング試験問題（1）の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第91回リスニング試験問題（2）		
第5回 リスニング試験問題（2）の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第92回リスニング試験問題（1）		
第6回 リスニング試験問題（1）の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第92回リスニング試験問題（2）		
第7回 リスニング試験問題（2）の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第90～93回筆記試験問題（1）		
第8回 筆記試験問題（1）の分析・模擬小テスト		試験問題（1）の復習； 予習：第90～93回筆記試験問題（2）		
第9回 筆記試験問題（2）の分析・模擬小テスト		試験問題（2）の復習； 予習：第90～93回筆記試験問題（3）		
第10回 筆記試験問題（3）の分析・模擬小テスト		試験問題（3）の復習； 予習：第90～93回筆記試験問題（4）		
第11回 筆記試験問題（4）の分析・模擬小テスト		試験問題（4）の復習； 予習：第90回筆記試験問題（5）		
第12回 第90回筆記試験問題（5）翻訳の分析・模擬小テスト		試験問題（5）の復習； 予習：第91回筆記試験問題（5）		
第13回 第91回筆記試験問題（5）翻訳の分析・模擬小テスト		試験問題（5）の復習； 予習：第92～93回筆記試験問題（5）		
第14回 第92～93回筆記試験問題（5）翻訳の分析・模擬小テスト		筆記試験問題（5）翻訳のまとめ復習		
第15回 試験問題の総復習		リスニング試験問題・筆記試験問題の総括復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	なし			
小テスト等	50%模擬テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況、授業態度関わる姿勢などをふまえ総合的な判定する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的に授業へ参加、授業中の私語は慎むこと。 リスニング問題に関しては、試験まで毎日聴くことを心がけてください。 教科書の練習問題やまとめのプリントで復習を大切にしながら、学習した内容の再確認。			
教科書	日本中国語検定協会編『中検問題集』光生館出版			
指定図書	日本中国語検定協会編『中検練習帳』光生館出版			
参考図書	『資格にチャレンジ中級中国語』白帝社 ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	金曜日 2限目	メールアドレス		



授業科目	中国語検定B【演習】		開講時期	前期
担当教員	崔 淑芬		単位	1
授業の目的と概要	<p>本講義は、中国語の検定試験（日本中国語検定協会実行）準4級から4級まで、それに対応する総合的な実力を養成する授業である。中国の経済発展、国際社会での役割などを考慮すると将来性抜群の資格です。</p> <p>授業の内容としては、それぞれ学年の語学レベルに合わせながら、検定試験の語彙・文法・聞き取り・長文・翻訳などを練習し、出題率の高い問題や重点的な問題、間違いやすい部分を短期での訓練を受け、試験に対応実力を身につけ、読解力・リスニングレベルを高めます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語検定の受験に必要な能力、文法・読解・中国語翻訳実力などを修得することができる。</li> <li>2. 試験の出題ポイントを押さえ短期での訓練を受け、試験に対応実力を身につけることができる。</li> <li>3. 中国語検定を受験することにより、自分の目指す目標を身近に設定し、無理なく確実に実力を延ばしていくことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回 ガイダンス： 本授業の概要、目標、授業の進め方、模擬テスト		到達目標を設定する		
第2回 第90回リスニング試験問題（1）の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第90回リスニング試験問題（2）		
第3回 リスニング試験問題（2）の分析、聞き取り練習		リスニング試験問題（2）の復習； 予習：第91回リスニング試験問題（1）		
第4回 リスニング試験問題（1）の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第91回リスニング試験問題（2）		
第5回 リスニング試験問題（2）の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第92回リスニング試験問題（1）		
第6回 リスニング試験問題（1）の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第92回リスニング試験問題（2）		
第7回 リスニング試験問題（2）の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第90～93回筆記試験問題（1）		
第8回 筆記試験問題（1）の分析・模擬小テスト		試験問題（1）の復習； 予習：第90～93回筆記試験問題（2）		
第9回 筆記試験問題（2）の分析・模擬小テスト		試験問題（2）の復習； 予習：第90～93回筆記試験問題（3）		
第10回 筆記試験問題（3）の分析・模擬小テスト		試験問題（3）の復習； 予習：第90～93回筆記試験問題（4）		
第11回 筆記試験問題（4）の分析・模擬小テスト		試験問題（4）の復習； 予習：第90回筆記試験問題（5）		
第12回 第90回筆記試験問題（5）翻訳の分析・模擬小テスト		試験問題（5）の復習； 予習：第91回筆記試験問題（5）		
第13回 第91回筆記試験問題（5）翻訳の分析・模擬小テスト		試験問題（5）の復習； 予習：第92～93回筆記試験問題（5）		
第14回 第92～93回筆記試験問題（5）翻訳の分析・模擬小テスト		筆記試験問題（5）翻訳のまとめ復習		
第15回 試験問題の総括復習		リスニング試験問題・筆記試験問題の総括復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	なし			
小テスト等	50%			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況、授業態度関わる姿勢などをふまえ総合的な判定する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>積極的に授業へ参加、授業中の私語は慎むこと。</p> <p>リスニング問題に関しては、試験まで毎日聴くことを心がけてください。</p> <p>教科書の練習問題やまとめのプリントで復習を大切にしながら、学習した内容の再確認。</p>			
教科書	日本中国語検定協会編『中検問題集』光生館出版			
指定図書	日本中国語検定協会編『中検練習帳』光生館出版			
参考図書	『資格にチャレンジ中級中国語』白帝社      ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	金曜日 4限目	メールアドレス		

授業科目	中国語作文Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	陳 青鳳		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講座は、中国語の学習において、「読む・書く・聞く・話す」の四能力のうち、特に「書く」に重点を置く。中国語の作文の基本的仕組みを理解しながら、学んだ知識を使って応用的な練習を行い、中国語の正確かつ効率的な運用能力を養成し、中国語で作文する力を身につけ、自分のことや日常生活に必要なことを、中国語で書いて表現できることを目的とする。</p> <p>初・中級段階に学んだ基本文型を活かし、実用性のある文章を作ることができるように指導する。基礎文法を確実に定着し、より高度な文章の解説を行う。 基本的に、二回で一課のペースで進める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、よく使われる単語を簡体字で表記することができる。</li> <li>2、基本的な文法事項を身につけることができる。</li> <li>3、単文と複文の練習を通して、中国語で自分の伝えたいことを中国語で表現できるようになる。</li> <li>4、実用出来る中国語の会話や通信文を習得することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 カイダンス：講義のねらい・内容・注意事項・作文のつくり方・中国語文章の記号		予習：p p. 6～7		
第2回 第1課：文章の読解、文法の説明		予習：p p. 8～9		
第3回 第1課の練習問題と文法復習		予習：p p. 10～11		
第4回 第2課：文章の読解、文法の説明		予習：p p. 12～13		
第5回 第2課の練習問題と文法復習		予習：p p. 14～15		
第6回 第3課：文章の読解、文法の説明		予習：p p. 16～17		
第7回 第3課の練習問題と文法復習		予習：p p. 18～23		
第8回 指定テーマに沿って中国語作文の作成		復習：第1～3課の構文		
第9回 第4課：文章の読解、文法の説明		予習：p p. 24～25		
第10回 第4課の練習問題と文法復習		予習：p p. 26～29		
第11回 第5課：文章の読解、文法の説明		予習：p p. 30～31		
第12回 第5課の練習問題と文法復習		予習：p p. 32～35		
第13回 第6課：文章の読解、文法の説明		予習：p p. 36～37		
第14回 第6課の練習問題と文法復習		予習：p p. 38～41		
第15回 前期の総まとめの課題		復習：第1～6課の構文		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	①20% 毎回の課題の提出率 ②40% 前期のまとめの課題(第15週目の8/4)に実施			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 課題の発表の完成度			
受講態度他	10% 出席状況、受講態度に関わる姿勢などをふまえ総合的な判定をする 授業中、他人の迷惑になるような行為は厳しく処置します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>①積極的に授業へ参加し、十分に復習と予習をすること。授業中の私語は慎むこと。</li> <li>②自習的な学習態度で、作文課題を忘れないで提出すること。</li> <li>③電子辞書或いは中日辞書を持参すること。</li> </ol>			
教科書	『中国語読解のコツ』 (本間史、張明傑 著) (KINSEIDO)			
指定図書	なし			
参考図書	参考文献は随時、紹介する。			
オフィスアワー	火曜日(授業の前後)	メールアドレス		

授業科目	中国語作文Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	陳 青鳳		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講座は、前期の学習を続け、中国語の作文の基本的仕組みを理解しながら、更に充実した文章力と会話を身につけることができる。中国語の正確かつ効率的な運用能力を養成し、中国語で作文する力を身につけ、学習した知識を使って、自分のことや日常生活に必要なことを、中国語で書いて表現できることを目的とする。</p> <p>後期は第7～12課の文章を学習する。</p> <p>前期学習したことに積み上げて、さらに単語を覚え、中国語の文章を流暢に読む、解説することができ、それを活用して短文を書くことができる。</p> <p>基本的に、二回で一課のペースで進める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、現代中国語の文章を解説、理解することができる。</li> <li>2、基本的な文法事項を身につけ、簡体字で表記することができる。</li> <li>3、単文と複文の練習を通して、中国語で自分の伝えたいことを中国語で表現できるようになる。</li> <li>4、実用出来る中国語の会話や通信文を習得することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回 カイダンス：講義のねらい・内容・注意事項・作文の作り方・中国語文章の記号		第1課～第6課の復習		
第2回 第7課：文章の読解、文法の説明		予習：p p. 42～43		
第3回 第7課の練習問題と文法復習		予習：p p. 44～47		
第4回 第8課：文章の読解、文法の説明		予習：p p. 48～49		
第5回 第8課の練習問題と文法復習		予習：p p. 62～63 50～53		
第6回 第9課：文章の読解、文法の説明		予習：p p. 54～55		
第7回 第9課の練習問題と文法復習		予習：p p. 56～59		
第8回 第7課～第10課の総合復習問題		復習：第7～9課の構文		
第9回 第10課：文章の読解、文法の説明		予習：p p. 60～61		
第10回 第10課の練習問題と文法復習		予習：p p. 62～65		
第11回 第11課：文章の読解、文法の説明		予習：p p. 66～67		
第12回 第11課の練習問題と文法復習		予習：p p. 68～71		
第13回 第12課：文章の読解、文法の説明		予習：p p. 72～73		
第14回 第12課の練習問題と文法復習		復習：p p 74～77		
第15回 総合復習と定期テスト代替課題		復習：第7～12課の構文		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% (定期試験に代わる課題)			
レポート	20% 毎回の課題の提出率			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 毎回の課題の完成度			
受講態度他	10% moodleの遠隔授業の期間内に受講し、課題の提出期間を厳守すること			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>①積極的に遠隔授業へ参加し、十分に復習と予習をすること。</li> <li>②自習的な学習態度で、作文課題を忘れないで提出すること。</li> <li>③電子辞書或いは中日辞書を用意すること。</li> </ol>			
教科書	『中国語読解のコツ』 (本間史、張明傑 著) (KINSEIDO)			
指定図書	なし			
参考図書	参考文献は随時、紹介する。			
オフィスアワー	火曜日 (授業の前後)	メールアドレス		

授業科目	中国語初級Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	石 其琳、李 俊華		単 位	2
授業の目的と概要	<p>大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で学ぶ現代の中国語と古代の中国語（高校国語で取り扱う「漢文」）との違いを理解することができる。</li> <li>・現代中国語の基礎的な文法を学び、初級の簡単なコミュニケーション能力を身につけることができる。</li> <li>・発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方を身につけることができる。</li> </ul> <p>この授業で学ぶ教科書の範囲は、第5課まで。第6課以降は、「中国語初級Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週二回の授業で一冊の教科書を学び終える。他に中国の映画、歌などを教材として、言葉に関わる中国社会の日常生活習慣についても学習する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第5課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第5課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。          関連科目：中国語中級、上級、中国現代文学、中国少数民族文化、東アジア入門</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	中国語概論	指定図書「日中同形異義語」を読む。		
第 2・ 3回	発音（音とピンイン、四声と軽声）・トレーニング	小テストと発表のため発音の課題がある。		
第 4・ 5回	発音（単母音、複母音）・トレーニング	小テストと発表のため発音の課題がある。		
第 6・ 7回	発音（子音、声調記号の位置）・トレーニング	小テストと発表のため発音の課題がある。		
第 8・ 9回	発音（ピンイン表記、声調の変化）・トレーニング	小テストと発表のため発音の課題がある。		
第10・11回	第1課（語順、副詞「也」・「都」、人称代名詞）	小テストと発表の課題がある。「アジア学への招待」特別講義を行う。		
第12・13回	第1課（指示代名詞、～的、家族の言い方）・トレーニング	小テストと発表の課題がある。		
第14・15回	第2課（在、有、方位詞、所有）	小テストと発表の課題がある。		
第16・17回	第2課（所有、地名・国と首都）・トレーニング	小テストと発表の課題がある。		
第18・19回	第3課（物や人の数え方、時間の言い方、几と多少）	小テストと発表の課題がある。		
第20・21回	第3課（時間を表わす語の位置）・トレーニング	小テストと発表の課題がある。		
第22・23回	第4課（動詞述語文、連動文、二つ目的語を持つ動詞）	小テストと発表の課題がある。		
第24・25回	第4課（介詞）・トレーニング	小テストと発表の課題がある。		
第26・27回	第5課（形容詞述語文、程度副詞）	小テストと発表の課題がある。		
第28・29回	第5課（選択疑問文）・トレーニング	前期まとめの総合発表の課題としてとができる		
第30回	前期まとめの総合発表			
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10%（関連学習課題&レポート）			
小テスト等	75%（毎授業学習後の課題&小テスト）			
成果発表	15%（総合課題発表とテスト）			
受講態度他	0%（出席状況を学習態度として参考にする）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	語学の学習は、積み重ねが大切である。この授業は特に小テストを頻繁に行うため、日常復習することが必要である。			
教科書	『中国語初級トレーニング』三修社			
指定図書	①『おぼえておきたい日中同形異義語300』 ②『中国大陸、台湾で役に立つ中国語図解辞典』 ③『漢語量詞図解詞典 漢英版』			
参考図書	『実用日中・中日辞典』隆美出版			
オフィスアワー	石：火、水、木、金 李：授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	中国語初級Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	石 其琳、李 俊華		単位	2
授業の目的と概要	<p>「中国語初級Ⅰ」を学び終えた人を対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代中国語の基礎段階のやや複雑な文法を学び、初級のコミュニケーション能力を身につけることができる。</li> <li>・現代中国語の発音をマスターすることができる。</li> </ul> <p>この授業で学ぶ教科書の範囲は、第6課から12課まで。一年を通じ、週2回の授業で一冊の教科書を学び終える。他に中国の映画、歌などを教材として、言葉に関わる中国社会の日常生活習慣について学習する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第6～12課）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第6～12課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。          関連科目：中国語中級、上級、中国現代文学、中国少数民族文化、東アジア入門</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1・2回 第6課（比較の表現）		小テスト発表の課題がある。		
第3・4回 第6課（状態方法の指示代名詞）・トレーニング		小テストと発表の課題がある。		
第5・6回 第7課（程度補語）		小テストと発表の課題がある。		
第7・8回 第7課（能願助動詞）・トレーニング		小テストと発表の課題がある。		
第9・10回 第8課（完了態「了」、否定副詞「没有」）		小テストと発表の課題がある。		
第11・12回 第8課（変化を表示「了」）・トレーニング		小テストと発表の課題がある。		
第13・14回 第9課（時間の長さ回数、経験態）		小テストと発表の課題がある。		
第15・16回 第9課（進行式、持続態）・トレーニング		小テストと発表の課題がある。		
第17・18回 第10課（結果補語、介詞「从」「到」）		小テストと発表の課題がある。		
第19・20回 第10課（方向補語）・トレーニング		小テストと発表の課題がある。		
第21・22回 第11課（可能補語、動詞重ね型、是～的の文）		小テストと発表の課題がある。		
第23・24回 第11課（存現文）・トレーニング		小テストと発表の課題がある。		
第25・26回 第12課（使役文、受身文）		小テストと発表の課題がある。		
第27・28回 第12課（処置文）・トレーニング		小テストと発表の課題がある。		
第29回 後期範囲の総合発表 第30回 総まとめと復習		範囲の復習課題がある。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10%（関連学習課題&レポート）			
小テスト等	75%（各課学習後の発表&小テスト）			
成果発表	15%（総合課題発表）			
受講態度他	0%（出席状況を学習態度として参考にする）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	語学の学習は、積み重ねが大切である。この授業は特に小テストを頻繁に行うため、日常復習することが必要である。			
教科書	『中国語初級トレーニング』三修社			
指定図書	①『おぼえておきたい中国語生活会話300』 ②『ネイティブが話す中国語「単語、熟語、決まり文句」』 ③『図説中国文化』漢日対照			
参考図書	『日中・中日辞典』隆美出版 『中日辞典』小学館 『日中辞典』小学館			
オフィスアワー	石：火、水、木、金 李：授業の前後	メールアドレス		

授業科目	中国語上級 I 【演習】	開講時期	前期
担当教員	石 其琳	単 位	2
授業の目的と概要	<p>・この授業は、初級、中級の学習を終えた人を対象とする。</p> <p>・週2回の授業を通して、聞く、読む、話す、書くことを総合的に訓練し、中国語上級レベルの語学力を身につけることを目的とする。</p> <p>概要①テキストをもとに、自分で翻訳し、会話練習をプレゼンテーション方式で行なう。②作文練習をした内容について、一対一の口頭試問を行なう。映像材料の中国のテレビ番組、映画、インターネット上各分野の資料を補助教材として、実践的に使う。更に現在コミュニケーションの手段として欠かせないメールの中国語で送受信と入力法などについても学習する。</p>		
到達目標	<p>1 現在中国に関する新聞、中国語ウェブサイトなどさまざまな情報源を自力で収集し、応用することができる。</p> <p>2 さまざまな場において、授業で身につけた語学力を効率よく使いこなせることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (2) -①多様な価値観を尊重し、他者につながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連科目：中国語初級、中級、中国現代文学、中国少数民族文化、東アジア入門</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第 1・3回	⑦マクドナルドどこにある？ ⑧小心拉肚子。	各回発表する会話内容訳宿題あり	
第 2・4回	プリント資料 1・2 の内容についての作文練習と一対一の口頭試問	各回指定ヒアリング宿題あり	
第 5・7回	⑨午后有小雨。 ⑩旗袍真漂亮。	各回発表する会話内容訳宿題あり	
第 6・8回	プリント資料 3・4 の内容についての作文練習と一対一の口頭試問	各回指定ヒアリング宿題あり	
第 9・11回	PCの中国語入力練習 (中国語の設定からピンイン入力)	各回テスト形式課題あり	
第10・12回	プリント資料 5・6 の内容についての作文練習と一対一の口頭試問	各回指定ヒアリング宿題あり	
第13・15回	PCの中国語入力練習 (文章の作成)	各回テスト形式課題あり	
第14・16回	プリント資料 7・8 の内容についての作文練習と一対一の口頭試問	各回指定ヒアリング宿題あり	
第17・19回	PCの中国語入力練習 (メールの作成と送受信)	各回テスト形式課題あり	
第18・20回	プリント資料 9・10 の内容についての作文練習と一対一の口頭試問	各回指定ヒアリング宿題あり	
第21・23回	映像材料の翻訳などの演習 (TV番組内容、ウェブ中国語サイト資料など)	各回テスト形式課題あり	
第22・24回	プリント資料11・12の内容についての作文練習と一対一の口頭試問	各回指定ヒアリング宿題あり	
第25・27回	映像材料の翻訳などの演習 (TV番組内容、ウェブ中国語サイト資料など)	各回テスト形式課題あり	
第26・28回	プリント資料13・14の内容についての作文練習と一対一の口頭試問	各回指定ヒアリング宿題あり	
第29回	総合発表	指定宿題・補助課題提出	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	25% (①宿題10% ②補助課題の提出物15%)		
小テスト等	70% (①毎授業の発表35% ②毎授業の口頭試問作文35%)		
成果発表	5% (総合発表)		
受講態度他	0% (出席状況を学習態度として参考にする)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・毎回の授業は、さまざまな形式で発表することが要求されるため、予習することが絶対に欠かせない。</p> <p>・毎回ヒアリングの宿題も別に提示するが、必ず提出すること。</p> <p>・授業中辞典を持参する必要もあるので、各自で用意すること。</p>		
教科書	『トーク・トピックス』白帝社		
指定図書	①『ことばの周辺』 ②『漢語新詞語』(2011) ③『中国語考えるヒント』		
参考図書	『中日辞典』小学館 『日中辞典』小学館		
オフィスアワー	火、木、金	メールアドレス	

授業科目	中国語上級Ⅱ【演習】	開講時期	後期
担当教員	石 其琳	単 位	2
授業の目的と概要	<p>・この授業は、初級、中級の学習を終えた人を対象とする。          ・週2回の授業を通して、聞く、読む、話す、書くことを総合的に訓練し、中国語上級レベルの語学力を身につけることを目的とする。          授業概要：①テキストをもとに、自分で翻訳し、会話練習をプレゼンテーション方式で行なう。          ②作文練習をした内容について、一対一の口頭試問を行なう。          他に中国のテレビ番組、映画、インターネット上各分野の資料を補助教材として、実践的に使う。更に現在コミュニケーションの手段として欠かせないメールの中国語で送受信と入力法などについても学習する。</p>		
到達目標	<p>1 現在中国に関する新聞、インターネットなどさまざまな情報源を自力で収集し、応用することができる。          2 さまざまな場において、授業で身につけた語学力を効率よく使いこなせることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア(2)-①多様な価値観を尊重し、他者とながらむための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」          ア(3)-②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。          &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。          関連科目：中国語初級、中級、中国現代文学、中国少数民族文化、東アジア入門</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1・3回	①新環境 新朋友(トレーニング) ②哥哥還是大學生(トレーニング)	各回発表する会話内容訳宿題あり	
第2・4回	プリント資料1・2の内容についての作文練習と一対一の口頭試問	各回指定ヒアリング宿題あり	
第5・7回	③誕生日おめでとう!(トレーニング) ④サッカーできる?(トレーニング)	各回発表する会話内容訳宿題あり	
第6・8回	プリント資料3・4の内容についての作文練習と一対一の口頭試問	各回指定ヒアリング宿題あり	
第9・11回	⑤味道好極了!(トレーニング) ⑥我不買、隨便看看(トレーニング)	各回発表する会話内容訳宿題あり	
第10・12回	プリント資料5・6の内容についての作文練習と一対一の口頭試問	各回指定ヒアリング宿題あり	
第13・15回	ウェブ中国語サイト情報資料の検索、翻訳の練習	各回テスト形式課題あり	
第14・16回	プリント資料7・8の内容についての作文練習と一対一の口頭試問	各回指定ヒアリング宿題あり	
第17・19回	ウェブ中国語サイト情報資料の検索、翻訳の練習	各回テスト形式課題あり	
第18・20回	プリント資料9・10の内容についての作文練習と一対一の口頭試問	各回指定ヒアリング宿題あり	
第21・23回	映像材料の翻訳などの練習(TV番組内容)	各回テスト形式課題あり	
第22・24回	プリント資料11・12の内容についての作文練習と一対一の口頭試問	各回指定ヒアリング宿題あり	
第25・27回	映像材料の翻訳などの練習(TV番組内容)	各回テスト形式課題あり	
第26・28回	プリント資料13・14の内容についての作文練習と一対一の口頭試問	各回指定ヒアリング宿題あり	
第29回	総合発表	指定ヒアリング宿題あり	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	25%(宿題10% 補助課題の提出物15%)		
小テスト等	70%(①毎授業の発表35% ②毎授業の口頭試問35%)		
成果発表	5%(期末総合発表)		
受講態度他	0%出席状況を学習態度として参考にする。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・毎回の授業は、さまざまな形式で発表することが要求されるため、予習することが絶対に欠かせない。          ・毎回ヒアリングの宿題も別に提示するが、必ず提出すること。          ・授業中辞典を持参する必要もあるので、各自で用意すること。</p>		
教科書	『トーク・トピックス』白帝社		
指定図書	①『誤用から学ぶ中国語』白帝社 ②『最新兩岸用詞差異対照手冊』靈活文化社 ③『ことばの文化背景』		
参考図書	『中日辞典』小学館 『日中辞典』小学館		
オフィスアワー	火、水、木、金	メールアドレス	

授業科目	中国語中級 I 【演習】		開講時期	前期
担当教員	徐 涛		単 位	2
授業の目的と概要	初級で学んだ単語や文法知識をさらに広げながら、総合的な中国語力をつけます。1年次で学習した基礎中国語の発音・文法をふまえ、実用会話、短篇文章を読解し、コミュニケーション能力を高めます。標準語の発音・漢字の書き方・文法など3点に焦点を当て、聞き・話す・書くことに重点を置き、中級中国語の知識、やや複雑な会話文と平易な文章を分析することを通じて、中国の社会や文化を理解し、中級程度の中国語の総合的な実力の向上を図ります。無理なく学ぶことによって、中国語を学ぶことの楽しさを実感させ、学力の確実な定着を目指します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正しく中国語の発音することができる。</li> <li>2. 文法を理解し、中国語の文章を読むことができる。</li> <li>3. 聞き・話すことに重点を置き、日常会話をすることができる。</li> <li>4. 言語の背景にある文化、社会を理解し、中国語で簡単に説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回 ガイダンス： 授業の概要、計画、進め方；	テキスト第1課 単語・読解	配布資料：教室用語； テキスト予習. p. 6第1課会話		
第2回 教室用語 (1) と第1課会話の発音・朗読		会話暗唱； 予習.：教室用語 (2) ・ 第1課短文 (pp. 8)		
第3回 会話発表と教室用語 (2) ・ 第1課短文の文法・読解		短文復習； 予習.：教室用語 (3) ・ 第2課会話 (pp. 10)		
第4回 教室用語 (3) と第2課会話の発音・朗読		会話暗唱；予習.：教室用語 (4) ・ 第2課短文 (pp. 12)		
第5回 会話発表と教室用語 (4) と第2課短文の文法・読解		短文復習； 予習.：教室用語 (5) ・ 第3課会話 (pp. 14)		
第6回 教室用語 (5) と第3課会話の発音・朗読		会話暗唱；予習.：教室用語 (6) ・ 第3課短文 (pp. 16)		
第7回 会話発表と教室用語 (6) ・ 第3課短文の文法・読解		短文復習； 予習.：教室用語 (7) ・ 第4課会話 (pp. 18)		
第8回 教室用語 (7) と第4課会話の発音・朗読		会話暗唱；予習.：教室用語 (8) ・ 第4課短文 (pp. 20)		
第9回 会話発表と教室用語 (8) ・ 第4課短文の文法・読解		短文復習； 予習.：教室用語 (9) ・ 第5課会話 (pp. 22)		
第10回 教室用語 (9) と第5課会話の発音・朗読		会話暗唱；予習.：教室用語 (10) ・ 第5課短文 (pp. 24)		
第11回 会話発表と教室用語 (10) ・ 第5課短文の文法・読解		短文復習； 予習.：教室用語 (11) ・ 第6課会話 (pp. 26)		
第12回 教室用語 (11) と第6課会話の発音・朗読		会話暗唱；予習.：教室用語 (12) ・ 第6課短文 (pp. 28)		
第13回 会話発表と教室用語 (12) ・ 第6課短文の文法・読解		短文復習； 予習.：教室用語 (13) ・ 第7課会話 (pp. 30)		
第14回 教室用語 (13) と第7課会話の発音・朗読		会話暗唱；第1～7課の復習		
第15回 会話発表と総復習		教室用語・第1～7課の復習		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	55%			
成果発表	なし			
受講態度他	45% 出席状況、授業態度関わる姿勢などをふまえ総合的な判定する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	「急がず・焦らず・着実に」を指導方針とし、積極的に声を出す指導を展開して、コミュニケーション能力を高めていきます。授業時に定期的に単語小テストを実施し、学習定着度を細やかに確認しています。積極的に授業へ参加、充分に復習と予習することが望ましい。授業中の私語は慎むこと。			
教科書	内田 慶市・奥村 加代子・張 軼欧著『中国語への道』金星堂			
指定図書	孟広学・本間史『変化する中国』・『中国は今』 白水社			
参考図書	『中国語辞典』 白水社、『中日辞典』三省堂ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	水曜日3限目	メールアドレス		



授業科目	中国語中級Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	崔 淑芬・徐 涛		単 位	2
授業の目的と概要	前期の学習内容を踏まえて学習を進める。後期は中国語の実用会話や文章の理解力と読解実力を向上することができます。学習したことに積み上げる形で、更に単語を覚え、実用会話、短文文章を読解し、コミュニケーション能力を高めます。聞き・話す・書くことに重点を置き、会話や文章を流暢に読む・話す・読解することができます。中国語の総合的な実力の向上を図ります。無理なく学ぶことによって、中国語を学ぶことの楽しさを実感させ、学力の確実な定着を目指します。実践的なコミュニケーション能力を身につけるため、これまでに学んだ中国語教室用語を活かして、出来るだけ中国語で授業を進めていきます。また、言語の背景にある文化、社会を理解し、総合的な中国語力をつけます。			
到達目標	①学んだ知識の地固めをしつつ、更に充実した会話力を身につけることができる。 ②練習問題の一つひとつ自力で解かせて、理解度と運用能力を高めることができる。 ③実践的なコミュニケーション能力を身につけ、総合的な実力の向上することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 授業の概要、計画、進め方； 教室用語1～13復習		教室用語復習； 予習：教室用語（14）・第7課短文（pp.32）		
第2回 教室用語（14）と第7課短文の文法・読解		短文復習； 予習：教室用語（15）・第8課会話（pp.34）		
第3回 教室用語（15）と第8課会話の発音・朗読		会話暗唱；予習：教室用語（16）・第8課短文（pp.36）		
第4回 会話発表・教室用語（16）と第8課短文の文法・読解		短文復習； 予習：教室用語（17）・第9課会話（pp.38）		
第5回 教室用語（17）と第9課会話の発音・朗読		会話暗唱；予習：教室用語（18）・第9課短文（pp.40）		
第6回 会話発表・教室用語（18）と第9課短文の文法・読解		短文復習； 予習：教室用語（19）・第10課会話（pp.42）		
第7回 教室用語（19）と第10課会話の発音・朗読		会話暗唱； 予習：教室用語（20）・第10課短文（pp.44）		
第8回 会話発表・教室用語（20）と第10課短文の文法・読解		復習： 教室用語1～20		
第9回 教室用語小テスト・第10課短文の解釈		短文復習； 予習：第11課会話（pp.46）		
第10回 第11課会話の発音・朗読		会話暗唱；予習：第11課短文（pp.48）		
第11回 会話発表・第11課短文の文法・読解		短文復習； 予習：第12課会話（pp.50）		
第12回 第12課会話の発音・朗読		会話暗唱； 予習：第12課短文（pp.52）		
第13回 会話発表・第12課短文の文法・読解		短文復習； 予習：短文作成		
第14回 自作短文発表会		テキスト復習：第7～12課		
第15回 総復習		教室用語・テキストの復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	35%			
レポート	なし			
小テスト等	30%			
成果発表	なし			
受講態度他	35% 出席状況、授業態度関わる姿勢などをふまえ総合的な判定する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	「急がず・焦らず・着実に」を指導方針とし、積極的に声を出す指導を展開して、コミュニケーション能力を高めていきます。授業時に定期的に単語小テストを実施し、学習定着度を細やかに確認しています。積極的に授業へ参加、充分に復習と予習することが望ましい。授業中の私語は慎むこと。			
教科書	内田 慶市・奥村 加代子・張 軼欧著『中国への道』金星堂			
指定図書	孟広学・本間史『変化する中国』・『中国は今』 白水社			
参考図書	『中国語辞典』 白水社 、『中日辞典』 三省堂 ほか、授業中に紹介する。			
オフィスワー	月 4限目・金 4限目	メールアドレス		

授業科目	中国語通訳【講義】		開講時期	後期
担当教員	崔 淑芬		単位	2
授業の目的と概要	<p>学習してきた中国語の文法、語彙を使って、通訳の訓練方法を通じた、オーラルコミュニケーションのスキル向上をねらいとします。正しい発音と基礎的な語彙を身につけることから出発し、リスニング・スキルの向上、また、中日・日中逐次/同時通訳を実践すると同時に、読解及び聴解能力の強化、語彙、専門知識の習得を目指します。正しく的確に通訳することができるような基礎的な力をつけ、その運用ができるようにします。リスニングを主に実際に通訳の実技訓練を行い、日本語・中国語に関わらず、コミュニケーション能力の向上も目指し、会話を通訳養成の現場で使われている練習方法を使って、トレーニングしていきます。</p>			
到達目標	<p>①通訳、異文化間コミュニケーションに関する基礎的知識を習得する。  ②コミュニケーション能力を磨き、通訳の技法の初歩を学ぶ。  ③種類、心得、マナーなどについて知る。簡単な会話のやりとりが通訳できるようになる  ④言語の背景にある文化、社会を理解しながら、実践的な逐次・同時通訳訓練を行う。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 本授業の概要、目標、授業の進め方・通訳とはどのような仕事か		予習：事前に配布する語彙リスト・通訳の種類、通訳者になるためには		
第2回 通訳する上でのマナー、種類； 通訳実技(1) (同時通訳の初歩)		訳文発音の復習； 予習：通訳実技(2)		
第3回 通訳実技(2) (同時通訳の初歩) 通訳訓練法の講義と実践：自己紹介の通訳 (1)		訳文の復習； 予習：自己紹介の通訳 (2)		
第4回 通訳訓練法の講義と実践：自己紹介の通訳 (2)		自己紹介訳文の復習； 予習：自己紹介の通訳 (3)		
第5回 通訳訓練法の講義と実践：自己紹介の通訳 (3)		自己紹介訳文の復習； 予習：簡単なスピーチ通訳 (1)		
第6回 スピーチの通訳 (1)、訳出ができるようになるまで練習		スピーチ通訳の復習； 予習：簡単なスピーチ通訳 (2)		
第7回 スピーチ通訳 (2)、訳出ができるようになるまで練習		スピーチ通訳の復習； 予習：簡単なスピーチ通訳 (2)		
第8回 スピーチ通訳 (2)、訳出ができるようになるまで練習		スピーチ通訳の復習； 予習：簡単なスピーチ通訳 (3)		
第9回 スピーチ通訳 (3)、訳出ができるようになるまで練習		スピーチ通訳の復習； 予習： 出迎え・案内通訳 (1)		
第10回 出迎え・案内通訳 (1) 訳出ができるようになるまで練習		訳文の復習； 予習：出迎え・案内通訳 (2)		
第11回 出迎え・案内通訳 (2) 訳出ができるようになるまで練習		訳文の復習； 予習：出迎え・案内通訳 (3)		
第12回 出迎え・案内通訳 (3) 訳出ができるようになるまで練習		訳文の復習； 予習：送別会通訳 (1)		
第13回 送別会通訳 (1) 訳出ができるようになるまで練習		訳文の復習； 予習：送別会通訳 (2)		
第14回 送別会通訳 (2) 訳出ができるようになるまで練習		訳文の復習； 予習：送別会通訳 (3)		
第15回 送別会通訳 (3) ・総括復習		復習文まとめ練習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% 日文中訳、中文日訳			
レポート	なし			
小テスト等	20%			
成果発表	20%			
受講態度他	20% 飲食厳禁。携帯電話使用不可。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的に授業へ参加、充分に復習と予習することが望ましい。 授業中の私語は慎むこと。 復習(毎回出される課題)を確実にこなすこと。			
教科書	プリント教材			
指定図書	なし			
参考図書	『中日辞典』、塚本慶一著『中国語通訳への道』大修館書店 ほか、授業中に随時紹介していく。			
オフィスアワー	火曜：3限	メールアドレス		

授業科目	中国の少数民族文化【講義】		開講時期	前期
担当教員	石 其琳		単 位	2
授業の目的と概要	<p>中国の人口は9割以上の漢民族と55の少数民族で構成されている。少数民族は中国全ての異気候と地形（平地、高山、砂漠、草原、島など）の地域に分布し居住しているため、自然と人文の地理環境に大きな影響を受け、文化伝統の発展と生活習慣に相違性が見られる。授業で身につけた上述の知識を通して、長年各少数民族が漢民族や他の少数民族との地理的背景及び歴史文化の関わり、そして現代化による生活変化の実態を理解し、その問題点を考察することが目的とする。</p> <p>少数民族の地理的生活環境と風俗習慣（結婚、家族、服飾、住居、食、禁忌、宗教など）の基本知識を学習する。そして近年継続してきた少数民族に関する私個人の研究調査結果を随時に加え、映像資料などを使用して、中国社会に存在するもう一つの顔としての少数民族の実体理解を深め、同時に彼らが今日現代化を進める過程で直面するさまざまな問題を啓発学習する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国は多民族国家であることを認識し、説明できる。</li> <li>2. 各少数民族の生活形態と文化伝統習慣がその居住する自然と人文的地理の要素と深くかかわることを理解し、説明できる。</li> <li>3. 中国文化における少数民族の歴史文化的重要性を述べることができる。</li> <li>4. 現在中国少数民族が抱えるさまざまな問題点を具体的に説明することが出来る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連科目：中国現代文学、現代中国と教育、東アジア入門、東アジア近現代史、海域文化交流論、シルクロード文化交流論、イスラム地域文化論、</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 概論 1 (映像資料による中国少数民族の简单介绍)			ミニレポートを提出	
第 2回 概論 2 (人口、行政区画など)			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 3回 概論 3 (少数民族分布の概要－各民族の居住地の地形と生活様式)			各回講義内容についてミニレポート提出	
第 4回 概論 4 (少数民族の認定)			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 5回 概論 5 (50年代民族の状態と問題点)			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 6回 概論 6 (少数民族の識別と問題点)			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 7回 概論 7 (少数民族の政策と問題点)			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 8回 概論 8 (中国民族問題の特徴)			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 9回 少数民族の伝統と現代の諸問題 1 (モンゴル族、チベット族を中心に)			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第10回 少数民族の伝統と現代の諸問題 2 (回族を中心に)			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第11回 少数民族の伝統と現代の諸問題 3 (新疆自治区のウエグル族など)			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第12回 少数民族の伝統と現代の諸問題 4 (納西族－母系社会のモソ人を中心に)			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第13回 都会の中の少数民族の諸問題			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第14回 少数民族の現代化問題まとめ 1 (※経済発展と地理環境問題)			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第15回 少数民族の現代化問題まとめ 2 (※経済発展、歴史文化伝統の問題)			総まとめのレポートを提出	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% (毎授業中提出するミニレポート)			
小テスト等	なし			
成果発表	20% (総まとめのレポート)			
受講態度他	0% (出席状況を学習態度として参考にする)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎講義後、当日の講義内容に関する小課題（ミニレポート）をその場で書き、提出することをしなければならないので、欠席をしないよう注意すること。授業に対しての質疑も小課題に記入することが出来る。質疑に対し、必要に応じて次回の授業で返答する。</p>			
教科書	プリント資料配布			
指定図書	①『概説 中国の少数民族』 ②『中国少数民族の自治と慣習法』 ③『中国少数民族服飾北方編・南方編』（DVD）			
参考図書	『中国少数民族事典』			
オフィスアワー	火、水、木、金	メールアドレス		

授業科目	中国文化特論【講義】		開講時期	前期
担当教員	桐島 薫子		単位	2
授業の目的と概要	この授業では、中国文化について、「女性」・「政治」・「思想」をキーワードに考察を行い、人間や人間をとりまく社会・文化についての理解を深め、普遍的な課題を発見し、その対応についても考えます。具体的には、中国の古代には「傾国」・「賢婦」など典型的な「型」に当てはめて評された女性たちがいましたが、①こうした女性観がなぜ生まれたのか、②これらの女性観が中国や日本においてどのように伝わり変容してきたのか、③それらの女性観が現代社会にどのような影響を及ぼしているのかについて、歴史書・文学作品・関係する美術作品・現代の事象などを手がかりに考えます。授業では、主に、前漢・後漢・唐の有名な女性の故事（物語）を取りあげます。授業では、日本・中国・アジアに関連する学術的なデータベースや関連学会HPの紹介やそれらの活用方法についても説明します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中国文化を概観するための基礎的な知識に習熟することができる。</li> <li>2 中国における典型的な女性観とそれらが形成された背景を理解し、説明することができる。</li> <li>3 中国における典型的な女性観が、中国や日本においてどのように変容し、影響を及ぼしてきたのかを説明することができる。</li> <li>4 人間理解の視点から授業に関連したテーマを定め、情報を収集・整理・再構築し、自身の見解を論理的に述べることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス、中国に関する基礎知識、古典文献の読解に関する習熟度のアンケート	復習：配布プリント、文献の講読、自身の基礎知識のチェックをする		
第2回	習熟度の調査の結果・今後の進め方について	予習：文献の講読や調査		
第3回	前漢の歴史と女性故事①	予習：訓読の練習、作品の内容調査		
第4回	前漢の女性故事②と中国文化への影響	予習：作品の時代背景の確認		
第5回	前漢の女性故事③と日本文化への影響	予習：日本の文学・文化に与えた影響について考察する		
第6回	前漢の女性故事に関するまとめとディスカッション	復習：前漢の女性故事に関するまとめ		
第7回	後漢の歴史と後漢の女性故事①	予習：作品の内容調査		
第8回	後漢の女性故事②と中国文化への影響	予習：作品の時代背景の確認		
第9回	後漢の女性故事③と日本文化への影響	予習：日本の文学・文化に与えた影響について考察する		
第10回	後漢の女性故事に関するまとめとディスカッション	予習：後漢の女性故事に関するまとめ		
第11回	唐の歴史と女性故事①	予習：作品の内容調査		
第12回	唐の女性故事②と中国文化への影響	予習：作品の時代背景の確認		
第13回	唐の女性故事③と日本文化への影響	予習：日本の文学・文化に与えた影響について考える		
第14回	唐の女性故事に関するまとめとディスカッション	予習：唐の女性故事に関するまとめ		
第15回	典型的な女性観の「型」のまとめ、全体のまとめ、レポートについて	レポート準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%（授業内容に関連したテーマを設定し、資料を用いて自身の見解を述べるレポート）。添削して、返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50%（授業中のディスカッションや発表・質疑応答への取り組み）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・毎年、学部での専門の違いにより中国古典に関する習熟度が異なる受講生が履修することがあるため、最初に基礎知識や読解に関するアンケート調査を行います。講義は、その結果を反映し、進めていく予定です。			
教科書	・配布プリント			
指定図書	なし			
参考図書	・授業中に指示する。			
オフィスワー	金曜の5時間目	メールアドレス		

授業科目	中国文学演習Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>日本の文学や言語に大きな影響を与えた唐代の詩歌（漢詩）を学びます。具体的には、官僚・文人として活躍した白楽天（白居易）を取り上げます。白楽天は、苦しい時もありましたが、人生の充実と喜びを追求し詩に表現しました。</p> <p>授業では、近体詩（律詩・絶句）の作品を読み解き、表現の工夫や特徴を把握しながら、白楽天の人生・思想・家族・友人、時代背景について学んでいきます。また、学んだ内容に関して、履修者の皆さんが、考えたこと・調べたことをまとめ、発信したり、文章にして伝えたりする機会も設けます。このような経験を通じて自己管理能力、課題を発見し解決する力を身に付けていくことも目的とします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 唐代の詩歌（漢詩）について、特徴、文化的・歴史的背景、日本文学への影響を理解し、説明することができる。</li> <li>2. 白楽天の生き方や詩風について理解することができる。</li> <li>3. 白楽天の近体詩を学び獲得した知識・態度等を総合的に活用して、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。</li> <li>4. 興味をもったテーマについて、自身の考えを適切な日本語を用いて論理的に述べるができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この授業では、1年後期「中国文学概論」、「漢字と故事成語」、2年「中国文学講読Ⅱ」等で培った知識や読解力を更に発展的に向上させることができます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業全体のガイダンス、詩歌概論①（魏晉南北朝）	教科書『漢文まとめと要点』の魏晉南北朝の部分の復習		
第2回	詩歌概論②（隋～唐）	教科書『漢文まとめと要点』の隋～唐の部分の復習		
第3回	漢詩のきまり、漢籍データベースの紹介	教科書『漢文まとめと要点』漢詩のきまり部分の復習		
第4回	白楽天（白居易）とその生きた時代	教科書『白楽天』の全体の構成を理解し、「解説」を読む		
第5回	白楽天（白居易）の仕事とプライベート	白楽天の生き方について考える		
第6回	第一部：少年時代から退官まで ①「賦し得たり古原の草 送別」（決してくじけない！）	「賦し得たり古原の草 送別」の復習		
第7回	第一部：少年時代から退官まで ②「白牡丹」（閑なポストでつまらない）	「白牡丹」の復習		
第8回	第一部：少年時代から退官まで ③「香爐峯下新たに山居をとし〜」（廬山でのんびり）	「香爐峯下新たに山居をとし〜」の復習		
第9回	第一部：少年時代から退官まで④ 「春湖上に題す」（西湖にうっとり！）	「春湖上に題す」の復習		
第10回	第一部：少年時代から退官まで ⑤「州民に別る」（杭州とお別れ）	「州民に別る」の復習		
第11回	第二部：愛する人に語り、好きなものを詠う ①「贈内子」（けなげな妻よ）	「贈内子」の復習		
第12回	第二部：愛する人に語り、好きなものを詠う② 「八月十五日夜、禁中にて独り直し、〜」（元？よ、どうしている？）	「八月十五日夜、禁中にて独り直し、〜」の復習		
第13回	第二部：愛する人に語り、好きなものを詠う③ 「下？荘南の桃花」（散ってゆく桃の花よ）	「下？荘南の桃花」の復習		
第14回	第二部：愛する人に語り、好きなものを詠う④ 「春風」（かけめぐる春の風）、レポートについて①	「春風」の復習		
第15回	唐代の小説の紹介、まとめ、レポートについて②	総復習、レポートに取り組む		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	25%（期末レポート）			
小テスト等	60%（毎回の課題への取り組み）			
成果発表	なし			
受講態度他	15%（授業への参加態度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として、遠隔授業（オンデマンド型）を行います。</li> <li>2. 筑女ネットやTeamsを使ったリアルタイム型授業は、現段階で履修する皆さんの受講環境が把握できませんので、当面は行いません。今後、全員がリアルタイム型に対応できることが確認でき、リアルタイム型の方が理解が進むという状況があった場合は取り入れる可能性があります。その際は、事前に、授業において皆さんの意見を聞いたり、受講状況を確認したりしますので心配しないで下さい。</li> </ol>			
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 下定雅弘著『ビギナーズ・クラシックス中国の古典 白楽天』（角川ソフィア文庫）</li> <li>2. 森野繁夫・佐藤利行著『漢文まとめと要点』（白帝社）、3. 配布プリント</li> </ol>			
指定図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 岡村 繁著『新釈漢文大系99 白氏文集3』（明治書院）</li> <li>2. 岡村 繁著『新釈漢文大系105 白氏文集9』（明治書院）</li> </ol>			
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 岡村 繁著『新釈漢文大系107 白氏文集11』（明治書院）</li> <li>2. 『白居易研究年報』、3. 『大漢和辞典』第1～12巻 諸橋轍次著（大修館書店）、その他、授業中に適宜紹介。</li> </ol>			
オフィスアワー	金曜 5限	メールアドレス		

授業科目	中国文学演習Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、日本に影響を与えた中国の文学について、「女性」・「恋」をキーワードとして学んでいきます。具体的には、前漢の武帝と李夫人・唐の玄宗皇帝と楊貴妃に関する歴史物語から生まれた古詩を読み解き、その表現の特徴を把握していきます。作品としては、白楽天の「李夫人」・「長恨歌」を取り上げます。「長恨歌」については、履修者による調査・発表を取り入れることで、社会人に必要なプレゼンテーション能力や、準備のための自己管理能力の向上も目指していきます。</p> <p>また、唐代伝奇小説「長恨歌伝」や日本への影響を学び、幅広い視野から「長恨歌」の理解を深めるとともに、時代によって異なる楊貴妃観や恋をめぐる多様な価値観を理解していきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 担当する作品の参考文献を理解し、情報を整理し、発表資料（レジュメ）を作ることができる。</li> <li>2 自ら課題を設定してレジュメを作成し、口頭で発表することができる。</li> <li>3 白楽天の古詩を読み解き、ディスカッションを通じて理解を深めることができる。</li> <li>4 日本文学に大きな影響を与えた白楽天の古詩について、概要を説明することができる。</li> <li>5 興味をもったテーマを設定し、学んだことを活用して自身の考えを論理的に組み立て、文章で表現することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。  日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。【課題探究力】</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  この授業では、1年後期「中国文学概論」、「漢字と故事成語」、2年「中国文学講読ⅠⅡ」、3年前期「漢文読解」、「中国文学演習Ⅰ」等で培った知識や読解力を更に発展的に向上させることができます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス、中国の恋の歌、白楽天の古詩	教科書（『白楽天』）p44を読む		
第2回	「長恨歌」（概要・原文）、発表レジュメについて、参考文献	配布資料を読み、発表担当希望箇所（複数）を考える		
第3回	武帝と李夫人、「長恨歌」担当部分の希望調査・決定	「武帝と李夫人」関連資料を読む、発表担当作品の参考文献を収集する		
第4回	白楽天の「李夫人」	参考文献の収集、レジュメ作成		
第5回	専門的辞書・漢籍データベースの活用方法	参考文献の収集と検討、レジュメ作成		
第6回	発表について①（漢籍データベースについて・課題の発見）	発表準備、プレゼンテーション方法について考えておく		
第7回	発表について②（課題の解決・プレゼンテーション方法の検討）	発表準備、「長恨歌伝」を読む		
第8回	発表：「長恨歌」の第1段の前半	発表準備、「長恨歌」第1段前半の復習		
第9回	発表：「長恨歌」の第1段後半、関連作品	発表準備、「長恨歌」第1段後半の復習、		
第10回	発表：「長恨歌」の第2段	発表準備、「長恨歌」第2段の復習		
第11回	発表：「長恨歌」の第3段	発表準備、「長恨歌」第3段の復習		
第12回	発表：「長恨歌」の第4段前半	発表準備、「長恨歌」第4段前半の復習		
第13回	発表：「長恨歌」の第4段後半、レポートについて	発表準備、「長恨歌」第4段後半の復習		
第14回	関連作品（「長恨歌伝」他）について、日本への影響	全体の復習・レポート準備		
第15回	まとめ	レポートの見直し・仕上げ		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%（期末レポート）			
小テスト等	なし			
成果発表	50%（レジュメの作成とプレゼンテーション）			
受講態度他	20%（ディスカッションなど授業への参加態度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 配布資料をよく読み、理解を深めましょう。辞書などを使って積極的に調べるようにしましょう。</li> <li>2. 授業の中でコンピューター演習室を使うことがあります。この場合は、事前に連絡をします。</li> <li>3. 受講者数に応じ授業計画を一部変更したりする場合があります。変更が生じた場合は、授業中にお知らせします。</li> <li>4. この授業は対面授業です。本学の方針に従って実施します。</li> </ol>			
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 森野繁夫・佐藤利行著『漢文まとめと要点』（白帝社）</li> <li>2. 配布プリント</li> </ol>			
指定図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 下定雅弘著『長恨歌—楊貴妃の魅力と魔力—』（勉誠出版）</li> <li>2. 近藤春雄著『白氏文集と国文学—新楽府・秦中吟の研究』（明治書院）</li> </ol>			
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『ピギナーズ・クラシックス中国の古典—白楽天』下定雅弘（角川ソフィア文庫）</li> <li>2. 竹村則行著『楊貴妃文学史研究』（研文出版）</li> </ol>			
オフィスアワー	火曜昼休み	メールアドレス		

授業科目	中国文学概論【講義】		開講時期	後期
担当教員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>日本の文学・言語・文化に多大な影響を与えた中国古典文学の基礎的な事項を学びます。具体的には、詩歌（漢詩）と文章（史伝文学）について、先秦～三国（魏・呉・蜀）時代の代表的な作品を取り上げ、作者・時代背景・地理・表現の特徴・日本への影響を理解していきます。</p> <p>また、現代社会の諸問題を解決していくための座右の銘や処世術などを表現する上で引用されることが多い中国古典の特質について、理解していきます。その過程では、①論理的な思考力とコミュニケーション力を学ぶこと、②古典の中の歴史観・倫理観・人間観・自然観を通じて、視野を広げること、③古典を事例として、情報機器やITネットワークを通じて収集した情報を整理、再構築して活用する方法を学ぶこと、なども目指します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業で学んだ作品に関する事項（作者・時代背景・地理・表現の特徴・後世への影響）について、説明することができる。</li> <li>2 授業で学んだ作品が日本の文学や文化に与えた影響について、具体的に説明することができる。</li> <li>3 授業で学んだ作品を鑑賞することで、視野を広げ、多様な価値観を理解することができる。</li> <li>4 授業を通して、現代に中国の古典を学ぶ意義について自らの見解をまとめ、的確な日本語を用い文章で伝えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日（2）-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日（3）-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この授業では、1年後期の「漢字と故事成語」で学ぶ漢字の字体の変遷や故事成語の時代背景を理解したり、2年の「中国文学講読ⅠⅡ」、3年の「中国文学演習ⅠⅡ」で取り上げる作品を理解したりするための基礎的な内容を学んでいきます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	ガイダンス（授業の目的・進め方・評価方法等）、身近な中国文学（IT情報の活用を含む）	配布プリント「身近な中国文学」を読む		
第2回	『詩経』①（身近な『詩経』・概略・時代背景）	教科書の『詩経』関連箇所（講義目次の前半）や配布プリントを読む		
第3回	『詩経』②（『詩経』の成立過程・孔子について）	教科書の『詩経』関連箇所（講義目次の後半）や配布プリントを読む		
第4回	『詩経』③（『詩経』の内容・作品解説・日本への影響）	『詩経』の作品と孔子の復習		
第5回	『楚辞』①（身近な『楚辞』・概略・時代背景）	教科書の『楚辞』関連箇所（講義目次の前半）や提示した資料を読む		
第6回	『楚辞』②（屈原について・作品解説）	教科書の『楚辞』関連箇所（講義目次の後半）や提示した資料を読む		
第7回	『春秋』と『春秋左氏伝』	教科書の『春秋』と『春秋左氏伝』関連箇所や提示した資料を読む		
第8回	『戦国策』と『国語』	教科書の『戦国策』と『国語』関連箇所や提示した資料を読む		
第9回	『史記』①（身近な『史記』・概略・時代背景）	教科書の『史記』の概略や時代背景関連箇所や提示した資料を読む		
第10回	『史記』②（司馬遷と武帝）	教科書の『史記』と司馬遷の関連箇所や提示した資料を読む		
第11回	『史記』③（内容例）	教科書の『史記』の内容に関連する箇所や提示した資料を読む		
第12回	有名な漢詩の特徴、四言詩（復習）、前漢時代の詩（武帝・楽府・楽府詩）	教科書の漢詩の種類に関連する箇所や提示した資料を読む		
第13回	後漢時代の詩（五言詩・古詩十九首）	教科書の漢詩の種類に関連する箇所（五言詩）や提示した資料を読む		
第14回	三国時代（魏）の詩と文芸評論	教科書の魏の文学に関連する箇所を読む		
第15回	六朝～唐の詩の特徴、まとめ、レポートについて	総復習をして、レポートに取り組む		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10%			
小テスト等	75%（毎回の課題への取り組み）			
成果発表	なし			
受講態度他	15%（授業への参加態度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 積極的な参加態度で臨みましょう。</li> <li>2 分からない言葉があれば、辞典で調べる習慣を身に付けましょう。</li> <li>3 学んだ内容を繰り返し復習し、習熟するようにしましょう。</li> </ol>			
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 森野繁夫・佐藤利行著『漢文まとめと要点』白帝社</li> <li>2 配布プリント</li> </ol>			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	火曜昼休み	メールアドレス		

授業科目	中国文学講義Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	桐島 薫子		単位	2
授業の目的と概要	日本の文学に大きな影響を与えた『蒙求』を取りあげます。著者は唐代の李瀚です。『蒙求』は、古人の逸話を選び分類編集した書物で、初学者用の教科書として作られました。一つの逸話を四字熟語で表現して「標題」と称し、各「標題」には、当初、李瀚による「自注」（漢文の説明文）が付いていましたが、南宋時代の徐子光が歴史書や小説などの原典を要約した「徐注」（漢文の説明文）を作り、こちらの方がよく読まれるようになりました。日本では、「螢の光、窓の雪」の歌詞や夏目漱石の名前の由来である話も『蒙求』によって広く知られるようになりました。授業では、幾つかの「標題」と「徐注」を取りあげ、その内容を理解・鑑賞するとともに、古典を現代に学ぶ意味を考え、幅広い視野や論理的な思考力を獲得することを目指します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>漢字能力や漢文読解力の向上を目指して目標を定め、達成に向けて行動することができる。</li> <li>日本の文学や文化に影響を与えた『蒙求』について、概要・特徴を説明することができる。</li> <li>各「標題」について説明することができる。</li> <li>各「徐注」（漢文）について、書き下し文に従って訓点を付けることができる。</li> <li>各「徐注」（漢文）について、語法・文章の構造・語釈を理解し訳することができる。</li> <li>授業を通じ、古典を現代に学ぶ意義について考え、意見を述べることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この授業では、1年後期の「中国文学概論」の内容を発展させ、日本に影響を与えた中国の歴史や文学に関する作品を読み、読解力を養成していきます。また、1年後期の「漢字と故事成語」と関連させながら、実践的な漢字能力も向上させていきます。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業全体のガイダンス、『蒙求』入門①（標題・徐注）	プリントの復習、教科書p94-112「Ⅱ漢文訓読の方法」を読む		
第2回	『蒙求』入門②（日本への影響・江戸時代の語釈・学びの工夫）	プリントの復習、教科書「Ⅲ漢文の語法」p114-125を読む		
第3回	蒙求全図・帝王世系の見方、授業で使う教材の説明	プリントの復習、教科書「Ⅲ漢文の語法」p126-143を読む		
第4回	三国志（蜀1-1）①：時代背景・標題の説明、徐注の訓点	（蜀1-1）の標題・徐注の訓点、関連する語法の確認		
第5回	三国志（蜀1-1）②：語釈・通釈	（蜀1-1）の語釈・通釈の復習		
第6回	三国志（蜀1-1）③：補足説明	プリントの復習、（蜀1-1）の総復習		
第7回	三国志（蜀1-2）①：標題の説明、徐注の訓点	（蜀1-2）の標題・徐注の訓点、関連する語法の確認		
第8回	三国志（蜀1-2）②：語釈、通釈、補足説明	プリントの復習、（蜀1-2）の総復習		
第9回	三国志（魏）①：標題の説明、徐注の訓点	（魏）の標題・徐注の訓点、関連する語法の確認		
第10回	三国志（魏）②：語釈、通釈、補足説明	プリントの復習、（魏）の総復習		
第11回	貴族社会で活躍した女性の話①：時代背景（謝氏、王氏）	プリントの復習、時代背景（人物と出来事）に関する確認		
第12回	貴族社会で活躍した女性の話②：標題の説明と徐注の訓点	貴族社会で活躍した女性の話の標題・徐注の訓点、関連する語法の確認		
第13回	貴族社会で活躍した女性の話③：語釈・通釈	貴族社会で活躍した女性の話の語釈・通釈の復習		
第14回	貴族社会で活躍した女性の話④：補足説明	貴族社会で活躍した女性の話の総復習		
第15回	まとめ、レポートについて	『蒙求』全体に関する総復習、レポートに取り組む		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	25％			
小テスト等	60％（毎回の課題への取り組み）			
成果発表	なし			
受講態度他	15％（授業への参加態度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>積極的な参加態度で臨みましょう。</li> <li>分からない言葉があれば、辞典で調べる習慣を身に付けましょう。</li> <li>学んだ内容を繰り返し復習し、習熟するようにしましょう。</li> </ol>			
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>森野繁夫・佐藤利行著『漢文 まとめと要点』（白帝社）</li> <li>プリント（授業中にファイルとして筑女ネットにアップします。）</li> </ol>			
指定図書	なし			
参考図書	財団法人日本漢字能力検定協会著『漢検 2級 ハンディ漢字学習』改訂版（新書判）その他、授業中に指示する。			
オフィスワー	金曜 5限	メールアドレス		



授業科目	中国文学講読Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	柴田 篤		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業の目的は以下の3つである。中国思想の特質とその展開とに関する知識を広げる。日本の文化にも深い影響を与えた中国伝統文化に対する理解を深める。漢文訓読の技術を高める。</p> <p>授業は、先ず漢籍分類法や中国思想史の流れと基礎知識などについて、基本的内容を講義形式で説明する。さらに、それらの思想の原典について、講読形式を用いながら読解を進める。取り上げる作品としては『論語』を中心とする。『論語』は、中国の古典中の古典であるが、日本人にも好まれ、日本の古典とも言える。重要な文章を選んで読解することによって、『論語』の世界を味わいながら、漢文訓読法を修得していく。また、漢文訓読の基礎を再確認するために、漢文法の基本について、プリントにより例文を各自が読む時間を設ける。</p>			
到達目標	<p>①中国思想の内容とその特色に関する正しい知識を有するようになる。</p> <p>②漢文訓読法によって中国古典作品の原典資料を精確に読むことができるようになる。</p> <p>③中国の古典がいかに関日本文化に影響を与えているかについて考えることができるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	中国思想史に関する基礎知識(1)(漢籍分類法と漢文訓読法)		授業内容の復習	
第2回	中国思想史に関する基礎知識(2)(中国思想史と『論語』)		授業内容の復習	
第3回	『論語』の世界(1)一学而篇読解		授業内容の復習	
第4回	『論語』の世界(2)一学而篇読解		授業内容の復習	
第5回	『論語』の世界(3)一為政篇読解		授業内容の復習	
第6回	『論語』の世界(4)一為政篇読解		授業内容の復習	
第7回	『論語』の世界(5)一八いつ篇読解		授業内容の復習	
第8回	『論語』の世界(6)一里仁篇読解		授業内容の復習	
第9回	『論語』の世界(7)一公治長篇読解		授業内容の復習	
第10回	『論語』の世界(8)一雍也篇読解		授業内容の復習	
第11回	『論語』の世界(9)一述而篇読解		授業内容の復習	
第12回	『論語』の世界(10)一述而篇読解		授業内容の復習	
第13回	『論語』の世界(11)一子罕篇読解		授業内容の復習	
第14回	『論語』の世界(12)一先進篇読解		授業内容の復習	
第15回	授業内容のまとめ		授業内容の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	学期中に2回レポートを提出してもらい、その総合点によって成績評価を行う。レポートのテーマは授業中に開示。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	漢文読解に対する意欲を持つこと。教科書は各自必ず持参すること。授業中に私語をしないこと。			
教科書	金谷治訳注『論語』(岩波文庫)			
指定図書	なし。			
参考図書	『角川 新字源』(角川書店)あるいは他の漢字辞典。その他、授業中に紹介。			
オフィスアワー	授業前後の時間帯。	メールアドレス		

授業科目	中等教育実習指導【教職】【演習】		開講時期	前期
担当教員	出雲 俊江・栗山 俊之・竹熊 真波・アダチ 徹子		単位	1
授業の目的と概要	<p>本授業は、教育実習を有意義なものとするために、その心構えを確かなものとし、実習の概要と目的について確認し、実習中の過ごし方などの実際的な準備を目指すものである。</p> <p>今年度はコロナウイルスの影響により実習の延期や縮小が予想されている。従って、状況次第では内容変更や後期での指導となることも予想されるが、いつでも実習にいけるように準備等はしっかりと行いたい。</p> <p>実習後の事後指導としては、教育実習報告会を開催し、教育実習の成果と反省を学生間で相互評価するとともに、総括レポートの作成を通じて教育実習全体を再考する。</p>			
到達目標	<p>①自らの実習への心構えを深める。</p> <p>②地元の学校への参観や現職教員による講話を通じ、学校の実情を把握し、教育活動における自らの課題を見出す。</p> <p>③教育実習に向けて、社会人としての基本的なマナーや責任能力を身につける。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、教育職員免許法施行規則における「教育実習」に該当し、「教育実習にかかる事前及び事後の指導」を行うものと規定されるものである。従って、当年度「教育実習Ⅰ」または「教育実習Ⅱ」として教育実習を行う者が受講する。</p> <p>なお、本授業は、後期開講の「教職実践演習（中・高）」と連動している。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	(4月22日) オリエンテーション: web環境の確認 (全体・web授業/担当: 竹熊)		提出すべき書類の完成	
第2回	(5月13日) 実習中の過ごし方(実習の意義と法令についての確認など) (全体・web授業/担当: 竹熊)		自己紹介の準備	
第3回	(5月20日) 実証実習予行練習(全体・web授業/担当: 竹熊)		自己紹介の練習	
第4回	(6月24日) 実証実習についての諸注意(全体・web授業/担当: 出雲)		実習準備	
第5回	学習指導案の作成(クラス別)		指導案の提出	
第6回	板書計画・教材提示の指導(クラス別)		模擬授業等の実践	
第7回	(12月18日4限) 実習報告・反省会		礼状、実習総括レポートの作成	
第8回	(12月18日5限) 実習報告・反省会		礼状、実習総括レポートの作成	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 実習前の指導案ならびに査定授業の指導案、教育実習日誌ならびに実習体験総括レポート(教育実習日誌については確認後返却する。実習体験総括レポートは添削指導後、いったん返却し、再提出後報告集を作成する)			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 模擬授業や実習報告会等			
受講態度他	20% 授業への取り組み			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・日程の変動があるので、次の授業がいつ行われるか、常に筑女ネット等で確認しておくこと</p> <p>なお、授業資料の中には本来、著作権法によりweb上での無断利用ができないにもかかわらず、オンライン授業に限り特別に利用が認められているものがあります。受講生のみならず、授業外での利用や無断転載は禁止されていますので、取り扱いには注意してください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	<p>中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、特別支援学校教育要領・学習指導要領</p> <p>江守賢治『正しくきれいな字を書くための漢字筆順ハンドブック 第三版』(三省堂 2012)</p>			
オフィスワー	月4、水4(竹熊)、水4、金3(栗山) 水4、木2(出雲)	メールアドレス		

授業科目	中等教育原理【教職】【講義】		開講時期	後期
担当教員	竹熊 真波		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、教職課程の理論的学習の導入として、教育の理念や思想、教育の法体系、教育制度の概要、家庭教育や学校教育の課題など、「教育」の諸側面を様々な角度から検討し、また議論することを通じ、教育のあり方について自ら考える力を向上させることを目的とする。</p> <p>具体的には、教育の理念や思想といった理論的事項や教育制度や改革の動向について講義するとともに、日本の教育の課題に関する調べ学習やプレゼンを通じて、能動的な理解を図るものとする。</p>			
到達目標	<p>①教育の基本的概念や法体系について、具体的かつ批判的に考察できる。</p> <p>②教育に関する代表的な教育家の思想について時系列的に概要を説明できる。</p> <p>③こども、教員、家庭、学校等を取り巻く現状と課題について、多様な視点からアプローチし、議論を構成できる。</p> <p>④近代教育制度の成立や近年の改革の状況について理解し、教育の在り方について自分なりの考えを持つことができる。</p> <p>⑤現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解している。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に該当する科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>&lt;関連する科目&gt;教育史、教育課程・方法論、教育経営論</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回(9/21)	イントロダクション：授業の進め方と自己紹介	夏休みの宿題の提出		
第2回(9/28)	教職入門の復習1教育内容と方法	各自教職の仕事内容を再考する		
第3回(10/5)	教職入門の復習2教職の意義	各自教職の意義を再考する		
第4回(10/12)	教育の意義と基本理念(小テスト①) テキスト14-23頁	戦前と戦後の理念の相違について整理しておく		
第5回(10/19)	教育の法体系(小テスト②) 23-29&151-154頁	教育基本法前文と第1条を暗記しておく		
第6回(11/2)	教育の思想(小テスト③) 29-38頁	思想家の名前とその著作等を整理しておく		
第7回(11/9)	公教育と近代学校制度の成立(小テスト④) 42-60頁	学習指導要領を確認する		
第8回(11/16)	日本学校教育史&教育行財政(小テスト⑤) 60-76頁	自分なりに簡単な年表を作成する		
第9回(11/23)	教育の課題(発表) 1：教育を受ける権利について(世界の状況)	発表の準備と反省		
第10回(11/30)	教育の課題(発表) 2：家庭教育(少子化、しつけ、児童虐待など)	発表の準備と反省		
第11回(12/7)	教育の課題(発表) 3：女性の就労と子育て(ライフサイクルの変化、就労状況等)	発表の準備と反省		
第12回(12/14)	教育の課題(発表) 4：子供を取り巻く環境(地域社会、情報社会、格差社会など)	発表の準備と反省		
第13回(12/21)	教育の課題5：学校教育(体罰、不登校、入試改革など)	発表の準備と反省		
第14回(1/18)	教育改革の動向1(小テスト⑥) 118-130頁	文部科学省HPにアクセスし、答申などを確認する		
第15回(1/25)	教育改革の動向2教育再生実行会議以降(小テスト⑦) 130-148頁	文部科学省HPにアクセスし、答申などを確認する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	35% 夏休みの課題(10%) + 授業の感想(2回×5%) × 課題発表の感想(5回×3%)			
小テスト等	35% 小テストの結果(7回×5%：確認後返却)			
成果発表	15% 自身の教育の課題についての発表			
受講態度他	15%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>教職履修生には、将来的に教職に就くことを前提に、それにふさわしい履修態度を求める。</p> <p>学校の現状を理解するためにも学生サポーターなどの学校ボランティア活動に積極的に関わることを奨励する。</p>			
教科書	竹熊真波『第2版 教員を目指す学生のための教育原理』中川書店			
指定図書	なし			
参考図書	授業の際、参考文献一覧を配布する。			
オフィスアワー	月曜2限、4限、水曜4限	メールアドレス		

授業科目	聴覚障がい者の心理と教育【講義】		開講時期	前期
担当教員	中野 桂子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>聴覚障害は、主として臨床医学上の疾患によるもので、感覚の生理・病理の観点から聴覚の構造及び機能を理解する。また、この障害は、言語障害を生み、ことばの学習を低下させるので、治癒可能な耳鼻咽喉疾患を具体的に述べる。さらに、聴覚障害（ろう）の子どもがいかにして文字言語及び手話を学ぶことによって、自分たちの世界を生み出しているかを知り、そのための支援と教育を具体的に述べる。</p> <p>聴覚の解剖生理（構造と機能）を述べて、さらに耳鼻咽喉疾患のなかで一般的なものを述べる。聴覚と発音声の関連を示し、聴覚障害児者に開かれている伝え合いの方法は文字言語、手話、身体言語が中心であること、それゆえ、その学習のあり方を明らかにする。さらに、聴覚障害児者には、視覚が支えであり、これが聴覚障害児者の知・情・意、その行動を説明し、それに即した支援と教育のあり方を述べる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聴覚の基本的な構造と機能および耳鼻咽喉疾患の主要なものについて述べるができる。</li> <li>2. 聴覚障害児者と世界（環境と人）との関係について説明できる。</li> <li>3. 聴覚障害児者の伝え合いの方法（文字言語、手話、身体言語）について説明できる。</li> <li>4. 聴覚障害児者と世界（環境と人）との心理的関わりを理解し、そのための支援と教育のあり方を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	感覚の生理 (1 感覚)	テキスト1章 (pp. 9~11) の熟読ノートの作成		
第2回	感覚の生理 (2 感覚の一般的性質)	テキスト1章 (pp. 12~14) の熟読ノートの作成		
第3回	耳 (1 感覚の発生)	テキスト5章 (pp. 53~57) の熟読ノートの作成		
第4回	耳 (2 人の聴覚)	テキスト5章 (pp. 58~60) の熟読ノートの作成		
第5回	耳 (3 聴覚障害 4 生きられる世界)	テキスト5章 (pp. 61~64) の熟読ノートの作成		
第6回	聴覚と言語 (1 耳)	テキスト6章 (pp. 65~67) の熟読ノートの作成		
第7回	聴覚と言語 (2 聴覚の機能)	テキスト6章 (pp. 68~69) の熟読ノートの作成		
第8回	聴覚と言語 (3 平衡感覚)	テキスト6章 (pp. 69~70) の熟読ノートの作成		
第9回	聴覚と言語 (4 声および言語)	テキスト6章 (pp. 70~72) の熟読ノートの作成		
第10回	耳鼻咽喉疾患 (病理) 1 外耳炎 急性中耳炎 2 滲出性中耳炎 先天性感音難聴	テキスト7章 (pp. 73~75) の熟読ノートの作成		
第11回	耳鼻咽喉疾患 (病理) 3 鼻出血 小児副鼻腔炎 4 アデノイド増殖症 口蓋扁桃肥大 大声帯結節	テキスト7章 (pp. 76~78) の熟読ノートの作成		
第12回	ろうの子どもの世界 (1 眼の進化)	テキスト8章 (pp. 79~86) の熟読ノートの作成		
第13回	ろうの子どもの世界 (2 伝え合いをうむもの——文字言語・手話の学習)	テキスト8章 (pp. 86~88) の熟読ノートの作成		
第14回	ろうの子どもの世界 (3 志向的性向——眼の働き)	テキスト8章 (pp. 88~93) の熟読ノートの作成		
第15回	ろうの子どもの世界 (4 明との出会い——明晰、外向、行動的、能動的、空間的世界)、まとめ	テキスト8章 (pp. 94~98) の熟読ノートの作成		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% (ノート<自筆・手書き>の作成)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度も考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は慎んでください。			
教科書	中野桂子『聴覚・聴覚障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
指定図書	中野桂子『病弱・障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
参考図書	中野桂子『知的障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店 中野桂子『肢体不自由児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
オフィスアワー	火曜昼休み	メールアドレス		

授業科目	調査データの扱い方【講義】		開講時期	後期
担当教員	花野 裕康		単位	2
授業の目的と概要	社会調査に必要な統計学の基礎を修得することを目的とします。計量系社会調査の実施において必要な統計の基礎知識を修得します。より具体的には、確率論および推測統計学の初歩を学び、これらに関わる各種概念を理解した上で活用するための技術を修得します。			
到達目標	①推測統計学の初歩を理解し、使いこなすことができる。 ②多変量解析の基本を理解し、実際に活用する事ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身に付けている。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。具体的には、毎回授業終了直前に周知する次回テーマへの予習（書籍やネット上の情報を各自入手する事）と、その日学んだテーマの整理および講義終了時に出した「問題」への解答を各自を行う事（正解は次回講義で示す）。 「社会調査士」資格取得を目指す場合「データからみる社会」「調査データの集め方」「調査データの読み方」「社会調査実習演習」「質的調査法」「量的調査法」と併せて単位修得する事（最後の2つはいずれか一方でよい）。従って関連科目はこれらの			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	統計学と社会調査 (keywords: 推測統計学)	推測統計学について、記述統計学との違いを文章にまとめる。		
第2回	基本統計量①：データの傾向 (keywords: 最頻値、中央値、平均値、はずれ値)	各種代表値についてその定義と異同を文章にまとめる。		
第3回	基本統計量：データの散らばり (keywords: 散布度、分散、標準偏差、変動係数、不偏統計量)	データの散らばりに関するか各値についてその定義と異同を文章にまとめる。		
第4回	分布の歪み (keyword: 尖度と歪度、正規分布、正規分布と標準偏差)	分布の歪みに関する各値についてその定義と異同を文章にまとめる。		
第5回	確率論の基礎① (keywords: 確率論)	統計学的確率とは何か、その定義を文章にまとめる。		
第6回	確率論の基礎② (keywords: 検定と推定、帰無仮説、有意水準、自由度)	講義で扱った各種概念について、その定義を文章にまとめる。		
第7回	推定の確かさ (keyword: 母集団と標本、標本誤差、標準誤差と区間推定、標本数の決め方)	推定論の定義及び各種概念について文章にまとめる。		
第8回	量的変数の関連性 (keyword: 相関、相関係数、偏相関係数)	量的変数の定義及び各種概念について文章にまとめる。		
第9回	質的変数の関連性 (keyword: 属性相関係数とクロス集計、独立性の検定)	質的変数の定義及び各種概念について文章にまとめる。		
第10回	質的変数と量的変数の関連性 (keyword: 平均値の差の検定、t検定、分散分析)	質的変数と量的変数の統計学的異同を文章にまとめる。		
第11回	変数の関連性への他の変数の影響① (keyword: 疑似相関)	相関関係の「統計学的限界」について文章にまとめる。		
第12回	変数の関連性への他の変数の影響② (keyword: 変数のコントロール、エラボレーション)	相関関係の「統計学的改善」について文章にまとめる。		
第13回	データからの予測① (keyword: 回帰分析)	回帰分析のしくみについて文章にまとめる。		
第14回	データからの予測② (keyword: 重回帰分析)	重回帰分析のしくみについて文章にまとめる。		
第15回	これまでの授業の総括	授業で扱った各種統計学的概念の「見取り図」を作成する。		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80%(授業内で複数回行う)			
成果発表	なし			
受講態度他	20%(受講態度が悪い場合はこの%に影響するほか、その回の小テストを受け取らないことがある)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。講義者(花野)とのやり取りに積極的に参加すること。許可された場合以外でのスマホ操作、居眠り、私語等授業中に無関係な他の事をしないこと。見つけ次第その回の小テストは未提出扱いとする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	篠原清夫 他『社会調査の基礎 社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	調査データの集め方【講義】	開講時期	後期
担当教員	赤枝 香奈子	単位	2
授業の目的と概要	社会調査の種類や調査方法の決め方、調査のプロセスを理解した上で、調査票やインタビューなどによるデータの収集の仕方やデータの整理方法を学びます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会調査の企画・設計から、データの収集、さらに収集したデータを整理するまでのプロセスを理解し、調査に必要な具体的スキルを身につけることができる。</li> <li>2. 1. で修得した知識やスキルを応用しながら、実際に調査テーマを設定し、調査票を作成することができる。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. で修得した知識やスキルを応用しながら、実際にインタビューを行い、聞き取りデータをまとめることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 社会調査の目的		教科書 2-1 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第2回 調査の方法と決め方		教科書 2-2 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第3回 社会調査のプロセスと先行研究の検討		教科書 2-3 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第4回 社会調査のデザイン		教科書 2-4 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第5回 テーマの決定と仮説の構成		教科書 2-4 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第6回 サンプリング (1) 全数調査と標本調査、無作為抽出		教科書 2-5、2-6 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第7回 サンプリング (2) 標本数と誤差		教科書 2-7 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第8回 サンプリング (3) サンプリングの諸方法		教科書 2-8 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第9回 調査票の作成 (1)		教科書 2-9 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第10回 調査票の作成 (2)		教科書 2-9 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第11回 調査の実施方法 (1) 調査票の配布・回収		教科書 2-10 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第12回 調査データの整理 (1) エディティング、コーディング、データクリーニング		教科書 2-11 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第13回 調査の実施方法 (2) インタビューの仕方		教科書 2-12 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第14回 調査データの整理 (2) フィールドノートの作成		教科書 2-13 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第15回 データの分析に向けて		教科書 (復習) 調査票の提出、レポート作成のための作業	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	20%		
小テスト等	70% (授業内での小テストおよび調査票作成などの課題)		
成果発表	なし		
受講態度他	10% (課題への取り組み具合や受講態度についても成績評価に含める)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業では、学んだ知識をもとに実際に調査票を作成するなど、社会調査のプロセスの一部を体験してもらいます。そのためにはまず、身の回りや社会で起こっている出来事について日ごろから関心をもち、注意深く観察し、自分が調査によって何を知りたいか、考えてみるようにしましょう。また、実際に行ってもらった調査体験では、授業外での作業 (宿題等) にかかなりの時間が必要になります。積極的な受講態度で授業に臨んでください。		
教科書	篠原清夫、清水強志、榎本環、大矢根淳編『社会調査の基礎：社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂		
指定図書	なし		
参考図書	轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法』法律文化社		
オフィスアワー	水曜2限	メールアドレス	

授業科目	調査データの読み方【講義】		開講時期	前期
担当教員	森 康司		単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文を読んで、データが示す意味を理解できる力を養い、エクセルを用いて基本的なデータ分析ができるようになることをめざします。</li> <li>・データの読み取り方や、グラフの見方、グラフ作成のしかたといった情報リテラシーを身につけることをめざします。</li> <li>・社会調査士資格取得に必要な「C科目」（基本的な資料とデータの分析）に対応しています。</li> </ul>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 単純集計、度数分布、代表値、散布度などの、数で示された記述統計データを読み、理解することができる</li> <li>2. グラフを見て、その意味を理解したり、データをもとに自分でグラフを作り、わかりやすい資料にまとめることができる</li> <li>3. クロス集計など、複数の変数の関連をみるることができる</li> <li>4. 因果関係と相関関係の違いを説明することができる</li> <li>5. 質的データの読み方と基本的なまとめ方を理解している</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション データを「読む」とは	資料を熟読する		
第2回	尺度の種類	資料を熟読し、課題に取り組む		
第3回	記述統計量（解説）	資料を熟読し、課題に取り組む		
第4回	記述統計量（実践）	資料を熟読し、課題に取り組む		
第5回	相関関係と因果関係	資料を熟読し、課題に取り組む		
第6回	有意性の検定（解説）	資料を熟読し、課題に取り組む		
第7回	有意性の検定（実践）	資料を熟読し、課題に取り組む		
第8回	度数分布表とヒストグラム	資料を熟読し、課題に取り組む		
第9回	グラフの作成	資料を熟読し、課題に取り組む		
第10回	クロス集計	資料を熟読し、課題に取り組む		
第11回	散布図と相関係数	資料を熟読し、課題に取り組む		
第12回	単回帰分析	資料を熟読し、課題に取り組む		
第13回	重回帰分析	資料を熟読し、課題に取り組む		
第14回	t検定	資料を熟読し、課題に取り組む		
第15回	分散分析	資料を熟読し、課題に取り組む		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし（最終レポートは課さないことにしました）			
小テスト等	100%（課題の合計点）			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料は筑女ネットに何度かに分けて掲載します。掲載後は筑女ネットのメッセージ機能でお知らせします。</li> <li>・Excelの使用方法に慣れてください。</li> <li>・理解度の確認のために、テーマごとに課題を課します。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	石村貞夫ほか『Excelでやさしく学ぶ統計解析2019』			
オフィスワー	筑女ネットのメッセージ機能を推奨します。	メールアドレス		

授業科目	地域社会学【講義】		開講時期	後期
担当教員	野中 亮		単 位	2
授業の目的と概要	地域社会学の基礎的な視点と方法を学び、地域社会のアクチュアルな問題を理解することを目的とします。社会学における「地域」のとらえ方・考え方、「地域」を構成すると考えられている諸要素、これらに元づいて設計されている実証的研究の理論と方法などについて、具体的な事例を通じて学びます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会を分類／説明する概念について説明できる。</li> <li>・地域社会を取りまく現在の状況について概要を説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>初 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>幼 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	地域の社会問題とは	筑女ネットの第1回用資料を用いて自学すること。		
第2回	地域とは：コミュニティ概念とシカゴ学派の地域研究(1)	筑女ネットの第2回用資料を用いて自学すること。		
第3回	地域研究の例：シカゴ学派の地域研究(2)	筑女ネットの第3回用資料を用いて自学すること。		
第4回	地域とネットワーク：パーソナルネットワークとコミュニティ	筑女ネットの第4回用資料を用いて自学すること。		
第5回	都市の社会学：都市の生成と特徴	筑女ネットの第5回用資料を用いて自学すること。		
第6回	都市の社会問題：貧困・相対的貧困を中心に	筑女ネットの第6回用資料を用いて自学すること。		
第7回	農山漁村の社会学：農山漁村の変化と現代的課題	筑女ネットの第7回用資料を用いて自学すること。		
第8回	農山漁村の社会問題：過疎化・少子高齢化を中心に	筑女ネットの第8回用資料を用いて自学すること。		
第9回	都市と文化：消費と文化創造	筑女ネットの第9回用資料を用いて自学すること。		
第10回	農山漁村と文化：伝統と文化創造	筑女ネットの第10回用資料を用いて自学すること。		
第11回	グローバル化と地域：都市と農山漁村における国際化	筑女ネットの第11回用資料を用いて自学すること。		
第12回	環境と地域：自然環境と生活環境	筑女ネットの第12回用資料を用いて自学すること。		
第13回	まちづくり／むらおこし：地域創生の新規まき直し	筑女ネットの第13回用資料を用いて自学すること。		
第14回	メディアと地域：創造と発信	筑女ネットの第14回用資料を用いて自学すること。		
第15回	まとめ	筑女ネットの第15回用資料を用いて自学すること。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	学期末レポート：55%			
小テスト等	毎回実施する小課題：45%			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業外学修」の欄は、主に復習を念頭に設定しています。時間は180分程度を想定しています。</li> <li>・教科書を使用しないので、配付資料を使ってしっかり学習してください。</li> <li>・パソコンやネットワークに関する不都合などがある場合は、即時メールにて連絡してください。対処法を指示します。</li> </ul>			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社(2000)			
オフィスアワー	木曜5限	メールアドレス		



授業科目	地域デザイン演習【演習】		開講時期	前期
担当教員	上村 真仁		単位	2
授業の目的と概要	この科目は原則的に遠隔授業で実施します。地域デザイン演習は、地域資源を活用した内発的な地域づくりへの理解を深めるとともに、事例動画の視聴により地域デザインの具体的な展開に関する知識を獲得し、具体的に設定された条件をもとに演習形式で地域デザインプロセスを模擬体験し、習得することを目的としています。本年度の演習では、現代社会の大きな問題となっている空き家問題に着目し、その対策メニューに関する知識の獲得と太宰府市内の空き家を対象として学生の参加による空き家の利活用方策の企画提案を行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域デザインの手法、手順などについて説明できる。</li> <li>2. 全国の地域づくり事例から多様な手法に関する知識を身につけ、課題に応じてその活用方策が提案できる。</li> <li>3. 各種条件を提示された中で、地域デザインを進めるための計画と魅力的な地域づくり案を立案することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>現 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は民間シンクタンクにおいて官公庁の環境政策や地域振興施策の立案に関わり、また環境NGOや地域NPOでの持続可能な地域づくりの実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション 地域デザイン演習の進め方		地域デザイン演習でやりたいこと、関心のあるテーマを考えてください。		
第2回 空き家等問題の現状とその発生の要因		事前配布資料を読んで、ネット上の課題に答えてください。		
第3回 空き家等の活用事例1 伝統的古民家の活用（農山村空き家）		事前配布資料を読んで、ネット上の課題に答えてください。		
第4回 空き家等の活用事例2 伝統的古民家の活用（町屋等の地方都市の空き家）		事前配布資料を読んで、ネット上の課題に答えてください。		
第5回 空き家等の活用事例3 昭和時代の空き家の活用（既成市街地の空き家）		事前配布資料を読んで、ネット上の課題に答えてください。		
第6回 空き家等の活用事例4 現代の社会問題と空き家（過疎地域の廃校）		事前配布資料を読んで、ネット上の課題に答えてください。		
第7回 演習課題の説明 太宰府の空き家 周辺環境と建築物の条件など		事前配布資料を読んで、ネット上の課題に答えてください。		
第8回 太宰府の社会的課題1 太宰府市の子育て環境の課題		太宰府市の子育て環境の課題について調べてください。		
第9回 太宰府の社会的課題2 太宰府市の高齢者の課題		太宰府市の高齢者の課題について調べてください。		
第10回 太宰府の社会的課題3 太宰府市の産業振興上の課題		太宰府の商業、観光などの課題について調べてください。		
第11回 活用可能な資源1 筑紫女学園大学の取り組み		大学生が地域課題解決に取り組んでいるものを調べてください。		
第12回 活用可能な資源2 学生のホームシェアに関するニーズ調査結果		大学生の異世代ホームシェアの事例について調べてください。		
第13回 空き家の利活用方策検討のための計画づくり 協働による事業実施		地域デザインの計画プロセスに関する資料を読み、案を作成してください。		
第14回 空き家利活用方策の検討 利活用（案）の案出		具体的な活用内容と実施上の課題を計画案としてまとめてください。		
第15回 発表会		空き家活用の具体的な利活用イメージに関するプレゼンテーション資料作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	40% （毎回の授業で課される事前課題 20%、事後課題のによる評価 20%）			
成果発表	40% （検討計画 20%、利活用方策 20%）			
受講態度他	20% 各授業の振り返り、最終発表により評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講義は、原則的に遠隔授業で実施します。受講生の皆さんはインターネット環境のあるPC、タブレット、スマートフォンを使って、受講することが可能です。筑女ネットにアップロードされているレジュメ、講義資料（パワーポイントなど）、ワークシートなどのファイルをもとに自宅で学修を進めてください。演習課題についても在宅でできる課題を課します。演習については毎回チャットやインターネット会議システムなどを利用してチェックとフィードバックを受けてください。質疑やディスカッションを行うことができます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します。			
オフィスアワー	月曜日 4限	メールアドレス		

授業科目	地域と文化【講義】		開講時期	後期
担当教員	松本 常彦		単 位	2
授業の目的と概要	地域と文化の関係性について考察する視点を学び、地域と文化について発信できる基礎的な能力を養う。 ①地域と文化の概念規定について考える。 ②地域を構成する文化要素について学ぶ（風土、年中行事、芸能、遊び、メディアなど）。 ③地域と文化に関わる人間観についての理解を深める。 ④地域と文化の歴史性や風土性について理解を深め、社会を多様な価値観から考える複眼的で人間的な思考力を養う。			
到達目標	地域と文化との関係についての一般的視点を学ぶとともに、実践的に分析することができる視座を学習する。 ①地域と文化を分析するための対象項目について、なるべく多くの項目を挙げることができる。 ②地域と文化は、ともに人間認識や社会的規範と深く関係することを理解し、そのことを通じて人間観や社会観の更新を図る。 上記の成果として、具体的な資料に基づきながら、地域と文化との関係について紹介するパンフレットを作成する。また、地域からの発信という視点を持つことで、社会と自己との関係性やメディアリテラシーの重要性についても認識する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第 1回 「地域と文化」という講義概要の説明			配布資料を読む。	
第 2回 地域と文化を考えるための問題点1 地域とは何か			配布資料を読む	
第 3回 地域と文化を考えるための問題点2 文化とは何か			配布資料を読む	
第 4回 地域と文化を考えるための問題点3 地域と文化との関係			地域と文化の概要について自分を事例とした報告書の作成	
第 5回 博多の芸能1			配布資料を読む	
第 6回 博多の芸能2			配布資料を読む	
第 7回 博多の芸能3			配布資料を読む	
第 8回 博多の芸能4			博多の芸能について、二六字川柳や博多なぞなぞなどの自作品を提出	
第 9回 雑誌が映し出す明治・大正の福岡1			配布資料を読む	
第10回 雑誌が映し出す明治j・大正の福岡2			配布資料を読む	
第11回 雑誌が映し出す明治・大正の福岡3			「筑紫史談」の報告書を作成する	
第12回 雑誌が映し出す昭和の博多1			配布資料を読む	
第13回 雑誌が映し出す昭和の博多2			配布資料を読む	
第14回 雑誌が映し出す昭和の博多3			地域情報誌についての報告書作成	
第15回 地域と文化という問題についてのまとめ			試験の準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%			
レポート	20%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対面授業ができない状況では、オンライン対応とする。その場合は、定期試験を止め、レポートにより評価する。			
教科書	使用しない。資料および授業内容をまとめたノートを毎時間配布する。			
指定図書	配布資料に記載			
参考図書	『福岡県史』、『福岡市史』、『福岡県百科事典』			
オフィスワー	火曜日の授業の前後		メールアドレス	

授業科目	地域とメディア【講義】		開講時期	前期
担当教員	富永 倫子		単位	2
授業の目的と概要	<p>放送とは、単なる情報を流す・伝えるだけのものではありません。</p> <p>⑥  様々な項目・条件・材料をコーディネートし、配慮した中で一つの番組を提供します。特にローカルメディアは地域との密着は欠かせません。この授業では、ラジオを中心に、地域とメディアとの関わりを各ジャンルで習得し、放送という分野でメディアに求められるもの、メディアが求めるもの、地域や企業・産業との関わり合いを学習し、放送というメディアの役割を理解する。実際に現場を見学したり、番組を企画し、放送・情報伝達、地域とのコミュニケーションを学んでいきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 放送というメディアの特徴や性質を理解し、説明、実践することができる</li> <li>2. あらゆる情報や状況の中から、きちんと判断・選択し、理解を深めることができる</li> <li>3. 学習・経験の先にテーマに関して思考、提案、問題提起ができる</li> <li>4. 実際にメディアに触れ役割を理解することができる</li> <li>5. アイディア・企画力を習得する</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>地域とメディアの連携の必要性、意義を理解する</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション	この授業の意味、目的等の説明、自己紹介、諸々の作業		
第2回	地域と番組というメディアの関わり合い～コロナ対策でのメディア（放送での）の体制と対応	まれに見る世の中の今の状況。貴重な経験です。ここからまずは始めましょう		
第3回	地域と番組というメディアの関わり合い～情報生ワイド番組	授業前後でのRKBラジオ指定の番組視聴予復習		
第4回	地域と番組というメディア～音楽番組・音楽が入る番組	授業前後でのRKBラジオ指定の番組視聴予復習エトを3つずつ準備。		
第5回等	地域と番組というメディア～スポーツ番組（野球・サッカー・ラグビー・バスケット・五輪等）	各自興味があるスポーツについてどんな点が好きか興味ない場合はその理由		
第6回	地域と番組というメディア～パーソナリティ、ディレクター、プロデューサーとは	授業前後でのRKBラジオ指定の番組視聴予復習		
第7回	地域と番組というメディア～投稿、SNS、インターネット	授業前後でのRKB指定の番組視聴予復習		
第8回	地域とメディア～芸能事務所とのかかわり	授業前後でのRKB指定の番組視聴予復習		
第9回	地域とメディア～報道、災害中継、ボランティア、インタビュー	授業前後でのRKB指定の番組視聴予復習		
第10回	地域とメディア～視聴者・聴取者 また、その対応	経験談がある人は準備を		
第11回	地域とメディアとCM	TVでのCMをいくつか予習チェック		
第12回	地域と番組と言うメディア～選挙・報道特番	授業前後でのRKBラジオ指定の番組視聴予復習		
第13回	ラジオまつり、各興行イベント	非常事態宣言解除次第でこの時期近辺の公演興行で行けるものに参加か？		
第14回	地域とスポンサー・ラジオ&TVショッピング	好きなラジオ・TVショッピング視聴し予習		
第15回	地域とメディアの関わり合い、そして将来…まとめ	指定の書類書き込み作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%（講義中の意見、感想などの積極性）			
小テスト等	なし			
成果発表	20%（授業中出す資料の作成）			
受講態度他	20%（積極的な発言・意見交換）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>講義内容上、時事内容など報道に関する情報・「今」を意識する話題・音楽などを取り上げていきます。よって、授業内容が入れ替わったり、変更になる可能性があります</p> <p>番組やニュース・新聞・雑誌など、できるものを常日頃からチェックし予習・復習をしてください。</p>			
教科書	なし（スマートフォン若しくはPCに無料アプリRadi koをダウンロードしてもらいます。これが基本教科書になります）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後 火曜日9時～12時の予定	メールアドレス		

授業科目	地域福祉論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	山崎 安則		単位	2
授業の目的と概要	<p>地域福祉の歴史的発展過程を通して地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解していきます。また、地域福祉の主体と対象について理解を深めるとともに、地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について学ぶことを目的とします。</p> <p>地域福祉の理念や内容について、歴史的発展過程や現代社会における今日の役割を明らかにしたうえで、わが国の地域福祉施策と住民主体の原則を理解し、新しい社会福祉システムとしての地域福祉の意義と役割について考察していきます。</p>			
到達目標	<p>①地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解できる。</p> <p>②地域福祉の主体と対象について理解できる。</p> <p>③地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福(3)-②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は社会福祉・児童福祉の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 地域福祉の概念と範囲		予習：テキストP2～P5		
第2回 地域福祉の理念と地域自立生活支援		予習：テキストP41～P42		
第3回 福祉コミュニティの形成と社会的包摂		予習：テキストP28～P30		
第4回 地域の捉え方と福祉圏域		予習：テキストP44～P49		
第5回 地域福祉におけるアウトリーチの意義		予習：テキストP9～P11		
第6回 地域福祉の主体形成と福祉教育		予習：テキストP58～P74		
第7回 地域福祉の対象と普遍化		予習：テキストP6～P8		
第8回 社会福祉法と地域福祉の推進		予習：テキストP21～P30		
第9回 社会福祉協議会の役割と実際		課題：社会福祉協議会の広報紙（社協だより）の収集		
第10回 地方自治体の役割と地域福祉計画		課題：市町村の広報誌の収集		
第11回 社会福祉法人とNPO法人の役割とボランティア活動		課題：ボランティア活動に参加		
第12回 自治会における民生委員・児童委員の役割と実際		課題：自治会活動に参加		
第13回 新しい生活課題と地域福祉		予習：テキストP14～P18		
第14回 地域住民の役割と専門職との連携の実際		予習：テキストP52～P53		
第15回 地域福祉推進における住民参加の意義と実際		予習：テキストP54～P56		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％ 定期試験（なし）			
レポート	80％ 課題レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	0％フィールドワーク（地域貢献活動）			
受講態度他	20％ 履修規定・受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義はすべて遠隔授業です。教材はすべて郵送（ユーパック）で届けますので、指示された課題を解いて後日指定された日時に提出してください。詳細は配布した資料を読んでください。わからないことがあれば、下記のメールで問い合わせてください。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『地域福祉の理論と方法』—地域福祉論 第3版 中央法規 2020年			
指定図書	『地域福祉時代の社会福祉協議会』山本主税他編著 中央法規 2003年			
参考図書	『社協の底力』伊賀市社会福祉協議会編 中央法規 2008年			
オフィスワー	金曜日を除く昼休み時間（12:20～13:10）	メールアドレス		

授業科目	地域福祉論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	山崎 安則		単 位	2
授業の目的と概要	<p>地域福祉の推進方法について、地域援助技術としてのコミュニティワークの理論学習に加え、具体的にネットワーキング、社会資源の開発・活用・調整、福祉ニーズの発見と把握、地域トータルケアシステムの構築方法、福祉サービスの評価方法など、コミュニティワーカーに必要とされる知識と技術の習得をめざします。</p> <p>地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について学ぶとともに、地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）における技術と実践力を身につけていきます。</p>			
到達目標	<p>①地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法及びその実際が理解し実践できる。</p> <p>②地域福祉の推進方法について理解し実践できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福（3）-②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は社会福祉・児童福祉の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	ソーシャルサポートネットワークの意義と役割	予習：テキストP134～P142		
第 2回	ソーシャルサポートネットワークの展開と手法	予習：テキストP143～P153		
第 3回	ソーシャルサポートネットワークづくりと実際	予習：テキストP156～P171		
第 4回	社会資源の概念	予習：テキストP214～P216		
第 5回	社会資源の活用法とコーディネート	予習：テキストP217～P221		
第 6回	社会資源の開発と公的サービス	予習：テキストP222～P231		
第 7回	福祉のまちづくりとソーシャルアクション	予習：テキストP233～P236		
第 8回	質的な福祉ニーズの把握方法と実際	予習：テキストP244～P247		
第 9回	量的な福祉ニーズの把握方法と実際	予習：テキストP248～P251		
第10回	地域トータルケアシステムの意義と役割	予習：テキストP254～P260		
第11回	地域トータルケアシステムの展開方法	予習：テキストP265～P268		
第12回	地域トータルケアシステムの組織化と実際	予習：テキストP270～P277		
第13回	福祉サービスの評価の目的とシステム	予習：テキストP282～P288		
第14回	福祉サービスのプロセス評価の方法と実際	予習：テキストP289～P294		
第15回	第三者評価事業と運営適正化委員会の実際	予習：テキストP295～P297		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 定期試験（持ち込みはありません）			
レポート	10％ 中間レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	20％フィールドワーク（地域貢献活動）			
受講態度他	20％ 履修規定・受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義では、視聴覚機器を使用します。また、最新のデータや資料等をプリントとして配布していきますので、しっかりと記録やノートに整理しておいてください。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『地域福祉の理論と方法』一地域福祉論第3版 中央法規 2020年			
指定図書	『地域福祉概説』明石書籍			
参考図書	『国民生活白書』内閣府2014年			
オフィスワー	金曜日を除く昼休み時間（12:20～13:10）	メールアドレス		

授業科目	知覚・認知心理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	安藤 満代		単 位	2
授業の目的と概要	基礎心理学の基礎的知識を身につけ、人がいかに周囲の世界を知覚や認知しているのかを学修することを目的とする。概要としては、1) 人の感覚・知覚等の機序及びその障害、2) 人の認知・思考等の機序およびその障害について学修する。			
到達目標	感覚については、感覚モダリティの理解、視覚、聴覚、体性感覚の特徴を理解し、その障害について理解できることを目標とする。 認知については、認知の基本的特性、記憶のメカニズム、注意のメカニズム、知識の表象と構造、問題解決と推論、認知・思考の障害について理解できることを目標とする。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	感覚の種類と構造	人間の感覚の種類とその特徴について日常で気づいたことを考える		
第2回	視覚のメカニズムとその機能の特徴(錯視、空間知覚、運動知覚)	日常生活における視覚の役割を考え、その特徴を考える		
第3回	聴覚のメカニズムとその機能の特徴(聴覚系、音声コミュニケーション)	日常生活における聴覚の役割を考え、その特徴を考える		
第4回	味覚や体性感覚の特徴と役割(味覚、臭覚、体性感覚)	日常生活における味覚の異常や体性感覚の以上について考える		
第5回	対象認知他(物体知覚、顔認知、時間知覚、感性)	顔認知の重要性について考える		
第6回	前半のまとめ	前半の復習をしておく		
第7回	認知の基本的特性	情報処理、処理の二方向性		
第8回	記憶のメカニズム①: 短期記憶(短期記憶、ワーキングメモリ)	ワーキングメモリとは何かを調べてみる		
第9回	記憶のメカニズム②: 長期記憶(長期記憶、潜在記憶、イメージ)	意味記憶と手続き的記憶の相違について調べてみる		
第10回	記憶のメカニズム③: 日常記憶(エピソード記憶、偽りの記憶)	「目撃者の証言」について調べてみる		
第11回	注意のメカニズム	日常生活での注意の役割と機能について考える		
第12回	知識の表象と構造	イメージ論争について調べる		
第13回	問題解決と推論	演繹的推論とは何かを調べる		
第14回	認知と思考の障害	認知症について調べる		
第15回	全体のまとめ	講義全体での疑問点を見直す		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	定期試験の予定はありません。			
レポート	講義内に呈示します。			
小テスト等	前半と後半で定期試験にかわるテストを行います。			
成果発表	受講生の人数によって可能な場合は実施します。			
受講態度他	積極的な発言などがあれば加味します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この科目は公認心理師として学修すべき内容を中心に講義内容が組まれていることを理解して下さい。			
教科書	犬塚美輪 認知心理学の視点 サイエンス社 2018			
指定図書	グラフィック 認知心理学 サイエンス社			
参考図書	認知心理学 箱田裕司編 有斐閣			
オフィスアワー	講義の時間前後に聞いて下さい。	メールアドレス		

授業科目	地誌学【講義】		開講時期	後期
担当教員	黒田 圭介		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、中学校社会科、高校地理における地誌学のテーマを学ぶことで、社会科教員として持っていてしかなるべき知識、技術を修得することを目標とする。地理学は地球上のあらゆるものを俯瞰する学問で、様々な分野の内容を包括しながら考える必要がある。そのため、地理学を学ぶということは、諸現象を多方向・角度から見ることもできる目、すなわち「地理学的な視点」を養成することに意義がある。本講義では主に世界地誌の内容を例として、「地理学的な視点を修得」することを目標テーマとする。</p> <p>本講義では高校地理A・Bの教科書における世界地誌の内容を主に取り上げる。具体的な内容は各回ごとの授業内容を参照のこと。また、教育現場で求められる学習指導技術の習得のため、指導方法論を交えながら講義を進める。できるだけプロジェクターを用い視覚的に分かりやすい授業をこころがける。</p>			
到達目標	<p>*様々な地図(地形図等)を正しく読めるようになり、さらに目的に沿った地図を自ら描けるようになる。          *地域の構造を文理両面から総合的に解釈できるようになる。          *ある事象について地理学的な視点を持って調査・解析・考察し、報告できるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。          心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。          福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	地誌学とは？		講義中に指示する	
第2回	中国の食生活と農業		教科書 p 232-236を読んでおくこと	
第3回	大韓民国と日本の共通点と相違点		教科書 p 242-246を読んでおくこと	
第4回	アジアモンスーン		教科書 p 247-251を読んでおくこと	
第5回	アフリカの農業		教科書 p 270-274を読んでおくこと	
第6回	ヨーロッパの農業と食生活		教科書 p 277-283を読んでおくこと	
第7回	ロシア1～自然環境		教科書 p 289を読んでおくこと	
第8回	ロシア2～広大な国土と寒い大地での生活		教科書 p 290-293を読んでおくこと	
第9回	アメリカ合衆国1～農業		教科書 p 295-301を読んでおくこと	
第10回	アメリカ合衆国2～工業		教科書 p 302-304を読んでおくこと	
第11回	南米の農業と鉱業		教科書 p 308-314を読んでおくこと	
第12回	オーストラリア1～自然環境		教科書 p 316を読んでおくこと	
第13回	オーストラリア2～農業と鉱業		教科書 p 319-320を読んでおくこと	
第14回	地域区分とは何か		教科書 p 228-229を読んでおくこと	
第15回	まとめ、予備日		授業中に指示する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	80%			
レポート	-			
小テスト等	20%			
成果発表	-			
受講態度他	-			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*毎回テキスト(新詳地理B)を必ず持参すること。          *内容は変更になることがある。          *予備知識は特に必要ないので、高校地理を受講していなくても履修できる。          *特別な事情を除いて、授業開始10分後以降の入室は認めない。</p>			
教科書	新詳地理B(帝国書院)			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	講義終了後	メールアドレス		

授業科目	知的障がい(コミュニケーション障がい)者の心理【講義】		開講時期	前期
担当教員	今村 亜子		単位	2
授業の目的と概要	この講義では、コミュニケーションの重要な手段である「ことば」に着目し、さまざまな障がいについて学んでいきます。講義は教科書をもとに、ことばの発達とコミュニケーションの発達を解説します。基本的な知識をふまえて、さまざまな障害におけるコミュニケーション活動への影響について考えていきます。コミュニケーションがうまくいかない原因は、どちらか一方にだけあるのではなく、関係性の中にあるという視点をもつことで、制約をどのように緩和していくかと考えていきます。15回の課題をレポートとして提出してください。授業計画で取り扱う教科書の範囲内で学習チェックやキーワードチェックをしながら、理解を深めましょう。また障がいがある子どもたちが学校生活を送る上で経験している現状を理解して支援の手だてを考案する力も養っていきましょう。事前学習と振り返りによって、より身近な事象から考察を深めてください			
到達目標	①ことばの発達の諸相を理解する。②コミュニケーション障がいと、ことばの障がいの関係について理解する。③コミュニケーションのズレに気づき、修復する手だてについて具体的に推論できるようになる。④「障がいがあるからコミュニケーション活動に参加できない」と考えるのではなく、どうすれば、参加しやすくなるか具体的に考察する力を身につける。⑤事例を通じて自分ならどう接するか具体的にのべられるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	言語障害の特徴と現れ方 p128-131 ※発展学習 「導入」 p2-3 ☆言語聴覚障害の臨床の現場 「見えない苦しさを知るために」	「コミュニケーションがとりにくくて困った経験とその理由」 200字程度		
第2回	言語障害の種類と評価 p132-133,134-135 ※発展学習 補助代替コミュニケーション (AAC) p174-175	「赤ちゃんが遊ぶ遊びとその理由」 200字程度		
第3回	前言語的コミュニケーションの発達p26-27 ※発展学習 養育者の語りかけの特徴と役割p30-31	「赤ちゃんが楽しめる絵本をさがそう」 200字程度		
第4回	言語発達と共同注意p32-35 ※発展学習 身振りと言語発達p178-179 ☆「おつきさま こんばんは」より	『みみをすます』体験レポート		
第5回	音韻発達 知覚の発達p36-37/聴覚障害と言語発達p148-149 ※発展学習 聴覚活用と言語発達p150-151	「ヘレン・ケラーの手記、サリバン先生の手紙を読んだ感想」 200字程度		
第6回	音韻発達 表出の発達 p32-35 /発声・構音の障害p144-145 ☆発音に悩んでいた学生さんとのエピソード	「早口の説明」「いろいろな早口ことばを調べよう。」 3～5個		
第7回	語彙発達(乳児期)p40-43 ※発展学習 語意味の推測p44-45 ☆「あのね」より	「なぜなの？のルールの説明」「なぜなの？を調べよう」 3～5個		
第8回	児童期の語彙発達p46-47 ※発展学習 児童期以降の言語発達p48-49 ☆「ことばあそび」について	子どもの頃、自分が好きだったお話の紹介とキャッチコピーをつくらう		
第9回	文法発達 形態面での発達 p54-55 ※発展学習 統語の発達p50-51 ☆「おはなしボエム」	「おはなしボエムをつくらう」		
第10回	語用論的側面からみた言語発達p154-155/※発展学習 語用障害p162-165 ☆東田直樹さんの手記	「空気を読むってどういうこと？」 200字程度		
第11回	自閉症スペクトラム障害児の言語発達p154-155 ※発展学習 古くて新しい言語の字義性問題 p166-167	講義で紹介する「ママがつくった絵本」の感想		
第12回	ダウン症児の言語発達p142-143 ※発展学習 言語発達での個人差p68-69 ☆ダウン症のこどもとの出会いとエピソード	4コマ漫画の説明と作成		
第13回	談話(ディスコース)構造の発達p60-63 ☆筆談のすすめ	「はじめて読めた日/かけた日のこと」のナラティブ		
第14回	読み書きの発達 p64-65 ※発展学習 言語学習障害p158-161☆まわりにはいませんか？ディスレキシアの子ども	「素話をつくらう」		
第15回	講義のまとめ コミュニケーション障がい者の心理 授業全体および授業外学修で取り組んだことを振り返り、最終レポートを作成する。	全体を復習する。全体レポートを提出する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	講義全体を通じて14回提出 42% (チェックポイント 課題の趣旨理解。形式条件のクリア。創造性)			
小テスト等	講義全体を通じて3回実施 18%			
成果発表	最終講義で講義全体から絞り込んだテーマ考察40%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	前期は、遠隔授業となりました。学ぶことへのモチベーションを保ち、学習を進めるためには、より自律的な姿勢が求められると思います。鋼材も工夫しながら提供していきます。コミュニケーションの障がいについて、特に「ことば」に着目しながら、基礎知識を学び、心理的側面を推測し、関わり方について考えていく授業です。15回のレポートは大切な対話のツールですのでしっかり取り組んで下さい。			
教科書	『よくわかる言語発達改訂版』 岩立志津夫・小椋たみ子編 ミネルヴァ書房 (ISBN978-623-08033-5C3311)			
指定図書	『子どものコミュニケーション障害』 ロラン・ダノン＝ボワロー著 加藤義信、井川真由美訳 白水社 (ISBN978-4-560-50914-2)			
参考図書	『知的障害の心理 発達支援からの理解』 小池敏英・北島善夫 北大路書房 (ISBN 978-4-7628-2215-5)			
オフィスアワー	質問があれば課題提出の際に書いて送ってください。	メールアドレス		



授業科目	知的障がい者の教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	知的障がい児・者の基本的知識、発達特徴を理解する。 その上で知的障がい教育の歴史と現状、教育課程、指導の方法についての概要を学ぶ。 また、自立活動やキャリア教育について学び、それに向けた関係機関との連携の重要性について理解する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知的障がい児・者の教育の歴史や現状を説明できる。</li> <li>・ 知的障がい児・者の基本的知識、発達特徴について説明できる。</li> <li>・ 知的障がい児・者の多様なニーズに応える指導について説明することができる。</li> <li>・ 知的障がい児・者の自立活動に向けての支援について述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		ショートレポート	
第2回	知的障がいの基本的理解	知的障がいの心理と生理と病理 1	ショートレポート	
第3回	知的障がいの基本的理解	知的障がいの心理と生理と病理 2	ショートレポート	
第4回	知的障がいの基本的理解	実態把握の方法	ショートレポート	
第5回	知的障がい教育の基本的理解	障害児教育とは	ショートレポート	
第6回	知的障がい教育の教育の基本的理解	特殊教育から特別支援教育へ	ショートレポート	
第7回	知的障がい児に応じた教育課程	教育的対応の基本	ショートレポート	
第8回	知的障がい児に応じた教育課程	特別支援学校における知的障がい	ショートレポート	
第9回	知的障がい児に応じた教育課程	特別支援学級における知的障がい	ショートレポート	
第10回	知的障がい児に応じた教育課程	幼稚園・幼稚園における知的障がい	ショートレポート	
第11回	知的障がい児に応じた教育課程	教科・教科外の指導	ショートレポート	
第12回	知的障がい児に応じた教育課程	自立活動について	ショートレポート	
第13回	ユニバーサルデザイン授業とインクルシブ教育について		ショートレポート	
第14回	キャリア教育と職業訓練		ショートレポート	
第15回	関係機関との連携、保護者支援		最終レポート	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ショートレポート(事例検討を含む)30% 最終レポート70%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の最後にショートレポートをだします。 遅刻・早退は3回で1回の欠席とみなします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『特別支援学校教育指導要領』文部科学省			
オフィスワー	水曜日お昼休み(12時30分～13時)		メールアドレス	

授業科目	知的障がい者の教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	稲田 八徳		単位	2
授業の目的と概要	<p>知的障がいを中心とした発達障がい教育の歴史と現状、基本的理解、教育課程、指導の方法がわかる。各々の幼児・児童・生徒のニーズを正確に把握し、適切に対応できる教育課程のありかた、支援教育のありかたについての理解を深める。</p> <p>知的障がいを中心とした発達障がい教育の歴史と現状、基本的理解、教育課程、指導の方法の概説を学んでいく。各々の幼児・児童・生徒のニーズを正確に把握し、適切に対応できる教育課程のありかた、支援教育のありかたについての理解と深化を目指していく。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害児・者や肢体不自由児・者の教育の歴史や法、現状等について説明できる。</li> <li>・知的障害児・者や肢体不自由児・者の基本的知識、発達特徴について説明できる。</li> <li>・知的障害児・者の多様なニーズに応える指導について説明することができる。</li> <li>・知的障害児・者の自立活動に向けての支援について述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション 知的障害について		復習： 知的障害のイメージ、受講に対する意欲をまとめる	
第2回	知的障害の基礎知識（定義、DSM-IVとDSM-Vの比較を通して）		予習： 配付資料を読む 復習： 復習：DSM-IV、5についてまとめ	
第3回	知的機能に関する実態把握について（知的機能に関する検査及び実施の留意事項）		予習： 検査の種類を調べる。 復習： 実施の留意点をまとめる。	
第4回	知的障害児・者に応じた教育課程編成 1（教育的対応の基本）		予習： 学習指導要領を読む。 復習： 障害に応じた教育課程をまとめ	
第5回	知的障害児・者に応じた教育課程編成 2（特別支援学校における知的障害）		予習： 配付資料を読む 復習： 特別支援学校についてまとめ	
第6回	知的障害児・者に応じた教育課程編成 3（特別支援学校以外における知的障害）		予習： 配付資料を読む 復習： 特別支援学校以外についてまと	
第7回	知的障害児・者に応じた教育課程編成 4（幼稚園における指導）		予習： 配付資料を読む。 復習： 幼稚園の指導についてまとめ	
第8回	知的障害児・者に応じた教育課程編成 5（教科の指導）		予習： 配付資料を読む。 復習： 教科の指導についてまとめ。	
第9回	知的障害児・者に応じた教育課程編成 6（教科外の指導）		予習： 配付資料を読む。 復習： 教科外の指導についてまとめ	
第10回	知的障害児・者の教育を支援する情報機器等の活用		予習： 配付資料を読む 復習： 効果的な情報機器の使用を考え	
第11回	自立活動に向けての支援		予習： 学習指導要領を読む。 復習： 指導内容、形態について考える	
第12回	進路指導（キャリア教育）と職業教育		予習： 配付資料を読む。 復習： キャリア教育の必要性をまとめ	
第13回	個別の支援計画、個別の教育指導計画について		予習： 学習指導要領を読む 復習： 計画の作成の必要性をまとめ	
第14回	事例を通して個別の指導計画の作成		予習： 配付資料を読む 復習： 個別の教育指導計画を完成させ	
第15回	関係機関との連携、保護者の支援		予習： 関係機関について調べる 復習： 保護者の支援についてまとめる	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	20%（まとめごとに実施）			
成果発表	20%（個別の支援計画を提出）			
受講態度他	10%（グループ討議等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義が中心ですが、グループ討議に時間を取ります。			
教科書	『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』文部科学省（他の講義で購入予定）			
指定図書	なし			
参考図書	『特別支援教育の基礎・基本』独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2015)			
オフィスアワー	水曜日、木曜日午後		メールアドレス	



授業科目	知的障がい者の心理・生理・病理【講義】		開講時期	後期
担当教員	洪田 登美子		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、生理・病理といった器質的要因をふまえながら、知的障がい児・者の発達や行動特徴、ライフステージに応じた支援について理解することを目的とします。さらに、知的障がいとの併存が多い自閉症スペクトラム障害、肢体不自由、感覚障害について理解を深めます。最後に、環境との関わりの中で生じる問題として二次障がいについて学び、その予防としての環境調整や支援について考察できることを目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達段階ごとに知的障がい者の心理・行動特性について述べるができる。</li> <li>2. 自閉症スペクトラム障がいを併存している知的障がい者の行動特性とその支援について述べるができる。</li> <li>3. 一次性併存障がいと二次障がいについて簡潔な文章で説明することができる。</li> <li>4. ライフステージに応じた支援について述べるができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	授業の概要 ・ DVD視聴	復習、中間レポートのための図書を探す		
第2回	知的障がいとは	中間レポートのための図書を探す		
第3回	乳幼児期の発達過程とアセスメント	中間レポートのための図書を読む		
第4回	幼児期の療育、児童期の発達過程と支援	中間レポートのための図書を読む		
第5回	ダウン症候群の発達の特徴	中間レポートのための図書を読む		
第6回	ウィリアムズ症候群の発達の特徴 動画視聴	中間レポートのための図書を読む		
第7回	自閉スペクトラム症(1) : 自閉スペクトラム症とは、乳幼児期の行動特徴	中間レポートを作成する		
第8回	自閉スペクトラム症(2) : 学童期の行動特徴	中間レポートを作成する		
第9回	自閉スペクトラム症(3) : こだわり行動とパニックへについて	中間レポートを作成する		
第10回	就労に向けて、職場でみられる問題、DVD視聴	障がい者の就労の現状について情報収集する		
第11回	青年以降の発達過程と支援、強度行動障害	映画や小説に登場する障がい児・者がどのように描かれているかを調べる		
第12回	肢体不自由者の心理・生理・病理、DVD視聴	映画や小説に登場する障がい児・者がどのように描かれているかを調べる		
第13回	聴覚障がい者と視覚障がい者の心理・生理・病理	これまでの授業内容を振り返り、復習		
第14回	一次性併存障がいと 二次性併存障がい	これまでの授業内容を振り返り、復習する		
第15回	親ときょうだいにとっての障がい 一家族支援について	知的障がい者の家族支援について調べる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 中間レポート : 障がい者または、障がい者の家族によって書かれた本を読み、レポートを作成する。 A4用紙2000字程度			
小テスト等	毎回の授業内容確認の小テスト、または課題 60% (4×15回)			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	中間レポートは、障がい当事者の視点から障がいを理解するために課しています。図書リストの本はどれも読みやすい本なので、早めに選り読むことを勧めます。授業内容の理解が深くなると思います。			
教科書	毎回資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	梅谷忠男・生川善雄・堅田明義(編著) 『特別支援児の心理学』 北大路書房 図書リストは授業で配布し、筑女ネットにも掲載する			
オフィスワー	金曜日昼休み・4 講目 メールで日程調整	メールアドレス		

授業科目	知的障がい・発達援助の技法【講義】		開講時期	前期
担当教員	森田 理香		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業では心身に障がい、主に知的障がい・発達障がいをもつ幼児、児童、または生徒に対する援助について学ぶ。まずは、心身に障がいをもつ者へ援助を行うためには、対象となる児童、生徒の特徴を正確に理解することが必要であるため、子どもに関するアセスメントについて学ぶ。また、障がい児者の特性に応じた様々な援助技法について、それぞれの特徴や有効性、対応方法について理解する。</p> <p>さらに、実際の現場で行われている援助について学び、実際に適用することができるようになることが目的である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心身に障がいがある幼児、児童又は生徒へのアセスメントについて説明することができる。</li> <li>2. さまざまな発達援助の技法について、その特徴や有効性について説明することができる。</li> <li>3. 障がい児者に対して、発達援助の技法を実施することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション			授業の進め方、内容について	
第2回 障がいの種類と特徴			障がいを持ちながら生活をするとどのようなことか考えをまとめる	
第3回 障がい児者のアセスメントの理論			対象者を理解するアセスメントについての復習	
第4回 障がい児者のアセスメントん実際			対象者を理解するアセスメントについての復習	
第5回 応用行動分析 理論① 行動のとらえ方			復習：“気になる行動”を行動レベルで書き起こす	
第6回 応用行動分析 理論② ターゲットのとらえ方			復習：“気になる行動”について機能的に行動を理解し、書き出す	
第7回 応用行動分析 理論③ 行動の強化子			復習：“気になる行動”の強化子について復習する	
第8回 応用行動分析 実際① 指導法			復習：応用行動分析を使って、指導案を作成する	
第9回 応用行動分析 実際② 指導案の作成			レポート作成：自分の気になる行動の改善計画案の作成	
第10回 ペアレントトレーニング、感情のコントロール ①感情の自己理解			自分の感じ方、感情について感じ、言葉にまとめてみる	
第11回 感情のコントロール ②感情の理解と支援、ソーシャルストーリーズ			レポート作成：感情のコントロールに関する理解についてのレポート作成	
第12回 リラクセーション			レポート作成：リラクセーション体験についてのレポートをまとめる。	
第13回 TEACCHプログラム			復習：TEACCHプログラムの概要について振り返り	
第14回 構造化① 理論			復習：構造化の種類、具体的な方法について復習する	
第15回 構造化② 実際			レポート作成：日常の中にある構造化をいくつか見つけて、レポートを作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% 授業中に指示します テーマごとに4～5回レポート課題を出します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	積極的な態度で学ぶことを求めます			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	実技を含む授業なので、遅刻厳禁。 臨床動作法の回は動きやすい服装で参加してください。			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	月曜昼休み	メールアドレス		

授業科目	哲学【講義】	開講時期	前期
担当教員	清水 満	単 位	2
授業の目的と概要	現代社会を生きる自己を実現するための幅広い教養と特定分野の知識・技能の獲得に役立つように、近代哲学の考え方、とくに承認論と表現的人間観を学び、自分の生きる現実に応用して、適切な判断力を身につけることをめざします。応用力をつけ、理解しやすくするために、日常的な現実、児童教育、芸術文化などの場面に即して、講義していきます。		
到達目標	1. 人間の生き方、社会に対する自分なりの視点、把握を獲得する。 2. 人間のコミュニケーションについて、本質的な理解を得て、生活の中で実践できる。 3. 身体、表現、芸術などについて、自分なりの理解を得て、生活の中で実践できる。 4. 生活、教育、労働の場で、他者に対する適切なコミュニケーション、配慮ができる判断力を身につける。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション 表現と承認	配布プリントを復習する。	
第2回	デンマークに学ぶ表現教育のあり方	テキストの第一章を事前に読んでおく。	
第3回	デンマークの社会	参考図書『生のための学校』（新評論）を読んでおく。	
第4回	デンマークの「イドラット」とスポーツの考察	テキストの195～199ページを読む。	
第5回	承認論（1）：カントの人格主義	テキストの第三章を事前に読んでおく。配布プリントを復習する。	
第6回	承認論（2）：フィヒテとヘーゲルの相互承認論	指定図書『『フィヒテの社会哲学』（九州大学出版会）を事前、事後に読む。	
第7回	表現のメディアとしての身体論：子どもと舞踊	テキストの第二章を事前、事後に読む。	
第8回	表現のメディアとしての身体論：バレエに見る身体論（1）	参考文献、参考DVDを授業のあとに読む、あるいは見る。	
第9回	表現のメディアとしての身体論：バレエに見る身体論（2）	参考文献、参考DVDを授業のあとに読む、あるいは見る。	
第10回	哲学は美をどうとらえるか：カントの美の概念	テキスト第四章を事前に読んでおく。	
第11回	「生きた言葉」と詩：ワークショップ	テキストの第六章を事前、事後に読む。	
第12回	イリイチの「コンヴィヴィアリティ」概念	配布プリント、参考文献を読む。	
第13回	生活と美：ウィリアム・モリスと柳宗悦	配布プリント、参考図書を読む。	
第14回	生活と美：カノコユリの村	テキスト第七章を事前に読んでおく。	
第15回	旅の思索：デカルト	指定する参考図書を読む。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50％ 知識ではなく、講義・文献を読んで、自分で考察したことを書いてもらい、講義の習得度合いを評価します。		
小テスト等	45％ 定期的に、講義の終わりに考えたことを、課題、リフレクション・カードとして課します。		
成果発表	5％ ワorkshopへの参加と発表を評価します。		
受講態度他	0％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	課題、ワークショップなど参加型の授業は積極的に参加してください。		
教科書	清水 満『共感する心、表現する身体』（新評論）		
指定図書	清水 満『フィヒテの社会哲学』（九州大学出版会）、清水 満、小松和彦、松本健義『表現芸術の世界』（幼児教育・知の探求11、萌文書林）		
参考図書	清水 満『生のための学校』（新評論）		
オフィスアワー	講義のあと。	メールアドレス	

授業科目	哲学【講義】	開講時期	前期
担当教員	浅田 淳一	単位	2
授業の目的と概要	ギリシャに始まる西洋哲学の歴史を知り、それが理性中心主義という主旋律を奏でてきたことを確認する。西洋哲学の伝統を継承しつつ、その限界を超えていこうとするルソーの哲学について知る。さらに学んできた知識を用いて「哲学が如何にして現代の諸課題に答えるか」を自ら考察する。 この講義では、「生きるための知恵」の探求から始まった西洋哲学の歴史をたどりつつ、いつのまにか忘れ去られたこの哲学の最初の問いに立ち返って現代にも通じる課題に挑戦したルソーの哲学について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西洋の哲学が、「生きるための知恵」の探求から存在論へ向かっていく道筋をたどることができる。</li> <li>2. 西洋の哲学の特徴として理性が重視されるに至った道筋をたどることができる。</li> <li>3. 人間が理性を持つことの利点と欠点を整理して述べるができる。</li> <li>4. ルソーの人間観について体系的に説明することができる。</li> <li>5. 学んできた哲学の知識を、現代の我々の課題に応用することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	哲学とは： phi lo-sophosが初めて登場した文脈	課題（何のために大学に来たのか？自分なりに考えてみる）	
第2回	哲学するとは？： あなたは幸福の島に住みますか？	課題（幸福の島について、自分なりに具体的に考えてみる）	
第3回	ギリシャ自然哲学：存在への問いの始まり	課題（「はかなくないもの」について、自分なりに考えてみる）	
第4回	ピタゴラスとエレア学派：理性中心主義の確立	課題（「感覚的に経験できないが考えることができるもの」を挙げてみよう）	
第5回	ソフィストの哲学：存在論への最初の批判	課題（ソフィストの哲学の現代性を考慮に入れて、自分の哲学とする考える）	
第6回	理性の肯定的側面と否定的側面：屁理屈の問題点	課題（人間は理性を持つことで本当に幸福になったのか考えてみる）	
第7回	中世の哲学（普遍論争）：神は存在するのか？	課題（神は存在するかどうか、自分なりに真剣に考えてみる）	
第8回	近代哲学の夜明け：デカルトの合理論	課題（絶対に疑い得ない真理について、自分はどう考えるか）	
第9回	西洋哲学の批判的継承者ルソー：ルソーの生涯	課題（ルソーの生き方について、自分の考えをまとめてみる）	
第10回	ルソーの人間観：理性に対する感情の優位	教科書（『人間不平等起源論』の当該箇所を読んでくる）	
第11回	ルソー哲学の体系：市民と人間について	教科書（『人間不平等起源論』の当該箇所を読んでくる）	
第12回	『人間不平等起源論』読解：現代社会の批判的検討	教科書（『人間不平等起源論』の当該箇所を読んでくる）	
第13回	ルソーに於ける疎外の克服①『エミール』	課題（ルソーの名著『エミール』について調べてくる）	
第14回	ルソーに於ける疎外の克服②『社会契約論』	課題（ルソーのもう一つの名著『社会契約論』について調べてくる）	
第15回	講義全体のまとめ	課題（講義全体を自分のノートを見ながら振り返り講義全体の主張を確認）	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	100%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。テストの成績が合否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。		
教科書	『人間不平等起源論』（ルソー）岩波文庫		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス	

授業科目	テレビ論【講義】	開講時期	前期
担当教員	荒巻 龍也	単位	2
授業の目的と概要	<p>現代社会において最も生活に溶け込み、最も影響力のあるメディアの一つであるテレビについて、様々な角度から考察し、理解していきます。テレビの歴史、番組、社会的側面、経済的側面、技術的側面などを様々な資料を元に考察していきます。あわせて海外におけるテレビの現状やテレビの未来についても考察していきます。</p> <p>1. 現代社会におけるメディアの中心でもあるテレビ（放送）の歴史、しくみ、社会的側面、ビジネスの側面や技術的側面、海外のテレビ事情などについて理解を深める。</p> <p>2. 現代社会におけるメディアコンテンツの現状を理解し、「これから」を考察する問題解決力を身につける。</p> <p>3. グループワーク等を通じてチームワーク力やコミュニケーション力を身につける。</p>		
到達目標	<p>1) テレビの歴史について説明することができるようになる。</p> <p>2) テレビのしくみ、ビジネス、技術などを説明できるようになる。</p> <p>3) 海外のテレビ状況について説明できるようになる。</p> <p>4) これからのテレビについて考察することができるようになる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目: 「ジャーナリズム論」、「広告論」、「出版論」、「メディア産業論」、「メディアコンテンツ論」 など</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	授業の概要、授業計画、授業の進め方・受け方、テレビとは何か	配布資料「オリエンテーション」「映像メディアの現状と特性」の再読	
第2回	テレビの歴史1（映像メディアの誕生からテレビの誕生まで）	資料1（映像メディアの歴史年表）熟読、資料2（高柳健次郎）熟読	
第3回	テレビの歴史2（テレビの誕生から発展）	映像メディアの歴史の復習、資料1（放送・全国紙業界地図）熟読	
第4回	テレビ番組	資料1（番組ができるまで）、資料2（制作のスタッフ）熟読	
第5回	メディアコンテンツとしてのテレビ番組	資料1（テレビ番組など）、資料3（我が国のコンテンツ市場の現状）塾読	
第6回	テレビCMとテレビビジネス	テキスト（テレビCM）復習、資料（テレビCM）熟読	
第7回	視聴率とテレビビジネス	テキスト（視聴率）復習、資料（視聴率ガイドブック）熟読	
第8回	テレビ技術(1)	テキスト（テレビ技術）復習、資料（電波の分類）熟読	
第9回	前半のまとめ、レポート課題1について テレビ論前半のまとめ発表、クリッカーによる理解度チェック	課題レポート1、レポートの書き方の復習	
第10回	テレビと社会1（法律・規制、行政・政策など）	資料2（放送法）、資料4（日本民間放送連盟放送基準）熟読	
第11回	テレビと社会2（文化、社会生活など）	テキスト（テレビと社会）復習、資料1（民放のテレビネットワーク）塾読	
第12回	海外テレビ事情1（アメリカ、イギリス）	資料1（アメリカのメディア・コングロマリット）熟読	
第13回	海外テレビ事情2（アジア、その他の地域）	テキスト（海外テレビ事情）復習、資料1（国別テレビ事情）熟読	
第14回	テレビの現状、レポート課題2について	テキスト（テレビの現状）復習、関連資料の熟読	
第15回	新しいテレビ、これからのテレビ 全体のまとめと発表、クリッカーによる理解度チェック	これまでの教材等の復習、レポート課題2	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	0% なし		
レポート	70% レポート課題1（前半のまとめ）（15%）、レポート課題2（テレビの現状と未来について）（15%）、予習・授業中・復習課題（40%）		
小テスト等	0% なし		
成果発表	20% 発表、グループワーク、アンケート回答など		
受講態度他	10% 授業の振り返りならびに授業に対する積極性（グループワーク参加）など		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業はプリントならびに筑女ネットのPowerPoint教材等を利用して進めていきます。授業中に必ずしも筑女ネットを閲覧する必要はありませんが、予習・復習ならびに課題においては筑女ネットの閲覧が 必須になります。</p> <p>授業中にはほぼ毎回、予習（テキスト・関連資料の熟読）、復習（授業内容）に関する（小）課題に取り組んでもらいます。授業中は私語などもなく、集中して受講してください。随時クリッカーなどを利用して理解度を確認していきます。</p> <p>またメディア関連企業の方などのゲスト講師による特別授業も予定しています。</p>		
教科書	なし（プリントならびに「筑女ネット」のオンライン教材）		
指定図書	なし		
参考図書	トリプルウイン著『徹底図解 放送のしくみ』 新星出版社 藤竹 暁著『図説 日本のメディア』 NHKブックス（NHK出版）		
オフィスアワー	火曜日2限目（10:50-12:20）	メールアドレス	



授業科目	天文学【講義】		開講時期	前期
担当教員	魚住 禎司		単位	2
授業の目的と概要	太古の昔、人類が夜間目にした光はわずかばかりの焚火の灯と夜空の星々でした。人類は文字を発明するよりもずっと前から天文現象に大いなる興味を抱き、やがて人類は夜空の星々の動きが規則正しいことに気づきました。暦や時刻など、生活に不可欠なものが天体の運行の観察からもたらされました。古来人類は、宇宙はどのような仕組みで成り立っているのか、我々人類はどこから来たのかなど根源的な疑問をずっと持ち続け、時代ごとに天文学的な知識も抛り所にしつつ世界観を育んできました。時代の流れとともに宇宙を観測する技術や宇宙を理解するための理論が発達し、現代では宇宙にまつわる根源的な疑問に科学的に向き合うことができるまでになっています。本講義では、我々が住む地球や宇宙を幅広く理解して宇宙に関する自身の世界観を構築することを目的に、身近な天文現象から最近の宇宙の話題までその概要を学んでゆきます。			
到達目標	1: 天文学における諸現象を具体的に列挙・分類することができる。 2: 宇宙に関連する諸現象を、天文学の基本原則・法則に基づいて説明できる。 3: 日常的に天文に関連する事柄に関心を持ち、それらを適切な天文学の知識・法則と関連付けることができる。 4: 宇宙に関する自身の世界観を構築する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 天文学とは 天文学とはどんな学問なのか概要を理解する		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
第2回 暦、時 天文現象の観察から編み出された暦や時について理解する		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
第3回 地球、太陽、月 我々の地球と太陽、月の天文学的な特徴を知る		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
第4回 太陽系の惑星 太陽系の惑星の名前とその特徴を知る		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
第5回 太陽系の小天体 太陽系の主な小天体の名前とその特徴を知る		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
第6回 銀河系 太陽系が属している銀河系の構造や特徴を知る		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
第7回 星・星座 夜空に輝いている星の特徴や主な星座について学ぶ		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
第8回 星雲・星団・系外銀河 星雲、星団、系外銀河の種類やその特徴を知る		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
第9回 古代の宇宙観 天動説と地動説 古代の人々が考えていた宇宙の姿や、天動説と地動説を学ぶ		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
第10回 近代の宇宙観 物理学の起こり 天文現象を理解するために興った黎明期の物理学の歴史について知る		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
第11回 現代の宇宙観 宇宙の構造 天体観測技術の発達によって次第に明らかにされてきた宇宙の構造について知る		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
第12回 宇宙の起源 宇宙がどの様に誕生したのか、宇宙がこれまでどの様に変化してきたのか最近の研究成果を知る		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
第13回 人間の材料の起源 人間の体をつくるための材料はどの様にこの宇宙にもたらされたのか、最近の研究成果を知る		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
第14回 宇宙の未来 この先宇宙はどうなるのか、最新の話題も交えて現代宇宙論で考えられている宇宙の未来像を知る		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
第15回 まとめ 振り返りワーク		筑女ネットの授業コース上に掲載する「振り返り課題」に取り組むこと		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	定期試験は行わない			
レポート	60% 毎回の課題提出(第1回~第14回)			
小テスト等	30% 振り返りワーク(第15回)			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 受講状況等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネットの授業コース上に掲載する、「受講上の留意点」に記載する			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	「一家に1枚」シリーズ：宇宙図2018、太陽、天体望遠鏡400年、光マップ (URL: <a href="https://stw.next.go.jp/series.html">https://stw.next.go.jp/series.html</a> )			
オフィスアワー	基本は月曜4限	メールアドレス		

授業科目	データから見る社会【講義】	開講時期	前期
担当教員	野中 亮	単 位	2
授業の目的と概要	社会調査の実施に必要な基本的な知識を身につけることを目的とします。実際の統計データや調査報告書等を題材に、社会調査および調査データの収集・利用方法・解釈・分析法についての知見を修得します。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本における代表的な調査（センサス等）の概略を説明でき、その活用ができる。</li> <li>量的・質的調査のデータや分析方法の特性について理解し、調査の成果物を読み解くことができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身につけている。 この科目は社会調査士資格のA科目に相当します。資格取得を目指す人は、B科目（1年次開講）「調査データの集め方」・C科目（2年次開講）「調査データの読み方」・D科目（2年次開講）「調査データの扱い方」・E&amp;F科目（3年次開講）「量的調査法」「質的調査法」のいずれか・G科目（3年次開講）「社会調査実習演習」を修得する必要があります。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど	
第1回 社会調査とは		配付資料の復習	
第2回 社会調査の歴史		教科書1-2等を使って予復習しておくこと。	
第3回 社会調査の種類(1)		教科書1-5等を使って予復習しておくこと。	
第4回 社会調査の種類(2)		教科書1-5等を使って予復習しておくこと。	
第5回 社会調査の方法		教科書1-6等を使って予復習しておくこと。	
第6回 量的調査		講義資料を使って復習中心に学習しておくこと。	
第7回 質的調査		講義資料を使って復習中心に学習しておくこと。	
第8回 調査倫理とは		教科書1-4等を使って予復習しておくこと。	
第9回 資料の検索と利用法		講義資料を使って復習中心に学習しておくこと。	
第10回 官庁統計の利用法		教科書1-7等を使って予復習しておくこと。	
第11回 量的データの読み方と利用法		教科書1-7、参考図書1のpp. 50-63等を使って予復習しておくこと。	
第12回 質的データの読み方と利用法		講義資料を使って復習中心に学習しておくこと。	
第13回 調査報告書の読み方(1)		教科書3-1～3-4等を使って復習中心に学習しておくこと。	
第14回 調査報告書の読み方(2)		教科書3-5～3-7等を使って復習中心に学習しておくこと。	
第15回 まとめ		これまで配布した資料等を元に、前期全体の学習事項を整理しておくこと。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	学期末レポート(50%)		
小テスト等	毎週の課題(50%)		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業外学修の時間は180分程度を想定しています。</li> <li>今年度については遠隔授業のため予定の変更が発生する可能性があります。筑女ネットやTeamsでの連絡に注意してください。</li> </ul>		
教科書	篠原清夫 他『社会調査の基礎 社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂		
指定図書	なし		
参考図書	1 大谷信介 他『新・社会調査へのアプローチ 論理と方法』ミネルヴァ書房 2 轟亮 他『入門・社会調査法[第2版]』法律文化社		
オフィスアワー	水曜2限	メールアドレス	

授業科目	投映法特論【講義】		開講時期	前期
担当教員	針塚 進		単 位	2
授業の目的と概要	臨床心理査定のための投映法の考え方を理解し、投映法の実施法を習得し、結果の解釈を行いテスト結果書の作成することができるようになることを目的とする。投映法はその代表的なテスト法であるロールシャッハテストを中心に授業を進める。			
到達目標	ロールシャッハ・テスト（ロ・テスト）の基本的な考え方を理解し、実施方法を習得し、テスト結果の整理と結果の解釈を行い、結果報告書が作成が可能になる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。 (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。 (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。 (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	投映法の代表的テストであるロ・テスト、TAT, PFスタディの理論と実際	ロテストとTAT, PFスタディの基本的な違いについて調べる		
第2回	ロテストの理論とテストの被験者体験（講義と演習）	ロテストの被験者体験と体験レポート		
第3回	ロテストのスコアリングについての基本事項（反応領域、反応決定因、反応内容）（講義と演習）	自己のロテスト結果を用いて基本事項の疑問点を探す		
第4回	反応領域（W, D, d, など）の意味とスコアリング（講義と演習）	反応領域のスコアリングの実施		
第5回	反応決定因（運動反応M, m、純粋形態反応F）の意味とスコアリング（講義と演習）	反応決定因（運動反応M, m、純粋形態反応F）のスコアリングの実施		
第6回	反応決定因（色彩反応FC、CF、C、陰影反応Fc、FK）の意味とスコアリング（講義と演習）	反応決定因（色彩反応FC、CF、C、陰影反応Fc、FK）のスコアリングの実施		
第7回	反応内容（H, A, Na, Arch.・・・）の意味とスコアリング	反応内容（H, A, Na, Arch.・・・）のスコアリングの実施		
第8回	反応の形態水準の意味とスコアリング（講義と演習）	形態水準の評価とスコアリングの実施		
第9回	スコア整理表（サマリースコアリング）への記入の方法と見方（講義と演習）	スコア整理表の作成		
第10回	スコア整理表に基づく形式分析の方法（講義と演習）	自己のスコア整理表に基づく形式分析の実施		
第11回	反応内容による系列分析と内容分析の方法	系列分析と内容分析の実施		
第12回	ロテストの実施方法の実際（講義と演習）	協力被験者へのロテストの実施		
第13回	協力被験者のテスト結果の整理と分析（演習）	協力被験者のテスト結果の整理と分析の実施		
第14回	ロテスト所見の書き方（講義と演習）	協力被験者のテスト結果の所見の作成		
第15回	全体的まとめ（講義と演習）	所見レポートの作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない			
レポート	毎回授業外学修のレポート、60％			
小テスト等	行わない			
成果発表	所見レポートの提出、20％			
受講態度他	授業への出席、20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業への出席とレポートと提出をおこなう			
教科書	新・心理診断法 片口安史著 金子書房（大学に備えている本の貸し出し可）			
指定図書	なし			
参考図書	ロールシャッハテストの所見の書き方 加藤・吉村編著 岩崎学術出版			
オフィスアワー	火曜4限、木曜5限	メールアドレス		

授業科目	東南アジア近現代史【講義】		開講時期	後期
担当教員	横山 豪志		単位	2
授業の目的と概要	<p>東南アジア近現代史について、現存の東南アジアの国々の成立過程に着目し、そのダイナミズムを理解することがこの講義の目的です。個々の出来事よりも、むしろそれがなぜ起こったのか、また後の時代にどのような影響を及ぼしたのか、を中心に学びます。その中で、日本占領期が東南アジアに及ぼした影響についても、幅広い視野から理解を深めていきます。東南アジアの近代は、ヨーロッパの到来と植民地の形成に始まります。植民地支配を行った側の支配の論理と実態、そして支配された側が自らの国を作っていた民族主義の論理と運動を、地域ごとに学びます。その過程の中で、日本占領期の意義を確認していきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 欧米各国による東南アジアの植民地化の経緯と、その違いを説明できる。</li> <li>2. 東南アジアの人びとが民族意識に目覚め、自らの国を作っていた経緯の特徴と課題を説明できる。</li> <li>3. 東南アジアにおける日本占領期の意義と影響について説明できる。</li> <li>4. 東南アジアの近現代史に関する文献を、自ら集めて分析することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  「東南アジア入門」で学んだことを踏まえたうえで、「東アジア近現代史」や「南アジア近現代史」といった異なる地域の近現代史を学び、それぞれの地域を比較すると特徴がより理解できます。また、東南アジアにおける日本占領期の意義と影響を理解したうえで、「近代日本とアジア」を履修すると、日本の側の論理を理解することができます。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション	東南アジア近現代史を学ぶことの意義	第2回用レジュメ、資料に基づき前近代の歴史を予習		
第2回	前近代の東南アジア	第2回第3回用レジュメ、資料に基づきヨーロッパ到来までの歴史を予習予習		
第3回	交易の時代	第3回第4回用レジュメ、資料に基づき植民地形成の歴史を予習復習		
第4回	植民地の形成	第4回第5回用レジュメ、資料に基づき植民地支配の深化について予習復習		
第5回	植民地の完成	第5回第6回用レジュメ、資料に基づき20世紀初めの状況について予習復習		
第6回	植民地支配の深化と原住民エリートの覚醒	第6回第7回用レジュメ、資料に基づき民族主義運動の萌芽について予習復習		
第7回	民族主義運動の展開(1)フィリピン	第7回第8回用レジュメ、資料に基づき各地の民族主義運動について予習復習		
第8回	民族主義運動の展開(2)インドネシア	第8回第9回用レジュメ、資料に基づき各地の民族主義運動について予習復習		
第9回	民族主義運動の展開(3)ヴェトナム	第10回用レジュメ、資料に基づき近代日本と東南アジア関係について予習復習		
第10回	日本の南方関与	第10回第11回用レジュメ、資料に基づき20世紀前半について予習復習		
第11回	日本軍政のインパクト	レジュメ、資料に基づき日本軍政について予習復習、期末レポート準備		
第12回	日本軍政の位置づけ(1)インドネシアの事例	レジュメ、資料に基づき日本軍政について予習復習、期末レポート準備		
第13回	日本軍政の位置づけ(2)今日の視点から	レジュメ、資料に基づき独立に至る過程について予習復習、期末レポート準備		
第14回	独立国家の誕生	レジュメ、資料に基づき現代史について予習復習、期末レポート準備		
第15回	今日の東南アジア	第15回用レジュメ、資料に基づき近現代史を復習、期末レポート準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	90% 期末レポート15% 毎回提出の「講義の概要」(感想等に代替の場合あり)(各回5段階評価)75% 「講義の概要」に記された質問・コメントについては翌週回答します。			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	状況に応じてシラバス内容を変更することがあります。なるべく早く確定させますが、変更する場合は速やかにみなさんにお知らせします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	火14:50~16:20、金12:30~13:00	メールアドレス		

授業科目	東南アジア入門【講義】		開講時期	前期
担当教員	横山 豪志		単位	2
授業の目的と概要	<p>アジア、とりわけ東南アジアについてこれから勉強していくためには、まずその地域に対して興味関心を持つことが重要です。そのために、東南アジアに関する幅広い視野を身につけるための、基礎知識や特徴的な事柄について学び、理解していくことがこの講義の目的です。併せて、今日の東南アジアにおいて日本がどのように位置づけられているのかを知り、日本とアジアの関係について理解を深めます。</p> <p>東南アジアと一口に言っても、そこに属する11カ国の歴史、社会、文化などは多様性に富みます。この講義では、その違いよりも東南アジア各国に共通する特徴について理解を深めていきます。とりわけ日本と異なる点、日本であまり紹介されていないけれども重要な文化などへの認識を高めていきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東南アジアの基本的な地域的特性、日本との違いを説明できる。</li> <li>2. 東南アジアの社会や文化、人びとの暮らしについて理解し、その特徴と課題を説明することができる。</li> <li>3. 東南アジアに関する基礎的文献を、自ら集めて分析していくことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>「東アジア入門」や「南アジア入門」という他地域の入門科目を併せて履修することで、東南アジアの地域的特性をより理解することができます。</p> <p>また「現代東南アジア事情」や「アジア政治論」などの、より詳しい内容の科目を履修することで、理解を深めることができます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第 1 回	オリエンテーション アジアとは、東南アジアとは1	第2回用レジュメ、資料に基づき、東南アジアの基礎について予習		
第 2 回	東南アジアにおけるCOVID-19	第2回第3回用レジュメ、資料に基づき大陸部の基礎について予習復習		
第 3 回	東南アジアの国々に(1) 各国の基礎知識 大陸部、筑女ネットとTeamsの使い方確認	第3回第4回用レジュメ、資料に基づき東南アジアの国々について予習復習		
第 4 回	東南アジアの国々に(2) 各国の基礎知識 島嶼部	第4回第5回用レジュメ、資料に基づき具体例について予習復習		
第 5 回	東南アジアへの誘い ヴェトナム・ラオスの事例	第5回第6回用レジュメ、資料に基づき文化と遺跡について予習復習		
第 6 回	東南アジアの遺跡(1) アンコールワット	第6回第7回用レジュメ、資料に基づきアンコールについて予習復習		
第 7 回	東南アジアの遺跡(2) アンコール遺跡群	第7回第8回用レジュメ、資料に基づき各地の遺跡について予習復習		
第 8 回	東南アジアの遺跡(3) ボロブドゥールとパガン遺跡群	第8回第9回用レジュメ、資料に基づき漂海民について予習復習		
第 9 回	海に生きる人びと 漂海民	第9回第10回用レジュメ、資料に基づき近代化と環境問題について予習復習		
第10回	近代化の波と環境問題	第10回第11回用レジュメ、資料に基づき東南アジアの宗教について予習復習		
第11回	東南アジアの宗教 総論	レジュメ、資料に基づき東南アジアの仏教について予習復習		
第12回	上座部仏教	東南アジアのイスラームについて予習、期末レポート準備		
第13回	イスラーム概論 ムスリムの日常生活	日本と東南アジアの関係について予習復習、期末レポート準備		
第14回	東南アジアの中にもみるニッポン(1) モノ・ヒト・ソフト	レジュメ、資料に基づき日本の関係に予習復習、期末レポート準備		
第15回	東南アジアの中にもみるニッポン(2) 東南アジアから見る日本	講義内容を踏まえ日本の関係について復習、期末レポート準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	90% 期末レポート10% 各国情報レポート5% 毎回提出物(感想・コメント/講義の概要/ミニレポート)75% 「講義の概要」に記された質問・コメントについては翌週回答します。			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	リアルタイム型の授業がどの程度可能なのかにより講義内容が変更されることがあります。なるべく早く確定しシラバスを更新しますので、確認してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	水14:50～16:20、木12:30～13:30	メールアドレス		

授業科目	特別活動指導論【講義】		開講時期	前期
担当教員	松本 和寿・石原 努		単位	2
授業の目的と概要	学習指導要領に示された目標や内容についての理解を図るとともに、具体的な指導法や評価の視点、評価方法を理解し、小学校教育の中での特別活動や総合的な学習の時間の意義について考えることを目的とする。 授業では、講義だけでなく、指導案（展開）の作成や場面指導なども取り入れる。 特別活動（第8回まで）を松本が担当し、総合的な学習の時間（第9回以降）を石原が担当する。			
到達目標	1 特別活動・総合的な学習の時間の目標、内容、指導・評価等について理解し、説明することができる。 2 基本的な指導法について理解を深め、具体的場面を想起しながら授業を構想することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は1年次、2年次の「初等（各教科）概論」や「初等教科教育法（各教科）」に関連します。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション・学習指導要領における特別活動の位置づけ		高等学校までの特別活動の内容について整理する。	
第2回	特別活動の目標と四つの活動とのかかわり		学習指導要領の該当部分をまとめる。	
第3回	学級活動の目標と活動の実際、指導法		学級活動の展開を考える。	
第4回	児童会活動の目標と活動の実際、指導法		児童会活動の展開を考える。	
第5回	クラブ活動の目標と活動の実際、指導法		クラブ活動の展開を考える。	
第6回	学校行事の目標と活動の実際、指導法		学校行事の展開を考える。	
第7回	特別活動の評価		各活動の評価の規準を考える。	
第8回	特別活動と他の教科・領域等との関連		他の領域と関連させた指導計画を考える。	
第9回	総合的な学習の時間のねらいと意義		総合の意義とねらいをまとめる。	
第10回	総合的な学習の時間の計画立案・実践・評価		計画立案の際の留意点をまとめる。	
第11回	総合的な学習の時間における教師の指導技術		指導技術についてまとめる。「地域」を主とした活動展開を考える。	
第12回	総合的な学習の時間の実際「地域との連携」 模擬指導、及び、指導に関するディスカッションを行う。		「国際交流」を主とした活動展開を考える。	
第13回	総合的な学習の時間の実際「国際交流」 模擬指導、及び、その指導に関するディスカッションを行う。		「生命・福祉」を主とした活動展開を考える。	
第14回	総合的な学習の時間の実際「生命・福祉」 模擬指導、及び、その指導に関するディスカッションを行う。		「伝統・文化」を主とした活動展開を考える。	
第15回	総合的な学習の時間の実際「伝統・文化」		作成した指導略案等のまとめをする。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％			
小テスト等	なし			
成果発表	50％			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教職履修生には、将来的に教職に就くことを前提に、それにふさわしい履修態度を求めます。 ワークシートの答えは、筑女ネットにアップしますが（時間割→当該科目→当該ファイル）、ただ答えを書き写すのではなく、あらかじめテキストや解説書の指定された個所を読みながら穴埋めに取り組み、正誤を確認した上で授業に臨んでください。			
教科書	小学校学習指導要領解説 特別活動編、小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編、小学校学習指導要領解説 総則編			
指定図書	授業の際に指示する。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスワーカー	月曜日、金曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	特別活動指導論【教職】【講義】		開講時期	前期
担当教員	竹熊 真波		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業は、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の3つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身につけることを目的とする。</p> <p>授業の実際は、今年度はOffice365のTeamsによるオンライン授業をおこなう。受講生は、予習としてテキストの該当ページを読みながら筑女ネットの時間割にアップされた講義ノートの空欄を埋める作業を行っておく。毎回の授業では、まずはじめに、当番により朝の会（SHR）を想定した模擬授業を行った後に、教員の解説を聞き、ミニテストや課題作成に取り組む。</p>			
到達目標	<p>①特別活動の意義、目標及び内容を理解できる。          ②特別活動の指導の在り方を体験的に理解できる。          ③特別活動の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。          ④特別活動と他教科、道徳、総合的な学習（探究）の時間、生徒指導等との関連について理解できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものです。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。          &lt;関連する科目&gt;「特別活動演習」</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション：ネット環境の動作確認＋課題1（宿題レポート）	宿題レポートの提出		
第2回	学習指導要領改訂と特別活動＋朝の会の発表順の確定＋ミニテスト1	（全員）配布資料の該当箇所穴埋め（以後毎回）		
第3回	特別活動の目標＋ミニテスト2	（当番）次回のSHRの準備		
第4回	特別活動の基本的な性格と意義＋朝の会（1G）＋ミニテスト3	（当番）次回のSHRの準備		
第5回	学級（ホームルーム）活動＋朝の会（2G）＋ミニテスト4	（当番）次回のSHRの準備		
第6回	生徒会活動＋朝の会（3G）＋ミニテスト5	（当番）次回のSHRの準備		
第7回	学校行事＋朝の会（4G）＋ミニテスト6	（当番）次回のSHRの準備		
第8回	指導計画の作成と評価＋朝の会（5G）＋ミニテスト7	（当番）次回のSHRの準備		
第9回	年間指導計画（学級活動）の作成（課題1）＋朝の会（6G）	（当番）次回のSHRの準備（全員）課題作成		
第10回	年間指導計画（学校行事）の作成（課題2）＋朝の会（7G＋8G）	（当番）次回のSHRの準備（全員）課題作成		
第11回	指導案の作成～家庭・地域との連携を踏まえて（課題3）＋朝の会（9G＋10G）	（当番）次回のSHRの準備（全員）課題提出		
第12回	特別活動の実践的理解1 交流活動 合唱	全員の顔と名前を覚える！		
第13回	特別活動の実践的理解2 寸劇制作	寸劇の制作と練習		
第14回	特別活動の実践的理解3 寸劇発表	相互評価		
第15回	まとめ	これまでの学修の振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	なし			
小テスト等	50％ 小テスト（7×5％）並びに課題提出（3×5％）			
成果発表	35％ SHR（朝の会）の実践10％や発表15％			
受講態度他	15％ 授業参加の意欲等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の出席は朝の体温を尋ねますので、事前に測っておいてください。</p> <p>配布資料については、筑女ネットに穴埋めをしたものをアップしていますが、単に答えを書き写すのではなく、まずテキストや解説書を読みながら自身で解き、遠隔授業の際に答え合わせだけで済むようにしてください。</p> <p>なお、授業資料の中には本来、著作権法によりweb上での無断利用ができないにもかかわらず、オンライン授業に限り特別に利用が認められているものがあります。受講生のみならずも授業外での利用や無断転載は禁止されていますので、取り扱いには</p>			
教科書	『中学校学習指導要領解説 特別活動編』			
指定図書	なし			
参考図書	伊東毅『未来の教師におくる特別活動論』武蔵野美術大学出版局、北村文夫『指導法 特別活動』玉川大学出版部、渡辺邦雄・緑川哲夫・桑原憲一編著『特別活動指導法』日本文教出版、佐々木正昭『入門特別活動』学事出版他			
オフィスワー	木曜2限	メールアドレス		

授業科目	特別活動実習【教職】【実習】		開講時期	後期
担当教員	竹熊 真波		単 位	1
授業の目的と概要	<p>演劇ならびに合唱発表というアクティブ・ラーニングを通して、特別活動の教育的意義を体験的に学ぶことを目的とする。具体的に身に付けてほしい力は、①現代社会に必要な豊かな人間性、コミュニケーション能力、他者との調整能力。②教師の実践的な資質としてのリーダーシップ、企画力、表現力である。</p> <p>履修者は、前期のうちから、寸劇発表を通して演劇を体験的に学んだ上で、テーマや役割分担などを決定し、具体的な方向付けを図ってきた。その上で、脚本作成、配役決め、練習日程の調整や練習なども自分たちで行うものとする。本格的な練習は後期開始前の9月初旬より開始し、後期開始後はリハーサルを重ねる。あくまで「全員で創る」、「自分たちの力で創る」を原則として、素材決め、脚本作り、役決め、演技練習、音響・照明の構成などを行い、学園祭時にその成果を発表する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇制作・発表を通して、授業を行う上で必要な構成力、表現力を獲得する。</li> <li>・創作の過程で自らの意見を伝え、人の意見を聞き、様々な葛藤を乗り越える力を身につける。</li> <li>・与えられた役割を遂行するのみならず、新たな役割を自ら見つけ出し、果たすることができる。</li> <li>・一つのことを成し遂げた達成感を味わい、集団活動の意義についての理解を深める。</li> <li>・イベントの開催には周囲の理解・協力が不可欠であることを理解し、感謝の心を持つことができる。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>本授業は、中等教職課程の「教科又は教職に関する専門科目」に位置づけられる科目であり、本学教職課程の目標でもある「1. 教職に関する使命感、2. 確かな学力と実践的指導力、3. 豊かな人間性」のうち、特に「3. 豊かな人間性」の醸成を目的とするものである。</p> <p>本授業は、前期開講の「特別活動指導論」と関連し、授業において知識として学んだ「特別活動」のなかの「学校行事・文化的行事」に属する学校劇ならびに合唱を体験的に学ぶものとして設定されている。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回(9/25・4限)	劇についての合同通し稽古(お互いに劇を鑑賞)	台詞を全て覚えておく(照明音響は不問)		
第2回(9/25・5限)	劇の相互評価と合唱練習	自身の役割を確認する		
第3回(10/2・4限)	舞台練習1(チーム毎に舞台の立ち位置や照明の位置等を設定)	劇の修正点を改善する		
第4回(10/2・5限)	劇の内容の確認1(チーム毎に脚本等を修正)	劇の修正点を改善する		
第5回(10/9・4限)	舞台練習2(大道具、衣装、照明、音響等の設定と確認)	必要な道具等を揃えておく		
第6回(10/9・5限)	劇の内容の確認2(脚本等の調整)	リハーサルに向けての修正		
第7回(10/16・4限)	合同リハーサル(含:合唱)(最初から最後までを通し稽古)	本番に近い形に仕上げしておく		
第8回(10/16・5限)	合同リハーサルの反省と劇の内容の修正	再度それぞれの役割の確認をする		
第9回(10/30・4限)	最終リハーサル	劇と劇の間の移動も含めた時間配分の確認		
第10回(10/30・5限)	最終リハーサルの反省(先生・先輩からの評価)	劇の仕上げ		
第11回(10/31)	本番の準備	最後の仕上げ		
第12回(10/31)	教職劇本番	-		
第13回(10/31)	教職劇反省会	教職劇レポートの作成開始		
第14回(11/6or13)	相互批評会(劇の映像の鑑賞)	以後個人面談(一人5分~10分程度)		
第15回	まとめ(1月の最終講義)	自身の教職の適性を再考する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 指定された課題について、11月中に提出(レポートは添削指導後レポート集を作成)			
小テスト等	0%			
成果発表	50% 教職劇への取り組み			
受講態度他	20% 練習への参加態度、面談指導の結果も含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	後期以降は、あくまでも授業優先であることも念頭に置いた上で、各自スケジュール管理、健康管理をしっかりとしておくこと。			
教科書	なし			
指定図書	平田オリザ『演劇入門』講談社現代新書			
参考図書	菅井建『中学生・高校生のための劇作り9か条』晩成書房、かめおかゆみこ『演劇やろうよ!指導者篇』青弓社			
オフィスワー	金曜3限	メールアドレス		



授業科目	特別支援学校教育実習【教職】【実習】		開講時期	通年
担当教員	酒井 均		単 位	3
授業の目的と概要	<p>本講義は、特別支援学校教員免許取得希望者が、教育実習を通じて、教育現場や教師の仕事の実際を理解し、これまでに学んできた「教職に関する科目」ならびに「特別支援教育に関する科目」における理論的な知識を応用する力を身につけ、自己の教師としての適性を再考することを目的とする。</p> <p>教育実習は、大きく分けて「観察実習」、「参加実習」、「実証（教壇・実地）実習」に分けられる。実習の基本的な流れとしては、先生方の授業や生徒達の様子、学校の規則等を「観察」し、ホームルームでの点呼や掃除の指導など徐々に学校や学級での教育活動に「参加」した上で、最終的に指導教員の下で指導案を作成し、実際に授業を行う（実証実習）こととなる。</p> <p>実習に際しては、社会人としてのマナー（服装、言葉遣い、時間厳守など）や健康管理に留意し、指導の先生方や生徒とも自ら積極的にコミュニケーションをとり、常に能動的に行動することが望まれる。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に対する理解を深め、教職に就くことの適性を判断する</li> <li>・教師としての実践的力量を経験的・実践的に形成する</li> <li>・教師としての職業倫理を経験的に培う</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>初 (1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>初 (1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」</p> <p>初 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>初 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>幼 (1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」</p> <p>幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
基本的には9月から12月にかけて2週間特別支援学校での実習となる。実習校の状況によっては6月から7月の受け入れもあり得る。事前オリエンテーションをおこなう		-		
第1週目	観察実習・参加実習 1週目中旬から（時には初日から）実証実習が開始される場合が多い	事前の教材研究を十分に行う		
第2週目	実証実習 指導教員の助言をしっかりと受け止め、授業を改善し、研究授業につなげる	授業準備と反省		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％（教育実習日誌・教育実習報告書）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	50％（実習校からの評価）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習日誌は、実習校から特に指示がない限り、ボールペンで記入すること。誤字・脱字がないよう留意し、丁寧に書くこと。</li> <li>・無断欠勤や遅刻は決して許されない（提出物も期限内に出すこと）。</li> <li>・教材研究は必要だが、それだけに終始せず、他の授業や部活動などにも、先生方の許可を得た上で積極的に参加すること。</li> <li>・生徒との個人的な交流（携帯番号等を教えるなど）をしてはならない。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	特別支援学校学習指導要領 文部科学省			
オフィスワー	水曜日お昼休み（12時30分～13時）	メールアドレス		

授業科目	特別支援教育総論【講義】		開講時期	前期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	<p>特別支援教育に関する基礎的な知識の習得や支援方法についての理解を目指す。学習指導要領に沿った内容をベースに進め、学校現場でも生きる知識を身につける。また、専門機関と連携や個別の指導計画および支援計画の重要性を理解する。</p> <p>特別支援教育の歴史や制度、特別支援学校学習指導要領、教育内容・方法、個別の指導計画および支援計画の作成に関する基礎的な知識について学ぶ。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の理念や制度、教育課程を理解することができる。</li> <li>・特別支援教育に関する基礎的な知識や教育内容・方法等を理解することができる。</li> <li>・個別の指導計画および支援計画の作成に向けた基礎的な知識を習得することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」</p> <p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。この科目は特別支援教育に関する科目です。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			レポート作成	
第2回 障害について			レポート作成	
第3回 知的障害について 特徴と教育			レポート作成	
第4回 情緒障害について 特徴と教育			レポート作成	
第5回 自閉スペクトラム症 (ASD)について 特徴と教育			レポート作成	
第6回 注意欠如/多動症 (ADHD)について 特徴と教育			レポート作成	
第7回 限局性学習症 (SLD)について 特徴と教育			レポート作成	
第8回 発達障害疑似体験			レポート作成	
第9回 視覚障害について 特徴と教育			レポート作成	
第10回 聴覚障害について 特徴と教育			レポート作成	
第11回 肢体不自由について 特徴と教育			レポート作成	
第12回 言語障害について 特徴と教育			レポート作成	
第13回 重度・重複障害、病弱について 特徴と教育			レポート作成	
第14回 特別支援教育の歴史			レポート作成	
第15回 特別支援教育の現状と課題			レポート作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ショートレポート30%、最終レポート70%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度も参考にします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回、授業の最後に課題を出します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『はじめての特別支援教育 - 教職を目指す大学生のために 改訂版』(柘植 雅義、渡部 匡隆、二宮 信一、納富 恵子著 有斐閣アルマ)			
オフィスアワー	水曜日12:30~13:00 生息地8号館 4F	メールアドレス		

授業科目	特別支援教育総論【講義】		開講時期	前期
担当教員	今里 順一		単位	2
授業の目的と概要	<p>障害について知り、その特徴についての理解を深める。          個々の障害に応じた発達を援助する方法についての理解を深める。          個々の障害に対する教育の理解を深める。          (発達において大きな課題となる障害について学習します。最近よく話題になる発達障害についても学習します。それぞれの障害の特徴を理解し、その支援(教育・法制度を含む)についても学習します。)</p>			
到達目標	<p>障害について、その特徴を説明することができる。          障害に応じた発達を援助する方法を説明することができる。          障害に応じた教育について説明することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。          幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。この科目は特別支援教育に関する科目です。</p> <p>この科目は特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション		ミニレポート	
第2回	特別支援教育について 歴史と現状		ミニレポート(歴史と現状)	
第3回	知的障害について① 特徴と教育 (ダウン症を中心に)		ミニレポート(ダウン症)	
第4回	知的障害について② 特徴と教育 (ダウン症以外)		ミニレポート(知的障害全般)	
第5回	自閉スペクトラム症について 特徴と教育		ミニレポート(自閉スペクトラム障害)	
第6回	学習障害(LD)について 特徴と教育		ミニレポート(学習障害)	
第7回	注意欠陥多動性障害(AD/HD)について 特徴と教育		ミニレポート(AD/HD)	
第8回	情緒障害について 特徴と教育		ミニレポート(情緒障害)	
第9回	病弱虚弱について 特徴と教育		ミニレポート(病弱教育)	
第10回	肢体不自由(身体障害)について 特徴と教育		ミニレポート(肢体不自由)	
第11回	視覚障害について 特徴と教育		ミニレポート(視覚障害)	
第12回	聴覚障害、言語障害について 特徴と教育		ミニレポート(聴覚障害、言語障害)	
第13回	運動障害について 特徴と教育		ミニレポート(運動障害)	
第14回	重度・重複障害について 特徴と教育		ミニレポート(重度・重複障害)	
第15回	特別支援教育について 現状とこれから		ミニレポート(現状とこれから)	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ミニレポート40%、最終レポート50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>講義ではプリントを配付しますので、ファイルを用意してください。          欠席に関しては、必ずメールにて連絡してください。大幅な遅刻や早退は欠席として扱われます。          特別支援学校教諭免許を取得希望の学生は必須です。15回すべて、出席してくれることを望みます。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	「特別支援学校学習指導要領」文部科学省			
オフィスアワー	月曜4, 5限	メールアドレス		

授業科目	特別支援教育論【講義】	開講時期	後期
担当教員	稲田 八徳	単 位	2
授業の目的と概要	我が国の特別支援教育は、特殊教育から特別支援教育へ、さらにインクルーシブ教育へと大きな転換期を迎えている。これからの特別支援教育のために、(1) 特殊教育の理念、制度及び展開、(2) 特別支援教育の理念、制度 (3) 特別支援教育の教育課程、各種障害と教育方法、(4) 個別の支援計画・指導計画、自立活動、(5) インクルーシブ教育のシステム構築などについて理解する。  特別支援教育の基礎知識を総合的に講義し、特別支援教育の理念、障害概念、教育制度などを学ぶ。さらに、様々な支援対象児の特性と教育的支援の原則を理解し、個々のニーズ（外国語にルーツをもつ児童生徒・経済的に困難な状況にある児童生徒等）に応じた指導方法を考える。		
到達目標	○特別支援教育の歴史的・基本的な体系を理解することができる。 ○特別支援教育の対象児の特性を理解し、大まかな指導・支援内容を理解することができる。 ○多様な特性を有する支援対象児童について、個に応じた支援方法を考えることができる。 ○インクルーシブ教育の理念について理解し、その概要を説明することができる。		
この授業が目的として関連する科目など	初 (1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション・特別支援教育とは どのような障害に対して特別支援が実施されるのか、その理念や概要を知る。	復習：特別支援教育について考える	
第2回	戦前の特殊教育の成立とその制度 戦前までの「特殊教育」について、成立過程の制度・仕組みなどの歴史的概要を理解する	予習：配布資料を読む 復習：「特殊教育」についてまとめる	
第3回	戦後の特殊教育への転換 「特殊教育」から「特別支援教育」へ転換が必要になった理由やその過程を理解する。	予習：配布資料を読む 復習：「特別支援教育」への経緯をまと	
第4回	特別支援学校の成立、現状と課題 障害児の教育措置について、学校教育法などをもとに理解する。	予習：配布資料を読む 復習：特別支援学校の課題について	
第5回	障害の理解① 肢体不自由児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 肢体不自由児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。	予習：配布資料を読む 復習：肢体不自由児教育について	
第6回	障害の理解② 知的障害児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 知的障害児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。	予習：配布資料を読む 復習：知的障害児教育について	
第7回	障害の理解③ 視覚障害児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 視覚障害児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。	予習：配布資料を読む 復習：視覚障害児について	
第8回	障害の理解④ 聴覚障害児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 聴覚障害児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。	予習：配布資料を読む 復習：聴覚障害児教育について	
第9回	障害の理解⑤ 病弱児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 病弱児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。	予習：配布資料を読む 復習：病弱児教育について	
第10回	障害の理解⑥ 発達障害児教育・特別なニーズのある子ども（実態把握・評価技法・個別の指導計画）	予習：配布資料を読む 復習：発達障害児の教育について	
第11回	特別支援学校における校内体制の在り方（自立活動の指導） 障害児を受け入れるために特別支援学校でどのような体制、措置が取られているか理解	予習：配布資料を読む 復習：特別支援学校の校内体制の在り方	
第12回	特別支援学級、普通学級の発達障害児を受け入れる校内体制のあり方（通級による指導も含めて）	予習：配布資料を読む 復習：普通学級の校内支援の在り方	
第13回	保護者支援及び地域・諸機関との連携 諸機関の役割を理解し、保護者を交えた連携をどのようにしていけばいいかを考える。	予習：配布資料を読む 復習：諸機関や保護者との連携の在り方	
第14回	インクルーシブ教育の動向と我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築 先進国におけるインクルーシブ教育の動向を受け、我が国のあり方を考える。	予習：配布資料を読む 復習：インクルーシブ教育の動向	
第15回	学習のまとめ これからの時代に求められる特別支援教育 現代の時代背景（母国語や貧困問題等による教育的ニーズ）を踏まえたこれからの教育	予習：配布資料を読む 復習：これからの特別支援教育について	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	60%		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	30%（グループ活動・発表）		
受講態度他	10%（積極的な意見発表）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	節目のミニ課題、小テストを実施します。（詳細は講義内で予告します。）		
教科書	『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説解説書 総則編』文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説解説書 自立活動編』文部科学省（他の講義で購入予定）		
指定図書	なし		
参考図書	随時提示します		
オフィスワー	水曜日、木曜日午後	メールアドレス	

授業科目	特別支援教育論【教職】【講義】		開講時期	前期
担当教員	酒井 均・竹熊 真波		単位	2
授業の目的と概要	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。新学習指導要領でも謳われている「生徒の発達の支援」のうち「特別な配慮を必要とする生徒への指導」について、まずはインクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解し、ついで、発達障害の種類別の特性や支援の方法を学ぶ。その後、障がいはないが特別な教育的ニーズのある生徒についての学習上生活上の困難とおの対応についての理解を図る。			
到達目標	1) 特別の支援を必要とする生徒の障害の特性及び心身の発達について理解している。 2) 特別の支援を必要とする生徒に対する教育課程や支援の方法を理解できる。 3) 障害はないが特別な教育的ニーズのある生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に該当する科目です。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	特別支援教育の制度と仕組み(インクルーシブ教育システムについて) (担当:酒井)	インクルーシブ教育システムについての整理		
第2回	特別の支援を必要とする生徒の基礎的理解1:心身の発達、心理的特性及び学習の過程 (担当:酒井)	課題レポートの作成		
第3回	特別の支援を必要とする生徒の基礎的理解2:障がいに伴う学習上・生活上の困難 (担当:酒井)	課題レポートの作成		
第4回	知的障害について その特徴と教育課程・教育支援 (担当:酒井)	知的障害についての復習		
第5回	自閉症スペクトラム症(ASD)について その特徴と教育課程・教育支援 (担当:酒井)	ASDについての復習		
第6回	ADHDについて その特徴と教育課程・教育支援 (担当:酒井)	ADHDについての復習		
第7回	LDについて その特徴と教育課程・教育支援 (担当:酒井)	LDについての復習		
第8回	視覚障害について その特徴と教育課程・教育支援 (担当:酒井)	視覚障害についての復習		
第9回	聴覚障害について その特徴と教育課程・教育支援 (担当:酒井)	聴覚障害についての復習		
第10回	肢体不自由について その特徴と教育課程・教育支援 (担当:酒井)	肢体不自由についての復習		
第11回	病弱その他の障害について その特徴と教育課程・教育支援 (担当:酒井)	病弱他の障害についての復習		
第12回	特別な教育的ニーズのある生徒への教育支援1 日本語が十分でない子どもたちへの教育 (担当:竹熊)	外国人子女への支援についての復習		
第13回	特別な教育的ニーズのある生徒への教育支援2 家庭の経済環境に左右されない教育機会の保障 (担当:竹熊)	経済的支援についての復習		
第14回	特別な教育的ニーズのある生徒への教育支援3 不登校や学齢を超過した子どもへの対応 (担当:竹熊)	不登校その他の教育支援についての復習		
第15回	まとめ:多様な個性が活かされる教育の実現へ (担当:酒井)	まとめ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80% 授業後のミニレポート・確認テストへの取り組み(確認後返却する)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	可能な限り学校ボランティア活動などを通じて現場の状況を把握してください。 なお、授業資料の中には本来、著作権法によりweb上での無断利用ができないにもかかわらず、オンライン授業に限り特別に利用が認められているものがあります。受講生のみならず授業外での利用や無断転載は禁止されていますので、取り扱いには注意してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	特別支援学校教育要領・学習指導要領(平成29年4月公示 文部科学省) 中学校学習指導要領(平成29年6月公示 文部科学省) 高等学校学習指導要領(文部科学省)			
オフィスアワー	(酒井) 水曜日12時30分~13時(事前にメール等で確認すること)	メールアドレス		

授業科目	ドイツ語 I 【演習】		開講時期	前期
担当教員	清水 満		単位	1
授業の目的と概要	ドイツ語の文法、用法を学び、ドイツ語とドイツ文化に対する関心と理解を育む。 初級ドイツ語の運用ができるようになる（格変化、3、4格の使い方）。 ドイツ語の文法、用法をかんたんなドリルを通して習得する。			
到達目標	ドイツ語の初級文法事項をマスターし、かんたんなドイツ語を読み、挨拶程度ができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクションとアルファベット、発音	教科書に書いてあるサイトから音声ファイルをダウンロードする。		
第2回	動詞の人称変化の学習 1	事前に音声ファイルの発音を真似する。		
第3回	動詞の人称変化の学習 2	この章で学んだことを音声ファイルを使い復習する。		
第4回	sein の学習	授業で指示した文献を読む。		
第5回	sein の学習復習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。		
第6回	不定冠詞の学習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。		
第7回	不定冠詞の学習の復習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。		
第8回	habenと定冠詞の学習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。		
第9回	habenと定冠詞の学習の復習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。		
第10回	3格の学習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。		
第11回	3格の学習の復習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。		
第12回	人称代名詞の3、4格	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。		
第13回	人称代名詞の3、4格の復習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。		
第14回	第6課の復習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。		
第15回	これまでのまとめ	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 期末レポートを出します。			
小テスト等	50% 課題の解答。			
成果発表	オンデマンド型授業のため判定不可。			
受講態度他	オンデマンド型授業のため判定不可。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	週一回の講義だけで、新しい言葉を習得するのははっきりいって無理です。自習用課題ドリルを配布するので、その課題をすることが受講条件になります。毎回当たりますので、予習をしっかりとして下さい。とくに音声ファイルを聴いて書き取り練習をして下さい。 積極的に発表などを行えば、評価が有利になります。 私語は厳禁です。			
教科書	田原憲和『超シンプル、私のドイツ語』同学社、『アポロン独和辞典』同学社 辞書は手持ちの電子辞書（ドイツ語）でも可。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の後	メールアドレス		

授業科目	ドイツ語Ⅱ【演習】	開講時期	後期
担当教員	清水 満	単 位	1
授業の目的と概要	ドイツ語の文法、用法を学び、ドイツ語とドイツ文化に対する関心と理解を育む。初級ドイツ語の運用ができるようになる。 ドイツ語の文法、用法をドリルを通して習得する。視聴覚教材を利用して、生きたドイツ語やドイツ文化を学ぶ。前期からの継続になります。		
到達目標	ドイツ語の初級文法事項をマスターし、かんたんなドイツ語を読み、挨拶程度ができるようになる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回	不規則変化動詞の学習 1	教科書のこの章の問題の予習・復習をする。音声ファイルを聴く。	
第2回	不規則変化動詞の学習 2	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。	
第3回	所有冠詞の格変化の学習 1	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。	
第4回	所有冠詞の格変化の学習 2	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。	
第5回	助動詞の学習 1	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。	
第6回	助動詞の学 2	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。	
第7回	形容詞の格変化の学習 1	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。	
第8回	視聴覚教材によるドイツ文化の学習	授業で指示した文献を読む。	
第9回	形容詞の格変化の学習 2	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。	
第10回	分離動詞の学習 1	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。	
第11回	分離動詞の学習 2	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。	
第12回	過去形、完了形の学習 1	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。	
第13回	過去形、完了形の学習 2	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。音声ファイルを聴く。	
第14回	受動態の学習	配布プリントのドリルをする。	
第15回	関係詞の学習	配布プリントのドリルをする。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50% 期末に試験を兼ねたレポートを課します。		
小テスト等	-		
成果発表	30% 問題の解答を積極的にした人は評価されます。		
受講態度他	20% 指示した反復練習をちゃんとしているかを見ます。これは問題の正解率でわかります。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	週一回の講義だけで、新しい言葉を習得するのははっきりいって無理です。自習用課題ドリルを配布するので、その課題をすることが受講条件になります。毎回当たりますので、しっかり予習をして下さい。とくに音声ファイルを聴いて書き取り練習をして下さい。 積極的に発表などを行えば、評価が有利になります。 私語は厳禁です。辞書は必携。持参しない人は原則受講ができません。		
教科書	田原憲和『超シンプル、私のドイツ語』同学社音声ファイル、『アポロン独和辞典』同学社辞書は手持ちの電子辞書でも可。		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	授業の後	メールアドレス	

授業科目	道徳教育指導論【講義】		開講時期	前期
担当教員	薄 千里		単 位	2
授業の目的と概要	<p>道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解し、学習指導案の作成と模擬授業を通じて、道徳科の授業ができる実践的指導力を身に付ける。</p> <p>授業においては、講義を通じて道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解する。個人及びグループワークを通じて、ねらいの設定、教材の分析、学習指導案と教材・教具の作成、模擬授業、その分析と考察を行い、実践的な指導力を身に付ける。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解し、説明することができる。</li> <li>2 作成の手順に沿って学習指導案を作成することができる。</li> <li>3 基本的な学習指導過程に沿って模擬授業を行うことができる。</li> <li>4 模擬授業について、授業の視点に沿って分析し考察することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	道徳教育の目標、道徳科の目標、小学校学習指導要領の改正 「心に残っている道徳の授業についてグループディスカッション・全体発表	道徳教育の目標、道徳科の目標を確認し、ノートにまとめる。		
第2回	道徳科の内容、指導計画の作成、道徳科の指導	道徳科の内容を確認する。教材を精読する。		
第3回	道徳科の授業（師範授業）の体験とディスカッション 学習指導案作成について、教材の活用について	道徳科の授業を振り返り、ノートにまとめる。		
第4回	学習指導案の作成（グループワーク）1 ねらい、教材分析、学習指導過程	教材を精読し、分析する。		
第5回	学習指導案の作成（グループワーク）2 教材提示・発問・話し合い活動・書く活動の工夫	学習指導案を作成する。		
第6回	学習指導案の作成（グループワーク）3 板書を生かす工夫、表現活動・説話等の工夫	学習指導案を作成し、提出の準備をする。		
第7回	学習指導案の作成（グループワーク）4 教材作成	学習指導案の提出。教材作成。		
第8回	模擬授業と分析・考察（ディスカッション）1 教材提示の工夫	模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。		
第9回	模擬授業と分析・考察（ディスカッション）2 発問の工夫	模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。		
第10回	模擬授業と分析・考察（ディスカッション）3 話し合い活動の工夫	模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。		
第11回	模擬授業と分析・考察（ディスカッション）4 書く活動の工夫	模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。		
第12回	模擬授業と分析・考察（ディスカッション）5 表現活動の工夫	模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。		
第13回	模擬授業と分析・考察（ディスカッション）6 板書を生かす工夫、説話等の工夫	模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。		
第14回	道徳性の理解と評価	「解説」を読み、ノートにまとめる。		
第15回	道徳教育の目標、道徳科の目標、模擬授業、講義内容等から道徳科の指導のあり方と「心に残っている道徳	道徳教育の目標等について整理し、記述できるようにする。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%			
小テスト等	なし			
成果発表	40%（模擬授業）			
受講態度他	20%（グループ・全体討議の参加状況を含む。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>模擬授業への取組み、討議の状況を重視する。</p> <p>将来教職に就くことを前提に、それにふさわしい態度で受講すること。</p> <p>配布資料をファイルしていくこと。</p>			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』（平成29年7月）			
指定図書	なし			
参考図書	文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』			
オフィスアワー	水曜日午後	メールアドレス		



授業科目	道徳教育指導論【教職】【講義】		開講時期	後期
担当教員	薄 千里		単 位	2
授業の目的と概要	<p>道徳教育の基礎理論を学ぶとともに、道徳教育の歩み及び動向と関連付けて道徳教育の実施上の課題を把握する。道徳教育の目標、「特別の教科 道徳」（道徳科）の目標・内容・指導計画・学習指導・評価等について理解する。</p> <p>道徳科の特質を生かした学習指導案の作成と模擬授業、その分析と考察を通じて、道徳科の授業ができる実践的指導力を身に付ける。</p> <p>教職に就いて、学級（学年）における道徳教育に取り組む意欲を高める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 道徳教育の基礎理論を学ぶとともに、道徳教育の課題を把握し説明することができる。</li> <li>2 道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解し、説明することができる。</li> <li>3 道徳科の特質を生かした授業を構想し、作成の手順に沿って学習指導案を作成することができる。</li> <li>4 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、授業の視点に沿って分析・考察することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「道徳の倫理及び指導」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	道徳教育の動向、中学校学習指導要領改正、「心に残っている道徳の授業」	道徳教育の動向について確認する。授業レポートの作成と提出。		
第2回	道徳教育の歩み、道徳性の発達理論、道徳教育の目標と道徳科の目標	道徳性の発達理論について確認する。授業レポートの作成と提出。		
第3回	道徳科の内容、指導計画の作成	道徳科の内容について確認する。授業レポートの作成と提出。		
第4回	道徳科の指導1 指導の基本方針、道徳科の特質を生かした学習指導の展開、模擬授業について	学習指導の展開について確認する。授業レポートの作成と提出。		
第5回	道徳科の指導2 学習指導の多様な展開	学習指導の多様な展開について確認する。授業レポートの作成と提出。		
第6回	道徳科学習指導案の作成1 学習のねらい、教材分析、学習指導過程	学習指導案の作成。授業レポートの作成と提出。		
第7回	道徳科学習指導案の作成2 教材提示・発問・話し合い・書く活動の工夫	学習指導案の作成。授業レポートの作成と提出。		
第8回	道徳科学習指導案の作成3 表現活動・板書・説話の工夫	学習指導案の作成・提出。授業レポートの作成と提出。細案の作成。		
第9回	模擬授業と評価・考察1	授業レポートの作成と提出。細案の作成		
第10回	模擬授業と評価・考察2	授業レポートの作成と提出。細案の作成。		
第11回	模擬授業と評価・考察3	授業レポートの作成と提出。細案の作成。		
第12回	模擬授業と評価・考察4	授業レポートの作成と提出。細案の作成。		
第13回	模擬授業と評価・考察5	授業レポートの作成と提出。		
第14回	道徳性の理解と評価	道徳性の理解と評価について確認する。授業レポートの作成と提出。		
第15回	道徳教育の意義と課題、「心に残っている道徳授業」についての考察	道徳教育の意義と課題について確認する。授業レポートの作成と提出。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％（学習指導案、授業レポート）			
小テスト等	なし			
成果発表	30％（模擬授業）			
受講態度他	20％（発言等の授業への取り組みの状況。授業への参加度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>教科書に目を通し、専門用語の意味を調べ、疑問点を整理して授業に臨むこと。</p> <p>模擬授業に際しては、教材文と学習指導案に目を通して授業に臨むこと。</p> <p>将来教職に就くことを前提に、それにふさわしい態度で受講すること。</p>			
教科書	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』（文部科学省） 『新しい道徳2』（東京書籍）			
指定図書	なし			
参考図書	『中学校学習指導要領（平成29年告示）』（文部科学省）			
オフィスアワー	水曜日午後	メールアドレス		

授業科目	動物と社会【講義】		開講時期	後期
担当教員	佐々木 浩		単 位	2
授業の目的と概要	人間と身近な動物との関わりについて、様々な面から学ぶことを目的としています。人間が動物とどのようにつき合ってきたかは、民族、国、宗教などによって異なります。また、時代の変化とともに、その関係も変わって来ています。本講義では、殺処分などのペットの問題、野生生物の絶滅の問題、人口が減少する中で農林水産業との軋轢で生じている害獣問題、ペットを放す等から増えて来た外来種の問題など、身近な問題を材料に、今後の動物との関係を考えて行きます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と他の動物との関係について自分の意見を述べられるようになる。</li> <li>・宗教と動物の関係について説明できるようになる。</li> <li>・人間と他の動物との関係の現状について説明できるようになる。</li> <li>・これらの問題点を理解した上で、解決策について考えることができるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 (オンデマンド遠隔講義)	概論		本紹介を行う本を読み始めてください。	
第2回 (リアルタイム遠隔講義)	諸問題1: 野生動物保護管理とまちづくり 概説		配布プリントを復習して、論点について調べる。	
第3回 (対面講義)	諸問題1: フィールドワーク: 太宰府市観世音寺周辺		討論の準備をする	
第4回 (リアルタイム遠隔講義)	諸問題1: 野生動物保護管理とまちづくり ディスカッション		討論後、レポート作成をする。	
第5回 (リアルタイム遠隔講義)	諸問題2: ペットの問題 概説		論点について調べる。	
第6回 (リアルタイム遠隔講義)	諸問題2: ペットの問題 ディスカッション		議論から自分の意見をまとめる。	
第7回 (対面講義)	諸問題2: フィールドワーク 福岡市動物愛護啓発センター見学		見学後、レポート作成をする。	
第8回 (リアルタイム遠隔講義)	諸問題3: 動物園のあり方 概説		論点について調べる。	
第9回 (リアルタイム遠隔講義)	諸問題3: 動物園のあり方 論点についてディスカッション		議論から自分の意見をまとめる。	
第10回 (対面講義)	諸問題3: フィールドワーク 福岡市動物園見学		見学後、レポート作成をする。	
第11回 (リアルタイム遠隔講義)	諸問題4: 産業動物		配布プリントを復習し、論点について調べる。	
第12回 (リアルタイム遠隔講義)	諸問題4: 産業動物 論点についてディスカッション		議論から自分の意見をレポートにまとめる。	
第13回 (リアルタイム遠隔講義)	本紹介1 プレゼンテーション		担当者はレジメを作成する。	
第14回 (リアルタイム遠隔講義)	本紹介2 プレゼンテーション		担当者はレジメを作成する。	
第15回	動物観についてまとめの議論		まとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	レポート 4回 レジメ1回 75%			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	25%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人的事情による欠席は全て欠席扱いとなります。現地見学が3回あり、交通費は自費となります。福岡市動物園の入園料は大学が支払います。学外講義は土日に行いますので、日程調整を各自でして出席してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日 2講時	メールアドレス		

授業科目	読書と豊かな人間性【司書教諭】【講義】		開講時期	前期
担当教員	出雲 俊江		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：学習者の主体的読書活動の推進の重要性を理解する。 読書の意義、児童生徒の発達と読書、図書の選択と活用・提供についての知識をつける。 児童生徒の読書生活の活性化・習慣化のための様々な手法、各教科等での読書指導を理解し、実践力を養う。</p> <p>概要：リーディングワークショップを初めとして、さまざまな指導方法について、模擬実践などに実践的な取り組みを行う。 子どもと本を結ぶ方法の演習として、ブックトークの発表を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 読書の意義と目的を理解し、読書教育の歴史と動向を考察する。</li> <li>2 児童生徒の読書能力と興味の発達について理解を深める。</li> <li>3 児童生徒向け図書の種類と内容について関心を深め、図書の選択と活用・提供についての知識を深める。</li> <li>4 児童生徒と図書を繋ぐ様々な手法、各教科等での読書指導を理解し、実践力を養う。</li> <li>5 学校教育における組織的・計画的に行う読書の指導について理解を深めるとともに、発達段階に応じた読書の指導や家庭、地域、公共図書館など（国際子ども図書館を含む）との連携について理解を深める。</li> <li>6 学習指導における読書活動を考察し、実践力を養う。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>学校図書館司書教諭資格取得のための科目です。 教員免許取得予定者および取得者のみ受講できます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 現代における読書の意義と特質	おすすめ本の選書（次回準備）		
第2回	司書教諭の役割 リーディングワークショップ（対話的指導）の意義と方法 リーディングワークショップ実践（1）	小レポート1「対話による読書指導実践の感想」		
第3回	子どもの読書環境を考える 家庭、地域、公共図書館等との連携 ワークショップ 地域の図書マップ作り（グループ）	課題1 「地域の子どもの図書マップ」を完成させる		
第4回	発達段階と読書 低・中・高学年 中・高に人気の本（グループワーク）	課題2「人気の本リスト」		
第5回	学校図書館訪問について グループ分け 日時・内容の決定	訪問校に連絡を取り、日程を確定する		
第6回	さまざまな読書指導 課題2「子どもと本を結ぶ方法 提案」について (1) 指導計画と準備	提案発表の準備		
第7回	さまざまな読書指導 子どもと本を結ぶ方法 提案 (2) 準備	提案発表の準備		
第8回	さまざまな読書指導 子どもと本を結ぶ方法 提案発表会 (1)	提案発表の準備		
第9回	さまざまな読書指導 子どもと本を結ぶ方法 提案発表会 (2)	読書指導の準備		
第10回	さまざまな読書指導 子どもと本を結ぶ方法 提案発表会 (3)	学校訪問の準備・打ち合わせ		
第11回	フィールドワーク 地域の小中学校図書館訪問（グループ）	学校訪問 整理と報告の準備		
第12回	リーディングワークショップ実践（2）	小レポート2「対話による読書指導実践の感想」		
第13回	地域の小中学校訪問 報告会（1） パワーポイントでプレゼンする	小レポート3「報告会の感想」		
第14回	地域の小中学校訪問 報告会（2） パワーポイントでプレゼンする	課題3 「子どもと本を結ぶ方法 提案」 学習指導案をまとめる		
第15回	まとめ 「子どもと本を結ぶ方法 提案集」の冊子作り	講義全体の感想 筑女ネットフォーラム投稿		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	毎回のレポート60％			
小テスト等	小課題5％			
成果発表	30％ ブックトーク（事前準備、関連提出物など含む）			
受講態度他	5％ 発表へのコメントなど積極的なとりくみ			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>図書の紹介、評論などに興味と関心を深め、書店や図書館などで、自主的に児童・生徒図書を見たり読んだりする機会を作る心掛けが大切です。子どもと本を繋ぐいろいろな手法に関心をもち、書店や図書館などでそれについての資料も手に取るようにしましょう。</p> <p>何よりも、指導者自身が読書を楽しむ習慣を持っていることが大切です。この講義の期間を通じて、自身の読書についても振り返ることを求めます。</p>			
教科書	『シリーズ学校図書館学第4巻 読書と豊かな人間性』 全国学校図書館協議会 「シリーズ学校図書館学」編集委員会編 2011.4			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	前期水4 後期 水3限	メールアドレス		

授業科目	乳児保育Ⅰ【講義】	開講時期	後期
担当教員	原 陽一郎	単 位	2
授業の目的と概要	本講義は保育士資格取得のための必修科目であり、3歳未満児を念頭においた保育について、①その意義・目的・役割を理解する、②多様な場における現状と課題を理解する、③発育発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解する、④職員、保護者、地域との連携について理解することが目的である。		
到達目標	①乳児保育の役割について述べることができる。 ②発達の理解とこれに基づいた生活と遊びについて具体的に述べるができる。 ③子育ての実状を理解し、これを基にさまざまな保護者への対応を検討することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷	保育所保育指針の改定の経緯を読む	
第2回	保育所保育指針のポイントの整理	保育所保育指針「総則」を読む	
第3回	保育所・幼保連携型認定こども園以外の乳児保育	児童福祉法の関連項目を読む	
第4回	現在の子育ての社会的状況と課題	3歳未満の子育てに関する新聞記事などを集める	
第5回	3歳未満児の生活と環境① 脳・身体の発達	指定図書①第3章を読む	
第6回	3歳未満児の生活と環境② 食に関して	テキストの関連箇所を読む	
第7回	3歳未満児の生活と環境③ 睡眠・排泄・衣服	テキストの関連箇所を読む	
第8回	3歳未満児の遊びと環境① おもちゃについて	専門店などでおもちゃの種類などを把握する	
第9回	3歳未満児の遊びと環境② 育ちにおける遊びの特性と環境	テキストの関連箇所を読む	
第10回	3歳未満児の遊びと環境③ 愛着形成を促す遊び	講義で実践したものを覚える、自ら遊びを探す	
第11回	3歳未満児における安全な環境	配布された資料を読む	
第12回	3歳未満児の発育発達の記録と評価	身体発育曲線がどこにあるか調べ、ダウンロードする	
第13回	職員間の連携と協働	テキストの関連箇所を読む	
第14回	保護者との連携と協働	子育ての実状について日常生活の中で観察、把握する	
第15回	保育士に求められているものは何か	これまでの内容で理解できていないことがないか把握する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	あり 60%		
レポート	あり 30%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	発言回数等によって評価する 10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度が評価の対象になっています。事情がある場合はお知らせください。		
教科書	大豆生田啓友・おおえだけいこ 「日本が誇る！ていねいな保育」 小学館 2019		
指定図書	小泉英明 「アインシュタインの逆オメガ」 文藝春秋 2014		
参考図書	明和政子 「ヒトの発達の謎を解く」 ちくま新書 2019 針生悦子 「「赤ちゃんはことばをどう学ぶのか」 中公新書ラクレ 2019		
オフィスアワー	水曜日4限	メールアドレス	

授業科目	入門社会学A（社会学の考え方）【講義】		開講時期	前期
担当教員	花野 裕康		単位	2
授業の目的と概要	この講義は、入門社会学A～Cにおける最初の科目で、社会学の入門を学ぶものです。具体的には、 ①社会学とはどのような学問なのか、その「考え方」をまず学びます。 ②次に社会学の研究対象を理解します。 ③そして、社会学のさまざまな研究対象に共通する基本的な事柄に関して社会学の考え方を適用しつつ学びます。 ④最終的には、社会学の基本的な考え方および共通研究対象を修得することを目標とします。			
到達目標	①社会学の考え方を正しく説明することができる ②社会学の研究対象を正しく説明することができる ③自ら選んだ複数の社会現象を社会的に解説することができる ④「社会学とは何か？」に対する問いに正しく答えることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身につけている。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。具体的には、毎回授業終了直前に周知する次回テーマへの予習（書籍やネット上の情報を各自入手する事）と、その日学んだテーマの整理および、自身の見解の文章化（1000字程度）を行う事。 関連科目は「入門社会学B（社会学の歴史）」および「入門社会学C（現代社会の諸相）」である。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 「わたし」と社会			これまでの自分と社会とのかかわりについてまとめる	
第2回 社会の「学」とは何か			社会学の考え方についてよく理解した上で自分の言葉でまとめる	
第3回 社会学の研究対象			社会学の研究対象についてよく理解した上で自分の言葉でまとめる	
第4回 社会的存在としての「人」			社会的存在としての「人」について自分の言葉でまとめる	
第5回 意志行為			意志行為について自分の言葉でまとめる	
第6回 コミュニケーションと心			コミュニケーションと心について自分の言葉でまとめる	
第7回 役割理論			役割理論について自分の言葉でまとめる	
第8回 人の集まり①：非集団			非集団について自分の言葉でまとめる	
第9回 人の集まり②：集団			集団について自分の言葉でまとめる	
第10回 集団と組織			集団と組織について自分の言葉でまとめる	
第11回 農村と都市			農村と都市について自分の言葉でまとめる	
第12回 国家			国家について自分の言葉でまとめる	
第13回 世界社会			世界社会について自分の言葉でまとめる	
第14回 社会における問題			社会における問題について自分の言葉でまとめる	
第15回 社会の未来診断			社会の未来診断について自分の言葉でまとめる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80%（授業内で複数回行う）			
成果発表	なし			
受講態度他	20%（受講態度が悪い場合はこの%に影響するほか、その回の小テストを受け取らないことがある）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。許可された場合以外でのスマホ操作、居眠り、私語等授業中に無関係な他の事をしないこと。見つけ次第その回の課題は未提出扱いとする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	入門社会学B (社会学の歴史) 【講義】		開講時期	後期
担当教員	園田 浩之		単位	2
授業の目的と概要	<p>社会学は「近代の自己認識」の学といわれます。私たちが私たち自身の姿を「社会」という次元で捉え、そこにある「謎」を意識しはじめたとき、社会学という学問が誕生しました。この講義では、そんな社会学に入門する方法のひとつとして、「社会」という謎の発見と、それをめぐる考え方の展開 (社会学の歴史) を、その背景を織り交ぜながら、紹介していくことを目的としています。</p> <p>「歴史」といっても、何かすでに出来上がった「年表」のようなものを覚えるのではなく、社会学を立ち上げさせ特徴づける「問い」の誕生、「考え方」の流れを、いくつかのターニングポイントに注目することで描き出してゆきます。それが、「私たちの現在」をふだんとは別の視点から問い直す「手がかり」になるよう、講義を進めたいと思っています。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会学の歴史を、社会をめぐる「問い」の誕生とその展開として理解することができる。</li> <li>講義で紹介・説明する社会学のコトバ (概念や理論、ともいいます) を、自分たちの生きる「現実」を複眼的に捉えるための基礎となる視点・ツールとして理解できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	講義への招待：オリエンテーションとイントロダクション	初回で説明された講義の方向性や受講上のルール&マナーなどを確認する		
第2回	社会学のはじまり/はじまりの社会学：社会という謎の発見① 社会の「わからなさ」から始める	配布資料 (の扱われた箇所) と自身のノートを30分~1時間かけて読み返す		
第3回	社会学のはじまり/はじまりの社会学：社会という謎の発見② 近代社会と社会学の誕生	配布資料 (の扱われた箇所) と自身のノートを30分~1時間かけて読み返す		
第4回	近代の自己認識① デュルケームの問い (その1) 社会病理へのまなざし	配布資料 (の扱われた箇所) と自身のノートを30分~1時間かけて読み返す		
第5回	近代の自己認識② デュルケームの問い (その2) : 自由と不安、近代社会とアノミー	配布資料 (の扱われた箇所) と自身のノートを30分~1時間かけて読み返す		
第6回	行為と社会① ウェーバーの問い (その1) : 「行為」を考える/「行為」から考える	配布資料 (の扱われた箇所) と自身のノートを30分~1時間かけて読み返す		
第7回	行為と社会② ウェーバーの問い (その2) : 近代の逆説 (パラドクス)	配布資料 (の扱われた箇所) と自身のノートを30分~1時間かけて読み返す		
第8回	機能という発見① : 社会秩序という謎	配布資料 (の扱われた箇所) と自身のノートを30分~1時間かけて読み返す		
第9回	機能という発見② : 「機能」から見えるもの	配布資料 (の扱われた箇所) と自身のノートを30分~1時間かけて読み返す		
第10回	個人から社会へ、社会から個人へ : 社会学的想像力をめぐって	配布資料 (の扱われた箇所) と自身のノートを30分~1時間かけて読み返す		
第11回	日常という謎① : 「日常」を捉える社会学、社会は細部に宿る	配布資料 (の扱われた箇所) と自身のノートを30分~1時間かけて読み返す		
第12回	日常という謎② : 意味の秩序、あたりまえの壊れやすさ・したたかさ	配布資料 (の扱われた箇所) と自身のノートを30分~1時間かけて読み返す		
第13回	現代社会へのまなざし① : 近代の揺らぎと方向感覚の喪失	配布資料 (の扱われた箇所) と自身のノートを30分~1時間かけて読み返す		
第14回	現代社会の諸問題② : 液状化する「社会」と「私」	配布資料 (の扱われた箇所) と自身のノートを30分~1時間かけて読み返す		
第15回	現代社会の諸問題③ : 混沌の向こう側?	配布資料 (の扱われた箇所) と自身のノートを30分~1時間かけて読み返す		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート 85% (講義中に示した重要な概念や視点、問いの意味を正しく理解し、それを適切・説得的な言葉で表現できること)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 講義への実質的な参加 (講義初回に説明するマナーやルールを守ったうえでの講義中のやりとり、コメントカードの提出とその内容など)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修を希望する人たちは、必ず「初回の講義」から出席して下さい。受講上のルールや留意点の詳細は、教室で説明します。講義のはじめに説明する受講上のルールは厳守して下さい。教室が思考と学びのための快適な場になるよう、皆さんの協力もお願いします。また、成績評価に関わる項目やその割合 (%) について変更がある場合には、必ず講義の中で説明しますので、よく聞いておいて下さい。			
教科書	教科書は使用しません。スライド (パワーポイント) と、そのつど配布する配布資料 (プリント) で講義を進めます。			
指定図書	なし			
参考図書	奥村隆 『社会学の歴史 I』 (有斐閣、2014)。そのほか、講義の進行に応じて、さらに知りたくなった人・より深く考えたい人たちに、思考の糧・補助線になりそうなもの (場合によっては、「本」以外のものも) を紹介していけたらと思います。			
オフィスアワー	質問や連絡等は、講義の前後に教室で直接うかがいます (いつでも、遠慮なくどうぞ)	メールアドレス		

授業科目	入門社会学C（現代社会の諸相）【講義】		開講時期	後期
担当教員	花野 裕康		単位	2
授業の目的と概要	<p>この講義は、「入門社会学A（社会学の考え方）」を受けて、広大な社会学の研究対象からいくつかをピックアップし、社会学の考え方を適用しつつ現代社会の様々な側面を学びます。具体的には、</p> <p>①現代社会の「タテ」の側面である「近代社会の誕生から現在までの時間的な変遷」を「日本社会の100年」という具体例を通して学びます。</p> <p>②次に「ヨコ」面である「今現在の社会における様々なトピック」を「若者文化」という具体例を通して学びます。</p> <p>③最終的には、今ここにある現代社会をタテヨコの両面から知ることを目標とします。</p>			
到達目標	<p>①近代社会から現代社会への変遷を具体的に正しく述べることができる</p> <p>②今現在の社会における複数のトピックを具体的に正しく述べるができる</p> <p>③現代社会のありさまを時間的空間的双方の視点から立体的に解説することができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現（3）-②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。具体的には、毎回授業終了直前に周知する次回テーマへの予習（書籍やネット上の情報を各自入手する事）と、その日学んだテーマの整理および、自身の見解の文章化（1000字程度）を行う事。</p> <p>関連科目は「入門社会学A（社会学の考え方）」および「入門社会学B（社会学の歴史）」である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 入門社会学Aの振り返り		入門社会学Aのノートを見直して、社会学の考え方を手短かにまとめる		
第2回 日本社会の100年①：戦前と戦中		「戦前と戦中」について自分の言葉でまとめる		
第3回 日本社会の100年②：夢の時代（前半）		「夢の時代（前半）」について自分の言葉でまとめる		
第4回 日本社会の100年③：夢の時代（後半）		「夢の時代（後半）」について自分の言葉でまとめる		
第5回 日本社会の100年④：虚構の時代（前半）		「虚構の時代（前半）」について自分の言葉でまとめる		
第6回 日本社会の100年⑤：虚構の時代（後半）		「虚構の時代（後半）」について自分の言葉でまとめる		
第7回 日本社会の100年⑥：現実の時代（前半）		「現実の時代（前半）」について自分の言葉でまとめる		
第8回 日本社会の100年⑦：現実の時代（後半）		「現実の時代（後半）」について自分の言葉でまとめる		
第9回 若者文化①：自分らしさとコミュニケーション		「自分らしさとコミュニケーション」について自分の言葉でまとめる		
第10回 若者文化②：状況志向型の誕生		「状況志向型の誕生」について自分の言葉でまとめる		
第11回 若者文化③：状況志向型の社会的背景		「状況志向型の社会的背景」について自分の言葉でまとめる		
第12回 若者文化④：状況志向型がもたらした社会的影響		「状況志向型がもたらした社会的影響」について自分の言葉でまとめる		
第13回 若者文化⑤：放射志向型の誕生		「放射志向型の誕生」について自分の言葉でまとめる		
第14回 若者文化⑥：放射志向型の社会的背景		「放射志向型の社会的背景」について自分の言葉でまとめる		
第15回 若者文化⑦：放射志向型がもたらした社会的影響		「放射志向型がもたらした社会的影響」について自分の言葉でまとめる		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80%（授業内で複数回行う）			
成果発表	なし			
受講態度他	20%（受講態度が悪い場合はこの%に影響するほか、その回の小テストを受け取らないことがある）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。許可された場合以外でのスマホ操作、居眠り、私語等授業中に無関係な他の事をしないこと。見つけ次第その回の小テストは未提出扱いとする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜と火曜の3講時、水曜と木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	日中交流史【講義】		開講時期	前期
担当教員	崔 淑芬		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、日本と中国の交流の歴史を、アジアの交流史の中に位置づけながら多角的に考察し、中国文化との比較の視点も念頭に、日本文化の特質について考える。これらアジア世界の互いの交流史などの諸相を総合的に学ぶことによって、アジアの社会、風俗、文化異同点などの諸方面についての知識と理解を深め、交流の歴史を把握することによって、国際化時代に対応できる柔軟な思考力を身につけるようになることを目的とする。また、日・中の現地で調査した資料、取材した映像を使用し、レジュメの作成などにより講義を展開していく。</p>			
到達目標	<p>日本と中国、更に東アジア地域の文化・社会・互いの交流史などに対する視野の広い見方、考え方を学ぶことで、“自ら調べ、自ら考える”分野の探究を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、専門の講義で自分ももっとも興味・関心をもつ専門領域を深く掘り下げることができる。</li> <li>2、近年あらためて注目されているアジア世界の形成について考えることができる。</li> <li>3、アジア世界の文化・社会・歴史に対する理解を深めることができる。</li> <li>4、物事を幅広い視点から理解する能力を身につけることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 講義内容の説明およびスケジュール		日中交流史を考える視点		
第2回 徐福東渡上陸地の謎		徐福とは		
第3回 鑑真の伝教		鹿児島の上陸記念地		
第4回 遣隋使・遣唐使の経緯・影響		聖徳太子の摂政と遣隋使		
第5回 西安の青龍寺と空海		奈良・平安時代の国交		
第6回 阿倍仲麻呂と興慶宮の記念碑		博多文化交流の特徴		
第7回 謝国明と博多		鎌倉幕府時代の日・宋民間貿易		
第8回 栄西と日本の茶文化		「喫茶養生記」安土桃山時代の特徴		
第9回 千利休と茶の湯		安土桃山時代の特徴		
第10回 20世紀初頭頃の留日学生		日清戦争の影響		
第11回 日本人教習の招聘		日本人教習とは		
第12回 孫文と宮崎滔天・梅屋庄吉		辛亥革命とは		
第13回 魯迅と東北大学の藤野先生		魯迅とは		
第14回 21世紀の日本留学特徴		日本の留学生受け入れの政策		
第15回 日中交流史の特徴		レポートの作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	20%			
受講態度他	50% 出席状況、議論への参加姿勢などを見るときともに、発表などによって行う			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に必ず出席し、積極的な授業参加を望む。授業中の私語は慎むこと。			
教科書	使用しない。各テーマの参考プリントを配布する。			
指定図書	衛藤藩吉著『近代東アジア国際関係史』（東京大学出版会・2004年） 王曉秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』（日本エディタースクール出版部、2000年）			
参考図書	竹内実編『日中国交基本文献集』（上・下巻・蒼蒼社・1993年） 崔淑芬著『日中交流の軌跡』（中国書店・2016年） ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	月曜日4講目	メールアドレス		



授業科目	日本芸能論【講義】		開講時期	後期
担当教員	飯冨 章宏		単位	2
授業の目的と概要	<p>能楽は日本の伝統芸能のひとつである。中世という時期に日本古来の芸能を融合し、舞台芸術にまで高めた。その後の様々な日本芸能の基幹ともなった。そのことを理解しながら、能楽という伝統芸能の魅力を学んでいく。能楽を題材としながらもその他の古典芸能の豊富な魅力への理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代から近世までの日本の伝統芸能史の概略。</li> <li>・代表的な能楽の曲の分析。</li> <li>・世阿弥の芸能論の研究。</li> <li>・実際の能楽やその他の芸能の映像学習。</li> <li>・現代の日本文化への影響の研究。</li> </ul>			
到達目標	<p>実技体験や映像を利用して実践的な知識を身につけ、古典芸能が現代に伝承される意味を知って、現代日本文化の歴史的背景を説明できるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 「能楽を知ろう」。ビデオ学習：能「狸々乱」		能楽について図書、ビデオ、ネット情報などで事前学習する。		
第2回 翁猿楽について。ビデオ学習：「翁」		レポート：「能とは」（600字）配布資料を参考にすること。		
第3回 日本芸能史 能楽以前		レポート：講義中に指示		
第4回 初番能『高砂』。ビデオ学習：「高砂」		レポート：講義中に指示		
第5回 修羅能『清経』。		レポート：講義中に指示		
第6回 鬘物能『井筒』。ビデオ学習：「井筒」		レポート：講義中に指示		
第7回 現在物能『隅田川』。ビデオ学習：「隅田川」		レポート：講義中に指示		
第8回 切能『船弁慶』。ビデオ学習：「船弁慶」		レポート：講義中に指示		
第9回 仏教思想の影響『歌占』『求塚』。		レポート：講義中に指示		
第10回 観阿弥の能『通小町』。ビデオ学習：「通小町」		レポート：講義中に指示		
第11回 世阿弥の演劇論『風姿花伝』		レポート：講義中に指示		
第12回 世阿弥以降の能『道成寺』。ビデオ学習：「道成寺」		レポート：講義中に指示		
第13回 安土桃山江戸期の能。		レポート：講義中に指示		
第14回 近世演劇への影響。『改作の功罪』ドナルドキーン		レポート：講義中に指示		
第15回 近代文学への能楽の影響。『草枕』漱石/『歌行燈』泉鏡花		レポート：講義中に指示		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	行わない。			
レポート	40%、E-mailによるレポート提出もある。			
小テスト等	出席カード裏の記述を考慮する。疑問、異見も歓迎する。			
成果発表	最終講義後、レポートを課す事がある。			
受講態度他	60%、受講態度が著しく悪いものは別途レポートを課す。授業出席を重視する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>映像を多用する。映像をしっかり鑑賞しないと受講の意味がない。</p> <p>レポートは簡潔にして、主旨明瞭を心がけること。</p> <p>礼儀・作法も日本文化の特質である。まじめな受講を望む。</p>			
教科書	配布レポートによる。			
指定図書	大倉源次郎『大倉源次郎の能楽談義』淡交社、林望『すらすら読める風姿花伝』講談社			
参考図書	田中健次『図解 日本音楽史』東京堂出版、天野文雄『能に憑かれた権力者』講談社選書メチエ、渡辺睦子・増田正造『マンガ能百番』、新潮日本古典集成(第4回)『世阿弥芸術論集』新潮社			
オフィスアワー	開講日12時より講義開始まで	メールアドレス		

授業科目	日本国憲法【講義】		開講時期	前期
担当教員	森 俊輔		単位	2
授業の目的と概要	<p>「日本国憲法」の条文の意味をただ学問的な意味で学習するのでは、一過性の知識しか得ることができません。本講義では、これまでに日本で実際に起こった多くの具体的な事件を知ることを通して、「日本国憲法」が私たちの生活にどのように関連しているのかを理解します。</p> <p>また、法的思考力を高め、様々な社会事象を考察する能力を身につけることを目的とします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「日本国憲法」を体系的に理解した上で、現代の諸問題を法的に評価して説明することができる。</li> <li>2. 立憲主義の意味を理解した上で、現在の憲法改正の動きについて自分なりの意見を述べるすることができる。</li> <li>3. これまでの憲法判例の動きを理解したうえで、今後我が国で起こり得る法的な諸問題を具体的に述べるすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>この科目は弁護士の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	「法」の意義と「憲法」 ～立憲主義～		Unit 0～1	
第2回	日本国憲法の成り立ちと国民主権		Unit 2～3	
第3回	天皇制、選挙制度と選挙権		Unit 4～5	
第4回	立法権（国会）		Unit 6～7	
第5回	行政権（内閣と地方自治）		Unit 8, 11	
第6回	司法権（裁判所）		Unit 9～10	
第7回	平和主義		Unit 12	
第8回	基本的人権（人権享有主体性と人権の限界）		Unit 13	
第9回	精神的自由権Ⅰ（思想良心の自由、信教の自由）		Unit 14～16	
第10回	精神的自由権Ⅱ（表現の自由）		Unit 17～19	
第11回	集会結社の自由、人身の自由		Unit 20, 23	
第12回	経済的自由権（職業選択の自由、財産権など）		Unit 21～22	
第13回	社会権（生存権、教育権、労働権）		Unit 24～26	
第14回	法の下での平等		Unit 27	
第15回	包括的基本権（自己決定権、プライバシー権など）		Unit 28～29	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・講義の90分間で学んだことについて正式な用語を正しく用いて説明し、かつ、社会的な事象について自らの考えを説得的に表現できるレベルにまで高めることが求められます。一定程度の復習が必要不可欠です。</p>			
教科書	片桐直人・井上武史・大林啓吾 『一步先への憲法入門』 有斐閣			
指定図書	なし			
参考図書	<p>安念潤司ほか 『憲法を学ぶための基礎知識 論点・日本国憲法（第2版）』 東京法令出版</p> <p>渋谷秀樹ほか 『憲法1 人権（第5版）』『憲法2 統治（第5版）』 有斐閣</p>			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	日本国憲法【講義】		開講時期	前期
担当教員	高木 佳世子		単位	2
授業の目的と概要	1. 教育者・保育者を目指す者として憲法を学ぶ意義を意識する。 2. 人権規定についての概要と代表的な裁判例について学ぶ。 3. 統治機構の役割と三権相互の関係について検討する。 4. 平和主義、憲法改正について現在の議論状況を把握する。			
到達目標	1. 「人権」、近代立憲主義を前提とした「憲法」の意味を説明できる。 2. 日本国憲法の重要な条文の内容を説明できる。 3. 現実の社会で起きている事象に憲法の観点をあてはめ、考察することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は弁護士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	教育者・保育者となる上で憲法を学ぶ意義	3限：テキスト「はじめに」、4限：テキスト第1章を予習		
第2回	日本国憲法の基本原理	3限：序章、4限：第2章を予習		
第3回	人権の享有主体／公共の福祉／私人間効力	3限：第1章1・第3章1 4限：第3章を予習		
第4回	幸福追求権	3限：第2章1 4限：第4章を予習		
第5回	法の下での平等	3限：第3章2 4限：第5章を予習		
第6回	精神的自由権（1）思想・良心の自由、信教の自由	3限：第1章3、4 4限：第6章を予習		
第7回	精神的自由権（2）学問の自由・表現の自由	3限：第1章2・第2章2 4限：第7章を予習		
第8回	経済的自由権	3限：第4章1、2 4限 第8章を予習		
第9回	生存権／子どもの貧困	3限：第4章3 4限 第9章を予習		
第10回	ハンセン病問題に関する映像視聴	感想文作成		
第11回	教育を受ける権利／労働基本権	3限：第1章5、第3章4 4限：第10章を予習		
第12回	国会	3限：第5章1、2 4限：第12章1～3を予習		
第13回	内閣／財政／地方自治	3限：第5章3、第8章1～3 4限：第12章4、5を予習		
第14回	裁判所と違憲審査権	3限：第6章1～3 4限：第13章を予習		
第15回	平和主義／憲法改正の手続きと限界	3限：第7章1～2 4限：第14章を予習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100％（第10回の感想文30％、期末レポート70％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、その回の講義内容を友人や教員に尋ねるなど、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	3限（初等）：大林啓吾・小林祐紀編著『ファーストステップ教養講座 ケースで学ぶ憲法ナビ』（みらい、2015年） 4限（幼保）：橋本勇人編『保育と日本国憲法』（みらい、2018年）			
指定図書	中西新太郎・箕輪明子編著『〔第2版〕キーワードで読む現代日本社会』（旬報社）			
参考図書	工藤達朗編『やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる憲法〔第2版〕』（ミネルヴァ書房、2013年）			
オフィスアワー	水曜4限	メールアドレス		

授業科目	日本語A(外)【演習】		開講時期	前期
担当教員	川邊 理恵		単位	2
授業の目的と概要	日本語でレポートや論文を書く能力の基礎を身に着ける。特に、研究計画書の作成を目標とし、レポート・論文に求められる構成と文体、条件を理解し、要約を書く技術を獲得する。また、全体を通じて、大学での学業に必要な日本語彙と表現を増やし、文法や発音、待遇表現を学習する。 2時限続けての開講となる。最初の時限では、予習に基づいて課の内容を学習し、練習する。次の時限では、課の課題作文をグループワークで見直す。さらに、履修科目の実際のレポートや発表資料を持ち寄り、見直したり、批評し合ったりする。 学期初めには、自分が履修する科目の課題について調査し、一覧表を作成する。授業前の予習では、学習する課の語彙や表現を調べ、説明部分を読み、練習問題を解き、課題作文を書く。学期の最後に、研究計画書を執筆する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 日本語でレポートや論文を書く能力の基礎を身に着ける</li> <li>② レポート・論文に求められる構成と文体、条件を理解する</li> <li>③ 要約を書く技術を獲得する</li> <li>④ 研究計画書の書き方・構成を理解する</li> <li>⑤ 履修後も自分自身でレポート・論文を読み書きしていくために必要な批評能力を身に着ける</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「外国人留学生及び海外帰国生科目」です。 <授業外学修>1回の授業につき120分程度必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1週	クラスの説明、レベラチェックのための日本語チェックと作文。作文の見直し（グループワーク）、構成の学習・練習、自己紹介	準備：教科書を購入し、「はじめに」から目次までを読んで、持参		
第2週	第1課「表記のしかた」の内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習	予習：第1課の語彙の調べ、説明の読解、練習問題、作文執筆		
第3週	第2課「文体と書き言葉」の内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習	予習：第2課の語彙の調べ、説明の読解、練習問題、作文執筆		
第4週	第3課「段落に分ける」の内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習	予習：第3課の語彙の調べ、説明の読解、練習問題、作文執筆		
第5週	第4課「は」と「が」の内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習	予習：第4課の語彙の調べ、説明の読解、練習問題、作文執筆		
第6週	第5課「テーマを述べる」の内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習	予習：第5課の語彙の調べ、説明の読解、練習問題、作文執筆		
第7週	第6課「理由・経過を述べる」の内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習	予習：第6課の語彙の調べ、説明の読解、練習問題、作文執筆		
第8週	第7課「定義をする」の内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習	予習：第7課の語彙の調べ、説明の読解、練習問題、作文執筆		
第9週	第8課「判明していることを述べる」の内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習	予習：第8課の語彙の調べ、説明の読解、練習問題、作文執筆		
第10週	第9課「問題点を述べる」の内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習	予習：第9課の語彙の調べ、説明の読解、練習問題、作文執筆		
第11週	第10課「引用する」の内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習	予習：第10課の語彙の調べ、説明の読解、練習問題、作文執筆		
第12週	第11課「解決策を述べる」の内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習	予習：第11課の語彙の調べ、説明の読解、練習問題、作文執筆		
第13週	第12課「手順を述べる」の内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習	予習：第12課の語彙の調べ、説明の読解、練習問題、作文執筆		
第14週	第13課「指示詞を使う」の内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習	予習：第13課の語彙の調べ、説明の読解、練習問題、作文執筆		
第15週	第14課「研究計画書を書く」の内容の学習、研究計画書の見直し（グループワーク）	予習：第14課の語彙の調べ、説明の読解、研究計画書の執筆		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	学期初めに、履修科目と課題の一覧表を作成し、提出する：10%			
小テスト等	1課から13課の作文：50%			
成果発表	学期末の研究計画書：10%			
受講態度他	各回の授業活動：30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 教科書を購入し、毎回持参する</li> <li>② 毎回、予習する</li> <li>③ クラスメイトと協力する</li> <li>④ 授業では日本語を使用する。外国語で話さない</li> <li>⑤ 授業中に授業活動以外のことをしない</li> </ol>			
教科書	アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語②作文編』アルク			
指定図書	なし			
参考図書	アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語①読解編』アルク アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アルク			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	日本語B(外)【演習】	開講時期	後期
担当教員	石田 英明	単位	2
授業の目的と概要	この授業は、1回目（2020年9月24日）のみオンデマンド型遠隔授業で行い、2回目からはTeamsを使ったリアルタイム型遠隔授業で行う。 大学での学業に必要なレポート、論文、専門書などを読む日本語能力の基礎と、批判的思考の技術を獲得する。さらに、レポート・論文執筆に求められる構成と文体、条件を理解する。授業を通して、聞く力・適切に話す力も養う。 2時間限続きの授業であるため、1時間目には課の内容を学習し、2時間目は発展的学習、さらに各自の履修科目における実際のレポートや発表資料を持ち寄り、見直ししたり、批評し合ったりする。 教科書の予習は必要ないが、毎回復習テストを行うので学習事項を授業後に復習しておくこと。なお、学期初めに自分が履修する科目の課題について一覧表を作成し、学習方法等を授業の中で検討する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 日本語で書かれたレポート、論文、専門書を読む能力の基礎を身につける</li> <li>② レポート・論文に求められる構成と文体、条件を理解する</li> <li>③ 批判的思考の技術を獲得する</li> <li>④ 履修後も自分自身でレポート・論文を読み書きしていくために必要な批評能力を身につける</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「外国人留学生及び海外帰国生科目」です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1週 イントロダクション クラスの説明、レベルチェックのための作文執筆、構成・文体の学習・練習		準備：教科書を購入し、準備しておく	
第2週 第1課「言葉の役割」 内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習		復習：第1課の語彙・表現と文法、作文仕上げ	
第3週 第2課「イルカと超音波」 復習テスト、内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習		復習：第2課の語彙・表現と文法、作文仕上げ	
第4週 第3課「地区の分類」 復習テスト、内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習		復習：第3課の語彙・表現と文法、作文仕上げ	
第5週 第4課「睡眠時間一短眠と長眠」 復習テスト、内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習		復習：第4課の語彙・表現と文法、作文仕上げ	
第6週 第5課「日時計」 復習テスト、内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習		復習：第5課の語彙・表現と文法、作文仕上げ	
第7週 第6課「研究者の二つのタイプ」 復習テスト、内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習		復習：第6課の語彙・表現と文法、作文仕上げ	
第8週 第7課「地球温暖化」 復習テスト、内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習		復習：第7課の語彙・表現と文法、作文仕上げ	
第9週 第8課「風呂場の戸」 復習テスト、内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習		復習：第8課の語彙・表現と文法、作文仕上げ	
第10週 第9課「手で数を表す」 復習テスト、内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習		復習：第9課の語彙・表現と文法、作文仕上げ	
第11週 第10課「文明はどのように伝わったかー1「茶」」 復習テスト、内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習		復習：第10課の語彙・表現と文法、作文仕上げ	
第12週 第11課「文明はどのように伝わったかー2「タとハタケ」」 復習テスト、内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習		復習：第11課の語彙・表現と文法、作文仕上げ	
第13週 第12課「カラスの自動車利用行動」 復習テスト、内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習		復習：第12課の語彙・表現と文法、作文仕上げ	
第14週 第13課「台湾南部の客家社会についての一考察」 復習テスト、内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習		復習：第13課の語彙・表現と文法、作文仕上げ	
第15週 第14課「人間とロボットの協調動作に関する研究」 復習テスト、内容の学習、作文の見直し（グループワーク）、応用・発展練習、第14課の語彙表現文		作文仕上げ	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	学期初めに、履修科目と課題の一覧表を作成し、提出する：2%		
小テスト等	各課の復習テスト：28%		
成果発表	各課の作文：42%		
受講態度他	各回の授業活動の成果：28%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>① クラス活動やオンラインのチャットでは日本語のみを使用する。</li> <li>② 小テストや作文執筆では不正を行わず、公正な態度で臨む。</li> <li>③ 小テスト等は再テストを実施しない。</li> <li>④ 提出物の期限に遅れた場合、得られる点数は50%を上限とする</li> <li>⑤ クラスメイトと積極的に協力する</li> </ol>		
教科書	アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語①読解編』アルク		
指定図書	なし		
参考図書	アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語②作文編』アルク アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アルク		
オフィスアワー	Teamsに「オフィスアワー」チャンネルを設定している	メールアドレス	

授業科目	日本語C(外)【演習】		開講時期	前期
担当教員	井手 玲奈		単位	2
授業の目的と概要	このクラスは論文作成の基礎を身につけている日本語中級後半～上級レベルの学習者を対象とする。上級レベルの書き言葉や文法を確認しながら、いろいろな種類の文を書いていき、大学で求められるレポートや課題の作成を目指す。日本語Cの授業時間は1回につき3時間(2コマ)である。授業前半で文章で使う文法・文字・表記・語彙の確認・練習をし、後半で実際の論文を作成する。毎回のフィードバックを踏まえて、書き直しも行う。実際に課題ででているレポートや発表についても授業で取り扱う。			
到達目標	文章作成に必要な基礎事項の学習。 学術的文章で使われる文型・表現・展開パターンの習得。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「外国人留学生及び海外帰国生科目」です。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
オリエンテーション	第1課「作文の基本(1)」	教科書を購入し、持参		
第1課「作文の基本(1)」クイズ	課題の批評 第2課「作文の基本(2)」	前回の復習とクイズの準備。 課題の作成		
第2課「作文の基本(2)」クイズ、課題の批評	第3課「課題の提示」	前回の復習とクイズの準備。 課題の作成		
第3課「課題の提示」クイズ、課題の批評	第4課「目的の提示」	前回の復習とクイズの準備。 課題の作成		
第4課「目的の提示」クイズ、課題の批評	第5課「定義と分類」	前回の復習とクイズの準備。 課題の作成		
第5課「定義と分類」クイズ 課題の批評	第6課「図表の提示」	前回の復習とクイズの準備。 課題の作成		
第6課「図表の提示」クイズ 課題の批評	第7課「変化の形容」	前回の復習とクイズの準備。 課題の作成		
第7課「変化の形容」クイズ 課題の批評	第8課「対比と比較」	前回の復習とクイズの準備。 課題の作成		
第8課「対比と比較」クイズ 課題の批評	第9課「原因の考察」	前回の復習とクイズの準備。 課題の作成		
第9課「原因の考察」クイズ 課題の批評	第10課「列挙」	前回の復習とクイズの準備。 課題の作成		
第10課「列挙」クイズ 課題の批評	第11課「引用」	前回の復習とクイズの準備。 課題の作成		
第11課「引用」クイズ 課題の批評	第12課「合意と反論」	前回の復習とクイズの準備。 課題の作成		
第12課「同意と反論」クイズ 課題の批評	第13課「帰結」	前回の復習とクイズの準備。 課題の作成		
第13課「帰結」クイズ 課題の批評	第14課「結論の提示」	前回の復習とクイズの準備。 課題の作成		
第14課「結論の提示」クイズ 課題の批評		前回の復習とクイズの準備。 課題の作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	20%			
成果発表	なし			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は日本語を話し、クラスのメンバーと協力しながらクラス活動を積極的に行う。 他の科目で出た課題・レポート等があれば、授業に持参する。			
教科書	アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク			
指定図書	なし			
参考図書	アカデミックジャパニーズ研究会 「改訂版大学・大学院 留学生の日本語②作文編」アルク アカデミックジャパニーズ研究会 「改訂版大学・大学院 留学生の日本語③論文読解編」アルク			
オフィスワー	メールにて要相談	メールアドレス		

授業科目	日本語意味論【講義】	開講時期	後期
担当教員	小野 望	単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語学の基幹科目として設置されているものである。</p> <p>意味を伝え、意味を理解することは、言語の主要な機能である。「意味」のあり方について理論的に考察し、実際に語の意味を調べて意味分析を行う。これらの作業を通して、言語の体系性を認識することを目的とする。同時に、自らの言語感覚を豊かにすることで、よりよいコミュニケーションの主体となることを目指そう。</p> <p>本講では、認知論の立場から「意味とは何か」について考える。認知論の特徴の一つは、言語使用者がものごとをどのようにとらえるかという自己分析が重要な位置を占めることにある。普段、何気なく使い分けている語はどのように区別されているのか、自らの語感を精査して探りだしてみよう。そして、その結果がどのように理論化され、体系化されていくのか、その過程を追っていこう。</p>		
到達目標	<p>(1) 言語にとって「意味とは何か」ということが説明できる。</p> <p>(2) 「認知意味論」の特徴である「主体的なとらえ方」について、実例を示して説明できる。</p> <p>(3) 「カテゴリー化とプロトタイプ論」について、実例を示して説明できる。</p> <p>(4) 意味の拡張（変化）のメカニズムについて説明できる。</p> <p>(5) 「多義語」「類義語」の分析を通して、意味関係を論理的に説明できる。</p>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>日 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション・言語にとって意味とは何か？ 言語は人間のすべての視野を網羅する。	課題アンケート：最近気になる言葉は？ @その理由は？	
第2回	さまざまな認知能力（異なる視点、異なる予測） 「上り坂/下り坂」同じ坂道なのに異なる言い方ができるのは何故？	課題：認知意味論の基本的な考え方をまとめる。	
第3回	さまざまな認知能力（異なるレベル） 「魚/白身魚/ヒラメ・・・」どれもワタシの名前ですが、何か？	参考プリント第2章のポイントをまとめておこう。	
第4回	さまざまな認知能力（重要性の選択） 人混みの中に「待ち人」の姿が浮かび上がることはありませんか？	質問の意図を把握して、答えられるようにしよう。	
第5回	意味の構造を考える：カテゴリー化とプロトタイプ論 「りんごのようなホップ」は何色？	課題：プロトタイプ論によるカテゴリー化理論のポイントをまとめる	
第6回	百科事典的意味 「女らしい」ってどういうこと？	参考プリント第4章のポイントをまとめておこう。	
第7回	意味分析の方法 「昨日」と「前日」どう違う？	課題：意味分析の方法についてまとめる。	
第8回	合成語を手がかりに意味のあり方を考える 「花」+「束」=「花束」？	課題：合成のプロセスを考える「前掛け、よだれ掛け、帽子掛け、腰掛け」	
第9回	意味拡張（変化）のメカニズム 「あの役者には花がある」その「花」ってな～に？	課題：比喻表現を探し、リストアップする。	
第10回	メタファーの認知基盤 「食べすぎるとブタになる」・・・ホンモノのブタになるの？	参考プリント第5章1～2節のポイントをまとめておこう。	
第11回	シネクドキーの認知基盤 あなたの筆箱に「筆」は入っていますか？	参考プリント第5章2～3節のポイントをまとめておこう。	
第12回	メトニミーの認知基盤 「お手洗い」に行く目的は？	課題：比喻の種類を整理し、具体例を挙げて解説する。	
第13回	比喻から多義語へ：三種の比喻の関係、多義語と単義語 「ダイコクバシラ」はどんな柱？	課題：比喻のメカニズムと文学的表現、文化との関わりを考察する。	
第14回	意味分析の方法（多義語） 「帰りのアシがない！」はどんな足？	課題：Web上に現れる種々の用例を分析し、分類する。	
第15回	意味分析の方法（類義語） 「かわいい」はどんなもの？ 「やばい」はどんなとき？	課題：「かわいい」「やばい」と置き換えられる語は？	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	0%：筆記試験は行わない。		
レポート	15%：到達目標の項目(1)～(5)のいずれかに関する課題を選び、2000字程度のレポートを作成する。		
小テスト等	70%：授業中の課題（重要トピックに関する整理シート、意味分析など） 項目毎のまとめ整理シート・課題用紙は、授業時に返却する。		
成果発表	0%		
受講態度他	15%：観察報告：語の意味に関して、授業時に小報告を求められることがある。 回答の傾向、特徴的な意見等は、授業時に紹介する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料を読んで講義に参加し、講義内容と合わせて各回のテーマをまとめていきましょう。重要なトピックについては、整理シートを配布します。</li> <li>・シラバスに沿った授業の流れとは別に、各自で選んだ語（好きなことば等々）の意味を調べ、報告することを求めます（観察報告）。</li> <li>・スクリーン上にプレゼンテーションを提示するので、最前列付近の照明を落とします。</li> </ul>		
教科書	使用しない。参考プリントの冊子を配布する。		
指定図書	使用しない。		
参考図書	吉村公宏著『はじめての認知言語学』 佐藤信夫著『レトリック感覚』講談社学術文庫ほか、授業中に紹介する。		
オフィスアワー	月曜日：4講時、火曜日：5講時	メールアドレス	

授業科目	日本語音声論【講義】		開講時期	後期
担当教員	高山 百合子		単位	2
授業の目的と概要	<p>国語教育、日本語教育で役立つ日本語音声と、音声言語一般に関する知識、および教授法を身に付けることを目標に、基本的な知識の習得と、発音、朗読、スピーチ、話し合い、敬語運用などの実践的な活動を併せて行う。</p> <p>■日本語の音声・音韻・音声言語に関する基礎的な知識を、国語教育、日本語教育の場、および外国語習得の際に活かせるように、コミュニケーションの観点から整理・評価できるようになる。</p> <p>■日本語の構造や特徴について説明することができるようになる。</p>			
到達目標	<p>(1) 日本語の音声・音韻、および音声言語のあり方について、その基本的なしくみを知り、正しい知識を身に付ける。</p> <p>(2) 日本語の音声・音韻・音声言語に関する基礎的な知識を、国語教育、日本語教育の場、および外国語習得の際に活かすことができる。(3) 対人コミュニケーションの力を高める。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>日(3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>【関連する科目】日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、日本語表記論など</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回;オリエンテーション/音声と音声言語、および音声言語教育について(ディスカッションを含む)		課題プリント;音声言語と文字言語の違いについて考える		
第2回;日本語の音の単位——モーラ(拍)と音節——		予習;テキスト第2章「母音」を読む		
第3回;日本語の母音		課題プリント;音声と音韻の基本概念について		
第4回;日本語の子音(1)		予習;テキスト第3章「子音」を読む		
第5回;日本語の子音(2)		予習;テキスト第4章「音の変化とヴァリエーション」を読む		
第6回;日本語音韻体系と異音		予習;テキスト第6章「拍・リズムと読み」を読む		
第7回;日本語の音の単位—音節とモーラ		予習;テキスト第7章「アクセントとイントネーション」を読む		
第8回;アクセントとイントネーション、プロミネンスなど		課題プリント;音声音韻の基本概念を復習する		
第9回;聴く、話す——メモと要約——		予習;テキスト第8・9章「プロミネンスとポーズ」「話す」を読む		
第10回;聴く、話す——ブレイン・ストーミングで内容を作る——		予習;テキスト第10章「聞く」を読む		
第11回;スピーチ——型を使って話す——		予習;テキスト第11章「話し合う」を読む		
第12回;話し合う、話し合わせる(ディスカッション)		課題プリント;「話し合う、話し合わせる」まとめ、テキスト第13章を読む		
第13回;待遇表現(1)——敬語の分類——		課題プリント;練習問題(1)		
第14回;待遇表現(2)——謙譲語を中心に——		課題プリント;練習問題(2)		
第15回;まとめ		復習;不明個所などを整理して、質問などできるようにしておくこと。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題・レポート50%			
小テスト等	10%			
成果発表	なし			
受講態度他	50%。課題の提出状況など、評価の際に考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◇講義と演習形式とを交えながら授業を行う。グループ活動や発表の機会も多くなるので、柔軟かつ積極的に対応してほしい。</p> <p>◇予習・復習、課題の提出などはきちんと行うこと。シラバスをよく読んで、テキストの該当箇所は事前に読んでおくこと。</p> <p>◇課題やレポートは、添削・評価し、原則として授業中にコメントを付して返却する。</p> <p>■テキストを購入しなければ受講できない。</p>			
教科書	山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語音声・音声言語 改訂版』くろしお出版、プリント併用			
指定図書	特になし			
参考図書	斎藤 純男(よしお)『日本語音声学入門 改訂版』三省堂ほか、授業中に必要に応じて提示する。			
オフィスアワー	木曜2講時	メールアドレス		



授業科目	日本語学演習Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	小野 望		単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語学の発展科目として設置されているものである。本講では『万葉集』を、江戸時代の注釈書『萬葉代匠記』に従って読み進めることで、(1)古代日本語の様相を知るだけでなく、その後の(2)日本語研究の歴史・方法、(3)古代文学受容の歴史など、幅広い視点から考察を深めることを目的とする。</p> <p>具体的な演習作業は、概ね次の通り。</p> <p>(1)代匠記担当部分の翻刻作業（参考となる活字本が図書館にあります）</p> <p>(2)担当部分についての現代の注釈書（数冊）記述の確認</p> <p>(3)解説が必要な語句、事項等の抽出。これらに関する調査、分析（辞書、注釈書、索引等を利用）</p>			
到達目標	<p>(1)近世の注釈書（『代匠記』）を翻刻し、その解釈と考え方を整理して示すことができる。</p> <p>(2)万葉和歌の表記・用語を読み、現代の諸注釈を参照して語釈をすることができる。</p> <p>(3)語釈に際し、必要な用例を検索・整理し、根拠として示すことができる。</p> <p>(4)日本語の構造や特徴、言語変化の歴史への理解に基づき、担当歌を解釈することができる。</p> <p>(5)担当歌の背景にある、古代日本の思考法や社会・文化の様相について説明することができる。</p> <p>(6)担当歌について説明すべき課題を発見し、適切な資料を示しながら解説することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>日(4)-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 『万葉集』の基礎知識 万葉の時代とは？ 「かな」はありませんでしたよね？		参考資料：「万葉集解説」を読み、概要をまとめる。		
第2回 調査手順の解説 演習の手順 注釈書、辞典類、索引、関連論文の参照方法		参考資料：「万葉集を読むために」を読み、概要をまとめる。		
第3回 参考解釈例 巻一／1番歌を訓む		サンプルを参考に、翻刻の方法を確認しよう。		
第4回 参考解釈例 巻一／1番歌 代匠記の解説態度に注目する		サンプルを参考に、注釈書の利用と解釈の方法を確認しよう。		
第5回 考察を広げる 巻一／1番歌 冒頭歌の位置付けに注目する		課題：巻一冒頭付近の歌作者について調べてみよう。		
第6回 巻一／2番歌を訓む 解釈が別れている句 「取よろふ 天の香具山」		「取よろふ」に対する各注釈の説をまとめ、妥当な説を選んでみよう。		
第7回 巻一／2番歌を訓む 国見とは？		現代の注釈書を参考に、代匠記の解説を要約しよう。		
第8回 巻一／13番歌を訓む 大和三山 どれが男山、どれが女山 誰と誰とのどんな争い？		古来解釈の分かれている歌。各説を整理しよう。		
第9回 巻一／20・21番歌を訓む 野守は見えずや 君が袖振る		密かな恋歌のやりとりとされてきた贈答歌の、別の解釈を検討しよう。		
第10回 巻一／51番歌を訓む ？女の 袖吹き反す 明日香風		情景の美しさを想像して読んでみよう。		
第11回 巻二／85・90番歌を訓む 巻二冒頭におかれた仁徳天皇皇后の歌群と、その類歌		巻一雑歌と巻二相聞・挽歌で完結する構造についても考察しよう。		
第12回 巻三／235番歌を訓む 巻三冒頭歌 天皇雷岳に御遊す時、柿本朝臣人麻呂の作歌		引き続き巻の冒頭歌を訓み、初期万葉の形成について考察しよう。		
第13回 巻四／484番歌を訓む 巻四冒頭歌 巻二冒頭歌と対をなすと考えられる相聞歌		同じく巻の冒頭歌を訓み、初期万葉の形成について考察しよう。		
第14回 巻二／93番歌を訓む 鏡王女が内大臣に送った歌 君が名はあれど吾が名し惜しも		万葉集といえども、純粋な恋心の歌ばかりではない。ではどんな歌？		
第15回 二／133番歌を訓む 柿本人麻呂が妻と別れるときの歌 小竹の葉は深山もさやかにさやげども		万葉集前半で最大の歌人と言われる、人麻呂の技巧について考察しよう。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% 筆記試験(16回目)は行わない。			
レポート	70% 各回の課題をレポートとして評価する。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	30% 必須でない課題項目等への取組を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者数によって、授業の運営法が変わることがあります(担当の分量、回数など)。</li> <li>・取り組み方によって成果は大きく異なってきます。考える力を高めるとともに、よりよいコミュニケーションの主体となることも目標の一つとして、積極的に参加しましょう。</li> </ul>			
教科書	プリントを配付する(『萬葉代匠記』など)			
指定図書	『契沖全集(萬葉代匠記)』(築島裕ほか、岩波書店1972-)			
参考図書	『萬葉集註釈』(澤瀉久孝、中央公論社1982-) 『万葉集全注』(伊藤博ほか、有斐閣1983-)			
オフィスアワー	月曜日：5講時、火曜日：5講時	メールアドレス		

授業科目	日本語学演習Ⅰ【演習】【閉講】		開講時期	前期
担当教員	中村 万里		単 位	2
授業の目的と概要	<p>日本語の歴史を知るうえで文献資料の果たす役割は非常に大きい。文献資料（平曲譜本）を用いて中世から現代に至るまでの日本語の変遷を知ることを目的とする。</p> <p>本演習では近世期の平曲譜本（平曲の発音や旋律を示すため、曲節や節博士その他の注記を施した本）を用いて、中世から現代に至るまでの日本語の歴史を学ぶ。平曲は平家物語を琵琶の間奏に合わせて語る音曲の称であるが、演習では録音資料やDVDなどを使用する。またグループによる演習発表を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古辞書を引くことができる。</li> <li>2. 日本語の音韻史が説明できる。</li> <li>3. 日本語の文法史が説明できる。</li> <li>4. 日本語の語彙史が説明できる。</li> <li>5. 日本語史が理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第1回	オリエンテーション		授業の復習	
第2回	古辞書の説明		授業の復習	
第3回	古辞書の引き方		授業の復習	
第4回	変体かなの読み方		授業の復習	
第5回	平曲と平曲譜本の説明		授業の復習	
第6回	平曲譜本の読みと発表(1)		授業の復習、プリント予習	
第7回	平曲譜本の読みと発表(2)		授業の復習、プリント予習	
第8回	平曲譜本の読みと発表(3)		授業の復習、プリント予習	
第9回	平曲譜本の読みと発表(4)		授業の復習、プリント予習	
第10回	平曲譜本の読みと発表(5)		授業の復習、プリント予習	
第11回	平曲譜本の読みと発表(6)		授業の復習	
第12回	平曲譜本の読みと発表(7)		授業の復習、プリント予習	
第13回	平曲譜本の読みと発表(8)		授業の復習、プリント予習	
第14回	平曲譜本の読みと発表(9)		授業の復習、プリント予習	
第15回	まとめ		授業の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70% 期末レポート			
レポート	10% 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 発表			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	尾崎家平家正節のプリント配布			
指定図書	奥村三雄『平曲譜本の研究』桜楓社			
参考図書	渥美かをる『平家物語の基礎的研究』大学堂書店			
オフィスアワー	水曜日3講目	メールアドレス		

授業科目	日本語学演習Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	高山 百合子		単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語学の発展科目として設置されている。</p> <p>◇日本語の構造、特徴を理解し、それを日本語の歴史的变化の中に位置づけて説明できるようになる。</p> <p>◇調査対象の言語・表現上の特徴を捉え、そこに課題を設定することができる。</p> <p>◇その課題をどのように捉え、解決しないしは説明するか、順序立てて考えていくことができる。</p> <p>文献による日本語史探究の第一歩となる。中世口語的資料の一つ、狂言について、古狂言台本「大蔵虎清本」を中心に、最古の「天正狂言本」と比較をしながら、読解していく。中世語の様相に触れることが最大の目的だが、今や古典芸能となった狂言の古い形態を知り、笑劇としての面白さも味わう。本学では、和泉流狂言師；野村万禄氏が狂言を指導なさっているので（日本伝統</p>			
到達目標	<p>(1) 狂言のことばに慣れ、演劇的要素を含め、おおよそ読み解けるようになる。</p> <p>(2) 現代語の表現、ことば遣い、語彙などとの違いに気付き、その背景にある言語変化を理解し、説明することができる。</p> <p>(3) キリシタン資料、古辞書などを、考察のために活用することができる。</p> <p>(4) 芸能としての狂言の在り方を理解し、説明することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>【関連する科目】日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、日本語文法論、日本語音声論、古代日本語研究など</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション；能狂言概説、諸狂言台本概説		復習；狂言の概説（プリント他）を読み、理解する。	
第2回	オリエンテーション（2）；キリシタン資料・古辞書について。演習の仕方について。「虎清本」演習担当箇所決め		テキスト下読み（担当箇所）	
第3回	中世語概説		各自の演習準備。担当者は、発表資料の作成	
第4回	「虎清本」演習①		各自の演習準備。担当者は、発表資料の作成	
第5回	「虎清本」演習②		各自の演習準備。担当者は、発表資料の作成	
第6回	「虎清本」演習③		各自の演習準備。担当者は、発表資料の作成	
第7回	「虎清本」演習④		各自の演習準備。担当者は、発表資料の作成	
第8回	天正狂言本の言語事象についての解説		各自の演習準備。担当者は、発表資料の作成	
第9回	「天正狂言本」演習①		各自の演習準備。担当者は、発表資料の作成	
第10回	「天正狂言本」演習②		各自の演習準備。担当者は、発表資料の作成	
第11回	「天正狂言本」演習③		各自の演習準備。担当者は、発表資料の作成	
第12回	「天正狂言本」演習④		各自の演習準備。担当者は、発表資料の作成	
第13回	「虎清本」「天正狂言本」の言語について（1）		課題プリントによるまとめ	
第14回	「虎清本」「天正狂言本」の言語について（2）		最終レポートの準備開始	
第15回	まとめ；後期に扱う諸本について		最終レポート作成	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	特になし			
レポート	50% 発表に対する質疑等も考慮して、発表内容をレポートとしてまとめる。			
小テスト等	特になし			
成果発表	50% 演習発表を行う。			
受講態度他	発表準備・発表の積極性、質問・意見の真摯さも加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◇演習担当者には、詳細な発表資料の作成、および真摯な発表、受講者には、テキスト演習箇所の下読み、前向きな受容的姿勢、と同時に批判的判断を求めます。その両者が相まって、活発な質疑応答が展開されることを期待しています。</p> <p>◇課題やレポートは、授業中などにコメントを付して直接返却します。</p>			
教科書	古川久『狂言古本二種』（わんや書店）、プリント併用			
指定図書	特になし			
参考図書	大蔵流虎明本、虎寛本、和泉流狂言六義、鶯流狂言など、狂言台本の諸本。キリシタン資料。古辞書類。			
オフィスアワー	基本的には、常時メールを受け付けて、質問・相談に対応します。	メールアドレス		

授業科目	日本語学演習Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	藤田 優子		単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語学の発展科目として設置されているものである。本講では『万葉集』を、江戸時代以降現代までの注釈書等を参考にしながら、(1)上代日本語の様相を理解することに加えて、(2)語学的観点からの研究法・思考法を身につけることを目的とする。</p> <p>受講生各自の具体的な演習作業は、概ね次の通り。</p> <p>(1)担当歌について、近世から現代の注釈書類の確認  (2)解説が必要な語句、事項等の抽出。これらに関する調査、分析（辞書、注釈書、索引等を利用）  (3)調査・分析の結果を踏まえた妥当な訓みと解釈の提示  (4)発表資料の作成、口頭発表、質疑応答</p>			
到達目標	<p>(1) 近世以降の注釈書を参照し、それらの解釈と考え方を整理して示すことができる。  (2) 語釈に際し、必要な用例を検索・整理し、根拠として示すことができる。  (3) 日本語の構造や特徴、言語変化の歴史への理解に基づき、担当歌を解釈することができる。  (4) 担当歌の言語的特徴に着目し、論理的に分析することができる。  (5) 担当歌について説明すべき課題を発見し、適切な資料を示しながら解説することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。  日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 『万葉集』の言語について オリエンテーション：『万葉集』の基礎的な知識の確認、担当決め		前期の授業内容を復習しておきましょう。		
第2回 調査手順の解説 発表資料の作成方法、発表の形式について解説します。		各自、担当歌の資料を確認しておきましょう。		
第3回 演習発表①		担当者：発表資料の作成 全員：各発表に対するコメント		
第4回 演習発表②		担当者：発表資料の作成 全員：各発表に対するコメント		
第5回 演習発表③		担当者：発表資料の作成 全員：各発表に対するコメント		
第6回 演習発表④		担当者：発表資料の作成 全員：各発表に対するコメント		
第7回 演習発表⑤		担当者：発表資料の作成 全員：各発表に対するコメント		
第8回 演習発表⑥		担当者：発表資料の作成 全員：各発表に対するコメント		
第9回 演習発表⑦		担当者：発表資料の作成 全員：各発表に対するコメント		
第10回 演習発表⑧		担当者：発表資料の作成 全員：各発表に対するコメント		
第11回 演習発表⑨		担当者：発表資料の作成 全員：各発表に対するコメント		
第12回 演習発表⑩		担当者：発表資料の作成 全員：各発表に対するコメント		
第13回 演習発表⑪		担当者：発表資料の作成 全員：各発表に対するコメント		
第14回 演習発表⑫		担当者：発表資料の作成 全員：各発表に対するコメント		
第15回 まとめ・レポート作成手順の解説 レポート作成に向けて、重要事項の確認と、作成上の注意点を伝えます。		各自期末レポートの作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% 筆記試験(16回目)は行わない。			
レポート	20% 発表に対する質疑等をふまえ、発表内容をレポートとしてまとめる。			
小テスト等	0%			
成果発表	60% 演習担当部分のレジュメおよび口頭発表を評価する。			
受講態度他	20% 各回発表に対する意見交換等を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『万葉集』および上代日本語の基礎的な事項は、前期Ⅰにて扱います。なるべくⅠ・Ⅱの順で履修してください。</li> <li>・受講者数によって、授業の運営法が変わることがあります(取り扱う歌、担当の分量、回数など)。</li> <li>・担当部分について報告することはもとより、他の報告についての意見をまとめ、発言するなどの行動を求めます。</li> <li>・取り組み方によって成果は大きく異なってきます。考える力を高めるとともに、よりよいコミュニケーションの主体となることも目標の一つとして、積極的に参加しましょう。</li> </ul>			
教科書	佐竹昭広・木下正俊・小島憲之『補訂版 万葉集 本文篇』(塙書房) ※万葉集の全ての歌の原文が確認できるものであれば可。詳しくは初回に説明します。			
指定図書	『校本万葉集』(佐々木信綱ほか、岩波書店1931-)			
参考図書	『万葉集註釈』(澤瀉久孝、中央公論社1982-) 『万葉集全注』(伊藤博ほか、有斐閣1983-)			
オフィスアワー	水曜3限後 ※質問等はメールにて随時受け付けます。	メールアドレス		

授業科目	日本語学演習Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	高山 百合子		単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語学の発展科目として設置されている。</p> <p>◇日本語の構造、特徴を理解し、それを日本語の歴史的变化の中に位置づけて説明できるようになる。</p> <p>◇調査対象の言語・表現上の特徴を捉え、そこに課題を設定することができる。</p> <p>◇その課題をどのように捉え、解決しないしは説明するか、順序立てて考えていくことができる。</p> <p>文献による日本語史探究の第一歩となる。中世口語的資料の一つ、狂言について、前期から進んで「大蔵虎明本」を、和泉流「狂言六義」、刊本「狂言記」などと比較をしながら、読解していく。中世語の様相に触れることが最大の目的だが、今や古典芸能となった狂言の古い形態を知り、笑劇としての面白さも味わう。本学では、和泉流狂言師；野村万禄氏が狂言を指導なさっている</p>			
到達目標	<p>(1) 演劇的要素を含め、狂言のことに慣れ、相当程度読み解けるようになる。</p> <p>(2) 現代語の表現、ことば遣い、語彙などとの違いに気付き、用例を集め、ある程度分析することができる。</p> <p>(3) 具体例に基づき、その背景にある言語変化を踏まえて、中世語の特徴について部分的にでも説明することができる。</p> <p>(4) 全体として、注釈を付けながら読み進めていく作業となる。そのような読解の方法に慣れ、習得する。</p> <p>(5) 芸能としての狂言の在り方を理解し、その魅力を論じることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>【関連する科目】日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、日本語文法論、日本語音声論、古代日本語研究など</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション；中世語概説、演習の仕方について（担当箇所決めまで）	大蔵虎明本、狂言六義について、配布プリントなどにより概要を知る。		
第2回	狂言のことばの研究について。狂言の映像鑑賞	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）		
第3回	「虎明本」担当箇所演習発表①	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）		
第4回	「虎明本」担当箇所演習発表②	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）		
第5回	「虎明本」担当箇所演習発表③	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）		
第6回	「虎明本」担当箇所演習発表④	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）		
第7回	「虎明本」担当箇所演習発表⑤	「狂言六義」下読み		
第8回	和泉流「狂言六義」の資料的特徴について	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）		
第9回	「狂言六義」担当箇所演習発表①	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）		
第10回	「狂言六義」担当箇所演習発表②	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）		
第11回	「狂言六義」担当箇所演習発表③	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）		
第12回	「狂言六義」担当箇所演習発表④	刊本「狂言記」テキスト下読み		
第13回	刊本「狂言記」の資料的特徴について（1）	刊本「狂言記」テキスト下読み		
第14回	刊本「狂言記」の資料的特徴について（2）	最終レポートの準備を始める。自らの発表課題を深化させる。		
第15回	まとめ	最終レポート作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	特になし			
レポート	50% 各自が選んだテーマについて、発表に対する質疑等も考慮して最終レポートをまとめる。			
小テスト等	特になし			
成果発表	50% 演習発表を行う。			
受講態度他	発表準備、発表の積極性を視ると同時に、質問、意見の真摯さも視る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◇演習担当者には、詳細な発表資料の作成、および真摯な発表、受講者には、テキスト演習箇所の下読み、前向きな受容的姿勢、と同時に批判的判断を求めます。その両者が相まって、活発な質疑応答が展開されることを期待しています。</p> <p>◇課題やレポートは、授業中などにコメントを付して直接返却します。</p>			
教科書	古川久『狂言古本二種』（わんや書店）			
指定図書	特になし			
参考図書	今昔物語集、宇治拾遺物語、打開集、その他、具体的な工具書については授業中に指示する。			
オフィスアワー	木曜 4 講時	メールアドレス		

授業科目	日本語学演習Ⅱ【演習】【閉講】		開講時期	後期
担当教員	中村 万里		単 位	2
授業の目的と概要	日本語学演習Ⅰを踏まえて、中世から現代に至るまでの日本語の変遷を知ることが目的とする。 本演習は近世期の平曲譜本を用いて、中世から現代までの日本語の歴史を学ぶ。なお録音テープやDVDなども使用する。またグループによる演習発表を行う。			
到達目標	1. 平曲譜本を読むことができる。 2. 文献国語史を説明できる。 3. 方言国語史を説明できる。 4. 平曲を語るすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。 日(4)-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 ＜授業外学修＞1回の授業につき60分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション	授業の復習		
第2回	平曲と平曲譜本	授業の復習		
第3回	文献国語史	授業の復習		
第4回	方言国語史	授業の復習		
第5回	平曲譜本の読解と発表(1)	授業の復習、プリント予習		
第6回	平曲譜本の読解と発表(2)	授業の復習、プリント予習		
第7回	平曲譜本の読解と発表(3)	授業の復習、プリント予習		
第8回	平曲譜本の読解と発表(4)	授業の復習、プリント予習		
第9回	平曲譜本の読解と発表(5)	授業の復習、プリント予習		
第10回	平曲譜本の読解と発表(6)	授業の復習、プリント予習		
第11回	平曲譜本の読解と発表(7)	授業の復習、プリント予習		
第12回	平曲譜本の読解と発表(8)	授業の復習、プリント予習		
第13回	平曲譜本の読解と発表(9)	授業の復習、プリント予習		
第14回	平曲を語る(1)	授業の復習		
第15回	まとめ	授業の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70% 期末レポート			
レポート	10% 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	尾崎家本平家正節のプリント配布			
指定図書	奥村三雄『平曲譜本の研究』桜楓社			
参考図書	渥美かをる『平家物語の基礎的研究』大学堂書店			
オフィスワー	講義の前夜	メールアドレス		

授業科目	日本語学概論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	矢毛 達之		単 位	2
授業の目的と概要	<p>私たちが日常何気なく使っている日本語について、様々な視点から「日本語」とは何か、日本語がどのような要素から全体として成り立っているのかを考えます。また、講義を通して「日本語力」の育成を目指します。教科書の章段ごとに日本語の様々な面を考えます。また、ワークシートを使って日本語学の基本としての文章表現についても考えます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語学の基本的な用語・定義などの説明ができる。</li> <li>2. 日本語の音声・音韻について説明ができる。</li> <li>3. 日本語の文法・敬語について説明ができる。</li> <li>4. 日本語の語彙について説明ができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション	予習：教科書Ⅰ章、復習：教科書附属ワークシート		
第2回	言語の特質	予習：教科書Ⅰ章、復習：教科書附属ワークシート		
第3回	音声・音韻①（音声と音韻）	予習：教科書Ⅱ章（1）、復習：教科書附属ワークシート		
第4回	音声・音韻②（日本語の音韻）	予習：教科書Ⅱ章（2）、復習：教科書附属ワークシート		
第5回	音声・音韻③（アクセントとイントネーション）	予習：教科書Ⅱ章（3）、復習：教科書附属ワークシート		
第6回	音声・音韻④（音韻史）	予習：教科書Ⅱ章（4）、復習：教科書附属ワークシート		
第7回	文法①（文法とは）	予習：教科書Ⅲ章（1）、復習：教科書附属ワークシート		
第8回	文法②（口語文法と文語文法）	予習：教科書Ⅲ章（2）、復習：教科書附属ワークシート		
第9回	文法③（文法研究の流れ）	予習：教科書Ⅲ章（3）、復習：教科書附属ワークシート		
第10回	文法④（文法史）	予習：教科書Ⅲ章（4）、復習：教科書附属ワークシート		
第11回	敬語①（敬語の分類）	予習：教科書Ⅳ章（1・2）、復習：教科書附属ワークシート		
第12回	敬語②（敬語史）	予習：教科書Ⅳ章（3）、復習：教科書附属ワークシート		
第13回	語彙①（語彙とは・語義）	予習：教科書Ⅴ章（1・2）、復習：教科書附属ワークシート		
第14回	語彙②（語構成）	予習：教科書Ⅴ章（3）、復習：教科書附属ワークシート		
第15回	語彙③（語彙史と辞書）	予習：教科書Ⅴ章（4）、復習：教科書附属ワークシート		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 定期試験に代る期末レポート			
小テスト等	40% ワークシート他の成果			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 授業への参加度（出席状況を含む）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に積極的に参加してください。また、ノートをきちんととってください。			
教科書	中村萬里ほか『入門 日本語学ワークブック（暁印書館）』			
指定図書	庵功雄『新しい日本語学入門』（スリーエーネットワーク）、伊坂淳一『新ここからはじまる日本語学』（ひつじ書房）			
参考図書	必要に応じ、授業の中で紹介します。			
オフィスアワー	講義の前後	メールアドレス		

授業科目	日本語学概論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	矢毛 達之		単位	2
授業の目的と概要	日本語学概論Ⅰを踏まえたうえで、私達が日常何気なく用いている日本語について、改めて様々な視点から見通すことを目的とします。また「ことば」とは何か、日本語がどのような要素から全体として成り立っているのかを認識することで、多様な問題にアプローチし、考える力を養います。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語学の研究分野・研究法について、基本的な用語・定説などが説明できる。</li> <li>日本語の文字・表記の複雑なシステムについて、歴史的な視点を踏まえた上で現在の状況が説明できる。</li> <li>日本語の文章・文体について、和文・変体漢文・和漢混清文などの様式とそれらの行われた事情が説明できる。</li> <li>日本の言語生活について、歴史的な視点を踏まえた上で現在の状況が説明できる。</li> <li>日本語の方言について、歴史的・地理的その他様々な視点から現在の状況が説明できる。</li> <li>日本語の系統について、現在の通説とその意義とが説明できる。</li> <li>日本語学の諸問題について、自ら調べ、考えることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき60分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション (本授業の全体的な説明)	予習：教科書Ⅵ章～Ⅹ章、復習：教科書付属ワークシート		
第2回	文字・表記①文字とは	予習：教科書Ⅵ章1、復習：教科書付属ワークシート		
第3回	文字・表記②日本の文字	予習：教科書Ⅵ章2、復習：教科書付属ワークシート		
第4回	文字・表記③仮名遣い	予習：教科書Ⅵ章3、復習：教科書付属ワークシート		
第5回	文字・表記④文字史	予習：教科書Ⅵ章4、復習：教科書付属ワークシート		
第6回	文章・文体①文章とは	予習：教科書Ⅶ章1、復習：教科書付属ワークシート		
第7回	文章・文体②文体とは	予習：教科書Ⅶ章2、復習：教科書付属ワークシート		
第8回	文章・文体③文体史	予習：教科書Ⅶ章3、復習：教科書付属ワークシート		
第9回	言語生活①言語生活とは	予習：教科書Ⅷ章1、復習：教科書付属ワークシート		
第10回	言語生活②言語生活史と社会言語学	予習：教科書Ⅷ章2、復習：教科書付属ワークシート		
第11回	方言①方言と共通語	予習：教科書Ⅸ章1、復習：教科書付属ワークシート		
第12回	方言②方言区画	予習：教科書Ⅸ章2、復習：教科書付属ワークシート		
第13回	方言③比較方言学と社会言語学	予習：教科書Ⅸ章3、復習：教科書付属ワークシート		
第14回	方言④方言史	予習：教科書Ⅸ章④、復習：教科書付属ワークシート		
第15回	日本語の系統	予習：教科書Ⅹ章、復習：教科書付属ワークシート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	40% (ワークシート他の成果)			
成果発表	なし			
受講態度他	10% (授業への参加度)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に積極的に参加してください。また、ノートをきちんととってください。			
教科書	中村万里ほか『入門 日本語学ワークブック (暁印書館)』 ※前期に購入していた方は購入の必要はありません。			
指定図書	庵功雄『新しい日本語学入門』			
参考図書	必要に応じ、授業の中で紹介します。			
オフィスアワー	講義の前後	メールアドレス		



授業科目	日本語学特論【講義】		開講時期	後期
担当教員	高井 岩生		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、日本語統語論の論文を批判的に読み、日本語統語論の研究テーマを各自見つけてもらいたい。取り上げるトピックは、(1) 動詞の意味記述（意思性、アスペクト性など）、(2) ボイス（受身文、使役文、可能文、動詞の自他）である。授業は、担当教官の講義及び学生諸君との議論形式で行う。学生諸君には、それぞれの論文の担当を決めてもらい、その学生を中心に議論を行う。未解決な問題点が残れば、それが今後の研究テーマにつながっていくだろう。論文を読み、プレゼンの資料を作るという作業を通して、文献を読み解いていき、必要な情報を取り出して、利用できる形にすることに慣れてもらいたいということも本講義の目標である。</p>			
到達目標	<p>(1) 論文を読み、必要な情報の取捨選択ができる。  (2) 論文で提案されている分析案の妥当性を検証できる。  (3) 分析案の妥当がなければ、その代案をつくることができる。  (4) 論文で取り上げられなかった言語事実を分析できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。  (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。  (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。  (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	トピック（1）の説明、論文の紹介および担当者決め	なし		
第2回	トピック（2）の説明、論文の紹介および担当者決め	担当者は各自論文を読み進めること。		
第3回	動詞の意味記述 動詞の意思性に関わる現象とその分析	担当者は各自論文を読み進めること		
第4回	動詞の意味記述 動詞のアスペクト性に関わる現象とその分析①	各自論文を読み進めること 論文で扱っていない動詞について分析す		
第5回	動詞の意味記述 動詞のアスペクト性に関わる現象とその分析②	各自論文を読み進めること 論文で扱っていない動詞について分析す		
第6回	動詞の意味記述 動詞のアスペクト性に関わる現象とその分析③	各自論文を読み進めること 論文で扱っていない動詞について分析す		
第7回	動詞の意味記述 実際の意味記述の作業	作業内容が理解できたかどうかを確認すること		
第8回	ボイス 受身文①	各自論文を読み進めること 論文で扱っていない受身文について分析		
第9回	ボイス 受身文②	各自論文を読み進めること 論文で扱っていない受身文について分析		
第10回	ボイス 使役文①	各自論文を読み進めること 論文で扱っていない使役文について分析		
第11回	ボイス 使役文②	各自論文を読み進めること 論文で扱っていない使役文について分析		
第12回	ボイス 可能文①	各自論文を読み進めること 論文で扱っていない可能文について分析		
第13回	ボイス 可能文②	各自論文を読み進めること 論文で扱っていない可能文について分析		
第14回	ボイス 動詞の自他	各自論文を読み進めること		
第15回	研究テーマを考える	なし		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない。			
レポート	50% ： 期末レポート（2000字程度）			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50% ： 課題発表及び意見交換等への積極的な取り組みを評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者数の状況等によっては、上記授業計画を変更することがあります。</li> <li>・紹介する事象を参考に、身近な具体例を探し、考察を深めましょう。</li> <li>・情報ソース、アイデア、考察等を記録し整理する、「自分の」方法論を見出しましょう。</li> <li>・先行研究に接することで、論理的な思考法、記述法を意識しましょう。</li> <li>・筆記試験（16回目）は行いません。</li> </ul>			
教科書	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。また、論文は、授業初回時に紹介する。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	授業時に、必要があれば紹介する。			
オフィスアワー	月曜日：5講時	メールアドレス		

授業科目	日本語教育演習Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	鷹野 恵・高田 恭子		単位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための実際的な技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらよいかを知り、できるようになることを目指します。実践力は、オンライン授業により、初級と中級の授業動画分析および教案作成を通して身につけます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教師としての実務をひと通り学び、主に、初級レベルと中級レベルの授業をひととおりこなせるようになる。</li> <li>・教案と授業で使用する教具を作成することができる。</li> <li>・授業では学習者の発話を引き出す、教師のふるまいができるようになる。</li> <li>・交換留学生との交流をとおり、日本語学習状況を観察、把握ができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。  日(4)-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  ア(3)-②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は日本語教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：授業の進め方	この科目での自己目標設定		
第2回	初級の策定（1）：導入・基本練習・応用練習	導入・基本練習・応用練習での具体的な活動例を提示する		
第3回	初級授業の策定（2）：導入・基本練習 クラッシュの5つの仮説	クラッシュの仮説で授業に役立つものを選び考察する		
第4回	話す活動：第二言語習得論を基にした様々な実践	短期研修の活動例を考案する		
第5回	海外で活動する日本語教師	講話でわかったこと、質問をまとめる		
第6回	授業運営：教師のふるまい、学習者の立場を考える	自身の教案作成と照らし合わせ、活動の大きな内容を考案する		
第7回	授業分析	動画を見て、評価基準に沿い、分析する		
第8回	評価および試験・クイズ作成	種々の言語能力測定について整理する		
第9回	国内の日本語学校で活動する日本語教師	講話でわかったこと、質問をまとめる		
第10回	中級授業策定：前作業・本作業・後作業、教材分析	自身の教案作成と照らし合わせ、活動の大きな内容を考案する		
第11回	交換留学生との会話授業	留学生の日本語学習状況を把握し、まとめる		
第12回	漢字の教え方	学習者に効率よく漢字を学習させるポイントを講義を中心に整理する		
第13回	教案フィードバック	全員が提出した教案を各自見て、評価しあう		
第14回	異文化適応：留学生の視点から	講話でわかったこと、質問をまとめる		
第15回	まとめ	この科目全体を通し学んだことをまとめる		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 毎回の授業後の学習がここに含まれます。			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 教案2点（初級・中級）、文法クイズ			
受講態度他	20% 学習活動への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回欠かさず配信物に取り組み、積極的な姿勢で参加してください。</li> <li>・授業見学シートには良い点、改善点をしっかり記入すること。</li> <li>・教案作成は2回（初級・中級）、文法クイズ作成が1回あります。</li> <li>・事前チェックを希望する学生は、10日前までにTeamsにアップロードしてください。授業日直前のチェックは受け付けません。</li> <li>・アドバイスがあった場合は、それを反映した内容で臨んでください。</li> </ul>			
教科書	『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊 第2版』（スリーエーネットワーク） 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 5 6 中級前期 第2版』（スリーエーネットワーク）			
指定図書	なし			
参考図書	『初級を教える人のための文法ハンドブック』白川博之監修（スリーエーネットワーク） 『初級日本語文法と教え方のポイント』市川保子（スリーエーネットワーク）			
オフィスアワー	火曜 4 講時	メールアドレス		

授業科目	日本語教育演習Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	鷹野 恵・高田 恭子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための実際的な技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいのかを知り、できるようになることを目指します。国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点が置かれます。また、即戦力としての人材を育成するため、現場に即した授業の展開のしかたを念頭に、授業を進めます。実践力は、中級の教壇実習を通じて身につけます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教師としての実務をひと通り学び、主に、中級・上級レベルの授業をひととおりこなせるようになる。</li> <li>・初級ですでに習得した文法や語彙と、新たに導入する中級・上級レベルのそれとがどのように異なるかを分析し、学習者に授業のなかで提示できる。</li> <li>・授業では、学習者の発話を引き出す教師のふるまいができるようになる。</li> <li>・交換留学生との交流を通し、日本語学習者を観察、把握ができるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。  日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」  ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は日本語教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション	割り当てられた課の項目分析 (文法学習、授業の構想)、教案作成		
第2回	中級教壇実習 (1) 「音楽と音の効果」導入・精読	項目分析・見学シート		
第3回	中級教壇実習 (2) 「音楽と音の効果」文型と語彙・発展活動	項目分析・見学シート		
第4回	教壇実習 (1)・(2) のふりかえり、授業分析	授業担当者：省察シート、見学者：見学シート		
第5回	中級教壇実習 (3) 「いい数字・悪い数字」導入・精読	項目分析・見学シート		
第6回	中級教壇実習 (4) 「いい数字・悪い数字」文型と語彙・発展活動	項目分析・見学シート		
第7回	教壇実習 (3)・(4) のふりかえり、授業分析	授業担当者：省察シート、見学者：見学シート		
第8回	中級教壇実習 (5) 「「おもしろい」日本」導入・精読	項目分析・見学シート		
第9回	中級教壇実習 (6) 「「おもしろい」日本」文型と語彙・発展活動	項目分析・見学シート		
第10回	教壇実習 (5)・(6) のふりかえり、授業分析	授業担当者：省察シート、見学者：見学シート		
第11回	中級教壇実習 (7) 「くしゃみ」導入・精読	項目分析・見学シート		
第12回	交換留学生との会話パートナー	レポート：交換留学生の日本語学習状況の観察		
第13回	中級教壇実習 (8) 「くしゃみ」文型と語彙・発展活動	項目分析・見学シート		
第14回	教壇実習 (7)・(8) のふりかえり、授業分析	授業担当者：省察シート、見学者：見学シート		
第15回	まとめ	ポートフォリオ整理 (教案、教具、評価シート、省察シート、ふりかえり)		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 詳細は最初の授業で指示します。			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 教案および模擬授業を評価します。			
受講態度他	20% 学習活動への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。  授業見学シートには良い点、改善点をしっかり記入すること。  授業実践は2回 (学習者は交換留学生) です。  事前チェックを希望する学生は、10日前までに筑女ネットにアップロードしてください。授業日直前のチェックは受け付けません。アドバイスがあった場合は、それを反映した内容で臨んでください。</p>			
教科書	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 5 6 中級前期 第2版』スリーエーネットワーク			
指定図書	なし			
参考図書	グループジャマシイ『日本語文型辞典』くろしお出版			
オフィスアワー	火曜 5 講時	メールアドレス		

授業科目	日本語教育法A I【講義】	開講時期	前期
担当教員	鷹野 恵	単 位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための基礎知識と技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいのかを考えます。国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点が置かれます。</p> <p>授業は、原則教科書に沿い、進めます。また、都度、まとめのレポートと小テストで段階的に知識を身につけていきます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教師としての技能を身につける最初の段階として、基礎的な知識を学び、日本語教育の全体像を理解する。</li> <li>日本語の文法や音声を日本語学習者の視点から観察し、概要を体系的に説明することができる。</li> <li>日本語を外国語としてみる視点を習得する。</li> <li>日本国内における日本語を母語としない人々に対する日本語支援のあり方を理解する。</li> <li>どのようにしたらことば（母語と第二言語）が習得できるかといった過去の研究を概観し、その知見を授業で効果的に活かすことができる。</li> </ul>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>日(2)-①多様な価値観を尊重し、他者につながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。 英(2)-①多様な価値観を尊重し、他者につながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英(3)-②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。 ア(2)-①多様な価値観を尊重し、他者につながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 ア(3)-②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回	イントロダクション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第2回	言語としての日本語	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第3回	日本語の音声（1）基本的な日本語の音声概観	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第4回	日本語の音声（2）学習者に対する発音指導	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第5回	「日本語学校の仕事」※ずれる可能性あり	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第6回	日本語の文法（1）日本語のレベルと文法の関係他	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第7回	日本語の文法（2）日本語文法をどう学習者に提示するか	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第8回	文字・表記	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第9回	語彙	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第10回	社会言語学（1）ことばの使い分けとは	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第11回	社会言語学（2）文法外のコミュニケーション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第12回	心理学（1）学習（learning）とは？	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第13回	心理学（2）心理学と日本語教育の関わり	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第14回	第二言語習得（1）第二言語を学ぶプロセスとは	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第15回	まとめ	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	小レポート15%（7.5%×2回）、期末レポート15% 詳細は最初の授業で指示します。		
小テスト等	40% 詳細は最初の授業で指示します。		
成果発表	なし		
受講態度他	30% 学習活動への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。		
教科書	『新・はじめての日本語教育1』高見澤孟他（アスク）		
指定図書	なし		
参考図書	『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊』（スリーエーネットワーク） 『みんなの日本語 初級Ⅱ 本冊』（スリーエーネットワーク）		
オフィスアワー	TeamsやE-mailで個別にご相談ください。日時を決めたり、その場でやりとりをします。	メールアドレス	

授業科目	日本語教育法AⅡ【講義】		開講時期	後期
担当教員	鷹野 恵		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための基礎知識を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらよいかを考えます。国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点を置きます。</p> <p>授業は、原則教科書に沿い、進めます。小テストで段階的に復習をしながら、知識を整理していきます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教師としての技能を身につける最初の段階として、基礎的な知識を学び、日本語教育の全体像を知ること。</li> <li>主には各レベルの学習者にどのように授業を行うのかを知ること。</li> <li>本授業は、学んだことを実際にやってみる「日本語教育演習Ⅰ・Ⅱ」への前段階としての位置づけがあります。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。  英(2)-①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  英(3)-②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。  ア(2)-①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  ア(3)-②-1アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	イントロダクション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第2回	日本語教師の役割	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第3回	日本語を教えるということ	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第4回	初級の教え方(1)発音	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第5回	初級の教え方(2)会話	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第6回	初級の教え方(3)文字	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第7回	初級の教え方(4)読解	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第8回	中上級の教え方(1)会話	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第9回	中上級の教え方(2)聴解	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第10回	中上級の教え方(3)読解	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第11回	中上級の教え方(4)情報収集	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第12回	中上級の教え方(5)その他のクラス指導	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第13回	評価と試験	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第14回	いろいろな外国語教授法	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第15回	ふりかえり	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	20% 詳細は最初の授業で指示します。			
レポート	30% 詳細は最初の授業で指示します。			
小テスト等	30% 詳細は最初の授業で指示します。			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 学習活動への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。			
教科書	『新・はじめての日本語教育2』高見澤孟他(アスク)			
指定図書	なし			
参考図書	『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊』(スリーエーネットワーク) 『みんなの日本語 初級Ⅱ 本冊』(スリーエーネットワーク)			
オフィスアワー	木曜 1 講時	メールアドレス		

授業科目	日本語教育法B I 【講義】		開講時期	前期
担当教員	鷹野 恵		単位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための実際的な技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいのかを知り、できるようになることを目指します。国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点を置きます。都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。</p>			
到達目標	<p>・日本語教師としての実務をひと通り学び、初級の教案作成および授業運営について体得します。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。  英(2)-①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  英(3)-②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。  ア(2)-①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  ア(3)-②-1アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第2回	いろいろなシラバス	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第3回	第二言語の習得の様相	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第4回	初級の授業の全体像	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第5回	初級の授業 導入(1)学習者に気づきを与える導入とは	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第6回	初級の授業 導入(2)導入のバリエーション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第7回	初級の授業 基本練習(1)流暢さと自動化を促すパターンプラクティスとは	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第8回	初級の授業 基本練習(2)パターンプラクティスのバリエーション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第9回	初級の授業 応用練習(1)「自分のことば」で話すための活動とは	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第10回	初級の授業 応用練習(2)応用練習のバリエーション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第11回	初級の授業 応用練習(3)応用練習の留意点	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第12回	初級の教材分析(1)文型シラバスの教材	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第13回	初級の教材分析(2)文型シラバス以外の教材	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第14回	授業案検討	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第15回	まとめ	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	授業内の小課題…40% 期末レポート(初級の教案作成)…40%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 学習活動への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。			
教科書	『みんなの日本語 初級 I 本冊 ※第2版』(スリーエーネットワーク) ※第1版ではありません			
指定図書	適宜、提示します。			
参考図書	『初級を教える人のための文法ハンドブック』白川博之監修(スリーエーネットワーク) 『初級日本語文法と教え方のポイント』市川保子(スリーエーネットワーク)			
オフィスアワー	TeamsやE-mailで個別にご相談ください。日時を決めたり、質問や相談によってはその場で対応します。	メールアドレス		

授業科目	日本語教育法BⅡ【講義】	開講時期	後期
担当教員	鷹野 恵	単 位	2
授業の目的と概要	「外国語としての日本語」を教えるための実践的な技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいのかを知り、できるようになることを目指します。授業は、国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点が置かれます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教育における中級レベルがどのようなものであるのかを理解する。</li> <li>・総合教科書『中級を学ぼう 中級前期』の分析を通し、この教科書を用いた授業を構成することができる。</li> <li>・他者に見せる教案を書くことができる。</li> <li>・初級の文型・語彙と比較しながら、項目分析ができる。</li> <li>・中級の学習者に文型・語彙を提示し、練習させることができる。</li> <li>・授業において、学習者の発話を引き出す教師のふるまいができる。</li> <li>・交換留学生との交流を通し、日本語学習者を観察、把握ができるようになる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日(2)-①多様な価値観を尊重し、他者につながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 日(3)-②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。 英(2)-①多様な価値観を尊重し、他者につながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英(3)-②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。 ア(2)-①多様な価値観を尊重し、他者につながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 ア(3)-②-1アジアの諸言語を用いて適切なコミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第2回	中級の授業の体験	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第3回	中級の授業の構成	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第4回	教材分析(1) 分析の観点の整理	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第5回	教材分析(2) 項目分析	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第6回	教材作成の方法・教師のふるまい(クラスコントロール)	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第7回	模擬授業(1):第1課 音楽と音の効果	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第8回	模擬授業(2):第2課 いい数字・悪い数字	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第9回	模擬授業(3):第3課 「面白い」日本	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第10回	模擬授業(4)第5課 私の町	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第11回	模擬授業(5)第6課 この日に食べなきゃ、意味がない!	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第12回	模擬授業(6)第7課 お相撲さんの世界	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第13回	模擬授業(7)第8課 第一印象	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第14回	模擬授業の検討	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第15回	まとめ「中級の授業策定とは」	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% 中級授業の教案		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	60% 学習活動への積極的参加・毎週の課題のできばえ		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。		
教科書	『中級を学ぼう 中級前期 第2版』(スリーエーネットワーク)		
指定図書	なし		
参考図書	『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』白川博之監修(スリーエーネットワーク) 『中級日本語文法と教え方のポイント』市川保子(スリーエーネットワーク)		
オフィスアワー	月曜 5講時	メールアドレス	

授業科目	日本語教材研究【講義】		開講時期	後期
担当教員	鷹野 恵		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための基礎知識と技能を身につけることが目的です。教材・教具は教師が授業をするうえでもっとも重要な道具です。その道具を「見る目」を身につけることを目的とします。</p> <p>授業は、プリントによって進めます。また、調べ学習、グループ学習、体験等を通した学びを目指します。また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、現場で多く採用されている日本語の教科書を題材に分析を行い、各教材の特徴を理解することができる。</li> <li>・教材の特徴を理解したうえで、使用方法についていくつかの道筋を立てることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。  英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は日本語教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 教具とは何か		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第2回 日本語教材選択の視点		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第3回 学習者を知る ―レディネス調査・ニーズ調査―		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第4回 教科書の構成		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第5回 教科書の種類（一般成人・留学生、ビジネスパーソン、技術研修生、年少者）		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第6回 教材分析（1）初級：構造シラバス		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第7回 教材分析（2）初級：構造シラバス以外		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第8回 教材分析（3）中級：一般成人・留学生対象		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第9回 教材分析（4）中級：一般成人・留学生対象以外		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第10回 教科書以外の教具―カード類、音声教材―		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第11回 教材使用法検討（1）初級の場合		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第12回 教材使用法検討（2）中級の場合		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第13回 教材使用法検討（3）上級の場合		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第14回 日本語教育の現状―留学生・技術研修生・年少者・海外―		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第15回 まとめ		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%（全3回）各回、選択した日本語教材を分析したものを提出する			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	70% 全15回の授業を受け、小課題に取り組んでください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。			
教科書	深澤のぞみ・本田弘之（2019）『日本語を教えるための教材研究入門』くろしお出版			
指定図書	なし			
参考図書	吉岡英幸（2008）『徹底ガイド 日本語教材』凡人社 国際交流基金（2008）『教材開発』ひつじ書房			
オフィスワー	木曜4講：メールで連絡を事前に行うこと	メールアドレス		



授業科目	日本語基礎演習【演習】		開講時期	前期
担当教員	小松 明日佳		単位	1
授業の目的と概要	<p>本演習は、日本語による表現を意識的に対象化することで問題点を把握し、文章を上達させることを目的とする。結果として明快で整合性ある文書を作成できるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母語である日本語を意識的な対象として捉え直すことができる。</li> <li>2. 日本語の基本的な言語事実を論理的に説明できるようになる。</li> <li>3. 文書の目的に応じて適切な表現・記述ができるようになる。</li> </ol> <p>毎回、まず技能編の解説を受けてその内容を理解する。その後練習問題に取り組み、知識の定着を図る。別途、知識編に対応した小テストにも取り組む。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読点、語順等基本的な語法を理解している。</li> <li>2. 表現選択について明確な基準を確立している。</li> <li>3. 事実と意見の書き分けが正確にできる。</li> <li>4. 接続詞を正しく使うことができる。</li> <li>5. 文脈や状況に合わせて文の長さを的確に設定できる。</li> <li>6. 敬語の規範について十分に理解している。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション (授業の目指すところと進め方)	復習 授業内容		
第2回	【技能編】 話し言葉と書き言葉	予習 p. 6～11		
第3回	【技能編】 文の組み立て 【知識編】 漢字の読み方と言葉の意味 (難読語その1)	予習 p. 12～p. 15 p. 70		
第4回	【技能編】 視点 【知識編】 漢字の読み方と言葉の意味 (難読語その2)	予習 p. 16～p. 19 p. 71		
第5回	【技能編】 文のつながり方 【知識編】 漢字の読み方と言葉の意味 (文脈によって意味とよみのかわるもの)	予習 p. 20～p. 25 p. 72～73		
第6回	【技能編】 意味の限定 【知識編】 同音・同訓異義語の使い分け (その1)	予習 p. 26～p. 29 p. 74～p. 75		
第7回	【技能編】 言葉の順序 【知識編】 同音・同訓異義語の使い分け (その2)	予習 p. 30～p. 33 p. 76～p. 77		
第8回	【技能編】 定義・分類の表現 【知識編】 同音・同訓異義語の使い分け (その3)	予習 p. 34～p. 39 p. 78～p. 79		
第9回	【技能編】 比較・対照の表現 【知識編】 類義語の使い方	予習 p. 40～p. 45 p. 80～p. 81		
第10回	【技能編】 列挙・順序・因果関係の表現 【知識編】 対義語の使い方	予習 p. 46～p. 51 p. 82～p. 83		
第11回	【技能編】 引用の表現 【知識編】 言葉の呼応	予習 p. 52～p. 54 p. 84～p. 85		
第12回	【技能編】 敬語 【知識編】 定型表現・慣用句	予習 p. 56～p. 61 p. 86～p. 87		
第13回	【技能編】 注意すべき敬語 【知識編】 四字熟語	予習 p. 62～p. 67 p. 88～p. 89		
第14回	作文演習1：自己紹介文 【知識編】 仮名づかい・送り仮名の使い方	予習 p. 90～p. 91 作文演習の準備		
第15回	作文演習2：論証的な文	作文演習の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%：作文演習1、2 (各15%)			
小テスト等	60%：第3回～第14回練習問題解答およびコメントカード (各5%)			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。			
教科書	名古屋大学日本語表現研究会 『日本語表現ノート』 三弥井書店			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	日本語コミュニケーションゼミナール【演習】		開講時期	後期
担当教員	吉野(嘉)・橋本(嘉)・岡本(文)・橋本(嘉)・須藤(遙)・坂本(隆)		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「基礎ゼミナール」に引き続き、これから大学での学修を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを向上させることに加えて、周囲との円滑な意見交換のための能力を身につけることなどが含まれています。</p> <p>また、言葉のエキスパートとして活躍しているアナウンサー、記者経験者による特別講義を受講し、実社会における「言葉の力」について考えることで、コミュニケーションについての理解を深めます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 問題解決に必要な情報を集め、分析、整理することができる。</li> <li>2. 受講生同士の対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる。</li> <li>3. 自分の意見をプレゼンテーションやレポートを通して表現することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には放送関係企業での実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			テーマを考える。	
第2回 テーマ設定 口頭発表等			テーマの修正等	
第3回 情報収集・整理			書籍・論文等資料を探し、プレゼンのための情報収集・整理	
第4回 プレゼンテーション① 構成・パワーポイント資料の作成			プレゼンの準備(パワーポイント資料作成) 教科書p110-p113	
第5回 プレゼンテーション② 発表 前半			資料収集と整理	
第6回 プレゼンテーション③ 発表 後半			プレゼンのまとめ レポート構成の検討等	
第7回 ディベートの作法			ディベートのための情報収集と整理	
第8回 特別授業① (11月21日土曜日の3限) RKBアナウンサー 田畑竜介氏 テーマ「聞く力」			「聞く力」について考えたことをまとめる。	
第9回 特別授業② (11月21日土曜日の4限) RKBアナウンサー 田中みずき氏 テーマ「伝える力」			「伝える力」について考えたことをまとめる。	
第10回 特別授業③ (11月28日土曜日の3限) 読売新聞「新聞のちから委員会」講師 高橋淳夫氏 テーマ「読む力」			「読む力」について考えたことをまとめる。	
第11回 特別授業④ (11月28日土曜日の4限) 読売新聞「新聞のちから委員会」講師 高橋淳夫氏 テーマ「書く力」			「書く力」について考えたことをまとめる。	
第12回 ディベートの実践			ディベートのまとめ他	
第13回 レポートの実践① 執筆準備			レポートの執筆	
第14回 レポートの実践② 執筆			レポートの執筆と修正	
第15回 レポートの実践③ 執筆&提出 まとめ			レポートの執筆と修正	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	40% レポート			
小テスト等	0% なし			
成果発表	30% 口頭発表(10%)、PPによるプレゼンテーション(20%)			
受講態度他	30% 小課題(15%)、受講態度など(15%)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>必修科目なので全員受講し、遅刻・欠席をしないよう心がけてください。アナウンサーや記者経験者を講師とする特別講義は、すべてのクラスで11月21日(土)と11月28日(土)に実施します。</p> <p>注) 担当教員によってクラスによって授業の進め方が異なります。各教員が授業スケジュールを説明するので、注意してください。</p>			
教科書	世界思想社編集部 『大学生 学びのハンドブック』(4訂版) 世界思想社			
指定図書	なし			
参考図書	各担当者から指示がある場合があります。			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	日本語とジェンダー【講義】		開講時期	前期
担当教員	高山 百合子		単位	2
授業の目的と概要	<p>私たちの言語行動は、社会の支配関係からさまざまな影響・制約を受けている。この授業では、その影響・制約のうち、ジェンダーの観点から、歴史的な変化・変遷も考慮に入れながら日本語・日本語表現を観察し、その構造や特徴の概要を説明できるようになることが目的である。「～らしさ」の固定観念に捕われることなく、自由なものの方で取り組んでいきたい。</p> <p>■「ジェンダー」とは何だろうか。また、「ことば」と「ジェンダー」の関係を考えるというのはどういうことか。我々のイメージの中にある女ことば・男ことば（女性語・男性語）とはどういうもので、その実態は何なのか。女ことばの歴史や、現代のことばづかいを振り返りながら、その本質を改めて問い直し、日本語とジェンダーとの関わりについて、いちおうの見解を出していきたい。</p> <p>■テキストの読解をもとに、担当するテーマについて考え、発表する演習形式を取り入れて、授業を進める。</p>			
到達目標	<p>1. 日本語のジェンダー的な側面が観察でき、それについて客観的な評価ができる。</p> <p>2. 日本語のしくみの面白さ、奥深さを認識することで、ことば全体に興味をもてるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日(3)-②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>【関連する科目】女性の生き方を考える副専攻授業科目（学生便覧参照）</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回：オリエンテーション／「ジェンダー」の背景——ベアテ・シロタ・ゴードンの日本国憲法との関わり等を参考にして考える		感想レポート作成（社会の変化とジェンダー）①		
第2回：「ジェンダー」の概念について——ことばとの関わり		感想レポート作成（現代を中心に）②		
第3回：「役割語」という考え方		感想レポート作成（役割語について）		
第4回：ジェンダーと言語研究、「位相語」としての女性語・男性語		テキスト予習；通読して、各自考えをまとめる		
第5回：「女ことば」の歴史概観		テキスト予習（はじめに、序章）		
第6回：テキスト序章から考える（ディスカッションを含む）		テキスト予習（第1章）		
第7回：テキスト第1章担当者、まとめ、考察など発表		テキスト予習（第2章）		
第8回：テキスト第2章担当者、まとめ、考察など発表		テキスト予習（第3章）		
第9回：テキスト第3章担当者、まとめ、考察など発表		テキスト予習（第4章）		
第10回：テキスト第4章担当者、まとめ、考察など発表		テキスト予習（第5章）		
第11回：テキスト第5章担当者、まとめ、考察など発表		テキスト予習（第6章）		
第12回：テキスト第6章担当者、まとめ、考察など発表		テキスト予習（第7章）		
第13回：テキスト第7章担当者、まとめ、考察など発表		テキスト予習（第8章）		
第14回：テキスト第8章担当者、まとめ、考察など発表		感想レポート④		
第15回：[ディスカッション]；「現代の女性語」、授業のまとめ		期末レポート作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	特になし			
レポート	感想レポート（20%）、期末レポート（50%）			
小テスト等	なし			
成果発表	担当箇所演習発表（30%）			
受講態度他	遅刻・欠席を含め、ディスカッションへの参加状況など、評価の際考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>(1) ことばと「ジェンダー」との関わりを自分自身の問題ととらえ、自らの考えを深めていく積極性を重視したい。グループワーク、ディスカッションなどには前向きに取り組んでほしい。</p> <p>(2) テキストはあらかじめ通読しておくこと。</p> <p>(3) 課題やレポートは、原則として授業中にコメントを付して返却する。</p>			
教科書	中村桃子『女ことばと日本語』（岩波新書）			
指定図書	金水敏『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』（岩波書店）、定延利之『日本語社会のぞきキャラくり』（三省堂）			
参考図書	中村桃子『〈性〉と日本語—ことばが作る女と男』NHKブックス（No. 1096）、寿岳章子『日本語と女』（岩波新書）、金水敏『〈役割語〉小辞典』（研究社）			
オフィスアワー	基本的には、常時メールで質問・相談に対応します。	メールアドレス		

授業科目	日本語の現在【講義】		開講時期	前期
担当教員	中川 茂		単 位	2
授業の目的と概要	<p>文章や言葉での表現力を磨き、価値観が多様化する中でも諸課題に的確に対応することを目指します。日本語の4技能を適切に使用し、実社会での生活力やコミュニケーション能力を高めることを目指します。具体的な時事ニュースや話題などを素材に、報道の文章が事象をどう伝えようとしているのか、情報伝達の背景や工夫を考察します。</p> <p>現代社会の多様な出来事に関心を持ち、基礎的な知識を幅広く身に付けます。社会問題の本質を正しく理解し、改善に向けて主体的に価値判断する力を養います。</p>			
到達目標	<p>1、新聞記事など報道文章を参考に、的確で説得力のある文章を書くことができる。</p> <p>2、ニュースや話題に詳しくなり、自分なりの意見や感想をしっかりと持つことができる。</p> <p>3、社会人に必要な「報告、連絡、相談」などで、分かりやすく論理的な話し方、書き方ができる。</p> <p>4、社会の課題や利害関係の複雑さを理解し、多様性を認め合うことの大切さを、思い起こすことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション。授業の概要や計画、授業の進め方、受け方の留意点など。	気になるニュースのチェック		
第2回	ニュースとは何か。気になるニュース。偽ニュース。模擬取材・原稿執筆。	気になるニュースのチェック		
第3回	メディアとは、情報社会とは。意思伝達の仕組み。「情報偏食」の罠。	気になるニュースのチェック		
第4回	報道の現場。的確に、簡素に、分かりやすく伝えるために。工夫、努力、試行錯誤、葛藤。	気になるニュースのチェック		
第5回	文章の書き方の基本（上）。文章の種類、表現の多様性、間違いやすい用語、人権への配慮。	エッセイを書く		
第6回	文章の書き方の基本（下）。紹介文、案内文。構成や書き出しの知恵。企画力の大切さ。	エッセイを書く		
第7回	依頼文書の書き方。構成や見出し。簡潔で分かりやすい整理。	依頼文書を書く		
第8回	プレゼンテーション文章の書き方。結論や大事な要素を冒頭に。背景やプロセスは後に。	プレゼンテーション文章を書く		
第9回	活字メディアとデジタルメディア。双方の長所や短所。スマホとの上手な付き合い方。	気になるニュースのチェック		
第10回	時代、世相と言言葉の変遷。変わる語義、定着する新語、若者言葉の常識と非常識。	新語、流行語のチェック		
第11回	主権者教育。若者の社会参加の意義や課題。騙されない賢い消費者、ブラックバイトの現実。	マララさんのノーベル賞受賞演説を読む		
第12回	進む社会の国際化。求められる多様性への寛容さ。多言語サービス。国際感覚。	国際化関連のニュースをチェック		
第13回	東アジア大交流時代。九州・福岡の果たすべき役割と可能性を探る。	国際化関連のニュースをチェック		
第14回	男女共同参画社会。多様な働き方の現在と今後。セクハラ、マタハラ。企業の社会的責任。	共同参画関連のニュースをチェック		
第15回	総まとめ。社会人に求められる能力、資質、課題探求力。	気になるニュースのチェック		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ エッセイ、依頼文章、プレゼンテーション文章など。 レポートは適宜フィードバックします。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ レポート（課題回答）の返却の状況（様式や提出期限）など。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は講義形式で行います。毎回資料を準備し、質問や意見など対話を重視して進めます。テレビや新聞、スマホなどで、折に触れニュースや話題に接してください。そのうえで、感心したり、怒りを感じたり、評価が難しかったりする事柄や表現を、心にとどめておくよう心がけてください。			
教科書	教科書なし。 毎回プリントを配布。			
指定図書	なし。 一度、当日の朝刊。			
参考図書	外山滋比古 「日本語の作法」 （新潮文庫） 本多勝一 「日本語の作文技術」 （朝日新聞出版）			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	日本語表記論【講義】	開講時期	前期
担当教員	小野 望	単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語学の基幹科目として設置されているものである。</p> <p>日本語の表記様式成立の経緯をたどることにより、言語学の課題としての文字・表記論について理解する。それとともに、文化的・社会的存在として言語を位置付け、豊かな言語感覚と適切な表現力・コミュニケーション力を身につけることを目的とする。</p> <p>日本語表記の最大の特徴は、複数の文字種（漢字・ひらがな・カタカナ・アルファベット・顔文字（^_^））を交用することにある。このような表記形態は、独自の文字を持たない段階で中国語の文字である漢字を受け容れてから、千年以上に及ぶさまざまな経緯の上に成り立ったものだ。そして、その歴史は、文字・表記の推移にとどまらず、語彙・文章様式と密接に関わってきた。私たちが毎日使っている「文字」とは何なのか、どうしてこう書くのか、将来どうなるだろうか。さまざまな疑問を解く鍵を、幅広く</p>		
到達目標	<p>(1) 言語にとって「文字とは何か」ということが説明できる。</p> <p>(2) 私たちが使っている文字の種類、性質を説明できる。</p> <p>(3) それぞれの文字種の使用の経緯から、表記と文体を関係づけて述べることができる。</p> <p>(4) 現代日本語表記の課題を列挙し、意見を述べるができる。</p> <p>(5) 日本語表記の将来についての予測を、具体的に述べるができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 文字とは何か 参考資料 (文字の役割)	: 「文字」の定義、役割、種類	課題: トイレマークは文字か? 「文字」の定義を確認する。	
第2回 文字の歴史 参考資料 (古代文字の姿、表語文字から表音文字へ)	: 表意文字から表音文字へ	課題: 文字の種類を整理する。	
第3回 漢字の歴史 参考資料 (文字と文化)	: 東アジアの文字の歴史	課題: 現代日本語の文字の種類を整理する。	
第4回 日本語の表記 参考資料 (表記の実態)	: 表記-用語-文体に関連がある	課題: 日本語表記の特色を確認する。	
第5回 日本語と漢字 参考資料 (漢字の受容)	: 上代: 漢字を受容するということとは?	課題: 参考資料を読み、概要を整理する。	
第6回 日本語と漢字 (2) 参考資料 (上代の表記)	: 上代~中古: 日本語を書くということ	課題: 日本における漢字使用について整理する。	
第7回 日本語と漢字 参考資料 (上代表記の留意点)	: 漢字の受容~仮名の成立	課題: 参考資料を読み、日本語史上の位置付けを考察する。	
第8回 古代表記行動の二面性 参考資料 (仮名の成立)	: 理解と表現	課題: 二種類の仮名が成立した理由を考察する。	
第9回 「場」の違い 参考資料 (仮名と文体)	: ひらがな文と漢字カタカナ交じり文	課題: 参考資料を読み、表記と文体の関係について考察する。	
第10回 表記と文体 参考資料 (表記と文体)	: 書かれたものは残る	課題: 参考資料を読み、概要を整理する。	
第11回 表記のルール 参考資料 (仮名遣い)	: 定家仮名遣いと歴史的仮名遣い	課題: 参考資料を読み、仮名遣い成立の背景を考察する。	
第12回 表記のルール 参考資料 (表記のルール)	: 現代仮名遣い・常用漢字	課題: 現代日本語の表記のルールを確認する。	
第13回 日本語表記の課題 参考資料 (迷う書き分け)	: 日本語に正書法はあるのか?	課題: 日本語の表記ルールについて現状の問題点を探す。	
第14回 カタカナの勢力拡大 参考資料 (カタカナ語)	: 漢字・漢語が減るとラクですか?	課題: 漢字・漢語が減ることについてメリット、デメリットを整理する。	
第15回 日本語表記の将来 PC、スマホ、OKグーグル...で、日本語表記はどうなる?	: どうなる? 日本語 (^o^)	課題: 日本語表記の将来について考察する。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0% 筆記試験は行わない。		
レポート	70% 授業中の課題の積み重ねを、レポートとして評価する。		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	30% 授業中の課題のうち、必須でない課題などの考察を評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>配布の参考資料を読んで講義に参加し、講義内容と合わせて各回のテーマについてまとめましょう。</li> <li>スクリーン上にプレゼンテーションを提示する場合、最前列付近の照明を落とすことがあります。</li> <li>上記プレゼンテーションのほか、講義概要・参考資料・授業中の課題等を筑女ネットに提示します。</li> <li>講義は概ね時代を追って進めます。これらと合わせて、現代日本語の表記ルールとの関連を確認し、適切な表現（表記）を身につけるよう意識しましょう。</li> </ul>		
教科書	使用しない。各テーマの参考資料を配布する。		
指定図書	使用しない。		
参考図書	佐竹秀雄・佐竹久仁子著『ことばの表記の教科書』ペレ出版ほか、授業中に紹介する。		
オフィスアワー	月曜日：5 講時、火曜日：5 講時	メールアドレス	

授業科目	日本語表現演習Ⅰ【演習】		開講時期	後期
担当教員	高山 百合子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語の4技能のうち、とくに「読み、書く力」を実践的に身につけていくことを直接の目的とする。「読み、書く力」が付いていけば、論理的思考力を高めていくことができる。ひいてはコミュニケーション力の総合的なレベルアップをめざす。</p> <p>4年次に「卒業論文」に取り組み、まとめ上げる力につなげることも具体的な目標である。</p> <p>■正確でわかりやすい文章を〈書く〉ことに重点を置いて、演習形式で文章作成を実践していく。また、発表やスピーチ、ディスカッション等の機会を作り、音声言語表現についても練習する。</p> <p>■「書く力」をつけるためには、多くの文章を読んで頭の中に理想とする文章をイメージできることが必須の条件である。文章の題材作りのためにも、文章読解を積極的に行う。</p>			
到達目標	<p>(1) 起承転結の型を使って、正確でわかりやすい文章が書けるようになる。</p> <p>(2) 発表やスピーチ等の機会を得て、音声表現も起承転結の型を意識できるようになる。</p> <p>(3) 〈書く〉ために必要な、資料等の読解力、発想力、構成力、表現力などの力を向上させる。</p> <p>(4) 実作を行う中で、自己理解を深め、長所を伸ばし、弱点が補えるようになる。</p> <p>(5) 言語規則や社会的マナーに配慮して、適切な表現を選択することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>【関連する科目】日本語表現演習Ⅱ、プレゼンテーション演習、ビジネス文書作成など</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション：授業目標の確認（ディスカッション）、授業計画の説明、各自の目標設定（発表）、他	自分自身の到達目標の設定・確認、課題プリント（文章作成の基本について）		
第2回	文章表現の全体像（正確でわかりやすい文章とは）	課題プリント（文章の構成について）		
第3回	文章表現の全体像（段落構成）	課題作成（段落構成について）		
第4回	主題の展開・段落構成のあり方；ブレインストーミングの実践	課題作成（ブレインストーミングからの主題文作成）		
第5回	要約について；基本的な考え方と作成要領	課題作成（要約の基本）		
第6回	要約の実作と評価・講評（発表）	課題作成（要約練習）		
第7回	要約からの展開；要約からの主題文作成（発表）	課題作成（主題文作成）		
第8回	主題文からの展開；構想を立てる	課題作成（文章作成①）		
第9回	文章の評価・講評（発表、ディスカッション）	作成した文章の修正、清書		
第10回	伝わる文章表現	課題作成（文章チェック練習）		
第11回	文章表現の手順（確認）；ブレインストーミングによる主題文の作成、構想を立てる、執筆、評価まで	課題作成（構想表の作成）		
第12回	実作、および自己の文章チェック	課題作成（文章作成②）		
第13回	音声表現の全体像（わかりやすい発表・スピーチとは）	課題作成（スピーチ原稿作成）		
第14回	発表・スピーチの実践	課題作成（主題文、構想表作成）		
第15回	まとめ	課題作成（文章作成③）		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	特になし			
レポート	50％（3回程度実作を行なって、評価する）			
小テスト等	特になし			
成果発表	10％			
受講態度他	50％。課題の提出状況・出席状況を加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◇国語辞典を持参してくること。</p> <p>◇課題が成績評価の対象になるので、期限を守って提出すること。</p> <p>◇受講生の作成した文章は、添削・評価し、原則として授業中にコメントを付して返却する。</p>			
教科書	プリント使用			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	木曜2講時	メールアドレス		

授業科目	日本語表現演習Ⅰ【演習】		開講時期	後期
担当教員	坂井 伸子		単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語の基本である「話す、聞く、書く、読む」の4つの言語活動の中から、特に「聞く・読む・書く」力を身につけることを目的とする。具体的には、論理的な文章を書くための知識を増やし、そのルールにのっとり、実際に調べる活動を行う中で「読む力」を、また、調べた内容を論理的にまとめる中で「書く力」をつけます。最終的に実作を行い、論理的な文章を書く力をつけていきます。</p> <p>①論理的な文章について学ぶ。  ②資料の探し方、引用の仕方について学ぶ。  ③①②の知識をもとに、実作を行い、論理的な文章を作る。</p>			
到達目標	<p>(1) メモやノートテイキングのコツについて学び、音声情報をもとに、情報収集力・思考力を高めることができる。  (2) 論理的な文章を書くために、様々な資料や適切な文献等から情報収集を行うことができる。  (3) 内容・構成・言葉づかいのきまりをふまえ、論理的な文章を書くことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -②-1 日本語の4技能(読む・書く・聞く・話す)を適切に使用することができる。  (4) -①-これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション ①授業の目的		【課題】 授業の復習・アンケート		
第2回 マナーを身につける ①大学の講義について		【課題】 授業感想		
第3回 大学で求められる文章とは？ ①レポートと感想文の違い		【課題】 関心のあるテーマについて考える。		
第4回 言葉づかいのきまり ①話し言葉と書き言葉		【課題】 授業感想		
第5回 文章の構成について ①説得力のある文章		【課題】 テーマを選ぶ。		
第6回 レポート作成の準備 ①資料の探し方		【課題】 テーマについて詳しい調査をする。		
第7回 引用とは？ ①引用の目的		【課題】 授業感想		
第8回 構成メモの書き方 ①調べたことをもとにメモづくりをし、結論を導く		【課題】 構成メモを完成させ提出。		
第9回 構成メモをもとに成文化する。 ①下書きを書く		【課題】 下書きを完成させ、提出。		
第10回 推敲のしかた ①推敲のポイントについて		【課題】 推敲した文章を清書して、提出。		
第11回 新しいテーマについて 前半の振り返りと新しいテーマについて		【課題】 授業感想		
第12回 レポートの書き方の確認 ①注意点と反省点の確認		【課題】 構成メモを完成させ、提出。		
第13回 成文化 ①成文化する際の注意点		【課題】 下書きを完成させ提出。		
第14回 推敲 ①推敲についての注意点		【課題】 自身の文章を推敲をする。		
第15回 まとめ 最終レポートを完成させる。		【課題】 最終レポートの提出。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% (2つの課題の清書の評価)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 2つの課題の清書を除いた、課題や授業感想の提出状況を加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・各回の提出物は、すべて評価の対象とします。  ・定期試験(筆記試験)は行いません。</p>			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	授業中に紹介する。			
オフィスアワー	授業前後	メールアドレス		

授業科目	日本語表現演習Ⅰ【演習】		開講時期	後期
担当教員	山下 和弘		単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語の4技能のうち、「読み、書く力」を実践的に身につけることを目的として、文章を書く練習を中心に行っていきます。</p> <p>この練習は、</p> <p>①自分が主張したい事柄の明確化とそれについての的確な知識。</p> <p>②他者に理解・納得してもらえるよう思考を深めること。</p> <p>③文章で表現するための、国語力という技術。</p> <p>以上の三つが基本です。この三つを柱とし、下記の授業計画に沿って練習していきます。</p>			
到達目標	<p>(1) 文章を書くのに必要な国語の技術を得ることができる。</p> <p>(2) 文章を書く上で求められる思考力を得ることができる。</p> <p>(3) 他者に自分の考えを文章で的確に説明できるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 ①授業の目的、進め方の説明		【課題】 関心あるテーマを選び出し、言いたいこ		
第2回 ①主語と述語、修飾語・被修飾語		【課題】 テーマに関する予備知識を調査して提出		
第3回 ①文章のテーマを選び出す(3)		【課題】 題目を決定し、大まかな論旨を提出する		
第4回 ①文と文のつなぎ方		【課題】 前回提出の論旨に自分で反論して提出		
第5回 ①文章の構成		【課題】 自分で作成した「文章の構成」を提出		
第6回 ①文章構成の見直し		【課題】 前回提出の「文章の構成」を修正して提		
第7回 ①文頭、文中の語や表現		【課題】 中間レポートを書く(提出は次回)		
第8回 ①中間レポートを書く		【課題】 中間レポートを書いて提出する		
第9回 ①主張と裏付け。		【課題】 授業資料の練習問題を解き提出		
第10回 ①中間レポートの推敲と、予備知識の再調査		【課題】 授業資料の練習問題を解き提出		
第11回 ①中間レポートに多かった注意点		【課題】 授業資料の練習問題を解き提出		
第12回 ①中間レポートの推敲や反省をもとに、最終レポートを書いていく		【課題】 授業資料の練習問題を解き提出		
第13回 ①中間レポートの推敲や反省をもとに、最終レポートを書いていく		【課題】 授業資料の練習問題を解き提出		
第14回 ①中間レポートの推敲や反省をもとに、最終レポートを書いていく		【課題】 授業資料の練習問題を解き提出		
第15回 ①最終レポートを完成させる		【課題】 最終レポートを提出する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% 筆記試験は行わない。			
レポート	75%：「中間レポート」(25%)、および「最終レポート」(50%) 「中間レポート」はコメントを付けて返却する。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	25%：「中間レポート」と「最終レポート」を除いた、毎回の提出物の合計。なお、授業第11回以降に「添削のための文章提出(任意)」をした人には、この25%の枠内で加点する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回の提出物は、すべて成績評価の対象です。</li> <li>定期試験(筆記試験)は行いません。</li> </ul>			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	授業中に紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後。	メールアドレス		



授業科目	日本語表現演習Ⅱ【演習】		開講時期	前期
担当教員	高山 百合子		単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語の4技能のうち、前期の「読み、書く力」に「話す力」を加え、それらを実践的に身につけていくことを直接の目的とする。「読み、書き、話す力」が付いていけば、論理的思考力を高め、表現する力につながる。ひいてはコミュニケーション力の総合的なレベルアップをめざす。</p> <p>4年次に「卒業論文」に取り組み、まとめ上げる力につなげることも具体的な目標である。</p> <p>■エッセイなども書くが、文学的であるよりは、論理的で説得力のある文章を（書く）ことに重点を置く。また、発表やスピーチ等の機会を作り、音声表現も自然に行えるように練習する。</p> <p>■（書く）ためには、資料等の読解力、発想力、構成力、表現力が必要となる。書評やビブリオバトルを行って本の世界に親しみながら、それぞれの力を伸ばしていく。</p>			
到達目標	<p>(1) 様々な文章の仕組みを理解し、目的に応じた文書を作成することができる。</p> <p>(2) 豊かな発想と確かな構成力を身につけ、効果的なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>(3) 事実と意見の違いをわきまえ、論理的で説得力のある文章を作成することができる。</p> <p>(4) 実作を行う中で、自己理解を深め、表現することの楽しさを味わうことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>日 (4) -①-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>【関連する科目】日本語表現演習Ⅰ、プレゼンテーション演習、ビジネス文書作成など</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：授業目標の確認、授業計画の説明、各自の目標設定、ビブリオバトルとは	自分自身の到達目標の設定・確認、書評のための本の選定		
第2回	文章表現の全体像について（正確でわかりやすい文章とは）	書評する本の読み込み		
第3回	要約のしかた（基本的な手順）	課題作成（要約練習）、書評する本の読み込み		
第4回	要約のしかた（長文の要約）	課題作成（長文の要約練習）、書評の発表準備		
第5回	書評（ビブリオバトル）（1回目）；プレゼンテーション	1回目書評の感想作成		
第6回	書評（ビブリオバトル）（2回目）；プレゼンテーション	2回目書評の感想作成		
第7回	主題の展開・段落構成のあり方について；重点先行型、起承転結の型を用いて	課題作成（主題文作成）		
第8回	主題の展開・段落構成のあり方について；「転」の効果的な使い方	課題作成（構想表作成）		
第9回	論理的で説得力のある文章表現；事実と意見を分ける	課題作成（文章チェック；事実と意見を見分ける）		
第10回	論理的で説得力のある文章表現；論理的展開	課題作成（文章チェック；接続詞、形容詞、副詞などの使用）		
第11回	実作と評価・講評	講評の感想作成		
第12回	文章で自分を表現する；「自分」をどのように表現するか	課題作成（「自分」をテーマとする文章）		
第13回	文章で自分を表現する；発表	課題作成（作成した文章の修正、清書）		
第14回	発表・スピーチのしかたとその実践、講評	課題作成（講評をまとめる）		
第15回	コミュニケーション・コミュニケーション力とは、（まとめ）（発表）	課題作成（コミュニケーションについてまとめる）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	特になし			
レポート	90%（3回程度実作を行なう）			
小テスト等	特になし			
成果発表	10%			
受講態度他	評価の際には、出席状況を加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◇国語辞典を持参してくること。</p> <p>◇課題が成績評価の対象になるので、期限を守って提出すること。</p> <p>◇受講生の作成した文章は、添削・評価し、原則として授業中にコメントを付して返却する。</p> <p>◇口頭発表の機会をなるべく多く作る。</p>			
教科書	プリント使用			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワーカー	基本的には、常時メールで質問・相談に対応します。	メールアドレス		

授業科目	日本語表現演習Ⅱ【演習】		開講時期	前期
担当教員	小野 望		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語の4技能「読む、書く、聞く、話す」を総合的、実践的に演習することにより豊かな表現力を獲得し、自立した社会人として必要なコミュニケーション能力を向上させることを目的とする。</p> <p>今学期は、「読書・読解力・国語力」をテーマに、これらに関連するさまざまな課題を考え、その大切さや課題について情報発信するシミュレーションを試みる。</p> <p>具体的には、以下の取組を通して、実践的な表現訓練を行う。</p> <p>(1) 「読書」に関わる人としての自分の役割を仮想し(本好きの読者、図書館員、編集者、メディア等の書評記事担当者など)、その立場からの情報・意見を企画展(本・読書を勧めるポスター展示)の形で表現し、互いに批評を行う。</p> <p>(2) 「読書の意義、読解力・国語力」などを取り巻く課題について、資料に基づいて考察し、レポートを作成する。</p>			
到達目標	<p>(1) 様々な文章の仕組みを理解し、目的に応じた文書を作成することができる。</p> <p>(2) 豊かな発想と確かな構成力を身につけ、効果的なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>(3) 事実と意見の違いをわきまえ、論理的で説得力のある文章を作成することができる。</p> <p>(4) チーム内の共同作業を通じて、自己と他者との考えの相違点・共通点を理解し、より深い考察に到達できる。</p> <p>(5) テーマに関する社会的な課題を発見し、関係する情報・知識を使って、解決策を論理的に考察することができる。</p> <p>(6) 言語規則や社会的マナーに配慮して、適切な表現を選択することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回 本講の目的と方法 テーマ:「読書・読解力・国語力」について		課題:「読書・読解力・国語力」について情報を収集する。		
第2回 読書をすすめる 「読書週間」のキャッチコピーを考える		課題:キャッチコピー・ボディコピーを加えて読書週間ポスターを作成する。		
第3回 本をすすめる 選定した書籍を薦めるポップを作成する		推薦図書を選び持参する。または書誌情報をまとめてくる。		
第4回 本をすすめる ポップの仕上げと、ポップ表現の批評会。 展示会チームの結成。		課題:各ポップの表現を分析する。本の魅力は伝わったか?		
第5回 「本・読書をすすめる展示会」計画開始 チーム会議:企画案について議論 (チームレポート) 企画の名称・概要報告。		課題:各自の企画案をまとめてチーム会議に参加する。		
第6回 「展示内容」の選定 チーム会議:各自の展示内容について意見交換し、選定する (チームレポート) 展示内容リ		課題(個別レポート)各自の展示内容についてまとめ、企画書を作成する		
第7回 展示会のための手続き:依頼文・招待文作成 事務的文書・手紙文等の形式を確認し、チームとしての公の文書を作成する。		課題(個別レポート)役割分担し、事務的文書・依頼文等を作成する。		
第8回 「展示会」準備作業 チーム会議:企画の意図について議論し、文章化 (チームレポート) 「企画の意図」		課題:各自のテーマ企画・推薦書などについて、POPを作成する。		
第9回 「展示会」準備作業 チーム会議:展示レイアウトの検討および作業		課題(個別レポート)各自の推薦書について書評を作成する。		
第10回 展示レイアウト完成 チーム会議:展示レイアウトの検討および作業		課題(チームレポート)進捗状況チェックリスト		
第11回 展示会・批評会 各チームの展示について、全員で批評会を行う。		課題(個別レポート)各展示についての評価シートを提出する。		
第12回 展示会・批評会 各チームの展示について、全員で批評会を行う。		課題(個別レポート)各展示についての評価シートを提出する。		
第13回 展示会・批評会 各チームの展示について、全員で批評会を行う。		課題(個別レポート)各展示についての評価シートを提出する。		
第14回 「読書・読解力・国語力などを取り巻く諸問題」について検討する。 自らの論点を設定し、小論文として論ずる(根拠を示す)ための情報収集を行う。合わせて、Wor		資料を集め、小論文のアウトラインを決定する。		
第15回 「読書・読解力・国語力などを取り巻く諸問題」について論ずる 論理的な構成を意識して、小論文を完成させる。		課題(個別レポート)小論文を完成させる。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% 筆記試験は行わない。			
レポート	70%:各回の課題 必須課題を中心に評価する。			
小テスト等	0%			
成果発表	10%:作成したポップ、展示レイアウトを評価する。			
受講態度他	20%:課題への取り組み方を評価する。必須ではない課題提出などを含む。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・各種提出物等は全て評価に加えます。・筆記試験(16回目)は行いません。</p> <p>・提出された文章は、添削・評価し、コメントを付して、原則として授業中に返却します。</p> <p>・受講者数によっては、授業計画を変更することがあります。</p> <p>・各自の取り組み方によって到達度は大きく異なっていきます。よりよいコミュニケーションの主体となることを目標に、積極的に参加しましょう。</p>			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	授業中に紹介する。			
オフィスアワー	月曜日:5講時、火曜日:5講時	メールアドレス		

授業科目	日本語表現演習Ⅱ【演習】【閉講】		開講時期	前期
担当教員	中村 万里		単位	2
授業の目的と概要	コミュニケーションの基本である「話す、聞く、書く、読む」の4つの言語活動について、様々な方法によるトレーニングを通じ、それぞれの技術の向上を目指します。本演習では、主に「書く、読む」を学びます。併せて、日本語の構造・社会的機能についても認識を深めることにより、現代社会を生きる上で求められる総合的な「日本語力」を身につけます。学生が主体となって様々な「話す、聞く、書く、読む」活動を行い、組みあがってゆく授業です。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的と用途に即した文章の理解・作成の仕方を身につけることができる。</li> <li>2. コミュニケーションを効果的に行うための文章発想力・構成力を身につけることができる。</li> <li>3. 事実と意見の違いをわかまえ、説得力の大きい文章を作成する力を身につけることができる。</li> <li>4. 与えられた文章・自らが伝えたい事柄双方を、それぞれ適切に要約する作業に習熟することにより、問題解決力・論理的思考を身につけることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき60分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		授業の復習		
第2回 目的と用途を理解する		予習：教科書：pp38-41、復習：教科書付属ワークシート		
第3回 新聞を読む		予習：教科書pp42-46、復習：教科書付属ワークシート		
第4回 発想をまとめる（1）考えをまとめる		予習：教科書pp47-48、復習：教科書付属ワークシート		
第5回 発想をまとめる（2）データをまとめる		予習：教科書pp49-50、復習：教科書付属ワークシート		
第6回 構成を考える（1）論理展開力を鍛える		予習：教科書p51、復習：教科書付属ワークシート		
第7回 構成を考える（2）分析力・企画力を鍛える		予習：教科書p52、復習：教科書付属ワークシート		
第8回 説明文と意見文を書く（1）事実と意見との違い		予習：教科書pp53-55、復習：教科書付属ワークシート		
第9回 説明文と意見文を書く（2）説明文と意見文の書き方		予習：教科書pp56-57、復習：教科書付属ワークシート		
第10回 原稿用紙・レポートの書き方（1）原稿用紙の書き方		予習：教科書pp58-59、復習：教科書付属ワークシート		
第11回 原稿用紙・レポートの書き方（2）レポートの書き方		予習：教科書pp60-61、復習：教科書付属ワークシート		
第12回 手紙・Eメールの書き方（1）手紙の書き方		予習：教科書pp62-64、復習：教科書付属ワークシート		
第13回 手紙・Eメールの書き方（2）Eメールの書き方		予習：教科書pp65-67、復習：教科書付属ワークシート		
第14回 履歴書・エントリーシートの書き方（1）履歴書の書き方（1）		予習：教科書pp68-69、復習：教科書付属ワークシート		
第15回 履歴書・エントリーシートの書き方（1）（2）エントリーシートの書き方（1）		予習：教科書pp70-71、復習：教科書付属ワークシート		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90%（期末レポート30%、第2～15の各回<上記「授業計画」参照>の提出物60%）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10%（課題の自主設定など、積極的な態度を評価します）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	様々なテーマを取り扱います。しっかり予習・復習を行ってください。			
教科書	中村万里ほか『実践 日本語表現ワークブック』暁印書館			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、授業の中で紹介します。			
オフィスワー	講義の前夜	メールアドレス		

授業科目	日本語文法論【講義】		開講時期	前期
担当教員	高山 百合子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業の大きな目的は、日本語の文の仕組みを知り、現実に行われている文を分析し、概要を説明する力を付けることである。</p> <p>◇文法的に〈正しい〉か、〈正しくない〉か、正誤の問題は決して簡単なものではないことを学ぶことで、日本語を客観的に観察する目を養う。それが、ひいては日本語の運用能力を高め、コミュニケーション・スキルを向上させることにつながる。</p> <p>◇ 学校文法（橋本文法）とは異なる文法論を検討しながら、その長所と短所を理解することができる。</p> <p>◇ それらの学習を通して、文法的に考えることの楽しさを味わうことができる。</p> <p>◇ 「文法」は決して暗記科目ではなく、用例を集めて分析することで、論理的思考力を高めていく〈考える〉科目であること</p>			
到達目標	<p>(1) 現代日本語の文の基本的な構造を知り、文の成り立ちのしくみを理解できるようになる。</p> <p>(2) 学校文法の問題点を押さえた上で、各人の言語データを内省し、日本語を分析するための基礎的な力を付ける。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>【関連する科目】日本語学概論Ⅰ・Ⅱ</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション／学校文法について	テキスト通読		
第2回	形態論（1）；形態素、語、品詞など、文法論の単位	課題プリント（品詞分類）		
第3回	形態論（2）；活用①	課題プリント（活用①）		
第4回	形態論（3）；活用②・ラ抜き現象など	課題プリント（活用②）		
第5回	語順と格	課題プリント（格助詞）		
第6回	文の基本構造と文法カテゴリ	課題プリント（カテゴリごとの語形）		
第7回	ヴォイス（1）；自動詞と他動詞	課題プリント（有対動詞の確認）		
第8回	ヴォイス（2）／受動と使役	課題プリント（受動文の例文作成）		
第9回	中間テスト／時間を表す表現（1）；テンス	課題プリント（タの用法確認）		
第10回	時間を表す表現（2）；アスペクト	課題プリント（スルーシテイルの意味）		
第11回	時間を表す表現（3）；アスペクトと動詞の分類	課題プリント（テンスとの関係）		
第12回	モダリティ（ムード）	課題プリント（多様な形式）		
第13回	主語と主題（ハとガ）	課題プリント（ハとガー用法の違い）		
第14回	とりたて	課題プリント（とりたて助詞の用法）		
第15回	まとめ	総復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20％			
小テスト等	80％			
成果発表	なし			
受講態度他	課題プリントの提出状況など、評価の際に加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◇テキストを購入しなければ受講できない。</p> <p>◇テキストはあらかじめ通読しておくこと。文法用語を確実に押さえながら理解してほしい。</p> <p>◇ノートをきちんと取ること。</p> <p>◇課題やレポートは、原則として授業中にコメントを付して返却する。</p>			
教科書	山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』（くろしお出版）			
指定図書	特になし			
参考図書	テキスト178、179ページ参照。 文法辞典・事典の類			
オフィスワー	基本的には、常時メールで質問・相談に対応します。	メールアドレス		

授業科目	日本語方言論【講義】【閉講】		開講時期	後期
担当教員	中村 万里		単 位	2
授業の目的と概要	<p>方言とは何か、また日本各地の方言を概観した後、九州方言を多角的に学ぶことを目的とする。          本講義では日本語学概論（一年生）のテキスト（『入門 日本語学ワークブック』双文社出版）を用いて方言を概説した後、九州方言（主に福岡方言）について学ぶ。福岡方言については『即訳！ふくおか方言集』（中村万里編）を用いて進める。講義において、DVDや録音資料などを用いる。</p>			
到達目標	<p>1. 方言について説明できる。          2. 九州方言を説明できる。          3. 福岡方言を説明できる。          4. 各自の方言を説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」          日(3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。          &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		授業の復習	
第2回	方言とは		授業の復習	
第3回	方言区画・方言史		授業の復習、プリント予習	
第4回	方言研究法		授業の復習、プリント予習	
第5回	日本の方言		授業の復習、プリント予習	
第6回	九州の方言		授業の復習、プリント予習	
第7回	福岡方言（1）－福岡の方言		授業の復習、プリント予習	
第8回	福岡方言（2）－筑前の方言		授業の復習、プリント予習	
第9回	福岡の方言（3）－筑後の方言		授業の復習、プリント予習	
第10回	福岡の方言（4）－豊前の方言		授業の復習、プリント予習	
第11回	方言と民話		授業の復習	
第12回	方言とマスメディア		授業の復習	
第13回	方言と音楽		授業の復習	
第14回	方言教育		授業の復習	
第15回	まとめ		授業の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 期末試験			
レポート	20％ 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	プリント配布			
指定図書	中村万里『即訳！ふくおか方言集』西日本新聞社 奥村三雄『九州方言の史的研究』桜楓社			
参考図書	中村万里他『入門 日本語学ワークブック』双文社出版 金田一春彦『日本語方言の研究』東京堂出版			
オフィスワー	講義の前夜	メールアドレス		

授業科目	日本語方言論 I 【講義】		開講時期	前期
担当教員	小野 望		単位	2
授業の目的と概要	方言とは何か、研究動向を踏まえ、また方言の歴史や日本各地の方言を概観することを通して、言語・コミュニケーションの多様性を学ぶことを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語方言の概要理解を背景に、言語・コミュニケーションの多様性について説明できる。</li> <li>2. 方言研究の成果を参照して、各自の言語生活を観察し、論理的に説明することができる。</li> <li>3. 方言に現れる文化・社会の多様性の要素を指摘することができる。</li> <li>4. 方言の学習・考察を通して、幅広い他者とつながるためのコミュニケーション・スキルの向上を図ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		方言とは何か。身の回りの言葉について考える。		
第2回 方言とは何か		方言の定義を確認し、自分のまわりの方言についてまとめる。		
第3回 方言の研究 (方言への気づき～方言区画論)		方言研究の歴史について、概要をまとめる。		
第4回 方言の研究 (方言の歴史)		方言区画論と合わせ、方言の歴史について概要をまとめる。		
第5回 方言の研究 (方言の歴史 室町末期～)		キリシタン資料、近世方言書などの具体例の意義をまとめる。		
第6回 方言の研究 (研究的視点)		各時代の方言に関する記述から、研究的視点を考察する。		
第7回 方言の研究 (言語地理学)		方言地図を観察し、解釈をまとめる。		
第8回 言語地図から分かること さまざまな分布パターン		調査・分析の手法について、概要をまとめる。		
第9回 言語地図から分かること 外来作物		調査・分析の手法について、概要をまとめる。		
第10回 言語地図から分かること 体系的現象の分布		文法事項などの地理的分布について概要をまとめる。		
第11回 標準語と共通語		標準語・共通語の概念について考察する。		
第12回 大阪方言は魅力的か?		コミュニケーション・スタイルについて考察する。		
第13回 言語変化と地域差		若者語とされる表現の広がり地域方言との関係を考察する。		
第14回 言語変化と地域差		現代日本語の地域差について考察する。		
第15回 再度 方言とは何か		授業・考察した内容を振り返り、「方言とは何か」について考えをまとめる。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% 筆記試験は行わない			
レポート	70% 授業中の課題をレポートとして評価する。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	30% 必須でない課題項目など、参加態度を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配付の参考資料を読んで講義に参加し、講義内容をまとめると共に、各自の方言などを観察しましょう。</li> <li>・各種の提出部都是全て評価に加えます。欠席時の課題についても、筑女ネットを参照して提出しましょう。</li> <li>・筆記試験(16回目)は行いません。毎回の課題を忘れずに提出しましょう。</li> </ul>			
教科書	使用しない。各テーマの参考資料を配付する。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	『方言学入門』木部暢子他編、三省堂、2013 ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	月曜日：5講時 火曜日：5講時	メールアドレス		

授業科目	日本語方言論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	二階堂 整		単位	2
授業の目的と概要	方言とは何か、様々な角度から学ぶ。社会言語学的視点から方言を考える。九州方言・福岡方言の姿を知る。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 方言について説明できる</li> <li>2 方言の多様な姿を理解できる。</li> <li>3 方言の学びを通じて、多様な社会を理解することができる。</li> <li>4 方言の学びにより、豊かなコミュニケーションの世界を知ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 日 (3) -②-2 日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき60分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション	前期復習をかねて、方言の成因について	方言とは何か、考える。配布資料を見て、今後の授業の流れを確認する。		
第2回	方言とdialect	日本と海外の方言の違いを復習する。共通語とは何か、考えてみる。		
第3回	方言と共通語	共通語の歴史を復習する。次回の内容を配布資料で予習する。		
第4回	方言の変化1	言語変化の有無を復習する。言語変化の型を配布資料で予習する。		
第5回	方言の変化2	言語変化の型を復習する。最近の自身の言葉の変化を考えてみる。		
第6回	方言の変化3	方言の新しい動きを復習する。方言とメディアの関係を考えてみる。		
第7回	方言とメディア1	方言とメディアの関係を復習する。その2つの最近の関係を考えて		
第8回	方言とメディア2	方言とメディアの新しい関係を復習する。九州方言の特徴を考えてみる。		
第9回	九州方言	九州方言の特徴を復習する。福岡方言の特徴を考えてみる		
第10回	福岡方言 伝統方言	福岡方言の特徴を復習する。福岡方言の現在の姿を考えてみる。		
第11回	福岡方言 変化する方言	福岡方言の変化を復習する。福岡方言の世代による違いを考えてみる。		
第12回	福岡グロットグラム	福岡グロットグラムの内容を復習する。「あーね」について考えてみる。		
第13回	若者方言「あーね」	「あーね」の動きを復習する。医療における患者の方言使用を考えてみる。		
第14回	医療と方言・熊本支援・方言プロジェクト	方言における社会貢献の問題を復習する。14回までの内容を確認する。		
第15回	まとめ まとめ 確認試験	この授業内容を振り返り、言語の仕組みを理解する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	無し			
レポート	70% 授業中の課題をレポートとして評価する。			
小テスト等	20% 授業中、授業終了後の課題			
成果発表	無し			
受講態度他	10% 出席状況と出席状況と授業参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回、授業の各時間ごとに簡単な小テスト(アンケートなど)を行います。また、授業4日間の間が空きますので、それぞれ当日終了時に課題を出します。 方言はみなさんにとって、一番身近な言葉です。授業中は、学生に対し、自身の言葉について、質問をします。やり取りをしながら、皆さんの使う言葉を教えてほしいと考えています。そのことで、自身の言葉を振り返る、友人の様々な言葉について知る機会になることを狙いとします。			
教科書	プリント配布			
指定図書	無し			
参考図書	無し			
オフィスアワー	講義の前後	メールアドレス		

授業科目	日本史【講義】		開講時期	前期
担当教員	横山 尊		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は政治・外交史を中心とした日本近現代史の入門的講義です。現代社会の成立ちを知る上で、歴史の素養は不可欠であり、それに無知なままでは大学の様々な講義の理解にも大きな支障を来す可能性が高いでしょう。本講義は特に江戸時代後期から現代に至るまでの政治、外交の歴史を学びなおすことで、その状況の克服を図ります。</p> <p>講義では、幕末における西洋の衝撃から、21世紀の政治にいたる140年余りの日本政治を、外交と権力、すなわち対外問題とそれに対する日本の政治権力の対応を中心に解説します。その際、福岡の地域史のほか、政治思想史や文化史など関連分野にも目配りします。</p> <p>本講義は、主に中学、高校で歴史や日本史を学んだが、苦手である、あるいは授業が現代まで終わらなかった、高校で日本史を履修していない、などの学生が受講することを想定しています。</p>			
到達目標	<p>①近現代日本の政治・外交史をめぐる問題の基礎的知識を習得し、中学・高校で学習した歴史・日本史の学習内容を定着、発展させること。②現在の政治・外交問題の歴史的形成のあり方を、東アジアを中心としたグローバルな観点から理解すること。③こうした視野の獲得を通して、現代の政治・外交問題のニュースを理解する素養となるだけでなく、本学での関連講義を理解する上での基礎体力も形成する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>幼 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	導入—幕藩体制の政治的特質と西洋の衝撃	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
第2回	明治国家の建設	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
第3回	士族反乱と自由民権運動	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
第4回	明治憲法体制の成立	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
第5回	議会政治の定着	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
第6回	日清・日露戦争	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
第7回	韓国併合、満州問題、中国革命への対応	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
第8回	日露戦後から第一次大戦期における政党政治の発展	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
第9回	大正後期における国際協調と政党内閣	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
第10回	軍部の台頭—満州事変から二・二六事件まで	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
第11回	日中戦争と日米戦争	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
第12回	敗戦・占領・講和	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
第13回	自民党政治の発展	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
第14回	国際秩序の変容と冷戦の終焉	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
第15回	総括—冷戦後の政権交代と21世紀の政治	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	40%			
小テスト等	40%			
成果発表	%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講義は高等学校の日本史レベルの復讐が主ですが、ご自身でも教科書などを利用して予習、復習するなどの努力をしなければ、知識の理解、定着は困難でしょう。			
教科書	なし。講義レジュメに従って講義を進めます。			
指定図書	なし			
参考図書	北岡伸一『日本政治史—外交と権力』有斐閣(2011年) 坂野潤治『日本近代史』筑摩書房(2012年)			
オフィスアワー	講義の休憩時間の前後	メールアドレス		



授業科目	日本史Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	時里 奉明		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：現代の日本社会はどのようにして成り立ったのか、各時代のトピックを取り上げ、その始まりについて解説する。その際、日本の内外からどのような影響を受けてきたかを考慮しながら話を進めたい。歴史は暗記ではない。歴史の見方や考え方をちょっと変えれば、今までとは違った歴史像が立ち現れてくることがわかるだろう。それに気づくことが、この授業のねらいである。概要：この授業は、日本史の全体を対象とした基礎編である。後期の「日本史Ⅱ」は、鉄からみた日本史になっており、応用編である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本の歴史の流れを説明することができる。</li> <li>2 現代日本はいかにして成り立ったのか、その起源を確認することができる。</li> <li>3 日本史を世界史のなかに位置づけて理解することができる。「幅広い視野」</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 歴史と私-イントロダクション			オンデマンド授業を学ぶ	
第2回 ガイダンス			授業の進め方を学ぶ	
第3回 時代区分			配布プリント復習(時代区分)	
第4回 「日本人」の成り立ち(映像)-旧石器・縄文・弥生時代			配布プリント復習(「日本人」の成り立ち)	
第5回 「日本」の誕生-古墳・奈良時代			配布プリント復習(「日本」の誕生)	
第6回 「日本」の東と西-平安時代			配布プリント復習(「日本」の東と西)	
第7回 鎌倉仏教-鎌倉時代			配布プリント復習(鎌倉仏教)	
第8回 室町文化-室町時代			配布プリント復習(室町文化)	
第9回 北海道と沖縄			配布プリント復習(北海道と沖縄)	
第10回 「鎖国」とは何か?-江戸時代			配布プリント復習(「鎖国」)	
第11回 「立国」の明治-明治時代			配布プリント復習(明治)	
第12回 「大正デモクラシー」の時代-大正時代			配布プリント復習(大正)	
第13回 「戦争」の昭和-昭和戦前期			配布プリント復習(昭和戦前)	
第14回 世界の中の日本-昭和戦後期・平成時代			配布プリント復習(昭和戦後・平成)	
第15回 まとめ			レポ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% レポ			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50% 出席状況や受講態度(小テストなど含む)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>①毎回アンケートで出席をとるので、必ず答えること。</li> <li>②同じくアンケートで問いを設けるので、必ず答えること。授業の振り返りを行う。</li> <li>③高校日本史の教科書、参考書、年表などを参考にするとよい。</li> </ol>			
教科書	なし			
指定図書	佐々木潤之介ほか編『概論日本歴史』吉川弘文館(2000年)			
参考図書	授業中に紹介する。			
オフィスワー	対面はなし。	メールアドレス		

授業科目	日本史Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	時里 奉明		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：「鉄」は歴史を動かしてきた金属である。鉄が人類の歴史で果たしてきた役割は大きい。たとえば現在、私たちの身の回りをとってみても、鉄は鍋やフライパンの日用品から自動車、船、飛行機などに使われている。一方、戦艦や戦闘機は戦争のために開発され、人類が築いてきた文明を破壊している。今後も鉄は人類にその功罪をもたらし続けるだろう。この授業では、日本における鉄の歴史を古代から現代を通し、興味あるトピックをとりあげて解説する。</p> <p>概要：鉄というモノを対象にすると、どのような日本の歴史が描けるのか、前期に開講する「日本史Ⅰ」と対比してみると、面白いだろう。歴史はいかようにも編むことができることを学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日ごろあまり気にとめない鉄について関心をもち、知識を得ることができる。</li> <li>2 日本における鉄の歴史の流れを理解できる。</li> <li>3 鉄が人類にもたらした功罪を説明できる。「幅広い視野」</li> <li>4 レポートを作成して、鉄に関する自分の考えをまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス：講義のねらい スケジュールと履修方針の確認	内容の復習		
第2回	鉄のルーツをさぐる	配布プリント復習（鉄のルーツ）、課題プリント作成		
第3回	鉄の到来：弥生時代の鉄	配布プリント復習（鉄の到来）		
第4回	鉄と金の比較：課題プリントをもとにディスカッション	鉄の特徴を復習する、課題プリント提出		
第5回	九州国立博物館見学	見学レポート①作成（弥生・古墳時代の展示品）		
第6回	文献（『風土記』）にみる鉄：奈良時代の鉄	配布プリント復習（『風土記』）		
第7回	日本刀（刀剣に関する日本語のディスカッション）：平安・鎌倉時代の鉄	配布プリント復習（日本刀）、見学レポート①提出		
第8回	日本刀を作る（DVD鑑賞）	日本刀製作の復習		
第9回	鉄砲と鉄船：戦国時代の鉄	配布プリント復習（鉄砲・鉄船）		
第10回	九州国立博物館見学	見学レポート②作成（鎌倉・室町時代の展示品）		
第11回	たたら製鉄：江戸時代の鉄(1)	配布プリント復習（たたら製鉄）		
第12回	たたら製鉄、写真をみる：江戸時代の鉄(2)	たたら製鉄の復習		
第13回	反射炉と高炉（溶鋳炉）：江戸時代の鉄(3)	配布プリント復習（反射炉と高炉）、見学レポート②提出		
第14回	官営八幡製鉄所の誕生：明治・大正時代の鉄	配布プリント復習（官営八幡製鉄所）		
第15回	世界有数の鉄鋼生産国へ：昭和・平成時代の鉄 まとめ	配布プリント復習（世界の中の日本）、期末レポートの準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80% 見学レポート2回と期末レポート			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 教室及び見学地の授業態度（課題プリントを含む）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントを配布するので、講義の内容を理解しながらメモをとること。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	窪田蔵郎『鉄から読む日本の歴史』講談社学術文庫（2003年）			
参考図書	講義中に紹介する。			
オフィスワー	金の昼休み。研究室にいる時はいつでも。	メールアドレス		

授業科目	日本思想史【講義】	開講時期	後期
担当教員	横山 尊	単 位	2
授業の目的と概要	本講義では〈ジェンダー〉と〈セクシュアリティ〉という切り口から、近世、近代の日本の思想・文化を見通すものです。〈ジェンダー〉とは生物学的な性別以上に社会的・文化的に形成される性別、あるいはそれを研究する分野を言います。そこにはどうしても歴史的思考が必要になります。ジェンダーを扱うことは男と女の関係性を社会、文化的に論じることであります。その関係性とは、例えば、恋愛、結婚、家庭であり、性生活（売買春も含む）でしょう。だからジェンダー研究は、〈セクシュアリティ〉の研究にもつながっていきます。本講義はこれら（性）がいかに歴史のなかで政治、社会、文化と関係を切り結んだかを論じ、明治期から戦後を通じた長いスパンを扱うことで、高校日本史とは異なるかたちで近世・近代史の全体像を洗いなおすものです。		
到達目標	第一に、ジェンダー、セクシュアリティの歴史の基礎知識を習得し、それを通して歴史を通史とは違った切り口から把握する視点を身につけること。 第二に、男性、女性といった性を自明とせず、思想・文化史的に社会文化の関係性の中で根源的に捉えなおす思考を身につけること。 いずれも思想史・歴史学に留まらず、政治学、社会学、教育学などの多様な学問を学ぶ基礎となる教養です。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回 導入—〈ジェンダー〉〈セクシュアリティ〉という観点から日本近代をみる意味		配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第2回 江戸から明治における離婚の変容		配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第3回 江戸時代に武家の女性は弱かったのか？		配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第4回 国母・美子皇后を創出する		配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第5回 「文明」の課題—男女同権・一夫一婦・売淫婦人		配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第6回 女性参政権問題から教育勅語へ		配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第7回 近代家族とセクシュアリティ		配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第8回 新しい女・モダンガール・良妻賢母		配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第9回 植民地台湾の「モダンガール」現象とファッションの政治化		配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第10回 資生堂という企業—化粧品製造・販売の戦略と文化		配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第11回 国防婦人会—銃後における婦人動員のシンボルと実態		配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第12回 "戦後における性風俗産業の叢生と売春防止法"		配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第13回 「家族計画」が登場するまで—避妊と中絶をめぐる制度と運動		配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第14回 優生学運動から新優生学へ—出生前診断の現在を考えるために		配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第15回 結論		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	80% (論述試験、持ち込み可)		
レポート	—		
小テスト等	—		
成果発表	—		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義中に指示します		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	関口すみ子『御一新とジェンダー—荻生徂徠から教育勅語まで』東京大学出版会(2005年)、伊藤り、坂本ひろ子、タニ・E・パロウ編『モダンガールと植民地近代—東アジアにおける帝国・資本・ジェンダー』岩波書店(2010年)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間	メールアドレス	

授業科目	日本事情【講義】	開講時期	後期
担当教員	森田 真也	単 位	2
授業の目的と概要	<p>講義の目的は、「文化表象」に潜む政治性・暴力性、アジアや沖縄等の諸地域との歴史的関係から、現在もつづく「植民地主義」の諸問題について考察していくことにある。また、「マイノリティの問題」についての事例を提示して、多文化社会としての日本、そこに横たわる課題について考える。なお、日本や世界のマイノリティ問題、近・現代の植民地主義を考察の対象に置くことは、現代社会にあるさまざまな問題をいかに捉えていくかという思考力と実践力、さらには倫理観や人間観を獲得していくことにつながる。</p> <p>具体的には、最初に文化表象と文化の政治性の問題について解説する。ここでは、特に映画、絵画、小説、CM、漫画等に見られる一方的イメージの投影の暴力性を考える。つづいて、現在もつづく沖縄、アジアの植民地主義の問題、国民国家と日本民族論、日本のマイノリティ問題、日本の中にある多様な文化等について取上げる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化表象にある政治性や暴力性についての認識を深め、説明することが出来る。</li> <li>・日本とアジア・沖縄の近現代史における植民地主義の諸問題や現代的課題について理解し、説明することが出来る。</li> <li>・マイノリティ問題、日本文化の多様性、日本社会にある差別や偏見の諸問題について理解することで幅広い視野を獲得することが出来る。</li> <li>・マイノリティ問題、植民地主義の問題を考え、意見を示すことで、社会人としての的確な倫理観・人間観を獲得することが出来る。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>ア (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>この授業は「文化人類学」と関連します。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第 1回：	日本の社会と文化をとらえるにあたって	授業の目的と内容について理解する	
第 2回：	日本の社会と文化を考える上での視点	授業の視点について理解する (資料の通読と復習)	
第 3回：	文化表象の問題 (1) : 異文化を描くことの意味	文化表象の問題点について考える (資料の通読と復習)	
第 4回：	文化表象の問題 (2) : 異文化としてみられる日本・日本がみた異文化	文化表象の問題点について考える (資料の通読と復習)	
第 5回：	近代国民国家と日本人論: 「日本人」とは何か	東アジアの近代と日本認識について考える (資料の通読と復習)	
第 6回：	日本と沖縄の歴史的関係と米軍基地: 近代日本と植民地主義 (1)	東アジアの近代と植民地主義について考える (資料の通読と復習)	
第 7回：	沖縄人の直面した近代: 近代日本と植民地主義 (2)	東アジアの近代と植民地主義について考える (資料の通読と復習)	
第 8回：	日本と東アジアの関係: 近代日本と植民地主義 (3)	東アジアの近代と植民地主義について考える (資料の通読と復習)	
第 9回：	エスニシティとアイデンティティ: 多民族社会ハワイを中心に	エスニック・アイデンティティについて考える (資料の通読と復習)	
第10回：	海外で暮らす日系・沖縄系移民社会: 多民族社会ハワイを中心に	エスニック・アイデンティティについて考える (資料の通読と復習)	
第11回：	多文化社会としての日本 (1) : 日本の中のマイノリティ (在日韓国・朝鮮人)	日本の中のマイノリティ問題について考える (資料の通読と復習)	
第12回：	多文化社会としての日本 (2) : 日本の中のマイノリティ (沖縄の華人・華僑)	日本の中のマイノリティ問題について考える (資料の通読と復習)	
第13回：	多文化社会としての日本 (3) : 日本の中のマイノリティ (北海道アイヌ)	日本の中のマイノリティ問題について考える (資料の通読と復習)	
第14回：	文化表象とオリエンタリズム再考: ハリウッド映画を中心として	文化表象の問題点について具体的な事例から考える (資料の通読と復習)	
第15回：	講義の総括・まとめ: 日本の社会を考えること	授業全体の復習	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	無し。		
レポート	70% 中間レポートと期末レポート (2020年度)。		
小テスト等	無し。		
成果発表	無し。		
受講態度他	30% 受講態度。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。</p> <p>就職活動や病気等で欠席する場合、早急に手続きを行ない、適時、必要な書類を提示すること。</p> <p>遠隔授業を予定しています。2020年度は出席コメントを提出ください。</p>		
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。		
指定図書	無し。		
参考図書	サイード、E.W. 今沢紀子訳『オリエンタリズム』(上・下) 平凡社 (1993年)。 講義中、適時紹介する。		
オフィスアワー	金曜日昼休み (12:30-13:00)	メールアドレス	

授業科目	日本事情A(外)【講義】		開講時期	前期
担当教員	竹熊 真波		単位	2
授業の目的と概要	日本の大学で学ぶために必要なルールをはじめ、日本、福岡、そして太宰府の歴史や文化についての理解を深めることを目標とします。 毎回授業の初めに日本語のミニテストを行います。その後、授業計画に示されたテーマについての、遠隔授業を行います。また、週に一度、日本事情に関する「日誌」を作成・提出してもらいます。 その上で、講義で得た知識や日常生活で感じたことをまとめる形で日本事情についてのプレゼンテーションをします。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語の運用能力をより高度なものにする。</li> <li>日本や福岡・太宰府の歴史や文化・社会の特徴について理解できる。</li> <li>日本の文化・社会の特徴や課題について、母国との類似点や相違点に着目しながら説明できる。</li> <li>自らの留学生活で考えたこと、感じたことを日本語で表現できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「外国人留学生及び海外帰国生科目」であり、学部共通科目一般教養の単位に充当できます。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 <関連科目>日本語ABC、日本事情BCD、学部共通科目一般教養			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 4/27	イントロダクション(自己紹介) 音読資料		音読の練習	
第2回 5/4	GWの行事について		「留學生日誌」の作成	
第3回 5/11	年中行事と祝祭日(1~3月)		「留學生日誌」の作成と提出	
第4回 5/18	年中行事と祝祭日(4~6月)		「留學生日誌」の作成	
第5回 5/25	年中行事と祝祭日(7~9月)		「留學生日誌」の作成	
第6回 6/1	年中行事と祝祭日(10~12月)		「留學生日誌」の作成	
第7回 6/8	太宰府の歴史について		「留學生日誌」の作成	
第8回 6/15	太宰府天満宮について		「留學生日誌」の作成	
第9回 6/22	博多の祭り(山笠)		「留學生日誌」の作成	
第10回 6/29	日本の通過儀礼		「留學生日誌」の作成	
第11回 7/6	「日本事情」発表会①		「留學生日誌」の作成・プレゼンの準備(担当者)	
第12回 7/13	「日本事情」発表会②		「留學生日誌」の作成・プレゼンの準備(担当者)	
第13回 7/20	「日本事情」発表会③		「留學生日誌」の作成・プレゼンの準備(担当者)	
第14回 7/27	九州・福岡の方言について		「留學生日誌」の作成・音読の練習	
第15回 8/3	音読ミニテスト		「留學生日誌」の作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	75%(日誌の提出・授業の感想も含む) 15回×5%			
小テスト等	0%			
成果発表	25%(プレゼンテーション)			
受講態度他	日頃学習への取組および受講態度も加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・日誌は添削後返却しますので、必ず訂正された箇所を見直して下さい。 なお、授業資料の中には本来、著作権法によりweb上での無断利用ができないにもかかわらず、オンライン授業に限り特別に利用が認められているものがあります。受講生のみさんも授業外での利用や無断転載は禁止されていますので、取り扱いには注意してください。			
教科書	なし(資料を適宜配布する)			
指定図書	なし			
参考図書	東京書籍『現代社会』、武野要子『博多一町人が育てた国際都市-』、飯倉晴武『日本人のしきたり』、齊藤孝『声に出して読みたい日本語』			
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス		

授業科目	日本事情B(外)【講義】	開講時期	後期
担当教員	荀 暁暉	単位	2
授業の目的と概要	日本は七～八世紀に中国文化を受け入れ、十九世紀後半以降、欧米文化を受容しましたが、外国の文化を受け入れながら、それを日本的なものに適合させ、古い伝統は捨てることがなかった。最近では、日本の漫画、アニメ、Jポップス、ファッションなどのポップカルチャーが世界各地で広く受け入れられるという現象が進んでいます。本講義では、「和」を大切に日本の独特の洗練された豊かな文化や芸術、風習について取り上げながら、現在起こっている出来事にも注意を払い、さまざまな角度から日本の事情について考えていく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の文化や風習について理解できる。</li> <li>・日本に関するさまざまな事象について理解できる。</li> <li>・現代ニッポンの社会と文化のあり様についての認識を深めることができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「外国人留学生及び海外帰国生科目」です。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	日本人の紅葉を愛でる心(1) 黄葉と紅葉	課題を配布	
第2回	日本人の紅葉を愛でる心(2) 「紅葉」は「狩る」	テーマについての感想レポート	
第3回	日本の秋について(1) 「〇〇の秋」といわれる良い季節	課題を配布	
第4回	日本の秋について(2) 「食欲の秋」と食の文化	テーマについての感想レポート	
第5回	日本の祭り(1) 人々の生活から見る身近な「祭り」	課題を配布	
第6回	日本の祭り(2) 日本三大祭り物語	テーマについての感想レポート	
第7回	東洋の美女小野小町(1) 小町が詠んだ和歌	課題を配布	
第8回	東洋の美女小野小町(2) 小町から見る平安時代の女性	テーマについての感想レポート	
第9回	新年を迎える「師走」の風物詩(1) 江戸～昭和初期「師」が「走る」世相の変化	課題を配布	
第10回	新年を迎える「師走」の風物詩(2) 鳥は神の使い	テーマについての感想レポート	
第11回	大航海時代の日本(1) 黄金の国ジパング	課題を配布	
第12回	大航海時代の日本(2) 宣教師たちが見たジパング	テーマについての感想レポート	
第13回	古典入門 ― 百人一首(1) 和歌を楽しむ	課題を配布	
第14回	古典入門 ― 百人一首(2) お正月の風物詩歌がるた	テーマについての感想レポート	
第15回	期末のまとめワーク	課題	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	・0%(実施しません)		
レポート	・レポート・課題56%(課題の提出14%、課題の完成度42%)		
小テスト等	・小テスト30%		
成果発表	・期末のまとめワーク14%		
受講態度他	遠隔学習への取り組み、指定された期間内に筑女ネットにアクセスするなど加味する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席は三分之一を超えないこと。</li> <li>・配布資料をよく復習して理解できるようにしておくこと。</li> </ul>		
教科書	適時講義用のプリントを配布する。(教科書等の購入の必要はない)		
指定図書	なし		
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中村義裕 著 『日本の伝統文化しきたり事典』 柏書房</li> <li>・小笠原敬承 著 『外国人に正しく伝えたい日本の礼儀作法』 光文社新書</li> </ul>		
オフィスワー	なるべく授業前後にご相談ください。	メールアドレス	

授業科目	日本伝統文化演習【演習】		開講時期	後期
担当教員	野村 万禄		単 位	2
授業の目的と概要	<p>狂言は、650年前に誕生した笑いの芸能です。狂言の特徴としては、道具をほとんど使用せず、現実社会の人々を登場人物として素顔で演じます。役者自身の台詞と動きだけで生きた人間の喜怒哀楽を表現していくという観点から狂言の世界と現代社会の相違点や関連性を探る。実際に能楽堂での研修授業を行うことにより想像力を豊かにし創造的思考力を育成し、学習成果をレポートにまとめることにより、論理的思考力を高めることを目的とする。</p> <p>本講座では、狂言の代表的な小道具の一つである扇を使用し、昔流行した小謡（歌）小舞（踊り）を実践的に学ぶ。また筆記授業では、室町時代から変わらない笑いの普遍性に迫る。さらに、ビデオ鑑賞や能楽堂での研修授業を行い、日本文化の美学や心とは何かを肌で感じて貰う。</p>			
到達目標	<p>①狂言の所作を通して、現代社会に欠けている礼儀作法、忍耐力、様式美を身体で表現できる。</p> <p>②狂言の決められた型を理解し、その中で自由に表現できる。</p> <p>③狂言の舞台を通して、何も無い空間でも想像力を働かせ、考える力や感受性を養うことができる。</p> <p>④狂言の笑いは、なぜ現代でも通じるのかを説明できる。</p> <p>⑤古典と新作の違い、狂言とは何かを説明できる。</p> <p>⑥実技試験を行うことで授業全体の総合的能力を培ち、技能を習得できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション・発声・小謡「鶴亀の舞」日本の芸能、散楽と雅楽	授業内容の復習		
第2回	狂言と能の違いについて・ビデオ鑑賞「隠狸」、小謡「鶴亀の舞」猿楽から能楽へ	授業内容の復習		
第3回	狂言と能の人物について・ビデオ鑑賞「附子」、小謡「鶴亀の舞」「柳の下」庶民の代表 太郎冠者	授業内容の復習		
第4回	狂言の笑いと風刺劇・ビデオ鑑賞「茸」「昆布売」、小謡「柳の下」中世の下克上	授業内容の復習		
第5回	古典と新作について・ビデオ鑑賞「唐人相撲」「子ほめ」、小謡「柳の下」江戸時代から明治時代へ	授業内容の復習		
第6回	小謡「鶴亀の舞」「柳の下」暗記・ビデオ鑑賞「末広がり」狂言の祝言性「川上」喜劇の中の悲劇	授業内容の復習		
第7回	小舞「柳の下」・舞の修得 茶室と書院造	授業内容の復習		
第8回	小舞「柳の下」・舞の修得 礼儀作法、正しい正座	授業内容の復習		
第9回	小舞「柳の下」・舞の修得 扇の扱い方	授業内容の復習		
第10回	小舞「柳の下」・舞の修得 舞と踊りの違い	授業内容の復習		
第11回	小舞「柳の下」・実技テスト 伝統芸能の伝承	授業内容の復習		
第12回	能楽堂での研修授業①（福岡県能楽鑑賞講座 大濠能楽堂：12/20）	授業内容の復習		
第13回	能楽堂での研修授業② レポート作成（大濠能楽堂：12/20）	研修授業についてのレポート作成		
第14回	狂言の台詞「盆山」擬音語・擬態語 台詞の抑揚、中世の動物達	授業内容の復習		
第15回	狂言の台詞「しびり」中世の主従関係 文化と教育と未来	授業内容の復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	60% 狂言小謡・狂言小舞			
レポート	20% 能楽堂での研修授業の感想			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特に能楽堂での研修授業において、上演中の私語や携帯電話、写真撮影、飲食は禁止。実践授業で使用する扇の取り扱いには十分注意する。			
教科書	小謡のプリント配布。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	日本の詩歌【講義】		開講時期	後期
担当教員	松下 博文		単位	2
授業の目的と概要	①「万葉集」の世界と沖縄・奄美に伝わる古代歌謡「おもろさうし」の世界を比較しながら、古代人の心性をたどる。 ②日本的詩情と南島の詩情の違いを楽しむ。			
到達目標	①日本語の4技能（読む・聞く・話す・書く）を適切に使用することができる。 ②さまざまなジャンルの作品を正確に解説することができる。 ③詩歌についての幅広い知識を身につけることができる。 ④獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。「近現代文学入門」「近現代文学概論」などに関連する科目です。「古代文学概論」「古代文学講読」「民俗学」「文化人類学」等と関連する科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	「万葉集」について(その1)	予習 「万葉集」について事典で調べる。		
第2回	「万葉集」について(その2)	予習 「万葉集」の特徴について事典で調べる。		
第3回	「おもろさうし」について(その1)	予習 「おもろさうし」について事典で調べる。		
第4回	「おもろさうし」について(その2)	予習 「おもろさうし」の特徴について事典で調べる。		
第5回	古代日本国家と古琉球	予習 テキスト39～52ページ		
第6回	古代の世界観と神観念	予習 テキスト53～74ページ		
第7回	太陽信仰について	予習 テキスト75～97ページ		
第8回	古代歌謡の人々たち	予習 テキスト98～119ページ		
第9回	歴史を拓いた英雄たち	予習 テキスト119～132ページ		
第10回	地方文化と中央文化	予習 テキスト133～151ページ		
第11回	アマミク神話と稲作の道	予習 テキスト152～186ページ		
第12回	「をなり神信仰」を追う	予習 テキスト187～209ページ		
第13回	古代歌謡の世界を読み解く①	予習 万葉時代と古琉球時代の相違を事典で調べる		
第14回	古代歌謡の世界を読み解く②	予習 万葉時代と古琉球時代の相違を事典で調べる		
第15回	古代歌謡の世界を読み解く③	予習 万葉時代と古琉球時代の相違を事典で調べる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし 0%			
レポート	100% 授業のテーマに沿ってレポート提出。内容によっては音源を使って講義します。			
小テスト等	なし 0%			
成果発表	なし 0%			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席(欠席扱い)させます。レポートは確認後適宜返却します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は出さないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	外間守善『おもろさうし(下)』(ワイド版 岩波文庫)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時まで	メールアドレス		



授業科目	日本美術史【講義】		開講時期	前期
担当教員	小林 知美		単位	2
授業の目的と概要	<p>アジアの多様な文化を理解するため、日本の美術が、外来の影響をどのように消化して形成されてきたのかを学びます。縄文時代から江戸時代にいたるまでの各時代の代表作品をとりあげ、映像によって作品をよく観察し、文献史料を読むことで当時の人々の意識や制作の背景などを理解し、日本美術の特徴と変化の過程を把握することを目的とします。今年には特に、作者に焦点を当てて、日本美術史の課題を考えていきます。近隣の寺院あるいは美術館・博物館を、実地あるいは動画などで見学します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術に親しむための前提条件として、積極的・意識的に作品を見る姿勢を身に着ける（課題「作品ディスクリプション」）</li> <li>・近隣の寺院や美術館・博物館への見学を通して、美術鑑賞の体験を深める。（レポート①）</li> <li>・日本の美術史の流れを、時代ごとの代表的作品、作者の名称をあて説明できるようになる。（レポート②）</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。  ア (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	イントロダクション：美術史の方法論		近隣の美術館・博物館・遺跡・社寺などについて調べる。→レポート①	
第2回	縄文・弥生・古墳時代		課題「本日の作品ディスクリプションと考察」	
第3回	飛鳥・奈良時代前期Ⅰ 止利仏師		課題「本日の作品ディスクリプションと考察」	
第4回	飛鳥・奈良時代前期Ⅱ		課題「本日の作品ディスクリプションと考察」	
第5回	奈良時代後期Ⅰ 黄文本実		課題「本日の作品ディスクリプションと考察」	
第6回	奈良時代後期Ⅱ 鑑真		課題「本日の作品ディスクリプションと考察」	
第7回	平安時代前期 空海		課題「本日の作品ディスクリプションと考察」	
第8回	平安時代後期Ⅰ 定朝		課題「本日の作品ディスクリプションと考察」	
第9回	平安時代後期Ⅱ 絵師と絵仏師		課題「本日の作品ディスクリプションと考察」	
第10回	鎌倉・南北朝時代 運慶・快慶、信實		課題「本日の作品ディスクリプションと考察」	
第11回	室町時代 明兆、雪舟		課題「本日の作品ディスクリプションと考察」	
第12回	桃山時代 狩野派と土佐派		課題「本日の作品ディスクリプションと考察」	
第13回	江戸時代Ⅰ 琳派		課題「本日の作品ディスクリプションと考察」	
第14回	江戸時代Ⅱ 浮世絵師		課題「本日の作品ディスクリプションと考察」	
第15回	まとめ		期末レポート「日本美術史における作品と作者」	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	25％ 期末レポート			
小テスト等	—			
成果発表	0％			
受講態度他	75％ 毎回の課題への取り組み（各回5％×15回）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回の課題「作品ディスクリプションと考察」を、授業日の次の回の前日までに提出すること。提出は筑女ネットの「課題」にアップすること。  期末レポート「日本美術史における作品と作者」は8月9日を締め切りとする。形式自由で2000字程度、参考文献と内容にふさわしいタイトルを付けてネットで提出。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に指示します。			
オフィスアワー	随時	メールアドレス		

授業科目	日本文化演習Ⅰ【演習】		開講時期	前期
担当教員	森田 真也		単 位	2
授業の目的と概要	講義の目的は、日本文化の多様性を考えるために主に沖縄を取り上げ、その文化的特性、日本との共通性を考察していくことにある。講義では、さまざまな分野から沖縄の現在を知り、その文化的な特徴や奥の深さを感じてほしいと思う。さらには沖縄の抱えている現代的課題を、同時代にある私たち自身のものとしてとらえてもらいたい。沖縄の現在を考えるために、主に言語、食の習慣、音楽と芸能、パフォーマンス等の特徴的な事例を示しながら講義を進めていく。また、小説、映画やドラマ等において沖縄がどのように描かれてきたのかについても検証する。さらには、琉球王国から沖縄県へのあゆみ、国内外への移民、沖縄戦、基地問題、近年のアイデンティティ模索の現状をも取上げ、沖縄が直面してきた近現代史を日本やアメリカとの関係から考察していく。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民俗学の主要なテーマについて確認し、思索を深めることが出来る。「課題探求力」</li> <li>・ 沖縄の文化的特性について理解し、説明することが出来る。</li> <li>・ 沖縄と日本の比較から、文化的共通性について理解し、説明することが出来る。</li> <li>・ 日本とアメリカとの歴史的關係から、沖縄社会が抱える課題について考察出来るようになる。</li> <li>・ 沖縄を通して日本文化の多様性について理解することで、自己認識を深め、創造的思考力を獲得することが出来る。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 「日本文化演習Ⅱ」、「民俗学Ⅰ」、「民俗学Ⅱ」、「日本文化研究入門」と関連します。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回：	沖縄と日本の文化をとらえるにあたって	授業の目的と内容について理解する		
第2回：	沖縄の概要（1）：地理・言語	沖縄の概要について理解する（資料の通読と復習）		
第3回：	沖縄の概要（2）：歴史	沖縄の概要について理解する（資料の通読と復習）		
第4回：	沖縄の食文化（1）：伝統的な食文化	沖縄の食文化の特徴を考える（資料の通読と復習）		
第5回：	沖縄の食文化（2）：アメリカ文化の影響	沖縄の食文化の特徴を考える（資料の通読と復習）		
第6回：	沖縄の文学（1）：文学からみる沖縄と日本の関係	沖縄の文学の特徴を考える（資料の通読と復習）		
第7回：	沖縄の文学（2）：金城哲夫と「ウルトラマン」	沖縄の文学の特徴を考える（資料の通読と復習）		
第8回：	沖縄音楽の潮流（1）：島唄から1980年代まで	沖縄の音楽の特徴を考える（資料の通読と復習）		
第9回：	沖縄音楽の潮流（2）：1990年代から現代まで	沖縄の音楽の特徴を考える（資料の通読と復習）		
第10回：	沖縄のパフォーマンス・芸能：エイサーの現代的展開	沖縄の芸能の現代的展開について考える（資料の通読と復習）		
第11回：	沖縄を舞台とした映画・ドラマ	沖縄を描くマスメディアの問題を考える（資料の通読と復習）		
第12回：	沖縄のお笑い（1）：沖縄の笑いと言芸	沖縄の笑いの特徴を考える（資料の通読と復習）		
第13回：	沖縄のお笑い（2）：沖縄の笑いと言芸	沖縄の笑いの特徴を考える（資料の通読と復習）		
第14回：	奄美の音楽文化	奄美の音楽の特徴を考える（資料の通読と復習）		
第15回：	講義の総括・まとめ	授業全体の復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	70％ 中間レポートと期末レポート（2020年度）。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	30％ 受講態度。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。 2020年度は出席コメントを提出ください。 「日本文化演習Ⅰ」を履修する者は、「日本文化演習Ⅱ」を履修することが望ましい。 4年次の「卒業論文」のゼミを希望する者は、「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」を履修することが望ましい。 原則、他学科からの受講は認めない。			
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。			
指定図書	無し。			
参考図書	赤嶺政信『沖縄の神と食の文化』青春出版社（2003年）。 外間守善『沖縄の歴史と文化』中公新書（1986年）。			
オフィスワーク	メールで適時質問を受け付けます。	メールアドレス		

授業科目	日本文化演習Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	時里 奉明		単 位	2
授業の目的と概要	<p>目的：この授業は、日本近代史に関するテキストを取り上げ、読書会を行う。テキストは、吉田裕『日本軍兵士ーアジア・太平洋戦争の現実』。日本は、1937年の日中戦争から、1941年の太平洋戦争、そして1945年の敗戦までの9年間、310万人に及ぶ犠牲者を出した。しかし、どういう現場だったのか、どこでどういう犠牲者を出したのかなど、どのくらい実態を知っているだろうか。この本は、兵士の目線の立場から、当時の現実を描いている。2020年は敗戦から75年の節目の年でもある。本テキストを通読することにより、歴史から何を学んだらよいか、ともに考えたい。</p> <p>概要：報告者はテキストの一部を担当して、それぞれ発表する。テキストを精読して、日中戦争以降の兵士の実態を理解し、その背景を洞察することにより、日本近代のある到達点を考える。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 著者の主張を理解し、整理することができる。</li> <li>2 参加者のディスカッション、質疑応答を通して、自分の意見をまとめることができる。</li> <li>3 日中戦争以降の実態を、兵士の立場から理解し、説明することができる。</li> <li>4 3にもとづき、日本近代について、思索を深めることができる。「課題探究力」</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日 (4) -①-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	ガイダンス：講義のねらい スケジュールと履修方針の確認	課題（履修の確認）		
第2回	テキストの説明、日中戦争から太平洋戦争の戦時期を学ぶことの意義	課題（テキストの理解）		
第3回	口頭発表のやり方、参考文献の集め方など	課題（口頭発表の理解）		
第4回	口頭発表①	テキストを読む、発表準備		
第5回	口頭発表②	テキストを読む、発表準備		
第6回	口頭発表③	テキストを読む、発表準備		
第7回	口頭発表④	テキストを読む、発表準備		
第8回	口頭発表⑤	テキストを読む、発表準備		
	博物館見学、あるいは映像鑑賞（予定）	見学にもとづき、ディスカッションの準備		
第10回	口頭発表⑥	テキストを読む、発表準備		
第11回	口頭発表⑦	テキストを読む、発表準備		
第12回	口頭発表⑧	テキストを読む、発表準備		
第13回	口頭発表⑨	テキストを読む、発表準備		
第14回	口頭発表⑩	テキストを読む、発表準備		
第15回	テキストのまとめ	歴史から何を学ぶか		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	50% 口頭発表と質疑応答			
受講態度他	50% 口頭発表の取り組みや質疑応答など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>初回のガイダンスは、必ず出席すること。4年次の「卒業論文」を希望する者は、ゼミ分けの参考にするので履修することを希望する。</p> <p>受講者と話し合っ、計画を変更することがある。講義中に博物館へ行ったり、当時の映像を鑑賞することを予定している。</p>			
教科書	吉田裕『日本軍兵士ーアジア・太平洋戦争の現実』（中公新書、2017年）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に紹介する。			
オフィスワー	金の昼休み。研究室にいる時はいつでも。	メールアドレス		

授業科目	日本文化演習Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	森田 真也		単 位	2
授業の目的と概要	講義の目的は、日本文化の多様性を考えるために主に沖縄を取り上げ、その文化的特性、日本との共通性を考察していくことにある。そのため講義では、特に沖縄の民俗宗教、精神文化の領域にテーマをしばって考えていく。そして、沖縄の現在に生きる伝統的な信仰の在り方と社会構造の特質、日本との違いや共通点について解説していく。 沖縄には、日本本土とは違った独自の伝統的な民俗宗教が生活の中に生きている。そこで中心となるのは女性の存在である。日本本土と共通するもの、違うもの、中国・台湾、朝鮮半島と共通するもの、オセアニアの諸地域と共通するものがある。沖縄の伝統的な宗教生活を考えるために、各地の祭礼、聖地、神話、祖先祭祀と親族組織、霊魂観、世界観、シャーマニズム、宗教者、祭祀組織、民俗芸能等を取り上げながら、主に精神文化の領域と社会構造を中心に考えていく。あわせて、沖縄の宗教的世界と米軍基地の関わりについても考察します。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民俗学の主要なテーマについて確認し、思索を深めることができる。「課題探求力」</li> <li>・沖縄の文化的特性について理解し、説明することができる。</li> <li>・沖縄と日本との比較から、文化的共通性について理解し、説明することができる。</li> <li>・沖縄の民俗宗教、沖縄の精神文化について理解を深めることができる。</li> <li>・沖縄を通して日本文化の多様性について理解することで、自己認識を深め、創造的思考力を獲得することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探求力」</p> <p>「日本文化演習Ⅰ」、「民俗学Ⅰ」、「民俗学Ⅱ」、「日本文化研究入門」と関連します。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回：	沖縄と日本の文化をとらえるにあたって	授業の目的と内容、沖縄の概要について理解する		
第2回：	沖縄の霊魂観と怖い話（1）：死霊（シニマブイ）と生霊（イチマブイ）ー	沖縄の霊魂観の特徴を考える（資料の通読と復習）		
第3回：	沖縄の霊魂観と怖い話（2）：魔物（マジムン）・妖怪と心霊スポットー	沖縄の霊魂観の特徴を考える（資料の通読と復習）		
第4回：	沖縄のシャーマニズム（1）：ユタに成る	沖縄のシャーマニズムの特質を考える（資料の通読と復習）		
第5回：	沖縄のシャーマニズム（2）：ユタの役割	沖縄のシャーマニズムの特質を考える（資料の通読と復習）		
第6回：	沖縄の祖先祭祀と親族組織（1）：共同で祖先を祀る	沖縄の祖先祭祀の特徴を考える（資料の通読と復習）		
第7回：	沖縄の祖先祭祀と親族組織（2）：門中との関わり	沖縄の祖先祭祀と親族組織との関わりを考える（資料の通読と復習）		
第8回：	卒業論文と卒論ゼミ選択について	卒論テーマとゼミについて考える（復習）		
第9回：	沖縄の祭祀と世界観（1）：来訪神と聖地	沖縄の祭祀の特徴を考える（資料の通読と復習）		
第10回：	沖縄の祭祀と世界観（2）：女性の司祭とオナリ神信仰	沖縄の祭祀の特徴を考える（資料の通読と復習）		
第11回：	沖縄の祭祀組織の現在：久高島の「イザイホー」を中心に	沖縄の祭祀の特徴と課題を考える（資料の通読と復習）		
第12回：	軍用地問題と宗教的世界の節合：渡名喜島の米軍射爆演習場の事例から	沖縄の祭祀と米軍基地の関わりを考える（資料の通読と復習）		
第13回：	米軍基地と地域アイデンティティ：千原エイサー保存会の事例から	沖縄の祭祀と米軍基地の関わりを考える（資料の通読と復習）		
第14回：	琉球舞踊と組踊の世界	沖縄の古典芸能の特徴を考える（資料の通読と復習）		
第15回：	ローカルヒーロー「琉神マブヤー」にみる沖縄の心	ローカルヒーローに表象された心意を考える（資料の通読と復習）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	70% 期末レポート。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	30% 受講態度。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	基本対面形式の授業となる予定ですが、途中でオンデマンド型に移行する可能性もあります。また、対面の出席が出来ない受講者向けにオンデマンド型の授業を用意する予定です。教室での実施の場合は、正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。オンデマンド型での受講の場合（2020年度）は、筑女ネットで出席コメントを提出ください。「日本文化演習Ⅱ」を履修する者は、「日本文化演習Ⅰ」を履修することが望ましい。			
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。			
指定図書	無し。			
参考図書	赤嶺政信『沖縄の神と食の文化』青春出版社（2003年）。 リーブラ.P.W『沖縄の宗教と社会構造』弘文堂（1974年）。			
オフィスアワー	火曜日昼休み（12:30-13:00）	メールアドレス		

授業科目	日本文化研究入門【講義】		開講時期	後期
担当教員	時里 奉明・森田 真也・木本 拓哉		単位	2
授業の目的と概要	<p>文化の定義、文化研究の意義についての知識を得る。宗教・思想という概念的文化が生活基盤に流れていることを理解する。歴史を学ぶことにより、日本文化の形成・発展のあり方を学ぶ。民俗へのアプローチを通じて、地域的生活文化についての理解を深める。</p> <p>この授業は、日本文化研究についてのオリエンテーションの意味で開講します。しかし、「日本文化学」といった学問分野を意図しているわけではなく、3人の教員それぞれの分野（宗教学・歴史学・民俗学）からどのように日本文化にアプローチするのか、日本文化を理解することにどのような意義があるのかについて、理解を深めることを目指します。また、文化理解の手法を通じて、現代社会における様々な問題解決の糸口を探ってみましょう。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幅広い視野に立ち、文化を学ぶことの意義について説明することができる。</li> <li>2. 自分が興味を持つ文化について、資料を収集・分析することができる。</li> <li>3. 文化研究のアプローチ方法に則って、ある「文化」について理解を深め、説明することができる。</li> <li>4. 論理的思考力をもって研究成果を表現することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>この授業は日本文化に関する講義と関連する。</p> <hr/> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	宗教から見る日本文化(1)ーイントロダクション・人間と宗教ー：担当 木本	課題①宗教学関連レポート、(復習)		
第2回	宗教から見る日本文化(2)ー古代の死生観ー：担当 木本	課題①宗教学関連レポート、(復習)		
第3回	宗教から見る日本文化(3)ー死後の世界ー：担当 木本	課題①宗教学関連レポート、(復習)		
第4回	宗教から見る日本文化(4)ー墓参の意味ー：担当 木本	課題①宗教学関連レポート、(復習)		
第5回	宗教から見る日本文化(5)ー現代の死生観ー：担当 木本	課題①宗教学関連レポート、(復習)		
第6回	歴史から見る日本文化(1)ーイントロダクション・歴史は役に立つかー：担当 時里	課題②歴史学関連レポート、(復習)		
第7回	歴史から見る日本文化(2)ー従軍慰安婦をめぐる論争ー：担当 時里	課題②歴史学関連レポート、(復習)		
第8回	歴史から見る日本文化(3)ー従軍慰安婦論争と歴史学ー：担当 時里	課題②歴史学関連レポート、(復習)		
第9回	歴史から見る日本文化(4)ー「日本人」のアイデンティティー：担当 時里	課題②歴史学関連レポート、(復習)		
第10回	歴史から見る日本文化(5)ー歴史像を提示することー：担当 時里	課題②歴史学関連レポート、(復習)		
第11回	民俗から見る日本文化(1)ーイントロダクション・文化を考える視点ー：担当 森田	課題③民俗学関連レポート、(復習)		
第12回	民俗から見る日本文化(2)ー妖怪の過去と現在ー：担当 森田	課題③民俗学関連レポート、(復習)		
第13回	民俗から見る日本文化(3)ー妖怪を創るー：担当 森田	課題③民俗学関連レポート、(復習)		
第14回	民俗から見る日本文化(4)ー死者をめぐる文化を比較するー：担当 森田	課題③民俗学関連レポート、(復習)		
第15回	民俗から見る日本文化(5)ー民俗学のスマーー：担当 森田	課題③民俗学関連レポート、(復習)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% レポート3回			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40% 受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>3名の担当者から指示されたレポートは全て提出すること。一つでも提出されない場合は単位を認定しない。</p> <p>レポートのテーマや書式は各担当者が授業中に指示する。</p> <p>遠隔授業を予定しています。2020年度は出席コメントを提出ください。</p>			
教科書	授業時に担当者から指示。			
指定図書	なし			
参考図書	授業時に担当者から指示。			
オフィスアワー	金曜の昼休み	メールアドレス		

授業科目	日本文化特論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	横山 尊		単 位	2
授業の目的と概要	この講義は、受講者である大学院生が自身の修士論文や修了後に何らかの執筆活動を展開していくための基礎作業を進め、その手助けをすることを目的とする。 基本的には文献収集や研究発表のノウハウを伝授し、卒業論文の問題点を見つめなおす。そして修士論文を作成する上での論理的思考力の涵養を図った上で、受講生が研究しているテーマの先行研究の輪読、修士論文の基礎となる研究発表をし、受講生同志や担当教員による質疑応答を行っていく。 講義担当者の専攻は日本近現代史であるが、関連して科学技術論、医療社会論、生命倫理、ジェンダー論、人口学、福祉論などの分野にも研究的関心を払っている。そうした分野で修士論文を書きたい大学院生の受講を歓迎する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の研究テーマに関する文献収集を限なく行い、読解できる能力を身に着ける。</li> <li>研究発表の準備を要領よく進め、第三者に分かりやすく行う能力を身に着ける。</li> <li>自身の研究内容を論理的で適切な文章のかたちで表現する能力を身に着ける。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) 受講生が研究するテーマについて、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。 (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。 (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。 (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回：	ガイダンスー受講生の研究関心の把握	次回の発表準備		
第2回：	受講生のこれまでの研究に関する発表①	次回の発表準備		
第3回：	受講生のこれまでの研究に関する発表②	次回の発表準備		
第4回：	論理的思考力を養うために	次回の発表準備		
第5回：	先行研究の読解と問題点の抽出——文献輪読①	次回の発表準備		
第6回：	先行研究の読解と問題点の抽出——文献輪読②	次回の発表準備		
第7回：	先行研究の読解と問題点の抽出——文献輪読③	次回の発表準備		
第8回：	先行研究の読解と問題点の抽出——文献輪読④	次回の発表準備		
第9回：	史資料の読解と問題点の抽出——資料講読①	次回の発表準備		
第10回：	史資料の読解と問題点の抽出——資料講読②	次回の発表準備		
第11回：	史資料の読解と問題点の抽出——資料講読③	次回の発表準備		
第12回：	研究発表・論文作成のためのテクニック	次回の発表準備		
第13回：	受講生の研究発表と質疑応答①	次回の発表準備		
第14回：	受講生の研究発表と質疑応答②	次回の発表準備		
第15回：	受講生の研究発表と質疑応答③	次回の発表準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% 総括としての研究発表。			
レポート	受講生の研究の進具合によってはレポート、論文を求める場合がある。			
小テスト等	無し。			
成果発表	40% 受講生の先行研究となる論文の輪読と研究発表を数回行ない、質疑応答をする。			
受講態度他	20% 研究姿勢を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講義は授業担当者による一般的な講義を行わず、受講生の要望を聴取したうえで、関連研究などを読み進めたり、受講生による研究発表を中心に展開していく。そのような機会を積極的に利用してもらえれば、2年で修士論文を執筆することはできないからである。 受講者の人数や日本語能力によって、輪読論文、講義計画を変更する可能性もある。 欠席する場合は、必ず講義担当者に事前に連絡を入れること。			
教科書	無し。			
指定図書	無し。			
参考図書	ポール・J・シルヴィア(著)、高橋 さきの(翻訳)『できる研究者の論文生産術』講談社、2015年 同『できる研究者の論文作成メソッド』講談社、2016年			
オフィスアワー	講義の前と後	メールアドレス		

授業科目	日本文化特論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	森田 真也		単 位	2
授業の目的と概要	この講義では、民俗学の立場から、現代日本社会を人々の日常の実践と思考を通して読み解いていく。そして、近代以降、日本社会が直面してきた課題、現在の都市的生活者や地域社会が抱えもつ課題を、生活者の立場からとらえていく。また、あわせて日本社会の多様な問題に対して、生活者の視点から批判的に検証し、実践的にアプローチする力を培う。 この講義では、日本社会を「文化」をめぐる諸問題からとらえなおしていく。そして、近年、日本社会で散見されるような民俗文化の活用の試みと、地域社会を生きる人々の営みと思考にあるギャップや矛盾点について考えていく。そのため、日本、沖縄における「文化資源化」の事例、具体的には、地域社会の民俗文化を活用した観光による地域振興、文化政策等の議論を、講義、研究論文の輪読と発表、ディスカッションを通して批判的に検証していく。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の日常の実践と思考の在り方を、現場に則しながら理解し、考察する視点を獲得することが出来る。</li> <li>・近代以降の日本社会の変化と課題について理解し、説明することが出来る。</li> <li>・日本社会の多様な問題に対して、批判的に検証し、実践的にアプローチする力を身につけることが出来る。</li> <li>・文献の輪読と議論によって、論旨を読み取り、自らの見解を明確にまとめることが出来る。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</p> <p>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</p> <p>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</p> <p>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>この講義は森田担当の「フィールド・ワーク」と関係します。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回：	文化から社会を見通す視点—本講義のねらい—	授業の目的と内容について理解する		
第 2回：	民俗学と文化人類学の日本研究	民俗学と文化人類学の特徴について理解する（資料の通読と復習）		
第 3回：	文化の資源化の諸問題（1）—民俗文化とフォークロリズム—	文化の資源化とは何か理解する（資料の通読と復習）		
第 4回：	文化の資源化の諸問題（2）—観光と地域振興—	観光と地域振興の関係について考える（資料の通読と復習）		
第 5回：	文化の資源化の諸問題（3）—地域社会と文化政策と観光—	地域社会と文化政策の課題について考える（資料の通読と復習）		
第 6回：	文化の資源化の諸問題（4）—都市と地方の関係—	観光から地方と都市の関係について考える（資料の通読と復習）		
第 7回：	論文の輪読（地域振興の課題）・発表とディスカッション①	発表準備 文献（指定論文）の読解・内容整理、資料作成		
第 8回：	論文の輪読（地域振興と伝統文化）・発表とディスカッション②	発表準備 文献（指定論文）の読解・内容整理、資料作成		
第 9回：	論文の輪読（伝統文化の保存と活用）・発表とディスカッション③	発表準備 文献（指定論文）の読解・内容整理、資料作成		
第10回：	論文の輪読（文化財保護政策の問題）・発表とディスカッション④	発表準備 文献（指定論文）の読解・内容整理、資料作成		
第11回：	論文の輪読（世界遺産登録の問題）・発表とディスカッション⑤	発表準備 文献（指定論文）の読解・内容整理、資料作成		
第12回：	論文の輪読（伝統文化と地域社会）・発表とディスカッション⑥	発表準備 文献（指定論文）の読解・内容整理、資料作成		
第13回：	院生による研究発表	発表準備、資料作成		
第14回：	海外（諸外国）の文化の資源化の事例から	海外の事例と比較して考える（資料の通読と復習）		
第15回：	講義の総括	授業全体の復習と理解の確認		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	40％ 期末レポート。			
小テスト等	無し。			
成果発表	40％ 論文の輪読と研究発表を数回行ない、質疑応答をする。			
受講態度他	20％ 受講態度と研究姿勢を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>輪読する文献（論文）については、講義中に指示する。事前に読んで、各自で内容を整理・理解しておくこと。積極的な受講を希望する。</p> <p>受講者の人数によって、輪読論文、講義計画の変更の可能性もある。</p> <p>2020年度は、対面授業と遠隔授業の複合を予定しています。オンデマンド型の授業、一部Teamsを用いた口頭発表もしてもらいます。</p>			
教科書	無し。状況に応じて資料を配布する。			
指定図書	岩本通弥編『ふるさと資源化と民俗学』吉川弘文館（2007年）。〈本学図書館所蔵〉			
参考図書	講義中に適時紹介する。			
オフィスアワー	木曜日昼休み（12:30-13:00）	メールアドレス		

授業科目	日本文化論【講義】		開講時期	前期
担当教員	横山 尊		単 位	2
授業の目的と概要	<p>テーマ：〈人口と移民〉からみる近代日本  人口は、内部的には出生・死亡・結婚（離婚）、移動といった要因で変動します。それらがどう組み合わせたり、人口が変動したかが人口研究の課題となってきました。逆に、人口変動が社会や経済、文化に影響を与えることもあります。例えば、現在日本が直面する少子高齢化は、社会保障の問題をはじめとし、日本の社会・経済・文化を大きく変える可能性を秘めています。本講義は、近世から現代日本を対象にその様相を論じます。  同時に、本講義は、人の移動、移民に焦点を当てます。実は1920年代から1970年代頃の50年余りにわたり、日本は積極的な移民送出国でした。一方で、20世紀末から外国人の大量流入にも直面しています。本講義は、在日朝鮮人や1970年代の女性外国人労働者などの国内のマイノリティやそれに伴う差別問題にも着目しながら、その様相を論じていきます。</p>			
到達目標	<p>第一に近代日本の人口や移民をめぐる問題の基礎的知識を習得し、政治・社会・文化との関係性の中で捉える視野を獲得すること。  第二に、出生・死亡・結婚・移動を中心とした人びとの多様な生の営みを、人種主義やマイノリティをめぐる問題と絡め、歴史的な見地から捉える視点を身につけること。  こうした視野の獲得は、現代の人口問題やグローバル社会への理解にも大きく寄与するでしょう。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>前期の日本文化論Ⅰ、後期の日本思想史も履修すれば、本授業で得られる理解は深まるでしょう。  特に日本思想史と併せた学習は〈身体〉〈ジェンダー〉〈セクシュアリティ〉の知見を深める上で有意義でしょう。</p> <p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」  日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	<人口と移民>から近代日本をみる意味	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
第2回	江戸時代の結婚・出産・死亡—歴史人口学の世界	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
第3回	人口調節装置としての江戸時代の都市—都市は「蟻地獄」？	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
第4回	日本人の海外渡航解禁と「国際結婚」の成立	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
第5回	ハワイの日本人移民—ハワイ王国の滅亡前と後	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
第6回	北米の日本人移民排斥運動とアメリカ政府	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
第7回	ブラジル移民政策と日本移民—米国排日運動の反響	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
第8回	満州国農業移民が映し出す社会帝国主義	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
第9回	黄禍論・人種主義と日本人の自画像	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
第10回	1920-1940年代の人口政策構想—人口政策確立要綱に至るまで	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
第11回	大日本帝国と朝鮮人の移動	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
第12回	大日本帝国の崩壊と引揚・復員—そして博多港・二日市療養所	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
第13回	シベリア抑留と戦後日本—ソ連共産主義の「収容所列島」の中で	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
第14回	敗戦後日本の南米移民の実態	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
第15回	総括と展望：日本が人口減少社会になるまで—今後の日本人口と労働移民問題	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40%			
小テスト等	40%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日本の歴史・文化に関心を有する人はもちろん、東アジア全体の歴史・文化や、政治学、経済学に関心を有する人たちの受講を歓迎します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	鬼頭宏『人口から読む日本の歴史』講談社学術文庫、2000年〔原1983年〕 塩出浩之『越境者の政治史—アジア太平洋における日本人の移民と植民』名古屋大学出版会、2015年			
オフィスアワー	講義時間前後の休憩時間	メールアドレス		



授業科目	日本文学の現在【講義】		開講時期	前期
担当教員	松本 常彦		単位	2
授業の目的と概要	現代の日本文学について、具体的な作品読解を通して、その表現および問題の多様性について学習することが目的である。さらに、その学習を通して、文学作品が投げかける現代日本の多様な問題について考察することが、授業の目的である。上記の表現と問題の多様性は、作品ごとに異なるが、授業全体の概要としては、具体的な文字表現の情報を検討することで、その深層もしくは背景にある文脈を構成し読解する読み方を学習する。			
到達目標	①多様な表現方法を用いた日本の現代小説について、文脈や文意に即した一次的な解釈ができる。 ②上記①の一次的な解釈を踏まえた上で、明示化された文脈や文意としては表現されていない深層ないしは背景にある文脈や文意があることを理解し、その深層の文脈を読む二次的解釈ができる。 ③上記の①と②を踏まえ、任意の作品について自分自身で、一次的解釈と二次的解釈の両方ができる。 ④上記の③を踏まえ、文学作品に表現された多様な課題と現代日本の課題を双方向的に対比検討できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日(3)-②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	講義全体の概要および講義の目的についての説明	シラバスをよく読んで受講すること		
第2回	文学テキストの一次的解釈と二次的解釈との関係の概説	次週までに授業中に指示した配布資料(小説)を読んでくる		
第3回	一次的解釈と二次的解釈との関係との関係についての具体的読解(村上春樹と地震小説を例に1)	次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる		
第4回	一次的解釈と二次的解釈の関係の具体的読解(村上春樹と地震小説を例に2)	次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる		
第5回	一次的解釈と二次的解釈との関係の具体的読解(村上春樹と地震小説を例に3)	次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる		
第6回	一次的解釈と二次的解釈との関係の具体的読解(村上春樹と地震小説を例に4)	次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる		
第7回	一次的解釈と二次的解釈との関係の具体的読解(村上春樹と地震小説を例に5)	次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる		
第8回	現代小説の方法の多様性(二次的解釈の応用)	次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる		
第9回	現代小説の方法の多様性(二次的解釈の応用)	次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる		
第10回	現代小説の方法の多様性(時間の表象・朝吹真理子の小説を例に1)	次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる		
第11回	現代小説の方法の多様性(時間の表象・朝吹真理子の小説を例に2)	次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる		
第12回	現代小説の方法の多様性(時間の表象・朝吹真理子の小説を例に3)	次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる		
第13回	現代日本の課題としての「家族」と文学(1)	次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる		
第14回	現代日本の課題としての「家族」と文学(2)	次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる		
第15回	講義の総括とレポート課題の説明	レポート作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	あり(60%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	あり(40%) 毎回のアンケート			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	オンデマンド形式に対応し、自主的に課題に向き合うこと			
教科書	オンデマンド形式で提示			
指定図書	オンデマンド資料に掲示			
参考図書	オンデマンド資料に掲示			
オフィスアワー	随時	メールアドレス		

授業科目	人間科学概論（再）【講義】		開講時期	前期
担当教員	榊 祐子		単位	2
授業の目的と概要	<p>人間の多面的理解に貢献してきた心理学の諸領域について概観し、特に、人間の発達や性格、社会的行動に関する基礎的知識の習得を目指す。</p> <p>それぞれの領域における重要な事項を選択し、日常的なテーマなども取り入れながら、心理学概論Ⅱとあわせて、心理学全般にわたる基本概念を学ぶ。単なる知識の獲得にとどまらず、自分自身の性格や行動、日常生活における対人関係などと関連付けながら理解を深めていく。</p>			
到達目標	<p>①人間の発達段階や理論について比較し、それぞれの特徴を具体的に述べる事が出来る</p> <p>②性格の特性や分類を説明し、自らの性格と関連づけて述べる事が出来る。</p> <p>③集団における行動の特徴について説明する事が出来る</p> <p>④日常生活での経験やこれまでの体験を発達、社会、人格などの視点から解釈し説明する事が出来る</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>心C (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>全学共通科目や学部共有科目を履修することで、広い視野から人間理解につながります。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	心理学とは①：心理学の起源、歴史	心理学の歴史についての復習		
第2回	心理学とは②：心理学の諸領域と関連領域	心理学の領域と成果についての復習		
第3回	発達①：人間の発達段階とは	発達段階の特徴についての復習		
第4回	発達①：発達段階の理論	発達理論の整理と復習		
第5回	発達③：言語の発達	言語の発達についての復習		
第6回	発達④：社会性の発達	家族や友人関係の発達についての復習		
第7回	まとめ①：心理学の歴史、発達についての確認テスト	心理学の歴史と発達心理学の整理		
第8回	性格①：人格の特性について	人格のとらえ方の復習		
第9回	性格②：性格の分類	人格理論の復習		
第10回	性格③：性格の形成	性格形成の要因についての復習		
第11回	性格④：集団と性格	集団が正確に与える影響についての復習		
第12回	社会①：集団における個人の行動	集団における性格と行動についての復習		
第13回	社会②：個人と対人関係	個人と社会的知覚についての復習		
第14回	社会③：同調行動について	同調行動の経験についての振り返り		
第15回	まとめ②：人格、社会について確認テスト	人格と社会心理学の振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 歴史、発達、人格、社会の中からテーマを設定し、調べてまとめる			
小テスト等	60% まとめ①、②の確認テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 講義に対する積極的態度、理解度をレポートにて確認			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退出は慎むこと。			
教科書	指定なし			
指定図書	指定なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	火曜日 2限	メールアドレス		

授業科目	人間科学概論【講義】		開講時期	前期
担当教員	小野 望・崔 淑芬・小川 直樹		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本科目は当研究科の基礎教育科目として1年次前期におかれる必修科目である。当研究科における学修のガイダンスとしての役割をもつ同時に、人間存在に関する広汎な学問体系のなかに、学生自身が自己の研究テーマに関連する重要な考え方や知識を見いだすことができることを目的とする。</p> <p>3人の教員によるオムニバス形式の講義で行う。それぞれの教員の専門分野からの講義内容は、①女性学の社会的視点—その推移と現状—からみる人間理解と人間支援、②言語学の分野からみた人間理解、人間支援、③福祉学の分野からみた人間理解、人間支援の3部からなる。全体のオリエンテーション、最終の2回の全体討論を除いて残り12回の講義を各教員が4回ずつ担当する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間理解・人間支援に関して心理、人文、社会科学のそれぞれの観点から考察できる</li> <li>2. 自己の研究テーマに関して、関連諸科学の考え方を援用して考察を進めることができる。</li> <li>3. 自己の研究の進め方に関して、当研究科で得られた知識をもとにその概要を考察し、発表できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	全体オリエンテーション：人間科学、理解と支援、研究方法	自らの研究テーマ、目標のまとめ。教員の紹介する参考図書の読書		
第2回	女性学概論	教員の紹介する女性学に関する参考図書の読書		
第3回	過去における女性の生き方	参考図書を読み、女性の生き方の変遷を整理する		
第4回	女性の社会的地位の変遷	参考図書を読み、女性の社会的地位の変遷を整理する		
第5回	女性学に関する現状と課題	歴史的状況を踏まえ、女性学の現状と課題を考察する		
第6回	日本語と「女性」 日本語の歴史において、「女性」はどう描かれてきたか	スライド解説を読み、社会のあり方と言語の関係を考察する		
第7回	談話分析 言語行動の地域差を例に	スライド解説を読み、人間関係とコミュニケーションスタイルを考察する		
第8回	言語学から見る社会理解 コミュニケーション研究の概要	参考資料「ポライトネス」を読み、社会理解の方法論として考える。		
第9回	言語学における研究アプローチの具体例 敬意表現研究の一例	参考資料「敬意表現」を読み、敬語の位置付けについて考察する		
第10回	「福祉学」、その学問的位置づけ	教員の紹介する参考図書の読書		
第11回	展開—関係性希薄の時代と福祉をめぐる論点	参考図書を読み、現代社会の人間関係と福祉について考察する		
第12回	地域研究からみた人間理解、人間支援	参考図書を読み、地域研究の視点を整理する		
第13回	研究アプローチの具体例 一個人・家族／地域・自治体／民間非営利	事前課題に取り組み、報告する		
第14回	全体討論(1) 学生発表「研究をどうすすめていくか」	配付資料を準備し、自身の研究について発表する		
第15回	全体討論(2) 学生発表「研究をどうすすめていくか」	配付資料を準備し、自身の研究について発表する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% 筆記試験(16回目)は行わない。			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	60% 2回の全体討論のなかでの発表内容を主たる評価対象とする。			
受講態度他	40% 各授業への参加態度、討論での質疑応答の内容などを主たる評価対象とする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	大学院における講義を教員とともに作り上げるという意識が求められる。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	それぞれの担当教員が随時紹介する。			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	人間関係論【講義】		開講時期	後期
担当教員	岡村 尚昌		単位	2
授業の目的と概要	コミュニケーションの知識と技法を学ぶことにより、自己や他者理解を深め、日常の人間関係を良好に保つ能力を身につけると同時に、様々な人間関係に対応できるスキルを身につけることを目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己を理解する理論と基礎的技術を身に付ける。</li> <li>2. 対人援助における人間関係について説明できるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：人間関係論の基本的視点	対人援助における人間関係について調べる		
第2回	自分と他者の関係性	配布プリントを熟読し、自己を理解する理論を調べる		
第3回	自分と他者のコミュニケーション	配布プリントを熟読し、自分と他者のコミュニケーションについて考える		
第4回	人間関係の生涯発達	配布プリントを熟読し、人間関係の生涯発達について予習しておく		
第5回	集団の中での行動パターン	配布プリントを熟読し、集団の中での行動パターンについて調べる		
第6回	家族関係	家族の人間関係について調べる		
第7回	夫婦関係	配布プリントを熟読し、夫婦のライフサイクルについて調べる		
第8回	親子関係	親子関係と子供の発達について調べる		
第9回	教師と学生との関係	教師と学生の人間関係について意見をまとめる		
第10回	職場の人間関係	配布プリントを熟読し、職場の人間関係について予習しておく		
第11回	援助専門職者の人間関係①：臨床心理学領域を中心にして	援助専門職者の人間関係について調べる		
第12回	援助専門職者の人間関係②：高齢者との人間関係	配布プリントを熟読し、高齢者との人間関係について意見をまとめる		
第13回	援助専門職者の人間関係③：福祉領域を中心として	配布プリントを熟読し、福祉領域における人間関係について予習しておく		
第14回	ソーシャル・サポートとQOL向上	ソーシャル・サポートとQOL向上について考えをまとめる		
第15回	総括	人間関係論で学んだことのポイントを整理する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 学んだことの復習として行う。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 講義に対する意欲や参加態度も考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義をよく聴き、積極的に討論に参加してください。配布プリントは毎回持参してください。			
教科書	教科書は特に指定せず、毎回講義プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	講義の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	人間学【講義】	開講時期	後期
担当教員	浅田 淳一	単 位	2
授業の目的と概要	<p>「宇宙における人間の地位」について自分なりの考えが持てるようになること。そして、特に人間を「生きている者」として捉えた場合のその特性について理解し、さらに、男と女という二つの性に分かれて生きていることの意味、そして、その両性がより平等にそしてより幸福に生きていくための倫理を自ら考えていけるようになること。</p> <p>「宇宙における人間の地位とはどのようなものなのか?」。これが、哲学的人間学の最も根本的な問いである。</p> <p>本講義では、まずこの問いに真正面から答えようとした哲学者として、プラトンとアリストテレスとルソーをとりあげ、彼らの人間観を紹介する。その上で、特に生きている存在として、しかも男と女として生きている存在としての人間の振る舞いと、その倫理について考えてみる。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プラトン・アリストテレス・ルソーの人間観を理解し述べることができる。</li> <li>2. 「生きている者」としての人間の特徴を説明することができる。</li> <li>3. 生物としての男と女について、その違いを客観的に説明することができる。</li> <li>4. 人間としての男と女が、平等にしかも幸福に生きていくための倫理学を構想することができる。</li> <li>5. 自分自身が確立した人間観から、「生命倫理の問題」を考えることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第 1回	哲学的人間学の問い：「宇宙における人間の地位」とは？	課題（宇宙の中での人間の地位の特殊性について各自考えてみる）	
第 2回	プラトンの人間観：魂と肉体の峻別・人間＝理性の主体	課題（プラトニックラブについて、自分だったらどうかかんがえるか）	
第 3回	アリストテレスの人間観：人間＝成長し・運動し・考える存在	課題（植物・他の動物と人間を比べたときの人間の特徴とは何か）	
第 4回	ルソーの人間観：人間＝感じながら・考え・意志する存在	課題（ルソーの人間観をプラトンやアリストテレスの人間観と比較する）	
第 5回	「生物」としての人間の特徴とはⅠ：裸のサル？	課題（何故、人間は裸（毛が生えていない）のか考えてみる）	
第 6回	「生物」としての人間の特徴とはⅡ：パンツをはいたサル？	課題（何故、人間は衣服を来ているのか？考えてみる）	
第 7回	生物としての男と女Ⅰ：何故有性生殖が必要か？	課題（何故生物は、非常に効率の悪い有性生殖を選んだのか？）	
第 8回	生物としての男と女Ⅱ：何故、男はスケベなのか？	課題（男がスケベな理由について考えてみよう！！）	
第 9回	生物としての男と女Ⅲ：何故、女は男の地位とお金に弱いのか？	課題（あなたは、イケメンならフリーターでもいいですか？）	
第10回	人間としての男と女Ⅰ：自然主義的誤謬を避けよ！！	課題（人間以外に約束をする動物がいるかどうか考えてみよう）	
第11回	人間としての男と女Ⅱ：男の幸福と女の幸福（共通点・相違点）	課題（人間としての男女の幸福について考えてみよう）	
第12回	人間としての男と女Ⅲ：負け犬は本当に負け犬か？	課題（30代未婚・子なしの女性は本当に不幸なのか、考えてみよう）	
第13回	男女平等の実現：区別は差別か？	課題（男女の平等について具体的に考えてみよう）	
第14回	男女が共に幸福な社会：貴女が男だったら自分と結婚するか？	課題（貴方のような男性がいたとすれば、貴方は彼と結婚するか考えてみる）	
第15回	自分の人間観とは？	課題（あなたにとっての「人間」について自分なりに考えてみる）	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	100% ただし、例外あり、ルールに関わる情報を見よ。		
レポート	なし		
小テスト等	各講義の最後に簡単な問題に答えてもらうが、特に成績には反映させない		
成果発表	なし		
受講態度他	目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。テストの成績が可否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	『男と女の倫理学』ナカニシヤ出版 篠原駿一郎・浅田淳一 『幸福の薬を飲みますか?』ナカニシヤ出版 細川亮一		
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス	

授業科目	人間形成総合演習【演習】		開講時期	後期
担当教員	人間形成教員		単 位	2
授業の目的と概要	<p>卒業ゼミナール（または卒業論文）へ向けて、自分自身の問題意識を深化させたり、自らの研究能力を向上させたりすることを目的とする。</p> <p>自らの問題意識に基づいたテーマを設定し、そのテーマについて調査・研究を行いながら、グループワークをしたり、討論したりする。</p>			
到達目標	<p>卒業ゼミナールもしくは卒業論文・卒業研究のテーマを決定することができる。</p> <p>研究していく上で必要な問題設定、文章構成、資料の扱い方などを習得することができる。</p> <p>他の学生との生産的な議論を行うことができる。</p> <p>卒業論文・卒業研究作成に必要な資料を収集し、その資料を自分なりにまとめることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初(3)-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>幼(3)-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は1年次の「基礎ゼミナール」、4年次の「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」に関連します。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション（演習の進め方・研究の方法の説明など）	追究するテーマの大枠を明確にしておく。		
第2回	研究の進め方①（教員の説明）（テーマの決定方法等）	追究したいテーマの大枠について発表できるように準備する。		
第3回	研究の進め方②（教員の説明）（研究方法等）	研究の進め方をまとめたり、発表の準備（資料作成等）をしたりする。		
第4回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名） 【討論】	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第5回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名） 【討論】	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第6回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名） 【討論】	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第7回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名） 【討論】	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第8回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名） 【討論】	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第9回	研究方針の再検討	1回目の発表・討論を踏まえ、研究内容や進め方を再構成する。		
第10回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名） 【討論】	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第11回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名） 【討論】	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第12回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名） 【討論】	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第13回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名） 【討論】	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第14回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名） 【討論】	発表資料の作成、発表テーマの事前学習（他者）		
第15回	中間報告会 【発表会】	各自の発表準備や以後の研究の進め方について検討する。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。			
教科書	授業の際に指示する。			
指定図書	授業の際に指示する。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス		

授業科目	人間形成特殊講義Ⅱ【講義】		開講時期	前期
担当教員	竹熊 真波・石原 努・山本 尚史		単位	2
授業の目的と概要	本科目は、教育現場の今日的課題や日本の教育政策の動向等について、教育原理や教育史の知見を適用して検討し教育者としての考えを形成するとともに、教育実践と理論を結ぶものの方や考え方、考察の仕方などを身に付けることを目的とする。講義は、第5回までを教育史中心、それ以降を教育原理中心のオムニバス形式で行い、各回、授業者が教育現場の実際や教育政策の動向に関する情報を提供する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育現場の今日的課題や日本の教育政策の動向について考察し教育者としての考えをもつことができる。</li> <li>2 教育に関する諸課題について教育実践と教育理論を関連させながら多面的に考察する態度を身に付けることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション・近世までの日本の学校(山本)	配布資料を熟読しシラバスに即した授業外学修の計画を立てる。		
第2回	西洋の教育思想(山本)	前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。		
第3回	子ども観の変化と教育方法の変遷(山本)	前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。		
第4回	近代以降の日本の学校(山本)	前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。		
第5回	教育法規①教育基本法(石原)	前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。		
第6回	教育法規②その他の法規(石原)	前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。		
第7回	教育振興基本計画①全国(石原)	前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。		
第8回	教育振興基本計画②都道府県(石原)	前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。		
第9回	教育方法・教育課程(竹熊)	テキストの該当範囲に目を通し問題を解く。		
第10回	学習指導要領(竹熊)	テキストの該当範囲に目を通し問題を解く。		
第11回	道徳・特活・総合(竹熊)	テキストの該当範囲に目を通し問題を解く。		
第12回	生徒指導(竹熊)	テキストの該当範囲に目を通し問題を解く。		
第13回	特別支援教育(竹熊)	テキストの該当範囲に目を通し問題を解く。		
第14回	人権・同和教育(竹熊)	テキストの該当範囲に目を通し問題を解く。		
第15回	社会教育その他(竹熊)	テキストの該当範囲に目を通し問題を解く。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	10% 提出物等			
小テスト等	90% 教育原理・教育史については、毎回確認テストを実施します。			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員採用試験を受験する学生の履修を望みます。</li> <li>・予習、復習を欠かさず行うことを履修の条件とします。</li> </ul> なお、授業資料の中には本来、著作権法により web 上での無断利用ができないにもかかわらず、オンライン授業に限り特別に利用が認められているものがあります。受講生のみならずも授業外での利用や無断転載は禁止されていますので、取り扱いには注意してください。			
教科書	東京アカデミー編 『教員採用試験対策セサミノート1 教職教養』2021年度版			
指定図書	なし			
参考図書	文部科学省『学習指導要領解説』(各教科編)※教科教育法の授業で購入したものを使用。 竹熊真波『教育原理－教員を目指す学生のために－』中川書店			
オフィスアワー	火曜 5 限 (竹熊)	メールアドレス		

授業科目	人間形成特殊講義Ⅲ【講義】		開講時期	後期
担当教員	今里 順一・古賀野 卓・松本 和寿		単位	2
授業の目的と概要	小学校・中学校の教員として、身に付けておく必要のある「教育法規」「教育心理」「指導法」について学修することを目的とする。 「教育法規」では、教員として理解しておく必要のある法的知識について学修する。「教育心理」では、学校現場で活用することのできる、児童生徒の発達や学習理論、評価の方法等について学修する。「指導法の研究」では、授業導入の工夫や場面指導における工夫など、学校現場で生かすことのできる方法等について学修する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員として必要な基本的な法的知識を身に付けることができる。</li> <li>・児童生徒の発達や心理、また、学校現場で活用することのできる学習理論や評価方法等について理解することができる。</li> <li>・授業や場面での指導における工夫を自ら考えることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、講義の概要説明、法規の基礎・基本	復習 (配付資料をもとに)		
第2回	最新7法を読み解く	復習 (配付資料をもとに)		
第3回	教育法規を読み解く：教職員の服務、教員の研修、学校保健・安全計画	復習 (配付資料をもとに)		
第4回	教育法規を読み解く：全体の奉仕者、教育の基本理念、政治教育の中立性	復習 (配付資料をもとに)		
第5回	教育法規を読み解く：義務教育、教育行政の中立性、教育委員会の組織	復習 (配付資料をもとに)		
第6回	教育法規を読み解く：児童・生徒の懲戒、教育の目的・目標、保健・給食 (食育)	復習 (配付資料をもとに)		
第7回	教育法規を読み解く：教育を受ける権利、教育の機会均等、児童・生徒の保護	復習 (配付資料をもとに)		
第8回	教育法規を読み解く：学校の設置者、教育を受けさせる義務、懲戒、教科書の定義・使用義務、学校の施設・設備	復習 (配付資料をもとに)		
第9回	教育心理学の歴史	教育心理学の歴史と心理学者に関連する内容をまとめ復習する。		
第10回	発達・学習・評価について	発達・学習・評価に関する理論等についてまとめる。		
第11回	人格・防衛機制・集団について	人格・防衛機制・集団に関する理論等についてまとめる。		
第12回	授業の導入の工夫について	指示された授業時間の導入を考案しておく。		
第13回	授業の導入の工夫について (模擬授業)	模擬授業での発問や指示の詳細を考えておく。		
第14回	場面指導について	指示された場面指導の内容を考えておく。		
第15回	場面指導について (模擬指導)	模擬指導での発問や指示の詳細を考えておく。		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	レポート等 20%			
小テスト等	70% 学修した内容に関する小テストを実施する。詳細は、授業内で指示する。			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 授業への真摯な取組、積極的な態度等を考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちのよい履修態度で臨むこと。</li> <li>・毎時間の学修内容を必ず復習して小テストに臨むこと。</li> <li>・指示された内容がある場合は、必ず、予習・復習を行うこと。</li> </ul>			
教科書	特に指定しない			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	『教員採用試験対策セサミノート1「教職教養」』 七賢出版			
オフィスワーカー	各担当教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		



授業科目	人間福祉特論【講義】		開講時期	前期
担当教員	高木 佳世子		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、人間が人間らしく生きるうえで必要な社会的条件としての社会保障が果たすべき役割と課題について検討することを目的とする。</p> <p>まず、社会保障が権利として保障されるようになった経緯及び当初目指されていた方向性を確認する。そのうえで、戦後日本において、人間が人間らしく生きることを意味を問い、「人間裁判」とも称された朝日訴訟を採りあげ、その経緯と歴史的・社会的意義について考察する。</p> <p>講義の後半では、こうした検討、考察を踏まえ、近年の社会保障制度改革の動向と問題点をテキストを通して学び、社会保障のあり方を明らかにすることとしたい。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間が人間らしく生きるとはいかなる意味をもつのかを説明できる。</li> <li>2. 朝日訴訟の概要と経緯を理解し、その今日的意義について説明できる。</li> <li>3. 近年の社会保障制度改革の概要と問題点について説明できる。</li> <li>4. 社会保障のあり方について自分なりの考えをまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>後期開講の「社会福祉学特論」と関連する科目である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	日本国憲法において社会権が保障されるようになった経緯	社会権の内容についての検討		
第2回	社会保障制度改革の概観	テキスト序章を読む		
第3回	日本国憲法と社会保障 — 生活保護裁判の社会的意義	生存権保障と生活保護制度について検討		
第4回	朝日訴訟（人間裁判）とは何か	朝日訴訟の全体像について検討		
第5回	朝日訴訟（人間裁判）の社会的背景と経緯	朝日訴訟が起こった社会的背景と経緯について検討		
第6回	朝日訴訟（人間裁判）の歴史的・社会的意義	朝日訴訟がもった歴史的・社会的意義について検討		
第7回	生活保護基準引下げ違憲訴訟の概要と意義	配付資料を読む		
第8回	生活保護の法政策	テキスト第6章		
第9回	年金保険の法政策	テキスト第1章		
第10回	医療保険の法政策	テキスト第2章		
第11回	介護保険の法政策	テキスト第3章		
第12回	障害者福祉の法政策	テキスト第4章		
第13回	障害問題裁判について	配付資料を読む		
第14回	児童福祉・保育の法政策	テキスト第5章		
第15回	社会保障のあり方について	テキスト終章		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100%（第1回で指示したレポート20%+第5回で指示したレポート80%）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>○後期開講の「社会福祉学特論」との連続性があるが、本科目のみ履修されても差し支えない。</p> <p>○大学院の授業なので、教員が一方向的に講義を行うのではなく、受講生に発表を課し、講義中にも意見を求めることになる。したがって、受身の姿勢ではなく、主体的な問題意識をもって受講してほしい。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスアワー	水曜4限	メールアドレス		

授業科目	発達心理学 I【講義】		開講時期	前期
担当教員	大霧 香		単位	2
授業の目的と概要	発達心理学では受精から死までの一生にわたる発達について学習する。発達心理学 I では胎児期、乳幼児期、児童期までを中心とし、発達について学ぶことを目的とする。認知機能の発達、感情・社会性の発達、自己と他者の関係のあり方など心理学的な視点から学びを深めていく。さらに、発達障害等を含む非定型発達についての基礎的な知識を身につける。また、子どもを理解するための視点や子どもが健やかに成長していくための援助の在り方についても理解を深める。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時期の発達の特徴を説明することが出来る。</li> <li>・認知・感情・社会性・人間関係など諸側面の発達について概観を述べる事が出来る。</li> <li>・子どもの発達と周囲の大人からの働きかけについて述べる事が出来る。</li> <li>・発達障害等を含む非定型発達について説明することが出来る。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 生涯発達心理学とは			教科書はしがき、0章の復習	
第2回 各時期における発達の特徴・発達の理論			教科書1章の復習 復習ワーク①への準備	
第3回 胎児期の発達			教科書2章の復習 復習ワーク①への準備	
第4回 乳幼児期の認知の発達			教科書3章の復習 復習ワーク①への準備	
第5回 コミュニケーションと人間関係の発達(1) アタッチメントの発達			教科書4章の復習 復習ワーク①への準備	
第6回 コミュニケーションと人間関係の発達(2) アタッチメントの個人差			教科書4章の復習 復習ワーク①への準備	
第7回 言語の発達(1) ことばが芽生えるまで			教科書5章の復習 復習ワーク②への準備	
第8回 言語の発達(2) 幼児期の言語発達			教科書5章の復習 復習ワーク②への準備	
第9回 遊びの発達			教科書5章の復習 復習ワーク②への準備	
第10回 自己の発達			教科書6章の復習 復習ワーク②への準備	
第11回 感情の発達			教科書7章の復習 復習ワーク③への準備	
第12回 仲間関係・社会性の発達			教科書7章の復習 復習ワーク③への準備	
第13回 児童期の思考の発達 学校での学び			教科書8章の復習 復習ワーク③への準備	
第14回 非定型発達への理解			教科書8章の復習 期末試験への準備	
第15回 まとめワーク			授業全体の復習・まとめワークへの準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	-			
小テスト等	毎回の課題提出30% 復習ワーク(3回)30% まとめワーク 40%			
成果発表	-			
受講態度他	毎回の課題、復習ワーク、まとめワークを期日までに提出すること			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	オンデマンド型で授業を行います。筑女ネットを必ず確認してください。			
教科書	坂上裕子他著 『問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学』 有斐閣			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に紹介する			
オフィスアワー	前期 月曜日 昼休み・5講目	メールアドレス		

授業科目	発達心理学 I 【講義】		開講時期	前期
担当教員	水内 良子		単 位	2
授業の目的と概要	発達心理学では受精から死までの一生涯にわたる発達について学習する。発達心理学 I では胎児期、乳幼児期、児童期までを中心とし、発達について学ぶことを目的とする。認知機能の発達、感情・社会性の発達、自己と他者の関係のあり方など心理学的な視点から学びを深めていく。さらに、発達障害等を含む非定型発達についての基礎的な知識を身につける。また、子どもを理解するための視点や子どもが健やかに成長していくための援助の在り方についても理解を深める。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時期の発達の特徴を説明することが出来る。</li> <li>・認知・感情・社会性・人間関係など諸側面の発達について概観を述べる事が出来る。</li> <li>・子どもの発達と周囲の大人からの働きかけについて述べる事が出来る。</li> <li>・発達障害等を含む非定型発達について説明することが出来る。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第1回	生涯発達心理学とは		教科書はしがき、0章の復習	
第2回	各時期における発達の特徴・発達の理論		教科書1章の復習	
第3回	胎児期の発達		教科書2章の復習	
第4回	乳児期 認知の発達		教科書3章の復習	
第5回	乳児期 社会性の発達		教科書第4章の復習	
第6回	乳児期 言葉と遊びの発達		教科書第5章の復習	
第7回	幼児期 認知・自己理解の発達		教科書6章の復習	
第8回	幼児期 社会性と遊びの発達		教科書7章の復習	
第9回	幼児期 言葉の発達		教科書5章の復習	
第10回	児童期 認知・仲間関係の発達		教科書8章の復習	
第11回	児童期 学校での学び		教科書8章の復習	
第12回	児童期 動機づけ		教科書8章の復習	
第13回	非定型発達への理解 (1)		教科書13章の復習	
第14回	非定型発達への理解 (2)		教科書13章の復習	
第15回	発達を測る・乳幼児健診		期末レポートへの準備	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ショートレポート (1回) 30% 期末レポート40%			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	授業資料のPowerPointを見て学習し、学習後に授業の感想を筑女ネットに書き込んでください (出席評価30%)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業はオンデマンド型の授業になります。			
教科書	坂上裕子他著 『問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学』 有斐閣			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に紹介する			
オフィスアワー	筑女ネットにて質問等受け付けます。		メールアドレス	

授業科目	発達心理学Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	板井 修一		単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、基礎科目のうちの人間理解に関する科目である。学部における4年間の学びや研究に必要な理論・技法を身につけ、そのうえでひとの心の発達とはどういうことかを理解するための科目である。</p> <p>思春期と青年期は、人の一生のなかでも、身体的・精神的に大きな成長、変化を体験する時期でもある。青年期は疾風怒濤の時代と表現されることもあるように、精神的に不安定になる危険性を孕んでいるが、アイデンティティの獲得が発達課題ともなる重要な時期でもある。その後の成人期は、仕事や子育てに没頭する時期でもあるが、中年期には心の揺らぎが生ずる危機を孕んだ時期でもある。老年期は人生の完結期とも言われるが、さまざまな心の拠り所としていたものを失う、喪失を体験する危機の時でもあります。授業は、各発達段階の特徴について、理解し説明できるようになることを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各発達段階の特性を理解し、説明することができる。</li> <li>2. 各発達段階における発達課題について、的確に説明することができる。</li> <li>3. 各発達段階における適応上のつまずきと病気について、説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目：発達心理学Ⅰ</p> <p>この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行う</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	思春期の特性、第二次性徴と身体的発達		自分の思春期体験について振り返りまとめる	
第2回	思春期の心理と危機		自分の思春期を振り返り、親や大人との関係について分析・整理	
第3回	青年期の特色		「アイデンティティ」とは何かについて調べる	
第4回	青年期の心理特性（1）青年中期		アイデンティティ獲得をテーマとした映画を視聴	
第5回	青年期の心理特性（2）青年後期		視聴した映画について内容を分析・整理	
第6回	青年期の発達課題		自分のアイデンティティ確立のプロセスと現状について点検しまとめる	
第7回	成人期の特色		成人期に関係した配布資料を読む	
第8回	成人期の心理と中年の危機		中年世代の心理的危機について、さまざまな情報源から実例を探す	
第9回	成人期の発達課題		親の生き方から、成人期の発達課題を点検・整理する	
第10回	老年期の特色		老年期に関連する配布資料を読む	
第11回	老化に伴う身体的変化		老化に伴う身体的変化とエイジズムについて調べる	
第12回	老年期の心理		高齢者の自殺の実態について、新聞や雑誌をもとに調べる	
第13回	老年期の発達課題		高齢者の生き甲斐について、新聞や雑誌をもとに調べる	
第14回	ターミナル期の心理的課題		ターミナルケアの実態について、新聞や雑誌をもとに調べる	
第15回	総括		総括で話した、授業内容のポイントについて復習する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験			
レポート	40% [ (期日内提出5点+内容5点)×4回=40点 ] 課題の内容は、①思春期に関するもの ②青年期に関するもの ③成人期に関するもの ④老年期に関するもの の4つである。小レポートは、提出後2週間後を目処に、採点をして返却する。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>講義をよく聴き、ノートにきちんとまとめること。4つの発達段階ごとに、まとめの小テストを実施する。授業外学習として出された課題は、各自ファイルを作成し整理をする。</p> <p>毎回の授業で学んだことの振り返りと考えたことを記録する「リフレクション・シート」を、授業の終わりに記入し提出をする。次の講義の初めにチェックした「リフレクション・シート」を返却する。「リフレクション・シート」の提出、返却により、講義への出席と欠席、遅刻の実態を把握する。</p>			
教科書	なし 毎回、レジュメを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて随時紹介をする。			
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス		

授業科目	発達心理学特論【講義】		開講時期	後期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	発達の諸側面の心理的・生理的特徴を知り、それらの病理も合わせて学ぶ。発達支援する方法について学ぶ。			
到達目標	発達の諸側面における心理・生理・病理を説明できる。 発達を援助する方法を説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。 (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。 (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。 (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		発達の概念について予習	
第2回	発達の原理原則		胎児について予習	
第3回	胎児の発達 その生理と病理		新生児について予習	
第4回	新生児の発達 その生理と病理		原始反射について予習	
第5回	乳児の発達 反射 そのメカニズムと病理		乳幼児の運動発達について予習	
第6回	乳児の発達 運動発達 その心理と病理		ことばのメカニズムについて予習	
第7回	乳幼児の発達 ことばの発達 その心理と病理		愛着について予習	
第8回	乳幼児の発達 社会性の発達 その心理と病理		ピアジェについて予習	
第9回	乳幼児の発達 認知、思考の発達 その心理と病理		アセスメントの意義について予習	
第10回	発達支援の方法 アセスメントについて		田中ビネーについて予習	
第11回	発達支援の方法 心理テストについて 1		WISCについて予習	
第12回	発達支援の方法 心理テストについて 2		幼稚園・学校における特別支援教育について予習	
第13回	発達支援の方法 乳児期・学童期における支援		発達の問題のあるひとへの自立について予習	
第14回	発達支援の方法 思春期・青年期における支援		家族支援について予習	
第15回	発達支援の方法 家族支援		発表準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	100% 講義は質問応答形式で進めます。受け答えを評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	聞かれたときに「わかりません」は厳禁です。何らかの答えを求めます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日のお昼休み	メールアドレス		

授業科目	発達と教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	石原 努		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、幼児・児童・生徒の各発達段階の特徴、諸側面の発達過程とその特徴を学び、近年の子どもたちに特徴的にみられる発達の様相や問題について考察することにより、子どもの心身の発達についての理解を深めることを目的とする。さらに特別支援教育において対象とされる発達障害の概要とその支援方法や支援体制についても学習することを目的とする</p> <p>近年の子どもたちは発達上の問題を多く抱えている。本講義では、子どもの発達についての理解を深める中で、教育実践への活用を目指した学習をすすめていく。さらに、発達障害に対する正しい知識と支援の方法をあわせて身につけていってほしい。学生には、日ごろから教育や子どもに関係する事柄に関心を持ち、情報の収集に努めてほしい。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期から青年期までの発達段階の特徴を述べることができる。</li> <li>・ソーシャルスキル、ことばの発達過程について説明することができる。</li> <li>・発達上の問題について考察し、必要な教育活動・支援について自分の見解を述べることができる。</li> <li>・発達障害について説明でき、その支援方法について述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。  幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育、小学校教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第 1回	オリエンテーション 発達の定義		発達の意義についてまとめる	
第 2回	発達の原理		発達の原理についてまとめる	
第 3回	発達段階の特徴① 乳児期～幼児期		乳児期から幼児期の発達の特徴をまとめる	
第 4回	発達段階の特徴② 児童期		児童期の発達の特徴をまとめる	
第 5回	発達段階の特徴③ 青年期		青年期の発達の特徴をまとめる	
第 6回	発達段階の特徴④ まとめ		ピアジェ・エリクソン・ハヴィガーストの発達理論についてまとめる	
第 7回	発達と教育支援① アセスメント 評価方法		アセスメントの方法等についてまとめる	
第 8回	発達と教育支援② 学習理論		学習理論のその支援方法についてまとめる	
第 9回	発達と教育支援③ 動機づけ		動機づけの方法等についてまとめる	
第10回	発達と教育支援④ まとめ		教育支援の在り方についてまとめる	
第11回	発達障害とその支援① SST TEACCH		SSTやTEACCHの手法についてまとめる	
第12回	発達障害とその支援② ASD		ASD児への支援方法についてまとめる	
第13回	発達障害とその支援③ ADHD		ADHD児への支援方法についてまとめる	
第14回	発達障害とその支援④ LD		LD児への支援方法についてまとめる	
第15回	発達と教育のまとめ		発達と教育の最終レポートを作成する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90%講義内容のまとめりごとにレポート課題を提出する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 参加態度等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度については、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭等にふさわしい態度を求めます。遅刻、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	「よくわかる発達心理学」「よくわかる発達障害」 ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	月曜日1限	メールアドレス		

授業科目	発達と教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、幼児・児童・生徒の各発達段階の特徴、諸側面の発達過程とその特徴を学び、近年の子どもたちに特徴的にみられる発達の様相や問題について考察することにより、子どもの心身の発達についての理解を深めることを目的とする。さらに特別支援教育において対象とされる発達障害の概要とその支援方法や支援体制についても学習することを目的とする</p> <p>近年の子どもたちは発達上の問題を多く抱えている。本講義では、子どもの発達についての理解を深める中で、教育実践への活用を目指した学習をすすめていく。さらに、発達障害に対する正しい知識と支援の方法をあわせて身につけてほしい。学生には、日ごろから教育や子どもに関係する事柄に関心を持ち、情報の収集に努めてほしい。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期から青年期までの発達段階の特徴を述べることができる。</li> <li>・ソーシャルスキル、ことばの発達過程について説明することができる。</li> <li>・発達上の問題について考察し、必要な教育活動・支援について自分の見解を述べることができる。</li> <li>・発達障害について説明でき、その支援方法について述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。  幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育、小学校教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			ショートレポート	
第 2回 発達について			ショートレポート	
第 3回 発達段階の特徴 乳児期～幼児期			ショートレポート	
第 4回 発達段階の特徴 児童期～青年期			ショートレポート	
第 5回 子どもの心性について			ショートレポート	
第 6回 ソーシャルスキルの発達			ショートレポート	
第 7回 ことばの発達			ショートレポート	
第 8回 発達・教育支援の方法 基本的事項			ショートレポート	
第 9回 発達・教育支援の方法 発達障害について			ショートレポート	
第10回 発達・教育支援の方法 アセスメント			ショートレポート	
第11回 発達・教育支援の方法 ABA			ショートレポート	
第12回 発達・教育支援の方法 ハンディキャップオリエンテーリング			ショートレポート	
第13回 発達・教育支援の方法 ソーシャルスキルトレーニング (SST)			ショートレポート	
第14回 発達・教育支援の方法 感覚統合			ショートレポート	
第15回 家族支援について			最終レポート	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	毎回のショートレポート30%、最終レポート70%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度については、幼稚園教諭、保育士にふさわしい態度を求めます。遅刻、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	「よくわかる発達心理学」「よくわかる発達障害」 ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	水曜日 お昼休み。メール等で事前連絡してください。	メールアドレス		

授業科目	発達と教育（再）【教職】【講義】		開講時期	後期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、幼児・児童・生徒の各発達段階の特徴、諸側面の発達過程とその特徴を学び、近年の子どもたちに特徴的にみられる発達の様相や問題について考察することにより、子どもの心身の発達についての理解を深めることを目的とする。さらに特別支援教育において対象とされる発達障害の概要とその支援方法や支援体制についても学習することを目的とする</p> <p>近年の子どもたちは発達上の問題を多く抱えている。本講義では、子どもの発達についての理解を深める中で、教育実践への活用を目指した学習をすすめていく。さらに、発達障害に対する正しい知識と支援の方法をあわせて身につけていってほしい。学生には、日ごろから教育や子どもに関係する事柄に関心を持ち、情報の収集に努めてほしい。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期から青年期までの発達段階の特徴を述べることができる。</li> <li>・ソーシャルスキル、ことばの発達過程について説明することができる。</li> <li>・発達上の問題について考察し、必要な教育活動・支援について自分の見解を述べることができる。</li> <li>・発達障害について説明でき、その支援方法について述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		ショートレポート	
第 2回	発達について		ショートレポート	
第 3回	発達段階の特徴 乳児期～幼児期		ショートレポート	
第 4回	発達段階の特徴 児童期～青年期		ショートレポート	
第 5回	社会性の発達について 幼児期まで		ショートレポート	
第 6回	社会性の発達について 児童期以降		ショートレポート	
第 7回	ことばの発達		ショートレポート	
第 8回	ASD（自閉スペクトラム症）について		ショートレポート	
第 9回	ADHD（注意欠如/多動症）について		ショートレポート	
第10回	SLDもしくはLDについて		ショートレポート	
第11回	発達・教育支援の基本について		ショートレポート	
第12回	発達・教育支援の方法 ABA（応用行動分析）		ショートレポート	
第13回	発達・教育支援の方法 ソーシャルスキルトレーニング（SST）		ショートレポート	
第14回	発達・教育支援の方法 感覚統合		ショートレポート	
第15回	家族支援について		最終レポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	毎回のショートレポート30％、最終レポート70％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ショートレポートの提出を持って出席したとします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日 お昼休み。メール等で事前連絡してください。		メールアドレス	



授業科目	発達臨床演習A【演習】		開講時期	前期
担当教員	酒井(均)・板井(修)		単位	2
授業の目的と概要	本授業は、障がい児・者の障がい特性・心理的特性と、障がい児・者を取り巻く社会的状況について理解を深めることを目的とする。具体的には、各自が設定したテーマについて文献収集し、資料を作成して、発表をする。さらにディスカッションを通して互いに理解を深めていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 選んだテーマについて情報収集し、適切な発表資料を作成することができる。</li> <li>2. 効果的なプレゼンテーションを通して問題提起をすることができる。</li> <li>3. 発表者のプレゼンテーションについて自分の意見をまとめ、的確に伝えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回オリエンテーション	授業の進め方の説明、発表テーマの検討	発表テーマを考える		
第2回	テーマの設定、意見交換	テーマについての情報収集、発表の目的を設定する		
第3回	グループに分かれてのテーマを深める	発表資料の作成、準備		
第4回	発表とディスカッション	発表資料の作成、準備		
第5回	発表とディスカッション	発表資料の作成、準備		
第6回	発表とディスカッション	発表資料の作成、準備		
第7回	発表とディスカッション	発表資料の作成、準備		
第8回	発表とディスカッション	発表資料の作成、準備		
第9回	発表とディスカッション	発表資料の作成、準備		
第10回	発表とディスカッション	発表資料の作成、準備		
第11回	発表とディスカッション	発表資料の作成、準備		
第12回	発表とディスカッション	発表資料の作成、準備、期末レポートの準備		
第13回	発表とディスカッション	発表資料の作成、準備、期末レポートの準備		
第14回	発表とディスカッション	発表資料の作成、準備、期末レポートの準備		
第15回	まとめ	期末レポートの作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	80%			
受講態度他	20% 積極的な質問やディスカッションへの参加態度を評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	発表は問題意識を明確にして行い、積極的なディスカッションを求めます。発表者の欠席、授業中の携帯電話の操作は厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各自のテーマに対して授業中に提示			
オフィスワー	水曜日お昼休み(酒井)・木曜日の午後	メールアドレス		

授業科目	発達臨床演習B【演習】		開講時期	後期
担当教員	榊(祐)・針塚(進)		単位	2
授業の目的と概要	人の生涯発達、それぞれの発達段階における特徴をしめすと同時に、それに関連した様々な問題も生じる。現代の日本社会では、少子高齢化や環境の変化がみられ、人間関係や家族にも影響を与えている。このような現状を理解し、具体的にどのような問題が生じ、支援が行なわれているのか検討する。最終的に、地域における支援策について、実践計画を立てることを目的とする。生涯発達の特徴や問題について再確認し、現代社会における臨床的実践活動について検証する。それらの活動を通して、生涯発達に応じたよりよい支援のあり方を具体的に説明できる力を身につける。この授業は自ら問題を設定し、解決策を見つけることを目的とするアクティブラーニング型の授業である。			
到達目標	①現代社会における生涯発達に関連する問題や支援の現状について調べることが出来る ②地域社会（福岡やその近辺）で実際にどのような支援が行なわれているのか調べ、問題点や課題を具体的に説明することが出来る			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：授業の構成、進め方について	授業のイントロダクションについて復習		
第2回	文献検索、論文収集：文献検索や論文収集の方法についての確認	文献検索		
第3回	研究計画作成：テーマの選択とグループ分け、発表までの計画作成	発表にについての研究計画作成		
第4回	文献ト講読・発表①	予習（発表予定のトピックの講読）		
第5回	文献講読・発表②	予習（発表予定のトピックの講読）		
第6回	文献講読・発表③	予習（発表予定のトピックの講読）		
第7回	文献講読・発表④	予習（発表予定のトピックの講読）		
第8回	文献講読・発表⑤	復習（発表予定のトピックの講読）		
第9回	支援プロジェクト作成① 問題点、課題の整理	プロジェクトに関するテーマ、問題点、課題の整理		
第10回	支援プロジェクト作成② 実践例や現状の整理	プロジェクトに関する実践例や現状の整理		
第11回	支援プロジェクト作成③ 発表資料の作成	発表資料の作成		
第12回	発表・討論① 自分たちが出来る支援プロジェクト（グループ①）	支援プロジェクトに関する振り返り		
第13回	発表・討論② 自分たちが出来る支援プロジェクト（グループ②）	子育て支援プロジェクトに関する振り返り		
第14回	発表・討論③ 自分たちが出来る支援プロジェクト（グループ③）	支援プロジェクトに関する振り返り		
第15回	まとめ：各研究テーマの達成度や課題について検討	達成度や今後の課題についての振り返り		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 発表した内容についてレポートにまとめる。			
小テスト等	-			
成果発表	40% 選択したテーマについての発表			
受講態度他	10% 発表に対する質疑応答への態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退出は慎むこと。			
教科書	適宜紹介			
指定図書	指定なし			
参考図書	指定なし			
オフィスアワー	各教員の他科目シラバスを確認	メールアドレス		

授業科目	博物館概論【博物館学芸員】【講義】		開講時期	前期
担当教員	時里 奉明		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：この授業では、「博物館とは何か」について学ぶ。まず、私にとって博物館って何だろうと自問自答してほしい。それをふまえたうえで、博物館の制度、歴史、種類について基本的な問題を学習する。最終的に博物館は地域社会にとってどのような存在なのかを考察する。この講義を通して、私における博物館、社会における博物館を考える。</p> <p>概要：授業を通して、私にとって博物館とは何か、社会にとって博物館とは何か、について答えを持つようにしたい。人文系博物館と関連する、歴史、民俗、考古、美術の科目に広く興味をもつことを希望する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 博物館とは何かという問いに答えることができる。</li> <li>2 博物館が制度的な存在であることを理解できる。</li> <li>3 博物館の歴史を説明できる。</li> <li>4 博物館が多様であることを理解できる。</li> <li>5 レポートを作成することによって、論理的な思考をまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は、博物館学芸員課程の専門科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス：スケジュールと履修方針の確認	課題（評価の確認と心構え）		
第2回	私にとって博物館とは何か？	博物館とは何か、考える		
第3回	博物館の制度（1）：博物館法	配布プリント復習（博物館法）		
第4回	博物館の制度（2）：関連法規（文化財保護法）	配布プリント復習（文化財保護法）、レポート①作成		
第5回	博物館の制度（3）：博物館法の分類、学芸員制度	配布プリント復習（分類、学芸員）		
第6回	博物館の制度（4）：組織と運営、国際機構	配布プリント復習（組織ほか）、レポート①提出		
第7回	博物館の現状と課題	現状と課題について復習		
第8回	博物館の歴史（1）：ヨーロッパ	配布プリント復習（ヨーロッパ）、レポート②作成		
第9回	博物館の歴史（2）：アメリカ	配布プリント復習（アメリカ）		
第10回	博物館の歴史（3）：日本	配布プリント復習（日本）、レポート②提出		
第11回	博物館の種類（1）：①総合 ②人文系	配布プリント復習（種類：総合、人文系）		
第12回	博物館の種類（2）：③自然系	配布プリント復習（種類：自然系）		
第13回	現代社会と博物館（1）：地域社会と博物館	配布プリント復習（地域社会と博物館）		
第14回	現代社会と博物館（2）：生涯学習と博物館	配布プリント復習（地域社会と博物館）		
第15回	まとめ	復習 レポート③作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	55% 学期中レポート3回			
小テスト等	30% 毎回実施			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 毎回授業の感想			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	初回到授業の方針・方法を説明する。必ず出席すること。			
教科書	毎回プリントを配布する。			
指定図書	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』芙蓉書房出版（2012年）			
参考図書	講義中に紹介する。			
オフィスアワー	対面はなし。	メールアドレス		

授業科目	博物館教育論【博物館学芸員】【講義】		開講時期	後期
担当教員	高松 麻美		単 位	2
授業の目的と概要	<p>近年博物館は、社会における生涯学習意欲の高まりを背景に、充実した教育活動の実施を求められています。そのため博物館は、資料の収集や保管、調査研究といった取り組みの成果を、展示などを介していかに分かりやすく利用者へ伝えるか、工夫を続けてきました。</p> <p>この授業では、博物館で行われている教育活動を具体的に学び、利用者に寄り添った博物館教育について知識と実践方法を身につけることを目的としています。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館で学ぶ意義について自身の考えを述べることができる。</li> <li>・博物館で行われている教育活動の具体例を列挙できる。</li> <li>・博物館ならではの教育プログラムを立案できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は、博物館学芸員課程の専門科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	ガイダンス——博物館教育とは	復習：学校教育との違いについて理解する。		
第2回	利用者が求める博物館教育	復習：利用者の実態について理解する。		
第3回	博物館教育の形態と担い手	復習：具体的な教育活動について理解する。		
第4回	博物館教育の例①——展示における工夫	復習：展示上の工夫や関連の補助教材について理解する。		
第5回	博物館教育の例②——体験型展示の意義	復習：体験型展示の利点と問題点について理解する。		
第6回	博物館教育の例③——講演会・講座・イベントの立案と運営	復習：開催意図や実施までの具体的な流れについて理解する。		
第7回	課題制作——教育プログラムの作成【導入】	課題：教育プログラムの情報を集め、制作テーマを決める。		
第8回	課題制作——教育プログラムの作成【仕上げ】	復習：教育プログラムの仕上げを行う。		
第9回	博物館教育の例④——資料データベースの公開	復習：情報公開の利点と問題点について理解する。		
第10回	博物館と学校の連携——授業での利用、学芸員の養成	復習：博物館と学校の連携について理解する。		
第11回	博物館と地域の連携——講師派遣、資料の貸出し	復習：博物館と地域の連携について理解する。		
第12回	博物館ボランティア	復習：ボランティアの実態について理解する。		
第13回	博物館教育の評価と課題、展望	復習：博物館教育が抱えている課題と今後の動きについて理解する。		
第14回	博物館の実例——太宰府市文化ふれあい館の場合	復習：博物館での実際の取り組みについて理解する。		
第15回	まとめ	課題：期末レポートを作成する。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 教育プログラムを作成する			
受講態度他	30% 授業への参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	オンデマンド型遠隔授業です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	博物館経営論【博物館学芸員】【講義】		開講時期	後期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養い、学芸員としての社会的問題意識と実践意欲の大小が博物館経営にとって重要であることを理解することが目的です。そのために、まずは博物館の実情と問題を、いくつかの具体例について検討・考察します。そして、学芸員は「人類共通の文化財」を社会に生かし、次代に伝える責任を自覚し、新鮮な感性を磨きつづけることが切に望まれること、そしてこのことが博物館経営における学芸員の基であることを認識します。</p> <p>概要：博物館の経営にかかわる諸問題の実情事例を、講義での解説・考察の材料に提示して授業を進行します。「芸術文化に関わる経営学」の財政、人事的困難さ、「高度情報化社会」において博物館が求められる対応の多様性・柔軟性がどのように工夫されているか、その具体例・問題点を理論面と実践面より再検証します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館経営と一般企業経営との類似点・差異（博物館経営の特性）を具体的に挙げて説明することができる。</li> <li>・博物館経営における関連分野の多様性について、具体的に挙げて説明することができる。</li> <li>・博物館活性化のための具体的方策（アイデア）を提案することができるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は、博物館学芸員課程の専門科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	第2回までに課題①提出（2時間）		
第2回	博物館経営の実態 その1：だれが、どのように	第3回までに課題②提出（2時間）		
第3回	博物館経営と一般企業経営との類似点・差異（博物館経営の特性）	第4回までに課題③提出（2時間）		
第4回	博物館経営の実態 その2：経営上の諸問題と改革事例	第5回までに課題④提出（2時間）		
第5回	「ミュージアム・マネジメント」ーその1：利用者の知的充実感	第6回までに課題⑤提出（2時間）		
第6回	「ミュージアム・マネジメント」ーその2：利用者の非日常的充足感	第7回までに課題⑥提出（2時間）		
第7回	博物館経営と地域社会	第8回までに課題⑦提出（2時間）		
第8回	博物館経営と「情報」	第9回までに課題⑧提出（2時間）		
第9回	「博物館建替え」要不要問題を考える	第10回までに課題⑨提出（2時間）		
第10回	「博物館建替え」要不要問題	第11回までに課題⑩提出（2時間）		
第11回	「博物館建替え」要不要問題総括	第12回までに課題⑪提出（2時間）		
第12回	博物館経営と「博物館産業」	第13回までに課題⑫提出（2時間）		
第13回	「博物館産業」の可能性：調査成果の分析・検討	第14回までに課題⑬提出（2時間）		
第14回	「博物館産業」の可能性（班別プレゼン・討議）	第15回までに課題⑭提出（2時間）		
第15回	到達目標に対比した授業総括	指定の期日・時間までに「定期試験課題」提出（2時間）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	・毎回の課題レポート（50%） ・学期末レポートを第15週目を実施（50%）			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	-			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回の「遠隔授業（課題提示型）」は、各回授業テーマの学修・自修で構成されます。提示された課題を考えるなかから、自ら課題をさらに見出し自修を深めていってください。提出物に関しては、「遠隔授業」によるやむを得ない事情には配慮しますので、しっかり対応して指定期日内の提出に努めて下さい。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	関連図書を、授業進行にあわせ適宜紹介。信頼し得るネット情報は有効です。			
オフィスワーク	「遠隔授業」形態ですので、随時、下記メールアドレスまで質問・要望・意見等々は気軽にご連絡下さい。	メールアドレス		

授業科目	博物館資料保存論【博物館学芸員】【講義】		開講時期	前期
担当教員	加藤 和歳		単 位	2
授業の目的と概要	<p>博物館には長い年月を越えて遺されてきた数多くの美術工芸品、古文書や考古資料などが保存、展示公開されており、わたしたちの歴史や文化を護り、伝えていく場所として役割を果たしています。また、平成31年4月より文化財保護法が改正され、文化財をより積極的に活用することが求められ、博物館の役割や必要とする知識・技術を新たに考えていく機会が到来しています。この授業では、主に歴史系博物館における資料保存および展示環境を科学的に捉え、資料が良好な状態で保存そして活用されていくための考え方や今、現場で行われる具体的な実務の理解を目的とします。</p> <p>資料は保存するだけでなく、多くの人たちに見ていただくよう活用することが重要です。資料という「もの」と、観覧者や学芸員という「ひと」との関係を考え、博物館が「もの」にも「ひと」にも安全・安心である優しい施設になるよう、そのあり方や手法を文化財保存環境の立場から考えます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博物館資料が保存上、置かれている現状を知り、劣化させる要因やメカニズムを科学的な視点で理解できるようになる。</li> <li>2. 多様な種類、材質をもつ博物館資料の科学的調査、保存修復手法を理解し、活用のために必要な資料保存対策に関する考え方や基礎的な知識を身につけることができ、博物館での実務がわかるようになる。</li> <li>3. 資料という「もの」と観覧者や学芸員という「ひと」との関係を考え、博物館が「もの」にも「ひと」にも安全・安心である優しい施設となるよう、文化財保存環境の立場から、そのあり方や手法を具体的に述べるができるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は、博物館学芸員課程の専門科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	イントロダクション	課題：博物館にどのような種類の資料が展示されているか調べる		
第2回	資料の保存環境1（温度・湿度・光とその対策）	課題：博物館の環境と身近な生活環境を比較し、違いを考える1		
第3回	資料の保存環境2（博物館内の空気汚染とその対策）	課題：博物館の環境と身近な生活環境を比較し、違いを考える2		
第4回	資料の保存環境3（博物館周辺の大気汚染とその対策）	課題：博物館の環境と身近な生活環境を比較し、違いを考える3		
第5回	資料の保存環境4（生物被害とその対策 IPM 総合的有害生物管理）	課題：博物館の環境と身近な生活環境を比較し、違いを考える4		
第6回	資料の保存環境5（地震・水害等気象災害による被害と対策）	課題：自然災害による被害を調べ、博物館のリスクを考える		
第7回	資料の保存環境6（梱包・輸送・火災・盗難・人的破壊による被害とその対策）	課題：展示など博物館機能を振り返り、博物館のリスクを考える		
第8回	資料の劣化と科学的調査1（考古資料）	課題：博物館にはどんな種類の考古資料が展示されるか調べる		
第9回	資料の劣化と科学的調査2（美術工芸品）	課題：博物館にはどんな美術工芸品等が展示されているか調べる		
第10回	資料の保存修復の考え方と実際（考古資料・自然災害により被災した資料）	課題：博物館等で行われる保存の工夫を調べる1		
第11回	博物館資料保存の現場（現地研修：九州歴史資料館）	課題：博物館等で行われる保存の工夫を調べる2		
第12回	資料の保存対策1（伝統的な保存対策）	課題：自分の家や住んでいる地域に遺されている古いモノを調べる		
第13回	資料の保存対策2（文化財公開施設に関する法規と資料保存に関する倫理）	課題：博物館等で行われる保存の工夫を調べる3		
第14回	博物館における資料の保存と活用（展示・収蔵から野外、景観・歴史的環境まで）	課題：野外にある資料を実際に見て、展示や保存・活用方法を調べる		
第15回	まとめ	課題：期末レポート		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 期末レポートを提出してもらいます。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席・授業への参加姿勢を重視します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回、異なるテーマについて授業を行うので遅刻・欠席・早退しないようにしてください。第11回の授業は現地集合、現地解散とします。各自、交通費を用意してください（最寄り駅：西鉄天神大牟田線 三国ヶ丘駅）入館料は不要。詳細は授業中に指示します。授業中、中学校理科第一分野程度の用語が出てきて戸惑うことがあるかもしれませんが、文系に軸足を置いた内容としています。</p>			
教科書	毎回、プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	①三浦定俊 佐野千絵 木川りか 『文化財保存環境学（第2版）』 朝倉書店 ②京都造形芸術大学編 『文化財のための保存科学入門』 角川書店 ③東京文化財研究所編 『文化財の保存環境』 中央公論美術出版			
オフィスアワー	授業後＋メール	メールアドレス		

授業科目	博物館資料論【博物館学芸員】【講義】		開講時期	後期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養います。何がどのように収集され、どのように活用されているのかについて具体例を参考に考察します。</p> <p>概要：博物館の「資料」に関する役割のうち、その収集、保管、活用についての具体的手法や留意点・問題点を学びます。博物館が所蔵する資料は、その博物館ばかりでなく社会情勢の変遷を具現していることを国内外の事例から理解し、将来に継承して行くべき公的財産であり、学芸員の果たすべき責務を考えます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館資料の様々な収集法について具体的に述べるができる。</li> <li>・企業博物館とその所蔵資料の具体例を列挙することができる。</li> <li>・博物館資料の安全性に関し、保管（収蔵）と活用（展示ほか）の視点から留意点を説明することができる。</li> <li>・博物館資料の様々な活用法（展示や「地域回想法」における活用など）を、具体的に述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は、博物館学芸員課程の専門科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	「博物館資料」と博物館法第2条	第2回までに課題①提出（2時間）		
第2回	「博物館資料」の実際：東京国立博物館と「湯島聖堂博覧会」	第3回までに課題②提出（2時間）		
第3回	「博物館資料」の実際：東京国立博物館の収蔵品事例	第4回までに課題③提出（2時間）		
第4回	なにが、どのようにして博物館資料になるのか：様々な収集法とその実態	第5回までに課題④提出（2時間）		
第5回	なにが、どのようにして博物館資料になるのか：博物館資料収集法における留意点	第6回までに課題⑤提出（2時間）		
第6回	「企業博物館」（日本）の収蔵品事例より：石橋コレクション、出光コレクション	第7回までに課題⑥提出（2時間）		
第7回	「企業博物館」（日本）の収蔵品事例より：白鶴美術館、大倉集古館	第8回までに課題⑦提出（2時間）		
第8回	「博物館資料」の収集、来歴：外国の事例より－大英博物館・アシュモolean博物館など	第9回までに課題⑧提出（2時間）		
第9回	「博物館資料」の福祉分野活用：「地域回想法」への活用	第10回までに課題⑨提出（2時間）		
第10回	「博物館資料」：継承すべき「文化遺産」	第11回までに課題⑩提出（2時間）		
第11回	博物館資料の保管－安全性の優越－	第12回までに課題⑪提出（2時間）		
第12回	博物館資料の活用－展覧会－	第13回までに課題⑫提出（2時間）		
第13回	博物館資料と教育、医療、福祉	第14回までに課題⑬提出（2時間）		
第14回	博物館資料と学芸員－多様性と望まれる「創意」	第15回までに課題⑭提出（2時間）		
第15回	到達目標に対比した授業総括	指定の期日・時間までに「定期試験課題」提出（2時間）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	・毎回の課題レポート（50%） ・学期末レポートを第15週目に実施（50%）			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	-			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回の「遠隔授業（課題提示型）」は、各回授業テーマの学修・自修で構成されます。提示された課題を考えるなかから、自ら課題をさらに見出し自修を深めていってください。提出物に関しては、「遠隔授業」によるやむを得ない事情には配慮しますので、しっかり対応して指定期日内の提出に努めて下さい。</p>			
教科書	ありません。			
指定図書	ありません。			
参考図書	関連図書を、授業進行にあわせ適宜紹介。信頼し得るネット情報は有効です。			
オフィスアワー	「遠隔授業」形態ですので、随時、下記メールアドレスまで質問・要望・意見等々は気軽にご連絡下さい	メールアドレス		

授業科目	博物館情報・メディア論【博物館学芸員】【講義】		開講時期	前期
担当教員	大橋 光雄		単位	2
授業の目的と概要	<p>授業では、メディアの意義と博物館情報・メディアの理論、それに博物館における情報発信と博物館と知的財産について用途や必要性を理解しさらに活用していく方法を考えていきます。</p> <p>いま急速に発展する電子メディアから溢れ出る多様な情報化社会と教育のかかわりについて考察し進めていく。</p> <p>学校教育・社会教育・生涯学習機関（博物館、図書館等）における視聴覚メディア利用の意義と実際について理解する。視聴覚教育の歴史、各種メディアの機能、すぐれた教材例、すぐれた実践例について学び、その特性と機能を理解し、それを学びの場でどのように生かせばよいかを考える。</p>			
到達目標	<p>博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解する</p> <p>博物館の情報提供と活用等に関する基礎的能力を養うWeb等</p> <p>博物館を情報とメディアの活用によって活性化に導く</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>博物館に関する科目、「生涯学習概論」「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」の全てに関係する。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	進化する博物館（博物館情報・メディア論の解説）	アミューズメント について調べてみる		
第2回	メディアとしての博物館（視聴覚教育メディア論の発展）	ユビキタスについて調べてみる		
第3回	情報とメディアの基礎1（情報とはなにか？）	メディアとしての博物館について調べてみる		
第4回	情報とメディアの基礎2（メディアとはなにか？）	利用方法について調べてみる ネット・新聞の違い		
第5回	博物館情報・メディアの心理と学習	利用方法について調べてくる資料 ドキュメンテーションとデータベース化		
第6回	博物館メディアリテラシー	利用方法について調べてくる		
第7回	メディアを活用した展示手法1	映像展示について調べてみる		
第8回	メディアを活用した展示手法2（ICT社会の中の博物館）	ICTについて調べてくる		
第9回	情報から情報発信へ	情報発信の方法について調べてくる		
第10回	博物館のインターネットの活用	IoTについて調べてみる		
第11回	デジタルアーカイブスの現状と課題（権利処理の方法）	デジタルアーカイブス管理運営について調べてくる		
第12回	メディアによるユニバーサルな手法	多文化教育について調べてみる		
第13回	情報とメディアの法的問題1 制作と利用方法 知的財産（著作権等）	著作権等について調べてくる		
第14回	情報とメディアの法的問題2 個人情報（肖像権等）	個人情報について調べてくる		
第15回	近未来の博物館	メディアの課題 権利処理について調べてくる		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	40%この授業をきっかけとして、いかに考えて、それを表現することが出来たかを評価する。			
小テスト等	50%この授業をきっかけとして、いかに考えて、それを理解・行動出来たかをレポートにて評価する。			
成果発表	-			
受講態度他	10%質問や感想発表等による授業への積極的参加を考慮します。 視聴覚機材等の準備操作をおこなう。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎講義の初めに前回の振り返りと配布資料の説明をおこなう。</p> <p>博物館に関するテレビや新聞の報道に目を配ること。スマートフォンやSNSなど日常的な情報ツールの特性について考えること。</p> <p>博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題について理解できているかが評価の基準となる。</p>			
教科書	適宜 プリント配布			
指定図書	「博物館情報・メディア論」日本教育メディア学会 編集 ぎょうせい			
参考図書	授業の中で適宜紹介 DVDも含む 『博物館と情報』中央新書 「日本の博物館総合調査研究」H29 JSPS			
オフィスワー	授業後に質問を受ける。	メールアドレス		



授業科目	博物館実習【博物館学芸員】【実習】		開講時期	通年
担当教員	時里 奉明・森田 真也・小林 知美		単 位	3
授業の目的と概要	<p>この講義の目的は、博物館についての知識を獲得し、博物館学芸員の実務と研究について理解し、その技能を身につけることにある。また、あわせて現代社会における博物館、学芸員の役割について学外実習において実践的に学ぶことから、市民としての社会責任を理解し、社会人として生きる力を培う。なお、博物館実習は、前期の学内実習（博物館見学を含む）と主に夏休み期間中（予定）に各博物館で実施される学外実習で構成されている。</p> <p>学内実習：歴史学（時里）、民俗学（森田）、美術史（小林）の3クラスに分かれ、学芸員に必要な技能を学ぶ。博物館見学にいく（事前・事後の「見学レポート」提出）。</p> <p>学外実習：各博物館が準備しているプログラムによって行なわれる。実習期間は約2週間（予定）。この間、「実習日誌」をまとめる。実習後、報告会を行ない、「学外実習レポート」を提出する。年度末に冊子『学芸員の星たち』を編集する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館についての知識を深め、説明することが出来る。</li> <li>・博物館学芸員の実務と研究について理解し、説明することが出来る。</li> <li>・博物館学芸員の基礎的技能を身につけることが出来る。</li> <li>・学外実習を通して、市民としての社会責任について理解し、社会人として生きる力を獲得することが出来る。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>博物館に関する知識や技能を習得し、博物館学芸員の資格を取得する。 この授業はこれまでの博物館学芸員課程に関する全ての講義と関連する。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回： 博物館実習について		授業の目的と内容、進め方について理解する		
第2～13回： 学内実習（1）歴史学…時里（未定）		課題① 歴史学実習 具体的課題は講義内において担当教員の指示に従うこと		
第2～13回： 学内実習（2）民俗学…森田（未定）		課題② 民俗学実習 具体的課題は講義内において担当教員の指示に従うこと		
第2～13回： 学内実習（3）美術史…小林（未定）		課題③ 美術史実習 具体的課題は講義内において担当教員の指示に従うこと		
第14回： 学外実習オリエンテーション（前期未定）		実習館に関する事前リサーチを行なう		
第15～27回： 学外実習（各博物館） 実習期間中、各館のプログラムに従い学芸員の指導を受ける（調整中）		課題、予習、復習等各実習館の担当者の指示に従うこと、「実習日誌」の作成		
第28回 博物館見学（後期末定）		事前レポート・事後レポートの作成		
第29回 博物館見学（後期末定）		事前レポート・事後レポートの作成		
第30回： 学外実習報告会（グループディスカッション、発表）（後期末定）		学外実習内容の整理、学外実習レポートの作成		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	見学事前・事後レポート、学外実習レポート等 20％。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	学内実習 30％。受講態度 20％（無断欠席をしないこと）。学外実習 30％。学外実習の評価は、実習を担当する博物館・美術館による。「実習日誌」の記述も評価に関係する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>用意する必要があるものは講義中に指示する。また、掲示板等を確認し、オリエンテーションや報告会には必ず出席すること。博物館見学の際、土日を利用することがある。その際、博物館施設への交通費、入場料等は自己負担となることもある。集団での移動となる。欠席、遅刻の際には連絡すること。受講態度に問題がある場合、学外実習にいけないこともある。</p> <p>この講義は、学外の博物館とも関係する。自覚と積極的な意思を持って臨むこと。</p> <p>提出物の期限が守られない場合は単位を「不可」とすることがある。</p>			
教科書	無し。			
指定図書	無し。			
参考図書	各教員が授業中に個別に指示する。			
オフィスワー	メールで適時質問を受け付けます。	メールアドレス		

授業科目	博物館展示論【博物館学芸員】【講義】		開講時期	前期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養い、博物館における展示とは、博物館資料を通してのコミュニケーションのひとつであり、モノを見せることを社会的使命とする博物館にとってもっとも大切な表舞台に関わることを理解することが目的です。</p> <p>概要：博物館の展示にかかわる基本的課題を、理論と、実践（展示作業）上の技術的視点より考察します。博物館展示論は、対象物たるモノ（博物館資料）の真価を、どのように来館者に伝えるか、そのコミュニケーションに関わる、創意・工夫が求められる実践論です。実際の博物館展示事例を参照しつつ、博物館利用者側および博物館側の双方の立場から、博物館展示の諸問題を考察します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館における「展示」の特異性を博物館学的に説明することができる。</li> <li>・博物館展示における基本的留意事項、工夫を実例に即して説明することができる。</li> <li>・博物館展示には、学芸員のほか、様々な業種・業界が深く関わることを具体例を挙げて説明することができる。</li> <li>・博物館は展示を通じて地域社会の多様な場面で関わっていることを、具体例を挙げて説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は、博物館学芸員課程の専門科目です。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 「博物館展示」概観		第2回までに課題①提出（2時間）		
第2回 博物館の「展示」は展示室だけではない		第3回までに課題②提出（2時間）		
第3回 博物館展示の歴史概観		第4回までに課題③提出（2時間）		
第4回 博物館展示の意義・原理		第5回までに課題④提出（2時間）		
第5回 「博物館展示」をめぐる利用者（来館者）vs博物館		第6回までに課題⑤提出（2時間）		
第6回 資料の博物館展示品化		第7回までに課題⑥提出（2時間）		
第7回 博物館展示方法－その1：安全への配慮		第8回までに課題⑦提出（2時間）		
第8回 博物館展示方法－その2：わかり易さへの配慮		第9回までに課題⑧提出（2時間）		
第9回 博物館展示に関わる業種・業界－その1：多種、多様性の実態		第10回までに課題⑨提出（2時間）		
第10回 博物館展示に関わる業種・業界－その2：課題と地域性		第11回までに課題⑩提出（2時間）		
第11回 博物館展示方法－その3：さらなる創意・工夫		第12回までに課題⑪提出（2時間）		
第12回 企画展示試行：趣旨と創意・工夫		第13回までに課題⑫提出（2時間）		
第13回 企画展示試行案の改善：何をどのように改善・工夫？		第14回までに課題⑬提出（2時間）		
第14回 企画展示試行の諸問題総括		第15回までに課題⑭提出（2時間）		
第15回 到達目標に対比した授業総括		指定の期日・時間までに「定期試験課題」提出（2時間）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	・毎回の課題レポート（50%） ・学期末レポートを第15週目（8/3-8/7）に実施（50%）			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	-			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回の「遠隔授業」は、各回授業テーマの学修・自修で構成されます。提示された課題を考えるなかから、自ら課題をさらに見出し自修を深めていってください。提出物に関しては、「遠隔授業」によるやむを得ない事情には配慮しますので、しっかり対応して指定期日内の提出に努めて下さい。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	関連図書を、授業進行にあわせ適宜紹介。信頼し得るネット情報は有効です。			
オフィスアワー	「遠隔授業」形態ですので、随時、下記メールアドレスまで質問・要望・意見等々は気軽にご連絡下さい。	メールアドレス		

授業科目	はじめての手話【実技】	開講時期	前期
担当教員	本田 いずみ・山口 沙希・市川 杏奈	単位	1
授業の目的と概要	手話は目で見える言葉であり、聴覚障害者にとってはお互いの意思疎通を図るために有効なコミュニケーション手段としてなくてはならないものである。最近では、テレビのニュースやドラマ、マンガなど、私たちの日常生活の中でも手話を目にする機会が増えてきている。 本講義では、聴覚障害者への理解とコミュニケーション手段（言語）としての手話について、その特徴や、基本的な日常会話を中心に、指文字・口話・筆談・空書・ジェスチャーなどを取り混ぜながら、様々なコミュニケーション・スキルについて、講義と実技を通して学んでいく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聞こえ、聴覚障害についての正しい理解ができる。</li> <li>2. 指文字や日常生活に必要な手話単語を覚え、表現できる。</li> <li>3. 手話で基本的な日常会話（読み取りも含む）、コミュニケーションができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	聴覚障害者について（障害理解・情報保障）	オンデマンドでの授業 ミニレポート①	
第2回	聴覚障害者の生活（情報保障を含む）	オンデマンドでの授業 ミニレポート②	
第3回	大学内での学生団体における聴覚障害学生支援（MSGの活動）	オンデマンドでの授業 ミニレポート③	
第4回	表情と物の形	リアルタイムでの授業 ミニレポート④	
第5回	指文字と数の表し方	リアルタイムでの授業 ミニテスト①	
第6回	自己紹介・あいさつ（誕生日・年齢・家族）	リアルタイムでの授業 ミニテスト②	
第7回	主な手話単語	リアルタイムでの授業 ミニテスト③	
第8回	趣味（スポーツ、読書、料理など）	リアルタイムでの授業 ミニテスト④	
第9回	時制と単位①	リアルタイムでの授業 ミニテスト⑤	
第10回	時制と単位②	リアルタイムでの授業 ミニテスト⑥	
第11回	都道府県	リアルタイムでの授業 ミニテスト⑦	
第12回	学校・アルバイト先での会話	リアルタイムでの授業 ミニテスト⑧	
第13回	旅行での会話	リアルタイムでの授業 ミニテスト⑨	
第14回	病院での会話	リアルタイムでの授業 ミニテスト⑩	
第15回	まとめ	リアルタイムでの授業 ミニレポート⑤	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	35% ミニレポート 第1回～4回、第15回（全5回）		
小テスト等	50% 第5回～14回 授業内でのミニテスト（全10回）		
成果発表	なし		
受講態度他	15% ミニレポート、ミニテストを期限内に提出し、リアルタイムでの授業に遅れることなく参加すること。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対面ではないためオンデマンドやリアルタイムでの授業になります。リアルタイムでの授業時には教員の手話をきちんと目で見て、一緒に表現することが手話を学ぶ上で一番大事なポイントになります。また、例年通り「目で見える授業」であり、「手で話をする言語」のため、リアルタイム時にはカメラを必ずオンにしてください。（手の動き、位置、形をこちらが確認するため）手話は一度で覚えられないため、必ず復習をしてください。また、NHKで放送されているテレビ番組なども視聴してみてください。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	必要に応じ、講義時に指示する		
オフィスアワー	本田、市川、山口：講義終了後	メールアドレス	

授業科目	犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論)【講義】		開講時期	後期
担当教員	日高 みちえ		単位	2
授業の目的と概要	犯罪・非行の概念、犯罪・非行の実際、犯罪被害者の問題、家事事件、裁判員制度、医療観察法等についての理解を深める。一方、司法・犯罪分野における問題と必要とされる心理的な支援について理解を深める。さらに、犯罪や非行を抑止するための方策についても検討する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 犯罪・非行の概念や研究の歴史、主な犯罪・非行理論について説明できる。</li> <li>2. 臨床心理の専門家立場から、犯罪・非行、被害者支援、家事事件、裁判員に対してどのような支援が必要であるかを説明できる。</li> <li>3. 犯罪・非行を抑止するために、どのような働き掛けが必要かについて自らの考えを説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	犯罪・非行の概念と犯罪・非行の時代による変化	身の回りで起きた事件を想起し、犯罪・非行に関心を向ける		
第2回	犯罪・非行研究の歴史と主な犯罪・非行理論	配布資料及びインターネット検索で得た情報により検討する		
第3回	非行に関連する機関、法令と事件手続きの流れ	配布資料及びインターネット検索で得た情報により検討する		
第4回	犯罪者に関する機関、法令と事件手続きの流れ	配布資料及びインターネット検索で得た情報により検討する		
第5回	犯罪・非行の事例とその背景にある問題の検討	配布資料及び身近で起きた事件等を振り返り、検討する		
第6回	非行少年の処遇と必要とされる心理的な支援	配布資料及びインターネット検索で得た情報により検討する		
第7回	犯罪者の処遇と必要とされる心理的な支援	配布資料及びインターネット検索で得た情報により検討する		
第8回	犯罪被害者に対する制度の歴史	配布資料及びインターネット検索で得た情報により検討する		
第9回	犯罪被害者支援の現状と今後の必要とされる心理的な支援	配布資料及びインターネット検索で得た情報により検討する		
第10回	家事事件と必要とされる心理的な支援	配布資料及びインターネット検索で得た情報により検討する		
第11回	裁判員制度と必要とされる心理的な支援	配布資料及びインターネット検索で得た情報により検討する		
第12回	医療観察制度と必要とされる心理的な支援	配布資料及びインターネット検索で得た情報により検討する		
第13回	海外の犯罪者処遇と我が国との比較	配布資料及びインターネット検索で得た情報により検討する		
第14回	司法、犯罪分野における臨床心理士・公認心理師としての関わり方	配布資料及びインターネット検索で得た情報により検討する		
第15回	まとめ	授業全体を振り返り、要点をまとめる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% レポートを1日の講義の最後のコマに実施予定			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 出席(1コマの授業時間当たり、20分以上の遅刻又は早退は、出席とみなしません。)、質問、発表等を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は、積極的に発表や質問を行うこと。 止むを得ず欠席する場合は、事前に申し出ること。 施設参観を組み込む可能性があります。その場合は時間割を変更します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	岡本吉生編『司法・犯罪心理学』野島一彦他監修「公認心理師の基礎と実践19」遠見書房 『犯罪・非行の心理学』藤岡淳子編 有斐閣ブック			
オフィスアワー	昼休み時間中	メールアドレス		

授業科目	比較文化特論【講義】		開講時期	後期
担当教員	崔 淑芬		単 位	2
授業の目的と概要	現代はグローバル化によって、世界のあらゆる地域の人々が好むと好まざるとにかかわらず、何らかの形で直接的・間接的な関係を持たざるを得ない状況になってきている。こうした現代に生きる我々にとって、多文化共存・共生に対する理解・交流のための知識とスキルは不可欠である。本講座では、この国際化時代に対応できる柔軟な思考力を身につけるため、総合的に中国の教育とアジア地域の文化をとらえ、特に中国・日本・韓国における文化的異同点の比較研究を通して、少人数クラスにおいて、“自ら調べ、自ら考え”、多文化に対する理解を深め、さらに比較研究水準を高め、現代が抱えるさまざまな問題を自立的に解決できるようになることを目的とする。 学生同士の意見交換を行いながら、多文化であることによって生じた摩擦や問題を設定、これを解決、対応する方法を議論し、それを考えることによって、文化の多様性、相互的な関係を考察する。			
到達目標	①比較教育の観点から教育の役割を考え、論理的な思考力や創造性、表現力、洞察力などを培うとともに、主体的問題を切り拓くことのできる実力を身につけることができる。 ②アジア文化圏についての異文化を学び、理解を深め、さらに日本との比較を通して外国文化の背景を学び、多角的な多文化理解することによって、国際化時代に対応できる柔軟な思考力を身につけることができる。 ③身近な素材から異文化の受容、変貌、発展を考え、「多文化」であることによって生じた摩擦や問題を解決する実力を身につけ、多文化共生の社会・人づくりを考える前提として、世界の様相や日本の状況を把握し、自分の興味に沿った応用法を発見することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。 (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。 (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。 (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 ガイダンス、「地域性と世界性」		多文化とは何か		
第2回 多文化共生に関わる諸問題①		多文化教育の型、全体討議		
第3回 多文化共生に関わる諸問題②		多宗教社会の構造、宗教とナショナリズム		
第4回 多文化共生社会の宗教と教育① 民族と宗教（内モンゴル・チベットを中心とする）		イスラム教、民族教育のとらえ方		
第5回 多文化共生社会の宗教と教育② 教育と宗教（ウイグル・回族のイスラム教を中心とする）		福祉施設の現状		
第6回 福祉施設SOS「子どもの村」（1）		福祉施設の問題		
第7回 福祉施設「子どもの村」（2）		ジェンダー社会論、労働社会		
第8回 女子教育・社会進出の現状と諸問題①		女子教育の進展		
第9回 女子教育・社会進出の現状と諸問題②		少子化社会の構成		
第10回 少子化社会①現状		青少年の教育問題		
第11回 少子化社会②教育、諸問題		日本の留学生受け入れ政策		
第12回 教育の国際化、30万人留学生の受け入れ①		留学生の実態		
第13回 教育の国際化、海外留学の現状②		現代の教育社会が抱える教育課題を取り上げ		
第14回 多文化・多民族化の進行に伴って生じる問題		現代社会が抱える問題		
第15回 受講者の関心によるテーマの研究、全体討議、総括まとめ		レポートの作成、提出		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	無し			
レポート	30%			
小テスト等	無し			
成果発表	30%			
受講態度他	70% 受講態度関わる姿勢などをふまえ総合的に判定する。積極的に検討問題に取り込む授業へ参加、総合判断した上で一定基準に達した者を相対評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自ら積極的に発言、真剣に取り組むことが望ましい。 必要に応じて、参加する学生にも文献・資料の講読や発表などを担当してもらう。			
教科書	教科書は使用しない予定。必要に応じてプリントなどを配付する			
指定図書	教室で適宜指示する			
参考図書	随時、紹介する			
オフィスアワー	火曜日4限目	メールアドレス		

授業科目	比較文化論【講義】	開講時期	後期
担当教員	小林 知美	単位	2
授業の目的と概要	<p>テーマ：日韓芸術比較          アジアの文化の多様性を理解するため、日本と韓国の芸術作品を比較しながら鑑賞し、それぞれの作品の作られた時代の歴史を知ることが目的とします。          フィールドワークでの体験や映像をとおして作品を鑑賞し、文献資料によってその作品の制作背景などに関する理解を深めます。それらの体験をとおして芸術作品を自ら積極的に鑑賞する姿勢を身に付け、日韓の作品の異同をふまえたうえでそれぞれに固有の価値を認めます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術作品を鑑賞し、作品の特徴を把握して、言葉によって描写することができる。</li> <li>・韓国と日本の歴史的時代区分と、それぞれの時代の宗教と歴史について概説できる。</li> <li>・両国の歴史的時代区分ごとに代表的な芸術作品の名称をあげて説明することができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」          日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。          ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	イントロダクション：「比較」芸術史の試み&実地見学の説明	課題①九博常設展示 関連資料収集	
第2回	比較美術1：古墳	課題①九博常設展示 関連資料分析	
第3回	フィールドワーク①：九州国立博物館常設展見学	課題①九博常設展示 レポート執筆	
第4回	比較美術2：金属工芸	課題②能楽関連資料収集	
第5回	比較美術3：仏像	課題②能楽関連資料分析	
第6回	比較美術4：仏画	課題②能楽関連レポート執筆	
第7回	比較美術5：宮廷絵画	課題③実地見学 関連資料収集	
第8回	比較美術6：民衆絵画	課題③実地見学 関連資料分析	
第9回	比較芸術1：仮面と仮面劇1	課題③実地見学 レポート執筆	
第10回	比較芸術1：仮面と仮面劇2	課題④自由テーマ 関連資料収集	
第11回	比較美術7：漆工	課題④自由テーマ 関連資料分析	
第12回	比較美術8：陶磁器	課題④自由テーマ レポート執筆	
第13回	まとめ (0106)	授業振り返り	
第14回	フィールドワーク②：A能楽鑑賞、B見学&聴講のいずれかを選択 ※14、15回合同	課題③実地見学 レポート執筆	
第15回	フィールドワーク②：A能楽鑑賞、B見学&聴講のいずれかを選択 ※14、15回合同	課題③実地見学 レポート執筆	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	-		
レポート	80% (①～④各20%)、提出先：レポートボックス (ボックスを間違えないこと)、文字数：1200字程度、参考文献明記、タイトルは自分で考えて付けること。		
小テスト等	-		
成果発表	-		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>フィールドワークを2回行います。1回目は九州国立博物館常設展 (日時未定、学生証提示で無料) です。          2回目の見学はA能楽鑑賞またはB展覧会見学&amp;聴講のいずれか選択式です。交通費・チケットは各自負担のこと。          A「塩津能の会」鑑賞、於大濠能楽堂 (土曜日午後、学生1000円)          B展覧会見学&amp;聴講 (各自で自由選択)</p>		
教科書	なし		
指定図書	鄭干澤・並木誠士編『韓国の美術・日本の美術』昭和堂 (2002)、吉良文男『いまこそ知りたい朝鮮半島の美術』小学館 (2002)、『日韓で一緒に読みたい韓国史』明石書店 (2014)。		
参考図書	菊竹淳一・吉田宏志責任編集『世界美術大全集 東洋編 第10巻 高句麗・新羅・高麗』小学館 (1998) 菊竹淳一・吉田宏志責任編集『世界美術大全集 東洋編 第11巻 朝鮮王朝』小学館 (1999)		
オフィスアワー	水曜日の昼休み	メールアドレス	

授業科目	比較文学【講義】		開講時期	後期
担当教員	間瀬 玲子		単位	2
授業の目的と概要	比較文学は、19世紀にヨーロッパで生まれた学問である。言語の境界を超えて普遍的な文学理論をうちたてようとするものである。この授業では比較文学の研究の歴史、方法、領域を学ぶことを目的とする。そして比較文学とは何か、こんにち比較文学を考えることの意味を明らかにすることを目的とする。			
到達目標	1. 比較文学の歴史、方法、領域を説明することができる。 2. 比較文学を考えることの意味を明らかにすることができる。 3. 比較文学研究の国際的な動向を説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目 : 言語学			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業の進め方 何ゆえに比較文学なのか	予習 シラバスを読む		
第2回	境界の問題 (外国、諸外国文学)	予習 授業資料 (第2回)		
第3回	境界の問題 (世界文学、比較の境界線)	予習 授業資料 (第3回)		
第4回	外国作品の受容 (受容の美学、受容の歴史)	予習 授業資料 (第4回)		
第5回	外国作品の受容 (受容であって、影響ではない? 展望)	予習 授業資料 (第5回)		
第6回	文学と言語 (原語における作品、翻訳の作品)	予習 授業資料 (第6回)		
第7回	文学と言語 (展望)	予習 授業資料 (第7回)		
第8回	神話と文学形式 (神話の活力、文学の働き)	予習 授業資料 (第8回)		
第9回	神話と文学形式 (神話、国際的なあるいは普遍的な?展望)	予習 授業資料 (第9回)		
第10回	各国文学の比較史 (道具と表現、問題)	予習 授業資料 (第10回)		
第11回	各国文学の比較史 (いくつかの見通し)	予習 授業資料 (第11回)		
第12回	比較詩学へむけて (詩学それとも諸詩学?、比較(諸)詩学)	予習 授業資料 (第12回)		
第13回	比較詩学へむけて (一般詩学、比較詩学)	予習 授業資料 (第13回)		
第14回	国際比較文学会の動向	予習 授業資料 (第14回)		
第15回	授業の総括と比較文学研究の実践	予習 授業資料 (第15回)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	50% 授業の内容に関する複数の設問の中から一つ選び、レポートを完成する。			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	50% 受講態度及び授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業前に必ず授業資料を読んでおいてください。 筑女ネットに授業の進捗状況を掲載します。必ず見てください。			
教科書	教科書はありません。授業資料を配布します。			
指定図書	ジャック・ドゥルワール『いやいやながらルパンを生み出した作家; モーリス・ルブラン伝』国書刊行会、宮川朗子『フランス			
参考図書	野崎敏『フランス文学を旅する60章』明石書店			
オフィスアワー	火曜日 4 講時	メールアドレス		

授業科目	東アジア近現代史【講義】		開講時期	後期
担当教員	白土 悟		単 位	2
授業の目的と概要	東アジアの近現代史は、日本、朝鮮半島、中国における国内革命運動および欧州列強との政治闘争を軸とした民族間の憎悪と闘争の時代であったと言える。その複雑な様相を知ることは、現代日本の置かれている東アジアおよび世界における位置づけを理解することになる。 講義では、アヘン戦争を起点にして、清朝末の民主主義革命、中華民国の成立と内戦、日中戦争と太平洋戦争、中華人民共和国の成立と社会主義革命と建設について考察することにした。			
到達目標	日本の明治維新と自由民権運動について理解する。 東アジア近現代史の中での日本の位置づけを理解する。 日本による朝鮮半島の植民地化と現代の南北問題について理解する。 中国の辛亥革命と社会主義革命について理解する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	歴史とは何か？		資料集の指示したところを読んでおくこと	
第2回	時代区分と時期区分		前回指示した資料を読んでおくこと	
第3回	清朝衰退		前回指示した資料を読んでおくこと	
第4回	日本の明治維新と近代化		前回指示した資料を読んでおくこと	
第5回	日清戦争		前回指示した資料を読んでおくこと	
第6回	孫文と蔡鏢ー革命家の登場		前回指示した資料を読んでおくこと	
第7回	義和団事件		前回指示した資料を読んでおくこと	
第8回	蔡鏢の武人への道		前回指示した資料を読んでおくこと	
第9回	孫文と中国革命同盟会		前回指示した資料を読んでおくこと	
第10回	中華民国の成立		前回指示した資料を読んでおくこと	
第11回	第二革命の失敗		前回指示した資料を読んでおくこと	
第12回	第三革命と蔡鏢		前回指示した資料を読んでおくこと	
第13回	孫文の大アジア主義と死去		前回指示した資料を読んでおくこと	
第14回	朱徳のドイツ留学と国民政府成立		前回指示した資料を読んでおくこと	
第15回	支那事変と中華人民共和国の成立		前回指示した資料を読んでおくこと	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	最終レポート 100%			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	欠席6回以上は「無資格」とする			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回出席を確認する			
教科書	配布資料			
指定図書	なし			
参考図書	山辺健太郎『日韓併合史』岩波書店、1966年。加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日新聞社、2009年			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		



授業科目	東アジア地誌【講義】		開講時期	後期
担当教員	白土 悟		単 位	2
授業の目的と概要	<p>東アジアの人々の社会経済生活と自然環境との関係を理解した上で、各地の人々が直面する問題を理解することを目的とする。東アジアは中国、朝鮮半島、モンゴルを含む広大な地域である。現代では国家は一つの経済単位として国内市場を形成するとともに、世界経済の一部となっている。いかなる辺境の社会経済も閉鎖されたものではなく、国内の他の地域や世界の他の国々と密接に結びついている。このような基本的視点を以て東アジアに対する地誌学的認識を高めることにより、日本の社会経済をより正確に理解できるようになるだろう。</p> <p>授業では東アジアの中で経済大国化して周辺国家や世界に大きな影響力をもつ中国を中心に、その政治・経済の動向、それと関連する自然環境、人口、民族、宗教の問題、世界との関わりについて考えることにしたい。</p>			
到達目標	<p>東アジアの社会経済（産業構造）と自然環境の関係について説明ができるようになる。</p> <p>中国の現代政治について説明ができるようになる。</p> <p>中国の自然環境と人口問題（人口政策、高齢化、都市集中など）について説明ができるようになる。</p> <p>中国の民族と宗教の社会問題について説明ができるようになる。</p> <p>中国と世界との関わり（大陸横断経済圏、留学政策など）について説明ができるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	アジア地誌学		東アジアの国名、中国の省名を覚えておくこと	
第2回	支那の呼称		前回指示した資料を読んでおくこと	
第3回	中国の自然環境（1）		前回指示した資料を読んでおくこと	
第4回	中国の自然環境（2）		前回指示した資料を読んでおくこと	
第5回	中国の自然環境（3）		前回指示した資料を読んでおくこと	
第6回	現代中国の政治（1）		前回指示した資料を読んでおくこと	
第7回	現代中国の政治（2）		前回指示した資料を読んでおくこと	
第8回	現代中国の政治（3）		前回指示した資料を読んでおくこと	
第9回	中国の民族政策（1）民族とは何か。民族政策の基礎理論		前回指示した資料を読んでおくこと	
第10回	中国の民族政策（2）民族文化の多様性		前回指示した資料を読んでおくこと	
第11回	中国の宗教政策（1）建国時の宗教問題とその対策		前回指示した資料を読んでおくこと	
第12回	中国の宗教政策（2）キリスト教、イスラム教、仏教の各宗教団体に対する政策		前回指示した資料を読んでおくこと	
第13回	中国の宗教政策（3）改革開放後の展開		前回指示した資料を読んでおくこと	
第14回	中国の文明化政策		前回指示した資料を読んでおくこと	
第15回	地誌学と留学生交流		前回指示した資料を読んでおくこと	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	最終レポート 100%			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	欠席6回以上は「無資格」とする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回出席を確認する			
教科書	配布資料			
指定図書	なし			
参考図書	上野和彦編『世界地誌シリーズ ②中国』朝倉書店、2011年。竹内実『現代中国の展開』NHKブックス、1987年			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	東アジア入門【講義】		開講時期	前期
担当教員	婁 海善		単 位	2
授業の目的と概要	<p>アジアの中でも中国（香港含む）、台湾、韓国、北朝鮮を東アジアと定義し、これらの国の基礎的知識、行政区分、近現代における政治変化及び社会経済変化の特徴と流れを学ぶことを目的とする。</p> <p>①東アジア諸国の社会経済発展の歩みと背景、今後の展望を説明する。  ②韓国、中国、モンゴル、香港、台湾の基礎的な知識、近現代の歴史、政治、経済の流れを学ぶ。</p>			
到達目標	<p>1. 東アジア各国の個別事情に関して説明することができる。</p> <p>2. 東アジア各国のお互いの関連性について比較しながら説明することができる。</p> <p>3. 東アジア諸国と日本の歴史・政治及び経済関係等を体系的に理解することができる。</p> <p>4. 東アジア諸国と日本との今後の課題やあり方に関して自分の見解を述べるすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第 1回	授業概要紹介、東アジア入門で学ぶこと	テキストを用意する		
第 2回	東アジアの基礎知識	東アジアの経済発展の背景を調べる		
第 3回	東アジアの目覚ましい発展	日本経済と東アジア経済の関係を調べる		
第 4回	韓国（基礎知識と近代史）	戦後から韓国政府樹立までの歴史を調べる		
第 5回	朝鮮戦争と南北分断	朝鮮戦争の背景と経緯、その被害を調べる		
第 6回	戦後の韓国の政治経済	韓国の経済発展の流れを調べる		
第 7回	小テスト①・問題解説・韓国と北朝鮮のまとめ	韓国と北朝鮮の関係変化を調べる		
第 8回	モンゴル	モンゴル経済の発展の流れを調べる		
第 9回	中国（基礎知識・近代政治）	中国の行政地域を調べる		
第10回	中国（辛亥革命～日中戦争まで）	中国の近代史を調べる		
第11回	中国（1949年以後の政治経済）	戦後からの中国の政治・経済の流れをまとめる		
第12回	中国（改革開放政策・一带一路）	改革開放政策の特徴をまとめる		
第13回	香港特別行政区	近中香港が抱えている問題を調べる		
第14回	台湾	台湾経済の特徴を調べる		
第15回	小テストと問題解説・中国・香港・台湾のまとめ	全体のまとめ		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%			
小テスト等	80%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>※筑女ネットを活用します：テキスト以外の補助資料、お知らせなど。</p> <p>①テキストは1回目の授業から使います。</p> <p>②テストには「テキスト」のみ持ち込可。授業中テストなので追試と再試なし！</p> <p>③欠席が5回を超えると受験できない（就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要）</p> <p>④授業内容に関係のない私語、スマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減点する。</p>			
教科書	婁 海善著『東アジア入門』2020年			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で適宜紹介			
オフィスアワー	事前に訪問日時を相談してください	メールアドレス		

授業科目	ヒンディー語 I 【演習】		開講時期	前期
担当教員	清水 晶子		単位	1
授業の目的と概要	ヒンディー語は、ヒンディー映画の普及により広範囲で通用する言葉です。ヒンディー語の学習を通して、インドの伝統、文化、慣習を理解できるように授業をします。インドを旅行する設定の教科書をもとにして、基礎的な文法、現地で実際に使えるヒンディー語の会話文、役に立つ語彙を中心に習得します。授業の中では、言葉の学習のほかに、どのようにしてインドで生活し、人と交流してきたか体験に基づいてお話ししたいと考えています。			
到達目標	(1) 教科書にあるヒンディー語の単語（できればアルファベット、デーヴァナーガリ-文字で）を覚える (2) 教科書の例文が読めるようになる (3) ヒンディー語の簡単な会話が理解できる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション			教科書の「本書の使い方」、「インドの見どころ」を読む	
第2回 基本表現：挨拶（1）—こんにちは、挨拶（2）—はじめまして			前回の授業の復習、例文を声に出して読む	
第3回 基本表現：感謝—ありがとう			前回の授業の復習、例文を声に出して読む	
第4回 基本表現：お詫び—ごめんなさい			前回の授業の復習、例文を声に出して読む	
第5回 基本表現：呼びかけ—すみません			前回の授業の復習、例文を声に出して読む	
第6回 基本表現：肯定・否定—はい・いいえ			前回の授業の復習、例文を声に出して読む	
第7回 基本表現：聞き返し—え？			前回の授業の復習、例文を声に出して読む	
第8回 発音してみよう（挨拶・感謝）			前回までの授業の復習、例文を声に出して読む	
第9回 発音してみよう（お詫び・呼びかけ・肯定・否定・聞き返し）			前回までの授業の復習、例文を声に出して読む	
第10回 基本表現：義務—～しなければなりません			前回の授業の復習、例文を声に出して読む	
第11回 基本表現：許可—～してもいいですか			前回の授業の復習、例文を声に出して読む	
第12回 基本表現：質問—～はありますか			前回の授業の復習、例文を声に出して読む	
第13回 基本表現：希望—～が欲しいのですが			前回の授業の復習、例文を声に出して読む	
第14回 基本表現：依頼—～をお願いします			前回の授業の復習、例文を声に出して読む	
第15回 総復習			これまでの授業の復習、例文を声に出して読む	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％ 毎回の課題提出、最終課題提出			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	30％ 授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ヒンディー語の音に慣れる。例文の音読、聴き取り、書き取りに心がける。			
教科書	『ひとり歩きの会話集 ヒンディー語』 JTBパブリッシング			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	ヒンディー語Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	清水 晶子		単位	1
授業の目的と概要	日常で使用される頻度の高い名詞や動詞を覚えて、いろいろの場面での会話に対応できるようにします。ヒンディー語【I】の授業で習得したヒンディー語とインドに関する知識を踏まえて、どのようにしたら積極的に自分の方からコミュニケーションがとれる(発信できる)ようになるか考えていきます。インドについて関心のある分野を持ち、将来もインドと親しく関わっていただけるような授業にしたいと思います。			
到達目標	(1) ヒンディー語で簡単な会話ができるようになる (2) ヒンディー語で簡単な文章が表現できるようになる (3) 語彙を増やす			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	移動するー飛行機、長距離バス	教科書の「移動する」を読む		
第2回	移動するー鉄道、地下鉄	前回の授業の復習、例文を声に出して読む		
第3回	移動するータクシー、リキシャ・オートリキシャ	前回の授業の復習、例文を声に出して読む		
第4回	食べるー予約、レストランで	前回の授業の復習、例文を声に出して読む		
第5回	食べるーオーダー、食事中	前回の授業の復習、例文を声に出して読む		
第6回	食べるーメニューを読む	前回の授業の復習、例文を声に出して読む		
第7回	食べるー支払い	前回の授業の復習、例文を声に出して読む		
第8回	観光するー観光案内所で	前回の授業の復習、例文を声に出して読む		
第9回	観光するー観光バス・ツアーを利用する	前回の授業の復習、例文を声に出して読む		
第10回	観光するー街で	前回の授業の復習、例文を声に出して読む		
第11回	観光するー観光スポットで	前回の授業の復習、例文を声に出して読む		
第12回	ショッピングー案内	前回の授業の復習、例文を声に出して読む		
第13回	ショッピングー品選び	前回の授業の復習、例文を声に出して読む		
第14回	ショッピングー品選び	前回の授業の復習、例文を声に出して読む		
第15回	ショッピングーショッピング単語集、支払い	前回の授業の復習、例文を声に出して読む		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% レポート(2000-2500字)			
小テスト等	20% 単語の小テスト(書き取り)、宿題の提出			
成果発表	-			
受講態度他	30% 授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書を復習し、ヒンディー語の「読む、聞く、話す、書く」のそれぞれのレベルアップに努める。			
教科書	『ひとり歩きの会話集 ヒンディー語』 JTBパブリッシング			
指定図書	-			
参考図書	町田和彦 『ニューエクスプレスヒンディー語』 白水社、坂田貞二 『入門ヒンディー語』 国際語学社			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	病弱教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	大轟 香・猪狩 恵美子		単位	2
授業の目的と概要	特別支援学校学習指導要領をふまえて病弱者を指導するための教育課程と、それぞれの場で行われている指導の特徴を把握し、病弱児のかかえる心理的特性や症状をふまえた指導内容・方法を身につける。 また、自立活動に向け、専門機関と連携や情報機器の活用等も考慮した個別の指導計画や支援計画の重要性を理解する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病弱児の心理的・医学的特徴について説明できる。</li> <li>・病弱児の教育について説明できる。</li> <li>・病弱児の指導や支援のあり方について述べることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心(3)-②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。  初(3)-②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。  幼(3)-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	病弱児に対する基本的理解について (大轟)		ショートレポート①作成	
第2回	病弱教育の現状について (大轟)		ショートレポート①作成	
第3回	病弱児における教育課程概論(歴史を含む) (猪狩)		ショートレポート②作成	
第4回	病弱児の学習特性と教育課程 (猪狩)		ショートレポート②作成	
第5回	病弱児における教育課程及び指導法(幼稚部) (猪狩)		ショートレポート②作成	
第6回	病弱児における教育課程及び指導法(小学部) (猪狩)		ショートレポート②作成	
第7回	病弱児における教育課程及び指導法(中等部・高等部) (猪狩)		ショートレポート③作成	
第8回	教科指導(1) 各教科 (猪狩)		ショートレポート③作成	
第9回	教科指導(2) 学習の工夫 (猪狩)		ショートレポート③作成	
第10回	教科指導(3) 自立活動との関連から (猪狩)		ショートレポート③作成	
第11回	院内学級における教育課程及び指導法(1) 学習指導 (猪狩)		ショートレポート④作成	
第12回	院内学級における教育課程及び指導法(2) 生活指導 (猪狩)		ショートレポート④作成	
第13回	病弱児の心理特性と教育 (猪狩)		ショートレポート④作成	
第14回	交流および協同学習について(院内交流・学校間交流) (猪狩)		ショートレポート④作成	
第15回	病弱教育の現代的な課題について (猪狩)		最終レポート作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ショートレポート60%、最終レポート40%			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	受講態度も考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>プリントを配布しますので、ファイルを準備してください。  授業後に課題を出します。</p> <p>『特別支援学校教育要領・学習指導要領』『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説』は他の授業でも使用します。</p>			
教科書	全国特別支援学校病弱教育校長会編著『特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どものガイドブック』、ジヤース教育新社『特別支援学校教育要領・学習指導要領』『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編、各教科編等、自立活動編』			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワー	授業後	メールアドレス		

授業科目	病弱者の心理・生理・病理【講義】		開講時期	前期
担当教員	中野 桂子・大霧 香		単位	2
授業の目的と概要	特別支援学校や特別支援学級に在籍する幼児、児童又は生徒の心理や疾病等についての基礎的な知識を学ぶことで、現場で対応する力を身につける。病弱者に対する対応について理解を深める。また、病弱者のハイリスクとしての極低出生体重児（極小未熟児）についても学ぶ。病弱者の定義を学習した後、それぞれの心理や生理、病理の特徴をつかみ基礎的な対応や病弱者の支援について学ぶ。			
到達目標	1. 病弱児の心理・生理・病理的特徴について説明することができる。 2. 病弱者の病気の概要や病気に対する注意点について説明することができる。 3. 病弱者に対する基礎的な対応を述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は特別支援学校課程の専門科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 病弱者について (担当:大霧 香・中野 桂子)		レポート(ノート)作成 テキスト1章 (pp.7~14) の精読		
第2回 極低出生体重児の心理・生理・病理 (1) 極低出生体重児とは (担当:大霧 香・中野桂子)		ミニレポート① レポート(ノート)の作成 テキスト2章		
第3回 極低出生体重児の心理・生理・病理 (2) ハイリスク児への支援 (担当:大霧 香・中野 桂子)		レポート(ノート)の作成 テキスト2章 (pp.15~35) の熟読		
第4回 腎疾患の心理・生理・病理 (1) 腎疾患とは (担当:中野 桂子)		レポート(ノート)の作成 テキスト4章 (pp.113~119) の精読		
第5回 腎疾患の心理・生理・病理 (2) 腎疾患の子どもが抱えやすい問題とその対応について (担当:中野 桂子)		レポート(ノート)の作成 テキスト4章 (pp.113~119) の精読		
第6回 心疾患の心理・生理・病理 心疾患とその子どもが抱えやすい問題とその対応について (担当:中野 桂子)		レポート(ノート)の作成 テキスト4章 (pp.95~101) の精読		
第7回 小児の糖尿病・肥満の心理・生理・病理 (担当:中野 桂子)		レポート(ノート)の作成 テキスト2章 (pp.35~42) の精読		
第8回 てんかんの心理・生理・病理 (1) てんかんとは (担当:中野 桂子)		レポート(ノート)の作成 テキスト5章 (pp.121~132) の精読		
第9回 てんかんの心理・生理・病理 (2) 発作に対する対応とてんかんを持つ人への配慮について (担当:中野 桂子)		レポート(ノート)の作成 テキスト5章 (pp.121~132) の精読		
第10回 小児がんの心理・生理・病理 (白血病を中心に) (担当:中野 桂子)		レポート(ノート)の作成 テキスト3章 (pp.90~94) の精読		
第11回 アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理 (1) ぜんそくを中心に (担当:中野 桂子)		レポート(ノート)の作成 テキスト3章 (pp.49~54) の精読		
第12回 アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理 (2) 食物アレルギーを中心に (担当:中野桂子)		レポート(ノート)の作成 テキスト3章 (pp.49~54) の精読		
第13回 病弱者の家族への支援 (1) 家族の思い (担当:大霧香・中野 桂子)		レポート(ノート)の作成 テキスト6章 (pp.159~178) の精読		
第14回 病弱者の家族への支援 (2) 家族への支援 (担当:大霧香・中野 桂子)		レポート(ノート)の作成 テキスト6章 (pp.159~178) の精読		
第15回 ライフイベントと発達 まとめ (担当:大霧 香・中野 桂子)		レポートの作成および提出		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% レポート(大霧担当分) 80% レポート(自筆・手書き)(中野担当分)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度も考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ファイルおよびノートを用意して下さい。 毎回、授業の最後に課題を出します。			
教科書	『病弱・障害児の心理・生理・病理学的研究』(中野桂子著 中川書店)			
指定図書	特になし			
参考図書	『病弱・障害児の医療・療育・教育 改訂3版』(宮本信也・土橋圭子著 金芳堂) 『病気の子どもへの心理社会的支援入門』(谷川弘治・他編 ナカニシヤ出版)			
オフィスアワー	木曜昼休み、月～水昼休み	メールアドレス		

授業科目	病弱者の心理・生理・病理【講義】		開講時期	前期
担当教員	大霧 香		単 位	2
授業の目的と概要	特別支援学校や特別支援学級に在籍する幼児、児童又は生徒の心理や疾病等についての基礎的な知識を学ぶことで、現場で対応する力を身につける。病弱者に対する対応について理解を深める。また、病弱者のハイリスクとしての極低出生体重児（極小未熟児）についても学ぶ。病弱者の定義を学習した後、それぞれの心理や生理、病理の特徴をつかみ基礎的な対応や病弱者の支援について学ぶ。			
到達目標	1. 病弱児の心理・生理・病理的特徴について説明することができる。 2. 病弱者の病気の概要や病気に対する注意点について説明することができる。 3. 病弱者に対する基礎的な対応を述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は特別支援学校課程の専門科目です。 この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第1回	病弱者について		授業内容の復習（病弱者の定義）	
第2回	極低出生体重児の心理・生理・病理（1）	極低出生体重児とは	授業内容の復習（極低出生体重児について）	
第3回	極低出生体重児の心理・生理・病理（2）	ハイリスク児への支援	ミニレポート①（資料を読んで）	
第4回	腎疾患の心理・生理・病理（1）	腎疾患とは	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 授業内容の復習	
第5回	腎疾患の心理・生理・病理（2）	腎疾患の子どもが抱えやすい問題とその対応について	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 授業内容の復習	
第6回	心疾患の心理・生理・病理	心疾患とその子どもが抱えやすい問題とその対応について	ミニレポート②（慢性疾患について）作成 授業内容の復習	
第7回	小児の糖尿病・肥満の心理・生理・病理		ミニレポート②（慢性疾患について） 授業内容の復習	
第8回	てんかんの心理・生理・病理（1）	てんかんとは	ミニレポート③（てんかんについて）作成 授業内容の復習	
第9回	てんかんの心理・生理・病理（2）	発作に対する対応とてんかんを持つ人への配慮について	ミニレポート③（てんかんについて）作成 授業内容の復習	
第10回	小児がんの心理・生理・病理（白血病を中心に）		ミニレポート④（がん、アレルギー）について 授業内容の復習	
第11回	アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（1）	ぜんそくを中心に	ミニレポート④（がん、アレルギーについて） 授業内容の復習	
第12回	アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（2）	食物アレルギーを中心に	ミニレポート④（がん、アレルギーについて） 授業内容の復習	
第13回	病弱者の家族への支援（1） 家族の思い		ミニレポート⑤（資料を読んで）	
第14回	病弱者の家族への支援（2） 家族への支援		ミニレポート⑤（資料を読んで）	
第15回	ライフイベントと発達 まとめ		ミニレポート⑤（資料を読んで）	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ミニレポート5回 85% 課題提出 15%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	事前に授業計画に書かれている疾患について事前学習をしておいてください。			
教科書	使用しない			
指定図書	特になし			
参考図書	宮本信也・土橋圭子 『病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版』 金芳堂 小野次朗・西牧謙吾・神原洋一編著 『特別支援教育に生かす病弱児の心理・生理・病理』 ミネルヴァ書房			
オフィスワー	月曜 昼休み・5限	メールアドレス		

授業科目	ビオトープ論【講義】		開講時期	前期
担当教員	伊豫岡 宏樹・石橋 知也		単位	2
授業の目的と概要	本講義は、生物多様性の縮小原因や影響、ビオトープ保全の意義、生物が多様であることの意義、ビオトープ保全の方法、生息環境の多様性と生物の多様性、などに着目し、生態学の概念、ビオトープの全体像、環境関連法、計画手法、施工手法などについて理解を深めること、また風景のとらえ方に関する基礎知識、主に景観工学の理論について理解を深めること、これらを目的とする。加えて、生態学的・景観工学的な視点を持った計画立案を行うための基礎的な知識を実践的に養う。さらに、日本におけるビオトープ保全・創出の事例等に触れながら、「ビオトープ管理士（計画、施工）」の資格取得への足掛かりとなる知識を身につけることも視野に入れている。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビオトープの概念について理解することができる</li> <li>・生物多様性の価値について理解し、基本的な生態系の構成について説明できる</li> <li>・風景のとらえ方に関する基礎知識について理解することができる</li> <li>・生態学的・景観工学的な視点でビオトープの簡易な計画ができる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	生物多様性とは1（種多様性・生物多様性・生物多様性の価値）	配布資料の熟読		
第2回	生物多様性とは2（自然淘汰・共存・相互作用）	配布資料の熟読		
第3回	生物生息環境の変化・回復・管理1（生物多様性に係る法整備・環境容量）	配布資料の熟読		
第4回	生物生息環境の変化・回復・管理2（外来生物・指標生物・九州での事例紹介）	配布資料の熟読		
第5回	風景について・景観把握モデル・視覚と景観・モノのカタチ	配布資料の熟読		
第6回	空間のスケール・風景の使い心地・体験する風景・風景とイメージ・住民参加の風景づくり	配布資料の熟読		
第7回	風景の規範・自然地理条件・地形と土地利用・地形の「つくり」	配布資料の熟読		
第8回	近世城下町の都市計画・近代都市計画の導入・自然に則した暮らしの景・機能の読み解き・暮らしの「しつらえ」	配布資料の熟読		
第9回	ビオトープ計画ワークショップ（事例探求1）	事例調査・基本案づくり		
第10回	ビオトープ計画ワークショップ（事例探求2）	事例調査・基本案づくり		
第11回	ビオトープ計画ワークショップ（基本案づくり1）	事例調査・基本案づくり		
第12回	ビオトープ計画ワークショップ（基本案づくり2）	事例調査・詳細案づくり		
第13回	ビオトープ計画ワークショップ（詳細案づくり1）	事例調査・詳細案づくり		
第14回	ビオトープ計画ワークショップ（詳細案づくり2）	事例調査・詳細案づくり		
第15回	ビオトープ計画プレゼンテーション	プレゼンテーション準備・講義全体をとおした復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 事例研究についてのレポート（授業と並行し、授業外学修として一定期間を設け取り組む）			
小テスト等	20% 授業中に課す小テスト			
成果発表	30% 第15回でのプレゼンテーションの内容評価を基本とする			
受講態度他	20% 第9回から第14回までの取り組み姿勢、その他の授業全体での参加状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし			
教科書	配布資料を用います			
指定図書	リチャードB.プリマック・小堀洋美「保全生物学のすすめ（改訂版）」文一総合出版、鷲谷いずみ・矢原徹一「保全生態学入門ー遺伝子から景観までー」文一総合出版、小林一郎・風景デザイン研究会「風景のとらえ方・つくり方ー九州実践編」共立出版			
参考図書	なし（必要に応じて紹介します）			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		



授業科目	ビジュアル日本史【講義】		開講時期	後期
担当教員	時里 奉明		単 位	2
授業の目的と概要	<p>目的：【映像でみる昭和戦前期の日本】  「動く映像」が発明されたのは、1895年のことである。それ以来、ここ120年の世界の出来事は「動く映像」によって記録されてきた。19世紀末に登場した「動く映像」は、20世紀とともに歩んできたと言ってよい。そうした数多い映像のなかから、「昭和戦前期」の「日本」を対象をしばって鑑賞し、当時の人々の暮らしや考え方を学び、時代の実相を理解する。  概要：映像はおもに『映像の世紀』、『新・映像の世紀』、NHKスペシャルを用いる。映像を上映したあと、感想や小テストをしながら、解説を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 映像の誕生とその特性について、具体的に述べることができる。</li> <li>2 昭和戦前期の日本が戦争へと傾いていくプロセスを説明することができる。</li> <li>3 現在を過去と関連づけるとともに、現在を相対化する視点を獲得することができる。「幅広い視野」</li> <li>4 レポートを作成することによって、論理的な思考をまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス：講義のねらい スケジュールと履修方針の確認	映像で歴史を学ぶことの意味を考える		
第2回	鑑賞と講義：「JAPAN」（『映像の世紀』第11集）	配布プリント復習（映像に登場した日本）		
第3回	講義：映像の特性について	配布プリント復習（映像の特性について）		
第4回	鑑賞と講義：「百年の悲劇はここから始まった」①前半（『新・映像の世紀』第1集）	配布プリント復習（第一次世界大戦前半）		
第5回	鑑賞と講義：「百年の悲劇はここから始まった」②後半	配布プリント復習（第一次世界大戦後半）		
第6回	鑑賞と講義：「時代は独裁者を求めた」①前半（『新・映像の世紀』第3集）	配布プリント復習（独裁者たち-前半）		
第7回	鑑賞と講義：「時代は独裁者を求めた」②後半	配布プリント復習（独裁者たち-後半）		
第8回	鑑賞と講義：「よみがえる昭和初期の日本」①（NHKスペシャル）	配布プリント復習（1934年から1937年までの日本）		
第9回	講義：第8回の映像を解説	解説の復習		
第10回	鑑賞と講義：「よみがえる昭和初期の日本」②（NHKスペシャル）	配布プリント復習（1937年から1941年までの日本）		
第11回	講義：第10回の映像を解説	解説の復習		
第12回	鑑賞と講義：「よみがえる昭和初期の日本」③	配布プリント復習（1941年から1945年までの日本）		
第13回	講義：第12回の映像を解説	解説の復習		
第14回	鑑賞と講義：「カラーでよみがえる東京」①前半（NHKスペシャル）	配布プリント復習（1917年から1945年までの東京）		
第15回	鑑賞と講義：「カラーでよみがえる東京」②後半	配布プリント復習（1945年から2014年までの東京）、期末レポートの準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	70% 期末レポート			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	30% 映像を上映したあとに、感想文を提出（時間内）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	映像がテキストなので出席を重視する。上映の時、簡単な感想を書いて提出する。遅刻、早退は厳禁。大幅な遅刻は欠席とみなす。スケジュール、上映作品を変更することがある。			
教科書	映像に関するプリントを配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に紹介する。			
オフィスアワー	金の昼休み。研究室にいる時はいつでも。	メールアドレス		

授業科目	ビジネス英語【演習】	開講時期	前期
担当教員	野中 誠司	単位	2
授業の目的と概要	<p>企業活動がグローバル化した結果、世界の人々とコミュニケーションを行うための共通手段として、英語の重要性がますます高まっている。この授業では、ビジネスの現場で求められる基本的な英語力を身につけることを第1目的とする。また、ビジネス分野における知識・技能を活用して、コミュニケーション・スキル、論理的思考力、問題解決能力など社会生活に必要な基礎的技能的習得および向上を第2目的とする。</p> <p>教科書には必要最低限のこしか書かれていないので、補足説明を行う。そのための板書を毎回行うので、専用ノートを必ず準備しておくこと。また、教科書の内容に準拠した音声ファイルを出版社の指定サイトからダウンロードして、予習・復習に活用すること。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスの現場に必要な単語や表現を理解し、それらを口頭と文章で再生することができる。</li> <li>2. ビジネスに関連した英文を音声で聞いたり、精読や多読によって、その内容が理解できる。</li> <li>3. ビジネス分野における知識・技能を、自己にふさわしい将来設計（キャリアプランニング）に活用できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は、企業で海外関連業務（マーケティング、通訳翻訳等）に従事した実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 Telephone 1: 電話に対応する		予習pp. 1-5, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
第2回 Business Email: Eメールを読む		予習pp. 6-10, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
第3回 Telephone 2: 正確な情報を得る		予習pp. 11-14, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
第4回 Business Letter: ビジネスレターを読む		予習pp. 16-20, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
第5回 At the Reception Desk: 受付の英語		予習pp. 21-25, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
第6回 Corporate Websites: ウェブサイトを閲覧する		予習pp. 26-30, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
第7回 Company Profile: 会社について説明する		予習pp. 31-35, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
第8回 Product Advertisements: 新製品広告を読み解く, 中間試験実施		予習pp. 36-40, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
第9回 Your Job: 自分の仕事を説明する		予習pp. 41-45, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
第10回 Product Specifications: 製品の仕様書を確認する		予習pp. 46-50, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
第11回 Business Plans: 将来の展望について話す		予習pp. 51-55, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
第12回 Operating Instructions: 操作マニュアルを理解する		予習pp. 56-60, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
第13回 Talking about the News: 時事的会話を楽しむ		予習pp. 61-65, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
第14回 Safety Signs: 標識の英語に慣れる		予習pp. 76-80, 単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
第15回 まとめ		これまでの単語の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50%: 毎回の課題を翌週の授業開始前までに提出してください。		
小テスト等	30%: 今日の英語クイズという小テストに翌週の授業開始前までに回答してください。		
成果発表	なし		
受講態度他	20%: フォーラムやチャットへの投稿など、主体的かつ積極的に参加している点を評価します。毎回の授業へのアクセスが6回なかった時点で受講放棄とみなし、名簿から氏名を削除します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開講日から教科書を使用するので、事前に購入しておくか、必要な箇所をコピーするなどして授業に出席すること。教科書なしで授業に参加した場合は、最終評価から減点などのペナルティーを科す。第2回以降の授業にもこのルールを適用する。</li> <li>2. 名簿順に座席を指定するので、指定された席にすわること。座席の要望があれば、開講日に受けつけるので申し出ること。</li> <li>3. 辞書（スマホやタブレット端末は不可）も必ず持参すること。辞書なしでの受講は不可。</li> <li>4. 病気、忌引などやむをえない理由で欠席した場合は、客観的な証明書類を後日必ず提出すること。提出がない場合、無断欠席</li> </ol>		
教科書	Tomoko Tsujimoto et al., "Getting Global!," (Kinseido, 2015)		
指定図書	なし		
参考図書	授業の中で適宜紹介する。		
オフィスアワー	授業の前後に相談のこと。	メールアドレス	

授業科目	ビジネス英語 I 【演習】		開講時期	後期
担当教員	西島 裕里		単位	1
授業の目的と概要	この講義は提案文書や広告、メールなどを含む実際のビジネスシーンを題材とした英語の文章を教材として活用することで、基本的な英語運用能力の確認を行いつつ、ビジネスシーンに頻出する表現や語彙の習得に努めることを目的とする。 また TOEIC Bridge で 150 点程度を目標として、TOEIC Bridge の教材を利用した TOEIC 対策を行う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広告や提案文書などビジネスシーンで用いられる英文の特徴を説明できる</li> <li>2. メールなどを使って、英語でビジネスに関する意思疎通を行うことができる</li> <li>3. TOEICの形式を知り、解答に役立てることができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業のイントロダクション	なし		
第2回	Unit 1: “It’s nice to meet you.” ①	Reading Activity p10		
第3回	Unit 1: “It’s nice to meet you.” ② TOEICテストの概要	Writing Activity p.13		
第4回	Unit 2: “What does ‘FYI’ mean?” ①	Reading Activity p.16		
第5回	Unit 2: “What does ‘FYI’ mean?” ② TOEIC Practice Part 1	Writing Activity p.18		
第6回	Unit 3: “May I speak to Mr. Yoshioka?” ①	Reading Activity p.22		
第7回	Unit 3: “May I speak to Mr. Yoshioka?” ② TOEIC Practice Part 2	Writing Activity p.25		
第8回	Unit 4: “May I take a message?” ①	Reading Activity p.28		
第9回	Unit 4: “May I take a message?” ② TOEIC Practice Part 3, 4	Writing Activity p.31		
第10回	Unit 5: “I have a headache.” ①	Reading Activity p.34		
第11回	Unit 5 “I have a headache.” :② TOEIC Practice Part 5	Writing Activity p.37		
第12回	Unit 6: “I have another appointment at 9:30.” ①	Reading Activity p.40		
第13回	Unit 6: “I have another appointment at 9:30.” ② TOEIC Practice Part 6	Writing Activity p.43		
第14回	Unit 7: “Would you like something to drink?” ①	Reading Activity p.46		
第15回	Unit 7 “Would you like something to drink?” :② TOEIC Practice Part 7	Reading Activity p.49		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% (定期試験なし)			
レポート	0% (なし)			
小テスト等	80% 指定された方法での学習や課題への取り組み、「小テスト」などで評価します。			
成果発表	0% (なし)			
受講態度他	20% 筑女ネットへのアクセス状況や授業への積極的な参加姿勢などを評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして授業に臨むこと TOEICの問題を積極的に解いていくこと。			
教科書	Tae Kudo, First Step to Office English, National Geographic Learning刊 TOEIC Bridge対策については追加のテキストが指示されることがあります。			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスワーク	担当教員によって異なります。授業時に確認してください	メールアドレス		

授業科目	ビジネス英語 I 【演習】		開講時期	後期
担当教員	林 慎将		単位	1
授業の目的と概要	この講義は提案文書や広告、メールなどを含む実際のビジネスシーンを題材とした英語の文章を教材として活用することで、基本的な英語運用能力の確認を行いつつ、ビジネスシーンに頻出する表現や語彙の習得に努めることを目的とする。 また TOEIC Bridge で 150 点程度を目標として、TOEIC Bridge の教材を利用した TOEIC 対策を行う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広告や提案文書などビジネスシーンで用いられる英文の特徴を説明できる</li> <li>2. メールなどを使って、英語でビジネスに関する意思疎通を行うことができる</li> <li>3. TOEICの形式を知り、解答に役立てることができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	授業のイントロダクション		なし	
第2回	Unit 1: “It’s nice to meet you.” ①		Reading Activity p.14	
第3回	Unit 1: “It’s nice to meet you.” ② TOEICテストの概要		Writing Activity p.15	
第4回	Unit 2: “What does ‘FYI’ mean?” ①		Reading Activity p.22	
第5回	Unit 2: “What does ‘FYI’ mean?” ② TOEIC Practice Part 1		Writing Activity p.23	
第6回	Unit 3: “May I speak to Mr. Yoshioka?” ①		Reading Activity p.30	
第7回	Unit 3: “May I speak to Mr. Yoshioka?” ② TOEIC Practice Part 2		Writing Activity p.31	
第8回	Unit 4: “May I take a message?” ①		Reading Activity p.38	
第9回	Unit 4: “May I take a message?” ② TOEIC Practice Part 3, 4		Writing Activity p.39	
第10回	Unit 5: “I have a headache.” ①		Reading Activity p.46	
第11回	Unit 5 “I have a headache.” :② TOEIC Practice Part 5		Writing Activity p.47	
第12回	Unit 6: “I have another appointment at 9:30.” ①		Reading Activity p.54	
第13回	Unit 6: “I have another appointment at 9:30.” ② TOEIC Practice Part 6		Writing Activity p.55	
第14回	Unit 7: “Would you like something to drink?” ①		Reading Activity p.62	
第15回	Unit 7 “Would you like something to drink?” :② TOEIC Practice Part 7		Reading Activity p.63	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%			
レポート	0%			
小テスト等	20%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして授業に臨むこと TOEICの問題を積極的に解いていくこと。			
教科書	Tae Kudo, First Step to Office English, National Geographic Learning刊 TOEIC Bridge対策については追加のテキストが指示されることがあります。			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスワーク	担当教員によって異なります。授業時に確認してください	メールアドレス		

授業科目	ビジネス英語 I 【演習】		開講時期	後期
担当教員	川村 真央		単位	1
授業の目的と概要	この講義は提案文書や広告、メールなどを含む実際のビジネスシーンを題材とした英語の文章を教材として活用することで、基本的な英語運用能力の確認を行いつつ、ビジネスシーンに頻出する表現や語彙の習得に努めることを目的とする。 また TOEIC Bridge で 150 点程度を目標として、TOEIC Bridge の教材を利用した TOEIC 対策を行う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広告や提案文書などビジネスシーンで用いられる英文の特徴を説明できる</li> <li>2. メールなどを使って、英語でビジネスに関する意思疎通を行うことができる</li> <li>3. TOEICの形式を知り、解答に役立てることができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	授業のイントロダクション		なし	
第2回	Unit 1: “It’s nice to meet you.” ①		Reading Activity p.14	
第3回	Unit 1: “It’s nice to meet you.” ② TOEICテストの概要		Writing Activity p.15	
第4回	Unit 2: “What does ‘FYI’ mean?” ①		Reading Activity p.22	
第5回	Unit 2: “What does ‘FYI’ mean?” ② TOEIC Practice Part 1		Writing Activity p.23	
第6回	Unit 3: “May I speak to Mr. Yoshioka?” ①		Reading Activity p.30	
第7回	Unit 3: “May I speak to Mr. Yoshioka?” ② TOEIC Practice Part 2		Writing Activity p.31	
第8回	Unit 4: “May I take a message?” ①		Reading Activity p.38	
第9回	Unit 4: “May I take a message?” ② TOEIC Practice Part 3, 4		Writing Activity p.39	
第10回	Unit 5: “I have a headache.” ①		Reading Activity p.46	
第11回	Unit 5 “I have a headache.” :② TOEIC Practice Part 5		Writing Activity p.47	
第12回	Unit 6: “I have another appointment at 9:30.” ①		Reading Activity p.54	
第13回	Unit 6: “I have another appointment at 9:30.” ② TOEIC Practice Part 6		Writing Activity p.55	
第14回	Unit 7: “Would you like something to drink?” ①		Reading Activity p.62	
第15回	Unit 7 “Would you like something to drink?” :② TOEIC Practice Part 7		Reading Activity p.63	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%			
レポート	0%			
小テスト等	20%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして授業に臨むこと TOEICの問題を積極的に解いていくこと。			
教科書	Tae Kudo, First Step to Office English, National Geographic Learning刊 TOEIC Bridge対策については追加のテキストが指示されることがあります。			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスワーク	担当教員によって異なります。授業時に確認してください		メールアドレス	

授業科目	ビジネス英語 I (S) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	J. Stewart		単位	1
授業の目的と概要	この講義では高校までに習得した英語運用能力を活用して、実際に英文でのビジネスメールや提案文書の作成や、実際のビジネスシーンで使われている英語表現や語彙の理解を通して、実用的な英語運用能力を身につけることを目的とする。またTOEIC550点程度を目標としたTOEIC対策を行う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスシーンで頻出する表現や語彙を理解できる</li> <li>2. 英文のビジネスメールや提案文書を作成できる</li> <li>3. TOEICの形式を理解している。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	Course Outline; ビジネスと英語の関わりについて Chapter 1 - Introductions	教科書 pp. 8-15; Interior Office Designs (video online)		
第2回	Chapter 2 - Telephone Calls	教科書 pp. 16-23; When the Telephone Rings		
第3回	Chapter 3 - Making an Inquiry	教科書 pp. 24-31; Enquiries		
第4回	Chapter 4 - Making an Appointment	教科書 pp. 32-39; Making Appointments		
第5回	Chapter 5 - Receiving a Visitor - Quiz #1 (20%)	教科書 pp. 40-47; Receiving a Visitor		
第6回	Chapter 6 - Invitations	教科書 pp. 48-55; Inviting Someone		
第7回	Chapter 7 - Presentations (1) Self- Intro and Outline	教科書 pp. 56-63; Making an Outline		
第8回	Chapter 8 - Presentations (2) Introducing a New Product	教科書 pp. 64-71; Steve Jobs' Intro of iPhone (2007)		
第9回	Chapter 9 - Presentations (3) Answering Questions	教科書 pp. 72-79; How to Answer Q's about Presentations		
第10回	Chapter 10 - Online Meetings - Quiz #2 (20%)	教科書 pp. 80-87; How to Conduct Online Meetings		
第11回	Chapter 11 - Negotiations	教科書 pp. 88-95; Asking a Vendor to Reduce the Price		
第12回	Chapter 12 - Placing an Order Student Presentations Due - Upload to OneNote.	教科書 pp. 96-103; Placing an Order		
第13回	Chapter 13 - Making a Complaint (1) Orders	教科書 pp. 104-111; How to Complain in English		
第14回	Chapter 14 - Making a Complaint (2) Bills & Payments	教科書 pp. 112-119; Responding to Complaints		
第15回	Chapter 15 - Completing a Project - Quiz #3 (20%)	教科書 pp. 120-127; Showing Appreciation		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	・			
レポート	40% (学期中に所定の課題に対してpresentation 1回提出. Submit online to One Note.			
小テスト等	60% - 3 Quizzes @ 20% each.			
成果発表	0% .			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ビジネスを取り巻く政治や経済の動きを日頃からテレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどから知るように努めること。特に英語でそれらの情報がどのように表現されているかに留意すること。受講に際し指定された教科書の部位を読み、間に答え、また課題に取り組むことで本科目の狙いを達成するように努めること。			
教科書	Tae Kudo, Successful Office English, Cengage Learning			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する / Better Business English, by J. Stewart (online, free of charge to students)			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	ビジネス英語Ⅱ【演習】		開講時期	前期
担当教員	西島 裕里		単位	1
授業の目的と概要	この講義は提案文書や広告、メールなどを含む実際のビジネスシーンを題材とした英語の文章を教材として活用することで、基本的な英語運用能力の確認を行いつつ、ビジネスシーンに頻出する表現や語彙の習得に努めることを目的とする。 またTOEIC Bridge で180点程度を目標として、TOEIC Bridge の教材を利用したTOEIC 対策を行う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広告や提案文書などビジネスシーンで用いられる英文の特徴を説明できる</li> <li>2. メールなどを使って、英語でビジネスに関する意思疎通を行うことができる</li> <li>3. TOEIC Bridgeについての知識を実際の問題を解くことで定着させることができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	授業のイントロダクション		なし	
第2回	Unit 8: "Let's go out for a drink." ①		Reading Activity p52	
第3回	Unit 8: "Let's go out for a drink" ② TOEIC実践演習		Writing Activity p. 55	
第4回	Unit 9 : "How was your weekend?" ①		Reading Activity p. 58	
第5回	Unit 9: "How was your weekend?" ② TOEIC 実践演習		Writing Activity p. 61	
第6回	Unit 10: "The sales department is on the 3rd floor" ①		Reading Activity p. 64	
第7回	Unit 10: "The sales department is on the 3rd floor" ② TOEIC 実践演習		Writing Activity p. 67	
第8回	Unit 11: "Turn right on Main street" ①		Reading Activity p. 70	
第9回	Unit 11: "Turn right on Main street" ② TOEIC 実践演習		Writing Activity p. 73	
第10回	Unit 12 "First, press the start button" ①		Reading Activity p. 76	
第11回	Unit 12 "First, press the start button" :② TOEIC 実践演習		Writing Activity p. 79	
第12回	Unit 13 "I'd like to check in."		Reading Activity p. 82、 Writing Activity p. 85	
第13回	Unit 14 "I'm looking for a souvenir."		Reading Activity p. 88、 Writing Activity p. 91	
第14回	Unit 15 "What would you like to have?"		Reading Activity p. 94、 Writing Activity p. 97	
第15回	授業のまとめと振り返り		自分の学修を振り返り、改めて確認したいところを明らかにしておくこと	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% (なし)			
レポート	0% (なし)			
小テスト等	80% 指定された方法での学習や課題への取り組み、「小テスト」などで評価します。			
成果発表	0% (なし)			
受講態度他	20% 筑女ネットへのアクセス状況や、授業への積極的な参加姿勢などを評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして授業に臨むこと TOEICの問題を積極的に解いていくこと。 12月に学内で行われるTOEIC試験(有料)をできるだけ受験すること			
教科書	Tae Kudo, First Step to Office English, National Geographic Learning刊 TOEIC Bridge対策については追加のテキストが指示されることがあります。			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスワーク	担当教員によって異なります。授業時に確認してください	メールアドレス		

授業科目	ビジネス英語Ⅱ【演習】		開講時期	前期
担当教員	石垣 恵一		単位	1
授業の目的と概要	この講義は提案文書や広告、メールなどを含む実際のビジネスシーンを題材とした英語の文章を教材として活用することで、基本的な英語運用能力の確認を行いつつ、ビジネスシーンに頻出する表現や語彙の習得に努めることを目的とする。またTOEIC Bridge で180点程度を目標として、TOEIC Bridge の教材を利用したTOEIC 対策を行う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広告や提案文書などビジネスシーンで用いられる英文の特徴を説明できる</li> <li>2. メールなどを使って、英語でビジネスに関する意思疎通を行うことができる</li> <li>3. TOEIC Bridge についての知識を実際の問題を解くことで定着させることができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	授業のイントロダクション		なし	
第2回	Unit 8: "Let's go out for a drink." ①		Reading Activity p52	
第3回	Unit 8: "Let's go out for a drink" ② TOEIC実践演習		Writing Activity p. 55	
第4回	Unit 9 : "How was your weekend?" ①		Reading Activity p. 58	
第5回	Unit 9: "How was your weekend?" ② TOEIC 実践演習		Writing Activity p. 61	
第6回	Unit 10: "The sales department is on the 3rd floor" ①		Reading Activity p. 64	
第7回	Unit 10: "The sales department is on the 3rd floor" ② TOEIC 実践演習		Writing Activity p. 67	
第8回	Unit 11: "Turn right on Main street" ①		Reading Activity p. 70	
第9回	Unit 11: "Turn right on Main street" ② TOEIC 実践演習		Writing Activity p. 73	
第10回	Unit 12 "First, press the start button" ①		Reading Activity p. 76	
第11回	Unit 12 "First, press the start button" :② TOEIC 実践演習		Writing Activity p. 79	
第12回	Unit 13 "I'd like to check in."		Reading Activity p. 82、 Writing Activity p. 85	
第13回	Unit 14 "I'm looking for a souvenir."		Reading Activity p. 88、 Writing Activity p. 91	
第14回	Unit 15 "What would you like to have?"		Reading Activity p. 94、 Writing Activity p. 97	
第15回	授業のまとめと振り返り		自分の学修を振り返り、改めて確認したいところを明らかにしておくこと	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% (学期末レポートを第15週目に実施)			
小テスト等	20% (期間中に1回実施)			
成果発表	0%			
受講態度他	20% (課題の提出による出席判断、課題に取り組む姿勢)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして授業に臨むこと TOEICの問題を積極的に解いていくこと。 12月に学内で行われるTOEIC試験(有料)をできるだけ受験すること			
教科書	Tae Kudo, First Step to Office English, National Geographic Learning刊 TOEIC Bridge対策については追加のテキストが指示されることがあります。			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスワーク	担当教員によって異なります。授業時に確認してください		メールアドレス	



授業科目	ビジネス英語Ⅱ【演習】		開講時期	前期
担当教員	川村 真央		単位	1
授業の目的と概要	この講義は提案文書や広告、メールなどを含む実際のビジネスシーンを題材とした英語の文章を教材として活用することで、基本的な英語運用能力の確認を行いつつ、ビジネスシーンに頻出する表現や語彙の習得に努めることを目的とする。 またTOEIC Bridge で180点程度を目標として、TOEIC Bridge の教材を利用したTOEIC 対策を行う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広告や提案文書などビジネスシーンで用いられる英文の特徴を説明できる</li> <li>2. メールなどを使って、英語でビジネスに関する意思疎通を行うことができる</li> <li>3. TOEIC Bridgeについての知識を実際の問題を解くことで定着させることができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	授業のイントロダクション		なし	
第2回	Unit 8: "Let's go out for a drink." ①		Reading Activity p52	
第3回	Unit 8: "Let's go out for a drink" ② TOEIC実践演習		Writing Activity p. 55	
第4回	Unit 9 : "How was your weekend?" ①		Reading Activity p. 58	
第5回	Unit 9: "How was your weekend?" ② TOEIC 実践演習		Writing Activity p. 61	
第6回	Unit 10: "The sales department is on the 3rd floor" ①		Reading Activity p. 64	
第7回	Unit 10: "The sales department is on the 3rd floor" ② TOEIC 実践演習		Writing Activity p. 67	
第8回	Unit 11: "Turn right on Main street" ①		Reading Activity p. 70	
第9回	Unit 11: "Turn right on Main street" ② TOEIC 実践演習		Writing Activity p. 73	
第10回	Unit 12 "First, press the start button" ①		Reading Activity p. 76	
第11回	Unit 12 "First, press the start button" :② TOEIC 実践演習		Writing Activity p. 79	
第12回	Unit 13 "I'd like to check in."		Reading Activity p. 82、 Writing Activity p. 85	
第13回	Unit 14 "I'm looking for a souvenir."		Reading Activity p. 88、 Writing Activity p. 91	
第14回	Unit 15 "What would you like to have?"		Reading Activity p. 94、 Writing Activity p. 97	
第15回	授業のまとめと振り返り		自分の学修を振り返り、改めて確認したいところを明らかにしておくこと	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	30%			
小テスト等	50%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして授業に臨むこと TOEICの問題を積極的に解いていくこと。 12月に学内で行われるTOEIC試験(有料)をできるだけ受験すること			
教科書	Tae Kudo, First Step to Office English, National Geographic Learning刊 TOEIC Bridge対策については追加のテキストが指示されることがあります。			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスワーク	担当教員によって異なります。授業時に確認してください		メールアドレス	

授業科目	ビジネス英語Ⅱ (S) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	J. Stewart		単位	1
授業の目的と概要	この講義では高校までに習得した英語運用能力を活用して、実際に英文でのビジネスメールや提案文書の作成や、実際のビジネスシーンで使われている英語表現や語彙の理解を通して、実用的な英語運用能力を身につけることを目的とする。またTOEIC550点程度を目標としたTOEIC対策を行う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスシーンで頻出する表現や語彙を理解できる</li> <li>2. 英文のビジネスメールや提案文書を作成できる</li> <li>3. TOEICの形式を理解している。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Course Outline; ビジネスと英語の関わりについて Unit 1 - Introductions		教科書 pp. 7-12; Nice to meet you	
第2回	Unit 2 - Describing Companies		教科書 pp. 13-18; Where do you work	
第3回	Unit 3 - Telephone Conversations		教科書 pp. 19-24; Cell phone do's and don'ts	
第4回	Unit 4 - Describing Occupations		教科書 pp. 25-30; I'm a sales rep.	
第5回	Quiz 1		教科書 Study pp. 7 - 30	
第6回	Unit 5 - Time and Schedules		教科書 pp. 31-36; They work in shifts.	
第7回	Unit 6 - How's Business?		教科書 pp. 37-42; Making small talk	
第8回	Unit 7 - Working with Large Numbers		教科書 pp. 43-48; How many employees?	
第9回	Unit 8 - It was a long day		教科書 pp. 49-54; Business Meetings	
第10回	Quiz 2		教科書 Study pp. 31-54	
第11回	Unit 9 - Explaining Procedures		教科書 pp. 55 - 60; Can you send me that file?	
第12回	Unit 10 - Describing Location		教科書 pp. 55 - 60; It's in the filing cabinet	
第13回	Unit 11 - Describing Food		教科書 pp. 61 - 66; This is good... What is it?	
第14回	Unit 12 - Describing Future Plans		教科書 pp. 67 - 72; She's going to give a presentation	
第15回	Quiz 3		教科書 Study pp. 55-77	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% Final Examination			
レポート	19% (Business Card Questions 5%; What's in a Name 9%; How to Plan Your Day 5%; Small Talk 5%)			
小テスト等	45% (Three quizzes @ 15% each)			
成果発表	0%			
受講態度他	36% TOEIC-Style Problems (3% x 12)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ビジネスを取り巻く政治や経済の動きを日頃からテレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどから知るように努めること。特に英語でそれらの情報がどのように表現されているかに留意すること。受講に際し指定された教科書の部位を読み、間に答え、また課題に取り組むことで本科目の狙いを達成するように努めること。			
教科書	Communication Spotlight (Business 1), by Alastair Graham-Marr (Abax ELT Publishers) ISBN 978-1-896-94252-0			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する /			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	ビジネス韓国語【演習】		開講時期	後期
担当教員	慎 順花		単 位	2
授業の目的と概要	<p>市場経済主義を中心に、国家間の壁が低くなりつつ異なる言語・文化間の移動や社会の変化によって、韓国語の需要も高まっています。現在、日本では韓国企業も進出しており、両国間の貿易も益々強化される一方で、ビジネスで通用できる韓国語を求めている会社も増えています。</p> <p>本講義では、就職先として韓国語を身に付ける必要がある学生のニーズに合わせて、現場で実践できる言葉を学習します。それと並行しながら、韓国のビジネスドラマを媒介にして韓国の企業文化を理解することに努めます。</p>			
到達目標	<p>①韓国のビジネス文化を理解し、表現の土台を準備する。  ②ロールプレイの練習方法で自分の置かれている場面をイメージ化し、そこから対応できる表現を工夫する。  ③日常会話に慣れている韓国語から脱皮し、少々硬い表現にも慣れるように工夫する。  ④韓国語の独特な言い回しに反応する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	ガイダンス 初対面の挨拶・名刺交換	予習(自己紹介：発表準備)		
第2回	お迎え / ロールプレイ	復習(プレゼン暗記・練習)		
第3回	様々な場面でのビジネス挨拶 / ロールプレイ	復習(プレゼン暗記・練習)		
第4回	電話対応Ⅰ / ロールプレイ	復習(プレゼン暗記・練習)		
第5回	電話対応Ⅱ / ロールプレイ	状況を選択し、ロールプレイ準備		
第6回	文章作成・履歴書	履歴書作成		
第7回	イベント案内文・お知らせ文作成	案内文作成		
第8回	移動・道案内 / ロールプレイ	場面を選択し、ロールプレイ準備		
第9回	観光案内 / ロールプレイ	状況を選択し、ロールプレイ準備		
第10回	ビジネスメール	メールの作成・送信		
第11回	アンケート用紙作成	予習(アンケート計画)		
第12回	アンケート調査・発表	調査・発表準備		
第13回	ビジネスで出会う異文化	調査・プレゼンテーション準備		
第14回	見送り・お別れ / ロールプレイ	復習(プレゼン暗記・練習)		
第15回	総合成果発表	グループ発表準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 授業での課題(イベント案内文・アンケート文などの提出物)			
小テスト等	なし			
成果発表	50% グループ発表・ロールプレイなど			
受講態度他	20% 受講態度(出席度・積極性などを考慮)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①韓国語Ⅰ・Ⅱを受講した人、またはそれに準ずる語学力を持っている人が対象。  ②授業でのグループ発表があるので、積極的に授業に参加することが望ましい。  ③既定の授業の出席を前提に評価する。</p>			
教科書	プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	幡野 泉/ 呉 敬雅『シゴトの韓国語』(基礎編) 三修社			
オフィスワー	水曜日の授業後	メールアドレス		

授業科目	ビジネスコミュニケーション【演習】		開講時期	前期
担当教員	坂本 隆行		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業の目的は、日本社会の「ビジネス基礎力」を身につけることである。日本のビジネス慣習を学びながら、ビジネスパーソンとしての心構え・コミュニケーション力・ビジネスマナー・プレゼンテーション能力を磨く。さらにグローバルビジネスにおける「ダイバーシティマネジメント」の事例を紹介しながら、多様な価値観を尊重し、他者の能力を最大限に活かすマネジメント演習に取り組む。</p> <p>他者と協働することにより、「ファシリテーション力」、「自己管理能力」、「意思決定力」、「傾聴力」の向上を目指すとともに、物事を筋道立てて論じることができる「論理的思考能力」を養う。</p> <p>本年度は、本学ではコロナウイルスの影響で前期期間がすべて遠隔授業となっている。その為、演習内容は全て筑女ネットやTeams等を援用しておこなう。</p>			
到達目標	<p>①ビジネスコミュニケーションスキルとして、「傾聴力」、「自己管理能力」、「ファシリテーション力」、「意思決定力」を習得する</p> <p>②常に「論理的思考能力」をもち、客観的な根拠をもとに系統立てて発言・議論することができる</p> <p>③多様な価値観を尊重し、他者と協働する「チームワーク力」と他者の能力を活かす「リーダーシップ力」を習得する</p> <p>④効果的なプレゼンテーション力を習得する</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>現 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス（遠隔授業の進め方・ルール説明）・自己紹介	復習：大学の友人と職場の仲間の違いを考えてみてください。		
第2回	社会人としての自覚を持とう	予習：教科書pp3-22を読んでください		
第3回	プロ意識を持とう	予習：教科書pp23-38を読んでください。		
第4回	自分に対する目標を立てよう	予習：教科書p17を読んでください。		
第5回	目標の立て方 ベーシック法について	予習：ベーシック法の目標設定について調べておいてください。		
第6回	目標の立て方 ベンチマーキング法	予習：ベンチマーキング法の目標設定について調べておいてください。		
第7回	顧客満足とは何かを知ろう	予習：教科書（pp28-30）を読んでください。		
第8回	ビジネスコミュニケーション 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション	復習：メラビアンの法則についていろいろと調べてきてください。		
第9回	電話のマナー ビジネス電話の受け方・かけ方	予習：教科書（pp192-196）を読んでください。		
第10回	ビジネス電話のスキルアップ演習	前回の資料（第9回資料）を、再度読んでください。		
第11回	名刺交換の方法	予習：教科書（pp.212-215）を読んでください。		
第12回	訪問営業と訪問の仕方	復習：営業にも様々な種類があります。想像してみましょう		
第13回	応接室でのマナーに気を付けよう	予習：教科書（pp.208-211）を読んでください。		
第14回	ビジネスパーソンとして大切な心構え	予習：教科書ステップ8/9（pp150-196）を理解してきてください		
第15回	これまでの学習の振り返り課題 学期末レポート課題の説明	予習：これまでの講義内容を一通り復習してください。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 最終試験の代わりとして学期末レポートを第15週目に実施し、その内容を評価します。			
小テスト等	60% 講義終了後、アンケート形式での課題提出を実施し、その内容を評価します。			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 出席状況を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>遠隔授業の進め方については、変更する可能性があります。変更の場合筑女ネットで知らせます。</p> <p>筑女ネットで通知、出席管理、資料提出、フィードバック指導を行うため、指示した日時にアクセスしてください。</p> <p>※ 受講確認の「回答する」ボタンやアンケートによる課題提出で出欠確認をします。</p> <p>筑女ネットに記載された指示に従い、確実に15回の授業を受講してください。</p>			
教科書	富士通エフ・オー・エム株式会社『ビジネスコミュニケーションスキルを磨く10のステップ<改訂版>』FOM出版（2014）			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスワーク	毎週月曜日 10:00-12:00	メールアドレス		

授業科目	ビジネス実務演習Ⅱ【演習】		開講時期	前期
担当教員	大橋 健治		単位	2
授業の目的と概要	<p>企業や自治体などの組織は長期、中期、短期の目標をもって活動する。ビジネス実務とは、チームが担う課題達成に向けた仕事（協働）と、個々人が担う役割達成に向けた仕事（個働）の二つの側面からみた活動である。本授業では、この協働と個働の二側面からビジネスマナーの基本を学び、職場で大切にされる価値観や職場でのマナーの基本を修得することを目的とする。本年度は遠隔授業となったため、ロールプレイング（役割演技）は実施せずに抄読会形式で運営する。抄読会とは 学生が自分の研究テーマに基づいて選んだ文献を深く読み、その内容と得られた示唆を報告しあう場のことを言う。この授業では、文献をインターネットサイト「ビジネスマナー講座」に統一し、各回の課題を閲覧して、読み手によって内容のとらえ方が多様であることを感じてもらうような彼我比較の場としたい。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネス実務の概念が理解できる。</li> <li>2. ビジネス実務に就く上で必要となる基礎知識を身につけることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」  (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。—————</p> <p>この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。  関連する科目；ビジネス実務演習Ⅰ、組織行動論など</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	授業の概要説明とクラスのメンバーの自己紹介		シラバスの内容の詳解、自己紹介シートの提出	
第2回	人間関係、気配り		インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修	
第3回	チームワーク、時間のマナー		インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修	
第4回	挨拶、笑顔		インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修	
第5回	役職の順番、上座下座		インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修	
第6回	身だしなみ、言葉遣い		インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修	
第7回	話の聞き方、態度・姿勢		インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修	
第8回	指示の受け方、報連相のマナー		インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修	
第9回	報告の仕方		インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修	
第10回	電話対応、メールのマナー		インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修	
第11回	名刺交換、来客対応		インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修	
第12回	お茶の出し方、訪問のマナー		インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修	
第13回	クレーム対応、封筒のマナー		インターネットサイト「ビジネスマナー講座」の事前学修、事後学修	
第14回	ケーススタディ		教員が出題するケースに基づいた事前学修、事後学修	
第15回	修了レポートの作成にあたって		質問や問題提起の準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 修了レポートの提出			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 参加の積極性（質問や議論の題材の提供）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように、本授業ではロールプレイング（役割演技）を中心としたアクティブ・ラーニングを導入する。アクティブ・ラーニングを成立させる大前提は、個々の学生による責任をもった授業外学修である。これを怠る学生は授業の場に入ることを認めない（欠席扱いとする）。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。</p>			
教科書	NET上のビジネスマナー講座のサイト閲覧を利用する			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日の14：00～17：00		メールアドレス	

授業科目	ビジネス実務総論【演習】		開講時期	後期
担当教員	大橋 健治		単位	1
授業の目的と概要	<p>企業であれ公共事業体であれ、組織は長期、中期、短期の目標をもって活動する。ビジネス実務とは、チームが担う課題達成に向けた仕事（協働）と、個人が担う役割達成に向けた仕事（個働）の二つの側面からみた活動である。本授業では、この協働と個働の二側面からビジネス実務を学び、職場で大切にされる価値観や職場での身の処し方の基本を修得することを目的とする。これまでは、授業の目的を効果的に達成するためにTBL（Team-Based Learning）の手法を導入して、学生同士の議論、学生と教員による議論を中心に授業を進めてきた。しかし、本年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から遠隔授業とし、教員の身体的ハンディキャップの理由からオンデマンド方式を採用する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネス実務の概念が理解できる。</li> <li>2. ビジネス実務に就く上で必要となる基礎知識を身につけることができる。</li> <li>3. ビジネス実務に就く上での持論を語るができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連する科目；ビジネス実務演習、組織行動論、人的資源管理論など</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	ガイダンス（授業の内容説明）		教科書第0章を読んだ感想を事後学修として提出する	
第2回	教科書第1章 ビジネス実務とは何か		教科書第1章に対する課題を事後学修として提出する	
第3回	教科書第2章 ビジネスとはなにか		教科書第2章に対する課題を事後学修として提出する	
第4回	教科書第3章 ビジネスの管理Ⅰ－利益－		教科書第3章に対する課題を事後学修として提出する	
第5回	教科書第4章 ビジネスの管理Ⅱ 組織と人材		教科書第4章に対する課題を事後学修として提出する	
第6回	教科書第5章 ビジネスの管理Ⅲ 社会・経済・法規・倫理		教科書第5章に対する課題を事後学修として提出する	
第7回	教科書第6章 個人業務とマネジメント		教科書第6章に対する課題を事後学修として提出する	
第8回	教科書第7章 協働業務とマネジメント		教科書第7章に対する課題を事後学修として提出する	
第9回	教科書第8章 キャリアデザインと能力開発		教科書第8章に対する課題を事後学修として提出する	
第10回	教科書第9章 ビジネスコミュニケーションⅠ 職場		教科書第9章に対する課題を事後学修として提出する	
第11回	教科書第10章 ビジネスコミュニケーションⅡ 会議		教科書第10章に対する課題を事後学修として提出する	
第12回	ビジネス実務に大きな影響を与える要因Ⅰ グローバル化		資料Ⅰに対する課題を事後学修として提出する	
第13回	ビジネス実務に大きな影響を与える要因Ⅱ デジタル変革の波		資料Ⅱに対する課題を事後学修として提出する	
第14回	受講者からの問題提起		事前学修としてビジネス実務に大きな影響を与える要因を考え提出する	
第15回	授業のまとめと振り返り		修了レポートを提出する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 修了レポートの提出			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 授業への積極的な参加（納期限内での事前・事後学修課題の提出）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように、本授業はオンデマンド方式による遠隔授業を実施する。これにより従来の学習効果が低減されることとなるが、筑女ネットのフォーラム機能を活用することや事前・事後学修を受講者の経験に寄せて課題提示をすることによって、経験学習による内省的学習につながる工夫を試みることにする。詳細な受講上の留意点やルールについては、別途筑女ネットの授業ページで公開するのでそちらを確認いただきたい。</p>			
教科書	九州TBL研究会が作成した「ビジネス実務総論」の教科書をプリントにして配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日の昼休み		メールアドレス	

授業科目	ビジネス中国語【演習】		開講時期	前期
担当教員	陳 青鳳		単 位	2
授業の目的と概要	<p>日中でのビジネスがさらに進行している今、人との交流手段として、最も基本的かつ簡単なのは、“言語”だと考えられます。しかし、その言語は使う場面によって異なっています。ビジネスにおける言語は、簡潔かつ明瞭、そして正しく情報を伝達することが求められています。</p> <p>この授業は、すでに学習した中国語の基礎を踏まえて、ビジネス中国語の“基本”表現を身につけることを目的とします。また、言語のみならず、中国の最新の文化、経済などについても学びます。</p>			
到達目標	<p>①ビジネス中国語の概念、意義を理解することができる。</p> <p>②学習した中国語の基礎を定着し、より高度な読解力を強化することができる。</p> <p>③ビジネスの場で必要となる基本表現を習得することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて適切な コミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション		第1課の予習：p. 6-7		
第2回 第1課の文章読解		第1課の練習問題：p. 8-9		
第3回 第1課の練習問題の解説と発表		第2課の予習：p. 10-11		
第4回 第2課の文章読解		第2課の練習問題：p. 12-13		
第5回 第2課の練習問題の解説と発表		第3課の予習：p. 14-15		
第6回 第3課の文章読解		第3課の練習問題：p. 16-17		
第7回 第3課の練習問題の解説と発表		これまでの復習：p. 6-17		
第8回 これまでの復習		第4課の予習：p. 18-19		
第9回 第4課の文章読解		第4課の練習問題：p. 20-21		
第10回 第4課の練習問題の解説と発表		第5課の予習：p. 22-23		
第11回 第5課の文章読解		第5課の練習問題：p. 24-25		
第12回 第5課の練習問題の解説と発表		第6課の予習：p. 26-27		
第13回 第6課の文章読解		第6課の練習問題：p. 28-29		
第14回 第6課の練習問題の解説と発表		今学期の復習		
第15回 今学期のまとめの課題		なし		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	① 20%毎回の課題の提出率 ② 40%前期のまとめの課題(第15週目の8/4)に実施			
小テスト等	なし			
成果発表	30%毎回の課題の完成度			
受講態度他	10%出席状況、受講態度に関わる姿勢などをふまえ総合的な判定をする 授業中、他人の迷惑になるような行為は厳しく処置します			
受講上の留意点・ルールに関する情報	<p>皆さんの積極的な参加を求める授業です。授業を円滑に進行するため、以下の事を行ってください。</p> <p>①ビジネス関連の書籍、雑誌、新聞を広く読むこと。</p> <p>②教科書、辞書を毎回持参すること。ただし、辞書の代わりに携帯、スマートフォンを使用することを禁止する。</p> <p>③授業の進行の妨げ、他人の迷惑になる行為をしないこと。</p>			
教科書	『商経学部生のための読む中国語』 (大羽りん・趙青 著) (白水社出版)			
指定図書	特になし			
参考図書	随時指示する			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	ビジネスと倫理【講義】		開講時期	前期
担当教員	藤原 隆信		単位	2
授業の目的と概要	「ブラック企業」。現在、多くの若者がこのような企業の犠牲になっています。本科目では、非倫理的な企業としての「ブラック企業」を題材にし、そのような企業（企業経営）が若者だけでなく、雇用のあり方や消費者、さらには日本社会全体にどのような悪影響を及ぼしているのかを学んでいきます。このような学びを通じて、現代社会における「企業の社会的責任」や「倫理的な経営」について考えていくことにします。			
到達目標	①「ブラック企業」の実態を理解し、その具体的な事例を説明できる。 ②「ブラック企業」が若者の雇用・労働環境や社会全体に与える影響について説明できる。 ③「ブラック企業」を自ら識別し、自らの雇用・労働環境に関してよりよい選択ができるようになる。 ④現代社会で求められている「企業の社会的責任」や「倫理的な経営」について説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 現 (3) -②-3 現代社会で活躍するために求められる特定分野の知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	はじめに (1) ——そもそも「倫理」とは何か?	提示された資料を元に事後学習 (復習) に取り組んで下さい。(※予習なし)		
第2回	はじめに (2) ——なぜ倫理が必要なのか?	提示された資料を元に事後学習 (復習) に取り組んで下さい。(※予習なし)		
第3回	ブラック企業の実態 (1) ——ブラック企業が登場する歴史的・社会的背景	テキスト第1章のp.15～p.23を読み、事前学習課題をしてきてください。		
第4回	ブラック企業の実態 (2) ——IT企業Y社の事例	教科書第1章のp.23～p.42を読み、事前学習課題をしてきてください。		
第5回	ブラック企業の実態 (3) ——衣料品販売X社の事例	教科書第1章のp.42～p.63を読み、事前学習課題をしてきてください。		
第6回	ブラック企業の実態 (4) ——若者を死に至らしめるブラック企業	教科書第2章 (p.65～p.76) を読み、事前学習を課題してきてください。		
第7回	ブラック企業の特徴 (1) ——ブラック企業の「偽装された給料」	教科書第3章のp.77～p.92を読み、事前学習課題をしてきてください。		
第8回	ブラック企業の特徴 (2) ——ブラック企業と「偽装された労働時間」	教科書第3章のp.92～p.101を読み、事前学習課題をしてきてください。		
第9回	ブラック企業の特徴 (3) ——ブラック企業の「辞めさせる技術」	教科書第4章 (p.103～p.122) を読み、事前学習課題をしてきてください。		
第10回	ブラック企業から自分を守る ——ブラック企業への「対応方法」	教科書第5章 (p.123～p.146) を読み、事前学習課題をしてきてください。		
第11回	社会問題としてのブラック企業 (1) ——ブラック企業が脅かす「若者の将来」	教科書第6章のp.147～p.164を読み、事前学習課題をしてきてください。		
第12回	社会問題としてのブラック企業 (2) ——ブラック企業が脅かす「社会の安定」	教科書第6章のp.164～p.177を読み、事前学習課題をしてきてください。		
第13回	社会問題としてのブラック企業 (3) ——ブラック企業と「就職活動」	教科書第7章のp.179～p.198を読み、事前学習課題をしてきてください。		
第14回	社会問題としてのブラック企業 (4) ——ブラック企業と「雇用の崩壊」	教科書第7章のp.198～p.217を読み、事前学習課題をしてきてください。		
第15回	ブラック企業から社会を守る ——ブラック企業をなくす社会的な戦略	教科書第8章 (p.219～p.240) を読み、事前学習を課題してきてください。		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 期末レポート (40%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60% (事前学習課題の提出状況30%、オンデマンド授業への取り組みと事後学習課題の提出状況30%)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	第2回～第14回の授業はアクティブ・ラーニング (TBL : Team Based Learning) 形式で運営します。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。			
教科書	今野晴貴『ブラック企業——日本を食いつぶす妖怪』文春新書、2012年。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み (12 : 20～13 : 10) ※事前に予約を取って下さい。	メールアドレス		



授業科目	ビジネス文書作成【演習】		開講時期	後期
担当教員	藤村 やよい		単 位	2
授業の目的と概要	<p>ビジネスにおいて、相手に情報をわかりやすく正確に伝えるために、伝えるべき情報を文書で示すことは重要な仕事です。その際にビジネス文書作成者の作成能力や人柄が問われるので、正確で信用できる文書や「見直し」の重要性について理解し、正確で信頼できるビジネス文書作成や心のこもった文書を作成するための知識や技術を身につけます。</p> <p>ビジネス文書には、社外文書（社交文書を含む）と社内文書があります。特に会社を代表して書く社外文書は、会社の信用にかかわります。そのため基本形式にしたがった正確なビジネス文書の書き方や心のこもった社交文書の書き方を学びます。さらに縦書きの手書きのお礼状、封筒・はがきなどの書き方や文書作成に関連する知識・技術を学びます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本形式にしたがったビジネス文書を作成することができる。</li> <li>2. ビジネス文書特有の慣用句を使った文書作成ができる。</li> <li>3. 信頼のある正確な文書を作成することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	ビジネス文書作成とは	予習 (p5-32) シラバスや教科書の目次等を見て授業概要を把握してください		
第 2回	ビジネス文書の種類、特徴、作成の心構え	予習 (p33-34)、授業で学んだことを理解できるまで復習してください		
第 3回	文書作成の要点、社外文書と社内文書	予習 (p35-37)、授業で学んだことを理解できるまで復習してください		
第 4回	社外文書の基本形式	予習 (p38-41)、授業で学んだことを理解できるまで復習してください		
第 5回	社外文書の書き方	予習 (p42-49)、授業で学んだことを理解できるまで復習してください		
第 6回	社外文書の例、課題提出「社外文書の作成」	予習 (p50-56)、授業で学んだことを理解できるまで復習してください		
第 7回	社交文書の書き方	予習 (p57-66)、授業で学んだことを理解できるまで復習してください		
第 8回	社内文書の基本形式と書き方	予習 (p67-71)、授業で学んだことを理解できるまで復習してください		
第 9回	社内文書の例	予習 (72-84、142-147)、授業で学んだことを理解できるまで復習してください		
第10回	縦書きの書き方と手書きのポイント	予習 (p85-90)、授業で学んだことを理解できるまで復習してください		
第11回	縦書きの社交文書	予習 (140-141)、課題提出「お礼状の作成」		
第12回	封筒・はがき・返信はがきの書き方	予習 (p91-103、109)、授業で学んだことを理解できるまで復習		
第13回	郵便の知識、機密文書の取り扱い、メールのマナー	予習 (p68、104-108)、授業で学んだことを理解できるまで復習してくだ		
第14回	添削後の課題返却および解説「社外文書・お礼状」	返却後の添削内容を理解する		
第15回	文書の整理・保管・活用、文書表現関連知識	予習 (p123-134)、授業で学んだことを理解できるまで復習してください		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%課題、20%学期末レポート			
小テスト等	30%小テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業形態はオンデマンド型で行います。</p> <p>毎回課題や小テストを出します。詳細は教材にて確認してください。</p>			
教科書	石井典子、三村善美『ビジネス文書実務』早稲田教育出版			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します			
オフィスワーカー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	ビジネス文書作成 I 【演習】		開講時期	後期
担当教員	立部 祥子		単 位	1
授業の目的と概要	Microsoft Wordは、ビジネスで活用されているワープロソフトである。本講義では、Microsoft Wordの基本操作を学び、ビジネスの場で必要な文書を効率よく作成できるようになるための知識や技能を習得する。また、Wordを活用し見栄えの良い文書を作るための表や図形の活用、タブやリーダーなど、さまざまな機能も学ぶ。			
到達目標	社会人としてビジネスの場で必要な文書の基本的な構成を学習しWordで効率よく社内文書、社外文書を作成できるようになることを目標とする。さまざまなビジネス文書を見やすいレイアウトで作成するためのWord操作のスキルを身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	オリエンテーション 第2章 Wordの基本操作 (文字入力・効率のよい変換)	復習 (教科書 第2章)		
第 2回	第1章 社内文書・社外文書の違い	復習 (教科書 第1章全体)		
第 3回	第2章 ビジネス文書の構成 (挨拶文・頭語・結語の挿入)	復習 (教科書 第2章)		
第 4回	第2章 文章表現の基本・敬語	復習 (教科書 第2章全体)		
第5回	第6章 基本的なビジネス文書作成 ・ 第1回小テスト	復習 (教科書 第6章全体)		
第 6回	第7章 表のあるビジネス文書作成	復習 (教科書 第7章)		
第 7回	第7章 表のレイアウト・書式変更	復習 (教科書 第7章全体)		
第 8回	第4章 ビジネス図解の基本 ・ 第2回小テスト (第3章・4章)	復習 (教科書 第4章)		
第 9回	第8章 図形のあるビジネス文書作成	復習 (教科書 第8章)		
第10回	第8章 図形の書式設定・編集	復習 (教科書 第8章)		
第11回	第8章 図形のあるビジネス文書作成 ・ 第3回小テスト (第5章・6章)	復習 (教科書 第8章)		
第12回	第5章 ビジネス文書の管理	復習 (教科書 第5章全体)		
第13回	第3章 ビジネスメールの基本 ・ 第4回小テスト	復習 (教科書 第3章)		
第14回	第3章 ビジネスメールの基本 (社内メール・社外メール作成)	復習 (教科書 第3章全体)		
第15回	総まとめ・ 第5回小テスト	復習 (教科書全体)		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80% (全5回分)			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書は必ず購入すること。 また、欠席した場合も講義資料には必ず目を通し、講義資料や教科書を参考に小テストに取り組み、欠席した分をフォローすること。なお、授業の進捗状況は受講生の習得状況に合わせて変更される可能性がある。			
教科書	「日商PC検定試験 文章作成3級」 (FOM出版 3,024円)			
指定図書	なし			
参考図書	「よくわかるMicrosoft Word2016基礎」 (FOM出版 2,160円) 「学生のための思考力・判断力・表現力が身に付く情報リテラシー」 (FOM出版 1,296円)			
オフィスワーカー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	ビジネス文書作成Ⅱ【演習】		開講時期	前期
担当教員	立部 祥子		単位	1
授業の目的と概要	Microsoft Excelは、ビジネスで活用されている表計算ソフトである。本講義では、Microsoft Excelの基本操作を学習した学生を対象とし、Excelを使いこなす応用力や考える力を養うことを目的としている。ビジネスシーンで必要とされる案内状や納品書、売上表などのビジネス文書作成に必要なExcelの機能を身につける。			
到達目標	仕上りをイメージし、勤務表や売上表など、ビジネスで使用される文書を作成できるようになる。Excelのどの機能を使えばイメージ通りに仕上がるかを自分で考えながら操作することができ、さまざまなビジネス文書を効率よく作成できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション ・ 第1章 表作成 (Lesson2)	復習 (教科書 第1章)		
第2回	第1章 基本的な表作成 (送付先リストL6・納品書L15)	復習 (教科書 第1章)		
第3回	第1章 基本的な表作成 (返済プランL17・支店別売上表L20)	復習 (教科書 第1章全体)		
第4回	第2章 数式と関数 (売上一覧L22・送付先リストL23) ・第1回小テスト	復習 (教科書 第1章全体・第2章)		
第5回	第2章 数式と関数 (売上表L24・観測記録L26)	復習 (教科書 第2章)		
第6回	第2章 数式と関数 (売上表L24・成績表L30)	復習 (教科書 第2章)		
第7回	第2章 数式と関数 (支店別売上表L27) ・ 第2回小テスト	復習 (教科書 第2章全体)		
第8回	第2章 数式と関数 (納品書L29)	復習 (教科書 第2章全体)		
第9回	第2章 数式と関数 (納品書L29) ・ 第3章 入力規則 (勤務表・案内状)	復習 (教科書 第2・3章全体)		
第10回	第3章 入力規則 (勤務表・案内状) ・ 第5章 条件付き書式 (アンケート結果) ・ 第3回小テスト	復習 (教科書 第3章全体・第5章)		
第11回	第5章 条件付き書式 (成績表・売上一覧表)	復習 (教科書 第5章全体)		
第12回	第6章 グラフ作成 (売上推移グラフL48・支店別売上グラフL51・L57・上期実績グラフL53)	復習 (教科書 第6章全体)		
第13回	第6章 グラフ作成 (上期売上グラフL52・L54) ・ 第4回小テスト	復習 (教科書 第6章全体)		
第14回	第8章 データベース活用 (売上一覧表)	復習 (教科書 第8章全体)		
第15回	総まとめ 第5回小テスト	復習 (教科書 第1章-8章全体)		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80% (全5回分)			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書は必ず購入すること。 また、欠席した場合も講義資料には必ず目を通し、講義資料や教科書を参考に小テストに取り組み、欠席した分をフォローすること。なお、授業の進捗状況は受講生の習得状況に合わせて変更される可能性がある。			
教科書	「よくわかるMicrosoft Excel 2016演習問題」 (FOM出版 1,080円)			
指定図書	なし			
参考図書	「よくわかるMicrosoft Excel 2016基礎」 (FOM出版 2,160円) ・ 「よくわかるMicrosoft Excel 2016応用」 (FOM出版 2,160円)			
オフィスワーカー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	ビジネスプレゼンテーション【講義】		開講時期	後期
担当教員	大橋 健治		単位	2
授業の目的と概要	日本企業の知恵の結晶として生まれ運用されてきた「稟議」による意思決定システムは、関係者全員の同意のもとに行うという利点を有するが、他面、時間がかかり視野の狭い決定になりがちとの批判もある。また責任が不明確になり、管理者の指導力が発揮しがたいといった欠点を伴う。最近では、当該ビジネス案件の関係者が一堂に会し、プレゼンテーションを用いた意思決定をする組織が増えている。本授業では、ビジネスの場でプレゼンテーションを行う際に、心がけなければならない要素（目的の明確化・出席者ニーズの把握・筋書の明確化・不測の事態への対処・プレゼンスキル）について学習を行いたい。当初この授業はTBL (Team-Based Learning) とロールプレイを組み合わせたアクティブ・ラーニングの手法を用いることで構成していたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防の必要性からオンデマンド方式による遠隔授業を採用する。			
到達目標	1. ビジネスプレゼンテーションで心がけなければならない要素（目的の明確化・出席者ニーズの把握・筋書の明確化・不測の事態への対処・プレゼンスキル）が理解できる。 2. ビジネスプレゼンテーションで心がけなければならない要素（目的の明確化・出席者ニーズの把握・筋書の明確化・不測の事態への対処・プレゼンスキル）が理解できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 関連する科目：ビジネスコミュニケーション、ビジネス実務総論、ビジネス実務演習など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業の概要説明	授業の概要説明に対する感想・質問を提出		
第2回	教科書第1章「ビジネスプレゼンテーション」の理解 I	教科書の読後感想と質問を提出		
第3回	教科書第1章「ビジネスプレゼンテーション」の理解 II	章末演習問題の回答を提出		
第4回	教科書第2章「プレゼンテーションの構成」の理解 I	教科書の読後感想と質問を提出		
第5回	教科書第2章「プレゼンテーションの構成」の理解 II	章末演習問題の回答を提出		
第6回	教科書第3章「話のしかたと資料」の理解 I	教科書の読後感想と質問を提出		
第7回	教科書第3章「話のしかたと資料」の理解 II	章末演習問題の回答を提出		
第8回	教科書第4章「視覚資料の作成」の理解 I	教科書の読後感想と質問を提出		
第9回	教科書第4章「視覚資料の作成」の理解 II	章末演習問題の回答を提出		
第10回	教科書第5章「プレゼンテーションの実施」の理解 I	教科書の読後感想と質問を提出		
第11回	教科書第5章「プレゼンテーションの実施」の理解 II	章末演習問題の回答を提出		
第12回	教科書第6章「プレゼンテーションの実践力をつける」の理解	教科書の読後感想と質問を提出		
第13回	成果発表（プレゼンテーションのスライド）作成について	授業の感想と質問を提出		
第14回	成果発表（プレゼンテーションのスライド）提出	成果発表（プレゼンテーションのスライド）の推敲		
第15回	成果発表（プレゼンテーションのスライド）の講評と公開	授業の感想と質問を提出		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 毎回の授業での課題提出			
小テスト等	なし			
成果発表	20% スライドを用いたプレゼンテーションの評価			
受講態度他	50% 授業への積極的な出席			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように、本授業はオンデマンド方式による遠隔授業を採用する。そのため学習効果が大幅に低減することが予想されるが、筑女ネットのフォーラム等を活用して学生同士の議論や課題に対する提出物の公開等を積極的にやっていくことで補いたい。			
教科書	『ビジネスプレゼンテーション（改訂版）』（森脇 道子監修、武田 秀子編著、2011年、実教出版）			
指定図書	『小室淑恵の超実践プレゼン講座』（小室淑恵著、2008年、日経BPMック）			
参考図書	『30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint 2019 - Windows 10対応』（実教出版企画開発部著、2020年、実教出版）			
オフィスワーク	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	ファッション文化論【講義】		開講時期	後期
担当教員	岡本 文子		単 位	2
授業の目的と概要	西洋服飾史のうち、18世紀から20世紀のファッションを題材にします。その時代の社会背景とファッションは密接に関連しています。ファッションの特徴を調査・分析し、社会の動向や政治・経済との関連を理解することによって、服飾の役割、意義を知ることができます。また、現代の社会生活や服飾の役割の比較を行い、現代社会を生きる私たちにとって衣生活がどのような意味を持つのかについても考えていきます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・17世紀のファッションについて、その特徴を挙げ、社会背景について説明できる。</li> <li>・18世紀のファッションについて、その特徴を挙げ、社会背景について説明できる。</li> <li>・19世紀のファッションについて、その特徴を挙げ、社会背景について説明できる。</li> <li>・20世紀のファッションについて、その特徴を挙げ、社会背景について説明できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-3 現代社会で活躍するために求められる特定分野の知識・技能を身につけている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション (今後の授業の進め方、発表内容の枠組みと構想)	発表内容の枠組みと構想の整理		
第2回	発表準備 (調査・分析)	発表準備 (調査・分析) の整理		
第3回	発表準備 (スライド作成・発表原稿作成)	発表 (スライド作成・発表原稿作成) の補完		
第4回	発表準備 (発表原稿作成・質問紙作成)	発表準備 (発表原稿作成・質問紙作成) の補完		
第5回	発表 「クレオパトラのファッション」 「ギリシア・ローマ時代」	毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第6回	発表 「16世紀ルネッサンス」 「17世紀バロックスタイル」 (オランダスタイル) (フランスモード誕生)	毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第7回	発表 「18世紀ロココスタイル」 「19世紀クラシックスタイル」	毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第8回	発表 「19世紀ロマン主義スタイル」	毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第9回	発表 「19世紀クリノリンスタイル」 「19世紀バスルスタイル」	毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第10回	発表 「女子服近代化I (ブルーマー女史)」 「Sカーブ・シルエット」	毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第11回	発表 「ベル・エポック」 「女子服の近代化II」	毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第12回	発表 「ボーイッシュ・スタイル」 「ギャルソンヌ・スタイル」	毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第13回	発表 「ミリタリー・ルック」 「ニュー・ルック (ライン時代)」	毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第14回	発表 「キュロットスカート登場」 「パンタロン・ルック」	毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第15回	発表 「十二単衣ファッション (平安時代)」 「桃山時代のファッション」 「江戸時代のファッション」	日本服飾史の復習		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	50%			
成果発表	40%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習をして、次回の授業に臨んでください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 12:00~13:00	メールアドレス		

授業科目	ファイナンス【講義】		開講時期	前期
担当教員	守田 弘美		単位	2
授業の目的と概要	<p>金融の自由化・国際化にともない金融商品はより多様化、複雑化しています。そのような中で、それぞれの生活設計や目的に合わせて金融商品を適切に利用選択する知識・判断力を身に付けることはとても大切なことです。また、金融経済の知識は、金融機関を目指す方はもちろん、ビジネスの場では必須の知識でもあります。</p> <p>本講義では、家計管理・ライフプランの重要性を理解し、金融経済の基礎となる重要な事項（金利、為替、リスク・リターン等）や各金融商品の特性について理解することを目的とします。さらに、資産形成において重要となるアセットアロケーション（資産配分）の考え方や、確定拠出年金、NISAなどのより実務的な制度についても理解し金融リテラシー（知識・判断力）の向上を目指します。</p> <p>講義内ではスマートフォンを活用し、マーケット情報などを見ていきます。</p>			
到達目標	<p>①預金、債券、株式、投資信託、外貨建て商品などの基本的な商品性を理解し、説明することができる。</p> <p>②金利の計算等、各種金融に関する計算ができるようになる。</p> <p>③金利の変動要因、景気や為替との関係性を理解し、説明することができる。</p> <p>④金融経済情勢に応じた金融商品の利用選択ができるようになる。</p> <p>⑤NISA、確定拠出年金の概要を理解し説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション：金融とはなにか？	配布資料と冊子を読んで復習すること。		
第2回	預貯金と金利の計算① 単利と複利	冊子の該当箇所の予習。金利計算の復習。		
第3回	預貯金と金利の計算② 預金商品と金利と景気の関係	配布資料や冊子の該当箇所の予習。授業の復習と計算課題（宿題）。		
第4回	為替リスクと外貨建て商品① 為替とは	冊子の該当箇所の予習。外国為替取引の基本的仕組みと計算の復習。		
第5回	為替リスクと外貨建て商品② 外貨建て商品の特性	配布資料や冊子の該当箇所の予習。授業の復習と計算課題（宿題）。		
第6回	債券① 基本的仕組みと債券の種類	冊子の該当箇所の予習。インターネットで指定する課題を調べる。		
第7回	債券② 利回り計算	債券の利回り計算について復習すること。		
第8回	株式① 基本的仕組み	授業の復習と、インターネット等を活用して銘柄を選定する（宿題）。		
第9回	株式② 投資指標の計算と株式投資ゲームのグループワークおよび発表：銘柄選定	株式の投資指標の計算について復習すること。株価チェック。		
第10回	投資信託① 基本的仕組みと種類	インターネットを活用し指定する課題について各自調べる（宿題）。		
第11回	NISAと確定拠出年金① NISA（小額投資非課税制度）の概要と活用の考え方	インターネットで専用サイトを見て理解を深める。株価チェック。		
第12回	NISAと確定拠出年金② 確定拠出年金の概要と現状	インターネットで専用サイトを見て理解を深める。株価チェック。		
第13回	アセットアロケーションとポートフォリオ 分散・継続・長期の投資効果	授業内容を復習すること。株価チェック。		
第14回	まとめと確認テスト	授業内容および各種計算を復習すること。テストの実施。		
第15回	確認テストの解説	全講義の復習。テストの振り返り		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% 計算問題やインターネットで情報を収集する宿題を数回出す。採点した上で返却、授業中に解説する。			
小テスト等	40% 14回目の授業で実施するテストで学習した範囲から総合的に問題を出題するので、60%以上をとること。			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 指定された期間内に筑女ネットにアクセスされたかを確認します。アクセス履歴、および、レポート課題などの内容とともに授業への取り組みや習熟度を総合的に判断します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	14回目授業に実施するテストと宿題による定量評価と、授業の取り組み・レポート課題などの内容による定性評価により成績を評価します。 やむを得ない事情の欠席以外は成績評価に影響します。 授業外学習については、毎回の授業で当日使用するプリントを配布するので、予習は初めに配布する冊子の該当箇所を読む程度で結構です。その分、復習や宿題に十分時間をかけてください。			
教科書	なし。授業内で配布するプリントを使用。			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	フィールド・ワーク【演習】		開講時期	前期
担当教員	森田 真也		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この講義では、文化人類学的・民俗学的な視点から、地域社会の人々の営みや思考、また実際に生起しているような諸問題について、フィールドワークをもとに理解し、研究する手法を学ぶことを目的とする。そして、フィールドワークという行為の持つ認識論的問題点、政治性的問題点についても解説し、文化表象の諸問題にまで考察を進める。また、あわせて人々の生活の現場をとらえる視点や方法を学ぶことで、社会に向き合う創造的思考力、実践力を培う。</p> <p>この講義では、最初にフィールドワークの考え方、成立や発展、インタビュー調査の方法（質的調査方法）、現場での具体的課題等を提示する。そして、フィールドワーク（現地調査）に内在する諸問題について触れる。その後、フィールドワークに関わる研究論文の輪読と発表、実際に何らかの調査をもとにした研究発表を行なってもらい、ディスカッションをしていく。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間社会や文化を捉えるフィールドワークの考え方や技法について理解し、説明することが出来る。</li> <li>・フィールドワークの実践をもとにした課題設定、研究方法について理解し、説明することが出来る。</li> <li>・フィールドワークと文化表象に内在する諸問題について理解を深め、説明することが出来る。</li> <li>・社会に向き合う創造的思考力と実践力を身につけることが出来る。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</p> <p>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</p> <p>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</p> <p>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>他の教員の「フィールド・ワーク」と考え方や方法は異なりますが関係します。「日本文化特論II」と関係します。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回：	フィールドワークの考え方ー本講義のねらいー		授業の目的と内容について理解する	
第 2 回：	フィールドワークの成立と発展		フィールドワークの成立と発展について理解する（資料の通読と復習）	
第 3 回：	フィールドワークの技法		フィールドワークの技術について理解する（資料の通読と復習）	
第 4 回：	フィールドワークへの懐疑		フィールドワークの問題点について考える（資料の通読と復習）	
第 5 回：	フィールドワークをもとにした具体的研究（1）		具体的研究例を通してその方法について考える（資料の通読と復習）	
第 6 回：	フィールドワーク関連の論文の輪読（フィールドワークの性格）①		発表準備 文献（指定論文）の読解・内容整理、資料作成	
第 7 回：	フィールドワーク関連の論文の輪読（フィールドワークの意義）②		発表準備 文献（指定論文）の読解・内容整理、資料作成	
第 8 回：	フィールドワーク関連の論文の輪読（フィールドワークの認識論）③		発表準備 文献（指定論文）の読解・内容整理、資料作成	
第 9 回：	フィールドワーク関連の論文の輪読（フィールドワークの政治性）④		発表準備 文献（指定論文）の読解・内容整理、資料作成	
第10回：	フィールドワークをもとにした具体的研究（2）		具体的研究例を通してその方法について考える（資料の通読と復習）	
第11回：	院生Aの研究発表（1）ー研究発表資料提示（発表に代えて）ー		口頭発表準備 資料作成	
第12回：	院生Bの研究発表（2）ー研究発表資料提示（発表に代えて）ー		口頭発表準備 資料作成	
第13回：	フィールドワークの映像資料を見る		映像資料の感想	
第14回：	フィールドワークの課題		フィールドワークの課題について考える（資料の通読と復習）	
第15回：	講義の総括		授業全体の復習と理解の確認	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	40％ 期末レポート。40％ 論文の輪読レポート。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	20％ 研究姿勢を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>専攻、テーマは問わないが、何らかの形でインタビュー調査、アンケート調査、地域調査、現地調査をもとにした研究を進める意志のある者の履修が望ましい。</p> <p>文献（論文）の輪読、広意のフィールドワークをもとにした（意識した）研究発表（資料の提示）をしてもらう（卒業論文、修士論文のテーマと同じでなくてもかまわない）。</p> <p>受講者の人数によって、輪読論文、講義計画の変更の可能性もある。</p>			
教科書	無し。状況に応じて資料を配布する。			
指定図書	無し。			
参考図書	岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法』有斐閣（2016年） 佐藤郁哉『フィールドワーク：増訂版』新曜社（2006年）			
オフィスワー	メールで適時質問を受け付けます。	メールアドレス		

授業科目	フィールド・ワーク【演習】		開講時期	後期
担当教員	山崎 安則		単位	2
授業の目的と概要	<p>平成の福祉改革によって、わが国の社会福祉のあり方も“地域”を重要なフィールドとして再編・再構築が進んでいます。本講義では、地域福祉計画の策定の意義とその展開手法について、フィールド・ワーク（地域踏査）を通して実践的に学んでいきます。</p> <p>授業では、各自の研究テーマに基づく地域を指定し、既存の関連資料や地方自治体が刊行している行政報告書や行政資料等の収集と住民への意識調査等を通して、その町の生活問題や福祉問題などを収集・整理・分析を行い、最終的に報告及びレポートを作成します。</p>			
到達目標	<p>①フィールド・ワーク（地域踏査）の概念を理解し説明できる。  ②地域踏査の技法を用いて情報の収集を行い課題の抽出・整理・分析ができる。  ③報告レポートにまとめて発表することができる。</p>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。  (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。  (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。  (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	フィールド・ワーク「概念と手法」	研究テーマの設定（各自の研究目的の明確化）	指定図書P115～P116	
第2回	フィールド・ワーク「対象と課題設定」	研究テーマの対象（各自の研究対象の具体化）	指定図書P117～P121	
第3回	フィールド・ワーク「グループディスカッション」	研究テーマの共有化（各自の研究テーマの明確化）	指定図書P122～P132	
第4回	フィールド・ワーク「地域踏査①」		地域診断に必要な量的・質的な視点に立って具体的な調査を行う	
第5回	フィールド・ワーク「地域踏査②」		必要なデータの収集と地域診断を行う	
第6回	フィールド・ワーク「地域踏査③」		収集したデータの分析を行う	
第7回	フィールド・ワーク「中間発表」		現時点での情報の整理・分析をデータにより発表する	
第8回	フィールド・ワーク「地域踏査④」		修正や見直しを通して、再度調査の手法を考える	
第9回	フィールド・ワーク「地域踏査⑤」		アンケート調査や面接による技法を用いて調査をすすめる	
第10回	フィールド・ワーク「地域踏査⑥」		行政等が作成している計画書などの収集	
第11回	フィールド・ワーク「計画書の作成」		KJ法などの手法により情報を整理する（課題を明らかにする）	
第12回	フィールド・ワーク「計画書の作成」		抽出された課題の解決を手法を考える	
第13回	フィールド・ワーク「計画書の発表」		パワーポイントを活用し、地域の課題と解決手法を提案できる	
第14回	報告レポートの作成		発表をレポートにまとめる	
第15回	発表とまとめ		作成したレポートの提出と発表	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 期末レポート			
小テスト等	—			
成果発表	20％ 中間発表・期末発表			
受講態度他	20％ 履修規定・受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自分が暮らしているまちや地域のことに興味を向け、市の広報紙や社協だよりなどの地域の情報誌を収集するなど主体的に取り組んでください。また、各自の地域踏査の状況に応じて随時、助言・支援などのスーパービジョンを行っていきます。			
教科書	市町村が策定した「地域福祉計画書」や「地域福祉活動計画書」を文献として使用する			
指定図書	武川正吾編『地域福祉計画ーガバナンス時代の社会福祉計画ー』有斐閣アルマ			
参考図書	牧里毎治他編著『協働と参加の地域福祉計画』ミネルヴァ書房			
オフィスワー	金曜日を除く昼休み時間（12:20～13:10）	メールアドレス		



授業科目	布教法【本願寺派教師】【講義】		開講時期	通年
担当教員	高石 双樹・北嶋 文雄・波多 唯明		単位	4
授業の目的と概要	<p>布教の意義・方法・心得を学び、原稿を作成し、実際に布教することができるようになる。  “すべてのものの救い”を願う浄土真宗は、その教えを他者と共有しようとする布教伝道と不可分である。本講義では、布教について、まずその意義や方法・心得について学び、次いで実演に向けて布教案を作成して、実演・講評を行う。そして、その繰り返しによって、より良い布教ができるようになることを目指す。</p>			
到達目標	<p>1、布教の意義・作法・心得を理解することができる。  2、布教案を作成することができる。  3、布教することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程です。――  &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回～第4回 布教の意義①：浄土真宗の布教とは	～お釈迦さまの生涯と布教の意義～	お釈迦さまの生涯について予修・自修をしてください。		
第5回・第6回 布教の実演①：布教案作成・実演	「仏教との出遇いを語る」（発表～ディスカッション）	できるだけお寺のご法座、もしくは礼拝アワーに聴聞してください。		
第7回～第10回 布教の心得：布教する者の認識のあり方	～親鸞聖人のみ教えと布教～	親鸞聖人の生涯について予修・自修をしてください。		
第11回・第12回 布教の実演②：布教案作成・実演	「仏教の言葉との出遇いを語る」（発表～ディスカッション）	できるだけお寺のご法座、もしくは礼拝アワーに聴聞してください。		
第13回～第15回 布教の実演③：布教案作成・実演	「浄土真宗という仏教を考える」（発表～ディスカッション）	これまで作成した布教案を、より広げ、深めるふりかえりをしてください。		
第16回～第19回 布教の方法：布教を行うときの作法を学ぶ	～浄土真宗のあゆみと布教～	浄土真宗の歴史について予修・自修をしてください。		
第20回・第21回 布教の実演④：布教案作成・実演	「苦悩する人を意識して語る」（発表～ディスカッション）	できるだけお寺のご法座、もしくは礼拝アワーに聴聞してください。		
第22回～第25回 布教の意義②：自分自身に対して仏教を語る	～現代における布教実践～	私たちの身近な課題に目を向けた布教について予修・自修をしてください		
第26回・第27回 布教の実演⑤：布教案作成・実演	「苦難にあえぐ人を意識して語る」（発表～ディスカッション）	できるだけお寺のご法座、もしくは礼拝アワーに聴聞してください。		
第28回～第30回 布教の実演⑥：布教案作成・実演	「仏教に出遇った喜びを語る」（発表～ディスカッション）	これまで作成した布教案を、より広げ、深めるふりかえりをしてください。		
-	-	-		
-	-	-		
-	-	-		
-	-	-		
-	-	-		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	20％ 布教案を評価。			
小テスト等	なし。			
成果発表	40％ 布教実演を評価。			
受講態度他	40％ 講義に向き合う姿勢を評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>浄土真宗の教えにふれ、それを他者と共有するための学びを通して、人間的に成長していくことを目標にして講義をすすめます。様々な困難も担当教員や他の学生と協力しながら、乗り越えてください。特に布教実演・発表の後のディスカッションを大切にしたいと思います。積極的な質問や発言を心がけてください。  尚、上記の講義とテーマについては、講師の担当日程や進行状況によって、変更が生じます。</p>			
教科書	『浄土真宗聖典 註釈版 第二版』 本願寺出版			
指定図書	なし。			
参考図書	講義時に紹介します。			
オフィスアワー	講義後	メールアドレス		

授業科目	福祉科教育法Ⅰ【教職】【演習】		開講時期	前期
担当教員	高石 伸人		単位	2
授業の目的と概要	<p>高等学校教育における福祉科教育の意義について学び、それらの重要性について考察することにより、その価値を認識できるようになる。このために、まず、高等学校教育の目的を理解し、福祉科教育の内容がそれとどのように関係し、位置づけられているかを理解する。そして、それを踏まえて福祉科教育を担当する教員としての基礎的・実践的能力を身につける。</p> <p>本講義では、福祉科教育を担当する教師をイメージして、これに関する知識と実践に重きを置き、前半では福祉科教育の内容を中心に、後半では個人発表や模擬授業を通じて、教育実践力を習得することができるように展開し、各自を教育力を高める。</p>			
到達目標	<p>本講義を受講することにより、高等学校教育の目的を理解し、福祉科教育の重要性を認識する。また、単なる知識としてだけでなく、これを基礎として実践能力を習得する。さらに、教師としての姿勢、授業の内容、教材研究などの授業に臨む態度を身につけ、福祉科教師として授業を展開することができるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、高等学校教育の目的と福祉科教育	教育基本法の再読		
第2回	福祉科教育の意義及び編成	ミランドラ「人間の尊厳について」を再読		
第3回	高等学校学習指導要領と福祉科教育	学習指導要領の復習		
第4回	福祉科教育の内容	福祉科科目の編成と内容の復習		
第5回	福祉科教育の指導法	指導方法の創意・工夫についての復習		
第6回	教科「社会福祉基礎」の考え方、内容及び具体的展開方法	教科書「社会福祉基礎」の内容の復習(第1編「社会福祉の理念と意義」)		
第7回	学習指導案の作成方法	指導案作成方法の復習・確認		
第8回	学習指導案の作成	学習指導案の作成と発表準備		
第9回	模擬授業(1) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理と発表準備		
第10回	模擬授業(2) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理		
第11回	模擬授業の振り返り、フィールドワークの目的と事前学習	事前学習の課題整理		
第12回	フィールドワークⅠ～福祉問題の現場を歩く～	フィールドワークの反省と発表準備		
第13回	模擬授業(3) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理と発表準備		
第14回	模擬授業(4) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理		
第15回	福祉科教育の実践課題と福祉科教員の役割	全体の授業内容の復習とまとめ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 学習指導案の評価 50% 模擬授業の評価			
受講態度他	30% 質問等による授業への積極的参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻や無断欠席はしないようにお願いします。発表時間の遅刻等は他の受講生に迷惑をかけることになるので注意してください。			
教科書	『社会福祉基礎』実教出版			
指定図書	なし			
参考図書	『高等学校新学習指導要領』学事出版、2018			
オフィスアワー	火曜日の授業前30分	メールアドレス		

授業科目	福祉科教育法Ⅱ【教職】【演習】		開講時期	後期
担当教員	高石 伸人		単 位	2
授業の目的と概要	<p>高等学校福祉科の福祉に関する科目の中から、おもに「コミュニケーション技術」「介護総合演習」の内容を取り上げ、学習指導要領に基づく教育法について学ぶ。福祉科教育法Ⅰの基礎の上に、総合的な指導計画及び授業計画を作成して授業を実施できるよう、福祉科教育の担当者としての専門的な資質を身につける。「総合的探究の時間」における福祉的な内容の取扱い、地域との連携による生涯学習的位置づけの福祉教育なども取り上げる。前期に引き続き学習指導案を作成して模擬授業も行う。</p>			
到達目標	<p>自ら指導計画を作成し、それに基づき高校の授業さながらの模擬授業を展開し、相互に評価することを通じて、指導法や技術を向上させ、高等学校福祉科教員としての実践力を高める。あわせて、社会の多様な問題を考え、アプローチする実践力の習得も目指す。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	高校福祉科の教育目標と教育内容の考え方	教育目標と教育内容の関連(連続性)を確認		
第2回	教科「コミュニケーション技術」の考え方、内容及び具体的展開方法	コミュニケーションの基礎について復習(配布資料)		
第3回	教科「介護総合演習」の考え方、内容及び具体的展開方法	ケアの思想についての復習(配布資料)		
第4回	「コミュニケーション技術」の内容理解	コミュニケーションと援助技術について復習(『社会福祉基礎』第4編)		
第5回	「介護総合演習」の内容理解	介護事例の復習(配布資料)		
第6回	福祉科教育の教材研究(1)～教材研究の考え方	扱った教材内容の復習		
第7回	福祉科教育の教材研究(2)～教材研究の実際	自己推薦教材の選定		
第8回	学習指導案の作成	指導案の作成と発表準備		
第9回	模擬授業(1) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理と発表準備		
第10回	模擬授業(2) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理		
第11回	フィールドワークⅡ～地域連携による福祉教育～	フィールドワークの反省と模擬授業の発表準備		
第12回	模擬授業(3) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理と発表準備		
第13回	模擬授業(4) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理		
第14回	「総合的探究の時間」と福祉教育	総合的探究のねらいと活動内容の復習		
第15回	全体評価 「高校福祉科教員のあるべき姿」について	福祉科教員の役割と職業倫理の復習とまとめ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 学習指導案の評価 50% 模擬授業の評価			
受講態度他	30% 質問等による授業への積極的参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>模擬授業の評価は、学生各自の判断に基づいて記述するものとし、私情を交えたり個人攻撃は厳に慎むこと。また、評価を受けた側は真摯に受け止め、必要に応じて意見を交わし、異存がある場合は指導教員に申し出る。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『コミュニケーション技術』『介護総合演習・介護実習』(新・介護福祉士養成講座)中央法規、2018第3版 『高等学校新学習指導要領』			
オフィスワー	火曜日の授業前30分	メールアドレス		

授業科目	福祉計画論【講義】		開講時期	前期
担当教員	山崎 安則		単位	2
授業の目的と概要	<p>2000（平成12）年の社会福祉法の改正によって地域福祉の推進が掲げられ、平成の市町村合併以降身近なところで地域福祉計画や地域福祉活動計画の策定が進行しています。そこで本講義では、地域福祉計画を取り上げ、その意義や目的さらに策定過程や方法の基礎的知識と技術を学んでいきます。</p> <p>授業では、20人単位のグループを編成し架空の市町村の住民として策定作業に関わっていきます。具体的にはKJ法によるワークショップを通して、その市町村の生活課題や福祉問題などを収集・整理・分析を行い、その解決に向けた計画書を策定し、各グループが発表していきます。最後には、学生個人が住民懇談会への案内状（チラシ・広報紙）を作成し評価しあいます。</p>			
到達目標	<p>①地域福祉計画の意義と目的が説明できる。  ②地域福祉計画を策定することができる。  ③課題の整理や分析を通して説明ができる。  ④図表を使ってチラシや広報紙を作成することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>福（3）-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は社会福祉・児童福祉の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	わが国の社会福祉計画法の概念と遠隔	予習：テキストP104～P109		
第2回	社会福祉計画の種類と地域福祉計画の範囲と性格	予習：テキストP112～P124		
第3回	地域福祉計画の概要「理念と範囲」	予習：テキストP126～P135		
第4回	地域福祉計画の策定①「グループ分けと手順の説明」	課題：地域の課題を調べる		
第5回	地域福祉計画の策定②「ワークショップとKJ法」	課題：地域の課題を整理する		
第6回	地域福祉計画の策定③「生活課題や福祉問題の抽出」	課題：地域の課題を抽出する		
第7回	地域福祉計画の策定④「生活課題や福祉問題の収集と整理」	課題：地域の課題をまとめる		
第8回	地域福祉計画の策定⑤「生活課題や福祉問題を分析」	課題：地域の課題を分析		
第9回	地域福祉計画の策定⑥「中間発表（課題・問題）」	課題：大版用紙に記入（プレゼンテーション）		
第10回	地域福祉計画の策定⑦「生活課題・福祉問題の解決方法の検討」	課題：解決方法（アイデア）を収集		
第11回	地域福祉計画の策定⑧「計画書の作成（レイアウトの検討）」	課題：他市町村の計画書を参照		
第12回	地域福祉計画の策定⑨「計画書の作成（下書き）」	課題：デザインを考える		
第13回	地域福祉計画の策定⑩「計画書の発表（地域住民の参加）」	課題：プレゼンテーションの方法を検討		
第14回	広報紙・チラシによるプレゼンテーション	課題：各自で作成したチラシの評価		
第15回	地域福祉計画とまちづくり	課題：地域公民館で発表		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	70％課題の提出（新聞記事と夏祭りのチラシ）			
成果発表	地域貢献活動（フィールドワーク）なし			
受講態度他	30％履修規定・受講態度・出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義はすべて遠隔授業になります。教材は郵送で届きますので、指定された課題を解いて指定された日時に課題を提出していただきます。わからないことがあれば、下記のメールで問い合わせてください。			
教科書	新・社会福祉士養成講座編『福祉行財政と福祉計画』中央法規 第4版 2020年			
指定図書	島津淳也編著『地域福祉計画の理論と実践』ミネルヴァ書房			
参考図書	牧里毎治編著『共同と参加の地域福祉計画』ミネルヴァ書房			
オフィスワー	金曜日を除く昼休み時間（12:20～13:10）	メールアドレス		

授業科目	福祉社会学【講義】		開講時期	後期
担当教員	園田 浩之		単 位	2
授業の目的と概要	この授業では、福祉社会学の視点と、そこで扱われているいくつかの問題について紹介してゆく。授業の目的は、ときに福祉をめぐる私たちの常識を問い直しながら、私たちの「生きづらさ」をめぐる現実を多面的に理解してもらうこと、そのための視点と考え方を紹介することにある。福祉をめぐるイメージ（または既知と無知）を超えて、柔軟に現実を見つめなおすセンスを養うことに主眼をおく。また、社会福祉が向き合うさまざまな「生きづらさ」をめぐって、それらを生み出す社会的・時代背景にさかのぼってその成り立ちを理解し、いまある社会とそこに生きる私たち自身の抱える問題に気づいてもらうために、社会学的なものの考え方の基礎にも親しんでもらう。			
到達目標	(1) 生きづらさや生きることの不安に関係した福祉のテーマを取り上げながら、自らの生きる現実を多面的に・柔軟に（ときに批判的に）とらえるために必要なリテラシーやクリティカル・シンキングの姿勢や視点を身につける。(2) 自らの生きる現代社会がどのような問題を抱え込んでいるかを多面的に理解し、それをできる限りクリアに・丁寧に言語化することができる。それらの学びを通じて、ものの見方と思考、そして言葉による表現の柔軟性を高める。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	現代社会に生きることの不安 福祉「社会学」への招待	配布資料とノートをもとに初回の内容（と受講上のルールなど）をふりかえる		
第2回	生の脆さ① 「日常生活」の成り立ちから考えてみる	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第3回	生の脆さ② 自由に生きることを支えるものについて	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第4回	障害をめぐって① 生きづらさがつくり出されるとき	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第5回	障害をめぐって② 障害のありか：ふたつの視点	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第6回	障害をめぐって② 障害学の見方	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第7回	障害をめぐって③ 「障害」のある社会（と、福祉にできること）	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第8回	自立と依存をめぐって① 「自立」の意味を問い直す	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第9回	自立と依存をめぐって② 「自立」の意味を書き換える（再定義する） つながりの中の生	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第10回	ふつうに生きることの困難さ 現代の生きづらさをめぐって① さまざまな貧困	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第11回	ふつうに生きることの困難さ 現代の生きづらさをめぐって② 現代の貧困	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第12回	ふつうに生きることの困難さ 貧困を生きづらさをめぐって③ 社会問題としての生きづらさと、社会福祉の役割	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第13回	社会的排除と包摂① さまざまな排除をめぐって	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第14回	社会的排除と包摂② 「自己責任」という見方を問い直してみる	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
第15回	「生きづらさ」「生きやすさ」を社会学することの意義	配布資料（の扱われた箇所）と自身のノートを30分～1時間かけて読み返す		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	85％ 期末にペーパーテストを行う。講義中に示した重要な概念や視点、事柄の説明を正しく理解するとともに、それを適切・説得的な言葉で表現できること。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。ただし、理解の適切さを確かめる意味で、講義内容に関する問いかけを行うことはある（受講態度の項目も参照）			
成果発表	なし。			
受講態度他	15％ 講義への実質的な参加（講義初回に説明するマナーやルールを守ったうえで、講義中のやりとり。コメントカードの提出とその内容なども含む）。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修を希望する人たちは、必ず「初回の講義」から出席して下さい。受講上のルールや留意点の詳細は、教室で説明します。講義のはじめに説明する受講上のルールは厳守して下さい。教室が思考と学びのための快適な場になるよう、皆さんの協力もお願いします。また、成績評価に関わる項目やその割合（％）について変更がある場合には、必ず講義の中で説明しますので、よく聞いておいて下さい。			
教科書	教科書は使用しません。スライド（パワーポイント）と、そのつど配布するプリント（配布資料）で講義を進めます。			
指定図書	なし			
参考図書	講義の進行に応じて、さらに知りたくなった人・より深く考えたくなった人たちに、思考の糧・補助線になりそうなもの（場合によっては、「本」以外のものも）を紹介していけたらと思っています。			
オフィスアワー	質問や連絡等は、講義の前後に教室で直接うかがいます（いつでも、遠慮なくどうぞ）	メールアドレス		

授業科目	福祉心理学【講義】		開講時期	前期
担当教員	重橋 史朗		単位	2
授業の目的と概要	<p>福祉心理学とは、福祉に関する問題を心理学的に研究する科学、あるいは福祉を必要とする人々に対して心理学的な技法を使って介入、支援を行っていく学問である。</p> <p>これまでの福祉的なニーズがある人たち（社会的弱者）を対象とする狭義のものから、福祉（ウェルフェア・ウェルビーイング）の言葉が示すように「しあわせ」の探求、実現への広義の福祉の視点を持って生活・地域社会への心理学的な理解と支援を学ぶことを目的とする</p>			
到達目標	<p>①福祉現場において生じる問題及びその背景を理解することができる</p> <p>②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解して説明することができる</p> <p>③虐待および認知症についての基本的知識について理解して説明することができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	福祉心理学とは 社会福祉の展開と心理支援	第1章の復習 学習チェック表の確認		
第2回	社会生活における福祉と心理支援 生活支援における心理職の役割	第2章の復習 学習チェック表の確認		
第3回	暴力被害者と心理支援 DV・虐待・犯罪被害	第3章の復習 学習チェック表の確認		
第4回	高齢者への心理支援 高齢者の現状と生活課題	第4章の復習 学習チェック表の確認		
第5回	障害・疾病のある人への心理支援 発達支援と家族支援	第5章の復習 学習チェック表の確認		
第6回	生活困窮・貧困者への心理支援 生活困窮・貧困の背景と現状	第1部 第1～6章の復習 学習チェック表の確認		
第7回	福祉的ニーズに対する心理的支援の必要性とあり方 小レポート	福祉的ニーズに対する心理的支援についてのレポート		
第8回	児童虐待への心理支援の実際 児童相談所・児童福祉施設とコミュニティの支援	第7章の復習 学習チェック表の確認		
第9回	子どもと親への心理支援の実際 子育て支援と社会的養護	第8章の復習 学習チェック表の確認		
第10回	認知症高齢者の心理支援の実際 認知症による心理問題と支援	第9章の復習 学習チェック表の確認		
第11回	ひきこもり・自殺予防の心理支援の実際 社会的背景と制度・施策・対策	第10章の復習 学習チェック表の確認		
第12回	精神障害者の心理支援の実際 特性の理解と就労の支援	第11章の復習 学習チェック表の確認		
第13回	家族・職員への心理支援の実際 ストレスマネジメントとメンタルヘルス	第12章の復習 学習チェック表の確認		
第14回	多職種協働と心理職の役割 連携する専門家・期間の役割とチームアプローチ	第2部 第7～13章の復習 学習チェック表の確認 テストの準備		
第15回	まとめとテスト	テスト問題の振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	小レポートあり（20％）			
小テスト等	15回目の授業で行う（50％）			
成果発表	なし			
受講態度他	授業への積極的な参加（30％）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	基本講義形式であるが、随時ディスカッションやグループワークを行うので、積極的に関わること			
教科書	公認心理師の基礎と実践⑩ 『福祉心理学』 野島一彦・繁榊算男監修 中島健一 編 遠見書房			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に随時紹介します			
オフィスアワー	授業終了後の休憩時間まで	メールアドレス		

授業科目	フランス語Ⅰ【演習】	開講時期	前期
担当教員	木下 樹親	単位	1
授業の目的と概要	この授業の目的は、フランス語のつづり字と発音体系の関係を把握し、簡単な会話表現を習得することと、現代フランスの社会や文化についての基礎知識を身につけることです。 そのため、わかりやすく楽しい教科書で発音と文法を学習し、その応用表現を口頭と筆記の両面で反復練習します。またコラムの頁でフランス文化の一端を見たり、学習内容に応じてフランスのポップスを聴いたりします。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語のつづり字を見て、正しい発音ができるようになる。</li> <li>2. 自己紹介に始まる会話表現を覚え、運用することができるようになる。</li> <li>3. フランスの諸文化の基礎的な特徴を述べることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目 : フランス語Ⅱ		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	アルファベ、綴り字の読み方	予習 教科書pp. 7-8	
第2回	綴り字の読み方(半母音、子音字)、辞書について	予習 教科書pp. 9-10	
第3回	カフェでの会話、主語人称代名詞、強勢形人称代名詞	予習 教科書pp. 11-12	
第4回	日常の挨拶表現、トゥールの街	予習 教科書pp. 13-14	
第5回	カフェでの注文、名詞、不定冠詞	予習 教科書pp. 15-16	
第6回	飲み物、スイーツ、フランス人の名前	予習 教科書 pp. 17-18	
第7回	友人に関する会話、動詞etre(英語のbe)、形容詞の性数一致、形容詞の女性形と複数形の作り方	予習 教科書pp. 19-20	
第8回	歴史上の人物、大学とグランゼコール	予習 教科書pp. 21-22	
第9回	日本映画に関する会話、形容詞の位置、C'est+名詞(英語のIt's)	予習 教科書pp. 23-24	
第10回	色の表現、具体的な色について学ぶ	予習 教科書pp. 25-26	
第11回	家族に関する会話、動詞avoir(英語のhave)、疑問形	予習 教科書pp. 27-28	
第12回	否定形、avoirを使った表現、フランス料理	予習 教科書pp. 29-30	
第13回	趣味の話、第一群規則動詞、第二群規則動詞	予習 教科書pp. 31-32	
第14回	定冠詞、「好きだ」という表現、フランスにおける日本	予習 教科書pp. 33-34	
第15回	授業のまとめと復習	理解が行き届いていない事項があれば、質問できるように準備する。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50% 学期末レポートを第15週目(8/4)に実施		
小テスト等	50% 毎回の課題提出		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に必ず予習をしてください。 教科書付属の音声無料ダウンロード用QRコードや動詞活用表を予・復習に利用してください。 授業には積極的に参加し、不明な点や疑問点があれば、遠慮なく質問してください。		
教科書	東海麻衣子、ジャン＝ガブリエル・サントニ著、『シェ・マドレーヌ』、駿河台出版社		
指定図書	なし。		
参考図書	仏和辞典、参考書等は授業中に紹介します。		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	フランス語 I【演習】		開講時期	前期
担当教員	間瀬 玲子		単位	1
授業の目的と概要	<p>わかりやすく楽しい教科書を使いながら、フランス語のコミュニケーション能力を身につける。また教科書の内容に即した映像を見ながら、フランス文化を理解することができるようになることを目的とする。</p> <p>フランス語のコミュニケーション能力を身につけるために最小限の文法と役立つ表現を勉強する。またフランス語学習を通してフランスの文化、社会に関するさまざまな情報に触れる。フランスの映像を見ながら、フランスとフランス語を身近に感じながら学ぶ。登場人物の短い会話を繰り返し言うことにより、フランス語を習得する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最小限のフランス語文法を説明できる。</li> <li>2. 簡単なフランス語表現を話すことができる。</li> <li>3. 読む・書く・話す・聞くという4技能をバランスよく身につける。</li> <li>4. フランス文化の基礎を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>文学部 関連する科目 : フランス語Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	アルファベ、綴り字の読み方		予習 教科書pp. 7-8	
第2回	綴り字の読み方(半母音、子音字)、辞書について		予習 教科書pp. 9-10	
第3回	カフェでの会話、主語人称代名詞、強勢形人称代名詞		予習 教科書pp. 11-12	
第4回	日常の挨拶表現、 トゥールの街		予習 教科書 pp. 13-14	
第5回	カフェでの注文、名詞、不定冠詞		予習 教科書pp. 15-16	
第6回	飲み物、スウィーツ、フランス人の名前		予習 教科書 pp. 17-18	
第7回	友人に関する会話、動詞、形容詞の性数一致、形容詞の女性形と複数形の作り方		予習 教科書pp. 19-20	
第8回	歴史上の人物、大学とグランゼコール		予習 教科書pp. 21-22	
第9回	日本映画に関する会話、形容詞の位置		予習 教科書 pp. 23-24	
第10回	色の表現、具体的な色について学ぶ		予習 教科書pp. 25-26	
第11回	家族に関する会話、動詞、疑問形		予習 教科書 pp. 27-28	
第12回	否定形、熟語、フランス料理		予習 教科書pp. 29-30	
第13回	趣味の話、第一群規則動詞、第二群規則動詞		予習 教科書pp. 31-32	
第14回	定冠詞、「好きだ」という表現、フランスにおける日本		予習 教科書 pp. 33-34	
第15回	授業の総括		筑女ネットの授業資料を復習する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	30% ワークシートと教科書の練習問題			
小テスト等	20% ミニ質問			
成果発表	0% なし			
受講態度他	50% 質問や発表による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>予習箇所を明記している回は、授業前に必ず予習をしてください。</p> <p>筑女ネット(LMS)にアップしている授業資料を積極的に活用してください。</p> <p>教科書には音声無料ダウンロード、動詞活用表、地図がついています。</p>			
教科書	東海 麻衣子『シェ・マドレーヌ』 駿河台出版社			
指定図書	菊池歌子『フランス語発音トレーニング(増補新版)』白水社、清岡智比古『フラ語入門、わかりやすいにもホドがある(改訂新版)』白水社			
参考図書	仏和辞典、参考書等は授業中に紹介します。			
オフィスアワー	月曜日4講時 (遠隔授業中です。メールで質問をしてください)	メールアドレス		



授業科目	フランス語 I【演習】		開講時期	前期
担当教員	中軽米 明子		単位	1
授業の目的と概要	<p>授業の目的としては、フランス語と高校時代まで慣れ親しんできた外国語である英語との間に、どのような共通点がありどのような違いがあるかを認識しつつ、簡単なフランス語表現を習得することである。また、それによって異文化交流に積極的になることである。</p> <p>授業では、教科書を中心に最小限のフランス語文法とフランス語表現を学習する。</p>			
到達目標	<p>①最小限のフランス語文法を説明できる。</p> <p>②15以上のフランス語表現を話すことができる。</p> <p>③15以上のフランス語表現を書くことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	フランス語のアルファベットと簡単な挨拶表現	出された課題を中心に復習すること。		
第2回	つづり字の読み方と簡単な挨拶表現	出された課題を中心に復習すること。		
第3回	つづり字の読み方と日常の挨拶表現	出された課題を中心に復習すること。		
第4回	主語の表現と日常の挨拶表現	出された課題を中心に復習すること。		
第5回	1～20の数字とカフェでの注文の仕方	出された課題を中心に復習すること。		
第6回	名詞と不定冠詞	出された課題を中心に復習すること。		
第7回	彼はどんな人？	出された課題を中心に復習すること。		
第8回	フランス語版be動詞と形容詞	出された課題を中心に復習すること。		
第9回	様々な形容詞	出された課題を中心に復習すること。		
第10回	「これ誰？」	出された課題を中心に復習すること。		
第11回	形容詞の位置と「これは～」などの表現	出された課題を中心に復習すること。		
第12回	疑問文	出された課題を中心に復習すること。		
第13回	フランス語版haveの様々な用法と疑問文、否定文	出された課題を中心に復習すること。		
第14回	規則動詞の活用	出された課題を中心に復習すること。		
第15回	まとめ	出された課題（前期レポートに相当）を提出してください。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% 第15回目に課題を出題します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回課題を提出してください。これをもって授業出席とみなします。			
教科書	東海麻衣子 『シェ・マドレーヌ』 駿河台出版社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	メールにて。	メールアドレス		

授業科目	フランス語Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	間瀬 玲子		単位	1
授業の目的と概要	フランス語Ⅰに続き、わかりやすく、楽しく学ぶことができる教科書を使いながら、フランス語のコミュニケーション能力を身につける。また教科書の内容に即した映像を見ながら、フランス文化を理解することができるようになることを目的とする。フランス語のコミュニケーション能力を身につけるために最小限の文法と役立つ表現を勉強する。またフランス語学習を通してフランスの文化、社会に関するさまざまな情報に触れる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最小限のフランス語文法を説明できる。</li> <li>2. 簡単なフランス語表現を話すことができる。</li> <li>3. 読み・書き・話す・聞くという4技能をバランスよく身につける。</li> <li>4. フランス文化の基礎を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目 : フランス語Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	映画館に行く、指示形容詞、縮約	予習 教科書pp. 35-36		
第2回	動詞、時の表現、映画館	予習 教科書pp. 37-38		
第3回	日本人と出会う、縮約、疑問代名詞	予習 教科書pp. 39-40		
第4回	動詞、電話でのやり取り、老舗のケーキ屋さん	予習 教科書pp. 41-42		
第5回	菓子屋での会話、補語人称代名詞	予習 教科書pp. 43-44		
第6回	命令形、菓子の種類	予習 教科書pp. 45-46		
第7回	日本人との会話、所有形容詞、疑問形容詞	予習 教科書pp. 47-48		
第8回	年齢の聞き方・答え方、副詞、数字	予習 教科書pp. 49-50		
第9回	自宅での食事、動詞、部分冠詞	予習 教科書pp. 51-52		
第10回	中性代名詞、動詞、飲み物	予習 教科書pp. 53-54		
第11回	カフェの1日、代名動詞	予習 教科書pp. 55-56		
第12回	時刻の言いかた、1日のスケジュール、曜日	予習 教科書pp. 57-58		
第13回	家族についての会話、複合過去	予習 教科書pp. 59-60		
第14回	過去分詞、複合過去の否定形、お菓子職人の制度	予習 教科書pp. 61-62		
第15回	授業の総括	筑女ネットの授業資料を復習する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	30% ワークシートと教科書の練習問題			
小テスト等	20% ミニ問題			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 質問や発表による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。 筑女ネット(LMS)にアップしている授業資料を積極的に活用してください。 教科書の無料音声ダウンロード、動詞活用表、地図を利用してください。			
教科書	フランス語Ⅰで使用した東海麻衣子『シェ・マドレーヌ』駿河台出版社を授業開始前に準備しておいてください。			
指定図書	浜中初枝『新・フランス語レッスン 初級』スリーエーネットワーク、セシル・モレル『フランス人はこう話す!』早美出版社			
参考図書	トリコロール・パリ『パリでいたい100のこと』自由国民社			
オフィスアワー	火曜日4講時	メールアドレス		

授業科目	フランス語Ⅱ【演習】	開講時期	後期
担当教員	木下 樹親	単位	1
授業の目的と概要	この授業の目的は、「フランス語Ⅰ」の履修を踏まえ、フランス語のつづり字と発音体系の関係を把握し、簡単な会話表現を習得することと、現代フランスの社会や文化についての基礎知識を身につけることです。そのため、わかりやすく楽しい教科書で発音と文法を学習し、その応用表現を口頭と筆記の両面で反復練習します。またコラムの頁でフランス文化の一端を見たり、学習内容に応じてフランスのポップスを聴いたりします。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語のつづり字を見て、正しい発音ができるようになる。</li> <li>2. 自己紹介に始まる会話表現を覚え、運用することができるようになる。</li> <li>3. フランスの諸文化の基礎的な特徴を述べることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目 : フランス語Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	映画館に行く、指示形容詞、縮約	予習 教科書pp.35-36	
第2回	不規則変化する動詞、時の表現、映画館	予習 教科書pp.37-38	
第3回	日本人と出会う、縮約、疑問代名詞	予習 教科書pp.39-40	
第4回	不規則変化する動詞、電話でのやり取り、老舗のケーキ屋さん	予習 教科書pp.41-42	
第5回	菓子店での会話、補語人称代名詞	予習 教科書pp.44-45	
第6回	命令形、菓子の種類	予習 教科書pp.45-46	
第7回	日本人との会話、所有形容詞、疑問形容詞	予習 教科書pp.47-48	
第8回	年齢の聞き方・答え方、副詞、数字	予習 教科書pp.49-50	
第9回	自宅での食事、不規則変化する動詞、部分冠詞	予習 教科書pp.51-52	
第10回	中性代名詞、飲み物	予習 教科書pp.53-54	
第11回	カフェの1日、代名動詞	予習 教科書pp.55-56	
第12回	時刻の言い方、1日のスケジュール、曜日	予習 教科書pp.57-58	
第13回	家族についての会話、複合過去	予習 教科書pp.59-60	
第14回	過去分詞、複合過去の否定形、お菓子職人の制度	予習 教科書pp.61-62	
第15回	授業のまとめと復習	理解が行き届いていない事項があれば、質問できるように準備する。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	55% 定期試験		
レポート	なし		
小テスト等	15% 特に重要な事項の復習(主に聞き取り形式で)		
成果発表	なし		
受講態度他	30% 質問や発表による授業への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。教科書付属の音声無料ダウンロード用QRコードや動詞活用表を予・復習に利用してください。授業には積極的に参加し、不明な点や疑問点があれば、遠慮なく尋ねてください。		
教科書	「フランス語Ⅰ」で使用した東海、サントニ著『ジェ・マドレーヌ』(駿河台出版社)を継続使用します。		
指定図書	なし。		
参考図書	授業中に紹介します。		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	フランス語Ⅱ【演習】	開講時期	後期
担当教員	中軽米 明子	単位	1
授業の目的と概要	<p>授業目的としては、フランス語Ⅰで学んだフランス語表現に加えて、さらに多くの表現を習得する。それによって、フランス人と実際にコミュニケーションをとりたいという欲求を高める。</p> <p>授業ではフランス語Ⅰと同様に、教科書を中心に最小限のフランス語文法とフランス語表現を学習する。</p>		
到達目標	<p>①最小限のフランス語文法を説明できる。</p> <p>②フランス語Ⅰで覚えたフランス語表現に加えて、さらに15以上のフランス語表現を話すことができる。</p> <p>③フランス語Ⅰで覚えたフランス語表現に加えて、さらに15以上のフランス語表現を書くことができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	フランス語Ⅰで習った動詞の復習と外出の表現	出された課題を中心に復習すること。	
第2回	動詞の復習と重要な前置詞	出された課題を中心に復習すること。	
第3回	「来る」・「～をする」などの動詞を使った表現	出された課題を中心に復習すること。	
第4回	重要な前置詞と「何？」という疑問文	出された課題を中心に復習すること。	
第5回	「～知っている」、「～を待っている」などの表現	出された課題を中心に復習すること。	
第6回	命令形	出された課題を中心に復習すること。	
第7回	自己紹介する	出された課題を中心に復習すること。	
第8回	「私の～」などの所有形容詞と年齢などを尋ねる疑問形容詞	出された課題を中心に復習すること。	
第9回	ほしい飲み物を尋ねる	出された課題を中心に復習すること。	
第10回	教えられない名詞	出された課題を中心に復習すること。	
第11回	一日のスケジュールを語る	出された課題を中心に復習すること。	
第12回	時間や曜日を尋ねる	出された課題を中心に復習すること。	
第13回	過去を語る	出された課題を中心に復習すること。	
第14回	過去分詞	出された課題を中心に復習すること。	
第15回	天候や月、様々な動詞とまとめ	出された課題（後期レポートに相当）を提出すること。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	100％（第15回目に課題を出題します。）		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回課題を提出してください。これをもって授業出席とみなします。		
教科書	フランス語Ⅰに引き続き、東海麻衣子 『ジェ・マドレーヌ』 駿河台出版社		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	メールにて。	メールアドレス	

授業科目	フランス語Ⅲ【演習】		開講時期	前期
担当教員	間瀬 玲子		単位	1
授業の目的と概要	フランス語Ⅰ・Ⅱに続き、フランス語の基礎的なコミュニケーション能力を身につける。また教科書の内容に即したDVDを見ながら、フランス文化の基礎的な事柄を理解することができるようになることを目的とする。フランス語の細かい文法事項を網羅的に勉強するのではなく、文法をできる限り簡略化して、より自由に自発的に会話ができるようになることを目標とする。ボルドーにおける現地ロケのDVDを鑑賞しながら、10名に及ぶ出演者の明瞭な発音を聞き取ることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な文法を説明できる。</li> <li>2. フランス語の短い会話を行うことができる。</li> <li>3. 筑女ネットにアップした音声を読み取ることができる。</li> <li>4. フランス語の短い文章を日本語に訳すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目 : フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	人物紹介	予習 教科書pp. 4-5		
第2回	人物紹介、現在形、国、言葉、言語	予習 教科書pp. 6-7		
第3回	カフェでの会話、半過去形	予習 教科書pp. 8-9		
第4回	頻度の表現、人称代名詞強勢形	予習 教科書pp. 10-11		
第5回	カフェのテラスで、専攻について、ジェロンディフ	予習 教科書pp. 12-13		
第6回	複合過去、過去分詞の性数一致	予習 教科書pp. 14-15		
第7回	電車の切符の予約、数字と時間、関係代名詞	予習 教科書pp. 16-17		
第8回	未来のことを言う、関係代名詞、単純未来、中性代名詞	予習 教科書pp. 18-19		
第9回	モンバルナス駅にて、ものの描写	予習 教科書pp. 20-21		
第10回	ものの機能を説明する、受動態	予習 教科書pp. 22-23		
第11回	ボルドーの駅で、街にある建物の場所、方向を表す言い方	予習 教科書pp. 24-25		
第12回	道順を選ぶ、中性代名詞	予習 教科書pp. 26-27		
第13回	人を紹介する、住居	予習 教科書pp. 28-29		
第14回	住居を説明する、補語人称代名詞	予習 教科書pp. 30-31		
第15回	授業の総括	教科書と筑女ネットを見ながら復習を行う		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	0% なし			
小テスト等	50% ミニ問題を出します。			
成果発表	0% なし			
受講態度他	50% 質問や発表による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。 筑女ネット(LMS)にアップしている授業資料は積極的に活用してください。 教科書には特設HPとWeb 音声が準備されています。筑女ネットにリンクをはりました。 教科書にHPについて書いてあります。直截アクセスもできます。			
教科書	フロランス・容子・シュールドル『カフェ・フランセ2』朝日出版社			
指定図書	中村敦子『15日間フランス文法おさらい帳(改訂版)』白水社、エルザ・ブランツ『フランス人の私が日本のアニメで育ったらこうなった。』DU BOOKS			
参考図書	稲葉由紀子『おいしいフランス おいしいパリ』阪急コミュニケーションズ			
オフィスワー	月曜日4講時 (遠隔授業中です。メールをください)	メールアドレス		

授業科目	フランス語Ⅳ【演習】		開講時期	後期
担当教員	間瀬 玲子		単位	1
授業の目的と概要	フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに続き、フランス語の基礎的なコミュニケーション能力を身につける。また教科書の内容に即したDVDを見ながら、フランス文化の基礎的な事柄を理解することができるようになることを目的とする。フランス語の細かい文法事項を網羅的に勉強するのではなく、文法をできる限り簡略化して、より自由に自発的に会話ができるようになることを目標とする。ボルドーにおける現地ロケのDVDに登場する10名以上の出演者の明瞭な発音を聞きとることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な文法を説明できる。</li> <li>2. フランス語の短い会話を行うことができる。</li> <li>3. 筑女ネットにアップした音声聞きながら音声問題を解くことができる。</li> <li>4. フランス語の長い文章を日本語に訳すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目 : フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	住居の選び方、形容詞の副詞化	予習 教科書pp. 30-31		
第2回	市場での買い物、市場で売っているもの、分量表現	予習 教科書pp. 32-33		
第3回	値段の比較、中性代名詞、指示代名詞	予習 教科書pp. 34-35		
第4回	ボルドー市街、ボルドーの地区	予習 教科書pp. 36-37		
第5回	ボルドーの地図、絵葉書を書く	予習 教科書pp. 38-39		
第6回	医者のところへ、身体、症状と病気	予習 教科書pp. 40-41		
第7回	痛みと病気、実現性の高い未来の仮定	予習 教科書pp. 42-43		
第8回	家に招待される、ホームパーティー、提案	予習 教科書pp. 44-45		
第9回	条件法現在、提案、誘い、願望	予習 教科書pp. 46-47		
第10回	人から聞いたことを伝える、間接話法	予習 教科書pp. 48-49		
第11回	料理のレシピ、直接話法	予習 教科書pp. 50-51		
第12回	出来事の説明をする	予習 教科書pp. 52-53		
第13回	誰かの言ったことを話す、大過去	予習 教科書 pp. 54-55		
第14回	不満を伝える。家の中のこと	予習 教科書 pp. 56-57		
第15回	授業の復習	筑女ネットの授業資料を復習する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	0% なし			
小テスト等	50% ミニ問題を出します			
成果発表	0% なし			
受講態度他	50% 質問や発表等による授業への積極的な参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に教科書の予習をしてください。筑女ネット(LMS)にアップしている授業資料を積極的に活用してください。教科書には特設HPが準備されています。映像を見たり、音声を聞いてください。			
教科書	フランス語Ⅲで使用したフロランス・容子・シュールドル『カフェ・フランセ2』朝日出版社を使います。授業前に準備しておいてください。			
指定図書	杉山理恵子『改訂版 フランス語でつづる私の毎日』三修社、吉田泉『フランス語会話 話しかけ&返事のバリエーションを増やす』ベレ出版			
参考図書	梅本洋一『パリ・フランスを知るための44章』明石書店			
オフィスワー	火曜日4講時	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	宇野 智行		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。</p> <p>本学建学の精神である仏教はいかなる要請によって生まれたのか、仏教の目指すところはどこにあるのか、インドの思想的・社会的背景を学習しながら、釈尊の教えとその現代的意義について考える。また、仏教の倫理観・人間観を学ぶことにより、今一度、「わたし」を見つめ直す機会とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教が何を目的としているかについて説明することができる。</li> <li>2. 釈尊の生涯に起こった主要な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 仏教的な視点から自分の感情や欲求を客観的に分析することができる。</li> <li>4. 仏教の人間観を通じて自分自身の生き方を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  「仏教学Ⅱ」「哲学」「倫理学」などと関連する科目です。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 イントロダクション			プリント復習（宗教のイメージ）	
第2回 宗教とは何か（1）：道徳、哲学との相違			プリント復習（人間の精神作用）	
第3回 宗教とは何か（2）：科学、政治との相違			プリント復習（自己と他者）	
第4回 仏教以前の宗教（1）：バラモン教			プリント復習（願望成就の宗教）	
第5回 仏教以前の宗教・思想（2）：唯物論			プリント復習（快樂追求の思想）	
第6回 仏教以前の宗教・思想（3）：ジャイナ教			プリント復習（禁欲苦行の宗教）	
第7回 釈尊の生涯（1）：古代インドの社会状況			プリント復習（釈尊の生まれた環境）	
第8回 釈尊の生涯（2）：若き釈尊の悩み			プリント復習（シッダールタの若年期）	
第9回 釈尊の生涯（3）：四門出遊			プリント復習（釈尊の苦しみ）	
第10回 釈尊生涯（4）：苦行生活とその放棄			プリント復習（苦樂中道）	
第11回 釈尊の生涯（5）：降魔成道			プリント復習（釈尊の目覚め）	
第12回 釈尊の生涯（6）：初転法輪			プリント復習（縁起の法）・学期末レポート作成「苦しみへの対処法」	
第13回 釈尊の生涯（7）：涅槃			プリント復習（如実知見）・学期末レポート作成「苦しみへの対処法」	
第14回 仏教の基礎			プリント復習（幸せとは）・学期末レポート作成「苦しみへの対処法」	
第15回 まとめ			全講義の復習・学期末レポート作成「苦しみへの対処法」	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	学期末レポート（40%）			
小テスト等	60% 毎回の確認小テストによって評価する。			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	レポートの内容については、授業内で指示する。			
教科書	プリント配布・筑紫女学園大学・短期大学部編『仏教を学ぶために』学術図書出版社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 15：00-16：20		メールアドレス	

授業科目	仏教学Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	小林 久泰		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。</p> <p>釈尊の生涯をたどりながら、日本をはじめ世界中に広まった仏教という教えを説いた釈尊の人物像に迫る。そのうえで、自分の生き方を振り返り、より広い視点から人生を考える時間をもつ。それにより、人間にとって宗教がどのような意味を持つのかについて考察を深める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教が何を目的としているかについて説明することができる。</li> <li>2. 釈尊の生涯に起こった主要な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 仏教的な視点から自分の感情や欲求を客観的に分析することができる。</li> <li>4. 仏教の人間観を通じて自分自身の生き方を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	イントロダクション：宗教を学ぶ意味	復習・課題レポート「道徳と宗教」作成準備		
第2回	宗教が目指すもの	復習・課題レポート「道徳と宗教」作成準備		
第3回	インドの宗教の流れ	復習・課題レポート「道徳と宗教」作成準備		
第4回	仏教成立以前の宗教：バラモン教	復習・課題レポート「道徳と宗教」作成準備		
第5回	仏教成立以前の宗教：沙門たち	復習・課題レポート「道徳と宗教」作成		
第6回	釈尊の生涯（1）：誕生と少年時代	復習・課題レポート「道徳と宗教」作成		
第7回	釈尊の生涯（2）：出家の動機	復習・課題レポート「道徳と宗教」作成		
第8回	釈尊の生涯（3）：苦行生活とその放棄	復習・課題レポート「道徳と宗教」作成		
第9回	釈尊の生涯（4）：降魔成道	復習・課題レポート「道徳と宗教」作成		
第10回	釈尊の生涯（5）：説法の躊躇と梵天勧請	復習・期末レポート「四つの真理」作成準備		
第11回	釈尊の生涯（6）：はじめての説法	復習・期末レポート「四つの真理」作成準備		
第12回	釈尊の生涯（7）：布教活動と様々な人たちとの出会い	復習・期末レポート「四つの真理」作成		
第13回	釈尊の生涯（8）：入滅	復習・期末レポート「四つの真理」作成		
第14回	仏教の基礎	復習・期末レポート「四つの真理」作成		
第15回	まとめ	ノートまとめ・期末レポート「四つの真理」作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題レポート（20％）・期末レポート（20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 毎回の「感想」の記述内容および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	期日内に課題を提出しない場合は減点します。毎回授業終了時に「感想」を書いて提出すること。			
教科書	『仏教を学ぶために』（筑紫女学園大学・短期大学部宗教教育部編、学術図書出版社）・配布プリント			
指定図書	なし			
参考図書	授業中、適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜 3 講時	メールアドレス		



授業科目	仏教学Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	宇治 和貴		単位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。</p> <p>釈尊の生涯を、テキストに添って学ぶ。まず、ビデオや資料を用いて感心がもてるようにしたい。そのうえで、釈尊が説いた仏教の思想内容を学ぶ。最終的には、自分たちにとって、仏教で教えることが如何なる意味を持つかを主体的に考えることができるようになる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教が何を目的としているかについて説明することができる。</li> <li>2. 釈尊の生涯に起こった主要な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 仏教的な視点から自分の感情や欲求を客観的に分析することができる。</li> <li>4. 仏教の人間観を通じて自分自身の生き方を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は仏教福祉活動の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）	「私語をすること」について課題カード提出		
第2回	宗教とは何か	「宗教」について課題カード提出		
第3回	現代社会における仏教に対する誤解	「社会」について課題カード提出		
第4回	仏教の基礎	「仏教」について課題カード提出		
第5回	釈尊以前の仏教	「インド」について課題カード提出		
第6回	釈尊の生涯（誕生）	課題 レポート①「世界宗教について考える」		
第7回	釈尊の生涯（青年時代とその宗教状況）	課題 レポート①「世界宗教について考える」		
第8回	釈尊の生涯（四門出遊と出家）	課題 レポート①「世界宗教について考える」		
第9回	釈尊の生涯（修行）	釈尊の「修行」について課題カード提出		
第10回	釈尊の生涯（成道とその内容）	釈尊の「成道」について課題カード提出		
第11回	釈尊の生涯（初転法輪）	釈尊の「初転法輪」について課題カード提出		
第12回	釈尊の生涯（弟子たちの特色）	「釈尊の弟子」について課題カード提出		
第13回	釈尊の生涯（晩年の釈尊）	課題 レポート②「釈尊の生涯について学ぶ」		
第14回	釈尊の生涯（最後の説法）	レポート②「釈尊の生涯について学ぶ」		
第15回	まとめ —私たちの生活と仏教—	課題 レポート②「釈尊の生涯について学ぶ」		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	中間レポート「仏教がなぜ人間にとって必要かを考える」、期末レポート「釈尊の生涯を通して自らのこれからの人生でなすべきことを考える」60%			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	40%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される礼拝アワーや全学礼拝などに積極的に参加してください。			
教科書	釈尊の道—その生涯と教え—			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	金見 倫吾		単位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。</p> <p>人間にとって宗教がどのような意味を持つのかを学んだ上で、仏教が成立した当時のインドの思想的・社会的背景を知ることを通して、仏教の特徴について考察します。釈尊の生涯を学習することで、自己のあり方をじっくりと見つめ直す時間を持ちましょう。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教が何を目的としているかについて説明することができる。</li> <li>2. 釈尊の生涯に起こった主要な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 仏教的な視点から自分の感情や欲求を客観的に分析することができる。</li> <li>4. 仏教の人間観を通じて自分自身の生き方を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション			復習：授業資料	
第2回 宗教とはなにか			予習：3～17頁	
第3回 諸宗教のなかの仏教			予習：17～26頁	
第4回 仏教成立の背景—古代インドの思想的・社会的状況—			予習：29～32頁	
第5回 釈尊の生涯（1）釈尊の誕生			予習：32～34頁	
第6回 釈尊の生涯（2）青年期の釈尊			予習：34～36頁	
第7回 釈尊の生涯（3）四門出遊と出家			予習：37～39頁	
第8回 釈尊の生涯（4）修行			予習：40～43頁	
第9回 釈尊の生涯（5）成道			予習：43～48頁	
第10回 釈尊の生涯（6）初転法輪			予習：48～52頁	
第11回 釈尊の生涯（7）おもな弟子たち			予習：52～58頁	
第12回 釈尊の生涯（8）晩年の釈尊			予習：58～62頁	
第13回 釈尊の生涯（9）最後の説法			予習：62～64頁	
第14回 さまざまな仏たち			予習：65～67頁	
第15回 まとめ			前期の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	40％ 授業に関するクイズの正解率により評価します。			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 毎講義時に提出する感想・意見の内容および受講態度により評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業で紹介した本や映画等を用いて積極的に自主学習をしてください。 自主レポート（文字数400字以上、随時メールにて受付）の提出により加点します。			
教科書	小山一行『釈尊の道』（山喜房仏書林）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	川尻 洋平		単位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。</p> <p>釈尊の生涯をたどりながら、世界中に広まった釈尊の教えを学ぶ。その上で、自分の生き方を振り返り、より広い視点から人生を考える時間をもつ。それにより、釈尊の教えの現代的な意味について考察を深める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教が何を目的としているかについて説明することができる。</li> <li>2. 釈尊の生涯に起こった主要な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 仏教的な視点から自分の感情や欲求を客観的に分析することができる。</li> <li>4. 仏教の人間観を通じて自分自身の生き方を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション	配布プリント復習		
第2回	宗教とは何か	配布プリント復習（宗教について）		
第3回	世界の中の仏教	配布プリント復習（世界の中の仏教について）		
第4回	仏教成立以前の宗教：バラモン教	配布プリント復習（バラモン教について） ・課題レポート作成		
第5回	仏教成立以前の宗教：沙門たち	配布プリント復習（沙門について） ・課題レポート作成		
第6回	釈尊の生涯（1）：釈尊の誕生	配布プリント復習（釈尊の誕生について） ・課題レポート作成		
第7回	釈尊の生涯（2）：若き日の釈尊の苦悩	配布プリント復習（若き釈尊の苦悩について） ・課題レポート作成		
第8回	釈尊の生涯（3）：出家と苦行生活	配布プリント復習（出家と苦行生活について）		
第9回	釈尊の生涯（4）：釈尊の悟り	配布プリント復習（悟りについて）		
第10回	釈尊の生涯（5）：説法のためらいと梵天勧請	配布プリント復習（説法のためらいについて）		
第11回	釈尊の生涯（6）：はじめての説法	配布プリント復習（はじめての説法について）		
第12回	釈尊の生涯（7）：釈尊の説法	配布プリント復習（釈尊の説法について） ・学期末レポート作成		
第13回	釈尊の生涯（8）：入滅	配布プリント復習（釈尊の遺言について） ・学期末レポート作成		
第14回	釈尊の入滅後：仏舎利争奪と仏塔建立	配布プリント復習（釈尊の死後について） ・学期末レポート作成		
第15回	まとめ：仏教の基礎	全講義の復習・学期末レポート作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%：課題レポート「何のために生きるのか」（20%） ・学期末レポート「釈尊の生涯」（20%）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60% 毎回の「理解度チェック」の回答内容および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	期日内に、「理解度チェック」に回答していない場合、欠席扱いになります。「理解度チェック」に含まれる質問や感想については、次回講義時にフィードバックします。			
教科書	配布プリント・筑紫女学園大学・短期大学部編『仏教を学ぶために』学術図書出版			
指定図書	なし			
参考図書	授業中、適宜指示する。			
オフィスアワー	火曜日 15:00-17:00（オンライン上で対応します）	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。</p> <p>本学建学の精神である仏教はいかなる要請によって生まれたのか、仏教の目指すところはどこにあるのか、インドの思想的・社会的背景を学習しながら、釈尊の教えとその現代的意義について考える。また、仏教の倫理観・人間観を学ぶことにより、今一度、「わたし」を見つめ直す機会にする。講義の中に、体験学習やフィールドワークを取り入れ、座学とは別の方法で学ぶ機会を設ける。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教が何を目的としているかについて説明することができる。</li> <li>2. 釈尊の生涯に起こった主要な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 仏教的な視点から自分の感情や欲求を客観的に分析することができる。</li> <li>4. 仏教の人間観を通じて自分自身の生き方を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は仏教福祉活動・高校教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			仏教を学ぶことの意味について	
第2回 筑紫女学園、その建学の精神・校訓			『聖典』に掲載されている建学の精神・校訓を読んでください	
第3回 建学の精神にもとづく様々な活動（東日本大震災、インド、京都・奈良研修など）			仏教とボランティアや、インド、京都・奈良の関係について調べてください	
第4回 仏教行事の実際（全学礼拝）			仏教行事に参加してみてもの感想を提出してください	
第5回 人間について			現代の私たちが抱える様々な課題について考えてみましょう	
第6回 宗教とは			身近にある宗教について、あなたはどうか考えますか	
第7回 太宰府天満宮フィールドワーク			太宰府天満宮とその宗教性について調べてください	
第8回 フィールドワーク、プレゼンテーション			プレゼンテーションの準備をしてください	
第9回 「仏教の基礎」と「釈尊の生涯」概説			仏教・釈尊について概説している配布プリントを読んでください	
第10回 釈尊以前のインドと釈尊の誕生			バラモン教・カースト制度・「唯我独尊」について調べてください	
第11回 若き釈尊の苦悩			存在そのものが不可避免的に抱える不条理について	
第12回 「四門出遊」			生老病死について	
第13回 出家と苦行			覚りへの道、真実との出会いについて	
第14回 釈尊の覚り			無我ということ	
第15回 まとめ			前期の講義を振り返ってください	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ 毎回の「講義の感想・意見」および全学礼拝・礼拝アワーレポート・学期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 講義に向き合う姿勢により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とする。毎回授業終了時（10分間）に、「講義の感想・意見」を書いて提出すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	水4、金3	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	宇野 智行		単 位	2
授業の目的と概要	仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、縁起的な人間観・世界観を通じて、生きることの意味を考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。 「縁起」「無我」などの釈尊の教えについて講義する。また、「人間としていかに生きるか」「人間は死後どうなるのか」など、現代人が抱える思想的問題に対して仏教が示す指針を考察して、「自分」を見つめ直す時間とする。			
到達目標	1. 釈尊の思想の基本的内容を説明することができる。 2. 「縁起」という視点から自己のあり方を論理的に説明することができる。 3. 仏教が提供する人間観・倫理観を通じて、自己を取り巻く世界を振り返ることができる。 4. 仏教の現代的意味について自分の見解を表明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「仏教学Ⅰ」「哲学」「倫理学」などと関連する科目です。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第1回	はじめに：仏教学Ⅰの復習		プリント復習（釈尊の教え）	
第2回	釈尊の教え（1）：中道		プリント復習（釈尊最初の説法）	
第3回	釈尊の教え（2）：四聖諦（苦が生起する因果関係）		プリント復習（苦諦・集諦）	
第4回	釈尊の教え（3）：四聖諦（苦が滅する因果関係）		プリント復習（滅諦・道諦）	
第5回	釈尊の教え（4）：四聖諦の論理的構造		プリント復習（因果関係・論理）	
第6回	釈尊の教え（5）：八正道①生活をととのえる		プリント復習（正見～正命）	
第7回	釈尊の教え（6）：八正道②心をととのえる		復習（正精進～正定）・課題レポート作成「私が成立する原因と条件」	
第8回	釈尊の教え（7）：縁起説		復習（因縁生起）・課題レポート作成「私が成立する原因と条件」	
第9回	釈尊の教え（8）無我		復習（無我と私）・課題レポート作成「私が成立する原因と条件」	
第10回	仏教から見る輪廻（1）：バラモン教の実体的輪廻観		復習（輪廻と解脱）課題レポート作成「私が成立する原因と条件」	
第11回	仏教から見る輪廻（2）：実体的輪廻観の否定（無記）		プリント復習（輪廻に関する言葉）	
第12回	業報思想①：釈尊が説く「業」		プリント復習（『スッタ・ニパータ』）・学期末レポート作成「今の私」	
第13回	業報思想②：出生差別の解消		プリント復習（釈尊と出生差別）・学期末レポート作成「今の私」	
第14回	ビームラーオ・アンベードカル		プリント復習（アンベードカルと仏教）・学期末レポート作成「今の私」	
第15回	まとめ：仏教の人間観・人生観		全講義の復習・学期末レポート作成「今の私」	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	課題レポート（15％）・学期末レポート（25％）			
小テスト等	45% 毎回の確認小テストによって評価する。			
成果発表	0%			
受講態度他	15% 講義の感想・意見・質問によって評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	レポートの内容については、授業内で指示する。			
教科書	プリント配布・筑紫女学園大学・短期大学部編『仏教を学ぶために』学術図書出版社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 13：10-14：40	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	小林 久泰		単位	2
授業の目的と概要	<p>仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、縁起的な人間観・世界観を通じて、生きることの意味を考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>前期で学んだ釈尊の生涯を確認しつつ、仏教の基本的な教えを学ぶ。また、釈尊の入滅後、仏教団がどのように展開していったのかを概観する。そのうえで、現代社会に生きる私たちにとって仏教がどのような意味を持つかを考えていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 釈尊の思想の基本的内容を説明することができる。</li> <li>2. 「縁起」という視点から自己のあり方を論理的に説明することができる。</li> <li>3. 仏教が提供する人間観・倫理観を通じて、自己を取り巻く世界を振り返ることができる。</li> <li>4. 仏教の現代的意味について自分の見解を表明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	釈尊の生涯の復習	復習・課題レポート「縁起と私」作成準備		
第2回	根源的な勘違い：無常・苦・無我	復習・法話レポート作成・課題レポート「縁起と私」作成準備		
第3回	四つの真理：苦しみの原因とその消滅	復習・法話レポート作成・課題レポート「縁起と私」作成準備		
第4回	八つの正しい道：両極端を離れる	復習・法話レポート作成・課題レポート「縁起と私」作成準備		
第5回	縁起という世界観	復習・法話レポート作成・課題レポート「縁起と私」作成準備		
第6回	心の安らぎ：涅槃寂靜	復習・法話レポート作成・課題レポート「縁起と私」作成準備		
第7回	釈尊入滅後の仏教の展開と大乘仏教運動	復習・法話レポート作成・課題レポート「縁起と私」作成準備		
第8回	慈悲：平等とは何か	復習・法話レポート作成・課題レポート「縁起と私」作成		
第9回	智恵：沈黙は語る	復習・法話レポート作成・期末レポート「智恵と慈悲」作成		
第10回	世俗と勝義	復習・法話レポート作成・期末レポート「智恵と慈悲」作成		
第11回	菩薩とは	復習・法話レポート作成・期末レポート「智恵と慈悲」作成		
第12回	業報思想とその超越	復習・法話レポート作成・期末レポート「智恵と慈悲」作成		
第13回	密教への展開	復習・法話レポート作成・期末レポート「智恵と慈悲」作成		
第14回	仏教の人生観：限りある生命をいかに生きるか	全講義の復習・法話レポート作成・期末レポート「智恵と慈悲」作成		
第15回	まとめ	ノートまとめ・期末レポート「智恵と慈悲」作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	法話レポート(10%)・課題レポート(10%)・期末レポート(20%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60% 毎回の「感想」の記述内容および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	期日内に課題を提出しない場合は減点します。毎回授業終了時に「感想」を書いて提出すること。			
教科書	『仏教を学ぶために』(筑紫女学園大学・短期大学部宗教教育部編、学術図書出版社)・配布プリント			
指定図書	なし			
参考図書	授業中、適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜3講時	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	川尻 洋平		単位	2
授業の目的と概要	<p>仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、縁起的な人間観・世界観を通じて、生きることを考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>積尊の生涯を振り返りながら、世界中に広まった仏教の基本的な教えを学ぶ。また、積尊の入滅後、仏教がどのように広まっていったのかを概観する。その上で、仏教的な人間観や価値観に照らして、自分の生き方や現代社会の在り方について振り返る時間をもつ。それにより、仏教の現代的な意味について考察を深める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積尊の思想の基本的内容を説明することができる。</li> <li>2. 「縁起」という視点から自己のあり方を論理的に説明することができる。</li> <li>3. 仏教が提供する人間観・倫理観を通じて、自己を取り巻く世界を振り返ることができる。</li> <li>4. 仏教の現代的意味について自分の見解を表明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	積尊の生涯：仏教学Ⅰの復習	配布プリント復習（積尊の生涯について）		
第2回	積尊の教え1：縁起	配布プリント復習（縁起について）		
第3回	積尊の教え2：無常	配布プリント復習（無常について）		
第4回	積尊の教え3：無我	配布プリント復習（無我について）		
第5回	積尊の教え4：四諦	配布プリント復習（四諦について）・課題レポート作成		
第6回	積尊の教え5：八正道	配布プリント復習（八正道について）・課題レポート作成		
第7回	大乘仏教への展開	配布プリント復習（大乘仏教への展開について）・課題レポート作成		
第8回	智慧と慈悲	配布プリント復習（智慧と慈悲について）・課題レポート作成		
第9回	浄土信仰	配布プリント復習（浄土信仰について）		
第10回	大乘仏教とヒンドゥー教	配布プリント復習（大乘仏教とヒンドゥー教について）		
第11回	大乘仏教とタントリズム	配布プリント復習（大乘仏教とタントリズムについて）・学期末レポート作成		
第12回	現代に生きる仏教1：インド	配布プリント復習（現代に生きる仏教について）・学期末レポート作成		
第13回	現代に生きる仏教2：その他の地域	配布プリント復習（現代に生きる仏教について）・学期末レポート作成		
第14回	仏教と私：いかに生きるべきか	配布プリント復習（いかに生きるかについて）・学期末レポート作成		
第15回	まとめ	全講義の復習・学期末レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％：課題レポート「縁起について」（20％）・学期末レポート「仏教と私」（20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 毎回の「理解度チェック」の回答内容および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	期日内に、「理解度チェック」に回答していない場合、欠席扱いになります。「理解度チェック」に含まれる質問や感想については、次回講義時にフィードバックします。			
教科書	配布プリント・筑紫女学園大学・短期大学部編『仏教を学ぶために』学術図書出版			
指定図書	なし			
参考図書	授業中、適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜日二講目（オンライン上でも対応します）	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	金見 倫吾		単位	2
授業の目的と概要	<p>仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、縁起的な人間観・世界観を通じて、生きることの意味を考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>前期に学んだ釈尊の生涯を踏まえ、「縁起」「無我」などの釈尊が説いた基本的な教えについて講義します。また、「人間としていかに生きるか」「死についてどう考えるか」「いのちをどうみるか」など、現代人にとって重要な課題について、仏教が示す指針をもとに考察して、「自分」と「社会」を見つめ直しましょう。「目の前の景色」をつくっていく力を育む学びをめざします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 釈尊の思想の基本的内容を説明することができる。</li> <li>2. 「縁起」という視点から自己のあり方を論理的に説明することができる。</li> <li>3. 仏教が提供する人間観・倫理観を通じて、自己を取り巻く世界を振り返ることができる。</li> <li>4. 仏教の現代的意味について自分の見解を表明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	釈尊の生涯のふりかえり		前期の講義内容と夏休みの学び・体験を反省する	
第2回	さとり構造(1) 四諦		予習：71～76頁	
第3回	さとり構造(2) 八正道・十二縁起		予習：71～76頁	
第4回	縁起		予習：76～81頁	
第5回	因果		予習：81～83頁	
第6回	無常・無我・涅槃(三法印)		予習：83～89頁	
第7回	心のふしぎ(仏教の認識論)		予習：89～93頁	
第8回	死後の世界(1) 仏教の靈魂観		予習：94～97頁	
第9回	死後の世界(2) 業・輪廻思想		予習：97～100頁	
第10回	さとりへの道(知恵)		予習：101～107頁	
第11回	さとりの実践(慈悲)		予習：107～114頁	
第12回	初期の仏教教団(サンガ/カースト制社会)・教団の分裂		予習：117～128頁	
第13回	インド映画にみるインド的宗教観と仏教(前半)		予習：122～128頁	
第14回	インド映画にみるインド的宗教観と仏教(後半)		前期内容の復習	
第15回	まとめ		前期・後期内容の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 授業に関するクイズの正解率により評価します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60% 毎講義時に提出する感想・意見の内容および受講態度により評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>私語・携帯電話の使用など、他の受講生の妨げとなる行為は厳禁です。  毎回教科書を持参して出席のこと。  全学礼拝・礼拝アワー、また講義で紹介した講演会等に積極的に参加してください。  自主レポートの提出により加点します。</p>			
教科書	小山一行『釈尊の道』(山喜房仏書林)			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	



授業科目	仏教学Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	宇治 和貴		単位	2
授業の目的と概要	<p>仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、縁起的な人間観・世界観を通じて、生きることを考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>視聴覚教材や釈尊の言葉を身近な問題と関連させながら紹介することで、仏教を基礎として現代社会を見つめる視点を養う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 釈尊の思想の基本的内容を説明することができる。</li> <li>2. 「縁起」という視点から自己のあり方を論理的に説明することができる。</li> <li>3. 仏教が提供する人間観・倫理観を通じて、自己を取り巻く世界を振り返ることができる。</li> <li>4. 仏教の現代的意味について自分の見解を表明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」  (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は仏教福祉活動の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	釈尊の生涯を振り返る	「夏休みに学んだこと」についての課題カード提出		
第2回	さとり構造	「さとり」についての課題カード提出		
第3回	釈尊の悟り（縁起・因果の法則）	「縁起」についての課題カード提出		
第4回	悟りからみた世界（無常・無我・涅槃）	「無常・無我」についての課題カード提出		
第5回	心のふしぎ（仏教の認識論）	「仏教の認識論」についての課題カード提出		
第6回	業と輪廻思想	「業」についての課題カード提出		
第7回	さとりへの道（八正道・中道）	課題 レポート①「釈尊の悟りの内容について」		
第8回	さとりの実践（慈悲と智慧について）	課題 レポート①「釈尊の悟りの内容について」		
第9回	さとりの実践（慈悲と愛について）	課題 レポート①「釈尊の悟りの内容について」		
第10回	初期仏教教団の形成	「初期仏教教団」についての課題カード提出		
第11回	大乘仏教の起こりについて	「大乘仏教」についての課題カード提出		
第12回	愛しさと切なさとは仏の慈悲と一現代社会の問題を慈悲の視点から考える一	「慈悲」についての課題カード提出		
第13回	人間関係で苦しむあなたへ—智慧ある生き方とは何かを考える—	「苦」についての課題カード提出		
第14回	苦の解決方法について—自我にとらわれている自己の発見—	課題 レポート②「現在の仏教教団の課題」		
第15回	自分を見つめる視点の獲得「智慧」	課題 レポート②「現在の仏教教団の課題」		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	中間レポート「縁起するいのちのつながりについて身近な例を用いて説明する」、期末レポート「仏教の立場に立って現代社会の問題を一つ論じる」60%			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	40%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される礼拝アワーや全学礼拝などに積極的に参加してください。			
教科書	釈尊の道—その生涯と教え—			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的と概要	<p>仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、縁起的な人間観・世界観を通じて、生きるものの意味を考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>「縁起」「無我」などの積尊の教えについて講義する。また、「人間としていかに生きるか」「死についてどう考えるか」など、現代人が抱える思想的問題に対して仏教が示す指針を考察して、「自分」を見つめ直す。</p> <p>本学建学の精神である仏教はいかなる要請によって生まれたのか、仏教の目指すところはどこにあるのか、インドの思想的・社会的背景を学習しながら、積尊の教えとその現代的意義について考える。また、仏教の倫理観・人間観を学ぶことにより、今一度、「わたし」を見つめ直す機会にする。講義の中に、体験学習を取り入れ、座学とは別の方法で学ぶ機会を設ける。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積尊の思想の基本的内容を説明することができる。</li> <li>2. 「縁起」という視点から自己のあり方を論理的に説明することができる。</li> <li>3. 仏教が提供する人間観・倫理観を通じて、自己を取り巻く世界を振り返ることができる。</li> <li>4. 仏教の現代的意味について自分の見解を表明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」</p> <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は仏教福祉活動・高校教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	はじめに：仏教学Ⅰの復習		仏教学Ⅰを振り返ってください	
第2回	不可思議なる世界		「不思議」ということ	
第3回	坐を立って、あらゆるものの救いへ		自利利他ということ	
第4回	初転法輪「縁起」		関係の中での存在	
第5回	積尊の教団		サンガ	
第6回	対機説法		対機説法	
第7回	愚・悪		愚・悪	
第8回	仏教行事の実際		仏教行事」に参加した感想を書いてください	
第9回	積尊の死		ブッタ最後の旅	
第10回	積尊滅後の仏教の展開		上座部仏教と大乘仏教	
第11回	あらゆるものの救いという願い		阿弥陀如来	
第10回	仏教、日本へ		日本の仏教受容と親鸞までの日本仏教の展開	
第13回	仏教に出会った人びと①		親鸞	
第14回	仏教に出会った人びと②		宮沢賢治	
第15回	まとめ		後期を振り返ってください	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 毎回の「講義の感想/意見」および全学礼拝・礼拝アワーレポート・学期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 講義に向き合う姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とする。毎回授業終了時(10分間)に、「講義の感想/意見」を書いて提出すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	月曜4 講目	メールアドレス		

授業科目	仏教学特論【講義】		開講時期	前期
担当教員	宇野 智行		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、本研究科の主題である「人間科学」のうち、「人間とは何か」というテーマを思想的に理解するための基幹科目として設置されているものであり、仏教の視点からの人間理解を深めることを目的とする。</p> <p>仏教とは何かということを導入として学び、仏教研究の方法・経典資料について概説、その上で仏教教義の歴史的展開の跡をたどることとする。また、現代社会において仏教の思想がいかなる意味を持ち得るかを考え、自己と向き合うと共に社会人として生きる意義を考える。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仏教の開祖釈尊の生涯と仏教の思想的な特色について、説明することができる。</li> <li>2. 一定のテーマに関する参考文献、資料を探して整理し、レポートにまとめることができる。</li> <li>3. 仏教の人間観について自分の見解を述べることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：科目の意義、目的、授業計画について		予習：教科書 pp. 8-17.	
第2回	仏教の特色		予習：教科書 pp. 18-31.	
第3回	仏教の平等主義		予習：教科書 pp. 32-39.	
第4回	仏教学と経典資料		予習：教科書 pp. 42-53.	
第5回	仏伝文学と仏教史		予習：教科書 pp. 54-64.	
第6回	釈尊の生涯①：誕生から出家まで		予習：教科書 pp. 65-78.	
第7回	釈尊の生涯②：出家から成道まで		予習：教科書 pp. 79-93.	
第8回	釈尊の生涯③：成道から涅槃まで		予習：教科書 pp. 98-106.	
第9回	仏教教義①：中道		予習：教科書 pp. 107-126.	
第10回	仏教教義②：沈黙の意味		予習：教科書 pp. 150-160.	
第11回	仏教教義③：四聖諦		予習：教科書 pp. 161-168.	
第12回	仏教教義④：縁起説		予習：教科書 pp. 184-190.	
第13回	仏教教義⑤：空思想		予習：教科書 pp. 206-215.	
第14回	仏教教義⑥：唯識思想		予習：教科書 pp. 216-234.	
第15回	まとめ：菩薩というあり方		全講義の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	レポート40%			
小テスト等	—			
成果発表	0%			
受講態度他	60% 授業サマリーと感想で評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は、教科書のうち前週に指定した箇所を熟読した上で出席すること。			
教科書	長尾雅人著『仏教の源流』（中公文庫）			
指定図書	なし。			
参考図書	授業中に指示する。			
オフィスアワー	火曜日 14：50-16：20		メールアドレス	

授業科目	仏教とビジネス【講義】		開講時期	後期
担当教員	川尻 洋平		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、仏教などの宗教がビジネスとどのように関わっているのかを理解し、仏教的な視点からビジネスを分析することができるようになることを目的とする。</p> <p>宗教とビジネスは、一見した所、関係がないように思われるが、ビジネスが人の行う営みである以上、その人が信仰する宗教と無縁ではない。この授業では、仏教などの宗教とビジネスのかかわりに注目し、両者がどのように関わっているのか、そして仏教的観点からビジネスをどのように分析することができるのかを考える。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教とビジネスのかかわりを説明することができる。</li> <li>2. 仏教とビジネスのかかわりを説明することができる。</li> <li>3. 仏教的観点からビジネスを分析することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	イントロダクション		仏教学で学んだことを復習する。	
第2回	宗教とビジネス：ユダヤ教		配付資料の復習（宗教とビジネス：ユダヤ教）	
第3回	宗教とビジネス：ジャイナ教		配付資料の復習（宗教とビジネス：ジャイナ教）・中間レポート作成	
第4回	宗教とビジネス：シク教		配付資料の復習（宗教とビジネス：シク教）・中間レポート作成	
第5回	宗教とビジネス：ヒンドゥー教		配付資料の復習（宗教とビジネス：ヒンドゥー教）・中間レポート作成	
第6回	僧院経済：僧院の成り立ち		配付資料の復習（僧院経済：僧院の成り立ち）・中間レポート作成	
第7回	僧院経済：僧侶と仕事		配付資料の復習（僧院経済：僧侶と仕事）・中間レポート作成	
第8回	僧院経済：僧侶と財産		配付資料の復習（僧院経済：僧侶と財産）	
第9回	現代社会と仏教：キャッシュレス社会と仏教		配付資料の復習（現代社会と仏教：キャッシュレス社会と仏教）	
第10回	現代社会と仏教：寺院経営について		配付資料の復習（現代社会と仏教：寺院経営について）・期末レポート作成	
第11回	ビジネスを仏教から考える：社会貢献		配付資料の復習（ビジネスを仏教から考える：社会貢献）・期末レポート作成	
第12回	ビジネスを仏教から考える：企業統治		配付資料の復習（ビジネスを仏教から考える：企業統治）・期末レポート作成	
第13回	ビジネスを仏教から考える：近江商人		配付資料の復習（ビジネスを仏教から考える：近江商人）・期末レポート作成	
第14回	ビジネスを仏教から考える：利他行		配付資料の復習（ビジネスを仏教から考える：利他行）・期末レポート作成	
第15回	まとめ		全講義の復習・期末レポート作成	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%：中間レポート（30%）と期末レポート（30%）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40%：毎回の「理解度チェック」の回答内容および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	期日内に、「理解度チェック」に回答していない場合、欠席扱いになります。「理解度チェック」に含まれる質問や感想については、次回講義時にフィードバックします。			
教科書	資料配付			
指定図書	なし。			
参考図書	授業中、適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜日2限目（10:50-12:20）		メールアドレス	

授業科目	仏教と文学【講義】		開講時期	前期
担当教員	二宮 愛理		単位	2
授業の目的と概要	<p>仏教は、日本への伝来以降、長い年月を経て人々の生活に密着し、その一部となっていきました。文学の中で仏教がどのように取り上げられているか、もしくは空気のようにあって当たり前のように描かれているか。日本古典文学の重要な位置を占める『源氏物語』を題材に、その中に登場する仏教について、これまでに身につけた知識と合わせて理解を深めることを目的としています。</p> <p>*授業中に扱うテーマの順序は、状況を見て入れ替える可能性があります。</p>			
到達目標	<p>1. 『源氏物語』に関わる仏教的な要素（時代背景、作者、個々の場面など）について、概要を理解し、説明できる。</p> <p>2. 古典文学の中の仏教的な要素に気づき、考察することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス			『源氏物語』についての知識をおさらいしておく。	
第2回 仏教行事 法華八講			前回の授業の内容を復習しておく。	
第3回 仏教行事 法華八講			前回の授業の内容を復習しておく。	
第4回 仏教行事 法華八講			前回の授業の内容を復習しておく。	
第5回 仏教行事 五壇法			前回の授業の内容を復習しておく。	
第6回 仏教行事 五壇法			前回の授業の内容を復習しておく。	
第7回 仏教行事 浮舟の出家			前回の授業の内容を復習しておく。	
第8回 仏教思想と信仰 宿世（源氏と藤壺）			前回の授業の内容を復習しておく。	
第9回 仏教思想と信仰 宿世（柏木と女三宮）			前回の授業の内容を復習しておく。	
第10回 仏教思想と信仰 宿世（匂宮と浮舟）			前回の授業の内容を復習しておく。	
第11回 仏教思想と信仰 御霊信仰			前回の授業の内容を復習しておく。	
第12回 仏教思想と信仰 御霊信仰			前回の授業の内容を復習しておく。	
第13回 仏教的表現			前回の授業の内容を復習しておく。	
第14回 仏教的表現			前回の授業の内容を復習しておく。	
第15回 まとめ			前回の授業の内容を復習しておく。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60% 文学作品中の仏教的な要素を発見し、考察する。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	40% コメントカードで有意義な質問、考察を提示する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし			
教科書	授業中に資料を配布します。			
指定図書	授業中に紹介します。			
参考図書	角川書店編『源氏物語』角川ソフィア文庫 2001 日向一雅『源氏物語の世界』岩波新書 2004			
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	仏教美術史【講義】		開講時期	後期
担当教員	小林 知美		単位	2
授業の目的と概要	<p>テーマ：日本の仏教絵画「日本における浄土教美術の展開」</p> <p>日本の仏教絵画の黄金期である平安時代の作品を中心に、映像で鑑賞し、その仏教美術としての意味や作品の思想的背景を学びます。また、フィールドワークにより自分の目で作品を見ることで、教室で得た知識を確かなものにします。日本の仏教絵画の名品を見ながら、その仏の意味や作品の作られた歴史的背景についての知識を深めます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仏教絵画を鑑賞し、特徴を把握して、言葉で描写できる。</li> <li>・ 仏教美術の基本である、ほとけの4分類について、その名称と意味と形の特徴を説明できる。</li> <li>・ 実地見学をとおして身近な仏教美術作品にふれ、その作品についての説明ができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>ア (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション	課題①仏教美術史関連資料収集		
第2回	美術史学の方法論～様式論、図像学～	課題①仏教美術史関連資料分析		
第3回	ほとけの分類 (如来・菩薩・明王・天)	課題①仏教美術史関連資料要約		
第4回	ほとけの分類 (菩薩)	課題①仏教美術史関連資料レポート執筆		
第5回	ほとけの分類 (明王)	課題②見学関連資料収集		
第6回	ほとけの分類 (天)	課題②見学関連資料分析		
第7回	ほとけの分類 (その他)	課題②見学関連資料要約		
第8回	情景描写の仏画 (涅槃図)	課題②見学レポート執筆		
第9回	情景描写の仏画 (浄土図)	課題③自由テーマレポート関連資料収集		
第10回	情景描写の仏画 (地獄図)	課題③自由テーマレポート関連資料分析		
第11回	情景描写の仏画 (来迎図)	課題③自由テーマレポート関連資料要約		
第12回	幾何学描写の仏画 (曼荼羅)	課題③自由テーマレポート執筆		
第13回	その他 (神道絵画・浄土真宗の芸術)	課題③自由テーマレポート完成		
第14回	まとめ	課題②見学・聴講レポート		
第15回	各自見学：見学先は選択 (観世音寺宝蔵、球種歴史資料館、佐賀県立博物館、その他)	課題②見学・聴講レポート		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	90% (①～③各30%)、提出方法：筑女ネットにて提出、文字数：1200～2000字程度、参考文献明記、タイトルは自分で考えて付けること。			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>フィールドワークを、時間外学外授業として実施します。いずれかを選んで各自で見学して下さい。</p> <p>見学費、交通費は各自負担とします。</p>			
教科書	なし			
指定図書	町田甲一『仏像入門』創元社 (1991年初版)、有賀祥隆『仏画の鑑賞基礎知識』至文堂 (1996年)			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	仏教福祉【講義】		開講時期	前期
担当教員	宇治 和貴・盛 智照		単位	2
授業の目的と概要	この講義では、仏教者の社会的活動の歴史を概観し、日本社会における社会的弱者の生活実態の把握に努めるとともに、仏教が本来救済活動をどのようなものとみなすべきであったのかを考えてみたい。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古代から現代に至る各時代において、社会的弱者がどのような状況に置かれ、いかに生きてきたかを述べることができる。</li> <li>2. それぞれの時代のなかで、社会的弱者の救済のために仏教者がどのような社会的活動を行ってきたのかを説明することができる。</li> <li>3. 仏教者の社会的活動が日本社会に果たしてきた役割とその課題について、自分の意見を述べることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション (連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要)		感想カードを提出	
第2回	仏教福祉を学ぶことの意義		感想カードを提出	
第3回	仏教と福祉はどう結びつくのか		感想カードを提出	
第4回	親鸞の思想と福祉の関係性について		感想カードを提出	
第5回	現代社会の抱える課題と仏教Ⅰ		感想カードを提出	
第6回	現代社会の抱える課題と仏教Ⅱ		感想カードを提出	
第7回	平安時代における穢れの意識の展開		感想カードを提出	
第8回	中世被差別民の形成と仏教		感想カードを提出	
第9回	鎌倉仏教と救済事業		感想カードを提出	
第10回	幕藩体制下での仏教救済事業		感想カードを提出	
第11回	明治維新と仏教側の対応		感想カードを提出	
第12回	仏教慈善事業の一環としての仏教保育事業		感想カードを提出	
第13回	戦時厚生事業と仏教		感想カードを提出	
第14回	戦後社会福祉の展開と仏教		感想カードを提出	
第15回	まとめ		感想カードを提出	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50% 講義中に提出のレポートで評価します。			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	50% 受講態度から総合的に判断します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義で配布するプリントや、講義中に使用した用語などで分からないことは辞書で調べる努力をしてください。			
教科書	適宜プリント配布			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスワー	火～木の3講目	メールアドレス		

授業科目	仏教福祉特論【講義】		開講時期	後期
担当教員	池田 和彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>歴史のなかで、宗教家による慈善事業の展開、あるいは社会事業や社会福祉事業への介入事例は少なくなく、とりわけ、社会事業や社会福祉事業が国家の政策として展開される以前の宗教家による取り組みには一定の歴史的意義もあったように思われる。しかしながら、キリスト教にせよ仏教にせよ、バイブルや経典に手足が生えてこれら取り組みを行うわけではない以上、実践主体が自らの依拠する宗教それ自体をいかに理解しているかによって、その実践にぶれが生じることもまた事実である。</p> <p>本講義では、特に我が国における仏教教団、仏教者の在り様（その信の質）と関連づけながら、実際に展開された仏教福祉（ひとまず、仏教的慈善、仏教社会事業もしくは仏教社会福祉事業の総称としてこの概念を使用しておくが、講義の展開の中であらためて厳密に概念規定する）実践を検討することを通して、そこにいかなる意味や課題が見いだせるのかを検証することを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歴史のなかで実際に展開された宗教家による福祉的实践とその質について理解できる。</li> <li>2. 宗教家が福祉的实践を展開することの意義と課題について説明できる。</li> <li>3. そもそも仏教とは何か、社会福祉とは何か、それらの関係性をどう考えるべきかについて自分の考えをもつことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 「仏教福祉」とは何か		「仏教」、「宗教」、「福祉」、「社会福祉」概念の整理		
第2回 キリスト者による福祉的实践 — マザーテレサの福祉的实践		マザーテレサの福祉的实践について考えを整理		
第3回 マザーテレサによる福祉的实践にみられる宗教性		マザーテレサの福祉的实践にみられる宗教性について検討		
第4回 本学における「建学の精神」と障がい学生への支援		本学における「建学の精神」と障がい学生への支援について検討		
第5回 本学における「建学の精神」とダイバーシティへの取り組み		本学における「建学の精神」とダイバーシティへの取り組みについて検討		
第6回 代表的な「仏教福祉」論① — 仏教の立場からの言説		仏教の立場からの「仏教福祉」論の検討		
第7回 代表的な「仏教福祉」論② — 社会福祉の立場からの言説		社会福祉の立場からの「仏教福祉」論の検討		
第8回 現代の福祉的課題に対する仏教の向き合い方① — 課題に向き合う仏教教団、仏教者の主体的契機		仏教教団、仏教者が福祉的課題に向き合う主体的契機について検討		
第9回 現代の福祉的課題に対する仏教の向き合い方② — 貧困問題		貧困問題について検討		
第10回 現代の福祉的課題に対する仏教の向き合い方③ — 地域福祉		地域福祉実践について検討		
第11回 現代の福祉的課題に対する仏教の向き合い方④ — 障害者問題		障害者問題について検討		
第12回 現代の福祉的課題に対する仏教の向き合い方⑤ — 生命の尊厳をめぐる課題		生命の尊厳について検討		
第13回 歴史のなかの「仏教福祉」実践① — 真言宗の場合		真言宗の「仏教福祉」実践について検討		
第14回 歴史のなかの「仏教福祉」実践② — 浄土真宗の場合		浄土真宗の「仏教福祉」実践について検討		
第15回 「仏教福祉」概念再考		レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50%（授業時の質問や意見など）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	大学院の授業なので、教員が一方的に講義を行うのではなく、受講生に発表を課し、講義中にも意見を求めることになる。したがって、受身の姿勢ではなく、主体的な問題意識をもって受講してほしい。			
教科書	講義時に資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスアワー	火-3	メールアドレス		



授業科目	仏教文化特論【講義】		開講時期	後期
担当教員	宇野 智行		単位	2
授業の目的と概要	<p>インドの宗教の中に生まれた「出家」というあり方を考察し、日常を離れた宗教の特質を学ぶ。また、「出家者」や「聖者」をどのように捉えるのかについて、インドから日本への様々な文化（説話・文学・芸能）の伝播と相違について学ぶ。</p> <p>インドのパラモン教・ジャイナ教・仏教という三大宗教における在家と出家というあり方について、様々な文献を読解しつつ、それぞれの宗教的特徴を考察する。また、修行・苦行という出家者の生活とその評価に関して、日本の説話・能・歌舞伎などに与えたインド文化の影響を考察し、文化の相違点を明らかにする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インドの在家と出家の違い、沙門文化の特徴について説明ができる。</li> <li>2. インド文化の日本文化への影響、両者の相違点について説明ができる。</li> <li>3. 具体的な文化の伝播・影響を考慮しつつ、異文化理解についての意見を述べるができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	序論：科目設定の意義・目的について	配布資料の予習（祭式主義）		
第2回	パラモンとは何か	配布資料の予習（出家主義）		
第3回	沙門とは何か	配布資料の予習（『マハーバーラタ』）		
第4回	叙事詩に見る苦行者：リシュヤシュリンガ	配布資料の予習（ジャイナ教）		
第5回	ジャイナ教の苦行者：ヴァルカラチャーリン	配布資料の予習（『ジャータカ』）		
第6回	ジャータカに現れる一角	配布資料の予習（『マハーヴァストゥ』『仏本行集経』）		
第7回	大乘経典に現れる一角	配布資料の予習（リシパタナ伝説）		
第8回	鹿野苑の伝説	配布資料の予習（『大智度論』）		
第9回	漢訳に見る一角	配布資料の予習（久米仙人説話・『今昔物語集』）		
第10回	日本の説話文学に見る一角	配布資料の予習（謡曲「一角仙人」テキスト）		
第11回	能「一角仙人」	配布資料の予習（歌舞伎十八番テキスト） ・期末レポート作成		
第12回	歌舞伎十八番「鳴神」	配布資料の予習（『雲絶間雨夜月』） ・期末レポート作成		
第13回	近世の仏教説話	資料整理とプレゼンテーション準備・期末レポート作成		
第14回	プレゼンテーションとディスカッション	授業全体の資料整理・期末レポート作成		
第15回	まとめ：文化の伝播と相違	授業全体の復習・期末レポート作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 期末レポートにより理解度・論理的思考を評価。			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 比較文化についてのプレゼンテーション			
受講態度他	30% 講義への参加意欲により評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講者には、様々な資料の分析をした上でのプレゼンテーションを課す。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	多岐にわたるため、授業内で紹介する。			
オフィスアワー	火曜日昼休み（12：30-13：00）	メールアドレス		

授業科目	仏教文化論【講義】		開講時期	前期
担当教員	川尻 洋平		単位	2
授業の目的と概要	<p>信仰とは何か、何を信仰し、その信仰はどのような形で表現されるのか。仏教においてもその信仰形態は様々である。そのような様々な信仰について知識を深め、自らの信仰について考えることを目的とする。</p> <p>様々な信仰形態について学ぶことを通じて、古代インドから現代日本に至るまで仏教がどのように歴史的に展開していったのかを理解することができる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らの信仰を相対化するために、様々な宗教や宗派の信仰の特徴を説明することができる。</li> <li>2. 仏教で実践された様々な信仰形態について説明することができる。</li> <li>3. インド仏教と比較しながら、日本仏教の歴史の変遷を説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>日 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション：信仰とは何か	配布プリント復習（信仰について）		
第2回	様々な信仰：キリスト教における信仰	配布プリント復習（キリスト教の信仰について）		
第3回	様々な信仰：イスラームにおける信仰	配布プリント復習（イスラームにおける信仰について）		
第4回	様々な信仰：ヒンドゥー教における信仰	配布プリント復習（ヒンドゥー教における信仰について）・課題レポート作成		
第5回	信仰と救済：猫理論と猿理論	配布プリント復習（信仰と救済について）・課題レポート作成		
第6回	ブッダと信仰	配布プリント復習（ブッダと信仰について）・課題レポート作成		
第7回	三宝、仏法僧	配布プリント復習（三宝について）・課題レポート作成		
第8回	仏舍利崇拝	配布プリント復習（仏舍利崇拝について）		
第9回	仏像崇拝	配布プリント復習（仏像崇拝について）		
第10回	大乘仏教と信仰	配布プリント復習（大乘仏教と信仰について）		
第11回	日本仏教と信仰：奈良仏教	配布プリント復習（奈良仏教について）		
第12回	日本仏教と信仰：天台宗と真言宗	配布プリント復習（天台宗と真言宗について）		
第13回	日本仏教と信仰：浄土信仰	配布プリント復習（浄土信仰について）・学期末レポート作成		
第14回	日本仏教と神道	配布プリント復習（日本仏教と神道について）・学期末レポート作成		
第15回	まとめ	全講義の復習・学期末レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%：課題レポート「諸宗教における信仰について」（20%）・学期末レポート「日本仏教の歴史の変遷について」（40%）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40%：毎回の「理解度チェック」の回答内容および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	期日内に、「理解度チェック」で回答していない場合、欠席扱いになります。「理解度チェック」に含まれる質問や感想については、次回講義時にフィードバックします。			
教科書	配付資料			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	火曜日 15:00-17:00（オンライン上で対応します）	メールアドレス		

授業科目	文化遺産論【講義】		開講時期	後期
担当教員	横山 尊		単位	2
授業の目的と概要	<p>この講義は、文化遺産とは何か、いかなる状況に置かれ、いかなる道筋をたどっていくのかということの基礎的教養と思考の材料を提供するものです。</p> <p>例えば、2011年に山本作兵衛の炭坑画と記録文書が世界記憶遺産に、2015年に九州・山口などの近代化産業遺産が「明治日本の産業革命遺産」の名でユネスコの世界文化遺産に登録されました。一方、東日本大震災や熊本地震で文化財のレスキューの必要性が叫ばれています。これらの過去を伝え、今を遺す営為はどこから来てどこへ向かうのでしょうか、あるいは誰が担いどう社会や政治の影響を受けるのでしょうか。</p> <p>この講義は、博物館、文化財保護、図書館やアーカイブスなどの幅広い観点から歴史と現在を横断しつつ、現在の課題を見通すことを試みます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化遺産、歴史資料、情報資源とその輪郭について全体的な理解を身につけ、説明できる。</li> <li>2. 文化遺産・歴史資料とその保護の歴史を、日本近現代史の全体的な流れの中に位置づけて理解できる。</li> <li>3. 情報資源の来歴を理解し、その今後について自分なりの議論を展開できる。</li> <li>4. 講義の内容を参考文献などを通して深め、試験などの場で論理的に説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス：講義のねらい	講義プリントや参考文献による復習		
第2回	博物館論① ミュージアムから博物館へ	講義プリントや参考文献による復習		
第3回	博物館論② 「帝国」空間の博物館	講義プリントや参考文献による復習		
第4回	博物館論③ 民族学博物館の歴史とミュージアムの美術館化	講義プリントや参考文献による復習		
第5回	文化財保護論① 近現代日本の文化財保護をめぐる制度と政治	講義プリントや参考文献による復習		
第6回	文化財保護論② 聖蹟とツーリズム：宮崎の場合	講義プリントや参考文献による復習		
第7回	文化財保護論③ 文化財返還をめぐる国際政治	講義プリントや参考文献による復習		
第8回	世界遺産論① 「世界遺産」は誰がどのように決めるのか？	講義プリントや参考文献による復習		
第9回	世界遺産論② 「明治日本の産業革命遺産」(2015)が世界遺産になった過程	講義プリントや参考文献による復習		
第10回	世界遺産論③ 「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」(2017)の課題	講義プリントや参考文献による復習		
第11回	情報資源論① 図書館、記録メディアの誕生と近代化	講義プリントや参考文献による復習		
第12回	情報資源論② アーカイブスと公文書管理法	講義プリントや参考文献による復習		
第13回	情報資源論③ デジタルアーカイブとデジタル人文の来歴、現在、課題	講義プリントや参考文献による復習		
第14回	文化遺産の課題① 災害と文化遺産：阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地震	講義プリントや参考文献による復習		
第15回	文化遺産の課題② まとめ	講義プリントや参考文献による復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	80%(論述、持ち込み可)			
レポート	%			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義中に指示します。			
教科書	毎回プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	九州史学会・史学会編『過去を伝える、今を遺す—歴史資料、文化遺産、情報資源は誰のものか』(山川出版社、2015年)など。			
オフィスアワー	講義終了後の休憩時間	メールアドレス		

授業科目	文化観察演習【演習】【閉講】		開講時期	後期
担当教員	森田 真也		単位	2
授業の目的と概要	<p>2020年度は新型コロナウイルスのため、閉講となります。履修出来ません。卒業要件に関わる人は、他の科目を追加履修ください。</p> <p>講義の目的は、フィールドワークを通して、日本の文化や社会について理解を深めることにある。この講義では、文化を観察することの意味を考えながら、実際に現場に足を運び、自分の眼で見る、聞いてみる、感じてみることに重点をおく。実際、現場を歩き、見て、聞いて、記録する。そして、現場をフィールドワークすることの面白さと、それをまとめることの難しさを体験し、創造的思考力を鍛える。</p> <p>この講義では、最初に学内でフィールドワークの考え方の解説を行なう。その後、学外に出て、大学周辺を知ることに主眼を置く。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークの技法や考え方の基礎について理解し、説明することが出来る。</li> <li>・大学周辺のフィールドワークを通して、複数の視点を持ちながら地域社会の在り方について理解し、説明することが出来る。</li> <li>・現場に足を運ぶことで、日本の文化や社会の特質について直接的な理解を深めることが出来る。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>この授業は主に「民俗学Ⅰ」、「民俗学Ⅱ」と関連します。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回：	文化を観察する意味	授業の目的と内容について理解する		
第2回：	文化を観察する方法	フィールドワークの方法と特徴について理解する(資料の通読と復習)		
第3回：	大学周辺を歩く(1)ー太宰府を中心としてー	探訪地についての事前調べ、復習		
第4回：	大学周辺を歩く(2)ー筑紫野を中心としてー	探訪地についての事前調べ、復習		
第5回：	大学周辺を歩く(3)ー九州国立博物館の見学ー	探訪地についての事前調べ、復習		
第6回：	大学周辺を歩く(4)ー宝満宮竈門神社ー	探訪地についての事前調べ、復習		
第7回：	大学周辺を歩く(4)ー宝満宮竈門神社ー	探訪地についての事前調べ、復習		
第8回：	映像資料を見る(1)ー沖縄の祖先祭祀ー	映像資料の読み方について理解する(資料の通読と復習)		
第9回：	映像資料を見る(2)ー華僑・華人の祭礼ー	映像資料の読み方について理解する(資料の通読と復習)		
第10回：	学外見学(1)ー場所未定ー	探訪地についての事前調べ、復習		
第11回：	学外見学(1)ー場所未定ー	探訪地についての事前調べ、復習		
第12回：	学外見学(2)ー場所未定ー	探訪地についての事前調べ、復習		
第13回：	学外見学(2)ー場所未定ー	探訪地についての事前調べ、復習		
第14回：	大学周辺を歩く(5)ー石穴稲荷神社ー	探訪地についての事前調べ、復習		
第15回：	講義の総括・受講生による意見交換	授業全体の復習とレポート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	30% 期末レポート。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	70% 受講態度を重視する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>常に教室で講義をするわけではなく、学外に出ることが多い。設定されている講義時限を、別の時間、土日等の学外での現地見学に振替えることもある。その際、交通費、博物館施設等への入場料等は自己負担となることもある。集団で行動するため、遅刻や欠席の場合、事前に連絡をすること。最初に計画を立てるので、第1回、第2回の講義に必ず出席すること。</p> <p>なお、履修希望者があまりに多い場合、人数制限をすることもある(別途指示)。</p>			
教科書	無し。			
指定図書	無し。			
参考図書	講義中、適時紹介する。			
オフィスアワー	金曜日昼休み(12:30-13:00)	メールアドレス		

授業科目	文化研究論【講義】		開講時期	前期
担当教員	花野 裕康		単位	2
授業の目的と概要	本講義では、現代社会における文化を大きく取り上げて学ぶ。「文化」は「文明」とは一見似ていて、しかし異なる概念である。ここから出発し、日本における様々な文化の摂取や開花（歴史面）、そして現代日本社会における諸文化（領域面）を取り上げ、学ぶ。この時、文化研究を行うための方法論が必須である。社会学の他に、人類学や哲学等隣接領域の知見も借りつつ、幅広く文化を研究する意義と方法と対象を学ぶことを目標とする。			
到達目標	①「文化」概念を「文明」概念と区別しつつ自分の言葉で簡潔に説明することができる ②文化研究に関する諸理論の概略を自分の言葉で説明することができる ③日本文化について、その歴史的系譜を自分の言葉で説明することができる ④現代日本の文化について、その諸領域と領域間の見取り図を自分の言葉で説明することができる ⑤世界規模で見た文化の歴史的系譜とその現状を自分の言葉で説明することができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。具体的には、毎回授業終了直前に周知する次回テーマへの予習（書籍やネット上の情報を各自入手する事）と、その日学んだテーマの整理および、自身の見解の文章化（1000字程度）を行う事。 関連科目は「社会学基礎E（メディア）」「現代社会とポピュラー文化」「文化産業論」「オタク文化論」「ファッション文化論」「マイノリティと表現文化」「音楽文化の社会学」「文化の政治学」「J-POP/ROCK文化論」「ポピュラー文化研究演習」である。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 文明と文化		文明概念と文化概念の異同について自分の言葉でまとめる		
第2回 文化の理論①：情報理論		情報理論について自分の言葉でまとめる		
第3回 文化の理論②：ポスト○○イズムの理論		ポストモダニズム・ポストコロニアリズムについて自分の言葉でまとめる		
第4回 文化の理論③：文化的再生産論		文化的再生産論について自分の言葉でまとめる		
第5回 文化の理論④：カルチュラル・スタディーズ		カルチュラル・スタディーズについて自分の言葉でまとめる		
第6回 文化の理論⑤：フェミニズム		フェミニズムについて自分の言葉でまとめる		
第7回 日本文化の系譜①：明治・大正時代		明治・大正時代の日本文化について自分の言葉でまとめる		
第8回 日本文化の系譜②：昭和時代		昭和時代の日本文化について自分の言葉でまとめる		
第9回 日本文化の系譜③：平成・令和時代		平成・令和時代の日本文化について自分の言葉でまとめる		
第10回 現代日本の文化領域①：マスコルチャー		現代日本のマスコルチャーについて自分の言葉でまとめる		
第11回 現代日本の文化領域②：ハイカルチャー		現代日本のハイカルチャーについて自分の言葉でまとめる		
第12回 現代日本の文化領域③：サブカルチャー		現代日本のサブカルチャーについて自分の言葉でまとめる		
第13回 世界と文化①：文化のグローバリゼーション		文化のグローバリゼーションについて自分の言葉でまとめる		
第14回 世界と文化②：文化の地域固有性		文化の地域固有性について自分の言葉でまとめる		
第15回 世界と文化③：文化相対主義とその困難		文化相対主義について自分の言葉でまとめる		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80%(授業内で複数回行う)			
成果発表	なし			
受講態度他	20%(受講態度が悪い場合はこの%に影響するほか、その回の小テストを受け取らないことがある)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。講義者(花野)とのやり取りに積極的に参加すること。許可された場合以外でのスマホ操作、居眠り、私語等授業中に無関係な他の事をしないこと。見つけ次第その回の小テストは未提出扱いとする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	文化人類学【講義】	開講時期	前期
担当教員	森田 真也	単 位	2
授業の目的と概要	<p>講義の目的は、同時代にある人間の多様性と共通性を認め、そこから自分たちの存在について問い直していくことにある。そのためこの講義では、日本だけでなく、異なる民族、異なる社会、地域の文化的特質を取り上げ考察の対象とする。それは、異文化を知り、理解する試みから、自分たちの文化、さらには現代の社会にある諸問題について考えていくことである。最初に文化人類学の学問的特質や方法、対象、発展の歴史について触れる。そして、人種・民族・国家、女と男という人の分類とアイデンティティの諸問題について考える。その後、毎週、下記のようなスケジュールで、文化的、社会的領域からトピックを設定して、解説していく。</p> <p>文化に「高い」、「低い」はない。私たちと異なる文化的営みは、その社会でなんらかの意味を持っている。それらの比較を通して、他者を理解することの困難さや面白さを知り、また自らを振り返る機会としてほしい。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化を知り、自文化についての理解を深め、説明することが出来る。</li> <li>・人間の文化の多様性と共通性について理解することで、幅広い視野、論理的、創造的思考力を獲得出来る。</li> <li>・自分たちの常識や価値観をとらえなおすことで、健全な人間観を獲得することが出来る</li> <li>・現代世界における社会の諸問題を的確に考察出来るようになる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>この授業は「日本事情」と関連します。</p> <hr/> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回：	「文化」を考える意味	授業の目的と内容について理解する	
第2回：	文化人類学とはどのような学問なのか	文化人類学の学問的特徴について理解する(資料の通読と復習)	
第3回：	文化人類学はどのように生まれ発展してきたのか	文化人類学の学史について理解する(資料の通読と復習)	
第4回：	「文化」とは何だろうか：「文化」というフィルター	見る、聞くという行為の客観性について考える(資料の通読と復習)	
第5回：	人種・国家・民族という枠組みは客観的なものなのか	人種・国家・民族の枠組みの客観性について考える(資料の通読と復習)	
第6回：	女らしさ男らしさの基準は世界で共通なのか	女と男という区分の客観性について考える(資料の通読と復習)	
第7回：	ワールドミュージックとエスニック・アイデンティティ	音楽とアイデンティティの関係について考える(資料の通読と復習)	
第8回：	人はなぜ人生を区切るのか：通過儀礼と人の一生	人の一生と区切りの意味について考える(資料の通読と復習)	
第9回：	呪術的行為は今でも信じられているのか	呪術的行為の社会的意味について考える(資料の通読と復習)	
第10回：	神や死者の言葉を伝えるシャーマンは迷信か	シャーマンの社会的役割について考える(資料の通読と復習)	
第11回：	人は死をどのようにとらえてきたのか	死者を供養することの社会的意味について考える(資料の通読と復習)	
第12回：	タトゥーやピアスに抵抗はありますか：変工される身体	身体と社会の関係について考える(資料の通読と復習)	
第13回：	先住民の現在(1)：社会構成と生活	先住民のおかれた社会的位置付けについて考える(資料の通読と復習)	
第14回：	先住民の現在(2)：権利と問題	先住民の権利と抱える課題について考える(資料の通読と復習)	
第15回：	講義の総括・まとめ	授業全体の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	無し。		
レポート	70% 中間レポートと期末レポート(2020年度)。		
小テスト等	無し。		
成果発表	無し。		
受講態度他	30% 受講態度。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。</p> <p>2020年度は出席コメントを提出ください。</p>		
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。		
指定図書	無し。		
参考図書	山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード』有斐閣(1997年)。講義中、適時紹介する。		
オフィスアワー	メールで適時質問を受け付けます。	メールアドレス	

授業科目	文化政策論【講義】		開講時期	後期
担当教員	須藤 遙子		単位	2
授業の目的と概要	【この授業は、遠隔オンデマンドで開講します】 現代における「文化」とは何かを、政治や経済との結びつきで考える。 村おこしのような小さなものから、オリンピックのような国家規模のものまで、様々な文化政策について学ぶ。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメやPPTを使つての発表・プレゼンテーションができる。</li> <li>オリンピックや万博等を例に、国家政策における「文化」の位置付けを把握する。</li> <li>地方自治体における文化行政について理解を深める。特にゆるキャラを使った観光行政に焦点を当てる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は放送局で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。		自分の住んでいる街の広報誌、ホームページを見てみる。	
第2回	文化政策とは。		分析対象となる「自分の住んでいる街」を調べる。	
第3回	観光政策とゆるキャラ。「自分の街」分析方法説明。		分析対象となる「自分の街」を調べる。	
第4回	「自分の街」発表1。		分析する九州内の市町村を調べる。	
第5回	「自分の街」発表2。		分析する九州内の観光地を調べ、PPT・レジュメを作る。	
第6回	「自分の街」発表3。		復習と引き続きPPT・レジュメ作り。	
第7回	「自分の街」発表4。		復習。	
第8回	「聖地巡礼」と文化行政① 概説と分析方法説明。		分析する「聖地」について調べ、PPT・レジュメを作る。	
第9回	「聖地巡礼」発表1。		分析する「聖地」について調べ、PPT・レジュメを作る。	
第10回	「聖地巡礼」発表2。		分析する「聖地」について調べ、PPT・レジュメを作る。	
第11回	「聖地巡礼」発表3。		オリンピックについて調べる。	
第12回	「聖地巡礼」発表4。		復習。	
第13回	東京オリンピック1940・1964。		1964年の東京オリンピックについて調べる。	
第14回	東京オリンピック2020。		2020年の東京オリンピックについて調べる。	
第15回	大阪万博1970・2025。まとめ。		復習。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	30%			
小テスト等	30%			
成果発表	30%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	フォーラムを利用した個人発表を行います。 受講者の人数を見て、発表の回数を決定します。			
教科書	なし。適宜プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	月曜昼休み。	メールアドレス		

授業科目	文化とグローバリズム【講義】		開講時期	前期
担当教員	一木 順		単 位	2
授業の目的と概要	この講義ではグローバリゼーションの中でのポピュラー文化のありようについて考えていきます。人間が作り出したモノの総称としての文化は、すべての人間がそれぞれの時代や社会の影響から逃れることができないという意味において、本来強い「ローカリティ」を背負っています。21世紀のグローバリゼーションの流れの中では、人もモノも、そして文化も国境を越えて移動し、変容していきます。この講義ではグローバル化した様々な文化物を例として取り上げることで、文化の移動と変容のダイナミズムについて理解してもらいたいと思います。			
到達目標	1. グローバリゼーションとは何かを説明できる 2. グローバリゼーション下における文化の変容プロセスについて説明できる 2. 文化の変容を具体的な例を使って説明できる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：授業のイントロダクション			なし	
第2回：グローバリゼーションとは何か①			「国連」と「EU」について1000字程度で調べる	
第3回：グローバリゼーションとは何か②			「トヨタ」について1000字程度で調べる	
第4回：文化のグローバリゼーションとは何か			James Lullの文献を読む	
第5回：文化の「グローバル化」「ローカル化」			マクドナルドについて調べる	
第6回：グローバル文化の実例①ディズニーランド			アナハイムディズニーランドと東京ディズニーランドについて調べる	
第7回：グローバル文化の実例①ディズニーランド			二つのディズニーランドの相違について自分なりに分析すること	
第8回：グローバル文化の実例①フランダースの犬			原作小説を読んでくること	
第9回：グローバル文化の実例②フランダースの犬			アニメ版「フランダースの犬」を鑑賞すること	
第10回：グローバル文化の実例②フランダースの犬			アメリカ版「フランダースの犬」を鑑賞すること	
第11回：グローバル文化の実例②吉野家			吉野家について調べる	
第12回：グローバル文化の実例③吉野家			「海角87号」を鑑賞すること	
第13回：グローバル文化の実例③吉野家			台湾の吉野家について調べる	
第14回：グローバル文化の実例③吉野家			林初梅の論文を読んでくること	
第15回：まとめ			なし	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% 詳細は授業内で指示する			
レポート	80% 授業内で指示される小レポートと最終レポート			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 受講態度などを勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に関わる授業外課題を必ず行って参加すること			
教科書	プリントを授業内で配布			
指定図書	特になし			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスアワー	月曜日の昼休み	メールアドレス		



授業科目	文化と芸術【講義】	開講時期	前期
担当教員	岡本 文子	単 位	2
授業の目的と概要	<p>イタリアルネッサンスから現代までの芸術作品を鑑賞します。ただ絵画などの作品のタイトルや芸術家の名前を知識として知るだけでなく、画材や作家のエピソード、社会的背景などの周縁の情報も取り入れて、多角的な視点から作品を理解し、「芸術とは感動」であることを体得することを目的としています。</p> <p>この授業はイタリア・ルネッサンスから現代までの代表的な芸術家について、具体的な作品をスクリーンで見ながら、作品や作家の背景やエピソードを知り、クイズ形式でプリントに記入していきます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が好きな芸術家を挙げ、なぜその作品に惹かれるのかを説明できる。</li> <li>・作品のマチエールによる違いを画材や技法から説明できる。</li> <li>・芸術家と作品、社会的背景を関連づけて理解し、説明できる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第 1回	オリエンテーション、芸術とは、画材のいろいろ、鑑賞の観点	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 2回	太宰府の芸術家	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 3回	イタリアルネッサンス (1)	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 4回	イタリアルネッサンス (2)	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 5回	ピエール・オーギュスト・ルノワール	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 6回	フィンセント・ファン・ゴッホ	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 7回	クロード・モネ	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 8回	葛飾北斎	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 9回	アルベール・アンカー	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第10回	パブロ・ピカソ	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第11回	アルフォンス・ミュシャ (1)	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第12回	アルフォンス・ミュシャ (2)	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第13回	エルテ	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第14回	デザイン実習	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第15回	マウリッツ・エッシャー	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	—		
レポート	—		
小テスト等	90% 各回に行う前回の定着確認プリント		
成果発表	10% デザイン実習		
受講態度他	—		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書は使用しません。毎回授業内容確認プリントを配布します。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日 12:00~13:00	メールアドレス	

授業科目	文学【講義】	開講時期	後期
担当教員	松下 博文	単 位	2
授業の目的と概要	①『源氏物語』の現代語訳を読むことを通して、自らの教養と文学的感性を高めることを目指す。 ②『源氏物語』を通して平安時代の物語文学の世界観に触れることを目指す。		
到達目標	①テキストの背景にある歴史的事象を読み取ることができる。 ②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。 ③社会の多様な問題を発見し、解決することができる。 ④人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 「中近世文学概論」「中近世文学講読」と関連する科目です。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第 1回	源氏物語入門	予習 源氏物語について文学事典で調べる	
第 2回	平安時代の物語文学について	予習 平安時代の物語文学について文学事典で調べる	
第 3回	『源氏物語を読む』第1部 「桐壺」から「藤裏葉」(1)	予習 主人公光源氏の誕生と栄光について文学事典等で調べる(その1)	
第 4回	『源氏物語を読む』第1部 「桐壺」から「藤裏葉」(2)	予習 主人公光源氏の誕生と栄光について文学事典等で調べる(その2)	
第 5回	『源氏物語を読む』第1部 「桐壺」から「藤裏葉」(3)	予習 主人公光源氏の誕生と栄光について文学事典等で調べる(その3)	
第 6回	『源氏物語を読む』第1部 「桐壺」から「藤裏葉」(4)	予習 主人公光源氏の誕生と栄光について文学事典等で調べる(その4)	
第 7回	『源氏物語を読む』第2部 「若菜」から「幻」(1)	予習 光源氏の苦悩と老いについて文学事典等で調べる(その1)	
第 8回	『源氏物語を読む』第2部 「若菜」から「幻」(2)	予習 光源氏の苦悩と老いについて文学事典等で調べる(その2)	
第 9回	『源氏物語を読む』第2部 「若菜」から「幻」(3)	予習 光源氏の苦悩と老いについて文学事典等で調べる(その3)	
第10回	『源氏物語を読む』第2部 「若菜」から「幻」(4)	予習 光源氏の苦悩と老いについて文学事典等で調べる(その4)	
第11回	『源氏物語を読む』第2部 「若菜」から「幻」(5)	予習 光源氏の生涯について調べる文学事典等で調べる	
第12回	『源氏物語を読む』第3部 「匂兵部卿」から「夢浮橋」(1)	予習 光源氏の死を辿る(1)	
第13回	『源氏物語を読む』第3部 「匂兵部卿」から「夢浮橋」(2)	予習 光源氏の死を辿る(2)	
第14回	『源氏物語を読む』第3部 「匂兵部卿」から「夢浮橋」(3)	予習 光源氏の死を辿る(3)	
第15回	『源氏物語を読む』第3部 「匂兵部卿」から「夢浮橋」(4)	予習 光源氏の生涯を辿る	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし 0%		
レポート	100% 作品の進み具合によって、その都度レポートを要求する。集めたレポートについては次週にのコメントする。		
小テスト等	なし 0%		
成果発表	なし 0%		
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席(欠席扱い)させます。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物を置かないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。		
教科書	角川書店編『源氏物語 ビギナーズ・クラシック 日本の古典』(角川ソフィア文庫)		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時	メールアドレス	

授業科目	文学と女性【講義】	開講時期	後期
担当教員	出雲 俊江	単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：日本の女性文学についての基礎知識を得る。 女性学の視点を踏まえつつ文学作品に描かれる世界に触れることによって、既存の思考の枠から自由になり、自身の視点で自己の周囲を見直す手がかりをつかむことを目指す。</p> <p>授業の概要：提示したテーマごとに、女性文学史を概観する。（「専門の基礎知識」） 取り上げた文学作品を読み、女性学の提示する視点を踏まえつつ考察する。（「読む・書く」） グループで対話的交流を行う。（「話す・聴く」） この交流は、目的達成や問題解決を目指すための協働ではなく、言葉を生み出せる場作りであり、フェミニズムの方法の体験で</p>		
到達目標	<p>文学作品を、女性学の成果を踏まえつつ自らの視点で読むことができる。 近・現代女性文学の特徴や背景について概要を説明することができる。（「基礎的な専門性」） 女性学の理解を背景として、物事を考察することができる。（「幅広い視野」） 作品を読んで感じたことや自分の考えを、口頭や文章で論理的に説明することが出来る。（「論理的思考力」） 他者の意見を受け入れながら、対話的交流を行うことができる。（「コミュニケーションスキル」）</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日(3)-②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	女性文学史について フェミニズム批評の仕事(1) フェミニズムにおける文学の役割：『フェミニズム文学批評』	読書会(第7回実施) 課題の準備 樋口一葉『たけくらべ』	
第2回	テーマ0「女性の視点からの文学」 テーマ1「物語」? 「物語」とは何か フェミニズム批評の仕事： 「物語」からの脱出	レポート1「私の読書遍歴」(次回交流の準備として)	
第3回	テーマ1「物語」? 私たちの「物語」 【グループ対話交流】「私の読書遍歴」 テーマ2「恋愛・結婚」? 近代文学における「恋愛」	紹介された作品群から選んで読む 小レポート2「私の恋愛・結婚について」	
第4回	テーマ2「恋愛・結婚」? 【対話交流】「私の恋愛・結婚について」 恋愛をとりまく「物語」：ロマンチック・イデオロギー	紹介された作品群から選んで読む	
第5回	テーマ2「恋愛・結婚」? 日本文学における性 「同性愛」文学から 【作品を読む】吉屋信子『花物語』 【対話交流】読後の感想	小レポート3「私の読書の楽しみ方」(次回交流の準備として)	
第6回	テーマ2「恋愛・結婚」? 消費としての読書 【交流】「私の読書の楽しみ方」 「恋愛・結婚」についてのまとめ	読書会のための準備：読書レビューを書く	
第7回	読書会 課題図書 樋口一葉『たけくらべ』についてのディスカッション	紹介の作品を読むなど 【作品を読む】 山田詠美『ぼくは勉強ができない』	
第8回	テーマ3「労働」 私にとっての「仕事」 【講義】 新しい女：『青鞥』創刊号 平塚らいてう	小レポート4「私にとっての仕事」(次回交流の準備として)	
第9回	テーマ3「労働」? 【対話交流】「私にとっての仕事」 文学作品に描かれる女性の労働	読書会(第13回実施)の準備にかかる	
第10回	テーマ3「労働」? 【作品を読む】 林芙美子『放浪記』 【対話交流】読後の感想 労働についてのまとめ	紹介された作品群から選んで読む	
第11回	テーマ「労働」2 働く女性の現在：矢沢美佐紀『女性文学の現在 一貧困・労働・格差一』	読書会の準備 課題図書 村田紗耶香『コンビニ人間』のレビューを書く	
第12回	読書会 村田紗耶香『コンビニ人間』についてのディスカッション	最終レポートにむけて 作品を選んで読む	
第13回	テーマ4「家族」? 近現代文学における家族 新しい家族像の模索【講義】最近作における家族	小レポート5「私にとっての家族」(次回交流の準備として)	
第14回	テーマ4「家族」? 【対話交流】私にとっての家族 【作品を読む】山代巴『荷車の歌』 【対話交流】読後の感想	紹介作品を読む	
第15回	【作品を読む】山代巴『荷車の歌』 【対話交流】読後の感想 まとめに代えて 山代巴について 方法としての話すこと聞くこと	最終レポートへの取り組み	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	行いません		
レポート	小レポート40% 読書会 課題図書レビュー(2回)30% 最終レポート20%		
小テスト等	行いません		
成果発表	行いません		
受講態度他	発言、交流・討議への参加10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>文学作品に触れながら、授業の場が、開かれた自由な交流の機会になることを目指したいと思います。 いろいろな作品を紹介します。それらを読むことで、授業内容の理解がますます深まります。 グループ対話交流を重視しています。積極的に取り組んでください。</p>		
教科書	特にありません		
指定図書	ありません		
参考図書	ありません		
オフィスアワー	前期水4 後期水3	メールアドレス	

授業科目	文学と旅【講義】		開講時期	後期
担当教員	安永 美恵・桐島 薫子・須藤 圭		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、文学と旅を組み合わせ、作品の舞台となった土地や作者ゆかりの地、それらの土地の文化・歴史・関連する行事・史跡などの説明を取り入れながら、3名のオムニバス形式で行います。具体的には、①土左日記、源氏物語、更級日記などの旅を扱う文学を取りあげながら現代の様子も紹介する、②日本の名所を詠じた漢詩などを取り上げながら現代の様子も紹介する、③東海道や淀川の船旅を描いた文学を取り上げながら現代の様子も紹介する、といった内容です。授業を通じて、履修者が文学への理解を深め、多様かつ幅広い視点から魅力を発見し、その魅力について、情報を収集・整理し、分かり易く論理的に発信する方法を考える機会を提供します。			
到達目標	1. 文学と旅がどのように関わってきたかについて、多様かつ幅広い視点から理解することができる。 2. 日本の名所・旧跡の成立や発展における文学の果たした役割について、基礎的な専門知識を踏まえ説明することができる。 3. 日本の歴史や文化への理解を深め、魅力を発信するための方法を考えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日(3)-②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。この授業は、1年次の「古代文学概論」「中・近世文学概論」「中国文学概論」や2年次の「古典文学基礎演習」「古代文学講読ⅠⅡ」「中・近世文学講読ⅠⅡ」「中国文学講読ⅡⅡ」で取り扱う内容をさらに広い視点から考え、「文学」への理解を深めていきます。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	古代文学と旅(1) ガイダンス・「旅」のダイナミズム 担当：須藤	旅を描いた文学に関する復習とレポート準備		
第2回	古代文学と旅(2) 『土左日記』 担当：須藤	哀愁を伴う旅を描いた文学の復習とレポート準備		
第3回	古代文学と旅(3) 『更級日記』 担当：須藤	高揚感に満ちた旅を描いた文学の復習とレポート準備		
第4回	古代文学と旅(4) 『古事記』『今昔物語集』 担当：須藤	異郷への旅を描いた文学の復習とレポート準備		
第5回	古代文学と旅(5) まとめとレポートについて 担当：須藤	古代文学と旅に関する総復習とレポート準備		
第6回	漢詩で旅する日本の名所(1) 名所の定数化(博多八景他)と『日本国事跡考』日本三景 担当：桐島	『日本国事跡考』の復習とレポート準備		
第7回	漢詩で旅する日本の名所(2) 天橋立 担当：桐島	天橋立に関する復習とレポート準備		
第8回	漢詩で旅する日本の名所(3) 松島 担当：桐島	松島に関する復習とレポート準備		
第9回	漢詩で旅する日本の名所(4) 厳島(宮島) 担当：桐島	厳島に関する復習とレポート準備		
第10回	漢詩で旅する日本の名所(5) まとめとレポートについて 担当：桐島	漢詩で旅する日本の名所に関する総復習とレポート準備		
第11回	近世文学と旅(1) 東海道の旅(近世初期) 担当：安永	近世初期の旅に関する資料の復習とレポート準備		
第12回	近世文学と旅(2) 東海道の旅(近世中・後期) 担当：安永	近世中期・後期の旅に関する資料の復習とレポート準備		
第13回	近世文学と旅(3) 淀川の船旅(俳諧など) 担当：安永	淀川の旅に関する韻文作品の復習とレポート準備		
第14回	近世文学と旅(4) 淀川の船旅(小説など) 担当：安永	淀川の旅に関する小説作品の復習とレポート準備		
第15回	近世文学と旅(5) まとめとレポートについて 担当：安永	近世文学と旅の総合的な復習とレポート準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	75%(25%×3)			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	25%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	レポートのテーマや形式については、各担当者が授業時に指示する。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業時に、担当教員から提示する。			
オフィスアワー	須藤：水曜4限、 桐島：火曜昼休み	安永： 金曜5限、	メールアドレス	

授業科目	文芸創作 I 【演習】		開講時期	前期
担当教員	田代 俊一郎		単 位	2
授業の目的と概要	これまで 文芸創作 I ではノンフィクションを書いてきましたが、今回は小説、フィクションの世界を展開します。素材、手法、ジャンルについては自由で、最終的には冊子としてまとめ、残します。日ごろ、「こういう小説を書いてみたい」と思っている方は受講してください。			
到達目標	小説の組み立て方や原稿の書き方をはじめ、それをどう発信していくかを学び、実社会、実生活に役立てる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。 日 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			主題とはなにか	
第2回 ガイダンス			主題とはなにか	
第3回 書き出し部分の発表			名作の書き出しを学ぶ	
第4回 書き出し部分の発表			名作の書き出しを学ぶ	
第5回 小説の前半部の発表			起承転結とはなにか	
第6回 小説の前半部の発表			起承転結とはなにか	
第7回 小説の中間部の発表			ドラマ性とはなにか	
第8回 小説の中間部の発表			ドラマ性とはなにか	
第9回 エンディングに向けて			全体構成の見直し	
第10回 エンディングに向けて			全体構成の見直し	
第11回 完成発表			各作品の批評	
第12回 完成発表			各作品の批評	
第13回 冊子の校正			校正の仕方	
第14回 冊子の校正			校正の仕方	
第15回 全体の総括			執筆から完成までを振り返る	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	100% 冊子への寄稿。			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語、遅刻は厳禁。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	文芸創作Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	渡辺 玄英		単 位	2
授業の目的と概要	<p>詩歌の概念の知識を得、創作の技法をふまえて、詩の創作をおこなう。また、相互批評をおこなう。そのために詩の歴史を学び、名詩の批評を経験する。創作するという行為の現在の価値を理解する。最終的には、実際に詩を書き上げ、創作集を刊行する。創作のテーマは自由。</p>			
到達目標	<p>書くという行為がいかに想像力、創造力が必要であるかを学び、そこに到達する方法論を身につける。詩歌という文芸の価値を理解し、他者に説明できる。詩作品を創作する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。  日 (4) -①-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス 文学（文芸）とは何か	課題の準備		
第2回	言葉はどこから詩になるのか	創作の準備		
第3回	詩の名作を読む	詩の創作の準備		
第4回	詩の歴史をかんたんに理解する	短い詩の執筆		
第5回	詩の合評を経験する	詩を読む		
第6回	詩作品を批評する	詩の創作の準備		
第7回	詩の名作を深く読む	詩の創作の準備		
第8回	詩を語り合う	詩の批評の準備		
第9回	詩の名作を深く読む	詩の創作		
第10回	原稿書きと修正	詩の創作		
第11回	相互批評（合評）をする	執筆中の作品の読み込み		
第12回	相互批評（合評）をする	執筆中の作品の読み込みと推敲		
第13回	詩のクオリティを学ぶ	作品集完成のための準備		
第14回	創作の作品集作り	作品集完成のための準備		
第15回	まとめと総括	作品の完成と過程の振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	創作集の寄稿 25% 作品のクオリティ 45%			
受講態度他	講義への参加状況、発言により評価 30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席その他は自由。ミニツツペーパーを書いて提出することがある。			
教科書	資料プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	プレゼンテーション演習【演習】		開講時期	後期
担当教員	小野 望		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語学の発展科目として設置されているものである。</p> <p>プレゼンテーションは、単なる発表・説明の技術を問うものではない。それらはもちろん重要であるが、その前にまず、伝えるべき課題を設定して調査し、自分が納得することが必要だ。その上で、どう伝えたいか、何を伝えたいか、相手は何を求めているか、総合的に判断しながらストーリーを組み立てる。その上で必要なデータをそろえ、発表資料を作成していくことになる。</p> <p>課題の発見、考察と解決、自己認識と他者理解、論理構成と口頭発表、まさに総合的な能力を必要とするものだ。これらは社会に出て求められる能力でもある。自己実現のためにも、実践練習の機会を活用しよう。</p>			
到達目標	<p>(1) 広く社会の問題に目を向け、語るに足るテーマを設定することができる。</p> <p>(2) 日本語の構造を十分に理解し、適切な語彙・文体を用いてプレゼンテーション資料・文章作成ができる。</p> <p>(3) さまざまな情報メディアの特質を十分に理解し、それを活用したプレゼンテーション資料作成ができる。</p> <p>(4) 発表の場の要素《人・時・場所》に応じて、適切な配慮行動を含めた口頭プレゼンテーションができる。</p> <p>(5) 集団内における自己表現・他者理解の能力を高めて、個性的なプレゼンテーションができる。</p> <p>(6) 互いの発表に際し、質疑応答や議論を通じて理解を深め、共にコミュニケーション力を高め合うことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とながらむための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>日 (3) -②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	プレゼンテーション概説 プレゼンテーションの構成要素 プレゼンテーションに対するイメージをまとめる	課題：本科目における各自の目標を報告する。		
第2回	プレゼンテーションイメージ 参考：プレゼンテーションには型がある	課題：身近なプレゼンテーション場面について報告する。		
第3回	プレゼンストーリーを意識する プレゼンの目的とストーリーパターン	課題：テーマを選び、プレゼンのアウトラインを作成する。		
第4回	プレゼンストーリーを意識する(2) ストーリー分析とスライド作成演習	課題：前回到続き、何を見せるかを考えてスライドを完成させる。		
第5回	プレゼンテーション観察 何を見せるか？ どう見せるか？	課題：プレゼンのテーマ・ストーリーメモを作成する。		
第6回	プレゼンテーション発表演習 プレゼンの型、スライドデザインのポイント	課題：プレゼン予行演習、所要時間の計測をしておく。		
第7回	プレゼンテーション発表演習 プレゼンを自己評価する。提案型プレゼンの型を確認する。	課題：ストーリー展開、発表方法について再確認する。		
第8回	グループプレゼンテーションの計画開始 各自の案を持ち寄り、ディスカッションする	課題：グループプレゼンの内容について案を考える。		
第9回	グループプレゼンテーションの作成 全体の統一感、構成について、案を持ち寄りディスカッションする。	課題：全体統一のためのアイデア、担当部分のコンテンツ案		
第10回	グループプレゼンテーションの作成 全体構成に従い、分担部分を完成させる。	課題：分担部分の作成		
第11回	グループプレゼンテーションの作成 グループプレゼンを完成させ、発表のシミュレーションをする。	課題：グループプレゼンの発表練習		
第12回	グループプレゼンテーション発表演習 グループプレゼンを発表し、その評価についてディスカッションする。	課題：グループプレゼンの自己評価。最終プレゼンのアウトライン作成。		
第13回	プレゼンテーション作成演習 最終プレゼン：テーマ・ストーリーの確認、デザインの決定	課題：スライド作成を継続する。		
第14回	プレゼンテーション作成演習 最終プレゼンの準備を完成させる	課題：プレゼン予行演習、所要時間の計測をしておく		
第15回	最終プレゼンテーション発表	課題：各発表について批評コメントを報告。自己評価レポートを作成する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% 筆記試験は行わない。			
レポート	20% 授業時の小レポート内容(作業のまとめ、発表のまとめ等)を評価する。必要に応じて、筑女ネットを介してコメントを付す。			
小テスト等	0%			
成果発表	60% プレゼンテーションの実践、および作成した発表資料(PPT、別途配付資料など)を評価する。			
受講態度他	20% 課題提出マナーおよび発表行動・質問行動を評価する。授業中に設定する小課題等を評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者数によって、授業の運営方法(発表を行う授業回数、各自の発表時間など)が変わることがあります。</li> <li>・講義資料の提示、課題提出等、基本的に筑女ネットを使って授業を行います。</li> <li>・自らテーマを設定し、発表することはもちろん、他の発表についての意見をまとめ、発言するなどの行動を求めます。よりよいコミュニケーションの主体となることを目標に、積極的に参加しましょう。</li> <li>・取り組み方によって成果は大きく異なります。考える力を高めるとともに、発表までの計画的な準備、スケジュール管理</li> </ul>			
教科書	使用しない。必要に応じ、筑女ネット上に参考資料を提示する。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	脇山真治著『プレゼンテーションの教科書』日経デザイン ほかに授業中に紹介する。			
オフィスアワー	月曜日：5講時、火曜日：4講時	メールアドレス		

授業科目	保育・教職実践演習(幼稚園)【演習】		開講時期	後期
担当教員	原田(博)・山本(尚)・岡山(万)		単位	2
授業の目的と概要	<p>これまでの授業や実習を通して学んできた、保育者となるために必要な能力を再認識し、専門職として必要な実践力を向上させることを目的とする。</p> <p>幼児教育・保育に関し、子ども理解、要領・指針が示す5領域等、子育て支援、安全管理、保幼小連携等を総合的に理解する。理論的な内容理解を踏まえた上で、実際に幼児教育・保育の指導・保育計画を立案し、実践する。実践をグループディスカッションやプレゼンテーションを通し振り返り、自身の幼児教育・保育を考察する力を習得する。幼稚園教諭免許・保育士資格取得課程における、4年間の学びの軌跡の集大成として位置づける科目である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針等が示す5領域等の内容を、自分の言葉で説明することができる。</li> <li>2. 遊びの展開やねらいを、5領域等を踏まえて立案し、検討することができる。</li> <li>3. グループディスカッションを通し、グループごとに計画した遊びを子ども達に対し実際に展開することができる。</li> <li>4. グループで取り組んだ幼児教育・保育実践を省察し、グループ内で意見を述べることができる。</li> <li>5. 幼児教育・保育実践を省察・課題とともに、プレゼンテーションし、多様な意見を踏まえ、自身の課題を導くことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  幼(4)-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には看護・助産師としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、実践実習の概要説明、指導案作成	実践実習に向けた役割分担を検討し、指導案を作成しておく。		
第2回	指導案の内容チェック、プレゼンテーション準備	指導案の内容をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。		
第3回	指導案プレゼンテーション	プレゼンテーションの質疑を受け、指導案を修正する。		
第4回	実践実習に向けた直前指導	実践実習に向けた必要物の準備を進めておく。		
第5回	実践実習① -子どもとの関わり-	実践実習を踏まえ感想用紙を記入する。		
第6回	実践実習② -クラス全体との関わり-	実践実習を踏まえ、感想用紙を記入する。		
第7回	実践実習③ -設定保育の実践-	実践実習を踏まえ、感想用紙を記入する。		
第8回	実践実習④ -設定保育の自己省察-	設定保育を踏まえ、振り返りシートに自己省察内容を記入する。		
第9回	実践実習⑤ -指導案・設定保育の振り返り指導-	附属幼稚園の先生からの意見を踏まえ、課題をまとめておく。		
第10回	映像による実践実習の振り返り、プレゼンテーション準備	自分の姿を映像で確認し、省察を基にプレゼンテーション資料を作る。		
第11回	実践実習の振り返りプレゼンテーション	各グループのプレゼンテーションを踏まえ、自身の課題をまとめる。		
第12回	KJ法による学びの振り返り、グループ検討	4年間の自身の成長や課題についてまとめて、発表準備を整える。		
第13回	KJ法内容の発表	自他グループの発表を踏まえ、保育者としての自身の成長と課題をまとめる。		
第14回	4年間の実習を通じた学びの伝達	2年生に対して、実習を通して得た学びを説明できるようまとめておく。		
第15回	まとめ	学びを振り返り、保育場面を捉えた「おたより」を作成する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 保育者としての自己課題と課題解決に向けた取り組みについて、レポート課題を出す。			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 指導・保育計画の立案と実践への取り組み及びその内容 20% 実践の振り返り、プレゼンテーション、議論への取り組み及びその内容			
受講態度他	20% 授業への取り組みの姿勢、議論における質疑等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>実際に附属幼稚園の子ども達に対し遊びを展開する。各自が責任感と免許・資格取得の自覚をもって、グループ活動や個人の課題に取り組むこと。</p> <p>授業日程や必要書類等、筑女ネットを活用し、連絡をする。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		



授業科目	保育原理【講義】	開講時期	前期
担当教員	原 陽一郎	単位	2
授業の目的と概要	<p>保育とは何かについて考察し、理解を深める。さらに、保育者、あるいは子どもに関わる者として必要な保育についての基本的な視点や姿勢を身につけることを目的とする。</p> <p>授業では、家庭や社会の変容から現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設についての意義と目的について考える。「子ども・子育て関連3法」による保育制度及び幼稚園教育要領、保育所保育指針等について理解し、これからの保育、就学前教育について考察する。また、子どもの発達にとっての集団や活動・遊びの重要性についてもふれながら、子ども観や発達観を検討する。さらに、先人達の保育思想や構想した保育施設等を概観することによって、時代や国を越えて現代にも生かすべき子ども観や保育観などについて理解を深めていく。最後に、授業での学びから、わが国の保育・就学前教育の課題について、自分の言葉で説明できるようになる。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設の特徴を的確に説明することができる。</li> <li>2. 制度としての保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園の目的や役割について、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて的確に説明することができる。</li> <li>3. 保育の内容と方法の基本について説明することができる。</li> <li>4. 「子ども・子育て関連3法」にもとづく新制度の特徴を説明することができる。</li> <li>5. 保育の思想とそれに伴う保育施設の歴史の変遷を理解し、説明することができる。</li> <li>6. 現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等保育施設の課題について、自分の意見を述べることができる。</li> </ol>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	保育とは何か～理念と概念について	教科書第1章を読む。講義を元に現在の自分の保育についての考えを整理する	
第2回	保育の歴史に学ぶ①ルソー、フレーベル、ロバート・オーエン	教科書第9章の該当箇所を読んで整理する。	
第3回	保育の歴史に学ぶ②日本の保育の歴史	教科書第9章の該当箇所を読んで整理する。	
第4回	子ども理解と保育①「子ども」とはどんな存在か	教科書第2章を読む。	
第5回	子ども理解と保育②現在の子どもの育ちの問題点	教科書第2章および資料を読んで整理する。	
第6回	保育の方法①生活と遊びを通して行うとは	教科書第4章を読む。	
第7回	保育の方法②遊びとは何か	教科書第4章をまとめる。	
第8回	保育の内容① 養護とは何か	教科書第3章を読む。	
第9回	保育の内容② 5領域の考え方	教科書第3章をまとめる	
第10回	保育の計画と評価	教科書第5章を読む。	
第11回	多様な子どもの理解と保育	教科書第10章を読む。	
	保育に関わる法律と制度① 学教教育法、児童福祉法、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律	教科書第12章を読む	
	保育に関わる法律と制度② 幼稚園設置基準、児童福祉施設の設置及び運営に関する基準、幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備び運営に関する基準	保育資料集からまとめる	
	保育者の専門性と資質向上	教科書第8章を読む	
	保育とは何か・再考	保育について考えがどのように変化したかについてまとめる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	90% 「保育」に関する考え方の変化 基本的事項について		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	10% 質問等をもとに講義に対する参加意欲を評価する		
受講上の留意点・ルールに関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業はシラバスの予定に沿って行う。教科書通りではないが、関連の章は記載しているので、教科書は授業前に読んでおくこと。</li> <li>・ 社会情勢や制度変更等により、授業計画を変更する可能性がある。その都度伝達したうえで授業の予定を変更する。</li> <li>・ 授業中、随時質問するので、主体的授業参加をすること。</li> </ul>		
教科書	汐見裕幸・無藤隆・大豆生田啓友(2019) 「アクティベート保育学①保育原理」 ミネルヴァ書房 保育福祉小六法編集委員会(編集) 「保育福祉小六法 2019年版保育福祉小六法」 みらい		
指定図書	矢野健夫(1988) 「日本の幼児保育—昭和保育思想史(上)(下)(青木教育叢書)」 青木書店		
参考図書	清水陽子・門田理世・牧野桂一・松井尚子編(2017) 「保育の理論と実践」 ミネルヴァ書房		
オフィスアワー	火曜日5限	メールアドレス	

授業科目	保育者論【講義】	開講時期	後期
担当教員	北村 真理	単 位	2
授業の目的と概要	<p>幼稚園や保育所等保育施設に何が求められているのかを考える。さらに、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂をふまえ、幼稚園教諭、保育士、保育教諭等保育者の社会的立場づけとその専門性及び保育者として必要な様々な連携・協働について考察する。また、保育者という存在に様々な角度から検討を加え、保育者としての思考の習慣を培うとともに、保育者としての自覚と形成を目的とする。</p> <p>授業の多くは講義形態であるが、保育実践例等を通して、より具体的・実践的に理解する。また、毎回授業での気づきや考察をまとめ、自らの学びを確認することとする。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教諭、保育士、保育教諭等の保育者の役割と倫理について、理解することができる。</li> <li>2. 保育士の制度的な位置づけを理解し、保育士の資格、要件、責務について説明することができる。</li> <li>3. 保育実践例から保育の実際をイメージし、保育における保育士の専門性について分析・考察し、評価しながら理解することができる。</li> <li>4. 保育者として保護者や地域社会との協働、各専門機関との連携・協働について、事例を基に理解することができる。</li> <li>5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。  幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回	オリエンテーション、保育者（幼稚園教諭、保育士、保育教諭等）の役割と職務内容、倫理について	予習：第1章	
第2回	保育者の制度的位置づけ：児童福祉法における保育士の定義、資格、要件、責務について	予習：幼稚園教諭と保育士の違いについて調べる	
第3回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育士の位置づけ	予習：要領、指針の保育士の位置づけに関連する項目を調べて読む	
第4回	保育者の専門性①：養護と教育について	予習：第2章、第3章	
第5回	保育者の専門性②：資質、能力について	予習：第3章、第4章、第5章	
第6回	保育者の専門性③：家庭（保護者）との連携、支援について	予習：第6章	
第7回	保育者の専門性④：計画に基づく保育の実践と省察、評価	予習：第4章、第5章、第7章	
第8回	保育者の連携・協働①：職員間の連携、協働	予習：第7章	
第9回	保育者の連携・協働②：専門職間及び専門機関、地域における関係機関との連携、協働	予習：保育に関わる関係機関について調べる	
第10回	保育者の連携・協働③：子どもとともに心と体を動かす	予習：第4章	
第11回	保育者の連携・協働④：豊かな文化や自然との出会いをつなぐ	予習：第5章	
第12回	保育者の資質向上とキャリア形成①：資質向上に関する組織的取組	予習：第7章	
第13回	保育者の資質向上とキャリア形成②：組織とリーダーシップ、専門性の向上とキャリア形成	予習：第7章、第8章	
第14回	授業の総括	予習：第8章	
第15回	レポートについて	予習得た学びを振り返る	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	50% レポート、ワークシート		
小テスト等	0%		
成果発表	30% 毎時間の確認テスト、発表		
受講態度他	20% 参加態度		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業はシラバスに従って行うので、教科書通りには進行しない。また、急な事情により、予定のシラバスを変更する場合がある。その場合はその都度授業で伝達する。教科書以外の参考資料を使用するので、必ず各自で資料等を整理しておくこと。また、毎回授業での気づきや考察をワークシートにまとめ、自らの学びを確認すること。</p>		
教科書	汐見稔幸・大豆田啓友『保育者論』ミネルヴァ書房 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2018年		
指定図書	室田一樹『保育の場で子どもを理解するということ』ミネルヴァ書房 2016年 平松智子『おとなだってわかってもらえて安心したい』ひとなる書房 2012年		
参考図書	矢吹秀徳『心が通う保護者との接し方』成美堂出版 2012年 坂東真理子・横山洋子『保育者1年目の教科書』ユーキャン学び出版 2012年		
オフィスアワー	月曜日昼休み	メールアドレス	

授業科目	保育実習Ⅰ【実習】		開講時期	通年
担当教員	今釜 亮・原田 博子		単 位	4
授業の目的と概要	<p>保育実習は、これまで大学において学習してきた心理学、教育学、保育、福祉、保健、保育内容等の専門科目・教養科目等の理論を基礎として、保育の実際にあたり、指導技術を実践する。それによって、理論と実践の統合をはかり、専門的知識・技術および豊かな人間性をお互に養育士を育成することを目的とする。</p> <p>保育実習Ⅰでは、保育所実習において、保育所生活に参加し、乳幼児への理解を深める。それとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務及び他の職員との連携について学ぶ。施設実習においては、居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深める。それとともに、居住型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務及び他の職員との連携について学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習保育所、施設の日課と職員を理解する。</li> <li>2. 保育所の乳幼児や児童福祉施設利用者、職員に積極的に関わることができる。</li> <li>3. 実習生としての謙虚さと積極性をもち、状況にふさわしい言動を取ることができる。</li> <li>4. 問題意識や実習課題をもって実習に取り組み、今後の課題を明確にすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>幼(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」  幼(3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>担当教員の中には看護・助産師としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	保育所での実習についての事前指導：学内オリエンテーション	課題：実習準備、実習生調査、保育実習計画書		
第2回	保育所での実習についての事前指導：実習施設	課題：実習準備		
第3回	保育所での実習についての事前指導：学内最終オリエンテーション	課題：実習準備		
第4回	実習10日間	課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第5回	実習10日間	課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第6回	実習10日間	課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第7回	事後指導：実習保育所内での反省会	課題：『保育実習日誌』整理、「保育実習報告」、「園レポート」		
第8回	事後指導：大学内での総括と今後の課題	課題：お礼状、反省と次の実習にむけての課題		
第9回	居住型児童福祉施設での実習についての事前指導：学内オリエンテーション	課題：実習準備、実習生調査、保育実習計画書		
第10回	居住型児童福祉施設での実習についての事前指導：学内直前オリエンテーション	課題：実習準備		
第11回	実習10日間	課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第12回	実習10日間	課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第13回	実習10日間	課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第14回	事後指導：実習保育所内での反省会	課題：『保育実習日誌』整理、「保育実習報告」、「園レポート」		
第15回	事後指導：大学内での総括と今後の課題	課題：お礼状、反省と次期実習にむけての課題		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% 実習生調査・実習計画書などの事前提出物(20%)、実習報告書・実習園レポート・実習日誌などの事後提出物(30%)			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50% 実習評価(50%)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>保育所と児童福祉施設の両方での実習を行わなければならない。</p> <p>提出物の期日を厳守、無断欠席、遅刻厳禁。健康管理に注意。報告、連絡、相談の徹底</p>			
教科書	なし			
指定図書	厚生労働省(編) 『保育所保育指針 解説書』 フレーベル館 2018年			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワー	火曜日3限(今釜)	メールアドレス		

授業科目	保育実習Ⅱ【実習】		開講時期	通年
担当教員	今釜 亮		単 位	2
授業の目的と概要	<p>これまで大学において学習してきた専門科目・教養科目の理論を基礎にして、保育の実際にあたり、私道技術を実践する。それによって理論と実践の統合をはかり、専門知識・技術および豊かな人間性をかねそなえた保育士を育成することを目的とする。自らの保育課題を明確にし、さらなる学びへと発展させていく。</p> <p>保育実習Ⅱでは、保育所保育を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。子どもや家庭の福祉ニーズに対する理解を深め、判断力を養うとともに、子育て支援に必要な能力を培う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 問題意識や実習課題をもって実習に取り組み、保育所の保育を実践する。</li> <li>2. 保育所の保育士として必要な資質、能力、技術等を習得し、部分保育、一日保育で生かすことができる。</li> <li>3. 保育所の職員の協働体制について理解を深める。</li> <li>4. 保育所の行う子育て支援について理解を深める。</li> <li>5. 今後の課題を明確にすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>幼(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>幼(3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 事前指導：学内オリエンテーション（保育所実習…10日間）		実習準備、実習生紹介状、保育実習計画書		
第2回 事前指導：学内直前オリエンテーション		課題：実習準備		
第3回 事前指導：実習保育所でのオリエンテーション		課題：実習準備		
第4回 保育所実習1日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第5回 保育実習2日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第6回 保育実習3日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第7回 保育実習4日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第8回 保育実習5日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第9回 保育実習6日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第10回 保育実習7日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第11回 保育実習8日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第12回 保育実習9日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第13回 保育実習10日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第14回 事後指導：実習保育所での実習の総括		課題：『保育実習日誌』、「保育実習報告」、「園レポート」		
第15回 事後指導：大学での実習の総括		課題：お礼状、実習反省と今後の課題		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% 実習生調書・実習計画書などの事前提出物（20％）、実習報告書・実習園レポート・実習日誌などの事後提出物（30％）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50% 実習評価（50％）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>保育実習Ⅱと保育実習Ⅲはどちらかしか選択できない。</p> <p>提出物の期日を厳守。無断欠席。遅刻厳禁。健康管理に注意。報告、連絡、相談の徹底。</p>			
教科書	なし			
指定図書	『平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 チャイルド本社 2017年			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜3限（今釜）	メールアドレス		

授業科目	保育実習Ⅲ【実習】		開講時期	通年
担当教員	今釜 亮		単 位	2
授業の目的と概要	<p>保育実習は、これまで大学において学習してきた専門科目・教養科目等の理論を基礎として、保育の実際にあたり、指導技術を実践する。それによって、理論と実践の統合をはかり、専門的知識・技術および豊かな人間性をお互に養い、保育士を育成することを目的とする。さらに自らの保育課題を明確にし、さらなる学びへと発展させていく。</p> <p>保育実習Ⅲでは、保育所以外の児童福祉施設、その他社会福祉施設の養護を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。子どもや家庭の福祉ニーズに対する理解を深め、判断力を養うとともに、子育て支援に必要な能力を養う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 問題意識や実習課題をもって実習に取り組み、児童福祉施設、その他の社会福祉施設の保育を実践する。</li> <li>2. 児童福祉施設、社会福祉施設の保育士として必要な資質、能力、技術等を習得し、実習で生かすことができる。</li> <li>3. 福祉施設の職員の協働体制について理解するとともに、その中での保育士の役割について考える。</li> <li>4. 児童福祉施設を行う子育て支援について理解を深める。</li> <li>5. 今後の課題を明確にすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>幼(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>幼(3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 事前指導：大学内オリエンテーション			課題：実習準備、実習調書、実習計画書	
第2回 事前指導：大学内直前オリエンテーション			課題：実習準備	
第3回 事前指導：実習施設オリエンテーション			課題：実習準備	
第4回 保育実習1日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第5回 保育実習2日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第6回 保育実習3日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第7回 保育実習4日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第8回 保育実習5日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第9回 保育実習6日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第10回 保育実習7日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第11回 保育実習8日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第12回 保育実習9日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第13回 保育実習10日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第14回 事後指導：実習施設での実習反省			課題：『保育実習日誌』整理、「保育実習報告」、「園レポート」	
第15回 事後指導：大学内での実習報告とまとめ			課題：お礼状、反省と今後の課題	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% 実習生調書・実習計画書などの事前提出物(20%)、実習報告書・実習園レポート・実習日誌などの事後提出物(30%)			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50% 実習評価(50%)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>保育実習Ⅱと保育実習Ⅲはどちらかしか選択できない。</p> <p>提出物の期日を厳守。無断欠席。遅刻厳禁。健康管理に注意。報告、連絡、相談の徹底。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日3限(今釜)	メールアドレス		

授業科目	保育実習指導Ⅰ（保育所）【講義】	開講時期	後期
担当教員	今釜 亮・原田 博子・北村 真理	単 位	1
授業の目的と概要	<p>保育実習指導Ⅰにおいては、保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、保育士としての基礎的な実践力を養成することを目的としている。主として保育実習Ⅰ（児童福祉施設）にむけて必要な知識、技能や倫理などについて修得し、各自の実習課題を明確化していく。本授業は、教科書のほかに、視覚教材や実際の実習日誌等により具体的、実践的に実習準備を進めていく。</p> <p>本授業そのものが実習の事前指導であることを自覚し、主体的に学修していく。</p> <p>「保育実習Ⅰ」を実施するにあたって必ず受講しなければならない科目となっている。さらに3年前期の「保育実習指導Ⅱ」の基礎ともなる。</p> <p>保育実習に際して、本実習指導の他に学内での実習オリエンテーション、各実習施設における事前指導や見学実習も授業時間外</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習生として保育現場に入るための課題を明確に持つことができる。</li> <li>2. 挨拶、返事、言葉遣い、姿勢等実習生としての基本を身につける。</li> <li>3. 手遊びや絵本の読み聞かせなど対象者を考慮して実践できる。</li> <li>4. 実習日誌の記入、指導案の作成を適切にできる。</li> <li>5. 対象年齢や状況に応じた教材研究ができる。</li> <li>6. 実習後の反省により、実習での学びと次の実習にむけての課題を明確にすることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>幼(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>幼(3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション、保育実習の目的や意義、見学実習について	見学実習に向けた目標を指定用紙に記入し提出する	
第2回	保育現場を知る、見学実習に向けた心得、メールや提出物、SNS利用の社会的マナーの説明	実習に向けた服装準備、必要備品の確認、テキストによるマナーの復習	
第3回	実習に必要な文章作成、障害児とのコミュニケーション、指導案作成について	文章作成の復習、指導（ラフ）案の作成	
第4回	指導（ラフ）案のグループ検討、アドバイス、見学実習打ち合わせ	ラフ案を基に指導案を作成する。見学実習の感想を提出する。	
第5回	模擬保育に向けた指導、見学実習オリエンテーション	模擬保育に向けた準備	
第6回	保育実習における文書作成①実習日誌の書き方、お礼状の書き方	映像から実習日誌を記入し、完成させて提出する。	
第7回	施設見学実習	見学実習の感想用紙とお礼状を書く	
第8回	施設見学実習振り返り会	見学実習の振り返りシートの提出	
第9回	模擬保育① 基礎的な設定保育	模擬保育の評価表を記入し提出する	
第10回	模擬保育② 初期の設定保育	模擬保育の評価表を記入し提出する	
第11回	模擬保育③ 初期の設定保育	模擬保育の評価表を記入し提出する	
第12回	施設実習についての理解、希望先オリエンテーション	施設実習希望を提出する	
第13回	保育実習における文書作成②実習日誌の書き方、実習計画書の記述	実習計画書（清書）のコピー、実習園情報を記載し提出する。	
第14回	実習アドバイス会	4年生から聞いた実習に関する話しの感想を書き、提出する。	
第15回	保育実習Ⅰ（保育所）最終確認	保育所実習に向けて、実習で使用するものや絵本等を整える。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	—		
レポート	60％ レポート（実習指導における提出課題、及び最終レポート含む）		
小テスト等	—		
成果発表	20％ 模擬保育の実践		
受講態度他	20％ 学びの軌跡等		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>無断欠席、遅刻、早退は認められない。3回以上の欠席、遅刻については、状況によっては特別な課題を付与するこや、実習延期となる場合がある。</p> <p>実習準備の課題や授業の提出課題が多いが、期日を厳守すること。</p> <p>実習先の状況に応じて、特別指導を行うこともある。</p>		
教科書	<p>小櫃智子編 実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド わかば社 2015</p> <p>長島和代編 【改訂版】 これだけは知っておきたい 保育マナーと言葉 わかば社 2017</p>		
指定図書	<p>石橋裕子・林幸範（編集） 新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 同文書院 2013年</p> <p>小林育子・長島和代・権藤真織・安齊智子 幼稚園・保育所・施設 実習ワーク 萌文社 2006年</p>		
参考図書	<p>田上貞一郎 2010 保育者になるための国語表現 萌文書林</p> <p>大元千種（監修）書き方・あそび・保育のコツがわかる 実習の日誌と指導案サポートブック ナツメ社 2016年</p>		
オフィスアワー	月曜昼休み、火曜3曜	メールアドレス	

授業科目	保育実習指導Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	原田 博子・古賀野 卓・今里 順一・牛島 豊広		単位	1
授業の目的と概要	<p>保育実習指導Ⅰの内容を受け、実習の反省、評価、総括を行う。その上で、保育実習Ⅱ（保育所）および保育実習Ⅲにむけて、保育実習Ⅰで生じた課題をさらに明確化し、自らの課題設定のもとに知識・技術の修得等を深め、将来の保育士としての実践的力を高めていくことを目的とする。</p> <p>実習振り返りや記録、指導案の相互検討など受講生の主体的かつ協同の学修を行う。つねに主体的に授業に取り組むことが期待される。</p> <p>本授業の他に学内での実習オリエンテーション、各保育実習先において事前指導等が実施される。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にむけての課題、計画、準備を主体的に取り組むことができる。</li> <li>2. 健康管理、挨拶、返事、言葉遣い、姿勢等実習生としての基本を確実に身につける。</li> <li>3. 自分の実践をふりかえり課題を明確にし、自ら取り組む。</li> <li>4. 保育実習で適切な配慮を行うことができるように、子どものことばや行動を理解し意味づけることができる。</li> <li>5. 活動指導案の作成、教材研究について習熟し、指導案作成と実践をすることができるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>幼(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>幼(3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には看護・助産師としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業概要および保育実習Ⅰの振り返りを踏まえて保育実習Ⅱ・Ⅲの実習計画	授業での課題：各自の実習課題設定および実習計画書作成		
第2回	様々な現場の保育士/保育実習Ⅱ・Ⅲにむけて実習計画書作成	授業での課題：実習施設の事前学習及び指導案作成		
第3回	キャリアアップした保育士/実習施設の特徴と役割	授業での課題：実習にむけての教材研究及び指導案作成		
第4回	指導案指導（添削及び再指導）	授業での課題：実習にむけての教材研究		
第5回	記録および実習日誌について（考察部分の考え方）	授業での課題：保育実習Ⅰの日誌を読み返す		
第6回	記録および実習日誌について（要点を押さえた書き方）	授業での課題：保育実習Ⅰの日誌を読み返す		
第7回	実習に向けての留意事項	授業での課題：実習に向けての準備、確認		
第8回	直前オリエンテーション	授業での課題：実習に向けての準備、確認		
第9回	実習事後指導①実習の総括と評価 自己評価	授業での課題：実習の振り返り及び保育士に必要なことを考える		
第10回	「私の保育」保育士に必要なこと（グループワーク KJ法）①	授業での課題：授業内で完了しなかった部分をグループワークする		
第11回	「私の保育」保育士に必要なこと（グループワーク KJ法）② 発表	授業での課題：他者の意見を踏まえながら保育とはを考える		
第12回	「私の保育」発表①	授業での課題：プレゼンテーションの準備（レジュメ・リハーサルなど）		
第13回	「私の保育」発表②	授業での課題：プレゼンテーションの準備（レジュメ・リハーサルなど）		
第14回	「私の保育」発表③	授業での課題：プレゼンテーションの準備（レジュメ・リハーサルなど）		
第15回	「私の保育」発表④及びまとめ（保育士としての自己課題の明確化）	授業での課題：自己の課題についての検討		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％（実習計画書・指導案・感想用紙2枚・実習報告書・園レポート 各10％）			
小テスト等	なし			
成果発表	10％（KJ法発表）10％（「私の保育」発表）			
受講態度他	20％（積極的参加・他者の意見を聞く姿勢・積極的質問などを含む）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>主体的な授業への参加と課題意識を持つことを期待します。</p> <p>保育実習Ⅱ・Ⅲの実習科目ですので、原則として無断欠席、遅刻、早退は認められません。状況によっては特別に課題を付加することもあります。</p> <p>上記の授業計画は開講中にも変更することがあります。</p> <p>授業外に開催する実習オリエンテーションにも必ず参加すること。その際、所定の服装、身だしなみに注意すること。</p>			
教科書	保育実習指導Ⅰのテキスト			
指定図書	財団法人幼少年教育研究所（編著）『遊びの指導 乳・幼児編』 同文書院 2009年			
参考図書	授業で紹介する。			
オフィスワーカー	実習指導担当教員 原田 月曜日4限目	メールアドレス		

授業科目	保育相談支援【講義】		開講時期	前期
担当教員	原 陽一郎		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は保育士資格取得のための必修科目であり、保育に関する専門的知識・技術を背景としながら、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して保育相談、助言ができるようになることを目的とする。 このために、現代の保護者・育児をとりまく状況の理解とともに、保育相談支援の意義・基本と、事例を通して実践のための自己の課題を把握していく。			
到達目標	① 保育相談支援の意義や基本的視点について理解する ② 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する ③ 保護者支援の基本を理解する ④ 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼(3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション 保育相談支援の意義と基本視点 保育相談支援とは何か	ふだんの生活や実習で見かけた親子関係をまとめる		
第2回	保育士の業務と保育相談支援の原理	教科書第1章p. 1～19を読む		
第3回	保育相談支援の価値と倫理	全国保育士会倫理綱領を読む		
第4回	信頼関係を築く受容と自己決定、相談の実際事例	信頼関係の捉え方を理解する・ラポールについて考察する		
第5回	子どもの最善の利益の重視 子どもの成長の喜びの共有、相談の実際事例	子どもの権利条約を読む		
第6回	社会資源との連携・協力、相談の実際事例	連携・協力の対象となる地域資源や関係機関を復習する		
第7回	保育を基盤とした保育相談支援、相談の実際事例	保護者の気になる姿をまとめる		
第8回	保育相談支援の方法と技術、相談の実際事例	保育相談支援で必要とされる保育技術についてまとめる		
第9回	保育相談支援の展開、相談の実際事例	援助行為の道筋を復習する		
第10回	保育所における保育相談支援、相談の実際事例	これまでまとめた事例の支援の方法を検討する		
第11回	地域子育て支援における保育相談支援、相談の実際事例	子育てサロン、子育て支援センターなどの役割を復習する		
第12回	児童福祉施設における保育相談支援、相談の実際事例	児童福祉施設の目的と利用者の状況について復習する		
第13回	子どもの虐待について、相談の実際事例	虐待が起きる要因について復習する		
第14回	子育て相談のポイント	現在の保護者の状況について、新聞などの記事を集める		
第15回	保育相談支援の評価	保育要録について復習する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	90% 事例レポートの作成 事例検討に基づく視点の整理 基本的事項について			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	10% 発表・質問などの受講態度を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	将来、保護者・児童の指導者となるにふさわしい履修態度を求める			
教科書	柏女霊峰・橋本真紀 「保育相談支援(新・プリマーズ 保育)」 ミネルヴァ書房(2016)			
指定図書	なし			
参考図書	大谷保育協会 「ほいくしんり」 エイデル研究所(2010～			
オフィスアワー	水曜日 2限目	メールアドレス		



授業科目	保育内容演習（環境）【演習】		開講時期	前期
担当教員	平山 静男		単位	2
授業の目的と概要	<p>保育内容「環境」のねらいと内容、内容の取扱いについて説明することができるようになることを目的とする。あわせて、具体的に模擬保育を行うことができるようになることを目的とする。さらに、模擬保育後の協議を踏まえて模擬保育の改善案を作成することができるようになることを目的とする。</p> <p>授業は、領域「環境」のねらい及び内容に関する理解、領域「環境」の各内容毎の模擬保育とその協議及びその過程を通しての各内容の理解深化、保育の改善案の作成について学び、それらについて考察することにより、説明できるようになる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1, 領域「環境」に関する基礎知識を説明することができる。</li> <li>2, 教材を研究し、指導計画を作成することができる。</li> <li>3, 指導計画に従って模擬保育を行うことができる。</li> <li>4, 模擬保育後の協議を踏まえて、保育の改善案を作成することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目は保育内容総論です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション。グループ編成。「環境」とは。	グループワーク：模擬保育の準備		
第2回	ESD for SDGs. 子どもを取り巻く環境の変化。	グループワーク：模擬保育の準備		
第3回	領域「環境」のねらい及び内容。園の環境。子どもの発達と環境。	グループワーク：模擬保育の準備		
第4回	「自然とふれ合い感動する」に関する模擬保育とディスカッション	グループワーク：模擬保育の準備		
第5回	「物事の法則性に気づく」に関する模擬保育とディスカッション	グループワーク：模擬保育の準備		
第6回	「季節感を味わう」に関する模擬保育とディスカッション	グループワーク：模擬保育の準備		
第7回	「自然を取り入れて遊ぶ」についての模擬保育とディスカッション	グループワーク：模擬保育の準備		
第8回	「生命の営みにふれる」に関する模擬保育とディスカッション	グループワーク：模擬保育の準備		
第9回	「身のまわりの物に愛着をもつ」に関する模擬保育とディスカッション	グループワーク：模擬保育の準備		
第10回	「科学を体感する」に関する模擬保育とディスカッション	グループワーク：模擬保育の準備		
第11回	「数量・図形に親しむ」に関する模擬保育とディスカッション	グループワーク：模擬保育の準備		
第12回	「標識や文字の必要感を育む」に関する模擬保育とディスカッション	グループワーク：模擬保育の準備		
第13回	「身近な情報や施設を生かし、生活を豊かにする」に関する模擬保育とディスカッション	予習：指導計画の作成		
第14回	指導形態とカリキュラム。指導計画の作成。	予習：保育室の環境構成		
第15回	環境の構成。環境構成と遊びの展開。	復習：授業の振り返り		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	80%。学修成果物の発表やその内容について評価する。			
受講態度他	20%。授業に臨む意欲や受講態度について、質問や意見発表により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。			
教科書	田宮緑「体験する 調べる 考える 領域『環境』」萌文書林			
指定図書	なし。			
参考図書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館			
オフィスワー	月曜日3限目。	メールアドレス		

授業科目	保育内容演習（環境）【演習】		開講時期	後期
担当教員	原 陽一郎		単 位	2
授業の目的と概要	<p>保育内容の領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかわかり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことが目標である。その基盤として、乳幼児期の教育は保育者が「自発的、意欲的に関わられるような環境を構成」することによって「生活と遊びを通して総合的に」おこなう必要がある。よって本講義では、領域「環境」の教育目標達成のための「環境の構成力」を獲得するために、物的環境・人的環境・社会及び自然の事象についての理解を深めることを目的とする。</p>			
到達目標	<p>①周囲のさまざまな環境で興味を持ったことを実験・観察し、その面白さを具体的に説明する。  ②子どもの育ちにとって適切な環境を考える基礎とその理由を具体的に説明する。  ③保育計画を作成する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第1回 領域「環境」のねらいと内容			要領・指針の領域「環境」の項目を読む	
第2回 領域「環境」の指導上の留意点			要領・指針の領域「環境」の指導上の留意点についてまとめる	
第3回 領域「環境」の保育実践の動向			上記要領・指針を読み、領域「環境」について理解する	
第4回 領域「環境」の実践のために① 周囲環境での「面白さ」を見つける			実験・観察する事象を決め、これらについての資料を集めておく	
第5回 領域「環境」の実践のために② 「面白さ」の内容を明らかにする			実験・観察を実施し、その事象についての知識を具体化する	
第6回 領域「環境」の実践のために③ 「面白さ」を多面的に把握する			実験・観察を実施し、その事象についての知識を具体化する	
第7回 情報機器の活用法 体験を補完する			体験を補完するものとしての情報機器の活用法について理解する	
第8回 保育計画の作成① 3歳未満児			3歳未満児の保育内容を検討して保育計画案を作成する	
第9回 保育計画の作成② 3歳児			3歳児の保育内容を検討して保育計画案を作成する	
第10回 保育計画の作成③ 4歳児			4歳児の保育内容を検討して保育計画案を作成する	
第11回 保育計画の作成④ 5歳児			5歳児の保育内容を検討して保育計画案を作成する	
第12回 模擬保育① 3歳未満児、3歳児			模擬保育を実施し、そのふり返りを通して改善点を考える	
第13回 模擬保育② 4歳児、5歳児			模擬保育を実施し、そのふり返りを通して改善点を考える	
第14回 小学校教科とのつながり① 生活科との関連			生活科の学習指導要領を読む	
第15回 小学校教科とのつながり② 理科との関連			理科の学習指導要領を読む	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% 基本的項目についての理解を問う			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50% ①興味を持った事象のプレゼン 30% ②保育計画案の提出 20%			
受講態度他	10% 講義で提起した各種体験の課題などの遂行状況、意見発表など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	興味を持った事象については資料をプレゼンが必要となるので、丁寧に準備すること。指導案は、そこで興味を持ったものから作成しても構わない。			
教科書	神長美津子・掘越紀香・佐々木晃編著 「保育内容 環境」 光生館(2018)			
指定図書	小泉英明・秋田喜代美・山田俊之『幼児期に育つ「科学する心」』 小学館(2007)			
参考図書	戸田拓夫 「おり紙ヒコーキ大集合BOOK」 いかだ社(2014)			
オフィスアワー	月曜日2限	メールアドレス		

授業科目	保育内容演習（健康）【演習】		開講時期	前期
担当教員	古田 瑞徳		単位	2
授業の目的と概要	<p>保育内容「健康」の目的は、乳幼児の健康な心と体を育て、乳幼児自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養うこととしていきます。</p> <p>この授業では、乳幼児の発育・発達・健康・生活習慣・運動に関する内容について学習し、指導法や指導技術を養うことを目的としています。</p> <p>また、保育内容の「健康」に関する諸問題を通じて、子どもたちにどのような健康問題があり、それらに対してどのように取り進むのかを学び、子ども達の健康で安全な生活を確保していく能力を養います。</p>			
到達目標	<p>① 人間の発育・発達を理解し、説明することができる。</p> <p>② 子どもの健康を守るための生活習慣と安全管理を理解し、説明することができる。</p> <p>③ 運動遊びを理解し、年齢別の発達にあわせて適切な内容を選ぶことができる。</p> <p>④ 「健康」に関する内容について、その指導法を検討し、指導案を作成することができる。</p> <p>⑤ 子どもを取り巻く社会・環境について現状を把握し、問題解決に向けて考え、述べるることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション 領域「健康」のねらいと内容	予習 教科書p.1-12		
第2回	領域「健康」の指導上の留意点	予習 教科書 p.13-23		
第3回	領域「健康」の実践に向けて ①発育・発達	予習 教科書p.25-41		
第4回	領域「健康」の実践に向けて ②運動機能の発達	予習 教科書p.41-52		
第5回	領域「健康」の実践に向けて ③心の発達	予習 教科書p.53-64		
第6回	領域「健康」の実践に向けて ④遊びの発達	予習 教科書 p.66-77		
第7回	体格・運動能力の測定と評価・情報機器の活用	予習 教科書 p.79-86, 103-118		
第8回	領域「健康」の保育実践の動向	模擬保育課題を考える		
第9回	子どもの生活習慣 ①疾病・ライフスタイル・生活習慣の自立	予習 教科書p.87-102		
第10回	子どもの生活習慣 ②環境・事故・安全教育	予習 教科書p.87-102 レポート課題提出		
第11回	指導案の作成	予習 教科書 p.155-165		
第12回	模擬保育案の作成と準備	模擬保育練習		
第13回	模擬保育の実際	模擬保育と振り返り		
第14回	安全管理と応急処置 子どもの健康問題の解決に向けて	予習 教科書 p.119-143		
第15回	まとめ 小学校とのつながりと保育計画・安全計画・評価	予習 教科書 p.145-154		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 1回のレポート課題実施。後日、返却します。			
小テスト等	30% 毎回ふりかえりワークシートに取り組みます。			
成果発表	10% 模擬保育 20% 指導案作成			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業、他の受講生の妨げになるような行為はしないこと。			
教科書	『保育内容 健康』 民秋 言・権丸武臣 編 北大路書房 (2014)			
指定図書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』 チャイルド本社2017年			
参考図書	図書に限らず健康に関する情報全般			
オフィスワー	火曜日昼休み、メールで連絡・相談してください。	メールアドレス		

授業科目	保育内容演習（言葉）【演習】		開講時期	前期
担当教員	山本 尚史		単位	2
授業の目的と概要	<p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の5領域うちの「言葉」について理解し、具体的に実践をイメージすることができるようにすることを目的とする。また、幼児の「言葉」の発達を理解し、集団保育の意義や保育者の役割、乳幼児の「言葉」の発達を促す様々な児童文化についても考察し、実践的力量を養う。</p> <p>グループで課題に取り組み発表をするが、自己評価とともに発表者外からの他者評価を行う等、学生相互の学び合いを大切にしたい授業とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「言葉」の意義について理解し、考察することができる。</li> <li>幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「言葉」について理解し、解説することができる。</li> <li>子どもの「言葉」の発達過程を理解し、系統立てて説明することができる。</li> <li>絵本、紙芝居などの教材を使った児童文化の指導についてについて解説することができる。</li> <li>児童文化財を用いた「言葉」の発達を促す指導計画を作成し、実践することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、人間発達における言葉の意義	復習：自分の初語について家族にインタビューする		
第2回	言葉の機能、言葉のはたらき	予習：配付資料を読む 復習：言葉の機能、はたらきについて		
第3回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」について	予習：幼稚園教育要領、保育所保育指針を読む		
第4回	領域「言葉」の変遷について	予習：配付資料を読む。 復習：「言葉」の変遷をまとめる		
第5回	乳児期の言葉の発達と保育についてグループ討議をする	予習：配付資料を読む 復習：乳児期の発達について		
第6回	幼児期の言葉の発達と保育についてグループ討議をする	予習：配付資料を読む 復習：幼児期の言葉の発達について		
第7回	学齢期の言葉の発達と教育についてグループ討議をする	予習：配付資料を読む 復習：乳児期から学齢期までの言葉の		
第8回	発達過程を受け、「言葉」を育むための保育者の関わりについて	課題：配付資料を読む 復習：「言葉」に関わる取り組みを考		
第9回	児童文化財を用いた「言葉」の指導と評価について	課題：児童文化財を用いた指導案を書く		
第10回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財①「言葉あそび」(指導案に基づく模擬保育)	予習：指導案の検討、発表準備 復習：振り返り(評価カード)		
第11回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財②絵本(指導案に基づく模擬保育)	予習：指導案の検討、発表準備 復習：振り返り(評価カード)		
第12回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財③紙芝居(指導案に基づく模擬保育)	予習：指導案の検討、発表準備 復習：振り返り(評価カード)		
第13回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財④わらべうた(指導案に基づく模擬保育)	予習：指導案の検討、発表準備 復習：振り返り(評価カード)		
第14回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財④劇、お話作り(指導案に基づく模擬保育)	予習：指導案の検討、発表準備 復習：振り返り(評価カード)		
第15回	情報機器の活用と課題、及び、全体のまとめ	予習：評価カードを見ておく 復習：授業全体をふりかえり、まとめ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%(指導案、「言葉」を育む保育者のかかわり)			
小テスト等	なし。			
成果発表	50%(模擬保育、分担発表：言葉の発達に関わる児童文化の活動の発表)			
受講態度他	20%(意欲的な学修態度：発言や模擬保育に対する評価カードの記載等)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	主体的な授業への参加と課題意識を持つ。 分担発表や課題発表は積極的に取り組む。			
教科書	幼稚園教育要領(平成29年3月公示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月公示 厚生労働省)			
指定図書	講義内容、みなさんの発表内容に応じて適宜紹介します。			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスアワー	火曜 昼休み	メールアドレス		

授業科目	保育内容演習（人間関係）【演習】		開講時期	後期
担当教員	古賀野 卓		単位	2
授業の目的と概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「人間関係」について理解し、子どもに育つことが期待される心情、意欲、態度などの育ちを援助する保育者の役割をつかむ。乳幼児期における人間関係の基本的な特色と集団の生活の重要性を捉えるとともに、障がい児や被虐待児などの事例を通して、特別に配慮の必要な子どもの理解とその対応策を習得できるようにする。また、高齢者や外国人等地域の人々との関係性を図る取り組みについても考える。			
到達目標	①幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「人間関係」について理解し、保育者の役割を具体的にイメージすることができる。 ②乳幼児期における人間関係の基本的な特色と集団の生活の重要性について説明することができる ③保育者として、日常場面で発生しうる人間関係にかかわる諸問題を把握し、分析した上での対応策を考えることができる。 ④障がい児や被虐待児など特別に配慮の必要な子どもの理解とその対応策を説明することができる。 ⑤高齢者や地域の人々との関係性を図る取り組みを具体的に説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーションー幼児期に育てる「人間関係」カー 子どもを巡る人間関係の現状を把握し、「生きる力」の原点となることを知る。	復習 人間関係の大切さについて		
第2回	近代幼児教育思想における個と集団の関係性 ー子ども同士の関係性に注目するようになった背景を考えるー	復習 近代幼児教育思想における個と集団の関係性について		
第3回	幼稚園教育要領、保育所保育指針における「人間関係」のねらい 「ねらい」と「内容」および「内容の取り扱い」について理解する。	復習 「人間関係」が目指すものをまとめる		
第4回	園生活における人間関係の育ち 0歳児の人との関わり 基本的信頼関係と愛着性の形成などから、親子関係の形成について学ぶ。	復習 0歳児の人との関わりと保育についてまとめる		
第5回	園生活における人間関係の育ち 1歳児の人との関わり 愛着理論や自立性、恥などの事例から、園生活における人との関わりについて考える。	復習 1歳児の人との関わりと保育についてまとめる		
第6回	園生活における人間関係の育ち 2歳児の人との関わり	復習 2歳児の人との関わりと保育についてまとめる (30分)		
第7回	園生活における人間関係の育ち 3歳児の人との関わり 積極性、身体的心理的自己への気付きという発達課題と人との関わりについて考える。	復習 3歳児の人との関わりと保育についてまとめる		
第8回	園生活における人間関係の育ち 4歳児の人との関わり 子供にとっての遊びの価値、遊びと発達について考える。	復習 4歳児の人との関わりと保育についてまとめる		
第9回	園生活における人間関係の育ち 5歳児の人との関わり イメージを共有してつながる姿、いざこざ、葛藤、仲直りを通して深まる人間関係について	復習 5歳児の人との関わりと保育についてまとめる		
第10回	特別な配慮の必要な子どもと保育① 発達障害児への対応について 人間関係を作れない子供たちとどのように関わっていくかを考える。	復習 発達障害児への対応について		
第11回	「人間関係」を中心にした指導計画の作成及びグループ討議 ① 未満児を対象に、遊びを通じた人間関係の育成を考える。	予習 指導計画書の作成 復習 授業の振り返り		
第12回	「人間関係」を中心にした指導計画の作成及びグループ討議 ② 年少児を対象に、遊びを通じた人間関係の育成を考える。	予習 指導計画書の作成 復習 授業の振り返り		
第13回	「人間関係」を中心にした指導計画の作成及びグループ討議 ③ 年中児を対象に、遊びを通じた人間関係の育成を考える。	予習 指導計画書の作成 復習 授業の振り返り		
第14回	「人間関係」を中心にした指導計画の作成及びグループ討議 ④ 年長児を対象に、遊びを通じた人間関係の育成を考える。	予習 指導計画書の作成 復習 授業の振り返り		
第15回	まとめ 子どもの人間関係づくりのために保育者ができること (保育者同士、保育者と保護者)	復習 保育者の人間関係づくりについて		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50%、学期末のレポートのほか、各授業「ワークシート」に記入し、次の授業で返却する			
小テスト等	-			
成果発表	30% グループ発表および討議内容			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業への積極的な取り組みを評価します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	幼稚園教育要領、保育所保育指針 (他の教科で購入済み) -			
オフィスワー	毎週水曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	保育内容演習（表現）【演習】		開講時期	前期
担当教員	今釜 亮・岡山 万里・北村 真理		単位	2
授業の目的と概要	<p>幼稚園教育要領及び保育所保育指針等に沿って領域「表現」の目標や「ねらい」および「内容」について理解を促すことを目的とする。保育内容「表現」という領域を全体的な視野から捉える力を身につける。幼稚園や保育所での子どもの生活の中で、子どもが表現することの意味や意義を具体的に理解し、保育現場での活かし方や工夫の仕方を身に付け、さらに子どもへの必要な支援について考察することを促す。</p> <p>「表現」とは、子どもの豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることとして音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現、演劇表現などが含まれます。よって、音楽・図画工作・体育などの科目と関連しています。</p>			
到達目標	<p>①保育内容「表現」の目標について説明することができる。  ②保育内容「表現」の「ねらい」及び「内容」を具体的に述べるすることができる。  ③幼稚園や保育所で領域「表現」に関わる環境を準備することができる。  ④幼稚園や保育所で領域「表現」活動へ関わる子どもへの必要な支援について予測を立てることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」とは幼児期における領域「表現」のねらいを知り、学ぶ	要領を整理する		
第2回	コミュニケーションとしての表現 保育における表現の重要性を学ぶ	感想用紙の提出		
第3回	子どもの造形表現と発達 保育現場における「表現」の実際を知り、留意点を考察する	感想用紙の提出		
第4回	造形的な遊びの実際① 新聞紙を使った遊び 子どもの発達段階を考えながら保育実践の方法を学ぶ	作品の提出		
第5回	造形的な遊びの実際② 不織布を使った造形 子どもの発達段階を考えながら保育実践の方法を学ぶ	作品の提出		
第6回	子どもの音楽表現と発達 表現における子どもへの評価方法や価値を学ぶ	サウンドスケープの感想		
第7回	音楽的な遊びの実際 リトミック活動 子どもの発達段階を考えながら保育実践の方法を学ぶ	リトミックの感想		
第8回	表現における身体の動きの意味	演出を考える		
第9回	表現活動における台本の必要性和実践 五領域を横断的に捉え、小学校以降の科目との関連を考えながら表現の本質を知る	演目を考える		
第10回	表現活動における道具の実際や指導案 道具の活用や、実際の保育の際の指導案を考える	大道具小道具の作成リストを作る		
第11回	劇遊びの準備① 演目の設定や台本の作成 子どもの思考や動きを想定しながら、劇あそびの構想を練る	台本を作成する		
第12回	劇遊びの準備② 音楽の選択や大道具小道具の作成 子どもの思考や動きを想定しながら、表現に適した音楽や道具の準備を行う	大道具小道具を作成する		
第13回	劇遊びの準備③ 通し練習 劇あそびにおいて子どもたちが得るものを理解する	台本を覚える		
第14回	劇遊びの実践① 音楽劇の発表 実際に子どもたちが劇あそびをすることを想定し、模擬的に行う	音楽劇に取り組んだレポート		
第15回	劇遊びの実践② 他グループの発表の鑑賞 模擬的に鑑賞した劇あそびを振り返り、改善点を考察する	他グループ発表の感想を書く		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない			
レポート	40% 音楽劇に関連するレポート(30%)や感想用紙(10%)			
小テスト等	実施しない			
成果発表	40% 表現遊びの創造性(10%)、工夫(10%)、発表態度(10%)、作品の提出(10%)			
受講態度他	20% 授業での積極的な取り組みを評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	未提出作品・レポート類がある場合は評価を出さないことがある。 課題作品・レポートの提出期限は守ること。			
教科書	『幼稚園教育要領』（文部科学省）、『保育所保育指針』（厚生労働省） 必要に応じてプリントを配布する。			
指定図書	ありません。			
参考図書	ありません。			
オフィスワーク	授業前後、または各教員の他科目のシラバスを参照してください	メールアドレス		

授業科目	保育内容総論【演習】		開講時期	後期
担当教員	原 陽一郎・北村 真理		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、幼稚園教育要領、保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の「保育目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連づけ、保育の全体的な構造を理解することが目的である。また、保育の基本は「生活」や「遊び」であることを、体験を通して認識し、深めていく。			
到達目標	①保育の全体構造と保育内容5領域との関係を説明できる。 ②幼稚園教育、保育所保育の歴史の変遷から、現在実施されている保育の多様性の理由と問題点を具体的に述べる。 ③「遊び」の重要性を説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 初 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 担当教員の中には保育士としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	幼稚園教育要領における保育内容のとらえ方	要領・指針の総則を読む		
第2回	保育所保育指針における保育内容のとらえ方	要領・指針の総則のポイントを理解する		
第3回	認定こども園教育・保育要領における保育内容のとらえ方③	要領・指針の第2章を読む		
第4回	子どもの認識や思考、動きを理解する① 鬼ごっこなど	遊びを通して鬼ごっこで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第5回	子どもの認識や思考、動きを理解する② 伝承遊び	遊びを通して伝承遊びで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第6回	子どもの認識や思考、動きを理解する③チャンバラ、コーン倒しなど攻撃的集団あそびの重要性について	攻撃性を合法的に発散する遊びで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第7回	教材から生活力を育てる① 三つ編み縄跳びづくり	布の特性などを知ることなど教材から生活力を高める方法を考えてまとめる。		
第8回	教材から生活力を育てる② 雑巾縫い	生活の意識を高めるための教材としての活用法について考え、まとめる		
第9回	情報機器の活用法と課題	配付された資料を読み、情報機器の活用法と課題についてまとめる		
第10回	保育実践の動向① 3歳未満児	要領・指針の2017年改訂の内容についてまとめる		
第11回	保育実践の動向② 環境設定を重視した保育の留意点	どのような形態の保育があるのか、調べておくこと		
第12回	保育実践の動向③ 長時間保育	長時間保育について配付された資料を読む		
第13回	保育実践の動向④ 特別支援教育	特別支援教育について配付された資料を読む		
第14回	保育を評価する方法について	要領・指針の保育の評価の項目を読む		
第15回	小学校教科とのつながり	学習指導要領を読む		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50% 基本的事項について			
レポート	25% 講義内容についてのまとめ			
小テスト等	なし			
成果発表	15% 製作物の提出・課題の達成度			
受講態度他	10% 意見発表などの受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	とくに、遊びや生活についての講義には積極的な態度で参加すること。			
教科書	清水陽子・森真理編著 「共に育つ保育を探究する保育内容総論」 建帛社 2019			
指定図書	なし			
参考図書	幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』同文書院 (2009)			
オフィスアワー	木曜日1限目	メールアドレス		

授業科目	保育内容総論【演習】		開講時期	前期
担当教員	原 陽一郎		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、幼稚園教育要領、保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の「保育目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連づけ、保育の全体的な構造を理解することが目的である。また、保育の基本は「生活」や「遊び」であることを、体験を通して認識し、深めていく。			
到達目標	①保育の全体構造と保育内容5領域との関係を説明できる。 ②幼稚園教育、保育所保育の歴史の変遷から、現在実施されている保育の多様性の理由と問題点を具体的に述べる。 ③「遊び」の重要性を説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 初 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 担当教員の中には保育士としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	幼稚園教育要領における保育内容のとらえ方	要領・指針の総則を読む		
第2回	保育所保育指針における保育内容のとらえ方	要領・指針の総則のポイントを理解する		
第3回	認定こども園教育・保育要領における保育内容のとらえ方③	要領・指針の第2章を読む		
第4回	子どもの認識や思考、動きを理解する① 鬼ごっこなど	遊びを通して鬼ごっこで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第5回	子どもの認識や思考、動きを理解する② 伝承遊び	遊びを通して伝承遊びで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第6回	子どもの認識や思考、動きを理解する③チャンバラ、コーン倒しなど攻撃的集団あそびの重要性について	攻撃性を合法的に発散する遊びで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第7回	教材から生活力を育てる① 三つ編み縄跳びづくり	布の特性などを知ることなど教材から生活力を高める方法を考えてまとめる。		
第8回	教材から生活力を育てる② 雑巾縫い	生活の意識を高めるための教材としての活用法について考え、まとめる		
第9回	情報機器の活用法と課題	配付された資料を読み、情報機器の活用法と課題についてまとめる		
第10回	保育実践の動向① 3歳未満児	要領・指針の2017年改訂の内容についてまとめる		
第11回	保育実践の動向② 環境設定を重視した保育の留意点	どのような形態の保育があるのか、調べておくこと		
第12回	保育実践の動向③ 長時間保育	長時間保育について配付された資料を読む		
第13回	保育実践の動向④ 特別支援教育	特別支援教育について配付された資料を読む		
第14回	保育を評価する方法について	要領・指針の保育の評価の項目を読む		
第15回	小学校教科とのつながり	学習指導要領を読む		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	90% 各講義内容についてのまとめ・基本的事項について			
小テスト等	なし			
成果発表	0%			
受講態度他	10% 質問などの受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	とくに、遊びや生活についての講義には積極的な態度で参加すること。			
教科書	清水陽子・森真理編著 「共に育つ保育を探究する保育内容総論」 建帛社 2019			
指定図書	なし			
参考図書	幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』同文書院 (2009)			
オフィスアワー	木曜日1限目	メールアドレス		



授業科目	保育の心理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	S. Kumar		単 位	2
授業の目的と概要	人間の成長の過程の理解。子どもの発達と保育の心理学として、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期の理解。それぞれの発達段階で運動の発達、知能の発達、情緒や社会性の発達、言葉発達などを理解する。愛着の形成や対人関係などの関わりを含めた保育内容の知識を身につける。保育という職業的な自立につながる指導の自己評価などを理解する。			
到達目標	人間の成長として、発達の段階、学習の理論、子どもとの信頼関係、愛着の形成、人格の要因や行動を理解し、保育と心理学の指導要録を適切に理解し、指導に関する自己評価力を身につけることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼（3）-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	保育の心理学の内容の紹介とオリエンテーション	保育の心理学の内容学修		
第2回	保育の心理学の範囲と応用	子どもの成長の見方の学修		
第3回	乳児期の運動の知能の発達理解	乳児期の発達のプリントの事前・事後学修		
第4回	反射運動	子どもの成長に反射の役割の事前学修		
第5回	乳児期の反射の種類のICT活用をした学習	反射が消えるのはどんな意味の事後学修		
第6回	乳児期の発達チェック	あやしたら笑顔ができると発達の理解		
第7回	幼児期の 発達チェック	電話で交互に話ができることの発達理解		
第8回	保育実践の評価	保育所・幼稚園の指導要録の事前・事後学修		
第9回	幼児期の運動と情緒の発達	子どもの発達と環境		
第10回	幼児期の知能と言葉の発達	自我の芽生えについての事後学修		
第11回	幼児期の社会性の発達	人との相互的関わり方の理解の事後学修		
第12回	ピアジェの発達段階のアクティブ・ラーニングによる学習	ピアジェの研究歴を調べる		
第13回	学習のメカニズム	パブロフやスキナーの理論、スモール・ステップ原理学習の理解		
第14回	愛着の形成と信頼感の獲得	安全基地はどのような意味の理解と必要性		
第15回	全体の総まとめ	子どもの発達、保育と、心理学の総合理解		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	筆記試験 なし			
レポート	100％ レポート提出			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	Teamsの積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の際に指示します。			
教科書	指定しない（資料配布）			
指定図書	なし			
参考図書	井戸ゆかり編著 園田巖・紺野道子『保育の心理学I－実践につなげる、子どもの発達理解』 萌文書林			
オフィスアワー	火・木の昼休み（12:30～13:00）	メールアドレス		

授業科目	法学【講義】	開講時期	後期
担当教員	大谷 美咲	単位	2
授業の目的と概要	私たちは、一人で生きていくことはできない、常に社会に所属し社会生活をおこなうのである。そして、人が社会生活をおこなう限り、様々なトラブルが生じ、様々なルールが必要になることになる。法律とは社会のルールの一つであり、社会生活をおこなう上で不可欠なものである。この授業では、現代社会で問題となっている法律問題を幅広く概観し、それぞれの分野の法的ルールを説明できるようになることを目的とする。		
到達目標	<p>①毎回の講義では、中心となるテーマを挙げ説明するので、テーマに関する多様な意見を踏まえた上で、自分なりの考えを確立し説明できるようになること。</p> <p>②毎回の講義で説明する各々の領域についての法制度の基本をまとめ、説明できるようになる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 ガイダンス	この講義では、どういうことを扱い何を学ぶのでしょうか？ 法学の知識が必要なのはなぜ？	プリント、ノートの整理	
第2回 憲法の全体構造	憲法は何を守る法律なのか？ 憲法の目的と全体構造について知ろう。	特に憲法の全体構造を説明できるようにすること。	
第3回 人権論	特に、現代社会で問題となるプライバシー、個人情報保護などの新しい分野についての考察をおこなう。	プライバシー権の法的根拠と情報プライバシー権についてまとめる	
第4回 人権論	平等権について	平等とは何か？について多様な視点から説明できるようにすること	
第5回 犯罪と刑罰	刑罰の本質とは？ 死刑制度について	刑罰の本質を理解したうえで、死刑制度を論ずることができるようにする	
第6回 家庭生活と法	多様な家族観に伴う法の解釈について	非嫡出子相続分違憲判決について特に復習すること	
第7回 家庭生活と法	相続と遺言	遺言はなぜ必要なのかについて考えてみる	
第8回	今までの復習及び中間テスト	試験問題についてノート・プリントで確認すること。	
第9回 医療と法	生命倫理・尊厳死・安楽死をめぐる自己決定権について	尊厳死をめぐる事例を調べてみる	
第10回 医療と法	中絶は女性の自己決定権か？ 脳死臓器移植法の法的考察	各テーマについてそれぞれ自分の考えをまとめるようにすること	
第11回 職場と法	労働基本権、労働3法について(働く上での基本ルールについて)	時間外労働のルール、懲戒処分のルールについて説明できるようにしておく	
第12回 職場と法	労働組合法分野(不合理な扱いを受けたら、どうしたらいい?)	プリント、ノートの整理 労働組合とは何か 組合活動、争議活動について知る	
第13回 裁判員制度と刑事裁判の流れ		プリント、ノートの整理をおこなうこと。裁判員制度について調べておく	
第14回 政治と法	政治・行政腐敗の原因と対策は？	このテーマについて自分の言葉でまとめておくこと	
第15回	全体の復習及び試験範囲の確定	試験勉強	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% (期末レポート)		
小テスト等	30%		
成果発表	なし		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントの整理、板書の整理を着実におこなって下さい。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	授業中にその都度提示します。		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	法律学(国際法を含む)【講義】	開講時期	後期
担当教員	高木 佳世子	単 位	2
授業の目的と概要	1. 法とは何か、法の基礎知識を学び、私たちの生活と法律のかかわりについて考える。 2. 「六法」といわれる法律と労働法、社会保障法について概要を理解する。 3. 国際法について概観する。		
到達目標	1. 憲法、行政法、民法、商法、刑法、訴訟法、労働法、社会保障法の趣旨目的について説明できる。 2. 国際法で登場する専門用語のうち基礎的なものについて正しく説明できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア(3)-②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。 心(1)-①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 心(3)-②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初(3)-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 幼(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 幼(3)-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	社会において法が果たしている役割	配付資料を見直して復習する。	
第2回	裁判による権利実現・被害回復とは	配付資料を見直して復習する。	
第3回	刑法	配付資料を見直して復習する。	
第4回	刑事訴訟法	配付資料を見直して復習する。	
第5回	民法①(財産法)	配付資料を見直して復習する。	
第6回	民法②(家族法)	配付資料を見直して復習する。	
第7回	商法	配付資料を見直して復習する。	
第8回	憲法	配付資料を見直して復習する。	
第9回	労働法	配付資料を見直して復習する。	
第10回	社会保障法	配付資料を見直して復習する。	
第11回	国際法(国際法はどのような形で存在するか)	配付資料を見直して復習する。	
第12回	国際法(国際紛争の解決)	配付資料を見直して復習する。	
第13回	国際法(国家管轄権)	配付資料を見直して復習する。	
第14回	国際法(国際人権法)	配付資料を見直して復習する。	
第15回	国際法(戦争と国際法)	配付資料を見直して復習する。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	あり(100%)		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。		
教科書	なし(資料を配付します)		
指定図書	①谷口貴都・松原哲編著『基礎からわかる法学[第2版]』成文堂、②渡部茂己・喜多義人編『国際法[第2版]』弘文堂		
参考図書	講義の際に指示します。		
オフィスアワー	水曜4限	メールアドレス	

授業科目	法律学概論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	高木 佳世子		単位	2
授業の目的と概要	1. 私たちの生活と法のかかわりについて知り、権利擁護の意義を学ぶ。 2. 憲法、民法の基礎知識を身に着ける。			
到達目標	1. 社会福祉で求められる援助は人が人権・権利を保障されながら生きるための援助であり、援助を受けられること自体も人権であることを説明できる。 2. 1.の前提としてどのような人権・権利が保障されているのか、また、それらが侵害されている状況に気づくことができる。 3. 社会福祉サービスの利用に関する法律関係を理解する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は弁護士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	社会福祉の担い手が法学を学ぶ意味	第1章第3節・第4節、第2章第1節1を読む。		
第2回	憲法(1) 日本国憲法の基本原理	第3章第1節を読む。		
第3回	憲法(2) 包括的基本権	第3章第2節1・2を読む。		
第4回	憲法(3) 法の下での平等	第3章第2節3を読む。		
第5回	憲法(4) 精神的自由権(前半)	第3章第2節4を読む。		
第6回	憲法(5) 精神的自由権(後半) / 経済的自由権	第3章第2節5を読む。		
第7回	憲法(6) 社会権(前半)	第3章第2節6を読む。		
第8回	憲法(7) 社会権(後半) / 人権享有主体 / 公共の福祉 / 私人間効力	配付資料を読む。		
第9回	憲法(7) 統治機構 / 権利擁護の意義と必要性	配付資料を読む。		
第10回	民法(1) 財産法①財産法の主体 / 契約の有効要件	第4章第1節2・3を読む。		
第11回	民法(2) 財産法②代理	第4章第1節4を読む。		
第12回	民法(3) 物権	第4章第2節を読む。		
第13回	民法(4) 契約	第4章第3節1・2を読む。		
第14回	民法(5) 債務不履行と不法行為 / 消滅時効	第4章第3節5(1)・第4節、第1節5を読む。		
第15回	前期のまとめ	課題についてまとめ、提出。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% (第15回で提示する課題)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習より復習に力を入れ、テキストと配付資料をもとに自分なりにノートにまとめるなどすると力がつきます。 やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	『社会福祉学習双書2020 法学』（全国社会福祉協議会、2020年）の主に第1部を使用。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜4限	メールアドレス		

授業科目	法律学概論Ⅱ【講義】	開講時期	後期
担当教員	高木 佳世子	単位	2
授業の目的と概要	1. 法律学概論Ⅰに引き続き、民法の概要、そして行政法の概要を学ぶ。 2. 成年後見制度と日常生活自立支援事業について詳しく学ぶ。 3. 権利擁護活動の全体像について学ぶ。		
到達目標	1. 成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要を正確に説明できる。 2. 行政法の基礎的な知識を理解できる。 3. 権利擁護活動が社会の中でどのように行われているのかについて全体像を説明できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	福(3)-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は弁護士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 消費者保護法制		第1章第1節3(1)を読む。	
第2回 民法(7)親族法①親族の範囲、婚姻、親子		第1章第5節1(1)(2)2を読む。	
第3回 民法(8)親族法②離婚、扶養		第1章第5節1(3)、4、第2部第1章第5節2を読む。	
第4回 民法(9)相続法①法定相続人、法定相続分、相続放棄		第1章第5節5(1)～(3)を読む。	
第5回 民法(10)相続法②遺言、遺産分割		第1章第5節5(4)、6、7を読む。	
第6回 成年後見制度(1)成年後見		第2部第1章第1節を読む。	
第7回 成年後見制度(2)保佐、補助		第2部第2節・第3節を読む。	
第8回 成年後見制度(3)申立て		配付資料を読む。	
第9回 成年後見の最近の動向／成年後見制度利用支援事業		第2部第1章第6節・第7節を読む。	
第10回 日常生活自立支援事業／成年後見と日常生活自立支援制度の映像視聴		第2部第2章を読む。	
第11回 行政法(1)行政法総論		第1部第5章第1節1・2を読む。	
第12回 行政法(2)行政活動		第1部第5章第1節3・4を読む。	
第13回 行政法(3)行政上の不服申立て		第1部第5章第2節1を読む。	
第14回 行政法(4)行政事件訴訟法／国家賠償法		第1部第5章第2節2・3を読む。	
第15回 後期のまとめ		配付資料を読む。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	100%		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	復習に力を入れ、テキストと配付資料をもとに自分なりのノートを作成するようにすると力がつきます。 やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。		
教科書	『社会福祉学習双書2020 第13巻 法学 権利擁護と成年後見制度／更生保護制度』（全国社会福祉協議会、2020年）後の年度で司法福祉論を履修する場合、教科書として使用する可能性がある。		
指定図書	なし		
参考図書	講義の際にお伝えします。		
オフィスアワー	水曜4限	メールアドレス	

授業科目	ボランティア・NPO論【講義】		開講時期	後期
担当教員	山下 朋子		単位	2
授業の目的と概要	本講義ではボランティアの概念、歴史といった基礎的学習とともに、グループワークやフィールドワークを通してボランティア組織の理解や実践的な視点や技術を身につけ、マイクロ・メゾ・マクロの視点でボランティアについて理解できるようになることを目的としている。			
到達目標	①ボランティアの理念、活動のあゆみと今日的意義・役割を述べることができる。 ②ボランティア活動参加における基本的知識・技術を述べることができる。 ③ボランティア活動に参加し、実施したボランティア活動の内容や意義、課題について述べるができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション		配布した資料による復習	
第2回	ボランティアの概念		配布した資料による復習	
第3回	ボランティアの歴史		配布した資料による復習	
第4回	フィールドワーク①		配布した資料による復習	
第5回	フィールドワーク②		配布した資料による復習	
第6回	フィールドワーク③		配布した資料による復習	
第7回	フィールドワークの振り返り		配布した資料による復習	
第8回	ボランティア活動の必要性について 貧困		配布した資料による復習	
第9回	ボランティア活動の必要性について 児童福祉		配布した資料による復習	
第10回	フィールドワーク④		配布した資料による復習	
第11回	フィールドワーク⑤		配布した資料による復習	
第12回	フィールドワークの振り返り		配布した資料による復習	
第13回	ボランティア活動の必要性について 障がい者福祉		配布した資料による復習	
第14回	ボランティア活動の必要性について 災害福祉		配布した資料による復習	
第15回	全体のまとめ		配布した資料による復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	20% フィールドワークの実践発表			
受講態度他	30% 授業に対する意欲や受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	今年度は、オンライン授業を中心に実施します。土曜日等にボランティアの参加などのフィールドワークも行います。主体的・意欲的な参加が必要です。			
教科書	使用しない 資料を配布			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で随時紹介			
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	ボランティア論【講義】		開講時期	後期
担当教員	上村 真仁		単位	2
授業の目的と概要	<p>この講義は、筑女ネットを使った講義動画配信とライブチャットを用いた遠隔講義を基本としています。一部、Teams を使ったグループワーク、外部講師によるレクチャー、成果発表会を行います。この講義では、社会問題の解決を図る上で益々、その重要性が増している「ボランティア」や、それらの組織的な活動体としての「NPO(Non profit organization: 非営利 組織)」に対する理解を深めることを目的としています。</p> <p>具体的には、「無償性」の積極的な意味や社会での役割への理解を深めることで、人生をより良く生きるための選択肢として「ボランティア」を捉えることが出来るようになる。また、実際の地域を取り上げ、その課題解決に寄与するリモートボランティアのアイデアを検討し、グループで協力して実践する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「ボランティア」の特徴や社会での役割を理解し、説明することができる。</li> <li>自己実現と社会貢献を両立するボランティア活動を企画・実施することが出来る。</li> <li>グループ討議や体験を通じて、ボランティアに対する自分の考えを発表することが出来る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」  (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は民間シンクタンクや環境NGOでの官公庁の政策立案や地域での実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ボランティア論について	ボランティアの経験、イメージを考えてみましょう。		
第2回	ボランティア活動の理解	ボランティアの特徴にはどのようなものがあるか調べてきてください。		
第3回	ボランティア社会の背景	身近な地域の課題とその社会背景について考えてみましょう。		
第4回	ボランティアとNPO	ボランティアとNPOの違いについて考えてみましょう。		
第5回	NPOの理論	NPOの社会的な意義について説明してみましょう。		
第6回	NPOの法と制度	法律に位置づけられることの意義を考えてみましょう。		
第7回	活動の現場を知る「まほろば自然学校」	自分の特技を生かしたボランティア活動を考えてみましょう。		
第8回	行政との連携	行政との協働のメリットについて考えてみましょう。		
第9回	企業とNPO	企業のCSR事例について調べてみましょう。		
第10回	社会的企業	自分の関心のある社会的企業について調べてみましょう。		
第11回	地域の課題を知る「グリーンツーリズム現場報告」(Teamsでのライブ授業)	コロナ禍による地域の影響について考え下さい。		
第12回	リモートボランティア企画(グループワーク)(Teamsでのライブ授業)	遠隔地にいながら農村地域の活性化の為に出来ることを考えて来ててください。		
第13回	NPOのマネジメント	グループで計画したボランティアを実践してみましょう。		
第14回	リモートボランティア実践成果発表会(Teamsでのライブ授業)	他のグループの発表を聞き、相互評価を行ってください。		
第15回	NPOで働くということ	体験して、良かった点、悪かった点、自分自身の変化をまとめてください。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	40% 授業中の課題や講義内容からの小テストを実施する。			
成果発表	グループでのリモートボランティア企画 30%(グループワーク 10%、企画・発表 20%)			
受講態度他	30%(事前課題 15%、事後の課題 15%)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>この講義は、筑女ネットを使った遠隔講義を基本としています。一部、Teams を使った外部講師によるレクチャー(第11回)、グループワーク(第12回)、成果発表会(第13回)を行います。具体的には、コロナ禍で影響を受けている地域のNPO等を支援するために、自分たちで出来るリモートボランティアを企画してもらった実践型の授業とします。積極的にグループでのディスカッションに参加しグループのメンバーに迷惑をかけないようにして下さい。ボランティアの企画提案について、優れたものについては講義終了後に地域と連携した実践に取り組むことが可能です。</p>			
教科書	なし			
指定図書	早瀬昇・水谷綾・永井美佳・岡村こず恵 他 「テキスト市民活動論」 大阪ボランティア協会 早瀬昇、筒井のり子 「ボランティアコーディネーション力」 中央法規			
参考図書	金子郁容「ボランティアもうひとつの情報社会」 岩波新書、西條剛央 「人を助けるすごい仕組み」 ダイアモンド社			
オフィスワー	月曜日3限、水曜日4限	メールアドレス		

授業科目	ポピュラー文化と九州【講義】		開講時期	後期
担当教員	太田 梢		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は「ポピュラー文化」と「九州」を大きなキーワードとして、主に現代文化の基本事項を各回のテーマにそってローカルな視点から理解していきます。</p> <p>ただし、単純に九州内の文化検証に留まることなく、日本文化及び他／多文化との比較検討をすることによって、改めて九州におけるポピュラー文化を理解することを目的としています。</p> <p>受講者は本講義を受けることにより、若者文化に対する基礎的な知識を習得すると同時に、他／多文化及び自文化理解も深めます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ポピュラー文化について自身の考えを述べることができる。</li> <li>2. 九州の文化について、その歴史的基礎から現代文化までの流れを説明できる。</li> <li>3. 他／多文化と自文化の比較検討をおこなうことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 イントロダクション 授業の進め方、成績評価方法などの説明		授業で伝えます。		
第2回 ポピュラー文化とはなにか 現在主に社会学の中で言われる定義を歴史とともに概説する		予習・復習、前の授業で伝えます。		
第3回 映画と物語論 九州を舞台とした映画における地域性と普遍性を、映画の中に埋め込まれた物語の機能から考える		予習・復習、前の授業で伝えます。		
第4回 テレビドラマとオーディエンス オーディエンス理論をローカルテレビから考える		予習・復習、前の授業で伝えます。		
第5回 ポピュラーミュージック (1) J-POPの成立について欧米文化との比較とともに概説する		予習・復習、前の授業で伝えます。		
第6回 ポピュラーミュージック (2) 主に福岡の音楽事情について前回の内容もふまえて考える		予習・復習、前の授業で伝えます。		
第7回 アニメとオリエンタリズム 九州発祥のアニメにみえる「オリエンタリズム」について、解説する		予習・復習、前の授業で伝えます。		
第8回 マンガとアメリカ社会 日本のanimeとアメリカのアメコミの比較分析をおこなう		予習・復習、前の授業で伝えます。		
第9回 文学、フィクションとノンフィクション ケータイ小説、ライトノベルと日本の若者について概説する		予習・復習、前の授業で伝えます。		
第10回 メディアと公共性 SNS社会における文化のローカル性とグローバル性について解説する		予習・復習、前の授業で伝えます。		
第11回 ファッションと記号 主に福岡のファッション文化について、その特徴と歴史を比較文化的立場から考える		予習・復習、前の授業で伝えます。		
第12回 お笑い 文化による「笑い」の違いを検討する		予習・復習、前の授業で伝えます。		
第13回 観光と文化 (1) 観光人類学の立場にたって「観光」と「文化」の関係を概説する		予習・復習、前の授業で伝えます。		
第14回 観光と文化 (2) 九州における観光文化の事例を紹介する		予習・復習、前の授業で伝えます。		
第15回 総論 まとめ及び試験についての説明をおこなう		前の授業で伝えます。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% 詳細は授業中に伝えます。			
レポート	なし			
小テスト等	40% 各講義のはじめにアンケート形式で前回の内容と該当回のテーマに関する質問を受講者に行います。			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 積極的な自主性を重んじます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>日常的に新聞やメディア情報のチェックを行ってください。</p> <p>授業とは関係のない私語、携帯電話の使用、及び大学生のマナーに反した行動をとる場合は受講を断る場合があります。</p> <p>特別の理由がなく計6回以上欠席があった場合には、受講が無効となります。</p> <p>また、理由がある場合には事前事後、必ず伝えて下さい。</p>			
教科書	なし。オリジナルのプリントを配布します。			
指定図書	遠藤英樹『現代文化論 社会理論で読み解くポップカルチャー』ミネルヴァ書房2011			
参考図書	難波江和英・内田樹『現代思想のパフォーマンス』光文社2004 他 各回に参考図書を紹介します。			
オフィスアワー	mailもしくは授業後に事前アポイントをとってください。	メールアドレス		



授業科目	マーケティングリサーチ【講義】		開講時期	前期
担当教員	大橋 健治		単位	2
授業の目的と概要	<p>企業の目的は顧客の創造である。この命題に真っ向から取り組むのがマーケティングの本質的な役割である。企業に就職する学生はもちろん、行政機関に就職する学生も、この命題を強く認識しておく必要がある。本授業ではマーケティングリサーチの方法を学ぶことを目的とするが、学生個人が理論を学んだ後に、商品開発の仮説を立案し、それを検証する為に市場分析を行い、具体的な商品開発提案を行う、といった実践を行う。つまり、理論と実践のキャッチボールを行うことによって効果的な学習を行う。本年度は遠隔授業によって実施することになるが、「調べ学習」といわれるアクティブ・ラーニングの手法は継続する。調べ学習によって、同じ本を読み資料映像を見ても、学生個人々の構想する事例についてはさまざまであり、学生同士の優我比較を実感して成長につなげていってほしい。</p>			
到達目標	<p>1. マーケティングリサーチの方法を、自らが知る事例を用いて説明することができる。 2. マーケティングリサーチの手法を用いて、商品開発計画を立て、それをプレゼンテーションすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。          &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。          この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。          関連する科目；マーケティング概論など</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業の概要説明		シラバスの内容の詳解、自己紹介シートの提出		
第2回 「マーケティング」と「マーケティングリサーチ」の関係		指定のサイトの閲覧と質疑応答		
第3回 「マーケティング」と「マーケティングリサーチ」の関係 事例研究		NET上で検索できる商品開発の事例から当該テーマに相当するものを報告		
第4回 マーケティングリサーチの種類		指定のサイトの閲覧と質疑応答		
第5回 マーケティングリサーチの種類 事例研究		NET上で検索できる商品開発の事例から当該テーマに相当するものを報告		
第6回 調査計画の立て方		指定のサイトの閲覧と質疑応答		
第7回 調査計画の立て方 事例研究		NET上で検索できる商品開発の事例から当該テーマに相当するものを報告		
第8回 調査仮説の立て方		指定のサイトの閲覧と質疑応答		
第9回 調査仮説の立て方 事例研究		NET上で検索できる商品開発の事例から当該テーマに相当するものを報告		
第10回 調査対象者の決め方		指定のサイトの閲覧と質疑応答		
第11回 調査対象者の決め方 事例研究		NET上で検索できる商品開発の事例から当該テーマに相当するものを報告		
第12回 商品開発提案についての質疑応答（マーケティングリサーチの種類）		自らの商品開発テーマについて当該テーマに関する対処法を質疑応答する		
第13回 商品開発提案についての質疑応答（調査計画の立て方）		自らの商品開発テーマについて当該テーマに関する対処法を質疑応答する		
第14回 商品開発提案についての質疑応答（調査仮説の立て方）		自らの商品開発テーマについて当該テーマに関する対処法を質疑応答する		
第15回 商品開発提案についての質疑応答（調査対象者の決め方）		自らの商品開発テーマについて当該テーマに関する対処法を質疑応答する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 商品開発提案と題したレポートの提出			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 調べ学習への貢献、クラス討議への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように、本授業では調べ学習を導入する。調べ学習を成立させる大前提は、個々の学生による責任をもった授業外学修と、教員との相互確認（質疑応答）である。</p>			
教科書	PDFデータの提供、NET上のマーケティングリサーチに関するサイトを閲覧する			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日の14：00～17：00	メールアドレス		

授業科目	マイノリティを生きる【講義】		開講時期	後期
担当教員	宇治 和貴・赤枝 香奈子・五十嵐 ゆり		単位	2
授業の目的と概要	<p>現在社会のなかで「マイノリティ」と呼ばれる人々がいる。これらの人々は「マイノリティ」ゆえの様々な苦勞を強いられている。また、同時に苦しみだけではなく喜びも感じている。これらの人々を正しく理解し、ともに生きていく同朋としての認識を育てることを目的とする。</p> <p>ここでは特に「マイノリティ」と呼ばれる当事者の方の話や関係者の話を聞き、自分自身の問題や社会の問題と関連付けながら考察を深めていく。</p>			
到達目標	<p>マイノリティについて正しく理解し説明することができる。</p> <p>自分自身と関係付けて、その人々を同朋と考えていくことができる。</p> <p>マイノリティの人々の現在置かれている社会的な立場を理解できる。</p> <p>無意識のうちに差別構造を支えている、自分の存在にくづくことができる。</p> <p>「包摂」をうたわねばならない「排除」を前提とした社会の在り方に気づくことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には仏教福祉活動の実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション・今回の講師詳細について	感想レポート		
第2回	マイノリティとはなにか？	感想レポート		
第3回	障害について（1） 障害とは	感想レポート		
第4回	障害について（2） 発達障害	感想レポート		
第5回	当事者の話（1）ダイバーシティという考え方について	感想レポート		
第6回	当事者の話（2）肢体不自由の方	感想レポート		
第7回	当事者の話（3）弱視の方	感想レポート		
第8回	ソーシャルインクルージョンについて	感想レポート		
第9回	当事者の話（4）LGBTについて、セクシュアルマイノリティ当事者の方	感想レポート		
第10回	当事者の話（5）トランス男性として生きる先輩	感想レポート		
第11回	支援者の話（1）同成婚訴訟などの弱者支援の弁護士さん	感想レポート		
第12回	差別について	感想レポート		
第13回	支援者の話（2）平和学を研究している方	感想レポート		
第14回	支援者の話（3）ホームレス支援をしている方	レポート		
第15回	まとめ	レポート		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% テーマについては講義中にお知らせします			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>当事者や関係者のお話を聞くことが多くなると思いますが、ここでのお話は他では話さないでください（守秘義務）。</p> <p>また3人で担当しますが外部から話していただける方との関係でシラバス通りに進まないことが予想されます。</p> <p>講師の順番などについての詳細は、初回のオリエンテーション時に紹介します。</p> <p>講義に来てくださる当事者の方の都合で、予定が変更になることもあります。ご了承ください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	「はじめて学ぶLGBT—基礎からトレンドまで—」石田仁 ナツメ社			
参考図書	「教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ」風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子 法律文化社			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	マスコミュニケーション論【講義】		開講時期	前期
担当教員	山口 一雄・永渕 秀昭・松田 幸三		単 位	2
授業の目的と概要	<p>マスコミュニケーション全般に好奇心を持って接し、理解を深める。新聞、放送、出版、映画などに加えてインターネットの普及が加速している。メディアの歴史を知り、未来を予測する中で、自身の立ち位置を考える。情報の体得方法や、メディア・リテラシー＝活用術は、社会を生き抜く力、適応力、そしてコミュニケーション能力を磨く。</p> <p>元RKBの山口は営業や編成、スポーツ中継プロデューサーの経験から、ラジオやテレビの問題点などを指導する。毎日新聞編集委員の松田は社会部記者として福岡、北九州、山口、長崎など一線で長く活動、新聞報道の課題について講じる。番組制作を多く手掛けてきた元RKBの永渕は、番組の作り方や著作権の問題などを通してメディアリテラシーについて考える。</p>			
到達目標	<p>メディア・リテラシーは情報の選択に始まる。溢れる情報から、何を選ぶか、その眼を養う。メディアの動きを学び、メディア活用力の向上を目指す。専門講師の授業で、ニュース取材、編集、紙面化、番組化、放送までを理解することで、マスコミへの関心も深める。マスコミが持つ社会への影響力、世論形成についても考える。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」  日(3)-②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	「ラジオ番組の作り方 ①生ワイド番組」(永渕) ●4月28日から毎週火曜日	パーソナリティー・レポーター・ディレクターの役割。番組企画の立て方		
第2回	「ラジオ番組の作り方 ②ドキュメンタリー&ドラマ」(永渕)	企画の立て方、台本の書き方、取材・編集の仕方		
第3回	「テレビ番組の作り方 生ワイド・ドキュメンタリー・ドラマ」(永渕)	企画の立て方、台本の書き方、取材・編集の仕方		
第4回	「放送と法律Ⅰ 放送基準・著作権法」(永渕)	放送界での法律、及び芸術・学術界の表現に関する法律を知る		
第5回	「社会問題とジャーナリズムⅠ 良識ある社会人になる為に」(永渕)	正しい言葉遣い・社会的問題の考え方・歴史認識の重要性など		
第6回	「マスコミュニケーション発達の歴史」(山口)	マスコミ全般についての考察		
第7回	「電波メディア(ラジオ・テレビ)の歴史」(山口)	テレビ番組視聴		
第8回	「インターネットを考える・不寛容社会とは」(山口)	テレビ番組視聴		
第9回	「メディアと広告代理店」(山口)	テレビ番組視聴		
第10回	「マスコミ・トリビア」(山口)	「オリンピックとメディア」等意外に知らないメディアの周辺事情を学ぶ		
第11回	「事件報道と新聞の責任」(松田)	新聞読解		
第12回	「匿名と実名報道」(松田)	新聞読解		
第13回	「写真の威力と課題」(松田)	新聞読解		
第14回	「新聞の平和報道・8月ジャーナリズムからの脱却」(松田)	新聞読解		
第15回	「権力とメディアの距離」(松田)	新聞読解		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	100%			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>新聞を読む、ラジオ・テレビの番組を視聴する。マスコミに対する感度を高める。世の中の動きに敏感になる。大きなニュースの内容や社会問題について学び、レポートする。各回の授業課題についてのレポートで成績の判定とします。講義終了後に課題レポートは実施しません。</p>			
教科書	筑女ネット上でレジュメ配布			
指定図書	なし			
参考図書	池上彰『ニュースを読む技術』ビジネス社(2010年) 亓英太郎『ジャーナリズム「現」論』世界思想社(2004年)、必要に応じて適宜紹介			
オフィスアワー	講義の前夜	メールアドレス		

授業科目	マスメディアの表現【講義】		開講時期	後期
担当教員	山口 一雄・永渕 秀昭・松田 幸三		単位	2
授業の目的と概要	<p>メディアの表現を学び、情報を理解、租借する能力を高める。情報を選択する能力を身に付ける為に、メディアが持つ社会への影響力について考える。情報の受け手としてだけでなく、表現方法を学び、情報発信を体験することで、マスメディアの可能性や問題点を知る。</p> <p>元RKBの山口は営業や編成、スポーツ中継プロデューサーの経験から、ラジオやテレビの問題点などを指導する。毎日新聞編集委員の松田は社会部記者として福岡、北九州、山口、長崎など一線で長く活動、新聞報道の課題について講じる。番組制作を多く手掛けてきた元RKBの永渕は、番組の作り方や著作権の問題などを通してメディアリテラシーについて考える。</p>			
到達目標	マスメディアの情報発信を体験することで、メディア・リテラシーの向上を目指す。記事を書き、番組構成を考え、コマーシャルを研究することから、メディアの課題も見えてくる。こうした体験から表現力を磨き、受け手としての眼力を養う。メディアに対する積極的な姿勢も身に付ける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>日(3)-②-1 日本語・日本文学・日本文化の学びに基づいた、豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	「ラジオ番組の作り方」(永渕)	番組企画の立て方と出演者の育成法を紹介		
第2回	「映画から学ぶ社会・人生」(永渕)	テレビドラマの原点といえる映画の名作から、時代性や人生を学ぶ		
第3回	「放送と法律」～景品表示法・薬事法他～(永渕)	消費者を守るCM&ショッピング番組の調査方法を知る		
第4回	「社会問題とジャーナリズム」～良識ある社会人となる為に～(永渕)	偏向報道・プライバシー侵害・フェイクニュース&広告の現状を考察する		
第5回	「マスメディアから知る現代日本社会」～世間と空気の考察～(永渕)	日本独特の「世間」「空気」について考察する		
第6回	「表現の自由とは 過去と現在 世界と日本」(松田)	新聞読解		
第7回	「新聞投書欄の充実 投書を書いてみる」(松田)	新聞読解		
第8回	「通報者保護の重要性」(松田)	新聞読解		
第9回	「紙面とデジタル化」(松田)	新聞読解		
第10回	「スクープと必要とされる報道」(松田)	新聞読解		
第11回	「コマーシャルの表現方法」(山口)	TV-CMを視聴し、表現パターンを考察		
第12回	「ラジオコマーシャルを作ってみる」(山口)	CM制作		
第13回	「スポーツ中継の問題点」(山口)	諸外国との比較		
第14回	「ラジオドラマを学ぶ」(山口)	ドラマ台本の編集		
第15回	「ドキュメンタリー番組制作の応用」(山口)	結婚披露宴での友人スピーチ文を作ってみる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	100%			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	メディアの情報発信者として、情報の作成体験を重要な目標とする。作成に当たって、情報収集を通じて、メディアに近づく。新聞購読の大切さを含めてメディア接触の必要性と逆に危険性も理解する。			
教科書	レジュメ配布			
指定図書	なし			
参考図書	ウォルター・リップマン『幻の公衆』柏書房(2007年) 原寿雄『ジャーナリズムの可能性』岩波新書(2009年)、必要に応じて適宜紹介			
オフィスワー	講義の前後	メールアドレス		

授業科目	マンガ・アニメ論【講義】		開講時期	前期
担当教員	小山 昌宏		単 位	2
授業の目的と概要	<p>1. アニメーションの発明から、日本で独自に発展した「アニメ」の原理、歴史、文化現象について理解する</p> <p>2. 第1回～2回にて、アニメーションの発明、その原理、発展の歴史について学び、第3～5回にて、戦後日本のアニメーションの両軸である「虫プロ」と「東映動画」の歴史、手塚治虫と宮崎駿に焦点をあて、第6～13回にて、アニメメディアの特性を課題別に検証することでアニメに関する基礎知識を身に付け、最後に第14～15回にて、メディアミックスの成功事例としての「うた☆プリ」と「デジタルアニメ」の可能性について理解する</p> <p>3. 具体的には、講義前の教科書による予習、講義を受けた後のデジタル「資料」による復習、リアクションペーパーまとめによる復習（振り返り）を踏まえ、立体的に講義内容を理解する</p>			
到達目標	<p>1. アニメーションの原理、その発展から日本のアニメーションへの変遷について説明することができる。</p> <p>2. アニメメディア、アニメ文化の概要について、説明することができる。</p> <p>3. アニメ文化が有する諸問題点を発見し、それについて掘り下げ、考えることができ、その内容について報告することができる。</p> <p>4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、自分独自の「アニメ観」を形成することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>現 (3) -②-3 現代社会で活躍するために求められる特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連科目：サブカルチャー論 メディアと文化</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	漫画と動画 -マンガとアニメーション 2つのメディアの共通性と相違性	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習		
第2回	マンガとアニメ -1950年以前の日本アニメーション史 「なまくら刀」から「トラちゃんのカンカン虫」まで	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習		
第3回	手塚治虫とアニメーション -「虫プロのアニメ」化と実験アニメーション	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習		
第4回	東映動画とアニメ -高畑勲「太陽の王子ホルスの大冒険」にみる「東洋のディズニー」の完成	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習		
第5回	宮崎駿のアニメーション - 「かわいい」と「自然」の妙味が織りなす高揚感	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習		
第6回	映像論 -アニメの映像機能を読む ～「細田守」から「吉浦康裕」作品まで ※	教科書を予習する（第2章：映像論）		
第7回	アニメ史論 -撮影技術、演出、アニメ雑誌の影響について ※	教科書を予習する（第5章：ヒストリー研究）		
第8回	ジェンダー論 -アニメ・キャラクターの性の多様性 「白雪姫」から「草薙素子」へ ※	教科書を予習する（第3章：ジェンダー研究）		
第9回	音声論 -「音声」「音楽」「効果音」の役割について 「蒸気船ウィリー」から「頭文字D」まで ※	教科書を予習する（第4章：サウンド/ヴォイス研究）		
第10回	文学批評理論 -批評視点からアニメを読む 「うる星やつら」から「輪るピングドラム」まで ※	教科書を予習する（第1章：文学理論研究）		
第11回	コンテンツ論 -劇場アニメ、早朝・昼間アニメ、深夜アニメのプロデュース方法について ※	教科書を予習する（第8章：コンテンツ研究）		
第12回	美学・芸術論 -美と汎美の差異について グリモ、新海誠から「まどか☆マギカ」へ ※	教科書を予習する（第7章：アート研究）		
第13回	視聴覚情報論 -映像情報はどのように伝わるのか ～「となりのトトロ」を題材にして ※	教科書を予習する（第9章：オーディオ・ビジュアル研究）		
第14回	アニメ創造・制作論 -「うたの☆プリンスさまっ♪」の魅力を探る	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習		
第15回	アニメ創出過程論 -セルアニメからデジタルアニメ、2D、3Dアニメーションへの進化	レポート作成準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80%（期末レポート） 20%（出席シート：リアクションペーパーの内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 教科書を使用します。教科書の頒布については第1回目の授業内で要領をお話しします。</p> <p>2. この授業では、毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習）</p> <p>3. 第1～5、14～15回はレジュメを配布します。第6～13回は教科書を使用します（※表示）</p> <p>4. すべての授業の資料はPDFを筑女ネットにあげますので復習にやくだてることができます</p>			
教科書	小山昌宏・須川亜紀子編『アニメ研究入門 アニメを極まる9つのツボ』（現代書館）			
指定図書	米村みゆき・須川亜紀子編『アニメ文化 55のキーワード』（ミネルヴァ書房）			
参考図書	津堅信之『日本アニメーションの力-85年の歴史を貫く2つの軸』NTT出版/高橋光輝・津堅信之編『アニメ学』NTT出版			
オフィスアワー	水曜日の昼休み、またはメールにて相談	メールアドレス		

授業科目	南アジア近現代史【講義】		開講時期	後期
担当教員	喜多村 百合		単位	2
授業の目的と概要	今世紀最後の大国と呼ばれ、空前の経済発展をするインド。現在のインド社会を理解するには、南アジアの歴史、特に近現代期を踏まえることが必須である。ムガル帝国支配の洗礼を受け、その後のイギリスの植民地統治を通じ受容した「近代」が、フラット化したグローバル世界で頭角を現すインド世界の歴史的裏づけに他ならない。また現在社会問題化する宗教対立、カーストやジェンダー問題は、この時期に再編・固定化された「創られた伝統」から生じているとさえ言われる。多角的なインド世界の諸特徴を、歴史過程を通して理解することが、この授業のねらいである。			
到達目標	①イギリスのインド植民地統治の流れと特徴を説明できる。 ②植民地支配期に「創られた」ヒンドゥー教と宗派対立、ジェンダーやカースト問題の歴史的背景を説明できる。 ③ガンディーの非暴力・不服従運動の特徴と現代的意義を説明できる。 ④その他現代インド社会・文化の諸特徴について、歴史的背景から説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	導入：豊富化し変化する「過去」へのまなざし	配布プリント 参考図書①第一章		
第2回	前近代の南アジア世界：古代、中世、近世	配布プリント 参考図書①2～4章		
第3回	近代Ⅰ：ヨーロッパ勢力の進出とムガル帝国の盛衰	配布プリント 参考図書①5章前半		
第4回	近代Ⅱ：イギリスの介入と地方勢力の台頭	配布プリント 参考図書①5章後半		
第5回	近代Ⅲ：イギリス植民地統治開始と政治経済変化	配布プリント 参考図書①6章前半		
第6回	近代Ⅳ：イギリス植民地統治と社会変化―植民都市コルカタ	参考図書①6章前半 指定図書②		
第7回	近代Ⅴ：イギリス植民地統治の社会変化―創られるカースト	参考図書①6章後半		
第8回	近代Ⅵ：イギリス植民地統治と社会変化―ジェンダー	中間レポート		
第9回	現代Ⅰ：第一次独立戦争―大反乱	参考図書①6章後半		
第10回	現代Ⅱ：民族独立運動①国民会議派の請願運動	参考図書①7章前半		
第11回	現代Ⅲ：民族独立運動②M.K. ガンディーの非暴力・不服従運動	参考図書①7章後半 指定図書③		
第12回	現代Ⅳ：インド・パキスタン分離独立―民主主義体制の試練	参考図書①8章		
第13回	現代Ⅴ：国民国家形成―国民会議派一党優位体制	参考図書①9、10章		
第14回	現代Ⅵ：経済発展と国民統合―ヒンドゥー・ナショナリズム	参考図書①11章		
第15回	総括	期末レポート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	―			
レポート	70% (期末レポート50%、中間レポート20%)			
小テスト等	―			
成果発表	―			
受講態度他	30% (リアクション・ペーパー)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日ごろからインドを中心に南アジアについての報道、情報に注意し、その歴史的背景を調べ知識を豊富にすることを期待する。			
教科書	毎回プリントを配布します			
指定図書	①辛島昇『南アジア史』山川出版社、②本田毅彦『インド植民地官僚』講談社			
参考図書	①内藤雅雄他『南アジアの歴史―複合的社会的歴史と文化』（有斐閣アルマ） ②栗屋利江『イギリス支配とインド社会』、山川出版社、小名康之『ムガル帝国時代のインド社会』山川出版社			
オフィスアワー	月3、水2	メールアドレス		

授業科目	南アジア入門【講義】		開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合		単位	2
授業の目的と概要	多様なあり方をする南アジア世界を学ぶ入門編です。前半では、イギリス植民地支配の後に独立した南アジア7カ国地域について、基礎的なデータを学びます。中盤では、インド共和国について歴史・風土・文化・社会について多面的に考察します。同時に経済発展とグローバル化で頭角をあらわす現代インドの可能性や課題、また日本との深まる関係について把握を試みます。さらに終盤では、多角的な南アジア世界におけるブロック化の試みであるSAARC（南アジア地域協力連合）のメンバー国を取り上げその特徴を理解し考察を深めます。			
到達目標	① 南アジアを構成する7カ国地域について基本的な特徴を述べることができる。 ② インド共和国について、地歴や基層文化・社会構造に加え、現代社会が示す可能性・課題、日本との関係について概略的に説明することができる。 ③ 南アジア地域協力連合の取り組みとメンバー国についての基本を述べるができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入：地域研究と文化理解という営み		配布資料		
第2回 南アジア地域概論(1)：構成7カ国の基礎データ①インド・パキスタン・バングラデシュ		プリント復習		
第3回 南アジア地域概論(2)：構成7カ国の基礎データ②ネパール、ブータン、スリランカ、モルディブ		プリント復習		
第4回 インドの地歴／文化／社会(1)：歴史・地理(映像)		配布プリント		
第5回 インドの地歴／文化／社会(2)：基礎データ		配布プリント		
第6回 インドの地歴／文化／社会(3)：宗教		配布プリント		
第7回 インドの地歴／文化／社会(4)：社会構造		配布プリント		
第8回 インドの地歴／文化／社会(5)：女性・ジェンダー・マイノリティ		配布プリント		
第9回 インドの地歴／文化／社会(6)：政治—世界最大の民主主義国		レポート作成		
第10回 インドの地歴／文化／社会(7)：経済—今世紀最後の経済大国		プリント復習		
第11回 インドの地歴／文化／社会(8)：映画に見るインドの教育問題		配布資料		
第12回 インドの地歴／文化／社会(9)：グローバル化の中のインド・南アジア		指定図書⑦7章		
第13回 SAARC南アジア地域連合-連帯の模索(1)：パキスタン		プリント復習		
第14回 SAARC南アジア地域協力連合—連携の模索(2)スリランカ		プリント復習		
第15回 まとめ		期末レポート作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート30%、中間レポート 10%			
小テスト等	-			
成果発表	なし			
受講態度他	60% 出席+リアクション・ペーパー提出			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日ごろから南アジア、特にインドに関しての時事報道や番組、情報に気をつけておくこと。			
教科書	プリント配布			
指定図書	①広瀬崇子他『現代インドを知るための60章』 明石書店 ②栗屋利江他『インドジェンダー研究ハンドブック』			
参考図書	①辛島昇他『南アジアを知る事典』 平凡社 ②金基淑他『カーズトから現代インドを知るための30章』 明石書店 ③佐藤宏他編『もっと知りたいインドⅠ・Ⅱ』			
オフィスアワー	火2木3 (いずれもメールで)	メールアドレス		

授業科目	民俗学Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	森田 真也		単位	2
授業の目的と概要	講義の目的は、日常生活の一コマから、自分たちの文化や社会の基層、そして伝統性と現代性、地域性を考えてもらうことである。民俗学は、現在の人々の日常生活から、歴史性と環境を含んだ私たち自身の思考や実践をとらえていく試みである。それは、今を生きる私たち自身の事を、さらには日本社会の今の在り方を、さまざま課題や問題を踏まえて考えてみるということである。民俗学の対象とする「民俗」とは、歴史学が扱う事件、大きな政治や経済の流れとは違い、民間の人々が先祖より伝承してきた、生活の様式、技術、知識、習慣、思考の全体をさすものである。この講義では、最初に民俗学の考え方、特徴、成立過程を解説する。そして、「現代社会と民俗学」を主なキーワードとして、近現代の女性の生き方、社会的位置づけ、学校の怪談や都市伝説等の口承の文化、さらには精神文化を通して、現代社会を生きる人々の「心」の問題を考察していく。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の文化と向きあいながら、私たちの日常生活を再認識する視点を獲得出来る。</li> <li>・日本文化の特質、伝統性と現代的展開について理解し、説明することが出来る。</li> <li>・自分たちの現代社会にある課題について、現場の人々の生活の在り方に則した視点、幅広い視野で考察出来るようになる。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 「民俗学Ⅱ」、「日本文化演習Ⅰ」、「日本文化演習Ⅱ」、「日本文化研究入門」と関連します。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回：	民俗学の講義を始めるにあたって	授業の目的と内容について理解する		
第2回：	民俗学の考え方	民俗学の考え方について理解する（資料の通読と復習）		
第3回：	民俗学の特徴	民俗学の特徴について理解する（資料の通読と復習）		
第4回：	民俗学の成り立ち：柳田国男と民俗学の成立	民俗学の学史について理解する（資料の通読と復習）		
第5回：	民俗学の性格：民俗学と隣接諸学の関係	民俗学と隣接諸学の関係について理解する（資料の通読と復習）		
第6回：	女性の生活誌（1）：近代から現代の女性の生き方	近代から現代の女性の生き方について考える（資料の通読と復習）		
第7回：	女性の生活誌（2）：女性差別とケガレ・霊力	女性の差別と優位性について考える（資料の通読と復習）		
第8回：	女性の生活誌（3）：ファッションとジェンダー	女性のファッションとジェンダー意識を考える（資料の通読と復習）		
第9回：	口承の文化（1）：学校の怪談を中心に	口承の文化の意味と特徴について考える（資料の通読と復習）		
第10回：	口承の文化（2）：幽霊と日本社会	口承の文化の意味と特徴について考える（資料の通読と復習）		
第11回：	口承の文化（3）：都市伝説と現代社会	口承の文化の意味と特徴について考える（資料の通読と復習）		
第12回：	口承の文化（4）：疫病退散！予言する妖怪「アマビエ」とは何か	口承の文化の意味と特徴について考える（資料の通読と復習）		
第13回：	民俗学とマスメディア：マンガ・アニメとの関わり	民俗学とマスメディアの関わりについて考える（資料の通読と復習）		
第14回：	日本の祭りの現在	祭りの現状と課題について考える（資料の通読と復習）		
第15回：	講義の総括・まとめ	授業全体の復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	70％ 中間レポートと期末レポート（2020年度）。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	30％ 受講態度。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。 2020年度は出席コメントを提出ください。			
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。			
指定図書	無し。			
参考図書	佐野賢治他編『現代民俗学入門』吉川弘文館（1996年）。 小松和彦・関一敏編『新しい民俗学へ』せりか書房（2002年）。			
オフィスワー	メールで適時質問を受け付けます。	メールアドレス		



授業科目	民俗学Ⅱ【講義】	開講時期	後期
担当教員	森田 真也	単 位	2
授業の目的と概要	<p>講義の目的は、民俗学の立場から、旅や観光の文化を考え、さらには近代以降、日本社会が直面してきた課題、現在の都市的生活者や地域社会が抱えもつ課題を、生活者の立場からとらえていくことにある。そのためこの講義では、主に観光と地域振興を題材に、人々の日常生活における実践や思考を捉えていく。そして、歴史性、環境を含んだ私たち自身の思考や文化、社会を読み解いていく。</p> <p>この講義では、最初に日本人の旅の習俗、近代マスツーリズム（大衆観光）の成立について概観する。そして、地域社会と観光の関わり、観光によって破壊されるもの、観光によって創られるものについて、日本、沖縄等のいくつかの地域の事例を取り上げながら解説していく。また、あわせてハワイや台湾、バリ等、海外各地の観光の事例を参照し、日本の文化政策や世界遺産の批判的検討、村おこし・町づくりといった地域振興との関係等も考察していく。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光による地域振興、文化政策を批判的に検証する視点を獲得出来る。</li> <li>・地域社会と観光の在り方を通して、近代以降の日本社会の特質と変化について理解し、説明することが出来る。</li> <li>・自分たちの現代社会にある課題について、現場の人々の生活の在り方に則した視点、幅広い視野で考察出来るようになる。</li> </ul>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>日(2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>日(3)-②-3 日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>「民俗学Ⅰ」、「日本文化演習Ⅰ」、「日本文化演習Ⅱ」、「日本文化研究入門」と関連します。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
第1回：	民俗学の講義を始めるにあたって	授業の目的と内容について理解する	
第2回：	民俗学の特徴について	民俗学の特徴を理解する（資料の通読と復習）	
第3回：	民俗学における観光研究の意義	民俗学における観光研究の意義を理解する（資料の通読と復習）	
第4回：	沖縄の観光化	沖縄の観光化の経緯と現状について考える（資料の通読と復習）	
第5回：	観光と地域社会（1）：竹富島の町並み保存運動と観光化	観光と地域社会の関係を具体的事例から考える（資料の通読と復習）	
第6回：	観光と地域社会（2）：竹富島の種子取祭と観光客	観光と地域社会の関係を具体的事例から考える（資料の通読と復習）	
第7回：	観光と行政と地域振興策の関わり	地域振興と文化政策の課題について考える（資料の通読と復習）	
第8回：	世界遺産と観光化	世界遺産登録と地域振興の課題について考える（資料の通読と復習）	
第9回：	都市的生活者とふるさと観光	観光から地方と都市の関係を考える（資料の通読と復習）	
第10回：	楽園ハワイの成立と民族観光	民族観光のプラスとマイナスについて考える（資料の通読と復習）	
第11回：	ハワイのフラにみる伝統文化の継承と創造	観光と伝統文化の創造について考える（資料の通読と復習）	
第12回：	台湾の「原住民」観光と民族意識	民族観光のプラスとマイナスについて考える（資料の通読と復習）	
第13回：	インドネシア・バリにおける観光と伝統文化の創造	観光と伝統文化の創造について考える（資料の通読と復習）	
第14回：	「鬼滅の刃」巡ってみた：アニメ・マンガとコンテンツ・ツーリズム	アニメ・マンガの「聖地巡礼」考える（資料の通読と復習）	
第15回：	温泉と観光	温泉地と観光の関わりについて考える（資料の通読と復習）	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	無し。		
レポート	70% 期末レポート（2020年度）。		
小テスト等	無し。		
成果発表	無し。		
受講態度他	30% 受講態度。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>基本対面形式の授業となる予定ですが、途中でオンデマンド型に移行する可能性もあります。</p> <p>また、対面の出席が出来ない受講者向けにオンデマンド型の授業を用意する予定です。</p> <p>教室での実施の場合は、正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。</p> <p>オンデマンド型での受講の場合（2020年度）は、筑女ネットで出席コメントを提出ください。</p>		
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。		
指定図書	無し。		
参考図書	<p>山下晋司編『観光人類学』新曜社（1996年）。</p> <p>古川彰・松田素二編『観光と環境の社会学』新曜社（2003年）。</p>		
オフィスアワー	火曜日昼休み（12:30-13:00）	メールアドレス	

授業科目	メディアと文化【講義】		開講時期	前期
担当教員	小山 昌宏		単位	2
授業の目的と概要	1. メディアと文化に関する基礎知識を、映画、ドラマ、アニメ、音楽、新聞、電話、テレビなど具体例を通して身につける 2. メディアの基礎理論、インターネットの理論を踏まえ、メディアリテラシーを身につけ、メディアセキュリティの考え方を身につける 3. 具体例を検証することにより、メディア、マスメディアコミュニケーションの基礎理論を活きた方法として活用することができる 4. 具体的には、毎回の講義時リアクションペーパー（質疑応答：出席表）による復習（振り返り）を活かし、学びを深め（思考力の獲得）、期末レポート作成に活かす			
到達目標	1. メディア一般、個別メディアの機能と社会的影響力について、説明することができる 2. 各メディアの諸問題点を発見し、それについて掘り下げ、考えることができ、その内容について報告することができる 3. メディアとインターネットとの関係について説明ができ、おこりうるメディア環境の変化について説明することができる 4. リアクションペーパー内容の振り返りにより、他者の意見を取り入れ、自分の知識を再形成することができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は出版関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 関連科目：コンテンツビジネス論			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	メディアとは何か？ ～映画：F・ラング「メトロポリス」とチャップリン「モダン・タイムス」を題材に	予習として2作品いずれかを視聴しておく		
第2回	メディアの発展とその機能 ～メディアの進化と身体コミュニケーション	前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。		
第3回	地域文化とメディア ～能年玲奈の「あまちゃん」と地域振興	前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。		
第4回	電話と声 ～郷ひろみ「よろしく哀愁」からRADWIMPS「携帯電話」へ	前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。		
第5回	新聞メディアとその役割 ～娯楽と報道の「間」に揺れるその未来	前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。		
第6回	放送メディアと文化 ～その「公共性」と社会的役割について	前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。		
第7回	視覚と映像 ～機械の目と人間の目が織りなす映像の基本ルール	前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。		
第8回	マスメディアと情報操作 ～「ナチス情報戦」「火星人襲来」から「ケネディ暗殺」へ	前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。		
第9回	アニメ・パッシングとオーディエンス ～血・性・暴力表現はいかにしてアニメから排除されるか	前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。		
第10回	2. 5次元ミュージカルの映像技術の基礎 ～「テニスの王子さま」から「ハイキュー！」まで	前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。		
第11回	聖地巡礼とコンテンツ消費 ～「時かけ」「らき☆すた」から「炎の蜃気楼」「水木しげるロード」へ	前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。		
第12回	アイドル論の基礎と歴史 ～ジャズニーズ、AKB、モー娘。を中心に	前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。		
第13回	コンテンツビジネス論 ～アニメコンテンツとクロスメディア 「ポケモン」と「妖怪ウォッチ」の差とは？	前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。		
第14回	メディア・リテラシーとセキュリティ ～テレビCM、ネット広告の罠とリテラシー	前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。		
第15回	情報メディアの編集と生成 ～学際的メディア編集とは何か？	期末レポートテーマを確定する。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％（期末レポート） 30％（出席シート：リアクションペーパーの内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 教科書はありません レジュメ（配布資料）は各回配布いたします 2. この授業では、毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習） 3. リアクションペーパーと振り返りによる学習効果を、期末レポート作成に活かします 4. 期末レポート概要については第10回目の授業で、内容、提出日、評価基準について提示します			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で参考文献一覧を提示します			
オフィスアワー	水曜日の昼休み、またはメールにて相談	メールアドレス		

授業科目	メディアリテラシー論【演習】		開講時期	前期
担当教員	須藤 遙子		単位	2
授業の目的と概要	この講義では、テレビと新聞という二大マスメディアの分析を通じて、情報リテラシーを身につける。調査・分析能力、プレゼンテーション能力を高める。課題とは別に、全員に1回「今週の気になったニュース」を発表してもらいます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で問題を設定し、的確な方法で分析ができる。</li> <li>・プレゼンテーション能力が身につく。</li> <li>・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。</li> <li>・テレビ局や新聞社の特性による情報の違いを理解する。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>現(3)-②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身につけている。</p> <p>関連する科目：コンテンツ分析演習、文化産業論など</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は放送局で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。		新聞、テレビのニュースに目を通す。	
第2回	メディアとは		「マス・メディア」「マスコミ」「デジタル」等の用語理解・復習。	
第3回	大衆(マス)とは		大衆という概念、その社会的背景、パーソナルへの移行を理解・復習。	
第4回	近代社会の誕生		マス・メディアが生まれる基盤となる近代社会についての理解・復習。	
第5回	ビデオ学習(1)メディアリテラシーに関するテレビ番組の視聴		各自新聞を読んだ理解・復習。	
第6回	新聞		各自雑誌を読んだ理解・復習。	
第7回	出版		これまでの授業内容に関するミニレポート。	
第8回	ラジオ		各自ラジオを聴いた理解・復習。	
第9回	テレビ		各自テレビを視聴した理解・復習。マスコミ4媒体の復習レポート。	
第10回	ビデオ学習(2)メディアリテラシーに関するテレビ番組の視聴		各自自身のSNS行動を振り返りながらの理解・復習。	
第11回	インターネットメディア、SNS(1)		自身のスマートフォンの使用方法を振り返りながらの理解・復習。	
第12回	インターネットメディア、SNS(2)		自身のスマートフォンの使用方法を振り返りながらの理解・復習。	
第13回	消費社会とメディア		自身の消費行動とメディアとの関連を考察。	
第14回	メディアリテラシーの概念、目的、総括		これまでの内容のレポートまとめ。	
第15回	まとめ。		復習。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	50%			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	50%(理解度チェック含む)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業は遠隔で行います。出席は、各回の「理解度チェック」への回答で確認します。質問は全員が共有できるように、筑女ネット「質問箱」にお願いします。その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。			
教科書	なし。適宜指示します。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスワー	月曜11-13時	メールアドレス		

授業科目	メディア倫理（法含む）【講義】		開講時期	後期
担当教員	須藤 遙子		単位	2
授業の目的と概要	【この授業は、遠隔オンデマンドで開講します】 メディア側の取材・報道姿勢を学ぶと同時に、民主主義を担う受け手側の市民意識についても考える。 メディアはどのように報道すべきかを考え、また受け手としてのメディア・リテラシーも同時に身につけていく。 ディスカッションにより、自分の考えを深め表現するスキルを磨く。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアによる報道を批判的に受容できる。</li> <li>・自分の考えを論理的に展開し、発表ができる。</li> <li>・他人の発表に対し、的確なコメントが言える。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は放送局で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。	NHKニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。		
第2回	表現の自由・知る権利	民放（キー局）ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。		
第3回	司法（裁判所）取材・報道	民放（地方局）ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。		
第4回	立法（国会）取材・報道	朝日新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。		
第5回	行政（役所）取材・報道	産経新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。		
第6回	プライバシー報道	読売新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。		
第7回	戦争報道	毎日新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。		
第8回	IT基本法	日経新聞を読んで、取材・報道姿勢を考える。		
第9回	情報公開と個人情報	Yahooニュースを見て、取材・報道姿勢を考える。		
第10回	プロバイダの責任	LINEニュースを見て、取材・報道姿勢を考える。		
第11回	eコマース	テレビ局ネットサイトを見て、取材・報道姿勢を考える。		
第12回	情報セキュリティ	新聞社ネットサイトを見て、取材・報道姿勢を考える。		
第13回	知的財産	通信社ネットサイトを見て、取材・報道姿勢を考える。		
第14回	オープンアクセス	メディアの違いに注目しながら、取材・報道姿勢を考える。		
第15回	まとめ	復習。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	30％			
小テスト等	30％			
成果発表	20％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	フォーラムへの書き込みで授業参加度を判断します。 授業に関する質問は、筑女ネット「質問箱」へ投稿してください。			
教科書	なし。適宜プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	必要な場合は、授業内で指示します。			
オフィスアワー	月曜日昼休み。	メールアドレス		

授業科目	メディア論【講義】		開講時期	後期
担当教員	吉野 嘉高		単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアを作り出したのは、私たち人間である。一方で、メディアが私たちの日常の思考や身体感覚、社会的コミュニケーションのあり方に影響を与えることで現代人を作り出し、世界を変えてきたともいえる。この両方のプロセスについて理解を深める。</li> <li>・また、各メディアの現状や問題点について理解する。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアが社会をどう変えたのか、説明できること</li> <li>・メディアが私たちの思考や感覚に及ぼす影響について説明できること</li> <li>・各メディアの現状や問題点を具体的に述べる事ができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。  現 (3) -②-2 現代社会の実態を理解し、表現するために必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は放送関係企業で実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		配布資料を熟読		
第2回 「メディア」「メディア学」とは何か		配布資料を熟読		
第3回 「メディアはメッセージ」とは		テキスト 第1章に関する課題		
第4回 「音声メディア」から「視覚メディア」への変化		テキスト 第1章に関する課題		
第5回 「視覚メディア」から「電子メディア」への変化		テキスト 第7章に関する課題		
第6回 インターネットの現状と問題点 ～ネット炎上ほか～		テキスト 第7章に関する課題		
第7回 インターネットの現状と問題点 ～政治的無関心ほか～		テキスト 第6章に関する課題		
第8回 テレビの誕生と現状		テキスト 第6章に関する課題		
第9回 テレビの問題点		テキスト 第6章に関する課題		
第10回 ゲスト講師による放送メディアの現状		配布資料の熟読		
第11回 映画の誕生と現状		テキスト 第4章に関する課題		
第12回 出版の現状と問題点		テキスト 第5章に関する課題		
第13回 広告の現状と問題点		期末レポートに向けてテキストを熟読する。		
第14回 プロパガンダと情報操作		期末レポートの構成を考える。		
第15回 まとめ		レポート作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	30% (期末レポート)			
小テスト等	30% (基本的に授業中に毎回実施)			
成果発表	20% (課題提出、グループ別発表等)			
受講態度他	20% 積極的な受講態度を重視			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の最後に小テストを実施。授業を聴いていれば、答えることができます。  教科書は必ず入手してください。  小テストの配点が大きいことに注意してください。ゲスト講師の都合でスケジュールに変更もあり。</p>			
教科書	変更) ⇒ 伊藤守 編著『よくわかるメディアスタディーズ 第2版』ミネルヴァ書房			
指定図書	-			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	火曜日、水曜日昼休み (12:30～13:00)	メールアドレス		

授業科目	ユニバーサルデザイン【講義】		開講時期	後期
担当教員	豊増 美喜		単位	2
授業の目的と概要	<p>ユニバーサルデザインは「みんなのためのデザイン」とも言われます。その根幹を成す考え方を学ぶために、本講義では、ものや住まい、街のデザイン事例を取り上げ、自らの生活実態と重ね合わせることでデザインの及ぼす影響について考察します。デザインのための基礎知識を習得するとともに、生活の中でのデザインの現状を分析し、その課題の解決に向けて自ら考え、創造する力をつけることを目指します。</p> <p>授業では、ものや住まい、まちのデザイン事例を映像等を用いて学びます。色々な視点で生活の問題を考え、その生活に影響を及ぼすさまざまなデザインについて関心を深めるために、演習も取り入れます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ノーマライゼーションの概念を説明できる。</li> <li>2. ユニバーサルデザインの視点で生活の問題を捉えることができる。</li> <li>3. さまざまなデザイン上の課題の解決に向けて自ら考え、創造することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ノーマライゼーションの概念とユニバーサルデザイン、バリアフリーについて	プリントを熟読すること		
第2回	人間の感覚とユニバーサルデザイン	プリントを熟読すること		
第3回	人間の行動とユニバーサルデザイン	プリントを熟読すること		
第4回	安全な環境とユニバーサルデザイン (1) --- 特別な配慮を必要とするユーザー (子どもの例など)	プリントを熟読すること		
第5回	安全な環境とユニバーサルデザイン (2) --- 特別な配慮を必要とするユーザー (高齢者の例など)	プリントを熟読すること		
第6回	ユニバーサルデザインのものづくりとサービス (1) --- 事例研究	プリントを熟読すること		
第7回	ユニバーサルデザインのものづくりとサービス (2) --- 生活の中の提案	プレゼンテーション準備		
第8回	ユニバーサルデザインと住まい	プリントを熟読すること		
第9回	ユニバーサルデザインをとりいれた平面計画 (1) --- 間取りの作成	プリントを熟読すること		
第10回	ユニバーサルデザインをとりいれた平面計画 (2) --- 家具の配置	プリントを熟読すること		
第11回	ユニバーサルデザインのまちづくり (1) --- 事例紹介	プリントを熟読すること		
第12回	ユニバーサルデザインのまちづくり (2) --- 提案	プレゼンテーション原稿等の準備		
第13回	ユニバーサルデザインの提案 (1) --- 対象の決定	プリントを熟読すること		
第14回	ユニバーサルデザインの提案 (2) --- 具体的な考案	プレゼンテーション原稿等の準備		
第15回	ユニバーサルデザインの提案 (3) --- 発表 まとめ	プレゼンテーション原稿等の準備		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60%			
小テスト等	0%			
成果発表	20%			
受講態度他	20% 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回、前回の講義内容を復習しておくこと。</p> <p>簡単な実習を行うことがあるので、その場合は、指定された材料などを準備すること。(入手が難しいものは使用しません)</p>			
教科書	プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	ヨーロッパの社会と文化【講義】		開講時期	前期
担当教員	間瀬 玲子		単位	2
授業の目的と概要	ヨーロッパ文化の歴史の中でカフェが果たす役割は非常に重要である。ヨーロッパの都市の中でパリ、ウィーン、ヴェネツィア、プラハ、ロンドン、ブダペストを例にカフェ（カフェハウス）が果たした役割とその文化的背景を探求する。そして各都市におけるカフェの違いを考察することを目的とする。またカフェが文化的及び政治的な拠点の役割を果たし、他の都市のカフェに与えた影響も考察したいと考えている。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パリのカフェの特徴と文化の発展に果たした役割を説明できる。</li> <li>2. ウィーンのカフェハウスの特徴と文化の発展に果たした役割を説明できる。</li> <li>3. ヴェネツィア、プラハ、ロンドン、ブダペストのカフェ（カフェハウス）がパリやウィーンとどのように違うかを説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目 : 国際文化論			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	講義概説 : コーヒーの説明 (映画「アメリカ」)	予習 シラバスを読む		
第2回	17世紀と18世紀のパリのカフェ (カフェ・プロコップの映像)	予習 授業資料 (第2回)		
第3回	19世紀のパリのカフェ (1) (映画「天井桟敷の人々」)	予習 授業資料 (第3回)		
第4回	19世紀のパリのカフェ (2) (オペラ「ラ・ボエーム」)	予習 授業資料 (第4回)		
第5回	20世紀のパリのカフェ (1) (モンマルトル)	予習 授業資料 (第5回)		
第6回	20世紀のパリのカフェ (2) (サン・ジェルマン・デ・プレ地区)	予習 授業資料 (第6回)		
第7回	20世紀パリのカフェ (3) (映画「勝手にしやがれ」)	予習 授業資料 (第7回)		
第8回	ウィーンのカフェハウス (1) (ウィーンのカフェの映像)	予習 授業資料 (第8回)		
第9回	ウィーンのカフェハウス (2) (ウィーンの都市構造)	予習 授業資料 (第9回)		
第10回	ヴェネツィアのカフェ (1) (映画「年下のひと」)	予習 授業資料 (第10回)		
第11回	ヴェネツィアのカフェ (2) (ヴェネツィアのカフェの映像)	予習 授業資料 (第11回)		
第12回	プラハのカフェ (「のだめカンタービレ」の映像)	予習 授業資料 (第12回)		
第13回	ロンドンのカフェハウス (ロンドンの町の映像)	予習 授業資料 (第13回)		
第14回	ブダペストのカフェ (ブダペストの映像)	予習 授業資料 (第14回)		
第15回	授業の総括	予習 授業資料 (第15回)		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	50% 期末レポート (授業の内容に即した設問)			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	50% ミニ質問 ニュースフォーラムの質問等による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業前に必ず授業資料を読んでおいてください。 筑女ネットに授業資料をアップします。必ず見てください。			
教科書	なし。授業資料を筑女ネットにアップします。			
指定図書	丸山健太郎『珈琲完全バイブル』 ナツメ社、鈴木文恵『夢見る美しき古都 ハンガリー・ブダペスト 最新版(旅のヒントBOOK)』イカロス出版			
参考図書	田口護『コーヒーの事典』成美堂出版、堀口俊英『珈琲のすべてがわかる事典』ナツメ社			
オフィスアワー	月曜日4講時 (遠隔授業中はオフィスアワーはありません) メールで質問してください。	メールアドレス		

授業科目	幼児教育研究（再）【演習】		開講時期	前期
担当教員	中野(桂)・今里(順)・今釜(亮)・牛島(豊)		単位	1
授業の目的と概要	保育実習Ⅰ・児童福祉施設実習の実習指導になります。実習の準備と共に児童福祉施設実習の意義や役割、保育士がの職務を学び、実習で何を学ぶのか可視化していきます。実習後には、様々な施設のことを情報交換し、保育士としての自己課題を明確にします。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>・ 実習を通して利用者理解を深める。</li> <li>・ 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>・ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 保育者の心構えや実習生に必要な書類/オリエンテーション、実習生調書や腸内細菌検査などの説明		実習生調書の作成		
第2回 実習施設の法的根拠、運営に関する基準などの整理		児童福祉法、児童福祉施設の運営に関する基準などをまとめる		
第3回 実習施設の利用者の理解		実習施設の利用者の特徴について整理する		
第4回 実習計画書の作成		実習計画書の完成・提出		
第5回 実習目標の確認・実習準備の確認		実習目標の整理・確認		
第6回 児童福祉施設実習直前オリエンテーション		実習準備の確認		
第7回 実習の整理① 実習施設の設備等に関するまとめ		実習施設の施設の状況の整理		
第8回 実習の整理② 実習施設の利用者の状況等に関するまとめ		利用者の状況に関する整理		
第9回 実習の整理③ 実習施設の職員の状況に関するまとめ		実習施設の職員構成と役割に関するまとめ		
第10回 実習報告会に向けて①施設種別毎のまとめ		施設種別毎に課題を整理する		
第11回 実習報告会に向けて②支援等の整理		施設種別毎に利用者として支援の在り方について整理する		
第12回 実習報告会①		施設種別毎に課題を整理し、発表する		
第13回 実習報告会②		施設種別毎に課題を整理し、発表する		
第14回 実習報告会		施設種別毎に課題を整理し、発表す		
第15回 まとめ 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて		実習で把握した自己課題を元に保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて準備する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 実習計画書10％、実習報告会を基にしたふり返り50％			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 実習報告会での発表			
受講態度他	10％ 意見発表などをもとに講義への参加意欲を得点化します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	提出物は必ず期限までに出すようにしてください。授業中の積極的な質問は大いに歓迎します。授業内容や担当者が前後することがあります。			
教科書	適宜プリントを配布			
指定図書	特になし			
参考図書	二階堂邦子 編著(2016) 「教育・保育・施設実習テキスト 第3版」 建帛社			
オフィスアワー	火曜3限（今釜）	メールアドレス		



授業科目	幼児教育実習Ⅰ【実習】		開講時期	通年
担当教員	原田 博子・未定		単 位	2
授業の目的と概要	幼稚園での実習を通して、これまで大学で習得した知識と技術を活かして、実際の保育の場面における様々な場面で、子どもの発達に応じた援助の方法を把握しながら、専門職としての幼稚園教諭という仕事への理解を深める。			
到達目標	(1) 一人ひとりの子どもに対する理解を深め、幼児の生活や遊び、発達の特徴を説明することができる。 (2) 幼稚園教諭としての職務内容を理解し、子どもの発達段階や年齢に応じた援助ができるようになる。 (3) 家族とコミュニケーションがとれるようになる。 (4) 地域との連携を含め、幼稚園の子育て支援センターとしての社会的役割について説明することができる。 (5) 幼稚園教諭としての倫理、職責を自覚する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	幼児教育実習直前ガイダンス		実習の手引き	
第2回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第3回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第4回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第5回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第6回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第7回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第8回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第9回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第10回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第11回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第12回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第13回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第14回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第15回	事後指導		各自、実習園で実習（2週間）	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50％：実習日誌、実習先に関する事前学習、実習計画書、実習報告書などの提出物で評価			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50％：実習園からの評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	定められている履修要件に留意し、「幼児教育実習指導」の受講を前提とする。			
教科書	「実習の手引き」（「幼児教育実習指導」の授業にて配布）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	幼児教育実習Ⅰ【実習】2年のみ		開講時期	通年
担当教員	原田 博子		単 位	4
授業の目的と概要	幼稚園での実習を通して、これまで大学で習得した知識と技術を活かして、実際の保育の場面における様々な場面で、子どもの発達に応じた援助の方法を把握しながら、専門職としての幼稚園教諭という仕事への理解を深める。			
到達目標	(1) 一人ひとりの子どもに対する理解を深め、幼児の生活や遊び、発達の特徴を説明することができる。 (2) 幼稚園教諭としての職務内容を理解し、子どもの発達段階や年齢に応じた援助ができるようになる。 (3) 家族とコミュニケーションがとれるようになる。 (4) 地域との連携を含め、幼稚園の子育て支援センターとしての社会的役割について説明することができる。 (5) 幼稚園教諭としての倫理、職責を自覚する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初(3)-①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	幼児教育実習直前ガイダンス		実習の手引き	
第2回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習(2週間)	
第3回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習(2週間)	
第4回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習(2週間)	
第5回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習(2週間)	
第6回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習(2週間)	
第7回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習(2週間)	
第8回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習(2週間)	
第9回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習(2週間)	
第10回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習(2週間)	
第11回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習(2週間)	
第12回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習(2週間)	
第13回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習(2週間)	
第14回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習(2週間)	
第15回	事後指導		各自、実習園で実習(2週間)	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50%：実習日誌、実習先に関する事前学習、実習計画書、実習報告書などの提出物で評価			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50%：実習園からの評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	定められている履修要件に留意し、「幼児教育実習指導」の受講を前提とする。			
教科書	「実習の手引き」(「教育・保育基礎研究」の授業にて配布済)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	幼児教育実習Ⅱ【実習】		開講時期	通年
担当教員	原田 博子・今釜 亮		単位	4
授業の目的と概要	幼稚園での実習を通して、これまで大学で習得した知識と技術を活かして、実際の保育の場面における様々な場面で、子どもの発達に応じた援助の方法を把握しながら、専門職としての幼稚園教諭という仕事への理解を深める。また、幼児と実際にかかわることを通して幼児理解を深め、幼稚園教諭としての倫理、職責について学ぶ。			
到達目標	(1) 一人ひとりの子どもに対する理解を深め、幼児の生活や遊び、発達の特徴を説明することができる。 (2) 幼稚園教諭としての職務内容を理解し、子どもの発達段階や年齢に応じた援助ができるようになる。 (3) 家族とコミュニケーションがとれるようになる。 (4) 地域との連携を含め、幼稚園の子育て支援センターとしての社会的役割について説明することができる。 (5) 幼稚園教諭としての倫理、職責を自覚する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼(3)-①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	幼児教育実習直前ガイダンス	実習の手引き		
第2回	幼稚園における実習	各自、実習園で実習(4週間)		
第3回	幼稚園における実習	各自、実習園で実習(4週間)		
第4回	幼稚園における実習	各自、実習園で実習(4週間)		
第5回	幼稚園における実習	各自、実習園で実習(4週間)		
第6回	幼稚園における実習	各自、実習園で実習(4週間)		
第7回	幼稚園における実習	各自、実習園で実習(4週間)		
第8回	幼稚園における実習	各自、実習園で実習(4週間)		
第9回	幼稚園における実習	各自、実習園で実習(4週間)		
第10回	幼稚園における実習	各自、実習園で実習(4週間)		
第11回	幼稚園における実習	各自、実習園で実習(4週間)		
第12回	幼稚園における実習	各自、実習園で実習(4週間)		
第13回	幼稚園における実習	各自、実習園で実習(4週間)		
第14回	幼稚園における実習	各自、実習園で実習(4週間)		
第15回	事後指導	各自、実習園で実習(4週間)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50%：実習日誌、実習先に関する事前学習、実習計画書、実習報告書などの提出物を評価			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50%：実習園からの評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	定められている履修要件に留意し、「幼児教育実習指導」の受講を前提とする。			
教科書	「実習の手引き」(「幼児教育実習指導」の授業で配布する)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	各教員の他科目シラバスを参考のこと	メールアドレス		

授業科目	幼児教育実習指導【演習】		開講時期	前期
担当教員	石原(努)・今里(順)・北村(真)		単位	1
授業の目的と概要	幼稚園実習を円滑に進めていくことができるようにするために、教育現場としての幼稚園、教育の対象となる幼児を理解すること、実習生として求められる知識、技術、態度を習得することを目的とする。概要としては実習前、実習中、実習後を見通して、一人ひとりが計画的に実習に取り組むことができるようになることを目指す。そのため、指導計画の立案や教材研究を通して、これまで各教科で学習した知識や技術を実習場面でいかに活用するか、実習の意義や目的とは何かについて学ぶとともに、実習に向けての具体的な手続きや書類、実習園との連絡や打ち合わせ、実習上の留意点などを学ぶ。			
到達目標	①教育実習の意義や目的、内容、ならびに方法が説明できる。 ②実習上の留意点について説明することができる。 ③幼稚園の目的や役割、幼児の幼稚園での生活を理解できる。 ④指導計画の立案や実際の保育を短時間行うことができる。 ⑤自己の実習課題を明確にすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初(3)-①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	実習オリエンテーション：実習の意義や目的、実習内容と評価について	幼稚園教育要領を読む		
第2回	実習目標の設定、実習記録の意義と方法（幼児の観察と記録の取り方）、実習計画を立てる	ビデオを基に観察記録を作成する、実習計画書を書き提出する		
第3回	実習園の保育内容の理解、計画書を元に巡回担当教員との面談準備、模擬保育について	実習園の保育内容について情報収集する		
第4回	模擬保育 製作遊びを中心に	模擬保育の準備をする		
第5回	幼児との関わり方や遊び方	様々な遊びの種類についてまとめる		
第6回	特別な支援が必要な幼児とのかかわり方について	特別な支援についてまとめる		
第7回	実習の心構え、安全管理について	実習中の心構えや安全管理について考える		
第8回	インリアルアプローチについて	インリアルアプローチについてポイントをまとめる		
第9回	インリアルアプローチの実践	インリアルアプローチについて使用する場面を考える		
第10回	事後指導 振り返り	感想（実習で良かったこと・学んだことについてまとめる）		
第11回	事後指導 振り返り	感想（実習での反省点・改善点をまとめる）、自分自身の課題の整理		
第12回	事後指導（ジグソー学習①） 各発達段階の特性把握	相互伝達活動の資料を作成する		
第13回	事後指導（ジグソー学習②） 相互伝達活動	相互伝達活動を振り返り、情報を整理する		
第14回	事後指導（ジグソー学習③） 実習のまとめ	実習の振り返り冊子の原簿作成を行う		
第15回	実習の総括冊子の作成	後輩へのアドバイス、報告書を記入し提出する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％：提出物等			
小テスト等	なし			
成果発表	50％：模擬保育等			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	幼児教育実習履修のための必修科目となるため、実習生としての意識を持って積極的に参加すること。 無断欠席、遅刻などについては厳しく対応する。 授業のときには、常に「実習の手引」を持参すること。			
教科書	実習の手引き			
指定図書	なし			
参考図書	随時紹介する			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	幼児教育実習指導【演習】		開講時期	前期
担当教員	岡山(万)・今里(順)・原田(博)		単位	1
授業の目的と概要	幼稚園実習を円滑に進めていくことができるようにするために、教育現場としての幼稚園、教育の対象となる幼児を理解すること、実習生として求められる知識、技術、態度を習得することを目的とする。概要としては実習前、実習中、実習後を見通して、一人ひとりが計画的に実習に取り組むことができるようになることを目指す。そのため、指導計画の立案や教材研究を通して、これまで各教科で学習した知識や技術を実習場面でいかに活用するか、実習の意義や目的とは何かについて学ぶとともに、実習に向けての具体的な手続きや書類、実習園との連絡や打ち合わせ、実習上の留意点などを学ぶ。			
到達目標	①教育実習の意義や目的、内容、ならびに方法が説明できる。 ②実習上の留意点について説明することができる。 ③幼稚園の目的や役割、幼児の幼稚園での生活を理解できる。 ④指導計画の立案や実際の保育を短時間行うことができる。 ⑤自己の実習課題を明確にすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼(3)-①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 担当教員の中には看護・助産師としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	実習オリエンテーション：実習の意義や目的、実習内容と評価について	幼稚園教育要領を読む		
第2回	幼稚園の実際を知り実習計画を立てる	実習計画書を書き提出する		
第3回	実習園の保育内容の理解	実習園の保育内容について情報収集する		
第4回	実習記録の意義と方法：幼児の観察と記録の取り方	ビデオを基に観察記録を作成する		
第5回	模擬保育とディスカッションⅠ 運動遊びを中心に	模擬保育の準備をする		
第6回	模擬保育とディスカッションⅡ 製作活動を中心に	模擬保育の準備をする		
第7回	模擬保育とディスカッションⅢ 表現遊びを中心に	模擬保育の準備をする		
第8回	実践研究（絵本・手遊び）	実習で行う絵本や手遊びの準備		
第9回	実習課題の明確化	計画書を元に巡回担当教員との面談準備をする		
第10回	安全管理	実習中の心構えや安全管理について確認をする		
第11回	事後指導Ⅰ 直後の感想	感想をまとめる		
第12回	事後指導Ⅱ 実習で良かったこと	実習で良かったことについてまとめる		
第13回	事後指導Ⅲ 反省点	自分自身の課題を整理する		
第14回	事後指導Ⅳ 改善方法	改善方法についてまとめる		
第15回	実習の総括	実習日誌や報告書を記入し提出する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	60％：課題の提出状況と取り組みを評価			
小テスト等	—			
成果発表	20％：模擬保育への取り組み			
受講態度他	20％：模擬保育およびディスカッションへの参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	幼児教育実習履修のための必修科目となるため、実習生としての意識を持って積極的に参加すること。 無断欠席、遅刻などについては厳しく対応する。 授業のときには、常に「実習の手引」を持参すること。			
教科書	「実習の手引き」（授業中に配布） 「幼稚園教育要領」（過去の授業で購入済）			
指定図書	なし			
参考図書	随時紹介する			
オフィスワーカー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	幼児教育実習指導Ⅰ【演習】		開講時期	後期
担当教員	原田 博子・岡山 万里・山本 尚史		単位	1
授業の目的と概要	幼稚園実習を円滑に進めていくことができるようにするために、教育現場としての幼稚園、教育の対象となる幼児を理解すること、実習生として求められる知識、技術、態度を習得することを目的とする。概要としては実習前、実習中、実習後を見通して、一人ひとりが計画的に実習に取り組むことができるようになることを目指す。そのため、指導計画の立案や教材研究を通して、これまで各教科で学習した知識や技術を実習場面でいかに活用するか、実習の意義や目的とは何かについて学ぶとともに、実習に向けての具体的な手続きや書類、実習園との連絡や打ち合わせ、実習上の留意点などを学ぶ。			
到達目標	①教育実習の意義や目的、内容、ならびに方法が説明できる。 ②実習上の留意点について説明することができる。 ③幼稚園の目的や役割、幼児の幼稚園での生活を理解できる。 ④指導計画の立案や実際の保育を短時間行うことができる。 ⑤自己の実習課題を明確にすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初(3)-①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 初(3)-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	実習オリエンテーション：実習の意義や目的、実習内容と評価について	幼稚園教育要領を読む		
第2回	幼稚園の実際を知り実習計画を立てる	実習計画書を書き提出する		
第3回	実習園の保育内容の理解	実習園の保育内容について情報収集する		
第4回	実習記録の意義と方法：幼児の観察と記録の取り方	ビデオを基に観察記録を作成する		
第5回	模擬保育とディスカッションⅠ 運動遊びを中心に	模擬保育の準備をする		
第6回	模擬保育とディスカッションⅡ 製作活動を中心に	模擬保育の準備をする		
第7回	模擬保育とディスカッションⅢ 表現遊びを中心に	模擬保育の準備をする		
第8回	実践研究（絵本・手遊び）	実習で行う絵本や手遊びの準備		
第9回	実習課題の明確化	計画書を元に巡回担当教員との面談準備をする		
第10回	安全管理	実習中の心構えや安全管理について確認をする		
第11回	事後指導Ⅰ 直後の感想	感想をまとめる		
第12回	事後指導Ⅱ 実習で良かったこと	実習で良かったことについてまとめる		
第13回	事後指導Ⅲ 反省点	自分自身の課題を整理する		
第14回	事後指導Ⅳ 改善方法	改善方法についてまとめる		
第15回	実習の総括	実習日誌や報告書を記入し提出する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	60％：課題の提出状況と取り組みを評価			
小テスト等	—			
成果発表	20％：模擬保育への取り組み			
受講態度他	20％：模擬保育およびディスカッションへの参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	幼児教育実習履修のための必修科目となるため、実習生としての意識を持って積極的に参加すること。 無断欠席、遅刻などについては厳しく対応する。 授業のときには、常に「実習の手引」を持参すること。			
教科書	「実習の手引き」（授業中に配布）			
指定図書	なし			
参考図書	随時紹介する			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	幼児教育実習指導Ⅰ【演習】		開講時期	通年
担当教員	原田 博子・今釜 亮・北村 真理		単位	1
授業の目的と概要	幼稚園実習を円滑に進めていくことができるようにするために、教育現場としての幼稚園、教育の対象となる幼児を理解すること、実習生として求められる知識、技術、態度を習得することを目的とする。概要としては実習前、実習中、実習後を見通して、一人ひとりが計画的に実習に取り組むことができるようになることを目指す。そのため、指導計画の立案や教材研究を通して、これまで各教科で学習した知識や技術を実習場面でいかに活用するか、実習の意義や目的とは何かについて学ぶとともに、実習に向けての具体的な手続きや書類、実習園との連絡や打ち合わせ、実習上の留意点などを学ぶ。			
到達目標	①教育実習の意義や目的、内容、ならびに方法が説明できる。 ②実習上の留意点について説明することができる。 ③幼稚園の目的や役割、幼児の幼稚園での生活を理解できる。 ④指導計画の立案や実際の保育を短時間行うことができる。 ⑤自己の実習課題を明確にすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼(3)-①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	実習オリエンテーション：実習の意義や目的、実習内容と評価について	幼稚園教育要領を読む		
第2回	幼稚園の実際を知り実習計画を立てる	実習計画書を書き提出する		
第3回	実習園の保育内容の理解	実習園の保育内容について情報収集する		
第4回	実習記録の意義と方法：幼児の観察と記録の取り方	ビデオを基に観察記録を作成する		
第5回	模擬保育とディスカッションⅠ 運動遊びを中心に	模擬保育の準備をする		
第6回	模擬保育とディスカッションⅡ 製作活動を中心に	模擬保育の準備をする		
第7回	模擬保育とディスカッションⅢ 表現遊びを中心に	模擬保育の準備をする		
第8回	実践研究（絵本・手遊び）	実習で行う絵本や手遊びの準備		
第9回	実習課題の明確化	計画書を元に巡回担当教員との面談準備をする		
第10回	安全管理	実習中の心構えや安全管理について確認をする		
第11回	事後指導Ⅰ 直後の感想	感想をまとめる		
第12回	事後指導Ⅱ 実習で良かったこと	実習で良かったことについてまとめる		
第13回	事後指導Ⅲ 反省点	自分自身の課題を整理する		
第14回	事後指導Ⅳ 改善方法	改善方法についてまとめる		
第15回	実習の総括	実習日誌や報告書を記入し提出する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	60％：課題の提出状況と取り組みを評価			
小テスト等	—			
成果発表	20％：模擬保育への取り組み			
受講態度他	20％：模擬保育およびディスカッションへの参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	幼児教育実習履修のための必修科目となるため、実習生としての意識を持って積極的に参加すること。 無断欠席、遅刻などについては厳しく対応する。 授業のときには、常に「実習の手引」を持参すること。			
教科書	「実習の手引き」（授業中に配布）			
指定図書	なし			
参考図書	随時紹介する			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	ライフマネジメントⅠ【演習】	開講時期	後期
担当教員	大橋(健)・藤原(隆)・徳永(彩)	単位	2
授業の目的と概要	もっと人前で自由闊達に話せればいいのにと悩んでしまう。友人と旅行に行きたいと思うが資金が足りない。彼氏から求婚されたがまだ結婚するには早いかと悩んでしまう。このように人生は問題の連続である。問題とは“あるべき状態と現状のギャップ”である。人生をより豊かなものにしていくためには、そのような問題と向き合い解決していかねばならない。解決の方法は色々あるが、本授業ではより合理的な方法として問題解決の手法を学んでいく。なお、授業は全て遠隔方式で行う。各担当教員が提示する手法によって、より良い自律的学習をすることをめざす。		
到達目標	1. 問題を他人任せにせず自律的にとらえることができる。 2. 問題を問題解決の手順にそって解決していこうとする姿勢が保てる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>全学共通科目のDPの2. 人に学び、人とのつながりの中で、人生を豊かにつくりあげる、を具現化するための科目である。「キャリアデザイン基礎」に続き本授業を受講し、「ライフマネジメントⅡ」や「こころと身体のフィットネス」、「キャリアインターンシップ」などを引き続き受講することで、DP2の達成を支援していく。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  関連する科目：キャリアデザイン基礎、ライフマネジメントⅡ、インターンシップ支援講座、キャリアインターンシップなど  担当教員の中には一般企業での実務経験を有する教員がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	はじめに：授業の概要説明 問題解決に対する意識と能力の重要性について（資料）	事前配付資料（問題解決に対する意識の能力）を元にした事前学習&事後学習	
第2回	教科書1 限目：問題解決能力を身につけよう（1） 自分で考えて行動することの重要性（Text. 10-19）	教科書1 限目（前半）の事前学習&事後学習	
第3回	教科書1 限目：問題解決能力を身につけよう（2） 「問題解決」とは何か？（分解の木）（Text. 19-31）	教科書1 限目（後半）の事前学習&事後学習	
第4回	教科書1 限目：問題解決能力を身につけよう（3） 教科書1 限目に関するケーススタディ①（例：ブラックバイト）	配付資料（ケース①）を元にした事前学習&事後学習	
第5回	教科書2 限目：問題の原因を見極め、打ち手を考える（1） 原因を見極める（Text. 34-56）	教科書2 限目（前半）の事前学習&事後学習	
第6回	教科書2 限目：問題の原因を見極め、打ち手を考える（2） 打ち手を考える（Text. 57-71）	教科書2 限目（後半）の事前学習&事後学習	
第7回	教科書2 限目：問題の原因を見極め、打ち手を考える（3） 教科書2 限目に関するケーススタディ②（例：モスバーガー）	配付資料（ケース②）を元にした事前学習&事後学習	
第8回	教科書3 限目：目標を設定し、達成する方法を決める（1） 目標設定と仮説の設定（Text. 74-89）	教科書3 限目（前半）の事前学習&事後学習	
第9回	教科書3 限目：目標を設定し、達成する方法を決める（2） 仮説の検証と実行（Text. 90-104）	教科書3 限目（後半）の事前学習&事後学習	
第10回	教科書3 限目：目標を設定し、達成する方法を決める（3） 教科書3 限目に関するケーススタディ③（例：自分自身の問題）	配付資料（ケース③）を元にした事前学習&事後学習	
第11回	問題の発見と解決演習（1）（仕事について考える） 『女子と就活』（pp. 8-29）	参考資料を元にした事前学習&事後学習	
第12回	問題の発見と解決演習（2）（結婚・出産について考える） 『女子と就活』（pp. 32-54）	参考資料を元にした事前学習&事後学習	
第13回	問題の発見と解決演習（3）（「自活女子」について考える） 『女子と就活』（pp. 55-73）	参考資料を元にした事前学習&事後学習	
第14回	問題の発見と解決演習（4）（自分のライフプランを考える） 自分自身のライフプランを考える	これまでの授業を振り返り自分自身のライフプランを考える	
第15回	授業のまとめと振り返り（期末レポート） 期末レポートのまとめと教員コメント	他の受講生のライフプランを参考にして自分自身のライフプランを振り返る	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% 期末レポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	60% 事前学習の提出状況30%、事後学習の提出状況30%を評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業はオンデマンド形式で実施する予定です。各回授業の事前学習にしっかりと取り組んだ上で受講し、受講後は事後学習に取り組んでください。（各回授業で事前学習と事後学習の提出を求めます）		
教科書	『世界一やさしい問題解決の授業』（渡辺健介、2007、ダイヤモンド社、1,200円＋税）		
指定図書	なし		
参考図書	授業の中で適宜紹介する。		
オフィスワー	※事前に予約を取って下さい。	メールアドレス	



授業科目	ライフマネジメントⅡ【演習】	開講時期	前期
担当教員	大橋 健治	単位	2
授業の目的と概要	<p>ライフマネジメントⅠでは、問題解決の考え方と手法を学んだ。しかし、人は人生のさまざまな問題に直面して、必ずしも合理的な問題解決を行えるわけではない。ヒューリスティック（思考の短絡化）やバイアス（偏見）によって簡単に歪められてしまう。そこで、ライフマネジメントⅡでは、女性としての交渉力に焦点を当て、次のようなことを考えていくことを目的とする。</p> <p>1. 男女共同参画が必要な現代社会において、我々がいかにジェンダーバイアス（男女の役割に関する固定観念）に囚われているかを知る。</p> <p>2. 男女の役割に関する固定観念の呪縛から逃れ、女性らしい交渉力を身につけるためにはどうすれば良いか。</p> <p>本年度は遠隔授業となったので、授業の各回で指定された文献や資料映像を見て意見や感想を述べあう（簡単なレポートを提出する）形式とを採用する。</p>		
到達目標	<p>1. 女性のジェンダーバイアスを、教科書にそって第三者と議論をしながら考えることができる。</p> <p>2. 自らが理想とする交渉スタイルを、第三者に語るすることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」</p> <p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>(3) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>科目担当者の中には一般企業での実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p> <p>関連する科目：キャリアデザイン基礎、ライフマネジメントⅠ、インターンシップ支援講座、キャリアインターンシップなど</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 授業の概要説明		シラバスの内容確認と受講動機の表明	
第2回 ジェンダーバイアスについて		指定したNETのサイトを閲覧し事後学修を行う	
第3回 交渉力の必要性について（考え方を学ぶ）		指定したYouTubeの資料映像を閲覧し事前学修・事後学修を行う	
第4回 交渉力の行使について（スキルを学ぶ）Ⅰ		指定したYouTubeの資料映像を閲覧し事前学修・事後学修を行う	
第5回 交渉力の行使について（スキルを学ぶ）Ⅱ		指定した文献を読み事前学修・事後学修を行う	
第6回 交渉力の行使について（スキルを学ぶ）Ⅲ		指定した文献を読み事前学修・事後学修を行う	
第7回 交渉力の行使について（スキルを学ぶ）Ⅳ		指定した文献を読み事前学修・事後学修を行う	
第8回 交渉力を行使するあなたにとって大切な人格形成についてⅠ		指定したYouTubeの資料映像を閲覧し事前学修・事後学修を行う	
第9回 交渉力を行使するあなたにとって大切な人格形成についてⅡ		指定したYouTubeの資料映像を閲覧し事前学修・事後学修を行う	
第10回 交渉力を行使するあなたにとって大切な人格形成についてⅢ		指定したYouTubeの資料映像を閲覧し事前学修・事後学修を行う	
第11回 交渉力を行使するあなたにとって大切な人格形成についてⅣ		指定したYouTubeの資料映像を閲覧し事前学修・事後学修を行う	
第12回 自分自身の交渉体験を振り返ってⅠ		自分自身の交渉体験について振り返りレポートを添削する	
第13回 自分自身の交渉体験を振り返ってⅡ		他者の交渉体験を閲覧し自分足らざるところを発見する	
第14回 修了レポートの作成にあたっての質疑応答Ⅰ（リアルタイム方式を想定）		質問や問題提起の準備	
第15回 修了レポートの作成にあたっての質疑応答Ⅱ（リアルタイム方式を想定）		質問や問題提起の準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50% 各回のレポートと最終成果レポートの成果		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	50% 遠隔授業への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業は従来、TBL（Team-Based Learning）によって運営してきたが、本年度は遠隔授業での実施となるので、抄読会形式で授業を運営する。抄読会とは 学生が自分の研究テーマに基づいて選んだ文献を深く読み、その内容と得られた示唆を報告しあう場のことを言う。この授業では、文献をNETのサイトの閲覧やYouTubeの閲覧に統一し、各回の課題に沿ってそれらを閲覧し、意見や感想を述べてもらう（簡単なレポートを提出してもらう）。学生同士のレポートを閲覧することにより、同じものを見聞しても人それぞれに内容のとらえ方が多様であることを感じてもらうような彼我比較の場としたい。		
教科書	NETのサイトやYouTubeの映像データを紹介する		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	月曜日の14：00～17：00	メールアドレス	

授業科目	ライフマネジメントⅡ【演習】	開講時期	前期
担当教員	徳永 彩子	単 位	2
授業の目的と概要	ライフマネジメントⅠでは、問題解決の考え方と手法を学んだ。しかし、人は人生のさまざまな問題に直面して、必ずしも合理的な問題解決を行えるわけではない。ヒューリスティック（思考の短絡化）やバイアス（偏見）によって簡単に歪められてしまう。そこで、ライフマネジメントⅡでは、女性としての交渉力に焦点を当て、ビジネスコミュニケーションとプレゼンテーションの仕方をオンデマンド形式により遠隔にて行う。そのことによって、「わかる」から「できる」を実現する授業をめざす。		
到達目標	1. ビジネスパーソンとしてふさわしい振る舞いができる。 2. ビジネスパーソンとして、プレゼンテーションの仕方を第三者に説明できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど	
第1回	ビジネスコミュニケーションの基本ー第一印象・身だしなみについてー	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第2回	表情・挨拶の仕方	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第3回	敬語ー丁寧語・尊敬語・謙譲語ー	受講ノートの指示に沿ったプリントの事後学修	
第4回	接遇用語	受講ノートの指示に沿ったプリントの事後学修	
第5回	話し方・聞き方	受講ノートの指示に沿ったプリントの事後学修	
第6回	組織の一員として	受講ノートの指示に沿ったプリントの事後学修	
第7回	仕事のすすめ方	受講ノートの指示に沿ったプリントの事後学修	
第8回	電話によるコミュニケーション	受講ノートの指示に沿ったプリントの事後学修	
第9回	電話によるコミュニケーションー受け方ー	受講ノートの指示に沿ったプリントの事後学修	
第10回	電話によるコミュニケーションーかけ方ー	受講ノートの指示に沿ったプリントの事後学修	
第11回	来客の対応ー名刺の取り扱いー	受講ノートの指示に沿ったプリントの事後学修	
第12回	来客の対応ー取次と案内ー	受講ノートの指示に沿ったプリントの事後学修	
第13回	来客の対応ー他社訪問ー	受講ノートの指示に沿ったプリントの事後学修	
第14回	プレゼンテーションの仕方①	受講ノートの指示に沿ったプリントの事後学修	
第15回	プレゼンテーションの仕方②	受講ノートの指示に沿ったプリントの事後学修	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	100％ 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと）		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	学生の事後学修による誠実な取り組みを期待する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	演習の前提は、学生の事後学修による誠実な取り組みである。		
教科書	プリントを配布する。		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	金曜日の14時から16時	メールアドレス	

授業科目	量的調査法【講義】		開講時期	前期
担当教員	森 康司		単位	2
授業の目的と概要	量的データの分析で用いる多変量解析法について、その基本的な考え方と分析結果の解釈の仕方を学びます。まずは、これまで学習してきた基本的な統計解析方法の復習を行います。そして、与えられたデータについて、エクセルやSPSSを用いて重回帰分析、分散分析、因子分析などを行い、結果を説明することができるようになることを目指します。			
到達目標	①重回帰分析の基本的な考え方や方法を説明することができる。 ②重回帰分析以外のいくつかの計量モデルについて、その基本的な考え方や方法を説明することができる。 ③与えられたデータについて、統計解析ソフトを用いて多変量解析を行うことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 現 (3) -②-1 現代社会の仕組みを理解し、分析するために必要な社会学の基礎的な知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	相関関係と因果関係		資料を熟読し、課題に取り組む	
第2回	尺度の種類		資料を熟読し、課題に取り組む	
第3回	単純集計と記述統計量		資料を熟読し、課題に取り組む	
第4回	クロス集計		資料を熟読し、課題に取り組む	
第5回	有意性の検定 (解説)		資料を熟読し、課題に取り組む	
第6回	有意性の検定 (実践)		資料を熟読し、課題に取り組む	
第7回	$\chi^2$ 検定		資料を熟読し、課題に取り組む	
第8回	度数分布表とヒストグラム		資料を熟読する	
第9回	t検定		資料を熟読し、課題に取り組む	
第10回	一元配置分散分析		資料を熟読し、課題に取り組む	
第11回	二元配置分散分析		資料を熟読し、課題に取り組む	
第12回	相関係数と散布図		資料を熟読する	
第13回	単回帰分析		資料を熟読し、課題に取り組む	
第14回	重回帰分析		資料を熟読し、課題に取り組む	
第15回	因子分析		資料を熟読し、課題に取り組む	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし (最終レポートはとりやめました)			
小テスト等	100% (課題の合計点)			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・遠隔授業になりましたので、統計ソフトSPSSは実際に操作せず、出力画面の見方を理解してもらいます。 ・適宜資料を準備しますが、より詳しく知りたい人は、参考図書『SPSSによる多変量解析』を読んで下さい。 ・いくつかはSPSSにかえてエクセルを使用します。 ・理解度の確認のために、随時課題を課します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士編『SPSSによる多変量解析』オーム社 石村貞夫・石村友二郎『SPSSでやさしく学ぶ統計解析 (第6版)』東京書籍 (C科目の教科書)			
オフィスアワー	筑女ネットのメッセージ機能か下記アドレスへ。	メールアドレス		

授業科目	旅行実務Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	岩井 朝子		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業は、「国内旅行業務取扱管理者」試験の試験科目の一つである「国内旅行実務」に対応した科目で、旅行業のあらましを理解し、旅行業法や標準旅行業約款について学び、簡潔にわかりやすく説明できるようになることを目的とする。授業では、教科書に沿って学び、授業内で網羅できない国内地理（北海道地域以外）については、主に自宅学習によって、日本各都道府県の地理的位置、気候、特産物、祭り、温泉や庭園などの観光施設の知識を習得するものとする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本の代表的な国立公園や世界遺産について説明することができる</li> <li>2 旅行業法の目的について説明することができる</li> <li>3 旅行業務取扱管理者の業務内容について説明することができる</li> <li>4 旅行業界に必要な運送機関や宿泊機関の基礎知識を身に付ける</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」  英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション	国内旅行業務取扱管理者試験の概要説明 沖縄県の観光地	沖縄県の都道府県の県庁所在地や特産物について調べる	
第2回	旅行業のあらまし	旅行業の定義	旅行業に当てはまる事業の例を考える	
第3回	旅行会社の種類	取扱い業務範囲 登録 登録の拒否	旅行会社の種類について調べてまとめる	
第4回	旅と旅行業の歴史		旅の始まりについて調べる	
第5回	観光立国の実現に向けた政府の取り組み	MICE DMO	国や県の観光政策について調べる	
第6回	旅行会社の社員（担当者）に求められること	コンプライアンスの意識	旅行業界が直面している問題について調べる	
第7回	地理と地域事情の把握	北海道を例として 日本の有名な景勝地	北海道の観光地・郷土料理などについて調べる	
第8回	運送機関	JR	運送機関のサービスについて調べる	
第9回	運送機関	航空 時差の計算	時差や飛行機の所要時間の計算ができるように練習する	
第10回	宿泊機関	ホテルの分類	様々なホテルの特徴について調べる	
第11回	旅行業法	目的	旅行業法を一読してみる	
第12回	旅行業務取扱管理者・旅程管理主任者の業務		旅行業務取扱管理者・旅程管理主任者の業務内容について調べる	
第13回	旅行業約款		標準旅行業約款について調べる	
第14回	旅行者の責任	損害補償・特別補償	損害補償の種類について調べる	
第15回	旅行者の責任	旅程保証	どのような場合に変更補償金を支払う必要があるのかを考える	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には前回の復習を行ってから参加すること。また上記以外の課題を授業内で指定することもあり得る			
教科書	旅行業務入門 JTB総合研究所			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業の前後		メールアドレス	

授業科目	旅行実務Ⅱ【講義】		開講時期	前期
担当教員	岩井 朝子		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業は、「国内旅行業務取扱管理者」試験の試験科目の一つである「国内旅行実務」に対応した科目で、その中で最も出題率の高いJR6社の運賃・料金の計算を中心に学び、旅行実務を行う上で必要な基本的知識を習得することを目的とする。また、同時に国内地理の知識も深めていく。授業では、国内航空運賃、フェリー運賃、貸し切りバス運賃、ホテル・旅館の各種料金の計算を、実際の試験問題を解きながら学習し、正確に計算ができる能力を培う。また、日本各地の観光地について調べ、受入れ態勢や課題についてプレゼンテーションできるようにする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 JRの運賃と料金について違いを説明できる</li> <li>2 JRの運賃・料金を計算できる</li> <li>3 国内航空券の予約、取消料、払戻し料について説明できる</li> <li>4 貸切バス運賃が計算できる</li> <li>5 フェリー運賃が計算できる</li> <li>6 日本国内の観光地の知識を深め、案内できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」  英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	オリエンテーション 国内旅行業務取扱管理者試験の概要説明 京都市内の観光地	雑誌や新聞などのツアー広告を集めて、記載事項をチェックする		
第2回	旅客営業規則 JR乗車券の種類 旅客の年齢区分	JR時刻表を見て学んだことを確認する		
第3回	JR運賃計算の基礎	自分が利用している電車の運賃と料金について調べる		
第4回	JR本州3社とJR九州・北海道・四国をまたがって利用する場合の運賃計算	営業キロ、換算キロなどの用語についてまとめる		
第5回	運賃計算の特例 特定の都区市内駅を発着する場合の特例	特定都区市内に指定されている都市について調べる		
第6回	割引運賃（個人割引・団体割引）	学生割引の適用条件について調べる		
第7回	JR料金計算の基礎 JR切符の発売日と有効期間	運賃と料金計算の違いについてまとめる		
第8回	乗継割引運賃	乗継割引のパターンについて調べる		
第9回	新幹線の特急料金 新幹線内の通し計算	新幹線内の通し計算が適用されないパターンについて調べる		
第10回	JR運賃・料金の払戻し 乗車券類の有効期間	具体的な例を挙げて払戻し料を計算してみる		
第11回	乗車変更の取扱い 団体乗車券の取扱い	乗車券を紛失した場合、どうすれば適切なのか考える		
第12回	国内航空運賃・料金	各航空会社の運賃・料金をネットなどで調べ比較する		
第13回	宿泊料金	2019年から導入された宿泊税について調べる		
第14回	貸切バス運賃・料金	貸切バス事業者が守るべき法令について調べる		
第15回	フェリー運賃・料金	フェリー運賃・料金の払戻手数料について調べる		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業には前回の復習を行ってから参加すること。また上記以外の課題を授業内で指定することもあり得る。第5回目から第13回目の授業内にプレゼンテーションを行ってもらう。</p>			
教科書	旅行業務取扱管理者試験 テキスト ③国内旅行実務 2020年対策 国内総合対応 大原出版			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	理論社会学（再）【講義】		開講時期	前期
担当教員	花野 裕康		単 位	2
授業の目的と概要	<p>日曜大工で椅子やテーブルなど様々なものを作る時、出来上がるものはさまざまでも、ノコギリやドライバーなど、必要な道具は共通しています。同様に、様々な社会現象を説明するために必要な「道具」もある程度共通しています。この講義ではこの「道具」（これを「理論」と呼びます）をいくつか紹介し解説します。そのことで、</p> <p>①それらの理論を用いて、目の前にある社会現象をよりよく説明できるようになることを目的とします。</p> <p>②また理論の種類を変えることで同じ社会現象を違った角度から説明できるようになることも目指します。</p> <p>③最終的に社会学のさまざまな理論のあいだの関係を知り、それらを適切に使えるようになることを目指します。</p>			
到達目標	<p>①社会理論を用いて複数の社会現象を説明することができる</p> <p>②複数の社会理論を用いて、同じ社会現象を複数の視点から説明することができる</p> <p>③さまざまな社会理論の関係を整理し解説することができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。具体的には、毎回授業終了直前に周知する次回テーマへの予習（書籍やネット上の情報を各自入手する事）と、その日学んだテーマの整理および、自身の見解の文章化（1000字程度）を行う事。</p> <p>本科目は、現代社会学概論I, IIや社会学入門、社会学史に続いて、（現代）社会学の理論的な枠組みを提供するための最重要科目である。本科目を受講する事で、各論としての「〇〇社会学（〇〇には産業、家族等の語句が入る）」や「〇〇社会論（同様）」等の開講科目への理解もスムーズに行く。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	社会学における「理論」の位置付け	「理論」の意味と社会学における位置付けについて自分の言葉でまとめる		
第2回	理論社会学が成しうること、できないこと	理論社会学の研究対象について自分の言葉でまとめる		
第3回	実証主義と社会進化論	実証主義と社会進化論を実際の社会現象に適用しまとめる		
第4回	マルクスの包括的社会理論	マルクスの包括的社会理論を実際の社会現象に適用しまとめる		
第5回	デュルケームの社会学主義	デュルケームの社会学主義を実際の社会現象に適用しまとめる		
第6回	ウェーバーの社会理論	ウェーバーの社会理論を実際の社会現象に適用しまとめる		
第7回	構造機能主義	構造機能主義を実際の社会現象に適用しまとめる		
第8回	社会システム論（パーソンズ）	パーソンズの社会システム論を実際の社会現象に適用しまとめる		
第9回	シンボリック相互作用論	シンボリック相互作用論を実際の社会現象に適用しまとめる		
第10回	エスノメソドロジー	エスノメソドロジーを実際の社会現象に適用しまとめる		
第11回	構造化理論	構造化理論を実際の社会現象に適用しまとめる		
第12回	社会システム論（ルーマン）	ルーマンの社会システム論を実際の社会現象に適用しまとめる		
第13回	フェミニズム理論	フェミニズム理論を実際の社会現象に適用しまとめる		
第14回	ポストコロニアル・ポスト構造主義の理論	ポストコロニアル・ポスト構造主義の理論を実際の社会現象に適用しまとめる		
第15回	グローバリゼーションとリスクの社会理論	グローバリゼーションとリスクの社会理論を実際の社会現象に適用しまとめる		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80%（授業内で複数回行う）			
成果発表	なし			
受講態度他	20%（受講態度が悪い場合はこの%に影響するほか、その回の小テストを受け取らないことがある）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。許可された場合以外でのスマホ操作、居眠り、私語等授業中に無関係な他の事をしないこと。見つけ次第その回の小テストは未提出扱いとする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールやSNS等、私と連絡が取れる手段で相談	メールアドレス		

授業科目	臨床心理学概論【講義】		開講時期	前期
担当教員	板井 修一		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、人間科学部でこれから学ぶ、「人間理解」と「人間支援」に関わるさまざまな科目の基礎となる臨床心理学を学びます(基礎科目)。人の心の働きと支援のための方法について、重要な視点や知識を、臨床心理学という学問を通して学ぶ授業です。臨床心理学の基本的概念や理論について理解し、正しく説明できるようになることを目的とします。臨床心理学は、生きた人間の心に直接触れ、アプローチしながら形作られてきた学問領域です。そのために、臨床心理学は、他の学問領域とは異なり、独自の人間理解の視点や発想が生み出されてきました。授業を通して、他の学問領域とは違う臨床心理学の独自性を理解し、その視点を身につけることを目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学独自の人間理解の視点について説明できるようになる。</li> <li>2. 臨床心理学の成り立ちについて説明することができるようになる。</li> <li>3. 人間理解の方法としての心理アセスメントの意義について説明することができるようになる。</li> <li>4. さまざまなこころの病について、その原因や具体的な症状について説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目など	<p>心(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>心(3)-②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初(3)-②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼(3)-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目：カウンセリング概論、心理アセスメントⅠ・Ⅱ、人本心理学、健康・医療心理学</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	臨床心理学とは何か1：臨床心理学の理念・全体構造 臨床心理学の独自性、問題を抱えつつ生きることの援助	「医学モデル」と「成熟モデル」の違いについて整理する		
第2回	臨床心理学とは何か2：臨床心理学の実践と研究 他職種とのコラボレーションの重要性、実践活動の有効性を裏付ける科学的研究の意義	「コラボレーション」の意味と意義について整理する 小レポート①をまとめる		
第3回	臨床心理学とは何か3：臨床心理学の歴史 精神分析学、行動療法、カウンセリング	最近見た夢を記録し、夢の意味するものについて考える		
第4回	アセスメント1：アセスメントとは何か 診断とアセスメントの違い、アセスメントの手続き	診断とアセスメントの意味の違いについて調べる		
第5回	アセスメント2：検査法(質問紙法、投影法、知能検査、神経学的検査) 質問紙法によるパーソナリティアセスメントの体験的理解	授業で体験した心理テスト結果を分析・解釈し報告書作成		
第6回	アセスメント3：観察法・行動分析・生態学的アプローチ・初回面接 観察法によるアセスメントの体験的理解	小レポート②(講義の第3回～第6回の内容に関する課題)をまとめる		
第7回	異常心理学1：異常心理学とは何か・精神症状の分類 正常と異常の多元性、心理的機能障害としての各種精神症状	正常と異常の判断基準について復習する		
第8回	異常心理学2：統合失調症 統合失調症の臨床症状、類型、心理的援助	統合失調症の症状について調べる		
第9回	異常心理学3：気分障害・不安障害 うつ病の臨床症状、気分障害の治療と心理援助のポイント	うつ病の症状について調べる		
第10回	異常心理学4：身体表現性障害と解離性障害 身体表現性障害と解離性障害の臨床症状、類型、心理的援助のポイント	心身症の種類と症状について調べる		
第11回	異常心理学5：性同一性障害・摂食障害・人格障害 臨床症状と援助のポイント	小レポート③(講義の第7回～第11回の内容に関する課題)をまとめる		
第12回	発達臨床心理学1：乳幼児期の心理的問題 乳幼児期の発達課題、知的障害、自閉症、学習障害、注意欠陥/多動性障害、虐待	ADHDとアスペルガー症候群について調べる		
第13回	発達臨床心理学2：児童期・思春期・青年期の心理的問題 児童期・青年期の発達課題、不登校、いじめ、アイデンティティ獲得をめぐるさまざま	児童期・青年期の発達課題について調べる		
第14回	発達臨床心理学3：中年期・老年期の心理的問題 中年期・老年期の発達課題、中年期の心理的問題、老年期の心理的問題	小レポート④(講義の第12回～第14回の内容に関する課題)をまとめる		
第15回	総括 これまでの講義の重要ポイントのまとめ	配布資料、ノート、返却された小レポートの整理		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	100% 4回的小レポート [(内容点10点+期日内提出10点)×4回=40点] + 学期末レポート(60点)			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>学習内容が多いので、講義内容をしっかり聞いて下さい。配布されるプリントに書き込んだり、ノートをきちんとまとめることも大切です。漫然と講義を聞くのではなく、講義内容を自己の体験や観察と照らし合わせながら受講してください。</p> <p>毎回の授業で学んだことの振り返りと考えたことを記録する「リフレクション・シート」を、授業の終わりに記入し提出をする。次の講義の初めにチェックした「リフレクション・シート」を返却する。「リフレクション・シート」の提出、返却により、講義への出席と欠席、遅刻の実態を把握する。</p>			
教科書	なし 毎回レジュメを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	河合隼雄『カウンセリングの実際問題』誠信書房 河合隼雄『心理療法序説』岩波書店			
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス		

授業科目	臨床心理学特論Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	榊 祐子		単位	2
授業の目的と概要	臨床心理学における、基本的理論や代表的な心理療法、さらに心理的問題について理解を深め、臨床心理学的援助の方法を学ぶ。今後、これらの知識と理解をもとに、心理臨床支援を実践につなげることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学における基本的理論や代表的な心理療法について説明できる。</li> <li>2. 心理的問題について、発達の視点を含めて説明できる。</li> <li>3. 様々な心理臨床の実践について説明することが出来る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	臨床心理学とは：定義と歴史		定義と歴史の振り返り	
第2回	心理療法① 精神分析		精神分析の理論と実践の復習	
第3回	心理療法② 来談者中心療法		来談者中心療法の理論と実践の復習	
第4回	心理療法③ 認知行動療法		認知行動療法の理論と実践の復習	
第5回	カウンセリング		カウンセリングの基本的考え方や方法の整理	
第6回	アセスメント① 心理学的アセスメントとは		心理学的アセスメントの基本についての復習	
第7回	アセスメント② アセスメントの方法		アセスメントの方法についての復習	
第8回	障害を持つ人々への臨床心理学的援助		予習・復習	
第9回	心理学的アセスメントの方法		予習・復習	
第10回	生涯発達と心理的問題① 乳幼児から青年期まで		乳幼児から青年期までの発達と心理的問題の整理	
第11回	生涯発達と心理的問題① 中年期から老年期まで		中年期から老年期までの発達と心理的問題の整理	
第12回	臨床心理学的援助① 医療		医療における臨床心理学的援助の復習	
第13回	臨床心理学的援助② 教育・福祉		教育・福祉における臨床心理学的援助の復習	
第14回	臨床心理学的援助③ 産業・司法		産業・司法における臨床心理学的援助の復習	
第15回	臨床心理学的援助④ 地域		地域における臨床心理学的援助の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	行わない			
成果発表	授業中のショートレポート 30%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	発表・討論には積極的に参加すること。			
教科書	齋藤 「臨床心理学特論 改訂新版」 放送大学教育振興会			
指定図書	小川・倉光 「臨床心理学特論」 放送大学教育振興会			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日2限	メールアドレス		



授業科目	臨床心理学特論Ⅱ【講義】	開講時期	後期
担当教員	板井 修一	単位	2
授業の目的と概要	臨床心理学に携わる者の、人間についての基本的な考え方について理解する。人間と関わることの本質的なあり方について見つめ直し、臨床心理学支援の姿勢や態度を身に着ける。そのために、単なる知識の獲得ではなく、深く考え行動できるようになることを目指す。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学が人間を全体的存在として理解しようとしていることについて説明できる</li> <li>2. 臨床心理学的援助が、人間の主体性を真に尊重することなしに行えないことについて説明できる</li> <li>3. 臨床心理学が実践と研究の両輪によって成り立つことについて説明できる</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション 講義のめあてと、進め方		次回講義に向けて、テキストの1-18頁を予習	
第2回 臨床心理学は何を目指している？ 「科学であること」と「実践の学であること」、「理解すること」と「援助すること」		次回講義に向けて、テキストの19-38頁を予習	
第3回 臨床心理学はどのようにして生まれた？ 臨床心理学が生まれるまで、アメリカでの臨床心理学の展開、わが国の臨床心理学の導入と展開		次回講義に向けて、テキストの39-57頁を予習	
第4回 臨床心理学の理論は役に立つのか 理論と現場、セラピーのプロセスと理論、主要な臨床心理学理論の基本的視点		次回講義に向けて、テキストの58-78頁を予習	
第5回 「症状をもつ」はどういうことか 臨床心理学における心理的援助の対象、神経症、うつ病、統合失調症、人格障害		次回講義に向けて、テキストの79-100頁を予習	
第6回 「発達障がい・知的障害をもつ」ことの意味 知的障がい・発達障害の診断と分類、知的障がい、発達障がいをもつことは？ ういうこと、事例か		次回講義に向けて、テキストの101-122頁を予習	
第7回 人間の心を開くとはどういうことか？ 心理アセスメントとは何か、見立てと診断の違い、心理検査の多様性、検査結果をアセスメントに		次回講義に向けて、テキストの123-142頁を予習	
第8回 臨床心理学的援助の実践において大切なこと 心理療法とは何か、理論と実践のあいだ		次回講義に向けて、テキストの143-164頁を予習	
第9回 子どもや青年の生きている世界と、そこで生じる心理的問題と課題 乳幼児期のこころの問題と課題、学童期のこころの問題と課題、青年期のこころの問題と課題		次回講義に向けて、テキストの165-182頁を予習	
第10回 おとなとして生きることと、そこで生じる心理的問題と課題 「おとな」のライフサイクル上の位置づけ、成人期、中年期、老年期のこころの問題と課題		次回講義に向けて、テキストの183-200頁を予習	
第11回 臨床心理実践の専門家となるために必要なこと 「こころの専門家」の専門性と訓練、「こころの専門家」に求められる態度—個別性の尊重		次回講義に向けて、テキストの201-217頁を予習	
第12回 幼稚園(保育所)や学校に、臨床心理の専門家がいることの意味 幼稚園や学校におけるカウンセラーの役割、他の職種との連携、心理臨床の基本—クライアント主		次回講義に向けて、テキストの218-232頁を予習	
第13回 臨床心理学における研究 なぜ臨床心理学において研究が必要か、臨床心理学の研究法、「実践」と「科学」の両立		次回講義に向けて、「自分にとっての臨床心理学」について考えをまとめる	
第14回 わたしの臨床心理学 臨床心理士としての実践と研究について話す		総括レポート作成のための資料収集	
第15回 総括 臨床心理学を学ぶことの意義について議論		総括を踏まえて、レポート作成。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0% 行わない		
レポート	60% 期末レポート(40%)、テキストの担当箇所のレポート(20%)		
小テスト等	0% 行わない		
成果発表	20% レポートの口頭発表		
受講態度他	20% 討議内容についての質疑や自分の考えを述べるなど授業中の討議に積極的に参加すること。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	指示通りにレポート作成を行い、発表すること。		
教科書	伊藤良子編著 『臨床心理学 全体的存在としての人間を理解する』 ミネルヴァ書房		
指定図書	「臨床心理学体系」金子書房		
参考図書	小川俊樹・倉光修編著 「臨床心理学特論」放送大学教育振興会		
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス	

授業科目	臨床心理基礎実習【実習】（通年・前）		開講時期	通年
担当教員	森田 理香・大霧 香・日高 崇博・岩男 尚美		単位	2
授業の目的と概要	臨床心理実践に必要な基礎的な知識の獲得と基本的な技術や態度の習得、倫理的配慮を学ぶことを目的とする。さらに自分自身の態度や心理技術について内省トレーニングを行うことにより臨床心理士（公認心理師）としての素養を育てることを目的とする。授業では受講者同士のロールプレイ、事例のアセスメントや見立て、ケースカンファレンスへの参加等の体験学習により、心理面接の基本的な知識、技術の習得を目指す。さらに、臨床心理士が働いている現場に見学に行くことによって、臨床心理士の職務内容を理解をする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理臨床活動を行うための基礎的な知識を習得する。</li> <li>心理臨床活動を行うための基礎的な技術を身につける。</li> <li>心理臨床場面での倫理について説明できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</p> <p>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</p> <p>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</p> <p>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>関連科目：臨床心理実習ⅠA・ⅠB(心理実践実習)、臨床心理実習Ⅲ～Ⅴ(心理実践実習、外部実習)</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション（臨床心理センターについて）	臨床心理センター、実習についての資料の通読		
第2回	大学院での実習について	実習の手引きの通読		
第3回	相談の流れ	資料の通読 教科書その1の第1部の復習		
第4回	心理臨床における倫理・関係法規	倫理についてのミニレポート		
第5回	電話受付の仕方（基本姿勢）	資料の通読 電話の受付についてのミニレポート		
第6回	電話受付の仕方（ロールプレイ）	ロールプレイについてのミニレポート		
第7回	面接における共感的理解（ロールプレイ）	授業についてのまとめレポート		
第8回	ロールプレイでの面接体験①	ロールプレイについてのミニレポート		
第9回	ロールプレイでの面接体験②	ロールプレイについてのミニレポート		
第10回	インテーク面接（ロールプレイ）	教科書その1第2部の通読		
第11回	インテーク報告（記録・報告の仕方）	記録・報告についてのミニレポート		
第12回	試行カウンセリング①（ロールプレイ）	ロールプレイについてのミニレポート		
第13回	試行カウンセリング②（ロールプレイ）	ロールプレイについてのミニレポート		
第14回	ロールプレイ実習の振り返り	ロールプレイでの課題についてのミニレポート		
第15回	まとめ	期末レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート20％			
小テスト等	授業ごとのミニレポート40％			
成果発表	ロールプレイ・発表・ディスカッション等授業内での実習評価 40％			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この科目は臨床心理士受験資格取得に関わる科目である。臨床心理実習Ⅲ～Ⅴ（心理実践実習・外部実習）を履修するためにはこの科目を履修する必要がある。 本学臨床心理センターの相談員になるために必要な科目である。 この科目は通年科目であり、前後期ともに2時限連続で行う。			
教科書	森田美弥子他編 『臨床心理学実践の基礎その1 基本姿勢からインテーク面接まで』 ナカニシヤ出版 金井篤子他編 『臨床心理学実践の基礎その2 心理面接の基礎から臨床実践まで』 ナカニシヤ出版			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	臨床心理基礎実習【実習】（通年・後）		開講時期	通年
担当教員	森田 理香・大霧 香・日高 崇博・岩男 尚美		単 位	2
授業の目的と概要	臨床心理実践に必要な基礎的な知識の獲得と基本的な技術や態度の習得、倫理的配慮を学ぶことを目的とする。さらに自分自身の態度や心理技術について内省トレーニングを行うことにより臨床心理士（公認心理師）としての素養を育てることを目的とする。授業では受講者同士のロールプレイ、事例のアセスメントや見立て、ケースカンファレンスへの参加等の体験学習により、心理面接の基本的な知識、技術の習得を目指す。さらに、臨床心理士が働いている現場に見学に行くことによって、臨床心理士の職務内容等を理解をする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理臨床活動を行うための基礎的な知識を習得する。</li> <li>・心理臨床活動を行うための基礎的な技術を身につける。</li> <li>・心理臨床場面での倫理について説明できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</p> <p>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</p> <p>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</p> <p>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>関連科目：臨床心理実習ⅠA・ⅠB(心理実践実習)、臨床心理実習Ⅲ～Ⅴ(心理実践実習、外部実習)</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	後期オリエンテーション・学内実習について	教科書その2Ⅲ部の予習		
第2回	施設見学	見学についてのレポート		
第3回	施設見学の振り返り	見学についてのレポート		
第4回	事例のアセスメントと見立て① 幼児を中心に	資料の通読と自分の課題の明確化		
第5回	事例のアセスメントと見立て② 思春期を中心に	資料の通読と自分の課題の明確化		
第6回	事例のアセスメントと見立て③ 成人を中心に	資料の通読と自分の課題の明確化		
第7回	陪席体験等の振り返り	レポート		
第8回	面接記録について	記録の整理		
第9回	事例検討① プレイセラピー	資料の通読と自分の課題の明確化		
第10回	事例検討② 言語面接	資料の通読と自分の課題の明確化		
第11回	事例検討③ 動作法・グループセラピー	資料の通読と自分の課題の明確化		
第12回	事例検討④ 教育臨床	資料の通読と自分の課題の明確化		
第13回	外部実習について	資料の通読・外部実習への準備		
第14回	心理業務における倫理	教科書その1 21-38の通読		
第15回	まとめ	期末レポート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート20%			
小テスト等	授業ごとのレポート40%			
成果発表	ロールプレイ・発表・ディスカッション等の実習評価 40%			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>この科目は臨床心理士受験資格取得に関わる科目である。</p> <p>臨床心理実習Ⅲ～Ⅴ(心理実践実習・外部実習)を履修するためにはこの科目を履修する必要がある。</p> <p>本学臨床心理センターの相談員になるために必要な科目である。</p> <p>この科目は通年科目であり、2時限連続で行う。</p>			
教科書	森田美弥子他編 『臨床心理学実践の基礎その1 基本姿勢からインテーク面接まで』 ナカニシヤ出版 金井篤子他編 『臨床心理学実践の基礎その2 心理面接の基礎から臨床実践まで』 ナカニシヤ出版			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスワーカー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)【演習】		開講時期	前期
担当教員	大霧 香		単 位	2
授業の目的と概要	心理臨床の場において公認心理師・臨床心理士として専門的な心理アセスメントが出来るようになることを目的とする。心理的アセスメントの意義について理解し、心理検査に関する理論と方法を習得し、報告書を作成する力を身につける。また、相談、助言、指導等の実際の心理臨床場面でそれらがどのように活用されているかについて学ぶ。授業では、検査者、被検査者のロールプレイや報告書の作成など体験的な学習も行う。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理アセスメントの意義について説明できる。</li> <li>・心理アセスメントで用いられる心理検査について説明できる。</li> <li>・心理アセスメントがどのように活用されているか説明することができる。</li> <li>・心理検査(発達・知能検査)を実施することができる。</li> <li>・報告書(所見)が書けるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</p> <p>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</p> <p>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</p> <p>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第1回	心理アセスメントの意義		教科書 I心理アセスメントの基礎理論(1~20ページ)の復習と予習	
第2回	心理アセスメントの実践場面		心理検査についての発表の準備	
第3回	心理検査の理論と方法		発達検査・知能検査についての発表の準備	
第4回	発達検査・知能検査		神経心理学的検査についての発表準備	
第5回	神経心理学的検査		レポート①心理検査についてのまとめ	
第6回	発達検査(新版K式発達検査) 理論・実施法		新版K式についての復習	
第7回	発達検査(新版K式発達検査) 採点・解釈・フィードバック		レポート② 新版K式発達検査の報告書作成	
第8回	知能検査(ウェクスラー式知能検査) 理論・実施法①		ウェクスラー知能検査についての復習	
第9回	知能検査(ウェクスラー式知能検査) 実施法②		ウェクスラー知能検査についての復習	
第10回	知能検査(ウェクスラー式知能検査) 採点		ウェクスラー知能検査の採点	
第11回	知能検査(ウェクスラー式知能検査) 解釈		レポート③ ウェクスラー知能検査の報告書作成	
第12回	知能検査(ウェクスラー式知能検査) フィードバック		レポート④ ウェクスラー知能検査の報告書作成	
第13回	知能検査(田中ビネー知能検査) 理論・実施法		田中ビネー知能検査についての復習	
第14回	知能検査(田中ビネー知能検査) 採点・解釈・フィードバック		レポート⑤ 田中ビネー知能検査の報告書作成	
第15回	心理アセスメントについてのまとめ		心理検査についての復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	レポート 50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	討論やロールプレイでの参加の仕方 50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目は公認心理師・臨床心理士受験資格取得のための必修科目である。心理アセスメントを行えるようになるには授業時間内の実習のみでは不可能なため、授業時間外でも予習や復習を行い、知識や技術を習得していくこと。			
教科書	松本真理子・森田美弥子編 『心理アセスメント 心理検査のミニマム・エッセンス』 ナカニシヤ出版			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスワー	月曜日 昼休み・5限	メールアドレス		

授業科目	臨床心理査定演習Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	森田 理香		単 位	2
授業の目的と概要	<p>心理臨床の場において公認心理師・臨床心理士として心理アセスメントの計画の作成、実施、所見の作成、フィードバックできる力を身につけることを目的とする。心理的アセスメントの意義について理解し、心理検査に関する理論と方法を習得し、報告書を作成できるようになる。また、相談、助言、指導等の実際の心理臨床場面でそれらがどのように活用されているかについて学ぶ。授業では、検査者、被検査者のロールプレイや報告書の作成など体験的な学習も行う。</p>			
到達目標	<p>(1) 心理アセスメントの意義について説明できる。  (2) 心理アセスメントで用いられる心理検査について説明できる。  (3) 心理アセスメントがどのように活用されているか説明することが出来る。  (4) 心理検査（人格検査）を実施することが出来る。  (5) 報告書（所見）が書けるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。  (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。  (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。  (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 等	
第1回	心理アセスメントの基礎理論		臨床心理査定演習Ⅰの復習	
第2回	心理アセスメントの実践場面		心理検査（人格検査）についての発表の準備	
第3回	心理検査の理論と方法		人格検査検査についての発表の準備	
第4回	人格検査		投影法についての発表準備	
第5回	投影法		心理検査（人格検査）についてのまとめ	
第6回	検査の実施（Y-G性格検査）		Y-G性格検査の採点、所見作成	
第7回	検査の実施（バウムテスト）		バウムテストの実施	
第8回	検査の解釈（バウムテスト）		バウムテストの所見作成	
第9回	検査の実施（P-Fスタディ）		P-Fスタディの解釈	
第10回	検査の解釈（P-Fスタディ）		P-Fスタディの所見作成	
第11回	検査の実施（SCT）		SCTの実施	
第12回	検査の解釈（SCT）		SCTの所見作成	
第13回	心理アセスメントの実践（医療分野）		教科書 p194～212予習	
第14回	テストバッテリーについて		テストバッテリーについてのまとめ	
第15回	心理アセスメントについてのまとめ		心理アセスメントについての復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	レポート 60%			
小テスト等	なし			
成果発表	心理検査についての発表 20%			
受講態度他	討論への参加の仕方 20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>本科目は臨床心理士受験資格取得のための必修科目である。  心理アセスメントを行えるようになるには授業時間内の実習のみでは不可能なため、授業時間外でも予習や復習を行い、知識や技術を習得していくこと。</p>			
教科書	松本真理子・森田美弥子編 『心理アセスメント 心理検査のミニマム・エッセンス』 ナカニシヤ出版			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	月曜日 昼休み	メールアドレス		

授業科目	臨床心理実習【実習】	開講時期	前期
担当教員	酒井 均・森田 理香	単位	1
授業の目的と概要	<p>心理職が働くさまざまな現場を見学し、場合によっては実際にその業務に参加し、心理職の役割と現場の状況を理解し、自分の将来的な展望を持つことができる。</p> <p>さまざまな心理職がはたらく現場（児童相談所、保健所、病院、児童施設、療育施設など）を見学したり、心理職にインタビューしたりする。場合によってはその業務の一部に参加をする。その後、それらをレポートにまとめ発表する。</p>		
到達目標	<p>心理職の役割と現場の状況を説明できる。 将来的な展望をきちんと説明できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>科目担当者の中には心理相談・特別支援教育の実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション	見学先調査	
第2回	見学	報告書まとめ	
第3回	見学	報告書まとめ	
第4回	見学	報告書まとめ	
第5回	見学	報告書まとめ	
第6回	見学	報告書まとめ	
第7回	見学	報告書まとめ	
第8回	中間報告会	見学先調査	
第9回	見学	報告書まとめ	
第10回	見学	報告書まとめ	
第11回	見学	報告書まとめ	
第12回	見学	報告書まとめ	
第13回	見学	報告書まとめ	
第14回	見学	報告書まとめ	
第15回	最終報告会	最終レポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	70％		
小テスト等	なし		
成果発表	20％		
受講態度他	10％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>この授業は将来心理専門職に就職するという固い意志のある学生のために開講しています。興味本位では受講できません。また、見学が中心のため時間外の授業がほとんどになります。しかも、見学先の状況によっては、いつ見学になるかもわかりません。このため筑女ネット、掲示等のチェックは怠らないように注意してください。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワーカー	担当教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス	

授業科目	臨床心理実習 I A (心理実践実習) 【実習】		開講時期	通年
担当教員	洪田(登)・大鷲(香)・酒井(均)・針塚(進)・日高(崇)・板井(修)・神(祐)・森田(理)		単位	2
授業の目的と概要	<p>心理に関する支援を要する人と関わりながら、コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等に関する知識及び技能を修得し、アセスメントや見立て、支援計画の作成が出来るようになることを目的とする。さらにチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、臨床心理士・公認心理師としての職業倫理及び法的義務においても理解を深める。学外実習の事前学習、事後報告等を通して、各施設の特徴、多職種との連携について理解を深める。また、学内実習施設においては受付業務の担当、インテーク面接の陪席、心理検査の実施、継続心理面接等を行い、カンファレンスにおいて電話受付の報告、インテーク資料の作成と報告、継続面接の導入期報告と経過報告などを行う。また、実習担当教員から事例の検討、記録や報告書の書き方、チームアプローチ、地域連携についての指導を受ける。</p> <p>臨床心理実習 I Aにおいて110時間（ケース担当時間42.5時間）以上とする。</p>			
到達目標	<p>(ア) 心理に関する支援を要するもの等に関する以下の知識及び技能を修得  (1) コミュニケーション (2) 心理検査 (3) 心理面接 (4) 地域支援等  (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成  (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ  (エ) 多職種連携及び地域連携  (オ) 臨床心理士・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。  (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。  (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。  (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
	【臨床心理実習 I Aは、110時間（ケース担当時間42.5時間）以上とする。内容は以下に示す。】	—		
	公認心理師・臨床心理士のマナー、公認心理師・臨床心理士の倫理	公認心理師・臨床心理士のマナー、倫理についての資料を調べ、まとめる		
	公認心理師・臨床心理士の法的義務、公認心理師の職責及び多職種連携への理解	心理師(士)の法的義務、職責、多職種連携に関する資料を調べ、まとめる		
	臨床心理実習の目的・意義の理解、学内実習の記録	臨床心理実習についての復習		
	臨床記録の管理、学外実習の記録	臨床記録の管理について復習		
	実習生としての心得	実習マニュアルを熟読し、予習		
	学外実習に関する個別指導	実習計画書の作成		
	学外実習に関する全体指導	実習先に関して調べ、実習日誌に記入する		
	インテーク・カンファレンス	カンファレンス資料の作成		
	ケース・カンファレンス	カンファレンス資料の作成		
	学外実習報告会	実習報告書の作成		
	受付業務の担当	記録作成		
	インテーク面接の陪席	記録作成		
	心理検査の実施、継続心理面接	記録作成		
	全体のまとめ	全体の振り返り		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%：実習計画書の作成、実習記録作成、学外実習報告書作成、インテークカンファレンス資料作成、ケースカンファレンス資料作成			
小テスト等	なし			
成果発表	30%：インテーク・カンファレンス、ケース・カンファレンスの発表、実習報告会での報告			
受講態度他	50%：ディスカッションへの参加、ケース担当に関して（実習生本人の自己評価をふまえて、担当教員が評価する）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 課題や問題意識を持ち積極的に取り組むこと。  2. 遅刻や欠席がないよう日頃から心身の健康管理を徹底すること。  3. 実習に対し、主体的・意欲的に取り組むこと。</p>			
教科書	資料配布			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワーカー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	臨床心理実習 I B (心理実践実習) 【実習】		開講時期	通年
担当教員	針塚(進)・大鷲(香)・日高(崇)・板井(修)・榊(祐)・森田(理)・酒井(均)		単位	2
授業の目的と概要	<p>心理に関する支援を要する人と関わりながら、コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等に関する知識及び技能を修得し、アセスメントや見立て、支援計画の作成が出来るようになることを目的とする。さらにチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、臨床心理士・公認心理師としての職業倫理及び法的義務においても理解を深める。学外実習の事前学習、事後報告等を通して、各施設の特徴、多職種との連携について理解を深める。また、学内実習施設においては受付業務の担当、インテーク面接の陪席、心理検査の実施、継続心理面接等を行い、カンファレンスにおいて電話受付の報告、インテーク資料の作成と報告、継続面接の導入期報告と経過報告などを行う。また、実習担当教員から事例の検討、記録や報告書の書き方、チームアプローチ、地域連携についての指導を受ける。</p> <p>臨床心理実習 I Bにおいて155時間（ケース担当時間87.5時間）以上とする。</p>			
到達目標	<p>(ア) 心理に関する支援を要するもの等に関する以下の知識及び技能を修得  (1) コミュニケーション (2) 心理検査 (3) 心理面接 (4) 地域支援等  (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成  (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ  (エ) 多職種連携及び地域連携  (オ) 臨床心理士・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。  (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。  (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。  (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
	【臨床心理実習 I Bは、155時間（ケース担当時間87.5時間）以上とする。内容は以下に示す】	-		
学外実習の事前準備		実習計画書の作成		
学外実習の事後準備		実習記録の作成		
学外実習報告会		実習報告書の作成		
臨床心理実習（心理実践実習）のまとめ		実習に関するレポート		
受付業務の担当		記録作成		
継続面接の担当		記録作成		
インテークカンファレンス		カンファレンス資料の作成		
ケースカンファレンス		カンファレンス資料の作成		
担当ケースに関する事前指導		支援計画の作成		
担当ケースに関する事後指導		ケース記録の作成		
全体のまとめ		全体の振り返り		
-		-		
-		-		
-		-		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%：実習計画書の作成、実習記録作成、学外実習報告書作成、インテークカンファレンス資料作成、ケースカンファレンス資料作成			
小テスト等	なし			
成果発表	30%：インテーク・カンファレンス、ケース・カンファレンスの発表、実習報告会での報告			
受講態度他	50%：ディスカッションへの参加、ケース担当に関して（実習生本人の自己評価をふまえて、担当教員が評価する）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 課題や問題意識を持ち積極的に取り組むこと。  2. 遅刻や欠席がないよう日頃から心身の健康管理を徹底すること。  3. 実習に対し、主体的・意欲的に取り組むこと。</p>			
教科書	配布資料			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワーカー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		



授業科目	臨床心理実習Ⅱ【実習】		開講時期	通年
担当教員	板井(修)・榊(祐)・森田(理)・大霧(香)・日高(崇)・針塚(進)・洪田(登)		単 位	2
授業の目的と概要	<p>心理に関する支援を要する者と関わりながら、コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等に関する知識及び技能を修得し、アセスメントや見立て、支援計画の作成ができるようになることを目的とする。さらにチームアプローチ、多職種連携および地域連携、臨床心理士、公認心理師としての職業倫理及び法的義務においても理解を深める。</p> <p>学内実習施設（臨床心理センター）の事例を中心にケースカンファレンス（グループスーパービジョン）を行う。さらに担当ケースの外部スーパービジョン、教員によるスーパービジョンを受ける。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クライアントのアセスメントや見立てができるようになる。</li> <li>・事例についてまとめることができる。</li> <li>・事例について意見を述べるができる。</li> <li>・事例への自分の関わりについて考察することができる。</li> <li>・心理士（師）としての職業倫理及び法的義務について説明することができる。</li> <li>・他職種、地域と連携することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
第2回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
第3回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
第4回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
第5回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
第6回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
第7回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
第8回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
第9回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
第10回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
第11回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
第12回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
第13回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
第14回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
第15回	ケースカンファレンス（グループスーパービジョン）		カンファレンス資料の作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10%（外部SV報告書）			
小テスト等	なし			
成果発表	70%（ケースカンファレンスでの事例報告）			
受講態度他	20%（ディスカッションへの参加）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業時間外で外部のSVの指導を受けることを必須とする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	臨床心理実習Ⅲ(心理実践実習・外部実習)【実習】		開講時期	通年
担当教員	板井 修一・酒井 均・渋谷 登美子・榎 祐子・森田 理香・日高 崇博・針塚 進		単位	2
授業の目的と概要	臨床心理実習Ⅲ(心理実践実習・外部実習)では保健医療分野における実習を精神病院・総合病院において10日間行う。病院における実習では、実際の現場で行われているアセスメント、心理面接、グループアプローチ、地域支援などに関する理解を深め、それらの技能を習得するための指導を受ける。また、個別の事例を担当し、記録を作成する。その際、個別の支援計画や病院内での多職種連携についての理解を深める。実習においては実習指導者と実習担当教員が連携をとりながら実習生の指導を行い、実習担当教員は週1回以上の巡回指導を行う。			
到達目標	(ア) 心理に関する支援を要するもの等に関する以下の知識及び技能を修得 (1) コミュニケーション (2) 心理検査 (3) 心理面接 (4) 地域支援等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 臨床心理士・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。 (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。 (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。 (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
	原則として保健医療分野における実習を計80時間行うものとする(うち60時間はケース担当)	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	実習指導者の評価および実習記録の評価を基準に、実習指導担当教員が評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 課題や問題意識を持ち積極的に取り組むこと。 2. 遅刻や欠席がないよう日頃から心身の健康管理を徹底すること。 3. 実習に対し、主体的・意欲的に取り組むこと。			
教科書	資料配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	臨床心理実習Ⅳ(心理実践実習・外部実習)【実習】		開講時期	通年
担当教員	板井 修一・酒井 均・渋谷 登美子・榎 祐子・森田 理香・日高 崇博・針塚 進		単位	2
授業の目的と概要	臨床心理実習Ⅳ(心理実践実習・外部実習)では福祉分野の施設において10日間の実習を行う。福祉分野における実習では、実際の現場で行われているアセスメント、利用者に対する心理支援、日常生活支援などに関する理解を深め、それらの技能を習得するための指導を受ける。また、個別の事例を担当し、記録を作成する。その際、個別の支援計画や施設内での多職種連携についての理解を深める。実習においては実習指導者と実習担当教員が連携をとりながら実習生の指導を行い、実習担当教員は週1回以上の巡回指導を行う。			
到達目標	(ア) 心理に関する支援を要するもの等に関する以下の知識及び技能を修得 (1) コミュニケーション (2) 心理検査 (3) 心理面接 (4) 地域支援等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 臨床心理士・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。 (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。 (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。 (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
	原則として福祉分野における実習を計80時間行うものとする(うち60時間はケース担当)		—	
	—		—	
	—		—	
	—		—	
	—		—	
	—		—	
	—		—	
	—		—	
	—		—	
	—		—	
	—		—	
	—		—	
	—		—	
	—		—	
	—		—	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	実習指導者の評価および実習記録の評価を基準に、実習指導担当教員が評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 課題や問題意識を持ち積極的に取り組むこと。 2. 遅刻や欠席がないよう日頃から心身の健康管理を徹底すること。 3. 実習に対し、主体的・意欲的に取り組むこと。			
教科書	資料配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	臨床心理実習Ⅴ(心理実践実習・外部実習)【実習】		開講時期	通年
担当教員	板井 修一・酒井 均・渋谷 登美子・榎 祐子・森田 理香・日高 崇博・針塚 進		単位	2
授業の目的と概要	臨床心理実習Ⅴ(心理実践実習・外部実習)では教育分野あるいは産業・労働分野のいずれかの実習を選択する。教育分野では適応指導教室において、産業・労働分野ではEAPにおいて10日間の実習を行う。これらの実習では、実際の現場で行われている日常的な関わりや、心理アセスメント、心理面接、グループアプローチ、チームアプローチ、心理教育などに関する理解を深め、それらの技能を習得するための指導を受ける。また、個別の事例を担当し、記録を作成する。その際、個別の支援計画や各施設内での多職種連携についての理解を深める。実習においては実習指導者と実習担当教員が連携をとりながら実習生の指導を行い、実習担当教員は週1回以上の巡回指導を行う。			
到達目標	(ア) 心理に関する支援を要するもの等に関する以下の知識及び技能を修得 (1) コミュニケーション (2) 心理検査 (3) 心理面接 (4) 地域支援等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 臨床心理士・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。 (2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。 (3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。 (4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
原則として教育分野あるいは産業・労働分野のいずれかの分野における実習を計80時間行うものとする(うち60時間はケース担当)			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	実習指導者の評価および実習記録の評価を基準に、実習指導担当教員が評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 課題や問題意識を持ち積極的に取り組むこと。 2. 遅刻や欠席がないよう日頃から心身の健康管理を徹底すること。 3. 実習に対し、主体的・意欲的に取り組むこと。			
教科書	資料配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)【講義】		開講時期	前期
担当教員	針塚 進		単 位	2
授業の目的と概要	本授業では、臨床心理士・公認心理師として心理臨床の専門家として心理的支援を要する人に対して関与することができる専門的な知識と技能を習得できるようになることを目的とする。心理支援に関する理論と実践の方法について理解するとともにロールプレイや実習を通して基本的な技法を体験する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 力動論に基づく心理療法の理論（フロイト、ユングなど）を理解する。</li> <li>2. 認知論・行動論に基づく心理療法（認知行動療法、催眠療法、動作療法など）の理論と基礎的方法を習得する。</li> <li>3. 学校コンサルテーションの実際や方法を理解し、心理臨床の専門家としての資質を理解する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回	心理的支援を要する人と相談を受ける人	心理に関する支援を求める人とはどのような人であるかについて調べる		
第2回	カウンセリングと心理療法	カウンセリングの特徴と心理療法の特徴の違いと共通性についてまとめる		
第3回	力動的な心理療法の理論と実際（フロイト理論とユング理論）	フロイト理論とユング理論の違いと共通性についてまとめる		
第4回	行動論・認知論による心理療法	力動論と行動論・認知論による心理療法の違いをまとめる		
第5回	来談者中心的カウンセリング（講義と演習）	演習体験の振りかえりをまとめる		
第6回	催眠療法（講義と演習）	演習体験の振りかえりをまとめる		
第7回	イメージ療法（講義と演習）	演習体験の振りかえりをまとめる		
第8回	自律訓練法（講義と演習）	演習体験の振りかえりをまとめる		
第9回	動作療法（講義と演習）	演習体験の振りかえりをまとめる		
第10回	動作療法（講義と演習）	演習体験の振りかえりをまとめる		
第11回	医療領域における心理臨床（講義と演習）	演習体験の振りかえりをまとめる		
第12回	福祉領域（障害児）における心理臨床（講義と演習）	演習体験の振りかえりをまとめる		
第13回	福祉領域（高齢者）における心理臨床（講義と演習）	演習体験の振りかえりをまとめる		
第14回	教育領域における心理臨床	演習体験の振りかえりをまとめる		
第15回	全体のまとめと振り返り	全体のまとめとしてレポートを作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない			
レポート	毎回課題とする。60％			
小テスト等	行わない			
成果発表	全体のまとめをレポートとして提出、20％			
受講態度他	演習に積極的に参加すること、20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	分担者による毎回のレポート7、全体まとめのレポート			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	心理臨床学事典 日本心理臨床学会編 丸善書店 臨床心理学特論 小川・倉本ら編 放送大学テキスト			
オフィスワー	火曜日5限、木曜日5限	メールアドレス		

授業科目	臨床心理面接特論Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	森田 理香		単 位	2
授業の目的と概要	本授業では、心理臨床の場において公認心理師・臨床心理士として専門的な知識・技能をもって、心理に関する支援を要する人に関わることが出来るようになることを目的とする。心理面接に関する基礎的、応用的理論を理解したうえで、ロールプレイ等の体験を通して心理面接技法を身につける。また、様々なかかわりの技法について理解を深める。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理面接についての基本的な枠組みについて説明することが出来る。</li> <li>2. 非言語的及び言語的心理面接の技法を用いて対象者と関わることが出来る。</li> <li>3. 自己の関わりについて客観的に振り替えることが出来る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間存在について、深く理解し自らの言葉で論ずることができる。</li> <li>(2) 人間が抱える問題および人間をとりまく社会や文化の中に存在する問題に対し、多面的な支援の方策を適切に導き出すことができる。</li> <li>(3) 設定した研究テーマについて適切な研究方法に基づいた探求を行い、得られた結果や知見を論文としてまとめることができる。</li> <li>(4) 研究成果および研究を通して身につけた研究的資質を活かし、高度専門職業人として実践的活動をすることができる。</li> </ol> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	心理面接の基礎		教科書 p 3-20 予習	
第2回	事例検討の重要性		教科書 p 21-34 予習、非言語的心理面接についての発表準備	
第3回	非言語的心理面接		言語的心理面接についての発表準備	
第4回	言語的心理面接		その他の心理面接についての発表準備	
第5回	その他の心理面接（心理教育、ストレスマネジメント、集団心理療法、など）		心理面接についての復習	
第6回	心理面接体験（ロールプレイ）		レポート① 面接の振り返り、自己分析	
第7回	心理面接体験（ロールプレイ）		レポート② 面接の振り返り、自己分析	
第8回	心理面接体験（ロールプレイ）		レポート③ 面接の振り返り、自己分析	
第9回	集団心理療法体験（心理劇）		レポート④ 心理劇体験の振り返り、自己分析	
第10回	集団心理療法体験（心理劇）		レポート⑤ 心理劇体験の振り返り、自己分析	
第11回	集団心理療法体験（心理劇）		レポート⑥ 心理劇体験の振り返り、自己分析	
第12回	集団心理療法体験（心理劇）		レポート⑦ 心理劇体験の振り返り、自己分析	
第13回	集団心理療法体験（心理劇）		レポート⑧ 心理劇体験の振り返り、自己分析	
第14回	集団心理療法体験（心理劇）		レポート⑨ 心理劇体験の振り返り、自己分析	
第15回	全体の振り返り		最終レポート：臨床心理面接についてのまとめ	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 授業内での発表			
受講態度他	20％ ロールプレイ、集団心理療法への参加態度、ディスカッションでの発言			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>本科目は臨床心理師受験資格に関わる必修科目である。  ペア、あるいは集団でのワークを含むため、遅刻厳禁。  ロールプレイや集団でのワークへは積極的・主体的に参加すること。</p>			
教科書	森田美弥子・松本真理子・金井篤子監修「臨床心理学実践の基礎 その2 心理面接の基礎から臨床実践まで」ナカニシヤ出版			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜昼休み	メールアドレス		

授業科目	倫理学【講義】		開講時期	前期
担当教員	浅田 淳一		単 位	2
授業の目的と概要	<p>昨今、漠然とした仕方で「モラルの低下」などが声高に叫ばれているが、そもそもモラルは何なのだろうか。本講義では、こうした素朴な疑問から出発して、自分自身が納得して受け入れることができる「我々の時代の我々のモラル」とはどのようなものかを探求していく。その結果「私は少なくとも私の考える限りでは、正しく善く生きて行ける」と確信が持てることに一歩でも近づけることを目指す。</p> <p>「自由に生きて何故悪い」と主張する若者たちの見解を倫理的に考察し、倫理学の有効性・必要性を考える。その上で、改めて各人の幸福観にもとづいて、望ましい社会について展望する。さらに現代において支配的な「功利主義」の立場を批判的に検討するなかで、「我々の時代の我々のモラル」の可能性について考察を深めていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理学が提示するモラルの一般的定義を正しく説明することができる。</li> <li>2. 自由主義のモラルの要点を正しく説明することができる。</li> <li>3. 普遍化可能性原理（カントの定言命法）の要点を正しく説明することができる。</li> <li>4. 幸福についての様々な立場を、正しく説明することができる。</li> <li>5. 出生前診断、脳死体からの臓器移植、などの具体的問題に対する自分の見解を明示することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1 回	モラルとは： 法律とモラルの一致点・不一致点	課題（若者の直面する倫理的課題について自分なりに考えてみる）		
第 2 回	若者の主張の検討：Ⅰ モラルの全面的否定は可能か？	課題（それぞれの立場に自分の身を置いてリアルに考えてみる）		
第 3 回	若者の主張の検討：Ⅱ 自然主義的誤謬について	課題（自分が犯している自然主義的誤謬について反省してみる）		
第 4 回	自由主義的モラル：J. S. ミルの自由論	課題（大人と子どもの区別について自分なりに考えてみる）		
第 5 回	普遍化可能性原理：カントの定言命法（モラルのただ乗り）	課題（モラルのただ乗りについて、自ら反省してみる）		
第 6 回	個人の幸福観について：問い「幸福の薬を飲みますか？」	課題（自分自身の幸福とは何か？各自で考えてみる）		
第 7 回	様々な幸福観：禁欲主義、快楽主義、力の発揮など	課題（講義で紹介された様々な幸福観を自分に照らして検討してみる）		
第 8 回	功利主義：欲望の追求と秩序の維持を可能にした理論	課題（功利主義を実際に適用した場合の利点について考えてみる）		
第 9 回	功利主義の問題点：人権の侵害、少数派の問題など	課題（功利主義の問題点について、各自で検討してみる）		
第10回	極端な功利主義の例：John Harris : Survival Lottery	課題（ハリスのサバイバル・ロタリーへの反論を各自で試してみる）		
第11回	「所有物」と「授かりもの」の対比：功利主義の克服	課題（自分の命の特殊性について、各自反省してみる）		
第12回	生命倫理の諸問題： 出生前診断、臓器移植など	課題（自分が妊娠出産する際に直面する問題について想像してみる）		
第13回	欲望の爆発の必然性：神の死、自由主義、資本主義	課題（何故欲望は爆発するのか？その理由について考えてみる）		
第14回	欲望の爆発を回避する可能性：地域通貨、一般意志など	課題（欲望の爆発を回避する可能性について自分なりに考えてみる）		
第15回	死の恐怖と生への驚き：生の完成としての死	課題（「いのち」について、自らを振り返って考えてみる）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	100%			
小テスト等	0%各講義の最後に簡単な問題に答えてもらうが、特に成績には反映させない			
成果発表	0%			
受講態度他	0%目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。テストの成績が合否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『幸福の薬を飲みますか』（ナカニシヤ出版）			
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス		

授業科目	倫理学【講義】		開講時期	後期
担当教員	浅田 淳一		単位	2
授業の目的と概要	<p>昨今、漠然とした仕方で「モラルの低下」などが声高に叫ばれているが、そもそもモラルは何なのだろうか。本講義では、こうした素朴な疑問から出発して、自分自身が納得して受け入れることができる「我々の時代の我々のモラル」とはどのようなものかを探求していく。その結果「私は少なくとも私の考える限りでは、正しく善く生きて行ける」と確信が持てることに一歩でも近づけることを目指す。</p> <p>「自由に生きて何故悪い」と主張する若者たちの見解を倫理的に考察し、倫理学の有効性・必要性を考える。その上で、改めて各人の幸福観にもとづいて、望ましい社会について展望する。さらに現代において支配的な「功利主義」の立場を批判的に検討するなかで、「我々の時代の我々のモラル」の可能性について考察を深めていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理学が提示するモラルの一般的定義を正しく説明することができる。</li> <li>2. 自由主義のモラルの要点を正しく説明することができる。</li> <li>3. 普遍化可能性原理（カントの定言命法）の要点を正しく説明することができる。</li> <li>4. 幸福についての様々な立場を、正しく説明することができる。</li> <li>5. 出生前診断、脳死体からの臓器移植、などの具体的問題に対する自分の見解を明示することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	モラルとは：法律とモラルの一致点・不一致点	課題（若者の直面する倫理的課題について自分なりに考えてみる）		
第2回	若者の主張の検討：Ⅰ モラルの全面的否定は可能か？	課題（それぞれの立場に自分の身を置いてリアルに考えてみる）		
第3回	若者の主張の検討：Ⅱ 自然主義的誤謬について	課題（自分が犯している自然主義的誤謬について反省してみる）		
第4回	自由主義的モラル：J. S. ミルの自由論	課題（大人と子どもの区別について自分なりに考えてみる）		
第5回	普遍化可能性原理：カントの定言命法（モラルのただ乗り）	課題（モラルのただ乗りについて、自ら反省してみる）		
第6回	個人の幸福観について：問い「幸福の薬を飲みますか？」	課題（自分自身の幸福とは何か？各自で考えてみる）		
第7回	様々な幸福観：禁欲主義、快楽主義、力の発揮など	課題（講義で紹介された様々な幸福観を自分に照らして検討してみる）		
第8回	功利主義：欲望の追求と秩序の維持を可能にした理論	課題（功利主義を実際に適用した場合の利点について考えてみる）		
第9回	功利主義の問題点：人権の侵害、少数派の問題など	課題（功利主義の問題点について、各自で検討してみる）		
第10回	極端な功利主義の例：John Harris : Survival Lottery	課題（ハリスのサバイバル・ロタリーへの反論を各自で試してみる）		
第11回	「所有物」と「授かりもの」の対比：功利主義の克服	課題（自分の命の特殊性について、各自反省してみる）		
第12回	生命倫理の諸問題：出生前診断、臓器移植など	課題（自分が妊娠出産する際に直面する問題について想像してみる）		
第13回	欲望の爆発の必然性：神の死、自由主義、資本主義	課題（何故欲望は爆発するのか？その理由について考えてみる）		
第14回	欲望の爆発を回避する可能性：地域通貨、一般意志など	課題（欲望の爆発を回避する可能性について自分なりに考えてみる）		
第15回	死の恐怖と生への驚き：生の完成としての死	課題（「いのち」について、自らを振り返って考えてみる）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	100%ただし、例外あり、ルールに関わる情報を見よ。			
レポート	0%			
小テスト等	0%各講義の最後に簡単な問題に答えてもらうが、特に成績には反映させない			
成果発表	0%			
受講態度他	0%目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。テストの成績が合否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『幸福の薬を飲みますか』（ナカニシヤ出版）			
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス		



授業科目	Business English II 【演習】		開講時期	後期
担当教員	Chris Flynn		単位	2
授業の目的と概要	<p>The object of this course is to familiarise students with English used in the business environment. This course is a continuation of Business English I.</p> <p>There will be an emphasis on computer literacy with web-based study materials and power point presentations used together with the textbook. In addition, each student will choose a company listed on an international stock market and report its fluctuation each week.</p>			
到達目標	<p>Students will be able to understand a number of business/office related situations. Emphasis will be on accurately communicating business reports and figures.</p> <p>Students who have not taken Business English I may join this class, however it is advised that new students consult with the teacher or fellow students on which company they will choose for their stock report.</p> <p>The Internet will be introduced as a tool to assist with translation from/into English.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Outline of Course	コースの概要	講義の際に指示します		
第2回 Stock report preparation		講義の際に指示します		
第3回 Computer terminology and operation		講義の際に指示します		
第4回 Frequently used business terms		講義の際に指示します		
第5回 Text lesson 7: Checking in at an airport		Text lesson 7		
第6回 Text lesson 8: Getting through immigration and customs		Text lesson 8		
第7回 Text lesson 9: Settling into your hotel		Text lesson 9		
第8回 Stock report mid term test		講義の際に指示します		
第9回 Business messages and passing them on to third parties		講義の際に指示します		
第10回 Text lesson 10: Conducting a business meeting / Translation techniques		Text lesson 1, Translation techniques using online references		
第11回 Text lesson 11: Making appointments with customers		Text lesson 11		
第12回 Text lesson 12: Making small talk with colleagues		Text lesson 12		
第13回 パソコンによる試験の模擬試験		講義の際に指示します		
第14回 ビジネスメッセージの口頭模擬試験		講義の際に指示します		
第15回 期末提出物		講義の際に指示します		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	10%			
小テスト等	20%			
成果発表	30%			
受講態度他	40%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Business English web site L:\flynn/			
教科書	Business English web site L:\flynn/			
指定図書	Todd J Leonard『Business as Usual』成美堂			
参考図書	Yahoo Finance site			
オフィスワーク	Before and after the class.	メールアドレス		

授業科目	Business English I 【演習】		開講時期	前期
担当教員	Chris Flynn		単位	2
授業の目的と概要	<p>The object of this course is to familiarise students with English used in the business environment</p> <p>There will be an emphasis on computer literacy with web-based study materials and power point presentations used together with the textbook. In addition, each student will choose a company listed on an international stock market and report its fluctuation each week.</p> <p>Information searching skills will also be part of classwork.</p>			
到達目標	<p>Students will be able to understand a number of business/office related situations. Emphasis will be on accurately communicating business reports and figures.</p> <p>The Internet will be introduced as a tool to assist with translation from/into English.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Outline of Course	コースの概要		講義の際に指示します	
第2回 Stock report preparation			講義の際に指示します	
第3回 Computer terminology and operation			講義の際に指示します	
第4回 Frequently used business terms			講義の際に指示します	
第5回 Text lesson 1: Introducing yourself to a business colleague			Text lesson 1	
第6回 Text lesson 2: Making a self introduction at a business meeting			Text lesson 2	
第7回 Text lesson 3: Introducing business guests to colleagues			Text lesson 3	
第8回 Stock report mid term test			講義の際に指示します	
第9回 Business messages and passing them on to third parties			講義の際に指示します	
第10回 Text lesson 4: Leaving a message on answering machine			Text lesson 4	
第11回 Text lesson 5: Leaving a message by phone			Text lesson 5	
第12回 Text lesson 6: Taking a message in person			Text lesson 6	
第13回 Business message oral test			講義の際に指示します	
第14回 Revision Stock Report Summary			講義の際に指示します	
第15回 PC Based Mini Test			講義の際に指示します	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	10%			
小テスト等	40%			
成果発表	10%			
受講態度他	40%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Business English Web Site L:\flynn/			
教科書	Todd J Leonard 『Business as Usual』 成美堂			
指定図書	なし			
参考図書	Yahoo Finance			
オフィスワーク	Before and after the class	メールアドレス		

授業科目	Communication Theory【演習】		開講時期	前期
担当教員	山田 直子		単位	2
授業の目的と概要	グローバル化する社会では多様な文化的背景を持つ人々との交流や協働の機会が豊富にあります。この授業では、異文化コミュニケーションに関する重要な概念や理論、また、言語と文化の関係などについて学びながら、コミュニケーションについて深く考えたり、批判的に考えたりします。文化の概念、言語と思考、人間の心理とコミュニケーション、コミュニケーションスタイルなどについて英語で書かれた文章を読みながら考察します。異文化コミュニケーションに関連する知識の獲得のみならず、異文化コミュニケーションの能力を高めるために、授業内ではディスカッションを多く行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 異文化コミュニケーションの概念や理論及び言語と文化の関係を理解し説明することができる。</li> <li>2. 異文化間における効果的なコミュニケーションスキルを理解し説明することができる。</li> <li>3. 異文化コミュニケーションに関する自分の経験や考えを英語で話したり、書いたりすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	イントロダクション		Unit 1の予習	
第2回	Unit 1: Intercultural Communication in Today's World		Unit 2の予習	
第3回	Unit 2: English for Intercultural Communication		Unit 3の予習	
第4回	Unit 3: Important Features of Human Communication		Unit 4の予習	
第5回	Unit 4: The Concept of Culture		Unit 5の予習	
第6回	Unit 5: Language and Thought		Unit 6の予習	
第7回	Unit 6: Communication Style		Unit 7の予習	
第8回	Unit 7: Human Psychology and Communication		Unit 8の予習	
第9回	Unit 8: Speech Acts across Cultures		Unit 9の予習	
第10回	Unit 9: Stereotypes and Intercultural Communication		Unit 10の予習	
第11回	Unit 10: Cultural Accommodation in Intercultural Communication		Unit 11の予習	
第12回	Unit 11: Intercultural Communication in Higher Education		Unit 12の予習	
第13回	Unit 12: Study Abroad and Intercultural Adaptation		Unit 13の予習	
第14回	Unit 13: Intercultural Competence for Future		Unit 1~13までの復習	
第15回	総括・ディスカッション		定期試験の準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	70% ミニツノート（理解度の確認と各自の考えをまとめる言語化活動）			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 授業への積極的な参加態度、予習状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をした上で参加してください。 欠席回数が6回に達した場合は単位取得の資格を失います。			
教科書	McConachy, 古家, 櫻井 Intercultural Communication for English Language Learners in Japan, 南雲堂			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜、紹介します。			
オフィスアワー	メールで連絡してください。必要に応じてウェブでの面談も可能です。		メールアドレス	

授業科目	Conversation AI (S) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	T.R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	<p>この授業は初級～中級レベルの学生を対象とし、様々な状況に応じたコミュニケーションに必要な英語の理解を促します。</p> <p>この授業では、旅行や関連する状況を用いて実用的な英語を学ぶことにより、皆さんの自信を深め、アウトプットを促します。皆さんは積極的に授業に参加し、スキル向上を目指してください。</p>			
到達目標	<p>様々な話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考え方を理解することができるようになることを目指します。また、そうして得た情報や考え方をもとにして、様々な話題について臨機応変に英語でのやりとり・発表ができるようになることを目標にします。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション：シラバス・テキストの説明	Review Useful Classroom Expressions Unit 1 の予習		
第2回	搭乗券：フライト・インフォメーション、チェックイン	小テスト #1 - Useful Classroom Expressions		
第3回	自作の会話例をプレゼンしてみよう (Unit 1 の内容を踏まえて)	Unit 2 の予習		
第4回	自己紹介：興味のあることについて話してみよう	小テスト#2 (Unit 1)		
第5回	自作の役割練習会話例をプレゼンしてみよう (Unit 2 の内容を踏まえて)	Unit 3 の予習		
第6回	ホテルを探そう：ホテルのチェックイン、ホテルへのリクエスト	小テスト #3 (Unit 2)		
第7回	会話練習 (Unit 3 の本文を用いながら)	Unit 4 の予習		
第8回	日帰り旅行：日帰り旅行のプラン作り	小テスト#4 (Unit 3)		
第9回	自作の会話例をプレゼンしてみよう (Unit 4 の内容を踏まえて)	Unit 5 の予習		
第10回	移動：公共交通機関の手配と支払い	小テスト #5 (Unit 4)		
第11回	自作の役割練習会話例をプレゼンしてみよう (Unit 5 の内容を踏まえて)	Unit 6 の予習		
第12回	飲食：レストラン選びとオーダー	小テスト #6 (Unit 4)		
第13回	会話練習 (Unit 6 の本文を用いながら)	Unit 1 - 6 の復習		
第14回	まとめとボキャブラリーの復習	小テスト #7 (Unit 4)		
第15回	学期全般のまとめと期末試験のための復習	復習プリント		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	3回の小テスト 50%			
成果発表	なし			
受講態度他	授業の参加態度 50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回授業に参加してください。</p> <p>自分の意見を発表できるよう、準備してきてください。</p>			
教科書	Face to Face (Dale Fuller & Corey Fuller、MacMillan Languagehouse)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Tuesday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 1st period (9:10-10:40)	メールアドレス		

授業科目	Conversation AI (R1) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	T.R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	<p>この授業は初級～中級レベルの学生を対象とし、様々な状況に応じたコミュニケーションに必要な英語の理解を促します。</p> <p>この授業では、旅行や関連する状況を用いて実用的な英語を学ぶことにより、皆さんの自信を深め、アウトプットを促します。皆さんは積極的に授業に参加し、スキル向上を目指してください。</p>			
到達目標	<p>様々な話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考え方を理解することができるようになることを目指します。また、そうして得た情報や考え方をもとにして、様々な話題について臨機応変に英語でのやりとり・発表ができるようになることを目標にします。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション：シラバス・テキストの説明	Review Useful Classroom Expressions Unit 1 の予習		
第2回	搭乗券：フライト・インフォメーション、チェックイン	小テスト #1 - Useful Classroom Expressions		
第3回	自作の会話例をプレゼンしてみよう (Unit 1 の内容を踏まえて)	Unit 2 の予習		
第4回	自己紹介：興味のあることについて話してみよう	小テスト#2 (Unit 1)		
第5回	自作の役割練習会話例をプレゼンしてみよう (Unit 2 の内容を踏まえて)	Unit 3 の予習		
第6回	ホテルを探そう：ホテルのチェックイン、ホテルへのリクエスト	小テスト #3 (Unit 2)		
第7回	会話練習 (Unit 3 の本文を用いながら)	Unit 4 の予習		
第8回	日帰り旅行：日帰り旅行のプラン作り	小テスト#4 (Unit 3)		
第9回	自作の会話例をプレゼンしてみよう (Unit 4 の内容を踏まえて)	Unit 5 の予習		
第10回	移動：公共交通機関の手配と支払い	小テスト #5 (Unit 4)		
第11回	自作の役割練習会話例をプレゼンしてみよう (Unit 5 の内容を踏まえて)	Unit 6 の予習		
第12回	飲食：レストラン選びとオーダー	小テスト #6 (Unit 4)		
第13回	会話練習 (Unit 6 の本文を用いながら)	Unit 1 - 6 の復習		
第14回	まとめとボキャブラリーの復習	小テスト #7 (Unit 4)		
第15回	学期全般のまとめと期末試験のための復習	復習プリント		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	7回の小テスト 50%			
成果発表	なし			
受講態度他	授業の参加態度 50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回授業に参加してください。</p> <p>自分の意見を発表できるよう、準備してきてください。</p>			
教科書	Adventures Abroad (Dale Fuller & Kevin Cleary、MacMillan Languagehouse)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Tuesday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 1st period (9:10-10:40)	メールアドレス		

授業科目	Conversation AI (R2) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	M.E. Kamada		単位	1
授業の目的と概要	The aim of this class is to practice conversing in everyday English. The focus will be on three conversational skills: giving interesting answers to questions; asking questions; and giving responses. Students will practice with a partner or in small groups. Students will also give presentations.			
到達目標	At the end of this course, students should be able to: (1) talk about themselves and their lives; (2) be able to give interesting answers to questions; (3) ask questions; (4) respond to another speaker;			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。  <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
Orientation / Classroom Language			Prepare a self-introduction.	
第2回 Unit One: Personal Information			Unit 1: Question Bank	
第3回 Continuing Personal Information			Write answers to questions.	
第4回 Continuing Personal Information			Write answers to questions.	
第5回 Unit 2: Family and Home			Unit 2: Question Bank	
第6回 Continuing Family and Home			Write answers to questions.	
第7回 Unit 3: Hobbies and Preferences			Unit 3: Question Bank	
第8回 Continuing Hobbies and Preferences			Write answers to questions.	
第9回 Unit Six: Routines			Unit 6: Question Bank	
第10回 Continuing Routines			Write answers to questions.	
第11回 Unit Nine: Travel			Unit 9: Question Bank	
第12回 Continuing Travel			Write answers to questions.	
第13回 Unit Ten: Dating			Unit 10: Question Bank	
第14回 Continuing Dating			Write answers to questions.	
第15回 Review			Write answers to questions.	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	30% ( Written answers )			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	70% ( In- class speaking )			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students should participate actively in the online class.			
教科書	Out Front ( 6th Edition ) by Robert Diem & Roberto Rabbini (English Education Press)			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Students can talk to me online.	メールアドレス		

授業科目	Conversation AI (R3) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	Saza LINDA		単位	1
授業の目的と概要	The aim of this course is to give low intermediate level students with a limited knowledge of English the necessary communication skills to converse about themselves and their interests, with some degree of confidence.			
到達目標	The course will cover various topics, but most lessons will focus on language skills necessary for survival in travel situations.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Overview		Prepare Text and Preview Text Page 6-7		
第2回 Arriving in a strange place		Page 8-9		
第3回 Arranging transportation		Page 10-11		
第4回 Finding your way around		Page 12-13		
第5回 Discussing facilities, locations and operation hours		Page 14-15		
第6回 Rules and regulations, asking for permission		Page 16-17		
第7回 Homestay hints		Page 18-19		
第8回 Asking and giving directions, Maps		Page 20-21, and review exercises		
第9回 Food, restaurants, ordering and asking about the menu		Page 28-29		
第10回 Numbers, prices and tipping		Page 30-31		
第11回 Arranging for activities on vacation		Page 32-34		
第12回 Taking public transportation, ticketing and prices		Page 36-37		
第13回 Discussing past trips		Page 38-39 and Individual project prep		
第14回 Projects		Individual project prep		
第15回 Projects and review for test		Test prep		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	100%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Be prepared to participate!			
教科書	On the Go By Gershon, Mares and Walker Published by Pearson Longman			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワーク	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation AII (S) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	T. R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	<p>この講義は旅行やそれに関連した状況下にいるという設定のもと、実用的な英語を導入、練習し、自分のものとするを目的とします。その結果学生が自信をもって、その能力を高めることになります。学生は講義に懸命に取り組むことで、自らの英語の習得に責任を持ち、英語力の向上をはかることが出来るようになります。</p> <p>講義で実践するのはトピックの紹介、発音練習、リスニング、会話、学生が行きたいと思う英語圏の国々の文化面に関するディスカッションなどですが、必ずしもこの内容だけに限定される訳ではありません。また映像を使用した練習を行い、それによって英語を矯正したり、意見交換を行います。</p>			
到達目標	Conversation AIIは初級あるいは中級レベルの学生を対象とし、有用なコミュニケーションを図るのに必要な言葉を理解、使用する機会を与えることを目的とする。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	コースイントロダクション; シラバスの説明; 教科書の紹介	夏休みについての会話の準備 Unit 7 の予習		
第2回	散策: 位置関係の理解: 簡単な道案内	小テスト #1 (Unit 7)		
第3回	自作の会話例をプレゼンしてみよう (Unit 7 の内容を踏まえて)	Unit 8 の予習		
第4回	ショッピング: 買い物をする、価格を知る	小テスト #2 (Unit 8)		
第5回	自作の役割練習会話例をプレゼンしてみよう (Unit 8 の内容を踏まえて)	Unit 9 の予習		
第6回	遺失物取扱所: 探し物を説明する、見つかったものを報告する	小テスト #3 (Unit 9)		
第7回	自作の会話例をプレゼンしてみよう (Unit 9 の内容を踏まえて)	Unit 10 の予習		
第8回	病気と健康: 健康状態を理解する、医者と話す	小テスト #4 (Unit 10)		
第9回	自作の役割練習会話例をプレゼンしてみよう (Unit 10 の内容を踏まえて)	Unit 11 の予習		
第10回	帰国: 旅行について話す	小テスト #5 (Unit 11)		
第11回	自作の会話例をプレゼンしてみよう (Unit 11 の内容を踏まえて)	Unit 12 の予習		
第12回	旅の心得: 旅行のアドバイス; 安全に旅行することを学ぶ	小テスト #6 (Unit 12)		
第13回	自作の役割練習会話例をプレゼンしてみよう (Unit 12 の内容を踏まえて)	Unit 6 -12 の復習		
第14回	まとめ&語彙の復習	小テスト #7 (Unit 6 -12)		
第15回	学期全般のまとめと期末試験のための復習	復習プリント		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	定期試験 30%			
レポート	なし			
小テスト等	7回の小テスト 50%			
成果発表	なし			
受講態度他	授業の参加態度 20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	単位取得には講義への参加が絶対条件となります。毎週講義に来て、よく学び自分の意見をはっきりと述べてください。			
教科書	Face to Face (Dale Fuller & Corey Fuller、MacMillan Languagehouse)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	Monday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 2nd period (10:50-12:20)	メールアドレス		



授業科目	Conversation AII (R1) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	T. R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	<p>この講義は旅行やそれに関連した状況下にいるという設定のもと、実用的な英語を導入、練習し、自分のものとするを目的とします。その結果学生が自信をもって、その能力を高めることになります。学生は講義に懸命に取り組むことで、自らの英語の習得に責任を持ち、英語力の向上をはかることが出来るようになります。</p> <p>講義で実践するのはトピックの紹介、発音練習、リスニング、会話、学生が行きたいと思う英語圏の国々の文化面に関するディスカッションなどですが、必ずしもこの内容だけに限定される訳ではありません。また映像を使用した練習を行い、それによって英語を矯正したり、意見交換を行います。</p>			
到達目標	Conversation AIIは初級あるいは中級レベルの学生を対象とし、有用なコミュニケーションを図るのに必要な言葉を理解、使用する機会を与えることを目的とする。.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	コースイントロダクション；シラバスの説明；教科書の紹介	夏休みについての会話の準備 Unit 7 の予習		
第2回	散策：位置関係の理解：簡単な道案内	小テスト#1 (Unit 7)		
第3回	自作の会話例をプレゼンしてみよう (Unit 7 の内容を踏まえて)	Unit 8 の予習		
第4回	ショッピング：買い物をする、価格を知る	小テスト #2 (Unit 8)		
第5回	自作の役割練習会話例をプレゼンしてみよう (Unit 8 の内容を踏まえて)	Unit 9 の予習		
第6回	遺失物取扱所：探し物を説明する、見つかったものを報告する	小テスト #3 (Unit 9)		
第7回	自作の会話例をプレゼンしてみよう (Unit 9 の内容を踏まえて)	Unit 10 の予習		
第8回	病気と健康：健康状態を理解する、医者と話す	小テスト #4 (Unit 10)		
第9回	自作の役割練習会話例をプレゼンしてみよう (Unit 10 の内容を踏まえて)	Unit 11 の予習		
第10回	帰国：旅行について話す	小テスト #5 (Unit 11)		
第11回	自作の会話例をプレゼンしてみよう (Unit 11 の内容を踏まえて)	Unit 12 の予習		
第12回	旅の心得：旅行のアドバイス；安全に旅行することを学ぶ	小テスト #6 (Unit 12)		
第13回	自作の役割練習会話例をプレゼンしてみよう (Unit 12 の内容を踏まえて)	Unit 6 -12 の復習		
第14回	まとめ&語彙の復習	Unit 6 -12 の復習		
第15回	学期全般のまとめと期末試験のための復習	復習プリント		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	定期試験 30%			
レポート	なし			
小テスト等	6回の小テスト 50%			
成果発表	なし			
受講態度他	授業の参加態度 20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	単位取得には講義への参加が絶対条件となります。毎週講義に来て、よく学び自分の意見をはっきりと述べてください。			
教科書	Adventures Abroad (Dale Fuller & Kevin Cleary、MacMillan Languagehouse)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Monday 3rd period (1:10-2:40), Tuesday 1st period (9:10-10:40)	メールアドレス		

授業科目	Conversation AII (R2) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	Saza LINDA		単位	1
授業の目的と概要	This course is designed as a follow-up to Conversation AI. Once again, a mix of listening and speaking exercises will be used to build confidence in communicating in English.			
到達目標	Students will be called upon to participate in a variety of exercises aimed at improving basic communication skills in English.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Review of 1st semester and course overview	Prepare text		
第2回	Checking into a hotel	Page 40-41		
第3回	Using hotel amenities	Page 42-43 and Review Section		
第4回	Shopping, sizes, styles	Page 48-49		
第5回	Discussing fashion and previous purchases	Page 50-51		
第6回	Airport Security and Check-In process	Page 52-53		
第7回	Buying incidental goods	Page 54		
第8回	On a sightseeing tour	Page 56-58		
第9回	Talking about your family, your hometown and your schedule	Page 60-62 and review section		
第10回	Voicing your opinion, agreeing on activities, time	Page 68-70		
第11回	Discussing forms of entertainment	Page 72-74		
第12回	Talking about Japanese culture and customs	Page 76-77		
第13回	Talking about various customs and celebrations	Page 78-79 and individual project prep		
第14回	Projects	Individual Project Prep		
第15回	Projects and Review for Test	Test Prep		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	100%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Come prepared to participate!			
教科書	On the Go by Gershon, Mares and Walker Published by Pearson Longman			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation AII (R3) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	Saza LINDA		単位	1
授業の目的と概要	This course is designed as a follow-up to Conversation AI. Once again, a mix of listening and speaking exercises will be used to build confidence in communicating in English.			
到達目標	Students will be called upon to participate in a variety of exercises aimed at improving basic communication skills in English.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Review of 1st semester and course overview	Prepare text		
第2回	Checking into a hotel	Page 40-41		
第3回	Using hotel amenities	Page 42-43 and Review Section		
第4回	Shopping, sizes, styles	Page 48-49		
第5回	Discussing fashion and previous purchases	Page 50-51		
第6回	Airport Security and Check-In process	Page 52-53		
第7回	Buying incidental goods	Page 54		
第8回	On a sightseeing tour	Page 56-58		
第9回	Talking about your family, your hometown and your schedule	Page 60-62 and review section		
第10回	Voicing your opinion, agreeing on activities, time	Page 68-70		
第11回	Discussing forms of entertainment	Page 72-74		
第12回	Talking about Japanese culture and customs	Page 76-77		
第13回	Talking about various customs and celebrations	Page 78-79 and individual project prep		
第14回	Projects	Individual Project Prep		
第15回	Projects and Review for Test	Test Prep		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	100%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Come prepared to participate!			
教科書	On the Go by Gershon, Mares and Walker Published by Pearson Longman			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation BI (R3) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	C. Provenzano		単位	1
授業の目的と概要	This course focuses on building skills in English conversation. In particular, students will work hard to make longer, more complex conversations with a partner. They will speak about familiar topics. This will help them use vocabulary they already know, and will give them a chance to add new words to their active vocabulary every week. Students will also practice a number of important strategies for conversation that will help them when they have trouble while speaking.			
到達目標	Students who attend class and take active part in class activities will improve their confidence and fluency in speaking and listening to English for real communication.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Course introduction; Unit 1			Review day 1 language: Introductions, greetings	
第2回 Unit 2			Review day 2 language: Giving personal information	
第3回 Unit 3			Review day 3 language: Expressing time and date	
第4回 Unit 4			Review day 4 language: Daily activities; Prepare for Quiz 1	
第5回 Unit 5 (Review activities); Quiz 1			Consolidation Units 1-5	
第6回 Unit 6			Review day 6 language: Location and moving things	
第7回 Unit 7			Review day 7 language: Directions	
第8回 Unit 8			Review day 8 language: Describing people	
第9回 Unit 9			Review day 9 language: Talking about family; Prepare for Quiz 2	
第10回 Unit 10 (Review activities); Quiz 2			Consolidation Units 6-9	
第11回 Unit 11			Review day 11 language: Likes and dislikes	
第12回 Unit 12			Review day 12 language: The future; Prepare for Quiz 3	
第13回 Quiz 3; Unit 13			Review day 13 language: The past	
第14回 Finish Unit 13; Test review activities			Review term material for cumulative in-class final test	
第15回 Final test in-class			Range of final test: Units 1-13	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	25% Homework activities			
小テスト等	25% Learning assessments			
成果発表	なし			
受講態度他	50% Participation and class activities			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Conversation class focuses on speaking and listening; therefore, attendance and active participation in all activities is very important.			
教科書	Fifty-Fifty Book 1; By Wilson & Barnard; Publisher: Pearson; ISBN 9789620056659			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Please contact the instructor to arrange a meeting time.	メールアドレス		

授業科目	Conversation B I (R1) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	T.R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	A particular focus of Conversation B I will be to reinforce and develop proficiency in the skills of speaking and listening. This general objective will be achieved through practice of communication on selected topics and texts and through the expression of opinions about those topics. Weekly sessions of this class will include a variety of class activities focused on practicing the integrated skills of language learning. Student real-life experiences, personal topics from the text and scrapbook preparation will be used as a basis for expression and discussion.			
到達目標	Examples of daily class activities include and are not limited to the following: introduction of topics, pronunciation practice, listening comprehension, vocabulary development, cloze exercises, conversation practice and discussion of cultural aspects of communication. Students will prepare explanations based their original personal experiences.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course introduction; course information, policies and expectations	Preview Unit 1		
第2回	Introduction to the scrapbook & self introductions	Vocab. #1		
第3回	Student topic and presentation	Conv. questions		
第4回	Hobbies, Likes & Dislikes	Quiz #1; Vocab. #2		
第5回	Student topic and presentation	Conv. questions		
第6回	Recent Activities	Vocab. #3		
第7回	Student topic and presentations	Conv. questions		
第8回	Personal Past Experiences	Quiz #2; Vocab. #4		
第9回	Student topic and presentations	Conv. questions		
第10回	Family and Friends	Vocab. #5		
第11回	Student topic and presentations	Conv. questions		
第12回	Weekly Schedule and Free Time	Quiz #3; Vocab. #6		
第13回	Hopes and Dreams for the Future	Conv. questions		
第14回	Upcoming Plans and Vacation Activities	Vocab. review		
第15回	Semester review; exam review and semester consolidation	Exam Review sheet		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50 % End of term report			
小テスト等	25% Scrapbook project evaluation			
成果発表	—			
受講態度他	25% Class participation and class activities			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions. Students are expected to make a scapbook for this class. Class activities will focus on the pages in the scarpbook that the students have designed.			
教科書	In My Life	Kluge & Taylor	MacMillan LanguageHouse	
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Tuesday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 1st period (9:10-10:40)	メールアドレス		

授業科目	Conversation BI (S) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	Paul Shimizu		単位	1
授業の目的と概要	The most important aspects of this course are that students actively participate and make an effort. Students will be working singly, in pairs or small groups as well as engaging in whole class activities. Students will cover all areas of English including reading and writing. However the emphasis will be on listening and speaking.			
到達目標	Students will gain confidence in their communication ability and will enjoy this friendly and pleasant learning process.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Learning Empowerment Language	pages 1-3		
第2回	Using Empowerment Language	pages 4-9		
第3回	Betty's Family	pages 10-13		
第4回	Listening and About You and Your Classmates	pages 14-15		
第5回	Learning Gestures and Body Language	pages 16-19		
第6回	Listening Check and Gestures in Your Society	pages 20-22		
第7回	Learning About How Well People Can Do Abilities and Sports	pages 23-27		
第8回	You and Your Classmates Abilities and Sports	pages 28-29		
第9回	Learning Language of Emotions and Feelings	pages 30-35		
第10回	Listening Check and You and Your Classmates Emotions and Feelings	pages 36-37		
第11回	Learning and Using Prepositions	pages 38-43		
第12回	Listening and Asking Questions Using Prepositions	pages 44-45		
第13回	Learning the Language of Asking and Giving Permission	pages 46-51		
第14回	Asking and Giving Permission in Your Society	pages 52-53		
第15回	Review	Entire First Half of Textbook		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	%			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	100% Continuous Assessment, Attendance, Attitude and Participation.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Full attendance and active participation are essential.			
教科書	KOUSTAFF, GASTON, SHIMZU 『On Your Marks』 INTERCOM PRESS			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	Before and After Class	メールアドレス		

授業科目	Conversation B I (R2) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	Saza LINDA		単位	1
授業の目的と概要	This course is designed to give the intermediate student a full workout in communication skills, in hopes that they will be better able to express themselves on a variety of topics.			
到達目標	The target conversation topics are centered around travel, work and study abroad.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Overview			Prepare text , Preview pages 6-7	
第2回 Meeting people (1)			page 8-9	
第3回 Meeting people (2) and making introductions			page 10-11	
第4回 New classes, new teachers and schedules			page 12-13	
第5回 Describing people, time schedules			page 14-15	
第6回 Making plans for the weekend			page 16-19	
第7回 Types of transportation			page 20-21	
第8回 Tickets and prices			page 22-23	
第9回 Review Chapter			page 24-27	
第10回 Talking about work			page 28-29	
第11回 Talking about trends in the working world			page 30-31	
第12回 Making reservations			page 32-33	
第13回 Talking about food			page 34-35, project prep	
第14回 Projects			Student's individual projects	
第15回 Projects and Review			Projects and test prep	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	100%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Come to class prepared to participate!			
教科書	On the Move by Gershon, Mares and Walker Published by Pearson Longman			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワーク	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation BⅡ (R1) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	J. Stewart		単位	1
授業の目的と概要	In this interactive English course, students will be able to talk to each other about many topics using simple and natural English. They will learn how to hear English sounds, and how to translate these sounds into meanings. They will review simple points of grammar, making perfect their knowledge. They will speak about topics that are useful in their daily lives. They will speak and sometimes write, comparing their own culture with cultures of other countries.			
到達目標	Students will engage with a) the teacher, b) the textbook, and c) each other. Each lesson will begin with hearing / listening practice. Next, students will to conversation practice. (Various interactive exercises will help the students practice the topic of each lesson.) A "daily dozen" exercise will help to reinforce previously learned structures. Listening activities consist of minimal pair discrimination, choosing the correct word, writing a word that is heard, and choosing the appropriate response to a statement. All lessons contain conversations from a fictional TV drama. There are also snippets from Zak the Space Alien, whose close encounters may be familiar to students grappling with the cultural idiosyncrasies of English.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Getting to Know You;		Warm-up Activities, in case you don't have the textbook yet.	
第2回	Family Ties;		More warm-up activities, taken from the textbook.	
第3回	School Days;		Unit 1: Lifestyles	
第4回	Sports;		Unit 2: Leisure	
第5回	Hobbies;		Unit 3: Getting Along	
第6回	Getting Around;		Unit 4: Interests	
第7回	My Favorite Holiday;		Unit 5: Telling a Story	
第8回	Mid-term Quiz		Unit 6: Celebrations	
第9回	Wish You Were Here;		Review 2	
第10回	Restaurants & Shopping;		Unit 7: Food & Drink	
第11回			Unit 8: Rules	
第12回	Making Friends;		Unit 9: Adventures	
第13回	That's Entertainment;		Unit 10: Health	
第14回	Future Plans;		Unit 11: Comparisons	
第15回	Review; minimal pairs long and short vowels		Unit 12: The Modern World	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	30% Midterm Quiz on Topics from the Textbook			
レポート	%			
小テスト等	50% Weekly Questions on Videos (posted on YouTube)			
成果発表	%			
受講態度他	20% Participation			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Come to class prepared to participate. This means no sleeping, no playing with cell phones, no chatting with classmates about unrelated topics!			
教科書	Breakthrough Plus (Level 2) ISBN 978-0-230-43820-0. REQUIRED. テキストはワークブックとしても使用するため、各自必ず購入するように。			
指定図書	n/a			
参考図書	n/a			
オフィスアワー	木曜日 4 眼	メールアドレス		



授業科目	Conversation B II (R3) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	Paul Shimizu		単位	1
授業の目的と概要	The most important aspects of this course are that students actively participate and make an effort. Students will be working in groups as well as engaging in whole class activities. Students will cover all areas of English including reading and writing. However the emphases will be on listening and speaking.			
到達目標	Students will gain confidence in their communication ability and will enjoy this friendly and pleasant learning process.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Learning Empowerment Language	pages 1-3		
第2回	Using Empowerment Language	pages 4-9		
第3回	Betty`s Family	pages 10-13		
第4回	Listening and About You and Your Classmates	pages 14-15		
第5回	Learning Gestures and Body Language	pages 16-19		
第6回	Listening Check and Gestures in Your Society	pages 20-22		
第7回	Learning About How Well People Can Do Abilities and Sports	pages 23-27		
第8回	You and Your Classmates Abilities and Sports	pages 28-29		
第9回	Learning Language of Emotions and Feelings	pages 30-35		
第10回	Listening Check and You and Your Classmates Emotions and Feelings	pages 36-37		
第11回	Learning and Using Prepositions	pages 38-43		
第12回	Listening and Asking Questions Using Prepositions	pages 44-45		
第13回	Learning the Language of Asking and Giving Permission	pages 46-51		
第14回	Asking and Giving Permission in Your Society	pages 52-53		
第15回	Review	Entire First Half of Textbook		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	25%			
レポート	%			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	75% Continuous Assessment, Attendance, Attitude and Participation.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Full attendance and active participation are essential.			
教科書	KOUSTAFF, GASTON, SHIMZU 『On Your Marks』 INTERCOM PRESS			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Before and After Class	メールアドレス		

授業科目	Conversation B II (S) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	T. R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	A particular focus of Conversation B I will be to reinforce and develop proficiency in the skills of speaking and listening. This general objective will be achieved through practice of communication on selected topics and texts and through the expression of opinions about those topics. Weekly sessions of this class will include a variety of class activities focused on practicing the integrated skills of language learning. Some of the commercial issues from the will be used as a basis for student expression and discussion.			
到達目標	Examples of daily class activities include and are not limited to the following: introduction of topics, pronunciation practice, listening comprehension, vocabulary development, cloze exercises, conversation practice and discussion of cultural aspects of communication.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course introduction; course information, policies and expectations	Review vocabulary from Introduction unit		
第2回	Commercial introduction; shopping in the U.S.	Vocab. #1		
第3回	Student topics and presentations	Conv. questions		
第4回	Beverage commercials; original inventions	Vocab. #2		
第5回	Student topics and presentations	Conv. questions		
第6回	Anti-discrimination campaign - Respecting Human Rights	Vocab. #3		
第7回	Student topics and original dialogue presentations	Conv. questions		
第8回	Fast food history and impact on society	Quiz #1; Vocab. #4		
第9回	Student topics and presentations	Conv. questions		
第10回	Delivery services - post and private	Vocab. #5		
第11回	Student topic and presentations	Conv. questions		
第12回	Automobile industry; competition and globalization	Vocab. #6		
第13回	Student videotape presentations	Conv. questions		
第14回	Student presentations continued; vocabulary review	Vocab. # 1-6		
第15回	Semester review; exam review and semester consolidation	Exam Review sheet		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	25% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30% Class participation and class activities 45% Quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	English in 30 Seconds	Aoki	Nan' un-do	
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Monday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 3rd period (1:10 - 2:40)	メールアドレス		

授業科目	Conversation B II (R2) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	C. Provenzano		単位	1
授業の目的と概要	This course focuses on building skills in English conversation. In particular, students will work hard to make longer, more complex conversations with a partner. They will speak about familiar topics. This will help them use vocabulary they already know, and will give them a chance to add new words to their active vocabulary every week. Students will also practice a number of important strategies for conversation that will help them when they have trouble while speaking.			
到達目標	Students who attend class and take active part in class activities will improve their confidence and fluency in speaking and listening to English for real communication.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Introduction to course; Unit 1 - Introductions	Review language from Unit 1		
第2回	Unit 2 - Entertainment	Review language from Unit 2		
第3回	Unit 3 - Hobbies	Review language from Unit 3		
第4回	Unit 4 - Families	Review for Quiz 1 (Units 1-4)		
第5回	Quiz 1; Unit 5 - Personality	Review language from Unit 5		
第6回	Unit 6 - Work	Review language from Unit 6		
第7回	Unit 7 - Experiences	Review language from Unit 7		
第8回	Unit 8 - Health	Review language from Unit 8		
第9回	Unit 9 - Moving On	Review for Quiz 2 (Units 5-9)		
第10回	Quiz 2; Unit 10 - Shopping	Review language from Unit 10		
第11回	Unit 11 - Travel	Review language from Unit 11		
第12回	Unit 12 - Lifestyle	Review language from Unit 12		
第13回	Unit 14 - Food & Abilities	Review language from Unit 14		
第14回	Unit 15 - Lucky experiences	Review language from Unit 15		
第15回	Learning Assessment Activity and consolidation activities.	Topic consolidation		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	25% Homework activities			
小テスト等	25% Learning assessments			
成果発表	なし			
受講態度他	50% Participation and class activities			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Conversation class focuses on speaking and listening; therefore, attendance and active participation in all activities is very important.			
教科書	Impact Conversation 1; By Sullivan and Beuckens; Published by Pearson; ISBN 978-962-01-9933-2			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Please contact instructor to make an appointment	メールアドレス		

授業科目	Conversation CI (R2) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	Alan Michaels		単位	2
授業の目的と概要	<p>Students will develop greater competence in English communication skills through speaking practice. Interactive communication activities including pair work, role play and group discussion will be frequent activities in class. This practice includes asking and answering textual and original questions, initiating and responding to questions and conversations. We will work on the skills of self-expression through personalization activities as well as reviewing basic structures and vocabulary. Students should bring to every lesson:</p> <p>Textbook, notebook - for vocabulary and additional note-taking, and a dictionary for finding the meaning of new and forgotten words.</p>			
到達目標	<p>On completion of this course, students will be able to express themselves in English with a wider variety of expressions and depth of conversation. This extends beyond the classroom and into daily life when the skills are practiced diligently.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Introductions, course overview. Lesson 1.	eLearning: <a href="http://www.positivelyenglish.com">www.positivelyenglish.com</a>		
第2回	Lesson 1 Who are you? Meeting people.	<a href="http://www.positivelyenglish.com">www.positivelyenglish.com</a> P. 13, 14, 17		
第3回	Lesson 2 Siblings and relatives. Expanding on fluency - saying things in a different way.	eLearning, P. 18, 19, Family tree		
第4回	Lesson 2 and 3. Home Sweet Home. Hobbies and free time.	<a href="http://www.positivelyenglish.com">www.positivelyenglish.com</a> P. 23		
第5回	Lesson 3 Questions and more questions. 'Wh' questions.	Finish all homework to date.		
第6回	Review and Consolidation.	Prepare for test.		
第7回	Mid-term Assessment.	Write test script.		
第8回	Lesson 4 My schedule - times and dates.	eLearning and P. 25-29		
第9回	Lesson 4 Discussing schedules and routines.	<a href="http://www.positivelyenglish.com">www.positivelyenglish.com</a> P. 30, 31		
第10回	Lesson 5 Routines and frequency.	eLearning, Page 30-34		
第11回	Lesson 5 Everyday details.	<a href="http://www.positivelyenglish.com">www.positivelyenglish.com</a> P. 35, 36		
第12回	Lesson 6 Vacation	eLearning, P. 35-39		
第13回	Lesson 6 Time gone by.	Finish all outstanding homework.		
第14回	Review and Consolidation. 2nd Assessment Lesson 4 - 6.	Prepare for end of term Cumulative Speaking Assessment Lesson 1 - 6.		
第15回	End of term Cumulative Speaking Assessment Lesson 1 - 6.	Write and submit Cumulative Speaking Assessment script.		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	15% Homework every week. It will be checked and graded.			
小テスト等	75% 2 speaking tests x 20%. 2 paper quizzes x 10% [*plus Cumulative Speaking Assessment: 15%*]			
成果発表	0%			
受講態度他	10% Effort, participation. Speaking with teacher, partners, and group.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>Class is conducted in English. Students should try to speak English, ask questions, help other students to do well, volunteer to answer questions and talk about English experiences outside of class. Email to communicate with the teacher any time regarding absences and other issues. I will respond. Smartphones are useful tools and may be used for class purposes. Do not use ネットの翻訳ソフト for homework.</p>			
教科書	"Positively English" by Robert Diem (English Education Press)			
指定図書	特になし			
参考図書	Textbook activities on-line at: <a href="http://www.positivelyenglish.com">www.positivelyenglish.com</a>			
オフィスアワー	Wednesdays before and after class and lunchtime	メールアドレス		

授業科目	Conversation CI (S) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	D. J. Wood		単位	2
授業の目的と概要	<p>As spoken English proficiency is necessary for successful interaction, students will:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* aim for conversational competence by practicing intensive question and answer sessions</li> <li>* acquire fluent use of prompts and cues</li> <li>* raise their level of oral ability enough to produce English that is easy to understand; and</li> <li>* practice avoiding unclear usage and common mistakes that can lead to communicative breakdowns.</li> </ul>			
到達目標	<p>As target-language, text-free interaction is appropriate for successful communication, students:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* engage in real life tasks (interviews, question and answer sessions, conversations, topic talks)</li> <li>* employ listening and reading activities, integrated with speaking and writing</li> <li>* supplement limited class time with self study activities; and,</li> <li>* use control language appropriately.</li> </ul> <p>Everybody must be positive and outgoing in every class.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつなげるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course Orientation and Overview	Prepare for class 2 assignment		
第2回	Question and Response Introduction	Prepare for class 3 assignment		
第3回	Question and Response Pair&Group Practice	Prepare for class 4 assignment		
第4回	Question and Response Pair&Group Practice	Prepare for class 5 assignment		
第5回	Question and Response Quiz	Prepare for class 6 assignment		
第6回	Conversation Practice Outline	Prepare for class 7 assignment		
第7回	Conversation Pair and Group Practice	Prepare for class 8 assignment		
第8回	Conversation Pair and Group Practice	Prepare for class 9 assignment		
第9回	Conversation Pair and Group Quiz	Prepare for class 10 assignment		
第10回	Pair and Group Presentation Description	Prepare for class 11 assignment		
第11回	Pair and Group Presentation Practice	Prepare for class 12 assignment		
第12回	Pair and Group Presentation Practice	Prepare for class 13 assignment		
第13回	Pair and Group Presentation Quiz	Prepare for class 14 assignment		
第14回	Review for Presentation Preparation	Prepare for class 15 assignment		
第15回	Student Presentations and review for test	Prepare for class review assignment		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	50%			
成果発表	なし			
受講態度他	50% Preparation, participation and quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	Study materials will be distributed			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス		

授業科目	Conversation CI (R3) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	Keith Kinstler		単位	2
授業の目的と概要	<p>This conversation course is designed to reinforce prior conversation practice. Emphasis is given to a deeper understanding of basic grammatical models used in everyday interactions. 千里の道も一歩から。  Pair Work is employed throughout. Students will be required to give a prepare FC (Free Conversation) on specific topics for use in class. There will also be a number of Q and A sessions(Question and Answer) to allow students to participate in general conversation with each other and the teacher.</p>			
到達目標	<p>Students can learn simple English idioms used in daily conversation. In addition, formal rules of pronunciation, sentence structure and question formation will be able to be reviewed.</p> <p>困難なことも慣れれば簡単</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	INTRO - CLASSROOM ENGLISH - GETTING TO KNOW YOU	授業前に前回の復習をしておく		
第2回	Paying for something - FC 'Food'	授業前に前回の復習をしておく。		
第3回	getting something - Q and A FC	授業前に前回の復習をしておく。		
第4回	Where were you? Q and A - Song	授業前に前回の復習をしておく。		
第5回	Returning Vacations - Q and A	授業前に前回の復習をしておく。		
第6回	foreign Vacations? - 'Foreign Trip' FC	授業前に前回の復習をしておく。		
第7回	-How much is it? shopping - Q and A FC	授業前に前回の復習をしておく。		
第8回	- Past Simple Tense - FC 'Whose is it ?	授業前に前回の復習をしておく。		
第9回	- Did you - FC 'Shopping'	授業前に前回の復習をしておく。		
第10回	-The News - Q and A FC	授業前に前回の復習をしておく。		
第11回	- An Accident Song FC	授業前に前回の復習をしておく。		
第12回	- Could you FC	授業前に前回の復習をしておく。		
第13回	- Personal History - Q and A FC	授業前に前回の復習をしておく。		
第14回	- Elmer FC	授業前に前回の復習をしておく。		
第15回	Quiz	授業参加前に前回のレッスンの復習をして、使用単語1等の確認をする		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	課題提出・課題30%			
小テスト等	0%			
成果発表	授業での発表35%			
受講態度他	授業での参加度35%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>The language of instruction will be English. この授業は全て英語で行われます。  このコースの評価は毎回のクラス活動(70%)、及び定期試験(30%)の総合評価によるものとする。  定期試験のみで合格点をとっても、単位取得はできません。毎回の授業、課題提出が大事です。</p>			
教科書	none handouts 授業中の配布プリント			
指定図書	ENGLISH - JAPANESE JAPANESE - ENGLISH DICTIONARY (英和・和英辞典) (電子辞書も可) 携帯の辞書の使用は不可。			
参考図書	ENGLISH - ENGLISH DICTIONARY			
オフィスアワー	Before or after class. 授業の前後	メールアドレス		

授業科目	Conversation CI (R1) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	J. Stewart		単位	2
授業の目的と概要	Students will develop greater competence in English communication skills through speaking practice and listening practice. Interactive communication activities including pair work, role play and discussion will be done frequently in class. This practice includes asking and answering textual and original questions, initiating and responding to questions and conversations. The students will also have a variety of listening activities intended to develop discriminative skills. The format is: minimal pairs, choose the word, write the word, circle the word, decide how to respond, and answer the questions. Grammar and vocabulary will be reviewed for the purpose of improving oral communication.			
到達目標	On completion of this course, students will be able to express themselves in English with a wider variety of expressions and depth of conversation. This extends beyond the classroom and into daily life when the skills are practiced diligently. They will also have a higher level of listening ability.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Getting to Know You	Pages 1-6; long and short A		
第2回	Unit 2. I Was Surprised	Pages 7-16; consonants K/G		
第3回	Unit 3. A Job Interview	Pages 17-26; voiceless consonants		
第4回	Unit 4. The New Office Lady	Pages 27-36; long and short E		
第5回	Unit 5. New In Town	Pages 37-46; review of vowels A and E		
第6回	Unit 6. Wish You Were Here	Pages 47-56; consonants T / D		
第7回	Unit 7. Restaurants & Shopping	Pages 57-66; long and short I		
第8回	Midterm mini-test (25%)	Think hard		
第9回	Unit 8. Here Comes the Bride	Pages 67-78; consonants F / V		
第10回	Unit 9. Nobel Prize in Cooking	Pages 79-86; consonants B / V		
第11回	Unit 10. Say "Ah"	Pages 87-94; long and short O		
第12回	Unit 11. If I Were You	Pages 95-102; consonants H / F		
第13回	Unit 12. Bounty Hunter	Pages 103-114; long and short U		
第14回	Unit 13. See You	Pages 115-117; Review of vowels A-E-I-O-U; Quiz (10%)		
第15回	Review - Do you remember?	Pages 118-125		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0% Final test.			
レポート	0%			
小テスト等	1 midterm mini-test: 50%; 1 Quiz: 25%.			
成果発表	25% Speaking with teacher, partners, and group (in class).			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Class is conducted in English. Students should try to speak English, ask questions, help other students to do well, volunteer to answer questions and talk about English experiences outside of class. Email to communicate with the teacher any time regarding absences and other issues. Smartphones OK. ネットの翻訳ソフト ok.			
教科書	Simulator Medium, 2nd edition, by E. J. Stewart. ISBN 978-0-557-32190-2 / 978-1-79482-696-0 (2nd printing)			
指定図書	特になし			
参考図書	Textbook activities			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation CII (R1) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	D. J. Wood		単位	2
授業の目的と概要	<p>As spoken English proficiency is necessary for successful interaction, students will:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* aim for conversational competence by practicing intensive question and answer sessions</li> <li>* acquire fluent use of prompts and cues</li> <li>* raise their level of oral ability enough to produce English that is easy to understand; and</li> <li>* practice avoiding unclear usage and common mistakes that can lead to communicative breakdowns.</li> </ul>			
到達目標	<p>As target-language, text-free interaction is appropriate for successful communication, students:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* engage in real life tasks (interviews, Q&amp;A sessions, conversations, topic talks)</li> <li>* employ listening and reading activities, integrated with speaking and writing</li> <li>* supplement limited class time with self study activities; and,</li> <li>* use control language appropriately.</li> </ul> <p>Everybody must be positive and outgoing in every class.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course Orientation and Overview	Prepare for class 2 practice		
第2回	Question and Response Introduction	Prepare for class 3 practice		
第3回	Question and Response Pair and Group Practice	Prepare for class 4 practice		
第4回	Question and Response Pair and Group Practice	Prepare for class 5 practice		
第5回	Question and Response Quiz	Prepare for class 6 practice		
第6回	Conversation Practice Outline	Prepare for class 7 practice		
第7回	Conversation Pair and Group Practice	Prepare for class 8 practice		
第8回	Conversation Pair and Group Practice	Prepare for class 9 practice		
第9回	Conversation Pair and Group Quiz	Prepare for class 10 practice		
第10回	Pair and Group Presentation Description	Prepare for class 11 practice		
第11回	Pair and Group Presentation Practice	Prepare for class 12 practice		
第12回	Pair and Group Presentation Practice	Prepare for class 13 practice		
第13回	Pair and Group Presentation Quiz	Prepare for class 14 practice		
第14回	Review for Presentation Preparation	Prepare for class 15 practice		
第15回	Student Presentations and review for test	Prepare for presentations		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% Preparation, participation and quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	Study material will be distributed			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス		



授業科目	Conversation CII (R2) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	Alan Michaels		単位	2
授業の目的と概要	Students will develop greater competence in English communication skills through speaking and listening practice. Interactive communication activities including pair work, role play and discussion will be frequent activities in class. This practice includes asking and answering textual and original questions, initiating and responding to questions and conversations. We will work on the skills of self-expression through personalization activities as well as reviewing basic grammar, structures and vocabulary for the purpose of improving spoken communication. Students should bring to every lesson: Textbook, notebook (for vocabulary and additional note-taking) and an English/Japanese dictionary for finding the meaning of new and forgotten words.			
到達目標	On completion of this course, students will be able to express themselves in English with a wider variety of expressions and depth of conversation. This extends beyond the classroom and into daily life when the skills are practiced diligently. They will also have a higher level of listening ability.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Introductions, course overview. How was your summer?	How was your summer? eLearning, P. 40, 41		
第2回	Lesson 7 Discussing activities and experiences.	<a href="http://www.positivelyenglish.com">www.positivelyenglish.com</a> P. 44, 45		
第3回	Lesson 7 Expanding on fluency - saying things in a different way.	eLearning, P. 47, 48		
第4回	Lesson 8 Animals - More and better - comparisons	<a href="http://www.positivelyenglish.com">www.positivelyenglish.com</a>		
第5回	Lesson 8 Preferences - Which do you think . . . ?	eLearning, P. 52, 53		
第6回	Lesson 9 The most and the best.	<a href="http://www.positivelyenglish.com">www.positivelyenglish.com</a> P. 56		
第7回	Lesson 9 The best and the worst.	Finish all homework to date. P. 62		
第8回	Review and consolidation.	Prepare for test.		
第9回	Mid-term assessment.	Write test script.		
第10回	Lesson 11 Life experiences.	eLearning		
第11回	Lesson 11 Have you ever . . . ?	<a href="http://www.positivelyenglish.com">www.positivelyenglish.com</a> P. 69, 70		
第12回	Lesson 12 Plans and dreams.	eLearning, P. 73		
第13回	Lesson 12 Are you going to . . . ?	Finish all outstanding homework.		
第14回	Review and consolidation.	Prepare for test.		
第15回	End of term assessment.	Write test script. Prepare for final test.		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	15% Final Exam			
レポート	10% Homework every week. It will be checked and graded.			
小テスト等	60% 2 speaking tests x 20%. 2 paper quizzes x 10%			
成果発表	0%			
受講態度他	15% Effort, participation. Speaking with teacher, partners and group.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Class is conducted in English. Students should try to speak English, ask questions, help other students to do well, volunteer to answer questions and talk about English experiences outside of class. Email to communicate with the teacher any time regarding absences and other issues. Smartphones are useful tools and may be used for class purposes. Do not use ネットの翻訳ソフト for homework.			
教科書	"Positively English" by Robert Diem (English Education Press)			
指定図書	Graded readers in the library, magazines, newspapers in English.			
参考図書	Textbook activities on-line at: <a href="http://www.positivelyenglish.com">www.positivelyenglish.com</a>			
オフィスワー	Wednesdays before and after class, and lunchtime	メールアドレス		

授業科目	Conversation CII (S) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	Saza LINDA		単位	2
授業の目的と概要	The aim of this course is to give intermediate-level students confidence in organizing and voicing their opinions on a variety of relevant and sometimes controversial topics. Emphasis will be placed on developing listening skills as well as speaking. Defending one's opinion is an important skill in any language.			
到達目標	The vocabulary introduced and the topics covered are important in building good communication skills. Simply responding to a question is sometimes not enough. Students will gain confidence in actually communicating with other English speakers.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Course Overview			Unit 1 Internet Safety and Freedom of Expression	
第2回 Honor or Burden - Hosting the Olympics			Prepare Text pages 12-17	
第3回 Nuclear Power - Clean Energy or Potential Threat			Text pages 18-23	
第4回 Genetic Modification of Food - Risk or Great Technology?			Text pages 24-29	
第5回 Legalizing or Outlawing Gay Marriage			Text pages 30-35	
第6回 Separate Smoking or Total Ban			Text pages 36-41	
第7回 The Right to Die Euthanasia			Text pages 42-47	
第8回 Punishment or Discipline Corporal Punishment in Schools			Text pages 48-53	
第9回 Performance or Seniority Based Pay System			Text pages 60-65	
第10回 Free Trade or Protection TPP			Text pages 66-71	
第11回 Animal Rights Man's Best Friend			Text pages 72-77	
第12回 Peace Constitution or Revision			Text pages 78-83	
第13回 Death Penalty or Human Rights			Text pages 84-89	
第14回 Final Project Preparation			Presentation prep	
第15回 Final Presentations			Presenting of individual / group projects	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	100%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Come prepared to participate.			
教科書	Pros and Cons - Discussing Today's Controversial Issues by Uchizo Ueda, Published by Cengage Learning			
指定図書	なし			
参考図書	Bring a dictionary every week			
オフィスアワー	Before and after class	メールアドレス		

授業科目	Conversation II (R3) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	Chris Flynn		単位	2
授業の目的と概要	<p>The aim of this class is to develop conversational skills on topics that students can relate to. Another aim is to help students develop the confidence to speak in front of a number of people.</p> <p>Each week students will be given conversations to be presented to the class the following week. The frequency of presentations will depend on the number of students registered for the class.</p>			
到達目標	<p>Students should be able to reply to a number of questions equivalent to the interview test in the English Step level 2 test, and hold a detailed conversation.</p> <p>Also, the aim is for students to be confident when speaking English in front of an audience.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Class orientation	講義の際に指示します		
第2回	Personal introductions	講義の際に指示します		
第3回	Sports	講義の際に指示します		
第4回	Restaurants, describing food preferences	講義の際に指示します		
第5回	My school days. Talking about your experiences at school.	講義の際に指示します		
第6回	Talking about travel. Talking about places you have been	講義の際に指示します		
第7回	Talking about music. Your favourite music and musicians.	講義の際に指示します		
第8回	Talking about movies. Types of movies you like and dislike.	講義の際に指示します		
第9回	Teachers	講義の際に指示します		
第10回	People I respect	講義の際に指示します		
第11回	My favourite English proverb	講義の際に指示します		
第12回	My dream Your future plans.	講義の際に指示します		
第13回	Review	講義の際に指示します		
第14回	Presentation drafting and corrections.	講義の際に指示します		
第15回	Presentation practice and review.	講義の際に指示します		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	30%			
成果発表	20%			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students should bring dictionary to class and use it as soon as they hear a word they don't understand.			
教科書	Helene Uchida 『Challenge Book #4』			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Before and after the class.	メールアドレス		

授業科目	Core English I (S) (R1) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	山田 直子		単位	1
授業の目的と概要	英語を日常で運用できるようになるために、高校までの英語の知識を土台としながら英語を使った情報の受信および発信能力（リーディング・ライティング）を身につけます。コミュニケーション・スキルの基礎を培うとともに、英語の構造について理解できるようにすることを目指します。文法内容としては、動詞、受動態、準動詞、修飾、関係詞節、比較、助動詞、条件節、仮定法を学習します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動詞・受動態・準動詞などの文法事項を説明できる。</li> <li>2. 英文を読みながら、英文の文法構造を説明できる。</li> <li>3. 文法規則に沿った正しい英文を書けるようになる。</li> <li>4. テキストの演習問題を正しく解答できる。</li> <li>5. 論理的思考力をもって演習問題の解答を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション・アイスブレイキング	Unit 1の予習		
第2回	Unit 1(動詞[1]: 動作動詞、状態動詞)	Unit 1の復習及びUnit 2の予習		
第3回	Unit 2(動詞[2]: 他動詞、自動詞)	Unit 2の復習及びUnit 3の予習		
第4回	Unit 3(動詞[3]: 過去形、完了形)	Unit 3の復習及びUnit 4の予習		
第5回	Unit 4(受動態)	Unit 4の復習及びUnit5の予習		
第6回	Unit 5(準動詞)	Unit 5の復習及びUnit 6の予習		
第7回	Unit 6(修飾[1]: 前置修飾)	Unit 6の復習及びUnit7の予習:		
第8回	Unit 7(修飾[2]: 後置修飾)	Unit 7の復習及びUnit 8の予習		
第9回	Unit 8(修飾[3]: 接触節)	Unit 8の復習及びUnit 9の予習		
第10回	Unit 9(関係詞節[1]: 関係代名詞)	Unit 9の復習及びUnit10の予習		
第11回	Unit 10(関係詞節[2]: 関係副詞)	Unit 10の復習及びUnit 11の予習		
第12回	Unit 11(比較)	Unit 11の復習及びUnit 12の予習		
第13回	Unit 12(助動詞)	Unit 12の復習及びUnit 13の予習		
第14回	Unit 13(条件節/仮定法[1])	Unit 13の復習及びUnit 14の予習		
第15回	Unit 14 (仮定法[2])	Unit 14の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80% 理解度チェッククイズ			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 十分な予習をもとにした、積極的な受講を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>辞書を携帯してください。</p> <p>予習を必ず行ったうえで授業に出席してください。</p> <p>欠席が6回に達すると単位修得の資格を失います。</p>			
教科書	酒井・大崎・箕輪・Farquharson, 『English Quest Plus (New Edition)』 桐原書店			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて授業中に指示します。			
オフィスアワー	水曜3時間目	メールアドレス		

授業科目	Core English I (R3)【演習】		開講時期	前期
担当教員	宮原 牧子		単位	1
授業の目的と概要	この授業では、中学校～高校までの英語の基本的な文法の総復習をします。英語の4技能のうち「読む」、「書く」を中心に学習し、今後の授業をより理解できるようになります。			
到達目標	1. 基本的な英文法が理解できる 2. 基本的な文法による英文を困難なく読み、書くことができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。 関連する科目: 「Core English II」			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	英語力自己診断&オリエンテーション	英語力自己診断の見直し&テキストの予習 (pp. 2-3)		
第2回	Unit 1 文の成り立ち	音読&テキストの予習 (pp. 4-5, 8-9)		
第3回	Unit 2 時制	音読&テキストの予習 (pp. 10-11, 14-15)		
第4回	Unit 3 文型 [1] 第1～第3文型	音読&テキストの予習 (pp. 16-17, 20-21)		
第5回	Unit 4 文型 [2] 第4～第5文型	音読&テキストの予習 (pp. 22-23)		
第6回	Unit 1～4の復習	小テストの準備		
第7回	小テスト(1)	小テストの解き直し&音読		
第8回	小テストの復習&発展問題	音読&テキストの予習 (pp. 32-33)		
第9回	Unit 6 助動詞	音読&テキストの予習 (pp. 34-35, 38-39)		
第10回	Unit 7 受動態	音読&テキストの予習 (pp. 44-47, 50)		
第11回	Unit 9 動名詞	音読&テキストの予習 (p. 51)		
第12回	Unit 8 不定詞	音読&テキストの予習 (pp. 52-53)		
第13回	Unit 6～9の復習	小テストの準備		
第14回	小テスト(2)	小テストの解き直し&音読		
第15回	小テストの復習&発展問題	復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	-			
小テスト等	60% 小テスト(2回) + 発展問題(2回)			
成果発表	-			
受講態度他	40% 受講状況などを評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習を必ず行っただうえで授業に出席すること。			
教科書	清田洋一他著 『English Quest Basic』 桐原書店			
指定図書	-			
参考図書	講義中にご紹介します。			
オフィスワー	学内立入禁止が解除された場合は水曜日3限目。それまではメールで対応します。	メールアドレス		

授業科目	Core English I (R2) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	高森 暁子		単位	1
授業の目的と概要	このコースは英語の基本事項を確実に身に身につけ、さらに日常生活で活用できる様々な表現も学ぶことを目的とします。Core Englishの"Core"とは「中核」という意味であり、皆さんがこれから英語を学んでいくうえで核となる基礎的な部分を、体系的・段階的に学習していきます。英語を「勉強する」という気持ちで身構えるよりも、「慣れ親しんで使う」という気持ちで楽しく取り組んでください。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英文法の基本的な事項を十分に理解することができる。</li> <li>2. 基礎的な文法や表現を用いた英文を正確に読むことができる</li> <li>3. 基礎的な文法や表現を用いた英文を聞き取り、要点を掴むことができる。</li> <li>4. 英語に対する苦手意識がある場合、それを克服することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目：「Core English II」「Reading and Writing AI」「Reading and Writing AII」など</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の進め方についてのオリエンテーション		p. 25-28の予習	
第2回	Unit 5 Have You Ever Seen a UFO? (現在完了形) 前半		p. 29-33の予習	
第3回	Unit 5 Have You Ever Seen a UFO? (現在完了形) 後半、Unit 6 Online Shopping (助動詞) 前半		p. 34-35の予習	
第4回	Unit 6 Online Shopping (助動詞) 後半		p. 37-40の予習	
第5回	Unit 7 Lucky Charm in a Soba Shop (受動態) 前半		p. 41-45の予習	
第6回	Unit 7 Lucky Charm in a Soba Shop (受動態) 後半、Unit 8 Fishing is Exciting (不定詞) 前半		p. 46-47の予習	
第7回	Unit 8 Fishing is Exciting (不定詞) 後半		p. 49-52の予習	
第8回	Unit 9 Angels in White (動名詞) 前半		p. 53-57の予習	
第9回	Unit 9 Angels in White (動名詞) 後半、Unit 10 Robot (分詞) 前半		p. 58-59の予習	
第10回	Unit 10 Robot (分詞) 後半		p. 61-64の予習	
第11回	Unit 11 Band Contest (比較) 前半		p. 65-69の予習	
第12回	Unit 11 Band Contest (比較) 後半、Unit 12 Let's Go to a Museum (関係詞) 前半		p. 70-71の予習	
第13回	Unit 12 Let's Go to a Museum (関係詞) 後半		p. 73-76の予習	
第14回	Unit 13 Miss You. (仮定法) 前半		p. 77-81の予習	
第15回	Unit 13 Miss You. (仮定法) 後半、Unit 14 Goodbye, Linda. (否定表現) 前半		全体の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	予習に関する課題 85%			
成果発表	0%			
受講態度他	筑女ネットへのアクセス状況 15%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業で使用する資料や音声データは筑女ネットの授業ページにアップします。			
教科書	清田洋一他著 『English Quest Basic [New Edition]』 桐原書店			
指定図書	特になし。			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜5時間目	メールアドレス		

授業科目	Core English II (R3) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	太田 梢		単位	1
授業の目的と概要	英語を日常で運用できるようになるために、高校までの英語の知識を土台としながら英語を使った情報の受信および発信能力（リーディング・ライティング）を身につける。コミュニケーション・スキルの基礎を培うとともに、英語の構造について理解できるようになることを目指す。Core English I で学んだ文法事項を少しレベルアップした形で、再度全体を通して見直していく。文法内容としては、動詞、受動態、準動詞、修飾、関係詞節、比較、助動詞、条件節、仮定法を見ていく。演習アプリをダウンロードし、授業の予習・復習に活用していく。また適宜、副教材プリントが配布されるので、テキストの内容を補完する演習も行っていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動詞・受動態・準動詞などの文法事項を説明できる。</li> <li>2. 英文を読みながら、英文の文法構造を説明できる。</li> <li>3. 文法規則に沿った正しい英文を書けるようになる。</li> <li>4. テキストの演習問題を正しく解答できる。</li> <li>5. 論理的思考力をもって演習問題の解答を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			Unit 1の予習	
第2回 Unit 1(動詞[1]: 動作動詞、状態動詞)			Unit 1の復習及びUnit2の予習	
第3回 Unit 2(動詞[2]: 他動詞、自動詞)			Unit 2の復習及びUnit3の予習	
第4回 Unit 3(動詞[3]: 過去形、完了形)			Unit 3の復習及びUnit4の予習	
第5回 Unit 4(受動態)			Unit 4の復習及びUnit5の予習	
第6回 小テスト (1)			小テストの復習	
第7回Unit 5(準動詞)			Unit 5の復習及びUnit 6の予習	
第8回 Unit 6(修飾[1]: 前置修飾)			Unit 6の復習及びUnit 9の予習	
第9回Unit 9(関係詞節[1]: 関係代名詞)			Unit 9の復習及びUnit 10の予習	
第10回 Unit 10(関係詞節[2]: 関係副詞)			Unit 10の復習及びUnit 11の予習	
第11回 小テスト (2)			小テストの復習	
第12回 Unit 11(比較)			Unit 11の復習及びUnit12の予習	
第13回 Unit 12(助動詞)			Unit 12の復習及びUnit13の予習	
第14回 Unit 13(条件節/仮定法[1])			Unit 13の復習及びUnit14の予習	
第15回 Unit 14 (仮定法[2])			Unit 14の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60% 学期末定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	20% 小テストを2回実施する。			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 十分な予習をもとにした、積極的な受講を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明なされる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習を必ず行っただうえで授業に出席すること。 授業とは関係のない私語、携帯電話の使用、及び大学生のマナーに反した行動をとる場合は受講を断る場合があります。特別の理由がなく計6回以上欠席があった場合には、受講が無効となります。 また、理由がある場合には事前事後、必ず伝えて下さい。			
教科書	Hiroshi Ono, English Quest Plus, 桐原書店 (2018)			
指定図書	綿貫陽改訂・著『徹底例解ロイヤル英文法』(旺文社) 綿貫陽、マーク・ピーターセン共著『表現のためのロイヤル英文法』(旺文社) A Pocket Style Manual (Bedford/St. Martin's 2005)			
参考図書	国際交流センターの英語図書・ソフト(主なリストは講義のときに配付)			
オフィスアワー	授業中やメールでの事前連絡により、予約をとってください。	メールアドレス		

授業科目	Core English II (R2) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	高森 暁子		単位	1
授業の目的と概要	日常生活レベルにおける英語を運用できるようになるために、高校までの知識を土台としつつ、英語での情報受信および発信能力を身につける。コミュニケーション・スキルの基礎を培うとともに、英語の構造について正しく理解できるようになることを目指す。Core English I で学んだ文法事項を少しレベルアップした形で、再度全体を通して見直していく。文法内容としては、動詞、受動態、準動詞、修飾、関係詞節、比較、助動詞、条件節、仮定法を扱う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動詞・受動態・準動詞などの文法的機能を説明することができる。</li> <li>2. 英文を読みながら、その文法的構造を説明することができる。</li> <li>3. 文法規則に則った正しい英文を書くことができる。</li> <li>4. 論理的思考力をもって応用的な問題にも取り組むことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目: 「Core English I」 「Reading and Writing AI」 「Reading and Writing AII」 など</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション、自己診断テスト	Unit 1の予習		
第2回	Unit 1(動詞[1]: 動作動詞、状態動詞)	Unit 1の復習及びUnit 2の予習		
第3回	Unit 2(動詞[2]: 他動詞、自動詞)	Unit 2の復習及びUnit3の予習		
第4回	Unit 3(動詞[3]: 過去形、完了形)	Unit 3の復習及びUnit 4の予習		
第5回	Unit 4(受動態)	Unit 4の復習及びUnit 5の予習		
第6回	Unit 5(準動詞)	Unit 5の復習及びUnit6 の予習		
第7回	Unit 6(修飾[1]: 前置修飾)	Unit 6の復習及びUnit 7の予習		
第8回	Unit 7(修飾[2]: 後置修飾)	Unit 7の復習及びUnit 8の予習		
第9回	Unit 8 (修飾[3]: 接触節)	Unit 8の復習及びUnit9の予習		
第10回	Unit 9(関係詞節[1]: 関係代名詞)	Unit 9の復習及びUnit10の予習		
第11回	Unit 10(関係詞節[2]: 関係副詞)	Unit 10の復習及びUnit11の予習		
第12回	Unit 11(比較)	Unit 11の復習及びUnit12の予習		
第13回	Unit 12 (助動詞)	Unit 12の復習及びUnit13の予習		
第14回	Unit 13(条件節/仮定法[1])	Unit 13の復習及びUnit14の予習		
第15回	Unit 14 (仮定法[2])	全体の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	予習に関する課題 85%			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 筑女ネットへのアクセス状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>辞書を携帯すること。</p> <p>授業で使用する資料や音声データは筑女ネットの授業ページにアップします。</p> <p>小テストも筑女ネット上で行いません。</p>			
教科書	酒井・大崎・箕輪・Farquharson, 『English Quest Plus (New Edition)』 桐原書店			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて授業中に指示する。			
オフィスアワー	水曜5時間目	メールアドレス		



授業科目	Core Oral English I (R3) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	C. Provenzano		単位	1
授業の目的と概要	Core Oral English I is an introductory course that helps students use English at their own level. Students will have many opportunities to build their skills in reading and writing, but especially in listening and speaking. Students will take part in activities related to familiar topics to help them establish a strong foundation to build their English skills on.			
到達目標	Students will work to gain confidence in all four skills - reading, writing, speaking and listening - by using English for real communication. They will communicate not only with the teacher, but with their classmates in pairs and groups to maximize speaking opportunities. The goal is to help students strengthen their oral communication skill while building basic knowledge of English.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Hobbies & Interests, Day 1		pages 12-15	
第2回	Hobbies & Interests, Day 2		pages 16-19	
第3回	Fashion & Clothing, Day 1		pages 20-23	
第4回	Fashion & Clothing, Day 2		pages 24-27	
第5回	Quiz Units 1 & 2; Healthy & unhealthy actions, Day 1		pages 28-31	
第6回	Healthy & unhealthy actions, Day 2		pages 32-35	
第7回	Review and consolidation		Units 1-3	
第8回	Locations & directions, Day 1		pages 36-39	
第9回	Locations & directions, Day 2		pages 40-43	
第10回	Quiz Units 3 & 4; Objects & materials, Day 1		pages 44-47	
第11回	Objects & materials, Day 2		pages 48-51	
第12回	Goals & dreams, Day 1		pages 52-55	
第13回	Goals & dreams, Day 2		pages 56-59	
第14回	Quiz Units 5 & 6; Consolidation and review activities		Units 1-6	
第15回	Final consolidation and summary test		Units 1-6	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	25% online workbook homework			
小テスト等	25% learning assessments			
成果発表	-			
受講態度他	50% Class activities, other homework and participation			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	This class focuses on listening and speaking skills in class, so attendance and participation are very important.			
教科書	English Firsthand Success (5th Edition) by Helgesen, Wiltshier, & Brown; published by Pearson; ISBN 978-981-313-021-0			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Contact the instructor to arrange an appointment	メールアドレス		

授業科目	Core Oral English I (R2) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	D. J. Wood		単位	1
授業の目的と概要	<p>This course develops oral English communication skills up to the STEP grade 2 level spoken interview by:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>·using greetings and developing clear pronunciation with phonic support as necessary</li> <li>·making simple explanations about oneself and information that is provided</li> <li>·asking and answering questions about each other in pairs</li> <li>·building vocabulary beyond that which is required at high school</li> <li>·gaining familiarity with and understanding contracted forms of speech</li> <li>·receiving supplementary listening practice through CDs, DVDs, and so on.</li> </ul> <p>Basic Method: Students: use English to discover things about each other in pairs make short English presentations t</p>			
到達目標	<p>In detail, using English, students will:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>·master the necessary control language to make input understandable</li> <li>·ask and answer content questions about information split between them</li> <li>·respond to speech gambits and initiate simple conversations</li> <li>·talk about themselves and try to understand others doing the same</li> <li>·use simple visual aids to describe people and places</li> <li>·practice reading aloud clearly and with understanding simple statements and so on.</li> <li>·develop the necessary knowledge and language to identify simple topics.</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。          &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	Making greetings and participating in English icebreaking games	Prepare for class 2 assignment		
第2回	Delivering simple self introductions about physical appearance, character, etc.	Prepare for class 3 assignment		
第3回	Using numbers in meaningful contexts ? e.g. ages, dates of birth, addresses, etc.	Prepare for class 4 assignment		
第4回	Presenting information about family and friends	Prepare for class 5 assignment		
第5回	Responding to directions to get around school	Prepare for class 6 assignment		
第6回	Giving directions around one' s home neighborhood, and to and from school	Prepare for class 7 assignment		
第7回	Communicating one' s first impressions of school	Prepare for class 8 assignment		
第8回	Mid-term assessment: a listening exercise based on the class content to date	Prepare for class 9 assignment		
第9回	Describing simply life at previous schools and one' s favorite things	Prepare for class 10 assignment		
第10回	Learning to compare previous and present schools simply	Prepare for class 11 assignment		
第11回	Talking briefly about familiar topics in English, e.g. national holidays	Prepare for class 12 assignment		
第12回	Conveying opinions about topics of relevance to them, e.g. co-education	Prepare for class 13 assignment		
第13回	Describing simple short-term plans and possibilities, e.g. weekends and holidays	Prepare for class 14 assignment		
第14回	Learning from and telling others about basic changes in oneself and one' s routine	Prepare for class 15 assignment		
第15回	Late-term Assessment: listening review covering recent class content	Prepare for class review assignment		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	Final Pair interviews exam 60%			
成果発表	なし			
受講態度他	Short Tests and Assessments 40%;			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条 (2) に従います。			
教科書	Printed materials to be distributed			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス		

授業科目	Core Oral English II (R2) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	C. Provenzano		単位	1
授業の目的と概要	Core Oral English II helps students to use English at their own level. Students will have many opportunities to build their skills in reading and writing, but especially in listening and speaking. Students will take part in activities related to familiar topics to help them establish a strong foundation to build their English skills on.			
到達目標	Students will work to gain confidence in all four skills - reading, writing, speaking and listening - by using English for real communication. They will communicate not only with the teacher, but with their classmates in pairs and groups to maximize speaking opportunities. The goal is to help students strengthen their oral communication skill while building basic knowledge of English.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Past Activities, Day 1		pages 60-63		
第2回 Past Activities, Day 2		pages 64-67		
第3回 Nature, Day 1		pages 68-71		
第4回 Nature, Day 2		pages 72-75		
第5回 Learning Assessment (Units 7 & 8); Abilities, Day 1		pages 76-79		
第6回 Abilities, Day 2		pages 80-83		
第7回 Review and consolidation		Units 7-9		
第8回 Likes & Dislikes, Day 1		pages 84-87		
第9回 Likes & Dislikes, Day 2		pages 88-91		
第10回 Learning assessment (Units 9 & 10); Rules, Day 1		pages 92-95		
第11回 Rules, Day 2		pages 96-99		
第12回 Stories, Day 1		pages 100-103		
第13回 Stories, Day 2		pages 104-107		
第14回 Learning assessment (Units 11 & 12); Consolidation and review activities		Units 7-12		
第15回 Final consolidation and summary learning assessment		Units 7-12		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	25% online workbook homework			
小テスト等	25% learning assessments			
成果発表	なし			
受講態度他	50% Class activities, other homework and participation			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	English Firsthand Success (5th Edition) by Helgesen, Wiltshier, & Brown; published by Pearson; ISBN 978-981-313-021-0			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Contact the instructor to arrange an appointment	メールアドレス		

授業科目	Core Oral English II (R3) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	T.R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	A particular focus of Core Oral English II will be to reinforce and develop proficiency in the skills of speaking and listening. This general objective will be achieved through practice of communication on selected topics and texts and through the expression of opinions about those topics. Students will practice these skills weekly with the instructor and with classmates. Special emphasis will be given to expressing and comparing cultural characteristics of Japanese lifestyle.			
到達目標	Vocabulary development will be emphasized as well as the opportunity to introduce cultural aspects of communication. Each unit from the text will have modules of listening, vocabulary and conversation.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course introduction; course information, policies and expectations	Preview Unit 1		
第2回	Friends; introduction to text, exchanging personal info.	Vocab. #1		
第3回	Past experience; past tense, talking about the past	Vocab. #2		
第4回	Lifestyles; working and free time	Vocab. #3		
第5回	Aesthetic values; beauty, describing people and fashion	Vocab. #4 - Vocabulary Quiz #1		
第6回	Vacations; plans for leisure activities, travel	Vocab. #5		
第7回	Money & finances; budgeting and spending habits	Vocab. #6		
第8回	City & country life; advantages & disadvantages living environment	Vocab. #7		
第9回	Giving opinions; likes and dislikes, expressing opinions	Vocab. #8 - Vocabulary Quiz #2		
第10回	Cooking & food; eating out, eating in, food discussion	Vocab. #9		
第11回	Good times; the best and worst of everything	Vocab. #10		
第12回	Traveling in Japan; explaining cultural attractions in Japan	Vocab. #11		
第13回	The future; making plans, thinking about future life	Vocab. #12 - Vocabulary Quiz #3		
第14回	Student presentations and vocabulary review	Vocab. # 1-12		
第15回	Semester review, exam review and semester consolidation	Exam review sheet		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	25% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30% Class participation and class activities 45% Three quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	New Changing Times Dale & Chris Fuller MacMillan LanguageHouse			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Monday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 3rd period (1:10-2:40)	メールアドレス		

授業科目	English Interpreting【演習】		開講時期	後期
担当教員	野中 誠司		単位	2
授業の目的と概要	<p>通訳のトレーニング方法について知り、それらを実践することで、総合的な英語力を身につけることを第1目的とする。通訳者の役割である、内容を相手に伝えるというプレゼンテーション能力を、ペアワークやグループワークなどを通じて習得することを第2目的とする。</p> <p>訓練の基本はスピードであり、聞いたものにすばやく反応する瞬発力と聴解力が重要である。なぜならば、通訳者の役割は、話し手からのメッセージをその言語がわからない第三者にその場で伝えることだからである。こうした訓練に対応できる英語力とりわけリスニングスキルが備わっていることが必要である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 通訳訓練のさまざまな方法を理解し、それらを的確に実践できる。</li> <li>2. 習得した訓練法を用いて、聴衆にわかりやすい通訳（プレゼンテーション）ができる。</li> <li>3. 通訳訓練で得た知識や技能を、自己にふさわしい将来設計（キャリアプランニング）に活用できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は、企業で海外関連業務（マーケティング、通訳翻訳等）に従事した実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 自己紹介		配付プリントの復習：通訳についての概略や具体的な訓練方法を確認する		
第2回 自己紹介、家族		配付プリントの英文を見ながら英日や日英アウトプットの練習		
第3回 家族、大学生活		配付プリントの英文を見ながら英日や日英アウトプットの練習		
第4回 大学生活		配付プリントの英文を見ながら英日や日英アウトプットの練習		
第5回 医療、健康		配付プリントの英文を見ながら英日や日英アウトプットの練習		
第6回 医療、健康		配付プリントの英文を見ながら英日や日英アウトプットの練習		
第7回 国際交流Ⅰ		配付プリントの英文を見ながら英日や日英アウトプットの練習		
第8回 国際交流Ⅰ、中間試験実施		配付プリントの英文を見ながら英日や日英アウトプットの練習		
第9回 日本文化		配付プリントの英文を見ながら英日や日英アウトプットの練習		
第10回 日本文化		配付プリントの英文を見ながら英日や日英アウトプットの練習		
第11回 環境		配付プリントの英文を見ながら英日や日英アウトプットの練習		
第12回 環境		配付プリントの英文を見ながら英日や日英アウトプットの練習		
第13回 国際交流Ⅱ		配付プリントの英文を見ながら英日や日英アウトプットの練習		
第14回 国際交流Ⅱ		配付プリントの英文を見ながら英日や日英アウトプットの練習		
第15回 まとめ		配付プリントの英文を見ながら英日や日英アウトプットの練習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80%：中間試験30%、まとめの試験50%			
成果発表	なし			
受講態度他	20%：主体的かつ積極的に参加している点を評価する。無断欠席および遅刻は回数に関係なく減点する。10分以上の遅刻も欠席とみなす。無断欠席6回で受講放棄と判断し、名簿から氏名を削除する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 配付するプリントには予備がないので、紛失しないように自己管理を徹底すること。また欠席した場合は、クラスメートから借りてコピーをとるなど自主的に対応すること。</li> <li>2. 名簿順に座席を指定するので、指定された席にすわること。座席の要望があれば、開講日に受けつけるので申し出ること。</li> <li>3. 辞書（スマホやタブレット端末は不可）を必ず持参すること。辞書なしでの受講は不可。</li> <li>4. 病気、忌引などやむをえない理由で欠席した場合は、客観的な証明書類を後日必ず提出すること。提出がない場合、無断欠席</li> </ol>			
教科書	使用しない。適宜プリントを配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談のこと。	メールアドレス		

授業科目	English Meaning and Use I 【演習】		開講時期	前期
担当教員	C. Provenzano		単位	2
授業の目的と概要	In this course, global topics are explored as a way to make active use and continue to develop the four major English skills in an integrated and interesting way.			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Meaning and use of grammar and vocabulary will be developed through intensive reading of topical texts.</li> <li>2. Listening skills will be developed through use of various media such as videos and recordings. In addition, the language of instruction for this class is English, so there will be real-time listening opportunities.</li> <li>3. Writing skills will be developed through regular homework activities and reports, which will help consolidate skills and topics.</li> <li>4. Participation in topic-related discussion activities will help develop oral and listening skills.</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回; Introduction to the course; Unit 1a			Lifestyle: everyday routines, wordbuilding	
第2回 Unit 1b			Lifestyle: secrets of a long life	
第3回 Unit 1c			Reading skill: understanding examples	
第4回 Unit 1d; 1f			Health	
第5回 Quiz Unit 1; Consolidation			Communicative activities	
第6回 Unit 2a			Crazy competitions	
第7回 Unit 2b			Winning and losing; wordbuilding	
第8回 Unit 2c			Reading skill: inference	
第9回 Unit 2d; 2f			Groups and Competitions	
第10回 Quiz Unit 2; Consolidation			Communicative activities	
第11回 Unit 3a			Transportation solutions	
第12回 Unit 3b			Transportation around the world	
第13回 Unit 3c			Reading skill: Opinions for and against	
第14回 Unit 3d; 3f			Planes, trains and automobiles	
第15回 Quiz Unit 3; Review for final exam			Review and consolidation	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	35% Online Workbook Activities			
小テスト等	25% Class Activities			
成果発表	-			
受講態度他	40% Participation (including attendance); homework activities (other than online workbook)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	In-class interaction is a key part of this class; therefore, attendance is very important. The online workbook activities should be done every week as a way of reviewing and expanding on the topics and language.			
教科書	Life (National Geographic) Book 3A (American English, split version); by Dunnett, Hughes, Stephenson; Published by Cengage Learning; 978-0-35-704-794-1			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Contact the teacher to make an appointment	メールアドレス		

授業科目	English Meaning and Use II 【演習】		開講時期	後期
担当教員	C. Provenzano		単位	2
授業の目的と概要	A continuation of English Meaning and Use I, in this course, global topics are explored as a way to make active use and continue to develop the four major English skills in an integrated and interesting way.			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Meaning and use of grammar and vocabulary will be developed through intensive reading of topical texts.</li> <li>2. Listening skills will be developed through use of various media such as videos and recordings. In addition, the language of instruction for this class is English, so there will be real-time listening opportunities.</li> <li>3. Writing skills will be developed through regular homework activities and reports, which will help consolidate skills and topics.</li> <li>4. Participation in topic-related discussion activities will help develop oral and listening skills.</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Introduction to the course; Unit 4a		Adventurers of the year	
第2回	Unit 4b		An impossible decision	
第3回	Unit 4c		Numbers memory challenge; Reading skill 1 - looking for evidence	
第4回	Unit 4d; 4f		Story telling; Adventures	
第5回	Quiz Unit 4; Consolidation		Communicative activities	
第6回	Unit 5a		Recycling	
第7回	Unit 5b		Managing the environment	
第8回	Unit 5c		The Plastik; Reading skill - reading closely	
第9回	Unit 5d; 5f		Tech and recycling	
第10回	Quiz Unit 5; Consolidation		Communicative activities	
第11回	Unit 6a		Changing your life	
第12回	Unit 6b		Celebrations - Mardi Gras	
第13回	Unit 6c		Coming of age; Reading skill - writer's point of view	
第14回	Unit 6d; 6f		Inviting; Music	
第15回	Consolidation of term work; final learning assessment activities		Review and consolidation	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	35% Online Workbook Activities (textbook website)			
小テスト等	25% Class Activities (Teams assignments)			
成果発表	-			
受講態度他	40% Participation; homework activities (other than textbook website and class activities)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	In-class activities require active participation of all class members every week; therefore, attendance is very important.			
教科書	Life (National Geographic) Book 3 (American English, 2nd Ed); by Hughes, Stephenson and Dummett; Published by Cengage Learning; 978-0-35-704-794-1 (If you took English Meaning and Use I in 前期, you already have the textbook!!)			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	To be announced		メールアドレス	

授業科目	Film Communication【演習】	開講時期	前期
担当教員	D. J. Wood	単位	2
授業の目的と概要	This course develops Visual Literature so it is an advantage to have taken the Year 2 course first if possible. While Visual Literature featured how a novel is translated into a movie, Film Communication examines movies that begin as just an idea and develop into a shooting script, which precedes the making of the movie. We will read about the movie in class and study some of the dialogues before watching short scenes to see how a movie communicates its message both in terms of the plot and the different levels of symbol, metaphor and image, visual, oral, aural and otherwise.		
到達目標	By studying the nature of a movie as an act of communication, students will understand more about how other movies work and about communication itself, as well as improving their language ability and knowledge of movies and culture.  Students will practice both spoken and written communication, and will acquire both interpretational and predictive skills. Movies have become the de facto literature of the 20th and 21st centuries, and include some of the greatest stories told so it is a necessary communication skill to understand their structure and purpose in order to evaluate them		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 Overall Introduction		Prepare for class 2 theme	
第2回 Specific Introduction		Prepare for class 3 theme	
第3回 Scene & Reading 1		Prepare for class 4 theme	
第4回 Scene & Reading 2		Prepare for class 5 theme	
第5回 Scene & Reading 3		Prepare for class 6 theme	
第6回 Scene & Reading 4		Prepare for class 7 theme	
第7回 Scene & Reading 5		Prepare for Review 1	
第8回 Review 1		Review for Class Test 1	
第9回 Class Test 1		Review for Class Retest as required	
第10回 Results & Retest as required		Prepare for class 11 theme	
第11回 Scene & Reading 6		Prepare for class 12 theme	
第12回 Scene & Reading 7		Prepare for class 13 theme	
第13回 Scene & Reading 8		Prepare for Review 2	
第14回 Review 2		Review for Class Test 2	
第15回 Class Test 2		Review for Class Retest as required	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	なし		
小テスト等	50%		
成果発表	なし		
受講態度他	50% Readings, Q&A and class participation		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。		
教科書	Materials will be distributed and explained in each class		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス	



授業科目	Hospitality-service English【講義】		開講時期	前期
担当教員	三日月 雅子		単 位	2
授業の目的と概要	デジタル革命の時代にあっても、観光やビジネスの場面において一番大事なことは人と人のコミュニケーションです。多くの外国人が日本を訪れるようになった今、それらの人々との意思疎通には世界共通言語の英語が不可欠です。この授業では、「おもてなし」「接遇」を英語を通して学ぶことを目標とします。			
到達目標	航空会社の地上係員（Ground Staff）と客室乗務員（Cabin Attendant）の業務を通して英語を学びます。航空会社が提供するサービスで求められるhospitalityあふれた対応をロールプレー演習を通じて実際のシーンを学習します。航空、旅行、ホテルをはじめとするサービス業界全般における「おもてなし」を学ぶと同時に、接遇における英語での丁寧な表現・言葉遣いの習得を目指します。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英(2)-①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 英(3)-②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  この科目は航空会社での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Unit 1	Listening Activity	Unit 1 Listening Activity1-1~1-3 各質問に解答する	
第2回	Unit 1	Listening Activity	Listening Activity1-1~1-3 の答え合わせ	
第3回	Unit 1	Conversation	課題提出	
第4回	Unit 1	Say it Right	Zoom授業の準備	
第5回	Zoom授業	Unit2 Listening Activity	次回ペアワークの準備	
第6回	Unit 2	Listening Activity ペアワーク実施	次回 Unit 2 p14 Conversation 1-4	
第7回	Unit 2	Conversation p14 実施	次回 Unit 3 Listening Activity 1-3	
第8回	Unit 3	Unit 3 Short listening (3) 課題提出	次回 Unit 4 International Flight : Listening Activity 1-3	
第9回	Unit 4	International Flight : Listening Activity 1-3 ペアワーク実施	次回 Unit 4 International Flight : Conversation	
第10回	Unit 4	International Flight : Conversation ペアワーク実施	次回 Unit 7 : welcome aboard -cabin attendant編	
第11回	Unit 7	: welcome aboard : Short Listening ペアワーク実施	次回 Unit 7 : welcome aboard : Conversation	
第12回	Unit 7	: welcome aboard : Conversation ペアワーク実施	次回 Unit 8 Before Take-off Short Listening 1-3	
第13回	Unit 8	Before Take-off : Short Listening 1-3 ペアワーク実施	次回 Unit 8 Before Take-off : Conversation	
第14回	Unit 8	Before Take-off : Conversation 実施	前期復習範囲を指示	
第15回	前期復習(Unit 1 ~Unit 8)		前期遠隔授業総括	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% : 実施しない			
レポート	20%			
小テスト等	50% : ペアワークによる口頭発表を小テストとする。			
成果発表	30% : 授業時の発表			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	指示された課題の予習が必ず必要です。 辞書を必ず持参すること。			
教科書	Hospitality English (株) Halico			
指定図書	特になし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	水・木・金曜日 : 昼休み&4限以降		メールアドレス	

授業科目	Hotel and Airline English I【演習】		開講時期	前期
担当教員	三日月 雅子・未定		単位	2
授業の目的と概要	英語はグローバル社会での基本的なコミュニケーション・スキルです。実践的で必要な英語力を身に付けることこそ重要な課題です。この授業では、AirlineとHotel業界で用いられる英語に特化した学習を主軸とし、それに加えて海外旅行で必要とされる英語表現等の学習を目的とします。英語で不自由する理由の1つに、遭遇する各場面での対処の仕方に不慣れであり、その場面で必要な表現を知らないことが挙げられます。授業では、私たちが海外旅行で遭遇する様々な場面での「役に立つ実践的な英語」を学習し、空港、飛行機内、ホテル、旅行などで使われる基本的なリスニングとスピーキングを効果的に学び、コミュニケーションスキルの向上を目指します。 授業は主としてペアワークでの口頭発表です。			
到達目標	近い将来、留学や海外旅行を計画している学生に対して、即戦力としての役立つ旅行英語を習得することを目標にします。また、卒業後に航空業界、旅行業界、ホテル業界への就職に興味がある学生、そしてTOEICのリスニング力をアップさせたい学生にとってのスキルアップもできます。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英(3)-①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 英(3)-②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  この科目は航空会社での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	Warm-up パワーポイントの資料(1)を視聴	英文shadowing		
第2回	Warm-up パワーポイントの資料(2)を視聴	英文shadowing		
第3回	Unit 1 Prologue-Before you start Listening 1-3	次回Unit 1 Prologue Listening の予 課題 Short Listening topic 1-3の各問題に解答		
第4回	Unit 1 Prologue Listening topic 1-3 答え合わせ	Unit 1 Prologue Listening topic 1の暗記-Zoom授業の準備		
第5回	「Zoom」Unit 1 Prologue Listening & Speaking Activity	Dialogue ペアワーク実施		
第6回	Zoom Unit 1 Dialog ペアワーク、Reading&Tip 読解	課題 Unit 2 Short Listening topic 1-3の各問題に解答		
第7回	Zoom Unit 2 On an Airplane のListening & Speaking	次回Listening topic 1-3の暗唱とペアワーク準備		
第8回	Zoom Listening topic 1-3の暗唱と機内アナウンス暗唱	課題 Unit 3 Short Listening topic 1-3の各問題に解答		
第9回	Unit 3 Landing at Honolulu AirportのListening & Speaking	次回Listening topic 1-3の暗唱とペアワーク準備		
第10回	Zoom- Unit 3 Listening topic 1-3の暗唱とDialogueのペアワーク	課題 Unit 4 Short Listening topic 1-3の各問題に解答		
第11回	Unit 4 Transit at Honolulu Airport のListening & Speaking	次回 Listening topic 1-3の暗唱とペアワーク準備		
第12回	Unit 4 Listening topic 1-3の暗唱とDialogue のペアワーク	課題 Unit 7 Short Listening 1-3の各問題に解答と暗唱		
第13回	Unit 7 Hotel--Checking in 暗唱とペアワーク	課題 Unit 7 Reading&Tipの予習(読解)		
第14回	Unit 7 Reading & Tips読解	前期遠隔授業のまとめ		
第15回	前期復習(Unit 1 ~Unit 7)	前期の評価についての説明と後期の授業について		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%:実施しない			
レポート	20% 課題提出			
小テスト等	10%:期末小テスト(暗唱テスト)			
成果発表	60%:Zoomでのペアワークと英文暗唱を評価する			
受講態度他	10%:Zoomでの発表等に受講態度を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テキストに沿っての予習が必ず必要です。 さらに、毎回の授業で英語表現を暗記して発表することが求められます。			
教科書	著者:三日月 雅子 Fly across the Borders 出版社名:松柏社 ISBN 978-4-88198-685-1			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	水・木・金曜日:昼休み&4限目以降	メールアドレス		

授業科目	Hotel and Airline English II 【演習】		開講時期	後期
担当教員	三日月 雅子・未定		単 位	2
授業の目的と概要	英語はグローバル社会での基本的なコミュニケーション・スキルです。必要な実践的英語力を身に付けることこそ重要な課題と言えます。 後期のこの授業では、前期に引き続きAirlineと Hotel英語に特化した学習に加えて、海外旅行で必要とされる英語表現等の学習を目的とします。英語で不自由する理由の1つに、遭遇する各場面での対処の仕方に不慣れであり、その場面で必要な表現を知らないことが挙げられます。授業では、私たちが海外旅行の際に遭遇する様々な場面での「役に立つ実践的な英語」を学習し、旅行およびホテル英語の基本的なリスニングとスピーキングを効果的に学び、コミュニケーションスキルの向上を目指します。後期の授業では、前期の基本表現の精度をさらに深めて、「本当に役に立つ実践的旅行英語」の学習にさらに力を入れたいと思います。			
到達目標	近い将来、留学や海外旅行を計画している学生に対して即戦力としての役立つ旅行英語を習得することを目標とします。また、卒業後に航空業界、旅行業界、ホテル業界への就職に興味がある学生、そしてTOEICのリスニング力をアップさせたい学生にとってのスキルアップもできます。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は航空会社での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	前期授業の復習と後期授業の説明	次回 Unit 8 Staying at Hotelの予習		
第 2回	Unit 8 Staying at Hotel : Listening&Speaking	課題 Listening&Speakingの暗記		
第 3回	Unit 8 Staying at Hotel : Reading&Tip	課題 Reading&Tipの予習(読解)		
第 4回	Unit 11 Food and Drink : Listening&Speaking	課題 Listening&Speakingの暗記		
第5回	Unit 11 Food and Drink : Reading&Tip	課題 Reading&Tipの予習(読解)		
第 6回	Unit 12 At the Restaurant : Listening&Speaking	課題 Listening&Speakingの暗記		
第 7回	Unit 12 At the Restaurant : Reading&Tip	課題 Reading&Tipの予習(読解)		
第 8回	Unit 13 Shopping : Listening&Speaking	課題 Listening&Speakingの暗記		
第 9回	Unit 13 Shopping : Reading&Tip	課題 Reading&Tipの予習(読解)		
第10回	Unit 14 Hotel-Checking out : Listening&Speaking	課題 Listening&Speakingの暗記		
第11回	Unit 14 Hotel-Checking out : Reading&Tip	課題 Reading&Tipの予習(読解)		
第12回	Unit 15 Going back Home : Listening&Speaking	課題 Listening&Speakingの暗記		
第13回	Going back Home : Reading&Tip	課題 Reading&Tipの予習(読解)		
第14回	後期復習(Unit 8~15)	試験に向けての総復習		
第15回	後期復習(Unit 8~15)	後期復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30%：小テスト2~3回			
成果発表	50%：ペアワークと暗唱による口頭発表を重視します。			
受講態度他	20%：出席状況および発表等による授業への参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テキストに沿った予習が必要です。さらに、毎回の授業で英語表現を暗記することが求められます。			
教科書	著者：三日月 雅子 Fly across the Borders 出版社名：松柏社 ISBN 978-4-88198-685-1			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワー	基本的に木曜日に金曜日にZoomでご相談を受けます。前もってメールでご連絡ください。	メールアドレス		

授業科目	ITと現代社会【講義】		開講時期	前期
担当教員	一ノ瀬 元史		単位	2
授業の目的と概要	情報技術 (ICT) と現代社会とのかかわりについて具体的な出来事、事象、サービスなどの考察を中心に解説します。現代社会のグローバル化の原動力の一つである情報技術は、現代社会をどのように変えたのか、またさまざまなビジネスやサービスをどのように変貌させてきたのか。その機能と原理を知り、その利と不利を知って有効活用を図ることはこれからの持続可能性社会の実現に欠かせない。ICT関連を中心に解説し、それらによって情報がどのように処理され、社会に活用されているか、また個人の生活にどのように関わっているか将来を見通しながら現状を考察する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報について説明できる。</li> <li>2. インターネットの仕組みの概観が説明できる。</li> <li>3. コンピュータのデータ処理の仕組みが説明できる。</li> <li>4. ICTとビジネスの関わりを理解し説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション 講義について 評価方法等 DVD視聴 「フェイクvsリアル」	「アナログ」と「デジタル」の違いについて		
第2回	インターネットの活用① SNS: LINE、Facebook、Twitter	1. 復習: SNS等について 2. 予習: 検索サイトについて調べる		
第3回	インターネットの活用② 検索サイト、Wikipedia、ネットショッピング	予習: メディアリテラシーについて		
第4回	情報倫理とセキュリティ① メディアリテラシー、個人情報、知的財産権	復習: 情報社会に欠かせない倫理 予習: 情報セキュリティについて調べる		
第5回	情報倫理とセキュリティ② コンピュータウイルス、ネット詐欺	復習: コンピュータウイルス 予習: 情報システムについて調べる		
第6回	私たちが生きる情報社会① 情報システム、産業システム	復習: 電子マネー、ビッグデータ VRやウェアラブルデバイスについて調べ		
第7回	私たちが生きる情報社会② センサーと計測制御、VRとウェアラブルデバイス	復習: IoTについて 予習: 標準化・量子化・符号化について		
第8回	情報やメディアに関する技術① 2進数、ビットとバイト、標準化と量子化	復習: 二進法 予習: アプリについて		
第9回	情報やメディアに関する技術② アプリ、PDF、画像ファイル、オーディオファイル	復習: 画像ファイル、動画ファイルのデジタル化について		
第10回	ネットワークやインターネットに関する技術① サーバーとネットワークサービス、TCP/IP	復習: ネットワークサービスについて 予習: LANとWi-Fi、ブロードバンド		
第11回	ネットワークやインターネットに関する技術② LANとWi-Fi、ブロードバンド	復習: ブロードバンドについて 予習: コンピュータの基本要素について		
第12回	ハードウェアに関わる技術① コンピュータの基本要素、論理回路	復習: コンピュータの基本構成について 予習: 入出力装置について		
第13回	ハードウェアに関わる技術② 周辺装置 (入出力装置、記憶装置など)	復習: 入出力装置について 予習: OSについて		
第14回	ソフトウェアに関わる技術① オペレーティングシステム、プログラム	復習: OSについて 予習: ユーザーインターフェースに、クラ		
第15回	ソフトウェアに関わる技術② ユーザーインターフェース、クラウド	これからの情報社会を見通す		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	20%レポート提出			
小テスト等	60% 毎回のふり返り小テスト			
成果発表	0%			
受講態度他	20% (出席・感想コメント含む受講態度)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	デジタル機器に興味を持って、仕組み等を知りたい方におすすめ 遠隔授業になりましたので、筑女ネットの資料に目を通して課題の提出を忘れないようにしてください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	金曜5限目 メールにて	メールアドレス		

授業科目	Intercultural Communication I 【演習】		開講時期	前期
担当教員	山田 直子		単位	2
授業の目的と概要	異なる言語や文化背景を持つ人々との接触は日常生活の一部となり、多文化共生は今日的課題になりました。本授業では、まずグローバル化する世界や地域社会に目を向け、異文化コミュニケーションを学習する意味を考えます。その上で、異文化コミュニケーションの既存の概念や理論について学習し理解を深めます。異なる文化を持つ個人や集団と接触した際、衝突を回避し、より良い人間関係を構築するには、どのようなコミュニケーションが望まれるのか、差異をどのように受け止め、解釈するのかについてペアワークやグループワークをしながら学習します。対話型の授業に積極的に参加し、コミュニケーション能力を向上させます。			
到達目標	① グローバル化社会における異文化コミュニケーションの位置づけや重要性を理解し、説明できる。 ② 異文化コミュニケーションに関する基本知識（概念・理論）について理解し、説明できる。 ③ 異文化コミュニケーションに関する知識や技能をどのように応用するかについて、自分なりの考えを述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) 社会生活に必要な力を身につけている ① 多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 ⑤ 人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (4) 社会の多様な問題に取り組む実践力を身につけている。 これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。			
<授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	イントロダクション・アイスブレイキング		講義で扱う内容について予習	
第2回	グローバル社会と異文化コミュニケーション		講義で扱う内容について予習	
第3回	文化とは何か？コミュニケーションとは何か？		講義で扱う内容について予習	
第4回	言語コミュニケーション		講義で扱う内容について予習	
第5回	非言語コミュニケーション（1）		講義で扱う内容について予習	
第6回	非言語コミュニケーション（2）		講義で扱う内容について予習	
第7回	ステレオタイプと偏見		講義で扱う内容について予習	
第8回	アイデンティティ・価値観・倫理観		講義で扱う内容について予習	
第9回	低文脈文化と高文脈文化		講義で扱う内容について予習	
第10回	カルチャーショックと異文化適応		講義で扱う内容について予習	
第11回	自文化の相対化と自文化理解		講義で扱う内容について予習	
第12回	アサーティブコミュニケーション		外国人留学生とのコミュニケーションを想定して重要事項を復習	
第13回	異文化コミュニケーショントレーニング（1）～外国人留学生とのコミュニケーション実践		外国籍住民の方々とのコミュニケーションを想定して重要事項を復習	
第14回	異文化コミュニケーショントレーニング（2）～外国籍住民とのコミュニケーション実践		異文化コミュニケーショントレーニング（1&2）の振り返り	
第15回	総括・全体ディスカッション		授業の中で指示します	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	70% ミニツノート（毎回の授業で授業内容についての理解、自分の考えを述べます）			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 授業への参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業はペアワークやグループワークを含む対話型の授業です。インターネットを利用した双方向型授業を行う際には、多様なテーマに対し、自分で考え、相手の話を聞き、自分から話すなど積極的に参加することを期待します。			
教科書	プリント資料を毎週配布します。			
指定図書	石田敏・久米昭元ほか「はじめて学ぶ異文化コミュニケーション多文化共生と平和構築に向けて」有斐閣			
参考図書	授業の中で適宜、紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 3時間目	メールアドレス		

授業科目	Intercultural Communication II 【演習】		開講時期	後期
担当教員	山田 直子		単位	2
授業の目的と概要	異なる言語や文化背景を持つ人々との接触は日常生活の一部となり、多文化共生は今日的課題になりました。多文化社会は新しい価値を創造する機会となる一方で、文化、習慣、価値観などの違いが衝突の要因となり、偏見や差別を強化する可能性をはらんでいます。この授業は「Intercultural Communication1」で学習した異文化コミュニケーションに関わる様々な理論や概念、課題を反芻しながら実践活動を通して学ぶ演習科目です。本授業では外国人学生とのタンデム学習(Each One Teach One : EOTO)を行い、自らの経験を振り返り、言語化します。文化背景の異なる人との人間関係を主体的に構築し、言語や文化の違いに配慮しながら行動できる異文化対応能力の育成を図ります。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語や文化が異なる人とも積極的に対話をし、人間関係を構築することができるようになる。</li> <li>2. お互いのコミュニケーション形式や多様な価値観を理解するとともに、相互理解を深める。</li> <li>3. 自分の経験を振り返り、客観的に分析し言語化することができるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目など	<p>(2) 社会生活に必要な力を身につけている</p> <p>①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</p> <p>(4) 社会の多様な問題に取り組む実践力を身につけている。</p> <p>これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション～授業の概要～	インフォメーションシートを作成する		
第2回	異文化コミュニケーションとEach One Teach One	外国人学生との意見交換の準備を行う		
第3回	外国人学生との異文化コミュニケーション（導入活動）	異文化コミュニケーションの振り返りと言語化・配布資料の熟読		
第4回	やさしい日本語による異文化コミュニケーション	EOTO (1) の準備		
第5回	体験の言語化と活動上のルール・注意点 / Each One Teach One (1)	EOT 0 (1) の振り返りと言語化		
第6回	Each One Teach One (1) の振り返りと経験の共有/アドバイジング	EOTO (2) の準備		
第7回	Each One Teach One (2)	EOTO (2) の振り返り・言語化とEOTO (3) の準備		
第8回	Each One Teach One (3)	EOTO (3) の振り返り・言語化とEOTO (4) の準備		
第9回	Each One Teach One (4)	EOTO (4) の振り返りと言語化		
第10回	Each One Teach One (1)～(4)の振り返りと経験の共有	EOTO (5) の準備		
第11回	Each One Teach One (5)	EOTO (5) の振り返り・言語化とEOTO (6) の準備		
第12回	Each One Teach One (6)	EOTO (6) の振り返り・言語化とEOTO (7) の準備		
第13回	Each One Teach One (7)	EOTO (7) の振り返りと言語化		
第14回	Each One Teach Oneを通して得られた知識やスキルを評価し課題を設定する	EOTO全体を通して学んだこと、理解したことを整理し言語化する		
第15回	総括	授業の中で指示します		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	50% 毎回の授業・EOTOの振り返りノート (Teams)			
成果発表	20% 成果の言語化 (文章による成果発表)			
受講態度他	30% 積極的な参加姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Intercultural Communication Iを事前に履修しておくことを推奨します。</li> <li>2. 履修を希望する人は第1回目の授業に必ず出席をしてください。</li> <li>3. 参加型授業であるため出席率80%以上を求めます。</li> </ol>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	塩原良和『ともに生きる一多民族・多文化社会における対話』弘文堂			
オフィスワー	メールまたはTeamsのチャット機能を使用してメッセージを送ってください。オンライン面談も可能。	メールアドレス		

授業科目	Internet English I 【演習】		開講時期	前期
担当教員	大場 智恵子		単位	2
授業の目的と概要	<p>Internetで使われている英語表現、画面構成などを認識することを目的とする。また、webの可能性、効用などを具体的なサイトを閲覧しながら考察する。 パソコンの使用を通じて、コンピューター、ネットワークの仕組み、ファイル管理、コントロールパネルの使い方を実践的に学ぶ。前期を通じTravel Abroadをテーマとしてリサーチ、学習していく。</p> <p>課題に取り組む際、自分に必要な情報を迅速に得る方法を身に着ける。この活動を重ねることによってリーディングやライティングスキルが向上する。かな打ち、英文入力、テンキーなどのブラインドタッチの練習も一年を通じ実施する。ペアアクティビティーとして、自宅学習してきた各週のメインテーマについて課題提出をほぼ毎回提出。</p>			
到達目標	<p>海外のサイトの基本的な見方を解釈する。サイト上での英語に慣れる。 英語のサーチエンジンを使い方と、情報の検索、取捨選択の効率的な方法を推論できる。 課題へ取り組むことにより、英語サイトのコンテンツのリーディングにおけるスキミングと、ライティング力の強化に取り組む。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション、講義の説明		自分の行きたい国について考え、検索、サーチしてくる。	
第2回	Travel: City 1		課題-世界の地理についてリサーチしよう	
第3回	Travel: City 2		課題-自分の興味のある海外の都市の概要について調べる	
第4回	Travel: Air 1 - 海外の航空便をバーチャルで予約		課題- Sampleを使って解いてみよう。	
第5回	Travel: Air 2 - 海外の航空便をバーチャルで予約		課題 - 都市間の航空券のスケジュール日程を組む	
第6回	Travel: Air 3 予約と世界の時差について		課題 - 航空チケット予約	
第7回	Travel: Air 4 予約と世界の時差について		課題 - 世界の時差について	
第8回	Travel: Hotel 海外のホテルをバーチャルで予約		課題 - ホテルを予約して料金とスケジュールを計算	
第9回	Travel: Hostel -ドミトリー形式の宿泊形式		課題6 Hostel形式の宿泊施設について考えてくる	
第10回	Travel: Accommodation		課題 - 施設やアメニティーについて考えてくる	
第11回	Car 1 - レンタカーをバーチャルで予約 1		課題 - レンタカーの料金見積もりと日程を計算 1	
第12回	Car 1 - レンタカーをバーチャルで予約 2		課題 - レンタカーの料金見積もりと日程を計算 2	
第13回	Travel: イベントの探し方		課題10- 海外の都市のイベントの探し方。(ペアワーク)	
第14回	Travel: Final Reportについての説明 1		Final Report の大まかなプランを考える。	
第15回	Travel: Final Reportについての説明 2		Final Report の細かいスケジュールをつめていく。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% 課題 100点 --- 課題10回分)			
小テスト等	なし			
成果発表	原則、翌週に採点后、返却			
受講態度他	講義中、指定されたサイト以外に勝手に行かないこと。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	課題はペアで提出する。共同で進めるため、その際の評価に関しては二人の連帯責任となる。 ペアワークは二週間に一度メンバーを替えることとする。			
教科書	プリント配布			
指定図書	特になし。			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後に相談のこと	メールアドレス		

授業科目	Internet English II 【演習】		開講時期	後期
担当教員	大場 智恵子		単位	2
授業の目的と概要	<p>①InteractiveなWebをバーチャル体験することによって、英語圏の本場の英語に触れる機会を持つ。          ②前期に習得した様々なコンピューター情報処理技術の応用と更なる習得を目指す。          ③コンピューターと英語力両方のスキルの習得。</p> <p>シラバスに沿って様々なサイトを閲覧、検索しながら自分にあつた情報を迅速に得る方法を判断。          かな打ち、英文入力、テンキーなどのブラインドタッチ入力の練習も前期に引き続き通じて行う。          webの可能性、効用などを具体的なサイトを閲覧しながら学習するが、その過程で現地の生活をバーチャル体験する機会を持つ。</p>			
到達目標	<p>①将来の就職活動や日常生活、または学習や趣味での日本語と英語での有益な情報収集やその取捨選択の方法への理解ができる。          ②パソコンの使い方を通じて、Internetで使われている英語表現、画面構成などの解釈が可能となる。          ③ニーズに応じた情報を迅速に得る方法を習得することを目指し、講義の中で様々なサイトを閲覧、検索する</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」          英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	オリエンテーション、私のお気に入りサイトの作成	課題1 私のお気に入りサイト レポート作成 I		
第 2回	海外のHP( Interpals )を閲覧し、英語サイトの構成と自己表現法を学ぶ	課題2-課題 3 - 英語での自己紹介文を作成 - レポート		
第 3回	People 海外の自己紹介サイトを閲覧し、英語での自己表現法を比較	課題 2 - 小テスト		
第 4回	アカウント、個人情報管理について	課題 3 - 小テスト		
第 5回	個人情報の開示に関して	課題 4 - 小テスト		
第 6回	海外の人と文通し、実際のコミュニケーションを図る	課題 5 - 小テスト		
第 7回	Google ツール学習について	課題 6 - 自分のアカウント状況を確認しておく		
第 8回	学習支援のための英語学習サイトを閲覧	課題 7 - 支援ツールに関するレポート		
第 9回	Astrology 星占い	課題 8 - 自分の星座についてリサーチ@レポート提出		
第10回	国内と海外のOnline Shoppingの違いを学ぶ	課題 9 - バーチャル購入 小テスト		
第11回	心理テストを受けてみよう	課題 10 - 受験した心理テストの内容について レポート提出		
第12回	Music 外国の音楽の情報収集法を学習	課題 11 - Youtubeや他の音楽サイトについて調べる 小テスト		
第13回	Movie 外国の映画の情報収集法を学習	課題12 - 外国の映画や俳優について調べてくる		
第14回	日本語版サーチエンジンの情報検索法 小テスト	課題 13 - 日本語のサーチエンジンについて調べてくる		
第15回	適職について検索してみよう -- Matching Job 小テスト	課題 14 - 希望する職種について調べてくる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	レポート (30%) レポート返却はオンラインで行う。			
小テスト等	小テスト (60%) テスト結果報告はオンラインで行う。			
成果発表	オンラインで点数やフィードバックを返却する			
受講態度他	期日までに小テストを受験。レポートも提出すること			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ICTの活用---筑女ネットを使い、レポート作成、小テストを行う。 サイトを閲覧してのネット学習が多い授業のため、欠席すると情報管理等など必要な事項が抜けていくので、しっかり出席すること。			
教科書	プリントオンラインで配布を行う			
指定図書	特になし。			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後に相談のこと	メールアドレス		



授業科目	Introduction to TOEIC【演習】		開講時期	後期
担当教員	松崎 徹		単位	1
授業の目的と概要	本講座は、これまでTOEIC L&R テストを受験したことがない、もしくは受験したことはあるけどどのような勉強法をしてよいかわからないという学生を主な対象として、TOEIC テストの傾向や特色を基本から応用へという流れで学習していきます。各授業は、リスニングPart (1~4) とリーディングPart (5~7) をバランスよく織り交ぜて編纂されたテキストに沿って、1ユニットずつ基礎から応用という順で講義を進めていきます。なお、語彙力向上を目指して、隔週で単語テストを実施していきます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テストで求められる英語力を身につける</li> <li>2. テスト形式と出題内容に慣れる</li> <li>3. 得点を上げるための解答方法を学ぶ</li> <li>4. TOEIC Test における必須語彙力をつける。</li> <li>5. TOEIC Test で450点以上のスコアを取得する</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション (シラバス配布、TOEIC Test の概要説明、など)	TOEIC Test の各 Part ごとの問題の傾向・特徴を調べておくこと		
第2回	Pre-test 実施および解答・解説	Pre-test の誤答箇所を中心とした復習； Vocab Quiz #1 の準備		
第3回	Unit 1 予定一動詞・5文型； Vocab Quiz #1	教科書 p. 22-29までの演習問題を解いておくこと		
第4回	Unit 2 数量を尋ねる一名詞	教科書 p. 30-37までの演習問題を解いておくこと； Vocab Quiz #2 の準備		
第5回	Unit 3 命令・依頼一形容詞・副詞； Vocab Quiz #2	教科書 p. 38-45までの演習問題を解いておくこと		
第6回	Unit 4 広告一宣伝フレーズ・リーディング	教科書 p. 46-55までの演習問題を解いておくこと； Vocab Quiz #3 の準備		
第7回	Unit 5 時間を尋ねる一動名詞； Vocab Quiz #3	教科書 p. 56-63までの演習問題を解いておくこと		
第8回	Unit 6 場所を尋ねる一to 不定詞	教科書 p. 64-71までの演習問題を解いておくこと； Vocab Quiz #4 の準備		
第9回	Unit 7 確認一分詞； Vocab Quiz #4	教科書 p. 72-79までの演習問題を解いておくこと		
第10回	Unit 8 留守電一スキヤニング	教科書 p. 80-87までの演習問題を解いておくこと； Vocab Quiz #5 の準備		
第11回	Unit 9 アドバイス一受動態； Vocab Quiz #5	教科書 p. 88-95までの演習問題を解いておくこと		
第12回	Unit 10 誘い一比較	教科書 p. 96-103までの演習問題を解いておくこと； Vocab Quiz #6 の準備		
第13回	Unit 11 申し出一関係詞； Vocab Quiz #6	教科書 p. 104-111までの演習問題を解いておくこと		
第14回	Unit 12 講演者紹介一スキミング	教科書 p. 112-119までの練習問題を解いておくこと； Vocab Quiz #7 の準備		
第15回	Post-test の実施および解答・解説； Vocab Quiz #7	Post-test の誤答箇所を中心とした復習； 定期試験の準備		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	50% 学期末試験			
レポート	なし			
小テスト等	30% 単語テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 予習状況、授業への参加姿勢などを評価します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該ユニットの練習問題は授業開始時までには必ず予習を済ませておいてください。</li> <li>・隔週で実施する Vocab Quiz は該当する範囲の事前準備をしておいてください。</li> </ul>			
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Msahiko Yamaguchi / George W. Pifer, The TOEIC Test Trainer Target 470 (Revised Edition) (Cengage Learning)</li> <li>2. TEX加藤 『TOEIC L &amp; R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 朝日新聞出版</li> </ol>			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中、必要に応じて紹介します。			
オフィスアワー	火曜日3時間	メールアドレス		

授業科目	LD等、重度・重複障がい者の心理と教育【講義】		開講時期	後期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	<p>LD, ADHD, アスペルガー障がい、高機能自閉症など、通常学級に在籍しているが配慮が必要な児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようなることを目的とする。 あわせて重度・重複障がいの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようになることを目的とする</p> <p>LD, ADHD, アスペルガー障がい、高機能自閉症などの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法を具体的に学び、それぞれのケースではどのように考えていったよいかを考えていきます。 重度・重複障がいの児童・生徒では、感覚運動的な教育支援を中心に具体的な方法を検討していきます。</p>			
到達目標	<p>LD, ADHD, アスペルガー障がい、高機能自閉症などの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようなる。 重度・重複障がいの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談・特別支援教育の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		ケース研究	
第 2回	LDについて 1 その特徴		ケース研究	
第 3回	LDについて 2 アセスメントについて		ケース研究	
第 4回	LDについて 3 アセスメントを生かした教育支援		ケース研究	
第 5回	ADHDについて 1 その特徴		中間レポート作成	
第 6回	ADHDについて 2 行動変容のための支援 ABA		ケース研究	
第 7回	ADHDについて 3 行動変容のための支援 ABAの実施		ケース研究	
第 8回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 1 その特徴		ケース研究	
第 9回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 2 ソーシャルスキルトレーニングについて		ケース研究	
第10回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 3 サバイバルトレーニングについて		中間レポート作成	
第11回	発達障がいの総合的支援について その1		ケース研究	
第12回	発達障がいの総合的支援について その2		ケース研究	
第13回	重度・重複障がいについて 1 その特徴		ケース研究	
第14回	重度・重複障がいについて 2 教育的支援		ケース研究	
第15回	保護者への教育的支援について		最終レポート作成	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	中間レポート 各30% 最終レポート40%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度も見ます			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻は厳禁、積極的に発言参加してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日12:30~13:00		メールアドレス	

授業科目	Language and Culture 【演習】		開講時期	前期
担当教員	T. R. Honkomp		単位	2
授業の目的と概要	<p>Language and Culture is a course that will give Japanese learners of English opportunities to observe and analyze the differences between Japanese and American cultures. Everyday situations that students may find themselves in will be looked at from contrasting points of view.</p> <p>Weekly lesson sessions consist of a topic introduction that includes vocabulary and background explanation. Group discussion and individual reflection are then completed on the unit worksheets.</p>			
到達目標	<p>The skills of listening and speaking are emphasized as students examine the contexts and cultural implications of a variety of situations. Additional objectives include vocabulary development, pronunciation and fluency practice, and insights into the impact of culture on language. Students are to increase their understanding of American culture while at the same time learn more about themselves and become more aware of Japanese culture. Discussion of video and listening materials, and expressing original opinions are important elements of this course.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course information, text, policies & procedures; Introduction unit from text	Review vocabulary from Introduction unit		
第2回	Introducing yourself in a social situation - An American House Party	Worksheet #1 - Vocabulary and Cultural Notes		
第3回	Cultural interaction in various settings - Weekend Barbecue	Worksheet #2 - Vocabulary and Cultural Notes		
第4回	Taking messages, eliciting and giving advice - Young People and Activities	Worksheet #3 - Vocabulary and Cultural Notes		
第5回	Describing and talking about family members - Cultural Differences in Family Relationships	Worksheet #4 - Vocabulary and Cultural Notes		
第6回	Discussing problems and making a good first impression	Worksheet #5 - Vocabulary and Cultural Notes		
第7回	Understanding job ads and job interviews - Advantages and Disadvantages to a part-time job	Worksheet #6 - Vocabulary and Cultural Notes		
第8回	Cultural aspects of Japanese food & drink	Worksheet #7 - Vocabulary and Cultural Notes		
第9回	Prices and sizes - Shopping in different contexts	Worksheet #8 - Vocabulary and Cultural Notes		
第10回	Leisure activities, county fair, Japanese festivals - Traditional Japanese Cultural Events	Worksheet #9 - Vocabulary and Cultural Notes		
第11回	Accepting and refusing an invitation - Surprise Birthday Party Quiz #2	Worksheet #10 - Vocabulary and Cultural Notes		
第12回	Contrasting housing types and issues - Living in an apartment, dormitory or with family	Worksheet #11 - Vocabulary and Cultural Notes		
第13回	Talking about Japanese and North American cities - Cultural Differences & Lifestyles	Worksheet #12 - Vocabulary and Cultural Notes		
第14回	Individual presentations - Description of Japanese cultural events, holidays and traditional culture	Vocabulary Review		
第15回	Presentations Continued; Semester and Exam review	Review Sheets - vocabulary and cultural points		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% End of term report			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50% Class participation & homework worksheet results			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Tuesday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 1st period (9:10-10:40)	メールアドレス		

授業科目	Media English B I 【演習】		開講時期	前期
担当教員	野中 誠司		単 位	2
授業の目的と概要	日刊の英字新聞に掲載された幅広い分野の英文記事を読むことで、リーディングスキルの向上を第1目的とする。またニュースの背景にある知識を知り、内容に対する興味や関心を高めることで、社会生活に必要な情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力などの向上を第2目的とする。この授業では英字新聞を活用して、いまの日本国内外で起きている事象を、相手とのコミュニケーションにおける話題（素材）に活用できるように習得していく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英文記事を読んで、その内容がある程度理解できるようになる。</li> <li>2. ニュース英語における基本的な語法、語彙の基礎を理解し、それらを活用できる。</li> <li>3. 記事における政治的、文化的、社会的背景知識を理解できるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は、企業で海外関連業務（マーケティング、通訳翻訳等）に従事した実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 な ど		
第1回	Books! Bringing a Bright Future to Children: 子どもたちの未来のための図書館	予習pp. 011-016, 単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第2回	Books! Bringing a Bright Future to Children: 子どもたちの未来のための図書館	予習pp. 011-016, 単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第3回	A Unique Tour Guide: 「ロック・スター」が観光ガイド?	予習pp. 023-028, 単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第4回	A Unique Tour Guide: 「ロック・スター」が観光ガイド?	予習pp. 023-028, 単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第5回	A Banana with an Edible Peel: 国産バナナの救世主	予習pp. 029-034, 単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第6回	A Banana with an Edible Peel: 国産バナナの救世主	予習pp. 029-034, 単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第7回	Too Crowded to Carry it on our Backs!: バッグにまつわるお国事情	予習pp. 035-040, 単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第8回	Too Crowded to Carry it on our Backs!: バッグにまつわるお国事情, 中間試験実施	予習pp. 035-040, 単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第9回	Learn about your Pet Dog at the Museum: ワンコの歴史	予習pp. 047-052, 単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第10回	Learn about your Pet Dog at the Museum: ワンコの歴史	予習pp. 047-052, 単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第11回	Save the World from Garbage!: 世界のゴミに挑む!	予習pp. 059-064, 単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第12回	Save the World from Garbage!: 世界のゴミに挑む!	予習pp. 059-064, 単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第13回	Manga Featuring the Elderly: もう脇役ではありません	予習pp. 065-070, 単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第14回	Manga Featuring the Elderly: もう脇役ではありません	予習pp. 065-070, 単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
第15回	まとめ	これまでの単語や英文記事の確認, 音声ファイルのDL, 問題の解答		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%: 毎回の課題を翌週の授業開始前までに提出してください。			
小テスト等	30%: 今日の英語クイズという小テストに翌週の授業開始前までに回答してください。			
成果発表	なし			
受講態度他	20%: フォーラムやチャットへの投稿など、主体的かつ積極的に参加している点を評価します。毎回の授業へのアクセスが6回なかった時点で受講放棄と判断し、名簿から氏名を削除します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開講日から教科書を使用するので、事前に購入しておくか、必要な箇所をコピーするなどして授業に出席すること。教科書なしで授業に参加した場合は、最終評価から減点などのペナルティーを科す。第2回以降の授業にもこのルールを適用する。</li> <li>2. 名簿順に座席を指定するので、指定された席にすわること。座席の要望があれば、開講日に受けつけるので申し出ること。</li> <li>3. 辞書（スマホやタブレット端末は不可）を必ず持参すること。辞書なしでの受講は不可。</li> <li>4. 病気、忌引などやむをえない理由で欠席した場合は、客観的な証明書類を後日必ず提出すること。提出がない場合、無断欠</li> </ol>			
教科書	Junko Mirao et al., "Insights 2020," (Kinseido, 2020)			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談のこと。	メールアドレス		

授業科目	Media English BII【演習】		開講時期	後期
担当教員	高森 暁子		単 位	2
授業の目的と概要	この授業では、英語のニュース動画を利用して、世界各地の社会情勢や時事問題についての理解を深めます。ニュースで用いられる基本的な語彙、語法を身につけながら、リーディングの力を養成します。また、実際のニュース映像の音声や動画を用いて、リスニングの訓練も行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>DVDを視聴して英語ニュースの要点を説明することができる。</li> <li>英語ニュースの語法、語彙の基礎を身に付ける。</li> <li>英語ニュースの内容と、その社会的、文化的背景を関係付けることができる。</li> <li>ナチュラルスピードのニュース音声に慣れ、その内容をできるだけ正確に聞き取れるようになる。</li> <li>聞き取った英語のフレーズや文を、口に出して再現できるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目：「Media English AI」「Media English AII」「Media English BI」など</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：オリエンテーション			Unit 1の予習 (p.6-11)	
第2回：Unit 1 What's for Lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy			Unit 1の復習とUnit 2の予習 (p.12-17)	
第3回：Unit 2 BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags			Unit 2の復習とUnit 3の予習 (p.18-23)	
第4回：Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health			Unit 3の復習とUnit 4の予習 (p.24-29)	
第5回：Unit 4 Take Shoe That Grows			Unit 4の復習とUnit 5の予習 (p.30-35)	
第6回：Unit 5 "Cat Library"Offers Purrfect Solution to Stress			Unit 5の復習とUnit 6の予習 (p.36-41)	
第7回：Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age			Unit 6 の復習とUnit 7の予習 (p.42-47)	
第8回：Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?			Unit 7の復習とUnit 8の予習 (p.48-53)	
第9回：Unit 8 What you Like on Facebook Could Affect Your Job Search			Unit 8 の復習と中間テストに向けた準備	
第10回：Unit 9 Is Sitting the New Smoking?			Unit 9 復習とUnit 10の予習 (p.61-67)	
第11回：Unit 10 Matcha Madness Speaks New Tea Craze			Unit 10 の復習とUnit 11の予習 (p.68-75)	
第12回：Unit 11 Daddy Duty: Stay-at-Home Dads Putting Kids Before Careers			Unit 11の復習とUnit 12の予習 (p.76-82)	
第13回：Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again			Unit 12の復習とUnit 14の予習 (p.90-96)	
第14回：Unit 14 Peddling Pedaling: Bikes Become the Latest Peer-to-Peer Success Story			Unit 14の復習とUnit 15の予習 (p.97-105)	
第15回：Unit 15 How Companies Are Keeping Handwriting Alive in the Digital Age			全体の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	80% 毎回の課題の提出状況			
成果発表	なし			
受講態度他	20%：予習状況や授業への積極的参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	指示された範囲の予習が必ず必要です。			
教科書	熊井、Tinson著 『CBSニュースブレイク 3』 成美堂			
指定図書	なし			
参考図書	授業時に適宜紹介する。			
オフィスアワー	水曜5時間目	メールアドレス		

授業科目	NPO・NGO論【講義】		開講時期	後期
担当教員	喜多村 百合		単位	2
授業の目的と概要	<p>今日国内外で注目される、市民がアクターとなるNPO・NGOの活動について検討します。日本でNPOが注目されはじめたのは阪神淡路大震災時のボランティア活動がきっかけで、その後1998年のNPO法の成立・施行により、日本の社会貢献活動は一気に活性化します。</p> <p>インドでは数万ものボランティア組織が稼働し、アメリカでは500万人以上の市民に活動や雇用の機会を提供しています。また女性が多く活動できる分野でもあります。この講義は、NPO・NGOの成り立ち、働き、可能性や課題について、豊富な事例を踏まえながら理解することをねらいとします。また講師が調査・研究してきたインドの女性NGO・SEWAについて、その特徴と成果、課題を検討します。さらに次世代型事業として、ソーシャル・ビジネスなど多様な市民社会組織(Civil Society Organization:CSO)と課題としての評価を発展的に学ぶことを目的とします。</p>			
到達目標	<p>①NPO・NGO組織化の軌跡(関連法を含む)、働き、課題一般について説明できる。  ②日本のNPO・NGO組織化の軌跡、NPO法の成立、またその働きや課題一般について説明できる。  ③「NGO大国」インドの女性開発NGO・SEWAの活動の特徴・成果・課題について説明できる。  ④次世代型NPO・NGOと呼ばれるソーシャル・ビジネス、CSO、さらに評価という課題について説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ア (3) -②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等		
第1回 導入Ⅰ：授業の概要・授業形態と受講について	NPO・NGOとは何か	指定図書①1章 プリント復習		
第2回 導入Ⅱ：日本のNPO・NGO	定義と関連法、活動形態と軌跡	指定図書①2～3章 プリント復習		
第3回 国際社会のNPO・NGO	事例紹介	指定図書①4～5章 プリント復習		
第4回 国際社会のNPO・NGO(1)	定義と関連法、活動形態と軌跡	NPO・NGO調査 (既存団体/オリジナル)		
第5回 国際社会のNPO・NGO(2)	事例紹介	調査レポート作成		
第6回 NPO・NGO調査報告	インドのNPO・NGO(1) 定義と関連法、活動軌跡	配布資料リーディング プリント復習		
第7回 インドのNPO・NGO(2)	女性開発NGO・SEWA①理念と構造、活動形態	配布資料リーディング プリント復習		
第8回 インドのNPO・NGO(3)	女性開発NGO・SEWA②支援事業、農村部の活動形態	配布資料リーディング プリント復習		
第9回 ソーシャル・ビジネス・市民社会組織(CSO)の活動・事例紹介		指定図書②、ソーシャル・ビジネス、CSO 復習		
第10回 学生のプレゼンとディスカッション(1)：自分が見つけたNPO・NGO		配布資料リーディング プレゼン準備		
第11回 学生のプレゼンとディスカッション(2)：自分が見つけたソーシャルビジネス		配布資料リーディング プリント復習		
第12回 学生のプレゼンとディスカッション(3)：自分が創るNPO・NGO まとめ		配布資料リーディング プレゼン準備		
第13回 学生のプレゼンとディスカッション(4)：自分が創るソーシャル・ビジネス		配布資料リーディング ディスカッション準備		
第14回 NPO・NGO・ソーシャルビジネスの総括・評価		プリント復習 ディスカッション準備		
第15回 ディスカッション：私が作るNPO・NGO・ソーシャル・ビジネス まとめ：NPO・NGO・ソーシャルビジネスの展望と課題		期末レポート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート 30%			
小テスト等	なし			
成果発表	NPO・NGO・ソーシャルビジネス調査とプレゼン 20% レポート 20%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ふだんから、地域や国内外のNPO・NGO活動、ソーシャル・ビジネスやCBOの活動や報道などに関心を持って臨んでほしい。			
教科書	なし			
指定図書	①雨森孝悦『テキストブックNPO(第3版)：非営利組織の制度・活動・マネジメント』 ②広井良典『共生社会と協同労働』			
参考図書	重田康博『NGOの発展の軌跡』 喜多村百合『インドの発展とジェンダー』			
オフィスアワー	月3、水2	メールアドレス		

授業科目	NPO論【講義】		開講時期	前期
担当教員	上村 真仁		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、原則的に遠隔授業で行います。</p> <p>現代社会における地域社会の課題を解決するために行政や民間企業に加えて市民活動組織としての「NPO（非営利組織）」の役割がますます重要となっています。また、人口減少社会や価値観の多様化、社会貢献志向の高まりの中で、充実した「豊かな生き方」の選択肢の一つとして「NPO」が位置付けられるようになってきました。本講義では、市民が参画する社会創造の担い手である「NPO」について理解を深め、その活動において求められる知識と志を身につけることを目的としています。具体的には、「NPO」の社会的な背景、活動理念や組織設立、運営の仕組み、資金調達の方法などを学ぶとともに、地域の課題解決に取り組むNPOの実践の事例について動画の視聴などを通して学ぶことで、「NPO」の今日的な意義や「NPO」活動のやりがい、「NPO」で働くことの魅力、より良い社会創造における可能性などについて考察を行います。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会に関わる多様なセクターの特質を理解し、「NPO」の意義、社会的な役割を説明できる。</li> <li>2. NPO活動を実践するための手法について説明できる。</li> <li>3. 身近な地域課題を対象に、その解決に向けたNPO活動を構想することが出来る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は民間シンクタンクにおいて官公庁の環境政策や地域振興施策の立案に関わり、また環境NGOや地域NPOでの持続可能な地域づくりの実践に関する実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載通りの実践的教育を行います。</p> <p>「現代社会と地域」「地域環境論」「地域デザイン」「エコツーリズム論」とあわせて受講するとより理解が深まります。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	NPO論の進め方、NPOとは何か？	事前配布資料を読み、NPOについての自身の考えを提出する。		
第2回	NPOが求められるようになった社会背景	事前配布資料を読み、自分の関心のあるNPOの活動分野を考える。		
第3回	NPOの定義 非営利活動とは？	インターネット等で関心のあるNPO法人の設立趣旨を調べる。		
第4回	NPOの理論 第4の経済主体	インターネット等で関心のあるNPO法人の事業内容を調べる。		
第5回	NPOの法と制度 特定非営利活動法人	福岡県下でのNPO設置申請の手続きについて調べる。		
第6回	行政との連携 協働とは？	指定管理者制度にもとづく身近な公共施設運営事例を調べる。		
第7回	企業とNPO CSRとは？	自分の希望就職分野でのCSR活動事例を調べる。		
第8回	社会的企業 NPOと収益事業	NPO法人が取り組む収益事業の事例を調べる。		
第9回	NPOのマネジメント	NPO法人の組織体制について事例を調べる。		
第10回	NPO活動の財源	NPO法人を対象とした助成金の申請条件などを調べる。		
第11回	豊かな暮らしとNPO	NPOが私たちの暮らしにもたらすメリットを考える。		
第12回	NPOを作ってみよう グループワーク ミッションの選定	筑紫女学園大学のリソースを活用したNPO活動を考える。		
第13回	NPOを作ってみよう グループワーク 事業内容	ミッションに基づく事業内容を考える。		
第14回	NPOを作ってみよう 発表会	設立趣旨、定款、収益事業、活動効果など発表資料を作成する。		
第15回	NPOで働くということ まとめと振り返り	事業の振り返りをしてください。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	60%（授業前課題20%、事後課題30%、振り返り10%）			
成果発表	30% 個人でのNPO企画発表資料の作成（グループワークに基づき作成）			
受講態度他	10% 授業参加。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>本科目は、この授業は、原則的に遠隔授業で行います。15回分の講義を、筑女ネットにあるNPO論のコースページを活用して進めます（MS Teamsへの移行あり）。より多くのNPO事例に接することで、社会課題の解決におけるNPOの役割と有効性への理解を深めるために、毎回特定非営利活動法人の活動紹介動画を視聴し課題を行います。グループワーク（オンラインやチャット）による学生NPOの設立企画を行います。積極的にグループでのディスカッションに参加して下さい。</p>			
教科書	なし			
指定図書	早瀬昇、水谷綾、永井美佳他、「テキスト市民活動論」、大阪ボランティア協会 澤村明、田中敬文他、はじめてのNPO論、有斐閣			
参考図書	授業中に紹介する			
オフィスアワー	月曜日 3限、4限	メールアドレス		

授業科目	News Media I【演習】	開講時期	前期
担当教員	大場 明日香	単位	2
授業の目的と概要	アメリカCNNの学生向けニュースを用い、生の英語でアメリカの文化や社会について学びます。リスニング力向上の第一歩は、速さや長さに対する恐怖心の克服にあるでしょう。この講座ではまず語彙を学び、ニュースの方向性を掴んだ後、細部に注目していきます。短いニュースにも膨大な量の情報が詰め込まれています。話者の役割を考え、ポイントとなる情報を見抜き、話の筋を通していけば、難解に見えるニュースの内容を自分の知識として蓄えられます。リスニングの力は量だけでなく、どれだけ集中して聞いたかで決まります。分からなくても聞き続け、聞こえなかった原因を探り、まとまった量のリスニングに耐える力を鍛えましょう。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとまった量のリスニングに耐える力を鍛える</li> <li>・情報を整理しながらリスニングを進めることができる</li> <li>・ニュースの概要を分かりやすい日本語で説明することができる</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>英(3)-②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 Introduction (授業の進め方を理解する)		ネット環境の整備、資料のダウンロード、サンプル小テストの実施	
第2回 Unit 9-1: Burgers and Antibiotics・小テスト①		U9前半の復習・小テスト②準備	
第3回 Unit 9-2: Burgers and Antibiotics・小テスト②		U9のまとめ・U8小テスト①準備	
第4回 Unit 8-1: Teaching English as a Second Language・小テスト①		U8前半の復習・小テスト②準備	
第5回 Unit 8-2 Teaching English as a Second Language・小テスト②		U8のまとめ	
第6回 News Reading・プロジェクトの準備 (詳細は授業内で通知)		外部ニュースサイトの使い方・英語ニュースの読み方を復習	
第7回 Mid-Term Project		U5小テスト①準備	
第8回 U6-1 Hungarian Cake・小テスト①		U6前半の復習・小テスト②準備	
第9回 U6-2 Hungarian Cake・小テスト②		U6のまとめ・U5小テスト①準備	
第10回 U5-1 Knocker-Uppers・小テスト①		U5前半の復習・小テスト②準備	
第11回 U5-2 Knocker-Uppers・小テスト②		U5のまとめ・U3小テスト①準備	
第12回 U3-1 Food on Instagram・小テスト①		U3前半の復習・小テスト②準備	
第13回 U3-1 Food on Instagram・小テスト②		U3のまとめ・プロジェクトの準備	
第14回 End-of-Term Project		プロジェクトのまとめ	
第15回 Revision & Feedback (全体のまとめとフィードバック)		全回のまとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 宿題・まとめ課題 (筑女ネット使用)		
小テスト等	30% 小テスト (各ユニット2回: 筑女ネット使用)		
成果発表	30% 中間・期末プロジェクト (筑女ネット・外部サイト使用)		
受講態度他	10% オンライン資料での学習 (筑女ネット使用)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の都合上、受講者数に上限を設けています</li> <li>・初回に小テストや中間・期末課題、予習範囲の詳細を説明しますので、受講を希望する方は必ず受講して下さい</li> <li>・学習するユニットは変わることがあります (授業内で随時通知します)</li> </ul>		
教科書	関戸冬彦, 小暮正人, Jake Arnold, Christopher Mattson 著 『CNN 10 Student News Vol. 8』 (朝日出版) ISBN: 978-4-255-15646-0		
指定図書	なし		
参考図書	適宜紹介		
オフィスアワー	初回授業時に通知	メールアドレス	



授業科目	News Media I【演習】	開講時期	前期
担当教員	野中 誠司	単位	2
授業の目的と概要	NHK World Japanの海外向けニュース番組NEWSLINEを活用して、実践的な英語運用能力を身につけることを第1目的とする。また、ニュースに関連した知識などを知り、内容に対する興味や関心を高めることで、社会生活に必要な情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力などの向上を第2目的とする。この授業ではニュースという視聴覚教材を活用して、いまの日本で起きている事象を、相手とのコミュニケーションにおける話題（素材）に活用できるように習得していく。教科書はさまざまなジャンルのトピックを取り上げている。番組を収録したDVDも教科書出版社の関連サイトでストリーミング再生で視聴できるので、授業の予習・復習やリスニング力の向上に活用すること。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>放送で使われている単語や表現が聞きとれ、それらを口頭と文章で再現することができる。</li> <li>放送で使われている単語や表現に関連したことを理解し、それらを口頭で説明することができる。</li> <li>学習したニュースで得た知識や技能を、現代社会を生きる自己を実現する力として活用できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」</p> <p>英(3)-②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は、企業で海外関連業務（マーケティング、通訳翻訳等）に従事した実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 Video Bingeing: 進化する料理動画		予習pp. 7-12, 単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
第2回 Video Bingeing: 進化する料理動画		予習pp. 7-12, 単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
第3回 Speaking Their Language: 外国人観光客と災害予知情報		予習pp. 13-18, 単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
第4回 Speaking Their Language: 外国人観光客と災害予知情報		予習pp. 13-18, 単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
第5回 Creativity from the Campus: 学生とコラボ		予習pp. 19-24, 単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
第6回 Creativity from the Campus: 学生とコラボ		予習pp. 19-24, 単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
第7回 Firms Help Fight Plastic Pollution: 日本企業の脱プラ対策		予習pp. 25-30, 単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
第8回 Firms Help Fight Plastic Pollution: 日本企業の脱プラ対策, 中間試験実施		予習pp. 25-30, 単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
第9回 Fighting Food Waste: 食品のむだをなくせ!—スマホ利用のビジネス		予習pp. 37-42, 単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
第10回 Fighting Food Waste: 食品のむだをなくせ!—スマホ利用のビジネス		予習pp. 37-42, 単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
第11回 Adapting to a Tourist Influx: 「宿坊」人気—海外からの訪問客		予習pp. 61-66, 単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
第12回 Adapting to a Tourist Influx: 「宿坊」人気—海外からの訪問客		予習pp. 61-66, 単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
第13回 Friendship Voyage: 日米の「絆」—震災をきっかけに		予習pp. 85-90, 単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
第14回 Friendship Voyage: 日米の「絆」—震災をきっかけに		予習pp. 85-90, 単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
第15回 まとめ		これまでの単語の確認, ストリーミングでニュースの確認, 問題解答	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50%: 毎回の課題を翌週の授業開始前までに提出してください。		
小テスト等	30%: 今日の英語クイズという小テストに翌週の授業開始前までに回答してください。		
成果発表	なし		
受講態度他	20%: フォーラムやチャットへの投稿など、主体的かつ積極的に参加している点を評価します。毎回の授業へのアクセスが6回なかった時点で受講放棄と判断し、名簿から氏名を削除します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>開講日から教科書を使用するので、事前に購入しておくか、必要な箇所をコピーするなどして授業に出席すること。教科書なしで授業に参加した場合は、最終評価から減点などのペナルティーを科す。第2回以降の授業にもこのルールを適用する。</li> <li>名簿順に座席を指定するので、指定された席にすわること。座席の要望があれば、開講日に受けつけるので申し出ること。</li> <li>辞書（スマホやタブレット端末は不可）を必ず持参すること。辞書なしでの受講は不可。</li> <li>病気、忌引などやむをえない理由で欠席した場合は、客観的な証明書類を後日必ず提出すること。提出がない場合、無断欠席</li> </ol>		
教科書	T. Yamazaki / S. M Yamazaki, "NHK NEWSLINE 3," (Kinseido, 2020)		
指定図書	なし		
参考図書	授業の中で適宜紹介する。		
オフィスアワー	授業の前後に相談のこと。	メールアドレス	

授業科目	News Media II【演習】	開講時期	後期
担当教員	大場 明日香	単位	2
授業の目的と概要	イギリスBBCが実際に放送したニュースを用い、生のイギリス英語でイギリスの今を学びます。ところ変わればニュースも変わります。日本では扱われないニュースがあったり、同じ題材でも取り上げ方が全く異なったり、ニュースを通して新たな見方を学ぶことができます。学習者用の教材ではありませんので、初めは速さに戸惑うかもしれませんが、ニュース英語の構造と特徴を知り、分かる部分を増やしていきます。ニュースの英語に慣れることを目的に特にニュースの冒頭に注目し、音声のみならず映像や背景知識などをフル活用して内容を把握します。ニュース全体を細部まで読み解けた後は、分かりやすい日本語で情報を伝えることにも着目します。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュース英語の構造と特徴を知る。</li> <li>・映像や背景知識の助けを借りながらニュースの大まかな内容をつかむことができる。</li> <li>・ニュースの内容や背景を調べ、分かりやすい日本語に置き換えて伝えることができる。</li> <li>・ニュース音源のディクテーションを通してリスニング力の強化に努める。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	メディア後期 英(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 英(3)-②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 導入 (学習の進め方の詳細の説明)		Unit 3小テスト準備	
第2回 Unit 3: Shopping without Plastic (小テスト・前半)		U3 前半の復習・後半の準備	
第3回 Unit 3: Shopping without Plastic (後半)		Unit 4 小テスト準備	
第4回 Unit 4: Edinburgh to Tax Tourists (前半・小テストあり)		U4 前半の復習・後半の準備	
第5回 Unit 4: Edinburgh to Tax Tourists (後半)		Unit 3, 4のまとめ	
第6回 Revision & Activity (1)		Unit 6 小テスト準備	
第7回 Unit 6: The Fashion Industry and the Environment (前半・小テストあり)		U6 前半の復習・後半の準備	
第8回 Unit 6: The Fashion Industry and the Environment (後半)		Unit 9 小テスト準備	
第9回 Unit 9: Guide Dog Discrimination (前半・小テストあり)		U9 前半の復習・後半の準備	
第10回 Unit 9: Guide Dog Discrimination (後半)		Unit 6, 9のまとめ	
第11回 Revision & Activity (2)		U11 小テスト準備	
第12回 Unit 11: A Da Vinci Dispute (前半・小テストあり)		U11 前半の復習・後半の準備	
第13回 Unit 11: A Da Vinci Dispute (後半)		指示された課題	
第14回 Revision & Activity (3)		指示された課題	
第15回 End-of-Term Task (期末課題・全体のまとめ)		全体のまとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	なし		
小テスト等	30% Mini-Test (小テスト) : ユニット毎にオンラインで実施		
成果発表	70% Recap (各回授業のまとめ) : 授業終了時にオンラインで提出、期末課題、その他の課題		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	オンラインで実施する場合も、実際の授業時間に合わせて学習(筑女ネット上の資料へアクセス、小テストの実施、まとめ課題の提出など)して下さい。詳細は初回授業時に説明します。		
教科書	Timothy Knowles, Mayumi Tamura, Mine Tanaka, Mihoko Nakamura 著 『British News Update 2』(金星堂) ISBN: 978-4-7647-4097-6		
指定図書	なし		
参考図書	適宜紹介		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス	

授業科目	Pronunciation I 【演習】		開講時期	前期
担当教員	松崎 徹		単位	1
授業の目的と概要	本授業では、英語でのコミュニケーションをより円滑に行うことを目的に、母音と子音を中心とした単音の正しい発音法を基礎から身につけていきます。導入として、日英両語における母音および子音の発音の大きく異なる点を説明し、私たち日本人が英語の発音を困難だと感じる原因を理解とともに英語の発音に対する受講生の意識を高めます。導入終了後は、英語の母音・子音個々の音の特徴をテキストに沿って解説していきます。各発音に合わせて講師の模範発音動画も順次配信し、受講生の英語の発音が正しい調音点と調音法に基づいて行われているか（例えば[l]と[r]の区別など、特に日本人が苦手とする発音など）を聴覚および視覚的に確認・指導していきます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の母音を正しく発音することができる。</li> <li>2. 英語の子音を正しく発音することができる。</li> <li>3. 英語の単語を正しく発音することができる。</li> <li>4. 短文を正しい発音で読むことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	より良い英語の発音を身に付けるためにすべきこと：「発音上達のための5か条」	掲載資料を熟読すること		
第 2回	英語と日本語の発音の違い	掲載資料を熟読すること		
第 3回	母音の発音 (1) 【 /i:/, /i/ 】	既習事項の発音反復練習、テキスト予習 pp. 1-2		
第 4回	母音の発音 (2) 【 /e/, /ae/ 】	既習事項の発音反復練習、テキスト予習 pp. 3-4		
第 5回	母音の発音 (3) 【 /a/ 】	既習事項の発音反復練習、テキスト予習 p. 5		
第 6回	母音の発音 (4) 【 /ɑ: r/, /e: r/ 】	既習事項の発音反復練習、テキスト予習 p. 7; p. 15		
第 7回	母音の発音 (5) 【 /o:/, /o: r/ 】	既習事項の発音反復練習、テキスト予習 pp. 8-9		
第 8回	母音の発音 (6) 【 /u/, /u:/ 】	既習事項の発音反復練習、テキスト予習 pp. 10-12		
第 9回	母音の総復習	既習事項の発音反復練習、テキスト予習 @pp. 1-12		
第10回	子音の発音 (1) 【 /p/, /t/, /k/ 】	既習事項の発音反復練習、テキスト予習 p. 16; p. 18; p. 20		
第11回	子音の発音 (2) 【 /l/, /r/ 】	既習事項の発音反復練習、テキスト予習 p. 25; p. 35		
第12回	子音の発音 (3) 【 /f/, /v/ 】	既習事項の発音反復練習、テキスト予習 pp. 26-27		
第13回	子音の発音 (4) 【 /th/, /sh/ 】	既習事項の発音反復練習、テキスト予習 p. 28; p. 32		
第14回	子音の発音 (5) 【 /w/, /ch/ 】	既習事項の発音反復練習、テキスト予習 p. 37; p. 38		
第15回	習熟度試験	習熟度試験に向けての練習		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	80% 習熟度試験 (受講生の発音の習熟度を担当教員が評価・採点します)			
受講態度他	20% 筑女ネット上での学修課題等をきちんとこなしているかどうかで評価します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義では主として米国式標準音に基づき指導します。</li> <li>・テキスト付属のCDを聴いて、発音の反復練習を必ず実践してください。なお、発音練習の際には手鏡で口の開き具合および舌の位置などを確認してください。</li> </ul>			
教科書	For Better Pronunciation (Kazuyuki Watanabe & Shiro Osaka著、Yumi Press)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	筑女ネット上で適宜質問等を受け付けます。	メールアドレス		

授業科目	Pronunciation II 【演習】		開講時期	後期
担当教員	松崎 徹		単位	1
授業の目的と概要	本講座では、短文レベルの正しい発音・リズム・イントネーションを身につけることにより、英語での円滑なコミュニケーションができるようになることを目指します。単音レベルを中心とした前期の発音指導を土台に、後期では英語母国語話者による発音指導のビデオを視聴しながら、(1)音変化の仕組みの習得とその実践(2)正しいリズムとイントネーションに基づいた短文の読みの訓練の2点に焦点を当てて指導していきます。授業ではテキスト中の短文を音読し合うペアワークを取り入れ、ペアワーク中に各受講生の習熟度を確認するため講師が机間巡視して個別指導を行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 単音(母音および子音)を正しく発音できる。</li> <li>2. 文中に出てくる音変化を正しく発音できる。</li> <li>3. 短文を正しいリズム・イントネーションをつけながら読むことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英(3)-②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Lesson 16	She is a well-known linguist.	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 pp. 71-74	
第2回	Lesson 18	Do you have a pen I can borrow?	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 pp. 79-84	
第3回	Lesson 1	What would you like to drink?	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 pp. 1-6	
第4回	Lesson 3	Can you read French?	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 pp. 13-16	
第5回	Lesson 4	What a nice car! (1) 【スキットディクテーション】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 pp. 17-20	
第6回	Lesson 4	What a nice car! (2) 【短文音読練習】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 pp. 17-20	
第7回	Lesson 5	Would you be free this Friday?	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 pp. 21-24	
第8回	Lesson 6	It's going really well.	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 pp. 25-30	
第9回	Lesson 7	I'll have to settle for a salad. (1) 【スキットディクテーション】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 pp. 31-36	
第10回	Lesson 7	I'll have to settle for a salad. (2) 【短文音読練習】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 pp. 31-36	
第11回	Lesson 9	To Tell you the truth... (1) 【スキットディクテーション】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 pp. 41-44	
第12回	Lesson 9	To Tell you the truth... (2) 【短文音読練習】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 pp. 41-44	
第13回	Lesson 10	She always makes me laugh.	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 45-48	
第14回	総復習 Part 1; 習熟度試験問題全体発音練習(1)		既習事項の音読反復練習および習熟度試験問題個人練習	
第15回	総復習 Part 2; 習熟度試験問題全体発音練習(2)		既習事項の音読反復練習および習熟度試験問題個人練習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	80% 習熟度試験(受講生の発音を担当教員が採点・評価します)			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業での積極的な姿勢(ペアワーク、等)を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義では主として米国式標準音に基づき指導します。</li> <li>・発音練習の際、口の形および舌の位置を適宜確認するので、毎時間必ず手鏡を持参してください。</li> <li>・筑女ネット上にアップしている動画を自主的に視聴して反復練習を必ず実践してください。</li> </ul>			
教科書	Sounds Right! Sounds Good! (Mirakawa Hisako著、MACMILLAN LANGUAGE HOUSE)			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します。			
オフィスアワー	火曜日 3限目		メールアドレス	

授業科目	Reading and Writing A I【演習】		開講時期	前期
担当教員	高森 暁子		単位	1
授業の目的と概要	基礎的な英文を読むために必要なボキャブラリーと文法事項を身につけ、それを英文読解に活かす方法を習得します。リーディングは、意味のまとまりごとに語順通りに読む、フレーズ・リーディングの方法を学習します。文法事項については、高校までの復習を兼ねて基礎的なレベルから学んでいきます。ライティングは、リーディングで読んだ内容に関するものを行います。読んだ内容について書くことによって、英文の内容をより深く理解し、自身の関心とつなげていくことを目指します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英文を読み、書くために必要な文法や表現を身につける。</li> <li>2. 英語の文章の構成上の特徴を知り、効果的に内容を読み取ることができる。</li> <li>3. まとまりのある英文から必要な情報を得たり、概要や要点を説明したりすることができる。</li> <li>4. 語彙力を強化することで、様々な内容の英文を理解することができる。</li> <li>5. 読んだ内容について書くことで、より正確に英文の内容を理解することができる。</li> <li>6. 英語特有のイディオム表現を学習することによって、より自然な英文を書くことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目：「Core English I」「Core English II」「Reading ad Writing AII」など</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	授業に関する概要説明	Lesson 1（前半）に関する予習課題		
第 2回	Lesson 1 Fringe Science（前半）	Lesson 1（前半）の復習及びLesson 1（後半）の予習に関する課題		
第 3回	Lesson 1 Fringe Science（後半）	Lesson 1（後半）の復習及びLesson 4（前半）の予習に関する課題		
第 4回	Lesson 4 Growing Your Own Food（前半）	Lesson 4（前半）の復習及びLesson 4（後半）の予習に関する課題		
第 5回	Lesson 4 Growing Your Own Food（後半）	Lesson 4（後半）の復習及びLesson 7（前半）の予習に関する課題		
第 6回	Lesson 7 Centenarians（前半）	Lesson 7（前半）の復習及びLesson 7（後半）の予習に関する課題		
第 7回	Lesson 7 Centenarians（後半）	Lesson 7（後半）の復習及びLesson 8（前半）の予習に関する課題		
第 8回	Lesson 8 Mardi Gras（前半）	Lesson 8（前半）の復習及びLesson 8（後半）の予習に関する課題		
第 9回	Lesson 8 Mardi Gras（後半）	Lesson 8（後半）の復習及びLesson 10（前半）の予習に関する課題		
第10回	Lesson 10 Medical Tourism（前半）	Lesson 10（前半）の復習及びLesson 10（後半）の予習に関する課題		
第11回	Lesson 10 Medical Tourism（後半）	Lesson 10（後半）の復習及びLesson 12（前半）の予習に関する課題		
第12回	Lesson 12 Kickstarter（前半）	Lesson 12（前半）の復習及びLesson 12（後半）の予習に関する課題		
第13回	Lesson 12 Kickstarter（後半）	Lesson 12（後半）の復習及びLesson 15（前半）の予習に関する課題		
第14回	Lesson 15 Fair Trade（前半）	Lesson 15（前半）の復習及びLesson 15（後半）の予習に関する課題		
第15回	Lesson 15 Fair Trade（後半）	Lesson 15（後半）の復習に関する課題		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	予習、復習に関する課題 85%			
成果発表	なし			
受講態度他	筑女ネットへのアクセス状況 15%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業で使用する資料や音声データは筑女ネットの授業ページにアップします。小テストも筑女ネット上で行ないます。			
教科書	Andrew E. Bennett, 『Reading Pass (Intro)』 南雲堂.			
指定図書	なし			
参考図書	授業中、必要に応じて紹介します。			
オフィスアワー	水曜5時間目	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing A I (S) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	D. J. Wood		単位	1
授業の目的と概要	This course's aim is communicative accuracy in reading and writing. Students learn to avoid mistakes that defeat communication. Students study two English skills in just one class. Accordingly, this course emphasizes additional independent assignments. Learners can achieve significant progress in reading and writing from first to final class. The content, skills and production of the class include: using students' own photos for composition from first draft, peer review to final versions ; note-taking; directed written assignments; independent reading assignments; integrated reading/writing activities; diaries on specific occasions; ongoing diaries for daily completion; short written lectures for reading and so on.			
到達目標	Students develop computer English reading and writing skills.. They learn to extend their writing ability to connect sentences. They practice how to organize ideas into short paragraphs. They increase comprehension by identifying key words and topic sentences. They acquire the ability to read writers' attitudes. They develop the ability to summarize reading passages. They practice reading summaries of fellow students' written work.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Orientation and interpersonal written communication method overview	Prepare for class 2 assignment		
第2回	Exchange of personal information, about recent activities for written expression	Prepare for class 3 assignment		
第3回	Exchange of personal information, about recent activities for written expression	Prepare for class 4 assignment		
第4回	Class report writing practice	Prepare for class 5 assignment		
第5回	All students bring photos to exchange and interact via	Prepare for class 6 assignment		
第6回	Students continue the weekly communication exchange on a monthly basis, combined with weekly diary keeping	Prepare for class 7 assignment		
第7回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping	Prepare for class 8 assignment		
第8回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping	Prepare for class 9 assignment		
第9回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping	Prepare for class 10 assignment		
第10回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping	Prepare for class 11 assignment		
第11回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping	Prepare for class 12 assignment		
第12回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping	Prepare for class 13 assignment		
第13回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping	Prepare for class 14 assignment		
第14回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping	Prepare for class 15 assignment		
第15回	Students prepare their final overview of all monthly corrected exchanges and weekly diaries for final assessment	Prepare for class review assignment		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% class participation and contribution			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	Study materials will be provided			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing AII (R1) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	Alan Michaels		単位	1
授業の目的と概要	<p>目標1: 英語コミュニケーションスキル向上のため、ReadingとWritingの基礎的スキルを習得し正しく理解し使えるようになる。</p> <p>目標2: 英語の母国語話者が持つ感覚をイメージスキーマを通して感じられるようになる。</p> <p>目標3: 題材を通して、英語文化及び言語に対する関心を高め、言葉としての英語及び日本語を考察し比較できるようになる。</p> <p>目標4: 論理的思考力をもって、英語の文を作ることができる。</p> <p>テキストの演習問題は予習を前提とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習問題を正しく解くことができる。</li> <li>2. 演習問題の解答がなぜそのようなか、論理的思考力をもって、説明することができる。</li> <li>3. 英文の構文・構成をふまえ、その意味を適切に説明することができる。</li> <li>4. 英文の構文・構成をふまえ、日本語を適切に英語で表現することができる。</li> <li>5. コミュニケーション・スキルにおける基礎的な英文を書くことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Introduction, overview, comment cards, classroom English, Q&A. Write pages 2 - 5.	Writing pages 6, 7.		
第2回	Review homework. Discuss and share. Page 85, 86. Library.	Continue writing pages 6 - 9.		
第3回	Looking inward, looking outward. 'Wh' questions.	Writing pages 10 - 14.		
第4回	Share and discuss unit 1 Family. Vocabulary - page 15.	Start writing unit 2, pages 16 - 19.		
第5回	Sharing and writing.	Writing pages 20 - 23.		
第6回	Writing	Continue writing pages 24 - 27.		
第7回	Review, sharing, reading.	Review for test.		
第8回	Mid-term test.	Writing pages 28 - 30.		
第9回	Writing	Writing pages 31, 32.		
第10回	Share and discuss unit 2 - School. Vocabulary - page 33.	Writing pages 34 - 37.		
第11回	Writing	Writing pages 38 - 41.		
第12回	Sharing and writing.	Continue writing pages 42 - 45.		
第13回	Sharing and writing.	Writing pages 46 - 48.		
第14回	Sharing and writing, through page 48.	Finish all writing through page 48.		
第15回	Peer evaluation.	Prepare for final test.		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	30% Final Test.			
レポート	20% 2 book reports x 10%.			
小テスト等	20% Mid-term test.			
成果発表	10% Reading to group. Peer evaluation.			
受講態度他	20% Class participation, homework.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>テキストは単語を調べ、練習問題は分かる範囲ですべて予習をしておくこと。</p> <p>授業後は、しっかりと復習し小テスト/期末試験にそなえること。</p>			
教科書	My University Writing Journal, H.E. Uchida, R.I.C. Publications.			
指定図書	Graded readers are in the library.			
参考図書	English/Japanese Dictionary, Thesaurus.			
オフィスアワー	Wednesday before and after class, and lunchtime.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing A II (R3) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	T.R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	Reading and Writing A II will first assess the skill level of first-year students in the essential language skills of reading and writing. Development and tracking progress of these skills will then become the overall objective of this class. There will be an element of independent learning especially concerning the reading portion of this course. Students will be expected to keep a record of their progress as they proceed through the reading laboratory. In-class and group activities will account for most of the writing portion of this course, and there will also be the occasional written homework assignment.			
到達目標	Using the SRA Reading Laboratory, the student's individual skill level will be determined. Each student will then progress and keep a record of the speed, level, and vocabulary development that they attain through the reading program. Occasional reviews and quizzes will challenge the level of improvement. The writing portion of this course will take students from the gradual progression of forming basic sentences to composing more complex and developed sentences, and then finally to cohesive paragraph development.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course Introduction; explanation of syllabus; reading level assessment	Introduce student record book		
第2回	Begin SRA Reading Laboratory power builders, skill builders and key cards Introduce rate builders	Student record book for rate builders		
第3回	SRA Reading Laboratory power builders and student self-assessment continued Writing activity - Acrostic puzzles	Student record book		
第4回	SRA Reading Laboratory power builders and student self-assessment continued Writing activity - Dictation #1	Student record book		
第5回	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment continued	Student record book		
第6回	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment continued	Student record book		
第7回	SRA Reading Laboratory power builders and student self-assessment continued Writing activity - Skill builders #1	Student record book		
第8回	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment continued	Student record book		
第9回	SRA Reading Laboratory power builders rate builders and student self-assessment continued	Student record book		
第10回	SRA Reading Laboratory power builders and student self-assessment continued Writing activity - Video story #2	Student record book		
第11回	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment continued	Student record book		
第12回	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment continued	Student record book		
第13回	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment continued	Student record book		
第14回	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment continued	Student record book		
第15回	Semester and Exam Review	Exam Review Sheet		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	25 % Final Exam			
レポート	There will generally be no reports in this class.			
小テスト等	15% Mid-term test			
成果発表	Results of mid-term test will be given in class.			
受講態度他	30 % Class participation, self-evaluation and homework 15% Power builder record book 15% Rate builder record book			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice reading and writing.			
教科書	No Text. (Reading materials will be provided by the teacher.)			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Monday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 3rd period (1:10-2:40)	メールアドレス		



授業科目	Reading and Writing AII (R2) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	J. Stewart		単位	1
授業の目的と概要	In this class, students will study and review basic grammar, practice writing sentences and questions using that grammar. Students will practice writing short pieces about various parts of students' lives. Students will be learning vocabulary, as well as the basics of the writing process, so that they learn how to organize writing a paragraph, as well as how to fix mistakes.			
到達目標	At the end of this class, students will be able to write simple grammatically correct sentences, and to write on the following topics: a movie review (5) a comparison essay (7) a celebrity (9), a fashion designer (13), and a human interest story (15) . They will also be able to edit their own work and give feedback to their classmates' writing.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Introduction; Unit 1. Blue Grass and You	.		
第2回	Unit 2. La Nina	Pages 7-12		
第3回	Unit 3. Technology 1	.		
第4回	Unit 4. Business as usual.	QUIZ #1: Units 1-4 (10%)		
第5回	Unit 5. The Silver Screen	TASK 1 - Write a movie review (10%)		
第6回	Unit 6. No News is Bad News	.		
第7回	Unit 7. Politics	TASK 2 - Compare and contrast 2 political systems (10%)		
第8回	Unit 8. Technology 2	.		
第9回	Unit 9. The Not-so-Simple Life	TASK 3 - Write a biography (10%)		
第10回	Unit 10. The Economy	QUIZ #2: Units 5-10 (25%)		
第11回	Unit 11. The Double Helix	.		
第12回	Unit 12. Diplomacy	.		
第13回	Unit 13. Fashion Icon	TASK 4 - Write about a fashion designer (10%)		
第14回	Unit 14. Music (Seriously now)	Quiz #3: Units 11-14 (10%)		
第15回	Unit 15. Horse Power	.		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	.			
レポート	24% Larger writing tasks (4) x 6% each			
小テスト等	50% Three (3) quizzes on reading passages ( 15% 25% 10% )			
成果発表	24% Weekly tasks (12) x 2% each			
受講態度他	2% Attendance			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	The textbook will be used in class all the time, so the students MUST remember to bring their textbook and something to write with. Bringing a dictionary is highly recommended. Also, this class will require lined paper B5 size, and a file for all reports, which will be explained on the first day.			
教科書	Interview-Outerview, by E.J. Stewart (1st Edition) 978-1-304-33888-4			
指定図書	-			
参考図書	Examples of the writing tasks will be provided on the class home page, chikujo-net.			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing AII (S) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	D. J. Wood		単位	1
授業の目的と概要	Following on from Reading and Writing A I(S), students will: * continue to develop their command of written linguistic patterns * analyze interactions for common conceptual features like experience processing and assimilation * learn how to dissect communication structure development; and * identify elements common to all interactions and the themes which they convey. * use their own photos to ask and answer written questions for reading communication			
到達目標	Students further develop their computer English reading and writing skills by experiencing the nature of written interaction in relation to the overall meaning of such universal topics as the nature of teaching and learning. Accordingly, students: * deepen their ability to comprehend all the levels at which reading and writing operate to present their interactions. * develop the necessary linguistic analysis skills to make insightful conclusions; and * learn and demonstrate their ability to write their impressions and interpretation.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Post-summer reading quiz		Prepare for class 2 assignment	
第2回	Post-summer writing quiz		Prepare for class 3 assignment	
第3回	Writing more detailed self descriptions		Prepare for class 4 assignment	
第4回	Writing about disappointments.		Prepare for class 5 assignment	
第5回	Writing about surprises		Prepare for class 6 assignment	
第6回	Reading and writing about national topics		Prepare for class 7 assignment	
第7回	Reading and writing about problems		Prepare for class 8 assignment	
第8回	Reading and writing about international opinions		Prepare for class 9 assignment	
第9回	Reading and writing about plans		Prepare for class 10 assignment	
第10回	Reading and writing about future events		Prepare for class 11 assignment	
第11回	Reading and writing about changes		Prepare for class 12 assignment	
第12回	Course review		Prepare for class 13 assignment	
第13回	Exit writing quiz		Prepare for class 14 assignment	
第14回	Exit reading quiz		Prepare for class 15 assignment	
第15回	Reading and writing project orientation		Prepare for class review assignment	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% homework and quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	All study materials will be distributed in class			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing B I (R2) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	Saza LINDA		単位	1
授業の目的と概要	This course has two main objectives. The first goal is to help students express themselves clearly and accurately in written form. The second goal is to introduce students to examples of superior writing, so that they may improve their own methods of expression.			
到達目標	The writing portion of the lessons will focus on practicing common sentence patterns. Punctuation, grammar and spelling rules will be spotlighted. The reading will be done at home, but will be discussed in class. The aim here is to have the students write opinion pieces on the reading selections.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Overview			Prepare text and necessary materials	
第2回 Basic parts of speech - Nouns, pronouns, and verbs. Definition of a sentence.			Page 6-13	
第3回 Parts of speech - Prepositions, adjectives, and adverbs.			Page 14-20	
第4回 Sentence patterns - be verbs. Subject / verb agreement .			Page 21-28	
第5回 Sentence patterns - There is , there are. Adverb phrases of location			Page 29-36	
第6回 Sentence pattern for have verbs. Describing people and things.			Page 37-43	
第7回 Combining sentences with and, but, or and so. Gerunds			Page 44-51	
第8回 Putting adjectives in correct order. Subject and object pronouns.			Page 52-59	
第9回. Simple present and present continuous tenses. Adverbs of frequency. Intro to paragraphs.			Page 60-67, Reading assignment	
第10回 Formal and informal language in writing. Topic sentences, supporting sentences and concluding sentences.			Page 68-74, Reading assignment	
第11回 Brainstorming , outlining, topic sentences.			Page 75-82, Opinion Paper	
第12回 Supporting and concluding sentences continued. The use of too and not...enough.			Page 83-90	
第13回 Writing a strong conclusion.			Opinion Paper	
第14回 Contrasting the present perfect and simple past . Intro for term paper.			Page 91-97 , Prepare Term Paper	
第15回 Final Writing Assignment - Term paper Workshop			Prepare Term Paper	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	0%			
成果発表	50% weekly writing assignments			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Get ready to write!			
教科書	SENTENCE WRITING - The basics of writing by Dorothy E. Zemach Published by Macmillan			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing B I (R1) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	J. Stewart		単位	1
授業の目的と概要	In this class the students will learn how to write a paragraph, and a composition using logical order and correct format for English writing. Students will learn about the writing process and learn how to develop a topic as well as how to write details. They will learn how to write about a topic using examples, and write a critique on a fiction story. Finally, they will practice writing about book characters, and learn to think about what the author wished to say and what is the main idea or moral of the book or story. Students will review grammar points in order to use them correctly in writing, and they will have practice in editing their own work using the hints the teacher has marked on their paper.			
到達目標	By the end of the class, students will know how to write a composition about a topic using examples or reasons to explain their opinion, they will be able to write an essay critiquing a fictional story. They will be able to write an organized essay with logical progression. Students will be able to write a topic sentence and a conclusion to their work, and to think clearly about what they want to express. They will be able to write a book review that shows they have thought more deeply about what the author has written, and express their opinion about the work.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
Week 1: Introduction of class: rules, grading, class schedule.		Reading: Short Stories 1, 2, 3		
Week 2: Personal and Interpersonal Communication 1: (Writing Task 1 - Recording Your Thoughts)		Reading: Short Stories 4, 5, 6		
Week 3: Personal and Interpersonal Communication 2: (Writing Task 2 - Invitations)		Reading: Short Stories 7, 8, 9		
Week 4: Personal and Interpersonal Communication 3: (Writing Task 3 - Wish You Were Here)		Reading: Short Stories 10, 11, 12, 13		
Week 5: Personal and Interpersonal Communication 4: (Writing Task 4 - After the Fact)		Reading: Short Stories 14, 15, 16		
Week 6: Consumerism 1: (Writing Task 5 - Product Review)		Reading: Short Stories 17, 18, 19		
Week 7: Consumerism 2: Mail-Order Shopping (Writing Task 6)		Reading: Short Stories 20, 21, 22		
Week 8: Consumerism 3: Return to Sender (Writing Task 7)		Reading: Short Stories 23, 24, 25		
Week 9: Academics 1: A Speech Contest (Writing Task 8 - Write a Speech)		Reading: Short Stories 26, 27, 28		
Week 10: Academics 2: Famous People (Writing Task 9)		Reading: Short Stories 29, 30, 31		
Week 11: Academics 3: A Book Report (Writing Task 10 - Book Report)		Reading: Short Stories 32, 33, 34		
Week 12: The Media 1: The Op-Ed Section (Writing Task 11) * Write an Opinion / Editorial *		Reading: Short Stories 35, 36, 37		
Week 13: The Media 2: Human Interest Stories (Writing Task 12 - Shocking News)		Reading: Short Stories 38, 39, 40		
Week 14: The Media 3: Urban Parables (Writing Task 13 - TV CM)		Reading: Short Stories 41, 42		
Week 15: Entertainment: Amazing dot com; The Guide Aubegine; Reviews. (Writing Task 14, 15, 16) * Write a Complete Book Review *		Reading: Short Stories 43		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60% Weekly writing tasks (15x4% each) based on the textbook; 2 larger writing tasks (20% each) - these are marked by an * above.			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	(Weekly writing tasks will be accepted ONLY during the next class period - NO LATE WORK !!!)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	You MUST have a new textbook. The old ones are NOT the same! Supplementary materials will be posted on the class home page on Chikujo-net.  Please bring dictionaries. Electric dictionaries are all right. A book dictionary is best. Every week remember: textbook, paper, pencil.			
教科書	Collected Short Stories, ISBN 978-1-79482-688-5			
指定図書	-			
参考図書	Other materials : see Chikujo Net home page. Important samples of weekly tasks.			
オフィスアワー	Before or after class.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing B I (S) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	C. Provenzano		単位	1
授業の目的と概要	This course focuses on the development of reading, writing and vocabulary skills. Students will engage with texts and practice important strategies for improving their reading speed and comprehension, as well as important techniques for increasing their understanding of vocabulary. After engaging with topics from the texts, students will develop their writing skills as they reflect on the content in written assignments.			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will develop their reading speed and comprehension through intensive reading of a variety of texts.</li> <li>2. Students will develop reading strategies (such as skimming, scanning, guessing vocabulary from context) to help them achieve goal number 1.</li> <li>3. Students will develop their knowledge of vocabulary as well as developing skills for dealing with new vocabulary when they meet it in texts.</li> <li>4. Students will develop their understanding of basic paragraph structure as they reflect on readings in regular written assignments.</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Introduction and course overview; Unit 1, part A	Reading skill: Skimming		
第2回	Unit 1, part B	Main ideas of paragraphs		
第3回	Unit 1 video	Space food		
第4回	Unit 2, part A	Pronoun reference		
第5回	Unit 2, Part B	Scanning for details		
第6回	Unit 2 video	The Lion's Roar		
第7回	Unit 3, Part A	Time order in paragraphs		
第8回	Unit 3, Part B	Fact vs. theory		
第9回	Unit 3 video	Walking with Giants		
第10回	Unit 4, Part A	Dealing with unfamiliar vocabulary (Part 1)		
第11回	Unit 4, Part B	Main ideas and supporting details in paragraphs		
第12回	Unit 4 video	Dragon Boat Festival		
第13回	Unit 5, part A	Infographics		
第14回	Unit 5, part B	Dealing with unfamiliar vocabulary (Part 2)		
第15回	Unit 5 video; Test review	Digging into the Past; Units 1-5		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	35% Online Workbook Activities			
小テスト等	25% Class Activities			
成果発表	-			
受講態度他	40% Participation, homework activities (other than online workbook)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>This is a reading and writing class so students must be sure to do all the required reading and online activities. A dictionary is also recommended.</p> <p>Students should communicate with the teacher at least once a week through the MS Teams forum/chat, and should do their best to take part in Zoom meetings.</p> <p>Use of online translation or copy/pasting for writing assignments will receive a score of 0.</p>			
教科書	Reading Explorer 2 (3rd Edition); By MacIntyre & Bohlke. Published by National Geographic/ Cengage; ISBN 978-0-357-12470-3			
指定図書	-			
参考図書	A paper or electronic Japanese-English dictionary is recommended			
オフィスアワー	Zoom meetings at usual class time (水 9:10~). If you can't join, contact teacher to make plan.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing B I (R3) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	Keith Kinstler		単位	1
授業の目的と概要	<p>READING &amp; WRITING BI emphasizes reading for understanding and writing grammatically equivalent responses to text based comprehension exercises. Students will be expected to develop writing ability from model reading texts. Idiomatic English will be used throughout. 千里の道も一歩から。 Materials are chosen on the basis of variety, clarity, simplicity and general interest. Each passage will be a few pages long and will include writing exercises.</p>			
到達目標	<p>Students will study basic English sentence structure and the relationship between various parts of speech. Variant spellings and pronunciation will be analyzed in order to allow students to recognize differences between spelling and pronunciation. 困難なことも慣れれば簡単</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	INTRO - CLASSROOM ENGLISH - GRAMMAR & PARSING - IDIOMS	前回の授業で学んだ語彙・イディオム・文章表現などを確認しておく。		
第2回	Writing Review - Etymology	前回の授業で学んだ語彙・イディオム・文章表現などを確認しておく。		
第3回	The Love Letters-Comprhesion & Vocabulary Written - Etymology Responses	前回の授業で学んだ語彙・イディオム・文章表現などを確認しておく。		
第4回	Man's Best Friend - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology	Homework: Man's Best Friend		
第5回	Out on a Limb - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology	Homework: Out on a Limb		
第6回	On Top of the World 1 - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology	Homework: Out on a Limb/On Top of the World		
第7回	On Top of the World 2 - Question Formation - Etymology	Homework: 授業で学んだ語彙・イディオム・文章表現などを確認しておく。		
第8回	On Top of the World - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology	授業で学んだ語彙・イディオム・文章表現などを確認		
第9回	Extra - Writing Exercises	前回の授業で学んだ語彙・イディオム・文章表現などを確認しておく。		
第10回	Face to Face - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology	前回の授業で学んだ語彙・イディオム・文章表現などを確認しておく。		
第11回	Extra - Writing Exercises	前回の授業で学んだ語彙・イディオム・文章表現などを確認しておく。		
第12回	Frog - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology	前回の授業で学んだ語彙・イディオム・文章表現などを確認しておく。		
第13回	Extra - Writing Exercises	Crossword		
第14回	Reading Review	前回の授業で学んだ語彙・イディオム・文章表現などを確認しておく。		
第15回	Quiz	前回の授業で学んだ語彙・イディオム・文章表現などを確認しておく。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	課題提出・課題 40%			
小テスト等	0%			
成果発表	毎回の授業での発表 (オンラインの場合) 30%			
受講態度他	毎回の授業の参加 (オンライン) 30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>この授業は全て英語で行われます。定期試験のみで合格点をとっても、単位取得はできません。毎回の授業への積極的参加が大事です。</li> <li>この科目ではクラス活動、授業態度を重視し、積極的で主体的な授業参加が望まれます。</li> <li>クラス活動、練習で継続的に評価を行っていきます。</li> <li>前期は15回授業があり、1回のクラスワークで最高10点ももらえます。公欠は考慮しますが、理由のない遅刻は減点となります。</li> </ul>			
教科書	none handouts			
指定図書	ENGLISH - JAPANESE JAPANESE - ENGLISH DICTIONARY (英和・和英辞典) (電子辞書も可) 携帯の辞書の使用は不可。			
参考図書	ENGLISH - ENGLISH DICTIONARY			
オフィスアワー	Before or after the class. 授業の前後	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing BII (R1) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	Paul Shimizu		単位	1
授業の目的と概要	This course is designed to have students thinking about current affairs and global issues through reading and writing.			
到達目標	Students should be stimulate by the topics and by sharing their ideas with other group members by reading to each other. Students should also learn to express their opinions through writing.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Global Warming - Whose responsibility is It?		Pages 1-8	
第2回	Globalization - Negative and Positive.		Pages 9-14	
第3回	Foreigners living in Japan - Advantages / Disadvantages		Pages 15-22	
第4回	Employment issue - What is a job Really Worth?		Pages 23-29	
第5回	Men and Women - Are we equal.		Pages 30-34	
第6回	The Supernatural - What do you believe?		Pages 35-41	
第7回	Organ and Tissue Donation - It's your body!		Pages 42-47	
第8回	Animals - Do they have rights?		Pages 51-55	
第9回	Violence and Nonviolence - Personal and international		Pages 26-62	
第10回	Education Today. How good is yours?		Pages 63-69	
第11回	The family - Joy and stress.		Pages 70-75	
第12回	Marriage and Divorce - Marriage Life / Single Life		Pages 76-83	
第13回	Sex Education and STDs - Are you safe?		Page 84-91	
第14回	Morality and Immorality - Are you a good person?		Page 92-99	
第15回	Review		Review	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	25%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	75% Continuous Assessment based on Attendance, Participation and Attitude.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	None			
教科書	"Stimulating Conversation Today" INTERCOM PRESS			
指定図書	None			
参考図書	None			
オフィスアワー	Before and After class	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing B II (R2) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	M E. Kamada		単位	1
授業の目的と概要	The aim of Reading and Writing B II is for students to be able to read and understand academic paragraphs, and then write their own academic paragraphs. Students will read and analyze sample paragraphs. They will then learn the process of writing which includes choosing a topic, gathering ideas, organizing ideas, writing, and rewriting. By reflecting on the teacher's comments, students will be able to improve their writing and correct common grammatical mistakes.			
到達目標	By the end of this course, students should be able to do the following: ( 1 ) write a topic sentence ( 2 ) support a topic sentence with details, examples, or reasons ( 3 ) recognize and correct common mistakes in grammar			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Course introduction		Answer the questionnaire (アンケート).		
第2回 Reading a story: "The Lady or the Tiger?"		Answer the questionnaire (アンケート).		
第3回 Continuing "The Lady or the Tiger?"		Answer the questionnaire (アンケート).		
第4回 Continuing "The Lady or the Tiger?"		Answer the questionnaire (アンケート).		
第5回 Unit 1: The Sentence and the Paragraph		Write paragraph # 1: My Favorite Color.		
第6回 Continuing Unit 1: The Sentence and the Paragraph		Write paragraph # 2: My Favorite Coffee Shop.		
第7回 Continuing Unit 1: The Sentence and the Paragraph		Write paragraph # 3: My Favorite Memory.		
第8回 Unit 2: Descriptive Paragraphs		Write paragraph # 4: A Special Gift..		
第9回 Unit 3: Example Paragraphs		Write paragraph # 5: My Special Relative.		
第10回 Unit 5: Narrative Paragraphs		Write paragraph # 6: An Unforgettable Experience.		
第11回 Continuing Unit 5: Narrative Paragraphs		Write Paragraph # 7.		
第12回 Unit 6: Opinion Paragraphs; Giving reasons		Write paragraph # 8.		
第13回 Creative Writing		Write a poem		
第14回 Creative Writing		Write a poem		
第15回 Creative Writing		Finish all assignments.		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	70% Paragraphs; 20% Questionnaire answers (アンケート); 10% Creative Writing.			
小テスト等	0%			
成果発表	-			
受講態度他	-			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students should submit homework on time. Students should take part actively in the class.			
教科書	The Paragraph: Effective Academic Writing by Alice Savage & Masoud Shafiei ( Oxford University Press )			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Students can talk to me after the class.	メールアドレス		



授業科目	Reading and Writing BII (S) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	C. Provenzano		単位	1
授業の目的と概要	A continuation of Reading and Writing BI (S), this course focuses on the development of reading, writing and vocabulary skills. Students will engage with texts and practice important strategies for improving their reading speed and comprehension, as well as important techniques for increasing their understanding of vocabulary. After engaging with topics from the texts, students will develop their writing skills as they reflect on the content in written assignments.			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will develop their reading speed and comprehension through intensive reading of a variety of texts.</li> <li>2. Students will develop reading strategies (such as skimming, scanning, guessing vocabulary from context) to help them achieve goal number 1.</li> <li>3. Students will develop their knowledge of vocabulary as well as developing skills for dealing with new vocabulary when they meet it in texts.</li> <li>4. Students will develop their understanding of basic paragraph structure as they reflect on readings in regular written assignments.</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Introduction and course overview; Unit 5, Part A	Interpreting infographics		
第2回	Unit 5, Part B	Dealing with unfamiliar Vocabulary (affixes)		
第3回	Unit 5 video	Digging into the past		
第4回	Unit 6, Part A	Cause and effect relationships		
第5回	Unit 6, Part B	Contrastive relationships		
第6回	Unit 6 video	Ocean Megabuilders		
第7回	Unit 7, Part A	Venn Diagrams		
第8回	Unit 7, Part B	Synonyms		
第9回	Unit 7 video	Flowers from Ecuador		
第10回	Unit 8, Part A	Taking notes on a reading		
第11回	Unit 8, Part B	Taking notes on a reading (part 2)		
第12回	Unit 8 video	The Legend of Marco Polo		
第13回	Unit 9, Part A	Understanding claims		
第14回	Unit 9, Part B	Making inferences		
第15回	Consolidation of term work; final learning assessment activities	Reading skill reviews		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	35% Online Workbook Activities (textbook website)			
小テスト等	25% Class Activities (on Teams)			
成果発表	なし			
受講態度他	40% Participation, homework activities (other than online workbook)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	This is a reading and writing class so students must bring their textbook to every class. A dictionary is also recommended. A high degree of participation in class activities is expected from all members. Use of online translation for writing assignments will receive a score of 0.			
教科書	Reading Explorer 2 (3rd Edition); By MacIntyre & Bohlke. Published by National Geographic/ Cengage; ISBN 978-0-357-12470-3			
指定図書	-			
参考図書	A paper or electronic Japanese-English dictionary is recommended			
オフィスアワー	To be announced	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing BII (R3) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	Saza LINDA		単位	1
授業の目的と概要	This course is designed as the continuation of Reading and Writing BI. The goals remains the same. The first is to help students express themselves more clearly and accurately in written form. The second is to introduce students to examples of good writing.			
到達目標	The writing portion of the lessons will focus on paragraph writing. The aim is to have the students write strong thesis statements followed by well supported, organized ideas. Once again, the reading will be done at home, but will be discussed in class. Students will write opinion pieces on the reading selections.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Overview			Prepare the text	
第2回 Recognizing and writing complete sentences. Identifying topic sentences.			Page 5-13	
第3回 Picking out topics and main ideas. Skimming skills in reading.			Page 13-19	
第4回 Developing paragraphs. Brainstorming by listing.			Page 20-25	
第5回 Writing conclusions. Brainstorming by mapping.			Page 26-33	
第6回 The importance of peer reading. Brainstorming by freewriting.			Page 34-41	
第7回 Writing Opinion Papers			Page 42-47	
第8回 Writing explanations and excuses. Reading selection			Page 48-54	
第9回 Expressing personal feelings. Writing in logical order.			Page 55-61	
第10回 Ordering events in a narrative. Using time expressions. Logical order.			Page 62-68	
第11回 Organizing a comparison paragraph.			Page 69-74, reading selection	
第12回 How to start your term paper. Catching the readers attention.			Page 75-79 Print provided, reading selection	
第13回 Connecting paragraphs to make an essay. Writing about the future.			Page 80-84	
第14回 Opinion piece for reading selection. Preparing a final draft.			Prepare final paper	
第15回 Final Term Paper			Prepare term paper	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	0%			
成果発表	50% weekly writing assignments			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Come prepared to write!			
教科書	Paragraph Writing - from the sentence to paragraph by Dorothy Zemach Published by Macmillan			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing C1 (R3) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	Alan Michaels		単位	1
授業の目的と概要	In this course the students will develop their skills and confidence in writing and reading English. They will be able to express themselves more effectively in written English. Common grammar mistakes will be pointed out and students will correct their mistakes. Students will become able to improve their vocabulary and reading fluency. Students will share written work with other students and the teacher for revising and editing. Students will get comments from the teacher on how to improve their work.			
到達目標	By the end of the class, students should know how to write a composition about a person and about their own experiences as well as adding examples to their writing; correct formatting of indentation, margins, spacing, and basic punctuation. They will be able to write an organized essay with logical progression. Students will be able to write a topic sentence, support sentences and a conclusion to their work, and to think clearly about what they want to express. They will be able to write a book report that shows they have thought more deeply about what the author has written, and be able to express their opinion about the work.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
1. Introduction of the course, comment cards, Q&A. Preview Chapter 1.		Read pages 20 - 22.		
2. Chapter 1, part 1. Getting started. Choose book for first book report.		Assigned at the end of class.		
3. Chapter 1, part 2. Preparing the first draft.		Assigned at the end of class.		
4. Chapter 1, part 3. Revising. 'Wh' questions - who, what, when, where, why, how?		Assigned at the end of class.		
5. Chapter 1, part 4. Editing.		Assigned at the end of class.		
6. Chapter 1, part 5. Sharing. Submit Composition #1.		Read pages 38 - 40.		
7. Chapter 2, part 1. Narrating a personal experience.		Assigned at the end of class.		
8. Chapter 2, part 1 continues.		Assigned at the end of class.		
9. Review Composition 1, Discuss Composition 2		Assigned at the end of class.		
10. Chapter 2, part 2		Assigned at the end of class. Book #1 reading.		
11. Chapter 2, part 2 continues. Sharing.		Assigned at the end of class.		
12. Chapter 2, part 3.		Assigned at the end of class. Finish Book #1 and write report.		
13. Chapter 2, part 4.		Assigned at the end of class. Book #2 reading.		
14. Chapter 2, part 5. Submit Composition #2.		Assigned at the end of class.		
15. Chapter 2 - Review Composition #2.		Submit Book #2 report.		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80% 2 compositions x 25%, 2 book reports x 15%.			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	20% Class participation, classwork.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Class is conducted in English. Students need to bring their textbook and an English notebook to every class. Dictionaries are useful and recommended. Smartphones are useful tools and may be used for class purposes. Students should try to speak English, ask questions, help other students to improve, volunteer to answer questions and talk about their English experiences outside of class. Email to communicate with the teacher any time regarding absences and other issues.			
教科書	『Writers at Work: The Short Composition』 by Ann O. Strauch Cambridge University Press			
指定図書	Graded readers (Oxford, Penguin) in the library for book reports, or assigned by teacher.			
参考図書	English/Japanese dictionary, Thesaurus.			
オフィスアワー	Wednesdays before and after class, and at lunchtime.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing C I (R2) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	M E. Kamada		単位	1
授業の目的と概要	The aim of this course is for students to improve their reading and writing skills in English, to enjoy reading and writing in English, and to be able to communicate effectively in written English. Students will get advice from the teacher on how to improve their writing. Common grammar mistakes will be explained.			
到達目標	At the end of this course, students should be able to be able to: 1. write a well organized composition 2. support their ideas with details, examples, and reasons 3. recognize and correct common grammar mistakes 4. summarize and comment on a story			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Orientation			Review and practice on-line learning.	
第2回 Story / Summary / Comment			Write a summary and comment of a favorite childhood story.	
第3回 Story / Summary / Comment			Write a summary and comment.	
第4回 Story / Summary / Comment			Write a summary and comment.	
第5回 Chapter 1: Writing About a Person			Write interview questions.	
第6回 Continuing Writing About a Person			Write practice exercises pp. 25-29.	
第7回 Composition Format			Write Composition # 1: Writing About a Person	
第8回 Chapter 2: A Personal Experience			Write practice exercises pp. 43-48.	
第9回 Continuing A Personal Experience			Write practice exercises pp. 53-54.	
第10回 Continuing A Personal Experience			Write Composition #2: A Personal Experience	
第11回 Chapter 3: Providing Examples			Write practice exercises p. 61; p. 65.	
第12回 Continuing Providing Examples			Write practice exercises: p. 67; p. 69; p. 72.	
第13回 Continuing Providing Examples			Write Composition #3: Providing Examples	
第14回 Creative Writing			Write a story.	
第15回 Creative Writing			Write poems.	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50% compositions; 20% story summaries and comments; 20% creative writing; 10% practice exercises			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	-			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students need to submit assignments on time. Students should be ready to engage in the class online.			
教科書	Writers at Work - The Short Composition by Ann O. Strauch (Cambridge University Press)			
指定図書	-			
参考図書	An English-Japanese / Japanese-English Dictionary			
オフィスアワー	Students can talk to me after the online class.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing C I (R1) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	Saza LINDA		単位	1
授業の目的と概要	The aim of this course is to help you communicate more effectively in written English. I will focus on process writing, but you will also have a chance to improve your English reading skills through the introduction of challenging but interesting stories in the textbook, each week. All stages of process writing will be covered, from brainstorming ideas and making outlines, to writing first drafts, editing and submitting your final paper. Each week, I will highlight a few common mistakes students have made and discuss them as a class.			
到達目標	By the end of the semester, students should be able to prepare an organized composition, with clear topic statement, strong supporting ideas and a clear conclusion. In place of a final exam, students will be required to write a research report.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。  <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Overview and teacher expectations. Explanation of the required format and heading for all homework.	Prepare a self-introduction card		
第2回	Brainstorming techniques: Working with listing, clustering and free writing	Pages 1-12		
第3回	Thesis statements, Narrowing your topic, Adding a limiting idea	Pages 15 - 22		
第4回	Organizing your ideas using outlines: Discussion on Formal, Paragraph, and Scratch outlines	Page 25 - 36		
第5回	Writing a Strong Introduction - Don't just preview the body... Catch the reader's attention!	Pages 39 - 52		
第6回	The Body of the Composition: Creating unity within the paragraph, between paragraphs, and within the essay	Pages 55 - 66		
第7回	Writing a Strong Conclusion	Pages 69 - 80		
第8回	Part 1 of Supporting your Ideas with Details: Examples and Illustrative Incidents	Pages 83 - 85		
第9回	Part 2 of Supporting your Ideas with Details: Using facts, statistics, quotes, etc.	Pages 85 - 87		
第10回	Part 3 of Supporting your Ideas with Details: Paraphrasing and Writing Summaries	Pages 88 - 92		
第11回	Part 1 of Writing Techniques- Redundancy	Pages 97 - 109		
第12回	Part 2 of Writing Techniques- Key Words, Adjectives, etc	Pages 112 - 122		
第13回	Citations : Giving credit to your sources	Page 125		
第14回	Editing and revising; Peer review	Prepare final report		
第15回	Review	Submit final report		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%Final Report			
小テスト等	50% Weekly writing assignments			
成果発表	0%			
受講態度他	0% Attendance and Class Participation			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students must submit assignments on time. The text will be used like a workbook and must be brought to class each week. Homework will be assigned every week. Students must be prepared and ready to write, a lot!			
教科書	Write Ahead - A Process Approach to Academic Writing. By Jane McElroy (MACMILLAN LANGUAGE HOUSE)			
指定図書	All additional reading material will be prepared by the teacher.			
参考図書	A Dictionary			
オフィスアワー	I am usually available before and after class, on Wednesdays and Thursdays.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing CI (S) 【演習】		開講時期	前期
担当教員	Paul Shimizu		単位	1
授業の目的と概要	Of course the emphasis will be on reading and writing but there will be some talking too. Students will be working in small groups and exchanging their ideas. All students are expected to participate and make an effort.			
到達目標	Students will learn about the world they live in, in a friendly cooperative atmosphere.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Introduction - What do you know about technology and humanity.	Review		
第2回	History of Science and Technology	Pages 4-11		
第3回	Communication	Pages 12-19		
第4回	Energy	Pages 20-27		
第5回	Robots and Artificial Intelligence	Pages 28-34		
第6回	Food Technology	Pages 35-41		
第7回	The Internet	Pages 42-49		
第8回	Review - A quick look back	Review		
第9回	Climate	Pages 50-57		
第10回	City life	Pages 58-65		
第11回	Media	Pages 66-71		
第12回	Going green	Pages 72-78		
第13回	Health	Page 79-86		
第14回	The Future	Page 87-94		
第15回	Looking Back - Conclusion	Review whole book		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	100% Continuous Assessment, Attendance, Attitude and Participation			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Full attendance and active participation are essential.			
教科書	Brian Cullen "Humanity & Technology" INTERCOM PRESS			
指定図書	None			
参考図書	None			
オフィスアワー	Before and After class	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing CII (R1) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	J. Stewart		単位	1
授業の目的と概要	In this class the students will learn how to write a paragraph, and a composition using logical order and correct format for English writing. Students will learn about the writing process and learn how to develop a topic as well as how to write details. They will learn how to write about a topic using examples, and write a critique on a fiction story. Finally, they will practice writing about book characters, and learn to think about what the author wished to say and what is the main idea or moral of the book or story. Students will review grammar points in order to use them correctly in writing, and they will have practice in editing their own work using the hints the teacher has marked on their paper			
到達目標	By the end of the class, students will know how to write a composition about a topic using examples or reasons to explain their opinion, they will be able to write an essay critiquing a fictional story. They will be able to write an organized essay with logical progression. Students will be able to write a topic sentence and a conclusion to their work, and to think clearly about what they want to express. They will be able to write a book review that shows they have thought more deeply about what the author has written, and be able to express their opinion about the work.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
Week 1: Introduction of class: rules, grading, class schedule.		Reading: Chapter 1 - The Acorn Kingdom		
Week 2: Personal and Interpersonal Communication 1: Recording Your Thoughts		Reading: Chapter 2 - The New Ambassador		
Week 3: Personal and Interpersonal Communication 2: Invitations Little Writing Task 1 - A Baby Shower (5%) - upload to OneNote.		Reading: Chapter 3 - Nel's Lullaby		
Week 4: The Media: Urban Parables		Reading: Chapter 4 - What the Magpie Saw in the Mirror		
Week 5: The Media: The Op-Ed Section Larger Writing Task 1 - Write an Op-Ed Article - 20% *		Reading: Chapter 5 - Fancy Titles		
Week 6: Consumerism The Guide Aubergine Little Writing Task 2 - Write a Restaurant Review (5%) - upload to OneNote.		Reading: Chapter 6 - The Swan Dive		
Week 7: Academics: Book Reports		Reading: Chapter 7 - Midnight Skulkers		
Week 8: Human Interest Stories		Reading: Chapter 8 - The Battle of Ash Lea		
Week 9: Cooking and Recipes		Reading: Chapter 9 - Scullery Skulduggery		
Week 10: Describe an Event Little Writing Task 3 - Watch a sports event on TV & describe it (5%) - upload to OneNote.		Reading: Chapter 10 - The Battle of Leaves		
Week 11: Personal Correspondence		Reading: Chapter 11 - The Flight of the Bumble Bears		
Week 12: Academics: A Speech Contest Large Writing Task 2 - Write a Speech (20%) *		Reading: Chapter 12 - A Parliament of Squirrels		
Week 13: Academics 2: Famous People Little Writing Task 4 - Describe a famous person (5%) - upload to OneNote.		Reading: Chapter 13 - A Picnic at Primwicket		
Week 14: Public Communication TOEIC IP TEST - 10% of your final grade.		Reading: Chapter 14 - The Order of the Lark		
Week 15: Reviews		Reading: Review Examples		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% There is no Final Exam in this online course.			
レポート	60% : Little Writing Tasks (4 x 5% each); Larger Writing Tasks (2 x 20% each) - marked by an * above.			
小テスト等	40% : Quizzes on War of Mirrors (15% + 15%), and TOEIC IP Test (10%).			
成果発表	0%			
受講態度他	(Weekly writing tasks will be accepted ONLY during the next class period - NO LATE WORK !!!)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Supplementary materials will be posted on the class home page on Chikujo-net (BE COMPUTER LITERATE!) Please use your dictionary. Electronic dictionaries are all right. A book dictionary is best.			
教科書	The War of Mirrors, by E.J. Stewart, ISBN 978-0-97860-870-5 / 978-0-97860-871-2			
指定図書	-			
参考図書	Other materials : see Chikujo Net home page.			
オフィスワーク	E-mail, see below.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing C II (S) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	T. R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	The second semester course of Reading and Writing C II (S) emphasizes continued and advanced development in the skills of reading and writing. Particular attention will be given to improving reading speed, comprehension and developing techniques that increase reading proficiency. Most reading will be done outside of class as homework, and the writing component of this course will introduce in-class activities where students work together and share ideas to create original and more developed written sentences.			
到達目標	Vocabulary development will be emphasized as well as the opportunity to build reading confidence and competence. Students will select a graded reader that is appropriate to their reading level and read the complete text during the semester. Periodic checks will determine student progress. A book report about the text will culminate the experience and will be due near the end of the semester. Student journals will be an important part of the writing part of this course. Journal assignments will give students the chance to express their original ideas and life experiences while focussing on sentence development and more complete sentence structure.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Course introduction; course information, introduction to journals & book report assignment		Review book report assignment and begin choosing book	
第2回	Grammar topic #1: Logical connectors; introduction and practice using connecting & transition words;		Grammar exercise practice	
第3回	Synonyms; Rewrite description using other words; developing details		Handout	
第4回	Sensory vocabulary; Expanding vocabulary that appeals to the five senses Journal Assignment #2		Vocabulary handout	
第5回	In class reading for book reports; progress check		Student selected books	
第6回	Introduction to imagery and colorful language; onomatopoeia Journal Assignment #3		Handouts	
第7回	Figures of speech; Introduction to simile, metaphor, hyperbole		Handouts	
第8回	Figures of speech continued; How vs. Why Journal Assignment #4		Handouts	
第9回	Grammar topic #2: Reported Speech, Indirect discourse introduction and practice		Homework exercises	
第10回	Continued development of creative and descriptive sentences Journal Assignment #5		Handouts	
第11回	Grammar topic #3 : Indefinite vs. definite articles introduction & practice		Handout exercises	
第12回	Figures of speech; development of exaggeration and hyperbole, personification, paradox Journal Assignment #6		Book reports due	
第13回	Introduction to simple poems; syllables, rhyme and rhythm, haiku		Handouts	
第14回	Simple poems continued; practice with limericks		Handouts	
第15回	Semester wrap-up and exam review		Exam review handouts	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	15% Book report			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	20% Class participation and class activities 25% Writing assignments and journals			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Class participation and weekly class activities will play an important factor in final evaluation. Please come to class every week prepared to actively pursue reading and writing practice.			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Monday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 3rd period (1:10-2:40)		メールアドレス	



授業科目	Reading and Writing CII (R3) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	M.E. Kamada		単位	1
授業の目的と概要	This course is a continuation of Reading and Writing C I. The aim of this course is for students to improve their skills in reading and writing English, to enjoy reading and writing in English, and to be able to communicate effectively in written English. Students will improve their writing skills by proceeding through the stages of gathering ideas, writing a first draft, revising, and editing. Students will get comments from the teacher on how to improve their work.			
到達目標	At the end of this course students should be able to do the following : 1. Write compositions giving reasons, explanations, and examples; 2. Summarize and comment on a story; 3. Write short poems;			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。  <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Introduction to the course	Answer the questionnaire (アンケート).		
第2回	Reading a story: "The Lady of the Tiger?"	Answer the questionnaire (アンケート).		
第3回	Continuing "The Lady or the Tiger?"	Answer the questionnaire (アンケート).		
第4回	Continuing "The Lady or the Tiger?"	Answer the questionnaire (アンケート).		
第5回	Chapter 3: Providing Examples	Do Practice 3, p. 65.		
第6回	Continuing Chapter 3: Providing Examples	Write Composition # 1.		
第7回	Continuing Chapter 3: Providing Examples	Write Composition # 2.		
第8回	Chapter 4: Supplying Reasons	Do Practice 2, pp. 81-82		
第9回	Continuing Chapter 4: Supplying Reasons	Write Composition # 3.		
第10回	Continuing Chapter 4: Supplying Reasons	Write Composition # 4.		
第11回	Chapter 6: Proverbs	Do Practice 10, pp.125-126 and Practice 11, pp. 126-127.		
第12回	Continuing Chapter 6: Proverbs	Write Composition # 5.		
第13回	Creative Writing	Write a poem		
第14回	Creative Writing	Write a poem		
第15回	Creative Writing	Finish all assignments.		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% Compositions; 20% Creative Writing; 20% Questionnaire answers (アンケート).			
小テスト等	10%, TOEIC test			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students must submit assignments on time. Students should be ready to take part in the class.			
教科書	Writers at Work - The Short Composition by Ann O. Strauch (Cambridge University Press)			
指定図書	-			
参考図書	An English-Japanese / Japanese-English Dictionary			
オフィスアワー	Students can talk to me after class	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing CII (R2) 【演習】		開講時期	後期
担当教員	M E. Kamada		単位	1
授業の目的と概要	This course is a continuation of Reading and Writing C I. The aim of this course is for students to improve their skills in reading and writing English, to enjoy reading and writing in English, and to be able to communicate effectively in written English. Students will improve their writing skills by proceeding through the stages of gathering ideas, writing a first draft, revising, and editing. Students will get comments from the teacher on how to improve their work.			
到達目標	At the end of this course students should be able to do the following : 1. Write compositions giving reasons, explanations, and examples; 2. Write short poems; 3. Comment on a story.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 英 (3) -②-2 英語の構造や社会的背景に対する理解に基づいて、その特徴を説明することができる。 ＜授業外学修＞1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Introduction to the course	Answer the questionnaire (アンケート).		
第2回	Reading a story: "The Lady or the Tiger?"	Answer the questionnaire (アンケート).		
第3回	Continuing "The Lady or the Tiger?"	Answer the questionnaire (アンケート).		
第4回	Continuing "The Lady or the Tiger?"	Answer the questionnaire (アンケート).		
第5回	Chapter 5: Parallel Points	Do Practice 4, p. 100 and Practice 5, p. 101.		
第6回	Continuing Chapter 5: Parallel Points	Write Composition # 1: My Three Main Goals		
第7回	Continuing Chapter 5: Parallel Points	Write Composition # 2: Three Things I Missed During the Pandemic		
第8回	Chapter 6: Proverbs	Do Practice 10, pp. 125-126 and Practice 11, pp. 126-127.		
第9回	Continuing Chapter 6: Proverbs	Write Composition # 3.		
第10回	Chapter 2: Narrating a Personal Experience	Do Practice 2, p. 44 and Practice 5, pp. 47-48		
第11回	Continuing Chapter 2: Narrating a Personal Experience	Write Composition # 4.		
第12回	Creative Writing	Write a story.		
第13回	Creative Writing	Write a poem		
第14回	Creative Writing	Write a poem		
第15回	Creative Writing	Finish all assignments.		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% Compositions; 30% Creative Writing; 20% Questionnaire (アンケート) answers			
小テスト等	10%, TOEIC test			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students must submit homework on time. Students should be ready to take part in the class.			
教科書	Writers at Work - The Short Composition by Ann O. Strauch (Cambridge University Press)			
指定図書	-			
参考図書	An English-Japanese / Japanese-English Dictionary			
オフィスアワー	Students can talk to me after class	メールアドレス		

授業科目	TOEIC Practice C【演習】		開講時期	後期
担当教員	D. J. Wood		単位	1
授業の目的と概要	This preparation course is compulsory. Students will become familiar with the test format, timing, and possible approaches for preparation the Test of English for International Communication. The test is a test of English language proficiency so students must improve their English during all their classes and free time to achieve a high score.			
到達目標	By studying the exact nature of and best possible techniques for the test, students will improve their ability to answer in various ways such as: * how to use the available time to the maximum effect; * which listening and reading strategies are most effective for them; * how to deal with questions that they cannot answer at first; * how to use the information in the exam to double check and confirm their answers; * and, how to improve their proficiency in their own time.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション (聞く・話す・読む・書く) を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Overall Introduction			Preparation for practice class 2	
第2回 Listening Introduction			Preparation for practice class 3	
第3回 Listening Practice 1			Preparation for practice class 4	
第4回 Listening Practice 2			Preparation for practice class 5	
第5回 Listening Practice 3			Preparation for practice class 6	
第6回 Reading Introduction			Preparation for practice class 7	
第7回 Reading Practice 1			Preparation for practice class 8	
第8回 Reading Practice 2			Preparation for practice class 9	
第9回 Reading Practice 3			Preparation for combined practice class 10	
第10回 Combined Practice Introduction			Preparation for combined practice class 11	
第11回 Combined Practice 1			Preparation for combined practice 2	
第12回 Combined Practice 2			Preparation for combined practice 3	
第13回 Combined Practice 3			Preparation for advanced techniques	
第14回 Advanced Techniques			Preparation for overall review	
第15回 Overall Review			Preparation for complete TOEIC	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% Practices and class participation			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	Materials will be distributed and explained in class			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス		

授業科目	TOEIC Practice: Pre-intermediate【演習】		開講時期	後期
担当教員	大場 明日香		単位	1
授業の目的と概要	TOEIC L&R（以下TOEIC）対策を通してリスニング・リーディング・語彙・文法を強化します。TOEICはビジネス英語の力を試すと言われますが、出題内容を見ると、基本的な文法や時事問題を知っていれば解ける問題も多々あります。2時間で200問という膨大な量を解き終えるには、強靱な集中力で解ける問題を見極め、求められていることを正確に理解し、素早く反応する力が必要です。TOEICで問われる力は、将来英語を使うかどうかにかかわらず、実社会で働く際に求められるスキルに直結しています。毎回の積み重ねを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけましょう。			
到達目標	1) リスニング問題を通して、英語でのコミュニケーションの基礎となる瞬発力を鍛える 2) ビジネス文書のパターンを知り、速く正確に読み解く方法を学ぶ 3) TOEIC対策を通して、継続的な英語学習とスキルアップに対する意欲を高める			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入（授業の進め方・課題・テスト等の詳細を説明＝出席必須）		Unit 1 予習（範囲・方法は初回授業時に説明）		
第2回 U1: Daily Life		Unit 1 復習（方法は初回授業時に説明） ・Unit 2 予習		
第3回 U2: Shopping		Unit 2 復習・Unit 3 予習		
第4回 U3: Parties and Events		Unit 3 復習・Unit 4 予習		
第5回 U4: Traffic and Travel		Unit 4 復習・Unit 5 予習		
第6回 U5: Office Work		Unit 5 復習・Unit 6 予習		
第7回 U6: Marketing and ICT		Unit 1-6のまとめ		
第8回 Mid-Term Review（前半のまとめ）		Unit 7 予習		
第9回 U7: Production and Logistics		Unit 7 復習・Unit 8 予習		
第10回 U8: Employment		Unit 8 復習・Unit 9 予習		
第11回 U9: Personnel		Unit 9 復習・Unit 10 予習		
第12回 U10: Business		Unit 10 復習・Unit 11 予習		
第13回 U11: Health and Environment		Unit 11 復習・Unit 12 予習		
第14回 U12: Finance		Unit 7-12のまとめ		
第15回 End-of-term Review（後半のまとめ）		全回のまとめ		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	40% 小テスト（金フレScore 730レベルの単語テスト）			
成果発表	60% Recap（まとめ）の提出、TOEIC（IP）の受験スコア、その他の課題			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・初回授業のみ対面で実施 … 授業の詳細を説明します （対面で受講できない場合は、筑女ネット上にアップする資料で内容を確認すること） ・2-15回は遠隔授業で実施 … 実際の授業時間に学習して下さい			
教科書	Masako Yasunaru, Akiko Watanabe, Noriko Sunagawa, Akiko Takamri, Yasushi Totoki, Andrew Zitzmann 著 『Seize the Keys of the TOEIC L&R Test』（金星堂） ・TEX加藤『TOEIC L&R Test 出る単特急 金のフレーズ』（朝日新聞出版）			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	TOEIC Training: Pre-intermediate【演習】		開講時期	前期
担当教員	林 慎将		単位	1
授業の目的と概要	本授業では、受講生のTOEIC Testのスコアアップを第一目標とします。そのために、TOEIC受験対策テキストで学ぶ頻出単語や文法、特徴的な言い回し、業種やシチュエーション別の特徴的表現を学習し、リスニング・リーディング両方の力を養っていきます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各Unitに出てくる語彙や生活とビジネスに直結した表現を習得する。</li> <li>2. 高校までに学んだ文法を復習し、新たに知る文法事項を試験において活用できるようにする。</li> <li>3. 各パートの特徴を知り、試験の傾向に慣れる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英 (3) -②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション（聞く・話す・読む・書く）を図ることができる。 <授業外学修>1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション			特にありません。	
第2回 Unit 1			リーディング問題を解いてくる。	
第3回 Unit 2			リーディング問題を解いてくる。	
第4回 Unit 3			リーディング問題を解いてくる。	
第5回 Unit 4			リーディング問題を解いてくる。	
第6回 Unit 5			リーディング問題を解いてくる。	
第7回 Unit 6			リーディング問題を解いてくる。	
第8回 Unit 7			リーディング問題を解いてくる。	
第9回 Unit 8			リーディング問題を解いてくる。	
第10回 Unit 9			リーディング問題を解いてくる。	
第11回 Unit 10			リーディング問題を解いてくる。	
第12回 Unit 11			リーディング問題を解いてくる。	
第13回 Unit 12			リーディング問題を解いてくる。	
第14回 Unit 13			リーディング問題を解いてくる。	
第15回 Unit: 14			リーディング問題を解いてくる。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	なし			
小テスト等	小テスト、提出物: 35% 授業まとめテスト: 40%			
成果発表	なし			
受講態度他	平常点: 25%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーディング問題は予習を行っていることを前提に進めます。事前に解いてきてください。</li> <li>・本講座受講期間中の実施されるTOEIC公開テスト、または本学で実施されるTOEIC IP Testを積極的に受験することが望ましいです。</li> </ul>			
教科書	The High road to the TOEIC Listening and Reading Test (金星堂) TEX加藤 『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 (朝日新聞出版)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業時間前後	メールアドレス		

授業科目	Tourist English【講義】		開講時期	後期
担当教員	山田 直子		単位	2
授業の目的と概要	本授業は、観光に関連する様々な場面において、英語による専門的な用語や言い回しを活用できるようになることを目的としています。各回の授業では、観光に関する自分の経験や考えを英語で共有します。積極的かつ楽しくコミュニケーションを行い、英語学習の意欲をさらに高めます。授業の最後には授業で学習した観光に関する知識や英語表現を参考にしながら、グループでスキットを作成し発表します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will expand their knowledge of travel and tourism-related vocabulary.</li> <li>2. Students will develop their confidence in speaking and writing about topics related to travel and tourism</li> <li>3. Students will develop practical listening and speaking skills by interacting with the teacher and classmates about their own travel and tourism experiences.</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英(2)-①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」  英(3)-②-1 英語を用いて適切なコミュニケーション(聞く・話す・読む・書く)を図ることができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション・アイスブレイキング【対面】	Unit 1の予習		
第2回	Unit 1 Travel Information【遠隔リアルタイム】	Unit 1の復習とUnit 2の予習		
第3回	Unit 2 At the Airport【遠隔リアルタイム】	Unit 2の復習とUnit 3の予習		
第4回	Unit 3 Hotel【遠隔リアルタイム】	Unit 3の復習とUnit 4の予習		
第5回	Unit 4 Dining【遠隔リアルタイム】	Unit 1~4の復習とUnit 5の予習		
第6回	Unit 4のポイント、Unit 5【遠隔リアルタイム】	Unit 5の予習		
第7回	Unit 1~4の小テスト Unit 5【対面】	Unit 5の復習とUnit 6の予習		
第8回	Unit 6【遠隔リアルタイム】	Unit 6の復習とUnit 7の予習		
第9回	Unit 7【遠隔リアルタイム】	Unit 7の復習とUnit 8の予習		
第10回	Unit 8【遠隔リアルタイム】	Unit 5~7の復習とUnit 10の予習		
第11回	Unit 5-7の小テストとUnit 10【対面】	Unit 10の復習とUnit 11の予習		
第12回	Unit 11 Tour Conductor Duties【遠隔リアルタイム】	Unit 11の復習とUnit 12の予習		
第13回	Unit 12 Sightseeing in Japan・スキット作成【遠隔リアルタイム】	Unit 8, 10, 11, 12の復習とスキット発表の準備		
第14回	Unit 8, 10, 11, 12の確認テスト、スキットの発表(1)【対面】	スキット発表の準備		
第15回	スキットの発表(2)・総括【対面】	授業の中で指示		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	60% 確認テスト(翌週の授業でフィードバックを行います)			
成果発表	20% スキットの発表(原稿も含む)			
受講態度他	20% 十分な予習をもとにした積極的な受講を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本授業は英語を使って話す、聴く力の向上に重点をおいていますので、積極的な参加を重視します。欠席が6回に達すると単位取得の資格を失います。			
教科書	観光英検センター編 English for Tourism (Intermediate), 三修社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	メールやTeamsチャットでアポイントメントを取り、対面または遠隔で面談をします。	メールアドレス		

授業科目	Visual Literature【演習】	開講時期	後期
担当教員	D. J. Wood	単位	2
授業の目的と概要	<p>Visual Literature features how a novel is translated into a movie, not literally, but in terms of the director's vision for it.  It examines how movies that begin as just novels develop and transform into a new container of sound, picture and language.  Students will read the movie in its original novel format before watching short scenes to see how the movie communicates the same themes in a different balance and tone in order to evaluate which is more successful at achieving its respective goal.</p>		
到達目標	<p>By experiencing directly the nature of visual and written interaction for close study in relation to the overall meaning of such universal topics as the nature of friendship and death students will:  * deepen their ability to comprehend all the levels at which sound, image, writing and communication operate.  * learn to look at the same story line through the perspective of the respective film and novel variations thereof</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化に対する理解に基づいて、自らの考えを示すことができる。  &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	Orientation to Visual Literature	Preparation for theme 2	
第2回	Background to the chosen film for study	Preparation for theme 3	
第3回	Initial chapter reading	Preparation for theme 4	
第4回	Initial film scene interpretation	Preparation for theme 5	
第5回	Medial chapter reading	Preparation for theme 6	
第6回	Mid-film scene interpretation	Preparation for first half review	
第7回	Review of first half of the movie and novel	Preparation for theme 8	
第8回	Quiz about first half of the movie and novel	Preparation for theme 9	
第9回	Reading of the later chapters	Preparation for theme 10	
第10回	Interpretation of the later scenes	Preparation for theme 11	
第11回	Students continue the weekly photo communication exchange up to ten times	Preparation for theme 12	
第12回	Reading of the final chapters	Preparation for theme 13	
第13回	Viewing of the final scenes	Preparation for review of the second half of the film	
第14回	Review of the second half of the film and novel	Preparation for final overall review	
第15回	Review of the entire film and novel	Preparation for the final exam	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	50%		
レポート	-		
小テスト等	-		
成果発表	-		
受講態度他	50% class participation and contribution		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。		
教科書	Study materials will be provided		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス	